ＡＢ
ＣＤ

文部科学省認可通信教育

シ ラ バ ス

2022 年度版

東京福祉大学
TOKYO UNIVERSITY OF SOCIAL WELFARE

社会福祉学部
保育児童学部
教育学部
心理学部
通信教育課程

目　　次

１　学修を始める前に

１－１　本書の有効期間 ……1
１－２　『シラバス』とは ……2
１－３　教科書について ……2
１－４　別途周知する事項について ……2
１－５　シラバスの見方 ……3
１－５　シラバスの見方② ……4
１－６　シラバスの有効な使い方について ……5

２　シラバス ……8

各科目における「科目概要」、「学修内容」、「レポート設題」、「レポート設題のポイント」、「科目終了試験学修のポイント」、「教科書」、「参考文献」等について

３　図書館の利用

３－１　開館時間 ……1087
３－２　休館日 ……1087
３－３　図書館への入退室について ……1087
３－４　図書館利用の注意事項 ……1088
３－５　配列（本の並び方）について ……1088
３－６　貸出 ……1089
３－７　返却 ……1089
３－８　予約 ……1090
３－９　複写（コピー） ……1090
３－１０ 視聴覚資料の利用 ……1090
３－１１ 購入希望図書の申込み ……1091
３－１２ 資料の探し方 ……1091
３－１３ あるはずの場所に本・雑誌などが見当たらないときは ……1091
３－１４ 図書館に所蔵が無い資料を入手したいときは ……1092
３－１５ 館内でのインターネットを使用した調査・文書の作成 ……1095

＜シラバス掲載科目一覧＞

	科目名	科目コード	掲載ページ
あ	アジア文化論	2290/2291	9
	アメリカの文化と言語Ⅰ	1090/1091	11
	アメリカの文化と言語Ⅱ	1100/1101	14
い	医学概論（旧　医学一般）	1662	17
	医学概論 ／医学概論（小児保健を含む）	1660/1661/1663	19
	異文化コミュニケーション教育	9170	21
	異文化コミュニケーション教育演習	9180	23
	異文化接触と文化学習	9140	25
	異文化理解	7690	27
	医療経営論	8690	29
う	運動学	2570	31
え	英語学Ⅰ(英語の歴史)	7520	33
	英語学Ⅱ(英語の発音と音声)	7530	35
	英語学Ⅲ(英語の談話)	7540	37
	英語学演習Ⅰ(統語論)	7550	39
	英語学演習Ⅱ(意味論)	7560	41
	英語科指導法Ⅰ	4350	43
	英語科指導法Ⅱ	4360	45
	英語基礎演習Ⅰ（文法・読解)	7430	47
	英語基礎演習Ⅱ(文法･読解)	7440	49
	英語基礎演習Ⅲ（文法･作文)	7450	51
	英語講読Ⅰ	7460/7461	53
	英語講読Ⅱ	7470/7471	55
	英語講読Ⅲ	7480/7481	57
	英語講読Ⅳ	7490/7491	59
	英語講読Ⅴ	7500/7501	61
	英語講読Ⅵ	7510/7511	63
	英語コミュニケーションⅠ	7630	65
	英語コミュニケーションⅡ	7640	67
	英語コミュニケーションⅢ	7650	69
	英語コミュニケーションⅣ	7660	71
	英語コミュニケーションⅤ	7670	73
	英語コミュニケーションⅥ	7680	75
	衛生学	6010/6011/6012/6013	77
	英文学(作家・作品論)	7570	79
	英米児童文学(作品論)	7600	81
	英米児童文学演習	7620	83
	英米文学演習	7610	86
	英米文学と映像	7590	89

＜シラバス掲載科目一覧＞

	科目名	科目コード	掲載ページ
	栄養学（食品学含む）	6230	91
お	音楽	1214	93
	音楽Ⅱ	7150	96
	音楽Ⅲ	6570	99
	音楽科指導法	4220	101
	音楽実践演習	4690	104
	音楽実践演習Ⅱ	4700	106
	音楽実践演習Ⅲ	4710	108
か	会計学	8551	110
	会計学入門	1920	112
	介護概論	2150/2151/2152	114
	外国語	4720	116
	外国語活動の指導法	4660/4661	118
	外国語の指導法	4730	120
	開発経済論	8820	122
	解剖生理学Ⅰ	6040/6041/6042	124
	解剖生理学Ⅱ	6150	126
	カウンセリング演習	2320/2321	128
	カウンセリングの基礎	2323	130
	カウンセリングの基礎	2324	132
	学習心理学	2760/2761	133
	学習・言語心理学	3660	135
	家族援助論	7060	137
	家族心理学	2790/2791	139
	家族福祉論	2470	141
	学校経営	4340	143
	学校保健学	6020/6021/6022	145
	家庭	4300	147
	家庭科指導法	4250	149
	家庭支援論	6470	151
	関係行政論	3750	153
	看護学（救急処置を含む）	6062	155
	韓国の文化と言語 ／韓国の文化と言語Ⅰ	1650/1810	157
	韓国の文化と言語Ⅱ	1820	159
	看護臨床実習指導	6080/6081	161
	感情・人格心理学	3680	162
き	起業経営論	8770	164
	企業統治論（非営利企業を含む）	8730	166
	基礎演習Ⅰ	1730	168

＜シラバス掲載科目一覧＞

科目名	科目コード	掲載ページ
基礎演習Ⅱ	1740	170
キャリア開発演習Ⅰ	1001	172
キャリア開発演習Ⅰ	8850	174
キャリア開発演習Ⅰ	9013	176
キャリア開発演習Ⅱ	1002	178
キャリア開発演習Ⅱ	8860	180
キャリア開発演習Ⅱ	9023	182
キャリア開発演習Ⅲ	1003	184
キャリア基礎演習Ⅰ	8830	186
キャリア基礎演習Ⅱ	8840	188
救急看護（救急処置を含む）	6060/6061	190
教育学概論	4020	192
教育課程論（初等教育）	4041	194
教育課程論（中等教育）	4040	198
教育行財政	4030/4031/4032	200
教育実習指導（初等）	4440	203
教育実習指導（中等）（旧　教育実習指導（高校））	4100/4101	204
教育情報機器演習	4120	205
教育・学校心理学	3570	207
教育心理学	2250/2252	209
教育心理学	2253/2870	211
教育心理学	2871	213
教育相談(カウンセリングを含む)	4090/4091/4092	215
教育相談(カウンセリングを含む)	4096	217
教育法規	4330	219
教育方法論（ICT活用を含む）※幼保特例講座受講者のみ受講可	4773	222
教育方法論（ICT活用を含む）	4771	226
教育方法論（ICT活用を含む）（中等教育）	4770	230
教育方法論（情報処理を含む）（初等教育）	4071/4074	233
教育方法論（情報処理を含む）（中等教育）	4070	236
教職実践演習（小学校）	4530	238
教職実践演習（中・高）	4540	239
教職実践演習（養護教諭）	4550	240
教職実践演習（幼稚園）	4520	241
教師論	4010/4011	242
教養基礎演習Ⅰ	1007	245
教養基礎演習Ⅱ	1008	247
金融論	8810	249
く　暮らしと経済	8790	251

＜シラバス掲載科目一覧＞

	科目名	科目コード	掲載ページ
け	ケアマネジメント演習	2370/2371	253
	ケアマネジメント論	2360	255
	経営学（非営利組織の経営を含む）	8700	257
	経営学入門	1930	259
	経営管理論	8710	261
	経営戦略論	8760	263
	経営組織論	8720	266
	経済学（国際経済を含む）	1430/1431	268
	経済政策	2630	270
	健康・スポーツ	1072	272
	健康・スポーツ	1070/1071	274
	健康・医療心理学	3690	275
	健康管理学（健康相談活動を含む）	3530	277
	健康心理学	2800	279
	健康相談活動の理論と方法	6240	281
	言語学概論	9061	283
	現代社会と社会教育	3060	285
	権利擁護と成年後見	3190	287
こ	高校福祉科指導法→福祉科指導法	4050/4051/4052	922
	公衆衛生	2420	289
	更生保護	3210	291
	公的扶助論	2040/2041/2042	293
	公的扶助論	2043	295
	公認心理師の職責	3770	297
	公民科指導法Ⅰ	4140	299
	公民科指導法Ⅱ	4150	302
	高齢社会と社会教育	3070	305
	高齢者支援展開論	2350	307
	高齢者福祉論	3160	309
	高齢者福祉論	3161	311
	国語（書写を含む）	7400	313
	国語科指導法（書写を含む）	4170/7170	315
	国際関係論（国際法を含む）	2270	318
	国際社会と日本	1160/1161	320
	国際福祉研究	2532	322
	国際福祉論	2650	324
	こころとからだのしくみⅠ	4560	326
	こころとからだのしくみⅡ	4570	328
	子育て支援	6730/6732	330

＜シラバス掲載科目一覧＞

	科目名	科目コード	掲載ページ
	子育て支援展開論	7220	332
	子ども家庭支援論	6750/6752	334
	子ども家庭支援の心理学	6740	336
	子どもの健康と安全	6770	338
	子どもの健全育成	7230	340
	子どもの権利擁護	7210	342
	子どもの食と栄養	6530	344
	子どもの保健	6790	346
	子どもの保健Ⅰ	6480	348
	子どもの保健Ⅱ	6490	350
	コンピュータサイエンスⅠ	7750	351
	コンピュータサイエンスⅡ	7760	353
	コンピュータネットワークⅠ	7790	355
	コンピュータネットワークⅡ	7800	357
さ	算数	7410	359
	算数科指導法	4180/7180	361
	産業・組織心理学	3730	363
し	ジェンダー論（旧　性と役割）	1290/1291	365
	システム設計	7770	367
	システム設計演習	7780	369
	死生学	1950/1951	371
	死生論	1280/1281/1282	373
	自然科学	1490	375
	肢体不自由教育Ⅰ	6300	377
	肢体不自由教育Ⅱ	6310	379
	肢体不自由教育総論	6350	381
	肢体不自由者の心理・生理・病理	6260	383
	視聴覚障害者の心理・生理・病理	6370	385
	児童・家庭福祉論	3170/3171	387
	児童・家庭福祉論	3172	389
	児童・家庭福祉論Ⅱ	3180	391
	児童環境保健論	6140	393
	児童心理学	2190/2191	395
	児童心理入門	1360	397
	児童生徒指導論（進路指導を含む）	4080/4081	399
	児童文化論	7160	404
	司法福祉論	2480/2481	406
	司法・犯罪心理学	3710	408
	社会	4290	410

＜シラバス掲載科目一覧＞

科目名	科目コード	掲載ページ
社会科学	1470	412
社会学概論	1680/1681/1683	414
社会学概論	1684	416
社会科指導法	4190	418
社会教育演習	3350	421
社会教育課題研究	3020/3021	422
社会教育課題研究	3022	424
社会教育経営論	3340	426
社会教育計画	3080	428
社会教育実習	3360	430
社会言語学	9111	431
社会・集団・家族心理学　(家族)	3720	433
社会・集団・家族心理学　(社会・集団)	3630	435
社会情報学	7700	437
社会心理学	2210	439
社会心理学	2211	441
社会心理学	2213	443
社会政策	2620/2621	445
社会政策論	8800	447
社会調査法	3090	449
社会調査法	3091/3092	451
社会的養護Ⅰ／社会的養護	6800/6460	453
社会的養護Ⅱ／社会的養護内容	6810/6550	455
社会病理	2431	457
社会病理	2430	459
社会福祉	1610	461
社会福祉運営管理論	2501	463
社会福祉援助技術演習	2060/2061	465
社会福祉援助技術演習	2062	467
社会福祉援助技術論Ⅰ	2050/2051	469
社会福祉経営論	8680	471
社会福祉原論	2010/2011	473
社会福祉原論	2012	475
社会福祉入門	1010/1011/1012	477
社会保障政策論	2640	479
社会保障法	2600	481
社会保障論	2073	483
社会保障論Ⅰ	3140	485
社会保障論Ⅱ	3150	487

＜シラバス掲載科目一覧＞

科目名	科目コード	掲載ページ
就労支援	3200	489
授業研究（総合学習を含む）	4160	491
生涯学習概論	2520/2521	493
生涯学習支援論	3330	495
障害児・者の心理	2240/2241/2242	497
障害児教育課程論	6380	499
障害児教育論	6180/6181	501
障害者・障害児心理学	3620	503
障害者福祉論	2020/2021	505
障害者福祉論	2022	507
障害者福祉論	2023	509
障害児療育	2410/2411	511
小児栄養	6120/6121	513
小児保健	7020	515
少年と犯罪	1170/1171/1172	517
情報科指導法Ⅰ	4390	519
情報科指導法Ⅱ	4400	522
情報処理演習Ⅰ	1042	525
情報処理演習Ⅰ	1043	527
情報処理演習Ⅱ	1052	529
情報処理演習Ⅱ	1053	531
情報処理演習Ⅲ	1400	533
情報処理演習Ⅲ	1401/1402	535
情報セキュリティ	7810	537
情報と職業	7860	539
情報倫理	7710	541
資料解釈	1510	543
人格心理学	2780/2781	545
神経・生理心理学	3670	547
人権教育	1450	549
人事管理論	8740	551
人体の構造と機能及び疾病	1910	553
人体の構造と機能及び疾病	1911	555
人文科学	1480	558
人文地理	1420	560
心理演習	3760	562
心理学	1260/1261	564
心理学概論	1671	566
心理学概論	1670/1672	568

＜シラバス掲載科目一覧＞

	科目名	科目コード	掲載ページ
	心理学概論	1673/1674	570
	心理学基礎実験	2300/2301/2302	572
	心理学研究演習Ⅰ	2830	574
	心理学研究演習Ⅱ	2840	575
	心理学研究法	2310/2311/2312	576
	心理学研究法	2313	578
	心理学実験	3560	580
	心理学的支援法（基礎）	3590	582
	心理学的支援法（演習）	3600	584
	心理学的支援法（心理療法）	3700	586
	心理学統計法	3550	588
	心理学入門	1640/1641	590
	心理学を活かしたキャリアデザイン	3640	592
	心理学を活かしたキャリアマネジメント	3650	594
	心理検査法	2680	596
	心理検査法	2681/2682	598
	心理検査法演習	2690	600
	心理検査法演習	2691	602
	心理実習	3780/3781	603
	心理的アセスメント	3540	605
	心理統計法	2660/2661	607
	心理療法概説	2710/2711	609
す	数学	1271	611
	図画工作Ⅰ	7130	613
	図画工作Ⅰ	7131	614
	図画工作Ⅱ	7140	616
	図画工作指導法	4230	619
せ	生活	7420	622
	生活科指導法	4240/7310	624
	生活の中の福祉	1940	627
	政治学（国際政治を含む）	1190/1191	629
	精神医学	5010/5011/5012/5013/5014	631
	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ	5100	633
	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ	5110	635
	精神科リハビリテーション学	5030/5031/5032	637
	精神疾患とその治療	5210/5211/5212	639
	精神障害リハビリテーション論	5250	641
	精神保健学	2220	643
	精神保健学	2223/2226/2229	645

＜シラバス掲載科目一覧＞

	科目名	科目コード	掲載ページ
	精神保健学	2227/2228	647
	精神保健福祉演習Ⅰ	5260	649
	精神保健福祉演習Ⅱ	5270	651
	精神保健福祉演習Ⅲ	5280	653
	精神保健福祉援助演習	5070/5071	655
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	5150	657
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	5160	659
	精神保健福祉援助演習Ⅲ	5170	661
	精神保健福祉援助技術各論	5060/5061	663
	精神保健福祉援助技術論	5120	665
	精神保健福祉援助実習・事後指導	5082	667
	精神保健福祉援助実習・事前指導（A）	5081	669
	精神保健福祉援助実習・事前指導（B）（実習直前指導）	5081	670
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	5180	671
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	5190	673
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	5200	675
	精神保健福祉実習	5320	677
	精神保健福祉実習指導Ⅰ	5290	679
	精神保健福祉実習指導Ⅱ	5300	681
	精神保健福祉実習指導Ⅲ	5310	683
	精神保健福祉制度論	5240	685
	精神保健福祉の原理	5220	687
	精神保健福祉論	5040/5041	689
	精神保健福祉論Ⅰ	5130	691
	精神保健福祉論Ⅱ	5140	694
	生物学	1300/1301	697
	生理学	2560/2561/2562	699
	生理学（第一種衛生管理者コース登録者用）	2562	701
	生理心理学	2770/2771	703
	世界史	1410	705
	専門演習	4610	707
	専門演習Ⅰ	4410	709
	専門演習Ⅱ	4420	711
そ	総合演習〈社会福祉学科・心理学科〉	1340/1341	713
	総合演習〈保育児童学科・教育学科〉	1341	715
	総合的な学習の時間の指導法	4740	717
	相談援助演習	6430	720
	相談支援	6670	722
	ソーシャルワークⅠ	3100	724

＜シラバス掲載科目一覧＞

	科目名	科目コード	掲載ページ
	ソーシャルワークⅡ	3110	726
	ソーシャルワークⅢ	3120	728
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	3220	730
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	3221	732
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	3230/3231	734
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	3232	736
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	3240	738
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	3241	740
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	3250	742
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	3251	743
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	3260	745
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	3261	747
	ソーシャルワーク演習Ⅵ	3270	749
	ソーシャルワーク実習	3311	750
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	3280	752
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	3281	754
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3290	756
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3291	758
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3300	760
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3301	762
	ソーシャルワークの基盤と専門職	3370/3371	764
	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	3380	766
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	3390	768
	組織心理学	2820	770
た	体育	4310	772
	体育科指導法	4210	774
	対照言語学	9120	776
	第二言語習得理論	9190	778
	第二言語習得理論演習	9200	780
	多文化コミュニケーション	1830	782
	多文化理解入門	1880	784
ち	地域看護学	6071	786
	地域福祉論	2032	788
	地域福祉論	2033	790
	知覚・認知心理学	3610	792
	知的障害教育Ⅰ	6280	794
	知的障害教育Ⅱ	6290	796
	知的障害教育総論	6340	798
	知的障害者の心理・生理・病理	6250	800

＜シラバス掲載科目一覧＞

	科目名	科目コード	掲載ページ
	中国の文化と言語Ⅰ	1110/1111	802
	中国の文化と言語Ⅱ	1120/1121	805
	聴覚障害者の言語障害指導	6390	808
	重複障害・LD等教育総論	6400	810
て	データベース演習Ⅰ	7730	812
	データベース演習Ⅱ	7740	814
	哲学	1232	816
と	統計学	1440	818
	道徳教育の研究	4130	820
	道徳の指導法	4620/4624	822
	特別活動の指導法	4060/4064	825
	特別支援教育実習指導	6410/6210/6211	828
	特別ニーズ教育論	4750	829
に	日本近代文学史	9280	831
	日本語学演習Ⅰ（文法・文体）	9290	833
	日本語学演習Ⅱ（文字・表記）	9300	835
	日本語学演習Ⅲ（談話）	9310	837
	日本語学Ⅰ（音声・音韻）	8970	839
	日本語学Ⅱ（語彙・意味）	8980	841
	日本語学Ⅲ（文法・文体）	9210	843
	日本語学Ⅳ（文字・表記）	9220	845
	日本語学Ⅴ（談話）	9260	847
	日本語学概論	9130	849
	日本語学史	9051	851
	日本語学習とマルチメディア	9240	853
	日本語教育演習	8280	855
	日本語教育概論	8271	857
	日本語教授法Ⅰ	8931	859
	日本語教授法Ⅱ	8940	861
	日本史	1202	863
	日本の文化と言語	8250	865
	日本の文化と言語Ⅰ	1710	867
	日本文学と文化	9250	869
	日本文化研究	9150	871
	乳児保育／乳児保育Ⅰ	7040/7041/6623/6624/6625	873
	乳児保育Ⅱ	7050/7051/7052/7054	875
	人間発達学	2580	877
	認知心理学	2670/2671	879
は	発達心理学／生涯発達心理学	2200/2201/2204	881

＜シラバス掲載科目一覧＞

	科目名	科目コード	掲載ページ
	発達心理学	2201/2203	883
	発達心理学	2206	885
	発達心理学	2207	887
	発達心理学	2208	889
	発達相談	7240/7241	892
	犯罪心理学	2810	894
	判断推理と数的推理	1500	896
ひ	比較社会史	2260	898
	比較日本文化論	9230	900
	比較文化学演習	9270	902
	東アジアの中の日本文化	9160	904
	ヒューマンメディア	7840	906
	表現	1222/1223	908
	表現	1220/1221	910
	病原微生物学	6050	911
	病弱教育Ⅰ	6320	913
	病弱教育Ⅱ	6330	915
	病弱教育総論	6360	917
	病弱者の心理・生理・病理	6270	919
ふ	福祉科指導法／高校福祉科指導法	4050/4051/4052	922
	福祉行財政と福祉計画	3130	925
	福祉事業所経営管理論Ⅰ	6690	927
	福祉事業所経営管理論Ⅱ	6700	929
	福祉心理学	3740	931
	福祉と教育	1330/1331/1332	933
	福祉と経営Ⅰ	6710	935
	福祉と経営Ⅱ	6720	937
	福祉と養護	6660	939
	福祉倫理	2510/2511	941
	文章表現＜教育学科＞	1021	943
	文章表現＜社会福祉学科・心理学科＞	1020/1021	945
	文章表現＜保育児童学科＞	1021	947
	文章表現Ⅱ	1860	949
	文章表現Ⅲ	1870	951
へ	米文学（作家・作品論）	7580	953
ほ	保育カリキュラム論／保育・教育課程論	4593/4594/6560/6561	955
	保育原理	2402/2403	957
	保育原理	2400/2401	959
	保育実習事後指導Ⅰ（保育所・施設）	7900	961

	科目名	科目コード	掲載ページ
	保育実習事後指導Ⅱ（保育所）	7920	962
	保育実習事後指導Ⅲ（施設）	7940	963
	保育実習事前指導Ⅰ（保育所・施設）	7890	964
	保育実習事前指導Ⅱ（保育所）	7910	965
	保育実習事前指導Ⅲ（施設）	7930	967
	保育実践演習	7970	968
	保育児童学概論	7010	970
	保育児童基礎演習	7190	972
	保育児童専門演習	7200	974
	保育者論	7950/7951	976
	保育相談支援演習	7960	978
	保育内容（環境）	7091	980
	保育内容（健康）	7071	982
	保育内容（言葉）	7101	985
	保育内容（人間関係）	7081	987
	保育内容（表現）	1222	990
	保育内容総論	7390	993
	保育内容総論	7391/7393	995
	保育内容総論Ⅱ	7880/7881	998
	保育の心理学	6820	1000
	保育の心理学Ⅰ	6440	1002
	保育の心理学Ⅱ	6450	1004
	法学（憲法を含む）	1180/1181	1006
	法学Ⅰ（憲法）／法学（憲法）	1182/1186/1184/1187/1390/1391/1392	1008
	法学Ⅱ（民法・行政法）	1460/1461/1462	1010
	法学演習	2610	1012
	法学概論	1380/1381	1014
	簿記	8750	1016
	保健医療	3320/3321	1018
	保健医療	3322/3323	1020
	保健科指導法Ⅰ	4370	1022
	保健科指導法Ⅱ	4380	1025
	保健と食と栄養	6680	1028
	ボランティア論	1150/1151/1152	1030
ま	マーケティング論	8780	1032
	マルチメディアと学習環境	7850	1034
	マルチメディア表現Ⅰ	7820	1036
	マルチメディア表現Ⅱ	7830	1038
め	メディア社会論	7720	1040

＜シラバス掲載科目一覧＞

	科目名	科目コード	掲載ページ
	免疫学概論	6160	1042
や	薬理学概説（薬物乱用防止を含む）	6170/6171	1044
よ	養護教育学	6030	1046
	養護原理	2380	1048
	養護実習指導	6100/6101	1050
	養護内容	7110	1051
	幼児体育	7121	1053
	幼児理解	7250/7253	1055
り	理科	4320	1057
	理科指導法	4200	1059
	リハビリテーション論	2461	1061
	臨床心理学	2232/2237/2238/2239	1063
	臨床心理学	2230/2231/2233/2236	1065
	臨床心理学概論	3580	1067
	倫理学	1250/1251	1069
れ	レクリエーション理論	1520/1521	1071
	レクリエーション理論	1621	1073
	レクリエーションワーク	1062/1065	1074
	レクリエーションワーク	1060/1061	1076
ろ	老人福祉論	2090/2091	1077
	労働安全衛生法（じん肺法を含む）	3510	1079
	労働衛生学	3520	1081
	労働法（労働基準法）	3500/3501	1083
	老年心理学	2700	1085

1 学修を始める前に

１－１　本書の有効期間

この『シラバス』の記載事項の有効期間は、下記の通りです。**レポート提出、科目終了試験受験、スクーリング受講それぞれで有効期間が異なりますので、下表でご確認ください。**本書の掲載内容は毎年同じとは限らず、設題や教科書等が変更されることがありますので、欠席や不合格などにより科目終了試験の再受験申込みをする場合は、特に注意してください。

また、皆さんの履修時期により、一つの科目について本書の更新前にスクーリングを受講し、更新後にレポートを作成する場合や、その逆のケースも発生することがあります。９月生は、年度の途中で新年度版が送付されることになります。本書の有効期間を皆さんの履修計画にうまく組み入れ、履修を進めるようにしてください。

＜シラバス内容の有効期間＞

シラバス	レポート	科目終了試験	スクーリング
2021 年度版 （前年度版シラバス）	2022 年 6 月提出まで※	2022 年 7 月受験まで※	2022 年 6 月受講まで
2022 年度版 （本書）（当該年度シラバス）	**2022 年 5 月提出から※ 2023 年 6 月提出まで**	**2022 年 6 月受験から※ 2023 年 7 月受験まで**	**2022 年 7 月受講から 2023 年 6 月受講まで**
2023 年度版 （次年度版シラバス）	2023 年 5 月提出から	2023 年 6 月受験から	2023 年 7 月受講から

＜※新旧シラバス適用期間詳細＞

レポート提出及び科目終了試験 受験申込受付期間（消印有効）	科目終了試験 実施日	注意点
2022 年 5 月 1 日～5 月 16 日	2022 年 6 月 19 日（日）	2021 年度版『シラバス』及び 2022 年度版『シラバス』、**新旧両方**の「レポート設題」、「科目終了試験学修のポイント」の内容を**有効**といたします。 各科目の「レポート設題」、「科目終了試験学修のポイント」の内容が、新旧で異なる場合には、どちらか 1 つの「レポート設題」及び「科目終了試験学修のポイント」を選択して、レポートを提出し、科目終了試験を受験してください。新旧両方の内容を同時に提出・受験することはできませんので、ご了承ください。
2022 年 6 月 1 日～6 月 15 日	2022 年 7 月 17 日（日）	
2022 年 7 月 1 日～7 月 15 日 ⋮ 2023 年 6 月 1 日～6 月 15 日	2022 年 8 月 21 日（日） ⋮ 2023 年 6 月 18 日（日）	2022 年度版『シラバス』の「レポート設題」、「科目終了試験学修のポイント」で、レポートを提出し、科目終了試験を受験してください。

※レポート提出、科目終了試験受験申込期間及び科目終了試験の日程は『年間スケジュール』をご確認ください。

※2023 年度以降の『シラバス』は上記 2 つの表を 1 年ずつ繰り上げてご確認ください。

１－２　『シラバス』とは

『シラバス』には、皆さんが本学通信教育課程の学修をする上で必要な、各科目の概要や学修内容、レポート設題、科目終了試験学修のポイント、教科書、参考文献などが掲載されています。

入学後の科目履修登録や各科目の学修を始める前に、各科目でどのようなことについて学ぶかを、本書中の「科目概要」及び「学修内容」で確認してください。なお、科目履修登録の際には、履修が可能な学年の科目であるかを『履修登録』で必ず調べてください。

その後、印刷授業（ＳＲ・Ｒ履修）科目の場合には、各科目の「学修内容」「教科書」「参考文献」「レポート設題」「レポート設題＜ポイント＞」の項目を確認し、指定の枚数、形式にてレポートを作成し、提出してください。「レポート設題＜ポイント＞」では、設題者が何を求めているのか、作成上の留意点は何かなどが記されています。レポート作成にとりかかる前には『履修の手引き』の「レポート」の章を読み、レポートの書き方のルールを確認してください。

ＳＲ科目とＲ科目のレポート提出後には、必ず科目終了試験を受験しなければなりません。本書中の「科目終了試験学修のポイント」には、受験する前におさえておく必要のある重要事項が記されています。各設題につき、１０００字～１２００字程度で論述できるようにまとめておくことを心がけてください。試験問題はこれらの中から出題されます。各設題の「＜ポイント＞」を参考にして学修し、科目終了試験に備えてください。

面接授業（Ｓ履修）科目の場合は、スクーリングの受講前に「学修内容」や「教科書」「参考文献」の項目に十分に目を通し、予習をした上で受講に臨んでください。

また、本書では、各科目内容について幅広い知識を身につけるために適当な書籍が「参考文献」として掲載されていますが、本学附属図書館や、各地方自治体の図書館、他大学の図書館や書店なども活用し、本書掲載図書に限らず、多くの文献を独自に検索することをおすすめします。より多くの文献を調べ、独創性のある、充実した内容のレポートを作成するよう努めてください。

１－３　教科書について

必修科目、選択科目については、科目履修登録がなされた科目について、各登録年次に一括して配本がされます。なお、異なった科目で同一の教科書を使用する場合は、１冊のみが配本されます。

教科書は年度毎に変更される場合がありますが、一度配本が完了した科目については、原則として大学から再配本はされませんので、必要に応じてご自身で新しいテキストを入手し、学修を進めてください。指定教科書に変更が生じることが事前に判明した場合は『東京福祉大学通信』などを通じて、可能な限り早期に皆さんにお知らせいたしますが、出版社の都合などにより教科書が急に変更される場合もありますので、予めご了承ください。

１－４　別途周知する事項について

「シラバス」において「別途周知」となっている事項（学修内容、教科書など）につきましては、機関紙『東京福祉大学通信』に掲載し、郵送いたします。届きましたら必ずご確認いただき、本書と共に大切に保管してください。

１－５　シラバスの見方

科目コード	福祉と教育（２単位）	登録年次	履修方法
1330/1331/1332		１年	ＳＲ/R※
教員名	○○　○○		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

これからの時代に求められるのは、正解が一つではない問題を考え、課題探求できる分析力と思考力を備えた人材を教育することである。福祉の現場においても、突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉を必要とする人に対して、その一人ひとりのニーズに応えて、問題を解決していくことが望まれる。そのためには、これまでわが国で主流とされてきた、一方通行型、知識注入型の教育方法を改め、学生が主体となって学習に取り組める学習環境を構成していかねばならない。福祉の時代に向けて真に必要な諸能力は何かを分析し、２１世紀に求められる福祉人のあり方について考察する。

学修内容

1	「福祉と教育」については、前者で介護者と利用者、後者で先生と生徒と、非常によく似ている。また、福祉現場での問題解決法は教育現場でも活用でき、その逆について応用が可能である。【設題１】のポイントを参照。
2	「教育方法の現状」については、いじめ、教員の能力不足、教員の精神的ストレス、不登校など、さまざまである。教科書の「福祉と教育」のページ、福祉または教育に関する新聞記事などを参照。
3	「いじめ」については、教員によるいじめ、児童・生徒同士のいじめ等が考えられるが、その原因や解決策についても千差万別である。教科書の「福祉と教育」のページ、福祉または教育に関する新聞記事などを参照。
4	「教員の能力不足」については、さまざまな原因が考えられるが、一方通行の授業、厳しい口調での威嚇、暴言、不十分な教材研究などが指摘されている。教科書の「福祉と教育」のページ、福祉または教育に関する新聞記事などを参照。
5	「教員の精神的ストレス」については、主な原因として、モンスターペアレンツによる理不尽な苦情、人間関係などが挙げられている。教科書の「福祉と教育」のページ、福祉または教育に関する新聞記事などを参照。
6	「不登校」については、その原因として、いじめ、友人ができない、授業についていけない、病気、事故、入院などが考えられる。教科書の「福祉と教育」のページ、福祉または教育に関する新聞記事などを参照。
7	「これからの大学教育」については、グローバル社会であり、福祉や教育のニーズが多種多様化していることを踏まえ、現場で役立つものを考える必要がある。教科書の「福祉と教育」のページ、福祉または教育に関する新聞記事などを参照。
8	「教師の意識」については、昔ながらの一方通行の授業では通用しないことを認識し、現場で必要なコミュニケーション力を高めるような授業を工夫すべきである。教科書の「福祉と教育」のページ、福祉または教育に関する新聞記事などを参照。
9	「バイスティックの７つの原則」については、それぞれの項目と内容を説明できるようにする。教科書の「福祉と教育」のページ、福祉または教育に関する新聞記事などを参照。
10	「これからの社会福祉」については、その１例として、専門家としての社会福祉士の活躍が期待されている。教科書の「福祉と教育」のページ、福祉または教育に関する新聞記事などを参照。
11	「これからの福祉教育」については、さまざまな対象者のニーズに適切に対応するため、医師、看護師、薬剤師などの多職種の専門家との連携が重要となる。教科書の「福祉と教育」のページ、福祉または教育に関する新聞記事などを参照。
12	「ターミナルケア」については、在宅介護の難しさが問題になっているが、家族によってはうまくいっている例もある。教科書の「福祉と教育」のページ、福祉または教育に関する新聞記事などを参照。
13	「筋萎縮性側索硬化症」の患者については、重度の場合、人工呼吸器をつけるために、コミュニケーションを取ることが難しい状況にある。教科書の「福祉と教育」のページ、福祉または教育に関する新聞記事などを参照。
14	「音楽療法」については、福祉や教育の現場でも「魂の薬」として効果が期待されている。教科書の「福祉と教育」のページ、福祉または教育に関する新聞記事などを参照。
15	「自分で興味や関心を持つこと」については、これまでの経験や知人の事例なども含めて、幅広く自由にとらえて欲しい。教科書の「福祉と教育」のページ、福祉または教育に関する新聞記事などを参照。

登録年次
この学年以降に学修することが可能になります。

履修方法
ＳＲ・Ｒ・Ｓ・Ｐなどの職別記号を記載しています。

科目コード※注１

履修可能な学科※注２

科目概要
この科目でどのようなことを学ぶのかを説明しています。

学修内容
当該科目で学修するべき事項が記載されています。教科書とこの学修内容をよく読み、科目の学修に取り組んでください。

※注１　科目コードについて

「科目コード」は所属する学科や入学年度によって異なります。

また、スクーリング受講申込書へ記入する「受講申込コード」は本『シラバス』に記載されている「科目コード」ではなく、別冊の『年間スケジュール』、「2-3　スクーリング日程表」記載の「受講申込コード」をご記入ください。

※注２　履修可能な学科について

履修可能な学科に□がついていますが、資格課程登録者のみが履修できる科目も含まれます。皆さんが履修できるのは、所属学科で開設されている科目及び登録した資格課程で開設されている科目です。

また、同じ科目名でも、学科・専攻・入学年度により履修する科目が異なる場合があります。『履修登録』（うす緑色の冊子）で自分が履修する科目についてよくご確認のうえ、学修を開始してください。

１－５　シラバスの見方②

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】「福祉と教育」を学ぶことの意義について述べよ。
＜ポイント＞
福祉と教育は大変よく似ている。たとえば、介護者や教育者は相手を思いやる気持ちで接することが大切である。また、どちらの場合も、コミュニケーション能力が大変重要であり、多様なニーズに応える能力が必要とされてくる。しかしながら、実際には一方通行型の介護や教育が行われる場合もあり、要介護者や生徒のニーズに応えられずに、さまざまな問題が生じている場合も否定できない。このような両者の共通点や問題点を踏まえた上で、「福祉と教育」という科目を学ぶことの意義について、自分の将来と結びつけながら考えをまとめて欲しい。

科目終了試験学修のポイント

１．日本で行われている教育方法の現状について
＜ポイント＞
主に、我が国で行われている教育方法の問題点や改善点を中心に考える。

２．これからの大学教育について
＜ポイント＞
21 世紀の時代に合った大学教育について、現行の問題点や改善点を踏まえて考える。

３．教師の意識について
＜ポイント＞
現状を踏まえた上で、教師の意識はどのように変えていくべきかについて考える。

４．バイスティックの７つの原則について
＜ポイント＞
７つの原則について、内容を理解し、それぞれについて解説できるよう学習する。

５．これからの社会福祉と福祉教育について
＜ポイント＞
今後、求められる社会福祉と福祉教育とは何かについて、分かりやすく説明できるよう学習する。

６．上記５つ以外の内容で、「福祉と教育」について自分で興味や関心を持ったことについてまとめよ。
＜ポイント＞
自分で興味や関心を持ったことについて、自由に調べて分かりやすく論述できるよう学習する。

教科書

東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。

参考文献

寺脇研『何処へ向かう教育改革』主婦の友社。
寺脇研『動き始めた教育改革』主婦の友社。

設題数・枚数・形式・用紙

レポート設題

レポート作成のポイント
レポート作成上の留意点です。少なくともここに書かれた内容はレポート作成の際に反映させる必要があります。

科目終了試験学修のポイント
各項目について、解答を1000 字～1200 字程度で作成できるよう、項目ごとの＜ポイント＞を踏まえて試験前の準備学修に取り組んでください。

教科書
学修の基本となるテキストです。
大学から配本されます。

参考文献（配本はされない）
学修内容をさらに深めるために参照するとよい書籍等の例です。
本書掲載の文献だけでなく、関連書籍を検索し、レポート作成に役立ててください。

１－６　シラバスの有効な使い方について

１．履修した科目のシラバスを確認する

本学では大学設置基準に定められた単位制に基づき学修を進めているため、単位を修得するための学修時間としては、1単位あたりに必要な学修時間は45時間としています。したがって、シラバスは通学課程で行う授業時間の他に、学生が教室外で行う「事前学習・事後学習」の時間を想定して作成しています。この原則を理解して、シラバスの学修計画に基づき、計画的に学修を行ってください。

２．シラバスの構成と学修の方法

〈シラバス掲載科目一覧〉から履修した科目のシラバスを探しましょう。各科目のシラバスには科目概要・学修内容・レポート設題・科目終了試験学修のポイントの項目が大きく区切られています。項目内には学修するために必要なことが記載されています。では、具体的に項目ごとに見ていきましょう。

（１）科目概要

科目概要の中には、科目が設定された意義や役割が記載されていると同時に、学修の目的・目標が記載されています。全てを熟読し、特に科目概要で履修した科目の中でどのようなことを学ぶことができるのかについて、よく確認してください。

（２）学修内容

学修内容は、履修生が目的や目標を実現できるよう、科目の専門家が下位の目標を設けて、１５回に分けて学修課題を示したものです。毎回毎回の学修内容を確実に身に付けることで、科目履修の目的が達成できるものと考えてあります。

学修内容の記述の仕方ですが、まず最初に、その時間のテーマや題材が掲げてあります。これを見るとその時間に「何を学ぶのか」が簡潔に書かれているといえます。この段階で「どのようなことを学ぶのか」に思いをはせることができれば、素晴らしいと考えます。

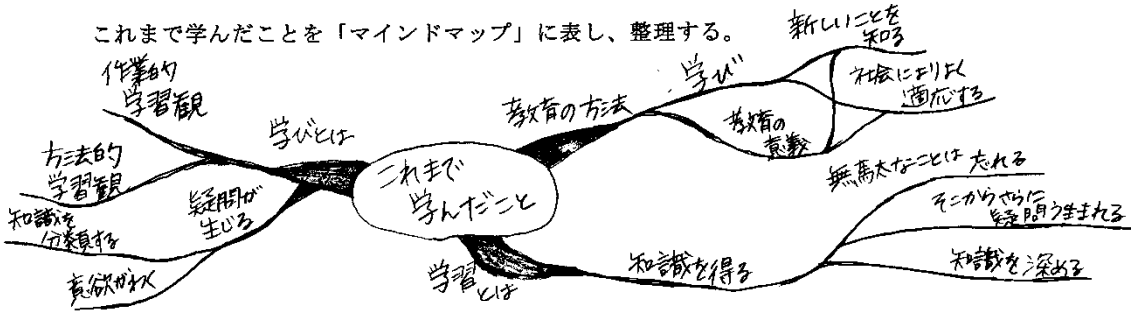
次には、学修内容を項目ごとにまとめて、記述してあります。基礎となる概念や学修の視点になることが示されていますので、何と何をここで学べばよいのか書き出しておくと大切なことを落とさず、学べるものと考えます。

ここから、指定されたテキスト（教科書）の記述に沿って学びを深めてみてください。まず最初はテキストの範囲を読んでみましょう。１回目は、読んでいて理解できないところや疑問に思ったことなどをチェックしてみるとよいでしょう。２回目に入る前に、チェックした中で、わからない語句や読みがあれば、辞書等で調べておくとよいですね。それから、段落を意識して精読してみましょう。精読した後で、重要だと思われることを、ノートに書きだし、自分で感じたこと・考えたことを記録しておくことが大切です。

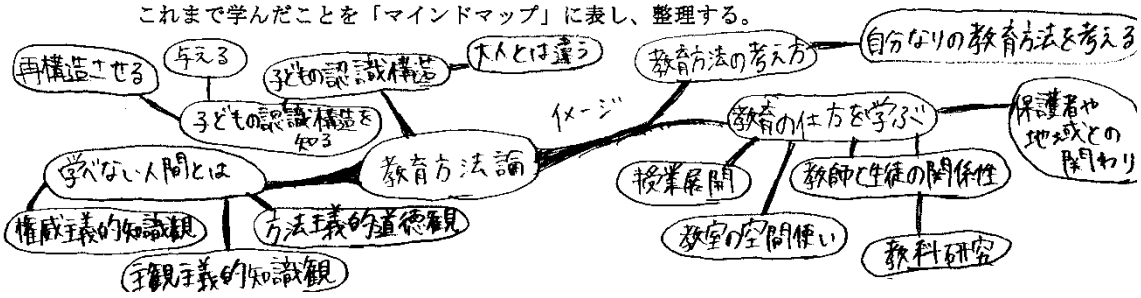
（3）学修内容のまとめ

その後、学修内容に記載されている課題に取り組みましょう。課題を解決する際、学修した内容のうち、中心になる概念や用語などをノートに書きだし、関連を考えると課題解決に役立ちます。マインドマップを作ってみてもよいですね。

※マインドマップ（参考例①）



※マインドマップ（参考例②）



そして、課題に正対し、1000 字～1200 字程度のレポートに仕上げてみるとよいでしょう。レポートの書き方については、序文、本文、まとめの構成で作成してみるのが一般的です。序文では、課題をどのように受け止めたのかを自分の言葉で表現して、課題解決の方向を示せるとよいでしょう。本文では、学修内容の重要と思われる解決策を選んで、具体例とともに書くことが必要です。2～3 の内容を選択して記述することが大切です。最後に、まとめですが、学修した内容、課題の内容などを総合して、自分で考えたこと、展望などを記述しておきましょう。

学修内容は、15 回に分けられていますので上記のような自学の繰り返しが必要になります。毎回、必要なことや大切なことは記憶する習慣をつけると、より効果的な学修になります。人間は、忘れる動物ですから、忘れるのは当然です。忘れたら覚えればよいのです。毎回に示されている目的や目標、学修内容、課題など、予習・復習を地道に繰り返すことが、着実な学びに結びつきます。努力は裏切らない、継続は力です。

（４）レポートを作成する

シラバスには、レポート設題の項目があります。設問とレポート作成のポイントが示されています。ポイントはレポート作成上の留意点です。少なくともポイントに書かれた内容はレポート作成の際に反映させることが必要です。すでに、自学を進めてきたまとめと比較してみることが大切です。

このレポート設題の項目は、15 回の学修を終えたら、取り組みましょう。レポートの書き方は、毎回、自分でまとめをしてきた項目を生かして記述するとよいでしょう。

（５）科目終了試験学修のポイント

シラバスには、科目終了試験学修のポイントの項目があります。数項目の課題が示されていますが、これらの課題が科目の重要な学修内容であると考えてよいでしょう。したがって、これらの課題から、科目終了試験の問題が出されると考えて準備することが大切です。

課題には、簡単なレポート記述のポイントが示されていますので、そのポイントに沿って、学修した内容を整理して、レポートの構想を練ってください。これを確実に行っておくことが、科目を履修することにつながります。

科目終了試験は、（４）で作成する各科目のレポートを提出した翌月に受験となりますので、科目終了試験前にシラバスに記載されている科目終了試験学修のポイントをよく確認し、これまでの学修をふり返り、各項目について 1000 字～1200 字程度で解答できるように準備学修に取り組んでください。なお、手続きや日程の詳細については、『履修の手引き』『年間スケジュール』を参照してください。

（６）その他の項目

シラバスには、教科書、参考文献の項目が設けられています。教科書は、学修の基本となる教材です。大学から配本されますので、有効に活用してください。また、参考文献などに、目を通すことにより、より広い視野から学修が成立することになります。幅を広げ応用力を身に付けることに結びつくものとなるでしょう。

（７）シラバスに関する疑問・質問について

シラバスについての疑問･質問等については、遠慮なく下記のところに問い合わせて下さい。

【学修アドバイザー　連絡先】
（科目や学修について質問がある場合）

電　話	０２７０－２０－３８０５
ＦＡＸ	０２７０－２０－３８０７

【通信教育課　連絡先】
（事務的な手続きなどについて質問がある場合）

電　話	０２７０－２０－３６７４
ＦＡＸ	０２７０－２０－３６９４

※受付日・時間につきましては、『履修の手引き』を参照してください。

シラバス

※科目コード2290：登録年次３年、科目コード2291：登録年次１年

科目コード	アジア文化論（２単位）	登録年次	履修方法
2290/2291		３年/１年	R
教員名	小笠原眞紀、辻本理絵子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

我が国はアジアの東側に位置し、シルクロードの終着点であったことから考えても、欧米やアジアの影響も受けた文化を持つ。そのため、隣接諸国であるアジア文化の理解を深めることは、日本の歴史や文化を理解することにもつながる。そこで本科目では、アジアの文化（親族・結婚・ジェンダー・宗教・民族と言語・開発など）を理解することをねらいとする。

学修内容

1	対比で学ぶ家族と親族① ・日本と韓国の親族や家族の在り方を学ぶ
2	対比で学ぶ家族と親族① ・日本と韓国の親族や家族の在り方を比較しつつ、現代の問題点を考える
3	中国の風習から考える宗教① ・西洋の宗教観とアジア諸国の宗教観の違いをふまえる
4	中国の風習から考える宗教 ・中国の神への信仰、先祖供養、死者に対する手向けについて学び、日本との類似点、相違点を考える
5	ジェンダーとセクシャリティ ・韓国のジェンダー観を下敷きに、ジェンダーやセクシャリティについて考える
6	社会関係① ・台湾の結婚式から社会関係の在り方を知る
7	社会関係② ・社会のかかわりやつながりについて考える
8	植民地主義 ・脱植民地の流れの中で、部族への期待の変化、伝統の創造について考える
9	エスニシティについて① ・文化･宗教･言語などで分類された集団であり概念で、主観的帰属意識による結びつきであるエスニティについて学ぶ
10	エスニシティについて② ・エスニシティの例として台湾とアイヌについて学び、他者理解へとつなげる
11	移民について ・香港を例に移民とはなにか考える
12	トランスナショナリズム ・国境を越えて生活をする人々について知り、国境というものが人々に与える影響について考える
13	多文化共生について ・多文化共生とはどのようなことか学び、多文化共生の問題点について考え、どのようにそのその問題点をカイケルするべきか考える
14	観光について ・経済的な関係だけでなく、文化交流としての観光について考える
15	経済について ・モンゴルの牧畜を通して放牧と市場の関係について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 多文化共生について述べよ

＜ポイント＞

多文化共生という言葉がマスメディアに多く登場するようになった。多文化共生は1日で成すものではなく、個々人や地域が各々の文化を見つめ、その文化に立脚して他者理解へつながることである。テキストをしっかり読み、多文化共生の困難な点、そして問題点を乗り越えた先にある共生社会について考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1． 釜山と対馬の交流について述べなさい

＜ポイント＞

観光によってどのような交流が進み、どのような影響を与えるのかまとめ、観光と文化交流について考察すること。

2． 家族とはなにか述べなさい

＜ポイント＞

親族とは、家族とはなにかまとめ、現代の家族の問題点について考察すること。

3． エスニシティについて述べなさい

＜ポイント＞

台湾の先住民、中国の少数民族、アイヌの例を踏まえ、他者理解の必要性や他者理解のあり方を考察すること。

4．宗教とはなにか述べなさい

＜ポイント＞

中国における宗教観を通じて、宗教とはなにか述べること。また、考察部分では、自己の宗教観についても触れること。

5．ジェンダーとセクシュアリティについて述べなさい

＜ポイント＞

ジェンダーとセクシュアリティについて学び、近年の動向についてまとめること。

6． 社会関係について述べなさい

＜ポイント＞

国民というつながりが、グローバル環境によって社会関係がどのように変化するか考察すること。

教科書

上水流久彦・太田心平・尾崎孝宏・川口幸大 編　『東アジアで学ぶ文化人類学』　図書出版昭和堂。

参考文献

辻村みよ子・スティール若希編『アジアにおけるジェンダー平等-政策と政治参画-』東北大学出版会

西川長夫　他『アジアの多文化社会と国民国家』人文書院。

鶴見良行『東南アジアを知る　–私の方法』岩波新書。　　徳植勤『一粒のアジア文化』日本文学館。

科目コード	アメリカの文化と言語Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
1090/1091		１年	ＳＲ
教員名	小笠原眞紀、緒方玲子、洪仁順、志手和行、高橋みどり、田中健、浜島清美、山口敬雄		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

これからの国際社会に対応していくためには世界的公用言語である英語でのコミュニケーション能力が必要である。高校までの暗記を中心とした受験英語や学習とは違い、表現力を重視した、読む・書く・聴く・話す、の四技能を養い、実用的な英語を使いこなすためには、日本語とは異なる英語の言語学的特徴（発音、文法、語法等）を理解することが大切である。また、英語という言語の背景にある、主にアメリカを中心とした英語圏の文化の理解にも重点を置く。

学修内容

1	学修の始めに、レポート設題と科目終了試験学修のポイントを熟読すること。 この科目は、レポート、科目終了試験ともに、まず英文テキストの日本語での要約が求められる。自習作業での翻訳作成のほかに、スクーリング授業での教員や他の学生の日本語訳も参考にして、レポート設題と科目終了試験学修のポイントの章を日本語訳する。さらにその翻訳の文章のポイントを絞って、「要約」を作成する。レポートには、まずこの「要約」を記述し、そのあとに設題の後半に求められている意見を論述する。
2	【設題１】８章「Martin Luther King, Jr.」について日本語で要約せよ。さらに、内容についてあなたの考えを述べよ。 まず、英文テキストの「要約」記述に際しては、テキストp.72の注を活用し、また以下のキー・ワードの訳に注意すること。 civil rights movement=公民権運動　racist=人種差別主義者（race=人種、racism=人種差別主義）　nonviolent=非暴力　segregate=人種分離（人種隔離）する　bus boycott=バス乗車拒否運動（バスボイコット）　racial inequality=人種的不平等　“I Have a Dream”=「私には夢がある」　civil rights legislation=公民権法　national holiday=国の祝日
3	レポート設題の学修のポイント意見の論述　［その1］ アメリカの奴隷制は、南部の州を中心として広がりつつあった。同じアメリカ国内でありながら、なぜ東部や北西部の州では奴隷制がなく、南部諸州に集中して施行されたのか、それら南部の州の社会的特徴を調べ、理由を考えると良い。 またアメリカの歴史における人種差別の推移（イギリス植民地からの独立と奴隷制施行→南北戦争→奴隷解放→南部の州での人種分離法制定と黒人の人権弾圧→黒人を中心とする公民権運動の台頭→公民権法の成立）を調べて理解すること。
4	レポート設題の学修のポイント意見の論述　［その2］テキストp.27、28～30行を参照。 キング牧師は、インド独立運動の中心人物ガンジーに深く傾倒し、彼の「非暴力・不服従」にならい、自身の公民権運動を推進した。またキリスト教の「愛」（アガペと呼ばれる無償の愛、自己犠牲の愛）を説くことによって、黒人達の精神的支えとなり、運動をまとめることに成功した。これらのキング牧師の思想、運動遂行の方法などを調べ、具体的に説明すると良い。
5	レポート設題の学修のポイント意見の論述　［その3］ キングの努力により公民権法が成立し、アメリカにおける人種差別は法律上、形式上は消滅した。しかし、オバマが黒人初の大統領となった今でも、社会の深層や人間の心理にはいまだに人種差別は残っている。これを解消するにはどうしたらよいか、今後の課題は何か、など、学んだこと、理解したことを踏まえて、意見をまとめると良い。
6	［科目終了試験学修のポイント1］について　［その1］ まず、英文テキストの要約に際しては、テキストpp.69-70の注を活用し、また以下の単語の訳に注意すること。 childish=子供じみた、子供っぽい　childlike=子供らしい　New England=ニューイングランド（アメリカ東部カナダ寄りの地方）　genetically-altered=遺伝子操作された　running amok=荒れ狂い走り回る　Jew=ユダヤ人
7	［科目終了試験学修のポイント1］について　［その2］ スピルバーグの生い立ち、家庭環境などが、映画の内容にどのように反映されているか、彼の制作する映画の特徴等を中心に調べると良い。また、スピルバーグは、ふたつの異なる傾向（ひとつは娯楽性の強いもの、もうひとつは社会的問題を提起するもの）の映画を制作しているが、テキストに出てくる映画のタイトルの中から(あるいは、これまでのスピルバーグの話題作の中から)、実際に鑑賞してみる。

8	［科目終了試験学修のポイント 2］について　［その 1］ まず、英文テキストの要約に際しては、テキスト pp.71-72 の注を活用し、また以下の単語の訳に注意すること。 role model=役割モデル(誰もがあこがれ、まねをしたがる存在) Colonel Tom Parker=実際に colonel(大佐)であるわけではなく、アメリカでは熟年の人柄の良い男性をこのように呼んで敬愛の情を表す。timid TV censors=小心(臆病)なテレビ番組検閲官(アメリカは日本よりテレビ番組の内容の検閲が厳しい)、 drafted=徴兵される(当時アメリカには徴兵制があり、若い男性は2年間の軍隊入隊が義務であった) 、mansion=大邸宅(日本語の「マンション」とは違う) 、gold singles, gold albums=100 万枚以上の売上を「ゴールド」と称する。　Native American=「アメリカインディアン」の PC 表現
9	［科目終了試験学修のポイント 2］について　［その 2］ エルヴィス・プレスリーがロックン・ロールを生み出し人気を博した 1950～1960 年代は、第二次世界大戦終結後、アメリカが経済的繁栄を謳歌し物質的な豊かさが国民に行き渡った時代であった。一方で若者達は伝統的な道徳や既成概念に縛られた社会にストレスを感じ、そのはけ口をさがしていた。また当時は黒人を中心とする公民権運動が盛んな時期でもあった。これらの社会背景をふまえて、プレスリーの音楽の意義について考える。
10	［科目終了試験学修のポイント 3］について　［その 1］ まず、英文テキストの要約に際しては、テキスト pp.73-74 の注を活用し、また以下の単語の訳に注意すること。 rejected for military service=兵役を拒否されて(当時アメリカでは兵役があった)、cover(ing)=報道する、best-known=最もよく知られる、tribute=捧げ物、貢ぎ物　big-game hunting=(サイや鹿などの)大きな獲物をねらう狩り、prose=散文(対義語は「韻文」)　code=規律／規範、measure=(人間や物事をはかる)評価の基準
11	［科目終了試験学修のポイント 3］について　［その 2］ ヘミングウェイは、第一次、第二次世界大戦を始めとして、ヨーロッパの大きな戦争のほとんどを自身の目で見て、その体験を心に刻み、それをもとにして小説を執筆した。また、当時物質文明を誇り、自動車やテレビ、大型冷蔵庫などの大量生産の工業製品があふれるようになったアメリカ社会を、国外から冷徹にシニカルな目で眺め、戦争によって人生の価値観を打ち砕かれた「失われた世代(=Lost Generation)」を代表する。彼の 1 作を選び、その作品のテキストにあるヘミングウェイの文体の特徴（p.31、65～69 行）を実感するのもよい。
12	［科目終了試験学修のポイント 4］について　［その 1］ まず、英文テキストの要約に際しては、テキスト p.80 の注を活用し、また以下の単語の訳に注意すること。 as common as～=～と同じほど普通(一般的、当たり前)の、available=使用(利用)可能な、teaching tool=教材、keep track of～=～を管理する、natural=生まれつきの／生来の、SAT=Scholastic Assessment(Aptitude) Test　、on paper=書類上は、matter=重要(重大)なことと思う、power=権力
13	［科目終了試験学修のポイント 4］について　［その 2］ パソコンを中心とする今日の IT 技術の発展は、ゲイツの存在なくしては達成されなかったと言ってよい。我々は現在、その恩恵に浴し、便利な日常生活を送っている。しかし、この状況を無批判に受け入れて、情報の波に押し流されていいものだろうか。インターネットを始め、今日我々の身の回りにある IT 技術のプラス面、マイナス面をよく考え、ネット依存や情報格差の問題にも考察を深めるとよい。なお、ゲイツは現在、妻メリンダとともにチャリティ事業に専念している。
14	［科目終了試験学修のポイント 5］について　［その 1］ まず、英文テキストの要約に際しては、テキスト pp.82-83 の注を活用し、また以下の単語の訳に注意すること。 social reformer=社会の改革者、landed=(仕事を)得る／(仕事に)つく、article=記事、national=全国的な、piece=作品 marital status=婚姻上の立場(既婚か未婚か)、traditional family values=(男性が働き、女性が家庭を守るという)伝統的な家族の価値観、disarm=(武装解除させるように)相手の心を開かせる／和らげる、humanize=人間的にする、sex=性別
15	［科目終了試験学修のポイント 5］について　［その 2］ 自由と平等を標榜するアメリカも、社会構成の基本は「男社会」であった。いまもその名残はいろいろな場面にあるものの、女性解放運動、フェミニズム運動を経て、今では相当程度女性の社会進出が達成されている。その陰には、グロリア・スタイネムのような社会活動家の努力があった。女性たちが今当然のように行使している職場や学校、家庭での、男性と同等のさまざまな権利を獲得するために、彼女たちは戦ってきたのである。人種差別を解消するための公民権運動から、性差別解消のための女性解放運動が生まれた歴史の流れを調べ、女性の社会進出を阻んでいる「ガラスの天井(glass ceiling)」についても考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 8章「Martin Luther King, Jr.」について日本語で要約せよ。さらに、内容についてあなたの考えを述べよ。

＜ポイント＞

公民権運動とは1950年代のアメリカにおいて、黒人を中心に始められた人種差別撤廃運動である。Martin Luther King,Jr.がアメリカにおける人種差別において、公民権運動の指導者としてどのように貢献したか。また、彼の掲げた「非暴力」そして、不朽の名演説「私には夢がある(I Have A Dream)」は、人々にどのようなメッセージを投げかけたのか。Martin Luther King, Jr.の思想が人種差別思想や米国憲法修正に与えた影響について考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．英文を日本語で要約せよ。さらに、Steven Spielbergの作品を1つ挙げてあなたの印象を述べよ。

＜ポイント＞

スピルバーグの人となりと、彼の映画制作に向かう姿勢を理解し、具体的に説明できるよう理解を深める。単純な映画の感想文に陥らないようにすること。

2．英文を日本語で要約せよ。さらに、Elvis Presley に対するあなたの印象を述べよ。

＜ポイント＞

当時のアメリカの社会状況をよく理解した上で、音楽史上におけるプレスリーのロックン・ロールの位置づけを考察する。また、あまりに早い最期を遂げたプレスリーの「有名人の孤独」についても考える。

3．英文を日本語で要約せよ。また、本文70行目以降に述べられているHemingwayの描く heroes や courage に対するあなたの印象を述べよ。

＜ポイント＞

ヘミングウェイは幾多の戦争を取材し、多くの人々の死を目の当たりにした。その経験から、「英雄とは」「勇気とは」「死が迫る時にどう対処するか」という独自の哲学を深めた、「失われた世代」の代表的小説家である。テキストp.31、64～79行をじっくり読んで分析し考えること。

4．英文を日本語で要約せよ。さらに、Gatesに対するあなたの印象を述べよ。

＜ポイント＞

現在のIT社会を築き上げた功労者であり、また新しい問題点を作り出した人物でもある。パソコンとインターネットの普及から派生する諸問題に対する解決策、対応策を考えると良い。

5．英文を日本語で要約せよ。さらに、Gloria Steinem が行った活動に対するあなたの印象を述べよ。

＜ポイント＞

アメリカの公民権運動から派生した女性解放運動において、グロリア・スタイネムの果たした役割を考えること。職場における賃金や昇進などの男性と平等な権利の獲得のみでなく、女性を性的対象としか考えない行為を糾弾したり、人工妊娠中絶の権利を主張するなど、女性の性的平等の獲得にも行動を起こしたことに目を向けるとよい。

6．英文を日本語で要約せよ。また、Carnegieの実業家および社会・慈善事業家としての人物像に対するあなたの印象を述べよ。

＜ポイント＞

カーネギーが「成功の夢」を実現する背景には、宗教的迫害、飢饉、貧困などの理由からアメリカへ移民する人が多かったこと、個人の能力や努力がアメリカ社会では評価されること、機会の平等がアメリカ社会の伝統的な信念・理念であることなどが存在することを考慮に入れておかなければならない。

教科書

ピーター・セラフィン、根間弘海『Twenty American Heroes』三修社。

参考文献

梶原寿『マーティン＝Ｌ＝キング』清水書院。

コレッタ・スコット・キング、梶原寿、他『キング牧師の言葉』日本基督教団出版局。

辻内鏡人、他『キング牧師』岩波ジュニア新書。

科目コード	アメリカの文化と言語Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
1100/1101		２年	ＳＲ
教員名	緒方玲子、志手和行		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

読解力、作文力、聴解力、会話力の四技能を、さらに向上させ、また、表現力の幅を広げるために様々なテーマの英文に数多く触れていく。内容は、アメリカの多種多彩な社会問題、歴史的背景を持つ問題で、日本との比較においても興味深いものである。またテキストの英文を通して、英語の言語学的な特徴（発音、文法、語用法等）や、アメリカの文化、社会事情に精通することをめざす。異文化理解を深めるための、手がかりをつかむことを目標とする。

学修内容

1	学修の始めに、レポート設題と科目終了試験学修のポイントを熟読すること。 この科目は、レポート、科目終了試験ともに、まず英文テキストの日本語での要約が求められる。自習作業での翻訳作成のほかに、スクーリング授業での教員や他の学生の日本語訳も参考にして、レポート設題と科目終了試験学修のポイントの章を日本語訳する。さらにその翻訳の文章のポイントを絞って、「要約」を作成する。レポートには、まずこの「要約」を記述し、そのあとに設題の後半に求められている意見を論述する。
2	［レポート設題の求める解答記述の作成に際して］ 【設題１】UNIT７「Dr. Jack Kevorkian」について日本語で要約せよ。さらに、内容についてあなたの考えを述べよ。 まず、英文テキストの「要約」記述に際しては、テキスト p.31 下部の Notes を活用するとよい。また日本語訳の助けとなるよう、p.30 のキー・ワードの訳を以下に示す。 1、安楽死　2、尊厳死　3、医療的処置（治療）　4、死ぬ権利　5、内科医　6、末期患者　7、致死量 8、援助された自殺、自殺幇助　9、耐えられない痛み　10、有罪
3	レポート設題の学修のポイント意見の論述　［その１］ このレポートのテーマは、「安楽死」である。治療の見込みがなく、末期の苦しみの中にある患者が、その苦痛から解放されるために死を望む行為は、果たして認められるのか。また本来は命を助ける医師がそれを補助するのは倫理にかなうのか。最期の決断をするのは誰か（医師か、患者本人か、患者の家族か）。（テキスト p.31、14～18 行）これらの問題を考察し、論述する。 テキストでは、まずオランダの例が紹介されている。オランダで安楽死が法制化された経緯、社会事情、国民の意識などを調べるとよい。
4	レポート設題の学修のポイント意見の論述　［その２］ 次にテキストでは、アメリカの「死ぬ権利」の運動家として有名な医師ケボーキアンを取り上げ、彼の行為の内容を紹介している。自殺マシーンを作り、患者本人の意志で致死量の薬物を投与できるようにしたこと、100 人以上もの患者の自殺を手助けしたこと（テキスト p.31、5～10 行）は、当時アメリカでは大変ショッキングなこととして受け止められ、大きな議論を巻き起こした。このケボーキアンの行為を、どう思うか、また彼の行為の影響はどのようなものか、考察すること。
5	レポート設題の学修のポイント意見の論述　［その３］ 日本では、安楽死の問題はどのように考えられているだろうか。社会的な状況としては、医学、医療の進歩により、高齢化が急速に進む一方で、ガンやエイズなどの重篤な病気による問題も大きい。また日本では、欧米のように「個人の決定権」や「個の自立」の意識はそれほど強くはなく、患者が末期の状況では家族が本人に代わってさまざまな決定を行うこともある。実際に過去には安楽死を実行したことが事件として裁判にかけられた例もいくつかある。具体的な裁判例を調べ、欧米での安楽死についての世論の流れがどのように影響しているか、また日本人のメンタリティとどのように折り合えるか、あるいは安楽死が刑事訴追されない要件はなにか、よく調べ考察するとよい。 さらに、安楽死と尊厳死はよく混同されやすいが、別のものである。それぞれの定義や内容を良く調べ、分けて考え、論じること。
6	［科目終了試験学修のポイント１］について　［その１］ まず、英文テキストの「要約」に際しては、テキスト p.15 下部の Notes を活用するとよい。また日本語訳の助けとなるよう、 p.14 のキー・ワードの訳を以下に示す。 1、世論　2、タバコの広告　3、妊婦　4、胎児　5、タバコ規制　6、身元証明　7、その法律を破る、その法律に違反する　8、重い罰金　9、再犯者　10、喫煙場所

7	［科目終了試験学修のポイント 1］について　［その 2］ アメリカでは、1960 年代からタバコの健康に対する影響が認識され、厳しい規制が行われ始めた。現在では、この影響は欧米のみならず世界の趨勢となり、禁煙、分煙の流れは強まっている。このことは、喫煙者本人の健康被害のみならず、受動喫煙の害が知られるに及んで、より加速の傾向である。これらを踏まえて、タバコ規制についての意見をまとめる。その際、タバコに対する、単純な「好き・きらい」を考えるのではなく、科学的なデータや事実を挙げて具体的に考察すること。
8	［科目終了試験学修のポイント 2］について　［その 1］ まず、英文テキストの「要約」に際しては、テキスト p.47 下部の Notes を活用するとよい。また日本語訳の助けとなるよう、p.46 のキー・ワードの訳を以下に示す。 1、自動車　2、画期的な出来事　3、車のディーラー　4、運転免許　5、公共交通　6、戦後の経済的豊かさ 7、ステーション・ワゴン　8、ドライブ・イン・ムービー　9、オフ・ロード車　10、運転の状況（条件）
9	［科目終了試験学修のポイント 2］について　［その 2］ アメリカは、車社会である。国土は日本の 25 倍の広さで、電車やバスなどの公共交通で移動し生活できるのは、東海岸と西海岸のいくつかの大都市のみであり、その他の地域では自動車はまさに生活の「足」である。車はアメリカ人の生活や精神構造に深く根付き、影響を与えてきている。このことに大きく寄与したのが、「アメリカに車輪をつけた男」と呼ばれるフォードであった。彼の業績を調べ、あわせて第二次世界大戦後に進んだ職住分離（テキスト p.47、9～13 行）によって加速された車社会アメリカの歴史を調べると良い。
10	［科目終了試験学修のポイント 3］について　［その 1］ まず、英文テキストの「要約」に際しては、テキスト p.51 下部の Notes を活用するとよい。また日本語訳の助けとなるよう、 p.50 のキー・ワードの訳を以下に示す。 1、政敵　2、弾劾する　3、反対者、敵対者　4、マス・メディア　5、その話を報道する　6、辞任する 7、弾劾　8、連邦選挙法　9、アメリカ議会（国会）　10、面目を失った男たち
11	［科目終了試験学修のポイント 3］について　［その 2］ テキストでは、クリントン元大統領のセクシャル・スキャンダルと、それを報じた当時のマスコミの対応を、1974 年当時のニクソン大統領が辞任に追い込まれたウォーターゲート事件と比較し、紹介している。国を代表するリーダーのスキャンダルをマスコミがどのように扱うかは、国により傾向が異なるので、フランスやイタリアなどのヨーロッパの国と比較してみると良い。また、アメリカのような大統領制の国と、日本のような議院内閣制の国とを比較し、それぞれの特徴を挙げて政策決定のプロセスや権力行使の内容を調べ参考にすること。
12	［科目終了試験学修のポイント 4］について　［その 1］ まず、英文テキストの「要約」に際しては、テキスト p.67 下部の Notes を活用するとよい。また日本語訳の助けとなるよう、 p.66 のキー・ワードの訳を以下に示す。 1、友情　2、盲導犬　3、高齢者、年配者　4、神経に関わる問題　5、療法　6、無条件(無償)の愛　7、受け入れること、受容　8、ケアすること、気遣い、思いやり　9、老人ホーム　10、細菌
13	［科目終了試験学修のポイント 4］について　［その 2］ 動物は古くから人間の生活と深い関わりを持ってきた。ペットはもちろん、最近では介助犬が障がい者の生活を援助すること、イルカなどがセラピーに大きな役割をはたすことなどが知られている。このような具体例を調べてまとめてみる。 また、盲導犬のように一生を通して飼い主（障がい者）のために 24 時間緊張して仕事をすることは、動物にとってどのような影響があるか、考えてみると良い。
14	［科目終了試験学修のポイント 5］について　［その 1］ まず、英文テキストの「要約」に際しては、テキスト p.75 下部の Notes を活用するとよい。また日本語訳の助けとなるよう、 p.74 のキー・ワードの訳を以下に示す。 1、報道官　2、一生身体障害（者）となる　3、書類に記入する　4、銃火器を所有する　5、銃を所有する権利 6、圧制的な　7、保障される　8、提唱者、主唱者　9、暴力犯罪、凶悪犯罪　10、学校での銃撃（事件）
15	［科目終了試験学修のポイント 5］について　［その 2］ 銃規制は、アメリカにおいて最も解決困難な社会問題のひとつである。それは、歴史的、社会的なさまざまな要因により、解決には至っていない。テキストに紹介されている「ブレイディ銃規制法」とその内容を調べ、なぜアメリカで銃規制が進まないかを分析する。アメリカ建国のプロセス、フロンティアによる西部開拓の歴史、凶悪犯罪が多発し護身を要する現実、強力なロビー団体である NRA（全米ライフル協会）の存在なども調べてみると良い。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 UNIT７「Dr. Jack Kevorkian」について日本語で要約せよ。さらに、内容についてあなたの考えを述べよ。
＜ポイント＞
Dr. Jack Kevorkian は、アメリカ、ミシガン州の医師である。彼は、終末期を迎えたある患者に対しての安楽死の幇助(ほうじょ)の罪に問われ、裁判の結果、10～25 年の有罪判決が下った。Dr. Kevorkian は、病気の人々の尊厳死を強調し、彼らを耐え難い痛みから解放することを主張している。人間の命に対して最後の決定を下せるのは、医師か、患者自身か、それとも患者の家族なのか、医の倫理とは何かを考察する。

科目終了試験学修のポイント

１．UNIT３の英文を日本語で要約せよ。さらに、Tobacco Regulations in the U.S.に対するあなたの考えを述べよ。
＜ポイント＞
タバコ規制についての意見をまとめる。その際、タバコに対する、単純な「好き・きらい」を考えるのではなく、科学的なデータや事実を挙げて具体的に考察すること。日米のタバコ規制の比較も興味深い。

２．UNIT１１の英文を日本語で要約せよ。さらに、America's Car Culture に対するあなたの考えを述べよ。
＜ポイント＞
車社会アメリカの状況を理解し、さらにその要因を分析する。生活に車が深く根付いているアメリカと、公共交通が発達している日本との比較を考える場合は、日本でも過疎化などによりアメリカに近い車社会になっている地方都市があることに注意すること。

３．UNIT１２の英文を日本語で要約せよ。さらに、The Impeachment of President Clinton に対するあなたの考えを述べよ。
＜ポイント＞
国家の指導者のスキャンダルと報道との関係を、具体的なケースを挙げて事件の内容、政治体制、国民性などに分けて分析する。また、国のリーダーとしてどのような資質が求められるかについても考える。

４．UNIT１６の英文を日本語で要約せよ。さらに、Animal Assisted Therapy に対するあなたの考えを述べよ。
＜ポイント＞
動物と人間とのかかわりの歴史、セラピーやペットとしての動物の役割についてまとめる。

５．UNIT１８ の英文を日本語で要約せよ。さらに、Gun Control and the Brady Law に対するあなたの考えを述べよ。
＜ポイント＞
アメリカの銃規制について、歴史的要因、社会的要因、政治的要因などを分析する。また、厳しく銃刀規制が行われている日本との比較をするのも良い。

教科書

ピーター・セラフィン、奥田隆一『Celebration of America』三修社。

参考文献

アルフォンス・デーケン『死とどう向き合うか』日本放送出版協会。
柏木哲夫『NHK 人間大学　死を看取る医学』日本放送出版協会。
福本博文『リヴィング・ウィルと尊厳死』集英社新書。
保阪正康『安楽死と尊厳死』講談社現代新書。

科目コード	医学概論（旧　医学一般）（４単位）	登録年次	履修方法
1662		１年	ＳＲ
教員名	石本強、岡本真哉、澤田晋一、清水竜、宋暁鈞、手塚和美、橋本由利子、泉二奈緒美、呂智濱		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

超少子高齢社会を迎えようとしている今日では、社会福祉の現場でも医療の範囲を超越した分野に対するニーズの増大が予見される。本科目では、福祉専門職者としてだけでなく、教育や一般社会組織の現場で要求される最低限の医療、医学の知識の修得を目的とする。具体的には、現代社会の代表的な疾患である生活習慣病や慢性疾患、臨床医学の各分野の概要、健康づくり対策、感染症対策等の保健医療などを学修する。単なる科学としての医学にとどまらず、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、人間の生活の質（QOL）を豊かにし、成長途中にある小児、各種疾患患者、およびそれらの家族の生活を支えられる医療・生活援助のあり方についても学ぶ。

学修内容

1	イントロダクション：命と医学・医療、医学・医療の歴史 病気とはどういうことか考え、医学と医療は何をするのか定義する。医学・医療の歴史を振り返り、将来の方向性について、終末期医療、再生医療を含めて考える。
2	心身機能と身体構造①：人体各部の名称と機能の概要。体液・血液の性状。呼吸器系。循環器系。機能と代表的な関連疾患 人体を部位別に分け、存在する各種臓器・組織の構造と機能の概略を理解する。生体活動を維持するための体液（血液を含む細胞外液、細胞内液）の恒常性、呼吸器・循環器系の相互関連を理解し、代表的な疾患を学ぶ。
3	心身機能と身体構造②：消化器系、泌尿器系。代表的な関連疾患 消化器系（消化管、肝臓、膵臓など）の構造と機能（消化・吸収）について理解し、栄養素の機能について学ぶ。泌尿器系（腎臓、膀胱）の構造と機能から、排泄機能について学ぶ。さらに、これらの器官における代表的な疾患を知る。
4	心身機能と身体構造③：骨格系、筋系。代表的な関連疾患 身体の姿勢維持と運動に関与する骨格系と筋系の構造と機能を学び、筋収縮の機序と関連疾患を理解する。骨および筋の運動以外の機能とその障害についても学ぶ
5	心身機能と身体構造④：神経系、内分泌系、生殖器系、皮膚と感覚器。代表的な関連疾患 生体内の情報伝導・伝達機能を担う神経系と内分泌系の特性と調節機序を理解する。皮膚の構造と機能について理解し、障害の発生原因について考察する。
6	疾病と障害①：生活習慣病（がん、虚血性心疾患、脳卒中、メタボリックシンドローム） 生活習慣病の定義を理解し、メタボリックシンドロームの予防と対策について考える。悪性新生物（がん）の発症機序、リスク因子、対策について理解する。
7	疾病と障害②：先天性疾患、周生期障害、乳幼児のリスク因子、心身の機能障害、発達障害 精子・卵子の形成、受精から出生までの胎芽・胎児の成長過程をもとに、先天奇形の原因と対策について学ぶ。乳児期の成長における栄養・刺激提示の重要性から、障害発生のリスク因子と予防策について考察する。
8	疾病と障害③：感染症とその対策 感染、感染症を定義して、病原体の種類と特徴について学ぶ。特に、細菌とウイルスの違いを区別する。感染症発症の 3 原則をもとに、予防対策について考察する。
9	疾病と障害④：精神障害、高次脳機能障害 精神障害の診断マニュアル（DSM-5, ICD-10）について、なぜマニュアルが必要なのかを含めて理解する。精神障害の分類とそれぞれの特徴、治療方法について整理・理解する。
10	疾病と障害⑤：加齢と老化（老化性疾患、認知症、生活不活発病） 加齢を定義し、受精・分化・成長、成熟、老化について、段階ごとに理解する。高齢者に起こりやすい疾病について、身体面、メンタル面に関連するものを整理し、進化および成長との関連を含めて理解するとともに、その予防策について考察する。
11	疾病と障害⑥：老化性疾患（骨粗鬆症、視聴覚障害、嚥下障害、内部障害など） 高齢者に多い疾患（老化性疾患）のうち、身体面を中心に、原因と対策について理解する。障害、特に内部障害に含まれる症状の発症率から、障害発生の原因と対策について考察する。ICF とリハビリテーションについても理解する。
12	疾病と障害⑦：ストレス性疾患、免疫異常、難病 ストレス刺激、ストレスを定義し、代表的なストレス性疾患について理解する。免疫・自律神経機能の関連から、ストレスと疾病リスクとの関連について考察する。
13	日本人の健康状態と寿命：現代の健康状態、および人口統計の現状と将来人口の予測 平均寿命の変遷、栄養状態をもとに、日本人の、現在と将来の健康状態について理解する。健康とはどういう状態なのかについて、WHO の定義の是非を含めて考察する。
14	健康づくり：健康度の向上、健康寿命延長のための活動 老化による機能低下、および健康寿命と寿命の定義を理解し、健康度上昇のための活動にはどのようなものがあるか考察する。
15	最新の医学情報 生きていること、また命を巡る様々な考えについて学ぶ。最新の医学・医療技術について学び、それぞれについて将来の展望をまとめる。 総括 医学・医療は何を目的としているのか、医療・福祉を施す側、施される側から、広い観点から考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 生活習慣病について述べよ。
＜ポイント＞
生活習慣病にはどのような疾患が含まれるのかについて理解した上で、現代社会における生活様式の変化、医療の進歩との関係、および生活習慣病発症への対策について、代表的な生活習慣病を例に挙げて考察すること。

【設題2】 ストレス性疾患について、誘発因子と生理機能の変化との関連から述べよ。
＜ポイント＞
ストレス刺激には、物理的、化学的、生物学的、社会的、心理学的な様々な因子があり、それらに対して生体は恒常性を維持するように生理機能を変化させて対応する。しかし、生理的変化が許容範囲を超えると、様々な症状として発現する。このような関係について理解した上で、ストレス病への対策を考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1． 難病対策について
＜ポイント＞
難病にはどういう疾患が含まれるか、どのような対策がなされているかについて考察する。

2． リハビリテーション医療の概念について
＜ポイント＞
疾病に対しては発症予防と適切な治療が重要であるが、疾病に起因する機能低下の回復（リハビリテーション）も図らなければならない。リハビリテーションの方策について、実行時期、チーム医療について考察する。

3． 先天性障害について
＜ポイント＞
ヒトはたった1個の受精卵から始まり、DNAの遺伝情報に基づくタンパク質合成、細胞分裂、器官形成、機能分化、機能発達の歴史を経て出生するが、それらの過程のどれか1つでも異常があると先天性障害が現れる。先天性障害のリスク因子と、障害の予防策について考察する。

4． 認知症について
＜ポイント＞
脳機能が著しく発達したヒトでは、わずかな機能低下が障害として現れ、その代表例が認知症である。認知症とはどういう疾患か、その原因と対策を考察する。

5． 精神障害について
＜ポイント＞
精神障害は、脳機能が発達したヒトに特有の疾患といってよい。精神障害について分類し、その発症要因と予防・治療策について考察する。

6． 高齢者に多い疾患について
＜ポイント＞
高齢者は心身の機能が低下し、様々な疾患リスクが高まる。老化は避けられないが、その進行を遅らせることは可能である。代表的な老化性疾患を挙げ、その概要と予防策を考察する。

教科書

（平成20年度までの配本）
福祉士養成講座編集委員会『社会福祉士養成講座13(14) 医学一般』中央法規。
（平成21年度以降の配本）
社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座1　人体の構造と機能及び疾病』中央法規。

参考文献

厚生統計協会『国民衛生の動向』。
社会福祉協議会委員会『医学一般　新・社会福祉学習双書』全国社会福祉協議会。
精神保健福祉研究会『我が国の精神保健福祉－精神保健ハンドブック－』厚健出版。

科目コード	医学概論 / 医学概論（小児保健を含む）（2 単位）	登録年次	履修方法
1660/1661/1663		1年/2年	SR
教員名	石本強、岡本真哉、澤田晋一、清水竜、宋暁鈞、 手塚和美、橋本由利子、泉二奈緒美、呂智濱		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

近年、医学・医療に関するニーズは高まっており、医療、介護、保健、福祉といった専門的分野はもちろん、教育や一般社会組織の現場でも最低限の知識と技術が要求される。本科目では人体の構造と機能及び疾病について学修し、心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害、がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について理解し、日常業務で生かせる基本的な医学的知識の習得を目的とする。

学修内容

1	イントロダクション：命と医学・医療、医学・医療の歴史 病気とはどういうことか考え、医学と医療は何をするのか定義する。医学・医療の歴史を振り返り、将来の方向性について、終末期医療、再生医療を含めて考える。
2	心身機能と身体構造①：人体各部の名称と機能の概要。体液・血液の性状。呼吸器系。循環器系。機能と代表的な関連疾患 人体を部位別に分け、存在する各種臓器・組織の構造と機能の概略を理解する。生体活動を維持するための体液（血液を含む細胞外液、細胞内液）の恒常性、呼吸器・循環器系の相互関連を理解し、代表的な疾患を学ぶ。
3	心身機能と身体構造②：消化器系、泌尿器系。代表的な関連疾患 消化器系（消化管、肝臓、膵臓など）の構造と機能（消化・吸収）について理解し、栄養素の機能について学ぶ。泌尿器系（腎臓、膀胱）の構造と機能から、排泄機能について学ぶ。さらに、これらの器官における代表的な疾患を知る。
4	心身機能と身体構造③：骨格系、筋系。代表的な関連疾患 身体の姿勢維持と運動に関与する骨格系と筋系の構造と機能を学び、筋収縮の機序と関連疾患を理解する。骨および筋の運動以外の機能とその障害についても学ぶ。
5	心身機能と身体構造④：神経系、内分泌系、生殖器系、皮膚と感覚器。代表的な関連疾患 生体内の情報伝導・伝達機能を担う神経系と内分泌系の特性と調節機序を理解する。皮膚の構造と機能について理解し、障害の発生原因について考察する。
6	疾病と障害①：生活習慣病（がん、虚血性心疾患、脳卒中、メタボリックシンドローム） 生活習慣病の定義を理解し、メタボリックシンドロームの予防と対策について考える。悪性新生物（がん）の発症機序、リスク因子、対策について理解する。
7	疾病と障害②：先天性疾患、周生期障害、乳幼児のリスク因子、心身の機能障害、発達障害 精子・卵子の形成、受精から出生までの胎芽・胎児の成長過程をもとに、先天奇形の原因と対策について学ぶ。乳児期の成長における栄養・刺激提示の重要性から、障害発生のリスク因子と予防策について考察する。
8	疾病と障害③：感染症とその対策 感染、感染症を定義して、病原体の種類と特徴について学ぶ。特に、細菌とウイルスの違いを区別する。感染症発症の 3 原則をもとに、予防対策について考察する。
9	疾病と障害④：精神障害、高次脳機能障害 精神障害の診断マニュアル（DSM-5, ICD-10）について、なぜマニュアルが必要なのかを含めて理解する。精神障害の分類とそれぞれの特徴、治療方法について整理・理解する。
10	疾病と障害⑤：加齢と老化（老化性疾患、認知症、生活不活発病） 加齢を定義し、受精・分化・成長、成熟、老化について、段階ごとに理解する。高齢者に起こりやすい疾病について、身体面、メンタル面に関連するものを整理し、進化および成長との関連を含めて理解するとともに、その予防策について考察する。
11	疾病と障害⑥：老化性疾患（骨粗鬆症、視聴覚障害、嚥下障害、内部障害など） 高齢者に多い疾患（老化性疾患）のうち、身体面を中心に、原因と対策について理解する。障害、特に内部障害に含まれる症状の発症率から、障害発生の原因と対策について考察する。ICF とリハビリテーションについても理解する。
12	疾病と障害⑦：ストレス性疾患、免疫異常、難病 ストレス刺激、ストレスを定義し、代表的なストレス性疾患について理解する。免疫・自律神経機能の関連から、ストレスと疾病リスクとの関連について考察する。
13	日本人の健康状態と寿命：現代の健康状態、および人口統計の現状と将来人口の予測 平均寿命の変遷、栄養状態をもとに、日本人の、現在と将来の健康状態について理解する。健康とはどういう状態なのかについて、WHO の定義の是非を含めて考察する。

14	健康づくり：健康度の向上、健康寿命延長のための活動 老化による機能低下、および健康寿命と寿命の定義を理解し、健康度上昇のための活動にはどのようなものがあるか考察する
15	最新の医学情報 生きていること、また命を巡る様々な考えについて学ぶ。最新の医学・医療技術について学び、それぞれについて将来の展望をまとめる。 総括 医学・医療は何を目的としているのか、医療・福祉を施す側、施される側から、広い観点で考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 認知症について述べよ。

＜ポイント＞

単なる物忘れとの違いについて触れながら認知症の定義について説明し、認知症の原因と症状、認知症と間違われやすい病態とその違い、治療（薬物療法および非薬物療法）について論じること。

科目終了試験学修のポイント

１．生活習慣病と未病について

＜ポイント＞

生活習慣病にはどういう疾患が含まれるのか、また発症には至らないまでも一歩手前の状態である未病の概念について理解した上で、現代社会における生活様式の変化、医療の進歩などとの関係について、さらには生活習慣病への対策について考察すること。

２．悪性腫瘍について

＜ポイント＞

悪性腫瘍は体内で異常細胞（がん細胞）が増殖したもので、器官・組織の正常機能が損傷され、最終的には死に至る。がん細胞の発生・増殖要因と防止策、悪性腫瘍の治療方法について考察すること。

３．骨・関節疾患について

＜ポイント＞

骨には身体の支持・運動、内臓の保護、カルシウムの蓄積、造血機能がある。骨同士を結ぶ関節は運動と関連するが、二足歩行をする人間は、下肢に特有の関節障害が現れやすい。その原因と対策を考察すること。

４．感染症について

＜ポイント＞

病原体（感染性たんぱく質、ウイルス、細菌、真菌、原虫など）が体内に侵入・定着・増殖し、その結果、増殖部位で炎症が生じるのが感染症である。感染症成立の三大要因について述べ、感染症の予防対策について考察すること。

５．先天性障害について

＜ポイント＞

ヒトはたった１個の受精卵から始まり、DNA の遺伝情報に基づくタンパク質合成、細胞分裂、器官形成、機能分化、機能発達の歴史を経て出生するが、それらの過程のどれか１つでも異常があると先天性障害が現れる。先天性障害のリスク因子と、障害発生の予防策について考察すること。

６．老化に伴う心身機能の変化について

＜ポイント＞

老化は避けられない現象で、心身の機能が低下で特徴づけられ、様々な疾患が出現したり、その発症リスクが上昇したりする。老化の進行はとめられないが、進行を遅らせることは可能である。老化に伴う生理機能低下の代表例を挙げ、その概要と予防策を考察すること。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座１　人体の構造と機能及び疾病』中央法規。

参考文献

東京福祉大学編『 新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。

科目コード	異文化コミュニケーション教育（２単位）	登録年次	履修方法
9170		２年	R
教員名	内藤伊都子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

異文化コミュニケーションは、異文化環境下でのコミュニケーションや文化背景が異なる者同士によるコミュニケーション事象などを対象としている。グローバル化の進む国際社会では、越境する人々によって教育環境も多様化し、異文化コミュニケーションの機会は増加している。

本講座では、異文化コミュニケーションの入門書をテキストとして使用する。コミュニケーションにはどのような文化的要因が影響を及ぼすのか、異文化間コミュニケーションにおいて重要となる基礎概念を扱っていく。各テーマを通して、文化とコミュニケーションの関係、またその影響や対応などについて考察していく。

学修内容

1	異文化コミュニケーションを学ぶということ：教科書 pp.1-9。本講座のイントロダクションとして、なぜ異文化コミュニケーションを教育し、異文化を理解する必要があるのか、異文化コミュニケーションを学ぶ意味について考察していく。
2	異文化コミュニケーションの基礎概念－文化について：教科書 pp.11-19。異文化とは簡単にいえば文化が異なることである。したがって、異文化のもととなるそれぞれの文化とはなにか、まずは異文化コミュニケーションの基本となる「文化」について、氷山モデルや島モデルの視点から考察していく。
3	異文化コミュニケーションの基礎概念－コミュニケーションについて：教科書 pp.19-36。異文化コミュニケーションにおけるもう一つの重要な概念、「コミュニケーション」とはなにか、定義や特性などを概観し、異文化コミュニケーションを具体的、実践的に把握する上で重要となる３つのキーワードを取り上げて概説していく。
4	自己とアイデンティティ：教科書 pp.37-59。異文化コミュニケーションでは、自分とは異なる文化背景をもつ他者と円滑で効果的なコミュニケーションをするために、自己についても客観的に認識する必要がある。自己とは何か、自己観やアイデンティティの側面から自分について分析していく。
5	異文化コミュニケーションの障壁：教科書 pp.61-81。異文化コミュニケーションを実践する上で障壁となり得る要因としてステレオタイプ、偏見、差別を取り上げ、なぜ偏見やステレオタイプが生まれるのか、多文化化が進む社会でますます重要とされる偏見や差別などの理由について考察していく。
6	深層文化の探究：教科書 pp.83-108。深層文化の中にある価値観は、人々の行動を通して表出されるため、異文化の他者の行動の意味を理解する際には重要な要因となる。そこで、異なる文化の価値志向や思考のパターンなどについて、文化比較しながら文化的価値観について検討していく。
7	言語コミュニケーション - 言語の意味：教科書 pp.109-117。言語は、人々を結びつける力をもつと同時に、ときには人を傷つける道具となることもある。異文化コミュニケーションにおいては、言葉が誤解を生み出す危険性にとくに注意を払う必要があるため、特定文化で言葉がもつ意味や解釈などについて考察していく。
8	言語コミュニケーション - コンテキスト：教科書 pp.117-134。異文化コミュニケーションにおいては、言語の違いは意識されやすいが、言語そのものの違いではなく、言語の用い方や言語が用いられる文脈などによるコミュニケーション・スタイルの文化差などについて考察していく。
9	非言語コミュニケーション：教科書 pp.135-158。無意識に表出されることもある非言語コミュニケーション行動にも文化差は存在する。非言語コミュニケーションの特徴や機能を言語コミュニケーションとの比較を通して概観し、非言語メッセージの主な種類を比較文化的視点から考察していく。
10	カルチャーショックと適応のプロセス：教科書 pp.159-180。カルチャーショックの特徴、異文化適応の一般的なプロセス、異文化適応に影響を及ぼす要因、人間的成長の過程としての異文化適応、異文化経験によって生じるアイデンティティの変化について考察していく。
11	対人コミュニケーション - 文化と対人関係の形成：教科書 pp.181-192。異文化コミュニケーションには、文化差とともに個人差も存在する。個人が文化的背景の異なる他者と人間関係を構築する際には、どのような問題に遭遇し、それらにどのように向き合っていけばよいのかについて考察していく。
12	対人コミュニケーション - 異文化の対人関係：教科書 pp.192-205。異文化コミュニケーションは、海外の人々、外国人とのコミュニケーションに限られたものではない。異文化コミュニケーションにおいて「異文化」としてとらえられている集団やその人々との対人コミュニケーションについて考察していく。

13	異文化コミュニケーションの教育・訓練ー異文化コミュニケーション能力：教科書 pp.207-219。グローバル化や多文化社会が進展している現在、異文化コミュニケーションは国内外を問わず行われている。そこで、多様な人々について多面的に考え、適切で効果的に行動し、人間関係を形成していくための異文化コミュニケーション能力について解説していく。
14	異文化コミュニケーションの教育・訓練ー異文化トレーニング：教科書 pp.220-234。異文化コミュニケーションの教育の一つに、異文化トレーニングがある。異文化コミュニケーション能力の養成としての異文化トレーニングの内容やその方法、訓練における課題などについて解説していく。
15	異文化コミュニケーションの研究：教科書 pp.235-257。異文化コミュニケーション研究の歴史的発展の過程を解説しながら、異文化コミュニケーションとはなにを研究するのか、それはどのように研究するのか概説していく。その上で、異文化コミュニケーションを教育することの意味について再考していく。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

異文化コミュニケーションを教育する意味についてどのように考えるか述べよ。

＜ポイント＞

各テーマで扱った内容を踏まえ、異文化コミュニケーションを教育する意味だけでなく、なぜそのように考えるかについても具体的な例をあげながら自分の考えや意見をまとめること。

教科書以外の書籍文献やネット等の情報を参考にしたり引用したりする場合は、盗用はせず、必ず出典（書籍名、編著者名、出版社、出版年、URL　等）を明らかにし、レポート内に記載すること。

科目終了試験学修のポイント

1．文化の氷山モデルや島モデルを用いながら、文化とはなにかについて説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.11-19 を振り返っておく。文化の特性にも触れながら説明すること。具体例をあげながら自分の考えや意見も含めてまとめていくこと。

2．文化的アイデンティティについて説明し、自身のアイデンティティについても分析して述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.37-59 を振り返っておく。自己とは何かを考えてみる。一般的な文化的アイデンティティの特徴だけでなく、自分自身の文化的アイデンティティについても必ず分析してまとめていくこと。

3．ステレオタイプについて説明し、その影響についても述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.61-81 を振り返っておく。ステレオタイプはなぜ生まれるか考えてみる。偏見や差別との関係にも触れながら説明すること。具体的な例をあげながら自分の考えや意見も含めてまとめていくこと。

4．言語のコミュニケーション・スタイルについて説明し、自分のスタイルの傾向について分析して述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.109-134 を振り返っておく。日頃の自分の言語コミュニケーション行動について意識してみる。一般的なコミュニケーション・スタイルの説明だけでなく、自分自身のスタイルについても必ず分析してまとめていくこと。

5．非言語メッセージの種類とその文化差について、具体的な例をあげながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.135-157 を振り返っておく。非言語の機能についても触れながら、メッセージの種類ごとに文化差の具体的例をあげて説明すること。自分の考えや意見も含めてまとめていくこと。

6．異文化の対人関係を形成するには何が重要か説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.181-205 を振り返っておく。コミュニケーションの文化差と個人差に触れながら、異文化ならではの問題を含めながら説明すること。具体的な例をあげながら自分の考えや意見とあわせてまとめていくこと。

教科書

石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人 著『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション - 多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣選書，2013。

参考文献

石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013。

科目コード	異文化コミュニケーション教育演習（２単位）	登録年次	履修方法
9180		３年	ＳＲ
教員名	内藤伊都子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

異文化コミュニケーションの教育の一つに、異文化トレーニングがある。異文化トレーニングは主に知識学習と体験学習に大別されるが、講義では知識学習としてトレーニングの種類や内容、効果など認知的側面を扱い、個人による作業も取り入れていく。

実践では体験学習としてクラスで実施可能なペアワークやグループワークなどを取り入れながら、異文化コミュニケーションの情動や行動の側面についても訓練していく。また、トレーニングの実践後にはディブリーフィングやディスカッションなども実施し、ルールの違いや行動の意味などについて考えていく。

クラスのサイズによってトレーニング内容を調整しながら実施していく。

学修内容

1	ボーダーレス社会：内なる国際化の進展、偏見の危険、共通語の落とし穴。教科書 pp.11-15。 トレーニング：外国人との関わりについて。教科書 pp.16-17。
2	文化の定義：文化とはなにか、文化を島で表す、社会集団と文化、文化的違い。教科書 pp.18-25。 トレーニング：文化の島々、私の文化あなたの文化について。教科書 pp.26-27。
3	異文化コミュニケーション・スキル：それぞれの表と中身、補足調整、実践力養成、擬似体験学習。教科書 pp.34-40。 トレーニング：交渉について。教科書 pp.41-43。
4	コミュニケーション・モデル：伝達モデル、相互交渉（インターアクション）モデル、交流（トランスアクション）モデル。教科書 pp.45-55。 トレーニング：コミュニケーションについて。教科書 pp.56-59。
5	コミュニケーションは意味の創造：コミュニケーションはシンボルを使う活動であり、コンテキストを伴い、プロセスであり、共同作業である。教科書 pp.60-68。 トレーニング：意味付けとコンテキストについて。教科書 pp.69-71。
6	コミュニケーション・スタイル：螺旋的―直線的、飛び石的―石畳的、人間関係重視―情報重視。教科書 pp.83-90。 トレーニング：賛成意見と反対意見について。教科書 pp.91-94。
7	自己開示：自分について話す、ジョハリ・ウインドウ、日米自己開示比較。教科書 pp.95-101。 トレーニング：自己開示チェック。教科書 pp102.-103。
8	コンフリクト・マネジメント：異なる意見をどう扱うか、面子、インタレストをつかむ、仲介・調停・ミディエーション。教科書 pp.111-121。 トレーニング：わたくし文に書き直す。教科書 pp.122-123。
9	非言語コミュニケーションの重要性とその種類：身体動作、空間の使い方、接触行動、準言語、人工品、時間のとらえ方。教科書 pp.125-151。 トレーニング：空間の使い方チェック。教科書 pp.152-153。
10	文化的価値観：文化の芯、タマネギ型モデル。教科書 pp.163-167。 トレーニング：アリゲーター・リーバーの物語より。教科書 pp.168-170。
11	文化を方向づける価値志向：人間性志向、人間対自然志向、時間志向、活動志向、関係志向。教科書 pp.171-176。 トレーニング：日本文化の価値志向のパターンについて。教科書 pp.177-178。
12	文化の次元：個人主義と集団主義、権力格差、男性らしさ―女性らしさ、不確実性回避。教科書 pp.179-189。 トレーニング：個人主義―集団主義認識度のセルフチェック。教科書 pp.190-192。
13	異文化の認識：違いをどうとらえるか、カテゴリー化と幅、ステレオタイプ、単眼か複眼か。教科書 pp.222-230。 トレーニング①：認知的複雑性を高めるためのトレーニング。教科書 pp.231-232。トレーニング②：カテゴリー幅の自己チェック。教科書 p.233。
14	異文化への態度：違いをどう考えるか、常識再考、偏見を解く鍵、期待がもたらすもの。教科書 pp.235-245。 トレーニング：D.I.E.（描写・解釈・評価）法。教科書 pp.249-255。
15	カルチャーショックと異文化適応のモデル：異文化との接触→自己崩壊→自己再統合→自律→独立→帰国。教科書 pp.269-276。 トレーニング①：ソーシャル・サポート。教科書 pp.294-295。トレーニング②：リラクゼーション。教科書 p.296。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

実践したトレーニングから3つを取り上げ、トレーニングの実践結果と具体的に結びつけながら感想を述べよ。

＜ポイント＞

自身のコミュニケーション行動についても分析し、分析内容と関連付けながらトレーニングによる学びも含めてまとめていくこと。具体的なトレーニング名および教科書ページをレポート内に記載すること。

科目終了試験学修のポイント

1．コミュニケーションとはなにかについて具体的な例をあげながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.45-82 を振り返っておく。コミュニケーション・モデルや特徴について考えてみる。具体例とともに自分の考えや意見も含めてまとめていくこと。

2．コミュニケーション・スタイルについて説明し、自分の行動傾向についても述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.83-90 を振り返っておく。螺旋的―直線的、飛び石的―石畳的、人間関係重視―情報重視を考えてみる。具体的な例をあげながら、自分の考えや意見も含めてまとめていくこと。

3．自己開示とジョハリ・ウインドウについて具体的な例をあげながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.95-101 を振り返っておく。具体例とともに自身の自己開示傾向についても分析し、自身の考えや意見とあわせてまとめていくこと。

4．非言語コミュニケーションにはどのような種類があるか具体的な例をあげながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.125-151 を振り返っておく。大別からさらに細分化して具体的な行動を考えてみる。自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

5．文化的価値観の違いはコミュニケーションにどのような影響を及ぼすと思うか述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.163-219 を振り返っておく。具体的な例をあげながら、なぜそのような影響があると思うか理由も含めて自分の考えや意見をまとめていくこと。

6．異文化に適応するためにはどうすればよいか、なにが必要だと思うか具体的な例をあげながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.261-276 を振り返っておく。具体例とともに、なぜ必要なのか理由も含めて自分の考えや意見をまとめていくこと。

教科書

八代京子・町惠理子・小池浩子・吉田友子 著『異文化トレーニング【改訂版】－ボーダーレス社会を生きる』三修社、2009。

参考文献

石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013。

科目コード	異文化接触と文化学習（２単位）	登録年次	履修方法
9140		１年	R
教員名	内藤伊都子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

文化とはなにかという定義は多様で複雑であるが、世界には多くの文化が存在している。人間の考えや行動は自分が所属している文化の中で時間をかけて形成されるため、自分のもつ考えや行動があまりに自然であり、そのことに無意識になりがちである。このため、他文化やその中に生きる人間行動を理解するためには、文化学習が重要となってくる。

本講座では、日常生活におけるさまざまな文化的側面に触れながら、文化の多様性や文化的差異について概観し、文化について理解を深めていく。現代は異文化接触場面も多様化しているため、日常で起こりうる異文化の摩擦や失敗、すれ違いなどの事例を取り上げながら、異文化理解につなげる基礎的な学習を目的とする。

学修内容

1	現代社会と異文化コミュニケーション：教科書 pp.1-8。文化背景が異なる人々が接する際に行われる異文化コミュニケーションにおいて重要な概念となる、「文化」と「コミュニケーション」について概観し、異文化接触の増加にともなう衝突や摩擦について考察していく。
2	在日二世と日本人を両親にもつ女性と難民のケース：教科書 pp.11-22。日本国籍ではあるが日本以外の民族的背景も合わせもつユンさんとボートピープルの一人として日本にやってきたホアさんの２事例を取り上げながら、日本国内で起きる葛藤について考察していく。
3	ホストファミリーと ALT（外国語指導助手）のケース：教科書 pp.23-37。ホストファミリーを引き受けた日本人家族と東欧からやってきた大学院生の間および ALT とチーム・ティーチングの日本人英語教員の間に起こった２事例を取り上げながら、日本国内で起きる摩擦について考察していく。
4	アイデンティティ・クライシス、バイリンガル、逆カルチャーショックのケース：教科書 pp.39-58。アイデンティティの変化や言語の問題、再適応の３事例から、異文化環境下で一定期間を過ごした後、帰国した日本人が抱える問題について考察していく。
5	中途障がい者とセクシャル・ハラスメントのケース：教科書 pp.59-72。異文化とは国籍や民族的な違いだけによるものではない。中途障がい者となった健くんが感じた周囲の反応や職場の上司からの性的嫌がらせに悩まされる斉藤さんの２事例から、障がいの有無やジェンダーによる異なる他者との関係について考察していく。
6	コミュニケーション・スタイルと性的指向のケース：教科書 pp.73-88。紗枝さんと彼の間に起こった男女のコミュニケーション・スタイルによるすれ違いや同性愛者であることをカミングアウトした美恵子さんの２事例から異なる他者との関係について考察していく。
7	海外留学のケース：教科書 pp.91-107。自身の考えや意見、事実を述べることとコミュニケーション能力との関係に関わる問題や風俗習慣への理解の欠如に関する問題の３事例から、異文化環境下での行動の意味の解釈について考察していく。
8	海外赴任のケース：教科書 pp.109-125。海外の赴任先で現地の従業員と協働する際の問題や組織における役割分担や意思決定に関する文化的差異、駐在員の妻の体験などの４事例を通して、自文化と異文化の常識や価値観について考察していく。
9	海外旅行のケース①：教科書 pp.-137。山田さんが飛行機内で発した冗談が引き起こした問題と由香さんが経験した滞在先での家族との距離の近さの２事例から、職務や立場などコンテクストに適した文化的行動について考察していく。
10	海外旅行のケース②：教科書 pp.138-147。山川さん一行が海外で犯罪に巻き込まれてしまったケースと上原さんが海外で体調を崩したときのホテル従業員の態度をめぐるケースの２事例から異文化の対人関係と異文化コミュニケーションにおける言語の明確性について考察していく。
11	国際交渉のケース：教科書 pp.151-173。湾岸危機時の日米交渉のケースや国際舞台でのプレゼンテーションや説得力と関連する問題等３事例を通して、交渉プロセスの文化的差異や国際舞台で起こる摩擦、国際社会での立場、発言力などについて考察していく。
12	国際協力のケース①：教科書 pp.175-189。青年海外協力隊員の佑子さんと京子さんの経験した２事例を通して、異文化環境下で自身の感情をコントロールしたり、自身の目的を達成したり欲求を満たしたりするための行動について考察していく。

13	国際協力のケース②：教科書 pp.189-199。アメリカメジャーリーグから招聘されたディミュロ審判のケースと日タイ修好条約 100 周年を記念した建設プロジェクトという 2 事例を通して、文化による社会立場の差異、文化的アイデンティティや自尊心について考察していく。
14	マスメディアとパーセプション・ギャップ：教科書 pp.201-222。メディアによる情報の扱い方や個人レベルでのメディアの利用、メディアからの影響などに関する 3 事例を通して、メディアによって切り取られた一部の情報から伝えられる誤解や認識のずれなどについて考察していく。
15	異文化摩擦の要因：教科書 pp.223-236。文化背景が異なる他者との関係において、言語や非言語コミュニケーションの視点やステレオタイプ、偏見、価値観、倫理観、自文化中心主義などから問題となる葛藤や摩擦の要因を探っていく。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき 7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

教科書の以下のページに記載されている「課題」の中から任意の 1 つを選択し、その課題内容について自身で調べたことや自身の意見をまとめる。

p.17，p.22，pp.28-29，p.34，p.45，p.54，pp.77-79，pp.83-84，p.105，p.114，p.141，p.158，p.189

＜ポイント＞

課題の中には、リサーチやプレゼンテーション、ディスカッション、インタビューなどの表現が含まれている場合があるが、課題の中で取り上げられている“内容”についてレポートを作成する。

教科書以外の書籍文献やネット等の情報を参考にしたり引用したりする場合は、盗用はせず、必ず出典（書籍名、編著者名、出版社、出版年、URL　等）を明らかにし、レポート内に記載すること。

科目終了試験学修のポイント

1．国内で起こりうる異文化摩擦について具体的な例をあげながら述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.11-37 を振り返っておく。なぜ摩擦が起きるのか、摩擦の原因についても自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

2．異文化環境下で一定期間を過ごした後、帰国した日本人が抱える問題について説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.39-58 を振り返り、アイデンティティの変化や言語の問題、再適応について考えてみる。具体的な例をあげながら、自分の考えや意見も含めてまとめていくこと。

3．国籍や民族の違い以外による異文化の事例について具体的な例をあげながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.59-88 を振り返っておく。障がいやジェンダーについて考えてみる。なぜ国籍や民族以外の集団も文化集団に含まれるのか、ということについてもあわせて自分の考えや意見をまとめていくこと。

4．国外、異文化環境下での異文化接触による問題について具体的な例をあげながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.91-147 を振り返っておく。海外留学や海外赴任、海外旅行のケースを考えてみる。具体例とともに自分の考えや意見も含めてまとめること。また、自身の海外経験があればその経験についてもあわせてまとめていくこと。

5．組織コミュニケーションの視点から異文化摩擦について述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.151-199 を振り返っておく。組織の中の問題なのか組織間の問題なのかを明確に示し、具体例をあげながら自分の考えや意見も含めてまとめていくこと。

6．異文化摩擦の要因について具体的に述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.223-236 を振り返っておく。具体的な要因をあげながら、なぜ摩擦の要因となるのかその理由についても含めながら、自分の考えや意見とともにまとめていくこと。

教科書

久米昭元・長谷川典子 著『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション―誤解・失敗・すれ違い』有斐閣選書、2007。

参考文献

石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013。

科目コード	異文化理解（2 単位）	登録年次	履修方法
7690		2年	R
教員名	井草玲子、坂井二郎、内藤伊都子		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項・異文化理解		

科目概要・到達目標

異文化を知るということは、その対比の対象である自文化、つまりは自分について理解することである。外国人とのコミュニケーション、異文化接触の摩擦問題のみならず、自己と世界の関わり、自己と自文化の関係、そして異文化接触のダイナミズムを探り、理解を深めることで、「異質性を楽しむ」態度の育成を目的とする。

学修内容

1	異文化交流の変遷：西洋中心主義から文化相対主義へ　（第Ⅰ章　グローバル社会と異文化コミュニケーション） 「異文化理解」という分野は、目まぐるしく変化しているグローバル社会における社会的力関係に影響を受けている。身近に存在している世代文化間差、地域文化差、言語文化差などの多様な異文化について意識的になり、日常的に経験している自身の多様な異文化接触の体験を振り返ることで異文化交流の意義について考える。
2	文化の定義：文化の多様性　（第Ⅱ章　文化） 文化は色々な側面を持ち、私たちの日常生活に大きな影響を及ぼしている。「文化」をより身近なものとして捉え、自分自身と文化の関係を理解する。
3	想像・創造するコミュニケーション（第Ⅲ章　コミュニケーション） 私たちの日常は、コミュニケーションで成り立っている。人々のコミュニケーションを通して文化が形成され、文化が影響して人々のコミュニケーションの仕方が変化する。既存の文化を理解するにも、新しい文化を創造するにも、コミュニケーションが必要である。日常的に交流している多様な文化背景を持つ他者との関係や自己の多様な異文化体験と関連付けながら、コミュニケーションの本質や異文化交流で必要とされる能力について考える。
4	言葉と権力：文化帝国主義（第Ⅳ章　言語　1-9） 言葉は長い時間をかけて人類が形成してきた文化の一つである。文化の背景にある政治的・経済的力関係と言語の関係を理解し、言語と権力の関係を再確認する。
5	多言語主義：帝国主義からの脱却（第Ⅳ章　言語　10-14） 権力が支配のために言語・文化を利用してきたのと同時に、民衆も言語・文化を使って支配に抵抗をしてきた。多言語主義の意義・意味を確認し、自分自身の言語についても振り返る。
6	非言語と文化：ステレオタイプ・内在する抑圧への気づき（第Ⅴ章　非言語） 私たちの身体やアイデンティティ形成に大きな影響を与えるコミュニケーションには様々な形があり、言語はその一つに過ぎない。言語以外のコミュニケーションについても意識を高める。
7	時間・空間と文化：様々な時間・空間の捉え方（第Ⅵ章　時間・空間） 時間の流れも、空間のあり方も政治的・経済的支配者の恣意性が存在している。絶対的な時間・空間という考え方にとらわれず、様々な視点から時間と空間について再考する。
8	異文化接触：カルチャーショック（第Ⅶ章　異文化接触　1-9） 「ある文化」と「ある文化」、つまり人と人が接触し交流すると、様々な形で摩擦が起きる。摩擦は対立も生むが、変化・成長の原動力でもある。日常生活で起こり得るカルチャーショックを自身の体験に依拠し関連付けながら、新たなものとの出会いや異文化接触の意義について多角的に考える。
9	異文化接触：アイデンティティ（第Ⅶ章　異文化接触　10-11） 「異」を知ることは「自」を知ることである。他者の多様性を認めることは、自分自身の多様性も受け入れることにつながる。自身が身を置く環境での日常的な異文化体験から文化の多様性を理解し、多様な文化背景を持つ他者との交流から自分の多様な文化背景についても内省する。
10	異文化接触の場としてのメディア（第Ⅷ章　異空間としてのメディア） メディアは私たちの生活に深く入り込み、私たちの生活・文化に大きな影響を与えている。メール、ツィッター、ブログ、ライン、フェイスブックなど日常的に使用しているメディアも異文化接触の場として捉え、自身の使い方や接触状況と照らし合わせながら、今までの「普通」の生活を体験的に見直す。
11	文化創造とメディア支配（第Ⅸ章　メディアと文化） メディアも政治的・経済的支配と無関係ではない。社会の力関係とメディアの役割を確認し、情報を批判的に読み取ることを意識する。例えば様々なSNSを通して情報を入手している日常体験を振り返り、それらの情報の妥当性などについて批判的に再考してみる。
12	利用される文化：文化と差別（第Ⅹ章　文化のポリティクス　1-6） 私たち一人ひとりの人間形成に重要な文化は、様々な形で利用されてきた。そしてそれは、私たちが意識する「自分らしさ」に影響を与えている。「自分らしい」とはどういうことなのか。地域社会の中に存在する多様な文化を日常の体験を踏まえ把握しながら、文化背景の異なる人々と交流することの意味について考える。
13	多文化主義（第Ⅹ章　文化とポリティクス 7-10） それぞれが「自分らしく生きる」ことは可能なのだろうか。多文化共生の在り方について、様々な可能性を考えるとともに、多文化共生について自分なりの意見をまとめてみる。

14	グローバル化とアイデンティティの画一化（第XI章　グローバリゼーションの行方） グローバル化には、「画一」と「拡散」の二面性がある。世界の力関係とその所在を把握し、グローバル世界における様々な「闘争」の現実を理解する。例えば、グローバル化を契機として起こりつつある食の画一化や言語・伝統文化の喪失について自身の体験を振り返り、グローバル化がもたらす複雑な現実について再考する。
15	グローバル化への抵抗（第XI章　グローバリゼーションの行方） 社会的弱者は、ただ単に弱者としての自分を受け入れているわけではない。強大な世界権力から身近な権力まで、様々な形で抵抗を試みている。人々の営みを「権力への抵抗」として捉え、世界を見つめ直してみる。

学生に対する評価

レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価

＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点）

C（69点～60点）

F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 身近にある異文化と多文化共生のための取り組みについて述べよ。

＜ポイント＞

国を枠組みに捉える「文化」ではなく、日々の生活様式として捉えた「文化」を念頭に置き、自分の身近にある異文化と多文化共生の取り組みについて、テーマを絞ってレポートを作成する。なぜそれが「異文化」なのか、どのような共生への取り組みがなされているのか、なぜそのような異文化・共生に注目することが大切なのか、自分の問題として捉えるよう心がける。

科目終了試験学修のポイント

1．グローバル社会における異文化理解の意義と注意点についてまとめ、それに対する自分の意見を述べよ。

＜ポイント＞

その時々で異文化理解の形・必要性が変わってきた。今日の社会においてはどのような異文化理解が必要とされているのか、あるいはどのような落とし穴があるのか考えてみる。自分を取り巻く社会の現状を振り返り、異文化理解の意義・注意点の整理をしつつ、自分の意見をまとめるとよい。

2．グローバル社会において求められるコミュニケーション能力について、文化との関わりを念頭に置き、特に大切だと思うことについて述べよ。

＜ポイント＞

「コミュニケーション能力」という言葉を頻繁に耳にするようになったが、それはいったいどんな能力だろうか。今日の社会において、どのような能力が必要とされているのか、自分なりに整理して述べること。

3．価値観に対する文化的影響について、自分自身の価値観を振り返りつつ、具体例を挙げて、説明せよ。

＜ポイント＞

自分の持つ価値観はどこから来ているのか、それは普遍的なものなのか考える。自分の価値観を、決して否定するのではなく、多角的に振り返り、多様な考え方の可能性を想像してみる。

4．自己の形成と文化との関わりについて、自分自身を振り返り、説明せよ。

＜ポイント＞

自分はどのようなアイデンティティを文化的に求められて演じているのか、振り返ってみる。

5．社会的差別構造に利用されてしまう文化・アイデンティティについて具体例を用いて説明し、望まれる社会変革について自分の意見を述べよ。

＜ポイント＞

人種以外にも様々な文化的アイデンティティが差別に利用されている。どのような差別があるのか、その差別によって誰が得をし、誰が社会的に排除されてしまっているのか、また差別を解消するためにはどのような社会変革・価値観の変換が望まれるのか考えてみる。

6．グローバル化によってもたらされるアイデンティティの画一化・喪失とグローバル化への抵抗について、自分の身近にある具体例を挙げて説明し、それに対して自分の意見を述べよ。

＜ポイント＞

グローバル化は私たちの生活に様々な影響をもたらしている。一般論に止まらず、なるべく具体的に自分の生活と結びつけ、自分の行動を振り返り、自分の意見をまとめること。

教科書

池田理知子『よくわかる異文化コミュニケーション』ミネルヴァ書房

参考文献

池田理知子、E. M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ。

科目コード	医療経営論（２単位）	登録年次	履修方法
8690		２年	R
教員名	田口典男、中野隆之		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

医療機関の運営に関する問題について、経営学の観点から学修を進める。医療機関は、その公共性から、利潤を追求することが第一義的な目的ではないため、ややもすると経営状態が悪化することが指摘されている。このため、医療機関の経営について、どのように公共性と利潤追求とのバランスをとりながら行っていくべきかについて学修することが重要である。昨今では、高齢化などから医療・福祉機関が増加していることも考えれば、その重要性は増している。

学修内容

1	医療経営論の学修に先立って、日本医療の現状と今後課題となるであろうことを確認する。日本の医療システムが様々な課題に直面していることを確認してほしい。
2	医療と経営学について学修する。両者は一見、相容れない感もあるが、様々な課題に直面する医療機関の存続に重要な視点を与えるものとして、医療経営学の重要性が高まっている傾向にあることを確認する。
3	いかに周囲の環境に適合した組織を形成するかを問うものとして組織論がある。この組織論の考えを踏襲して、良質の医療サービスを提供する病院の組織について検討する。
4	3 に続き、組織論と医療サービスについて学修する。ライン組織、事業部制、ライン・アンド・スタッフ組織といった様々な組織形態についても学修する。
5	良質な医療サービスを提供するために必要な、病院の日常業務を管理する方法、効果的な医事管理法を学修する。医事管理次第で日頃の医事業務にいかに絶大な効果が生まれるか学修する。
6	現在、看護師や勤務医の離職の問題が深刻だが、その就業実態をまず把握する。その上で、良質の人材を確保するための効果的な方法、人的資源管理法を確認する。
7	６に引き続き、人的資源を確保するための管理法を学修する。看護師や勤務医から良質の労働を引き出させる動機づけの問題等も扱う。
8	良質な医療サービスを提供するために必要な、病院の施設や物品の管理について学修する。医療機関には様々な施設や物品があるが、それぞれの管理に相応しい管理法を学修する。
9	一般企業の財務状況をいかに適切にまとめるかというのは財務・会計の課題であるが、今回は財務・会計と経営管理について学修する。まず基本的な財務会計と医療機関について学修する。
10	9 に引き続き、財務・会計と医療経営管理について学修する。管理会計と医療サービスが中心となる。戦略的意思決定の着想が良質な医療サービスの提供にどう結び付くかなどを考える。
11	医療保険制度と医療サービスについて学修する。入院保険制度や入院治療費の計算方法の違いひとつで、提供される医療サービスがいかに異なってくるかを学修する。
12	11 に引き続き、医療保険制度と医療サービスについて学修する。最近、DPC（診断群分類包括評価）の導入が決定されたが、それが医療サービスにどう影響するかを学修する。
13	年間の手術件数によって病院の規模が判定される傾向があるが、それは必ずしも実際の医療の質を保証したものではない。ここでは実際提供される医療サービスの質を正しく評価する方法について学修する。
14	医療の情報化促進のために医療情報の標準化が行われてきている。その現実、メリット、デメリットについて学修する。
15	最後にこれまでの医療経営論の学修内容を総括して、特に重要なことやもう一度繰り返すべきことを再確認する。今後良質な医療サービスを持続的に提供することを考えるにあたっての視点を整理する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】現在医療業界で問題となっている事柄を一つあげ、その内容と対策を述べよ。

＜ポイント＞

「学修内容」の中で、医療経営論の学修のポイントを的確に捉え、その中から問題となっている事項を選ぶようにすると取り組みやすい。

科目終了試験学修のポイント

１．医療機関の存立を支えうる立場としての経営学や経済学の重要性について

＜ポイント＞

医療機関の存立を脅かす要因を整理すること。経営学と経済学の基本的な思考スタイルに慣れ、身に付けること。

２．現代の医療機関の運営に必要な公共性と利潤追求とのバランスについて

＜ポイント＞

医療機関の公共性の内容を把握すること。また、経済学の利潤追求という思考を理解すること。

３．一般の企業、公共機関と医療機関の運営の相違点と類似点について

＜ポイント＞

同じ組織であるから、その存立条件には共通性がある。一方、各組織の目的は異なるため相違点も生じる。

４．医療機関が運営を持続的に行っていく上で問題となる点について

＜ポイント＞

医療機関の存立を脅かす要因を財務、人事、施設などの多方面から整理すること。

５．医療・福祉機関の役割について

＜ポイント＞

高齢化に伴い医療・福祉機関の重要性は高まる。それに応じ、同機関の役割も拡大することに注意する。

６．複雑な環境の中で、医療・福祉機関が存続するための視点について

＜ポイント＞

医療・福祉の質、安全性と効率性の両立の問題を財務、人事、施設などの多面から考える。

教科書

山内一信、他『入門医療経営情報学』同友館。

参考文献

今村知明、他『医療経営学（第２版）－病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』医学書院。
榊野順三『ひと目でわかる病院業界－激変時代の医療・病院事情がわかる』ぱる出版。
榊原清則『経営学入門　上・下』日本経済新聞社。

科目コード	運動学（２単位）	登録年次	履修方法
2570		１年	R
教員名	浅井泰詞、近藤達也、菅沼太陽		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

医学・物理学・心理学・社会学など多くの学問分野をふまえて、人間の正常な運動を理解し、病的な運動を分析できるようにする。

学修内容

1	運動学とはなにか。運動学はヒトの身体の構造を理解した上で、各々の関節を動かすためのメカニズムなどを理解しなければならない。 また、歩行、動作などのさまざまな運動の根拠を理解するために、動作等の観察ならびに分析が必要となる。
2	運動学を理解する上で必要な分野のひとつに物理学がある。ここでは角速度や角加速度をはじめとする力学を理解しておくことが重要である。また関節運動における第 1～3 のてこ（支点、力点、荷重点）がどこに位置するかを理解できなければならない。
3	解剖学や生理学で履修する内容の重複になるが、身体の構造を理解した上で細胞、組織、骨、軟骨、関節、筋等の作用を理解することが必要となる。また末梢神経について各々の特徴を理解して、どのように指令を伝えることになるか理解しなければならない。
4	中枢神経は反射および反応の中枢となる。伸張反射において筋紡錘の活動が見られる。筋収縮を行う際にはこの活動の理解していなければならない。また反応には立位もしくは座位をとるにあたり転倒を防ぐために、その肢位を保持しなければならないが、健常者は倒れないように心がけたりする必要はなく平衡反応としてそれらの肢位を保持することができる。
5	呼吸器では呼吸に関与する部位の名称から呼吸（換気）を理解する。まず呼吸は呼気と吸気があり、スパイロメータで肺活量を測定すると、肺の容量だけでなく、換気量、残気量などさまざまな数値を知ることができる。呼吸器の理学療法を行う上で必要となる。
6	循環器では心臓の構造を理解することは当然であるが、血液の循環である大循環（体循環）、小循環（肺循環）を理解することが必要となる。さらに血液の細胞成分である赤血球、白血球、血小板などの特徴を理解する。 また体温調整では熱の産生、熱の喪失のメカニズムを理解する。
7	腎臓が何を行う器官なのか、またどのような構造になっているか、そしてどのような機能なのかを理解する。 酸塩基平衡によりｐＨを維持していることを理解する。 また栄養とエネルギー代謝では、運動によるエネルギーの消費が重要となる。これらを理解することで運度処方の理解度が増すことになる。
8	上肢帯は胸骨柄、鎖骨（左右）、肩甲骨で構成される。上肢帯としての運動はあまり大ききなく、隣接する肩関節（健康上腕関節）と比較するとわずかである。肩関節は人体の関節の中で自由度が最も高い。 上肢は上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、指骨があり、上腕骨と尺骨で構成される関節を肘関節という。橈骨、尺骨と手根骨で構成される関節は手関節という。 また各々の関節は靭帯により繋ぎ止めてある。
9	上肢帯、肩関節、肘関節、手関節、各指関節等の運動を行うには各骨に付着する筋肉が収縮することで行うことができる。 その動きは主に屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋、回外、回内などがある。
10	下肢帯は骨盤（寛骨、腸骨、恥骨、坐骨）で構成される。下肢帯としての運動は上肢帯同様あまり大きくなく、隣接する股関節と比較するとわずかである。 下肢は大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨があり、大腿骨と膝蓋骨と脛骨で構成される関節を膝関節という。脛骨、腓骨、足根骨で構成される関節を足関節という。
11	下肢帯、股関節、膝関節、足関節、各足趾関節等の運動を行うには各骨に付着する筋肉が収縮することで行うことができる。 その動きは主に屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋、回外、回内などがある。
12	頸部から体幹は頸椎７個、胸椎 12 個、腰椎５個、仙椎５個、尾椎 3～6 個、胸骨、肋骨で構成される。 運動は、頸椎と腰椎が前後方向、胸椎は回旋方向である。 胸椎、肋骨はほとんど運動はみられない。
13	運動学には動作を分析することが必要となる。 コップを口に運ぶ動作を分析するには ①　各々の動作を相に分ける。 ②　関節がどのように動いているか ③　各筋肉がどのような筋収縮をしているか ④　これらを詳しく記載することができるようにする 運動処方ではメディカルチェックや運動負荷試験を行い運動耐用能を確認して各々に合ったプログラムを立案する。また年齢、性別、体力、疾病の有無を事前に確認しておくことが重要である。
14	姿勢とは、身体の構えあるいは全身の形を表すのに用いられる。 ここでは立位における姿勢に関わる様々な要因の理解が必要となる。 立位を維持するためには重心が必要となる。これは幼児では頭が大きくいが重心の位置が高いためバランスがとりずらい。この時期は、歩行時に両上肢を挙上して歩行する姿を見かけることが多い。これはバランスをとるために自然に行っている。 また立位姿勢を安定させるためには、支持基底麺、足底接地面の材質にも影響を受けることになる。 歩行には遊脚相と遊脚相がある。さらに両下肢で支持をしている両脚支持期がある。しかし走行では歩行と同様に遊脚相と立脚相があるが両脚支持期は存在しない。歩行と走行における各相の運動時の関節運動ならびに筋活動を理解することが必要である。

15	運動発達では胎生期から学童期に至るまで反射、反応がどの段階でみられるようになり、消失するか理解しなければならない。 運動学習では特殊な運動を繰り返すことに身につけることになる。身体で覚えるというが脳からの伝達によるものである。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

設題1】　筋の収縮について、求心性収縮・静止性収縮・遠心性収縮をそれぞれ説明せよ。

＜ポイント＞

筋肉は縮んだり、伸びたり、長さを変えずに収縮する3種類の方法がある。それぞれを理解して、説明すること。

科目終了試験学修のポイント

1．関節の運動方向について（四肢、体幹）

＜ポイント＞

運動とは筋を収縮させて関節を動かすことである。この関節を動かす運動を表現するにあたり運動方向を理解することが必要となる。この運動方向には屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋などが代表的である。またこれらの運動をわかりやすく記載する上で面と軸がある。面には矢状面、前額面、水平面がある。軸には垂直軸、矢状－水平軸、前額－水平軸がある。各関節における運動方向を理解するとともに面と軸を理解することが必要である。

2．姿勢について

＜ポイント＞

姿勢とは、身体の構えあるいは全身の形を表すのに用いられる。ここでは立位における姿勢に関わる様々な要因の理解が必要となる。立位を維持するためには重心が必要となる。これは年齢、身長などにより異なる。バランスをとるための動作の理解がする必要がある。また立位姿勢を安定させるためには、支持基底麺、足底接地面の材質にも影響を受けることになる。

3．運動学習について

＜ポイント＞

人間が複雑な運動行動を遂行するためには、いろいろな身体運動の組み合わせを必要とする。運動を反復することで運動技能として習得できる。これらの学習における様々な要因を重複させることで条件付けが可能となり、運動学習となる。

4．運動発達について

＜ポイント＞

ヒトの発達には心理的なものと身体的なものにより成長する。ここでは身体的な発達が重要となる。生下時から発達し続けて老いていくことになる。この生下時からの発達、反射および反応を理解することが必要となる。

5．運動処方について

＜ポイント＞

運動処方とは、ある目的のために身体運動を指示するとき、その目的を遂行するのに最適な運動課題を決定することである。この運動処方はスポーツ選手に限らず、循環器疾患や呼吸器疾患を患っている方々にも処方される。この中で必要となるメディカルチェックなどを実施した上で、各々の対象者に合った運動を処方することが必要となる。

6．歩行について

＜ポイント＞

歩行とは移動手段のひとつである。ヒトは一般的に二足歩行である。進化の過程で四足から二足歩行になってきたといわれている。歩行周期は立脚相と遊脚相に分けられる。また両脚支持期もある。また歩行をする上で重要なのは下肢だけではなく、上肢をはじめ体幹の回旋や骨盤の傾斜によりバランスを保ちながらふらつくことがなく安定した歩行をすることが可能となる。これらを結びつけることで歩行についての理解が深まる。

教科書

中村隆一、他『基礎運動学』医歯薬出版。

参考文献

中島雅美、他『PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート』医歯薬出版。

科目コード	英語学 I（英語の歴史） （2 単位）	登録年次	履修方法
7520		1 年	R
教員名	井草玲子、坂井二郎、志手和行		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語学		

科目概要・到達目標

現代英語を学ぶ・教える上で、英語の辿ってきた歴史を知っていることは重要である。この科目では、現代英語が「なぜ、現在の文法体系になったのか」という問いを考えることによって、現代英語が成立した経緯を学ぶことを目標とする。すなわち、古英語、中英語、近代英語、現代英語を概観することにより、英語の発音、文法、活用、意味などが、他言語との接触などの外的理由や、あるいは英語自身の内的理由で、どのように変化して現在の英語の姿になったのかを学ぶ。以上の学修を通し英語教員として必要な英語学的知見を養う。

学修内容

1	世界語としての英語とその祖先語 (序章参照) －英語の歴史を学ぶ前に現在英語がどこまで影響を拡大してきているかを概観し、また英語の祖先語についても理解する。
2	古英語の時代背景 (pp. 17-30) －先史時代の英国から 8 世紀に始まったヴァイキングによる英国侵略までの時代について主に理解する。
3	古英語の方言と文学 (pp. 31-36) －古英語期における方言と代表的な文学について学ぶ。
4	アルファベットの起源と発達 (pp. 37-42) －英語の文字であるアルファベットの起源とそれがどのように発達を遂げて今の英語のアルファベットへと至ったのかについて主に学ぶ。
5	古英語の発音・語形・文法 (pp. 43-72) －古英語の発音（子音・母音）、活用変化が豊かであった品詞の語形、そして文法について主に学ぶ。
6	古英語の借入語 (pp. 72-76) －現在における英語の本来語と借入語の割合を押さえて、古英語の借入語の借入先とその特徴を学ぶ。
7	中英語の時代背景 (pp. 77-87) －11 世紀半ばに起きたノーマン・コンクェストに始まり、英語とフランス語の争い、中産階級の台頭について主に理解する。
8	中英語の方言と文学 (pp. 88-99) －中英語期における方言と代表的な文学（特にチョーサー）について学ぶ。
9	言語接触 (pp. 99-103) －言語接触がもたらす言語への影響について学び、英語がどのように言語接触を経験してきたかについて理解する。
10	中英語の発音・語形・文法 (pp. 103-132) －中英語の発音（子音・母音）、活用変化が単純化されるようになった品詞の語形、そして語順が確立されてきた文法について主に学ぶ。
11	中英語の借入語 (pp. 133-136) －中英語の借入語の借入先とその特徴を学ぶ。特にフランス借入語についてはノーマン・コンクェストと関連付けて理解する。
12	近代英語の時代背景と文学 (pp. 137-167) －16 世紀のエリザベス朝に始まり、ラテン語使用と英語使用に関わる問題、産業革命、英国植民地の拡大、アメリカの独立について主に理解する。文学ではシェークスピアについて主に学ぶ。
13	近代英語の発音・語形・文法 (pp. 167-189) －近代英語の発音（特に「大母音推移」）、活用接辞が消失した品詞の語形、そして複雑な文構造が用いられ始めた文法について主に学ぶ。
14	近代英語の借入語 (pp. 189-191) －近代英語の借入語の借入先とその特徴を学ぶ。
15	19 世紀から現代英語期へ (pp. 193-223) －ヴィクトリア期と二つの世界大戦を経験した英国について学び、意味の変化、語形成、そして現在進行中の変化と社会言語学について主に理解する。

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 英語の借入語の歴史について述べよ。

＜ポイント＞

古英語、中英語、近代英語、現代英語の順に、英語がどのような言語から語を借入してきたかをまとめること。ただ借入語を羅列するのではなく、時代背景や社会情勢を踏まえた上で、なぜその言語から借入するに至ったのかも説明すること。

科目終了試験学修のポイント

1．古英語における動詞の活用について

＜ポイント＞

活用に影響を与える四つの範疇について言及してから説明を展開すること。

2．ノーマン・コンクェストについて

＜ポイント＞

この出来事が生じた時代背景と、社会面と言語面における影響について説明すること。

3．英語の言語接触について

＜ポイント＞

言語接触が及ぼす言語への一般的な影響について述べてから、英語について言及すること。

4．大母音推移について

＜ポイント＞

音声記号を用いて変化のパターンを説明すること。

5．語の意味変化について

＜ポイント＞

語の具体例を交えながら、意味変化のパターンを説明すること（教科書 p.201～を参照）。

6．語形成について

＜ポイント＞

語の具体例を挙げながら、語形成における二つの方法について説明すること（教科書 p. 204～を参照）。

教科書

中尾俊夫、他『図説 英語史入門』大修館書店。

参考文献

中島文雄『英語発達史 改訂版』岩波全書セレクション。
橋本功『英語史入門』慶應義塾大学出版会。
渡部昇一『講談・英語の歴史』PHP 研究所。
竹林滋、他『新版　英語音声学入門』大修館書店（英語学Ⅱの教科書）。

科目コード	英語学Ⅱ(英語の発音と音声) (2 単位)	登録年次	履修方法
7530		1 年	R
教員名	井草玲子、志手和行		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語学		

科目概要・到達目標

英語教員になるためには、英語の発音や音声に関する知識は不可欠である。そのため、この科目では、音声器官、調音、発音記号、母音・子音の分類など、音声学の基本的な知識を身につけ英語学的知見を養うことを主目的とする。また、アクセントやイントネーションについても学ぶことによって、英語の発音に関する体系的な知識を身につける。

学修内容

1	現代英語の標準発音 (第 I 章参照) －英語のひろがりと、米国と英国における英語の標準発音について学ぶ。
2	音声器官と音の分類 (第 II 章参照) －音声が出る仕組みについて各音声器官の働きを理解する。また音声器官の働きによって生じる様々な種類の音を区分する。
3	母音の分類 (pp. 13-18) －母音を分類する上で考慮すべき 3 つの基準について学ぶ。
4	英語の母音 (強母音) (pp. 18-63) －英語の母音がどのように下位分類されるのかについて学ぶ。その後、強母音の各音について音声学上の特徴、発音方法、そして綴り字との関係について主に理解する。
5	英語の母音 (弱母音) (pp. 63-75) －弱母音の各音について音声学上の特徴、発音方法、そして綴り字との関係について主に理解する。
6	子音の分類 (pp. 77-81) －子音を分類する上で考慮すべき 3 つの基準について学ぶ。
7	英語の子音 (pp. 82-111) －閉鎖音、摩擦音、破擦音、鼻音の各子音について音声学上の特徴、発音方法、そして綴り字との関係について主に理解する。
8	英語の子音 (側面音と半母音) (pp. 112-123) －日本人英語学習者にとって区別が非常に困難であると考えられている /l/ と /r/ を中心に音声学上の特徴、発音方法とそのポイント、そして綴り字との関係について主に理解する。
9	音の連続 (第 V 章参照) －音節の定義について学び、英語に特徴的な、母音の前後に結合する子音の並び方のパターンについて理解する。また、子音のある音同士が隣接することで生じる音声変化についても学ぶ。
10	アクセント (pp. 153-170) －日本語と英語のアクセントの捉え方の違いを学び、英語に関して語アクセントと文アクセントを中心にアクセントのパターンを理解する。
11	強形と弱形 (pp. 170-173) －冠詞や人称代名詞のような機能語は文中では通常弱く発音されるが、強く発音される場合と弱く発音される場合があることを理解する。
12	リズム (pp. 174-179) －日本語と対比して、英語のリズムのパターンを主に理解する。
13	イントネーション (第 VII 章参照) －イントネーションの機能と構造について学び、下降調、上昇調のような各音調が話者の意図をどのように表現することができるかについて理解する。
14	音素 (第 VIII 章参照) －音声上の最小単位である音素を知ることで音素と異音の関係を理解する。
15	綴り字と発音 (第 IX 章参照) －日本語と違って英語は綴り字と発音の関係に規則性が無いとよく言われるが、ここでは母音と子音においていくつかの規則性のパターンを主に理解する。

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　日本人にとって /l/ と /r/ の区別は難しいと言われるが、その理由を考え、どんな点に注意したら良いか発音のコツを述べよ。

＜ポイント＞
ふたつの音の特性、調音の方法を説明した上で、なぜ発音の区別が難しいのか音声学見地から答えること（日本語の「ラ行」の子音は、英語では様々な音として聞こえることがポイント）。発音のコツについては、中学生や高校生に教えることを想定して、なるべく平易な言葉で説明すること。

科目終了試験学修のポイント

1．弱母音/ə/について
＜ポイント＞
母音と子音の違い、そして強母音と弱母音の違いについてまず述べてから説明を展開すること。

2．有声の /t/ について
＜ポイント＞
通常の /t/ という子音の性質について述べた後、具体例を挙げながら /t/ の有声化について説明すること。

3．同化（assimilation）について
＜ポイント＞
この音声変化が生じる条件について具体例を挙げながら説明を展開すること。

4．日本語のアクセントと英語のアクセントの違いについて
＜ポイント＞
具体例を挙げながら両言語のアクセントの違い（主に語アクセントと文アクセント）について述べること。

5．核音調の種類とその用法について
＜ポイント＞
音調群の内部構成における核音調の説明を行ってから具体例を挙げながら述べること。

6．音節と子音の結合について
＜ポイント＞
音節という単位について説明した後に、どのような条件下で子音の結合が生じるのかについて具体例を挙げながら説明を展開すること。

教科書

竹林滋、他『新版 英語音声学入門』大修館書店。

参考文献

『改訂新版　英語音声学入門 カセットテープ』大修館書店。
英語音声学研究会『大人の英語発音講座』NHK 出版。
中尾俊夫、他『図説 英語史入門』大修館書店（英語学 I の教科書）。

科目コード	英語学Ⅲ（英語の談話）（2 単位）	登録年次	履修方法
7540		2 年	R
教員名	井草玲子、坂井二郎、志手和行		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語学		

科目概要・到達目標

本科目の目標は、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることにある。そのため英語学の 1 つの分野である語用論（pragmatics）の中の談話分析に焦点を当てて学習する。まず、談話（ディスコース）とは、「文（または節）よりも大きな言語単位」を意味し、談話分析では話し言葉と書き言葉の双方によるやり取りを研究対象とする。この科目の学習目的は、自然な話し言葉と書き言葉の性質を深く理解するとともに、英語の教授法、教材、授業内容を正確に評価できるようになるための基礎作りをすることである。テキストは「語学教師のための談話分析」を使用し、談話分析と文法、語彙、話し言葉と書き言葉を中心に学修する。

学修内容

1	1．談話分析とは何か　（第 1 章）1.1　歴史的概観　　1.2　形式と機能―談話構造とは何か、歴史的に概観すると共に、言語形式とはどのようなものか学習する。
2	1．談話分析とは何か　（第 1 章）1.3　発話行為と談話構造　　1.4　談話分析の研究範囲　Key words：Communicative Approach,　notional-functional―コミュニケーションを重視した英語教育との関連性を見る。
3	1．談話分析とは何か（第 1 章）1.5　話し言葉の談話：分析のモデル　1.6　教室外の会話　Key words：framing move, transaction, exchange, move, initiation, response, follow-up, participants, roles, setting ―教員希望者にとって有益である。
4	1．談話分析とは何か（第 1 章）1.7　社会的行動としての会話　1.8　書きことばとしての談話　1.9 テクストと解釈　　1.10 テクストの中のより大きなパターン　1.11　結び　Key words:：cohesion, coherence, etc. –詳細は 2 章以下参照。
5	2. 談話分析と文法　（第 2 章）2.1 文法的結束とテクスト性　①指示（例、代名詞、this, that, the, such as ）②省略と代用　③連結（conjunction）―英文を読む時、書く時、特に大切である。
6	2. 談話分析と文法　（第 2 章）　2.3　主題と説述（Theme & rheme）－英語の 4 技能を向上させる際にも大切である。
7	3. 談話分析と語彙　（第 3 章）　3.2　語彙的結束　Key words　：同一語のくりかえし、テクスト性、語彙の上下関係、同義関係―語彙力の強化に役立つ。3.5　語彙とテクストの構成　－専門分野の語彙指導や語彙学習に役立つ。
8	3. 談話分析と語彙　（第 3 章）　3.6　より広範なテクスト・パターンの合図　例、問題―解決パターンや主張―反論パターンによく使用される語彙―英文執筆、議論を行う際に役立つ。高校新学習指導要領及び教材研究に役立つ。
9	4. 話しことば　（第 5 章）　5.1　発話タイプ　5.2　隣接ペア　5.4　話し手の交替（Turn-taking）　－それぞれの研究から、英語教育にどのように活用できるか、考察せよ。『応用言語学辞典』の解説も活用してみよう。
10	5. 書きことば　（第 6 章）　6.2　テクストタイプ　（例、メモ、申込み書）6.3　話しことばと書きことば　応用：読み手はだれか、読み手と書き手との関係は、テクストの目的は、日本語と英語の通信文の違い等をたずねる時、役立つ。
11	5. 書きことば　（第 6 章）　6.6　より大きなパターンと取り組む（テクスト・パターン）例、一般的―特定的パターン（general-specific pattern）―広告、学術論文もこのパターン。6.8　文化とレトリック：日本語母語話者が英文を執筆する上での問題点を把握し、問題に対する解決策を考えてみよう。
12	5. 書きことば　（第 6 章）　6.9　談話と読み手：談話分析が読解指導に及ぼす影響について考察しましょう。Key words：ボトム・アップ、トップ・ダウン、cohesion, coherence, スキーマ理論等。この課は丁寧に読み、理解し、活用すること。
13	6. 談話分析の英語教育への応用：中学校及び高等学校の英語の学習指導要領の読むこと、書くことに関連する項目を調べ、談話分析の成果がどのように活用されているか調べること。
14	6. 談話分析の英語教育への応用：中学校及び高等学校の教科書を 2 冊以上調べ、談話分析の成果がどのように教材に活用されているか調べること。
15	7. 談話分析とあなたの英語学習への応用：談話分析の成果を英語運用能力の向上ため、どのように活用しようと思う。（例：英語で論文を書く時、文と文との結びつきや、段落間の関連性に気をつけて英文を書こうと思う。）

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 第1章「談話分析とは何か」を読み、内容を要約せよ。

＜ポイント＞

学修内容の1～4に沿って、第1章を丁寧に読み、その内容を要約のこと。談話分析には、専門用語と概念の理解が大事である。したがって、本文を読みつつ、専門用語一覧表も作成のこと。

（例）p.17 .始動 (initiation)　応答 (response)　追跡 (follow-up)

レポート提出の際には、必ず専門用語一覧表のコピーをとり、自宅学習用に1部保管しておくこと。

科目終了試験学修のポイント

1．文法的結束（grammatical cohesion）について説明せよ。

＜ポイント＞

第2章を熟読し、具体例を挙げて説明すること。

2．語彙的結束（lexical cohesion）について説明せよ。

＜ポイント＞

第3章を熟読し、具体例を挙げて説明すること。

3．主題と説述（theme and rheme）について説明せよ。

＜ポイント＞

第2章を熟読し、具体例を挙げて、説明すること。

4．談話分析における話し手の交替（turn-taking）の重要性について説明せよ。

＜ポイント＞

教科書の第5章を熟読し、具体例を挙げて説明すること。その他、『応用言語学辞典』の該当する項目、そして、海外の語学学校での英語学習経験も参考になる。

5．談話分析を英語教育に活用することの有用性について述べよ。

＜ポイント＞

英語の4技能を教える時、英語の授業を行う時、あるいは、教材研究をする時のことを考えてみる。

6．文法的結束性、語彙的結束性、主題と説述の知識は、英文を読んだり、書いたりする時、どのように活用できると思うか。

あなたの考えを述べよ。

＜ポイント＞

それぞれのポイントを復習し、学んだことがどのように活用できるか、考えてみる。高等学校の英語の学習指導要領も参考になる。

教科書

マイケル・マッカーシー、安藤貞雄、他『語学教師のための談話分析』大修館書店。

参考文献

林宅男、他『談話分析のアプローチ：理論と実践』研究社。
編集主幹、小池生夫『応用言語学辞典』研究社。

科目コード	英語学演習Ⅰ（統語論）（2 単位）	登録年次	履修方法
7550		3年	SR
教員名	井草玲子、志手和行		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語学		

科目概要・到達目標

本科目の目標は、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることにある。そのため英語学の１つの分野であり文法構造の言語学的研究分野の統語論（Semantics）に焦点を当てて学習する。まず、統語論の主流といえる生成文法の入門書を読むことにより、生成文法の基本的な考え方を学ぶ。生成文法理論は、とかく専門用語が多く難しいという印象を与えるが、この授業では用語の解説は最小限に留め、英語という言語の構造をどのように捉えるべきかという基本的な精神を理解することを目標とする。言語研究の大きな潮流の一つである理論の概要を知ることによって、英語学的知見を養い英語教員としての基礎教養を高める。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	生成文法における「文法」（pp. 5-8）－我々が英語の授業で通常取り扱う英文法の「文法」とは全く異なる捉え方をしている。生成文法の枠組みの中で捉えられている「文法」についてまずは押さえる。	Introduction： この授業を履修するにあたり理解しておくべきこと (1) 生成文法とは何か (2) 文法を研究するとはどういうことか	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	生成文法理論における言語習得（pp. 8-18 / pp. 29-33）－人間の言語習得の特徴をいくつか押さえながら、それらの事象を説明できる考え方として生成文法が主張する言語生得説について学ぶ。	言語生得説： 生成文法流の言語習得論を理解する (1) 人間の言語習得の特徴 (2) 生成文法理論における言語習得	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	句構造規則（pp. 18-23）－文を生成するメカニズムを説明する上で、1950 年代から 80 年代にかけて採用されたこの規則が果たす重要な役割を学んでいく。	句構造規則： 初期の生成文法における文法観を知る・その① (1) 句構造規則 (2) θ 役割、格	印刷授業 及び 面接授業 （2 時間）
4	θ 役割と格（pp. 23-29）－構造だけでなく単語のもたらす情報は、文の構造に様々な影響を与える。特に強い影響を与えると考えられている、述語に関する語彙的情報についてこの両者を通じて理解する。		印刷授業
5	Aux、INFL と COMP（pp. 35-50）－句構造規則の考え方の背景を説明する上で特に重要な役割を果たすこれら三つの機能範疇について理解する。	句構造規則： 初期の生成文法における文法観を知る・その② (1) AUX、INFL (2) COMP	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
6	下位範疇化（pp. 50-55）－文の生成メカニズムを説明するための有力な考え方として捉えられてきた句構造規則に理論的限界があることを押さえる。また、それを克服するための考え方として下位範疇化を捉える。	句構造規則： 初期の生成文法における文法観を知る・その③ (1) 下位範疇化 (2) 句構造規則の限界	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
7	θ 規準と格フィルター（pp. 55-66）－下位範疇化と同様に句構造規則の限界を踏まえた上でこの両者の考え方を理解する。過剰な生成に制約を課すことで文法的な文のみ生成できるようになる仕組みを学んでいく。		印刷授業
8	X バー理論（pp. 67-76）－句構造規則による構造の捉え方から更に洗練化されている。範疇間、そして言語間における共通性を見出し、より普遍的で抽象的な構造の捉え方へと進化したこの理論について学ぶ。	GB 理論・ミニマリスト： 句構造規則からの脱却・その① (1) θ 基準、格フィルター (2) X バー理論	印刷授業 及び 面接授業 （2 時間）
9	Merge（併合）と numeration（pp. 76-87）－1990 年代以降において、これまでのトップダウン方式による構造の捉え方とは 180 度異なるボトムアップ方式に基づく文生成の仕組みについてこの両者を通じて学ぶ。	GB 理論・ミニマリスト： 句構造規則からの脱却・その② (1) 併合 (2) numeration	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
10	PF 表示と LF 表示（pp. 89-99）－構造を基に「音声」の解釈と「意味」の解釈がそれぞれどのように行われるのかについて学ぶ。標準理論からミニマリスト・プログラムに至るまで解釈の仕方が異なってくることにも留意すること。	音と意味の分離： PF 表示と LF 表示	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
11	空範疇と虚辞（pp. 99-107）－「音声」と「意味」の解釈をそれぞれ分離することで可能になった考え方としてこの両者について学ぶ。	音と意味の分離： ふたつの証拠 (1) 音を持たない言語表現（空範疇） (2) 意味を持たない言語表現（虚辞）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
12	移動という概念（pp. 107-115）－「音声」と「意味」の解釈の中で生じる「ずれ」の説明を可能にするのが	移動の仕組： 移動とは何か？・その①	印刷授業 及び

	「移動」の考え方であることを押さえる。wh 疑問文のような具体例を参考にして理解を深める。	(1) 移動のタイプ (2) 移動の具体例	面接授業 (1 時間)
13	生成文法の理論の変遷 (pp. 115-138) －標準理論からミニマリスト・プログラムに至るまでの各理論における「移動」の位置づけを理解する。	移動の仕組： 移動とは何か？・その② (1) 各理論における移動の位置付け (2) ボトムアップとトップダウンという 2 つの捉え方	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
14	「主語」の捉え方 (第 4 章参照) －「主語」という概念を生成文法の各理論がどのように捉えてきたのかについて学ぶ。また、その捉え方と「移動」の概念との関わりについても理解する。		印刷授業
15	生成文法研究が目指すもの (第 5 章参照) －生成文法が研究対象とするものについて改めて考え直す。また、文法性と容認可能性の違いについても理解する。	生成文法研究が目指すもの： 生成文法の研究対象 (1) 文法の位置付け (2) 文法性と容認可能性	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 題につき 7～8 枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 生成文法における「移動」の概念の理論的変遷を述べよ。

＜ポイント＞
標準理論、改訂拡大標準理論、ミニマリスト・プログラムの各理論において、移動という操作がどのように捉えられてきたのかを説明すること。顕在移動と潜在移動の区別、PF や LF との関連など、専門性の高い部分について言及する必要はないので、「移動とは何なのか」ということに焦点を当て、具体例を用いながら説明すること。

科目終了試験学修のポイント

1．生成文法における言語生得説について
＜ポイント＞
生得説で捉えないと説明がつかないような母語習得の事象を挙げながら説明を展開すること。

2．下位範疇化（範疇の選択）について
＜ポイント＞
句構造規則の説明力の限界について言及した後に述べること。

3．Merge（併合）と numeration について
＜ポイント＞
構造におけるトップダウン式とボトムズアップ式の捉え方を比較することで説明を展開すること。

4．空範疇と虚辞について
＜ポイント＞
この二つがそれぞれ「音声」と「意味」の解釈をどのように行うのかについて説明すること。

5．GB 理論における文法モデルについて
＜ポイント＞
それまでの標準理論の考え方と異なる部分に焦点を当てながら述べること。

6．二つの範疇 Aux と INFL のそれぞれの特徴と、句構造規則における働きについて
＜ポイント＞
説明の際に必要と思われる例文や樹形図を用いることで説明を展開すること。

教科書

北川善久、他『生成文法の考え方（英語学モノグラフシリーズ 2)』研究社。

参考文献

渡辺明『生成文法』東京大学出版会。
中井悟、他『生成文法を学ぶ人のために』世界思想社。

科目コード	英語学演習Ⅱ(意味論)（２単位)	登録年次	履修方法
7560		３年	ＳＲ
教員名	井草玲子、志手和行、別府結起		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語学		

科目概要・到達目標

本科目の目標は、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることにある。そのため英語学の1つの分野である意味論（Semantics）に焦点を当てて学習する。まず、意味論は言語（日常言語）の意味を研究対象とするが、本講座では、「意味の分析」「意味関係」「テクストと意味」「意味変化」などの分野を取り上げる。このような分野を通して、言葉の意味、日常語の曖昧性と類似性、いくつかの文からなる「テクスト」（「談話」ともいう）の構造、意味の変化の原因や分類などの考察を試みる。そして意味論の学習を通して、英語の音声の仕組み・英文法・英語の歴史的変遷と国際共通語としての英語の実態を知り、理解を深めていく。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	1．日常の言語生活の中の「意味論」について学修する。(第１章)　Key Words は、反意性、多義性、同音性、包摂関係、語用論である。意味論の全体像を把握することが大切である。	1．日常の言語生活の中の「意味論」について学修する。(第１章)　Key Words は、反意性、多義性、同音性、包摂関係、語用論である。意味論の全体像を把握することがねらいとなる。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
2	2．意味の本質について学修する。具体的には、①概念的意味　②感情的意味　③文法的意味について考察し、意味の分析として用いられている成分分析を行う。	2．意味の本質について学修する。具体的には、①概念的意味 ②感情的意味　③文法的意味について考察し、意味の分析として用いられている成分分析を行う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
3	3．意味関係　①意味の曖昧さ（同音性、多義性） 日常言語があいまいなのは、1つの表現に2つ以上の解釈ができるからである。そこで同音性と多義性について考察する。教科書の参考箇所：pp.4~5, p. 9	3．意味関係 ①意味の曖昧さ（同音性、多義性）：日常言語があいまいなのは、1つの表現に2つ以上の解釈ができるからである。そこで同音性と多義性について学習し、考察する。 教科書の参考箇所：pp.4~5, p. 9	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
4	3．意味関係　②意味の類似性（同義性）(第４章)：Key Words は、①意味のずれ（上下関係、非両立性） ②文体的価値のずれである。同義性とは、2つ以上の語が同じ意味を持つことを言う。現実的には、言葉には、意味のずれがある。	3．意味関係　②意味の類似性（同義性）について学習する。 (第４章)：Key Words は、①意味のずれ（上下関係、非両立性） ②文体的価値のずれである。同義性とは、2つ以上の語が同じ意味を持つことを言う。現実的には、言葉には、意味のずれがある。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
5	3．意味関係 ③反意性（第４章）のポイントは、1. 相補的な関係に基づくもの　2. 連続した尺度に基づくもの　3. 反対関係に基づくもの、である。	3．意味関係 ③反意性について学修する。 （第４章）ポイントは、 1．相補的な関係に基づくもの　2．連続した尺度に基づくもの　3．反対関係に基づくもの、である。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
6	4．意味とコンテクスト (第６章)この章では、話し手と聞き手が特定の場面で発する表現、すなわち、発話の意味を理解するため、4つの仕組みについて学修する。①指示機能　②発話行為　③背景となる知識　④会話の原則	4．意味とコンテクスト (第６章)この章では、話し手と聞き手が特定の場面で発する表現、すなわち、発話の意味を理解するため、4つの仕組みについて学修する。 ①指示機能　②発話行為 ③背景となる知識　④会話の原則	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
7	5. テクストと意味　①テクストの定義 ②テクスト構造（ミクロ構造、マクロ構造)。テクストとは、「いくつかの文からなるもの」の事を言い、文と文のつながりや段落間の関連性（cohesion & coherence）について学修する。	5. テクストと意味 ①テクストの定義 ②テクスト構造（ミクロ構造、マクロ構造)。テクストとは、「いくつかの文からなるもの」の事を言い、文と文のつながりや段落間の関連性（cohesion & coherence）について学修する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
8	5. テクストと意味　実際の英文で確認する。	5. テクストと意味　実際の英文を分析し、確認する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
9	6. 意味変化　(第７章)　①語の意味変化：意味は時と共に変化する。Key Words は、意味の特殊化、意味の一般化、意味の向上、意味の下落。	6. 意味変化　(第７章) ①語の意味変化：意味は時と共に変化する。Key Words は、意味の特殊化、意味の一般化、意味の向上、意味の下落について学修する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
10	6. 意味変化（第７章)　②意味変化の原因：語の意味はなぜ変化するのか考察する。例、社会における語の移動、語の意味と指示物とのずれ、語彙体系の変化など。	6. 意味変化（第７章) ②意味変化の原因:語の意味はなぜ変化するのか考察する。例、社会における語の移動、語の意味と指示物とのずれ、語彙体系の変化などについて学修する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)

11	6. 意味変化　(第7章) ③意味変化の仕組み：元の意味と新しい意味との関係を考察する。Key Words は意味の類似性、近接性、語形の類似性、語形の近接性など。	6. 意味変化　(第7章) ③意味変化の仕組み:元の意味と新しい意味との関係を考察する。意味の類似性、近接性、語形の類似性、語形の近接性などについて学修する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
12	7. 意味論の初等等教育への応用：これまで学んできたことが小学校での英語教育にどのように活用できるか、考察する。	7. 意味論の初等等教育への応用：これまで学んできたことが小学校での英語教育にどのように活用できるか、考察する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
13	8. 意味論の中等教育への応用：これまで学んできたことが、中学校や高等学校の英語教育にどのように活用できるか、考察する。	8. 意味論の中等教育への応用： これまで学んできたことが、中学校や高等学科での英語教育にどのように活用できるか、考察する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
14	9. 意味論の英語教育への応用：これまで学んできたことが、小学校・中学校・高校学校での英語教育にどのように活用できるか、発表する。	9. 意味論の英語教育への応用： これまで学んできたことが、小学校・中学校・高校学校での英語教育にどのように活用できるか、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
15	10. 総まとめ これまでの学修を振り返り、大事な点をよく復習し、教育現場で活用できるよう資料をまとめておく。	10. 総まとめ 15回分の授業の復習をし、科目修了試験に備える。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
			面接授業：合計15時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の50%、参加態度・課題提出　総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点）　F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 語の意味変化の原因を考察せよ。次に、元の意味と新しい意味との関係、すなわち、意味変化の仕組みについて、具体例を示しつつ、説明せよ。

＜ポイント＞

教科書の第7章を熟読し、意味変化の原因とその仕組みをよく考えること。レポートは、ただまとめるだけではなく、論理的にわかり易く記述する。

科目終了試験学修のポイント

1. 英語の意味の同義性について、特に、包摂性（意味上の上下関係）について、具体例を挙げて説明せよ。

＜ポイント＞

第4章を熟読し、包摂性を定義づけ、具体例を挙げて説明できるよう学修する。

2. 英語の意味の反意性について、３タイプに分類し、具体例を挙げて説明せよ。

＜ポイント＞

第4章を熟読し、反意性の項目を探し、タイプ別に具体例を挙げて説明できるよう学修する。

3. 語の意味変化の例として、「意味の特殊化」とはどのようなことか、具体例を挙げて、説明せよ。

＜ポイント＞

第7章を熟読し、学修する。

4. 語の意味変化の例として、「意味の向上」とはどのようなことか、具体例を挙げて、説明せよ。

＜ポイント＞

第7章を熟読し、学修する。

5. 英語学演習 II（意味論）で学んだことは、英語の語彙指導にどのように活かすことができると考えられるか。あなたの考えを、具体例を提示しつつ、述べよ。

＜ポイント＞

これは、応用問題である。意味論の学習をしながら学んだことは、どのように英語教育に活用できるか、普段から考えることが重要である。

教科書

池上嘉彦『テイクオフ英語学シリーズ３　英語の意味』大修館書店。

参考文献

松本曜『認知意味論』大修館書店。
山内信幸・北林利治 共編著　『現代英語学へのアプローチ』英宝社

科目コード	英語科指導法Ⅰ（4単位）	登録年次	履修方法
4350		2年	SR
教員名	井草玲子、川村晃市、志手和行		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		

科目概要・到達目標

英語教育の理論と実践の両側面をバランス良く学びながら、中学校及び高等学校の英語の教員免許状の取得を希望する者にとって必要不可欠な外国語（英語）の学習・指導に関する基礎知識を身につけることを目標とする。具体的には、世界の言語、第二言語習得論、外国語教授法、学習指導要領、評価とテストなどについて学ぶ。実践的な側面としては、聞く、話す、読む、書くといった4技能に焦点を当てた指導技術を学び、より良い授業を展開するために必要な事柄を考察し、学習していく。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	国際コミュニケーションの手段としての英語（第1章参照）－英語の広がりと多様性を押さえながら日本における英語教育のあるべき姿と異文化理解について考える。	イントロダクション： (1) シラバス説明 (2) 国際コミュニケーションとしての英語と異文化理解	印刷授業及び面接授業（1時間）
2	第二言語習得理論（第2章参照）－母語習得との対比で第二言語習得についての主要な理論を押さえる。	第二言語習得理論： (1) 主要な第二言語習得理論 (2) コミュニケーション能力モデル	印刷授業及び面接授業（1時間）
3	第二言語能力（第2章参照）－英語によるコミュニケーション能力の養成を考える上で参考となる理論モデルを概観し、どのような能力が学習者に求められるのかについて考える。		印刷授業
4	外国語教授法（第3章参照）－日本の英語教育に特に大きな影響を及ぼしている教授法（文法訳読法、オーラル・メソッド、オーディオリンガル・メソッド、コミュニカティブ・アプローチ）の特徴と長所・短所をしっかり押さえる。また、近年教育実践で注目を浴びている「フォーカス・オン・フォーム」も理解する。	外国語教授法： (1) 主要な教授法の相互比較と折衷的教授法 (2) 「フォーカス・オン・フォーム」	印刷授業及び面接授業（2時間）
5	学習者（第4章参照）－学習者中心の指導を実践する上で必要な学習者要因を色々と学ぶ。特に、動機付けの問題と学習者ストラテジーにおいて、教師として押さえておくべき事項を深く理解する。また、年齢が言語習得に及ぼす影響や、認知的・情緒的側面についても押さえる。	学習者要因： (1) 動機付けと学習ストラテジー (2) 年齢、認知的・情緒的側面	印刷授業及び面接授業（1時間）
6	学習指導要領（第5章参照）－小・中・高等学校の各校種における学習指導要領の変遷や特徴、そして2017年度版学習指導要領について押さえる。	学習指導要領： (1) 小・中・高等学校の学習指導要領の変遷と特徴 (2) 2017年度版学習指導要領	印刷授業及び面接授業（1時間）
7	英語の音声のしくみと発音指導（第6章参照）－母音・子音といった単音、音声変化、そしてプロソディーについて日本語のものと比較しながら押さえる。	言語要素の指導1： (1) 英語の音声のしくみ (2) 発音指導	印刷授業及び面接授業（1時間）
8	語彙指導（第6章参照）－ある単語を知っているとは、どのようなことを意味するのか考え、語彙知識を定着させたり増強させたりすることを促す活動について理解する。	言語要素の指導2： (1) 語彙指導 (2) 文法指導と文法の機能的側面	印刷授業及び面接授業（1時間）
9	文法指導（第6章参照）－文法は英語の形式と意味を結びつける役割だけでなく、機能的側面にも注意を払う必要性も押さえる。		印刷授業
10	4技能（聞く・話す・読む・書く）の養成（第7章参照）－各技能におけるプロセスを概観し、活動例を参考にしながら指導法を押さえる。また、複数の領域を統合した言語活動の指導についても併せて理解する。	4技能（聞く・話す・読む・書く）の養成： (1) 受容（聞く・読む）技能のプロセスと活動例 (2) 産出（話す・書く）技能のプロセスと活動例	印刷授業及び面接授業（2時間）
11	授業展開（第8章参照）－英語の授業をどのように計画して構成すべきかについての基本を学び、学習指導案が作成できる下地を身につける。	授業展開と教材・教具： (1) 学習指導案の構成 (2) 教材・教具の役割とICTの活用	印刷授業及び面接授業（1時間）
12	教材・教具（第9章参照）－「いつ」、「どこで」、「何を」、「どのように」教材・教具を使用することで授業をより効果的に展開することができるか考える。また、ICTを活用した指導についても押さえる。		印刷授業
13	テストと評価（第10章参照）－テストの目的と種類、そしてテストの三大要素（妥当性、信頼性、実用性）を押さえ、英語科の授業で求められる評価方法とその実践について具体的な評価例を参考にしながら理解する。	テストと評価： (1) テストの目的と種類、テストの三大要素 (2) 英語科授業で求められる評価方法	印刷授業及び面接授業（2時間）

14	英語教員としての資質（第 11 章参照）－英語力と授業力という二つの側面から英語教員として求められる資質について考え、自分の将来目指すべき教員像を明確にしていく。	英語教員としての資質： (1) 英語教員として求められる資質とは (2) 目指すべき教員像	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
15	小学校英語（第 12 章参照）－小学校英語教育の変遷と、新学習指導要領における目標とその達成のための指導を押さえる。併せて、児童の発達段階に応じた教材・教具の使用について理解する。	小学校英語： (1) 小学校英語教育の変遷と「外国語活動・外国語科」 (2) 児童の発達段階に応じた教材・教具の使用	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　現在、日本の英語教育において採用されている代表的な教授法をまとめ、それらの長所、短所を述べよ。

＜ポイント＞

教科書の第３章を参考にして、端的かつ的確にまとめること。また、各教授法について自分なりの考察を必ず加えること。なお、代表的な教授法は４つか５つに厳選して書くようにする。

【設題２】　あなたが住んでいる地域での小学校の「外国語活動」における具体的な取り組みを調べて参考にしながら、コミュニケーション能力の素地をどのように養うべきか、あなたの考えを述べよ。

＜ポイント＞

インターネットや書籍等を参考にしながら、現場での具体的な取り組みを調査し、その内容をまずまとめること。そしてそれを基にコミュニケーション能力の素地をどのように養っていくべきか自分なりの考察を述べること。

科目終了試験学修のポイント

１．世界の中の英語について

＜ポイント＞

英語を国際コミュニケーションのための言語として捉える必要性について述べながら、日本の英語教育の目指すべき方向性に触れること。

２．発音指導の際に押さえるべき基本点について

＜ポイント＞

英語の音声のしくみと発音の指導方法について日本語の音声と比較しながら説明を展開すること。

３．４技能（聞く・話す・読む・書く）のうち１つの技能の活動とその指導法について

＜ポイント＞

４つのうち１つを選び、その技能の特徴とプロセス、指導における留意点について活動例を交えながら述べること。

４．新学習指導要領（小学校の外国語活動・外国語科、中学校及び高等学校の英語科）について

＜ポイント＞

旧学習指導要領と対比させながら、各校種における指導要領の特徴を端的にまとめること。また、校種間における連携についても言及すること。

５．よいテストの備えるべき３つの条件およびテストの目的と種類、絶対評価と相対評価について

＜ポイント＞

TOEIC や英検のような言語テストの具体例を挙げながら３つの条件について説明すること。また、テスト結果の解釈については、英語科の授業において求められる評価方法の方を具体例と共にまとめること。

６．英語教師として備えておくべき資質と、すぐれた英語教師に必要な要素について

＜ポイント＞

主に英語力と授業力の二つの側面から説明を展開すること。

教科書

岡秀夫編著『新・グローバル時代の英語教育―新学習指導要領に対応した英語科教育法』成美堂。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領解説：外国語活動・外国語編』開隆堂。
文部科学省『中学校学習指導要領解説：外国語編』開隆堂。
文部科学省『高等学校学習指導要領解説：外国語編』開隆堂。
望月昭彦編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店。
土屋澄男・他著『最新英語語科教育法入門』研究社。

科目コード	英語科指導法Ⅱ（4単位）	登録年次	履修方法
4360		3年	SR
教員名	井草玲子、川村晃市、志手和行		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		

科目概要・到達目標

英語教科教育法Ⅰで学んだことを踏まえた上で、教育実習に必要な実践的知識を身につけることを目標とする。英語を教える際に必要とする具体的な情報を網羅的に整理しながら、自分の力で教案を書けるように訓練をする。また、授業を行う際に盛り込みたい工夫点や教育機器等の活用の仕方を学ぶことにより、教育実習でより良い授業を行うための知識、技術を身につける。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	英語科教育実習の目的（第1、2、3章参照）－教育実習に臨む上で、その目的を全般的に捉えるだけでなく英語科の実習に特化した目的もしっかり押さえる。	イントロダクション： (1) シラバス説明 (2) 英語科授業の映像鑑賞	印刷授業及び面接授業（1時間）
2	生徒・授業観察の必要性（第4、5章参照）－観察の意義とその方法を学ぶ。観察を通じて何を学ぶのかが明確になるようポイントを押さえる。	授業観察・授業準備： (1) 授業観察の意義とポイント (2) 観察記録の取り方	印刷授業及び面接授業（1時間）
3	教材研究（第6章参照）－「教科書を」でなく「教科書で」教えるとはどういうことか、改めて考えてみる。教科用図書を中心とした教材研究における留意点を押さえる。	教材研究： (1) 教材研究の方法と留意点 (2) 教材研究（教科書の内容・構成の確認）	印刷授業及び面接授業（1時間）
4	教材研究（第6章参照）－扱う単元と本時における教材研究の方法を詳細に学ぶ。また、本時の言語材料（文法、語彙、表現）についての指導について理解する。	単元全体と本時の教材研究： (1) 単元全体から本時への教材研究の捉え方（観点別評価を含む） (2) 文法事項の指導における3つのヒント	印刷授業及び面接授業（1時間）
5	指導案の作成（第7章参照）－学習指導案作成に向けて構想を練る。特に、授業編集における「タテ」と「ヨコ」の構想を基に授業の組み立てができるようにする。	指導案作成の構想： (1) 学習指導案作成の基本的な考え方 (2) 授業編集における「タテ」と「ヨコ」の構想	印刷授業及び面接授業（2時間）
6	指導案の作成（第7章参照）－1時間の授業の主な構成要素についてねらいと留意点を各々押さえながら、指導案作成の基本を学ぶ。そして、作成のための具体的な方法、特にシナリオ形式の作成の重要性を理解する。	指導案の作成： (1) 授業の主な構成要素のねらいと留意点 (2) 学習指導案作成の具体的な方法	印刷授業及び面接授業（1時間）
7	学習指導案例（第8章参照）－小学校・中学校・高等学校の指導案例をよく読んで、自身の指導案作成に活用できるようにする。		印刷授業
8	授業内活動の工夫（第9章参照）－授業の計画や実践の際に心がけておくべき点を押さえる。各活動内容を把握し、工夫点について理解を深め、授業づくりに役立てられるようにする。	各授業内活動の工夫： (1) Warm-up 他授業内活動の工夫点 (2) 教科書本文理解（音読含む）	印刷授業及び面接授業（1時間）
9	4技能統合の工夫（第9章参照）－5領域の養成という観点から4技能統合について押さえる。また、ペア／グループ活動の進め方を理解することで、生徒の英語使用を促せるようにする。	4技能統合における工夫： (1) 4技能統合の視点 (2) ペア／グループ活動の促し方	印刷授業及び面接授業（1時間）
10	教育機器の活用（第10章参照）－教育効果を高める上で、各機器におけるねらいと使用上の留意点を押さえ、活用例を参考にしながら有用性を考える。	教具・教材・ICTの活用と教室管理： (1) 視聴覚機器の活用方法と留意点 (2) ICTの活用方法と留意点	印刷授業及び面接授業（1時間）
11	Team teaching（第11章参照）－ALTとのTeam Teachingの利点、そして指導前の事前準備の重要性を押さえた上で、様々な活用例を参考にする。	Team Teaching と教室英語： (1) Team Teaching の留意点 (2) 教室英語の活用	印刷授業及び面接授業（1時間）
12	教室管理（第12章参照）－教室内の環境を整え、生徒の授業への取り組みに対する指導も重要である。授業中の特定の場面指導の実践例についても学んでいく。		印刷授業
13	教室英語（第13章参照）－コミュニカティブな授業を展開する上での教室英語の役割と、使用の際の留意点を押さえる。また、授業場面に応じた活用例は意識せずとも口から出てくるぐらいにしっかり練習して実際の授業で使えるように努める。		印刷授業
14	ユニバーサル・デザイン教育（第14章参照）－全ての子どもたちが教育活動に参加できる環境の整備や支援の提供を目指す。そしてその考え方を基に英語指導を実践できるようにする。	ユニバーサル・デザインを考慮した指導： (1) 学習に関わる障がいについての知識や捉え方 (2) 英語授業への実践	印刷授業及び面接授業（1時間）

15	授業の評価と実習のまとめ（15 章参照）－授業を実践した後の振り返りはともて重要である。次の授業へとつなげていくためにはどのように自分の授業を評価すべきかについて押さえるべきポイントを学ぶ。実習全体の振り返りも同様である。	模擬授業： (1) 受講生各人による模擬授業実践 (2) 模擬授業の観察及び評価	印刷授業 及び 面接授業 （3 時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　任意の教科書・教材を選び、50 分授業の指導案を作成せよ（指導案はすべて英語で書く必要はない。中学・高校どちらの授業でもよい）。

＜ポイント＞

教科書 pp.104 – 106 「(3) 指導案の構成」にある項目を全て含めて書くこと。また、pp.110 – 117 「中学校英語 学習指導案例」で示されている詳細版をフォーマットとし、教育実習で実際に書くつもりでしっかりとしたものを作成すること。別途パソコンで作成し、レポート用紙に貼り付けて提出してもよい。なお、ハンドアウトのような添付資料は枚数に含めない。

【設題２】　作成した指導案について詳しく解説せよ。

＜ポイント＞

（本時の）学習到達目標、取り入れた教授法、実際に授業を行う場合の留意点、自分なりに工夫した点、予想される問題点とその対処法などを、具体的に説明すること。

科目終了試験学修のポイント

１．生徒の言語使用を促す工夫について

＜ポイント＞

Warm-up、指示や指名の仕方、ペア／グループワーク活動のさせ方など様々な側面から述べること。

２．文法事項の導入の仕方について

＜ポイント＞

「使用場面を考える」「前後の文脈を考える」「既習の文法事項と対比する」の 3 点（教科書 pp.78 – 82）について文法事項の１つを例に挙げながらそれぞれ説明する。例示は教科書記載のものとは異なる文法事項を挙げること。

３．本文の読解指導の際の、授業の工夫の仕方について

＜ポイント＞

Pre-reading－In-reading－Post-reading の流れ（教科書 pp.98 – 100）をしっかり押さえながら述べること。

４．4 技能統合の仕方について

＜ポイント＞

4 技能の統合とはどのようなパターンがあるか、そして活動例を挙げながら統合の工夫について述べること。

５．教育機器等の活用について

＜ポイント＞

授業を展開する上で有用な教育機器をいくつか挙げ、使用する上での利点と留意点を主に述べること。

６．Team Teaching について

＜ポイント＞

授業準備と実践、そして授業後のそれぞれの流れの中で、ALT との Team Teaching の利点と留意点を主に述べること。

教科書

加藤茂夫、他『英語科教育実習ハンドブック　第 4 版』大修館書店。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領外国語活動・外国語編』開隆堂。
文部科学省『中学校学習指導要領外国語編』開隆堂。
文部科学省『高等学校学習指導要領外国語編』開隆堂。
卯城祐司『英語で教える英文法－場面で導入、活動で理解』研究社。

科目コード	英語基礎演習Ⅰ（文法・読解）（２単位）	登録年	履修方法
7430		１年	ＳＲ
教員名	井草玲子、川村晃市、坂井二郎、志手和行、山口敬雄		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

英語の読解力を向上させるには、英文法の基礎知識が不可欠であるので、この授業では単語を分類する「品詞」から文の「連結や論理性」までの英文法の基礎的な事項を再度初歩から学習し直すとともに、既習事項を再確認しながら様々な切り口の練習問題をこなして、英語の文法の運用力を確実に養成する。練習問題の最後には、各レッスンの英文法の基本的な事項の運用力が身についたかどうかの判定基準となるよう TOEIC テストを用意している。

学修内容

1	品詞について学ぶ。 名刺・動詞・形容詞・副詞の区別を意識して、各演習問題を解くこと。
2	名詞について学ぶ。 可算/不可算・複数形・冠詞を意識して、各演習問題を解くこと。
3	代名詞について学ぶ。 人称代名詞・指示代名詞・不定代名詞に着目して、各演習問題を解くこと。
4	文型について学ぶ。 文の要素・5 文型・疑問/否定文・命令文・感嘆文に着目して、各演習問題を解くこと。
5	現在・過去・未来の時制について学ぶ。 現在形と進行形・過去と過去進行形・未来の表現に着目し、各演習問題を解くこと。
6	時を幅として考える相について学ぶ。 現在完了・過去完了・未来完了に着目し、各演習問題を解くこと。
7	動詞を中心とした表現を学ぶ。 受動態・使役動詞・感覚動詞に着目し、各演習問題を解くこと。
8	文の蓋然性・主観を表す助動詞について学ぶ。 助動詞の使い方・意味・助動詞＋完了形に着目し、各演習問題を解くこと。
9	動詞を変形させ, 動詞以外の文法機能を果たす表現について学ぶ。 動詞の基本語順と動名詞・分詞・不定詞に着目し、各演習問題を解くこと。
10	比較表現について学ぶ。 形容詞の変形（比較級・最上級）や活用の仕方と慣用表現に着目して、各演習問題を解くこと。
11	文をつなげる役割を持つ接続詞と仮定法について学ぶ。 等位接続詞・従位接続詞・仮定法に着目して、各演習問題を解くこと。
12	情報を付け足す役割を持つ関係詞について学ぶ。 関係代名詞・関係副詞・複合関係詞に着目して、各演習問題を解くこと。
13	文の理論性の観点から, 正しい英文を作ることを学ぶ。 並列・冗長・呼応に着目して、各演習問題を解くこと。
14	各章の最終問題（Part 4）は各々の項目のまとめで, 回答は選択形式である。 選択肢を選ぶ際に、なぜ選択したもの以外を選ばなかったのかを説明できるように問題を解くこと。
15	各章の会話文に注目する。それぞれの会話文が、いつ・どこで、誰と誰（例えば、上司と部下、友人同士等）が会話しているのかを想像してみる。単に日本語から英語の逐語訳ではなく、設定に合致した自然な会話文で、かつ誰が読んでも誤解のない日本語訳となるようにすること。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	枚数指定なし	横書	本学指定レポート用紙（罫線）

【設題1】

「プラクティカル基礎英文法」の Lesson 1 から Lesson 12 までの Part 4の問題を解答せよ(解答のみでよい)。

＜ポイント＞

文法事項の説明をよく読み、用法を十分理解した上で、問題の解答を試みること。

科目終了試験学修のポイント

1．Lesson 1、Lesson 2、Lesson 3、Lesson 4 の Introductory Conversation の英文を日本語に訳せ。

＜ポイント＞

各章の学習文法事項をよく確認した上で、なるべく自然な日本語で、かつ文法事項を適切に理解していると読み手が納得できるように作成すること。

2．Lesson 5、Lesson 6、Lesson 7、Lesson 8 の Introductory Conversation の英文を日本語に訳せ。

＜ポイント＞

各章の学習文法事項をよく確認した上で、なるべく自然な日本語で、かつ文法事項を適切に理解していると読み手が納得できるように作成すること。

3．Lesson 9、Lesson 10、Lesson 11、Lesson 12 の Introductory Conversation の英文を日本語に訳せ。

＜ポイント＞

各章の学習文法事項をよく確認した上で、なるべく自然な日本語で、かつ文法事項を適切に理解していると読み手が納得できるように作成すること。

教科書

John Di Stefano、他『プラクティカル基礎英文法』松柏社。

参考文献

なし

科目コード	英語基礎演習Ⅱ（文法･読解）（2 単位）	登録年次	履修方法
7440		2年	SR
教員名	川村晃市、坂井二郎、高橋みどり、別府結起		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語学		

科目概要・到達目標

本科目の目標は、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることにある。そのため英文法の基本的な事項を図式的にまた日本語の文法と比較しながら学習することで理解を深めていくことにまず焦点を置く。また、英文法の基本的な事項を学習して、英文を読む基礎を身につけるため、リーディング用の教材が用意されている。この講読作業の中で、英語学とりわけ英語の英文法のほかに音声の仕組み・英語の歴史的変遷と国際共通語としての英語の実態を学習し英語教員として必要な基礎的かつ総合的な英語学的知見を修得する。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	文法知識の「意識」と「無意識」について考える。母語話者は無意識に母語の文法知識を駆使しているが、外国語学習は意識的に学修するものである。日英語を比較することで今まで無意識に使用していた日本語文法にも目を向けてみる。また、本講座での扱う英語が実態として国際共通語として位置づけられていることを理解する。	Introduction シラバス解説 自己紹介等	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	本テキストは英語と日本語を対照的に捉え学習に生かすことを目的としている。各章の Warm Up 欄に着目し、実際に作業を進めるとよい。同時に、当該欄は各章のポイントで、かつ、必要最低限の知っておくべき日英語における対照項目である。必要であれば自主的に調べてみる。	日本語と英語の比較・対照	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	第１章「これって英語？」では、外来語は全て英語起源なのかについて学修する。和製英語・省略語・英語以外の言葉、誤解の元について学習し、各練習問題を解いてみる。以上の学修を通し英語の歴史的変遷と語彙の多様性の関係についても理解を深める。	第１章「これって英語？」	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
4	第２章「品詞ってなに？」では、品詞について学ぶ。品詞とその機能・句・品詞の兼用・文の成分について学習し、各練習問題を解いてみる。	第２章「品詞って何？」	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
5	第３章「ものごとには順序が」では、語順について学ぶ。自動詞／他動詞・他動詞における後続要素と語順について学習し、各練習問題を解いてみる。	第３章「物事には順序が」	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
6	第４章「てんとまる」では、句読点について学ぶ。ピリオド・コンマ・疑問符だけでなく、それ以外の句読点及び序数について学習し、各練習問題を解いてみる。	第４章「てんとまる」	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
7	第５章「どんな音？」では、音を構成している要素（音素）・イントネーション・リズム・ 語強勢について学習し、各練習問題を解いてみる。	第５章「どんな音？」 英語の音声の仕組みについて	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
8	第６章「ものには名前」では、名詞について、地名・名詞の数・人称代名詞について学ぶ。解説を熟読し、各練習問題を解いてみる。	第６章「ものには名前」	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
9	第７章「数えてみれば」では、数字表記と単位について学ぶ。基数・序数・数量詞・単位について学習し、各練習問題を解いてみる	第７章「数えてみれば」	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
10	第８章「ムードはありますか」では、文のムード（法）について学ぶ。直接法・命令文・感嘆文について学習し、各練習問題を解いてみる。	第８章「ムードはありますか?」 英語の文法の法について	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）

11	第９章「時よ止まれ」では、時制と相について学ぶ。時制・相・進行形・完了形について学習し、各練習問題を解いてみる。	第９章「時よ止まれ」 英語の文法：時制と相について	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
12	第１０章「白黒はっきりさせましょう」では、形容詞と副詞について学ぶ。形容詞・副詞の意味と使用、品詞転換（派生）、文副詞について学習し、各練習問題を解いてみる。	第10章「白黒はっきりさせましょう」	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
13	第１１章「比べてみれば」では、比較表現について学ぶ。原級・比較級・最上級について学習し、各練習問題を解いてみる。	第11章「比べてみれば」	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
14	第１２章「英単語にも偏や旁がある？」では、接頭辞と接尾辞について学ぶ。語の成り立ち・接頭辞・接尾辞・外来語について学習し、各練習問題を解いてみる。	第１２章「英単語にも偏や旁がある？」	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
15	文法だけでなく、歴史や地理、自然科学などの基礎知識を各章の読解文と読解問題とともに学ぶ。特に英語の歴史的変遷及び国際共通語としての実態について概観する。	歴史や地理、自然科学の英語：英語の歴史的変遷及び国際共通語としての実態について	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
			面接授業：合計15時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の50%、参加態度・課題提出　総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点）　F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき８枚以内	横書	本学指定レポート用紙（罫線）

【設題１】　「英日文法比較からはじめる大学基礎英語」の第1章から第11章までの各章の問題のうち１と２の問題に解答せよ。

Reading Section は含まない。１と２の問題の部分をコピーしたものを指定レポート用紙に添付の上、解答して提出すること。

＜ポイント＞

各章の Warming Up と問題の始めに書かれている説明をよく読んで理解してから、辞書をよく引いて問題と取り組むこと。

科目終了試験学修のポイント

1．第1章及び第2章の Reading Section の英文の要約と練習問題
2．第3章及び第4章の Reading Section の英文の要約と練習問題
3．第5章及び第6章の Reading Section の英文の要約と練習問題
4．第7章及び第8章の Reading Section の英文の要約と練習問題
5．第9章及び第10章の Reading Section の英文の要約と練習問題
6．第11章及び第12章の Reading Section の英文の要約と練習問題

＜ポイント＞※１～６共通

要約する際は、ポイントを押さえて本文訳にならないように気を付けること。英文の要約は日本語で約60字程度とする。

教科書

角岡賢一『英日文法比較からはじめる大学基礎英語』松柏社。

参考文献

長谷川瑞穂編著『はじめての英語学　改訂版』研究社。

科目コード	英語基礎演習Ⅲ（文法･作文）（2 単位）	登録年次	履修方法
7450		2年	SR
教員名	井草玲子、志手和行、澁井とし子		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語学		

科目概要・到達目標

本科目の目標は、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることにある。特に本講座では英語基礎演習 II(文法・読解)で学んだことを踏まえ、英語の文法に焦点を置き、英文法事項を整理・確認し、英作文の指導ができる英語学的知見を養う。この目的のため、英文法の基礎的な事項を復習し確認しながら英文を書く基礎を身につける。また、各課の重要事項を踏まえたうえで自ら相手に伝えたいことを英語で「書く」訓練も合わせて積んでいく。以上の訓練を通し英語学的知見である文法理解を深めていく。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	第１章は、文の構造に着目し、「文法の発展的な整理」をしっかり学習し、各練習問題を解くこと。推敲する際には、特に、主語と述語動詞の時制に注目し、丁寧に英文をチェックすること。その後、添削された英文は、音読し、難しい単語は、何度も書いて覚え、英文は正確に暗記すること。	Introduction： 授業概要 学生自己紹介、英語力ライティング力の把握 テキスト 第１章：主語・目的語・補語	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	第２章では、「5 文型」の各文型には、どのような動詞が使用されているか注意しながら、各練習問題を解くこと。推敲する際には、特に、主語と述語動詞の時制に注意し、丁寧に英文をチェックすること。	テキスト 第２章：動詞と文型	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	第３章は、現在、過去、未来という 3 つの時制の表し方に注目し、「文法の発展的な整理」をしっかり学習し、各練習問題を解くこと。推敲する際には、特に、主語と述語動詞の時制に注目し、丁寧に英文をチェックすること。	テキスト 第３章：時制	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
4	第４章は、進行形として 6 つの進行形に注目し、各練習問題を解くこと。推敲する際には、特に、主語と述語動詞の時制に注目し、丁寧に英文をチェックすること。	テキスト 第４章：相	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
5	第５章は、不定詞の用法、意味上の主語、不定詞の表す時に着目し、「文法の発展的な整理」をしっかり学習し、各練習問題を解くこと。推敲する際には、特に、主語と述語動詞の時制に注目し、丁寧に英文をチェックすること。	テキスト 第５章：不定詞	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
6	第６章は、動名詞の意味上の主語、動名詞があらわす「時」、慣用表現に注意を払い、「文法の発展的な整理」をしっかり学習し、各練習問題を解くこと。推敲する際には、特に、主語と述語動詞の時制に注目し、丁寧に英文をチェックすること。	テキスト 第６章：動名詞	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
7	第７章は、形容詞と副詞の働きをになう分詞に焦点をあて、限定用法と叙述用法の違いに注意しつつ、学習を進めること。推敲する際には、特に、分詞の形に注意し、丁寧に英文をチェックすること。	テキスト 第７章：分詞	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
8	第８章は、助動詞について学修する。学術論文を執筆する際にも、的確な助動詞を用いることは、大切である。「文法の発展的整理」を丁寧に読み、内容を理解し、練習問題を解くこと。	テキスト 第８章：助動詞	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
9	第９章は、能動文と受動文について学修する。あえて受動文にする時は、どのような場合か、よく学習し、受動態の形に注意し、練習問題を解くこと。推敲する際には、特に、動詞の時制に注意し、丁寧に英文をチェックすること。	テキスト 第９章：能動文と受動文	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
10	第１０章は、仮定法である。仮定法過去、仮定法過去完了を中心に、それぞれの形、意味の違いに注目し、丁寧に英文を書くこと。また、if の省略、if 節を用いない条件の表現も大切であるから、しっかり学修すること。	テキスト 第 10 章：仮定法	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
11	第１１章は、修飾関係について学修する。限定用法、叙述用法の違いを学習し、形容詞的修飾語の位置と働き、副詞的修飾語句の位置と働きと意味に注意を払い、学びを深めること。推敲する際には、語順に注意すること。	テキスト 第 11 章：修飾	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
12	第１２章は、比較について学修する。原級、比較級、最上級を使った構文の形と意味に注意し、正確に英文を書くこと。推敲する際には、特に、形容詞、副詞の形に注意し、正しく綴ること。	テキスト 第 12 章：比較	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）

13	第 13 章は、文をつなげる表現として接続詞、関係詞、分詞構文について、さらに、句読点の正しい使い方について、学修する。さらに良い英文を書くためには、大切な分野である。よく文法を復習し、正確な英文を書くこと。	テキスト 第 13 章：接続	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
14	第１５章では、英語特有表現として、名詞構文、無生物主語構文、there 構文、it 構文について学修する。本文中のそれぞれの英文を訳してみて、うまく訳せないものは、復習が必要である。参考書で学習を深め、練習問題にあたること。	テキスト 第 15 章：名詞構文・無生物主語構文 ・there 構文：it 構文	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
15	英作文は、忍耐のいる学習であるが、正しい英文を覚えると、会話の時、英語の授業をする時、学術論文を書く時、大変役に立つ。 一歩一歩着実に、丁寧に学び、時折、復習し、学びを確かなものとすること。		印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	枚数指定なし	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　テキストの第１章から１０章までと１２章、１３章、１５章の Exercise １と Exercise 4 に解答せよ。

＜ポイント＞
まず、各章の文法の重要ポイントと文法の発展的整理の箇所をじっくり読んで理解し、その後、練習問題に着手すること。英文を書く際には、まず、日本語の中から、英語の主語と動詞になりえる言葉を捜し、文を組み立てること。
注意：レポートは、ボールペン等を使用し、手書きのものを提出のこと。鉛筆書き不可。

科目終了試験学修のポイント

１．第 1 章から第 2 章までの Exercise 2 の日本語を英語で表現せよ。
＜ポイント＞
重要単語、熟語をまずチェックし、語順と綴りに気を付けて英文を書き、良く推敲して、英文を暗記すること。

２．第 3 章から第 4 章までの Exercise 2 の日本語を英語で表現せよ。
＜ポイント＞
重要単語、熟語をまずチェックし、時制と語順と綴りに気を付けて英文を書き、良く推敲して、英文を暗記すること。

３．第 5 章から第 6 章までの Exercise 2 の日本語を英語で表現せよ。
＜ポイント＞
重要単語、熟語をまずチェックし、不定詞あるいは動名詞の位置と意味に気を付けて英文を書くこと。語順と綴りに気を付けて英文を推敲し、その後、英文を暗記する。

４．第 7 章から第 8 章までの Exercise 2 の日本語を英語で表現せよ。
＜ポイント＞
第 7 章では、分詞の文中での位置と意味に注意して英文を書くこと。第 8 章では、助動詞の意味に注意し、適切な助動詞を用いて、英文を書くこと。その後、語順と綴りに気を付けて英文を推敲し、英文を暗記する。

５．第９章から第１０章までの Exercise 2 の日本語を英語で表現せよ。
＜ポイント＞
第 9 章では日本語の意味に注意を払い、適切な受動態になおし、第 10 章では日本語の意味に注意を払い、適切な仮定法の形にし、英文を書くこと。推敲の際には、動詞、助動詞の形に注意する。

６．第１１章から第１２章までの Exercise 2 の日本語を英語で表現せよ。
＜ポイント＞
第 11 章では修飾語（句）の意味と位置に注意を払い、第 12 章では比較の構文と意味に注意して英文を書き、推敲の際には、綴りと語順と時制に気を付けること。

教科書

山内信幸、他『文法から攻める英作文のための１５章』英宝社。

参考文献

綿貫陽、マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』旺文社。

科目コード	英語講読Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
7460/7461		1年	SR/R
教員名	井草玲子、川村晃市、坂望美、山口敬雄		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語文学		

科目概要・到達目標

この授業では、文法の基礎力を応用して、英文の読解力の向上をめざす。英文の読解力を養うためには、英語の名手によって推敲を重ねて書かれたすぐれた文体の英文を読んで、その意味内容を理解する方法を取ることが有益であるので、20世紀アメリカの代表的な南部女性作家、キャサリン・アン・ポーターとカーソン・マッカラーズの平易な短編をテキストとして取り上げる。
ポーターの作品の特徴は、人間の心の中に潜む善と悪との葛藤を巧みに描きだす点にある。それに対して、マッカラーズの作品の特徴は、人間の愛、孤独、そして不安をユーモラスにあるいはグロテスクに描く点にあるといえよう。

学修内容

1	英文を何度も繰り返し読んで、意味内容を深く正確に把握すること。 英文の内容を正確に把握するには、1回や2回読んだだけでは、表面的にしか理解できず、誤解も多いので、筋道を立てて綿密に意味を考えながら、何度も繰り返し英文を読んで、内容の理解を深めていく習慣を身につけることが不可欠である英文を何度も繰り返し読んで、意味内容を深く正確に把握すること。 英米文学史の中から、特に20世紀の作家及びその作品について調べること。
2	テキスト講読："Theft" 要約する際にも、細部にわたって確認し、正確を期すこと。 英文の内容をほぼ正確に読み取ったならば、要約する作業に取りかかるが、細部にわたって正確に理解していないことに気づくことがよくある。そのため、要約する際には、不正確なまま書き進めないで、細かな点を確認し、正確を期しながら進めることが大切である。 キャサリン・アン・ポーターと米国の歴史と女性作家及びその作品について調べること。
3	英文の意味内容を読み取るためには、辞書をこまめに引き、語義のみならず用法や用例にも注意を払うこと。 英文の内容を把握するには、辞書とテキストの注しか頼るものがないので、注を参照し、辞書をこまめに引くことが不可欠である。辞書を引く際には、意味がわからないか不正確な言葉の語義を調べるだけで終わってしまうことが多いが、意味の他に例文や用法をも丹念に調べておくと、本文の理解を深める助けになることがある。
4	英文法を応用して英文の構文を理解すること。 辞書を引きながら、各英文が文法上どのような構造になっているのかをしっかり確認してから、文法に則って英文を何度も読んで日本語に訳し、内容の理解を深めるようにすること。文法上の構造を解明するには、中学校程度の文法を運用する能力が要求される。
5	英文の意味内容を把握する手助けとなるので、テキストの注をよく読むこと。 英文を読むことに習熟していなければ、長い英文を読むことはきわめて困難なので、注のついたテキストを用いて、英文を読む負担を軽減し、内容把握の手助けをするのがふつうである。しかし、読解力の低い人ほど注をよく見ない傾向があるので、注を最大限に利用して内容把握を深めることが大切である。
6	文章の表面にあらわれない作者の真意をくみとる（行間を読む）こと。 現代の小説は必要最小限の事実を描写するだけで、読者のために細かな情報を提供することがないので、読者は作者の意を汲んで書かれていない部分を自分なりに補って解釈する必要に迫られる。要約する際にも、書かれていない部分を補いながらまとめることが必要である。
7	要約は各々のエピソードを自分の言葉で要領よくまとめること。その際、各エピソードの関連性に注意を払うこと。 要約するためには、何よりもまず、かなり正確に深く内容を理解していることが要求される。要約の基本は、各エピソードを自分の言葉でまとめることであるが、その場合注意しなければならない点は、箇条書きにならないように、各エピソードの関連性を十分考慮に入れることが大切である。
8	本文中の会話体はできるだけそのまま使用せず、自分の言葉でまとめること。 要約する場合には、英文の単なる日本語訳にならないように注意しなければならない。また、エピソード中の会話体は、その日本語訳をそのまま使用せず、会話全体を自分の言葉でまとめるよう心がけることが大切である。
9	テキスト講読： "Madame Zilensky and the King of Finland" 要約する際の文章は、稚拙で冗長な口語体を避け、論理的で簡潔な文章体で書くよう心がけること。 要約では、日常会話で使用する言葉づかいをほとんどそのまま用いた文章が多くみられる。このような口語体では、幼稚な印象を与えがちなので、文章体で書くよう心がけることが大切である。また、だらだらしたしまりのない文章も多いので、ポイントを明確にした論理的で簡潔な文章を書くよう心がけることも大切である。 カーソン・マッカラーズと米国南部の歴史と南部作家及びその作品について調べること。
10	文章を書く際には、日本語の書式（特に段落分け）に注意すること。 パソコンが普及したためか、日本語の文章を書く際の書式（特に段落分け）を意識していない例が多い。段落分けが全くない例、段落分けとは冒頭の1文の最初の1語だけをあけることと誤解している例、せっかく段落分けをしているにもかかわらず、各段落の第1行の1語をあけていない例、1つの段落があまりに長い例、1行あけることを段落分けと思い込んでいる例などが目につくので、注意を要する。

11	“Theft”は主人公が単に貴重なハンドバッグを盗まれる話でないことを読み取ること。 この物語は、プレゼントとして贈られた主人公の貴重なハンドバッグが盗まれたことを単に描いているのではない。ハンドバッグの盗難は、一つの象徴として使用されているにすぎないことに注目すべきである。主人公にとって、有形のものを盗むことなどは、心配する必要のないことなのである。
12	主人公は大切なハンドバッグの盗難を契機に、どのようなことを感じ取ったのか読み取ること。 主人公は貴重なハンドバッグが盗まれたことよりも、自分自身が友情や愛情などの精神的なものを少しずつ盗みとっていることの方が恐ろしいことであり、重大なことであると認識する。
13	ジレンスキー夫人は、どのような人物として描かれているか読み取ること。 夫人は授業で学生に熱心に指導する他に、第 12 番の交響曲の作曲に寝る間も惜しんで没頭している。そのため、夫人は気品にあふれているにもかかわらず、身だしなみにも全く関心を払わず、家の管理や子どもの世話をする暇もない。行ったことがありそうにもない場所や、ありそうにもない事がでてくる夫人の途方もない話は、ブルック氏を当惑させる。
14	ジレンスキー夫人の奇癖は、どうして生じたと思われるか読み取ること。 夫人は授業に加えて、すでに 11 曲もの交響曲を作曲して、余りに多忙な生活をしてきたため、身だしなみにも、子どもの世話にも、旅行にも時間を割く余裕がなかった。それを補うために、夫人の異様な想像力と願望から生まれた途方もない話がブルック氏に夫人を病的な嘘つきといわしめたのである。
15	ブルック氏はジレンスキー夫人の奇矯に、どのように対処したのか読み取ること。 夫人が病的な嘘つきと判明したとき、ブルック氏は最初激怒したが、その後、医者が病人を診るように夫人を扱おうとした。ブルック氏は夫人の嘘の根拠を追及したとき、返事に窮した夫人の表情をみて自責の念にかられ、夫人の奇異な生き方を受け入れる。
学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞ A（100 点～90 点） B＋（89 点～80 点） B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 設題につき 8 枚以内	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題 1】 「アメリカ女流作家選」の“Madame Zilensky and the King of Finland”を日本語で要約せよ。

＜ポイント＞
英文の文法事項と構文を確認し、教科書の注をも十分参照して辞書をよく引き、何度も読み返しながら内容を把握すること。エピソードごとに自分の言葉でまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1． 「アメリカ女流作家選」の“Theft”を日本語で要約せよ。
＜ポイント＞
この物語は、単に主人公の貴重なハンドバッグが盗まれる話ではない。主人公自身が己の心から盗み取っているものこそが大切なものであることを読み取ること。

教科書

岩元巌『アメリカ女流作家選』金星堂。

参考文献

特になし

科目コード	英語講読Ⅱ（2 単位）	登録年次	履修方法
7470/7471		1 年	SR/R
教員名	髙橋みどり、坂望美、山口敬雄		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語文学		

科目概要・到達目標

この科目では、パメラ・L・トラヴァースによって書かれたイギリス児童文学の名作『メアリー・ポピンズ』(1934) を取り上げ、習得した基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、英文の構文と内容を精確に把握し、英語の読解力の向上をめざす。また、20 世紀初頭に始まる「エヴリディ・マジック」、すなわち日常生活の中に魔法を持ち込んだファンタジーの系譜を引く作品の特徴と、イギリスの典型的な中流階級の人々の考え方や慣習などの理解を目的とする。

学修内容

1	“East Wind,” pp.1-5　読解練習 ◎この授業で扱う作品について、毎回以下の学習活動を行うこと。①テキストの英文を、何度も繰り返し読んで、意味内容を深く正確に把握する。②作家と作品について理解を深める。テキストのみでは十分でないので、参考資料を参照してさらに詳しく調べる。③作品に描かれた、英語圏の国々の文化や、舞台となる地域の文化について考察を深める。 ＊英文の内容を正確に把握するには、１回や２回読んだだけでは、表面的にしか理解できず、誤解も多いので、筋道を立てて綿密に意味を考えながら、何度も繰り返し英文を読んで、内容の理解を深めていく習慣を身につけることが不可欠である。
2	“East Wind,”pp.6-10　読解練習 ＊英文法を応用して英文の構文を理解すること。 辞書を引きながら、各英文が文法上どのような構造になっているのかをしっかり確認してから、文法に則って英文を何度も読んで日本語に訳し、内容の理解を深めるようにすること。文法上の構造を解明するには、中学校程度の文法を運用する能力が要求される。
3	“East Wind,”pp.11-15　読解練習 ＊英文の意味内容を読み取るためには、辞書をこまめに引き、語義のみならず用法や用例にも注意を払うこと。 英文の内容を把握するには、辞書とテキストの注しか頼るものがないので、注を参照し、辞書をこまめに引くことが不可欠である。辞書を引く際には、意味がわからないか不正確な言葉の語義を調べるだけで終わってしまうことが多いが、意味の他に例文や用法をも丹念に調べておくと、本文の理解を深める助けになることがある。
4	“The Day Out,”pp.16-20 読解練習 ＊メアリー・ポピンズの人物像を読み取ること。 テキストを読まずに、ディズニー映画版の同名作品を観て、要約をまとめたものがまれにみられるが、映画は原作とかなり異なるので注意を要する。特にメアリー・ポピンズの人物像の違いは大きい。児童文学の主人公らしからぬ厳しくて風変わりな乳母を、作者がどのように提示しているかに注意して読み進めてほしい。
5	“The Day Out,”pp.21-25　読解練習 ＊英文の意味内容を把握する手助けとなるので、テキストの注をよく読むこと。
6	“The Day Out,”pp.26-27 読解練習 ＊文章の表面にあらわれない作者の真意をくみとる（行間を読む）こと。 現代の小説は必要最小限の事実を描写するだけで、読者のために細かな情報を提供することがないので、読者は作者の意を汲んで書かれていない部分を自分なりに補って解釈する必要に迫られる。
7	主題の分析 ＊子どもたちがなぜメアリー・ポピンズに魅かれるのかを読み取ること。 愛想がなく、いつも不機嫌そうに鼻を鳴らし、しつけにも厳しい主人公が、なぜ子どもたちを魅了するのか。その秘密は魔法にありそうである。平凡な日常生活の中に織り込まれた、魔法の冒険の数々について、しっかりと把握することが大切である。
8	“Laughing Gas,” pp.28-30 読解練習 ＊バンクス夫妻は、メアリー・ポピンズのことをどのように考えているのかを読み取ること。 イギリス中産階級の家庭を舞台に、体面を気にするバンクス夫妻と、彼らに対して少々見下したような態度をとるメアリー・ポピンズとの関係をたどることにより、作者がこの作品にこめた批判が浮き彫りになる。
9	“Laughing Gas,” pp.31-35 読解練習 ＊「エヴリディ・マジック」の手法がどのように取り入れられているのかを読み取ること。 「エヴリディ・マジック」とは、20 世紀初頭の E. ネズビットに始まる日常生活の中に魔法を持ち込んだファンタジーであり、『メアリー・ポピンズ』の作者トラヴァースも、このファンタジーの継承者といわれる。イギリス中流階級の家庭と魔法の世界との交錯がどのように描かれているのかに注目すること。
10	“Laughing Gas,” pp.36-40　読解練習 ＊作品のもつノンセンスの世界を読み取ること。 英米児童文学の歴史をたどると、エドワード・リアの『ナンセンスの本』(1846)以来、それまで教育的で宗教色一色であった児童書に、空想力、想像力、そしてノンセンスなどが入り込む余地が生まれたという。それによって、『不思議の国のアリス』を初めとするファンタジーへの道が開かれ、この作品へと続いているのである。

11	“Laughing Gas,” pp.41-46 読解練習 ＊これまで読解を進めてきた英文の内容を、細部にわたって正確に理解しているか、確認すること。この後、要約する作業に取りかかるが、不正確なまま始めるのではなく、細かな点を確認し、正確を期しながら進めることが大切である。
12	要約の準備 ＊要約の基本は各々のエピソードを自分の言葉で要領よくまとめることである。要約するためには、何よりもまず正確に深く内容を理解していることが要求される。また、各エピソードの関連性にも注意を払い、箇条書きにならないようにすることが大切である。
13	要約の練習（“East Wind”、 “The Day Out”、 “Laughing Gas”を 1000 字から 1200 字程度で要約） ＊要約する際の文章は、稚拙で冗長な口語体を避け、論理的で簡潔な文章体で書くよう心がけること。 要約では、日常会話で使用する言葉づかいをほとんどそのまま用いた文章が多くみられる。このような口語体では、幼稚な印象を与えがちなので、文章体で書くよう心がけることが大切である。また、だらだらしたしまりのない文章も多いので、ポイントを明確にした論理的で簡潔な文章を書くよう心がけることも大切である。
14	要約の練習 ＊文章を書く際には、日本語の書式（特に段落わけ）に注意すること。 パソコンが普及したためか、日本語の文章を書く際の書式（特に段落分け）を認識していない例が多い。段落分けが全くない例、段落分けとは冒頭の１文の最初の１語を下げることと誤解している例、１つの段落があまりに長い例、１行あけることを段落分けと思い込んでいる例などが目につくので、注意を要する。
15	レポートの作成 ＊本文中の会話体はできるだけそのまま使用せず、自分の言葉でまとめること。 要約する場合には、英文の単なる日本語訳にならないように注意しなければならない。
学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞ A（100 点～90 点） B+（89 点～80 点） B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１設題につき８枚以内	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 「メアリー・ポピンズ」の“East Wind”を日本語で要約せよ。

＜ポイント＞
英文の文法事項と構文を確認し、教科書の注をも十分参照して辞書をよく引き、何度も読み返しながら内容を把握すること。

科目終了試験学修のポイント

１． 「メアリー・ポピンズ」の“The Day Out”を日本語で要約せよ。
＜ポイント＞
外出日におめかしをして出かけるメアリー・ポピンズのこれまでとは違った一面と、彼女がどのような冒険を楽しむのかを読み取ること。

２． 「メアリー・ポピンズ」の“Laughing Gas”を日本語で要約せよ。
＜ポイント＞
メアリー・ポピンズが子どもたちと、アルバートおじさんを訪問した日に、どのような不思議なことが起こったのかを読み取ること。

教科書

林容吉、堀内克明『メアリー・ポピンズ』英光社。

参考文献

特になし

科目コード	英語講読Ⅲ（２単位）	登録年次	履修方法
7480/7481		１年	ＳＲ/Ｒ
教員名	阿部裕子、井草玲子、髙橋みどり		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語学		

科目概要・到達目標

本科目の目標は、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることにある。そのため、「異文化コミュニケーションのための英語」、「文化という概念」、「言語と思考」、「コミュニケーションスタイル」、「言語行為と文化」といった英語学に関する小論文を講読することで、国際共通語としての英語の実態、コミュニケーションツールとしての英語について理解を深めることを目指している。この講読作業を通して、英語の文章構造を速やかに把握する方法を身につけ、言語と人間、文化、社会との関係について、より深く考える習慣を身に着けられるようになることが到達目標である。

学修内容

1	これまでに学習した英語講読を振り返り、英語の文章構造を速やかに把握する方法について再度確認する。 Unit1 Intercultural Communication in Today's World (p.7-9)を例にとって、以下の様に進めていく。 ①英文を黙読し、章の構成を確認して、全体像を把握する。 ②重要語句、文の前後関係(context)、主題文(topic sentence)、裏付/説明文(supporting sentences)を確認し、内容を理解する。 ③正しい発音、イントネーション、文の意味を考えた区切りなどに注意して、音読する。 ④各段落にタイトルをつけ、段落と段落の関係及び章全体の大意を確認し、簡潔で分かりやすいい日本語に要約する。
2	内容についてより理解を深めるために、重要語彙、内容理解について確認し、主題について考えを深める。具体的には、教科書のエクササイズ(Vocabulary, Comprehension Questions, Disucssion Questions)に挑戦する。 Unit1 Intercultural Communication in Today's World (p.10 -12)を例にとって、以下の様に進めていく。 ① Vocabulary (重要語句の確認) に挑戦する。 ② Comprehension Questions (読解問題) に挑戦する。 ③ Discussion Questions から１つ選び、それに対する自分の意見を英語で書く。
3	上記の 1，2 の様に、次の各 Unit について、１講読及び要約を行い、2 内容理解エクササイズに挑戦し、英作文を作成する。 Unit 2 English for intercultural Communication (p.13-15)を講読し、分かりやすい日本語に要約する。
4	Unit 2 English for Intercultural Communication (p. 16-18) について、内容理解エクササイズに挑戦し、Discussion Questions から１つ選び、それに対する自分の意見を英語で書く。
5	Unit 4 Concept of Culture (p.25-27) を講読し、分かりやすい日本語に要約する。
6	Unit 4 Concept of Culture (p. 28-30) について、内容理解エクササイズに挑戦し、Discussion Questions から１つ選び、それに対する自分の意見を英語で書く。
7	Unit 5 Language and Thought (p.31-33) を講読し、分かりやすい日本語に要約する。
8	Unit 5 Language and Thought (p.34-36)について、内容理解エクササイズに挑戦し、Discussion Questions から１つ選び、それに対する自分の意見を英語で書く。
9	Unit 6 Communication Styles (p.37-39) を講読し、分かりやすい日本語に要約する。
10	Unit 6 Communication Styles (p.40-42)について、内容理解エクササイズに挑戦し、Discussion Questions から１つ選び、それに対する自分の意見を英語で書く。
11	Unit 8 Speech Act across Cultures (p.49-51) を講読し、分かりやすい日本語に要約する。
12	Unit 8 Speech Act across Cultures (p.52-54)について、内容理解エクササイズに挑戦し、Discussion Questions から１つ選び、それに対する自分の意見を英語で書く。

13	Unit 9 Stereotypes and Intercultural Communication (p.55-57) を講読し、分かりやすい日本語に要約する。
14	Unit 9 Stereotypes and Intercultural Communication (p.58-60)について、内容理解エクササイズに挑戦し、Discussion Questions から１つ選び、それに対する自分の意見を英語で書く。
15	Unit 13 Intercultural Competence for the future (p.79-81) を講読し、分かりやすい日本語に要約する。
学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞ A（100 点～90 点） B+（89 点～80 点） B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき８枚以内	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

１）Unit 5 Language and Thought (p.31-33)の英文を 日本語 で要約しなさい。さらに、p.36 の Discussion Questions から１つ選び、それに対する答えとあなた自身の考えを 英語 で述べなさい。

２）Unit 6 Communication Styles (p.37-39)の英文を 日本語 で要約しなさい。さらに、p.42 の Discussion Questions から１つ選び、それに対する答えとあなた自身の考えを 英語 で述べなさい。

＜ポイント＞

日本語に要約する際は上記１の講読作業を参考に、文全体の大意を把握した上で、分かりやすく要約すること。英文執筆の際には、段落の構成に注意を払い、内容面と文法面の推敲（proofreading）をしっかり行うこと。

科目終了試験学修のポイント

1. Unit 8 Speech Acts across Cultures (p.49-51)の英文を 日本語 で要約しなさい。さらに、p.54 の Discussion Questions から１つ選び、それに対する答えとあなた自身の考えを 英語 で述べなさい。

＜ポイント＞

日本語に要約する際は上記１の講読作業を参考に、文全体の大意を把握した上で、分かりやすく要約すること。英文執筆の際には、段落の構成に注意を払い、内容面と文法面の推敲（proofreading）をしっかり行うこと。

2. Unit 9 Stereotypes and Intercultural Communication (p.55-57)の英文を 日本語 で要約しなさい。さらに、p.60 の Discussion Questions から１つ選び、それに対する答えとあなた自身の考えを 英語 で述べなさい。

＜ポイント＞

日本語に要約する際は上記１の講読作業を参考に、文全体の大意を把握した上で、分かりやすく要約すること。英文執筆の際には、段落の構成に注意を払い、内容面と文法面の推敲（proofreading）をしっかり行うこと。

3. Unit 13 Intercultural Competence for the Future (p.79-81)の英文を 日本語 で要約しなさい。さらに、p.84 の Discussion Questions から１つ選び、それに対する答えとあなた自身の考えを 英語 で述べなさい。

＜ポイント＞

日本語に要約する際は上記１の講読作業を参考に、文全体の大意を把握した上で、分かりやすく要約すること。英文執筆の際には、段落の構成に注意を払い、内容面と文法面の推敲（proofreading）をしっかり行うこと。

教科書

McConachy, Troy、古家 聡、櫻井 千佳子 『Intercultural Communication for English Language Learners in Japan ― 英語学習者のための異文化コミュニケーション』 南雲堂

参考文献

なし。

科目コード	英語講読Ⅳ（2 単位）	登録年次	履修方法
7490/7491		2年	SR/R
教員名	井草玲子、佐々木慶子、山口敬雄		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語文学		

科目概要・到達目標

この授業では、基本的な文法事項と読解の基礎力を応用して、英文の読解力の向上をめざす。英文の読解力を養うためには、英語の名手によって推敲を重ねて書かれた優れた文体の英文を読んで、その意味内容を理解する方法を取ることが有益である。20 世紀初頭に傑作を生み出し続けた短編小説作家、O・ヘンリーの平易な短篇小説をテキストとして使用する。

O・ヘンリーは監獄生活中に創作活動を行ったこともあり、作品中には囚人や罪人、病人や店員などの下層階級の人々を主人公として登場させることが多く、この下層の庶民生活の哀歓を humor と pathos たっぷりに描く。

確かに、100 年以上前の文学作品であっても私たちの身近な生活感覚と共通することも多いため、現代読者にとっても、登場人物の悲哀とおかしみへの共感が容易であろう。しかし同時に、その英語表現には俗語、通語などのいわゆる slang、あるいは移民が使用する訛りなども散見されるため、テキストの読解には十分な注意が必要である。

学修内容

1	“The Cop and the Anthem,” *Seven Short Stories of O. Henry*. pp.30-41. 英文を何度も繰り返し読んで、意味内容を深く正確に把握すること。 英文の内容を正確に把握するには、１回や２回読んだだけでは、表面的にしか理解できず、誤解も多いので、筋道を立てて綿密に意味を考えながら、何度も繰り返し英文を読んで、内容の理解を深めていく習慣を身につけることが不可欠である。
2	要約する際にも、細部にわたって確認し、正確を期すこと。 英文の内容をほぼ正確に読み取ったならば、要約する作業に取りかかるが、細部にわたって正確に理解していないことに気づくことがよくある。そのため、要約する際には、不正確なまま書き進めないで、細かな点を確認し、正確を期しながら進めることが大切である。
3	英文の意味内容を読み取るためには、辞書をこまめに引き、語義のみならず用法や用例にも注意を払うこと。 英文の内容を把握するには、辞書とテキストの注しか頼るものがないので、注を参照し、辞書をこまめに引くことが不可欠である。辞書を引く際には、意味がわからないか不正確な言葉の語義を調べるだけで終わってしまうことが多いが、意味の他に例文や用法をも丹念に調べておくと、本文の理解を深める助けになることがある。
4	英文法を応用して英文の構文を理解すること。 辞書を引きながら、各英文が文法上どのような構造になっているのかをしっかり確認してから、文法に則って英文を何度も読んで日本語に訳し、内容の理解を深めるようにすること。文法上の構造を解明するには、中学校程度の文法を運用する能力が要求される。
5	英文の意味内容を把握する手助けとなるので、テキストの注をよく読むこと。 英文を読むことに習熟していなければ、長い英文を読むことはきわめて困難なので、注のついたテキストを用いて、英文を読む負担を軽減し、内容把握の手助けをするのがふつうである。しかし、読解力の低い人ほど注をよく見ない傾向があるので、注を最大限に利用して内容把握を深めることが大切である。 O・ヘンリーと米国文学史概論を調べること。
6	“After Twenty Years,” *Seven Short Stories of O. Henry*. pp.13-19. 文章の表面にあらわれない作者の真意をくみとる（行間を読む）こと。 明瞭詳細に書かれていない部分があっても、作者の意を汲んで自分なりに補って解釈し、曖昧なままにしないこと。要約する際にも、書かれていない部分を補いながらまとめることが必要である。
7	要約は各々のエピソードを自分の言葉で要領よくまとめること。その際、各エピソードの関連性にも注意を払うこと。 要約するためには、何よりもまずかなり正確に深く内容を理解していることが要求される。要約の基本は、各エピソードを自分の言葉でまとめることであるが、その場合注意しなければならない点は、箇条書きにならないように、各エピソードの関連性を十分考慮に入れることが大切である。
8	本文中の会話体はできるだけそのまま使用せず、自分の言葉でまとめること。 要約する場合には、英文の単なる日本語訳にならないように注意しなければならない。また、エピソード中の会話体は、その日本語訳をそのまま使用せず、会話全体を自分の言葉でまとめるよう心がけることが大切である。
9	要約する際の文章は、稚拙で冗長な口語体を避け、論理的で簡潔な文章体で書くよう心がけること。 要約では、日常会話で使用する言葉づかいをほとんどそのまま用いた文章が多くみられる。このような口語体では、幼稚な印象を与えがちなので、文章体で書くよう心がけることが大切である。また、だらだらしたしまりのない文章も多いので、ポイントを明確にした論理的で簡潔な文章を書くよう心がけることも大切である。

10	文章を書く際には、日本語の書式（特に段落わけ）に注意すること。 パソコンが普及したためか、日本語の文章を書く際の書式（特に段落分け）を認識していない例が多い。段落分けが全くない例、段落分けとは冒頭の１文の最初の１語を下げることと誤解している例、１つの段落があまりに長い例、１行あけることを段落分けと思い込んでいる例などが目につくので、注意を要する。 O・ヘンリーと米国文学史の中でも特に 20 世紀の作家及び作品について調べること。
11	“The Gift of the Magi,” *Seven Short Stories of O. Henry*. pp.20-29. 読解練習 O・ヘンリーの生涯におけるニューヨークとの関係について調べること。とりわけニューヨークの代表的な地名については作中にもしばしば登場するため、親しんでおくこと。
12	O・ヘンリーがしばしば用いる Personification（擬人法） や Euphuism（誇飾体）について注意しながら読むこと。一見してまったく意味が分からないことがあっても、すぐにあきらめず、粘り強く想像力を発揮して意味するところを読解すること。
13	“Last Leaf”においては、登場人物たちの思いやりの心がどのように描かれているかに注意すること。
14	“After Twenty Years”においては、再開する２人の人物がどのように互いに同定するかを丁寧にたどること。
15	“The Gift of The Magi”においては、夫婦の気遣いがどのようにすれ違うかを注意深く読み解くこと。また、作中で説明されることのないタイトルについても、その意味を熟考すること。 O・ヘンリーと他の短編小説作家及び作品について調べること。
学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞ A（100 点～90 点） B+（89 点～80 点） B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１設題につき８枚以内	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 倉長真編注『O・ヘンリー短篇集』(1972) の“The Last Leaf”を日本語で要約せよ。

＜ポイント＞
英語の文法事項と構文を確認し、教科書の注をも十分参照して辞書をよく引き、英文を繰り返し何度も読んで、意味内容を把握してから、エピソードごとに自分の言葉でまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１． 倉長真編注『O・ヘンリー短篇集』(1972) の “After Twenty Years” を日本語で要約せよ。
＜ポイント＞
２人の登場人物の関係性と運命の皮肉を明確に読み取ること。

２． 倉長真編注『O・ヘンリー短篇集』(1972) の “The Gift of Magi” を日本語で要約せよ。
＜ポイント＞
夫婦間の思いやりの心とすれ違いの哀切を読み取ること。

教科書

倉長真編注『O・ヘンリー短篇集』朝日出版社（1972)。

参考文献

特になし

科目コード	英語講読Ⅴ（2 単位）	登録年次	履修方法
7500/7501		２年	ＳＲ/Ｒ
教員名	井草玲子、佐々木慶子、髙橋みどり、山口敬雄		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　　・英語文学		

科目概要・到達目標

アメリカの国民的作家マーク・トウェインの代表作『トム・ソーヤーの冒険』を読む。原作の息吹を十分に残して、現代口語に書き直したテキストを使用する。習得した基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、複雑な構文の英文を読む力を身につけるとともに、児童文学の知識を深め、児童文学独自の世界の魅力を味わい、児童文学に対する関心を高めることを目的とする。

学修内容

1	“Tom at Work,” pp.7-8. 読解練習 ◎この授業で扱う作品について、毎回以下の学習活動を行うこと。①テキストの英文を、何度も繰り返し読んで、意味内容を深く正確に把握する。②作家と作品について理解を深める。テキストのみでは十分でないので、参考資料を参照してさらに詳しく調べる。③作品に描かれた、英語圏の国々の文化や、舞台となる地域の文化について考察を深める。
2	“Tom at Work,” pp.9-11. 読解練習 ＊英文の内容を正確に把握するには、１回や２回読んだだけでは、表面的にしか理解できず、誤解も多いので、筋道を立てて綿密に意味を考えながら、何度も繰り返し英文を読んで、内容の理解を深めていく習慣を身につけることが不可欠である。
3	“The New Girl,” pp.12-13. 読解練習 ＊英文法を応用して英文の構文を理解すること。 辞書を引きながら、各英文が文法上どのような構造になっているのかをしっかり確認してから、文法に則って英文を何度も読んで日本語に訳し、内容の理解を深めるようにすること。文法上の構造を解明するには、中学校程度の文法を運用する能力が要求される。
4	“The New Girl,” pp.14-16. 読解練習 ＊英文の意味内容を読み取るためには、辞書をこまめに引き、語義のみならず用法や用例にも注意を払うこと。 英文の内容を把握するには、辞書とテキストの注しか頼るものがないので、注を参照し、辞書をこまめに引くことが不可欠である。辞書を引く際には、意味がわからないか不正確な言葉の語義を調べるだけで終わってしまうことが多いが、意味の他に例文や用法をも丹念に調べておくと、本文の理解を深める助けになることがある。
5	“Murder at Midnight,” pp.17-18. 読解練習 ＊英文の意味内容を把握する手助けとなるので、テキストの注をよく読むこと。
6	“Murder at Midnight,” pp.19-21. 読解練習 ＊登場人物の人物像を読み取ること。
7	“Running Away,” pp.22-23.　読解練習 ＊束縛からの解放と自由を求めて冒険を繰り返す孤児の「悪い少年」トムとハックの姿は、アメリカ文学における子どものイメージを大きく決定づけたことに着目すること。
8	“Running Away,,” pp.24-26.　読解練習 ＊作品の中にみられる風刺やユーモアを読み取ること。
9	“A Pirate’s Life,” pp.27-28.　読解練習 ＊子どもらしい自己中心性の描き方に着目すること。
10	“A Pirate’s Life,” pp.29-31.　読解練習 ＊これまで読解を進めてきた英文の内容を、細部にわたって正確に理解しているか、確認すること。この後、要約する作業に取りかかるが、不正確なまま始めるのではなく、細かな点を確認し、正確を期しながら進めることが大切である。
11	“The Funeral,” pp.32-33.　読解練習 ＊作品を何度も読み返して、発見したことや疑問に思ったことを書き出してみる。これらのメモが、オリジナリティのある論点へと発展する可能性はきわめて高い。

12	“The Funeral,” pp.34-36. 読解練習 ＊トムの仲間の浮浪児ハックが主人公となった続編『ハックルベリー・フィンの冒険』(1884)について、ヘミングウェイは、すべての現代アメリカ文学はこの一冊に源を発していると述べた。両作品を比較することにより、考察はさらに深まるであろう。
13	要約の準備と練習（“Tom at Work,” “The New Girl,” “Murder at Midnight,” “Running Away,” “A Pirate’s Life,” “The Funeral,”を「1000字～1200 字程度」で要約） ＊要約の基本は各々のエピソードを自分の言葉で要領よくまとめることである。要約するためには、何よりもまず正確に深く内容を理解していることが要求される。また、各エピソードの関連性にも注意を払い、箇条書きにならないようにすることが大切である。 ＊要約する際の文章は、稚拙で冗長な口語体を避け、論理的で簡潔な文章体で書くよう心がけること。 要約では、日常会話で使用する言葉づかいをほとんどそのまま用いた文章が多くみられる。このような口語体では、幼稚な印象を与えがちなので、文章体で書くよう心がけることが大切である。また、だらだらしたしまりのない文章も多いので、ポイントを明確にした論理的で簡潔な文章を書くよう心がけることも大切である。
14	要約の練習 ＊文章を書く際には、日本語の書式（特に段落わけ）に注意すること。 パソコンが普及したためか、日本語の文章を書く際の書式（特に段落分け）を認識していない例が多い。段落分けが全くない例、段落分けとは冒頭の１文の最初の１語を下げることと誤解している例、１つの段落があまりに長い例、１行あけることを段落分けと思い込んでいる例などが目につくので、注意を要する。
15	レポートの作成 ＊本文中の会話体はできるだけそのまま使用せず、自分の言葉でまとめること。 要約する場合には、英文の単なる日本語訳にならないように注意しなければならない。
学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞ A（100 点～90 点） B+（89 点～80 点） B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１設題につき８枚以内	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 『トム・ソーヤーの冒険』の “Tom at Work,” および “The New Girl,” をそれぞれ日本語で要約せよ。

＜ポイント＞
英文の文法事項と構文を確認し、教科書の注をも十分参照して辞書をよく引き、何度も読み返しながら内容を把握すること。

科目終了試験学修のポイント

1. 『トム・ソーヤーの冒険』の “Murder at Midnight” および “Running Away” をそれぞれ日本語で要約せよ。
＜ポイント＞
トムとハックが目撃した事件の概要及びトムが家出することになったいきさつについて、適確に読みとること。

2. 『トム・ソーヤーの冒険』の “A Pirate’s Life” および “The Funeral” をそれぞれ日本語で要約せよ。
＜ポイント＞
家出先でのトムの生活及びトムの発案により少年たちがとった行動について把握すること。

教科書

Mark Twain 著 朝日由紀子 編注 『トム・ソーヤーの冒険（リトールド版）/ The Adventures of Tom Sawyer』開文社出版。

参考文献

特になし

科目コード	英語講読VI（2 単位）	登録年次	履修方法
7510/7511		3年	SR/R
教員名	阿部裕子、井草玲子、志手和行、山口敬雄		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語学		

科目概要・到達目標

本科目の目標は、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることにある。そのため「子どもの文法発見」、「文法規則と文法の変異」。「なまりと方言」、「バイリンガリズム」といった英語学に関する小論文を講読し英語の特徴を把握していく。この講読作業の中で、英語の文章構造を速やかに把握する方法を身につけ、英語学とりわけ英語の音声の仕組み・英文法・英語の歴史的変遷と国際共通語としての英語の実態を学習し理解を深める。

具体的には、我々が日常当たり前のように用いる「ことば」とはどのようなものなのか。言語学の世界的権威である David Crystal による原著 *A Little Book of Language* 全 40 章の中から 12 章に厳選された下記教科書を通じて、その答えに迫ろうとするのが当科目である。特に、ことばの実態と本質について理解を深めることで、ことばについてより深く考える習慣を身につけられるようにすることを目指す。

学修内容

1	英語講読Ⅲで学習した古英語から現代英語までの英語の歴史の全体像を概観し、これから学習する英語の論文の位置づけを確認する。 ・英文を何度もくり返し読んで、意味内容を深く正確に把握すること。 ・英文の意味内容を読み取るためには、辞書をこまめに引き、語義のみならず用法や用例にも注意を払う。 ・英文法を応用して英文の構文を理解する。
2	1 章を例にとりながら、英文の講読方法の確認を行う。①英文を黙読しながら、章の全体構成を確認し、大事な語（句）や注に載っている大事な情報をよく読み、内容理解を深める。②英文を音読し、文の抑揚や大事な単語の発音に注意する。③要点をまとめていく。 ・英文の意味内容を把握する手助けとなるので、教科書の注をよく読む。 ・要約する際にも、細部にわたって確認し、正確をきすこと。 ・文中の表記の仕方に注意する（地の文と斜字体等）。
3	Chapter 1　Discovering Grammar – CD 1-02 と CD 1-03 （対象範囲を CD のトラック番号で表す。以下同様。） ・子供の母語習得過程から窺える現象を通して語彙の習得について理解する。
4	Chapter 1　Discovering Grammar – CD 1-04 と CD 1-05 ・母語習得において語彙の習得から文の生成へと発展していく必然性について理解する。
5	Chapter 1　Discovering Grammar – CD 1-06 と CD 1-07 ・文法とは何であり、なぜ必要なのかということについて汲み取る。
6	Chapter 2　Grammar Rules and Variations – CD 1-08 と CD 1-09 ・標準語という枠組みの中で文法的規則の存在を捉えてみる。
7	Chapter 2　Grammar Rules and Variations – CD 1-10 と CD 1-11 ・社会における言語の使用場面により相応しい表現が変わることを汲み取る。
8	Chapter 2　Grammar Rules and Variations – CD 1-12 と CD 1-13 ・標準的と非標準的な言語使用の使い分けがどのように日常的に見受けられるかについて理解する。
9	Chapter 3　Accents and Dialects – CD 1-14 ～ CD 1-17 ・なまりと方言の違いについて考える上で、まず方言とは何か、そしてそれが持つ特徴を捉える。
10	Chapter 3　Accents and Dialects – CD 1-18 と CD 1-19 ・9 で押さえた内容を踏まえて、なまりについて方　言との違いに焦点を当てながら理解を深める。
11	Chapter 3　Accents and Dialects – CD 1-20 と CD 1-22 ・なまりが我々に及ぼす影響を主に歴史的、社会的、そして個人的観点から捉える。
12	Chapter 4　Being Bilingual – CD 1-23 と CD 1-25 ・一つの国で話される言語数の多さを鑑みることで、複数言語使用者の存在を押さえる。

13	Chapter 4　Being Bilingual – CD 1-26 と CD 1-27 ・英国や他の国における多言語使用社会の現状を捉える。
14	Chapter 4　Being Bilingual – CD 1-28 と CD 1-29 ・多くの国で母語を保持しようとする活動が根強く行われてきている背景について読み取る。
15	・要約は上記 3 から 14 の内容を参考に、各章内でそれぞれ関連を持たせて自分の言葉で要領よくまとめること。 ・文章を書く際には、日本語の書式（特に段落わけ）に注意すること。 ・要約する際の文章は、稚拙で冗長な口語体を避け、論理的で簡潔な文章体で書く。
学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 題につき 7 ～ 8 枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題 1】　「The Wonderful World of Language クリスタルのことばの世界」の第 1 章“Discovering Grammar”及び第 2 章“Grammar Rules and Variations”を日本語で要約せよ。

＜ポイント＞
英文の文法事項と構文を確認し、教科書の注も十分参照しつつ辞書をよく引き、何度も読み返しながら内容を把握すること。

科目終了試験学修のポイント

1. 「The Wonderful World of Language クリスタルのことばの世界」の第 3 章“Accents and Dialects”及び第 4 章“Being Bilingual”を日本語で要約せよ。

＜ポイント＞
・英文の文法事項と構文を確認し、教科書の注も十分参照しつつ辞書をよく引き、何度も読み返しながら内容を把握すること。
・本文中の具体例を組み込みつつ要約を進めると良い。

教科書

David Crystal 著、岡田伸夫編註『The Wonderful World of Language クリスタルのことばの世界』成美堂。

参考文献

David Crystal 著　西出　公之　註　『A History of The English Language』成美堂。
山内信幸・北林利治 共編著　『現代英語学へのアプローチ』英宝社。

科目コード	英語コミュニケーションⅠ（2単位）	登録年次	履修方法
7630		1年	SR
教員名	ティム・ホフマン、坂望美、別府結起		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語コミュニケーション		

科目概要・到達目標

This class will introduce basic vocabulary and expressions, and practice listening skills. We will use textbook and other materials, including audio-visual aids and interactive games, to achieve better communication and improved test taking skills. The course will be adjusted to best fit the individual class members.

文法と発音を確認しながら、主に listening の能力を養う。映像・音楽などの視聴覚資料やゲームも演習に利用する。担当教員は受講生の経験や関心を基に資料や講座の流れを調整する。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	Course outline, materials distribution & class member introductions	シラバス解説 & 自己紹介 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えを理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
2	*Expanding Horizons* Unit 1 The Sky Lodge <Holidays> (Talking about “usual” & “unusual” things)	世界にある様々な社会と自然環境の中から、好みや都合に従って、新しい体験に伴う言葉を演習する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
3	*Expanding Horizons* Unit 1 (continued) The Sky Lodge <Holidays>	旅行は勉強となる。場所が変わるとまた違う人間にも出会うので、日々の流れと合わせた表現を練習する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
4	*Expanding Horizons* Unit 10 The Comic Creator <Literature> (Storytelling, information & impressions)	百科事典、教科書、小説、漫画本などの文書の特徴、それぞれに使われる英語の単語と表現法がある。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
5	*Expanding Horizons* Unit 10 (continued) The Comic Creator <Literature>	名詞や動詞、語彙の分類を意識して、様々な話題の英語を読み、目的に応じて情報提供の過程を理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
6	*Expanding Horizons* Unit 11 Sharing Life <People> (Living and thriving with others)	人類と動物に関する英語表現を学ぶ。様々な生き物の共存共栄、生活環境に応じた英語で意見交換をする。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
7	*Expanding Horizons* Unit 11 (continued) Sharing Life <People>	野生動物、動物園、ペットの異なる環境に関する英語表現を使いながら「命」の意義を考える。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
8	*Expanding Horizons* Unit 12 Living in 1927 <History> (Experience based on the past and present)	時間と空間との接点で歴史が出来上がる。個人の地元や人類の世界を英語で見て語る。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
9	*Expanding Horizons* Unit 12 (continued) Living in 1927 <History>	過去・現在・未来を語る。単語と表現を使いながら会話相手との世界観を話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
10	*Expanding Horizons* Unit 13 Our Clothes <Clothes> (using things and making decisions wisely)	世界中で様々な自然環境と生活に合っている衣装とそれらに関する実用性と芸術性を考える。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
11	*Expanding Horizons* Unit 13 (continued) Our Clothes <Clothes>	いらなくなった洋服などがどういう風にまだ活用できるかなど、課題を決めて会話に取り上げる。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）

12	*Expanding Horizons*　Unit 14 Food, Growing Cities <Future> (supplies and gardening for urban life)	食文化の学びを深める活動を通して、英語での新しい表現方法を模索する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
13	*Expanding Horizons*　Unit 14　(continued) Food, Growing Cities <Future>	都会住まいと食生活の課題を基に、簡単なプレゼンテーションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
14	Practicing conversation situations Group exercises	グループ活動を通して、タスクベースで会話の問題に挑戦する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
15	Grammar review Pair work and class conversation exercises	ペアワークとクラス全員で文法問題にチャレンジする。複数の領域を統合した言語活動を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 設題につき 8 枚以内	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　Short paper assignments:

Please write 1 paragraph (at least 4 sentences) about your experience in severe weather.

科目終了試験学修のポイント

Preparation for the schooling:

Please complete the sections VOCABULARY, LISTENING & READING in each Unit 1 through 14. Also try any other sections.

Bring a dictionary to class.

※「英語コミュニケーションⅠ」の科目終了試験は、スクーリング時に「英語コミュニケーションⅡ」と合わせて実施されるため来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

Charles Browne、田邉祐司『Expanding Horizons　世界を巡る映像で学ぶ総合英語＜基礎＞』南雲堂 。

参考文献

科目コード	英語コミュニケーションⅡ（２単位）	登録年次	履修方法
7640		１年	ＳＲ
教員名	田村エレナ、別府結起、カテリーナステブリュク、ティム・ホフマン		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　　・英語コミュニケーション		

科目概要・到達目標

This class will introduce basic vocabulary and expressions to improve your speaking, listening, writing and comprehension skills. We will use textbook and other materials, including audio-visual aids and interactive games, to achieve better communication and improved test taking skills. The course will be conducted to best fit the individual class members

文法と発音を確認しながら、理解と実践的なコミュニケーション能力を養う。問題練習と会話を通して、reading、listening、speaking、writing の能力を高める。映像・音楽などの視聴覚資料やゲームも演習に利用する。担当教員は受講生の経験や関心 を基に資料や講座の流れを調整する。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	Review Day 1 studies Introduce Day 2 course materials Practice basic conversation.	シラバス解説 自己紹介 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて 情報や考えを理解する。	印刷授業及び 面接授業（1 時間）
2	*Guess What?! – Intercultural Surprises* Chapter 1　Canada Vocabulary & expressions in related topics & situations	対象国カナダ全般の特性を基に、その人口の少ない大国の自然と文化に関する英語表現を学ぶ。	印刷授業及び 面接授業（1 時間）
3	*Guess What?! – Intercultural Surprises* Chapter 3　Germany Vocabulary & expressions in related topics & situations	対象国ドイツ全般の特性を基に、環境問題と社会意識に関する英語表現を学ぶ。英語を読んで、目的に応じて情報や考えを理解する。	印刷授業及び 面接授業（1 時間）
4	*Guess What?! – Intercultural Surprises* Chapter 5　Russia Vocabulary & expressions in related topics & situations	対象国ロシア全般の特性を基に、極寒の中に生きる人間社会に関する英語表現を学ぶ。気候と食物事情について考える。	印刷授業及び 面接授業（1 時間）
5	*Guess What?! – Intercultural Surprises* Chapter 6　Israel Vocabulary & expressions in related topics & situations	対象国イスラエル全般の特性を基に、伝統と先端技術、宗教心などに関する英語表現を学ぶ。言葉と思想、による情報や考えを理解する。	印刷授業及び 面接授業（1 時間）
6	*Guess What?! – Intercultural Surprises* Chapter 7　South Africa Vocabulary & expressions in related topics & situations	対象国南アフリカ全般の特性を基に、人種や野生動物、伝統に多種多な社会環境に関して英語で親しむ事ができる。	印刷授業及び 面接授業（1 時間）
7	*Guess What?! – Intercultural Surprises* Chapter 9　France Vocabulary & expressions in related topics & situations	対象国フランス全般の特性を基に、効率的な考え方の文化と社会における影響やフランス語の表現法は、それらが英語を通じて理解する。	印刷授業及び 面接授業（1 時間）
8	*Guess What?! – Intercultural Surprises* Chapter 10　Bangladesh Vocabulary & expressions in related topics & situations	対象国南バングラデシュ全般の特性を基に、人口密度や気候に対応する文化的な側面を英語で親しむ事ができる。	印刷授業及び 面接授業（1 時間）
9	*Guess What?! – Intercultural Surprises* Chapter 11　New Zealand Vocabulary & expressions in related topics & situations	対象国ニュージーランド全般の特性を基に、先住民族マオリ族とヨーロッパからの移民、また最近入ってきたアジア人それぞれの共存を英語による理解する。	印刷授業及び 面接授業（1 時間）
10	*Guess What?! – Intercultural Surprises* Chapter 13　Niger Vocabulary & expressions in related topics & situations	対象国ニジェール全般の特性を基に、貧困の中に色華やかな着物とおしゃべり好き習慣という社会環境に生きることを英語表現で学ぶ。	印刷授業及び 面接授業（1 時間）
11	*Guess What?! – Intercultural Surprises* Chapter 14　Brazil Vocabulary & expressions in related topics & situations	対象国ブラジル全般の特性を基に、ラテンアメリカの大国としてヨーロッパとアフリカ、カリブ海などの民族が提供したスポーツと音楽、踊りについて英語表現を学ぶ。	印刷授業及び 面接授業（1 時間）

12	*Guess What?! – Intercultural Surprises* Chapter 5　Sweden Vocabulary & expressions in related topics & situations	対象国スウェーデン全般の特性を基に、北欧の気候に合わせて室内のくつろぎを楽しむ過ごし方が紹介されている。家具や食生活に関する英語表現を学びながら情報や考えを理解する。	印刷授業及び 面接授業（1 時間）
13	Reviewing our studies and experiences in class Discussion of topics based on Chapters 1 – 15	既習の学習内容を振り返り、学習内容について討論する。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話す事ができる。	印刷授業及び 面接授業（1 時間）
14	Listening and writing test	多様なリスニング教材を通して、様々な話題について、目的や場面、状況に応じて英語で書く。	印刷授業及び 面接授業（1 時間）
15	Listening and writing test (continued) Sharing our learning in conversation	既習の授業内容を踏まえ、複数の領域を統合した言語活動を聞き取りのライティングや話し合いで確認する。	印刷授業及び 面接授業（1 時間）
			面接授業：合計15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の50%、参加態度・課題提出　総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B＋（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１設題につき８枚以内	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　Short paper assignments:

Please write 1 paragraph (at least 4 sentences) about your experience with a pet or animal.

科目終了試験学修のポイント

Preparation for the schooling :

Read textbook *Guess What?!* pp.3~7, and “Reading” and”Column” sections for Chapters 1-15 (or as many as you can).

Bring a dictionary to class.

※「英語コミュニケーションⅡ」の科目終了試験はスクーリング時に実施されます。

教科書

Natsuki Matsui & 3 others『Guess What?! – Intercultural Surprises』NAN’UN-DO, 2021。

※　音声データをダウンロードすることができる。ＣＤは付属していない。

参考文献

科目コード	英語コミュニケーションⅢ（２単位）	登録年次	履修方法
7650		２年	ＳＲ
教員名	ティム・ホフマン、坂望美、別府結起		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　　・英語コミュニケーション		

科目概要・到達目標

This class will introduce more vocabulary and expressions to improve your speaking, listening, writing and comprehension skills. We will use textbook and other materials, including audio-visual aids and interactive games, to achieve better communication and improved test taking skills. The course will be conducted to best fit the individual class members

国際交流の手段・道具としての英語による、 実践的なコミュニケーション能力を養う。問題練習と会話を通して、reading、listening、speaking、writing の能力を養う。映像・音楽などの視聴覚資料やゲームも演習に利用する。担当教員は受講生の経験や関心を基に資料や講座の流れを調整する。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	Course outline, materials distribution, conversation & class member introductions.	シラバス解説 ＆ 自己紹介 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えを理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
2	*Reading Fusion 1*　Chapter 1 The Arts Music and the Mind (value of arts in life and work)	精神・生活・社会における音楽と音文化全般の効果を英語で学びながら芸術について考える。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
3	*Reading Fusion 1*　Chapter 1 The Arts (continued) Group activity	人間社会の芸術文化について意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
4	*Reading Fusion 1*　Chapter 2　Culture Body Language across Cultures (non-verbal communication)	言葉による表現方法と並んで非言語的コミュニケーションを学ぶ。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語と体で話す事ができる。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
5	*Reading Fusion 1*　Chapter 2　Culture (continued) Group activity	英語で人間の性格と日本・他国の文化の特性など、様々な話題について話す事ができるように練習する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
6	*Reading Fusion 1*　Chapter 5　The Internet Crowdsourcing (communication & social responsibility)	様々な職業や趣味の情報提供に欠かせないインターネットの役割と利用について考えて、表現を学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
7	*Reading Fusion 1*　Chapter 5　The Internet (continued) Group activity	引き続き現代社会とインターネットの課題に関する表現法を追求する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
8	*Reading Fusion 1*　Chapter 7　Health Food Safety (production, sales, consumption)	食生活と健康について考える。安全性と他の社会的な問題について考察する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
9	*Reading Fusion 1*　Chapter 7　Health (continued) Group activity	国内外のそれぞれの視点から食生活について英語で話す事と書く事ができる。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
10	*Reading Fusion 1*　Chapter 9　Nature Wonders of the Deep (discoveries in our oceans)	地球に存在する驚くべき多様な自然現象について観察し、表現する。海の自然に焦点を当てる。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
11	*Reading Fusion 1*　Chapter 9　Nature (continued) Group activity	グループ討論を通して、自然との共生について考えて発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）

12	*Reading Fusion 1* Chapter 15 Globalization Breaking the Poverty Cycle (roles of people, corporations, governments)	グローバル化の中で、地元・地域・世界の連携の理解を目指して、人間同士お互いの問題点に関して学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
13	*Reading Fusion 1* Chapter 15 Globalization (continued) Group activity	グループでの調査と学習活動後、各自が気づいたことについて発表する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
14	Studying other chapters and other materials (by students' choice)	教科書全体からの課題および講座に使われる他の資料と手段について、質問など表現練習しながら気軽に討論する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
15	Discussion & expansion of topics based on textbook and other materials and topics Sharing our learning in free conversation	既習の授業内容を踏まえ、複数の領域を統合した言語活動を話し合いで確認する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 設題につき 8 枚以内	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題 1】　Short paper assignments:
Please write 2 paragraphs (at least 4 sentences in each paragraph) about an event that you have attended or participated in.

科目終了試験学修のポイント

Preparation for the schooling:
Please complete Vocabulary Warm-up & Part 1 of Units 1, 2, 5, 7, 9, 15 in the textbook, and practice other exercises.
Bring a dictionary to use during the class.
※「英語コミュニケーションⅢ」の科目終了試験は、スクーリング時に「英語コミュニケーションⅣ」と合わせて実施されるため来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

Andrew E. Bennett『Reading Fusion 1』南雲堂 。※CD 付属

参考文献

科目コード	英語コミュニケーションⅣ（２単位）	登録年次	履修方法
7660		２年	ＳＲ
教員名	ティム・ホフマン、坂望美、別府結起		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　　・英語コミュニケーション		

科目概要・到達目標

This class will introduce more vocabulary and expressions to further advance in speaking, listening, writing and comprehension skills. We will use textbook and other materials, including audio-visual aids and interactive games, to achieve better communication and improved test-taking skills. The course will be conducted to best fit the individual class members

英語聴解力の向上を目指す訓練と同時に、発話力の定着訓練も行い、実践的英語聴解・会話力の修得をめざす。問題の練習と会話を通して、英語の listening、listening、speaking に関するより高いレベルのコミュニケーション能力と国際理解を養成する。視聴覚資料なども演習に利用する。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	Course outline, materials distribution & class member introductions	シラバス解説 自己紹介 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えを理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
2	*TOEIC Test: Step by Step* Chapter 1 Office Conversations (learning about English in work relations)	TOEIC の問題を解きながら、社会、特に会社内で良く交わされる会話等について学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
3	*TOEIC Test: Step by Step* Chapter 1 (continued) & Group practice	会社内で交わされる英語での会話に加え、会社文化についてグループで考えまとめる。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
4	*TOEIC Test: Step by Step* Chapter 3 Fitness (health and sports in English)	フィットネスについて考察する。健康であること、英語圏の人にとりスポーツのあり方や楽しまれ方など、日本と比較しながら考察する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
5	*TOEIC Test: Step by Step* Chapter 3 (continued) & Expressing opinions	健康に関して、スポーツに関しての英語表現を使い、実践してみる。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話す事ができる。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
6	*TOEIC Test: Step by Step* Chapter 5 Movies (language in the entertainment world)	映画に関して、エンターテイメントの世界においての英語の位置付けや文化について考察する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
7	*TOEIC Test: Step by Step* Chapter 5 (continued) & Language in drama	映画についてや、エンターテイメントについて考察した後、実践で短いドラマや映画のシナリオやトランスクリプトを作成する。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書く事ができる。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
8	*TOEIC Test: Step by Step* Chapter 6 Vocational Training (learning practical skills)	職業訓練について、実体験も含め日本と英語圏での違い考慮しながら、多角的に捉える。教科書の文を読み、まとめる。様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えを理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
9	*TOEIC Test: Step by Step* Chapter 6 (continued) & Discussing jobs and economy	職業訓練とは何か、社会で必要とされるスキルとは何かについてグループで討論しまとめる。また、経済状況の変化についても考察する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
10	*TOEIC Test: Step by Step* Chapter 10 Nature and the Environment (learning to talk about the natural world)	自然界について環境という言葉をキーに話し合う。環境について英語で討論。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
11	*TOEIC Test: Step by Step* Chapter 10 (continued) & Using audio-visual materials to practice English related to plants and animals	植物や動物に関してのビデオや音声を基に、発話練習する。様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話す事ができる。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
12	Studying other chapters in*TOEIC Test: Step by Step* (by students' choice)	既習の内容から学生が好きなジャンルやトピックを選び、準備をして発表を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
13	Review and discussion of topics based on textbook and other class activity	既習の内容から学生が好きなジャンルやトピックを選び、準備をして発表を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）

14	Listening and writing test	リスニングとライティングのミニテストを行う。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
15	Listening and writing test (continued) Sharing our learning in conversation	既習の授業内容を踏まえ、複数の領域を統合した言語活動を聞き取りのライティングや話し合いで確認する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 設題につき 8 枚以内	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

Short paper assignments:

Please write 2 or 3 paragraphs (equivalent to 6 sentences per paragraph) about a travel experience that you had.

科目終了試験学修のポイント

Preparation for the schooling:

Please complete Part 3 (sections V, VI, and VII) of all chapters before coming to class..

Bring a dictionary to use during class.

※「英語コミュニケーションⅣ」の科目終了試験はスクーリング時に実施されます。

教科書

三原京、他『TOEIC Test: Step by Step』南雲堂。

教員が配付する資料

参考文献

教員が配付する資料

科目コード	英語コミュニケーションⅤ（２単位）	登録年次	履修方法
7670		３年	ＳＲ
教員名	ティム・ホフマン、坂望美、別府結起		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　　・英語コミュニケーション		

科目概要・到達目標

This class begins the third year of the English Communication series. We will explore other cultures and practice advanced strategies for communication and raising your TOEIC level. We will also use audio-visual materials and group exercises. The course will be conducted to best fit the individual class members.

英語聴解力の向上を目指すための訓練と同時に、発話力の定着訓練も行い、国際理解・交流にも役立つ語学力の修得をめざす。問題の練習と会話を通して、英語の listening、writing、speaking に関するより高いレベルのコミュニケーション能力を養成する。視聴覚資料なども演習に利用する。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	Textbook introduction and materials distribution & class conversation Vocabulary, grammar and sentence structure exercise.	シラバス解説 自己紹介 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えを理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
2	*World Adventures*　Chapter 1　*India* (language and expressions about classical religions)	インドにおける言語、宗教、慣習等を英語でリスニングし、英語で感想を表現してみる。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
3	*World Adventures*　Chapter 1　*India* (continued) Exercises and group discussion	第 2 回で行った内容をもとに、インドの文化についてグループ討論を英語で行い、討論した内容を英語で発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
4	*World Adventures*　Chapter 3　*Thailand* (language and expressions about culture and festivals)	タイにおける言語、宗教、慣習など文化について、テキストを読み、また映像によるリスニングを行った後で、今回学んだことを英文で書いてみる。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
5	*World Adventures*　Chapter 3　*Thailand* (continued) Exercises and group discussion	第 4 回で行った内容をもとに、タイの文化について感じたことなどを、英語でグループディスカッション、グループ発表を行い、会話力を身に付ける。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
6	*World Adventures*　Chapter 7　*Italy* (language and expressions about art)	イタリアにおける言語や芸術という観点から英語での表記やその表現を考察する。テキストを読み、また映像によるリスニングを行った後で、今回学んだことを英文で書いてみる（様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えを理解する）。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
7	*World Adventures*　Chapter 7　*Italy* (continued) Exercises and group discussion	第 6 回で行った内容をもとに、イタリアの文化について感じたことなどを、英語でグループディスカッション、グループ発表を行い、会話力を身に付ける。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
8	*World Adventures*　Chapter 8　*Denmark* (language and expressions about social awareness)	デンマークの言語や社会の規範等について、テキストを読み、また映像によるリスニングを行った後で、今回学んだことを英文で書いてみる。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
9	*World Adventures*　Chapter 8　*Denmark* (continued) Exercises and group discussion	第 8 回で行った内容をもとに、デンマークの言語や社会の規範等について感じたことなどを英語でグループディスカッション、グループ発表を行い、会話力を身に付ける。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
10	*World Adventures*　Chapter 10　*Turkey* (language and expressions about world heritage)	トルコの言語や世界遺産について、テキストを読み、また映像によるリスニングを行った後で、今回学んだことを英文で書いてみる。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
11	*World Adventures*　Chapter 10　*Turkey* (continued) Exercises and group discussion	第 10 回で行った内容をもとに、トルコの言語や世界遺産について感じたことなどを、英語でグループディスカッション、グループ発表を行い、会話力を身に付ける。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）

12	*World Adventures* Chapter 12 *South Africa* (language and expressions about peace and harmony)	南アフリカの言語や文化について、テキストを読み、また映像によるリスニングを行った後で、今回学んだことを英文で書いてみる。また、気候や風習、平和や和についても英語による表現を考察する。	印刷授業及び面接授業（1時間）
13	*World Adventures* Chapter 12 *South Africa* (continued) Exercises and group discussion	第12回で行った内容をもとに、南アフリカの文化について感じたことなどを、英語でグループディスカッション、グループ発表を行い、会話力を身に付ける。	印刷授業及び面接授業（1時間）
14	Discussion & expansion of topics in *World Adventures* Pair exercises	ワールドアドベンチャーについて既習の内容について英語でペアワークを用いて、復習する。	印刷授業及び面接授業（1時間）
15	Review of class activity Free conversation	既習の授業内容を踏まえ、複数の領域を統合した英語の言語活動を聞き取りのライティングや話し合いで確認する。	印刷授業及び面接授業（1時間）
			面接授業：合計15時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の50%、参加態度・課題提出　総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点）　F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1設題につき８枚以内	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

Short paper assignments:
Please write 2 paragraphs (at least 4 sentences in each paragraph) about an interesting advertisement that you saw or read.

科目終了試験学修のポイント

Preparation for the schooling:
Please try to complete Chapters 2, 4, 5, 6, 9 and 11.
Bring a dictionary to use during the class.
※「英語コミュニケーションV」の科目終了試験は、スクーリング時に「英語コミュニケーションVI」と合わせて実施されるため来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

Scott Berlin & Megumi Kobayashi『World Adventures』金星堂。
教員が配付する資料

参考文献

教員が配付する資料

科目コード	英語コミュニケーションVI（２単位）	登録年次	履修方法
7680		３年	ＳＲ
教員名	ティム・ホフマン、坂望美、別府結起		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語コミュニケーション		

科目概要・到達目標

This is the second half of the third-year English Communication series. We will focus on exploring and developing new strategies for comprehension and expression. Our goal is to exercise our observation and reasoning powers in both listening and speaking. The text with DVD introduces humor and various figurative language in various creative TV commercials. This class is for students with at least a TOEIC level of 400 or equivalent. We will also use other audio-visual and printed materials and group exercises most befitting the group of participants.

英語聴解力の向上を目指すための訓練と同時に、発話力の定着訓練も行い、実践的英語聴解・会話力の修得をめざす。問題の練習と会話を通して、英語の listening、listening、speaking に関する中級レベルのコミュニケーション能力を養成する。視聴覚資料なども演習に利用する。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	English in 30 Seconds Unit 1 Meijer – Higher Standards, Lower Prices	Textbook introduction, materials distribution and class conversation.	印刷授業及び面接授業（1時間）
2	English in 30 Seconds Unit 2 This Calls for a Bud Light	*English in 30 Seconds* Chapter 1 Meijer – Higher Standards, Lower Prices (balancing quality and price in buying and selling)	印刷授業及び面接授業（1時間）
3	English in 30 Seconds Unit 3 Anti - Discrimination Campaign	*English in 30 Seconds* Chapter 1 (continued) & Group practice	印刷授業及び面接授業（1時間）
4	English in 30 Seconds Unit 4 McDonald's —King of Fast - Food Restaurants	*English in 30 Seconds* Chapter 2 This Calls for a Bud Light(balancing work and leisure)	印刷授業及び面接授業（1時間）
5	English in 30 Seconds Unit 5 Relax, it 's FedEx.	*English in 30 Seconds* Chapter 2 (continued) & Practical exercise in combining work and play	印刷授業及び面接授業（1時間）
6	English in 30 Seconds Unit 6 BMW – A Car Beyond Reason	*English in 30 Seconds* Chapter 6 BMW – A Car Beyond Reason(understanding reasons for likes and dislikes)	印刷授業及び面接授業（1時間）
7	English in 30 Seconds Unit 7 Banking for the Filthy Rich	*English in 30 Seconds* Chapter 6 (continued) & Sharing experiences which influence our opinions and goals	印刷授業及び面接授業（1時間）
8	English in 30 Seconds Unit 8 Learning Languages	*English in 30 Seconds* Chapter 9 Pepsi – Ask for More (using unusual events for language study)	印刷授業及び面接授業（1時間）
9	English in 30 Seconds Unit 9 Pepsi – Ask for More	*English in 30 Seconds* Chapter 9 (continued) & Making our own creative teaching situations	印刷授業及び面接授業（1時間）
10	English in 30 Seconds Unit 10 United Nations Development Programme	*English in 30 Seconds* Chapter 12 Coca-Cola – For Everyone(interpreting symbols in learning and entertainment)	印刷授業及び面接授業（1時間）
11	English in 30 Seconds Unit 11 Disney－Magic Happens	*English in 30 Seconds* Chapter 12 (continued) & (discussing symbols in Japan, USA, other cultures)	印刷授業及び面接授業（1時間）

12	English in 30 Seconds　Unit 12　Coca-Cola – For Everyone	*English in 30 Seconds*　Chapter 15　Hallmark of a Teacher(meaning of teaching, learning and practical application of both)	印刷授業及び面接授業（1時間）
13	English in 30 Seconds　Unit 13 Anti-Smoking Campaign	Reviewing our studies and experiences in class	印刷授業及び面接授業（1時間）
14	English in 30 Seconds　Unit 14 Counterfeit Mini Coopers	Listening and writing test	印刷授業及び面接授業（1時間）
15	English in 30 Seconds　Unit 15　Hallmark of a Teacher	Listening and writing test (continued) Sharing our learning in conversation	印刷授業及び面接授業（1時間）
			面接授業：合計15時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験 総合点の50%、参加態度・課題提出 総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞ A（100点～90点） B+（89点～80点） B（79点～70点） C（69点～60点） F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1設題につき８枚以内	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】Short paper assignments:
Please write 3 paragraphs (at least 4 sentences in each paragraph) about your ideas for improving Japanese society.

科目終了試験学修のポイント

Bring a dictionary to use during the class and participate in class exercises.
教材の使い方と演習目的の理解のために pp. 3 - 5 (TO THE STUDENT and CONTENTS) をよく読むこと。Unit 1 から Unit 15 までの２、３の問題練習を行うこと。
※「英語コミュニケーションVI」の科目終了試験はスクーリング時に実施されます。

教科書

青木 雅幸『English in 30 Seconds：Award-Winning TV Commercials from Cannes Lions -「カンヌ国際広告祭受賞」TV コマーシャルで学ぶ異文化の世界』南雲堂
教員が配付する資料

参考文献

教員が配付する資料

科目コード	衛生学（２単位）	登録年次	履修方法
6010/6011 6012/6013		２年	ＳＲ
教員名	石本強、菅沼太陽、手塚和美		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

人々の健康と病気、そして社会の情勢は刻々と変化していく。健康問題に関する衛生学諸領域の基礎的事項について理解するとともに、それらが健康に如何なる影響を及ぼすかを考え、併せて、子供のときからよい環境衛生条件を維持することが重要であることを認識させることを主なねらいとして、人間生活における身近な問題としての環境衛生を理解する。

学修内容	
1	＜衛生学概論＞　教科書 pp.1-6 を読み、衛生・公衆衛生学とは何か、WHO による健康の定義とは何か、予防医学の意義と分類、プライマリケアについて、医学・医療と人権について学修する。
2	＜疫学＞　教科書 pp.19-25 を読み、疫学の意義、疫学調査の方法、疫学的因果関係、感染症の疫学、集団健診（スクリーニング検査）について学ぶ。
3	＜感染症（結核・難病を含む）１＞　教科書 pp.26-36 を読み、感染症の定義、感染症対策の現状、感染症対策の原理、主な感染症について学修する。
4	＜感染症（結核・難病を含む）２＞　教科書 pp.36-47 を読み、感染症の予防対策（予防接種を含む）、食中毒、結核・難病、近年の感染症（新興・再興感染症）について学修する。
5	＜母子保健＞　教科書 pp.48-59 を読み、母子の健康、少子化の現状と対策、健やか親子２１、母体保護法、児童福祉法について学ぶ。
6	＜学校保健＞　教科書 pp.60-67 を読み、学校保健の意義、保健管理・環境管理、思春期における摂食障害、学校安全、学校給食（食物アレルギーの事故防止等）について学修する。
7	＜精神保健＞　教科書 pp.94-97 を読み、精神保健の概要、ライフステージの各段階における精神的健康・障害、精神障害の分類、関連法規について学ぶ。
8	＜産業保健（労働衛生）１＞　教科書 pp.98-105 を読み、労働と健康、作業管理、作業環境管理、健康管理、有害物質の管理、主な労働衛生対策について学修する。
9	＜産業保健（労働衛生）２＞　教科書 pp.105-112 を読み、産業疲労と VDT 作業対策、産業ストレス、職業病、労働災害の現状と対策について学ぶ。
10	＜環境保健１＞　教科書 pp.113-120 を読み、環境衛生とは何か、環境保健の意義、空気と健康、温熱条件（温度、湿度、気流速度、熱放射）と健康、放射線と健康について学修する。
11	＜環境保健２＞　教科書 pp.120-134 を読み、水質と健康、居住環境（衣服および住居）と健康、廃棄物処理と健康、衛生害虫などの防除について学ぶ。
12	＜環境保健３＞　教科書 pp.134-145 を読み、環境保全とは何か、大気汚染被害と対策、水質汚染被害と対策、騒音・振動・悪臭被害と対策について学修する。
13	＜環境保健４＞　教科書 pp.145-154 を読み、有害化学物質と健康影響、環境保全施策、環境基本法、公害健康被害の補償について学ぶ。
14	＜食品衛生・国民栄養＞　教科書 pp.155-163 を読み、食品衛生、食品の安全性と衛生管理、国民健康・栄養の現状、食育基本法について学ぶ。
15	＜まとめ＞　1～14 で学習したことを総合し、衛生学の各分野が我々の生活にどのようにかかわっているのかをまとめ、レポート課題のための知識を整理する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 環境衛生の意義と具体的対策について述べよ。

＜ポイント＞

衛生学における環境衛生は我々の生活に深く関わっている。私たちの命、生活を守るために何が規制されているのか、その理由は何なのかを具体的な環境要素を取り上げて述べよ。また、予防対策についてもまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．近年の感染症の傾向とその予防対策について述べよ。

＜ポイント＞

感染症とは何か、近年の感染症には具体的に何があるのかを説明し、その対策についてまとめること。

2．ストレスと精神疾患の現状および対策について述べよ。

＜ポイント＞

ストレスと精神健康の関係、メンタルヘルスケアの現状、ライフステージ各段階における精神保健対策についてまとめること。

3．労働衛生の3管理について述べよ。

＜ポイント＞

労働衛生で管理体制を確立させるべき3対策について、それぞれまとめること。

4．職場のメンタルヘルスおよび過重労働対策の重要性について述べよ。

＜ポイント＞

今日の労働衛生における最重要課題である上記2点について、現状と対策をまとめること。

5．環境衛生分野における物理環境要因についてもっとも気になるものを1つ選び、定義、人体影響、環境基準値、関連法規について述べよ。

＜ポイント＞

数多くある物理環境要因の1つを選び、その環境衛生学上の定義、人体影響、環境基準値、関連法規についてまとめる。

6．生活環境の悪化が引き起こした疾病についてどのようなものがあるか、述べよ。

＜ポイント＞

水や空気などに含まれる有害物質が引き起こした疾病とその歴史、現状、現在における対策についてまとめよ。

教科書

緒方正名『基礎衛生・公衆衛生学』朝倉書店。

参考文献

鈴木路子、他『教育健康学―教育と医療の接点を求めて』ぎょうせい。

科目コード	英文学(作家・作品論) (2 単位)	登録年次	履修方法
7570		2年	R
教員名	髙橋みどり、山口敬雄		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　　・英語文学		

科目概要・到達目標

英文学を修得するには、イギリス文学の時代思潮やイギリスの作家と作品･作風について精通しなければならない。この授業では、英文学の入門書『イギリス文学概観』をテキストに使用して、英文学の歴史的主潮を概観し、英文学の 29 名から成る主要作家とその主要作品を考察するとともに、各々の作家とその作品の作風や時間的・空間的背景あるいは文化的背景をも明らかにする。　この入門書では、イギリスの文学思潮や作家と作品･作風が概略的にしか取り上げられていないので、参考文献を参照して、さらに詳しく調べておく必要がある。関心のある作品を実際に翻訳で読んでおくとさらに有益であろう。

学修内容

1	第3章「チョーサー」、第4章「スペンサー」 ◎この授業で扱う各々の作家について、毎回以下の学習活動を行うこと。①テキストに記載された代表作の抜粋（原文）を、注を参照しながら丁寧に読み、内容の理解に努める。②作家と作品について理解を深めるには、テキストのみでは十分でないので、参考資料を参照してさらに詳しく調べる。③作品に描かれた、英国の文化や舞台となる地域の文化について考察を深める。 紀元６００年から２世紀間は、古英語の時代と呼ばれ、ゲルマン民族の移動と連動して、アングル族、サクソン族がブリテン島に渡ってきた時期である。この時代の最大の文学は、叙事詩『ベオウルフ』である。 中世時代の最高の文学は、南イングランド方言で書かれたチョーサーの詩『カンタベリー物語』であり、代表的な散文はマロリーの『アーサー王の死』である。 １６世紀のルネッサンス期には、人文主義者モアの『ユートピア』、シドニーの『アルケイディア』、スペンサーの物語叙事詩『妖精の女王』が生まれた。スペンサーの作品と詩形式は、シェイクスピアやミルトンなど後世の作家に影響を与えた。
2	第5章「マーロー」、第6・7章「シェイクスピア」 エリザベスⅠ世時代の最大の劇作家はシェイクスピアである。彼の劇作のジャンルは、喜劇、悲劇, 史劇、ロマンス劇にわたり、作品は通例4期に分けられる。四大悲劇が書かれた第3期は彼の独壇場であった。 ＊作家の人物像と作品の作風の特徴を捉えること。
3	第8章「ベン・ジョンソン」、第9章「ジョン・ダン」 17 世紀初頭、劇作家ベン・ジョンソンは「気質喜劇」という新たなジャンルを生み出した。ジョン・ダンは、19 世紀のコールリッジ、20 世紀の T. S. エリオットから再評価を受けて以来、形而上詩の代表的詩人と認識されている。 ＊取り上げる作家の名作といわれる作品を読んでおくと、レポートや科目終了試験の解答が書きやすいであろう。
4	第 11 章「ミルトン」、第 12 章「ドライデン」 詩人ミルトンの最大の偉業は、叙事詩作品『失楽園』を完成させたことである。 17 世紀末から 18 世紀後半にかけての時期は、古典主義の時代と呼ばれ、理性と風刺が重視された。初期の代表者はドライデンである。 ＊文学の歴史のみならず作家と作品の時代背景を知ることも有益である。
5	第 13 章「ポープ」、第 14 章「サミュエル・ジョンソン」 古典主義中期の代表者はギリシア・ローマの詩人を手本としたポープであり、後期の代表者は学者・文筆家の名声を確立したサミュエル・ジョンソンである。
6	第 15 章「リチャードソン」、第 16 章「オースティン」 １８世紀の初めにイギリス小説は、デフォーとスウィフトから始まったが、中頃には４人の作家が活躍し、４つの車輪といわれた。その１人がリチャードソンであり、書簡体小説『パメラ、徳の報酬』は、最初の優れた近代小説といわれる。オースティンは１８世紀の風俗小説の伝統を発展させ、ヴィクトリア朝時代の作家に影響を与えた。
7	第 17 章「ブレイク」、第 18 章「ワーズワス」 １８世紀には、ロマン主義文学の先駆となる情緒を重んじる詩人が出現し、彼らは前ロマン派詩人と呼ばれる。その１人がブレイクであり、優れた彫刻家でもあった。ロマン主義はワーズワスとコールリッジが詩の世界を革新しようと意図して、『叙情民謡集』を出版したときから始まった。
8	第 19 章「コールリッジ」、第 20 章「バイロン」 後期ロマン派詩人のバイロンは、ヨーロッパのロマン派の心情の体現者とみなされて、ヨーロッパの文学、美術、音楽に大きな影響を与えた。
9	第 21 章「シェリー」、第 22 章「キーツ」 シェリーは故国を離れて、４年後の死までイタリアに住んだが、想像力と永遠の美を追求した代表作はすべてその４年間に書かれた。キーツは若年で完成度の高い作品を次々に発表した天才詩人であった。
10	第 24 章「テニソン」、第 25 章「ブラウニング」 ヴィクトリア朝時代の２大詩人は、テニソンとブラウニングである。テニソンは国民感情に沿う真面目で道徳性の高い、それでいて優雅でわかりやすい詩を書いたが、ブラウニングの詩は、はるかに難解で滑らかさに欠けるといわれる。
11	第 26 章「ディケンズ」、第 27 章「エミリ・ブロンテ」 ヴィクトリア朝時代最大の小説家ディケンズは、会話を巧みに使って人物を描写し、庶民の生活を描いて、国民の人気を博した。エミリ・ブロンテは、女性の権利や真実の愛や情念をあからさまに描いた。
12	第 28 章「ハーディ」、第 29 章「オスカー・ワイルド」 19 世紀末、大英帝国の衰退期を代表する小説家ハーディは、運命に翻弄される人間と永遠不滅の土地を描いた。「芸術のための芸術」の一派を代表する唯美主義者ワイルドは、波乱の生涯を送った 19 世紀末文化の体現者である。
13	第 30 章「E. M. フォスター」、第 31 章「ヴァージニア・ウルフ」、第 33 章「D. H. ロレンス」 フォスターは、リアリズム小説を一歩深化させ、象徴や寓話を用いながら新しい女性や男性の存在を描く、初期モダニズムの作品を書いた。モダニスト、フェミニスト、リベラル知識人のウルフは、高い芸術性と批評性の両方を有する女性作家である。ロレンスは、「階級」と「性」に大きな関心を寄せ、存在の本質を鋭く描いた革命的文学者である。
14	第 34 章「ジェイムズ・ジョイス」、第 35 章「T. S. エリオット」 モダニズムの文学の代表的作家の１人、ジョイスは独創的な手法を用いて、アイルランドを舞台にカトリック的な雰囲気の作品を書いた。T. S. エリオットは、独仏伊語からサンスクリットまでででてくる難解な詩を書く一方、文芸評論家としてもすぐれた業績を残した。

15	レポートの作成 【要点と諸注意】 ＊　まずノートを作成する。作品を要約するには、内容をしっかりと把握し、自分の判断基準に基づき書き留める内容を取捨選択する。 ＊　資料を検索し、参照して、自分のレポートに活用できる指摘があれば、参照する内容とその文献情報をノートに追加する。 ＊　論文のアウトラインを考える。できるだけ細部まで決めておいた方が、執筆はスムーズに進む。
学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　ウィリアム・シェイクスピアの人物と主要作品について述べよ。

＜ポイント＞
シェイクスピアはどのような人生を送り、どのような作品を書いたのか（主要作品でよい）を調べてまとめること。教科書は情報が少ないので、参考文献に挙げた文学史等を参照すること。

科目終了試験学修のポイント

1．古典主義の作家（ドライデン、ポープ、サミュエル･ジョンソン）の人物と主要作品について
＜ポイント＞
ドライデンやポープなど古典主義の詩人は、均衡と調和を重んずるリズムを尊重し、特別な詩的言い回しを散りばめることに専念した。ジョンソンの業績は、英語辞書、シェイクスピア全集、詩、小説、伝記、紀行の刊行から、「文学クラブ」の主催にまで及ぶので、１８世紀の中期から後半をジョンソン博士の時代ともいわれる。

2．近代小説の作家（リチャードソン、オースティン）の人物と主要作品について
＜ポイント＞
リチャードソンは書簡体形式を用い、「教えかつ楽しめる」文学という古典主義の理想あるいはスローガンに立脚して、近代小説の革新的次元を切り開いた。オースティンは田舎の中産階級の風俗を描いたが、文学形式としての小説のあり方に正面切って取り組んだ最初の作家であった。

3．ロマン主義の作家（ブレイク、ワーズワス、コールリッジ）の人物と主要作品について
＜ポイント＞
ブレイクは、詩の世界で自然界の事物を象徴化する卓越した才能を発揮した。ワーズワスとコールリッジなどロマン派の詩は、庶民の生活に題材を求めながら、庶民の日々の生活を日常の言語の中に浮かび上がらせようとした。

4．ロマン主義の作家（バイロン、シェリー、キーツ）の人物と主要作品について
＜ポイント＞
バイロンは、実際にはポープなど１８世紀古典主義の詩人の崇拝者であった。思想的なテーマが想像力と叙情性豊かな音楽性の高い言葉と絶妙に混じり合うところにシェリーの詩の特徴がある。キーツのすべての詩の基本主題は「美は真なり」であった。5．ヴィクトリア時代小説の作家（テニソン、ブラウニング、ディケンズ、エミリ・ブロンテ）の人物と主要作品について

5．ヴィクトリア時代小説の作家（テニソン、ブラウニング、ディケンズ、エミリ・ブロンテ）の人物と主要作品について
＜ポイント＞
テニソンは比較的平易な言葉で優雅さに包まれた道徳性を含む詩を書き、全国民に愛された。ブラウニングは叙情性豊かな劇的要素を含む詩を書き、劇的独白の手法は、２０世紀詩人に大きな影響を与えた。ディケンズは当時の大流行作家であり、エンターティナーと喜劇的な才能にあふれた作品を書いた。エミリ・ブロンテは、貧困な牧師の娘として育ち、乏しい書物と雑誌を手がかりに暗い閉ざされたロマン主義の世界を創りだした。

6．モダニズムの文学の作家（ジェイムズ・ジョイス、T. S. エリオット)の人物と主要作品について
＜ポイント＞
ジョイスは「意識の流れ」の手法を用いて、祖国アイルランドを舞台にした作品を書いた。T. S. エリオットは、自由詩を駆使して、現代社会の不毛な文化を描いた他、２０世紀イギリス文学最大の批評家として、文壇と学界に多大な影響を与えた。

教科書

相島倫嘉『イギリス文学概観』南雲堂。

参考文献

神山妙子『はじめて学ぶ　イギリス文学史』ミネルヴァ書房。
川口喬一『イギリス小説入門』研究社。
相島倫嘉『イギリス文学の流れ』南雲堂。

科目コード	英米児童文学(作品論)　(2 単位)	登録年次	履修方法
7600		2年	R
教員名	髙橋みどり、山口敬雄		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　　・英語文学		

科目概要・到達目標

英米児童文学の入門書『たのしく読める　英米児童文学』をテキストとして使用する。この入門書は、英米児童文学の誕生、英米の児童文学の古典、英米児童文学の発展、英米以外の英語圏の児童文学、新しい児童文学、英米の絵本などについて8章120項目から成り立っている。扱われている項目が多いので、各章から特に重要な作品を選んで考察するとともに、作家とその作品の時代的な背景や文化的な背景をも明らかにする。

学修内容

1	第1章　英米児童文学の誕生　『ロビンソン・クルーソー』、『ガリバー旅行記』 ◎この授業で扱う各々の作品について、毎回以下の学習活動を行うこと。①テキストに記載された作品の抜粋（原文）を、丁寧に読み、内容の理解に努める。②作家と作品について理解を深めるには、テキストのみでは十分でないので、参考資料を参照してさらに詳しく調べる。③作品に描かれた、英語圏の国々の文化や、舞台となる地域の文化について考察を深める。
2	第1章　英米児童文学の誕生　『クリスマス・キャロル』、『オックスフォード版ナーサリー・ライム集』 ＊児童文学の歴史のみならず作家と作品の時代背景を知ることも有益である。
3	第2章　イギリス児童文学の古典　『不思議の国のアリス』、『宝島』 ＊作家の人物像と作品の作風の特徴を捉えること。
4	第2章　イギリス児童文学の古典　『ピーター・パン』、『クマのプーさん』 ＊「子ども」という概念は17世紀ヨーロッパに出現したもので、背景には複雑に入り組んだ文化的・経済的・歴史的・社会的な要因が関わっている。児童文学は「子ども時代」が尊重される社会における、文化のたまものである。
5	第3章　アメリカ児童文学の古典　『若草物語』、『小公子』 ＊児童文学とは、原則として大人が、子どもになにかを教え、また楽しませる目的で出版したものである。
6	第3章　アメリカ児童文学の古典　『トム・ソーヤーの冒険』、『ハックルベリー・フィンの冒険』 ＊物語はだれの視点から書かれているか、一人称か、三人称か、そのことの効果はどうであるかに注意を払うこと。
7	第4章　イギリス児童文学の発展　『ナルニア国ものがたり』、『ムギと王さま』 ＊背景やさりげない描写のなかに重要な読解の鍵が隠されていないか、あるいは、筋には関係がないのに書きこまれている事象に、隠れた背後の意味がないかなど、考えながら読み直すとよい。
8	第4章　イギリス児童文学の発展　『くまのパディントン』、『チョコレート工場の秘密』 ＊作家についての情報は、読解の手がかりになりえるが、作家の経験や履歴がそのまま作品に直接反映されていると考えるのは安易である。たとえ経験がもとになっている場合でも、それがどのように作品として構築されているか考えること。
9	第5章　アメリカ児童文学の発展　『大草原の小さな家』、『エルマーとりゅう』 ＊家庭物語と呼ばれる作品群は、登場人物の少女たちが周囲の人間や物事と関わり合うなかで、社会の枠に目覚めていく過程を描く。作品に描かれる庶民の生活は、歴史書とは違う側面から、その国の歴史・文化を知る手がかりとなる。
10	第5章　アメリカ児童文学の発展　『からすが池の魔女』、『はるかなるわがラスカル』 ＊「子ども」というのは0歳から18歳にまで広げて考えられる。
11	第6章　英米以外の英語圏の児童文学　『赤毛のアン』、第7章　新しい児童文学　『ゲド戦記』 ＊カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの児童文学の流れについても概観することが必要である。
12	第8章　英米絵本の収穫　『ピーターラビットのおはなし』、『ちいさいおうち』、『あおくんときいろちゃん』 ＊児童文学において、挿絵・絵本作家は重要な役割を担ってきた。実際に作品を鑑賞して、内容や手法の特徴を把握することが好ましい。
13	まとめ：英語圏国の児童文学の流れと現状について把握する。 ＊作品の内容上の制約は書かれた時代によって異なり、現代では原則的にないといっていい。
14	レポートの作成（1） 【要点と諸注意】 ＊　作品の魅力や人気の秘密、読み継がれている理由といったものは、当然の、あるいはあまりにも茫漠とした結論しか出ないので、あまりテーマにはふさわしくない。 ＊　作家の意図を探ることにこだわりすぎないこと。作家が考えもしなかったことを、作品から読みとることは可能であり、そのほうがクリエイティブな読みかたといえる。 ＊　何を書くべきかに困ったら、その作品にもどって精読すること。なにが書かれているかと同時に「どう書かれているか」に注目するとよい。
15	レポートの作成（2） 【要点と諸注意】 ＊　「わたしは、○○と思う　/　悲しかった　/　おもしろかった」といった、主観的で裏づけのない表現、感情を述べるのは避ける。 ＊　あらすじを最初から最後まで書く必要はない。レポートの冒頭、数行で簡単に説明してから論に入り、そのあとは展開上必要なときだけ書く。 ＊　外からの情報ばかりにたよらず、子どもの反応を予測することはせずに、「自分が読者として主体的にどう読んだかをまず考えること。

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　『たのしく読める　英米児童文学』で取り上げられている作品をいずれか一つ日本語で読み、その作品について自分の意見を述べよ。

＜ポイント＞

教科書と参考文献に挙げている「イギリス文学ガイド」を参考にして作品を選んで読み、その作品について自分なりの解釈を試みるようにすること。主観的な感想文にならないように注意をすることが大切である。

科目終了試験学修のポイント

1．「ロビンソン・クルーソー」、「ナルニア国ものがたり」、「赤毛のアン」の作者と作品について

＜ポイント＞

「ロビンソン・クルーソー」は冒険物語の始祖といわれるが、元来子ども向けに書かれたものではなく、縮小版やチャップブックに再話されて子どもにも流布した。「ナルニア国ものがたり」は、別世界ナルニアの天地創造から滅亡までを描いた７巻からなる壮大なエピック・ファンタジーである。「赤毛のアン」は、リアリズムの手法で書かれた家庭物語であるが、家のない孤児が家を得るという形で逆説的に描かれているのが特徴である。

2．「ガリバー旅行記」、「小公子」、「大草原の小さな家」の作者と作品について

＜ポイント＞

「ガリバー旅行記」は、元々は風刺文学の傑作であるが、縮小版が流布し奇想天外な冒険性が子どもの心をとらえて、児童文学として受容されてきた。アメリカ生まれの少年がイギリスの貴族になる物語「小公子」は、イギリス生まれアメリカ育ちの作者が両国を行き来したその立場を最大限に活かして書いた英米の架け橋となる作品である。「大草原の小さな家」は、西部開拓時代のアメリカを舞台にイリノイ、ミネソタの大草原へ新天地を求めていく一家の物語を次女の幼い視点から描いた物語である。

3．「ピーターパン」、「チョコレート工場の秘密」、「ゲド戦記」の作者と作品について

＜ポイント＞

「ピーターパン」は、大人になりたがらない永遠の子どもの冒険を描いた、イギリスのファンタジーを代表する作品である。「チョコレート工場の秘密」は、チョコレート工場見学招待と称して、後継者を選ぶために集められた５人の子どもたちを描いた奇想天外な物語である。「ゲド戦記」は、魔法が世界を支配している架空の世界アースシーで大賢人となったゲドの成長と老いと世界自体の変容も描くシリーズである。

4．「クリスマス・キャロル」、「若草物語」、「ピーターラビットのおはなし」の作者と作品について

＜ポイント＞

「クリスマス・キャロル」は、無類の守銭奴が幽霊によって改心するファンタジーで、「クリスマスの精神」の発揚に加え、庶民の冬の風物詩が描かれ新しい児童文学の世界を拓いた作品である。「若草物語」は、南北戦争中のアメリカ北部の中流家庭の日常を描いた家庭物語の古典である。「ピーターラビットのおはなし」は、擬人化された動物が中心に暮らしている異世界ファンタジーで、写真製版を使って印刷された最初の絵本である。

5．「宝島」、「ハックルベリー・フィンの冒険」、「くまのパディントン」の作者と作品について

＜ポイント＞

「宝島」は、19 世紀全般にわたって流行した海洋冒険小説やロビンソンものの最高峰に位置する作品として知られる。「ハックルベリー・フィンの冒険」は、大人中心の文明社会に対する自然と子どもの世界の素晴らしさが強調されており、現代アメリカ文学に多大な影響を与えた作品である。「くまのパディントン」は、ペルーから密航した小さなくまが巻き起こす大騒動を描いた動物ファンタジーである。

6．「不思議の国のアリス」、「クマのプーさん」、「エルマーとりゅう」の作者と作品について

＜ポイント＞

「不思議の国のアリス」は、教訓主義を撤廃しパロディによって笑いとばして、子どもの楽しみのために書かれた児童文学の嚆矢となった。「クマのプーさん」は、動物のぬいぐるみを題材に取り上げることでイギリスのファンタジーに新しい世界を創造した名作である。「エルマーとりゅう」は、幼児から小学校低学年までを対象に、子どもの本来的な好奇心をユーモラスに描いたファンタジーである。

教科書

本多英明、他『たのしく読める　英米児童文学』ミネルヴァ書房。

参考文献

日本イギリス文学・文化研究所『イギリス文学ガイド』荒地出版社。

科目コード	英米児童文学演習（2 単位）	登録年次	履修方法
7620		3年	SR
教員名	佐々木慶子、髙橋みどり、山口敬雄		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語文学		

科目概要・到達目標

この科目では、19 世紀末のイギリスの小説家・劇作家として有名なオスカー・ワイルドの童話集『幸福な王子およびその他の物語』を取り上げ、英文の構文と内容を精確に把握し、英語の読解力の向上をめざす。また、幸と不幸、生の喜びと生の哀しみが交錯する人生の現実に焦点を当てたワイルドの童話の世界と、頭韻、倒置、繰り返し、対照、リズミカルな語法からなる文体との理解を目的とする

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	The Happy Prince 1:　幸福の王子に対する街の人々の様々な評価について整理する。(pp.1-2) 1 人目については、“useful”(p.1 l.7)と対照的に用いられている語に注意して、どのような評価を得たがっているかを明確にする。2 人目については、“for”(p.1 l.11)の意味に注意する。3 人目については、“gazed”(p.1 l.16)の類義語を 2 つ以上指摘する。4 人目については、“in”(p.1 l.19) の意味に注意する。	“The Happy Prince” pp.1-14. 読解練習	印刷授業 及び 面接授業 (4 時間)
2	The Happy Prince 2:　ツバメの恋と幸福の王子との出会いについて整理する。(pp.2-4) “the Reed made him a low bow.”(p.2 l.112-13)の意味を考える。“a ridiculous attachment”(p.2 l.17)と他のツバメが考えた理由を 2 つ挙げる。“the little Swallow was filled with pity”(p.4 l.2-3)の理由は何か明確にする。		印刷授業
3	The Happy Prince 3:　幸福の王子の生前の様子と考え方について整理する。(p.4) “the Palace of San-Souci”(p.4 l.10)での生活を、昼と夜に分けて整理する。“I never cared to ask what lay beyond it”(p.4 l.14)の理由を指摘する。“now that”(p.4 l.18)の意味を答える。		印刷授業
4	The Happy Prince 4:　幸福の王子の 1 つ目の要求とその結果について整理する。(pp.4-7) “the poor house”(p.4 l.20)の女性の身体と仕事及び子どもについて、それぞれの様子を明確にする。“It is curious.”(p.7 l.3)と言うツバメに幸福の王子はどのような説明をするか、明確にする。“he fell asleep.”(p.7 l.8)となった理由を指摘する。		印刷授業
5	The Happy Prince 5:　幸福の王子の 2 つ目から 3 つ目の要求とその結果について整理する。(pp.8-11) “a young man”(p.8 l.9)の身体的特徴を 3 点に絞って明確にする。“as”(p.9 l.1)、“as”(p.9 l.4)、“as”(p.9 l.16)、“as”(p.3 l.14)および“as”(p.1 l.5-6)のそれぞれの使い方を整理する。“I am come”(p.9 l.20)の文法上の問題を指摘する。“would”(p.10 l.14)の文法上の問題を、“could”や“might”と比較して指摘する。“while”(p.11 l.21)によって何が対照されているか、明確にする。 O・ワイルドと英文学史概論について調べること。	ディスカッションと要約・レポート作成のポイント解説 #1、O・ワイルドと英文学史概論	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
6	The Happy Prince 6:　幸福の王子の 4 つ目の要求とその結果について整理する。(p.12-13) “The streets”(p.12 l.14)の様子を 3 点に絞って整理する。“he would not leave the Prince”(p.12 l.20)とあるが、これはなぜか、その理由を明確にする。“It is not to Egypt that I am going.”(p.13 l.3)の文法上の問題を指摘する。	“The Selfish Giant” pp.15-21. 読解練習	印刷授業 及び 面接授業 (4 時間)
7	The Happy Prince 7:　幸福の王子に対する街の人々の様々な評価について整理する。(pp.13-14) 市長と市会議員が決定したことについて整理する。教授の価値観について考える。鋳造工場で起きたことについて整理する。神が天使に選ばせた“the two most precious things”(p.14 l.17)とは何か、挙げる。また、その 2 つのものはその後どのようになるのか、整理する。		印刷授業

8	The Selfish Giant 1: 大男が帰宅し庭園に看板を立てるまでの経緯について整理する。(pp.15-16) "used to"(p.15 l.2)に注意する。"How happy we are here!"(p.15 l.9-10)の文法上の問題を指摘する。"but"(p.15 l.22)の意味に注意して、ここで披瀝される大男の持論を整理する。"TRESPASSERS"(p.16 l.1)を辞書で引き、全ての意味を書き出す。		印刷授業
9	The Selfish Giant 2: 大男の庭園に起きた変化と、大男自身に起きた心境の変化について整理する。(pp.16-19) 高い壁を築き、看板を立てた大男の庭園に訪れたものと訪れなくなったものを、登場する順番で整理する。"What did he see?"(p.18 l.2)とあるが、大男は何を見たのか明確にする。"a little boy"(p.18 l.14)が泣いている理由を指摘する。"I know why the Spring would not come here."(p.18 l.23-24)とあるが、その理由は何か明確にする。		印刷授業
10	The Selfish Giant 3: 年老いた大男の庭園に起きた奇跡と結末について整理する。(pp.20-21) "a marvellous sight"(p.20 l.20)とはどのようなものだったか、整理する。"his face grew red with anger"(p.20 l.27-28)とあるが、その理由は何か明確にする。"Who art thou?"(p.21 l.8)とあるが、一体誰であったのか考える。 O・ワイルドと英文学史の中でも特に児童文学について調べること。	ディスカッションと要約・レポート作成のポイント解説 #2、O・ワイルドと英児童文学概論	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
11	The Nightingale and the Rose 1: 学生が赤いバラを求める理由と経緯について整理する。(pp.22-24) "on" (p.22 l.8)の使い方に注意してこの感嘆文を訳し、学生の気持ちを説明する。学生の身体的特徴を 4 点に絞って整理する。学生の独り言(p.22 l.20-p.23 l.6)における助動詞"will"と"shall"の使い分けに注意して、学生の女性に対する期待を説明する。	"The Nightingale and the Rose" pp.22-31. 読解練習	印刷授業 及び 面接授業 (4 時間)
12	The Nightingale and the Rose 2: ナイチンゲールが赤いバラを探しに出る過程について整理する。(pp.24-25) ナイチンゲールが赤いバラを入手するために提案したこととはどのようなことか、説明する。3 本のバラの木のそれぞれの色がどのようなものか整理する。		印刷授業
13	The Nightingale and the Rose 3: ナイチンゲールが赤いバラを入手する方法について整理する。(pp.25-26) 3 本目のバラの木が当初、ナイチンゲールの申し出を拒んだ理由について、3 つに絞って説明する。ナイチンゲールが赤いバラを入手できる唯一の方法について、3 本目のバラが説明する順序にしたがって、説明する。ナイチンゲールの独白(p.26 l.2-10)及び学生への語り掛け(p.26 l.17-25)から、ナイチンゲールが「愛」をどのように考えているか、説明する。		印刷授業
14	The Nightingale and the Rose 4: ナイチンゲールが赤いバラを入手する過程について整理する。(pp.27-29) 学生の独白(p.27 l.12-20)におけるこの女性の特徴について、4 つの二項対立を用いて整理する。バラが完成するまでのナイチンゲール、バラの木、そして月の三者の状況(p.29 l.7-21)について整理して説明する。"with"(p.29 l.24)の文法上の問題を指摘し、ここで起こっている状況を説明する。		印刷授業

15	The Nightingale and the Rose 5: 最終的に学生に生じた結末までを整理する。(pp.29-31) 学生が訪ねた時のこの教授の娘の様子を 3 点に絞って説明する。“But the girl frowned”(p.30 l.13)とあるが、その理由は何か、2 点に絞って説明する。女性が去ったのち学生が語ったこと(p.30 l.27- p.31 l.6)から、「愛」についてこの学生はどのような結論を引き出したと考えられるか、説明する。“Philosophy”と“Metaphysics”(p.31 l.5-6)の語源を調べて、この物語において、これらの語がどのように位置づけられているか考える。 O・ワイルドと英文学史の中でも特に 19 世紀の文学について調べること。	ディスカッションと要約・レポート作成のポイント解説 #3、O・ワイルドと 19 世紀英文学	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 設題につき 8 枚以内	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題 1】　「幸福な王子・他」の“The Happy Prince”を日本語で要約せよ。

＜ポイント＞
幸福の王子は、ツバメを使者としながら様々な要求をするが、(1)どのような要求があったのか、(2)その要求はどのような結果を生んだのか、(3)最終的に幸福の王子とツバメは、どのような人物からどのような評価を得たのか、という点に配慮しながら整理し要約すること。なお、英文の文法事項と構文を確認し、教科書巻末の注をも十分参照して辞書をよく引き、何度も読み返しながら内容を把握すること。

科目終了試験学修のポイント

1．“The Selfish Giant”の要約
＜ポイント＞
わがままな大男は、自分の庭園から子どもを追い出し独占するが、(1)大男の庭園はどのようになったのか、(2)その後大男はなぜ自分の態度を変化させたのか、(3)最終的に大男はどのような人物からどのように評価を得たのか、という点に配慮しながら整理し要約すること。

2．“The Nightingale and the Rose”の要約
＜ポイント＞
ナイチンゲールは、恋する若い学生のために赤いバラを求めて探すが、(1)なぜ学生は赤いバラを必要としていたのか、(2)赤いバラはどのようにして入手することが可能となったか、(3)最終的に学生に生じた結果となったのはなぜか、という点に配慮しながら整理し要約すること。

教科書

三宅雅明、橋本紀美代『幸福な王子・他』英光社。

参考文献

特になし

科目コード	英米文学演習（2 単位）	登録年次	履修方法
7610		3年	SR
教員名	佐々木慶子、山口敬雄		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語文学		

科目概要・到達目標

この授業では、文法と読解の基礎力を応用して、英文の読解力を養成する。英文の読解力を養うためには、英語の名手によって推敲を重ねて書かれたすぐれた文体の英文を読んで、その意味内容を理解する方法を取ることが有益であるので、現代アメリカ文学で代表的な作家、William Saroyan, Erskine Caldwell, Ernest Hemingway, そして Sherwood Anderson の平易な短編をテキストとして取り上げる。

Saroyan は印象主義的、牧歌的作風で読者の心をとらえる。Caldwell は力強い筆致と巧妙な心理描写で知られる。Hemingway は簡潔な文体で悲劇的な題材を扱う。Anderson は近代合理主義に生きる個人をグロテスクに描く。各々が描く人物に、自己の姿や生き方を重ね共感を抱くこともあるだろうし、また、反感を覚えることもあるだろう。アメリカ文学を通じて自国の文化を見つめ直すことが、本講義のもう一つの眼目である。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	英文を何度も繰り返し読んで、意味内容を深く正確に把握すること。 英文の内容を正確に把握するには、1 回や 2 回読んだだけでは、表面的にしか理解できず、誤解も多いので、筋道を立てて綿密に意味を考えながら、何度も繰り返し英文を読んで、内容の理解を深めていく習慣を身につけることが不可欠である。	シラバス説明。“The First Day of School”pp.1-4(10) 簡潔で軽快な会話がストーリーを推進、人物達の心理も表現している。初回のみ順に音読と全文訳。 学修ポイント：エイミーとジムの関係、ジムの生活環境を読み取ろう。自由直接話法はどんな感じ？	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
2	要約する際にも細部にわたって確認し、正確を期すること。 英文の内容をほぼ正確に読み取ったならば、要約する作業に取りかかるが、細部にわたって正確に理解していないことに気づくことがよくある。そのため、要約する際には、不正確なまま書き進めないで、細かな点を確認し、正確を期しながら進めることが大切である。	“The First Day of School” pp.4-読了。以下、担当者による音読、疑問点の検討、ポイントに沿って要約。 学修ポイント:実際のジムの学校での様子、体験をまとめよう。それは家庭にどんな変化をもたらしたか? 最後の場面で、なぜエイミーは涙を浮かべたのか?	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
3	英文の意味内容を読み取るためには、辞書をこまめに引き、語義のみならず用法や用例にも注意を払うこと。 英文の内容を把握するには、辞書とテキストの注しか頼るものがないので、注を参照し、辞書をこまめに引くことが不可欠である。辞書を引く際には、意味がわからないか不正確な言葉の語義を調べるだけで終わってしまうことが多いが、意味の他に例文や用法をも丹念に調べておくと、本文の理解を深める助けになることがある。		印刷授業
4	英文法を応用して英文の構文を理解すること。 辞書を引きながら、各英文が文法上どのような構造になっているのかをしっかり確認してから、文法に則って英文を何度も読んで日本語に訳し、内容の理解を深めるようにすること。文法上の構造を解明するには、中学校程度の文法を運用する能力が要求される。	“The Strawberry Season” pp.10-13 (24)苺摘みがどのように行われていたかまとめよう。 “would”を用い、回想として語られている。 学修ポイント：若い男女はどのように描かれているか。ファニーの人物造形（少女表象）。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
5	英文の意味内容を把握する手助けとなるので、テキストの注をよく読むこと。 英文を読むことに習熟していなければ、長い英文を読むことはきわめて困難なので、注のついたテキストを用いて、英文を読む負担を軽減し、内容把握の手助けをするのがふつうである。しかし、読解力の低い人ほど注をよく見ない傾向があるので、注を最大限に利用して内容把握を深めることが大切である。	“The Strawberry Season” pp.13-読了。 学修ポイント:語り手がファニーと二人きりになったある日の畑での出来事をまとめよう。題名との暗喩関係。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
6	文章の表面にあらわれない作者の真意をくみとる(行間を読む) こと。 現代の小説は必要最小限の事実を描写するだけで、読者のために細かな情報を提供することがないので、読者は作者の意を汲んで書かれていない部分を自分なりに補って解釈する必要に迫られる。要約する際にも、書かれていない部分を補いながらまとめることが必要である。	ワークの時間。要約とは何かを確認（補足資料２）。“The Strawberry Season” を６００字～で要約し、検討し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)

7	要約は各々のエピソードを自分の言葉で要領よくまとめること。その場合、各エピソードの関連性について注意を払うこと。 要約するためには、何よりもまず、かなり正確に深く内容を理解していることが要求される。要約の基本は、各エピソードを自分の言葉でまとめることであるが、その場合注意しなければならない点は、箇条書きにならないように、各エピソードの関連性を十分考慮に入れることが大切である。	“Indian Camp” pp.17-21(24) ポイント：ボートに乗ったところから山小屋までの描写で、インディアン・キャンプの様子を掴もう。出来事の進行と同時にニック達がここへ来た目的が明かされる。英文が作り出すここまで３作品のトーンの違いも味わおう。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
8	本文中の会話体はできるだけそのまま使用せず、自分の言葉でまとめること。 要約する場合には、英文の単なる日本語訳にならないように注意しなければならない。また、エピソード中の会話体は、その日本語訳をそのまま使用せず、会話全体を自分の言葉でまとめるよう心がけることが大切である。	“Indian Camp” pp.21-読了。 ディスカッション： 父の“post-operative exhilaration”とはどんなものか？白人と北米先住民の対比、白人からみた表象と思われるものを挙げよう。またこの体験によって、ニックが強く感じたことは何か？	印刷授業 及び 面接授業 （2 時間）
9	要約する際の文章は、稚拙で冗長な口語体を避け、論理的で簡潔な文章体で書くよう心がけること。 要約では、日常会話で使用する言葉づかいをほとんどそのまま用いた文章が多くみられる。このような口語体では、幼稚な印象を与えがちなので、文章体で書くよう心がけることが大切である。また、だらだらしたしまりのない文章も多いので、ポイントを明確にした論理的で簡潔な文章を書くよう心がけることも大切である。		印刷授業
10	文章を書く際には、日本語の書式（特に段落分け）に注意すること。 パソコンが普及したためか、日本語の文章を書く際の書式（特に段落分け）を意識していない例が多い。段落分けが全くない例、段落分けとは冒頭の 1 文の最初の 1 語だけをあけることと誤解している例、せっかく段落分けをしているにもかかわらず、各段落の第１行の１語をあけていない例、１つの段落があまりに長い例、１行あけることを段落分けと思い込んでいる例などが目につくので、注意を要する。	“Brothers” pp.25-28(5)作品は大きく３つの部分から成る。❶私と老人の出会い。❷私が読んだシカゴの殺人事件の記事。❸再び老人との出会い、そして私の感慨。 学修ポイント：まず❶において、老人はどのような人物として描かれているか丁寧に読もう。	印刷授業 及び 面接授業 （2 時間）
11	“The First Day of School”において、語りの話法に注意して読むこと。直接話法ではなく、また、間接話法でもない自由直接話法がどのような読み味を与えるかを考える。 エイミーの学校に対する懸念と、実際のジムの学校での様子、エイミーの涙などに注意して、ジムの過去に何があったのか、現在の家族の様子にどのような変化が生まれたのかを読み取ること。		印刷授業
12	“The Strawberry Season”において、回想型の語りになっている点に注意を払いながら、助動詞の would の使用方法を確認すること。 少年期に体験した甘酸っぱい思い出に、どのような暗喩が用いられているかを考えること。 ファニー・フォーブスの人物造形に注意し、どのような少女表象となっているかを考える。	“Brothers” pp.28-37　自動車工場の職工長の日常、アイオワから来た少女との出会いそして妻を殺害するに至るいきさつをまとめる。 ディスカッション:❷の部分から読み取れる殺人の動機は何か。	印刷授業 及び 面接授業 （2 時間）
13	“Indian Camp”において、ほとんど説明されることなく進行する物語の様々な謎について整理し、読解を試みること。 インディアンキャンプで執刀した手術方法について、ニックの父親がどのように感じているかに注意し、父親の人物像を考える。 北米先住民女性の困難極まる出産と、インディアンキャンプの男性たちの対応、妊産婦の夫の自殺などから、北米先住民の表象を考える。		印刷授業

14	“Brothers”において、老人の語る複雑な人間関係について整理すること。 「私」の語りが入れ子構造になっている点に注意を払うこと。 「私」の心理状態を風景の描写にに語らせる心象風景に気を付けて、10 月の葉がどのような効果生んでいるか、あるいはどのような暗喩として機能しているかを考える。	１０回の続き。残り時間で４つの作品それぞれについて追加意見・質問。 修了試験の準備。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
15	“Brothers”において、老人の狂気が果たす役割について考えること。 濃霧の中から不意に現れる状況の意味を考えること。 「私」の語りにおいて説明される、自転車工場の職長の殺人の動機について考えること。		印刷授業
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 設題につき 8 枚以内	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　『英米珠玉短篇選』の“The First Day of School,” “The Strawberry Season”を各々日本語で要約せよ。

＜ポイント＞
英語の文法事項と構文を確認し、教科書の注をも十分参照して辞書をよく引き、英文を繰り返し何度も読んで、意味内容を把握してから、エピソードごとに自分の言葉でまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１．“Indian Camp”の要約
＜ポイント＞
ニックとニックの父親らはインディアンの案内でインディアンキャンプへと向かうが、(1)インディアンキャンプへの道のりはどのようか、(2)インディアンキャンプでニックの父親は何をするのか、(3)仕事を終えた後、どのような顛末を迎えるのか、という点に配慮しながら整理し要約すること。

２．“Brothers”の要約
＜ポイント＞
語り手の「私」は、ある老人と出会うが、(1)この老人はどのような人物として描かれているか、(2)「私」が回想する不思議な殺人事件とはどのようなものか、(3)「私」は、この殺人事件の動機と奇妙な老人との間にどのような関連を見出すのか、という点に配慮しながら整理し要約すること。

教科書

安永義夫編注『英米珠玉短篇選』金星堂。

参考文献

特になし

科目コード	英米文学と映像（2単位）	登録年次	履修方法
7590		2年	R
教員名	髙橋みどり、山口敬雄		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語文学		

科目概要・到達目標

映画は、外国語習得にきわめて有効な教材であることはいうまでもないが、生の外国語を学べるという利点に加え、異文化に対する知識や理解を深化させる効用も併せ持っている。映像文化が例を見ないほど発達し、メディアリテラシーの重要性が叫ばれる現代では、映画を読み解く力がさらに必要とされるであろう。この科目では、無形文化遺産に登録されるなど、近年ますます重要視される食文化の観点から、『クレイマー・クレイマー』、『プラダを着た悪魔』、『チャーリーとチョコレート工場』等の作品を考察することにより、英語の読解力のみならず、映画の分析力の向上をも目指す。

学修内容

1	Chapter 1　*Kramer vs. Kramer* Vocabulary、Reading、Comprehension、Writing、Grammar ◎この授業で扱う作品について、毎回以下の学習活動を行うこと。①テキストの英文を、何度も繰り返し読んで、意味内容を深く正確に把握する。各練習問題に解答する。②作品について理解を深める。テキストのみでは十分でないので、参考資料を参照してさらに詳しく調べる。作品を直接鑑賞することが望ましい。③作品に描かれた、英語圏の国々の文化や、舞台となる地域の文化について考察を深める。 ＊教科書では、時代や場所の設定も様々で、プロットやテーマなども多岐にわたる映画を扱っている。作品の内容全体と場面の一部は、比較的詳細に記述されているが、それを読むだけでは関連性が理解できない恐れがあるので、映画を直接鑑賞することが望ましい。そうすることにより、英語圏の文学や文化に関する興味・関心がより高まるからである。
2	Chapter 2　*The Devil Wears Prada* Vocabulary、Reading、Comprehension、Writing、Grammar ＊外国映画はできるだけ原語で観るようにすることが望ましい。 近年、外国映画は日本語吹替え版で鑑賞することが好まれ、字幕版は敬遠される傾向にあるようだ。しかしながら、この授業で取り上げる映画に限らず、外国映画はできるだけ原語で観るようにする方がよい。外国語学習の観点からはもちろんのこと、異文化理解の観点からも、原語にふれる体験の重要性を認識する必要がある。一国の文化形成に言語の果たす役割は計り知れないものがある。
3	Chapter 3　*Super Size Me* Vocabulary、Reading、Comprehension、Writing、Grammar ＊『スーパーサイズ・ミー』は、ファストフードをテーマにしたアメリカ映画である。アメリカにファストフードが生まれた背景には、1940年代の南カリフォルニアで急速な発展を遂げたモータリゼーションがある。当時ドライブインや、分業体制を取り入れたセルフサービス方式のマクドナルド兄弟の店等が人気を集めたが、やがてこれらの店はハイウェイ建設に伴いフランチャイズ化、チェーン展開していく。食は社会の動向と緊密に連動しているのである。 また、宗教と食文化は深いつながりがある。宗教上タブーとされている食物があるように、食習慣は宗教の戒律や教えのなかで形成されてきた。例えば、カトリック信者は、キリストの受難日である聖金曜日と、灰の水曜日から復活祭までの40日間に肉を食べない習慣がある。フィッシュ・バーガーは、アメリカ・オハイオ州のマクドナルドの店主が、地域にカトリック信者が多いことから、ハンバーガーの代替品として考案したのが起こりである。何気なく口にしている日常的な食物に、宗教的意味合いが潜んでいる好例といえよう。
4	Chapter 4　*Kamome Shokudo* Vocabulary、Reading、Comprehension、Writing、Grammar ＊映画を通して、その国の文化を知ることができる。 映画は異文化を学ぶのに最適の教材といえる。ある社会でつくり出され、その社会の人々に共有・習得されながら受け継がれてきた物心両面の成果、つまり、生活・思想・科学・技術・学問・芸術・道徳・宗教・政治などが、映画ではわずか約2時間のあいだに、集約されて映し出されるのである。
5	Chapter 6　*Notting Hill* Vocabulary、Reading、Comprehension、Writing、Grammar ＊イギリス映画を観る場合には、イギリスに階級制度があることを認識しておく必要がある。 イギリスでは、現代でも依然として階級意識が残っていると指摘する人は多い。階級意識は、言葉や話し方だけでなく、家、車、服装、マナー、料理など、生活のあらゆる場面にみられるという。階級は単に職業によって決まるわけではなく、家系や収入なども絡みあうだけに複雑である。
6	Chapter 7　*No Reservations* Vocabulary、Reading、Comprehension、Writing、Grammar ＊映画を通して、その国の国民の考え方を直接知ることができる。 映画に登場する様々な登場人物の性格や行動には、国民性や地域性を抜きにしては語れないものがある。それぞれの登場人物が遭遇する種々の葛藤の原因や葛藤の解決についても、同様のことがいえる。これらは小説にもあてはまるが、映画の特徴である時間の制約や映像による視覚化により、映画ではさらに焦点化されて直接的に鑑賞者に伝わるのである。
7	Chapter 8　*Dear Frankie* Vocabulary、Reading、Comprehension、Writing、Grammar ＊イギリス映画『Dear フランキー』では、フィッシュ・アンド・チップスが重要な役割を果たしている。タラなどの白身魚のフライに厚切りのポテトフライを添えたこの料理が、19世紀に労働者階級の救世主として登場したのは、長い工場労働の後で手軽に安く外食でき、栄養価が高く腹持ちもよいためである。最近では提供する店の数もかなり減少したというが、食物の歴史を通して、食文化のみならず、地理、歴史、科学、政治、経済、社会等様々なことがみえてくるのである。
8	Chapter 9　*Seabiscuit* Vocabulary、Reading、Comprehension、Writing、Grammar ＊映画を観る場合には、時代背景をある程度知っておくべきである。 人々の思想や生き方は、その時代の背景、すなわち、社会、政治、宗教、経済などの状況に多大な影響を受けているため、歴史的想像力を働かせて、映画の舞台となっているその時代の人々の考え方や生き方を理解する必要がある。

9	Chapter 10　*Charlie and the Chocolate Factory* Vocabulary、Reading、Comprehension、Writing、Grammar ＊イギリス映画では、登場人物の会話にユーモアがよく混じることに注目すること。 ユーモアはイギリス文化の特徴の一つといってよい。古くは comedy of humours という喜劇の型も存在しており、シェイクスピアの喜劇や、スターン、フィールディングなどの小説など、英文学にもユーモアの伝統が脈々と継承されている。ユーモアには国民性が反映されるので、どのような性質をもっているのかに注意するとよいであろう。
10	Chapter 11　*Everybody's Fine* Vocabulary、Reading、Comprehension、Writing、Grammar ＊映画では過去の作品のリメイクが頻繁に行われる。アメリカ映画『みんな元気』は同名のイタリア映画のリメイクである。このイタリア映画は、小津安二郎監督『東京物語』のオマージュであると言われている。オリジナルとリメイク版の双方を鑑賞し、それらの相違点や、舞台や設定を改変する意味を考察することにより、新たな視点が得られるであろう。
11	Chapter 12　*The Witch of the West Is Dead* Vocabulary、Reading、Comprehension、Writing、Grammar ＊文学作品の映画化も多いので、原作を読んでおくと有益である。 文学はその国の文化を語るうえでも重要な領域である。古典文学の映画化から作家の伝記映画まで、映画が文学と密接に結びついているのは、文学を愛し、読書欲の旺盛な国民の支持があってのことである。文学に関する映画を鑑賞する前に、文学作品や作家のことを読んで知っておくと映画を深く理解するうえで大いに役立つ。
12	Chapter 14　*A Touch of Spice* Vocabulary、Reading、Comprehension、Writing、Grammar ＊観る人によっては、文化的背景が異なるために、監督や脚本家が送るメッセージが観る人に伝わらないこともあるのも事実である。これは文化の多様性と複雑性を考えれば無理からぬことであるが、その点が異文化を学ぶ面白さでもあり、完全に理解するのは困難であることを認めながら、受容しようと努める態度が重要である。
13	まとめ「映画が文化や社会とつながる」 ＊イギリスの正式名称は、「グレートブリテンおよび北アイルランド連合王国」であることを看過しがちである。しかし、イギリス映画は、イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランドなど、風土が異なった場所が舞台となっているので、映画の舞台となった地域の特徴を知っておく必要がある。それぞれの地域の人々が抱える問題も、地域性が大きく関わっていることがわかるであろう。
14	DVD 鑑賞　「主題の分析」 ＊研究者小野俊太郎氏によれば、映画を分析する際には、以下の方法に従い、１作品を最低３回は鑑賞すべきであるという。１回目は「あらすじ」、２回目は「人や物の関係」、３回目は「映像の組み立て」に主眼を置き、毎回メモを取りながら鑑賞する。この方法を通して、作品に対する理解や考察の深化と、分析力の向上が期待できよう。詳細は参考文献を参照のこと。
15	レポート作成 ＊これまで読解を進めてきた英文の内容を、細部にわたって正確に理解しているか、確認すること。レポート作成に取りかかる際には、不正確なまま始めるのではなく、細かな点を確認し、正確を期しながら進めることが大切である。

学生に対する評価

レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価

＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点）
C（69 点～60 点）
F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき８枚以内	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　「映画で味わう食文化」の Chapter 1、Chapter 6、Chapter 10 の Vocabulary、Comprehension、Writing、Grammar の問題に解答せよ(解答のみでよい)。

＜ポイント＞
Vocabulary の問題は、辞書をよく引いて調べること。また、 Comprehension の問題は、その前に書かれている Reading の英文をよく読んで内容を把握すると理解できるようになっている。

科目終了試験学修のポイント

１．Chapter 2、Chapter 3、Chapter 4 の Vocabulary、Comprehension、Writing、Grammar の問題
＜ポイント＞
辞書をこまめに引いて、英文法を応用しながら英文の構文を把握し、意味内容を理解したうえで、問題に解答すること。

２．Chapter 7、Chapter 8、Chapter 9 の Vocabulary、Comprehension、Writing、Grammar の問題
＜ポイント＞
辞書をこまめに引いて、英文法を応用しながら英文の構文を把握し、意味内容を理解したうえで、問題に解答すること。

３．Chapter 11、Chapter 12、Chapter 14 の Vocabulary、Comprehension、Writing、Grammar の問題
＜ポイント＞
辞書をこまめに引いて、英文法を応用しながら英文の構文を把握し、意味内容を理解したうえで、問題に解答すること。

注意: Chapter 5 ならびに Chapter 13 は扱わないので、レポート提出や試験準備の際に、間違いのないよう留意すること。

教科書

Fiona Wall Minami、松井真帆、本山ふじ子『映画で味わう食文化』朝日出版社。

参考文献

小野俊太郎『映画でレポート・卒論ライティング術』松柏社。

科目コード	栄養学（食品学含む）（２単位）	登録年次	履修方法
6230		３年	R
教員名	浅井恭子、石本強、菅沼太陽、泉二奈緒美		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

栄養の問題を人体側面から集団、個体レベルで把握し、人と食べ物および栄養状態との関係について生活行動全般を通じて把握し、健康の維持、特に生活環境の面から栄養に関する諸項目について学修する。

学修内容	
1	五大栄養素に分類し、栄養素について説明できる。 栄養素を五大栄養素に分類するため、五大栄養素の構造的な違いを説明する。
2	糖質の分子を理解し、その役割について説明できる。 糖質の構造を学修するとともに、エネルギーを産生する経路を代謝経路とともに解説する。
3	脂質の分子を理解し、その役割について説明できる。 脂質の構造を学修するとともに、エネルギーを産生する経路を代謝経路とともに解説する。
4	タンパク質の分子を理解し、その役割について説明できる。 タンパク質の構造を学修するとともに、エネルギーを産生する経路を代謝経路とともに解説する。
5	無機質の種類と役割について説明できる。 無機質の定義、種類、体内での役割を学修する。
6	ビタミンの種類とその役割について説明できる。 ビタミンの構造と体内での役割を学修する。
7	五大栄養素を機能的側面から分類できる。 （熱量素、構成素、調節素）
8	ライフステージごとの栄養の役割を説明できる。 年代別の栄養バランスについて学修する。
9	加熱による栄養の損失について説明できる。 栄養素の分子を学習し、熱による損失のメカニズムを学修する。
10	食物・栄養素の体内での消化について説明できる。 食物の消化について学び、酵素反応について説明する。
11	栄養素の小腸での吸収について説明できる。 小腸壁での吸収を分子レベルで学修する。
12	脂溶性の栄養素の腸内と肝臓での循環を説明できる。 腸肝循環の仕組みを解説し、脂溶性の栄養素が肝臓で蓄積するメカニズムを学修する。
13	水溶性の栄養素の体内での排泄を説明できる。 水溶性の体内からの排泄を腎臓の機能とともに学修する。
14	母乳の栄養素を説明できる。 母乳に多く含まれる栄養素を解説するとともに、乳児の成長に必要な栄養素を学修する。
15	母乳の利点を説明できる。 母乳の長所を栄養学だけでなく、心理学的な部分を学修する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 栄養素の役割と栄養管理について述べよ。

＜ポイント＞

栄養素の種類とその役割についてまとめ、生活習慣病等を防ぐためにはどのような食生活を送ったらよいかを、ライフステージごとに注意しなければいけない点を挙げながら論じること。

科目終了試験学修のポイント

1． 栄養素別の主な供給食品及び食品群について

＜ポイント＞

五大栄養素に分類し、それぞれの供給食品（群）を説明する。

2． 無機質の種類と栄養的意義について

＜ポイント＞

無機質の種類と役割について説明し、どのような生体反応が無機質を必要としているかを説明する。

3． 脂質の種類と栄養的意義について

＜ポイント＞

脂質が貯蔵エネルギーであり、人体での役割を説明する。

4． ビタミンの種類と栄養的意義について

＜ポイント＞

ビタミンを脂溶性、水溶性に分類し、それぞれのビタミンの役割、欠乏症を説明する。

5． 食物繊維の種類と栄養的意義について

＜ポイント＞

食物繊維の定義を説明し、大腸での役割を説明する。

6． アミノ酸の吸収と体内での利用について

＜ポイント＞

タンパク質の消化を説明し、アミノ酸がどのように吸収されるかを説明する。

教科書

渡邉早苗、他『健康と医療福祉のための栄養学』医歯薬出版。

参考文献

飛田美穂『標準看護学講座4　人体の構造と機能　栄養学』金原出版。

奥恒行、他『基礎栄養学』南江堂。

科目コード	音楽（２単位）	登録年次	履修方法
1214		１年	ＳＲ
教員名	石田美雪、伊平幸夫、岡村弘、加藤雅子、杉原由利子、高木麻衣子、 田口雅夫、角田響子、花井淑、橋本松代、樋上荘一、松本岳志、村田羊子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

１．本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。
なお、スクーリング修了試験では、ピアノ実技試験が行われる。

２．スクーリング修了試験「ピアノ実技試験」について
① ピアノ実技試験では、下記A群またはB群のいずれかを選択し、該当する課題曲すべてを自宅等で十分に練習すること。

●A群（ピアノ初心者）
『標準バイエルピアノ教則本』より
・35 番　ハ長調　4/4 拍子
・37 番　ト長調　3/4 拍子
・39 番　ト長調　4/4 拍子
・46 番　ハ長調　4/4 拍子
・49 番　ハ長調　3/4 拍子

●B群（ピアノ経験者）
『標準バイエルピアノ教則本』より
・55 番　ハ長調　4/4 拍子
・59 番　ハ長調　3/8 拍子
・66 番　ハ長調　6/8 拍子
・73 番　ハ長調　4/4 拍子
・77 番　ハ長調　3/4 拍子

② 本学から配付された教科書『標準バイエルピアノ教則本』を使用する。
③ 暗譜演奏である必要はない。
④ 選択した群の中から、スクーリング中に指定された１曲を演奏する。
⑤ ピアノ教師等に定期的（週１回等）に通って、事前に十分な練習を行ってくること。特にピアノの初心者については、音符の正しい読み方、演奏時の体の姿勢、運指などについて、自己流で学ぶことは非常に効率が悪い。正しい練習を積み重ねることが極めて大切である。ピアノの実技課題を練習せずにスクーリングに参加した場合、もしくはピアノ実技試験における評価が低い場合、単位修得は不可となる。

３．科目終了試験について
※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

学修内容

1	○スクーリングにおける学修内容と科目終了試験について 本科目の概要を理解する。特に、２冊の教科書である『標準バイエルピアノ教則本』（以下、「バイエル」と略記）および『新　保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』（以下、「音楽表現」と略記）を活用しながら、理論と実技を体験的に学び終了試験に備える。
2	○バイエル３５番、または５５番 ３５番：開始位置に注意。拍子を意識して、４分音符の拍の刻みが揺れないよう気を付けて練習すること。 ５５番：右手をなめらかに、左手はそれを妨げないようにレガートに弾くこと。特に、４小節目左手の音域移行をスムーズに。
3	○バイエル３７番、または５９番 ３７番：開始位置に注意。３拍子の流れに乗って３拍目から１拍目に戻るときに間があいてしまわないように。 ５９番：左手の分散和音型伴奏形に慣れること。１７小節目から左手のポジション移動と分散和音の変化に注意。
4	○バイエル３９番、または６６番 ３９番：３７番と開始位置は同じ。特に左手がスムーズに弾けるようよく練習すること。最後の２小節は左右をしっかり揃えて。 ６６番：右手はスラーによるまとまりを意識してやわらかく、左手の分散和音は粒を揃えてなめらかに弾くこと。
5	○バイエル４６番、または７３番 ４６番：右手はなめらかに、４拍子が揺れないよう左手の４分音符をしっかり刻むこと。８小節目右手のタイも拍がずれてしまわないよう注意すること。 ７３番：右手のミ・ド・シ・レ・という旋律が聴こえるように。７小節目の半音進行の指使いに注意。
6	○バイエル４９番、または７７番 ４９番：左手の主要３和音の分散形による伴奏(ドミソ、シレソなど)を意識して練習するように。これらの伴奏形をしっかり理解できるとその後の弾き歌いにおけるコードネームの理解へとつながっていく。 ７７番：３拍子をしっかり意識して弾くこと。小節ごとに左右交互に出る８分音符が均一になるように。中間部の臨時記号にも注意。

7	○ピアノ個人レッスン ○音楽理論１「五線譜の読み方」　＊「音楽表現」pp. 2-5 五線の線と間、音部記号と大譜表、小節・縦線・終止線、音名、変化記号、派生音について理解する。
8	○ピアノ個人レッスン ○音楽理論２「音符・休符、リズム・拍」　＊「音楽表現」pp. 5-12 音符や休符の種類と名前と長さ、拍子と拍子記号、リズムについて、具体的な譜例を通して理解する。
9	○ピアノ個人レッスン ○音楽理論３「さまざまな用語と記号」　＊「音楽表現」pp. 12-26 強弱記号、速度記号、発想記号、奏法上の記号、反復記号、音程について、具体的な譜例を通して理解する。
10	○ピアノ個人レッスン ○音楽理論４「音階と調」　＊「音楽表現」pp. 26-29 長音階と短音階、長調と短調、調号、移調、転調について、実際に五線紙に書きながら理解する。
11	○簡単な伴奏での弾き歌い　＊「音楽表現」pp. 58-61 「メリーさんのひつじ」「ぶんぶんぶん」の左手は全小節とも単音伴奏で、ドまたはソのみ。「ロンドン橋」は重音伴奏。「ジングルベル」「どんぐりころころ」「大きな栗の木の下で」の左手は２小節ごとの同音型の繰り返しの曲。右手はいずれも旋律を弾く。前奏はいずれも最後の２または４小節を弾くとよい。ゆっくりでもよいから弾き歌いに努めること。
12	○コードネームによる和音伴奏での弾き歌い　＊「音楽表現」pp. 62-78 コードネームについて知り、「かえるの合唱」や「ちょうちょう」「きらきら星」などを、コードネームを見ながら和音や分散和音による伴奏型を工夫しながら弾き歌いに挑戦する。「むすんでひらいて」「手をたたきましょう」「チューリップ」「たなばたさま」「山の音楽家」「線路は続くよどこまでも」などから好きな曲を選んで練習すること。
13	○レポート設題に向けて 設題にある「わらべうた及び明治期，大正期，昭和初期，戦後のそれぞれの時期に作曲された子どもの歌の中から1～２曲ずつを取り上げ，それらの歌の特徴について、歴史的背景に触れながら考える。
14	○スクーリング修了試験に向けて 「バイエル」のA群・B群の課題曲（５～６曲）の中からそれぞれ指定された１曲を練習すること。
15	○科目終了試験に向けて 音楽理論の筆記試験に向けてのまとめ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 わらべうた及び明治期，大正期，昭和初期，戦後のそれぞれの時期に作曲された子どもの歌の中から1～2曲ずつを取り上げ，それらの歌の特徴について，歴史的背景に触れながら述べよ。

＜ポイント＞

日本古来より伝承されてきたわらべうたと、西洋音楽理論に則って作られてきた明治期以降の子どもの歌の作曲の経緯の相違を考えるとともに、明治期以来の子どもの歌も、作曲された曲が歴史的背景によって明確な特徴のあることを、実際にその時代の曲を取り上げながら考察する。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング授業後に、下記内容を中心とした音楽理論の試験を行う。※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

１．音楽の指導に必要な基礎事項（五線譜、音部記号と音名および階名、音符と休符）について

＜ポイント＞

① 線譜の線や間の名前、ト音記号・ヘ音記号、大譜表、音名、階名など。

② 音符と休符の長さと意味。

２．基本的事項（拍と拍子、拍子の種類と指揮棒の振り方）について

＜ポイント＞

① 拍と拍子の意味。

② 拍子の種類と、それらの拍子の曲を指揮するときの指揮棒の振り方。

３．音程について

＜ポイント＞

音程の度数の数え方と種類。

４．音階(長音階、短音階)と調について

＜ポイント＞

長音階と短音階、調号と調名、音階各音の名称。

５．主要三和音とその連結について

＜ポイント＞

三和音とその種類、和音の基本形と転回形、主要三和音の連結によるカデンツ。

６．楽譜に用いられる記号と標語について

＜ポイント＞

① 速度標語・記号の読み方と意味。

② 強弱記号の読み方と意味。

③ 発想標語の読み方と意味。

④ 奏法を示す標語・記号の読み方と意味。

⑤ 反復記号・略記法。

教科書

石橋裕子、他『新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。

楽譜：『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。

参考文献

東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規出版。

岡村弘、二宮紀子、杉原由利子編著「これだけは歌って弾こう　子どもの歌　厳選 50 曲」共同音楽出版社。

小林美実監修『こどものうた１００』チャイルド本社。

初等科音楽教育研究会編『小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017 年告示小学校学習指導要領 準拠』 音楽之友社。

科目コード	音楽Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
7150		２年	ＳＲ
教員名	石田美雪、岡村弘、杉原由利子、高木麻衣子、 田口雅夫、角田響子、花井淑、原久美子、松本岳志、村田羊子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

１．「音楽Ｉ」で習得した音楽理論や楽器演奏等の基礎技能をふまえ、保育や教育の場において音楽を展開する上で必要とされる、保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。具体的には、歌唱、ピアノ伴奏、弾き歌い（ピアノ伴奏をしながら歌う）等の技術を身につけるとともに、子どもを対象とした音楽活動とその指導について実践的に学ぶ。
「音楽Ｉ」で理論・実技等の基礎を学んだ後、本科目を履修することが望ましい。
なお、スクーリング修了試験では、ピアノ実技試験がなされる。

２．スクーリング修了試験「ピアノ実技試験」について

① ピアノ実技試験では、下記A群またはB群のいずれかを選択し、2 曲選び、自宅等で十分に練習すること。

●A群（ピアノ初心者）
『標準バイエルピアノ教則本』より
- 55 番　ハ長調　4/4 拍子
- 59 番　ハ長調　3/8 拍子
- 66 番　ハ長調　6/8 拍子
- 76 番　ト長調　4/4 拍子
- 78 番　ト長調　6/8 拍子

●B群（ピアノ経験者）
『標準バイエルピアノ教則本』より
- 80 番　ニ長調　3/4 拍子
- 88 番　ト長調　4/4 拍子
- 93 番　イ短調　6/8 拍子
- 96 番　ヘ長調　3/8 拍子
- 100 番　ヘ長調　3/8 拍子
- 102 番　ヘ長調　4/4 拍子
- 104 番　ヘ長調　3/8 拍子

② 本学から配付された教科書『標準バイエルピアノ教則本』を使用する。
③ 暗譜演奏である必要はない。
④ 選択した曲の中から、スクーリング中に指定された１曲を演奏する。
⑤ ピアノ教室等に定期的（週１回等）に通って、十分に練習した後にスクーリングを受講のこと。

学修内容	
1	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』については、ピアノ初心者とピアノ経験者で、スクーリング修了試験の時の課題が異なる。どちらの課題が自分が勉強するのに適しているか、実際に各課題番号の曲を弾いてみて、決めること。科目終了試験の弾き歌いに向けて、どのような曲が課題となっているかを、実際に弾いてみて、自分が弾けそうな曲から、弾く練習を始める。また、慣れるためにも声を出して歌いながらピアノ伴奏をする必要がある。
2	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の9曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
3	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の9曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
4	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の9曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
5	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の9曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
6	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の9曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
7	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の9曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
8	『ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の9曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
9	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の9曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
10	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の9曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
11	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の9曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
12	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の9曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
13	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の9曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
14	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の9曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
15	スクーリング修了試験の準備、授業のまとめ

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】

保育・教育等の現場における音楽活動（園行事、学校行事等を含む）がなぜ必要なのかを述べよ。

＜ポイント＞

まず「保育・教育等の現場における活動（園行事、学校行事等を含む）」を挙げてみる。

次に、音楽指導の際に必要と思われる事項(音楽理論、発達段階、年齢区分、行事との関連など)をまとめる。

そうすることによって、具体的に挙げた音楽活動とその音楽活動が行われる事由が明らかになり、音楽活動の必要性にまで言及することができる。

科目終了試験学修のポイント

1．ピアノ弾き歌いの実技試験を行う。以下の9曲のうち、試験当日に指定される2曲を演奏する。

・「ぞうさん」　・「アイアイ」

・「さんぽ」　・「おもちゃのチャチャチャ」（3番は歌わなくてよい）

・「もりのくまさん」　・「ふしぎなポケット」

・「いぬのおまわりさん」　・「カレンダーマーチ」

・「あめふりくまのこ」

2．留意事項

①楽譜は『保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』を使用する。

②原則として楽譜通りに演奏する。ただし、ピアノ伴奏については、アレンジを加えても構わない。

③暗譜演奏である必要はない。

※実技試験合格のためには、「音楽Ⅱ」のスクーリングを受講してから受験するのが望ましいといえます。

※科目終了実技試験を申込む際には、専用の申込書をご使用ください。

教科書

石橋裕子、他『新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。

楽譜：『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。

参考文献

二宮紀子著『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社。

東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規出版。

岡村弘、二宮紀子、杉原由利子編著「これだけは歌って弾こう　子どもの歌　厳選50曲」共同音楽出版社。

小林美実監修『こどものうた１００』チャイルド本社。

初等科音楽教育研究会編『小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示小学校学習指導要領 準拠』 音楽之友社。

科目コード	音楽Ⅲ（２単位）	登録年次	履修方法
6570		３年	ＳＲ
教員名	石田美雪、岡村弘、松本岳志		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

「音楽Ⅲ」では「音楽」、「音楽Ⅱ」で習得した技術の上に立って、保育現場の長期、短期の指導計画に音楽的活動を適切に盛り込むことができるようになるため、あらためて保育における音楽活動に関わる知識と技術を磨く。子どもが歌うとはどういうことか理解し、適切に教材を選ぶため、子どもの歌の特徴を理解し、正しく歌い、演奏し、楽器で遊び、身体で表現する。ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏の技術をさらに高め、表現の指導法についても深めていく。それらの学習を通して、個人の素養と、より高い保育･教育実践に必要な知識や技能を習得する。

学修内容

1	本科目の概要と学習目標 弾き歌い課題提示：それぞれの学生の進路および進度に見合った課題を課す。 子どもの歌の特徴を実際の歌唱を通して体得する。
2	子どもの歌歌唱を通し、子どもの発声についてのメカニズムを知り、正しい発声の仕方を体得する。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い① 個別レッスンを行う。 特に子どもの興味・関心・季節を考慮しながら各学生が希望する現場でよく使われている曲を選び順次レパートリーを増やしていくようにする。
3	子どもの歌歌唱を通し、子どもの発声について自身が正しい発声で歌えるよう体得する。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い② 個別レッスンを行う。 特に子どもの興味・関心を考慮しながら各学生が希望する現場でよく使われている曲を選ぶ。
4	前回選択した曲の個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い③
5	旋律を奏でられる楽器の演奏練習、および指導法① 簡易楽器の中で、幼児教育の現場で使われている旋律 楽器を中心に演奏し、音の出し方や美しく出す方法、特別な技術などを指導する練習を行う。
6	旋律を奏でられる楽器を主とした合奏練習、および指導法②。 各グループごとのアンサンブル練習を行う。 その際、ただ単に音を出すだけでなく、美しく音楽作りができるよう考える
7	旋律を奏でられる楽器を主とした合奏発表と鑑賞。 グループごとの発表と、それを聴いた他のグループの学生の感想・意見などの発表。
8	個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い④ 個別レッスンを行う。 特に、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを徹底する。また、楽譜通りの伴奏が困難な学生はコードによる伴奏を試みる。
9	個人指導を中心とした弾き歌い⑤ 個別レッスンを行う。 特に、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを今回も徹底する。
10	手作り楽器の作成、および指導法① 手作り楽器のポイントを説明。各学生が与えられた素材をどう工夫して音に出していくかを考える。
11	手作り楽器の作成、および指導法② 手作り楽器の中で、特に旋律を出せる楽器の制作およびそれらの楽器を使ったパフォーマンスを考える
12	手作り楽器での合奏練習と身体表現 それぞれが制作した楽器を使い、歌や身体活動を伴う小さなパフォーマンスを入れながらグループで合奏練習を行った後発表し、それを聴いた他のグループの学生の感想・意見などの発表。。
13	個人指導を中心とした弾き歌い⑥ 個別レッスンを行う。 特に歌いながら伴奏をするなかで、しっかり声を出し、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに今回も留意する。
14	「聞こえてくる音」と「聴こうとする音」について考え、日常的に溢れている音(楽)を子どもが音楽的表現するための保育者の適切な援助についてディスカッションを行う。
15	スクーリングのまとめと、科目終了試験に向けての準備。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】子どもに歌唱指導を行うにあたっての留意点を述べよ。

＜ポイント＞

保育の現場では、歌唱は表現活動の中に位置づけられている。幼稚園教育要領や、保育所保育指針における領域「表現」を参考にして、具体例を出しながら、指導の仕方、留意点などを述べること。単に技術的な面だけでなく、表現活動、コミュニケーション活動という観点からどのように指導していくかを述べること。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング授業後に、下記内容を中心とした音楽理論の試験を行う。※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

1．聴くことと奏でることについて

＜ポイント＞

「聞こえてくる音」と「聴こうとする音」に繊細な感覚を研ぎ澄ませ、日常的に溢れている音から子どもが音楽的表現するための保育者の適切な援助について論述すること。

2．幼児用打楽器の種類と奏法について

＜ポイント＞

幼児用打楽器について、その種類を有音程打楽器と無音程打楽器に分類し、それぞれの楽器の奏法及び留意点について述べるとともに、楽器の安全性に留意し、子どもたちの興味・関心を引き出す援助に関して、具体的な例を出しながら、自由な発想で楽しく演奏できる音楽的環境を整える方法について論述すること。

教科書

石橋裕子、他『新保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。

参考文献

二宮紀子著『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社。
東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規出版。
岡村弘、二宮紀子、杉原由利子編著「これだけは歌って弾こう　子どもの歌　厳選50曲」共同音楽出版社。
小林美実監修『こどものうた１００』チャイルド本社。

科目コード	音楽科指導法（2 単位）	登録年次	履修方法
4220		2年	SR
教員名	石田美雪、伊平幸夫、田口雅夫、田村にしき、橋本松代、福嶋省吾、松本岳志		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報の機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

科目概要：本講義では、小学校教育における音楽科の役割、目標、指導内容、児童の音楽的発達について理解し、初等教育に従事する教育者として必要な指導法の基礎を身につける。

具体的には、まず学習指導要領に記載されている音楽科の目標について理解する。次に、小学校音楽科の指導内容（表現［歌唱・器楽・音楽作り］・鑑賞指導の意義・留意点、共通事項）について理解する。

それまでの学修内容を踏まえ、学習指導計画の意義、構成、内容の取扱い、音楽科の評価について理解し、指導案作成を行う。作成した学習指導案をもとに模擬授業を実施し実践感覚を高めるとともに、その振り返りを通して授業改善の視点を身につける。

履修要件：「指導法」の講義であるので、子どもに教えるのに必要な音楽理論や楽器演奏等の基礎技能が習得できていなければ、講義内容を十分に研究・理解することは不可能である。東京福祉大学の者は「音楽」「音楽Ⅱ」を、東京福祉大学短期大学部の者は「音楽基礎Ⅰ」「音楽基礎Ⅱ」を履修した後、本講義を受講すること。

到達目標：

1. 初等教育における音楽科の役割、目標を理解する。
2. 初等音楽科の指導内容と指導上の留意点を理解し、それぞれの領域の指導法を身につける。
3. 音楽の基礎的知識・技能を身につけ、教材研究を行うことができるようになる。
4. 児童の音楽的発達段階について理解する。
5. 情報機器及び教材を音楽科の授業において効果的に活用することができるようになる。
6. 学習指導計画の意義、構成、内容の取扱い、音楽科の評価について理解する。
7. 実践的な学習指導案を作成することができるようになる。
8. 模擬授業を通して授業実践の感覚を養うとともに、その振り返りを通して授業改善の視点を身につける。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	教育基本法には教育の目的と、その目的を実現させるための目標が定められている。その中で初等音楽科が果たす役割とはどのようなものか考察すること。次に、学習指導要領を熟読し、初等音楽科の目標、各学年の目標について理解するとともに、主な指導内容を把握すること。	学習指導要領に記された初等音楽科の目標、各学年の目標に関する理解を深める。音楽科の主な指導内容について理解する。また、音楽科における「主体的・対話的で深い学び」とは、「音楽的な見方・考え方」とは何か理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	歌唱指導の意義、歌唱活動の留意点について理解すること。低学年の歌唱共通教材の譜読みし、伴奏できるようにすること。	「歌唱」指導の意義と指導上の留意点について理解を深め、指導技術を身につける。低学年の歌唱共通教材の教材研究を行い、指導のねらい、指導のポイントを理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	歌唱活動の基礎技術（歌唱指導に当たっての基本的な心構え、発達段階による歌唱指導の実際）について理解すること。中学年の歌唱共通教材の譜読みし、伴奏できるようにすること。	発声法とその指導法を身につける。中学年の歌唱共通教材の教材研究を行い、指導のねらい、指導のポイントを理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
4	児童の音楽的発達について理解すること。移動ドと固定ドについて理解する。高学年の歌唱共通教材の譜読みし、伴奏できるようにすること。	児童の音楽的発達段階についての理解を深め、指導計画や指導案作成時、また授業において配慮できるようになる。移動ドで歌唱共通教材を歌えるようにする。中学年の歌唱共通教材の教材研究を行い、指導のねらい、指導のポイントを理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
5	器楽指導の意義と留意点について理解すること。アコースティック楽器の奏法、指導上の留意点について理解すること。リコーダーの取扱い、運指、奏法について理解すること。	「器楽」指導の意義を指導上の留意点についての理解を深める。アコースティック楽器の取扱いとその指導法を身につける。ソプラノリコーダーの奏法を身につけ、児童に範奏できるようになる。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
6	器楽合唱の指導時に必要な指揮法について理解する。和楽器の種類、奏法、指導法について理解する。	ソプラノリコーダーの指導法を身につける。合奏指導に必要な指揮法を身につける。和楽器の指導法を身につける。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
7	創作活動の意義、指導上の留意点、発達段階を考慮した各学年の音楽づくりについて理解する。	創作活動の意義と指導上の留意点についての理解を深め、音楽づくりの指導ができるようにする。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
8	鑑賞指導の意義、留意点、指導法について理解する。鑑賞教材（西洋音楽）にどのようなものがあるのか把握する。	「鑑賞」指導の意義と指導上の留意点について理解する。鑑賞教材（西洋音楽）の教材研究ができるようにする。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）

9	鑑賞教材（我が国の音楽及び諸外国の音楽）にどのようなものがあるのか把握する。	鑑賞教材（我が国の音楽及び諸外国の音楽）の教材研究ができるようにする。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
10	共通事項について理解する。 音楽科における ICT 活用について理解する。	音楽科の指導内容を把握した上で、「共通事項」の基本的な考え方を理解し、学習指導に組み込めるようにする。 音楽科の授業における ICT 活用の可能性について考察する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
11	学習指導計画の意義、音楽科の学習指導計画作成における基本的な考え方を理解する。学習指導要領の「第３ 指導計画の作成と内容の取扱い」を熟読し、指導計画作成にあたり配慮すべき事項について把握する。	学習指導計画、内容の取扱い、学習指導案についての理解を深める。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
12	音楽科の学習指導案の具体的な記述内容について理解する。音楽科の評価について理解する。	音楽科の評価についての理解を深める。学習指導案を作成する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
13	幼稚園・保育所・認定こども園との連携について考察する。	幼稚園・保育所・認定こども園との連携について理解する。 歌唱指導の模擬授業を実施する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
14	中学校との連携について考察する。	中学校との連携について理解する。 器楽指導の模擬授業を実施する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
15	音楽科の授業を担う者としての心構え、求められる資質・能力、指導力の向上等々について考察する。	音楽づくり、鑑賞指導の模擬授業を実施する。 科目全体のまとめ（これからの教員に求められる資質・能力・指導力について）	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 小学校における歌唱指導について述べよ。

＜ポイント＞

小学校音楽科の歌唱指導について、平成 29 年告示の学習指導要領をまとめる。また、低学年・中学年・高学年それぞれの指導における留意点（変声期の指導も含む）、歌唱に苦手意識の強い児童に対する指導における留意点等について考察・論述する。

文献を引用する場合には、引用部分（文中）に出典を明記のこと。

科目終了試験学修のポイント

１．音楽科における基礎･基本について

＜ポイント＞

学習指導要領に示された音楽科の目標と各学年の目標から、音楽科における基礎的基本的な事項を洗い出す。

２．リコーダーの指導について

＜ポイント＞

リコーダーの教育的特性をとらえた段階的な指導の在り方を探る。

３．鑑賞指導のあり方について

＜ポイント＞

音楽への情動的に交感する側面と、その音楽についての知的理解を目指す側面とをかかわらせた指導の在り方を探る。

４．音楽科における指導と評価の一体化について

＜ポイント＞

授業の計画・実践・評価・改善という一連の段階を通して、音楽科の目標に迫る方策を練る。

５．音楽科における言語活動の充実について
＜ポイント＞
共通事項をおさえた表現や鑑賞の活動を通して、「総則」に示された各教科等における言語活動の充実の具体化を図る。

教科書

有本真紀・阪井恵・山下薫子編著『教員養成課程　小学校音楽科教育法』教育芸術社

参考文献

小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
河口道朗編著『音楽教育入門 ―基本理念の構築』音楽之友社
伊藤英造『音楽の薦め』ヤマハミュージックメディア。
梅本堯夫『子どもと音楽』東大出版会。
熊木眞見子、他『子どもの豊かさに培う共生・供創の学び』東洋館出版社。
ヤマハ音楽振興会音楽研究所『音楽は子どもに何を与えられるか』ヤマハ音楽振興会。
山下薫子編著『平成29年度版 小学校新学習指導要領 ポイント総整理』東洋館出版社

科目コード	音楽実践演習（２単位）	登録年次	履修方法
4690		１年	ＳＲ
教員名	石田美雪、岡村弘、加藤雅子、高木麻衣子、田口雅夫、 杉原由利子、花井淑、樋上荘一、松本岳志、村田羊子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

「音楽」で学んだ基本的な音楽理論（楽典、和声法）、鍵盤楽器の基本的奏法を駆使して、より実践力を高めるための演習を行う。「音楽」では，演奏するために必要な知識や技術を実践を通して学ぶが、「音楽実践演習」ではさらに発展的に様々な曲を学ぶことで技術を確かなものにする。さらに読譜力を養うと同時に歌を歌うための発声法を学ぶ。「音楽Ⅱ」で学ぶリズム活動など、保育現場での音楽活動に関わる演奏に発展する保育実践に焦点を当てた演奏力を身につける。

スクーリング修了試験について

【子どもの歌弾き歌い】

スクーリング中に指定された１曲を演奏する。

留意点

①暗譜演奏である必要はない。

②原則として楽譜通りに演奏する。ただし、ピアノ伴奏については、アレンジを加えても構わない。

③間違っても止まったり、やり直したりしないように演奏する。

学修内容

1	演奏レベルチェック、課題曲提示
2	ピアノ個人レッスン（レベル毎に課題曲を提示する） 音楽応用理論①（メジャーコード、マイナーコード）
3	ピアノ個人レッスン 音楽応用理論②（その他のコード、転回形）
4	ピアノ個人レッスン 音楽応用理論③（コードで弾く歌））
5	ピアノ個人レッスン 音楽応用理論④（リズムカードの創作）
6	ピアノ個人レッスン 音楽応用理論⑤（リズムカードのグループワーク）
7	ピアノ個人レッスン 音楽応用理論⑥（リズムを使った音遊び）
8	中間のまとめ（ピアノ実技発表・音楽理論に関する筆記試験）
9	ピアノ個人レッスン（子どもの歌弾き歌い） 歌（発声法・歌に親しむために）
10	ピアノ個人レッスン（子どもの歌弾き歌い） 歌（表現方法について）
11	ピアノ個人レッスン（子どもの歌弾き歌い） 歌（保育に必要な歌の歌唱）
12	ピアノ個人レッスン（子どもの歌弾き歌い） 歌（保育に必要な歌の歌唱）
13	ピアノ個人レッスン 歌（保育に必要な歌の歌唱）
14	まとめ（ピアノ弾き歌い発表、評価）
15	科目終了試験の準備とまとめ

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】　日本の学校教育において、明治期以降『音楽』が取り入れられ発展してきた過程を、具体的な曲名と作曲者、作詞者について取り上げながら記述せよ。

＜ポイント＞

日本古来より伝承されてきたわらべうたではなく、明治期以降西洋の子どもの歌に日本の詩をあてはめたものや、西洋音楽理論に則って作られてきたいわゆる唱歌と称される曲の特徴と変遷を、実際に曲を取り上げ、作詩者・作曲者に言及しながら考察する。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング授業後に、下記内容を中心とした音楽理論の試験を行う。※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

【コードについて】

＜ポイント＞

① コードとは何か、何故コードネームについて学習するのか
② コードネーム（メジャーコードとマイナーコード）とその展開形について。
③ 子どもの歌のメロディーにコードをつけてみる。

教科書

石橋裕子、他『新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。

楽譜：『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。

参考文献

東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規出版。

岡村弘、二宮紀子、杉原由利子編著「これだけは歌って弾こう　子どもの歌　厳選50曲」共同音楽出版社。

小林美実監修『こどものうた１００』チャイルド本社。

初等科音楽教育研究会編『小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示小学校学習指導要領 準拠』 音楽之友社。

科目コード	音楽実践演習Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
4700		２年	ＳＲ
教員名	石田美雪、岡村弘、杉原由利子、高木麻衣子、 田口雅夫、角田響子、花井淑、松本岳志、村田羊子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

「音楽実践演習Ⅱ」では「音楽Ⅱ」で学んだことを実践する力をさらに高めるための演習を行う。リズム活動で使用される楽曲の演奏や動きに合わせ即興的に演奏する方法を実践的に学ぶ。わらべうたに関する理解を深め、歌い遊べるわらべうたのレパートリーを増やす。リズム楽器をはじめとする，保育活動で使用される楽器の正しい奏法、扱いに習熟し、子どもの歌や楽曲を楽器で楽しむ方法を学ぶ。弾き歌いの演奏技術に関しては継続的に演奏力を磨く。手遊び歌のレパートリーを増やし手遊び歌はわらべうた同様、正しい音程で歌えるように演習を重ねる。

スクーリング修了試験について

【子どもの歌弾き歌い】

スクーリング中に指定された１曲を演奏する。

留意点

① 暗譜演奏である必要はない。

② 原則として楽譜通りに演奏する。ただし、ピアノ伴奏については、アレンジを加えても構わない。

③ 間違っても止まったり、やり直したりしないように演奏する。

学修内容

1	オリエンテーション シラバス説明、(授業概要)、経験値に応じた課題曲選曲
2	リズム活動の実践①拍、拍子感について
3	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 年齢に応じた手遊び歌の実践①
4	リズム活動の実践②緩急と強弱
5	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン② 年齢に応じた手遊び歌の実践②
6	リズム活動③言葉とリズム
7	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン③ 年齢に応じた手遊び歌の実践③
8	リズム活動④ニュアンスを感じて表現する
9	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン④ 年齢に応じた手遊び歌の実践④
10	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン⑤ 手遊び歌の発表
11	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン⑤ アンサンブルの実践①簡易楽器の演奏法の復習、留意点について。グループ分け。
12	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン⑥ アンサンブルの実践②楽器を用いたアンサンブル練習
13	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン⑦ アンサンブルの実践②楽器を用いたアンサンブル練習（発表準備）
14	アンサンブルの実践②楽器を用いたアンサンブル、グループごとの発表。発表の振り返り。 スクーリング修了試験準備のための子どもの歌弾き歌い。
15	科目終了試験に向けてのまとめ。 今後の学び方について。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】 子どもの歌の詩と音楽について述べよ。

＜ポイント＞

わらべうた、唱歌、戦後の新しい子どもの歌それぞれの曲を例示し、それらの曲の特徴を、詩的な面からと音楽的な面から考察し論述すること。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング授業後に、下記内容を中心とした音楽理論の試験を行う。※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

1．子どもに手遊びを指導する際の留意点を述べよ。

＜ポイント＞

手遊びとはどういうものか、ということを考えることによって、保育者が留意する点を記述する。すなわち、手遊びとはパフォーマンスと歌が一体となったもので、保育者の動きを見たり歌を聴いたりしながら子どもたちは覚えていくものであり、保育者は子どもたちにとって鏡のようなものであると捉えるとわかりやすいのではないか。

また、伴奏楽器がない場合が多いので、どのように歌いだせばよいのか、またどのように歌えばよいのかを具体的に記述すること。

教科書

石橋裕子、他『新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。

楽譜：『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。

参考文献

二宮紀子著『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社。
東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規出版。
岡村弘、二宮紀子、杉原由利子編著「これだけは歌って弾こう　子どもの歌　厳選50曲」共同音楽出版社。
小林美実監修『こどものうた１００』チャイルド本社。
初等科音楽教育研究会編『小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示小学校学習指導要領 準拠』 音楽之友社。

科目コード	音楽実践演習Ⅲ　（２単位）	登録年次	履修方法
4710		３年	ＳＲ
教員名	石田美雪、岡村弘、松本岳志		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

「音楽実践演習Ⅲ」では「音楽Ⅲ」での学びを受け、より実践的な演習を積むことで，保育活動での実践力，指導力を磨く。具体的には，新しい子どもの歌はリズムも和声も難しいものが多いので、それらを理解し、指導する力を養う。保育者としての適切な指導を行えるよう、自身の音楽表現力を磨き、子どもの歌をアレンジし、楽器や身体表現する術を学ぶ。また、歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動を企画実践することで、子どもとともに創作的な或いは即興的な音楽活動が行えるようになる。

学修内容

1	本科目の概要と学習目標 弾き歌い課題提示：それぞれの学生の進路および進度に見合った課題を課す。
2	子どもの歌歌唱を通し、子どもの発声についてのメカニズムを知り、正しい発声の仕方を体得する。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い① 個別レッスンを行う。 特に子どもの興味・関心・季節を考慮しながら各学生が希望する現場でよく使われている曲を選び順次レパートリーを増やしていくようにする。
3	子どもの歌歌唱を通し、子どもの発声について自身が正しい発声で歌えるよう体得する。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い② 個別レッスンを行う。 特に現場でよく使われている生活の歌、行事の歌などの曲を選ぶ。
4	前回選択した曲の個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い③
5	トーンチャイムの演奏① トーンチャイムについて、その仕組みと奏法について学習する
6	トーンチャイムの演奏② グループ分けし、各グループごとのアンサンブル練習を行う。 トーンチャイムの演奏映像を鑑賞し、各自の感想・意見などをディスカッションする。
7	トーンチャイムの演奏③ 各グループごとのアンサンブル練習を行う。その際、ただ単に音を出すだけでなく、美しく音楽作りができるよう考える
8	トーンチャイムの演奏④。 グループごとの発表と、それを聴いた他のグループの学生の感想・意見などの発表。
9	子どもの歌歌唱を通し、子どもの発声について自身が正しい発声で歌えるよう体得する。また、音楽的 表現の方法についても考える。
10	子どもの歌『木』歌唱を通し、どのように音楽的表現を行うか考える。 総合的活動の企画① グループ分けを行う。そして、子どもの歌『木』を題材にして、各グループでどのようなパフォーマンスを行うか企画する。 具体的に、身体表現を中心としたもの、人形劇、影絵、ペープサート、マリオネットまたはそれらの組み合わせなどを考える
11	総合的活動の企画② 使用する楽器、役割、必要な材料などをグループで考える。
12	子どもの歌『木』歌唱を通し、より深く音楽的表現を考える。 総合的活動の企画③ 使用する楽器、必要な材料などを揃え、制作、練習を行う
13	総合的活動の企画④ 発表に向けての練習
14	総合的活動の企画⑤ グループごとの発表と学生同士の評価
15	総合的な表現活動について、保育活動の中での重要性についてディスカッションを行う。 その後、科目終了試験の準備を行う。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】保育現場で、保育者として子どもの歌を弾き歌いするときの留意点を述べよ。

＜ポイント＞

幼稚園教育要領や、保育所保育指針における領域「表現」を参考にして、具体例を出しながら、指導の仕方、留意点などを述べること。単に技術的な面だけでなく、表現活動、コミュニケーション活動という観点からどのように指導していくかを述べること。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング授業後に、下記内容を中心とした音楽理論の試験を行う。※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

１．トーンチャイムの有効性と、演奏法、取扱いについての留意点などについて述べよ。

＜ポイント＞

トーチャイムは、一人では曲目を演奏するのは困難であることなどを踏まえて、その有効性を考えること。また、非常に繊細な楽器であることから、その演奏法や取扱いについての留意点などを記述すること。

教科書

石橋裕子、他『新保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。

参考文献

二宮紀子著『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社。
東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規出版。
岡村弘、二宮紀子、杉原由利子編著「これだけは歌って弾こう子どもの歌　厳選 50 曲」共同音楽出版社。
小林美実監修『こどものうた１００』チャイルド本社。

科目コード	会計学（２単位）	登録年次	履修方法
8551		２年	ＳＲ
教員名	武田嘉孝		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

一般に企業は、投資家から資金の調達を行うが、その資金の運用成果を説明する責任を持つ。それを果たすために行う会計報告が企業会計の主な目的である。現行の企業会計では、投資家保護を目的とし、適正な経営成績と財政状態の開示を主としている。

それには、誰から見ても同じ結果となる客観性と取り消されることのない確実性を充たす必要がある。そのため、費用は発生主義を採用し、収益は発生主義より厳密な実現主義で把握されなければならない。この費用と収益の差として求められるのが利益である。

学修内容

1	会計がどこで利用されるのか、利用される場所の違いによりその目的がどのように違うのかを考える。
2	貸借対照表と損益計算書の意味と役割について理解する。
3	原価と利益の関係について理解する。
4	販売価格の決定方法について考える。
5	会計情報が信頼されるための会計監査の意味と役割について考える。
6	会計を仕事にする専門職について理解する。
7	税金と会計との関係について考える。
8	会計のルールをグローバル化する意味と目的を理解する。
9	会計の目的について考える。
10	会計のルールについて理解する。企業会計原則の一般原則について理解する。
11	貸借対照表の作成ルールを理解する(1)　形式、区分、配列、総額主義
12	貸借対照表の作成ルールを理解する(2)　資産、負債、純資産
13	損益計算書の作成ルールを理解する(1)　営業収益、売上原価、販管費、営業外損益、特別損益
14	損益計算書の作成ルールを理解する(2)　貸倒れ、減価償却、発生主義、費用収益対応原則
15	会計情報を経営や投資に活用するための分析方法を理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】企業会計原則の一般原則について述べよ。

＜ポイント＞

真実性の原則、正規の簿記の原則、資本取引・損益取引区別の原則、明瞭性の原則、継続性の原則、保守主義の原則、単一性の原則、などを分かりやすくまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．会計の意義について

＜ポイント＞

決算書の意味、儲けの状態と財政の状態をどのように表すかについて、教科書の第1部1，2、第2部1を読んでまとめること。

2．会計法規の財務諸表による役割

＜ポイント＞

株式会社には2つの法律によって財務諸表の作成が義務づけられている。そこで会社法にもとづく財務諸表（計算書類）と金融商品取引法による財務諸表の違いを教科書の第2部2を読んでまとめること。

3．継続性の原則と減価償却について

＜ポイント＞

教科書の第2部2，4を読み、継続性の原則について、その考え方、減価償却方法を変更した場合の問題点を指摘する。

4．貸借対照表について

＜ポイント＞

教科書の第1部2、第2部3を読み、財政状態の意義、計算・表示の仕方、作成の原則の要点をまとめること。

5．損益計算書について

＜ポイント＞

教科書の第1部2、第2部4を読み、経営成績の計算と表示の原則について理解し、損益計算書の作成原則をまとめる。

6．国際財務報告基準について

＜ポイント＞

教科書の第1部8を読み、会計におけるグローバル化の意味と目的についてまとめる。

教科書

桝岡源一郎編著『図解でナットク！　会計入門』中央経済社。

参考文献

教科書的なものとして、伊藤邦雄『ゼミナール 現代会計入門』日本経済新聞出版社など。

近年、山田真哉「さおだけ屋はなぜ潰れないのか？」光文社新書、山田真哉「女子大生会計士の事件簿1～5」角川文庫、林總「餃子屋と高級フレンチでは、どちらが儲かるか？」PHP 文庫など、会計をイメージしやすくする読み物的な優れた作品が出版されているので、こういったものを使って会計をイメージしてからテキストを読む方が会計に対するアレルギー反応が起きにくいのではないかと考えられる。

科目コード	会計学入門（２単位）	登録年次	履修方法
1920		１年	R
教員名	武田嘉孝		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理 こども		

科目概要

簿記や会計学は、数学的で技術的な側面が強く、苦手意識を持つ学生も少なくない。そこで、本科目では、会計を素材としたビジネス書や小説を題材に、数字に頼ることなく会計的思考法を学習することを試みる。会計的思考は簿記上の仕訳を前提とするものではなく、ビジネスを行うすべての人に必要な思考法であり、数字はその根拠を示すものとして用いられているに過ぎない。本科目を通じて、数字への苦手意識を持つことなく、会計的思考法を会得することをねらいとする。

学修内容

1	簿外入金と架空出金 帳簿にすべての取引を記入しないことの問題点を考えること。
2	債務保証 債務保証の意味を理解し、その功罪を考えること。
3	未収入金と未払金 未収入金・未払金の意味を理解し、その実在性を確認することの重要性を考える。
4	固定資産 減価償却の意味を理解する。
5	売掛金 残高確認の意味を理解し、売掛金管理の仕組みを考える。
6	土地の評価 会計が時価評価を求める理由を考える。
7	ＳＰＣ（特別目的会社） SPC の意味を理解する。連結会計が必要な理由を考える。
8	領収書 偽造領収書による横領の危険性について理解する。
9	売上と借入金、貸付金 売上計上の確実性について考える。
10	商品の評価 売上原価の算出方法について理解し、一度採用した会計のルールを変更することの是否について考える。
11	インターネットとインサイダー取引 インサイダー取引が禁止されるのは何故か考える。
12	資産管理 会計担当者と資金管理者が同一人物となることの危険性について考える。
13	会計数値 領収書の金額の改ざんによる不正行為のパターンについて考える。
14	棚卸し（立会）と売上原価 机上の計算だけではなく、現場での実査が重視される理由を考える。
15	まとめ

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　会計情報を読み取ることの重要性について事例を踏まえて述べよ。
＜ポイント＞テキストの各事例において何が問題とされたのか、そしてなぜそれが問題となるのかを考えること。

科目終了試験学修のポイント

1．帳簿外の取引が不正に利用されやすいのはなぜか
＜ポイント＞
すべての取引が帳簿に記載されていることの重要性を理解する。

2．未収入金、未払金、売掛金、買掛金の計上方法について
＜ポイント＞
決算時の利益操作に利用されてしまうと、適正な期間損益計算ができなくなってしまうことを理解する。

3．固定資産の評価の問題点について
＜ポイント＞
固定資産（土地を含む）の評価の意味を理解するとともに、減価償却の意味を理解する。

4．原始帳票（領収書等）をチェックすることが重要なのはなぜか
＜ポイント＞
会計監査において原始帳票をチェックすることの重要性を理解する。

5．商品（売上原価）の評価方法について
＜ポイント＞
売り上げた商品の単価計算の評価方法と、評価方法の変更による会計への影響を理解する。

6．資金管理が重要なのはなぜか
＜ポイント＞
テキストDX2の事例5が示唆する問題を考え、資金管理の重要性について理解する。

教科書

山田真哉『女子大生会計士の事件簿〈DX.1〉ベンチャーの王子様』角川文庫。
山田真哉『女子大生会計士の事件簿〈DX.2〉騒がしい探偵や怪盗たち』角川文庫。

参考文献

山田真哉『さおだけ屋はなぜ潰れないのか？身近な疑問から始める会計学』光文社新書。
林總『餃子屋と高級フレンチではどちらが儲かるか？』ＰＨＰ文庫。
※その他、会計系ビジネス書や一般的な会計学の入門書を補足して学修されるとなお良い。

科目コード	介護概論（２単位）	登録年次	履修方法
2150/2151/2152		３年/２年	ＳＲ
教員名	上松勝二郎、岡田稔、小倉弘幸、黒木豊域、清水名生江、辻本理絵子、宮淑恵、柳澤利之、吉岡英雄、		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

高齢化が進むわが国において、介護を必要とする人々は増加の一途を辿っている。本科目では、介護の概念、対象、理念などの総論を学んだ上で、介護予防、自立に向けた介護、認知症ケア、終末期ケアなどの概要について理解を深める。

学修内容	
1	介護の概念と範囲 （社会福祉士及び介護福祉士法　求められる介護福祉士像　身体介護　家事援助　生活支援）
2	介護の理念 （自立支援　エンパワメント　ADL　QOL　自己決定　尊厳　安楽・安寧　ノーマライゼーション）
3	介護の対象 （マズローの欲求段階説　国際生活機能分類（ICF））
4	介護過程 （介護サービス計画　介護計画　ケアマネジメント　アセスメント　ニーズ）
5	介護予防 （要介護状態の原因　健康寿命　廃用症候群）
6	自立に向けた介護 （残存機能　残存能力　自立生活運動）
7	家事における自立支援 （生活行為　衣食住）
8	身支度・移動・睡眠の介護 （麻痺　健側　患側　脱健着患　ボディメカニクス　レム睡眠　ノンレム睡眠）
9	食事・口腔衛生の介護 （咀嚼　嚥下　誤嚥　誤嚥性肺炎）
10	入浴・清潔・排泄の介護 （室温　湯温　羞恥心　失禁の種類）
11	認知症ケア （アルツハイマー　脳血管性認知症　中核症状　周辺症状　BPSD　受容　虐待）
12	終末期ケア （デスエデュケーション　グリーフケア　チームケア）
13	住環境 （バリアフリー　ユニバーサルデザイン　住宅改修　福祉用具）
14	医療的ケア （喀痰吸引　医療行為　医療的ケア）
15	介護における専門職の役割と連携 （社会福祉士　介護福祉士　介護支援専門員　精神保健福祉士　医師　歯科医師　看護師　保健師　薬剤師　理学療法士　作業療法士　言語聴覚士　管理栄養士　歯科衛生士　チームアプローチ）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 介護の概念、対象、理念について述べよ。

＜ポイント＞

現代における介護の対象、概念について述べた上で、可能な限り具体的な例を挙げながら、介護の理念（目的と原則を含む）について説明すること。

科目終了試験学修のポイント

1．介護過程について

＜ポイント＞

介護サービス計画と介護計画の違い、共通点について理解することが重要である。

2．認知症ケアについて

＜ポイント＞

中核症状と周辺症状について理解した上で、かかわり方や環境整備のあり方について理解することが必要である。

3．介護予防について

＜ポイント＞

介護予防の概念について理解することが必要である。

4．自立に向けた介護について

＜ポイント＞

自立の概念と意義について理解した上で具体的な介護実践のあり方を理解することが必要である。

5．介護における終末期ケアについて

＜ポイント＞

デスエデュケーションやグリーフケアを含む終末期ケアのあり方について理解することが必要である。

6．高齢者を支援する専門職の連携について

＜ポイント＞

関連する専門職について理解した上で、チームアプローチの重要性を理解する必要がある。

教科書

（平成21年度までの配本）

社会福祉士養成講座編集委員会『社会福祉士養成講座14（15）介護概論』中央法規。

（平成22年度以降の配本）

社会福祉士養成講座編集委員会『 新社会福祉士養成講座第13巻　高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規。

参考文献

福祉臨床シリーズ編集委員会『社会福祉士シリーズ17　保健医療サービス』弘文堂。

科目コード	外国語（2 単位）	登録年次	履修方法
4720		2年	SR
教員名	井草玲子		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・外国語		

科目概要・到達目標

2020 年度に新学習指導要領が全面実施となるのに伴い、小学校では外国語活動（中学年）と外国語（高学年）が新たに加わることとなる。本科目では、小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身に付けることを目標とする。場面に応じた教室英語の使用を始めとした、授業を実践する上で必要な英語力（聞く・話す・読む・書く）とそれを支える背景知識（英語の音声、語彙、文構造や異文化理解）を培っていく。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	コミュニケーション能力（第 1 章参照） 外国語教育において養成することが求められる「コミュニケーション能力」のモデルを理解する。	イントロダクション： (1) シラバス説明 (2) コミュニケーション能力モデル	印刷授業及び面接授業（1 時間）
2	第二言語習得理論（第 2 章参照） 外国語を習得する過程において関わる様々な事柄について押さえる。	第二言語習得理論： (1) 第二言語習得の過程 (2) 第二言語習得に関わる学習者要因	印刷授業及び面接授業（1 時間）
3	英語の音声（第 3 章参照） 音素、プロソディー、音変化の基本的な事柄について理解する。	英語の音声： (1) 母音と子音 (2) プロソディーと音変化	印刷授業及び面接授業（1 時間）
4	英語の文字（第 4 章参照） 文字の種類や特徴、活字書体と手書き書体等の基本的な事柄について理解する。	英語の文字： (1) 文字の種類と特徴 (2) 活字書体と手書き書体	印刷授業及び面接授業（1 時間）
5	英語の発音と綴りの関係（第 5 章参照） 音と綴りの規則的な関係や不規則性等の基本的な事柄について理解する。	英語の発音と綴りの関係： (1) 音と綴りの関係における規則性 (2) 音と文字・綴り間のずれ	印刷授業及び面接授業（1 時間）
6	英語の書き方（第 6 章参照） 記号の使い方・書き方と段落・書体の基本的な事柄について理解する。	英語の書き方： (1) 記号の使い方・書き方 (2) 段落・書体	印刷授業及び面接授業（1 時間）
7	日本語のローマ字表記（第 7 章参照） 訓令式とヘボン式の違いや、国語教育と英語教育における異なる扱いと英語学習における位置づけについて理解する。	日本語のローマ字表記： (1) 訓令式とヘボン式 (2) 国語教育と英語教育内での扱い (3) 英語学習における位置付け	印刷授業及び面接授業（1 時間）
8	英語の語彙（第 8 章参照） 英語の歴史を押さえながら、英語の単語の特徴に関する基本的な事柄について理解する。	英語の語彙： (1) 英語史から見た語彙の特徴 (2) 言語接触	印刷授業及び面接授業（1 時間）
9	英語の文法（第 9 章参照） 名詞と動詞の形態変化、冠詞、動名詞と to 不定詞の意味における違い等の基本的な事柄について理解する。	英語の文法： (1) 名詞と動詞の形態変化、冠詞 (2) 動名詞と to 不定詞の意味の違い	印刷授業及び面接授業（1 時間）
10	相互作用の中で生じる発話の意味と働き（第 10 章参照） コミュニケーションにおいて場面と働きを考慮に入れることの重要性を理解する。	授業の担当に必要な実践的な英語運用力養成： (1) コミュニケーションにおけるコンテクストと発話の働き (2) 授業場面を意識した４技能（聞く・話す・読む・書く）の養成練習 (3) ４技能のトレーニング方法	印刷授業及び面接授業（3 時間）
11	現代社会における英語（第 11 章参照） 「国際語としての英語」や小学校英語教育政策といったような、現代社会における英語の位置づけについて理解する。	現代社会における英語： (1) 国際語としての英語 (2) 小学校英語教育政策	印刷授業及び面接授業（1 時間）
12	コーパスの活用（第 12 章参照） コーパスの持つ有用性と活用方法について理解する。		印刷授業

13	絵本を学ぶ視点（第 13 章参照） 英語指導に使用する絵本選書の視点について理解する。	絵本を学ぶ視点： (1) 絵本選書における 7 つの視点 (2) 読み聞かせの指導に適した絵本	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
14	英語教育と国語教育で扱われる児童文学（第 14 章参照） 児童文学を通じて英語教育と国語教育の連携を図ることで、言語や文化の理解を更に深める方法を理解する。		印刷授業
15	異文化理解（第 15 章参照） 外国語教育における異文化理解について理解する。	異文化理解： (1) 異文化を理解するとは (2) 外国語教育における異文化理解の位置づけ	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 題につき 7～8 枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題 1】日本語との比較を交えながら英語の音声と文字の仕組みを説明し、英語の発音と綴りの関係性について述べよ。

＜ポイント＞
発音と綴りの関係性については、規則的な側面と非規則的な側面の両方の視点で述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．外国語教育におけるコミュニケーション能力のモデルについて。
＜ポイント＞
コミュニケーションの定義をしてから、Canale と Swain のモデルと Byram のモデルについて説明すること。

2．ローマ字の学習が英語学習にもたらす利点と不利益について。
＜ポイント＞
2 種類のローマ字について述べてから、国語教育と英語教育における扱いについて触れること。

3．英語の歴史的観点で見る英語の単語の特徴について。
＜ポイント＞
言語接触について触れること。

4．コンテクストと発話の働きについて。
＜ポイント＞
語用論の捉え方に基いて述べること。用例を交えながら説明するとよい。

5．英語指導に使用する絵本を選ぶ際に押さえるべき視点について。
＜ポイント＞
読み聞かせの実施に適していると思われる実在の絵本の例を交えながら述べること。

6．外国語教育における異文化理解の位置づけについて。
＜ポイント＞
文化の扱われ方について述べてから説明を展開すること。

教科書

酒井英樹・滝沢雄一・亘理陽一『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ－小学校外国語科内容論』三省堂。

参考文献

大城賢・萬谷隆一（編）『小学校英語早わかり実践ハンドブック－新学習指導要領 高学年用』開隆堂出版。
菅正隆編著『平成 29 年改訂 小学校教育課程実践講座 外国語活動・外国語』ぎょうせい。
文部科学省『小学校学習指導要領外国語活動・外国語編』開隆堂。
文部科学省『中学校学習指導要領外国語編』開隆堂。
文部科学省『高等学校学習指導要領外国語編』開隆堂。

※科目コード4660：R履修／科目コード4661：ＳR履修

科目コード	外国語活動の指導法（２単位）	登録年次	履修方法
4660/4661		２年	R/ＳR※
教員名	井草玲子、川村晃市、志手和行		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

今日、日本の英語教育は著しく進展し、2020年には、小学校3、4年生も外国語活動に参加する。そこでこの新しい動きに柔軟に対応し、より良い授業を目指すため、本科目では、外国語活動の基礎となる外国語指導法や指導案の作成方法、授業の展開方法を学修し、実際に指導案を作成する。このようにして、外国語活動への理解を深め、教育現場への応用を考えていく。

学修内容

1	外国語教育の目的と目標（第１章参照）－　外国語教育の教科化の経緯と目的、理念。学習指導要領における外国語活動の目標。小 中 高の外国語教育における小学校の役割を学修し、外国語活動の特徴を考察する。
2	関連分野からみる外国語教育の意義と方向性（第２章参照）－　母語習得・第２言語習得研究、脳科学・神経言語学、発達心理学と学習者要因、コミュニケーション能力、国際教育、国際理解教育、及び異文化間コミュニケーションの観点から、上記テーマを考察する。
3	指導者の役割・資質・能力（第３章参照）－　指導者の役割を確認し、実りのある授業を展開するため、指導者はどのような資質や能力を身に着けていけばよいのか考察する。
4	教材の構成と内容（第４章参照）－　教材・テキストの基本方針について学修し、実際に日本で使用されているテキストの構成と内容を見ていく。
5	指導目標、領域別目標、年間指導計画の立て方と具体例（第５章参照）－　年間指導計画作成上の留意点を確認し、具体例を検討し、外国語活動を通して育てたい児童像を考察する。
6	言語材料と４技能の指導（第６章）－　言語活動には、どのようなものがあるか、中学校英語と共通する内容は何か、外国語活動を通して、児童が英語に慣れ親しみ、４技能をどのように育成していくべきか、考察する。
7	教材研究 ①　児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ活動（第７章参照）―　うた、チャンツ、クイズ、ゲーム、絵本を用いた活動について、それぞれの意義・指導のポイントを学修し、自身でも体験してみる。
8	教材研究 ②（第８章参照）―児童が創意工夫し、生き生き英語を使う活動　－　教材の改善・開発の視点、コミュニケーション活動・国際理解活動・プロジェクト活動・国際交流活動について学修し、自身でも体験してみる。
9	指導方法と指導技術（第９章）－　外国語活動で活用できる指導法について学修し、児童に合った望ましい指導法を考察し、授業で活用したい指導技術の学習を深め、授業実践のために大切なことを考察する。 代表的な指導法：①Communicative Language Teaching（CLT）　②The Natural Approach ③Content-Based Instruction (CBI、 内容中心教授法) ④Content and Language Integrated Learning（CLIL、内容言語統合型学習） ⑤Task-Based Language Teaching（TBLT、タスク中心教授法） ①　Total Physical Response （TPR、全身反応法）
10	教材・教具の活用法（第10章）－　教材・教具の選定の視点について考察する。さらに、外国語活動でよく使用される教材・教具、機器の活用法や作成方法を学修する。
11	評価のあり方と進め方（第11章）－　評価の本質、観点別評価、評価方法と進め方について学修する。
12	授業過程と学習指導案の作り方（第12章）－まず、外国語活動の指導案の土台となる授業のプロセス、次に、指導案の構成と作成法、および指導案を比較検討し、最後に指導案の活用を考察する。
13	授業づくり（第13章）－ より良い外国語活動を目指し、授業前の準備、授業中、授業後の振り返りのそれぞれの段階で、留意し、実施すべきことを考察する。
14	外国語活動の成果、課題と今後の展望　（第14章）－　小学校外国語活動の過去、現在、未来を眺め、今すべきことを考察する。
15	小学校外国語活動は、小学校高学年・中学校・高校・大学の英語教育の土台となる事を銘記し、常に初等・中等。高等教育における英語の役割を考えつつ、外国語活動の果たすべき役割を考察することが大切である。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（罫線）

【設題1】小学校中学年（3、4年生）を対象とした小学校外国語活動の学習指導案を作成せよ。

＜ポイント＞

1）指導案作成にあたり、教科書第12章を参照し、①から⑩までの項目、すなわち、①日時　②学年、組　③単元名　④指導場所　⑤単元の目標　⑥言語材料　⑦準備物　⑧領域別目標　⑨単元計画　⑩本時の目標と展開、まで記すこと。

2）本授業を行うに際し、あなたが工夫した点（例、教材づくり、児童の興味関心を引くための工夫など）、ベースとなった指導法、評価規準、予想される問題点と対処法にも言及すること。

科目終了試験学修のポイント

1．外国語活動の特徴について

＜ポイント＞　外国語活動の過去・現在・未来に言及しつつ、現行の学習指導要領をベースに、現在の外国語活動の特徴を述べよ。

2．関連分野から考える外国語活動のあり方について

＜ポイント＞　外国語活動の関連領域の中で、興味のある分野を選び、文献等で学習を深め、外国語活動の指導を行う際の留意点について述べよ。

3．外国語活動の指導者の役割・資質・能力について

＜ポイント＞　特に、学級担任の役割を中心に論じること。

4．児童が楽しく英語に触れ、慣れ親しむ活動について

＜ポイント＞　活動名、対象学年、活動のねらい、指導手順、指導上の留意点を述べよ。教科書から発展させて考案した活動について述べてもよい。

5．外国語活動の評価について

＜ポイント＞　外国語活動の評価を行う際の留意点と評価の重要性について述べよ。

6．より良い外国語活動の授業を行うための工夫について

＜ポイント＞　より良い授業を実現するには、いろいろな角度から考え、授業の準備をする必要がある。具体的にどのような工夫がいるのか、またなぜそのような工夫が必要なのか述べよ。

樋口忠彦、他『新編 小学校英語教育法入門』(2017) 研究社。

アレン玉井光江『小学校英語の教育法　理論と実践』大修館書店。

岡 秀夫 編著『グローバル時代の英語教育 ― 新しい英語科指導法』成美堂。

科目コード	外国語の指導法（2 単位）	登録年次	履修方法
4730		2年	SR
教員名	井草玲子、川村晃市		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報の機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

日本の英語教育が再び大きく変わる。2020 年全面実施となる学習指導要領に従い、小学校においては中学年で「外国語活動」が前倒しとなり、高学年では「外国語」が教科化されることとなる。そこで本科目では、外国語活動・外国語の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることを目標とする。児童期の第二言語習得理論を始めとする外国語教育に必要な理論を学ぶことで外国語の指導への理解を深め、教育現場への実践に繋げていく。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	小学校外国語教育の目標と特徴（学習指導要領、第1章参照） 外国語活動・外国語活動の目標と特徴を理解する。	イントロダクション： (1) シラバス説明 (2) 授業 DVD 映像鑑賞	印刷授業及び面接授業（1時間）
2	小・中・高等学校の連携と小学校の役割（第1章参照） 小・中・高等学校で一貫した英語教育の目標と小学校の役割について理解する。	小・中・高等学校の連携と小学校の役割： (1) 小・中・高等学校で一貫した英語教育の目標 (2) 小学校が果たす役割	印刷授業及び面接授業（1時間）
3	指導者の役割（第3章参照） 児童や学校の多様性への対応を含む、指導者の役割について理解する。	指導者の役割： (1) 児童や学校の多様性への対応 (2) 資質と研修	印刷授業及び面接授業（1時間）
4	教材研究1（第4章参照） 教材の趣旨、構成、特徴について理解する。	教材研究(1)： (1) 教材の趣旨と構成 (2) 教材の特徴	印刷授業及び面接授業（1時間）
5	教材研究2（第7、8章参照） 児童が英語に楽しく触れながら慣れ親しむ活動と、創意工夫して生き生きと英語を使う活動	教材研究(2)： (1) 児童が英語に慣れ親しむ活動 (2) 児童が英語を積極的に使う活動	印刷授業及び面接授業（1時間）
6	児童期の第二言語習得1（第2章と第6章参照） 第二言語習得において受信（聞く・読む）から発信（話す・書く）へと進むプロセスについて理解する。	児童期の第二言語習得： (1) 受信から発信へと進むプロセス (2) 音声から文字へと進むプロセス	印刷授業及び面接授業（1時間）
7	児童期の第二言語習得2（第2章と第6章参照） 第二言語習得において音声から文字へと進むプロセスについて理解する。		印刷授業
8	指導技術1（第6章と第9章参照） 英語での語りかけと発話の引き出し方を押さえながら、英語を介した児童とのコミュニケーションの仕方について理解する。	指導技術： (1) 英語での語りかけと発話の引き出し方 (2) 文字言語への導き方	印刷授業及び面接授業（1時間）
9	指導技術2（第6章と第9章参照） 音声から文字言語への導き方について理解する。		印刷授業
10	授業づくり1（第5章参照） 指導目標、年間指導計画、指導形式の目標の立て方を理解する。	授業づくり(1)： (1) 指導目標と年間指導計画の立て方 (2) 指導形式の目標の立て方	印刷授業及び面接授業（1時間）
11	授業づくり2（第12章参照） 授業過程と学習指導案の作り方について理解する。	授業づくり(2)： (1) 授業過程 (2) 学習指導案の作り方	印刷授業及び面接授業（1時間）
12	授業づくり3（第9章と第10章参照） ティーム・ティーチングによる指導方法と教材及び ICT の活用方法について理解する。	授業づくり(3)： (1) ティーム・ティーチング (2) 教材及び ICT の活用方法	印刷授業及び面接授業（1時間）
13	授業づくり4（第11章参照） パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む、学習状況の評価方法について理解する。	授業づくり(4)： (1) パフォーマンス評価と学習到達目標の活用 (2) 学習状況の評価方法	印刷授業及び面接授業（1時間）

14	授業づくり５（第 13 章参照） 事前準備から振り返りまでの流れについて理解する。	模擬授業： (1) 受講生各人による模擬授業実践 (2) 模擬授業の観察及び評価	印刷授業 及び 面接授業 （3 時間）
15	外国語教育の今後（第 14 章参照） 課題と克服のためのヒントについて理解し、教師の立場でできることについて考える。	外国語教育の今後： (1) 課題と克服のためのヒント (2) 教師の立場で自身ができること	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 題につき 7～8 枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　「外国語活動」または「外国語」のどちらか１つの授業の指導案（45 分）を作成せよ。

＜ポイント＞

Hi, friends 1、*2*、または任意の教科書・教材（小学校英語教育に相応しいもの）を選び、教科書 12 章「授業課程と学習指導案の作り方」に記載されている構成と内容に従って書くこと。掲載されている指導案の例も参考にし、しっかりとしたものを作成すること。別途パソコンで作成し、レポート用紙に貼り付けて提出してもよい。なお、ワークシート等の補助教材を使用する場合は添付すること（ただし、その分はレポート用紙の規定枚数に含めない）。

科目終了試験学修のポイント

１．小・中・高等学校を通した英語教育の在り方について

＜ポイント＞

学習指導要領にある「３つの資質・能力」について触れること。

２．児童が生き生きと英語を使う活動を設計する上で、指導者が計画段階で留意すべきことは何か。

＜ポイント＞

具体的な活動例を挙げながら述べること。

３．音声から文字言語へと導く際に、指導者が留意すべきことは何か

＜ポイント＞

アルファベットの指導から、英語の「読む」「書く」指導へと説明を展開すること。

４．ティーム・ティーチングの利点と、実施の際の留意点とは何か

＜ポイント＞

ALT に限らず、外部講師とのティーム・ティーチングも踏まえて書くこと。

５．小学校の「外国語活動」と「外国語」における評価方法とその進め方について

＜ポイント＞

「外国語活動」と「外国語」について区分して説明を展開すること。

６．外国語教育の課題とその克服について

＜ポイント＞

小・中・高等学校の連携について触れること。また、教師の立場で自身ができることについても述べること。

教科書

樋口忠彦、他『新編 小学校英語教育法入門』研究社。

参考文献

大城賢・萬谷隆一（編）『小学校英語早わかり実践ハンドブック－新学習指導要領 高学年用』開隆堂出版。
菅正隆編著『平成 29 年改訂 小学校教育課程実践講座 外国語活動・外国語』ぎょうせい。
文部科学省『小学校学習指導要領外国語活動・外国語編』開隆堂。
文部科学省『中学校学習指導要領外国語編』開隆堂。
文部科学省『高等学校学習指導要領外国語編』開隆堂。
小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）

科目コード	開発経済論（２単位）	登録年次	履修方法
8820		３年	R
教員名	岡田広司、杉山章		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

開発経済学は、一国が低開発段階から経済発展を遂げるために必要な要素・政策や成長の制約要因を、経済学的手法により探る学問である。本科目では特に、高成長かつ日本企業の経営にも深い関わりのある東南アジア諸国に着目して講義を進める。東南アジアの国々には、比較的強い経済成長・経済発展がみられる国もあるが、CLM 諸国のように発展の流れに乗れていない国も存在する。発展を遂げた国、未発展・低開発の国それぞれに共通する政策や問題点を、実例を交えながら指摘し、経済発展のために今後どのような開発が必要かについて論ずる。

学修内容

1	経済発展とは、資本の蓄積や技術力の進歩に伴って、未発達で低所得の経済が近代的な産業経済に生まれ変わるプロセスのことであるが、国により発展の速度に違いがみられる。参考文献と雑誌などを参照。
2	世界で貧困はいまだ克服されていない重大な課題である。アフリカ以外では南アジアでの貧困率が高い。開発途上国の現状と特徴を知り、開発経済学の課題を理解する。参考文献と雑誌などを参照。
3	経済成長はどのようなモデルで説明されるのだろうか。経済開発の発展モデルと成長の進め方は国の資源賦存状況や政策によって異なる。参考文献と雑誌などを参照。
4	東南アジアの経済発展は主として直接投資によって達成されてきた。しかし、直接投資で経済発展が促進される訳ではなく、受け入れ国の政策が果たす役割も大きい。参考文献と雑誌などを参照。
5	ASEAN は、産業育成政策を輸入代替型から輸出志向型に改め、高い経済成長を図ってきた。経済指標で ASEAN の経済を把握するとともに工業化政策による経済発展の歴史を学ぶ。参考文献や雑誌などを参照。
6	シンガポールは高度な経済発展を遂げたが、インドネシアは人口 2 億 3 千万人の大国であるにも関わらず、2011 年の一人当たり GDP はシンガポールの十分の一以下である。その理由は何か。教科書の「シンガポール」や参考文献などを参照。
7	マレーシアとフィリピンの開発政策と経済発展を比較し、その特徴と課題を分析する。フィリピンはアジアの優等生と言われたが、なぜ遅れをとったのか。教科書の「マレーシア」、「フィリピン」や参考文献および雑誌などを参照。
8	タイは開放的な市場経済の下、自動車をはじめとした産業集積が進み、経済発展に弾みがついてきた。ベトナムもドイモイ改革を契機として急速に工業化を推進してきたが、課題もある。教科書の「タイとベトナム」や参考文献および雑誌などを参照。
9	カンボジア、ラオス、ミャンマーは ASEAN に属するが、経済発展では他の ASEAN 諸国に遅れをとっている。しかし、近年、投資先として注目を集めている。CLM 諸国の経済政策、投資政策ならびに課題を学ぶ。教科書の「ミャンマー」や参考文献ならびに雑誌・新聞などを参照。
10	メコン地域開発（GMS）は、1992 年に打ち出された地域協力構想の一環で、インフラが整備されれば国境を越えた地域の経済発展が期待されており、アジア開発銀行や日本も積極的に支援している。参考文献や雑誌・新聞などを参照。
11	わが国は ODA と民間の直接投資を通じて東南アジア諸国の経済発展を推進してきた。近年では、我が国の経済成長のために、東南アジア諸国の成長を取り込むという発想もある。参考文献や雑誌・新聞などを参照。
12	東南アジア諸国の金融システムは、経済発展に重要な役割を果たしてきたが、金融システムの自由化を進める過程で金融危機に見舞われた。金融危機の発生要因と対応策を考える。参考文献ならびに雑誌・新聞などを参照。
13	東南アジア諸国は工業化を進めてきたが、その一方で環境問題も発生した。持続的な経済成長のため、環境問題を解決しなければならない。参考文献・雑誌などを参照。
14	ASEAN は東南アジアの地域統合を目的に設立され現在 10 か国が加盟し、総人口 6 億人、名目 GDP は 1.8 兆ドルに及ぶ。東アジア地域包括的経済連携は ASEAN を軸に進んでいる。参考文献・雑誌などを参照。
15	東南アジア諸国は世界の他地域に比べ、比較的に高い成長を遂げてきたが、今後も高い成長率を維持していくためにはどのような課題があり、対応策はどうすべきか。参考文献や雑誌・新聞などを参照。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

東南アジア諸国では、シンガポールのように経済発展した国と CLM 諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー）のように経済発展が遅れた国が存在するが、なぜ経済発展に差が生まれたのか、その理由について述べよ。

＜ポイント＞

国による経済政策、投資政策等の違いなどを分かりやすくまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１．経済発展を促進する要としての直接投資について

＜ポイント＞

直接投資と経済発展との関係と直接投資に影響を与える投資政策について述べる。

２．東南アジアの国々の産業政策について

＜ポイント＞

東南アジア諸国では、産業育成政策を輸入代替型から輸出志向型に改め、高い経済成長を図ってきた。その理由について述べる。

３．タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピンの経済発展の違いについて

＜ポイント＞

タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピンの経済・産業開発政策の違いと経済発展との関係について述べる。

４．日本が東南アジア諸国の経済発展に果たした役割について

＜ポイント＞

わが国の ODA 及び民間の貿易・直接投資などと東南アジア諸国の経済発展の関係について述べる。

５．アジア金融危機について

＜ポイント＞

アジア金融危機がなぜ生じ、他の国に波及していったのか。同じような金融危機が起きる可能性がないかなどについて述べる。

６．東アジア地域包括的経済連携について

＜ポイント＞

東アジア地域包括的経済連携は ASEAN を軸に進んでいるが、TPP などと比較しながら、メリットとデメリットを述べる。

教科書

渡辺利夫『アジア経済読本　第４版』東洋経済。

参考文献

北原淳、西澤信義『アジアの経済論』ミネルヴァ書房。
朽木昭文、他『テキストブック開発経済学（新版）』有斐閣。
平川均、他『東アジアのグローバル化と地域統合』ミネルヴァ書房。
黒崎卓、他『開発経済学』日本評論社。

科目コード	解剖生理学Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
6040/6041/6042		１年/２年	ＳＲ
教員名	石本強、手塚和美、泉二奈緒美		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

怪我をしたり、具合が悪くなったりした児童・生徒、また視覚・聴覚・言語に障害などがある児童・生徒を目の前にして、そこから読み取れる情報は限られている。児童・生徒の身体のなかではどんなことが起こっているのか、次に何が起こる可能性が高いのか、どこに注意しながら対応したらよいのかについて考える必要がある。

解剖生理学Ⅰは上記のような思考をするための基礎知識の習得を目的としている。本科目では、ヒトの身体を全体からみて、その構造（解剖）と機能（生理）をうまく関連させて考える思考過程を学び、解剖生理学の基本的知識を高める。

学修内容

1	人体の基本構造と特徴とその機能（基本的な名称） 人体は体幹と四肢に、体幹は頭部、胸部、腹部、下腹部に分けられ、名称がつけられている。人体の方向、および内部を表すときの切断面の用語がある。解剖学の基本であるこれらの用語について学ぶ。
2	骨格系とその機能（支持、運動、保護、電解質の貯蔵、造血） 骨格系は人体を支えて動かす支持・運動、保護機能だけでなく、造血、カルシウム貯蔵の場でもある。骨機能の加齢変化を理解し、成長と骨格における男女差について学ぶ。
3	筋系とその機能（運動、熱産生） 筋肉は随意筋（骨格筋）と非随意筋（心臓筋、平滑筋）に分類される。ここでは、主として骨格筋の種類および筋収縮の機序について学ぶ。さらに、筋収縮による発熱機構についても学ぶ。
4	循環器系とその機能（心臓の自動能、血圧）、主な心臓病（虚血性心疾患）、AEDについて 心臓の構造と活動（自動能と自律神経支配）について学ぶ。血液循環について、大（体）循環・小（肺）循環と血液の性状について理解する。代表的な心臓病、心臓移植、AED・心臓マッサージについて理解する。
5	呼吸器系とその機能。主な病態（肺炎、喘息）、喫煙との関係（COPD） 気道、肺、呼吸筋について理解し、呼吸麻痺の原因について理解する。外呼吸・内呼吸の機序を学ぶ。肺炎、喘息、肺気腫、骨格筋麻痺など、代表的な呼吸器系障害の原因について理解する。発声の機序についても理解する。
6	消化器系とその機能。主な病態（嚥下障害、消化性潰瘍など） 消化管（口～肛門）、肝臓・膵臓の構造と機能、特に蠕動運動、消化液分泌について理解する。消化・吸収の生理的意義を理解する。嚥下障害や胃潰瘍など、消化器系と関連のある代表的疾患の原因と対策を考える。
7	泌尿器系、生殖器系とその機能。主な病態（排尿障害など） 泌尿器系の構造について男女差を考慮して理解する。尿形成の機序について、原尿形成、再吸収の両面から理解し、尿中に含まれる成分の特徴を学ぶ。 生殖器系の男女差、卵子と精子の形成、排卵・射精の機序を学ぶ。
8	内分泌系とその機能。主な病態（インスリンと糖尿病など） 内分泌器官（分泌腺）の種類と体内の存在部位について理解する。内分泌物質(ホルモン)の種類と生理的機序、分泌の調節機構(フィードバック機構)について学ぶ。代表的な内分泌疾患の発症のリスク因子を考察する。
9	中枢神経系とその機能。主な病態（発達障害など） 中枢・末梢神経系の発生・成長過程をもとに、神経系の構造について理解する。中枢神経系（大脳、脳幹、脊髄）の機能分化から、中枢神経系の障害と症状の特徴について学ぶ。
10	自律神経系とその機能。主な病態の日内変動について 交感神経系、副交感神経系について、解剖学的特徴、および神経伝達物質（アセチルコリン、ノルアドレナリン）から理解する。自律神経活動の日内変動をもとに、疾病リスクについて考察する。
11	体液・血液とホメオスタシス 人体を構成する細胞を取り囲む内部環境としての細胞外液（組織液）、血液の成分の特徴について理解し、浸透圧、電解質、酸塩基度の恒常性（ホメオスタシス）の重要性、およびホメオスタシス維持に関与する機構について理解する。さらに、細胞内液の特性についても学ぶ。
12	体温とその調節。主な病態（低体温症、熱中症、凍傷など） 恒温動物であるヒトは約37℃の体温を維持しているが、それに関与する、熱産生・熱放散の様々な機序について学ぶ。発熱・解熱について、高体温・低体温の影響について理解する。
13	皮膚の構造と機能。体性感覚と関連する主な病態 主に表皮、真皮、皮下組織の3構造からなる皮膚は体表面を覆い、成人では約1.5m^{2}ある。体性感覚の部位であるとともに、免疫、体温調節、水分保持、衝撃緩和、紫外線の防御など、様々な働きがある。皮膚の構造と機能について、また、その破綻の影響について学ぶ。

14	特殊感覚の構造と機能。特殊感覚と関連する主な病態 体性感覚、内臓感覚以外の特殊感覚（視覚、嗅覚、味覚、聴覚、平衡覚）は頭部に存在する特定の感覚器官と関連している。特殊感覚器官の構造と機能について学び、脳機能との関係から、感覚機能の障害について理解する。
15	男女における解剖学的・生理学的な相違点 人類の歴史の中で、男女の役割が異なっていたため、解剖学的、生理的に男女差が生じている。どの部位で、どのような機能において男女差が見られるのか考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 体液の恒常化について述べよ。

＜ポイント＞

人体を構成している膨大な数の細胞がそれぞれの機能を効果的に発揮して、個体全体が生き残っていくようにするためには、相対的に安定した状態を維持することが必要である。これには体の内部環境が一定に維持されていること（ホメオスタシス）が必須の要件である。すなわち細胞を取り巻く体液（組織液）が量的・質的に恒常でなければ、細胞は生きていられず、結果的に人体も生きていけないことになる。体液の恒常化のためには、多くの器官系がはたらいているが、ここでは体液について理解した上で、体液の酸塩基平衡の観点からまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．人体各部の名称とその位置を表す方向用語、体腔と体腔内器官について

＜ポイント＞

人体は大きく体幹（頭部、胸部、腹部）と四肢に分けられる。切断面の呼称と、代表的器官の位置、主な機能について考察する。

2．人体構造の構築（細胞→組織→器官→器官系）とその関連について

＜ポイント＞

人体構成の最小単位は細胞で、その集合状況と機能から、組織、器官、器官系が形成され、個体を形作っている。これらの構成要素がどのような関連をもって現生人類（ヒト）の構造を形成し、活動を行っているのか考察する。

3．骨格系と骨および筋の機能、骨盤骨の性差と性機能について

＜ポイント＞

人体には約206個の骨があり、支持・運動、保護、カルシウム貯蔵、造血の機能を有している。また、運動は、骨と骨格筋との連動によって行われるが、骨の機能・性状、骨格と筋力には性差がみられる。それらの性差の概要と、違いを生みだした原因について考察する。

4．神経系、循環器系、呼吸器系の機能について

＜ポイント＞

生体が機能するために必要な神経系、循環器系、呼吸器系の構造の概略と、それぞれの機能について考察する。

5．感覚とはなにか、感覚が生じる必要条件について

＜ポイント＞

五感（体性感覚、特殊感覚）の感覚受容器、感覚神経、脳の感覚野の関係について考察する。

6．皮膚の構造と機能について

＜ポイント＞

皮膚は、表皮、真皮、皮下組織で構成されている。それぞれの皮膚組織の特徴と、機能について考察する。

教科書

澤口彰子、他『人体のしくみとはたらき』朝倉書店。

参考文献

岸清、他『解剖学』医歯薬出版。
松村譲児『イラスト解剖学』中外医学社。

科目コード	解剖生理学Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
6150		１年/２年	R
教員名	石本強、手塚和美、泉二奈緒美		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

怪我をしたり、具合が悪くなったりした児童・生徒、あるいは視覚・聴覚・言語に障害などがあり、具合が悪くなった児童・生徒を前にして、そこから読み取れる情報は限られる。児童・生徒の身体のなかではどんなことが起こっているのか、次に起こる状態を的確に予測して、最善策を考える必要がある。

解剖生理学Ⅱは上記のような思考をするための基礎知識となる。本科目では、解剖生理学Ⅰで学んだ「人間の身体を全体からみて、その構造（解剖）と機能（生理）を関連させる思考過程や基本的知識」を応用して、さらに一段高い、実際に役立つ力を身につける。

学修内容

1	イントロダクション 人体の基本構造と発生・成長（生物進化と先天奇形、行動奇形、老化との関係） 人体は、卵子・精子の合体（受精）から、細胞分裂を繰り返して成長し、成熟期を経て老化期に入り、機能を失っていく。人体形成のプロセスをふまえて、奇形、機能障害のリスク因子について考える。
2	体液の組成と恒常性（体液の特徴、およびその恒常性の維持と破綻） 体液は、細胞を取り巻く組織液、血液などの管内液、細胞内液に分類される。それぞれの体液の比率、組成を理解し、恒常性（ホメオスタシス）の維持の必要性について学ぶ。
3	皮膚の構造と機能。皮膚損傷からの回復と痕跡 皮膚は表皮、真皮、皮下組織に大きく分けられ、細胞のタイプが異なり、身体防御の役割を果たしている。皮膚組織の障害に伴う症状と、回復したときの傷跡の特徴について理解する。
4	筋系（筋収縮の機序、筋収縮と発熱、筋肉麻痺・けいれんの原因） 骨格筋収縮における、大脳新皮質・前頭葉運動野、運動神経、神経－筋接合部の関与について理解し、筋弛緩・麻痺、けいれんの発現について学ぶ。さらに、骨格筋の発熱作用についても理解する。
5	循環器系（循環器系の調節機構と障害、心臓奇形）、心肺停止時の救命救急法 循環器系は、全身の細胞に酸素と栄養素を供給し、老廃物を回収して排泄器官に運搬している。循環器系は主として、心臓と血管で構成されており、動物進化の過程で発達してきた。循環器系障害のリスク因子について進化と関係づけて考察し、心臓機能障害時の救命救急法を理解する。
6	造血器系（造血機能の加齢変化、血液型、血液ガン） 血液の血球成分は、赤血球、白血球、血小板からなるが、骨髄幹細胞が分化して形成される。骨髄機能の加齢変化と血液の性状変化、貧血、血液がんの発症原因について学ぶ。血液型（赤血球：ABO 型、Rh 型、白血球：HLA 型）について理解する
7	消化器系とエネルギー代謝（三大栄養素の代謝と消化器官、食欲と摂食行動の調節機構） 食物中の栄養素を消化・吸収する消化器系の機序、エネルギー代謝について、満腹期と空腹期に分けて理解する。食欲を調節する脳内機序についても学ぶ。
8	呼吸器系（呼吸器系の調節機構と障害） 呼吸は酸素と二酸化炭素のガス交換であり、血管内の酸素・二酸化炭素分圧のセンサーからの情報を受けて、延髄に存在する呼吸中枢によって調節されている。呼吸の有無、リズム性の機構について理解する。
9	生殖器系（性差、性周期の調節） 次世代を残す行為が生殖行動であり、生殖器の構造と機能は男女間で大きく異なる。男性器・女性器の形成過程、女性の性周期について、性ホルモン分泌との関連から理解する。
10	中枢神経系（神経細胞の特性、脳の機能分化と障害） 大脳皮質には約 140 億個の神経細胞が存在し、複雑なネットワークを形成して身体機能を調節している。神経細胞における神経伝導・伝達機序について理解し、脳機能の分化と障害に伴う各種症状について学ぶ。
11	末梢神経系（末梢神経系の障害と対処） 末梢神経系は、中枢神経系から出た神経線維で構成され、自律神経系、感覚神経系、運動神経系からなる。末梢神経の障害と各種症状との関連について学ぶ。
12	内分泌系（ステロイドホルモン［性ホルモン、副腎皮質ホルモン］の代謝・分泌とストレス反応） 体内には様々な内分泌腺が存在するが、主に副腎皮質ホルモンの分泌の調節機構について、ストレス反応と関連づけて理解し、過少・過剰分泌時の症状、リバウンドについて学ぶ。膵臓からのインスリン分泌、甲状腺ホルモンの機能についても理解する。

13	体性感覚（痛覚、温覚、冷覚、触覚、痒覚と、その感覚受容器、大脳皮質感覚野） 体性感覚受容器は、全身の皮膚や筋肉内に存在し、最終的には大脳・頭頂葉の体性感覚野で感知される。体性感覚野の機能分化、感覚情報の伝導・伝達機序、および感覚過敏・麻痺について学ぶ。
14	特殊感覚（受容器、伝達系、中枢神経系の役割とその障害） 頭部に感覚受容器が存在する特殊感覚について、感覚器の構造、感覚刺激と受容器の反応、脳への情報伝搬と感知・認知機構について理解する。併せて、幻覚、感覚麻痺の原因と機序についても学ぶ。
15	熱産生・熱放射（関連組織・器官、熱中症、低体温症） 体温維持のための熱産生、熱放散に関与する器官・組織について理解し、高温・低温時の反応について学ぶ。熱中症、低体温症の症状と防止策についても学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 体温の調節について述べよ。

＜ポイント＞

体温は外気温の変化にかかわらず、その調節によって一定温度域内に調節されている。人体が健康であるためには、相対的に安定した体温を維持することが必要である。体温の調節のためには、多くの器官系がはたらいているが、ここでは体温の分布や変動を理解した上で、体熱の産生と放散、体温の調節と異常、発汗の観点からまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１．体液の分類と恒常性の維持について

＜ポイント＞

体液（細胞内液、細胞外液）は、外的環境が変化しても、量、成分、性状は一定範囲内に維持されている。このような体液の恒常性に寄与する器官の機能について考察する。

２．膵臓及び甲状腺について

＜ポイント＞

膵臓は血糖値の調節、甲状腺は糖代謝に関与する内分泌器官である。これらの構造と機能をもとに、機能異常に伴う症状を考察する。

３．骨髄の機能と脾臓の機能について

＜ポイント＞

骨髄の造血機能および脾臓の構造と機能をもとに、加齢に伴う貧血のリスクについて考察する。

４．脊柱の機能および筋組織の種類と各機能について

＜ポイント＞

ヒトが二足歩行を獲得する過程で起こった脊柱（背骨）の発達と、骨格筋の構造、種類と働きについて考察する。

５．視床下部（自律神経系中枢）、延髄（呼吸中枢、血管運動・心臓中枢）について

＜ポイント＞

間脳の一部である視床下部は自律神経系・内分泌系の中枢であり、一方、脳幹の一部である延髄は呼吸・循環機能の中枢で生命維持に必須の部位である、それぞれの部位の機能と、障害に伴う症状について考察する。

６．体性感覚と内臓感覚について

＜ポイント＞

体性感覚は自覚できる感覚の一つであり、内臓感覚は自覚できない感覚である。その原因はなぜなのか、感覚受容器と脳機能とを関連づけて考察する。

教科書

澤口彰子、他『人体のしくみとはたらき』朝倉書店。

参考文献

岸清、他『解剖学』医歯薬出版。

松村譲児『イラスト解剖学』中外医学社。

科目コード	カウンセリング演習（４単位）	登録年次	履修方法
2320/2321		３年	ＳＲ
教員名	秋山和寛、新井雅人、荒井理帆、志茂田典子、坪井菜奈子、中山麻子、長坂正文、橋本景子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

カウンセリングの理論は、医療、社会福祉、教育などの現場で幅広く活用・実践されている。そこで、カウンセリングとはどのようなものなのか、そしてカウンセリングに必要な技法や態度、心構えとはどのようなものなのか、基礎から学修していく。また、カウンセリングは比較的新しい学問領域であるため、いくつもの理論が存在しているが、その中でも基礎となる、精神分析、来談者中心療法、行動療法（認知行動療法）の三つを中心に学修していく。

学修内容

1	**Ⅰ　カウンセリングとは何か**（該当箇所：教科書 pp.2-45） 現代社会とカウンセリング：カウンセリングを含む相談活動の現状について知る。
2	カウンセリングの定義、歴史、社会的背景（該当箇所：教科書 p.23） ：相談とカウンセリングの違い、コンサルテーション、リエゾン、コーディネーションについて知る。
3	**Ⅱ　カウンセリングの構造と機能**（該当箇所：教科書 pp.46-153） カウンセリングの構造：構造とは何を指すか。また、カウンセリングにおけるさまざまな枠とその意義を知る。
4	カウンセリングのはじめから終わりまで（該当箇所：教科書 p.61） ：カウンセリングは通常、継続的に面接が行われ、数年にわたることもある。そのプロセス（過程）を概観する。
5	カウンセリングの基本的態度と技法１（該当箇所：教科書 p.78） ：ロジャーズをベースとして、アイビーのマイクロカウンセリングのモデルを学ぶ。
6	カウンセリングの基本的態度と技法２ ：前回に続き、イーガンとカーカフ、それぞれのカウンセリングのモデルを学ぶ。
7	心理アセスメントと個性の理解（該当箇所：教科書 p.109） ：心理アセスメントとは、心理テストの施行を含む包括的なものであることを学ぶ。
8	カウンセリングの生成プロセス（該当箇所：教科書 p.129） ：単なる相談とは異なる、カウンセリング独特のプロセスについて知っておく。
9	**Ⅲ　洞察と気づきへの手がかりを求めて**（該当箇所：教科書 pp.154-195） 無意識過程への視線：フロイトの精神分析理論におけるこころのとらえ方を学ぶ。
10	関係性と気づきへの視線（該当箇所：教科書 p.170） ：ロジャーズの人間中心理論におけるこころのとらえ方を学ぶ。
11	日本で生まれた心理療法（該当箇所：教科書 p.183） ：森田療法、内観法について学ぶ。
12	**Ⅳ　はたらきかけの手がかりを求めて**（該当箇所：教科書 pp.196-243） 身体への定位と注意集中：催眠法、自律訓練法について学ぶ。
13	行動論的アプローチ（該当箇所：教科書 p.206） ：行動療法、認知行動療法におけるこころのとらえ方を学ぶ。
14	カウンセリングの多面的アプローチ（該当箇所：教科書 p.221） ：折衷主義、多面的アプローチについて学ぶ。
15	**Ⅴ　カウンセリングを学ぶ**（該当箇所：教科書 pp.244-269） 専門家として学ぶということ：専門家としての学びに求められることを知る。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】カウンセリングの歴史と課題について述べ、これからのカウンセラーに必要な資質とは何か述べよ。
＜ポイント＞
助言指導・職業指導から始まったカウンセリングの歴史を概観し、その課題に迫ること。また、カウンセリングはどうあるべきかを考え、それはどういった訓練から作られていくのかを考察すること。

【設題2】現代人の生活とカウンセリングについて考え、カウンセリングがどうあるべきか述べよ。
＜ポイント＞
現代の社会状況を捉え、何故カウンセリングが必要なのか、カウンセリングがどのような形で、どういったことに役立っているのか考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．パーソナリティの成長論について
＜ポイント＞
医学モデルに対する、成長モデル（心理学モデル）をまとめるとよい。

2．クライアント中心カウンセリングについて
＜ポイント＞
この理論の基本仮定、また想定されているカウンセリングのプロセスなどについてまとめる。

3．認知行動カウンセリングについて
＜ポイント＞
教科書の行動論的アプローチの章の全体を見てまとめる。

4．精神分析的カウンセリングについて
＜ポイント＞
この理論の基本仮定、治療論などについてまとめる。精神分析的カウンセリングは分析の考え方を背景に持つカウンセリングを指す。

5．交流分析について
＜ポイント＞
自我状態、パターン分析、脚本分析などについてまとめる。

6．さまざまなクライエントに対する対応について
＜ポイント＞
折衷主義とその周辺についてまとめるとよい。

教科書

福島脩美『総説カウンセリング心理学』金子書房。

参考文献

福原真知子監修『マイクロカウンセリング技法』風間書房。
楡木満生、田上不二夫『カウンセリング心理学　ハンドブック　上巻』金子書房。
曽根剛『ロジャース理論概説』学苑社。
田畑治、他『講座サイコセラピー　カウンセリング』日本文化科学社。

科目コード	カウンセリングの基礎（２単位）	登録年次	履修方法
2323		２年	R
教員名	新井雅人、志茂田典子、橋本景子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

カウンセリング自体が具体的にどのような環境・方法で、どんな人たちを対象に行われ役立っているのかを理解するとともに、カウンセリングの基礎と応用、実技を学修する。そのようにしてカウンセリングが子育て支援の一つの方法としてどのように活用することができるのかを考察する。

学修内容

1	カウンセリングの定義（教科書 pp. 1-14） ポイント：問題の解決だけでなく、人間の成長と自立を目指した援助であることを理解する。
2	カウンセリングの歴史（教科書 pp. 24-49） ポイント：個人差の測定や職業指導から個人の全人的な発展を源とするカウンセリングと心理療法との違いについて理解する。
3	カウンセリングの倫理と枠組み（教科書 pp. 51-70） 人生相談や教育相談とは異なり、枠組みの中でカウンセリングが行われることを理解する。
4	カウンセリングの流れとプロセスの中で起こる問題（教科書 pp. 15-23、参考文献『カウンセリングの進め方』pp. 224-254） ポイント：カウンセリングのプロセスの中で起こる、ラポールの形成、沈黙、転移・逆転移、そして終結に当たりクライエントに起こる不安について理解する。
5	アセスメント（参考文献『カウンセリング心理学ハンドブック下巻』pp. 3-39） ポイント：観察・面接・テストによってクライエントを理解し治療に役立てることを理解する。
6	来談者中心療法（教科書 pp. 72-92） ポイント：ロジャースの人間観を踏まえ、なぜカウンセラーの態度が重要であるかについて考察する。
7	面接の基本姿勢（参考文献『カウンセリング心理学ハンドブック下巻』pp. 193-196） ポイント：マイクロカウンセリングのかかわり行動について理解する。
8	面接の基本的応答（参考文献『カウンセリング心理学ハンドブック下巻』pp. 196-207） ポイント：マイクロカウンセリングにおける基本的かかわり技法について理解する。
9	行動療法（教科書 pp. 94-114） ポイント：無意識のうちに学習した習慣行動による問題の理解とその対応について理解する。
10	認知行動療法（教科書 pp. 114-119） ポイント：無意識のうちに身につけた偏った物事の捉え方による問題の理解とその対応について理解する。
11	精神分析（教科書 pp. 120-133） ポイント：精神分析の基本的な考え方について理解する。
12	システムズ・アプローチ（教科書 pp. 157-170） ポイント：問題や家族をシステムとして捉え、個人の行動や無意識ではなく、関係性の変化に注目する。
13	解決志向カウンセリング（教科書 pp. 172-180） ポイント：問題ではなく、うまくいっているところに焦点を当てていくことに注目する。
14	折衷主義とまとめ（参考文献『カウンセリングの理論』pp. 25-34） ポイント：折衷主義の長所と短所の両方に注目する。
15	クライエントの理解と児童生徒に関する諸問題（参考文献「エッセンス学校教育相談心理学」pp. 69-162） ポイント：不登校、軽度発達障害、虐待、危機介入等のケースを通してクライエントを理解し、どのような援助が可能か考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 現代社会におけるカウンセリングの必要性について整理し、教師や保育士には何が必要かを述べよ。

＜ポイント＞

カウンセリングと心理療法の相違点をその歴史・課題から整理する。さらに現代の幼稚園や小学校での問題点を整理するとともに、教師や保育士のあり方について考察する。

科目終了試験学修のポイント

１．カウンセリングと心理療法について

＜ポイント＞

治療を中心とした心理療法に比べ、歴史的背景から予防・開発的な領域まで含むカウンセリングについて考察する。

２．人間成長理論について

＜ポイント＞

マズローやロジャーズの理論の根底にある「人間は生まれながらに自分と他人を成長させ幸福にする特性や能力を備えているとする性善説の人間観」について考察する。

３．クライエント中心カウンセリングの特徴について

＜ポイント＞

「受容」「共感」「自己一致」とはどういうものなのかを押さえた上で、この３つがなぜ重要であるのかについて考察する。

４．認知行動カウンセリングの特徴について

＜ポイント＞

習慣として身につけた行動や考え方が、生活を不自由にしていることを踏まえた上で、行動や考え方にどのようにアプローチするのかについて整理する。

５．カウンセリングの流れ（プロセスと留意点）について

＜ポイント＞

インテーク面接に始まり、クライエントの自己探索・自己理解・行動化のプロセスを踏まえ、それぞれの段階で起こりうる諸問題について考察する。

６．不適応行動を通してクライエントをどのように理解するかについて

＜ポイント＞

不適応行動の背景を含めクライエントを全人格的に理解し、その援助についても考察する。

教科書

楡木満生、他『カウンセリング心理学ハンドブック　上巻』金子書房。

参考文献

武田建『カウンセリングの進め方』誠信書房。
国分康孝『カウンセリングの理論』誠信書房。
松原達哉『カウンセリング心理学ハンドブック　下巻』金子書房。
石川正一郎『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房。

科目コード	カウンセリングの基礎（２単位）	登録年次	履修方法
2324		２年	S
教員名	新井雅人、志茂田典子、橋本景子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

カウンセリング自体が具体的にどのような環境・方法で、どんな人たちを対象に行われ役立っているのかを理解するとともに、カウンセリングの基礎と応用、実技を学修する。そのようにしてカウンセリングが子育て支援の一つの方法としてどのように活用することができるのかを考察する。

学修内容

1	カウンセリングの定義（教科書 pp. 1-14） ポイント：問題の解決だけでなく、人間の成長と自立を目指した援助であることを理解する。
2	カウンセリングの歴史（教科書 pp. 24-49） ポイント:個人差の測定や職業指導から個人の全人的な発展を源とするカウンセリングと心理療法との違いについて理解する。
3	カウンセリングの倫理と枠組み（教科書 pp. 51-70） 人生相談や教育相談とは異なり、枠組みの中でカウンセリングが行われることを理解する。
4	カウンセリングの流れとプロセスの中で起こる問題（教科書 pp. 15-23、参考文献『カウンセリングの進め方』pp. 224-254） ポイント：カウンセリングのプロセスの中で起こる、ラポールの形成、沈黙、転移・逆転移、そして終結に当たりクライエントに起こる不安について理解する。
5	アセスメント（参考文献『カウンセリング心理学ハンドブック下巻』pp. 3-39） ポイント：観察・面接・テストによってクライエントを理解し治療に役立てることを理解する。
6	来談者中心療法（教科書 pp. 72-92） ポイント：ロジャースの人間観を踏まえ、なぜカウンセラーの態度が重要であるかについて考察する。
7	面接の基本姿勢（参考文献『カウンセリング心理学ハンドブック下巻』pp. 193-196） ポイント：マイクロカウンセリングのかかわり行動について理解する。
8	面接の基本的応答（参考文献『カウンセリング心理学ハンドブック下巻』pp. 196-207） ポイント：マイクロカウンセリングにおける基本的かかわり技法について理解する。
9	行動療法（教科書 pp. 94-114） ポイント：無意識のうちに学習した習慣行動による問題の理解とその対応について理解する。
10	認知行動療法（教科書 pp. 114-119） ポイント：無意識のうちに身につけた偏った物事の捉え方による問題の理解とその対応について理解する。
11	精神分析（教科書 pp. 120-133） ポイント：精神分析の基本的な考え方について理解する。
12	システムズ・アプローチ（教科書 pp. 157-170） ポイント：問題や家族をシステムとして捉え、個人の行動や無意識ではなく、関係性の変化に注目する。
13	解決志向カウンセリング（教科書 pp. 172-180） ポイント：問題ではなく、うまくいっているところに焦点を当てていくことに注目する。
14	折衷主義とまとめ（参考文献『カウンセリングの理論』pp. 25-34） ポイント：折衷主義の長所と短所の両方に注目する。
15	クライエントの理解と児童生徒に関する諸問題（参考文献『エッセンス学校教育相談心理学』pp. 69-162） ポイント:不登校、軽度発達障害、虐待、危機介入等のケースを通してクライエントを理解し、どのような援助が可能か考察する。

教科書

楡木満生、他『カウンセリング心理学ハンドブック　上巻』金子書房。

参考文献

武田建『カウンセリングの進め方』誠信書房。
国分康孝『カウンセリングの理論』誠信書房。
松原達哉『カウンセリング心理学ハンドブック　下巻』金子書房。
石川正一郎『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房。

※科目コード2760：登録年次３年、ＳＲ履修／科目コード2761：登録年１年、Ｒ履修

科目コード	学習心理学（2 単位）	登録年次	履修方法
2760/2761		３年/１年	ＳＲ/Ｒ
教員名	加藤宏一、志茂田典子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

人間は、生まれてから死ぬまでの間に、いろいろなことを記憶したり、忘れたりする。あるいは、過去の学習を基礎に、新しい学習を行うといったように、日常生活において常に学習をしている。本科目では、学習心理学が日常生活のあらゆる場面での行動の基礎になっていることを理解するため、行動療法や行動分析の手法の基本でもある条件づけを中心に取り上げる。

学修内容

1	「学習」とは何か：学習心理学における「学習」の定義や特徴を理解する。 キーワード（参照ページ）：学習、経験、永続的、行動、変化（pp.2-4） ※学修内容のすべての項目についての注意点：参照ページのみの学習では表面的理解になってしまう。参照ページ以外の関連箇所および参考文献も参照し、学修内容の理解を深める。
2	古典的条件づけについて：「古典的条件づけ」とはどのような学習を指す用語なのかを理解する。 キーワード（参照ページ）：レスポンデント、無条件刺激、条件刺激、無条件反応、条件反応、対呈示（pp.15-42）
3	味覚嫌悪学習について：「味覚嫌悪学習」とはどのような学習を指す用語なのかを理解する。 キーワード（参照ページ）：ガルシア効果、嫌悪刺激、連合選択性、１試行学習、遅延学習（p.27）
4	オペラント条件づけについて（報酬と罰、回避と逃避、学習性無力など） キーワード（参照ページ）：オペラント、三項随伴性、弁別刺激、オペラント行動、強化刺激、正の強化、負の強化、正の罰、負の罰、強化スケジュール（pp.43-92）
5	学習性無力について：「学習性無力感とはどのような効果や状態を指す用語なのかを理解する。 キーワード（参照ページ）：セリグマンとメイヤーの実験（1967）、逃避不能、回避訓練（pp.64-66）
6	汎化と弁別について：古典的条件づけ及びオペラント条件づけにおける汎化と弁別について理解する。 キーワード（参照ページ）：汎化、弁別、汎化勾配、刺激汎化、刺激統制、汎化テスト、頂点移動、弁別訓練、同時弁別、継時弁別、無誤弁別学習（pp.36-41、pp.82-89）
7	技能学習について：「技能学習」とはどのような学習を指す用語なのかを理解する。 キーワード（参照ページ）：学習曲線、集中練習と分散練習、全習と分習、転移（pp.93-124）
8	結果の知識（ＫＲ）について：「結果の知識（KR）」の意味および重要性を理解する。 キーワード（参照ページ）：フィードバック、結果の知識の内容と遅延（pp.96-102）
9	社会的学習について：「社会的学習」とはどのような学習を指す用語なのかを理解する。 キーワード（参照ページ）：代理経験、示範（モデル）、模倣学習と観察学習、強化理論と媒介理論、社会的学習理論（pp.125-148）
10	観察学習について：「観察学習」の定義と特徴を理解する。 キーワード（参照ページ）：示範（モデル）、代理強化、媒介理論、社会的学習理論（p.126、 pp.134-142）
11	問題解決と推理について：問題解決と推理の過程について理解する。 キーワード（参照ページ）：試行錯誤学習と洞察学習、演繹推論と帰納推論、創造性（pp.149-174）
12	試行錯誤学習と洞察学習について：試行錯誤学習と洞察学習の類似点・相違点について理解する。 キーワード（参照ページ）：試行錯誤、洞察、報酬訓練、効果の法則、知覚の再体制化、見通し（pp.52-54、p.58、pp.150-154）
13	概念の構造と獲得について：「概念の構造」に関する理論、「概念の獲得」に関する特徴を理解する。 キーワード（参照ページ）：定義的特性、プロトタイプ理論、知覚的属性、機能的と概念的属性、典型的と周辺的事例、基礎水準と上位・下位概念、連合学習と仮説検証（pp.175-184）
14	記憶について：記憶の定義、モデル、分類について理解する。 キーワード（参照ページ）：記憶、符号化、貯蔵、検索、間隔・短期・長期記憶、宣言的と非宣言的記憶、エピソード記憶、意味記憶、作動記憶（pp.201-220）
15	忘却について：忘却の特徴や理論について理解する。 キーワード（参照ページ）：忘却曲線、減衰説、干渉説、検索失敗説、抑圧説（pp.204-205、pp.228-233）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

「古典的条件づけ」と「オペラント条件づけ」とについて、それぞれ何かを日常的な具体例を挙げながら簡単に述べ、両者の類似点と相違点をまとめよ。

＜ポイント＞

１．なお具体例に関しては、あなたにとって日常的なものを挙げるのが好ましいが、下記の語群の中から選択しても構わない。

語群：パブロフの犬、恐怖、赤面症、禁煙、ギャンブル、パチンコ、言語、お金、ダイエット、イルカの輪くぐり、お手伝いする子ども、名画を見分けるハト

２．２種類の条件づけの基本的な仕組みと違いを理解した上で、自らの日常的な行動が、いかに条件づけ理論によって説明可能であるかを示すこと。さらに、どのように条件づけ理論を活用すれば、その行動の生起を増やしたり減らしたりコントロールすることが可能となりうるかまで踏み込めれば、なお良い。

科目終了試験学修のポイント

１．汎化と弁別について

＜ポイント＞

古典的条件づけ及びオペラント条件づけにおける汎化と弁別の意味、特徴、類似点・相違点について考察する。

キーワード（参照ページ）：汎化、弁別、汎化勾配、刺激汎化、刺激統制、汎化テスト、頂点移動、弁別訓練、同時弁別、継時弁別、無誤弁別学習（pp.36-41、pp.82-89）

２．味覚嫌悪学習について

＜ポイント＞

「味覚嫌悪学習」とはどのような学習を指す用語なのかを理解し、一般的な古典的条件づけとどのように異なるのかについて考察する。

キーワード（参照ページ）：ガルシア効果、嫌悪刺激、連合選択性、１試行学習、遅延学習（p.27）

３．学習性無力について

＜ポイント＞

「学習性無力感とはどのような効果や状態を指す用語なのかを理解し、教育場面等における関連について考察する。

キーワード（参照ページ）：セリグマンとメイヤーの実験（1967）、逃避不能、回避訓練（pp.64-66）

４．結果の知識（ＫＲ）について

＜ポイント＞

「結果の知識（KR）」の意味および重要性を理解するとともに、効果的なフィードバックの特徴について考察する。

キーワード（参照ページ）：フィードバック、結果の知識の内容と遅延（pp.96-102）

５．観察学習について

＜ポイント＞

「観察学習」の定義と特徴を理解し、模倣学習との類似点・相違点について考察する。

キーワード（参照ページ）：示範（モデル）、代理強化、媒介理論、社会的学習理論（p.126、 pp.134-142）

６．試行錯誤学習と洞察学習について

＜ポイント＞

試行錯誤学習と洞察学習の類似点・相違点について考察する。

キーワード（参照ページ）：試行錯誤、洞察、報酬訓練、効果の法則、知覚の再体制化、見通し（pp.52-54、p.58、pp.150-154）

教科書

山内光哉、他『グラフィック学習心理学』サイエンス社。

参考文献

今田寛『学習の心理学』培風館。

篠原彰一『学習心理学への招待』サイエンス社。

科目コード	学習・言語心理学（２単位）	登録年次	履修方法
3660		２年	R
教員名	加藤宏一、志茂田典子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

人間は、生まれてから死ぬまでの間に、いろいろなことを記憶したり、忘れたりする。あるいは、過去の学習を基礎に、新しい学習を行うといったように、日常生活において常に学習をしている。本科目では、学習・言語心理学が日常生活のあらゆる場面での行動の基礎になっていることを理解するため、行動療法や行動分析の手法の基本でもある条件づけを中心に取り上げ、人の行動が変化する過程、言語の習得における機序について学ぶ。

学修内容

1	「学習」とは何か：学習・言語心理学における「学習」の定義や特徴を理解する。 キーワード（参照ページ）：学習、経験、永続的、行動、変化（pp.2-4） ※学修内容のすべての項目についての注意点：参照ページのみの学習では表面的理解になってしまう。参照ページ以外の関連箇所および参考文献も参照し、学修内容の理解を深める。
2	古典的条件づけについて：「古典的条件づけ」とはどのような学習を指す用語なのかを理解する。 キーワード（参照ページ）：レスポンデント、無条件刺激、条件刺激、無条件反応、条件反応、対呈示（pp.15-42）
3	味覚嫌悪学習について：「味覚嫌悪学習」とはどのような学習を指す用語なのかを理解する。 キーワード（参照ページ）：ガルシア効果、嫌悪刺激、連合選択性、１試行学習、遅延学習（p.27）
4	オペラント条件づけについて（報酬と罰、回避と逃避、学習性無力など） キーワード（参照ページ）：オペラント、三項随伴性、弁別刺激、オペラント行動、強化刺激、正の強化、負の強化、正の罰、負の罰、強化スケジュール（pp.43-92）
5	学習性無力について：「学習性無力感とはどのような効果や状態を指す用語なのかを理解する。 キーワード（参照ページ）：セリグマンとメイヤーの実験（1967）、逃避不能、回避訓練（pp.64-66）
6	汎化と弁別について：古典的条件づけ及びオペラント条件づけにおける汎化と弁別について理解する。 キーワード（参照ページ）：汎化、弁別、汎化勾配、刺激汎化、刺激統制、汎化テスト、頂点移動、弁別訓練、同時弁別、継時弁別、無誤弁別学習（pp.36-41、pp.82-89）
7	技能学習について：「技能学習」とはどのような学習を指す用語なのかを理解する。 キーワード（参照ページ）：学習曲線、集中練習と分散練習、全習と分習、転移（pp.93-124）
8	結果の知識（ＫＲ）について：「結果の知識（KR）」の意味および重要性を理解する。 キーワード（参照ページ）：フィードバック、結果の知識の内容と遅延（pp.96-102）
9	社会的学習について：「社会的学習」とはどのような学習を指す用語なのかを理解する。 キーワード（参照ページ）：代理経験、示範（モデル）、模倣学習と観察学習、強化理論と媒介理論、社会的学習理論（pp.125-148）
10	観察学習について：「観察学習」の定義と特徴を理解する。 キーワード（参照ページ）：示範（モデル）、代理強化、媒介理論、社会的学習理論（p.126、 pp.134-142）
11	問題解決と推理について：問題解決と推理の過程について理解する。 キーワード（参照ページ）：試行錯誤学習と洞察学習、演繹推論と帰納推論、創造性（pp.149-174）
12	試行錯誤学習と洞察学習について：試行錯誤学習と洞察学習の類似点・相違点について理解する。 キーワード（参照ページ）：試行錯誤、洞察、報酬訓練、効果の法則、知覚の再体制化、見通し（pp.52-54、p.58、pp.150-154）
13	言語獲得について：言語の習得における機序について理解する。 キーワード（参照ページ）：動物の言語、人間の言語獲得、言語相対仮説、言語と思考の関係についての諸理論、言語がほかの認知的活動に及ぼす影響、言葉と脳（pp.175-200）
14	記憶について：記憶の定義、モデル、分類について理解する。 キーワード（参照ページ）：記憶、符号化、貯蔵、検索、間隔・短期・長期記憶、宣言的と非宣言的記憶、エピソード記憶、意味記憶、作動記憶（pp.201-220）
15	忘却について：忘却の特徴や理論について理解する。 キーワード（参照ページ）：忘却曲線、減衰説、干渉説、検索失敗説、抑圧説（pp.204-205、pp.228-233）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

「古典的条件づけ」と「オペラント条件づけ」とについて、それぞれ何かを日常的な具体例を挙げながら簡単に述べ、両者の類似点と相違点をまとめよ。

＜ポイント＞

１．なお具体例に関しては、あなたにとって日常的なものを挙げるのが好ましいが、下記の語群の中から選択しても構わない。

語群：パブロフの犬、恐怖、赤面症、禁煙、ギャンブル、パチンコ、言語、お金、ダイエット、イルカの輪くぐり、お手伝いする子ども、名画を見分けるハト

２．２種類の条件づけの基本的な仕組みと違いを理解した上で、自らの日常的な行動が、いかに条件づけ理論によって説明可能であるかを示すこと。さらに、どのように条件づけ理論を活用すれば、その行動の生起を増やしたり減らしたりコントロールすることが可能となりうるかまで踏み込めれば、なお良い。

科目終了試験学修のポイント

１．汎化と弁別について

＜ポイント＞

古典的条件づけ及びオペラント条件づけにおける汎化と弁別の意味、特徴、類似点・相違点について考察する。

キーワード（参照ページ）：汎化、弁別、汎化勾配、刺激汎化、刺激統制、汎化テスト、頂点移動、弁別訓練、同時弁別、継時弁別、無誤弁別学習（pp.36-41、pp.82-89）

２．味覚嫌悪学習について

＜ポイント＞

「味覚嫌悪学習」とはどのような学習を指す用語なのかを理解し、一般的な古典的条件づけとどのように異なるのかについて考察する。

キーワード（参照ページ）：ガルシア効果、嫌悪刺激、連合選択性、１試行学習、遅延学習（p.27）

３．学習性無力について

＜ポイント＞

「学習性無力感とはどのような効果や状態を指す用語なのかを理解し、教育場面等における関連について考察する。

キーワード（参照ページ）：セリグマンとメイヤーの実験（1967）、逃避不能、回避訓練（pp.64-66）

４．結果の知識（ＫＲ）について

＜ポイント＞

「結果の知識（KR）」の意味および重要性を理解するとともに、効果的なフィードバックの特徴について考察する。

キーワード（参照ページ）：フィードバック、結果の知識の内容と遅延（pp.96-102）

５．試行錯誤学習と洞察学習について

＜ポイント＞

試行錯誤学習と洞察学習の類似点・相違点について考察する。

キーワード（参照ページ）：試行錯誤、洞察、報酬訓練、効果の法則、知覚の再体制化、見通し（pp.52-54、p.58、pp.150-154）

６．言語獲得について

＜ポイント＞

言語の習得における機序について理解する。

キーワード（参照ページ）：動物の言語、人間の言語獲得、言語相対仮説、言語と思考の関係についての諸理論、言語がほかの認知的活動に及ぼす影響、言葉と脳（pp.175-200）

教科書

山内光哉、他『グラフィック学習心理学』サイエンス社。

参考文献

今田寛『学習の心理学』培風館。

篠原彰一『学習心理学への招待』サイエンス社。

科目コード	家族援助論（２単位）	登録年次	履修方法
7060		３年	R
教員名	氏家博子、小笠原眞紀、黒木豊域、田中利則、辻本理絵子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

家族の意味（定義）、機能、家族をとりまく社会的状況と支援体制及び今日における家族生活について概説し、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策を提供するため、子育て支援の基礎となる家族への援助方法及び関係機関との連携について理解する。

学修内容

1	子どもと家族の変化 （家族を取り巻く地域社会の変化、少子高齢化、出生率減少、未婚化晩婚化）
2	家族援助の形態と機能の変化 （家族援助が求められる背景、家族援助の理念・構造・技術）
3	子どもと家族の関係 （家族の形態と機能、親になるプロセス、幼児期の子どもと家族、学童期の子どもと家族）
4	保育士による家族援助 （家族援助における保育士の役割、保育所・児童福祉施設の利用家庭への援助）
5	家族援助に関わる法・制度 （子ども・子育てに関する法律と制度、子育て支援施策の計画、保育所保育指針、幼稚園教育要領）
6	子どもと家族を支える機関や人 (1) （児童相談所、福祉事務所、家庭児童相談室、行政、保健所、児童福祉施設、児童家庭支援センター）
7	子どもと家族を支える機関や人 (2) （家庭裁判所、教育機関、認定こども園、主任児童委員、社会福祉協議会、子育てサロン、子育てサークルなど）
8	子どもと家族を支援するサービス （保育所における保育サービス、子育て短期支援事業、幼稚園における預かり保育事業、認可型・訪問型保育サービス）
9	保育所・幼稚園における家族援助 （保育所・幼稚園における家族援助の姿勢・方法・手段）
10	保育所・幼稚園における家族援助の実際 （障害のある子どもと親への支援、虐待家族への支援、ひとり親家庭への支援、支援の視点からの保育業務の再検討）
11	在宅子育て家庭への支援 （在宅子育て家庭支援の対象と役割、在宅子育て家庭支援活動の実際、特別なニーズをもつ親子への支援）
12	要保護児童とその家族への援助 （入所児童の家族の関係と援助姿勢、乳児院・児童養護施設、母子生活支援施設における家族援助）
13	家族への個別援助の展開 （家族援助の展開過程、援助計画の作成・実施・評価と終結、記録）
14	地域子育て支援センターの役割と支援の実際 （地域子育て支援センターの役割と事業内容）
15	家族援助や地域の子育て支援の実際 （電話相談、児童虐待への援助、障害のある子どもへの援助、地域子育て支援センターにおける支援）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 子育てに求められる支援とその背景について述べよ。

＜ポイント＞

1．子育て支援を必要とする背景について、社会の変化、親の生活の変化、子どもの生活の変化、親子関係の変化など、多様な側面から検討する。

2．1をふまえ、現代の子育て支援はどのような視点に立って行う必要があるかを述べる。

科目終了試験学修のポイント

1．家族機能の変化について

＜ポイント＞

W.F. オグバーンが唱える家族機能は、近代化とともに縮小してきた。しかしながら家族機能の縮小は、家族機能遂行の負担が軽くなることを意味していない。核家族が主流の今日、高齢者の介護、子供の養育など、潜在的機能ストレスを抱えているのが現代家族である。

2．育児不安の要因について

＜ポイント＞

現代の親世代は親になる前に小さな子どもを世話する経験が少ないなど、親になる上で必要とする経験が不足している。また、前の世代からの伝達もされにくくなっており、子育てのイメージと現実に乖離が生じる要因となっている。専業主婦に多い子育てストレスや、ストレスから虐待へとつながる可能性もある。

3．出生率減少の要因について

＜ポイント＞

少子化の要因として、結婚観や価値観の多様化を背景にする晩婚化と未婚率の上昇、夫婦の出生率の低下が指摘されている。

4．仕事と子育てを両立させる方策について

＜ポイント＞

1990(平成 2)年の「1.57 ショック」以降、わが国において仕事と子育ての両立支援など、子どもを育てやすい環境づくりに向けての施策展開がなされてきた。今日に至るまでの少子化対策の経緯について、まとめること。

5．未婚化・晩婚化の要因について

＜ポイント＞

少子化の背景として、女性の未婚化・晩婚化が指摘されている。未婚化は、婚姻関係や子育てに束縛された生活よりも、一人の女性として自立を志向するというものである。また晩婚化については、女性の高学歴化の結果、継続して安定した職業に就きたいという希望が増加し、職業的安定は経済的安定をもたらし、女性の社会的地位が相対的に上昇することとなり、晩婚化の要因となっている。

6．地域子育て支援事業について

＜ポイント＞

就労の有無に関わらず、子育て家庭を地域で支え、孤立した育児をなくしていくための地域子育て支援事業が行われている。地域子育て支援センター、つどいの広場、ファミリー・サポート・センターなどについても触れること。

教科書

橋本真紀、山縣文治 『よくわかる家庭支援論』 ミネルヴァ書房。

参考文献

岡本祐子、他『人間生活学　生活における共生の理念と実践』北大路書房。
柏女霊峰、他『家族援助論』ミネルヴァ書房。
佐伯胖、他『ゆらぐ家族と地域』岩波書店。
畠中宗一『家族支援論　なぜ家族は支援を必要とするのか』世界思想社。
湯沢雍彦『データで読む家族問題』日本放送出版協会。

※科目コード2790：ＳＲ履修／科目コード2791：Ｒ履修

科目コード	家族心理学（2単位）	登録年次	履修方法
2790/2791		３年	ＳＲ/Ｒ※
教員名	荒井理帆、志茂田典子、橋本景子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

人間は、生涯を通じて他者との中で生きていく。その最も身近な人間関係の中のひとつに「家族」がある。家族を普遍的固定的な存在としてとらえるのではなく、変動可能な動的な存在として、あるいは開かれたシステムの一部としての家族という見方を学ぶ。また家族が今後どのように変動を遂げる可能性があるのかについて知見を深める。

学修内容

1	現代日本の家族、家族の起源・進化・発展、家族の成立（該当箇所：pp.8-12） 現代の家族の特徴を理解するに際して、なぜ人が「家族」という形態を作り、生活を維持してきたのか、その理由をヒトという種の成立過程から紐解く。
2	日本の「近代家族」の歴史（多様な家族）（該当箇所：pp.13-30） 近代から現代にかけて家族、特に日本において家族はどのように変遷を遂げてきたのかということを理解する。また異なる文化における家族を理解することで現代日本における家族の特徴を把握する。
3	家族の成立の前提としての恋愛、結婚、夫婦間の問題（該当箇所：pp.31-45） 現代家族、中でも結婚をめぐる諸特徴（例：結婚時期、結婚をめぐるメリット・デメリットなど）を調査データから動向を明らかにし、現代人にとっての結婚はどのような意味をもつものなのかを理解する。
4	家族生活を営むとはどのようなことか（家計問題を考える）（該当箇所：pp.59-65） 家庭内経済の運用は、家族生活にとって極めて重要な事項である。各家庭における貨幣配分のあり方を中心に男女の共同生活における平等さを学ぶ。
5	夫婦間のコミュニケーションについて（定年後の夫婦の問題について）（該当箇所：pp.73-85） 中高年世代の夫婦のコミュニケーションの特徴を実証データから明らかにし、なぜこのようなコミュニケーションがなされているのかその実情を理解する。
6	子どもの価値について（該当箇所：pp.94-100） 近年の科学技術の進歩に伴い、子どもの誕生には親側の「作る」意図に基づいて生まれてくる傾向がますます強くなっている。現代の子どもにはどのような価値が見出されて誕生を果たすのかを歴史や文化（地域）から概観する。
7	家族機能の重要な部分である子育てについて（働く母親、父親の心理について）（該当箇所：pp.134-141 , pp.142-148） 子育てをめぐる神話「母性神話」「三歳児神話」が科学的には否定されているが、その根拠を理解する。また、「親になる」とはどのようなことなのか、その親としての発達を理解する。
8	子育て不安について（子育てにおける父親の役割について）（該当箇所：pp.142-148） 性別（父親と母親）による育児行動はどのように異なるのか、異なるとすればどのような違いがなぜ生じるのかということを、養育行動の多少という観点から理解する。
9	家庭内に発生する暴力について（該当箇所：pp.126-133） ここでは児童虐待とドメスティックバイオレンス（DV）について、その背景と要因について理解を深め、支援についても考えていく。
10	子育てをする親としての成長、発達について（子どもの誕生と夫婦関係について）（該当箇所：pp.90-93, pp.149-156） 子どもを育てるということによって一人の人間の「成長」が促進されるという。子育てとはどのようなものかを再考する。
11	中年期の親と青年期の子ども間で起こる問題について（該当箇所：pp.164-170） 子育てがひと段落するといわれる子どもの青年期、成人期において、親子の間に生じやすい問題とは何か、現代的な特徴である、パラサイト・シングルや一卵性母娘という観点から理解する。
12	老年期の親と中年期の子ども間で起こる問題について（該当箇所：pp.171-175） 親の高齢化・長寿命化に伴う「老老介護」や介護をめぐるジェンダー（社会生物学的性）の問題を取り上げる。
13	家族を支える制度や政策について（該当箇所：pp.185-191） これまで家庭内労働（家事や介護）は女性が担うものという暗黙の家族観や政策がなされてきた。これからの家庭内労働の在り方を「男女共同参画」の観点から理解を進める。
14	家族を取り巻く物理的環境について（該当箇所：pp.177-184） 家族の生活の拠点である「家」「マイホーム」の在り方は時代に大きく影響される。物理的環境から規定される家族の在り方を理解する。
15	今改めて「家族」とは何か？について（家族発達）（該当箇所：pp.192-208） 人類の開始から「家族」という形態で居を共にする形で生活を営んできた「ヒト」にとって、今後どのような家族の形が模索されていくのか、その未来の形を予測する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 青年期の我が子を育てる際の親の留意点について述べよ。
＜ポイント＞ 次の言葉のいくつかをキーワードとして考えてみるとわかりやすい。
・パラサイト・シングル
・一卵性母娘
・親を支える子ども達
・「対等」な関係は維持できるか

科目終了試験学修のポイント

1．日本の「近代家族」の歴史について述べよ。
＜ポイント＞
現代における典型的な家族像というものがどのような要因から成立してきたのかについて言及しながらその歴史を説明しなさい。

2．社会変動がもたらす家族の変化・発達について述べよ。
＜ポイント＞
近年における社会変動についてとらえながら、それらが家族をどのように変化・発達させてきたのか、そしてどのような変化可能性を有するのかについて言及しなさい。

3．夫婦のコミュニケーションの重要性について述べよ。
＜ポイント＞
実証的な研究知見をもとに、現在の夫婦に見られるコミュニケーションの形を踏まえて説明すること。

4．家族ライフサイクルの観点から親の発達と子どもの発達について述べよ。
＜ポイント＞
家族のライフサイクル理論について言及すること。

5．子育てには不安がつきものであるが、何が育児不安を強めているか述べよ。
＜ポイント＞
実証的な研究知見をもとに、育児不安について言及すること。

6． 近年の晩婚化・非婚化傾向をもたらす結婚の現代的意味について述べよ。
＜ポイント＞
晩婚化や非婚化が必然性をもって生じてきている現象であるという点を踏まえること。

教科書

柏木惠子『家族心理学への招待　第2版』ミネルヴァ書房。

参考文献

平木典子、中釜洋子『家族の心理』サイエンス社。
中釜洋子、野末武義、布柴靖枝、無藤清子『家族心理学』有斐閣ブックス。

科目コード	家族福祉論（４単位）	登録年次	履修方法
2470		３年	R
教員名	田中利則、千葉由美、辻本理絵子、姫野建二		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

この家族福祉論では、現代の多様化した家族の状況や抱える様々な問題や課題を提示し検討する。また、それらの問題や課題の解決・緩和を遂行するために必要なサービスやアプローチ、ネットワークなどについて学修する。加えて、この科目では、多彩なクライエントの選択や生き方などを尊重し、それらについて理解した上で環境を整え（エンパワメント）、彼らの健康的な領域を発見するとともに強化（ストレングス）し、より望ましい形で支援を提供するにはどのようにすればよいかについて考える力を養い、柔軟な思考や問題や課題ができるように学修する。

学修内容

1	人間にとって家庭とは何か。 家庭は子どもが成長するためや家族員にとっては教育や福祉、コミュニケーションなどを学ぶために重要な役割や機能を有している。
2	わが国の社会状況の変化と家庭 少子高齢化や核家族化が進み、且つ経済的な悪化が長く続くなかで、就労ができない若者や貧困家庭、ひとり親家庭の増加が際立ってきている。また、家族員の関係も希薄化し、ＤＶや虐待などが問題になりつつある。
3	現代社会の家庭が内在している問題や課題 経済格差や学力格差、社会的孤立、貧困の連鎖、養育力や介護力の低下などが問題化してきている。
4	家庭支援の対象と役割 乳幼児の保育支援、保護者の子育て支援、さまざまな問題に関する相談援助、学力が低い児童への学習指導、障害児童などに対する養育支援、ひとり親家庭に対する支援などが実施されている。
5	子どもと家庭 子どもにとっては、生活の基盤であり、人間として成長していくために必要な愛情や栄養・環境を与えられる重要な居場所である。特に、保護者と子どもとの適切な関係形成は必要不可欠である。
6	保育士による家庭支援 保育士は、保育所における乳幼児へのケアを行うばかりではなく、乳幼児や保護者の相談相手になり、地域で暮らす住民の障害を持つ乳幼児を対象として支援を行ったりする。
7	要保護児童とその家庭支援 要保護児童とは、保育に欠ける児童、障害児童や病弱な児童、非行傾向にある児童などのことを意味するが、これらの児童には、それぞれの児童の抱える状況に相応する家庭支援が必要とされ、根拠法に基づいた福祉サービスが準備されている。
8	家庭への個別的な支援 個別的な支援が必要とされている場合には、それぞれの状況に応じて、適切な福祉サービスが提供される。特に、児童虐待が心配される家庭やひとり親家庭、多問題を抱えている家庭には、個別的な支援の提供に力が注がれている。
9	家庭への支援にかかわる法と制度 児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、児童虐待防止法、生活保護法などに関する法制度ば根拠法となり、家庭を支援する。
10	家庭を支援する社会資源 児童や母子などを支援する機関として、児童相談所や児童家庭相談室、保健所、社会福祉協議会、児童委員（民生）、警察の生活安全課などがあり、日々、家庭の相談や支援に力を注いでいる。
11	子どもや家庭を支える社会福祉施設 児童福祉施設には、養護系施設と障害系施設があり、障害系施設には、福祉型と医療型の施設がある。
12	地域支援の必要性 児童福祉の問題は、可能な限り地域社会で支援したり、補完して解決・緩和したりすることが求められる。その意味で、福祉関連機関以外の企業や地域の人材の活用が期待されている。
13	家庭を支援する技術 ファミリーソーシャルワークやグループワーク、コミュニティ・ソーシャルワークなどの技術の活用が期待される。あるいは、チームアプローチやネットワーク技術の導入も期待される。
14	家庭支援や地域の子育て支援、児童の権利養護の実際 地域で実際に生じる子どもの事例を検討し、子育て支援や児童の権利擁護の必要性を理解する。
15	理想とする家庭状況や地域環境 乳幼児や児童にとって、彼らに成長や発達、幸福をもたらす家庭状況や地域環境は如何なるものであろうか。これまでの学修を基礎として、理想とする家庭状況や地域環境について検討する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　わが国の現代家庭が抱える問題や課題について述べ、その背景となった要因について記述せよ。

＜ポイント＞

少子化や核家族化、親戚関係の希薄化、家族関係の歪みや希薄化、離婚家庭の増加などの現代家族の抱える問題や課題に注目して、その問題点や課題を提示し、加えて、その背景となる要因や事態を具体的に挙げ、これらの問題や課題を解決や緩和するためには、如何なる対策や福祉サービスの充実や環境改善などが必要とされているのかについて、テキストや参考文献、インターネットなどを活用して考察し、また、自分の意見を的確に記述する。

【設題2】

少子化を解消するための福祉サービスやプランなどを具体的に挙げ、その効果について検討するとともに、家庭支援や保育所の特別事業などについて注目して、その効果や課題についてテキストや参考文献などを活用して記述せよ。

＜ポイント＞

家庭支援や子育て支援策などに注目して、これらの少子化対策の効果や課題などを挙げて、その背景となる要因について検討する。また、現在実施されている家庭支援や子育て支援策を提示し、それらの効果について検討し、そのなかで示唆されている問題や課題の改善策についてテキストや文献などを活用して考察を行い、具体的に記述する。

科目終了試験学修のポイント

1．主体者である子どものおかれた状況について把握する。

＜ポイント＞

家庭で生じている児童虐待や放任などの問題点や事態について情報を収集し、検討する。

2．DVや虐待などが子どもに及ぼす影響について考察する。

＜ポイント＞

実際に生じた事例や情報などに関する理解を深め、要点を整理する。

3．育児の外部化が子どもや親に及ぼす影響について検討する。

＜ポイント＞

親子が共に過ごす時間や機会の減少が親子関係にどのような影響を及ぼす可能性があるかについて試行錯誤する。

4．少子化の進行が社会や国に及ぼす影響について理解を深める。

＜ポイント＞

子どもの競争力・コミュニケーション能力の低下、あるいは労働人口の減少、税金や年金の負担の増加などの視点から整理する。

5．家庭支援や子育て支援を行う際に、チームアプローチやネットワーク力が必要不可欠であることを認識する。

＜ポイント＞

家庭支援や子育て支援を行う際に支障となる問題や課題を、一人や二人の支援者の力で解決・緩和することは容易ではない。特に、DVや虐待、障害、貧困などの問題などが複雑に絡まった事態では、チームアプローチやネットワーク力が必要であることを認識し、状況の理解を深める。

6．社会資源の充実および開発・人材の育成および配置について把握する。

＜ポイント＞

地域社会での家庭支援では社会資源や適切な人材からの支援は欠かせない。そのためには、社会資源の一層の充実や新たなる社会資源の開発・人材の育成・配置は必要不可欠である。

教科書

橋本真紀、山縣文治『よくわかる家庭支援論』ミネルヴァ書房。

参考文献

小野澤昇、田中利則、大塚良一『家庭支援論』ミネルヴァ書房。

川村匡由『シリーズ21世紀の社会福祉13　家族福祉論』ミネルヴァ書房。

＊ミネルヴァ社会福祉士養成テキストブックシリーズ

（11）第2版　岡田進一・橋本正明編著　『高齢者に対する支援と介護保険制度』。

（13）第2版　『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』。

科目コード	学校経営（２単位）	登録年次	履修方法
4340		１年	R
教員名	石渡宏、攪上哲夫、堀建治		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」各科目に含めることが必要な事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		

科目概要・到達目標

学校経営を学ぶことは、学校づくりの経営実践をその本質、歴史、組織にわたって知ることである。この学びによって、公教育とは何か、学校とは何かなどの問題と関連させながら、学校経営への認識を深め、学校経営のあり方について考察していく。

また、学校経営を支える教育に関する社会的事項、制度的事項の理解のもとに、現在の学校経営上の課題について、認識を深め、課題解決について考えを深める。さらに、教員の仕事は授業が中心であるが、その授業は学校経営という認識と経営を支えるマネジメントの仕事という枠の中で展開されることなどへの理解を深める。

学修内容

1	日本の教育制度の原理　教科書① pp.1-12 「公」の教育として、教育を受ける権利の保障、義務性・無償性、教育の機会均等から成る。それを実現するため諸法令に基づき教育制度があり、国や地方の行政組織により日本の教育行政は行われる。　（レポート設題１）
2	学校の設置と管理運営　教科書① pp.12-29 学校の設置者、学校の設置義務と学校設置基準、学校の管理運営の制度的しくみを理解する。地方教育行政法、教育委員会規則により、経営的発想から学校の裁量権や学校運営協議会制度について考察する。　（レポート設題１）
3	学修内容１・２を通して、レポート設題１「公教育の実施原則と学校の自己裁量権」についてまとめる。
4	学校の意思決定と運営組織　教科書② pp.68-73 学校の管理と運営について、経営的視点から分析する。学校とは一つの組織体であり、校長を責任者として役割が決まっている。職員会議の位置づけや校務分掌による業務への取り組みについて理解する。　（科目終了試験学修のポイント１）
5	カリキュラム・マネジメントによる学校づくり　教科書① pp.61-73・pp.80-82　要説 pp.31 学校組織マネジメントの対象は、効果的な教育活動による子どもの成長と安全な学習環境を提供するカリキュラム（教育課程・指導計画・研究計画等）の計画である。教職科目要説「学力を向上させるための学校経営について」を参考にしてまとめる。　（科目終了試験学修のポイント２）
6	規範意識に基づく、よりよい規律の戦略的な構築　教科書① pp.74　教科書② pp.74-81　要説pp.32 生徒指導により、子どもたちが、協調性や規範意識、規律を身につけることは、一人一人が学習に集中して、学力の向上にもつながる。問題を抱えた子どもには、教育相談、スクールカウンセラーや医療機関等との連携が必要である。教科書①（コラム１）や、教職科目要説「生徒指導における成果について」を参考にしてまとめる。　（科目終了試験学修のポイント３）
7	学校管理職のストレスの特徴と対処法　教科書① pp.132 校長は、学校組織のリーダーとして、学校内・外で多様な職務を遂行する能力が求められる。教科書①（コラム２）を読み、校長の広範な職務に対するストレス認知やバーンアウトに関して考察し、学校管理職のメンタルヘルスについて、次の観点から検討する。時間管理や生活習慣の規則化、物事を肯定的にとらえる思考法や現実的なものの見方、自由な時間の確保等が重要である。　（科目終了試験学修のポイント４）
8	学校の危機管理と増大する学校のリスク　教科書② pp.82-101 学校における危機管理の領域は、学校安全・不審者への対応、情報管理、学級・学校崩壊、不登校、保護者からのクレーム対応、教職員のメンタルヘルスなどがあげられる。ここでは、教科書②「学級崩壊と教員」、「保護者・地域・関係機関と教員」を読み、これら広範なリスクへの対応について考察してまとめる。　（科目終了試験学修のポイント５）
9	学校評価と学校づくり　教科書① pp.117-131 学校評価の役割やしくみについて理解する。学校評価の実施形態として、自己評価、学校関係者評価、第三者評価の関係を整理し、学校改善に資する学校評価の構築に向けて、その意義と課題をまとめる。　（科目終了試験学修のポイント６）
10	児童生徒の就学と管理　教科書① pp.30-44 義務教育における就学義務や就学校の決定のしくみ、学級編成の基準、児童生徒の在学管理のあり方について、法的根拠を基に理解する。
11	教職員の人事管理　教科書① pp.45-60 教員の人事管理に関わる法制度や教員の資格と採用、教員に求められる倫理観と服務規程について理解する。教員の自己研鑽と研修の重要性や職能向上と教員評価等、人事管理をめぐる今日的課題をとらえる。
12	学級・学年組織論　教科書① pp.89-102 学級の組織特性を明らかにし、学級・学年経営のあり方や授業づくりについて考察する。
13	社会教育・生涯学習と学校　教科書① pp.133-146 社会教育とはどういう教育なのか、法制度的に見る。社会教育と生涯学習の関係は、どのように理解すべきか、学校教育と社会教育の連携・協力について、学社連携から学社融合へ向けて地域教育経営という新たな視点やスタンスが必要である。

14	学校と家庭、地域との連携　教科書① pp.147-161 学校と家庭、地域との連携の歴史的変遷とその目的や教育政策について理解する。連携に関する諸制度として、「開かれた学校づくり」や学校評議員制、学校運営協議会等、今後の連携活動について考察する。
15	グローバル化時代の教育改革　教科書① pp.162-191 グローバル化時代の教育問題として、子どもたちの学力、人間の多文化共生、学校や教師ができることを考察する。日本の教育改革の方向性や具体的な施策、海外の教育改革の動向を展望する。
学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】公教育の実施原則と学校の自己裁量権について述べよ。

＜ポイント＞

最近、公教育に関して、「公設民営」「民営化」「教育特区」「地域運営学校」「株式会社参入」等の名目のもとに、管理と維持の分離または管理そのものの民営化の論議が進んでいる。そこで、「公教育の実施原則」などを押さえた上で、公立学校の設置者としての教育委員会の管理責任と、学校の自己裁量権（自治）について考えること。

科目終了試験学修のポイント

１．学校経営を行う上での「学校の意思決定と運営組織」について

＜ポイント＞

学校組織を機能させ、活性化させる校長のリーダーシップや職員会議の役割を理解する。

２．「カリキュラム・マネジメントによる学校づくり」について、その構想を述べよ。

＜ポイント＞

学校における教職員の協働を図り、教育活動全体を通して共通の大きな目標の達成を目指す発想である。

３．子どもたちの学力を向上させる観点から、「規範意識」に基づくよりよい「規律」を戦略的に構築することについて述べよ。

＜ポイント＞

生徒指導において、カウンセリングや連携機関による新たな支援体制等の組織マネジメントが重要である。

４．「学校管理職のストレス」の特徴とその対処法について

＜ポイント＞

校長のリーダーシップ行動の 24%がストレスを伴い、対処法は、生活習慣の規則化や自由時間、肯定的思考、周りの支え等である。

５．「学校の危機管理」と「増大する学校のリスク」について

＜ポイント＞

リスクは常に存在するものと捉え、学校全体で対処していく組織づくりが必要である。

６．「学校評価と学校づくり」について

＜ポイント＞

よりよい学校づくりを行うための学校評価の方法やシステムの構築、活用が大切である。

教科書

① 諏訪英広、福本昌之 「教育制度と教育の経営」 あいり出版。

② 教職問題研究会編 「教職論」 ミネルヴァ書房。

参考文献

牧昌見　『学校経営の基礎・基本』　教育開発研究所。

科目コード	学校保健学（２単位）	登録年次	履修方法
6020/6021/6022		２年	ＳＲ
教員名	石垣久美子、石本強、八重樫節子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

学校保健は、児童生徒、学生並びに幼児の健康の保持増進を図り、もって学校教育の円滑な実施とその成果に資するための科学であり、技術である。学校保健安全法、学校教育法、教育基本法等の法令が、学校教育課程にある子どものよりよい成長と学校教育の円滑な実施を支援する。学校保健は、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校、養護学校、各種福祉施設、専門学校、大学・短期大学等に通う子どもの健康管理（主体管理・環境管理・生活管理）、健康教育（保健学習・保健指導）を行う。すなわち、児童生徒等にとっての学校は、教育の行われる場であるとともに健康な生活が行われる場である。教育と管理の側面から、広義の学校保健活動を実践することのできる教師、養護教諭、養護学校教諭の育成の必修科目である。

学修内容

1	＜母性と乳幼児期＞ 遺伝子とは何かを理解し、生命の出発点を学ぶ。さらに胎児と成人の血液循環の違いから呼吸と環境について理解し、神経系、脳神経の理解から人間の感覚器についての基礎的理論を学修する。
2	＜児童生徒の健康と環境＞ 小児期の疾病の特性、先天性疾患・難聴・起立性調節障害などの小児期の疾病について、主な症状や病因について学ぶ。
3	＜児童生徒の健康と環境＞ 学校保健、学校給食、学校保健管理について法的根拠を押さえながら、それぞれの具体的項目や内容について理解すると同時に、それらに関わる専門職について知る。
4	＜児童生徒の健康と環境＞ 学校環境衛生管理、学校安全の内容について理解する。特に学校安全については近年の事件などを踏まえて、その重要性や対応の事例について学ぶ。
5	＜心の発達と病への対応＞ こころの発達の段階について、新生児から母子分離、家庭内の人間関係から、友人を通じた社会における存在と関係について学ぶ。
6	＜心の発達と病への対応＞ 就学前、小児期以降に主として発症する病について、う歯・視力・起立性調節障害・気管支ぜん息・先天性心疾患・腎疾患・小児肥満などについて学ぶ。
7	＜個として　集団としての健康＞ アレルギーについて、その基礎理論となる基礎免疫学を理解した上で、過剰な免疫反応が起こるメカニズムとその結果としての症状を把握し、対処法について学ぶ。
8	＜免疫と感染＞ インフルエンザ・エイズ・はしか・腸管出血性大腸菌による感染・ノロウイルスなどの主な感染症について理解する。
9	＜免疫と感染＞ 感染症の診断について、症状や検査法を知る。
10	＜免疫と感染＞ インフルエンザ・エイズ・はしか・腸管出血性大腸菌による感染・ノロウイルスなどの主な感染症について、感染経路・感染源・宿主の観点からな感染症の予防について学ぶ。
11	＜食と健康＞ 健康づくりの要素である栄養・運動・休養のうち、食事によってまかなわれる栄養とバランスの良い食事環境を理解し、さらに食品衛生について学ぶ。
12	＜健康教育＞ 保健室からみた健康教育の実際を、事例から理解する。
13	＜健康教育＞ ヘルスプロモーションとは何かを理解した上で、保健学習の重要性とその実践の基礎を知る。
14	＜健康教育＞ 保健教育教材について、実際の事例を検討しながら実践に向けての基礎を身につける。
15	＜健康教育＞ 地域における健康教育として、関連専門職との連携を学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 学校保健活動の目的・方法・領域構造について、説明せよ。

＜ポイント＞

学校保健の目的は、学校保健安全法第1条に示されている。児童生徒および学生並びに幼児の健康の保持増進を図り、もって学校教育の円滑な実施とその成果に資することを目的とすること。その目的を達成するために、保健管理と保健教育、保健組織活動による方法を用いて、教育課程のなかで行われる。その領域構造は、健康診断、健康相談など「主体管理」、環境衛生検査や安全点検等「環境管理」、そして「生活管理」から成るⅠ「保健管理」、自律的健康管理活動能力を培うⅡ「保健教育」（教科として行われる「保健学習」と学校生活・教育課程全体で行われる「保健指導」）、地域保健との連携で行われるⅢ「保健組織活動」の3領域から構成されること。

科目終了試験学修のポイント

1．成長過程で一過性に出現する疾病傾向とその意義について

＜ポイント＞

小児期の疾病の特性や児童生徒にみられる疾病について理解する。

2．学校教育の目的とその成果に資するために行われる学校保健活動について

＜ポイント＞

学校保健のしくみとその実践について理解する。

3．学校保健の目的とその法的根拠について

＜ポイント＞

学校保健領域とその構造、およびそれらを支える法律を詳しく理解する。

4．学校給食における食品衛生管理の実際について

＜ポイント＞

学校給食の衛生管理について具体的注意事項を理解する。

5．環境衛生検査と安全点検について、その目的と内容、方法について

＜ポイント＞

環境衛生、学校環境衛生基準などについて理解する。

6．学校における感染症の予防と保健指導について

＜ポイント＞

感染症予防のための学校環境衛生対策、病原体・感染経路・感受性者への対策を視点とした保健指導などについて理解する。

教科書

教員養成系大学保健協議会　編　『学校保健ハンドブック』　ぎょうせい。

参考文献

なし

科目コード	家庭（２単位）	登録年次	履修方法
4300		２年	R
教員名	浅井恭子、杉山憲江		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

小学校における「家庭科」は、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活に焦点をあて、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識と技能を身につけ、家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てることを目標としている。

本科目では、小学校の「家庭科」の授業を展開する上で必要となる、学習指導の要点や留意点、題材構成のあり方などについて学修する。

学修内容

1	家庭科教育の変遷について概略を理解する。 特に、S22 年学習指導要領･S33 年改訂学習指導要領･H1 年改訂学習指導要領･H11 年改訂学習指導要領･H23 年改訂学習指導要領･H29 年告示学習指導要領
2	H29 年告示小学校学習指導要領における教科目標について理解する。 教科目標及び内容項目構成について考察する。　教科書 pp. 12～16 参照
3	A「家族・家庭生活」の題材の取り上げ方、構成、指導上の要点などを学び、指導上の留意点を理解する。 教科書 pp. 20～31 参照
4	B「衣食住の生活」における学修内容を学び、題材構成や指導上の留意点を理解する。 教科書 pp. 32～63 参照
5	家庭科で実習指導を行う際に配慮すべき点について 実習には調理・製作・洗濯などが含まれる。　H29 年告示小学校学習指導要領 pp. 35･47、pp. 81～83 参照
6	なべによる炊飯、だしからとるみそ汁の実習をし、だしの取り方など日本の伝統的な食文化の大切さを学ぶ。 米の栄養・吸水時間・きり方の名前・だしのとり方に対する知識理解
7	B「衣食住の生活」（4）衣服の着用と手入れ（5）生活を豊かにするための布を用いた制作における内容を学び、題材構成や指導上の留意点を理解する。 教科書 pp. 49～57 参照
8	洗濯、特に手洗いのしかたを実習し、基礎基本を学ぶ。 洗濯の仕方・布の扱い方・取り扱い表示についての知識を理解し、指導上の留意点を獲得する。
9	小学校家庭科における手縫いの実習をし、基礎基本を学ぶ。 なみ縫い･纂縫い･返し縫い、ボタンの付け方などの技能を確実にし、指導上の留意点を理解する。
10	小学校家庭科におけるミシン縫いの実習をし、基礎基本を学ぶ。 糸のかけ方・針のつけ方・アイロンのかけ方などの技能を確実にし、指導上の留意点を理解する。
11	B「衣食住の生活」における（6）快適な住まい方について内容を学び、題材構成や指導上の留意点を理解する。 教科書 pp. 58～63 参照
12	C「消費生活・環境」 環境に配慮するための知識を理解し、指導上の留意点を獲得する。 クリーンコンシューマー・４R・エコに関係するマーク･グリーンカーテンなどの知識を理解し、指導上の留意点を理解する。
13	指導計画作成における題材構成や教材選びについての留意点を考察し、指導上の配慮事項について学びを深める。 教科書 pp. 71～81 参照
14	上記 13 で学習したことを基に自分なりの単元(題材)を構想し、学習展開を考える。
15	自分の生活する地域の素材に目を向け、地域性を取り入れようとするとき、どんな題材や素材があるのか、どのように小学校家庭科授業にとりいれたらよいか工夫を考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】家庭科における題材・教材選びの留意点と具体的な学習展開について述べよ。

＜ポイント＞

小学校家庭科では「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成を目指す」ことに留意し、題材構成・教材選びの視点を整理するとともに、具体的にどのような学習展開が考えられるかを構想すること。

科目終了試験学修のポイント

1．A「家族・家庭生活」に関する内容と指導上の留意点について

＜ポイント＞

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編の学修内容領域区分におけるAの位置づけを理解した上で、B～Cとの題材構成を考察する。題材の取り上げ方、構成、指導上の要点を掴む。

2．B「衣食住の生活」(1) 食事の役割 (2) 調理の基礎 (3) 栄養を考えた食事の内容と指導上の留意点について

＜ポイント＞

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編pp.34-48を熟読し、それを基に指導における留意点を考察してほしい（食事の役割・調理の基礎・栄養を考えた食事・調理の基礎）。

3．B「衣食住の生活」(4) 衣服の着用と手入れ (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作の内容と指導上の留意点について

＜ポイント＞

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編pp.49-57を熟読し、それを基に指導における留意点を考察してほしい(衣服の着用と手入れ･快適な住まい方･生活に役立つものの製作)。家庭生活を総合的に扱う指導。

4．C「消費生活・環境」の内容と指導上の留意点について

＜ポイント＞

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編pp.64-70を熟読し、それを基に指導における留意点を考察してほしい(物や金銭の使い方と買い物･環境に配慮した生活)。他教科との関連を考慮した指導。

5．実習指導を行う際に配慮すべき点について

＜ポイント＞

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編pp.81-83を基に考察する。小学校5･6年の実態を踏まえ、配慮点を述べること。食物アレルギーについても配慮すること。

6．わが国の伝統的食文化である「米飯及びみそ汁の調理とだし汁」の指導上の留意点について

＜ポイント＞

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編pp.42-43を読んだ上で、実習を基に日本の伝統食として「米飯及びみそ汁の調理」を指導する際の配慮点を述べる。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編』東洋館出版社。

参考文献

櫻井純子、他『小学校わたしたちの家庭科５・６』開隆堂出版。

内野紀子、他『小学校新学習指導要領の展開　家庭科編』明治図書。

科目コード	家庭科指導法（2 単位）	登録年次	履修方法
4250		2 年	ＳＲ
教員名	浅井恭子、杉山憲江、濱地幸		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報の機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

「家庭科」は社会の変化とともに、その意義や目標、教育内容を大きく変容してきた教科である。本科目ではそうした歴史をふまえ、教科としての「家庭科」の意義と、小学校における「家庭科」の目標、内容、指導方法について、平成 29 年告示をもとに習得する。また「家庭科」から総合的な学習の時間などへの提案についても学ぶ。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	急激な社会変化を生活の利便性・高齢社会・少子化・科学の発達・情報化の観点から考え、それによって変化している子どもの家庭生活・多様化した家族生活など現状分析する。	・講義概要の説明など ・小学校家庭科の変遷、改訂の流れ及び育成すべき学習内容の理解	印刷授業及び面接授業（1 時間）
2	平成 29 年改訂小学校学習指導要領の基となっている平成 28 年中央教育審議会答申を読み、これからの家庭科教育における課題を掴む。		印刷授業
3	平成 29 年改訂小学校学習指導要領家庭科において改訂された部分を把握し、これからの家庭科教育のあり方を理解する。 A～C の個別学習内容の指導上の留意点を理解する。	小学校家庭科の A～C の内容構成と内容の確認	印刷授業及び面接授業（1 時間）
4	家庭科の学習特性とは 体験的・実践的活動を通して、生活する視点で、衣・食・住を対象とする家庭生活を総合的に捉える。学習を生活に活かす。家政学の研究についても触れる。	小学校家庭科の学習内容の基礎・基本について 衣食住を中心に 情報機器を有効活用する教材研究	印刷授業及び面接授業（1 時間）
5	家庭科の学習指導のあり方の特質について 児童実態・地域実態などの日常生活に合う題材、学習意欲(意識的自己形成)、学習したことを生活する力へ転化できる、実生活に活かす←家庭の協力、体験的・実践的活動の工夫 インクルーシブ教育の視点も考慮する	家族や家庭を中心に 情報機器を有効活用する。	印刷授業及び面接授業（1 時間）
6	家庭科の学習内容の全体構造について ・家庭生活を総合的に扱い、題材構成により地域実態・児童実態に即した学習を計画できる。 ・2 年間を見通したストーリー性のある学習を計画できる。	消費や環境を中心に 情報機器を有効活用する教材研究	印刷授業及び面接授業（1 時間）
7	小学校の家庭科における「基礎・基本」について 体験的・実践的活動を通した授業 思考→習得→活用→探究 思考力・判断力・表現力→主体的学習 言語活動の充実 ← 集団学習 ＝ 相互の学びあい	調理実習（ご飯とみそ汁他）	印刷授業及び面接授業（2 時間）
8	家庭科における実践的な態度の育成 生活する視点で地域実態・児童実態に即した題材・教材を見極め、身につけたい資質能力を明らかにする授業 実践的・体験的活動を工夫し、学習したことを家庭生活で活用したり応用したりできるように働きかける指導の計画	被服実習（コースターまたは袋） 手縫いの基礎縫い　ボタン付け　ミシン縫い を含む。	印刷授業及び面接授業（3 時間）
9	家庭科における学習評価 観点別による評価や　評価方法を理解する		印刷授業
10	家庭科と総合的な学習や道徳の時間などとの関連について 学習対象・活動場所・学習方法などの視点から共通する点を掴む。	家庭科と総合的な時間・道徳などとの関連	印刷授業及び面接授業（1 時間）
11	小学校の家庭科と他教科との関連、中学校家庭科との関連 横断的視点（社会・理科・道徳）給食・清掃 縦断的視点(生活・総合・4 学年までに学習) 他教科との合科		印刷授業
12	題材構成をした授業計画の構想１ 参考文献などの実践例から授業指導計画を学び、学習展開や題材構成についてポイントを理解する。	指導案の作成についての説明と立案作成	印刷授業及び面接授業（1 時間）

13	題材構成をした授業計画の構想２ 参考文献などの実践例から題材構成をし、授業指導計画の構想、学習指導案の作成ができる。 情報機器及び教材の効果的な活用法についても考える。	演習　模擬授業の実施と振り返り 研究討議	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
14	題材構成をした授業計画の構想３ 授業指導計画の中から本時の学習展開を構想し作成する。		印刷授業
15	1～3 回の内容を中心に設題１について文章化する。 社会変化→子どもたちの現状→これからの家庭科教育のあり方	まとめ	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 題につき 7～8 枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】今後の社会変化への対応を考慮した家庭科の学習について述べよ。
＜ポイント＞
　中央教育審議会の答申（平成 28 年 12 月 21 日）等を参考にしながら、今後の急速な社会変化とはどのようなものであり、それへの対応として、家庭科の学習で育成すべき力とはどのようなものか、家庭科の学習内容はどうあるべきかについてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１．家庭科における実践的な態度の育成について
＜ポイント＞
・生活する視点で地域実態、児童実態に即した題材・教材を見極める。
・体験的・実践的活動を工夫する。
・学習したことを、家庭生活で繰り返し実践される働きかけに結び付ける(家庭での実践依頼と協力)。

２．家庭科の学習内容が大綱的に示されていることについて
＜ポイント＞
学修内容６を参照

３．小学校の家庭科における「基礎・基本」について
＜ポイント＞
学修内容７を参照

４．家庭科の学習方法の特質について
＜ポイント＞
学修内容５を参照

５．家庭科と「総合的な学習の時間」との関連について
＜ポイント＞
学修内容１０を参照

６．小学校の家庭科と他教科との関連、中学校家庭科との関連について
＜ポイント＞
学修内容１１を参照

教科書

小学校学習指導要領解説　家庭編（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）

参考文献

櫻井純子、他『小学校わたしたちの家庭科５・６』開隆堂出版。
内野紀子、他『小学校新学習指導要領の展開　家庭科編』明治図書。
文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍。

科目コード	家庭支援論（２単位）	登録年次	履修方法
6470		３年	R
教員名	青木正、荻野基行、黒木豊域、辻本理絵子、西村彩恵、柳澤利之		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

家族の意味（定義）、基本的機能をおさえた上で、子どもの健全な発達や社会の発展のために果たす家庭の役割、子育て家族を取り巻く社会的状況の厳しさを学修し、家庭支援の必要性を理解する。家庭のニーズに応じた多様の子育て支援の方法、関係機関との連携などについて身近な地域（居住地）の実態を通して、保育者として可能な支援を考える。

学修内容

1	家族援助の対象と役割 家族援助が求められるようになった背景からその意義を理解する。次いで、家族援助がどういう概念であるか、その構造、理念、技術、サービスの形態、およびサービスの種類について理解を深める。
2	子どもと家族 家族の形態と子どもが生まれ育つ中で、家族がどのように機能し変化するかを学ぶ。 家族の形態、機能、取り巻く社会について理解を深める。また、親になるプロセスについて理解を深め、子どもの発達と親や家族のかかわりと影響について理解する。
3	保育士による家族援助 家族援助における保育士の役割と支援内容について 基本的な保育士の役割とは何かを踏まえ、家族援助における保育士の役割および倫理を学ぶ。また、保育所を利用する家庭や児童福祉施設を利用する家庭への援助についても学ぶ。
4	家族援助にかかわる法・制度 子ども・子育てに関わる法にはどのようなものがあるのだろうか。また、その他の法律で子育てに関する法律にはどのようなものがあるのだろうか、それぞれの制度および指針について理解を深める。保育所保育指針と幼稚園教育要領における子育て支援について学ぶ。
5	子どもと家族を支える機関や人 児童相談所、福祉事務所、家庭児童相談室、子ども家族福祉の行政、保健所と市町村保健センター、児童福祉施設、児童家庭支援センター、および家庭裁判所などの機関と人についてそれぞれの目的と内容を学ぶ。
6	子どもと家族を支える機関や人 教育関係機関、認定こども園、児童委員・主任児童委員、社会福祉協議会、子育てサロン、子育てサークル、子育てネットワークについて、それぞれの目的と内容を学ぶ。
7	子どもと家族を支援するサービス 子どもと家族を支援する社会資源としてのサービスにはどのようなものがあるのか理解を深める。 （保育所における保育サービス、子育て短期支援事業、幼稚園における預かり保育事業、認可外保育サービス、訪問型保育サービス、育児休業制度など。）
8	保育所・幼稚園における家族援助 保育所等における家族援助の在り方、方法、および手段について学ぶ。また、障害のある子ども、虐待家族、ひとり親家庭などの特殊なニーズへの支援について理解を深める。
9	在宅子育て家庭への支援 在宅子育て家庭への支援の対象や、各現場での支援について理解を深める。
10	在宅子育て家庭への支援 在宅子育て家庭への支援における情報収集から企画、実施、評価までを学ぶ。
11	要保護児童とその家族への援助 乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、などにおける乳児児童とその家族への支援について、様々な現場の特徴を学ぶ。
12	家族への個別援助 家族の支援について、展開過程の各段階における留意点を学ぶ。①受理・情報収集と分析、②援助計画の作成、③援助活動の実施、④援助活動の評価と終結、⑤記録

13	家族援助や地域の子育て支援の実際 電話相談の事例や保育所における子どもの虐待への援助事例を読み、支援への理解を深める。
14	家族援助や地域の子育て支援の実際 障害のある子どもの事例や、地域子育て支援センターにおけるプログラム開発、子育てサークルの支援を研究し、支援への理解を深める。
15	家族援助や地域の子育て支援の実際 地域子育て支援センターにおける子育て支援、虐待を受けて児童養護施設に入所している子どもの事例、児童福祉施設に入所している子どもの家庭復帰の支援を研究し、それぞれへの理解を深める。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　家庭支援の背景と意義及び支援の内容について述べよ。

＜ポイント＞
　家庭支援がなぜ必要になってきたのか、①その社会的背景について説明する。また、②その意義と構造③具体的な支援内容について説明を行う。

科目終了試験学修のポイント

1．家庭機能の変化について
＜ポイント＞
　そもそも家庭の機能には、どのようなことがあったのか。また、それがどのような事柄が原因で、どのように変化したのかについて述べる。また、それに伴う課題について考察する。

2．少子化の要因と出生率の低下について
＜ポイント＞
　少子化および出生率が低下したことの要因は何かについて述べ、それがもたらす社会の変化についても考察する。

3．家庭支援に関わる法律・制度について
＜ポイント＞
　児童福祉六法やそのほかの重要な制度についてまとめる。

4．子どもと家庭を支える機関や人について
＜ポイント＞
　子どもと家庭を支える機関にはどのようなものがあり、どのような職員がどのような働きをするのかについてまとめる。

5．家庭支援における保育士の役割について
＜ポイント＞
　家庭支援を保育士が行うとする根拠となる法律を調べ、その役割を、方法や基本姿勢から述べる。

6．地域子育て支援事業について
＜ポイント＞
地域子育て支援事業とは何か、また、支援センターの役割や事業の課題についても述べる。

教科書

橋本真紀・ 山縣文治編『よくわかる家庭支援論』ミネルヴァ書房。

参考文献

柏女霊峰、他『家族援助論』ミネルヴァ書房。
畠中宗一『家族支援論　なぜ家族は支援を必要としているか』世界思想社。
佐伯胖、他『ゆらぐ家族と地域』岩波書店。

科目コード	関係行政論（２単位）	登録年次	履修方法
3750		３年	R
教員名	梶原洋生、後藤進吾		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心理に関する支援において関係する行政制度の把握は重要であり、今日、クライエントやその家族、関係者の支援において必要性が高くなっている。心理に関する支援の保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働等の諸領域における行政の仕組みや法律、倫理について取り上げ、それらの理解を深めると共に、事例に関連した学修を通して、心理に関する支援に関係する行政制度に応じた臨床感覚を養い、心理に関する支援における保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野に関係する制度、法律、及び倫理的対応を理解する。

学修内容

1	心理に関する支援における法律、制度について、その基本を学ぶ。 心理に関する支援に関係する各分野における法的体系について学び、心理に関する支援に関係する法律、制度についての意義を考える。
2	心理に関する支援における保健医療分野に関係する法律、制度の概要について学ぶ。 医療法、医師法、精神保健福祉法、保健師助産師看護師法、薬事法、がん対策基本法等の法律概念について学び、心理に関する支援における保健医療分野に関係する必要な法的知識を理解する。
3	心理に関する支援における福祉分野（障害者領域）に関係する法律、制度の概要について学ぶ。 障害者基本法、発達障害者支援法、障害者虐待防止法等の法律概念について学び、心理に関する支援における福祉分野（障害者領域）に関係する必要な法的知識を理解する。
4	心理に関する支援における福祉分野（児童領域）に関係する法律、制度の概要について学ぶ。 児童福祉法、児童虐待防止法、児童の権利に関する条約等の法律概念について学び、心理に関する支援における福祉分野（児童領域）に関係する必要な法的知識を理解する。
5	心理に関する支援における福祉分野（家庭領域）に関係する法律、制度の概要について学ぶ。 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（ＤＶ防止法）等の法律概念について学び、心理に関する支援における福祉分野（家庭領域）に関係する必要な法的知識を理解する。
6	心理に関する支援における福祉分野（高齢者領域）に関係する法律、制度の概要について学ぶ。 老人保健法、老人福祉法、介護保険法等の法律概念について学び、心理に関する支援における福祉分野（高齢者領域）に関係する必要な法的知識を理解する。
7	心理に関する支援における教育分野に関係する法律、制度の概要について学ぶ。 教育基本法、学校教育法、学校保健安全法、いじめ防止対策推進法等の法律概念について学び、心理に関する支援における教育分野に関係する必要な法的知識を理解する。
8	心理に関する支援における司法・犯罪分野（少年関連）に関係する法律、制度の概要について学ぶ。 少年法、少年院法等の法律概念について学び、心理に関する支援における司法・犯罪分野（少年関連）に関係する必要な法的知識を理解する。
9	心理に関する支援における司法・犯罪分野（犯罪被害関連）に関係する法律、制度の概要について学ぶ。 犯罪被害者保護法等の法律概念について学び、心理に関する支援における司法・犯罪分野（犯罪被害関連）に関係する必要な法的知識を理解する。
10	心理に関する支援における産業・労働分野に関係する法律、制度の概要について学ぶ。 労働基準法、労働安全衛生法、自殺対策基本法等の法律概念について学び、心理に関する支援における産業・労働分野に関係する必要な法的知識を理解する。
11	心理に関する支援における災害被害に関係する法律、制度の概要について学ぶ。 災害対策基本法、災害救助法等の法律概念について学び、心理に関する支援における災害被害に関係する必要な法的知識を理解する。
12	心理に関する支援に関係する倫理の概要について学ぶ。 日本臨床心理士会倫理綱領、秘密の保持、面接記録の開示・説明と責任等について学び、心理に関する支援に関係する倫理を理解する。
13	心理に関する支援に関係する事例発表、出版等における倫理の概要について学ぶ。 研究倫理、プライバシーの保護、インフォームド・コンセント等について学び、心理に関する支援に関係する事例発表、出版等における倫理を理解する。
14	心理に関する支援におけるカウンセラーの守秘義務に関する判決例等について学ぶ。 タラソフ事件、カウンセラーの守秘義務等について学び、心理に関する支援におけるカウンセラーの守秘義務を理解する。
15	心理に関する支援における法律、制度と倫理について総合的に考える。 心理に関する支援における法律、制度と倫理の関係性について学び、心理に関する支援における法律、制度と倫理を総合的に理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】心理に関する支援における法律と倫理の関係性について、秘密の保持の伴う倫理的葛藤を踏まえて、具体的な事例をまじえながら述べよ。

＜ポイント＞

秘密の保持に伴う倫理的葛藤が生じる状況を想定し、各種法律上の制約と倫理的な配慮がどのように対立し、それを解決するためには、どのような考え方に基づいて、どのように行動することが望まれるのかを論述すること。

科目終了試験学修のポイント

1．精神保健福祉法について

＜ポイント＞

精神保健福祉法の目的と任意入院、医療保護入院、措置入院の違いについてまとめる。

2．社会的養護について

＜ポイント＞

社会的養護を担う各種の児童福祉施設についてまとめる。

3．チーム学校について

＜ポイント＞

2015年12月に中央教育審議会から出された「チームとしての学校の在り方と今後の改善について（答申）」の概要をまとめる。

4．少年事件について

＜ポイント＞

少年法に基づく少年事件の処理の全体像についてまとめる。

5．労働安全衛生法について

＜ポイント＞

労働安全衛生法の目的と概要についてまとめる。

6．事例発表・出版等における倫理について

＜ポイント＞

メンタルヘルス領域の職業倫理の原則に触れながら、プライバシーの保護とインフォームド・コンセントについてまとめる。

教科書

一般財団法人日本心理研修センター監修「公認心理師現任者講習会テキスト2018年版」金剛出版。

参考文献

佐藤進監修『心の専門家が出会う法律　第3版』誠心書房。

『日本心理臨床学会倫理規定』一般社団法人日本心理臨床学会。

『日本臨床心理士会倫理規定』一般社団法人 日本臨床心理士会。

科目コード	看護学（救急処置を含む）（４単位）	登録年次	履修方法
6062		３年	ＳＲ
教員名	石田妙美、石垣久美子、高橋登志子、手塚和美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

現在では、救急看護が対象とする傷病者や疾患は広範囲であり、年齢層も全ての年齢にわたり、障害のある人も含まれる。また救急看護の現場では、心肺停止状態の人、犯罪や法的問題にかかわる人の取り扱いも必要とされる。特に園児・生徒の急変時、また最近の災害的な大量傷害事故発生時には適切･迅速な対応が必要であり、さらに家族への対応も求められる。本科目では、特に園児や生徒などの心身の発達段階において、事故や疾病の悪化などで救急看護が必要とされる事項を理解し、養護医療や福祉医療に役立つ救急看護の知識を身につけることを目標とし、養護上の救急看護における適切な準備、欠かせない知識や基礎的な技術を理解できるようにする。

学修内容

1	Ⅰ、非看護系大学における看護学について １．看護学総論　１）看護とは　　２）看護職の倫理綱領
2	Ⅱ、基礎看護論 １．看護の基礎
3	２．看行為の基本 １）コミュニケーション　　２）看護における観察
4	Ⅲ、看護過程 １．フィジカルアセスメント １）見逃したくない症状や徴候：（1）皮診と二次病変の区別、緊急事態かどうかの判断
5	２）基本情報の聴き取り（１）一般状態の観察 （２）バイタルサインの測定
6	３）学校看護で重要な「頭頸部のフィジカルアセスメント（例）」 ポイント（1）フィジカルアセスに必要な解剖整理と機能の知識（EX：頭部打撲の場合はその部位）
7	（２）自覚症状・・前駆症状・随伴症状・持続時間等の問診 （EX：頭痛・眩暈・吐気や嘔吐・意識障害・けいれん）
8	４）各科の看護・・・健康診断の事後措置及び救急看護で頻度の高いフィジカルアセス （１）小児科疾患とその看護（各部の視診・触診と記録、以下同）
9	（２）内科系疾患と看護 生活習慣病の現状と看護・予防
10	（３）思春期精神不調と看護・予防 （４）精神科疾患と看護・予防
11	（５）眼科疾患とその看護・予防 （６）耳鼻咽喉科疾患とその看護・予防
12	（７）口腔歯科の疾患とその看護 （８）頭部以外の部位の打撲・骨折など外科系疾患とその看護・予防
13	２）学校でできる看護処置 （１）医療機関への受診のタイミング　（２）学校内外の連携（担任・保護者・学校医・かかりつけ医師の有無） （３）医療機関への搬送・後処置
14	Ⅳ、看護の記録 主訴の記録と対応の記録について・・・事例検討会
15	Ⅴ、総合 教育系の学校看護学及び実践について基本をまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 小児外傷における救急看護の問題点を述べよ。

＜ポイント＞

小児は自分自身の症状を的確に表現できないという観点からまとめること。すなわち、受傷時に周囲にいた人から情報を聴取すると同時に、受傷者本人の異常の有無と程度を客観的に判断しなければならない。また最近は、被虐待による外傷も多く含まれており、冷静な視点で周囲にいた人の心の状態や言動を正確に判断することも必要とされる。これらの点を踏まえて、問題点を整理すること。

【設題2】 養護教諭の職務と看護学（救急処置を含む）の知識と技能の関連性について述べよ。

＜ポイント＞

小・中学校といった発達段階別で多い疾病や事故を想定し、アセスメントし対応する時にどんな看護学の知識や技術が必要で、養護教諭の職務のどの領域かを考えて問題点を整理すること。できれば具体的事例を挙げて述べる。

科目終了試験学修のポイント

1．発達段階に応じた突然の事故や急変時の救急現場での看護の役割について

＜ポイント＞

突然の事故や子どもの急変の発生頻度は低いが、養護教諭にはこのような場面でこそ、適切な対応が求められる。救急場面では子どもの発達段階の特性を踏まえることが大切である。急変時の看護について発達特性に触れてその役割を述べる。

2．急変の場合の移動・搬送について

＜ポイント＞

学校の日常の救急処置場面は保健室であるが、教室、体育館、運動場における活動中の事故時の急変をイメージし、移動・搬送を述べる。

3．症状別（外傷、熱傷、痙攣、溺水、誤嚥・気管内異物、腹痛・下痢、悪心・嘔吐、発熱）の救急看護について

＜ポイント＞

症状別の救急看護で頭部外傷などでは、外傷部位の頭の骨の固さなどで危険性を予測し、医療受診が必要となる。各症状への看護を周知することが求められる。症状についての対応についてキーワードを入れてまとめる。

4．現場で直ちに施行する一次救命処置（バイタルサインの評価含む）について

＜ポイント＞

一次救命処置は、事故者の側に居合わせる一般市民も行えるものである。その手順に触れ、処置をシュミレーションし、過程を述べる。

5．救急時の様々な対応 （家族、救急隊・警察、虐待、精神疾患など）について

＜ポイント＞

社会が複雑になり、学校における救急看護の対応も複雑な要素がある。とりわけ虐待など犯罪行為として取り扱われるべきと認められるものや、いじめ（平成24年11月2日付文部科学省初等中等教育局長通知）なども頻発する。このような救急処置では警察への相談･通報が必要となるなど文科通知などインターネットで学び、これらに触れながら対応を述べる。

6．学校における救急処置判断過程の特徴や、管理上の責任について

＜ポイント＞

救急処置のプロセスは、心身の健康問題の発見から解決･改善の援助のプロセスであるが、頭部外傷などでは管理責任が伴う。学校の管理上の特徴をとらえてまとめる。

教科書

藤井寿美子、他『養護教諭のための看護学　改訂版』大修館書店。

参考文献

杉浦守邦『養護教諭のための診断学　外科編／内科編』東山書房。
藤崎郁『フィジカルアセスメント』学研。

科目コード	韓国の文化と言語 / 韓国の文化と言語Ⅰ (2単位)	登録年次	履修方法
1650/1810		1年	SR
教員名	尹文九		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

2002年日・韓ワールドカップ共催以降、韓国ドラマやハングルに対する関心や需要が急速に高まっている。こうしたことを踏まえて、本講義ではハングルや韓国に関心がある初心者の学生を対象に基本的なハングルを学びながら、韓国のさまざまな文化について日本の文化と比較しながらその相違点や類似点について学修する。

したがって、より良い学修効果を高めるためには授業に入る前にある程度の文字を覚えることが望ましい。また、自分が関心を持っている韓国の文化、例えば、食文化、儒教文化、大衆文化（ドラマ、映画、音楽など)、家族文化、教育文化や歴史、世界遺産の中から、一つを選んでそれについて調べて授業に臨むことが必要である。

学修内容

1	科目の学修概要を、シラバスを読んで把握する。また、韓国社会について基本的なことを学修する。
2	韓国文化の理解―ハングルの特徴と構成― 文化の一つとしてハングルの特徴や基本構成について学修する。　教科書 pp.2-9
3	基本母音と子音（文字と発音) 基本母音と子音の発音を中心に学修する。　教科書 pp.10-17
4	合成母音と子音（文字と発音) 合成母音と子音の文字とバッチムについて学修する。　教科書 pp.18-27
5	韓国文化の理解 韓国の伝統文化の特徴について学修する。
6	私は○○○です（名前と職業) 初対面の相手に自分の名前、国籍や職業を紹介する会話を学修する。　教科書 pp.40-45
7	儒教文化 儒教が韓国社会や韓国人に及ぼした影響について学修する。
8	家族文化 ハングルで家族や親族の呼び方を学修した後、日本と韓国の家族制度の相違点について学修する。　教科書 pp.61
9	教育文化 なぜ、韓国は教育に関心が高いのかなど、韓国と日本の教育文化の相違点や類似点について学修する。
10	道を尋ねるときの言葉 位置関係の言葉と同時に、韓国旅行の際に道を尋ねる時に必要な文型や会話について学修する。　教科書 pp.69-71
11	韓国の歴史と世界遺産 韓国の歴史について時代別に区分し、その大きな特徴を日本の歴史と比較しながら学修する。また、世界遺産にはどのようなものがあるのかについて学修する。
12	食文化 日本と韓国を比較しながら食文化の違いについて学修する。
13	買い物やレストランでの言葉 買い物や食事の際、日本と異なる点や必要な会話について学修する。
14	韓国の大衆文化 韓国のドラマ、映画、音楽など大衆文化の特徴や日本の文化と相違点について学修する。
15	全体まとめ ハングルで簡単な自己紹介ができるように学修する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 韓国文化の中から一つを選び、日本と比較して相違点や類似点について述べよ。

＜ポイント＞
文化には食文化をはじめ大衆文化など、さまざまなものがある。一般的に文化はシステム構造の特性を持っているといわれている。すなわち、欧米を基準に日本と韓国の文化を比べると類似点が多い。しかし、対象を日本と韓国と限定した場合類似点よりは相違点が多い。このように比較することによって理解しやすくなる。

科目終了試験学修のポイント

1．教科書 p.44 の文型練習を日本語で訳し、韓国語と日本語の違いについて述べよ。
＜ポイント＞
言葉は文化の一つであることを前提に、日本語と韓国語にはどのような特徴があるのかについて理解する。

2．教科書 p.60 の文型練習を日本語で訳し、また自分の家族関係を韓国語で簡単に説明せよ。
＜ポイント＞
教科書 pp.58-59、p.61 ページを学修し、取り組むこと。

3．韓国語で簡単に自己紹介を書け。
＜ポイント＞
名前、職業，趣味などについて簡単でもいいので自己紹介ができるように学修する。

4．儒教が韓国社会に及ぼした影響について述べよ。
＜ポイント＞
朝鮮時代の５００年は儒教の理念を基盤に社会が構築され、人々の生活様式や意識などに多大な影響を及ぼした。例えば、言葉遣いや食事のマナー、家族関係など韓国の文化は儒教を中心に形成されたのである。したがって、韓国文化を理解するためには儒教の基本的な理念を理解する必要がある。

5．韓国と日本の食文化の違いについて述べよ。
＜ポイント＞
なぜ、食事をする様子やマナーが韓国と日本では異なるのかなど、食文化のさまざまな面から類似点や相違点を比較し、まとめる。

6．韓流が日本社会に及ぼした影響について述べよ。
＜ポイント＞
経済効果や国家間の人的交流などについてまとめてもよい。

教科書

李昌圭『韓国語を学ぼう（初級）』朝日出版社。

参考文献

斉藤明美『ことばと文化の日韓比較』世界思想社。
古田博司、他『韓国学のすべて』新書館。
金真、他『韓国文化を読む』朝日出版社。
金真、他『韓国社会を読む』朝日出版社。
韓国海外文化広報院『韓国のすべて』韓国文化体育観光省。

科目コード	韓国の文化と言語Ⅱ（2単位）	登録年次	履修方法
1820		2年	ＳＲ
教員名	尹文九		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

韓国の文化と言語Ⅰでは文化を中心としながら言語について学修し、本科目ではⅠで学んだハングルの文型や文字を復習しながら新しい会話を中心に学修する。

学修内容としては、難しい文法よりは分かりやすい日常会話、すなわち実用会話を中心に勉強する。同時に、韓国の文化や社会などについても学修し、韓国社会への理解を高める。

学修内容

1	韓国の文化と言語Ⅰの学修内容を振り返る。 文化とは何か
2	韓国現代社会の理解 政治制度など現代韓国社会全般を理解するための基本的な事項について学修する。
3	言語文化としてハングルの文字と特性 ハングルの特性と文字の発音などを学修（復習）する。
4	挨拶の言葉 訪問、お礼、謝辞、出会いと別れ、食事のときなど様々な場面での挨拶の言葉を学修する。　教科書 pp.34-35
5	教室の言葉 授業の際、教室内で使用する基本的な言葉について学修する。　教科書 pp.36-37
6	韓国の伝統文化 生まれてから死ぬまでの間にどのような儀式があるのかについて伝統文化を中心に学修する。
7	これは何ですか（指示代名詞、場所） 物や場所を指す指示代名詞について学修する。　教科書 pp.48-55
8	この人は誰ですか（三人称代名詞） 三人称代名詞の文法と表現について学修する。　教科書 pp.56-59
9	家族文化と家族の呼び方 日本と韓国の家族文化の違いや類似点について学修する。　教科書 pp.61-63
10	N＋が／はどこにありますか 場所や位置関係の言葉の表現について学修する。　教科書 pp.64-71
11	N＋をしますか 接続詞について文法と表現について学修する。　教科書 pp.72-75
12	N＋に／へ行きますか 曜日や時間関係の言葉について学修する。　教科書 pp.82-89
13	漢数詞と電話番号 漢数字と電話番号について学修する。　教科書 pp.100-103
14	これはいくらですか 店で買い物に必要な基本的な会話を学修する。　教科書 pp.116-119
15	漢数字と固有数字と全体のまとめ 固有数字や漢数字を学習し、全体を総括する。　教科書 p.102,p.110

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】韓国社会について調べ、まとめよ。

＜ポイント＞

韓国社会について、例えば、政治、経済、歴史、社会・文化などから自分が理解したいテーマについて調べ、まとめる。
なぜそのテーマを選んだのか、理由も述べること。一つのテーマに絞っても、幅広いテーマを総合的にまとめてもよい。

科目終了試験学修のポイント

1．自分が覚えている挨拶関連の言葉を20個以上韓国語とそれに対応する日本語で書け。

＜ポイント＞

教科書pp.34-35のあいさつの言葉を覚えること。

2．教科書p.54の活用練習1とp.55の活用練習4を例のようにハングルで答えよ。

＜ポイント＞

教科書pp.50-51の基本文型を覚え、取り組むこと。

3．教科書p.62の活用練習1とp.63の活用練習3を例のようにハングルで答えよ。

＜ポイント＞

教科書pp.58-59の基本文型及びp.61の親族の呼び方を学修し、取り組むこと。

4．教科書p.68を日本語に訳せ。

＜ポイント＞

教科書pp.66-67ページの文法と表現を学習し、取り組むこと。

5．教科書p.71の活用練習3の図を見て、例のようにハングルで答えよ。

＜ポイント＞

教科書p.69の位置関係に関する言葉を覚え、取り組むこと。

6．教科書p.106の活用練習1を例のようにハングルで答えよ。

＜ポイント＞

教科書p.102の漢数字を覚え、取り組むこと。

教科書

李昌圭『韓国語を学ぼう（初級）』朝日出版社。

参考文献

斉藤明美『ことばと文化の日韓比較』世界思想社。
古田博司、他『韓国学のすべて』新書館。
金真、他『韓国文化を読む』朝日出版社。
金真、他『韓国社会を読む』朝日出版社。
韓国海外文化広報院『韓国のすべて』韓国文化体育観光省。

科目コード	看護臨床実習指導（２単位）	登録年次	履修方法
6080/6081		３年	S
教員名	石垣久美子、高橋登志子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

１．看護臨床実習オリエンテーション

（1）目的

看護臨床実習に対する理解を深め、実習生としての態度や心構えを育成する。また、実習生が着任までの期間に準備すべき事柄を明らかにする。

（2）内容

①「実習にあたって」

②「実習の意義と心構え」

看護臨床実習の意義・目的、看護臨床実習の概要、実習生としての基本姿勢・生活態度、看護実習の心構え、実習上の注意、服装、持ち物等について説明する。

③「実習日程全般の連絡事項等」

①実習第１日目連絡事項等　②実習日誌の記入について　③諸打ち合わせ・諸手続きに関する連絡、その他、質疑

２．看護臨床実習基礎

①「保健指導について」

各種保健情報の収集・記録・分析について、個別健康記録の取り方、まとめ、健康評価・指導の実践試案の作成等

②「生徒の理解と指導について」

生徒の心身状態の把握、バイタルサイン等、具体的保健行動例をもとに、それらの個別的・集団的理解の方法、問題行動を有する生徒等への援助方策である健康相談の実際的技法、及び救急時の対応・連携・連絡等について

③「その他看護臨床実習を行うに当たって必要となる事項」

学修内容

1	看護臨床実習の目的と意義：養護教諭を目指す者にとってなぜ医療機関での実習が必要なのかを明確化する。
2	看護臨床実習の概要①：１日の流れ、各科に共通して観察・参加可能な実習内容
3	看護臨床実習の概要②：実習における観察・参加の観点と、看護臨床実習日誌の書き方
4	医療機関での実習を行う上での心構え：・医療スタッフ、実習生として留意すべきこと
5	看護における基礎的知識：①看護とは何か②看護者の倫理、守秘義務③看護過程（アセスメント、計画、実施、評価）
6	基礎的看護技術の実技演習①：バイタルサインの測定
7	基礎的看護技術の実技演習②：観察の観点とフィジカルアセスメント（問診、視診、聴診、打診、触診の基礎）
8	基礎的看護技術の実技演習③：体位変換、安楽な体位
9	基礎的看護技術の実技演習④：包帯法、三角巾
10	各科実習の特徴と具体的展開 （その領域で遭遇する児童生徒の傷病に関する看護技術や、学校と医療機関の連携のあり方について検討する） ①小児科、内科での実習のポイント
11	②精神科、神経科での実習のポイント
12	③外科、整形外科での実習のポイント
13	④眼科、耳鼻咽喉科での実習のポイント
14	⑤皮膚科、産婦人科での実習のポイント
15	看護臨床実習に向けた自らの課題 ・自らの実習先で学び取りたいこと、実習計画に盛り込みたいことの整理 ・看護臨床実習に関する疑問点の解消 ・実習開始までに取り組むべき学習についての計画立案

教科書

藤井寿美子、他『養護教諭のための看護学　改訂版』大修館書店。

参考書

なし

科目コード	感情・人格心理学（２単位）	登録年次	履修方法
3680		３年	R
教員名	志茂田典子、中山麻子、三井三枝子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

感情・人格心理学とは、個人の内側から人間の行動の法則をみようとするものである。なお、人格とは、性格とほぼ同じ意味で用いられるが、態度、興味、価値観並びに知的理解度などを含んだ全体的な特徴を指す。ここでは人格と性格とを分けない考え方に立ち、様々な観点から人格の特徴を明らかにしていく。

本科目では、人間とは何か、人間の本質を理解し、自己理解だけでなく、他者を理解し、人を見る目を養成することが目標である。人を見るときに、様々なバイアスがかかるが、それがなぜかということを理解し、説明できるようになることも学修目標の一つである。具体的には以下の通りである。

１．性格とは何か、その研究史からも理解できる。
２．性格に関する諸理論が分かり、多面的に人の行動を見ることができる。
３．性格の診断の仕方が理解できる。
４．性格の形成のされ方が分かる。
５．性格の正常・異常について様々な観点から理解できる。
６．感情に関する理論を理解し、感情喚起の機序並びに感情の行動への影響について説明できる。

学修内容

1	人格の定義とその研究史：感情が行動を促進したり阻害する。（教科書 pp.1-13） 人格の定義並びに感情の人格への影響について考察する。
2	人格を理解する観点と理論（１）：類型型と特性論（教科書 pp.48-79） 類型型と特性論の長所・短所について確認し、今後はどのような理論が求められていくか考える。
3	人格を理解する観点と理論（２）：精神分析学の人格論（教科書 pp.14-18） フロイトの力動論はどのようにして生まれたか調べてみる。
4	人格を理解する観点と理論（３）：現象学の人格論（教科書 pp.27-30） 自分の体験からこの理論を考え直し、その体験内容と合致しているか確認する。
5	人格を理解する観点と理論（４）：学習論並びに状況論の人格論（教科書 pp.23-26 並びに pp.30-32） 学習論に基づく人格の考え方、並びにミッシェルの状況論について考え、自分の体験から考察する。
6	人格診断の理論と方法（１）：観察法と面接法（教科書 pp.33-36） 他者の行動を観察した場合と面談した場合の相手の性格の捉え方に違いがあるか確認してみる。
7	人格診断の理論と方法（２）：テスト法（教科書 pp.36-47） テスト法にはどのようなものがあるか、教科書以外の参考書も参考にして確認する。
8	人格の形成（１）：内的要因と外的要因／感情喚起のメカニズムと人格の形成（教科書 pp.80-93） 感情喚起のメカニズムについて、教科書以外の参考書も参考にして確認する。
9	人格の形成（２）：家族関係と人格の形成（教科書 pp.115-131） ボウルビィの研究についてまとめる。
10	人格の形成（３）：人間のライフサイクル（教科書 pp.96-109） 発達という観点からそれぞれの時期の人格の形成と危機についてまとめる。
11	人格が影響する（１）：人間関係とコミュニケーション（教科書 pp.132-165） 対人認知のゆがみについて例を挙げて考察する。
12	人格が影響する（２）：問題行動と人格／いじめ・非行・不登校（教科書 pp.177-194） 自殺へと至ってしまったいじめについて詳しく調べ、自殺には至らなかった他のいじめと何が異なっていたのか考察する。
13	人格が影響する（３）：人格の正常と異常（教科書 pp.195-216） 人格の正常と異常を見分ける観点並びにその一例である人格障害についてまとめる。
14	人格の適応的変化：心理療法の効果（教科書 pp.217-233） ロジャースによる性格の変化についてまとめる。
15	人格と感情：感情に流されないで行動する 適応的人格とは、本人の自己実現欲求を頼りに行動する時に形成されるという面もある。ここでは感情喚起の機序並びに、その本来の欲求はどのようにして知ることができるのか、自分の体験を通して考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】精神分析における人格理論について述べよ。

<ポイント>次のものを必ずキーワードとして考えること。

①精神分析での心の発達、②心的構造論、③防衛機制論、④コンプレックス論

科目終了試験学修のポイント

1．類型論を1つ挙げ説明せよ。

<ポイント>

類型論とはどのようなものか、またその特徴について述べること。また、数多くある類型論から興味あるもの一つを挙げ、それについて解説すること。

2．特性論とはどのようものか、説明せよ。

<ポイント>

類型論に対して特性論は主にどこで発展したものであるか、その特徴について述べること。また、興味ある特性論を一つ以上挙げ、その解説をすること。

3．人格の歪みと適応障害について述べよ。

<ポイント>

適応障害の診断基準について述べ、次にストレスの関係について記述すること。また、自殺が心配されるうつ病との違いにも触れること。

4．人格研究法としての観察法について述べよ。

<ポイント>

観察法の特徴を他の研究法との比較を通して述べること。

5．人格はいかに形成されるか、述べよ。

<ポイント>

基本的には、遺伝と環境であるが、特に環境要因について述べること。親子関係やきょうだい、学校環境との関係まで触れられるとよい。

6．自己概念と適応との関係について述べよ。

<ポイント>

自尊感情と自己概念の関係が理解できると適応との関係が明確になろう。ただし、自己愛的なものが行き過ぎると却って不適応となる。その点についても触れて欲しい。

教科書

詫摩武俊、他『性格心理学への招待〔改訂版〕』サイエンス社。

参考文献

二宮克美、他『パーソナリティ心理学』新曜社。

大村政男著『新編　血液型と性格』福村出版。

戸田まり子他共著『グラフィック性格心理学』サイエンス社。

岩井寛著『森田療法』講談社現代新書。

岸本英夫著『死を見つめる心』講談社文庫。

科目コード	起業経営論（２単位）	登録年次	履修方法
8770		４年	R
教員名	岡田広司		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日本経済の再生のためにはイノベーションを生み出すベンチャー企業が不可欠である。起業家精神やベンチャーマインドはベンチャー企業だけではなく、大企業にとっても重要性を増している。ベンチャー企業の経営は容易ではないが、ベンチャーを成功させるには、立ち上げから、成長、発展までの的確なビジネスプランの作成と、市場戦略、資金調達戦略、組織戦略、IPO 戦略ならびに各種支援が必要である。起業家精神を涵養し、失敗を恐れず新しいことに果敢に挑戦するベンチャー・ビジネスの立ち上げから、成功に導く経営方法について考察する。

学修内容

1	我が国で、なぜ今ベンチャーが必要とされるのか。アメリカ経済が活性化した理由は何か。ベンチャー企業の定義とその位置づけについて理解する。教科書「第１章　ベンチャー企業を考える」や参考文献および雑誌・新聞記事などを参照。
2	我が国のベンチャー企業の実態を、創業の経緯、準備、成長・発展のステージから観察し、抱える経営課題に関して理解を深める。教科書「第２章　わが国ベンチャー企業の実態」や参考文献および雑誌などを参照。
3	我が国のベンチャーの歴史を概観するとともに、ベンチャー育成にかかわるベンチャー政策の取り組みを考える。税制面の優遇措置であるエンジェル税制の仕組みも理解する。教科書「第３章　ベンチャー企業と政策」や参考文献および雑誌などを参照。
4	ベンチャー企業はいかにして成長を遂げ、成長をマネジメントしていくのか。成功に導くためには、成長の各ステージで適切に課題を克服する必要がある。教科書「第４章　企業成長の軌跡とマネジメント」や参考文献および雑誌などを参照。
5	ベンチャー企業でも成功要因としての経営戦略の策定は必要である。正しい戦略がなければ、企業を誤った方向に導き、倒産に至ることにもなる。教科書「第５章　経営戦略」や参考文献および雑誌などを参照。
6	ベンチャー企業ではマーケティングの巧拙が、成長の成否を分ける。マーケティングの役割は、突き詰めて言えば売れる商品・サービスを適切な方法で提供することである。教科書「第６章　マーケティング」や参考文献および雑誌・新聞などを参照。
7	創業時は組織体制が整備されていなくとも事業運営はできるが、業容が拡大するに従い、組織を作り経営管理の仕組みを構築することが必要となる。教科書「第７章　経営組織・経営管理」や参考文献および雑誌などを参照。
8	経営を正確に把握し、的確なマネジメントを行うには、経営者に基本的な会計データを分析し、判断できる能力が必要となる。特に、損益とキャッシュフローの理解は重要である。教科書「第８章　アカウンティング」や参考文献および雑誌などを参照。
9	ベンチャーの成長・発展戦略と各成長段階における望ましい資金調達、並びにIPO 市場と上場に至るプロセスを理解する。教科書「第９章　ファイナンス」や参考文献および雑誌・新聞記事などを参照。
10	起業に向け、どのような法律上の企業形態を選択するかは、重要なポイントとなる。理論的には資本金１円での株式会社の設立も可能となった。教科書「第１０章　企業形態の選択」や参考文献および雑誌などを参照。
11	企業経営には、様々な法的リスクが存在する。したがって、リスクマネジメントの観点から法的トラブルに対処するための対策・予防は欠かせない。教科書「第１１章　企業経営に必要な法的リスクマネジメント」や雑誌・新聞記事などを参照。
12	創業間もない企業を支援・育成するインキュベーションの意義、サービス内容とインキュベーションの担い手について理解する。インキュベーション・マネジャーの役割も学ぶ。参考文献および雑誌・新聞などを参照。
13	ビジネスプランは、事業のベンチマークともなるので、事業内容をはじめ販売面、資金面など多岐にわたる詳細な、かつ熟度の高い内容が求められる。教科書「第１５章　ビジネスプランの作成」や参考文献および雑誌・新聞記事などを参照。
14	成長のメルクマールとして使われるバランス・スコアカード（BSC）はベンチャー企業にとっても有用である。BSC は業績評価以外に戦略目標を実現させる考え方を明確にするツールとしても活用できる。参考文献および雑誌などを参照。
15	ベンチャーキャピタル（VC）はリスクキャピタルの提供者として重要な役割を果たしている。したがって、VC がベンチャー企業をどのように評価するかを知ることは必要である。参考文献および雑誌などを参照。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】ベンチャー企業の成長戦略について述べよ。

＜ポイント＞

市場戦略、資金調達戦略、組織・人材戦略などの側面から分かりやすくまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１．世界各国のベンチャー企業について

＜ポイント＞

現在、世界各国でベンチャー企業が注目を浴びているが、その背景や、位置づけなどを述べる。

２．わが国のベンチャー企業の実態について

＜ポイント＞

ベンチャー企業の成長・発展プロセスや創業環境ならびにベンチャー企業が抱える問題点について述べる。

３．ベンチャー企業と政策について

＜ポイント＞

ベンチャー企業の育成で成果を上げてきた政策と、その理由について述べる。

４．経営戦略について

＜ポイント＞

成功したベンチャー企業の経営戦略について述べる。

５．経営組織・経営管理について

＜ポイント＞

ベンチャー企業の成長に伴い、どのような組織と管理スタイルを設計すべきか、成長段階ごとに述べる。

６．ファイナンスについて

＜ポイント＞

ベンチャー企業の各成長段階における望ましい資金調達方法について述べる。

教科書

太田一樹、他『ベンチャービジネス論』実教出版。

参考文献

金井一頼、他『ベンチャー企業経営論』有斐閣。
岸川善光、他『ベンチャー・ビジネス要論（改訂版）』同文館出版。
大橋豊、他『ベンチャー経営成功のバイブル』清文社。

科目コード	企業統治論（非営利企業を含む）（２単位）	登録年次	履修方法
8730		３年	R
教員名	杉山章、武田嘉孝		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

現在、企業の中で仕事をしていたり、将来、企業への就職、または企業の設立を考えている場合、企業についての基本的な考え方を持つことが求められる。企業の健全な経営のために最も重要な機能は企業統治だといわれているが、この科目では、1）企業統治とは何かを理解すること、2）企業統治という問題が提起されてきた背景は何か、3）株式会社を中心にしつつも非営利企業にも共通する企業統治の内容に対する理解を深め、将来の仕事に役立つ知識の習得を目標にする。

学習内容

1	企業統治（コーポレート・ガバナンス）とは何かを理解するために、テキスト pp.3-4 の 1 企業統治の意味を読んでおくこと。
2	企業統治という問題が提起されてきた理由、背景は何かを理解するために、イギリス、アメリカ、日本のそれぞれの事情、背景についてテキスト pp.6-9 の 3 企業統治問題提起の背景を読み内容に関心を持つこと。
3	日本の企業統治改革の歴史を理解しておくためにテキスト pp.12-15 のわが国の企業統治改革の規制の歴史を読んでおくこと。図表 1-1 を読むと政府の社外取締役の義務化の要請に対して経済界が反対の態度を表明しているが、その理由など考えておくこと。
4	企業統治とは経営者の執行活動（経営管理）が健全に不正なく、適正に行われているかを監視する機能を指している。この経営者の執行活動に対する監視の機能を果たす機関の一つが株式会社では株主総会であることを理解する（テキスト p.34）。しかし実際には取締役会がこの機能を担当していることを理解すること（テキスト pp.34-35）。
5	テキスト p.36 に図表Ⅲ-1 株式会社機関設計選択肢表が示されているが、この表について補足説明をしておきたい。上段の大会社とは資本金 5 億円以上または負債額 200 億円以上の企業を指す。また下段左の公開会社とは定款に株式の譲渡制限の規定のない会社を指す。なお上場企業、大会社は 19（監査役会設置会社）または 20（委員会設置会社―正式には指名委員会等設置会社）を選択するが新しく追加として 21（監査等委員会設置会社）が制定されており後述する。
6	日本の上場会社の 97%は前記の監査役会設置会社であり、この会社形態はどのような特徴を持っているかを理解すること。テキスト pp.38-39 を読み、上場企業の大多数がなぜこの形態を選択しているのかを考えてみる。
7	日本の上場企業の一部は委員会設置会社の形態を選択採用しているが、この形態は、英・米型の企業統治形態でありどのような特徴がるかを理解すること、テキスト pp.39-41 を読んでおくこと。
8	この説明 6 の末尾に記した監査等委員会設置会社が 2015 年の会社法改正で新設された。この形態は監査役会を置かないが取締役会のなかに監査委員会を設置し、監査委員会は 3 名以上とし過半数が社外取締役とするものでこの形態が 2016 年から採用されることになったので補足説明としておく。
9	日本の数多くの企業が中国に進出しているが、中国の企業統治はどのような特徴を持っているかを考え理解すること（テキスト pp.52-53）、および取締役会の企業統治上の問題（テキスト pp.55-61）などにも関心を持つこと。
10	中国の企業統治と従業員関係という問題が中国企業には存在している。監査役会の 3 分の 1 以上を従業員代表で占めることが会社法（公司法）で規定されているが（テキスト p.64、p.66）、従業員代表の監査役がいない会社も多く（テキスト p.72 の図表Ⅲ-5）、問題があることを示している。
11	同じアジアの国、韓国の企業統治についても関心と理解を持つために、テキスト pp.80-88 を読んでおくこと。とりわけ pp.80-81 ページの企業統治改革の 4 つの主要内容を理解すること。
12	企業統治の世界的な傾向の一つは社外取締役（outside directors）および独立取締役（independent directors）の導入を推進することであり、これは英・米型のコーポレイト・ガバナンスの特徴の一つでもある。テキスト pp.91-94 はこのような企業統治の傾向をあとづけているので、関心を持ち理解を深めて欲しい。
13	企業統治は、営利企業としての株式会社だけでなく非営利企業においても共通の重要な機能である。Board of directors とは取締役会を意味するが、同時に非営利企業「理事会」の意味でもある。非営利企業の企業統治の役割を担当する理事会の構成、権限などを考えてみる。また、非営利企業と営利企業との基本的な相異点はどこにあるかを考えてみる。テキスト pp.117-118 を読んでおくこと。
14	非営利企業の社員総会、理事、理事会、評議員会、監事などの機関および機能についてテキスト pp.123-125 を読み、理解しておくこと。
15	日本および海外の企業の倒産、企業の違法行為などについての新聞記事を読み、その原因がどこにあるか、そのような事態を招いた経営者の判断や行動をチェックし、企業統治の事例を検討する。また新聞、雑誌、書籍を通じて、企業統治の領域についてどのような問題がとりあげられ、研究されているか考えること。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】企業統治という問題が提起されてきた背景または理由について述べよ。

＜ポイント＞

企業統治の問題が提起されてきた背景にはイギリス、アメリカ、日本の場合、それぞれの国によって事情が異なっていることに注意すること。イギリスの場合マックスウェル社など大企業の倒産、アメリカの場合は機関投資家の投資先の企業経営を監視する必要性、およびエンロン事件など不正会計が契機となった。日本の場合は総会屋への利益供与事件の多発および不正会計が契機となって企業統治問題が提起されてきた。これらに対する問題解決策についても述べることが望ましい。テキストの pp.6-9 をよく読み理解しておくこと。ただし、レポートはテキストに依存せず自分の文章で表現すること。

科目修了試験学修のポイント

1. 企業統治とはどういうことか、また日本において企業統治問題が提起されてきた背景について述べよ。

＜ポイント＞

・企業統治の意味について、テキスト pp.3-4 をよく理解し、日本における問題提起の背景（テキスト pp.8-9）について考えをまとめておくこと。

2. 日本の監査役会設置会社の特徴を説明せよ。

日本では監査役会設置会社を採用する企業が圧倒的に多く上場企業の 97%を占めるが、この形態の特徴についてはテキスト pp.38-39、pp.41-42 をよく読み考えをまとめること。

3. 日本の上場企業の一部に委員会設置会社（正式には指名委員会等設置会社）の形態を採用する企業があるが、この会社形態の特徴について述べよ。

＜ポイント＞

・委員会設置会社は英・米型の会社モデルを制度化した会社形態であり、取締役会の中に三つの委員会を設け、各委員会の過半数は社外取締役で占められ、監査役会は設置されないことなどが規定されている。テキスト pp39-42 を読み考えをまとめておく。

4. 企業統治について社外取締役の導入が要請され期待されているが、この問題について自分の意見を含めて説明せよ。

＜ポイント＞

・企業統治の世界的な傾向の一つとして社外取締役の導入および取締役会に占める社外取締役の比重の増加がある。テキスト pp91-97 を読み、社外取締役の役割、その導入の有効性、問題点などについて自分の考えをまとめておくこと。

5. 中国の上場企業の企業統治の特徴について自分の意見を含めて説明せよ。

＜ポイント＞

・中国には数多くの日本の企業が進出し中国の企業と多様な関係を形成しており、中国企業の企業統治問題への理解を深めることが重要となっている。中国の上場企業の企業統治は、取締役会の中に各種委員会が設置され、従業員代表を含む監査役会の設置などが規定されている。テキスト pp.52-53、pp.55-61、pp.71-75 を読み、従業員代表監査役制度の運営状況についても考えをまとめること。

6. 非営利企業とは何か、非営利企業と営利企業の基本的な相異点は何か説明せよ。

＜ポイント＞

・非営利企業とよばれる多様な組織が存在し活動しているが、それはどのような性質を持ち、営利企業との差異はどこに求められるのかが問われるテキスト pp.117-119、pp.121-125 などを読み、考えをまとめる。

教科書

菊池敏夫、金山権、新川本　編著『企業統治論―東アジアを中心に―』　税務経理協会。

参考文献

菊池敏夫著『現代企業論―責任と統治―』中央経済社。

菊池敏夫、平田光弘、厚東偉介編著『企業の責任・統治・再生―国際比較の視点―』文眞堂。

太田達男著、『非営利法人設立・運営ガイドブック』公益法人協会。

科目コード	基礎演習Ⅰ（1単位）	登録年次	履修方法
1730		1年	SR
教員名	新井洋輔、加藤宏一、志茂田典子、中山麻子、成本忠正		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

4年間の学修の基礎として、心理学における様々なテーマに関して心理学で扱われている問題・理論・方法などについて基礎知識を広げる。教材で取り上げられているテーマに関しては、スクーリングにおいて、グループディスカッションすることによって、より実感のもてる理解をめざす。また、心理学の学習の応用として、具体的な心理テストや心理学的実験・調査を行い、心理学における体験的理解をもつ。ここでも、スクーリングにおけるグループワークによって、互いの知識を教授しあうことにより、さらなる理解を深めていく。

学修内容

1	**心理学の研究領域と研究法**について学修する。研究領域では、その近接領域との関連について、研究法では、科学的実証法として、どのようなものがあるのかを学修する。教科書 pp.142-145
2	**交流分析における自我分析**を学修する。教科書 pp.87-88 のエゴグラム・チェック・リストを実施し、プロフィール票を作成した上で、教科書 p.89 を熟読し、普段の自分と照らし合わせて、自分の傾向について客観的に理解する。
3	社会的スキルの様々な側面について学修する。教科書 p.83 の質問紙に答えて、自分の社会的スキルを測定した上で、教科書 p.84 のデータを参考にしながら、客観的に自分の社会的スキルを評価し考察する。教科書 p.82 と p.85 を熟読し、一般的な社会的スキルについて理解を深める。
4	自分の職業志向を知る。教科書 p.121 の質問紙に答えて、自分の職業に対する志向性を測定する。教科書 pp.122-123 を読み、そこにあるデータと比較しながら、自分の職業志向の特徴について考察する。
5	**「対人認知」**について学修する。教科書 p. 31 の評定尺度により、父親（または母親）に対する自分の認知を測定した上で、教科書 pp.30-32 を読んで、結果を考察する。また、教科書 pp.32-33 を熟読し、暗黙裡の人格観や認知的複雑性について理解する。
6	**「バウムテスト」**について学修する。教科書 p.90 の「やりかた」の指示に従い、自分で樹木画を描いてみる。教科書 pp.90-93 を熟読し、自分が描いた樹木画を客観的にアセスメントしてみる。
7	孤独感について学修する。教科書 p.95 の質問紙を実施し、自分が感じている孤独感を客観的に評価し、考察を加える。また、教科書 p.96 の論述を参考に孤独感の解消について考察する。
8	対人不安について学修する。教科書 p.100 の質問票に答えて、自分が感じる対人不安について測定し、教科書 pp.98-99 を参照した上で、自分の対人不安について考察する。
9	**「ストレスとその対応」**について学修する。教科書 p.102 の「やりかた」に従い、pp.102-103 にある質問紙に答えて、二つの観点からの自分のストレスを評価し、日常生活を振り返って考察する。また、教科書 p. 105 を読み、自分の普段のコーピングの仕方を振り返る。
10	心理学における「先延ばし」研究を理解する。教科書 p.117 の質問紙に答えて、自分の先延ばし傾向について測定した上で、pp.118-119 を熟読して、「先延ばし」の否定的・肯定的両側面について考察する。
11	人間の失敗傾向について学修する。教科書 pp.57-58 の質問紙を実施して、自分の失敗傾向の型を確認し、日常生活上の自分と照らし合わせて考察する。
12	心理学で**「ヒューマンエラー」**と呼ばれる日常生活でのちょっとした失敗、ミスが何故起こるのか、教科書 pp.60-63 を熟読し、自分なりに考察する。
13	自分のアイデンティティについて、社会的枠組みによる自己定義の観点から考察する。教科書 p.49 の質問紙に記入し、その結果を考察する。
14	エリクソンの自我同一性について学修する。教科書 p.133 のマーシャの質問紙を実施し、自分の自我同一性地位を測定することを通して、自分のアイデンティティの確立の過程について考察する。
15	**「自分の名前のイメージ」**を素材として、自分についての理解を深める。教科書 p27 の形容詞対によって、自分の名前のイメージを測定し、自分が持つイメージを客観的に検討する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 教科書27頁の形容詞対を用いて、自分の名前のイメージと自分自身についてのイメージを測定し、それぞれのイメージのずれについて考察せよ。

＜ポイント＞

自分が持つ名前のイメージが、自分自身のイメージの形成にどのように影響しているのかを考察すること。また、アイデンティティ形成の観点からも考えること。

科目終了試験学修のポイント

1．心理学の研究領域と研究法について

＜ポイント＞

研究領域では、その近接領域との関連について、研究法では、科学的実証法として、どのようなものがあるのかを学習する。

2．対人認知における印象形成について

＜ポイント＞

「暗黙裡の人格観」と「認知的複雑性」について理解しておく。

3．ヒューマン・エラーの3因子について

＜ポイント＞

ヒューマン・エラーの三つの側面として、「アクション・スリップ」「認知の狭小化」「衝動的失敗」について理解しておく。

4．交流分析における自我分析について

＜ポイント＞

交流分析における自我状態の構造の考え方を理解する。

5．ストレスとその対応について

＜ポイント＞

二つの観点からのストレスのとらえ方と、「コーピング」について理解しておく。

6．バウムテストについて

＜ポイント＞

発達的視点など5つの解釈の視点について理解しておく。

教科書

大野木裕明、他『調査実験　自分でできる心理学』ナカニシヤ出版。

参考文献

高石浩一、他『心理学実習　基礎編』培風館。

科目コード	基礎演習Ⅱ（１単位）	登録年次	履修方法
1740		２年	ＳＲ
教員名	梅森綾子、加藤宏一、志茂田典子、中山麻子、成本忠正		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

基礎演習Ｉで学んだことをふまえて、心理学における様々なテーマに関しての理論・方法について、基礎知識をより広げ、より深める。ここでも、基礎的な心理テストや心理実験・調査を実際に行い、心理学における体験的理解をより確実なものにしていく。スクーリングでは、様々なテーマについて、グループディスカッションやグループワークを行い、互いの知識を教授しあうことによって、さらなる理解を深めていく。

学修内容

1	心理学を学ぶ上での実験レポートを書くことの意味について学修する。教科書１の第１章を熟読する。
2	心理学レポートを書くにあたっての、基礎的概念について理解する。教科書１の第２章を熟読し、「問題」「目的」「仮説」「方法論」「独立変数」「従属変数」について、それぞれ理解する。
3	心理学レポートにおける表現形式と引用の仕方および盗用の避け方について学修する。教科書１の第３章を熟読する。 教科書１pp.91-99 の用語解説を通読し、主要な心理学専門用語の概要について理解し、次項の学習に備える。
4	心理学レポートにおける、「問題」「方法」「結果」「考察」「文献」「付録」といった各項目の具体的な書き方を学修する。教科書１の第４章を熟読する。
5	「論理的思考」に対する心理学的研究の視点を学修する。教科書２の p.61 にある問題１と問題２に取り組み、p.66 を読んで、問題の意味を理解し、論理的思考について考察する。教科書２の p.64 と pp.67-68 を熟読する。
6	「直観的判断の誤り」について理解する。教科書２の p.69 の二つの質問に答えて、結果を整理し、教科書２の p.68 と pp.70-71 を読んで、日頃何気なく行っている判断や推理について考察する。
7	**「ジェンダー・ステレオタイプ」**について学習する。教科書２の p. 15 の「やりかた」を読んで表に記入し、自分の傾向について確認する。教科書２の p.14 および pp.15-16 を読んで、ジェンダー・ステレオタイプについて理解する。
8	教科書２の p.19 の CAS 尺度項目に答えて、自分のジェンダータイプを確認し、普段の自分が取っている言動を振り返り、自分が持つ性別へのこだわりを客観的に考察する。
9	カウンセリングで言われる**「傾聴」**について学修する。教科書２の pp.74-77 を熟読し、人が人の話を聞くことの意味について、出来うる限りの様々な観点から（多ければ多いほどいい）、考察する。
10	教科書２の p.79 にある面接カードに記入し、それに対して、教科書２の p.80 の６つの評定項目によって、自分の表現力を客観的に評定し、今後のスクーリングでのグループワークやグループ討議における自己表現における課題・目標を検討する。
11	**「セルフ・エフィカシー（自己効力感）」**について学修する。教科書２の p.109 にある一般性セルフ・エフィカシー尺度の各項目に応え自分のセルフ・エフィカシーを測定する。その上で、pp.108-111 を熟読し、セルフ・エフィカシーの程度と様々な個人特性との関連について理解する。
12	心理学における一つの「恋愛」に関する研究を学修する。教科書２の p.129 の課題を実施し、pp.130-131 を参照して自分の恋愛類型について評価する。その上で、恋愛類型に関する理論を考察する。
13	心理学における「思いやり行動」についての研究を学修する。教科書２の p.137 の質問紙に答えて、自分の「思いやり行動」を測定する。教科書２の p.136 と p.138 を読んで、共感性や罪悪感といった「思いやり行動」を引き起こす要因について考察する。
14	教科書２の p.125 の質問紙に記入し、p.124「結果の整理」に従って p.126 の得点表に結果を整理する。その上で、p.124 と p.126 を熟読し、自分の日頃の「生き方」、日常生活全体を振り返り、様々な生き方の可能性や工夫について考察する。
15	自分の学生としての現在の適応について客観的視点から振り返る。普段の自分の勉強の仕方を思い起こし、教科書２の p.113 の学習適応尺度により客観的に学習適応を測定する。その上で、教科書２の pp.112-115 を熟読し、これまでの自分の勉強の仕方を分析して、今後取ることが出来る改善策を具体的に考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

教科書『心理学　実験・研究レポートの書き方』の2章から4章を読んで、心理学実験・研究レポートを書くにあたっての、必要な事項を述べよ。

＜ポイント＞

問題・方法・結果・考察といった骨組みの他に、引用の仕方や文献リストの書き方に関する注意事項についても述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．ジェンダー・ステレオタイプについて

＜ポイント＞

CAS 尺度による4つのジェンダータイプを理解しておく。

2．自分のアイデンティティについて

＜ポイント＞

基礎演習1における教科書2p.132 の「エリクソンの自我同一性」、教科書2p.50 の「社会的枠組みによる自己定義」、教科書2p.132 の「マーシャの自我同一性地位」の学習について理解したことを再確認しておく。

3．傾聴について

＜ポイント＞

人の話を聴くことの意味について多面的に理解し、「聴く」ことと「聞く」ことの違いについても考察しておく。

4．セルフ・エフィカシーについて

＜ポイント＞

二つのタイプのセルフ・エフィカシーについて理解する。セルフ・エフィカシーの程度と三つの個人特性との関連について理解する。

5．心理学で使う統計量について

＜ポイント＞

「平均値と標準偏差」「統計的検定」「相関係数」それぞれの考え方について理解しておく。

6．クリティカル・シンキングについて

＜ポイント＞

スクーリングで、実践的に演習を行うことで学習するが、教科書2の「論理的思考」や「直観的判断」についても理解しておく。

教科書

B．フィンドレイ『心理学　実験・研究レポートの書き方』北大路書房。

大野木裕明、他『調査実験　自分でできる心理学』ナカニシヤ出版。

参考文献

E.B.ゼックミスタ、他『クリティカルシンキング＜入門編＞』北大路書房。

高橋順一、他『人間科学　研究法ハンンドブック』ナカニシヤ出版。

科目コード	キャリア開発演習Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
1001		２年	R
教員名	石﨑達也、小野智一、木内正範、佐々木貴雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

教員採用試験の筆記試験は、概ね一般教養、教職教養、専門教養の三つに分かれている。ここでは、その中の一般教養について学修する。一般教養は人文科学、社会科学、自然科学の三分野があり、出題の頻度差はあるが各分野から出題される。そこで、できるだけ幅広く学修内容を理解するとともに、一般教養全般の傾向や対策についても学修する。

学修内容

1	人文分野１-①：国語　教科書 pp.1-24 までを学修する。漢字や熟語の問題は、教科書を読むだけでなく、必ず書きながら学修を進めること。
2	人文分野１-②：国語　教科書 pp.25-41 までを学修し、確認テストで理解の程度を確認する。また、自分で教科書の内容から確認テストを作成し、実施する。
3	人文分野２：英語　教科書 pp.130-140 までを学修し、確認テストで理解の程度を確認する。自治体によって問題形式、内容がかなり異なるので、自分の受験する自治体の過去問題を参考に、特に重点をおいている項目について繰り返し学修する。
4	人文分野３：美術・音楽　教科書 pp.118-124、pp.125-129 を学修し、確認テストで理解の程度を確認する。音楽が出題される自治体はほぼ決まっているので、自分の受験する自治体を確認すること。
5	人文分野４：倫理　教科書 pp.108-117 までを学修し、確認テストで理解の程度を確認する。出題される自治体は少ないので、自分の受験する自治体を確認すること。
6	人文分野５： 歴史　教科書 pp.42-59 までを学修する。日本史はほとんどの自治体で出題されるので、歴史的出来事を年代順に整理すること。出来事が起こった背景も確認すること。
7	人文分野６： 歴史　教科書 pp.60-77 までを学修し、確認テストで理解の程度を確認する。現代史は出題されやすく、アメリカ同時多発テロ以降の世界的動向は重要項目であるため、時事問題対策として国際情勢に関する報道にも日頃から注意を向けること。
8	人文分野７： 地理　教科書 pp.148-175 までを学修し、確認テストで理解の程度を確認する。地理は歴史や政治・経済と比べて出題は少ないが、最新の統計データが出題されるため、最新の資料を確認することが必要である。
9	社会分野１： 政治　教科書 pp.150-167 までを学修し、確認テストで理解の程度を確認する。政治分野が頻出である。特に日本国憲法、日本の政治のしくみ、国際関係と国際政治については、繰り返し学修して確実に知識を身につけること。
10	社会分野２： 経済・社会・労働　教科書 pp.168-181、pp.182-189 までを学修し、確認テストで理解の程度を確認する。経済主体の関係と国民所得、日本における税制（直接税と間接税）については必須の学修事項である。
11	自然分野１：数学　確認テストを実施してから、間違った問題について、教科書 pp.196-211 で要点を確認する。多くの問題を解くことが望ましい。
12	自然分野２：物理　確認テストを実施してから、間違った問題について、教科書 pp.212-223 で要点を確認する。多くの問題を解くことが望ましい。
13	自然分野３：化学　確認テストを実施してから、間違った問題について、教科書 pp.224-235 で要点を確認する。多くの問題を解くことが望ましい。
14	自然分野４：生物　確認テストを実施してから、間違った問題について、教科書 pp.236-247 で要点を確認する。多くの問題を解くことが望ましい。
15	自然分野５：地学　確認テストを実施してから、間違った問題について、教科書 pp.248-260 で要点を確認する。多くの問題を解くことが望ましい。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 地球環境問題が世界的な課題になっている。そこで、環境問題の現状と対応策について述べよ。

＜ポイント＞

環境問題について顕在化している課題を取り上げ、行政として、学校として、地域社会として、家庭として、取り組める方策を具体的に述べること。pp.184-185.より事例を取り上げること。

科目終了試験学修のポイント

1．世界の四大文明について

＜ポイント＞

教科書 pp.60-62.に挙げられているキーワードを中心に学修する。

2．日本国憲法の三大基本原理について

＜ポイント＞

教科書 pp.154-155 の内容をまとめる。箇条書きにならないよう注意する。

3．酸化と還元について

＜ポイント＞

教科書 p.230 の内容をまとめる。

4．心臓と血液の循環について

＜ポイント＞

教科書 p.242 の内容をまとめる。心臓のつくりと血液の循環について図を書いて理解する。

5．メンデルの法則について

＜ポイント＞

教科書 pp.246-247 の内容をまとめる。具体的に例を挙げて説明できるようにすること。

6．平安時代の文学の特徴について

＜ポイント＞

教科書 pp.27-29 を参考に、女流文学の全盛、歴史物語の登場などの特徴についてまとめる。

教科書

資格試験研究会『一般教養らくらくマスター』実務教育出版。

参考文献

LEC 東京リーガルマインド『これだけ覚える教員採用試験一般教養』成美堂出版。

科目コード	キャリア開発演習Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
8850		３年	ＳＲ
教員名	坂望美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

会社が新入社員に対してどのような能力を期待しているかを理解しつつ、自分の能力が発揮できる業界はどこかを選択する。併せて、日本企業は、留学生に対して、特に日本語コミュニケーション力を求めているという現実を踏まえてその能力の向上を図る。

学修内容

1	会社の正体（教科書 pp.16 -23） ポイント：会社の目的、社会的役割について理解する。
2	会社の業種（教科書 pp.24-38） ポイント：会社の業種、発展の過程を理解する。
3	会社選びのポイント（教科書 pp.39-51） ポイント：良い会社と悪い会社の判断基準を理解する。
4	会社の形態（教科書 pp.52-58） ポイント：会社を設立する際の登記の仕方等について理解する。
5	特殊法人について（教科書 pp.59-64） ポイント：お金を儲けなくてもいい組織もあることを理解する。
6	会社の組織Ⅰ（教科書 pp.66-72） ポイント：会社と株主の関係について理解する。
7	会社の組織Ⅱ（教科書 pp.73-79） ポイント：取締役会について理解する。
8	会社の組織Ⅲ（教科書 pp.80-85） ポイント：社外取締について理解する。
9	組織の形態（教科書 pp.86-92） ポイント：アメリカと日本の会社組織の違いについて理解する。
10	会社の経営Ⅰ（教科書 pp.94-105） ポイント：日本的経営、成果主義について理解する。
11	会社の経営Ⅱ（教科書 pp.106-112） ポイント：会社の社会的責任・説明責任などについて理解する。
12	雇用Ⅰ：就職とは？（教科書 pp.122139） ポイント：会社との契約、給料をもらうことの意味を理解する。
13	雇用Ⅱ：男女の雇用格差について（教科書 pp.140-145） ポイント：男女雇用機会均等法や“ガラスの天井”などについて理解する。
14	雇用Ⅲ：労働組合について（教科書 pp.150-163） ポイント：労働組合の存在意義について理解する。
15	会社員を目指す人へ（教科書 pp.166-183） ポイント：会社員として働く意味を考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　自分の能力を生かして働けると思う日本の企業について述べよ。

＜ポイント＞

1　自己分析がしっかりできていること。

2　選択した企業について、正確な情報収集ができており、それらの情報に基づきビジネスマンとしての将来展望が描けていること。

3　留学生の立場で企業や社会に貢献していくことを具体的にイメージできていること。

科目終了試験学修のポイント

１．会社の社会的役割について

＜ポイント＞

会社は一人では実現できない大きな仕事をチームで行い、利益を上げる運命共同体という捉え方で会社という組織を説明する。

２．会社は常に変化し続けていることについて

＜ポイント＞

様々な会社の成長過程を概観し、会社は常に社会が何を求めているかを考え変化し続けなければならないことに言及する。

３．良い会社、悪い会社についての判断基準について

＜ポイント＞

社会的責任をきちんと果たしている会社が良い会社という判断基準について、具体的に説明できる。

４．会社組織について

＜ポイント＞

株主、社員、経営者がそれぞれの役割を理解し、会社がどのように組織化され方向づけられるかについて言及する。

５．給料について

＜ポイント＞

年功序列制度下における給与体制と成果主義に基づく給与体制の違いについて説明できる。

６．会社で働くことの意味について

＜ポイント＞

会社で働くということは、社会的存在としての自己実現の場を見つけるということでもある。そのような観点から就職活動について論じられるようにする。

教科書

池上　彰『会社のことがよくわからないまま社会人になった人へ』海竜社。

参考文献

採用情報研究会『2013　最新版　史上最強自己分析　驚異の実践法』。

根岸博之『2015 年版　最新最強の就活セミナー　　エントリーシート』成美堂出版。

科目コード	キャリア開発演習Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
9013		３年	R
教員名	小野智一、木内正範、佐々木貴雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

公務員の保育職、（子育て支援センターなどを含めた）行政機関、保育所、各施設などの就職先をふまえ、一般教養教育と平行して、社会科学、人文科学、自然科学などの一般知識について、就職試験に向けた学修の取り組み方を学ぶ。

学修内容

1	社会科学① 政治１：日本国憲法の内容について理解する。
2	社会科学② 政治２：国際連合と、各国の政治制度について理解する。
3	社会科学③ 経済：経済学の基本的な理論と、経済史について理解する。
4	社会科学④ 社会：社会権に関する制度や社会の動向について理解する。
5	人文科学① 熟語、ことわざ、敬語の問題を解き、苦手分野を理解する。
6	人文科学② 日本史の問題を解き、苦手分野を把握する。
7	人文科学③ 世界史の問題を解き、苦手分野を把握する。
8	人文科学④ 地理の問題を解き、苦手分野を把握する。
9	人文科学⑤ 思想・文学・芸術の問題を解き、苦手分野を把握する。
10	自然科学① 数学の問題を解き、苦手分野を把握する。
11	自然科学② 物理の問題を解き、苦手分野を把握する。
12	自然科学③ 化学の問題を解き、苦手分野を把握する。
13	自然科学④ 生物の問題を解き、苦手分野を把握する。
14	自然科学⑤ 地学の問題を解き、苦手分野を把握する。
15	学修のまとめ これまでの学修を振り返り、自分の苦手な分野、出題形式を把握し、教科書以外の問題集に挑戦する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】公務員の保育職試験への応募の心構えについて、3つのポイントをまとめたうえで、それぞれの自己課題を述べよ。

＜ポイント＞

教科書『保育士　就職の作文と面接』の第1章「2 応募の心構え」をよく読み、自分の状況に当てはめて考え、自分にとっての試験に向けての課題は何かを明確にすること。

科目終了試験学修のポイント

1．一般知識「社会科学」の予想問題を2つ作成し、解答とその解説を記述せよ。
2．一般知識「人文科学」の予想問題を2つ作成し、解答とその解説を記述せよ。
3．一般知識「自然科学」の予想問題を2つ作成し、解答とその解説を記述せよ。
4．一般知識「社会科学」、「人文科学」の予想問題を1つずつ作成し、解答とその解説を記述せよ。
5．一般知識「人文科学」、「自然科学」の予想問題を1つずつ作成し、解答とその解説を記述せよ。
6．一般知識「社会科学」、「自然科学」の予想問題を1つずつ作成し、解答とその解説を記述せよ。

＜ポイント＞

自分が苦手な分野、出題形式の予想問題を作成すること。

予想問題を作成するためには、教科書以外の様々な問題を解くことが重要である。

教科書

保育士試験研究会『新版　保育士　就職の作文と面接』実務教育出版。

保育士試験研究会『保育士　就職試験問題集』実務教育出版。

参考文献

なし

科目コード	キャリア開発演習Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
1002		３年	R
教員名	石﨑達也、小野智一、加藤敏明、志手和行、立松英子、山田哲史		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

教員採用試験を受験するための共通科目である教職教養科目を学修する。受験するための基礎知識、各都道府県の採用試験の出題範囲である基本的な内容を身につけられるよう幅広く、教職教養科目を学ぶ。

学修内容

1	教育法規①　（教科書：pp.7-35） 【学修のポイント】教育基本法前文～第９条の内容を中心に関連する法規を学修する。 【キーワード】教育の目的、教育の目標、生涯学習、教員
2	教育法規②　（教科書：pp.35-56） 【学修のポイント】教育基本法第 10 条～第 18 条の内容を中心に関連する法規を学修するとともに新旧教育基本法の比較についても学修する。【キーワード】家庭教育、社会教育、政治教育、宗教教育、教育行政、旧教育基本法
3	教育法規③　（教科書：pp.57-89） 【学修のポイント】地方教育行政法・学校教育法・学校教育法施行規則の内容を中心に関連する法規の内容を学修する。 【キーワード】教育委員会、教職員の義務、学校の設置
4	教育法規④　（教科書：pp.90-119） 【学修のポイント】学校教育法・学校教育法施行規則・教育職員免許法・学校保健安全法・学校給食法の内容を中心に関連する法規・施策の内容を学修する。【キーワード】校務分掌、懲戒、教員免許状、学校給食、学校保健、学校安全
5	教育法規⑤　（教科書　：pp.120-150） 【学修のポイント】学校教育法を中心にその他の関連する法規・施策の内容を学修する。 【キーワード】学校の目的・目標、教育法規における重要数量
6	生徒指導・安全指導　教科書　：pp.151-188 【学修のポイント】生徒指導の意義、青少年の心理、問題行動・不登校・いじめへの対応、進路指導、安全指導、薬物乱用防止などについて学修する。【キーワード】生徒理解、青年期、消極的な生徒指導・積極的な生徒指導、キャリア教育
7	人権尊重の教育　教科書　：pp.189-208 【学修のポイント】何らかの社会的理由による差別や偏見により、人権が保障されにくい人々のための法律や制度、ノーマライゼーションの理念を学ぶ。 【キーワード】同和問題、心身障害、特別支援教育
8	現代の教育　教科書　：pp.209-240 【学修のポイント】情報教育や情報機器、国際問題、環境問題などを対象として現代の教育について幅広く学修する。 【キーワード】情報教育、コンピュータ、メディアリテラシー、国際理解、環境、生涯学習
9	西洋教育史　教科書：pp.241-264 教科書：pp.242-249【学修のポイント①】「開発主義」と「注入主義」という二つの大きな流れを踏まえながら（p.245）、教育をめぐる思想を理解する。【キーワード①】開発主義、注入主義、ソクラテス、コメニウス、エラスムス、ルソー、ヘルバルト、デューイ 教科書：pp.250-263【学修のポイント②】教育史における重要な人物たちが、（以前の時代と比べて）教育をどう捉えたかに留意しながら理解していく。【キーワード②】プラトン、ロック、ペスタロッチ、コンドルセ、ジェームズ
10	日本教育史　教科書：pp.265-292 【学修のポイント】飛鳥時代の教育から明治・昭和の教育を経て現代の教育に至るまでの、各時代の主な法令や関係した人物等を理解する。文学作品や主な人物とその人の活躍内容等を通して、日本教育史の概要を理解する。 【キーワード】憲法 17 条、藩学、寺子屋、学制、教育令、教育勅語、国民学校令、修身、教育基本法、学校教育法、生きる力、ゆとり
11	教育心理①　教科書：pp.293-307 【学修のポイント】教育評価の目的、方法について学修する。また、重要人物で紹介されるブルームについては評価の３類型を提唱した人物としても理解しておきたい。 【キーワード】ブルーム・完全習得学習・診断的評価・形成的評価・総括的評価
12	教育心理②　教科書：pp.308-326 【学修のポイント】発達理論については様々な発達段階区分が提示されている。ピアジェ、フロイト、エリクソン、ハーロックを中心に年齢と段階の対応を整理しておきたい。適応規制については事例とともにおさえておくこと。 【キーワード】形式的操作思考・自我同一性・徒党時代・適応規制
13	教育課程と教授・学習　教科書：pp.327-334 【学修のポイント】カリキュラムの類型とそれぞれの背景にある教育観および代表的な教授方法と学習指導方法を学修する。 【キーワード】教科中心カリキュラム、経験中心カリキュラム、合科学習、教授法、学習の分類

14	学習指導要領①　　教科書：pp.335-353 【学修のポイント】教育基本法や学校教育法等の改正と教育課程の編成について学修する。 【キーワード】思考力・判断力・表現力の育成、言語活動の充実、学習習慣の確立、授業時数の増加、道徳教育の重視、安全と食育
15	学習指導要領②　　教科書：pp.344-383 【学修のポイント】中学校、高等学校、特別支援学校小中学部、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動における各々の学習指導要領の目標と内容を学修する。 【キーワード】各指導要領における目標、内容、指導計画の作成と内容の取扱い

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 今回の学習指導要領の改訂で特記すべき点をいくつか挙げ、あなたの考えを述べよ。

＜ポイント＞

改訂前の学習指導要領と異なっているところに視点を当てて、新しく改訂する方向性について考えを述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．教育法規に示されている「教員としての職責や義務」について

＜ポイント＞

教育基本法、学校教育法とその他の関連する教育法規の内容を十分に理解した上で、「教員としての職責や義務、およびその身分」について論じる。

2．学級担任として、いじめに対してどのような対応や指導が求められるか

＜ポイント＞

いじめに関する基本的認識やいじめる児童生徒に対する適切な教育的指導を十分理解した上で、「担任および学校組織としての対応や適切な指導」について論じる。

3．評価について

＜ポイント＞

教育評価の目的や内容、その種類などについて述べ、テストにおける信頼性と妥当性の問題、実際の学校現場での現状などについて論じる。

4．教育についての大きな二つの見解である「開発主義」と「注入主義」について、それぞれの代表者を一人ずつ選び、彼らの主張を説明しながら、「開発主義」と「注入主義」のそれぞれの特質を論じなさい。

＜ポイント＞

「開発主義」と「注入主義」について、それぞれの際立つ特質を理解すること。その際には互いの違いに留意するとよい。また、それぞれの立場を主張してきた人々が大勢いるので、少なくともそれぞれ一人ずつは名前とその主張を正確に理解するようにすること。

5．日本の教育史について

＜ポイント＞

単に要点を丸暗記するのではなく、教育史を学ぶことを通して特定の時代と社会においてどんな人間像が求められたかを理解し、そこから現代の有るべき人間像や教育が進むべき方向を探る手続きを見つけることが重要である。

理解を深めるための参考文献：『教育史からみる学校・教師・人間像』

6．教科中心カリキュラムと経験中心カリキュラムについて

＜ポイント＞

それぞれの背景にある教育観、および代表的な教授方法と学習指導方法についてまとめる。

教科書

東京教友会『教職教養ランナー　2014年度版』一ツ橋書店。

参考文献

共同教育研究会『教職教養の精選実施問題』共同出版。
共同教育研究会『過去問シリーズ○○県（自治体別に出版）の教職教養』共同出版。
資格試験研究会『教職教養らくらくマスター』実務教育出版。
山田恵吾、貝塚茂樹編著『教育史からみる学校・教師・人間像』梓出版社。

科目コード	キャリア開発演習Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
8860		４年	SR
教員名	坂望美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

ドラッカーを通じてマネージメントの基礎を学修する。最近、頻繁に使われるようになったマネージメントの意味やドラッカーが考えるマネージメントを学修することによって現代社会における企業経営の実態を把握し、ビジネスマンとしての自分の将来像をしっかりと考えられるようにする。

学修内容

1	ドラッカーについて ポイント：ドラッカーという人物について理解する。
2	顧客の創造について ポイント：顧客創造の意味を理解し、顧客を創造するために必要な方法等について学ぶ。
3	企業はどこへ向かっているのか？Ⅰ ポイント：事業の目的、目標実現のために必要とされること、非顧客への取り組みなどについて考える。
4	企業はどこへ向かっているのか？Ⅱ ポイント：企業目標とそれを実現するためのマネージメントについて理解する。
5	知識社会の到来Ⅰ ポイント：知識社会の概念について理解し、知識社会におけるマネージメントについて考える。
6	知識社会の到来Ⅱ ポイント：シーメンスと三菱のマネージメントの違いを比較しつつ知識社会におけるマネージメントについて考える。
7	組織のイノベーション ポイント：知識社会におけるイノベーションについて理解し、組織のマネージメントについて考えてみる。
8	戦略的思考 ポイント：情報化社会におけるマネージメントの在り方について考える。
9	働くって何だ？Ⅰ ポイント：自己のマネージメントについて考える。
10	働くって何だ？Ⅱ ポイント：一緒に働く者へのマネージメントについて考える。
11	公共機関と社会貢献Ⅰ ポイント：公共機関の在り方について現状を分析してみる。
12	公共機関と社会貢献Ⅱ ポイント：企業責任について理解と考察を深める。
13	トップがすべきこと ポイント：トップマネージャーに求められることについて考える。
14	次の時代は何か？ ポイント：少子高齢化社会におけるマネージメントについて考える。
15	日本の問題 ポイント：日本社会の景気について、現在の産業構造や経済体制面から考察してみる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

今後、就職したい業界名を挙げ、その業界におけるイノベーションの必要性について述べよ。

＜ポイント＞

1　自分の進路をきちんと整理できているか。

2　イノベーションの意味を理解できているか。

3　選択した業界の現状を把握しながらイノベーションの必要性について言及できているか。

科目終了試験学修のポイント

１．ドラッカーの説くマネージメントについて

＜ポイント＞

マネージメントとは、「組織に成果をあげさせるもの」という認識にたって、その具体的内容や方法等に理解を深める。

２．組織や企業の目的について

＜ポイント＞

個々の企業や組織が何を目的として戦略を立て、実行に移しているかを分析してみる。

３．知識社会について

＜ポイント＞

知識労働者としてどのようなどのようなマネージメントが必要なのかを考える。

４．組織のイノベーションについて

＜ポイント＞

イノベーションの必要性と実施困難性を理解しつつ、具体的企業におけるイノベーションについて自分の考えをまとめてみる。

５．働くことの意味について

＜ポイント＞

自分の強みを踏まえた仕事の選び方にふれ、仕事を通じた自己実現の在り方を論じる。

６．来るべき社会について

＜ポイント＞

これから迎える少子高齢化社会の中で、人としてどのように生きていくべきかを考える。

教科書

中野　明　『今から即使える「ドラッカーのマネジメント思考」』朝日新聞出版。

参考文献

岩崎夏海　『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネージメント」を読んでいたら』ダイヤモンド社。

津田太愚　『ドラッカーのマネージメントがマンガで３時間でわかる本』明日香出版。

科目コード	キャリア開発演習Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
9023		４年	R
教員名	木内正範、鳥越由紀子、成田成、堀肇		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

保育士公務員試験をはじめとする就職試験に備え、一般教養試験の一般知能、つまり文章理解、判断推理、数的推理、資料解釈の問題演習を行う。

学修内容

1	文章理解１ 現代文①　教科書 pp.53～62 の問題を解く。問題の選択肢を確認してから問題文書を読む習慣をつけること。
2	文章理解２ 現代文②　教科書 pp.63～70 の問題を解く。特に選択肢を確認してから問題文書を読む習慣をつけること。
3	文章理解３ 英文①　教科書 pp.71～79（No.40）の問題を解く。まずは辞書を使わずに問題文を読んで、おおまかな意味をとらえること。
4	文章理解４ 英文②　教科書 pp.79（No.41）～82 の問題を解く。まずは辞書を使わずに問題文を読んで、おおまかな意味をとらえること。
5	文章理解５ 古文　教科書 pp.83~86 の問題を解く。高校の授業で使用した古文の教科書などがあれば参考にするとよい。
6	判断推理１ 文章題①　教科書 pp.87～92（No.18）までの問題を解く。一度解いたら、解いた過程を遡って自分で類似問題を作成してみる。
7	判断推理２ 文章題②　教科書 pp.92（No.19）～96 までの問題を解く。一度解いたら、解いた過程を遡って自分で類似問題を作成してみる。
8	判断推理３ 図形問題　教科書 pp.97～101 までの問題を解く。一度解いたら、解いた過程を遡って自分で類似問題を作成してみる。
9	数的推理１ 文章題①　教科書 pp.102～104 までの問題を解く。一度解いたら、解いた過程を遡って自分で類似問題を作成してみる。
10	数的推理２ 文章題②　教科書 pp.105～108 までの問題を解く。一度解いたら、解いた過程を遡って自分で類似問題を作成してみる。
11	数的推理３ 図形問題①　教科書 pp.109～110 までの問題を解く。行き詰ったら、解答を確認してよいので、１問にあまり時間をかけすぎないこと。また、解答を確認後に、もう一度問題を解くこと。
12	数的推理４ 図形問題①　教科書 pp.111～113 までの問題を解く。行き詰ったら、解答を確認してよいので、１問にあまり時間をかけすぎないこと。また、解答を確認後に、もう一度問題を解くこと。
13	資料解釈１ 表の問題　教科書 pp.114～117 までの問題を解く。一度解いたら、保育や教育に関する表を新聞や書籍などから見つけ、その表を使って問題を作成してみる。
14	資料解釈２ 図・グラフの問題　教科書 pp.118～121 までの問題を解く。一度解いたら、保育や教育に関する図・グラフを新聞や書籍などから見つけ、その図・グラフを使って問題を作成してみる。
15	学修のまとめ これまでの学修を振り返り、自分が苦手な問題の傾向をまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】一般知能「文章理解」、「判断推理」、「数的推理」、「資料解釈」の問題演習を行い、4科目それぞれについての自己課題を述べよ。

＜ポイント＞

4科目の問題演習を行い、何度も繰り返すなかで自分の得意とする分野や苦手とする分野を認識し、特に自分の弱点となる課題を分析して解決すること。

科目終了試験学修のポイント

1．一般知能「文章理解」の予想問題を2つ作成し、解答とその解説を記述せよ。
2．一般知能「判断推理」の予想問題を2つ作成し、解答とその解説を記述せよ。
3．一般知能「数的推理」の予想問題を2つ作成し、解答とその解説を記述せよ。
4．一般知能「資料解釈」の予想問題を2つ作成し、解答とその解説を記述せよ。
5．一般知能「文章理解、数的推理」の予想問題を1つずつ作成し、解答とその解説を記述せよ。
6．一般知能「判断推理、資料解釈」の予想問題を1つずつ作成し、解答とその解説を記述せよ。

＜ポイント＞

自分の苦手な分野の問題を作成すること。また、解説については、教科書の解説と同程度でかまわないが、自分が解説を読んで「分かりにくい」と感じた部分は特に注意して記述すること。

教科書

保育士試験研究会『保育士　就職試験問題集』実務教育出版。

参考文献

なし

科目コード	キャリア開発演習Ⅲ（２単位）	登録年次	履修方法
1003		４年	R
教員名	木内正範、山田哲史		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

教員採用試験には、学科試験では判断が難しい人物や適性について面接や小論文によって見ていく試験がある。小論文試験は与えられた字数と時間で書き上げなければならず、訓練をして臨まないと良い小論文を書くことは困難である。そこで、「良い文章の書き方」を学修し、演習を積み重ねることで自分としての書き方を身につけ、併せて傾向や対策についても学修していく。

学修内容

1	教員採用試験の概要（教科書　第１章） できる小論文とは（教科書　第２章 pp.22-23） 小論文でどのような能力が試されるのか、どのような点が評価の対象となるのか知る。
2	文章を書く能力を身につける（教科書 pp.24-31） 原稿用紙の使い方、文法、文章の組立てなど、形式面で注意すべき事項を理解する。
3	個性、パーソナリティーをアピールする（教科書 pp.32-37） 小論文試験の目的は、教員として必要な文章による表現力、判断力、思考力等の能力を問うことである。これからの教員に必要とされる資質について考える。
4	知識に裏づけられた文書を書く（教科書 pp.38-51） 説得力のある文章を書くためには、一定の知識が必要である。①時事的な事柄②教師観などの専門的な事柄について、小論文を書く背景となる知識を深める。教科書だけでは不十分であるため、新聞や専門雑誌等で情報を収集する。
5	小論文を書くためのプロセス（教科書　第３章） １．ブレインストーミング　教科書を読み、小論文のテーマを一つ決め、そのテーマについてブレインストーミングを行う。小論文のテーマは、受験を予定している都道府県等の過去問題から選んでもよい。
6	２．構成を考えてメモにまとめる　ブレインストーミングしたテーマについて、「起・承・転・結」の四部構成、「序論・本論・結論」の三部構成のどちらの構成にするか考え、メモにまとめる。大まかな流れと各段落に何を書くかがわかるようにまとめる。
7	３．書く　上記１と２を踏まえ、実際に小論文を書く。まずは制限時間を設けず、自分が文章を書くのにどれくらい時間がかかるか、把握する。
8	４．見直す　３で書いた小論文を教科書 pp.22-23 のチェック項目に従って見直す。見直した後は、もう一度同じテーマについて書き直してみること。
9	過去問分析　教員採用試験で課される小論文試験のパターンについて、どのようなものがあるか把握する。 分類１　個人的な事柄に関する出題：教科書 pp.81-85 までを読み、「あなたの心に残っている経験について」というテーマで小論文を書く。書いた小論文を見直した後に、pp.86-88 の解答例・解説を確認すること。
10	分類２　時事的な事柄に関する出題：教科書 pp.89-95 までを読み、「国際社会」というテーマで小論文を書く。書いた小論文を見直した後に、pp.96-102 の解答例・解説を確認すること。
11	分類３　専門的な事柄に関する出題：①教師観　教科書 pp.106-117 までを読み、「恩師」というテーマで小論文を書く。書いた小論文を見直した後に、pp.118-120 の解答例・解説を確認すること。
12	分類３　専門的な事柄に関する出題：②教育論・教育問題　教科書 pp.121-133 までを読み、「現在の教育についてあなたの考えを述べなさい。」というテーマで小論文を書く。書いた小論文を見直した後に、pp.134-138 の解答例・解説を確認すること。
13	分類３　専門的な事柄に関する出題：③生徒指導・学習指導　教科書 pp.139-141 までを読み、「体験学習の指導について、あなたの考えを述べなさい。」というテーマで小論文を書く。書いた小論文を見直した後に、pp.142-144 の解答例・解説を確認すること。
14	教科書 pp.146-155 を読み、学校種別・職種ごとに小論文が課される場合、社会人経験等に限定して小論文が課される場合についてのポイントを確認する。
15	これまでの学習を振り返り、教科書の第５章　実践問題に取り組む。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 良い小論文を書くためのポイントを挙げ、具体的に述べよ。

＜ポイント＞

言葉は、自分の考えや意志や感情などを表す道具である。よって、その道具を使って、どのようにしたら、伝えたいことを伝えたいように相手に伝えることができるか、工夫することが大切である。

科目終了試験学修のポイント

１．児童生徒の個性を生かす教育について

２．良い教師の資質について

３．「いじめ」をなくす学級経営について

４．様々な親の要求への対応について

５．国際社会で求められる日本人のあり方について

６．児童生徒との信頼関係を築くことについて

＜ポイント＞

学修内容の１～１５で行った演習を踏まえ、小論文作成に取り組むこと。ブレインストーミング、構成を考えてメモにまとめる、書く、見直すの時間配分にも気をつけること。

教科書

リクルーティングセミナー『よくわかる！教員採用試験のための論作文術』土屋書店。

参考文献

時事通信社内外教育研究会『合格面接攻略法』時事通信出版局。

科目コード	キャリア基礎演習Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
8830		1年	SR
教員名	坂望美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目では、日本社会における基本的マナー、特にビジネスマンとして身につけるべきマナーや企業活動に関する基本的知識を中心に学修する。学修の進め方としては、基本的なマナーをQ&Aで確認してから、箇条書き主体の解説文を通じ理解を深め、「ミニレクチャー」では、さまざまな追加情報をより具体的に学修し、最後に「理解度自らチェック！ためしにやってみよう」で自らの理解度をチェックすることによって学習効果を確実なものとする。

学修内容

1	キャリアとビジネスマナー ポイント：ビジネスマナー、身だしなみ、言葉づかい、あいさつ、それぞれの基本を理解する。
2	ミニレクチャー、理解度チェック ポイント：敬語の使い方、好ましい挨拶の仕方を重点的に学修する。
3	社内のビジネスマナーとルール ポイント：就業マナー（出社時、離席・外出時、退社時、就業態度、勤務時間外の付き合い等）について理解する。
4	受命、報告、連絡、相談のマナー ポイント：報告・連絡の基本、会議に関する基本について理解する。
5	ミニケース・スタデイ、理解度チェック ポイント：ケース・スタディを通じて自分の考えをまとめる。理解度チェックで学習結果を確認する。
6	電話のマナー ポイント：電話対応の基本、電話の受け方・かけ方、不在時の対応、伝言の受け方について理解する。
7	ミニケース・スタディ、理解度チェック ポイント：ケース・スタディを通じて電話対応の在り方を理解するとともに、理解度チェックで自分の学習結果を確認する。
8	応対のマナー ポイント：受付時のマナー、案内時のマナー、乗り物の席次に関する基本知識、会社訪問時のマナー等を理解する。
9	ミニケース・スタディ、理解度チェック ポイント：ケース・スタディを通じて様々な接客対応の在り方を学ぶとともに基本知識の理解度をチェックする。
10	ビジネス文書の基本マナー ポイント：社内・社外文書の基本的レイアウトや構成、郵便物の取り扱い等を理解する。
11	ミニレクチャー・理解度チェック ポイント：日本語による文書作成時の頭語・結語、時候の挨拶、封筒・返信用はがきの書き方等基本的事項について学び理解する。
12	慶事・贈答・会食のマナー ポイント：日本における冠婚葬祭及び会食のマナーに関する基本事項を学び理解する。
13	ミニレクチャー・理解度チェック ポイント：他国の料理マナーと比較しながら日本料理のマナーについて学修し理解する。
14	国際ビジネスマナー ポイント：外国人の応対・ビジネス文書作成等の基本について学修し理解する。
15	ミニレクチャー・理解度チェック ポイント：誤解を招きやすい日本人のマナーやジェスチャーを取り上げ、注意を喚起する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】様々なビジネスマナーの中から重要と思うマナーを三つ選択し、それぞれの選択理由を述べた後、具体的なケースを取り上げ、マナー遵守の在り方について説明せよ。

＜ポイント＞

ビジネスの世界で、仕事を円滑に進めるためには自分と関わるすべての人たちと良好な人間関係を築く必要がある。そのためには、自らが適切なマナーを身につけ、良好な人間関係の中でビジネスマンとして様々なことを吸収しつつ成長していくことの大切さを学んで欲しい。

科目終了試験学修のポイント

1．職場におけるコミュニケーションについて

＜ポイント＞

職場における円滑な人間関係を築くためには、どのようなマナーや配慮が必要かを問う。

2．職場での報・連・相について

＜ポイント＞

報告・連絡・相談の意味を理解し、それぞれ基本とされていることについて理解しているかを問う。

3．電話応対の基本（受け方・かけ方・不在時の応対・伝言の受け方）について

＜ポイント＞

それぞれの場面における基本的応対を理解できているかどうかを問う。

4．誠意のある来客応対（受付時・案内時・見送り時）について

＜ポイント＞

来客への誠意ある応対とは具体的にどのようなものか、場面別に自分の言葉で表現できるかを問う。

5．ビジネス文書の作成について

＜ポイント＞

教科書p. 140 の問題9に類似した社内向け案内文を作成できるかどうかを問う。

6．日本料理のマナーについて（自国の料理マナーと比較する）

＜ポイント＞

自国の料理マナーと日本料理のマナーを比較してその違いを認識する。

教科書

キャリア総研　『改訂版　ビジネスマナー基本テキスト』　日本能率協会。

参考文献

寺嶋康子監修　『実践ビジネスマナー』　西東社。

『社会人のための基本マナー』　主婦の友社。

科目コード	キャリア基礎演習Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
8840		２年	ＳＲ
教員名	坂望美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日本のビジネス社会において必要とされる実務マナーを、『ビジネス実務マナー検定受験ガイド　１・２級』を教科書として使用しながらその必要性を理解し、着実に身につけて実践できるようにする。また、併せて、敬語・謙譲語・丁寧語などのビジネス界における正しい日本語の使い方を学修し、日本語能力の向上を図る。

学修内容

1	ビジネスマンとしての資質 ポイント：ビジネス界において求められる状況に応じた行動力・判断力・表現力などについてケーススタディを通じて学ぶ。
2	執務要件、演習問題 ポイント：仕事遂行上の確実性・実行力・協調性などについてケーススタディを通じて学ぶ。
3	組織の機能と役割、演習問題 ポイント：業務分掌・職位・職制の役割及び機能・企業の社会的責任及び役割について確認する。
4	ビジネスの場における人間関係 ポイント：パーソナリティや性格に関する知識を学び、適切な対人行動とは何かを考える。
5	ビジネスマナー ポイント：　ビジネスマナーの重要性をケーススタディを通じて再確認する。
6	話し方・聞き方（1） ポイント：特に敬語を使った話し方の良しあしを確認する。
7	話し方・聞き方（2） ポイント：会議・新製品説明会・苦情処理・指示等の各場面における話し方を実践的に学ぶ。
8	交際・冠婚葬祭 ポイント：交際業務全般についての知識を確認し、実践できるようにする。
9	情報 ポイント：情報の収集・整理を合理的に行い、情報の伝達が適切にできているか確認する。特にパワーポイントを使ったプレゼン実践やエクセルを使ったデータ整理が確実にできるかチェックする。
10	文書 ポイント：社内・社外を含め、文書が効率よく作成できるようにトレーニングする。
11	会議・事務機器・事務用品 ポイント：会議の運営に関する知識及び事務機器などの使用方法などを再確認する。
12	ビジネス実務マナー技能検定２級過去問題（1） ポイント：過去問題を解き、全問正解できるようにする。
13	ビジネス実務マナー技術検定２級過去問題（2） ポイント：過去問題を解き、全問正解できるようにする。
14	ビジネス実務マナー技術検定１級過去問題（1） ポイント：適切かつ正確な文章で表現できるようにする。
15	ビジネス実務マナー技術検定１級過去問題（2） ポイント：適切かつ正確な文章で表現できるようにする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】日本のビジネス界において良好な人間関係を築くためにはどのような配慮が必要か、服装・言葉づかい・態度の三つの観点に立って述べよ。

＜ポイント＞

ビジネスマンの基本として好感度を上げる服装とはどんなものかを性別に具体的に述べ、言葉遣いについては、相手や場所に応じて適切に使い分けるべきこと、態度については、上司・同僚・社外関係者・顧客等に対する適切な態度とはどういうものかをそれぞれ文章化して欲しい。

科目終了試験学修のポイント

1．ビジネスマンとしてのセンスある行動力・判断力・表現力について

＜ポイント＞

ビジネス界がビジネスマンの資質として何を求めているかを理解できているか否かを問う。

2．企業の社会的責任と役割について

＜ポイント＞

自社の利益ばかりでなく、環境保全運動や地域社会への貢献などについても考えが及んでいるかを問う。

3．目的に応じた話し方について

＜ポイント＞

会議・新商品説明会・商談・苦情処理などの場面における適切な話し方を理解しているか否かを問う。

4．ビジネス界における情報力について

＜ポイント＞

情報は、見方、切り方を変えるだけで異なる事実が浮かび上がることがある。まずは、情報を収集整理し、分析する力についてどのように考えているかを問う。

5．ＰＣ等電子情報機器を活用した今後のビジネス活動について

＜ポイント＞

電子情報機器等を活用した効率的な営業活動は、それぞれの職場において確実に浸透してきている。まずは、各自がそれらの情報機器をどのように活用しようとしているのか問いたい。

6． ビジネスマンとしての自己管理の在り方について

＜ポイント＞

各過去問に対する解答を理解習得した後、ビジネス実務マナーにおいて、特に基本的な自己管理の在り方を最終確認する。

教科書

財団法人実務技能検定協会編　『ビジネス実務マナー検定受験ガイド　1級』　早稲田教育出版。
財団法人実務技能検定協会編　『ビジネス実務マナー検定受験ガイド　2級』　早稲田教育出版。

参考文献

財団法人実務技能検定協会編　『ビジネス実務マナー検定受験ガイド　3級』　早稲田教育出版。
財団法人　専修学校教育振興会監修　『ビジネス能力検定1級　テキスト』　日本能率協会マネジメントセンター。

科目コード	救急看護（救急処置を含む）（２単位）	登録年次	履修方法
6060/6061		３年	ＳＲ
教員名	石垣久美子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

現在では、救急看護が対象とする傷病者や疾患は広範囲であり、年齢層も全ての年齢にわたり、障害のある人も含まれる。また救急看護の現場では、心肺停止状態の人、犯罪や法的問題にかかわる人の取り扱いも必要とされる。特に園児・生徒の急変時、また最近の災害的な大量傷害事故発生時には適切･迅速な対応が必要であり、さらに家族への対応も求められる。本科目では、特に園児や生徒などの心身の発達段階において、事故や疾病の悪化などで救急看護が必要とされる事項を理解し、養護医療や福祉医療に役立つ救急看護の知識を身につけることを目標とし、養護上の救急看護における適切な準備、欠かせない知識や基礎的な技術を理解できるようにする。

学修内容

1	Ⅰ、非看護系大学における看護学について １．看護学総論　１）看護とは　　２）看護職の倫理綱領
2	Ⅱ、基礎看護論 １．看護の基礎
3	２．看護行為の基本 １）コミュニケーション　　２）看護における観察
4	Ⅲ、看護過程 １．フィジカルアセスメント １）見逃したくない症状や徴候：（1）皮診と二次病変の区別、緊急事態かどうかの判断
5	２）基本情報の聴き取り（１）一般状態の観察 （２）バイタルサインの測定
6	３）学校看護で重要な「頭頸部のフィジカルアセスメント（例）」 ポイント（1）フィジカルアセスに必要な解剖整理と機能の知識（EX：頭部打撲の場合はその部位）
7	（２）自覚症状・・前駆症状・随伴症状・持続時間等の問診 （EX：頭痛・眩暈・吐気や嘔吐・意識障害・けいれん）
8	４）各科の看護・・・健康診断の事後措置及び救急看護で頻度の高いフィジカルアセスメント （１）小児科疾患とその看護（各部の視診・触診と記録、以下同）
9	（２）内科系疾患と看護 生活習慣病の現状と看護・予防
10	（３）思春期精神不調と看護・予防 （４）精神科疾患と看護・予防
11	（５）眼科疾患とその看護・予防 （６）耳鼻咽喉科疾患とその看護・予防
12	（７）口腔歯科の疾患とその看護 （８）頭部以外の部位の打撲・骨折など外科系疾患とその看護・予防
13	２．学校でできる看護処置 （１）医療機関への受診のタイミング　（２）学校内外の連携（担任・保護者・学校医・かかりつけ医師の有無） （３）医療機関への搬送・後処置
14	Ⅳ、看護の記録 主訴の記録と対応の記録について・・・事例検討会
15	Ⅴ、総合 教育系の学校看護学及び実践について基本をまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 小児外傷における救急看護の問題点を述べよ。

＜ポイント＞

小児は自分自身の症状を的確に表現できないという観点からまとめること。すなわち、受傷時に周囲にいた人から情報を聴取すると同時に、受傷者本人の異常の有無と程度を客観的に判断しなければならない。また最近は、被虐待による外傷も多く含まれており、冷静な視点で周囲にいた人の心の状態や言動を正確に判断することも必要とされる。これらの点を踏まえて、問題点を整理すること。

科目終了試験学修のポイント

1．発達段階に応じた突然の事故や急変時の救急現場での看護の役割について

＜ポイント＞

突然の事故や子どもの急変の発生頻度は低いが、養護教諭にはこのような場面でこそ、適切な対応が求められる。救急場面では子どもの発達段階の特性を踏まえることが大切である。急変時の看護について発達特性に触れてその役割を述べる。

2．急変の場合の移動・搬送について

＜ポイント＞

学校の日常の救急処置場面は保健室であるが、教室、体育館、運動場における活動中の事故時の急変をイメージし、移動・搬送を述べる。

3．症状別（外傷、熱傷、痙攣、溺水、誤嚥・気管内異物、腹痛・下痢、悪心・嘔吐、発熱）の救急看護について

＜ポイント＞

症状別の救急看護で頭部外傷などでは、外傷部位の頭の骨の固さなどで危険性を予測し、医療受診が必要となる。各症状への看護を周知することが求められる。症状についての対応についてキーワードを入れてまとめる。

4．現場で直ちに施行する一次救命処置（バイタルサインの評価含む）について

＜ポイント＞

一次救命処置は、事故者の側に居合わせる一般市民も行えるものである。そのＡＢＣに触れ、処置をシュミレーションし、過程を述べる。

5．救急時の様々な対応 （家族、救急隊・警察、虐待、精神疾患など）について

＜ポイント＞

社会が複雑になり、学校における救急看護の対応も複雑な要素がある。とりわけ虐待など犯罪行為として取り扱われるべきと認められるものや、いじめ（平成24年11月2日付文部科学省初等中等教育局長通知）なども頻発する。このような救急処置では警察への相談･通報が必要となるなど文科通知などインターネットで学び、これらに触れながら対応を述べる。

6．学校における救急処置判断過程の特徴や、管理上の責任について

＜ポイント＞

救急処置のプロセスは、心身の健康問題の発見から解決･改善の援助のプロセスであるが、頭部外傷などでは管理責任が伴う。学校の管理上の特徴をとらえてまとめる。

教科書

藤井寿美子、他『養護教諭のための看護学　改訂版』大修館書店。

参考文献

杉浦守邦『養護教諭のための診断学　外科編／内科編』東山書房。
藤崎郁『フィジカルアセスメント』学研。

科目コード	教育学概論（2 単位）	登録年次	履修方法
4020		1 年	R
教員名	安藤哲也、石﨑達也、石渡宏、攪上哲夫、北林敬、後藤泰博、須藤典征、望月之美、山田哲史		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		

科目概要・到達目標

本科目は教育という営みに深い関心を持ち、「教育とは何か」ということを考え始めている人に対し、教師になるための土台となる教育の基本的概念や理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを概括することを通して、一人ひとりが、教育（学）の観点から今日の「子ども」を取り巻く環境の変化を理解した上で、「よりよい教育とは何か」を考える力を養うことを目的とする。

本講義は、本科目の目的を達成するために、以下の目標を設定する。

1. 教育に関する多様な考え方にふれることを通して、今日の教育的事象に関心をもつことができる。
2. 「子どもの発見」以来の子ども観の変遷について理解した上で、「人間形成」という観点から教育について考えることができる。
3. 教育は時代とともに形を変え、教育（学）者はその都度、社会的要請に応じて様々な思想や理論を生み出してきたが、改めてそれらの理論や思想の今日的な意義について理解を深める。

学修内容

1	「教育」の理念（1） 教科書：pp.1-17 ①人間への問いと教育への問い ②学ぶことと教えること 教科書および参考文献を読み、代表的な教育家の思想（ルソー）をふまえ、「教育」とは何かという問いに対する答えを探すことを試みるとともに、「子ども観」や「人間形成」に関する思想の歴史的変遷をおさえる。
2	「教育」の理念（2） 教科書：pp.17-38 ①発達への助成的介入 ②教育と教化と形成 教科書および参考文献を読み、代表的な事例（野生児、ヘレン・ケラー）をふまえ、「人間と社会」に関する思想の歴史的変遷を通して「教育」とは何かという問いに対する答えについて考える。
3	近代教育思想と学校の成り立ち（1） 教科書：pp.39-55 ①学校の成り立ち ②近代学校の性格 教科書および参考文献を読み、コメニウス、ペスタロッチの思想や学校の歴史をたどりながら、「なぜ学校が必要になったのか」という問いに対する答えを探すとともに、中世・近代の学校の特徴についておさえる。
4	近代教育思想と学校の成り立ち（2） 教科書：pp.57-77 ③近代以前の日本の学校 ④日本の「近代化」と学校教育 教科書および参考文献を読み、日本の学校の成立過程と日本の「近代化」が学校教育に与えた影響、教育制度・政策の特徴について理解する。
5	近代教育思想と学校の成り立ち（3） 教科書：pp.77-86 ⑤新たな出発、その後の展開 教科書および参考文献を読み、戦後の日本の教育の流れを理解するとともに現代の教育の問題点について考える。
6	教育目的・計画論（1） 教科書：pp.87-99 ①こころとからだを育てる計画 ②学力 教科書および参考文献を読み、教育の目的論や計画論、さらに「学力」に関する考え方の歴史的変遷について理解を深める。
7	教育目的・計画論（2） 教科書：pp.99-116 ③身体文化と教育 ④道徳性の発達と教育 ⑤教育における言葉と文化 教科書および参考文献を読み、代表的な思想や理論をふまえ、人間のこころとからだの関係と教育とのかかわり、道徳教育についての理解を深める。
8	教育課程・方法に関する歴史的変遷（1） 教科書：pp.117-132 ①学習することの意味 ②授業を改革するために ③学校教育の可能性 教科書および参考文献を読み、代表的な思想や理論及び歴史的な視点をふまえ、子どものためになる学習活動を作り上げるためにはどのような工夫が必要であるか考える。
9	教育課程・方法に関する歴史的変遷（2） 教科書：pp.133-149 ①教育評価とは何か ②修了の認定と入学試験 教科書および参考文献を読み、「教育評価」や「試験」に関する考え方の歴史的変遷をふまえ、それらの社会的意義について考える。
10	「授業（実践）」に関する思想とその歴史的変遷 教科書：pp.151-175 ①授業をつくる–教材の発見 ②授業をつくる–学ぶことは変わること ③学校をつくる 教科書および参考文献を読み、「授業（実践）」に関する思想とその歴史的変遷を理解した上で、「授業（実践）」のあり方について考える。
11	教師（論）に関する思想とその歴史的変遷 教科書：pp.177-202 ①教師とは何か ②教師の力量とは何か ③授業をつくる教師 教科書および参考文献を読み、「教師」のあり方に関して、歴史的な視点から考察し、これからの教師に求められる資質・能力について考える。
12	青年（期）に関する思想とその歴史的変遷 教科書：pp.203-218 ①青年期の課題と教育 ②青年の自立と社会参加 教科書および参考文献を読み、青年（期）の代表的な思想（エリクソン等）に関する理解を深めた上で、自らの体験をふまえながら、青年期における教育のあり方について考える。
13	生涯教育・生涯学習の理念 教科書：pp.219-232 ①人は学び続ける ②地球市民として生きるために 教科書および参考文献を読み、歴史的な視点をふまえ、生涯教育・生涯学習の理念と意義に関する理解を深めた上で、地球市民として生きるため教育実践のあり方について考える。

14	権利としての「教育」の理念（1）　教科書：pp.233-248 ①「子どもの権利宣言」から「子どもの権利条約」へ　②「子どもの権利条約」のもつ意義 ③憲法・教育基本法と「子どもの権利条約」 教科書および参考文献を読み、「子どもの権利条約」の歴史（成立過程）を理解した上で、関連する取り決め・法規等についての総合的な理解を深める。
15	権利としての「教育」の理念（1）　教科書：pp.249-271 ①子どもの権利の発見　②子どもの成長・発達をめぐる状況と子どもの「最善の利益」 ③社会の変化と教育政策の動向 教科書および参考文献を読み、「子どもの権利」（コルチャック）、教育を受ける権利、そして今日の日本社会の変化と教育政策の動向を理解した上で、自らが考えるよりよい（学校）教育のあり方について考える。
学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点） F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】教育の基本的概念や理念がどのように現れてきたかという歴史的経緯をふまえた上で、今日の「子ども」を取り巻く環境の変化に応じた「よりよい教育とは何か」という問いに対するあなたの意見を述べよ。

＜ポイント＞

1．「教育」の基本的概念や理念をおさえること。

2．「教育」の意義について、人間の特性、発達、人間形成という観点からおさえること

3．現代日本における学校教育・教育政策の動向の要点や今日的課題をおさえること。

科目終了試験学修のポイント

1．「教育」の理念と「人間の特性」について

＜ポイント＞

「教育」の理念と「人間の特性」について、生物としての人間という種の特徴を理解した上で、人間社会に固有の営みとしての教育の意味、人間の成長発達や個性の形成におよぼす遺伝と環境の影響について理解を深めること。

2．近代教育思想を背景とした「学校」の成立過程と、わが国における学校制度について

＜ポイント＞

近代教育思想を背景とした学校の起源、近代学校および近代公教育の特徴について理解する一方で、日本の学校の歴史に関しても、近代以前の学校、幕末維新期の教育機関、戦前の教育、戦後教育改革と戦後新教育、高度経済成長における学校の役割などをおさえること。

3．「こころとからだを育てる」ことを目的とした教育に関する理論について

＜ポイント＞

「こころとからだを育てる」ことを目的とした教育に関する理論については、次の項目をおさえること。[発達論、認識の能力と発達、学力、身体文化、道徳教育、言語活動]

4．青年期における教育のあり方について

＜ポイント＞

「青年期とは何か」という問いに対するルソーやエリクソンの思想について理解する一方で、「青年」の歴史的経緯や「現代の青年」の特徴についておさえること。

5．生涯教育・生涯学習の理念に基づく「地域づくり」について

＜ポイント＞

生涯を通じて必要に応じて自由に学習できるような社会づくりのために、次の項目をおさえること。[グローバル化社会、社会教育、生涯教育・生涯学習、ポール・ラングラン、リカレント教育、地球市民、公民館、町づくり、少子高齢社会]

6．権利としての「教育」の理念と現代日本の教育政策について

＜ポイント＞

「子どもの権利宣言」および「子どもの権利条約」のもつ意義を理解した上で、子どもの「最善の利益」という観点から、今日の日本国憲法、教育基本法、児童福祉法などの教育に関係した法令の位置づけを確認するとともに、今日の教育政策の動向について調べておくこと。

教科書

田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理[第3版]』有斐閣アルマ。

参考文献

今井康夫編『教育思想史』有斐閣アルマ、2009年。

東京福祉大学編『保育児童福祉要説　第4版』中央法規、2013年。

科目コード	教育課程論（初等教育）（2 単位）	登録年次	履修方法
4041		1年	SR
教員名	荻原邦昭、金子康一、木内正範、篠大輔、 清水正雄、鈴木収、須藤典征、西脇雅彦、松村久美子、山田哲史		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム･マネジメントを含む。)		

科目概要・到達目標

教育課程とは、公的な教育機関である学校が、その教育目標（学校の教育目標）を達成するために幼児・児童に提供する教育内容と学習経験の学校全体の計画である。この教育課程編成の法的な根拠となる幼稚園教育要領および小学校学習指導要領を歴史的観点から考察する。また、幼稚園教育要領および小学校学習指導要領の改訂の基本方針と改訂の要点を理解する。併せて、学校における教育課程編成を理解し、意義や課題等を学ぶ。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	今なぜ「教育課程」なのか １教育課程の意義について ２学力問題と教育課程 ３教育課程の拡張と深化 ・教育課程の意義、目的・日本における教育課程の問題と改革の必要性･学力のとらえ方の変化と様々な学力問題の考察･教育課程の評価と改善の必要性の理解	オリエンテーション - 教育課程を学ぶ意義について - 学校生活を振り返り、学校での活動がどのような考えで行われていたか話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	現代日本の教育課程の歩み① １経験主義からの影響 ２系統性重視への転換 ･第二次世界大戦後の日本の教育課程は経験主義的な考え方を重視・高度経済成長政策と連動して、科学技術の人材育成のために系統性重視の教育を推進	教育課程の思想と構造 ・系統主義と経験主義の違いについて理解する。 ・戦後教育の動向を理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	現代日本の教育課程の歩み② ３教育の現代化 ４人間性重視への転換 ･人材の能力開発を求めて全国一斉の学力テストを実施・教育の現代化推進の意義と内容の理解・人間性重視の教育への転換による全人教育とゆとり教育の推進	昭和４３年～昭和５２年の教育課程の改訂 ・科学志向の学力や人間性志向の学力について学び、理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
4	現代日本の教育課程の歩み③ ５新学力観の追求 ６生きる力と確かな学力 ７生きる力と活用能力 ・新学力観の意義と改革内容の理解・生きる力の育成と「総合的な学習の時間」の創設・学力低下論争と確かな学力の育成･教育基本法及び学校教育法の改正内容・幼稚園の教育改革と、小中学校における活用能力の重視	平成元年の教育課程改訂の営み 新しい学力観や生きる力の育成を目指す教育課程の考えの背景について話し合い、時代に対応した教育課程の在り方を理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
5	教育課程開発の新しい動き　　教育課程の思想と構造 １生活科の誕生 ２学力向上の試み ３学力とモラル ４履修原理 ・生活科誕生の背景と意義・学力低下論争と学力向上のための様々な取り組み･モラルや態度を育成するための道徳や特別活動の意義と役割の理解･履修主義と習得主義の理解	授業改善への取り組み 教員主導の教育から児童主体の授業への質的転換を図り、学びの質を高めるために体験に根ざした学習が有効であることを話し合い、授業改善への取り組みについて理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
6	教育課程をどう編成するか １教育課程編成の構成要件 ２教育課程編成の展望 ・教育課程編成のための構成要件と主な論点の理解・教育課程編成主体についての理解・習得、活用、探究を図るための教育課程編成の理解･知の構造と評価方法の対応関係の理解	教育課程の定義 教育課程の基準の改善の答申に基づき，新しい教育課程の考え方を知るとともに、教育課程の構成要素の重点から，改訂の趣旨について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）

7	教育課程をどう評価するか １教育課程評価 ２学力評価 ３入試と接続 ・学校評価、教育課程の評価、授業評価の関係・改訂指導要録の書式と評価内容・学力評価の様々な方法と特色の理解・PISA 調査結果と日本の教育の課題 ・6／3／3 の教育制度と学校間の接続　・選抜の多様化と多元化	カリキュラムマネジメントと学校評価 ・教育課程の PDCA サイクルの意義を学び、学校評価の方法について法規を基に教育課程の充実の仕方について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
8	今日的課題への挑戦 １いのち、いきることの教育 ２市民性教育 ３環境教育 ４メディア・リテラシーの教育 ・今日的教育課題についての考察・命の大切さを認識させるための実践・食育教育重視の実践・キャリア教育の重要性・環境教育が重視される理由と実践・TV やパソコン、スマホ等が子どもに与える影響	学校教育の課題 中教審答申の中から、日本の学校の課題を抽出し、それぞれの課題についての解決策について話し合い、教育課程の編成にどのように生かされているのかについて話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
9	小学校学習指導要領解説　総則編① １総説 ２教育課程の基準 ・学習指導要領総則編を詳しく読み込み、改訂の経緯や改訂の基本方針を理解　・教育課程の意義や教育課程に関する法制を理解	平成２９年に改訂された学習指導要領の趣旨について、総則の対照表を調べ、改訂点について理解し、その考え方について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
10	小学校学習指導要領解説　総則編② ３教育課程の編成及び実施 ・教育課程編成の一般方針・内容等の取り扱いに関する共通的事項・授業時数・教育課程編成の原則、道徳教育の重視、体育・健康に関する指導の重視・各教科等の内容の取り扱いの原則・複式学級や特別支援学級等の教育課程編成・各教科等の年間の授業時数及び時間割の弾力的な編成等についての理解	教育課程の編成について、学校教育目標と学習指導要領、教科横断的な視点に立った資質・能力の育成の観点から、時間割にどのように反映させるか話し合い、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
11	小学校学習指導要領解説　総則編③ ３教育課程の編成及び実施・指導計画の作成・教育課程実施上の配慮事項・各学校で指導計画を作成する場合の留意事項等の理解・教育課程実施上での 12 項目の配慮事項の理解	指導計画の作成に当たって配慮しなければならない項目について調べ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うための手立てについて話し合い、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
12	小学校教育課程の編成① ・例示した学年の校時表作成 ・学年により各教科等の週時数は異なるが、例示した学年の校時表を実際に作成・どんな校時表が良いかを検討し、成果と課題を考察・3～6 年生の校時表は、年度途中で変更が必要なことの理解	カリキュラムマネジメントを具体化している時程表を参考に、効果的な学校生活を行わせるための経営案を考え合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
13	小学校教育課程の編成② ・例示した学年の年間指導計画作成・学年により各教科等の年間時数は異なるが、例示した学年の年間指導計画を実際に作成・どんな年間指導計画が良いかを検討し、成果と課題を考察・3～6 年生の年間指導計画は年度途中で変更が必要なことと、どの時期に時数の増減をするかの考察	教育課程の実施と学習評価について，事例を調べ、効果的な教育課程の在り方について考え合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
14	幼稚園と小学校の教育課程の違いと接続・幼稚園教育要領　改訂の要点・幼稚園の教育課程・「幼・保」と小学校との接続の重要性の理解・幼稚園教育要領　改訂のポイントと特色の理解	学校段階の接続についてその特徴を調べ、円滑な接続を行うための条件について，幼児・児童、教員の研修、教育内容の点から考え合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
15	教育課程論のまとめ ①　教育課程に関する基本的用語の理解 ②小学校（幼稚園）における教育課程の意義と役割及び教育課程改善の必要性 ・各学校は常に「新しい時代の教育課程」を編成・実施する責任がある。教育課程の意義と役割及び教育課程改善の必要性を再考し理解を深める。	道徳教育推進上の配慮事項について調べ、豊かな心を育む教育課程の編成についてまとめる。 用語等の整理をする。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とする。 欠席の場合、再受講が必要となる。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】幼稚園または小学校の教育課程編成上留意すべきことについて述べよ。

＜ポイント＞

教育課程を編成するにあたって、踏まえるべき幼稚園や小学校の実態はどのようなものであり、それをどのようにして把握するのかをまとめること。また、教育課程の中核となる、幼稚園や小学校の教育活動や各教科等の学習指導の進め方（またはあり方）の押さえるべき内容について考察すること。

小学校教諭履修者は小学校の学習指導案を、幼稚園教諭履修者は幼稚園の指導案を考察すること。双方の資格課程を履修している学生は幼稚園と小学校の双方の指導案についてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１．教育課程の意義と必要性について

＜ポイント＞

・教育課程の意義については、学校において編成する教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画であると言える。
・各学校は、学校教育の目的や目標を達成するために、教育基本法や学校教育法をはじめとする教育課程に関する法令に従い、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動についてそれらの目標やねらいを実現するよう教育の内容を学年に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した各学校の教育計画である教育課程を編成する必要がある。

２．幼稚園と小学校の教育課程の違いについて

＜ポイント＞

・小学校の教育課程は、各種の法令、学習指導要領等に基づいた内容を、教師がそれぞれの教科、領域等の系統性に従って易しいものから難しいものへと配列し、授業時数との関連で学習を進めるようになっている。
・幼稚園の教育課程は、幼稚園教育要領を基準としながら各園独自の教育理念を基に、保育者の人間観・児童観・保育観を十分に反映させ、入園から修了に至るまでの教育期間を見通し、幼児の生活経験や発達の過程を基に、具体的なねらいや内容を組織していくことが必要となる。

３．教育課程、保育計画と年間指導計画との関連について

＜ポイント＞

・幼稚園の教育課程や保育所の保育計画は、入園や入所から修了までの生活の大綱を示したものである。幼稚園の教育課程や保育所の保育計画は、幼稚園教育要領や保育所保育指針に基づき、各園の教育の目的や目標に向かってどのような道筋をたどって教育を進めていくかの全体計画を示したものである。
・幼稚園教育や保育実践は、各園の教育課程や保育計画そのものによって行われるのではなく、それを具体化した指導計画によって行われる。指導計画には長期を展望した年間計画の他に、学期や期、月の計画と更に具体化した週や日の計画がある。

４．年間指導計画等の作成上の留意点について

＜ポイント＞

（1）幼稚園

・幼児の発達に即して一人ひとりの幼児が幼児期にふさわしい生活を展開し、必要な体験を得られるようにするために、具体的に作成する。
・具体的なねらい及び内容を明確に設定し、適切な環境を構成することなどにより、活動が選択・展開されるようにする。
・幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化等に即しての反省や評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図る。
・長期的に発達を見通した年、学期、月などにわたる指導計画や、これとの関連を保ちながら具体的な幼児の生活に即した週、日などの指導計画を作成し、適切な指導が行われるようにする。
・家庭との連携を十分に図るなど、幼稚園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにする。

（2）小学校

・地域や学校の実態及び児童の心身の発達の段階や特性を十分に考慮して作成する。
・新学習指導要領の改訂の趣旨を生かした計画を作成する。
・小学校６年間を見通し、各学年の目標や内容を踏まえた授業時数、単元配当を適切に定め、調和のとれた計画とする。
・幼稚園や保育園との接続並びに中学校への発展を踏まえて、系統性のある指導計画を作成する。
・季節や学校・地域社会の行事との関連を考慮する。
・他教科の学習内容との関連を考える。

５．幼稚園・小学校における評価の意義と考え方について

＜ポイント＞学校における評価の対象は、学力評価、授業評価、教育課程評価、学校評価等がある。それらの評価の中の教育課程評価の意義を考える。

・教育課程が自校・園の教育目標に向けて、幼児・児童に活動や学びを促し、成長を保証する機能を有しているか。

・評価を通して、ねらいや内容と幼児・児童の実態とにずれが無いかを見極め、もしずれがあればそのずれを埋める指導支援を随時進めなければならないことをとらえる。

・幼児・児童の活動や学びに取り組んでいる過程と結果の姿や事実を評価する。

・幼児・児童の評価は、全教職員で共通理解の基に年間複数回実施し、評価・修正・改善を重視する。

・保護者や外部の人に評価結果を公開し、学校への理解と協力依頼や説明を随時行う。

６．教育課程の編成と「生きる力」の育成との関連について

＜ポイント＞「生きる力」とは、平成８年の中央教育審議会答申において、「基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感謝する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などである。」と指摘された。この「生きる力」の育成は、平成１０年度版に引き続き２０年度版でも継承された。

各学校における教育課程の編成に当たっては、「生きる力」を育成するために特に以下の点を重視する必要がある。

①基礎的・基本的な知識・技能の習得、　②思考力・判断力・表現力等の育成、　③学習意欲の向上や学習習慣の確立、④豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実　をバランス良く図る。

各学校では、創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開することが出来るよう教育課程の編成実施に努めなければならない。

教科書

田中耕治、他『新しい時代の教育課程　第三版』有斐閣。
文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍。
文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則編』東洋館出版。
文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館。
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館。
文部科学省『幼稚園教育要領』東山書房。

科目コード	教育課程論（中等教育）(2 単位)	登録年次	履修方法
4040		1 年	R
教員名	磯辺武雄、栗原倢、篠大輔、鈴木収、山田哲史		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム･マネジメントを含む。)		

科目概要・到達目標

教育課程とは、教育機関（学校）がその教育目標（学校の教育目標）を達成するために児童・生徒に提供する教育内容と学習経験の組織である。本講義では教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することを目的としている。

まず学習指導要領における教育課程編成の目的について理解を深め、学習指導要領の変遷の歴史を辿り、各時代における主な改訂内容と社会的背景について学ぶ。さらに学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントについての意義や重要性を理解し、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握することの大切さについて学んでいく。そして教育課程の思想や教育課程編成の方法原理・理論を取り上げ、教育課程を編成する上で基本的な概念について学修する。

これらの学習を通して、学習指導要領の基本的方向について理解し、教師として必要となる資質・能力の基礎を養う。

学修内容

1	「教育課程」という問い／他　＜教科書 pp.1-15＞ 「教育課程」という問い、「学力問題」と「教育課程」、「教育課程」の拡張と深化、という内容に見出される教育課程をめぐる今日的な諸事情について注目する。
2	近代日本の教育課程について　＜教科書 pp.18-43＞ 近代学校創設と教育課程の確立、教育課程の近代化と年限延長および高等小学校における選択的な教育課程、昭和戦時下の教育課程、について注目する。
3	現代日本の教育課程について（その１・経験主義から系統主義へ）　＜教科書 pp.46-61＞ 1947 年・1951 年改訂学習指導要領、社会科・家庭科・自由研究、教科以外の活動、コア・カリキュラム、教科構成の整理と特別教育活動、教育課程政策の転換、学力論争、系統的学習と基礎学力、特設道徳、国民性陶冶と科学技術教育、改訂への批判、道徳と科学技術教育の充実、等について注目する。
4	現代日本の教育課程について（その２・教育の現代化から人間性重視への転換）　＜教科書 pp.61-76＞ 学力テストと能力論争、教育の現代化、３領域構成の教育課程、現代数学と理科、特別活動の重視、時間数増加の中学校、学業不振児への対応、儀式による教育、教育内容精選と現代化、調和的発達を志向する高等学校、公民的資質形成、多様化の教育課程、教育内容の現代化、現代化路線の見直し、全人としての児童・生徒、基準の大綱化とゆとり、知・徳・体の調和と教育内容の精選、国旗掲揚・国歌斉唱、中学校のゆとり教育、高等学校の弾力化、等について注目する。
5	現代日本の教育課程について（その３・新学力観、生きる力と確かな学力）　＜教科書 pp.76-94＞ 新学力観、小学校の改善、合科的指導と体験的な活動、中学校の選択的拡大、高等学校の選択的な教育課程、情報教育の重視、課題研究、単位制と総合学科、について注目する。
6	現代日本の教育課程について（その４・教育基本法改正以降）　＜教科書 pp.94-105＞ 教育基本法と学校教育法の改正、幼稚園の教育、活用能力重視と３層構造の学力観、国際的水準のリテラシーとコミュニケーション能力の重視、教育課程全体の道徳化、共通教育課程と選択教科の枠外化、等に注目する。
7	教育課程編成の構成要件について　＜教科書 pp.170-178＞ 文化からの選択、編成主体、教育課程の構造、履修原理、時間配分、子ども集団の編制、教職員の配置、教具および施設・設備、について注目する。
8	教育課程編成の基本原則と展望について　＜教科書 pp.184-197＞ 「学校を基礎にした教育課程編成」、スタンダード、「逆向き設計」、マクロ設計とミクロ設計、習得・活用・探求、「知の構造」と評価方法、「本質的な問い」、単元間の構造化、ルーブリック、「総合的な学習の時間」、等について注目する。
9	教育課程開発と新しい動きについて　＜教科書 pp.107-140＞ 教育課程再編の先がけとしての生活科、1990 年代中盤の教育課程再編構想、「新しいタイプ」の研究開発学校の模索、「競争的」環境のもとでの研究開発学校、学力向上の試み、について注目する。
10	教育課程の評価について　＜教科書 pp.199-226＞ 教育課程評価とは何か、学力評価の４つの立場、「真正の評価」論とポートフォリオ評価法、入試と接続、について注目する。
11	今日的課題と教育課程について　＜教科書 P.254-284＞ いのち、生きることの教育、市民性教育、環境教育、メディア・リテラシーの教育、という現代の課題に挑戦している教育理論と実践について注目する。
12	教育課程の思想と構造について　＜教科書 pp.142-168＞ 思想的な基盤としての「生活と科学」、学力とモラル、分化と統合、教育課程における「履修原理」、という観点から教育課程の思想と構造について注目する。
13	諸外国の教育課程改革について　＜教科書 pp.286-318＞ アメリカ、イギリス、中国、韓国に焦点をあて、欧米やアジアなど様々な国々との相互関係の中で方向性が選択され進行している教育課程改革の動向に注目する。
14	社会における教育課程について　＜教科書 pp.228-252＞ 近代学校批判と教育課程、教育課程における質と平等、教育課程における共通と個性、社会階層と教育課程、「隠れたカリキュラム」の問題に注目する。
15	教育課程改革と今後の展望について　＜全体のまとめ＞ 1 から 15 までで注目してきた内容をふまえ、今後の教育課程についてどのようなことが言えると考えられるのか、自らの考えを整理しておく。

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　学校における教育課程の編成とはどのようなことか、編成の主体や編成上考慮すべき条件などに触れながら、中学校学習指導要領または高等学校学習指導要領第１章総則等も参考にしてできるだけ具体的に述べよ。

＜ポイント＞

これまでの教育課程の歩み、教育課程の新しい動き、教育課程の編成原理、教育課程の評価を踏まえ、今日的課題を念頭に論述すること。

科目終了試験学修のポイント

１．学力問題と教育課程について

＜ポイント＞

学力水準、学力格差、学力構造、学習意欲、などをめぐる内容を理解する。

２．戦後のわが国における教育課程の変遷とその特徴について

＜ポイント＞

経験主義から系統主義への転換、教育の現代化、基準の大綱化、新学力観、生きる力、確かな学力、教育基本法改正、などをめぐる内容を理解する。

３．教育課程開発と新しい動きについて

＜ポイント＞

生活科、総合的な学習の時間、研究開発学校、学力低下論争、PISA ショック、などをめぐる内容を理解する。

４．教育課程の評価について

＜ポイント＞

教育課程評価、指導要録、ルーブリック、ポートフォリオ評価、適格者主義、などをめぐる内容を理解する。

５．社会の変化と教育課程について

＜ポイント＞

いのちの教育、キャリア教育、市民性教育、環境教育、メディア・リテラシーの教育、などをめぐる内容を理解する。

６．教育課程改革と今後の展望について

＜ポイント＞

学修のポイント１～６の内容を要約する。自らが特に関心を持つ内容に重点を置いた形で整理しても良い。

教科書

田中耕治、他『新しい時代の教育課程　第三版』有斐閣。

参考文献

高等学校学習指導要領解説　総則編（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）（必携）
中学校学習指導要領解説　総則編（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）（必携）
田中耕治『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房。
山田恵吾、他『学校教育とカリキュラム』文化書房博文社。
中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）

科目コード	教育行財政（2 単位）	登録年次	履修方法
4030/4031/4032		1 年	R
教員名	小澤浩之、攪上哲夫、木内正範、山田哲史		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 （学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		

科目概要・到達目標

本科目では、幼稚園、小学校、中学校教諭等の教員を目指す人たちが教育行政に関する基礎的な知識を身に付け、教員採用選考試験問題を解けるようになること、そして教員となった折には、その知識を用いて学校における法的な諸課題に対応できるようになることを目標とする。そのために以下の２つの到達目標を設定する。

1）教育行政に関する法規を体系的に理解し、その主な内容について説明することができる。

2）教員や教員採用選考試験受験生にとって必要最低限の教育行政に関する法的知識を理解し、重要な用語について説明することができる。

学修内容

1	Ⅰ章　教育法規のしくみと学び方 ① 国の法令 1. 教育法規とは　2. 文部科学省設置法　3. 日本国憲法　4. 教育基本法　5. 教員の資格を定める教員職員免許法
2	② 教育行政 6. 地方教育委員会の組織と役割　7. 学校と教育委員会 判例コラム①：教育内容と信教の自由
3	③ 学校教育 8. 学校教育法　9. スクールコンプライアンス　10. 私立学校　11. 義務教育学校制度　12. 中等教育学校制度 13. 学校運営協議会制度 判例コラム②：教育の機会均等と各種学校の扱い
4	Ⅱ章　学校組織と教育課程 ① 学校組織と教育活動 14. 教職員間の役割分担「校務分掌」　15. 校長と教諭の職務　16. 司書教諭の職務　17. 職員会議の性格と機能 18. 学校備付表簿　19. 進学生徒の調査書等の作成・送付義務 20. 学校評価（自己評価、関係者評価、第三者評価の３点セット）
5	②教育課程 21. 教育課程の編成　22. 教育課程の基準としての学習指導要領　23. 道徳教育の教科化―「特別の教科 道徳」 判例コラム③：教科書使用義務と学習指導要領の法的拘束力 24. 教科書使用義務と補助教材の利用　25. 教科書の無償　26. 教科書の採択権限 判例コラム④：校長の職務命令と思想および良心の自由
6	③児童・生徒と生徒指導 27. 校則　28. いじめの防止と救済　29. いじめ防止対策推進法　30. 懲戒と体罰問題　31. 児童・生徒の出席停止 32. 不登校とスクールカウンセラー　33. 進級判定 判例コラム⑤：運動部活動における体罰
7	Ⅲ章　学校運営と研修 ①教職員の職務と研修 34. 地方公務員としての教員の服務　35. 教員の分限処分　36. 教員の懲戒処分　37. 教育公務員特例法（1） 38. 教育公務員特例法（2）―教員の資質向上のための「指標策定の育成協議会」の設置　39. 教員評価
8	②教職員の職務と研修 40. 教員の勤務と週休日　41. 教員の勤務時間と時間外勤務の特例　42. 学校の組合活動　43. 個人情報保護法 44. 教職員の人事権　45. 公務上の災害と教員の労働災害補償　46. 教員免許の更新制 判例コラム⑥：公立学校教員の争議行為
9	Ⅳ章　人権教育における法規① 47. 人権をめぐる動き　48. 世界人権宣言　49. 国際人権規約 50. 「人権教育のための国連 10 年」と「人権教育のための世界プログラム」 51. あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約（人種差別撤廃条約） 52. 女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（女子差別撤廃条約）
10	Ⅳ章　人権教育における法規② 53. 子ども（児童）の権利に関する条約　54. 「同和対策審議会答申」と同和対策事業特別措置法の制定 55. 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律（人権教育・啓発推進法）　56. 人権教育・啓発に関する基本計画 57. 部落差別の解消推進に関する法律 判例コラム⑦：校則および退学処分の違法性

11	Ⅴ章　障害児教育・特別支援教育と法規① 58. 障害児教育・特別支援教育と法規　59. 障害者の権利に関する条約（障害者権利条約）　60. 障害者基本法 61. 障害者総合支援法
12	Ⅴ章　障害児教育・特別支援教育と法規② 62. 特別支援教育　63. 発達障害者支援法　64. 障害者差別解消法の施行と学校 コラム：学習指導要領の用語「交流及び共同学習」は障害者基本法が基に
13	Ⅵ章　学校保健・安全と法規 65. 学校保健・安全と法規　66. 学校保健安全法　67. 安全点検と安全教育　68. 災害安全・防災教育 69. 養護教諭の職務　70. 学校事故と国家賠償法　71. 食育基本法　72. 学校給食法 判例コラム⑧：学校内での児童生徒死亡事故の責任
14	Ⅶ章　児童福祉・男女共同参画と法規 73. 児童福祉・男女共同参画と法規　74. 児童福祉法　75. 少年法　76. 児童福祉の規範としての児童憲章 77. 男女共同参画社会基本法　78. 児童虐待の防止等に関する法律 判例コラム⑨：少年法と「厳罰主義」
15	Ⅷ章　生涯学習・社会教育と法規 79. 生涯学習社会における社会教育と法　80. 社会教育法　81. スポーツ基本法　82. 生涯学習振興法　83. 図書館法 84. 学校図書館法　85. 博物館法　86. 文化芸術基本法・音楽振興法　87. 文字・活字文化振興法 88. 文化財保護法、ユネスコ活動に関する法律
学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点）　C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】地方の教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の４に「総合教育会議」が規定されている。
この会議の構成メンバー及び話し合われる内容にはどのようなものがあるかについて述べよ。

＜ポイント＞ 滋賀県大津市でのいじめによる自殺事件をきっかけに、教育についての首長の権限強化策として、総合教育会議が設けられた。そこではどのようなことが会議の議題となっているかを押さえておくことが大切である。

科目終了試験学修のポイント

１．国と地方自治体の教育行政組織について論述せよ。

＜ポイント＞国の主な教育行政機関である文部科学省、地方自治体の主な教育行政機関である教育委員会について理解する。その構成員や権限などを理解する。

２．学校の管理と運営について述べよ。

＜ポイント＞学校の管理者としての教育委員会の役割。学校の管理職としての校長や副校長及び教頭の仕事内容について理解する。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条や学校教育法第 37 条 4・5・7 項に関する内容を理解する。

３．教育委員会制度の意義とその役割について述べよ。

＜ポイント＞地方教育行政の組織及び運営に関する法律第３章に規定されている教育委員会の職務権限を理解する。

４．国家賠償法の長短について述べよ。

＜ポイント＞日本国憲法第 17 条や国家賠償法の規定の存在理由と公務員（国・公立学校の教員）による不法行為の場合と民間人（私立学校の教員）による不法行為の場合の異同を理解する。

５．教育公務員の服務に関する規定ついて具体例を挙げて述べよ。

＜ポイント＞地方公務員法の服務に関する規定と教育公務員特例法の服務に関する規定を理解する。

６．開かれた学校づくりを推進する制度としての学校評議員制度と学校運営協議会制度（コミュニティースクール）について述べよ。

＜ポイント＞学校評議員制度と学校運営協議会制度（コミュニティースクール）は、法律ではどのように規定されているのかをまたその内容について理解する。

教科書

古川治・今西幸蔵・五百住満 編著　『教師のための教育法規・教育行政入門』　ミネルヴァ書房。

参考文献

菱村幸彦『やさしい教育法規の読み方』教育開発研究所。
山本豊『有権解釈に重きを置いた　教育法規　第四版』学校図書。
山本豊『改訂新版　教育法規相談ハンドブック　３５』東京教育研究所
山本豊『書いて理解する教育法規　第二版』(株) オフィス・サウス。
解説教育六法編修委員会『解説教育六法』三省堂。

科目コード	教育実習指導（初等）（１単位）	登録年次	履修方法
4440		３年	S
教員名	石渡宏、奥野治子、坂本真理子、篠大輔、西脇雅彦、畠山むつ実、吉村シズ代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園および小学校で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。

本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。具体的には管理運営の理解（教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般）、幼児および児童の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営などについて講義や事例検討を通して学ぶ。また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園および小学校教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。

学生は実習において、幼児および児童との生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部にわたって反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。その際、幼児および児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。

学修内容

1	講義概要　教育実習の意味 実習に向けての自己課題
2	子ども理解と援助・支援技術の理解 教育環境と子どもの実態
3	実習に必要な心構え、マナー、資質の理解
4	指導案、記入に必要な事項
5	子どもの活動と教師の援助、支援
6	指導案一枚の中の関連
7	指導案の作成 題材、活動内容等の記入
8	指導案の作成 援助、支援等の工夫
9	模擬保育・授業の実施 その１
10	模擬保育・授業の実施 その２
11	模擬保育・授業の実施 その３
12	子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その１
13	子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その２
14	目指す授業と自己課題の再設定
15	まとめ

教科書

『教育実習（初等）の手引き』。

参考文献

花篤實、他『造形表現　実技編』三晃書房。
文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館。

科目コード	教育実習指導（中等）（１単位） （旧　教育実習指導（高校））	登録年次	履修方法
4100/4101		３年	S
教員名	石﨑達也、北林敬、栗原倢、西脇雅彦、山田哲史		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

教育実習は、大学で習得した知識や理論、技術等を、高等学校及び中学校において実際に展開・検証することにより、教師になるために必要な専門的な知識・技術等を習得し、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。

このために、この科目では教育実習に参加する学生に対して、あらかじめ習得しておくべき基礎的・基本的な知識や心構え・態度、能力、技能等を教授する。具体的には、教育実習の意義・目的・概要、教育実習に臨む一般的な心得や教職をめざす心得、教育実習への取り組み方、学習指導案の作成、模擬授業の実施、教育実習日誌の作成等教育実習に必要な内容について学修する。

学修内容

1	教育実習の目的・意義 ［教科書］①p3, pp.29-31／②第１章 pp.3-19
2	教育実習の履修・実習校の選択・学習計画 ［教科書］①p.3-25, pp.32-46／②第１章 pp.3-19
3	教育実習に臨む心構えや態度について ［教科書］①pp.55-56／②第２章 pp.21-42
4	教育実習までの事前準備 ［教科書］①p.50／②第２章 pp.21-42
5	教育実習の内容（１）：教育実習の流れ ［教科書］①pp.51-54, pp.60-61, pp.74-79／②第３章 pp. 43-57
6	教育実習の内容（２）：教育実習日誌の書き方 ［教科書］①pp.57-60, 80／②第３章 pp. 43-57
7	教育実習の内容（３）学習指導案作成の基本 ［教科書］①pp.59, pp.82-83／②第４章 pp. 61-78
8	教育実習の内容（４）学習指導案作成のポイント ［教科書］①pp.59, pp.82-83／②第５章・第６章 pp. 79-116
9	教育実習の内容（５）各教科における教育の方法と技術のポイント ［教科書］②第８章 pp.137-149
10	教育実習の内容（６）学校・生徒の実態と実習の課題 ［教科書］②第９章 pp.151-169
11	教育実習に向けた演習（１）教育実習日誌を作成する ［教科書］①pp.57-60, 80／②第３章 pp. 43-57
12	教育実習に向けた演習（２）教材研究 ［教科書］①pp.59, pp.82-83／②②第３章から第６章 pp. 43-116 ＊各自の実習に向けた教科書・資料・学習材を準備すること
13	教育実習に向けた演習（３）学習指導案を作成する ［教科書］①pp.59, pp.82-83／②第４章から第６章 pp. 61-116 ＊各自の実習に向けた教科書・資料・学習材を準備すること
14	教育実習に向けた演習（４）（模擬授業） ［教科書］①pp.59, pp.82-83／②第７章 pp.119-136 ＊各自の実習に向けた教科書・資料・学習材を準備すること
15	実りある教育実習にするために：事後指導から教職実践演習へ ［教科書］①pp.60-63／②あとがき pp.171-175

教科書

①『教育実習の手引き「教育実習（中等）」・「特別支援教育実習」』、東京福祉大学通信教育部
②　筒井美紀・遠藤野ゆり『ベストをつくす教育実習』有斐閣。

参考文献

①文部科学省『中学校学習指導要領解説　総則編』及び自分が実習する教科の学習指導要領解説。
②部科学省『高等学校学習指導要領解説　総則編』及び自分が実習する教科の学習指導要領解説。
※自分の教育実習教科と実習校をふまえ、上記①ないし②を選択し、準備しておくこと。

科目コード	教育情報機器演習（２単位）	登録年次	履修方法
4120		１年	ＳＲ
教員名	加藤由樹、ロペス・ルイス・ミゲル		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

現在、コンピュータをはじめとする視聴覚メディアが、教育現場に完備されつつある。こうした中、視聴覚メディアをうまく活用して教育を行うことが、不可欠になってきた。本科目では、この背景を踏まえ、教育現場で視聴覚メディアを使うことの意義と問題点を明確にし、より効果的な活用方法を探る。また、随時、さまざまな実践事例や、最新の研究論文を紹介し、わかりやすく解説する。さらに、高等学校普通教科「情報」を取り上げ、そこでの指導案およびデジタル教材を紹介し、実際の教育現場での視聴覚メディアの活用について、理解を深める。

学修内容

1	視聴覚教育の意味(pp.1-11) 視聴覚教育の底流にある４つの考え方をよく理解する：①「反言語主義」、②映像による教育の可能性、③教育における「具体と抽象」、④科学・技術の成果の教育への導入。また、日本における視聴覚の展開について学ぶ（坂元彦太郎、西本三十二、波多野完治)。
2	視聴覚教育の歴史と定義(pp.12-20) 日本における、戦後の映画利用運動について学ぶ。また放送教育について学ぶ（大正からのNHKの取り組み)。旧文部省による視聴覚教育の定義（特に、p.17、図Ⅰ-6「視聴覚教材利用の手引き」をよく理解する)。視聴覚コミュニケーションとは何か（p.19、図Ⅰ-7と図Ⅰ-8)。
3	視聴覚教育の動向(pp.20-27) 1980年代の新しいテクノロジーの導入、視聴覚教育研究の進歩による視聴覚教育の飛躍、「教育工学」の誕生について学ぶ。当時うまれた新しい言葉（教育メディア、画像メッセージ、映像リテラシー、メディア・ミックス、マルチメディアなど）を理解する。
4	視聴覚メディアの種類[教育、投映系/非投映系視覚メディア]（pp.28-40) 教科書p.32ページの図Ⅱ-1で一覧になっている教育メディアと学習目標の表をよく理解する。非投映系視覚メディアの種類を学ぶ、また、その中の絵・図類に関する用語（ハイ・アングル、アイ・レベル等（p.35、図Ⅱ-2を参照））を理解する。投映系視覚メディアの投映用機器の種類を覚える。
5	視聴覚メディアの種類[音声メディア、映画とビデオ]（pp.40-45) 音声メディア用の媒体（テープ、CD等）を覚える。また、LL（ランゲージ・ラボラトリー）の仕組みを理解する。映画、ビデオ用の媒体（フィルム、DVD）の種類を学ぶ。
6	視聴覚メディアの種類[放送、コンピュータと通信、その他]（pp.46-56) 放送教材の特性と利用効果を学ぶ（ラジオ、テレビ)、特に、旧文部省の「学校放送の利用」の内容（p.47に(1)から(12)まで記されている12点）をよく理解する。コンピュータと通信メディアの仕組みをよく理解する、特にインターネットに関する用語の意味を理解する（www、URL、ブラウザー)。
7	メディアの意味と歴史(pp.57-64) 「メディア」の由来を学び、特にメディア（媒体）とコンテンツ（情報）の区別をよく理解する。メディアの総体とは何か。メディアの歴史を学ぶ（文字の発明、絵画、音楽、演劇など)、特に印刷物の普及の大切さをよく理解する。20世紀はラジオ、テレビの普及の大切さを理解する。
8	メディア教育の意味と形成史(pp.65-79) メディア・「リテラシー」とは何か。メディア教育の形成について学ぶ、「プロパガンダ」の誕生（pp.68-69)。ユネスコの動きと取組。各国のメディア教育への取り組みについて学ぶ（フランス、イギリス、カナダ、アメリカ、日本)、日本においては、特に日本語ワードプロセッサーの開発と普及の大切さをよく理解する。
9	メディア教育の内容と今後(pp.79-90) 教科書p.81の表Ⅲ-1、「メディア教育の６つのキー側面」をよく理解する。日本の取り組みにおいて、総務省・文科省の役割、放送局・新聞社の役割、民間団体（特に「市民のメディア・フォーラム」(FCT)）の役割について学ぶ。学校でのメディア教育、社会でのメディア教育の課題とジレンマをよく理解する。
10	博物館と視聴覚教育(pp.91-97) 「博物館の父」棚橋源太郎について学ぶ。教科書p.92にある「博物館の定義」を読み、教育機関としての博物館をよく理解する、また通常教育機関（小中学校）と博物館との間の関係の大切さをよく理解する。特に、視聴覚教育と博物館の関係をよく理解する。

11	視聴覚メディアと今後の展望(pp.98-111) 美術館、博物館等の展示品に関する解説としての視聴覚メディアについて考える。特に、p. 101 の表Ⅳ-1、「展示手法による分類」を理解する。視聴覚メディア教育効果を理解する（たとえば視聴者の「フィードバック」の分析をする)、来館者の「博物館体験」を理解するための様々な試み。
12	映像情報の認知(pp.112-125) イメージとは何か、画像と心像の概念を理解する。もっと一般的に、非言語的メッセージの特性を理解する。認知学の基礎を学ぶ：知覚・認知の生理心理、動画はなぜ動いて見える、立体的になぜ見える、「みる」こと「きく」こととは、映像と記憶、画像記憶の特性。
13	メディア利用の効果(pp.125-140) 教育における映像の効果について学ぶ：認知的側面と動機づけにおける効果を考える、態度・記憶的側面における効果を考える、特にp. 128 の表Ⅴ-3、「テレビ利用の教育効果を高める条件―金沢調査の結果」をよく理解する。非言語的メッセージと映像メディアの教育的特性：p. 131 の表Ⅴ-4、「メッセージの種類と感覚様相の次元から見た教育メディアの特性」をよく理解する。
14	コンピュータの発展(pp.141-152) コンピュータの仕組みをよく理解する、特に p.145 の図Ⅵ-4、「コンピュータの基本構成」。また、上図に出ている用語とその意味を覚える。ディジタルデータの表現と、「マルチメディア」の概念をよく理解する。情報通信ネットワークに関しては、p. 152 の表Ⅵ-2 に出ている用語とその意味を覚える。
15	教育の情報化と生涯学習(pp.152-161) 教育における情報化の変遷について学ぶ（p.156 の表Ⅵ-3 を熟読する)。特に、情報教育の実際をよく理解する（pp.157-158 の 7 点、①～⑦)。生涯学習社会の概念をよく理解する、特に生涯学習と大学教育における情報通信ネットワークの役割について考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 コンピュータなどの視聴覚メディアを学校教育において活用することの、利点および留意すべき点を、具体的な事例を挙げて、それぞれ述べよ。

＜ポイント＞

教育場面で生じるさまざまな問題を解決する方法の一つとして、視聴覚メディアの活用が挙げられる。しかし、教育場面で情報機器を用いることには、留意点もある。次の２点に着目して、具体的な教育事例を挙げながら、論述すること。

１．視聴覚メディアを活用することで、どんな問題が解決されるのか。

２．視聴覚メディアを活用することで、どんな課題が新たに生じるか。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング終了時にコンピュータを使用した実技試験を行う。

1.コンピュータを使用した教材の開発

2.コンピュータを使用した模擬授業の設計

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

佐賀啓男、他『改訂　視聴覚メディアと教育』樹村房。

参考文献

赤堀侃司『実践に学ぶ情報教育－これからの学習を変える』ジャストシステム。
佐伯胖『新・コンピュータと教育』岩波新書。

科目コード	教育・学校心理学	登録年次	履修方法
3570		3年	ＳＲ
教員名	荒井理帆、石川清子、太田信夫、成本忠正、橋本景子、前川洋子 三井公一郎、三井三枝子、三好一英、村上百合子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

教育心理学とは、子供を教育していく上で必要となる知識を身につけ、子供の成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から探求する学問といえる。そのため、発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の４つの領域について基礎知識が必要となってくる。本科目では、以上のような基礎的知識修得はもちろんのこと、事例にのっとり、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を学ぶ。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用を考える。

学修内容

1	教育心理学とは 教科書 pp.9-20 を通読し、教育心理学の内容や意義、教育心理学で用いられる研究法などを理解すること。教師の役割を教育心理学の観点から考えてみるのもよい。
2	教育心理学のあゆみ 教科書 pp.12-20 を通読し、教育心理学の歴史を概観する。代表的な研究者の研究がどのような意味を持っているかを考えること。さらに詳細な研究内容や他の研究者を調べてみるのもよい。
3	子どもの発達　―遺伝と環境、レディネスの概念― 教科書 pp.21-38 を通読し、代表的な発達理論、遺伝と環境のかかわり、レディネスの概念などについて理解すること。学校現場における、これらの理論の位置づけや応用について考えてみるのもよい。
4	知能　―知能の概念の有効性と限界― 教科書 pp.121-138 を通読し、代表的な知能の理論、知能の発達、知能の規定因などについて理解すること。学校現場における知能の概念の位置づけや利用法、その限界、注意点などについて考えてみるのもよい。
5	性格（パーソナリティ）　―性格の概念と個人差― 教科書 pp.139-153 を通読し、代表的な性格の理論、性格の形成、性格の診断法などについて理解すること。学校現場における、個人差としての性格の概念の意義や利用法、その限界、注意点などを考えてみるのもよい。
6	学習のメカニズムについて 教科書 pp.60-65 および pp.70-74 を通読し、パブロフの古典的条件づけ、スキナーのオペラント条件づけ、洞察による学習など、学習のメカニズムについて整理しておくこと。
7	学ぶ意欲と授業の課程　―動機づけとさまざまな授業方法― 教科書 pp.39-58 を通読し、動機づけの概念、原因帰属などの理論、さまざまな授業方法について理解すること。学校現場において、子どもの動機づけを高める工夫や、効果的な授業方法を自分なりに考えてみるのもよい。
8	学習の評価　―教育評価の方法とテスト― 教科書 pp.97-120 を通読し、学習の評価の目的、基準などについて理解すること。統計学については基本的な部分はおさえておくこと。学校現場での実際の教育評価の方法や注意点などについて考えてみるのもよい。
9	社会性を育む 教科書 pp.155-175 を通読し、社会性（向社会性と道徳性）を理解すること。また、「愛着」、「親子関係」、「仲間関係」が社会性の発達にどのように影響するのかを考察すること。
10	集団としての子ども　―教育現場の社会心理学― 教科書 pp.177-189 を通読し、学級集団やリーダーシップなど、社会心理学的な観点からの教育活動について理解すること。学級運営における社会心理学の理論の実際の応用例などを考えてみるのもよい。
11	子どもの不適応行動１　―いじめの問題― 教科書 pp.191-204 を通読し、子どもの心の健康やストレスなどについて理解すること。特に最近問題になっている「いじめ」について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策などを考察してみること。
12	子どもの不適応行動２　―不登校、非行などの問題― 教科書 pp.204-208 を通読し、「不登校」や「非行」などの問題について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策を考察してみること。
13	子どもの不適応行動３　―現代を生きる子ども― 現代社会を生きる子どもは、それ以前の時代の子どもとどのように異なるのか。発達環境の相違や変化などを考え、それが子どもの発達に与える影響を考察してみること。
14	学校カウンセリングの基礎 教科書 pp.209-214 を通読し、学校カウンセリングの基礎的な事項について理解すること。相手がいれば、初歩的なカウンセリングの技法について実際に練習してみるのもよい。
15	障害のある子どもの理解 教科書 pp.215-232 を通読し、学校現場で出会う可能性のある各種の障害について理解すること。それぞれの障害のある子どもへの適切な対応について考えてみるのもよい。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 子どもの「個人差」について述べよ。

＜ポイント＞

発達・知能・パーソナリティ・遺伝と環境など様々な角度から考察すること。

【設題2】 子どもの「不適応行動」について述べよ。

＜ポイント＞

不登校・無気力・非行など、事例を挙げながら何故そのような行動をとるのか、テキストだけでなく参考文献等も参考にして考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．教育心理学の意義について

＜ポイント＞

教育心理学の位置づけや、他の心理学分野との関係などについて述べ、その研究領域やその教育現場への応用や実践について述べる。また、新しい領域や、最近の話題、今後の展開の可能性（教科書p.4）などについても触れるとよい。

2．環境から学ぶことについて

＜ポイント＞

発達過程における遺伝的要素以外の環境からの影響、教育環境としての学校や教師の役割や意味などについてまとめ論じるとよい。

3．レディネスの概念について

＜ポイント＞

レディネスの概念を明らかにし、ゲゼルやトンプソンの「成熟優位説」などの古典的レディネス観から、ブルーナーの理論などに代表される新しいレディネス観やその先駆としてのヴィゴツキーの「発達の最近接領域」などについて述べるとよい。

4．知能について

＜ポイント＞

知能の概念や、各種の知能に関する学説、遺伝と環境の影響、学力との相関、測定法などについて述べるとよい。

5．評価について

＜ポイント＞

教育評価の目的や内容、その種類などについて述べ、テストにおける信頼性と妥当性の問題、実際の学校現場での現状などについて述べるとよい。

6．授業方法について

＜ポイント＞

各種の授業方法について述べ、その背景にある理論やその期待される効果、問題点などについて述べるとよい。

教科書

櫻井茂男『たのしく学べる最新教育心理学　教職に関わるすべての人に』図書文化。

参考文献

ウィニコット『赤ん坊と母親』岩崎学術出版社。

町沢静夫『「こころの居心地」がよくなる心理学』三笠書房。

古川聡、他『教育心理学をきわめる10のチカラ』福村出版。

※科目コード：2250：4 単位・R 履修　　科目コード：2252：4 単位・SR 履修
※入学年度及び学科によって登録年次が異なります。

科目コード	教育心理学（4 単位）	登録年次	履修方法
2250/2252		1 年/2 年/3 年	R/SR
教員名	荒井理帆、石川清子、太田信夫、成本忠正、、橋本景子、前川洋子、三井公一郎、三井三枝子、三好一英、村上百合子		
履修可能な学科	社福　保育※　教育　心理		

科目概要

教育心理学とは、子供を教育していく上で必要となる知識を身につけ、子供の成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から探求する学問といえる。そのため、発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の４つの領域について基礎知識が必要となってくる。本科目では、以上のような基礎的知識修得はもちろんのこと、事例にのっとり、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を学ぶ。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用を考える。

学修内容

1	教育心理学とは 教科書 pp.9-20 を通読し、教育心理学の内容や意義、教育心理学で用いられる研究法などを理解すること。教師の役割を教育心理学の観点から考えてみるのもよい。
2	教育心理学のあゆみ 教科書 pp.12-20 を通読し、教育心理学の歴史を概観する。代表的な研究者の研究がどのような意味を持っているかを考えること。さらに詳細な研究内容や他の研究者を調べてみるのもよい。
3	子どもの発達　―遺伝と環境、レディネスの概念― 教科書 pp.21-38 を通読し、代表的な発達理論、遺伝と環境のかかわり、レディネスの概念などについて理解すること。学校現場における、これらの理論の位置づけや応用について考えてみるのもよい。
4	知能　―知能の概念の有効性と限界― 教科書 pp.121-138 を通読し、代表的な知能の理論、知能の発達、知能の規定因などについて理解すること。学校現場における知能の概念の位置づけや利用法、その限界、注意点などについて考えてみるのもよい。
5	性格（パーソナリティ）　―性格の概念と個人差― 教科書 pp.139-153 を通読し、代表的な性格の理論、性格の形成、性格の診断法などについて理解すること。学校現場における、個人差としての性格の概念の意義や利用法、その限界、注意点などを考えてみるのもよい。
6	学習のメカニズムについて 教科書 pp.60-65 および pp.70-74 を通読し、パブロフの古典的条件づけ、スキナーのオペラント条件づけ、洞察による学習など、学習のメカニズムについて整理しておくこと。
7	学ぶ意欲と授業の課程　―動機づけとさまざまな授業方法― 教科書 pp.39-58 を通読し、動機づけの概念、原因帰属などの理論、さまざまな授業方法について理解すること。学校現場において、子どもの動機づけを高める工夫や、効果的な授業方法を自分なりに考えてみるのもよい。
8	学習の評価　―教育評価の方法とテスト― 教科書 pp.97-120 を通読し、学習の評価の目的、基準などについて理解すること。統計学については基本的な部分はおさえておくこと。学校現場での実際の教育評価の方法や注意点などについて考えてみるのもよい。
9	社会性を育む 教科書 pp.155-175 を通読し、社会性（向社会性と道徳性）を理解すること。また、「愛着」、「親子関係」、「仲間関係」が社会性の発達にどのように影響するのかを考察すること。
10	集団としての子ども　―教育現場の社会心理学― 教科書 pp.177-189 を通読し、学級集団やリーダーシップなど、社会心理学的な観点からの教育活動について理解すること。学級運営における社会心理学の理論の実際の応用例などを考えてみるのもよい。
11	子どもの不適応行動１　―いじめの問題― 教科書 pp.191-204 を通読し、子どもの心の健康やストレスなどについて理解すること。特に最近問題になっている「いじめ」について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策などを考察してみること。
12	子どもの不適応行動２　―不登校、非行などの問題― 教科書 pp.204-208 を通読し、「不登校」や「非行」などの問題について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策を考察してみること。
13	子どもの不適応行動３　―現代を生きる子ども― 現代社会を生きる子どもは、それ以前の時代の子どもとどのように異なるのか。発達環境の相違や変化などを考え、それが子どもの発達に与える影響を考察してみること。
14	学校カウンセリングの基礎 教科書 pp.209-214 を通読し、学校カウンセリングの基礎的な事項について理解すること。相手がいれば、初歩的なカウンセリングの技法について実際に練習してみるのもよい。
15	障害のある子どもの理解 教科書 pp.215-232 を通読し、学校現場で出会う可能性のある各種の障害について理解すること。それぞれの障害のある子どもへの適切な対応について考えてみるのもよい。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 子どもの「個人差」について述べよ。

＜ポイント＞

発達・知能・パーソナリティ・遺伝と環境など様々な角度から考察すること。

【設題2】 子どもの「不適応行動」について述べよ。

＜ポイント＞

不登校・無気力・非行など、事例を挙げながら何故そのような行動をとるのか、テキストだけでなく参考文献等も参考にして考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．教育心理学の意義について

＜ポイント＞

教育心理学の位置づけや、他の心理学分野との関係などについて述べ、その研究領域やその教育現場への応用や実践について述べる。また、新しい領域や、最近の話題、今後の展開の可能性（教科書p.4）などについても触れるとよい。

2．環境から学ぶことについて

＜ポイント＞

発達過程における遺伝的要素以外の環境からの影響、教育環境としての学校や教師の役割や意味などについてまとめ論じるとよい。

3．レディネスの概念について

＜ポイント＞

レディネスの概念を明らかにし、ゲゼルやトンプソンの「成熟優位説」などの古典的レディネス観から、ブルーナーの理論などに代表される新しいレディネス観やその先駆としてのヴィゴツキーの「発達の最近接領域」などについて述べるとよい。

4．知能について

＜ポイント＞

知能の概念や、各種の知能に関する学説、遺伝と環境の影響、学力との相関、測定法などについて述べるとよい。

5．評価について

＜ポイント＞

教育評価の目的や内容、その種類などについて述べ、テストにおける信頼性と妥当性の問題、実際の学校現場での現状などについて述べるとよい。

6．授業方法について

＜ポイント＞

各種の授業方法について述べ、その背景にある理論やその期待される効果、問題点などについて述べるとよい。

教科書

櫻井茂男『たのしく学べる最新教育心理学　教職に関わるすべての人に』図書文化。

参考文献

ウィニコット『赤ん坊と母親』岩崎学術出版社。

町沢静夫『「こころの居心地」がよくなる心理学』三笠書房。

古川聡、他『教育心理学をきわめる10のチカラ』福村出版。

科目コード	教育心理学（2単位）	登録年次	履修方法
2253/2870		3年/2年	R
教員名	荒井理帆、石川清子、太田信夫、成本忠正、、橋本景子、 前川洋子、三井公一郎、三井三枝子、三好一英、村上百合子		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		

科目概要・到達目標

教育心理学とは、子供を教育していく上で必要となる知識を身につけ、子供の成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から探求する学問といえる。そのため、発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の４つの領域について基礎知識が必要となってくる。本科目では、以上のような基礎的知識修得はもちろんのこと、事例にのっとり、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を学ぶ。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用を考える。

学修内容

1	教育心理学とは 教科書 pp.9-20 を通読し、教育心理学の内容や意義、教育心理学で用いられる研究法などを理解すること。教師の役割を教育心理学の観点から考えてみるのもよい。
2	教育心理学のあゆみ 教科書 pp.12-20 を通読し、教育心理学の歴史を概観する。代表的な研究者の研究がどのような意味を持っているかを考えること。さらに詳細な研究内容や他の研究者を調べてみるのもよい。
3	子どもの発達　―遺伝と環境、レディネスの概念― 教科書 pp.21-38 を通読し、代表的な発達理論、遺伝と環境のかかわり、レディネスの概念などについて理解すること。学校現場における、これらの理論の位置づけや応用について考えてみるのもよい。
4	知能　―知能の概念の有効性と限界― 教科書 pp.121-138 を通読し、代表的な知能の理論、知能の発達、知能の規定因などについて理解すること。学校現場における知能の概念の位置づけや利用法、その限界、注意点などについて考えてみるのもよい。
5	性格（パーソナリティ）　―性格の概念と個人差― 教科書 pp.139-153 を通読し、代表的な性格の理論、性格の形成、性格の診断法などについて理解すること。学校現場における、個人差としての性格の概念の意義や利用法、その限界、注意点などを考えてみるのもよい。
6	学習のメカニズムについて 教科書 pp.60-65 および pp.70-74 を通読し、パブロフの古典的条件づけ、スキナーのオペラント条件づけ、洞察による学習など、学習のメカニズムについて整理しておくこと。
7	学ぶ意欲と授業の課程　―動機づけとさまざまな授業方法― 教科書 pp.39-58 を通読し、動機づけの概念、原因帰属などの理論、さまざまな授業方法について理解すること。学校現場において、子どもの動機づけを高める工夫や、効果的な授業方法を自分なりに考えてみるのもよい。
8	学習の評価　―教育評価の方法とテスト― 教科書 pp.97-120 を通読し、学習の評価の目的、基準などについて理解すること。統計学については基本的な部分はおさえておくこと。学校現場での実際の教育評価の方法や注意点などについて考えてみるのもよい。
9	社会性を育む 教科書 pp.155-175 を通読し、社会性（向社会性と道徳性）を理解すること。また、「愛着」、「親子関係」、「仲間関係」が社会性の発達にどのように影響するのかを考察すること。
10	集団としての子ども　―教育現場の社会心理学― 教科書 pp.177-189 を通読し、学級集団やリーダーシップなど、社会心理学的な観点からの教育活動について理解すること。学級運営における社会心理学の理論の実際の応用例などを考えてみるのもよい。
11	子どもの不適応行動１　―いじめの問題― 教科書 pp.191-204 を通読し、子どもの心の健康やストレスなどについて理解すること。特に最近問題になっている「いじめ」について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策などを考察してみること。
12	子どもの不適応行動２　―不登校、非行などの問題― 教科書 pp.204-208 を通読し、「不登校」や「非行」などの問題について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策を考察してみること。
13	子どもの不適応行動３　―現代を生きる子ども― 現代社会を生きる子どもは、それ以前の時代の子どもとどのように異なるのか。発達環境の相違や変化などを考え、それが子どもの発達に与える影響を考察してみること。
14	学校カウンセリングの基礎 教科書 pp.209-214 を通読し、学校カウンセリングの基礎的な事項について理解すること。相手がいれば、初歩的なカウンセリングの技法について実際に練習してみるのもよい。
15	障害のある子どもの理解 教科書 pp.215-232 を通読し、学校現場で出会う可能性のある各種の障害について理解すること。それぞれの障害のある子どもへの適切な対応について考えてみるのもよい。

学生に対する評価

レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価
＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点）
C（69 点～60 点）
F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　子ども一人ひとりの特性に応じた教育を行ううえで考慮すべきことは何かについて，個人の特性と教授法の相互作用という視点を含めて述べよ。

＜ポイント＞
発達の状況には遺伝と環境の影響があることをふまえた上で、知能やパーソナリティ、認知特性、現在の発達状況などの個人の特性に対して、子どもの発達を最大限に促すような教師の教授法とはどのようなものかを論じる。

科目終了試験学修のポイント

１．認知の発達について
＜ポイント＞
子どもがどのように身の回りの外界を認識し、物事を理解していくのかを説明する。

２．学習に関する理論と教育場面での活用について
＜ポイント＞
学習理論を説明したうえで、教育場面でどのように活用できるかを考え、論じる。

３．パーソナリティの発達と社会化・個性化について
＜ポイント＞
パーソナリティにおける遺伝と環境の影響をふまえ、その発達過程における社会性および個性の獲得について説明する。

４．教師・学級と子どもの関係について
＜ポイント＞
子どもの対人関係の広がりに基づき、クラス集団がどのように形成されるのか、また、教師の行動や言動が子どもにどのような影響をあたえるかを説明する。

５．教育における評価について
＜ポイント＞
教育評価の目的について説明し、実際の教育現場で用いる際の各種の評価方法の長所や短所について論じる。

６．心身の障害の理解と支援のあり方について
＜ポイント＞
障害における個人・環境因子の影響について述べ、現代の教育現場ではどのような取り組みが有効であるのかを論じる。

教科書

櫻井茂男『たのしく学べる最新教育心理学　教職に関わるすべての人に』図書文化。

参考文献

ウィニコット『赤ん坊と母親』岩崎学術出版社。
町沢静夫『「こころの居心地」がよくなる心理学』三笠書房。
古川聡、他『教育心理学をきわめる 10 のチカラ』福村出版。

科目コード	教育心理学（2 単位）	登録年次	履修方法
2871		2 年	R
教員名	荒井理帆、石川清子、太田信夫、成本忠正、橋本景子、前川洋子、 三井公一郎、三井三枝子、三好一英、村上百合子		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		

科目概要

教育心理学とは、子供を教育していく上で必要となる知識を身につけ、子供の成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から探求する学問といえる。そのため、発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の４つの領域について基礎知識が必要となってくる。本科目では、以上のような基礎的知識修得はもちろんのこと、事例にのっとり、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を学ぶ。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用を考える。

学修内容

1	教育心理学とは 教科書 pp.9-20 を通読し、教育心理学の内容や意義、教育心理学で用いられる研究法などを理解すること。教師の役割を教育心理学の観点から考えてみるのもよい。
2	教育心理学のあゆみ 教科書 pp.12-20 を通読し、教育心理学の歴史を概観する。代表的な研究者の研究がどのような意味を持っているかを考えること。さらに詳細な研究内容や他の研究者を調べてみるのもよい。
3	子どもの発達　―遺伝と環境、レディネスの概念― 教科書 pp.21-38 を通読し、代表的な発達理論、遺伝と環境のかかわり、レディネスの概念などについて理解すること。学校現場における、これらの理論の位置づけや応用について考えてみるのもよい。
4	知能　―知能の概念の有効性と限界― 教科書 pp.121-138 を通読し、代表的な知能の理論、知能の発達、知能の規定因などについて理解すること。学校現場における知能の概念の位置づけや利用法、その限界、注意点などについて考えてみるのもよい。
5	性格（パーソナリティ）　―性格の概念と個人差― 教科書 pp.139-153 を通読し、代表的な性格の理論、性格の形成、性格の診断法などについて理解すること。学校現場における、個人差としての性格の概念の意義や利用法、その限界、注意点などを考えてみるのもよい。
6	学習のメカニズムについて 教科書 pp.60-65 および pp.70-74 を通読し、パブロフの古典的条件づけ、スキナーのオペラント条件づけ、洞察による学習など、学習のメカニズムについて整理しておくこと。
7	学ぶ意欲と授業の課程　―動機づけとさまざまな授業方法― 教科書 pp.39-58 を通読し、動機づけの概念、原因帰属などの理論、さまざまな授業方法について理解すること。学校現場において、子どもの動機づけを高める工夫や、効果的な授業方法を自分なりに考えてみるのもよい。
8	学習の評価　―教育評価の方法とテスト― 教科書 pp.97-120 を通読し、学習の評価の目的、基準などについて理解すること。統計学については基本的な部分はおさえておくこと。学校現場での実際の教育評価の方法や注意点などについて考えてみるのもよい。
9	社会性を育む 教科書 pp.155-175 を通読し、社会性（向社会性と道徳性）を理解すること。また、「愛着」、「親子関係」、「仲間関係」が社会性の発達にどのように影響するのかを考察すること。
10	集団としての子ども　―教育現場の社会心理学― 教科書 pp.177-189 を通読し、学級集団やリーダーシップなど、社会心理学的な観点からの教育活動について理解すること。学級運営における社会心理学の理論の実際の応用例などを考えてみるのもよい。
11	子どもの不適応行動１　―いじめの問題― 教科書 pp.191-204 を通読し、子どもの心の健康やストレスなどについて理解すること。特に最近問題になっている「いじめ」について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策などを考察してみること。
12	子どもの不適応行動２　―不登校、非行などの問題― 教科書 pp.204-208 を通読し、「不登校」や「非行」などの問題について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策を考察してみること。
13	子どもの不適応行動３　―現代を生きる子ども― 現代社会を生きる子どもは、それ以前の時代の子どもとどのように異なるのか。発達環境の相違や変化などを考え、それが子どもの発達に与える影響を考察してみること。
14	学校カウンセリングの基礎 教科書 pp.209-214 を通読し、学校カウンセリングの基礎的な事項について理解すること。相手がいれば、初歩的なカウンセリングの技法について実際に練習してみるのもよい。
15	障害のある子どもの理解 教科書 pp.215-232 を通読し、学校現場で出会う可能性のある各種の障害について理解すること。それぞれの障害のある子どもへの適切な対応について考えてみるのもよい。

学生に対する評価

レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価

＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B＋（89 点～80 点）　B（79 点～70 点）

C（69 点～60 点）

F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 子どもの「個人差」について述べよ。

＜ポイント＞

発達・知能・パーソナリティ・遺伝と環境など様々な角度から考察すること。

科目終了試験学修のポイント

１．教育心理学の意義について
＜ポイント＞
教育心理学の位置づけや、他の心理学分野との関係などについて述べ、その研究領域やその教育現場への応用や実践について述べる。また、新しい領域や、最近の話題、今後の展開の可能性（教科書 p.4）などについても触れるとよい。

２．環境から学ぶことについて
＜ポイント＞
発達過程における遺伝的要素以外の環境からの影響、教育環境としての学校や教師の役割や意味などについてまとめ論じるとよい。

３．レディネスの概念について
＜ポイント＞
レディネスの概念を明らかにし、ゲゼルやトンプソンの「成熟優位説」などの古典的レディネス観から、ブルーナーの理論などに代表される新しいレディネス観やその先駆としてのヴィゴツキーの「発達の最近接領域」などについて述べるとよい。

４．知能について
＜ポイント＞
知能の概念や、各種の知能に関する学説、遺伝と環境の影響、学力との相関、測定法などについて述べるとよい。

５．評価について
＜ポイント＞
教育評価の目的や内容、その種類などについて述べ、テストにおける信頼性と妥当性の問題、実際の学校現場での現状などについて述べるとよい。

６．授業方法について
＜ポイント＞
各種の授業方法について述べ、その背景にある理論やその期待される効果、問題点などについて述べるとよい。

教科書

櫻井茂男『たのしく学べる最新教育心理学　教職に関わるすべての人に』図書文化。

参考文献

ウィニコット『赤ん坊と母親』岩崎学術出版社。

町沢静夫『「こころの居心地」がよくなる心理学』三笠書房。

古川聡、他『教育心理学をきわめる 10 のチカラ』福村出版。

科目コード	教育相談(カウンセリングを含む)（２単位)	登録年次	履修方法
4090/4091/4092		３年	ＳＲ/Ｒ
教員名	荒井理帆、大島朗生、緒方玲子、荻原邦昭、攪上哲夫、鈴木康明、谷口卓、長坂正文、西脇雅彦、姫野建二、八重樫幸雄、八重樫節子、安田誠人、山田哲史、		
教職区分	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		

科目概要・到達目標

教育相談は、現在の学校教育のすべての活動のなかで幅広く実践されており、教師にとって不可欠な資質である。そこで、学校における教育相談とは何か、生徒指導上の有効性、学級経営上の有効性などを理論、技法・態度などの体験を通しながら学習していく。内容は、来談者中心カウンセリング、行動カウンセリング、グループカウンセリング等の理論、技術を、講義やロールプレイ（役割演技）を実施しながら、一人ひとりが確実に体得するよう進めていく。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	教育相談の定義（教科書 pp.2-11） ポイント：教育相談の歴史を踏まえ、教育相談の意義と役割について理解する。	教育相談の定義 ・生徒指導と教育相談 ・教育相談の意義と役割	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
2	教育相談の実際（教科書 pp.176-196） ポイント：カウンセラーではなく、教師だからこそできる相談の長所・短所を理解する。	教育相談の実際 ・教師だからこそできる相談の長所・短所	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
3	開発的カウンセリング（教科書 pp.23-31、参考文献「教職科目要説中等教育編」p.76 心理劇について） ポイント：問題が起こってから対応するのではなく、問題の予防や児童生徒がよりよく生きるためのカウンセリングについて理解するとともにクラスや小集団で行われるグループワーク（心理劇等）についても理解する。	教育相談とカウンセリング ・カウンセリングの新たな展開 ・開発的カウンセリング	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
4	来談者中心療法（教科書 pp.13-22） ポイント:教育相談の基本となる態度およびカウンセリング・マインドについて理解する。	教育相談とカウンセリング ・来談者中心療法 ・カウンセリングの技法	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
5	精神分析（教科書 pp.32-36） ポイント:教育相談に役立つ精神分析を基本とする心理療法の知恵を理解する。	教育相談とカウンセリング ・様々な心理療法	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
6	行動療法・認知行動療法（教科書 pp.36-40） ポイント：教育相談に役立つ行動療法・認知行動療法の技法について理解する。	教育相談とカウンセリング ・行動療法と認知行動療法 ・カウンセリングの進め方	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
7	家族療法・ブリーフセラピー（教科書 pp.40-42） ポイント:教育相談に役立つ短期療法の知恵について理解する。	教育相談とカウンセリング ・学校で活用できるブリーフセラピー	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
8	教育アセスメント（教科書 pp.90-109） ポイント：教育アセスメントは、面接・観察・テストからなることを踏まえたうえで、学校でよく使われる心理テストについて理解する。	教育相談とカウンセリング ・学校で使えるアセスメント	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
9	発達障害（教科書 pp.69-78） ポイント：発達障害の特性について理解し、その特性に合った働きかけを考える。	教育相談の実際 ・発達障害	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
10	心の問題（教科書 pp.79-88） ポイント：心の問題について理解することで、早期に医療との連携を必要とする判断力を身に付ける。	教育相談の実際 ・他機関との連携 ・スクールカウンセラーとの協働	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
11	不登校（教科書 pp.112-124） ポイント：不登校児童生徒の理解を深めるとともに、基本的な対応について理解する。	教育相談の実際 ・不登校	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
12	非行（教科書 pp.126-139） ポイント：非行少年の理解を深めるとともに、基本的な対応について理解する。	教育相談の実際 ・非行	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)

13	学級崩壊（教科書 pp.140-148） ポイント：学級崩壊の現状の深めるとともに、基本的な対応について理解する。	教育相談の実際 ・学級崩壊	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
14	いじめ（教科書 pp.149-162） ポイント:いじめのメカニズムの理解を深めるとともに、いじめ・いじめられ・観衆・傍観者・保護者への基本的な対応について理解する。	教育相談の実際 ・いじめ	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
15	保護者に対する支援（教科書 pp.163-174） ポイント:保護者との関係を作る上での留意点について理解する。	教育相談の実際 ・保護者に対する支援	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 題につき 7～8 枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　開発的カウンセリングの意義について述べよ。

＜ポイント＞

開発的カウンセリングは、問題が生じる前に、児童生徒の対人関係や自己意識の発達を促し、問題の生じる可能性を少しでも小さくすることを目的に生み出されたカウンセリングである。そこで、学校における担任を中心として行われる開発的カウンセリングのポイントを押さえ、この上に構成的グループ・エンカウンター、アサーションなどの実際の取り組みについて、その意義をまとめることができる。

科目終了試験学修のポイント

１．児童生徒理解について

＜ポイント＞

信頼関係に基づく教育相談を可能にするため、児童生徒理解が大切であることを理解し、そのためにはどのような方法が望ましいのかについて考察する。

２．学校における教育相談の進め方について

＜ポイント＞

学校における教育相談の基本的姿勢、特質などを踏まえ、教育相談における面接の具体的対応について考察する。

３．不登校問題への対応について

＜ポイント＞

不登校の定義を押さえた上で、不登校に対する基本的な考え方を理解することによりその認識を深め、不登校をどう予防したらいいのか考察する。

４．いじめ問題への対応について

＜ポイント＞

いじめの定義を押さえた上で、いじめに関する理論、いじめの早期発見の手立て、早期対応について理解を深め、いじめの予防について考察する。

５．クライエント中心療法と傾聴について

＜ポイント＞

「自己一致」「受容」「共感的理解」とは何かについて理解し、これを踏まえた上で、傾聴の基本的態度について考察する。

６．保護者面接のあり方について

＜ポイント＞

学校は、保護者との信頼関係をどう作っていったらいいのか、また保護者と面接する際の課題や心掛ける点について整理することができる。

教科書

石川正一郎、他『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房。

参考文献

東京福祉大学編『教職科目要説　中等教育編』ミネルヴァ書房。
榆木満生、他『カウンセリング心理学ハンドブック　上巻』金子書房。
石隈利紀『学校心理学』誠信書房。
文部科学省『生徒指導提要』教育図書。

科目コード	教育相談(カウンセリングを含む) (2 単位)	登録年次	履修方法
4096		3年	SR
教員名	荻原邦昭、杉浦貴代子、森慶輔		
教職区分	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		

科目概要・到達目標

教育相談は、現在の学校教育のすべての活動のなかで幅広く実践されており、教師にとって不可欠な資質である。そこで、学校における教育相談とは何か、その意義と課題を理解し、教育相談にかかわる心理学の基礎的理論や概念を学ぶとともに、教育相談を進める際に必要な基礎的知識を身に着ける。また、教育相談の具体的な進め方や、組織的な取り組みや連携の必要性について理解する。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	教育相談の意義（教科書 pp.2-11） ポイント：教育相談の歴史を踏まえ、教育相談の意義と役割について理解する。	教育相談とは何かを知り、教育相談の予防・開発的な面と治療・矯正的な面を把握する。教育相談の歴史を検討し、教育相談と生徒指導のあり方について学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
2	来談者中心カウンセリングとカウンセリング・マインド（教科書 pp.13-21） ポイント:子どもに対する教師の態度や姿勢として必要とされるカウンセリング・マインドについて理解する。	来談者中心カウンセリングの意義を知り、受容・傾聴・共感的理解について学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
3	開発的カウンセリング（教科書 pp.23-31） ポイント：問題が起こってから対応するのではなく、問題の予防や児童生徒がよりよく生きるためのカウンセリングについて理解する。	開発的カウンセリングとは何かを知り、構成的グループ・エンカウンターやアサーション・トレーニングについて学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
4	さまざまな心理療法（1）（教科書 pp.32-36） ポイント：教育相談に役立つ精神分析を基本とする心理療法について理解する。	精神分析、ユングの理論について学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
5	さまざまな心理療法（2）（教科書 pp.36-40） ポイント：教育相談に役立つ行動療法、認知行動療法について理解する。	行動療法、認知行動療法について学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
6	さまざまな心理療法（3）（教科書 pp.40-45） ポイント:教育相談に役立つ家族療法および短期療法について理解する。	家族療法とブリーフ・セラピーについて学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
7	パーソナリティ（教科書 pp.48-55） ポイント：パーソナリティという概念について知り、教育相談にかかわる心理学の基礎的な理論についての理解を深める。	パーソナリティ理論の類型論と特性論について学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
8	発達（教科書 pp.57-67） ポイント：発達とは何かを知り、発達段階についての諸理論を学ぶ。	幼児児童生徒を理解し適切にかかわるためには、発達途上にある子どもの特性を知っておく必要があることを理解する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
9	発達障害（教科書 pp.69-78） ポイント：発達障害の特性について理解し、その特性に合った働きかけを考える。	発達障害とは何かを知り、高機能自閉症、アスペルガー症候群、AD/HD、学習障害のそれぞれの特性について学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
10	心の問題（教科書 pp.79-88） ポイント：心の問題について理解することで、医療との連携が必要か否かの判断力を身に付ける。	心の問題の種類について知り、統合失調症、気分障害、摂食障害、不安障害、チック、自傷行為、心身症、緘黙症などの概略を学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
11	教育アセスメント（教科書 pp.90-109） ポイント:学校でよく使われる心理テストについて理解する。	子どものアセスメントの重要性を理解し、さまざまな心理テストの概略を知り、その活用について学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
12	不登校・不登園（教科書 pp.112-124） ポイント:不登校不登園の幼児児童生徒の理解を深めるとともに、基本的な対応について理解する。	不登校の定義を知り、不登校・不登園の児童幼児への対応について理解し、資料（事例）について教育相談を行う際の目標の立て方や進め方について考え、ロールプレイを行い、検討する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
13	非行、いじめおよび虐待（教科書 pp.126-139、pp.149-162） ポイント：非行少年の理解を深めるとともに、基本的	非行とは何かを知り、その原因論について理解する。また、いじめや虐待のメカニズムを知る。それぞれについて予防・開発的教育相談としての対策と治療・矯	印刷授業 及び 面接授業

	な対応について理解する。いじめのメカニズムを理解し、いじめ・いじめられ・観衆・傍観者・保護者への基本的な対応について理解する。虐待とは何かを知り、その原因論について理解する。	正的教育相談としての対策を理解し、資料（事例）について教育相談を行う際の目標の立て方や進め方について考え、ロールプレイを行い、検討する。	（1時間）
14	校内（園内）体制と組織的な取り組み （教科書 pp.176-185） ポイント：学校（幼稚園）における校内（園内）体制の整備と組織的な取り組みの必要性について理解する。	教育相談を行う際には、計画を作成し、校内（園内）体制の整備を図り、組織的に取り組むことが必要であることを理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
15	関係機関との連携・協働（教科書 pp.186-196） ポイント：幼稚園・小学校が連携する地域の医療・福祉・心理等の専門機関について知り、協働の必要性について理解する。	教育相談を行う上で幼稚園・小学校が連携できる地域の医療・福祉・心理等の専門機関について知り、適切な協働を行うことの必要性と重要性について理解する。 授業のまとめを行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　開発的カウンセリングの意義について述べよ。

＜ポイント＞

開発的カウンセリングは、問題が生じる前に、児童生徒の対人関係や自己意識の発達を促し、問題の生じる可能性を少しでも小さくすることを目的に生み出されたカウンセリングである。そこで、学校における担任を中心として行われる開発的カウンセリングのポイントを押さえ、この上に構成的グループ・エンカウンター、アサーションなどの実際の取り組みについて、その意義をまとめることができる。

科目終了試験学修のポイント

１．幼児児童生徒理解について

＜ポイント＞

信頼関係に基づく教育相談を可能にするには幼児児童生徒理解が大切であることを理解し、そのためにはどのような方法が望ましいのかについて考察する。

２．学校における教育相談の進め方について

＜ポイント＞

学校における教育相談の基本的姿勢、特質などを踏まえ、教育相談における面接の具体的対応について考察する。

３．不登校･不登園問題への対応について

＜ポイント＞

不登校の定義を押さえた上で、不登校に対する基本的な考え方を理解することによりその認識を深め、不登校をどう予防したらいいか考察する。

４．いじめ問題への対応について

＜ポイント＞

いじめの定義を押さえた上で、いじめに関する理論、いじめの早期発見の手立て、早期対応について理解を深め、いじめの予防について考察する。

５．クライエント中心療法について

＜ポイント＞

受容・傾聴・共感的理解について理解し、これを踏まえた上で、クライエント中心療法の特徴について考察する。

６．保護者面接のあり方について

＜ポイント＞

学校は保護者との信頼関係をどう作っていったらいいのか、また保護者と面接する際の課題や心掛ける点について整理する。

教科書

石川正一郎、他『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房。

参考文献

楡木満生、他『カウンセリング心理学ハンドブック　上巻』金子書房。

石隈利紀『学校心理学』誠信書房。

文部科学省『生徒指導提要』教育図書。

科目コード	教育法規（2 単位）	登録年次	履修方法
4330		2年	R
教員名	浅沼茂、石﨑達也、小田義隆、木内正範、江津和也、姫野建二、堀建治、松村久美子		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 （学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		

科目概要・到達目標

本科目では、幼稚園、小学校、中学校教諭等の教員を目指す人たちが教育法規に関する基礎的な知識を身につけ、教員採用選考試験問題を解けるようになること、そして教員となった折には、その知識を用いて学校における法的な諸課題に対応できるようになることを目標とする。そのために以下の３つの到達目標を設定する。

1）教育法規を体系的に理解し、その主な内容について説明することができる。

2）教員や教員採用選考試験受験生にとって必要最低限の教育法規に関する基礎知識を理解し、重要な用語について説明することができる。

3）学校におけるさまざまな課題の中で、法的な観点から解決できる内容について根拠条文を明らかにして説明することができる。

学修内容

1	Ⅰ章　教育法規のしくみと学び方 ① 国の法令 1. 教育法規とは　2. 文部科学省設置法　3. 日本国憲法　4. 教育基本法　5. 教員の資格を定める教員職員免許法
2	② 教育行政 6. 地方教育委員会の組織と役割　7. 学校と教育委員会 判例コラム①：教育内容と信教の自由
3	③ 学校教育 8. 学校教育法　9. スクールコンプライアンス　10. 私立学校　11. 義務教育学校制度　12. 中等教育学校制度 13. 学校運営協議会制度 判例コラム②：教育の機会均等と各種学校の扱い
4	Ⅱ章　学校組織と教育課程 ① 学校組織と教育活動 14. 教職員間の役割分担「校務分掌」　15. 校長と教諭の職務　16. 司書教諭の職務　17. 職員会議の性格と機能 18. 学校備付表簿　19. 進学生徒の調査書等の作成・送付義務 20. 学校評価（自己評価、関係者評価、第三者評価の３点セット）
5	②教育課程 21. 教育課程の編成　22. 教育課程の基準としての学習指導要領　23. 道徳教育の教科化―「特別の教科 道徳」 判例コラム③：教科書使用義務と学習指導要領の法的拘束力 24. 教科書使用義務と補助教材の利用　25. 教科書の無償　26. 教科書の採択権限 判例コラム④：校長の職務命令と思想および良心の自由
6	③児童・生徒と生徒指導 27. 校則　28. いじめの防止と救済　29. いじめ防止対策推進法　30. 懲戒と体罰問題　31. 児童・生徒の出席停止 32. 不登校とスクールカウンセラー　33. 進級判定 判例コラム⑤：運動部活動における体罰
7	Ⅲ章　学校運営と研修 ①教職員の職務と研修 34. 地方公務員としての教員の服務　35. 教員の分限処分　36. 教員の懲戒処分　37. 教育公務員特例法（1） 38. 教育公務員特例法（2）―教員の資質向上のための「指標策定の育成協議会」の設置　39. 教員評価
8	②教職員の職務と研修 40. 教員の勤務と週休日　41. 教員の勤務時間と時間外勤務の特例　42. 学校の組合活動　43. 個人情報保護法 44. 教職員の人事権　45. 公務上の災害と教員の労働災害補償　46. 教員免許の更新制 判例コラム⑥：公立学校教員の争議行為
9	Ⅳ章　人権教育における法規① 47. 人権をめぐる動き　48. 世界人権宣言　49. 国際人権規約 50. 「人権教育のための国連 10 年」と「人権教育のための世界プログラム」 51. あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約（人種差別撤廃条約） 52. 女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（女子差別撤廃条約）
10	Ⅳ章　人権教育における法規② 53. 子ども（児童）の権利に関する条約　54. 「同和対策審議会答申」と同和対策事業特別措置法の制定 55. 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律（人権教育・啓発推進法）　56. 人権教育・啓発に関する基本計画 57. 部落差別の解消推進に関する法律 判例コラム⑦：校則および退学処分の違法性

11	Ⅴ章　障害児教育・特別支援教育と法規① 58. 障害児教育・特別支援教育と法規　59. 障害者の権利に関する条約（障害者権利条約）　60. 障害者基本法 61. 障害者総合支援法
12	Ⅴ章　障害児教育・特別支援教育と法規② 62. 特別支援教育　63. 発達障害者支援法　64. 障害者差別解消法の施行と学校 コラム：学習指導要領の用語「交流及び共同学習」は障害者基本法が基に
13	Ⅵ章　学校保健・安全と法規 65. 学校保健・安全と法規　66. 学校保健安全法　67. 安全点検と安全教育　68. 災害安全・防災教育 69. 養護教諭の職務　70. 学校事故と国家賠償法　71. 食育基本法　72. 学校給食法 判例コラム⑧：学校内での児童生徒死亡事故の責任
14	Ⅶ章　児童福祉・男女共同参画と法規 73. 児童福祉・男女共同参画と法規　74. 児童福祉法　75. 少年法　76. 児童福祉の規範としての児童憲章 77. 男女共同参画社会基本法　78. 児童虐待の防止等に関する法律 判例コラム⑨：少年法と「厳罰主義」
15	Ⅷ章　生涯学習・社会教育と法規 79. 生涯学習社会における社会教育と法　80. 社会教育法　81. スポーツ基本法　82. 生涯学習振興法　83. 図書館法 84. 学校図書館法　85. 博物館法　86. 文化芸術基本法・音楽振興法　87. 文字・活字文化振興法 88. 文化財保護法、ユネスコ活動に関する法律
学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点）　C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】教育公務員と一般の地方公務員との服務事項や研修に関する内容を述べよ。その際、同じところと異なるところについて整理して論述せよ。

＜ポイント＞ 県庁や市役所などに勤務している者も公立学校に勤務している校長や教員等も多くは同じ地方公務員である。同じ地方公務員でも公立学校に勤務している校長や教員等は教育公務員でもある。地方公務員の服務事項や研修については地方公務員法がある。一方、教育公務員に関しては教育公務員特例法にも服務事項や研修に関する規定がある。一般法である地方公務員法と特別法である教育公務員特例法の関係を踏まえたうえで論述すること。

科目終了試験学修のポイント

1．学校教育における教育法規の役割や意義について論述せよ。

＜ポイント＞「教育法規」を「憲法」「法律」「政令」「省令」「規則」「条例」に分けて整理し、教員や児童生徒に対する教育法規の役割と意義について論述すること。

2．公立学校や私立学校における宗教教育や宗教的活動について法はどのように規定しているのか、論述せよ。

＜ポイント＞宗教教育や宗教的活動の内容について述べるとともに、憲法第 20 条、教育基本法第 15 条そして学校教育法施行規則第 50 条などを根拠に公立学校と私立学校での宗教教育や宗教的活動の違いなどについて論述すること。

3．学齢児童又は学齢生徒に対しては、懲戒としての停学は行うことができない。一方、公立の小・中学校では性行不良行為を繰り返すことで他の児童・生徒の教育に妨げがあると認められるときは、出席停止を命ずることができるとの規定がある。それぞれ根拠条文と停学と出席停止の違いを述べよ。また、性行不良による出席停止の課題について述べよ。

＜ポイント＞学齢児童･生徒の停学については公立学校･私立学校を問わないが、出席停止については公立学校のみである。その理由にも触れながら設問に答えること。

4．公立小学校の体育の授業である。その水泳指導中、担任の過失によって児童が水死してしまった。この場合、担任はどのような法的責任を負うか。また、被害者側の請求を確実に補償するための規定についても論述せよ。

＜ポイント＞法的責任については、刑事法上、民事法上、公務員法上の具体的な内容を述べること。また、被害者側の請求では憲法や国家賠償法などを引用して論述すること。

５．教科書の使用義務と補助教材について法はどのように規定しているか。裁判例にも触れながら論述せよ。

＜ポイント＞教科書使用義務の根拠や内容、補助教材についてのきまりなどについて裁判例などをも参考にしながら論述すること。

６．体罰と事実行為としての懲戒について述べよ。体罰を行った公立学校の教職員の法的責任について、具体例を挙げて述べよ。

＜ポイント＞体罰に関する文部科学省の通知文（平成 25 年 3 月 13 日）や大阪市立桜宮高校の体罰事件についての教員の法的責任などを参考にしながら論述すること。

教科書

古川治・今西幸蔵・五百住満 編著　『教師のための教育法規・教育行政入門』　ミネルヴァ書房。

参考文献

菱村幸彦『やさしい教育法規の読み方』教育開発研究所。
山本豊『有権解釈に重きを置いた　教育法規　第四版』学校図書。
山本豊『改訂新版　教育法規相談ハンドブック　３５』東京教育研究所
山本豊『書いて理解する教育法規　第二版』（株）オフィス・サウス。
解説教育六法編修委員会『解説教育六法』三省堂。

科目コード	教育方法論（ICT 活用を含む）（２単位） ※幼保特例講座受講者のみ受講可	登録年次	履修方法
4773		２年	ＳＲ
教員名	金龍哲、石﨑達也、攪上哲夫、金子康一、篠大輔、 須藤典征、杉山憲江、松村久美子、望月之美、山本孝司		
教職区分	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：「教育の方法及び技術」及び「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」		

科目概要・到達目標

通信技術を利用して「つながる」Society 5.0 の社会に生きる子供の「個別最適な学びと協働的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善に向けて、教員としての資質・能力の向上を図り、実践的な指導力を身に付ける教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を学修し、令和の日本型学校教育の学びに資する。

また、到達目標は、以下の３点とする。

1. 「個別最適な学びと協働的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」のもととなる「学び」について、探究し、その学びを実現するための方法・技術を利活用できること。
2. 教育現場で実践されている ICT の活用事例を学び、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進に生かすことができるように、学び合うこと。
3. 情報通信技術の活用の意義と理論を理解するとともに、児童に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための基礎的な指導方法を身に付けること。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	教育方法【科目終了試験学修のポイント１】について PC を用いて調べ、概要を理解する。その際、学校の学習で「学ぶ人」と「学べない人」の違いはどこにあるか、資料や学習経験から考えることができる。	・「学ぶ人」と「学べない人」の違いはどこにあるについて話し合い、発表する。 ・教育方法の意義と学びとの関係を考え、自己の教育に対する考えを整理する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	「教育方法史」 西洋及び日本の教育方法史について、東西の教育思想に触れ、西洋と日本の「教育」のとらえ方と、それを具体化する方法論を理解する（『教育の方法と技術』pp.7-28）。次に、この学習を「学習指導要領の歴史的変遷」につなげて考察できるよう、今日までの社会的背景や、教育に求められているものをおさえ、教育課程論、学力論、教育方法論、評価論等について理解する。その上で「指導と評価」の関連をとらえ、指導と支援【科目終了試験学修のポイント３】の理解につなげる。	・「学ぶ」とはどういうことか。学びの発達や学習指導要領で重視されている「言語活動の充実」・「情報活用能力」との関連についてグループで話し合い、タブレット PC や書画カメラを使って発表する。 ・印刷授業で得た二つのカリキュラム論の知見を活用し、日本の教育方法を考える。 ・児童の現状や現代学校教育の課題および society5.0 時代に求められる資質・能力について「令和の日本型教育」答申を調べ、グループで話し合い、タブレット PC や書画カメラ、電子黒板等を使って発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	「学校の教育課程編成」 第 2 回で学習したことを踏まえ、教育課程編成の原理と諸類型、学校の教育課程編成など、教育課程を編成することの意味と役割について、また、教育課程の三層構造（学習指導要領・各地域の教育委員会が示す教育課程編成のガイド、各学校が編成する教育課程、各教師が計画実践する教育課程）の理解を深める。併せて、令和の日本型学校教育の教育課程の方向についても PC 等で調べ、まとめる。	「個別最適な学びと協働的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善に向けて、教育方法はどうあるべきかグループで考え、タブレット PC や書画カメラ、電子黒板等を使って発表する。 ・総則「教育課程の実施」を基に、学習過程における見通しや学習形態の工夫などについて調べ、効果的な学習方法の在り方をグループで考え、発表する。 ・学習の基盤となる、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）問題発見・解決能力について触れる。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
4	「授業論」 授業の構造と意義について理解し、授業の目標づくりや学習指導案の作成【レポート設題】についての理解を深め、模擬授業や教育実習で生かすことができるようにする。また、問題解決学習についても理解し、問題解決学習の実践例などで考察したり、受講生自ら課題を設定し、実践、評価、改善を練ったりして実践力育成につなげる。加えて、「展開のある授業」を生み出すための「教材研究」【科目終了試験学修のポイント６】や「授業中の発問と説明」についても理解するとともに、子どもの現代的な感覚の理解と教材・教具（ICT 等）のもつ力を把握した上で、対立を創り出す展開のある授業を構築できるようにする。	・よい授業を行うために、授業の構成要素について、学生の体験を基に、グループで構成要素を考え、その根拠についてまとめ、発表する。 ・教科の特性を知り、見方・考え方の伸ばし方を考える。 ・よい授業を作るための条件として、教材教具の取扱、情報機器の活用、コンピュータ、電子黒板、デジタル教科書等の活用上の配慮事項, その他の条件作りについて調べ、授業の効率を話し合う、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
5	「教育の技術」 「学習活動の個別化」と「ティーム・ティーチング」等の教育技術についての理解と、集団での練り合いよさを図る中で、一人ひとりに応じた指導の在り方を探る。また、「学習効率を高めるための教育技術」についても理解する。PC や電子黒板・書画カメラ・板書・ノート指導・学び方学習・反復練習等を理解する。	・授業の構想、授業の設計段階で重要な知識について調べ、グループで大切なことについて話し合い、発表する。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を行うための方策について調べ、授業改善には教員の創造的な工夫が必要であることについてまとめる。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）

6	「学力と教育評価／指導要録」 「学力と教育評価」【科目終了試験学修のポイント４】について理解する。学力とは何かをおさえた上で、相対評価・絶対評価・自己評価・相互評価・個人内評価の意味とそれぞれの長短について言及できるようにする。併せて、文部科学省のホームページから「児童生徒の学習評価の在り方（報告）」を調べておく。 「指導要録」【科目終了試験学修のポイント５】について、公簿である指導要録の意義と役割、作成上の留意点の理解を深める。 加えて、学習履歴（スタディ・ログ）などの教育データの取扱いから校務の合理化についても考える。	・授業の評価について，目標の実現度のはかり方や児童への生かし方について調べ、目標に準拠した評価の良い評価についてまとめ、発表する。 ・「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」の概要を調べ、学習評価や評定が適切に行われるための工夫について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
7	「学習指導案と模擬授業」 望ましい授業の在り方を探る学習指導案の作成と模擬授業」について理解する。できるだけ多くの模擬授業の計画が出来るようにする。その際、授業記録の取り方やそれに基づいた授業分析の実際についての理解も深める。本講義の学修内容１～６の集大成になるようにする。	・授業の計画・設計・実施・評価等、授業の構成要素について、自分なりの考えをまとめ、発表する。 ・ここまでの学びで得たものを整理する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
8	情報通信技術の活用と意義の理論１ ～現代社会における ICT の役割と導入～ 視聴覚メディアやコンピュータの歴史的展開や現代社会における ICT の役割、視聴覚メディア・コンピュータの教育への導入、教育における先端技術とデジタルコンテンツについて学ぶ。	・ICT の役割、視聴覚メディアの歴史的変遷と役割、最新のデジタルコンテンツをタブレット PC を用いて調べ、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
9	情報通信技術の活用と意義の理論２ ～教師の ICT 活用指導力と先端技術とデジタルコンテンツの活用～ 【科目終了試験学修のポイント２】について教育における先端技術の活用（AI、VR など）を確認し、教師に求められる実践的な ICT 活用指導力を身につけるためにはどうするか、テキストで理解する。	・教師が職務を通じて、どこでどのように ICT を利活用しているか、文部科学省や各学校のホームページを調べる。統合型校務支援システムなど、情報通信技術がどのように活用され、校務の推進に寄与されておいるか、まとめ発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
10	特別支援・幼児教育における ICT 活用 特別の支援教育や幼児教育の現場において、ICT がどのように活用されているか整理し、さらに問題点についても学ぶ。また、幼稚園教育要領での ICT 活用はどのようになっているか、デジタル絵本などの活用法を学ぶ。	・教科書や「ICT 活用事例集」を調べ、特別支援学校や幼稚園ではどのように ICT が活用されているか、まとめ発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
11	個別最適な学びと対話的な学びを深める ICT の活用と遠隔授業 対話的な学びを深める ICT の活用の具体例と重要ポイントを確認する。現在、遠隔授業が急速に普及しているが、メリットとデメリット、学びの保障について確認する。	・「ICT 活用事例集」を調べ、一斉学習、個別学習、協働学習でのＩＣＴの使われ方の概要を知る。事例が活用できるようにグループでタブレット等を操作できるようにする。 ・教室内の授業や他校との交流学習において、遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法を理解し、児童同士の意見交換、発表などお互いを高め合う学習ができるようにするためのコンテンツや機器の操作方法などについて学び合う	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
12	児童生徒の ICT 活用状況と教科の資質・能力及び情報処理活用能力の育成 現在の児童生徒の ICT 活用の状況を整理し、学校への展開状況を調べる。また、各教科における情報活用能力や指導事例を、教科書を読んで理解する。	・児童の興味や関心を高めるための教員による教材の提示の仕方や教材の取扱い方について実習を含め学習する。 ・情報通信技術を効果的に活用した指導事例を確認し、デジタル教材などの活用や作成を通じ、自らの疑問について深く調べることや自分に合った進度で学習ができるように指導する方法を身につける。特に、タブレット、インターネット等の活用の仕方を学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
13	児童生徒の情報活用能力の育成～プログラミング教育～ なぜプログラミング教育が必要なのか、学校現場で使用されている主なプログラミング言語と大まかな使い方を整理する。また、中学校、高校ではどのようなプログラミング教育があるか理解する。	・プログラミング言語スクラッチをタブレット PC 等を用いてグループで体験する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
14	児童生徒の情報活用能力の育成～情報モラル・セキュリティとメディアリテラシー～ ICT を積極的に活用する際に求められる情報モラル・メディアリテラシーを児童にどう教えるか、留意点等を理解する。	・これからを生きる児童の基礎的な資質・能力としての ICT のリテラシーをどのように育てるか、話し合い、タブレット PC や電子黒板・書画カメラを使って発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
15	校務の情報化とデータの活用について学ぶ。 学習履歴（スタディ・ログ）などの教育データを活用しする際の利点を整理する。その際、セキュリティの重要性について教科書を読み確認する。	・学習履歴（スタディ・ログ）などの教育データを活用して指導や学習評価に活用することや教育情報のセキュリティの重要性について操作・話合いをする。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 学習指導案（または指導計画）の意義と作成上留意しなければならないことについて述べよ。

＜ポイント＞

学習指導案の意義を考えることは授業の内容を考えることでもある。何をどのように指導するか。どのようなことに配慮して指導案を作成すべきかを述べることが重要であり、一人ひとりの子どもの学習状況の実態・理解度を踏まえた指導案はどのようにして作成するのかについて述べる必要がある。

※自分が取得を希望する免許課程に則して作成すること。

※保育士資格のみ取得希望者は「保育原理」の教科書なども参考とし、保育士の指導計画について述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．教育方法とは何か、教育方法の原理とは何かについて

＜ポイント＞

「学ぶ人」と「学べない人」の違いはどこにあるかをもとに、学ぶ人を育てる方法について自分なりに考え、教育方法やその原理に迫る。

2．学校現場におけるICTを活用した授業の方法について

＜ポイント＞

学校現場（幼児教育、小学校、中・高）におけるICT活用の事例はどのようなものがあるか、良い点と課題を説明できるようにする。ICT活用を行ううえで教師にどのような資質が求められるか、またメディアリテラシーやセキュリティへの配慮についても説明できるようにする。

3．教師の指導と支援について

＜ポイント＞

学習指導要領の変遷をたどる中で、教師の教育的行為を見極める。さらに、「授業中の教師の役割にはどんなものがあるか」を探る中で、指導と支援の違いについて具体的に言及できるようにする。

4．相対評価・絶対評価・自己評価・相互評価・個人内評価の意味とそれぞれの長短について

＜ポイント＞

言葉の定義にとどまらず、評価の本質的な意味をとらえてそれぞれの長短を言及する。

・学習履歴（スタディ・ログ）などの教育データを活用して指導や学習評価に活用することや教育情報のセキュリティーの重要性についても言及する。

5．指導要録記入上の留意点について

＜ポイント＞

公簿である個人情報であることを踏まえ、「評価の意味を正しくとらえた記述とは」を熟考する。

6．教材研究の必要性について

＜ポイント＞

育てたい子ども像、学習指導要領で示された指導内容、子どもと教師で創り上げる授業の創造の観点から必要性に迫る。

教科書

①柴田義松、他『教育の方法と技術』学文社。

②文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則編』東洋館出版社。

③稲垣忠・佐藤和紀編著『ICT活用の理論と実践　DX時代の教師をめざして』北大路書房

④『ICT活用実践事例集』文部科学省

※④は配本はされないため、各自「文部科学省」のホームページよりダウンロードすること

参考文献

天野正輝『教育方法の探求』晃洋書房。

金子光男、他『教育方法論』酒井書店。

多田俊文『教育の方法と技術』学芸図書。

小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）

生徒指導提要（平成22年3月告示　文部科学省）

科目コード	教育方法論（ICT 活用を含む）（初等教育）（２単位）	登録年次	履修方法
4771		２年	ＳＲ
教員名	金龍哲、石﨑達也、攪上哲夫、金子康一、篠大輔、 須藤典征、杉山憲江、松村久美子、望月之美、山本孝司		
教職区分	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：「教育の方法及び技術」及び「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」		

科目概要・到達目標

通信技術を利用して「つながる」Society 5.0 の社会に生きる子供の「個別最適な学びと協働的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善に向けて、教員としての資質・能力の向上を図り、実践的な指導力を身に付ける教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を学修し、令和の日本型学校教育の学びに資する。

また、到達目標は、以下の３点とする。

1. 「個別最適な学びと協働的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」のもととなる「学び」について、探究し、その学びを実現するための方法・技術を利活用できること。
2. 教育現場で実践されている ICT の活用事例を学び、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進に生かすことができるように、学び合うこと。
3. 情報通信技術の活用の意義と理論を理解するとともに、児童に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための基礎的な指導方法を身に付けること。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	教育方法【科目終了試験学修のポイント１】について PC を用いて調べ、概要を理解する。その際、学校の学習で「学ぶ人」と「学べない人」の違いはどこにあるか、資料や学習経験から考えることができる。	・「学ぶ人」と「学べない人」の違いはどこにあるについて話し合い、発表する。 ・教育方法の意義と学びとの関係を考え、自己の教育に対する考えを整理する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	「教育方法史」 西洋及び日本の教育方法史について、東西の教育思想に触れ、西洋と日本の「教育」のとらえ方と、それを具体化する方法論を理解する（『教育の方法と技術』pp.7-28）。次に、この学習を「学習指導要領の歴史的変遷」につなげて考察できるよう、今日までの社会的背景や、教育に求められているものをおさえ、教育課程論、学力論、教育方法論、評価論等について理解する。その上で「指導と評価」の関連をとらえ、指導と支援【科目終了試験学修のポイント３】の理解につなげる。	・「学ぶ」とはどういうことか。学びの発達や学習指導要領で重視されている「言語活動の充実」・「情報活用能力」との関連についてグループで話し合い、タブレット PC や書画カメラを使って発表する。 ・印刷授業で得た二つのカリキュラム論の知見を活用し、日本の教育方法を考える。 ・児童の現状や現代学校教育の課題および society5.0 時代に求められる資質・能力について「令和の日本型教育」答申を調べ、グループで話し合い、タブレット PC や書画カメラ、電子黒板等を使って発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	「学校の教育課程編成」 第 2 回で学習したことを踏まえ、教育課程編成の原理と諸類型、学校の教育課程編成など、教育課程を編成することの意味と役割について、また、教育課程の三層構造（学習指導要領・各地域の教育委員会が示す教育課程編成のガイド、各学校が編成する教育課程、各教師が計画実践する教育課程）の理解を深める。併せて、令和の日本型学校教育の教育課程の方向についても PC 等で調べ、まとめる。	「個別最適な学びと協働的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善に向けて、教育方法はどうあるべきかグループで考え、タブレット PC や書画カメラ、電子黒板等を使って発表する。 ・総則「教育課程の実施」を基に、学習過程における見通しや学習形態の工夫などについて調べ、効果的な学習方法の在り方をグループで考え、発表する。 ・学習の基盤となる、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）問題発見・解決能力について触れる。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
4	「授業論」 授業の構造と意義について理解し、授業の目標づくりや学習指導案の作成【レポート設題】についての理解を深め、模擬授業や教育実習で生かすことができるようにする。また、問題解決学習についても理解し、問題解決学習の実践例などで考察したり、受講生自ら課題を設定し、実践、評価、改善を練ったりして実践力育成につなげる。加えて、「展開のある授業」を生み出すための「教材研究」【科目終了試験学修のポイント６】や「授業中の発問と説明」についても理解するとともに、子どもの現代的な感覚の理解と教材・教具（ICT 等）のもつ力を把握した上で、対立を創り出す展開のある授業を構築できるようにする。	・よい授業を行うために、授業の構成要素について、学生の体験を基に、グループで構成要素を考え、その根拠についてまとめ、発表する。 ・教科の特性を知り、見方・考え方の伸ばし方を考える。 ・よい授業を作るための条件として、教材教具の取扱、情報機器の活用、コンピュータ、電子黒板、デジタル教科書等の活用上の配慮事項, その他の条件作りについて調べ、授業の効率を話し合う、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
5	「教育の技術」 「学習活動の個別化」と「ティーム・ティーチング」等の教育技術についての理解と、集団での練り合いよさを図る中で、一人ひとりに応じた指導の在り方を探る。また、「学習効率を高めるための教育技術」についても理解する。PC や電子黒板・書画カメラ・板書・ノート指導・学び方学習・反復練習等を理解する。	・授業の構想、授業の設計段階で重要な知識について調べ、グループで大切なことについて話し合い、発表する。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を行うための方策について調べ、授業改善には教員の創造的な工夫が必要であることについてまとめる。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）

6	「学力と教育評価／指導要録」 「学力と教育評価」【科目終了試験学修のポイント４】について理解する。学力とは何かをおさえた上で、相対評価・絶対評価・自己評価・相互評価・個人内評価の意味とそれぞれの長短について言及できるようにする。併せて、文部科学省のホームページから「児童生徒の学習評価の在り方（報告）」を調べておく。 「指導要録」【科目終了試験学修のポイント５】について、公簿である指導要録の意義と役割、作成上の留意点の理解を深める。 加えて、学習履歴（スタディ・ログ）などの教育データの取扱いから校務の合理化についても考える。	・授業の評価について，目標の実現度のはかり方や児童への生かし方について調べ、目標に準拠した評価の良い評価についてまとめ、発表する。 ・「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」の概要を調べ、学習評価や評定が適切に行われるための工夫について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
7	「学習指導案と模擬授業」 望ましい授業の在り方を探る学習指導案の作成と模擬授業」について理解する。できるだけ多くの模擬授業の計画が出来るようにする。その際、授業記録の取り方やそれに基づいた授業分析の実際についての理解も深める。本講義の学修内容１～６の集大成になるようにする。	・授業の計画・設計・実施・評価等、授業の構成要素について、自分なりの考えをまとめ、発表する。 ・ここまでの学びで得たものを整理する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
8	情報通信技術の活用と意義の理論１ ～現代社会における ICT の役割と導入～ 視聴覚メディアやコンピュータの歴史的展開や現代社会における ICT の役割、視聴覚メディア・コンピュータの教育への導入、教育における先端技術とデジタルコンテンツについて学ぶ。	・ICT の役割、視聴覚メディアの歴史的変遷と役割、最新のデジタルコンテンツをタブレット PC を用いて調べ、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
9	情報通信技術の活用と意義の理論２ ～教師の ICT 活用指導力と先端技術とデジタルコンテンツの活用～ 【科目終了試験学修のポイント２】について教育における先端技術の活用（AI、VR など）を確認し、教師に求められる実践的な ICT 活用指導力を身につけるためにはどうするか、テキストで理解する。	・教師が職務を通じて、どこでどのように ICT を利活用しているか、文部科学省や各学校のホームページを調べる。統合型校務支援システムなど、情報通信技術がどのように活用され、校務の推進に寄与されておいるか、まとめ発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
10	特別支援・幼児教育における ICT 活用 特別の支援教育や幼児教育の現場において、ICT がどのように活用されているか整理し、さらに問題点についても学ぶ。また、幼稚園教育要領での ICT 活用はどのようになっているか、デジタル絵本などの活用法を学ぶ。	・教科書や「ICT 活用事例集」を調べ、特別支援学校や幼稚園ではどのように ICT が活用されているか、まとめ発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
11	個別最適な学びと対話的な学びを深める ICT の活用と遠隔授業 対話的な学びを深める ICT の活用の具体例と重要ポイントを確認する。現在、遠隔授業が急速に普及しているが、メリットとデメリット、学びの保障について確認する。	・「ICT 活用事例集」を調べ、一斉学習、個別学習、協働学習でのＩＣＴの使われ方の概要を知る。事例が活用できるようにグループでタブレット等を操作できるようにする。 ・教室内の授業や他校との交流学習において、遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法を理解し、児童同士の意見交換、発表などお互いを高め合う学習ができるようにするためのコンテンツや機器の操作方法などについて学び合う	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
12	児童生徒の ICT 活用状況と教科の資質・能力及び情報処理活用能力の育成 現在の児童生徒の ICT 活用の状況を整理し、学校への展開状況を調べる。また、各教科における情報活用能力や指導事例を、教科書を読んで理解する。	・児童の興味や関心を高めるための教員による教材の提示の仕方や教材の取扱い方について実習を含め学習する。 ・情報通信技術を効果的に活用した指導事例を確認し、デジタル教材などの活用や作成を通じ、自らの疑問について深く調べることや自分に合った進度で学習ができるように指導する方法を身につける。特に、タブレット、インターネット等の活用の仕方を学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
13	児童生徒の情報活用能力の育成～プログラミング教育～ なぜプログラミング教育が必要なのか、学校現場で使用されている主なプログラミング言語と大まかな使い方を整理する。また、中学校、高校ではどのようなプログラミング教育があるか理解する。	・プログラミング言語スクラッチをタブレット PC 等を用いてグループで体験する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
14	児童生徒の情報活用能力の育成～情報モラル・セキュリティとメディアリテラシー～ ICT を積極的に活用する際に求められる情報モラル・メディアリテラシーを児童にどう教えるか、留意点等を理解する。	・これからを生きる児童の基礎的な資質・能力としての ICT のリテラシーをどのように育てるか、話し合い、タブレット PC や電子黒板・書画カメラを使って発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
15	校務の情報化とデータの活用について学ぶ。 学習履歴（スタディ・ログ）などの教育データを活用しする際の利点を整理する。その際、セキュリティの重要性について教科書を読み確認する。	・学習履歴（スタディ・ログ）などの教育データを活用して指導や学習評価に活用することや教育情報のセキュリティの重要性について操作・話合いをする。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 学習指導案（または指導計画）の意義と作成上留意しなければならないことについて述べよ。

＜ポイント＞

学習指導案の意義を考えることは授業の内容を考えることでもある。何をどのように指導するか。どのようなことに配慮して指導案を作成すべきかを述べることが重要であり、一人ひとりの子どもの学習状況の実態・理解度を踏まえた指導案はどのようにして作成するのかについて述べる必要がある。

※自分が取得を希望する免許課程に則して作成すること。

※保育士資格のみ取得希望者は「保育原理」の教科書なども参考とし、保育士の指導計画について述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．教育方法とは何か、教育方法の原理とは何かについて

＜ポイント＞

「学ぶ人」と「学べない人」の違いはどこにあるかをもとに、学ぶ人を育てる方法について自分なりに考え、教育方法やその原理に迫る。

2．学校現場におけるICTを活用した授業の方法について

＜ポイント＞

学校現場（幼児教育、小学校、中・高）におけるICT活用の事例はどのようなものがあるか、良い点と課題を説明できるようにする。ICT活用を行ううえで教師にどのような資質が求められるか、またメディアリテラシーやセキュリティへの配慮についても説明できるようにする。

3．教師の指導と支援について

＜ポイント＞

学習指導要領の変遷をたどる中で、教師の教育的行為を見極める。さらに、「授業中の教師の役割にはどんなものがあるか」を探る中で、指導と支援の違いについて具体的に言及できるようにする。

4．相対評価・絶対評価・自己評価・相互評価・個人内評価の意味とそれぞれの長短について

＜ポイント＞

言葉の定義にとどまらず、評価の本質的な意味をとらえてそれぞれの長短を言及する。

・学習履歴（スタディ・ログ）などの教育データを活用して指導や学習評価に活用することや教育情報のセキュリティーの重要性についても言及する。

5．指導要録記入上の留意点について

＜ポイント＞

公簿である個人情報であることを踏まえ、「評価の意味を正しくとらえた記述とは」を熟考する。

6．教材研究の必要性について

＜ポイント＞

育てたい子ども像、学習指導要領で示された指導内容、子どもと教師で創り上げる授業の創造の観点から必要性に迫る。

教科書

①柴田義松、他『教育の方法と技術』学文社。

②文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則編』東洋館出版社。

③稲垣忠・佐藤和紀編著『ICT活用の理論と実践　DX時代の教師をめざして』北大路書房

④『ICT活用実践事例集』文部科学省

※④は大学から配本はされないため、各自「文部科学省」のホームページよりダウンロードすること。

参考文献

天野正輝『教育方法の探求』晃洋書房。

金子光男、他『教育方法論』酒井書店。

多田俊文『教育の方法と技術』学芸図書。

小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）

生徒指導提要（平成22年3月告示　文部科学省）

科目コード	教育方法論（ICT 活用を含む）（中等教育）（２単位）	登録年次	履修方法
4770		２年	R
教員名	北林敬、深沢和彦、篠大輔、杉山憲江、須藤典征、山田哲史		
教職区分	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：「教育の方法及び技術」及び「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」		

科目概要・到達目標

「学習指導要領」の改訂により、各教科、総合的な学習の時間等の授業改善が求められている今日、教師は「よりよい授業づくり」のために、さまざまな教育方法を学ぶことが求められている。この授業では、基本的な指導方法・学習方法及び情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能について学修するとともに、その方法の効果・問題点を整理し、教育実習時の授業場面に役立つ教育の〈方法〉を身につけることを目的とする。具体的には、授業場面の事例をもとに、〈方法〉への理解を深めると同時に、その工夫・改善のあり方について検討する。その上で、グループワークによる「模擬授業」を実施し、「授業づくり」の過程における PDCA サイクル（Plan［企画］-Do［実行］-Check［評価］-Action［改善］）を体験的に学ぶ。

＜到達目標＞

1. 中学校・高等学校教諭等を目指す学生に求められる基本的な教授学習理論を理解し、重要な用語について説明することができる。
2. 基本的な指導方法・学習方法を理解した上で、教育現場で実践されている ICT の活用事例や情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進を学び、「模擬授業」において実際にその方法論にもとづいた指導案を作成し、授業を展開することができる。
3. 自ら実施した「模擬授業」の問題点を検討し、次の授業に生かすことができる。

学修内容

1	人間にとって学ぶとはどういうことかについて資料を読み、「学ぶ人」と「学べない人」の違いを考察し、「学び」について自らの考えをタブレットや PC 等に表現してみる。そして学ぶこととの関係を踏まえて教育の方法や技術がなぜ必要なのかについて理解を深める。その際に教育の方法や技術にはどのような特質があるのかについて整理し、自らの言葉で説明できるようにする。
2	よりよい授業は「子供の学び」を大切にし、探究に必要な「問い」を生み出す「教材」等、授業の方法や技術が大切であることを確認し、理解を図る。中学校学習指導要領解説総則編をインターネットで検索し、「主体的・対話的で深い学び」の趣旨の理解を深め、従来の指導法の改善を進めることの重要性を理解する。
3	学習指導要領に示された「学習の基盤となる資質・能力」としての、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力について調べ、これからの生徒の能力・資質向上図る、中学校教育が目指す「令和の日本型教育」の学びを理解する。
4	授業構想と計画の具体化を目指す指導案の意味についてよく理解し、指導案の書き方のポイントや手順、またそれを支える教材研究の方法を身に付ける。そして、その中でも特に教材解釈の３つのレベルの違いについて整理し、授業展開の「核」をどのようにして作り出すのかについて考察する。
5	SOCIETY5.0 の社会に生きる子供たちの「個別最適な学びと協働的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための ICT の利活用によって授業はどのように変わるのかについて理解を深め、授業の方法や指導技術の中で時代の移り変わりによって変化していく部分と変化しない部分の違いについて考察し、自分の言葉で説明できるようにする。また、学校運営への活用により、働き方の変化について理解する。
6	学習障害（ＬＤ）はじめ、特別に支援が必要な教育について、特別支援教育の概要を学習指導要領解説総則編や生徒指導提要など参考資料を基に理解する。そして実際の教育現場での特別支援教育のうち、学習障害（ＬＤ）を例にとり、早期に見つけ出すことができるようにするために教科書に出てくる学習障害（ＬＤ）児の事例を参考にして学習障害（ＬＤ）児の行動の特徴について理解を深め、学習障害（ＬＤ）児と接する時にどのように対応し、それらの特別の支援を必要とする者に対して情報通信技術を効果的に活用した指導についても自らの考えをまとめておく。
7	授業における「ことば」の意味について理解を深め、発問の技法について学ぶ。その際に具体的な授業場面をインターネットで事例を集め、想定して、専門とする教科に関する発問をいくつか作り出し、よい発問かどうかについて検討する。
8	情報通信技術の活用と意義の理論 1 ～現代社会における ICT の役割と導入～ 視聴覚メディアやコンピュータの歴史的展開や現代社会における ICT の役割、視聴覚メディア・コンピュータの教育への導入、教育における先端技術とデジタルコンテンツについて学ぶ。
9	情報通信技術の活用と意義の理論 2 ～教師の ICT 活用指導力と先端技術とデジタルコンテンツの活用～ 教育における先端技術の活用（AI、VR など）を確認し、教師に求められる実践的な ICT 活用指導力を身につけるためにはどうするか、テキストで理解する。
10	特別支援・幼児教育における ICT 活用 特別の支援教育や幼児教育の現場において、ICT がどのように活用されているか整理し、さらに問題点についても学ぶ。また、幼稚園教育要領での ICT 活用はどのようになっているか、デジタル絵本などの活用法を学ぶ。
11	個別最適な学びと対話的な学びを深める ICT の活用と遠隔授業 対話的な学びを深める ICT の活用の具体例と重要ポイントを確認する。現在、遠隔授業が急速に普及しているが、メリットとデメリット、学びの保障について確認する。

12	生徒のICT活用状況と教科の資質・能力及び情報処理活用能力の育成 現在の生徒のICT活用の状況を整理し、学校への展開状況を調べる。また、各教科における情報活用能力や指導事例を、教科書を読んで理解する。
13	生徒の情報活用能力の育成～プログラミング教育～ なぜプログラミング教育が必要なのか、学校現場で使用されている主なプログラミング言語と大まかな使い方を整理する。また、中学校、高校ではどのようなプログラミング教育があるか理解する。
14	児童生徒の情報活用能力の育成～情報モラル・セキュリティとメディアリテラシー～ ICTを積極的に活用する際に求められる情報モラル・メディアリテラシーを児童にどう教えるか、留意点等を理解する。
15	教育評価をする意味について考えを深め、様々な教育評価の方法を理解する。そして専門とする教科における実際の学習場面を想定し、その場面においては、どのような評価方法を用いるのが妥当なのかについて検討し、自らの考えをまとめておく。現在の日本の学校における教育評価のあり方を「児童生徒の学習評価の在り方」（報告）をもとに調べ、その理念や課題について考察し、実際に教師になった際に記入できるように特に指導要録の様式や記入方法に関して理解を深める。学習履歴（スタディ・ログ）などの教育データを活用して指導や学習評価に活用することや教育情報のセキュリティーの重要性について操作・話合いをする。
学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点） F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　児童生徒の立場に立っての分かる（分からせる）授業を最近の教授・学習理論、教材研究、児童・生徒理解等を観点にして述べよ。

＜ポイント＞

それぞれの観点を学校の現状を考慮しながら、理解すること。さらに、文部科学省、教育委員会で提唱している分かる（分からせる）授業（例えば体験的な学習や課題解決的な学習を重視するなど）を理解し、昨今の学校の状況に併せて述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．教育方法とは何か、教育方法の原理とは何かについて

＜ポイント＞

教育の方法・技術が必要な理由を理解し、子どもの発達や学習との関係を踏まえて、教育の方法・技術の特質について説明することができる。

2．教授・学習理論の変遷について

＜ポイント＞

教授・学習理論がどのように発達してきたのかについて理解し、特に最近の教授・学習理論を授業の構成と計画を行う際に活用することができる。

3．教材研究の必要性について

＜ポイント＞

教材研究の必要性について理解し、教材研究や教材発掘の方法を身に付ける。

4．児童生徒理解について（子供の個性や能力の把握、情緒不安定児、ＬＤ児等）

＜ポイント＞

各子どもの個性や能力、特性を正しく把握し、個に応じた教育のあり方について理解する。

5．学校現場におけるICTを活用した授業の方法について

＜ポイント＞

学校現場（幼児教育、小学校、中・高）におけるICT活用の事例はどのようなものがあるか、良い点と課題を説明できるようにする。ICT活用を行ううえで教師にどのような資質が求められるか、またメディアリテラシーやセキュリティへの配慮についても説明できるようにする。

6．教育評価と指導方法について

＜ポイント＞

教育評価の意義や教育評価の方法を理解し、それを踏まえた指導を行うことができる。

教科書
①松平信久、他『教育の方法・技術』教育出版。 ②稲垣忠・佐藤和紀編著『ICT 活用の理論と実践 DX 時代の教師をめざして』北大路書房 ③『ICT 活用実践事例集』文部科学省 ※③は大学から配本はされないため、各自「文部科学省」のホームページよりダウンロードすること。
参考文献
佐伯胖『「学び」の構造』東洋館出版 細谷俊夫『教育方法　第4版』岩波全書。 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 生徒指導提要（平成 22 年 3 月告示　文部科学省）

科目コード	教育方法論（情報処理を含む）（初等教育）（２単位）	登録年次	履修方法
4071/4074		２年	ＳＲ
教員名	石﨑達也、攪上哲夫、金子康一、篠大輔、 須藤典征、杉山憲江、松村久美子、望月之美、山本孝司		
教職区分	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		

科目概要・到達目標

本科目は、教育職員免許法で定められた「教育に関する科目」のひとつである「教職課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。一般に教育方法とは、教授・学習の方法を意味し、学校で行う全ての教育指導が含まれる。ここでは、教育方法の原理と基本、学習指導案の意義と作成手順・教材研究などを含む授業論、学習形態や教育評価などについて学ぶ。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	教育方法やその原理【科目終了試験学修のポイント１】について理解する。その際、「教育」という言葉の定義を出発点とし、生涯教育の中の、学校教育における教育にかかわる理念や方法について言及できるようにする。	・教育の定義について話し合い、発表する。 ・教育方法の意義と学びとの関係を考え、自己の教育に対する考えを整理する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
2	「西洋教育史」について、教科書（教育学のポイント教育の方法と技術　）pp.7-28 等で概観する。 古今東西の教育思想に触れることで、多方面からの「教育」のとらえと、それを具体化する方法論を理解する。	学ぶとはどういうことかを考えるとともに、学びの発達についてグループで考え発表する。少人数グループでまとめた意見を書画カメラを使って発表する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
3	「日本教育史」について、受講者同士で資料を交換し合い、理解する。この学習を「学習指導要領の歴史的変遷」につなげて考察できるようにする。	・「問いと学び」を読んで、学ぶとはどういうことかを考えるとともに、学習指導要領で重視されている「言語活動の充実」との関連についてグループで話し合い、書画カメラを使って発表する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
4	「学習指導要領の歴史的変遷」について、教科書 pp.40-43 等で理解する。その際、改訂年度を中心とした社会的背景や、教育に求められているものをおさえ、教育課程論、学力論、教育方法論、評価論等について理解する。その上で「指導と評価」の関連をとらえ、指導と支援【科目終了試験学修のポイント２】の理解につなげる。	・子どもたちの実態から考えられる教育課題解決のために、どうすればよいのか考えるとともに、国はどのような考えで教育を進めようとしているのか学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
5	「教育課程編成の原理と諸類型」について、教科書 pp.34-37 等で理解する。教育史や学習指導要領の変遷で学んだことを生かし、教育課程を編成することの意味と役割について理解を深める。	・子どもの現状や現代学校教育の課題について知るとともに、授業の質を高めるために「主体的・対話的で深い学び」など、改善の方向を考え、国の動向について理解する。書画カメラを使って発表する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
6	「学校の教育課程編成」について、教科書 pp.38-39 等で理解する。教育課程の三層構造を踏まえた上で、学習指導要領、各地域の教育委員会が示す教育課程編成のガイド、各学校が編成する教育課程、各教師が計画実践する教育課程について、互いに資料を持ち寄るなどをして理解を深める。	・学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」のほかに、どのような教育方法を用いることを提案しているかを調べ、情報教育の在り方について，グループで話し合い，発表する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
7	「授業の構造と意義」について、教科書 pp.66-73 等で理解する。授業の意義を踏まえた上で、授業の目標づくりや学習指導案の作成【レポート設題】について理解を深め、模擬授業や教育実習で生かすことができるようにする。	・よい授業を行うために、授業の構成要素について、学生の体験を基に、ループで構成要素を考えさせ、その根拠についてまとめ、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
8	「問題解決学習」について、教科書 pp.74-79 等で理解する。その際、問題解決学習の実践例を持ち寄るなどをして考察したり、受講生自ら課題を設定し、実践、評価、改善を練ったりして実践力育成につなげる。	問いをもつことが学びの原点であることから、問いをどのように解決するのかを経験を基に話し合い、望ましい学習の方法を考え合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)

9	「展開のある授業」を生み出すための「教材研究」【科目終了試験学修のポイント６】について教科書 pp.80-83 等で理解する。子ども理解に始まり、教材のもつ力を把握した上で、対立を創り出す展開のある授業を構築できるようにする。	・良い授業を作るための条件として、教材教具の取扱、情報機器の活用、コンピュータ、電子黒板、デジタル教科書等の活用上の配慮事項, その他の条件作りについて調べ、授業の効率を話し合う、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
10	「授業中の発問と説明」について、教科書 pp.87-90 等で理解する。「展開のある授業」創造の核になる発問の種類と機能について、また、説明の役割と方法について深く理解する。	・教師の姿勢態度や教師の働きかけの重要性について，資料を調べ、グループで話し合い，まとめを発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
11	「学習活動の個別化」と「ティーム・ティーチング」【科目終了試験学修のポイント３】等の教育技術について、教科書 pp.91-118 等で理解する。集団での練り合いよさを図る中で、一人ひとりに応じた指導の在り方を探る。	・授業の構想、授業の設計段階で重要な知識についてしらべ、グループで大切なことについて話し合い、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
12	「学習効率を高めるための教育技術」について、教科書 pp.119-126 等で理解する。板書・ノート指導・学び方学習・反復練習等、実践例を持ち寄ったり、演習をしたりすること等で理解を深める。	主体的･対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を行うための方策について調べ、授業改善には教員の創造的な工夫が必要であることについてまとめる。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
13	「学力と教育評価」【科目終了試験学修のポイント４】について、教科書 pp.131-144 等で理解する。学力とは何かをおさえた上で、相対評価・絶対評価・自己評価・相互評価・個人内評価の意味とそれぞれの長短について言及できるようにする。	・授業の評価について，目標の実現度のはかり方や児童への生かし方について調べ、目標に準拠した評価の良い評価についてまとめ、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
14	「指導要録」【科目終了試験学修のポイント５】について、教科書 pp.119-126 等で理解する。学修内容１３の理解を踏まえ、公簿である指導要録の意義と役割、作成上の留意点の理解を深める。	「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」の概要を調べ、学習評価や評定が適切に行われるための工夫について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
15	望ましい授業の在り方を探る学習指導案の作成と模擬授業」について、教科書 pp.127-130 等で理解する。できるだけ多くの模擬授業の交換が出来るようにする。その際、授業記録の取り方やそれに基づいた授業分析の実際についての理解も深める。本講義の学修内容１～１４の集大成になるようにする。	・授業の計画・設計・実施・評価等、授業の構成要素について、自分なりの考えをまとめ、発表する。 ・教育方法論で得た学びを整理する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
		面接授業：合計 15 時間	

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 <評価点>　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 学習指導案（または指導計画）の意義と作成上留意しなければならないことについて述べよ。

＜ポイント＞

学習指導案の意義を考えることは授業の内容を考えることでもある。何をどのように指導するか。どのようなことに配慮して指導案を作成すべきかを述べることが重要であり、一人ひとりの子どもの学習状況の実態・理解度を踏まえた指導案はどのようにして作成するのかについて述べる必要がある。

※自分が取得を希望する免許課程に則して作成すること。

※保育士資格のみ取得希望者は「保育原理」の教科書なども参考とし、保育士の指導計画について述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．教育方法とは何か、教育方法の原理とは何かについて

＜ポイント＞

「教育とは何か」をいくつかの参考資料から自分なりに定義することから、教育方法やその原理に迫る。

2．指導と支援について

＜ポイント＞

学習指導要領の変遷をたどる中で、教師の教育的行為を見極める。さらに、「授業中の教師の役割にはどんなものがあるか」を探る中で、指導と支援の違いについて具体的に言及できるようにする。

3．ティーム・ティーチングの内容と実施上の留意点について

＜ポイント＞

T・Tが取り入れられるようになった背景から、その内容と実施上の留意点を探る。

4．相対評価・絶対評価・自己評価・相互評価・個人内評価の意味とそれぞれの長短について

＜ポイント＞

言葉の定義にとどまらず、評価の本質的な意味をとらえてそれぞれの長短を言及する。

5．指導要録記入上の留意点について

＜ポイント＞

公簿である個人情報であることを踏まえ、「評価の意味を正しくとらえた記述とは」を熟考する。

6．教材研究の必要性について

＜ポイント＞

育てたい子ども像、学習指導要領で示された指導内容、子どもと教師で創り上げる授業の創造の観点から必要性に迫る。

教科書

柴田義松、他『教育の方法と技術』学文社。

文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則編』東洋館出版社。

参考文献

天野正輝『教育方法の探求』晃洋書房。

金子光男、他『教育方法論』酒井書店。

多田俊文『教育の方法と技術』学芸図書。

小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）

生徒指導提要（平成22年3月告示　文部科学省）

科目コード	教育方法論（情報処理を含む）（中等教育）（２単位）	登録年次	履修方法
4070		1年	R
教員名	北林敬、篠大輔、杉山憲江、須藤典征、山田哲史		
教職区分	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		

科目概要・到達目標

一般に教育方法とは、教授・学習の方法を意味し、生徒指導を含め、学校で行う全ての教育指導を考える。ここでは、教育の方法・技術の特質、教授・学習理論の変遷、子供の学びと教師の指導方法、学校、教師の意識改革、子供側に立った指導方法、地域の人材活用、コンピュータを利用しての指導方法、学習指導案の作成などについて理解する。

学修内容

1	人間にとって学ぶとはどういうことかについて考察し、自らの考えをまとめる。そして学ぶこととの関係を踏まえて教育の方法や技術がなぜ必要なのかについて理解を深める。その際に教育の方法や技術にはどのような特質があるのかについて整理し、自らの言葉で説明できるようにする。（教科書・1章）
2	授業の方法や技術で何が大切なのかを理解し、よりよい授業を行う力を身に付ける。そして自らが理想とする授業像と教科書内で示されている理想とする授業像とを対比し、共通点と相違点を明確にする。さらにその共通点と相違点を自らの言葉で記述できるようにする。（教科書・2章）
3	指導案を書く意味についてよく理解し、指導案の書き方のポイントや手順、またそれを支える教材研究の方法を身に付ける。そして、その中でも特に教材解釈の３つのレベルの違いについて整理し、授業展開の「核」をどのようにして作り出すのかについて考察する。（教科書・3章）
4	教師の「教える」という行為と学習者の「学ぶ」という行為の関係性を理解し、授業を構成する力を身に付ける。そして様々な学習形態の特徴をよく理解し、具体的な学修内容や学習場面を想定して、それに適した学習形態を選択できるように考察を深める。（教科書・4章）
5	教材づくりのあり方と教材発掘の視点について理解を深める。その中でも《ある教材》と《つくる教材》との違いについて考察し、《つくる教材》がどのようにして生み出されるのかについてよく整理し、専門とする教科で実際に《つくる教材》の発掘を行う。（教科書・5章）
6	教授メディアの変遷やニューメディアの放送系・通信系・単体系の具体的な内容について理解を深め、教科書には記載されていないメディアについてもインターネット等を活用して調査する。そして具体的な授業場面を想定し、そこに適したメディアの活用について考察する。（教科書・6章・1）
7	ニューメディアの発達によって授業はどのように変わるのかについて理解を深め、授業の方法や指導技術の中で時代の移り変わりによって変化していく部分と変化しない部分の違いについて考察し、自分の言葉で説明できるようにする。（教科書・6章・2）
8	高度情報化社会とコンピュータ（主にパソコン）の特性について理解する。そしてコンピュータ（主にパソコン）を活用した授業の在り方について考察を深める。（教科書・7章・1、2）
9	コンピュータの様々な活用方法を整理し、実際の教育の現場で使用できるようにコンピュータの教育利用と教師の役割について理解を深める。（教科書・7章・3、4）
10	学習障害（ＬＤ）の定義やその要因について整理する。そして実際の教育現場で学習障害（ＬＤ）を早期に見つけ出すことができるようにするために教科書に出てくる学習障害（ＬＤ）児の事例を参考にして学習障害（ＬＤ）児の行動の特徴について理解を深める。（教科書・8章・1、2）
11	学習障害（ＬＤ）に対する対応や指導のあり方について理解を深め、実際の教育現場において学習障害（ＬＤ）児と接する時にどのように対応し、指導するのかについて自らの考えをまとめておく。（教科書・8章・3、4）
12	教材研究や授業展開における教師の力量について理解し、教師力を高めるために、現在の状況でも実践できることを書き出し（例えば教科書に記されている「教師は自らの教養や美意識を育てなければならない」という言葉から日々実践できることを書き出す）、実際に行ってみる。（教科書・9章・1、2）
13	授業における「ことば」の意味について理解を深め、発問の技法について学ぶ。その際に具体的な授業場面を想定して、専門とする教科に関する発問をいくつか作り出し、よい発問かどうかについて検討する。（教科書9章・3）
14	教育評価をする意味について考えを深め、様々な教育評価の方法を理解する。そして専門とする教科における実際の学習場面を想定し、その場面においては、どのような評価方法を用いるのが妥当なのかについて検討し、自らの考えをまとめておく。（教科書・10章・1、2）
15	現在の日本の学校における教育評価のあり方や課題について考察し、実際に教師になった際に記入できるように特に指導要録の様式や記入方法に関して理解を深める。（教科書・10章・3、4）

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　児童生徒の立場に立っての分かる（分からせる）授業を最近の教授・学習理論、教材研究、児童・生徒理解等を観点にして述べよ。

＜ポイント＞

それぞれの観点を学校の現状を考慮しながら、理解すること。さらに、文部科学省、教育委員会で提唱している分かる（分からせる）授業（例えば体験的な学習や課題解決的な学習を重視するなど）を理解し、昨今の学校の状況に併せて述べること。

科目終了試験学修のポイント

１．教育方法とは何か、教育方法の原理とは何かについて

＜ポイント＞

教育の方法・技術が必要な理由を理解し、子どもの発達や学習との関係を踏まえて、教育の方法・技術の特質について説明することができる。

２．教授・学習理論の変遷について

＜ポイント＞

教授・学習理論がどのように発達してきたのかについて理解し、特に最近の教授・学習理論を授業の構成と計画を行う際に活用することができる。

３．教材研究の必要性について

＜ポイント＞

教材研究の必要性について理解し、教材研究や教材発掘の方法を身に付ける。

４．児童生徒理解について（子供の個性や能力の把握、情緒不安定児、ＬＤ児等）

＜ポイント＞

各子どもの個性や能力、特性を正しく把握し、個に応じた教育のあり方について理解する。

５．コンピュータ等教育機器を活用しての授業について

＜ポイント＞

現在の高度情報化社会のあり方について理解を深め、パソコン等のコンピュータ機器を授業に活用することができる。

６．教育評価と指導方法について

＜ポイント＞

教育評価の意義や教育評価の方法を理解し、それを踏まえた指導を行うことができる。

教科書

松平信久、他『教育の方法・技術』教育出版。

参考文献

細谷俊夫『教育方法　第４版』岩波全書。
中学校学習指導要領（平成 29 年３月告示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成 29 年３月告示　文部科学省）
生徒指導提要（平成 22 年３月告示　文部科学省）

科目コード	教職実践演習（小学校）（２単位）	登録年次	履修方法
4530		４年	S
教員名	石﨑達也、伊藤京一、金子康一		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

教育実習を振り返りながら、討論、事例検討、ロールプレイ、模擬授業等を行う。
また、教育に対する使命感、責任感、子どもや保護者とのコミュニケーションや授業を行うための様々な準備について理解する。
教員として必要な資質の形成に関して、以下の４項目を具体的到達目標及びテーマとする。

１．職務に対して使命感や責任感をもち、児童に対する愛情が豊かであること。
２．教科や領域等の指導力に関して実践力を身につけること。
３．社会性や対人関係能力を適切に身につけること。
４．児童理解や学級経営等に関する基礎的な能力を身につけること。

※「教職実践演習（小学校）」（登録年次：４年次科目）は、教育実習実施済（実施中を含む）の方のみ、スクーリングの受講が可能となります。実習未実施の場合、受講は許可されませんのでご注意ください。

学修内容

1	講義概要　望ましい教師像 教育の本質
2	授業つくり、学級つくりのステップ 学校教育の現状
3	わかる授業を成立させる条件 実習のふり返り、成果と課題
4	授業を成立させる条件 児童理解と指導力
5	学級を成立させる条件 児童理解とカウンセリング
6	授業のルール 導入と評価の工夫
7	学級のルール 教師集団の中の一つ　クラスの中の一人
8	指導案と授業 実態把握と支援方法
9	模擬授業とその検討　　その１ 気になる子への対応
10	模擬授業とその検討　　その２ 気になる子への対応
11	模擬授業とその検討　　その３ 導入の工夫、途中の評価
12	より良い教師像 保護者、地域等の連携、活用
13	模擬授業とその検討 自己の支援等の見直し　その１
14	模擬授業とその検討 自己の支援等の見直し　その１
15	まとめ

教科書

講義中に配付する資料。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領』各教科等指導書。

科目コード	教職実践演習（中・高）（２単位）	登録年次	履修方法
4540		４年	S
教員名	金子康一、栗原倢、鈴木収		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

大学でこれまで学んできた理論と教育実習等で獲得してきた知識との関連や統合を図り、現代社会における諸課題を抱えた学校の教員としての資質能力を確認しつつ、さらにそれを向上させようとする意欲を培うことを目的とする。

※「教職実践演習（中・高)」（登録年次：４年次科目）は、教育実習実施済（実施中を含む）の方のみ、スクーリングの受講が可能となります。実習未実施の場合、受講は許可されませんのでご注意ください。

学修内容

1	「教職履修カルテ」に基づく自己課題の明確化について
2	□学校教育の現状と課題について □これからの教員に求められる資質・能力について（自己分析） □教員の役割と職務内容及び服務について
3	□目指す教師像について □教育実習の成果と課題の検討について（教育実習を振り返って）
4	□新学習指導要領と教育課程の編成及び指導内容・方法について □授業力の向上について（「分かる授業」の条件）
5	□授業設計と教材の準備：学習指導案の作成及び点検
6	□模擬授業：授業評価と授業研究
7	□教員組織における自己の役割 □教職員間の共同と同僚生
8	□子どもや保護者、地域の実態と連携や協力の重要性
9	□学校教育と生徒指導上の諸問題① 生徒指導の課題＜暴力行為、薬物乱用、少年非行等＞
10	□学校教育と生徒指導上の諸問題② ・不登校の理解と対応
11	□学校教育と生徒指導上の諸問題③ ・いじめの理解と対応
12	□特別な支援を必要とする児童生徒への対応 ・LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害のある児童生徒への支援
13	□生徒理解と学級経営 ・学級・ホームルーム経営の方法、進め方 ・学級崩壊への対応
14	□教育相談の実際① ・教師が行うカウンセリング ・不登校へ対応、いじめへの対応 ・キャリア教育、心理教育
15	□教育相談の実際② ・教員の資質向上のためのスキル

教科書

講義中に配付する資料。

参考文献

なし

科目コード	教職実践演習（養護教諭）（２単位）	登録年次	履修方法
4550		４年	S
教員名	石垣久美子、高橋登志子、手塚和美、八重樫節子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

養護実習を振り返りながら、討論、事例検討、ロールプレイ、模擬授業等を行う。
教員として必要な資質の形成に関して、以下の４項目を具体的到達目標及びテーマとする。
１．職務に対して使命感や責任感をもち、生徒に対する愛情が豊かであること。
２．健康教育に必要な指導力の基礎を形成すること。
３．社会性や対人関係、コミュニケーション、コーディネート能力を適切に身につけること。
４．養護活動に必要な能力や保健室経営等に関する基礎的な能力を身につけること。

※「教職実践演習（養護教諭）」（登録年次：４年次科目）は、養護実習実施済（実施中を含む）の方のみ、スクーリングの受講が可能となります。実習未実施の場合、受講は許可されませんのでご注意ください。

学修内容

1	養護実習全体の振り返り：法的位置づけ、各種答申における養護教諭に関する記述などを踏まえつつ、各自の実習体験の概要について振り返る。
2	実習校の児童生徒の健康課題：実際に学校現場に携わる中で把握した、児童生徒の健康課題について整理する。
3	学校保健年間計画：実習校の児童生徒の健康課題と実際の学校保健年間計画、学校保健活動の対応関係について検討する。
4	保健室経営計画：児童生徒の健康課題、学校教育目標、学校保健目標などを踏まえ、実習校の保健室経営計画について検討し、自らが養護教諭として勤務する場合の、保健室経営のあり方について具体的に考える。
5	健康診断：実習中に経験した健康診断について、実施計画、事前指導、事後措置の観点から検討する。
6	ほけんだより：実習中に各自が作成したほけんだよりについて、その工夫や改善点について検討する。
7	保健教育 ・実習中に経験した保健教育の実践について振り返り、指導案の再検討を行う。 ・改訂版の指導案を作成し、模擬授業を実施する。
8	健康相談・健康相談活動事例検討：実習中に観察、経験した事例について報告し、養護教諭としての対応の進め方について検討する。
9	学校救急処置事例検討：実習中に観察、経験した事例について報告し、救急処置における養護教諭の役割について検討する。
10	学校保健執務日誌と情報管理：児童生徒の健康支援につながる来室記録の整理方法や、個人情報保護を遵守した情報管理について確認し、学校内での情報共有のあり方について検討する。
11	児童生徒の発達段階とコミュニケーション：保健室内外での児童生徒との交流について振り返り、養護教諭の役割を果たすために必要な、コミュニケーション技術について検討する。
12	教職員との連携のあり方：児童生徒の健康支援において、教職員との連携が奏功した事例について振り返り、連携を円滑化させるためのポイントについて整理する。
13	保護者とのコミュニケーション：家庭の事情や価値観に配慮した指導助言のあり方について検討する。
14	地域関係機関との連携のあり方：児童生徒の健康支援において連携可能な地域専門機関を挙げ、経験事例の中での支援体制の構築について検討する。
15	これからの時代に求められる養護教諭 ・大学での学びや養護実習での体験を総括し、自らの目指す養護教諭像を明確化する。 ・各種答申や法的位置づけを踏まえ、時代の要請に応えることのできる養護教諭となるために、今後研鑽をつむべき事項について整理する。

教科書

講義中に配付する資料。

参考文献

なし

科目コード	教職実践演習（幼稚園）（２単位）	登録年次	履修方法
4520		４年	S
教員名	河合光利、駒井美智子、鈴木美子、畠山むつ実、御手洗和子、持田京子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

教育実習での体験を主たる題材として、子育て支援のあり方の幅広い可能性に重点を置いて「こどもの専門家」としての職業意識を養う。教育実習体験での具体的な事例、課題についてグループで課題を設定し、学習を行うことを通じて問題解決の総合能力を養う。

※「教職実践演習（幼稚園）」（登録年次：４年次科目）は、教育実習実施済（実施中を含む）の方のみ、スクーリングの受講が可能となります。実習未実施の場合、受講は許可されませんのでご注意ください。

学修内容

1	保育者の専門性とは何か
2	教育実習においての問題点と今後の課題について
3	児童福祉行政における問題点について① 児童虐待
4	児童福祉行政における問題点について② 多文化保育
5	児童福祉行政における問題点について③ 統合保育・その他
6	児童を取り巻く問題点について（教育・適正支援とは）
7	幼児文化教材の理論について（教材とは）
8	幼児文化教材の制作（興味性、教育性、児童性について）
9	幼児文化教材の制作（問題解決を備えた教材制作となるように考える）
10	幼児文化教材の制作（問題解決を備えた教材制作となるように実際に作成する）
11	幼児文化教材発表会…「演ずるとは何か」
12	保育者に求められる質とは何か 「職務に対しての使命感・責任感、社会性・対人関係能力」の観点から
13	保育者に求められる質とは何か 「幼児の理解・学級経営」の観点から
14	保育者に求められる質とは何か 「保育内容の指導力」の観点から
15	保育者の質と組織活性化とは何か。

教科書

教員の配付する資料。

参考文献

関口はつ江、岸井慶子『実践理解のための保育内容総論』大学図書出版。
駒井美智子『幼児文化教材理論と実践』大学図書出版。
佐藤達全、駒井美智子、他『幼稚園・保育園の実習パートナー』大学図書出版。

科目コード	教師論（２単位）	登録年次	履修方法
4010/4011		１年	ＳＲ
教員名	池野正晴、石渡宏、伊藤京一、北林敬、栗原倢、杉山憲江、 西脇雅彦、廣田須美子、松村久美子、山田哲史		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項:教育の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		

科目概要・到達目標

変化の激しい今日の社会において、学校教育においても様々な課題が生じている。この課題を解決するために、学校教育の主たる担い手である教員の役割が今まで以上に重要になっている。本科目では、教職とは何か、これからの教員に求められる資質は何か、教員の仕事と役割はどのようなものか、教員の権利や義務（服務・研修・身分保障などを含む）はどのように規定されているのかなど、教職を志す学生があらかじめ知っておく必要のある事項について考察する。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	教師の歴史と教職観について　＜教科書 pp. 2-9＞ 教師と教員の相違点や共通点について理解するとともに、歴史的な経緯に注目し、広く教師という職業に対する人々のとらえ方がどのように変化していき今日に至っているのか理解する。	第１章第１節　＜教科書 pp. 2-9＞ ◇教師の歴史と教職観について学ぶ 教職を目指した理由や過去に接してきた教員の人となり、仕事ぶりを通じてもっている教師像の内容について出し合い、知っている範囲での教師の仕事についてまとめ、望ましい教師像を発表するとともに、教職についての知りたいことを発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	教職制度と教員に求められる資質について　＜教科書 pp.10-24，pp.176-180＞ 教員養成をめぐる歴史的経緯についての大要を理解するとともに、昨今の審議会答申において見られる教員に求められている資質について理解する。	第１章第２節, 第５章第１節 ＜教科書 pp.10-24, pp.176-180＞ ◇教職の制度について学ぶ ◇教員に求められている資質について学ぶ ◇教職課程とその履修方法について学ぶ 国や各都道府県が求める教員の資質や能力を調べ、自分たちが描いていた教師像との違いや共通性について話し合い、発表を通して教員の役割について新たな知識をもつ。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	学校を取り巻く環境と教職の課題について　＜教科書 pp.25-34，pp.82-90＞ 教師が直面している学校における諸問題や教師自身が抱えている諸問題について注目し、教師の職業的な役割について検討する。	第１章第３節,第２章第７節 ＜教科書 pp.25-34,pp82-90＞ ◇教師の役割と葛藤について学ぶ ◇教職の課題について学ぶ ◇学級崩壊と教員について学ぶ いつの時代にも教員に求められる資質・能力は高い要求がされていることを資料の読み取りを通して確認するとともに、なぜ高い要求がされているのかグループで考え、発表する。また、教員の仕事と他の職業の違いについて比較し、教員の仕事の特徴を知る。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
4	学習指導要領について　＜教科書 pp.124-132＞ 学習指導要領とは何か、学習指導要領の変遷、学習指導要領の法的拘束力、学習指導要領と教科書の関係など、教員と学習指導要領のかかわりについて理解する。	第３章第３節　＜教科書 pp.124-132＞ ◇学習指導要領とその変遷について学ぶ ◇学習指導要領と法的拘束力について学ぶ 各種の資料から教員になる資格要件を調べ、教職の果たす役割の重要性について話し合い、考えを発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
5	教員の研修について　＜教科書 pp.104-112＞ 教員の資質能力の形成過程、初任者研修の仕組み、教員研修の実施体系、研究制度の法的根拠について注目し、教員に研修が求められる必然性を理解する。	第３章第１節　＜教科書 pp.104-112＞ ◇教員の資質能力の形成と研修について学ぶ 教員が学び続けることができるための研修の権利と義務が与えられていることを調べ、その制度を有効に使って自らの資質・能力の向上を目指す努力をどのように進めるかについて話し合い、発表し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
6	教員の服務と身分保障について　＜教科書 pp.113-123＞ 教育公務員としての教員が職務を遂行する上で服さなければならない服務規程や教員の身分の法的保障の現状について理解する。	第３章第２節　＜教科書 pp.113-123＞ ◇教員の服務規程と身分保障について学ぶ 教員が仕事を進めるに当たっての関係法規を調べ、それらが定められている意義について考えるとともに、「児童の教育をつかさどる」の解釈について話し合い、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）

7	教員の種類と職階について　＜教科書 pp.36-40＞ 　学校教育法第37条に規定する教員の種類や勤務形態、それぞれの立場における職務内容の概要、教員の職階の仕組みや特徴について理解する。	第2章第1節　＜教科書 pp.36-40＞ ◇教員の職種と職階について学ぶ --- 学校長の職務権限を調べるとともに、地方公務員法や教育公務員特例法などをしらべ、教員には服務上・身分上の義務があることを理解し、教員としての自覚を持つ努力をどのように進めるか話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
8	学級経営・学校経営・校務分掌について　＜教科書 pp.66-73＞ 　学級経営の条件や学校経営の視点、校務分掌の組織の例について注目し、教員が学校という組織体においてどのような役割をはたしているのか理解する。	第2章第5節　＜教科書 pp.66-73＞ ◇学級経営・学校経営・校務分掌について学ぶ --- 学級担任の職務には，学習指導や生徒指導など多くの仕事があることを学級経営案を基に調べ、どのような姿勢で職務に取り組むことが大切か話し合い、まとめを発表し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
9	教科指導と教科外指導について　＜教科書 pp.41-55＞ 　教科指導および教科外指導、指導計画、教材研究、教科指導の評価、教科外指導の課題など、学校の教育活動を展開する際の前提として必要な事柄を理解する。	第2章第2節3節 ＜教科書 pp.41-55＞ ◇教科指導の意義・方法・形態・評価について学ぶ ◇教材研究と学習指導案の作成について学ぶ ◇教科外指導の特質・目的・方法・課題について学ぶ --- 学習指導を進めるに当たっては、学校の教育目標を実現することや学習指導要領に基づいて職務遂行することを調べ、生きる力を育てる学習指導をどのように進めたらよいか話し合い、考えを発表し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
10	教育相談・進路指導と教員について　＜教科書 pp.56-65，pp.74-81＞ 　教育相談の活動、不登校やいじめへの対処、組織的な連携の必要性の理由、進路指導の業務、進路保障の問題、ホームルームにおける指導、キャリア教育との関連について理解する。	第2章第4節6節 ＜教科書 pp.56-65,pp.74-81＞ ◇進路指導の意義・目標・方法について学ぶ ◇教育相談と不登校・いじめへの対処について学ぶ --- 児童が楽しく生き生きと学校生活できるためには、支持的風土作りが重要である事を調べ、担任として学習指導と生徒指導に対してどのように取り組むことが望ましいのか話し合い、発表し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
11	保護者・地域・関係機関と教員について　＜教科書 pp.91-101＞ 　学校園が保護者をはじめ、地域や関係機関との関係づくりをしていく上でのあり方やその背景にある諸事情について理解するとともに、求められているチーム学校運営のあり方について理解する。	第2章第8節　＜教科書 pp.91-101＞ ◇保護者・地域・関係機関との関係づくりについて学ぶとともに、現在求められているチーム学校運営の在り方について理解する。 --- 学校が教育成果を創出するためには，組織の一員として教育課題に取り組みが求められていることについて調べ、教員としてどのような態度形成が望まれるかについて話し合い、考えを発表する。 学校は，児童の健全な育成のために，過程や・地域・関係諸機関とどのように連携していけばよいのか、チーム学校運営のあり方について，調べ、まとめる。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
12	初等教育と教員について　＜教科書 pp.134-149，pp.169-174＞ 　幼稚園教育の基本と特性、幼稚園教員の特性とあり方、小学校教育の基本と特性、小学校教員の特性とあり方、特別支援教育の教員についてそれぞれ理解する。	第4章第1節第2節第5節 ＜教科書 pp.133-149,pp169-174＞ ◇幼稚園の教員・小学校の教員について学ぶ ◇特別支援学校の教員について学ぶ --- 小学校教育と幼児教育の違いを調べ、発達の連続性を確保するために、小学校教員として幼児教育から引き継ぐものは何か話し合い、まとめる。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
13	中等教育と教員について　＜教科書 pp.150-168，pp.169-174＞ 　中学校教育の基本と特性、中学校教員の特性とあり方、高等学校教育の目的と目標、中学校と高等学校の接続、高校教員としての資質、特別支援教育諸学校で学ぶ児童生徒、等について理解する。	第4章第3節第4節第5節 ＜教科書 pp.150-174＞ ◇中学校の教員・高等学校の教員について学ぶ ◇特別支援学校の児童生徒について学ぶ --- 小学校教育と中・高等教育との違いを調べ、小学校教育で充実させておかねばならないことについて話し合い、まとめる。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)

14	教職員の法規について　＜教科書 pp.187-236＞ 教育基本法、地方公務員法、教育公務員特例法、学校教育法、学校教育法施行令、学校教育法施行規則、教育職員免許法などの法規の概要について理解しておく。	資料編 ＜教科書 pp.187-236＞ ◇教育基本法・地方公務員法・教育公務員特例 法・学校教育法・学校教育法施行令・学校教育法施行規則・教育職員免許法等の教育法規について学ぶ 教員の職務は各種の法規で規定されていることを理解し、職務遂行を行うこと、教諭の職務も規定されていることを理解し、教諭の役割について話し合い、まとめる。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
15	教職の適性について　＜教科書 pp.181-186＋まとめ＞ 豊かな心と専門性、職務と研修をはじめ、1 から 14 までに学習した事柄をふまえ、教職の適性にはどのようなことが考えられるか、自らの言葉で整理しておく。	第 5 章第 2 節 ＜教科書 pp.181-186＞ ◇教職とその適性について学ぶ これまでの学習を振り返りまとめ、今後の進路選択に当たり，大学生活をどのように送っていくのかについて話し合い、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
		面接授業：合計 15 時間	

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 題につき 7～8 枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題 1】 これからの教員に求められる資質能力について、具体例を挙げて述べよ。
＜ポイント＞
これからの教員には、教員の職務内容から必然的に求められる資質能力のほか、広い視野に立って行動するための資質能力や、教職という専門的職業に従事する社会人として必要な資質能力が求められる。これらの観点に立って、考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．教員は聖職者か、労働者か、専門職か
＜ポイント＞
教員、教師、聖職者論、労働者論、専門職論、などをめぐる内容を理解する。

2．教員の役割と職務内容について
＜ポイント＞
学級経営、学校経営、校務分掌、教科指導、教科外指導、教育相談、進路指導、などをめぐる内容を理解する。

3．教員の服務と身分保障について
＜ポイント＞
服務の根本基準、職務上の服務、身分上の服務、身分保障、などをめぐる内容を理解する。

4．教員の研修について
＜ポイント＞
教員に求められる資質能力、現職研修、などをめぐる内容を理解する。

5．教員の適性について
＜ポイント＞
豊かな心、専門性、職務、研修、などをめぐる内容を理解する。

6．教職をめぐる諸課題について
＜ポイント＞
教師の自律性・専門性・職業的社会化、燃えつき症候群、学級崩壊、教育改革、などをめぐる内容を理解する。

教科書

宮崎和夫『教職論』ミネルヴァ書房。

参考文献

岡田正章、他『教育原理・教職論』酒井書店・育英堂。
髙倉翔『これからの教師』建帛社。
田原恭藏、他『教育概論』法律文化社。

科目コード	教養基礎演習Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
1007		１年	R
教員名	小野智一、成田成		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、「教養」を身につけるための一環として、①国語問題（間違えやすい漢字や熟語、文学史、読解など）、②計算問題（数学、物理、化学、数的推理など）、③英語問題（間違えやすい単語や熟語、ことわざ、長文読解、英作文など）、④資料問題（グラフや表からの情報の読み取りなど）を解いたり、⑤小論文（自己紹介文、報告書、感想文など）を作成したりしながら、基礎学力を身につける。また、それらの問題を解くための技法や留意点などについて理解し、応用力を高める。さらに、「教養」とは何かを再確認し、それを身につけることの意義についても考察する。

学修内容

1	教養というと、主要５科目の知識を身につけることを連想する人も多いかもしれないが、まずは辞書などで調べてみよう。実際に調べてみると、新たな発見があり、奥が深いことに気づく筈である。
2	教養を身につけることの意義については、その人の職種、価値観、人生観などによっても異なる筈である。したがって、他者の意見を参考にしながらも、自分の考えをまとめてみることが重要である。
3	国語問題を解くための技法や留意点については、実際に問題を解いてみないと実感が湧かないものである。このように、体験的な学習をすることによって、独創的な技法や留意点が見えてくる筈である。
4	国語問題では、間違えやすい漢字や熟語、出題頻度の高い文学史、読解力を試す問題などについて、具体例を挙げながら分かりやすく説明できるようにしてほしい。
5	国語問題を数多く解いていくと、素晴らしい問題に出くわすことがある。そのような印象に残る問題については、多くの技法や留意点が含まれている場合が多いので、何度か読み返してみるとよい。
6	計算問題については、基礎から応用までさまざまである。また、数学はもちろん、物理、化学、生物、地学、数的推理、経済などの分野でも出題されているので、視野を広げて考えてほしい。
7	計算問題では、グラフや分数を用いたりすると、理解しやすくなる場合がある。このように、基本的な技法が応用問題などを解く際に役立っている場合があることを知ってほしい。
8	多くの計算問題を解いていると、芸術的ともいえる良問に出くわすことがある。そのような例を見つけた場合には、その具体例を紹介して頂きたい。
9	英語問題については、得意な人と苦手な人との差が大きい。それだけに、試験で差がつきやすい科目であるともいえる。グローバルな時代になった今日だけに、力を入れて取り組んでほしい。
10	英語問題は、単語、熟語、長文読解、英作文などに分類できる。それぞれの問題を実際に解いてみて、気がついたことをまとめていくと、それらを解く際の技法や留意点が見えてくる筈である。
11	資料問題には、表やグラフが用いられる場合が多いが、それぞれの特色を理解することによって、新たな答えが導き出されることがあることを知ってほしい。
12	資料問題といっても、経済、数学、化学、生物など、さまざまな分野で使用されているのが現状である。これらの問題を実際に解いてみると、問題を解くための具体的な技法や留意点が見えてくる場合が多い。
13	小論文については、その目的によって、書き方に大きな違いが出てくる。例えば、単位取得のための試験では授業内容に合った答えが要求される場合が多く、就職試験では志望動機や仕事への熱意が伝わる内容が期待されている。
14	他人の小論文を読んでいると、それぞれの長所や短所が見えてくる場合が多い。また、実際に添削指導をしてもらうと、新たな技法や留意点が見えてくる場合も多い筈である。
15	社会人基礎力とは何だろう。その解釈の仕方は人によって異なると思うが、それぞれの立場で失敗を恐れずに論じていくことが重要である。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 「教養」を身につけることの意義について述べよ。

＜ポイント＞

「教養」とは何かを再確認してほしい。また、そのような「教養」がなぜ必要なのか、それを身につけることにどういう意義があるのかについて、さまざまな視点から自由に論じてほしい。

科目終了試験学修のポイント

1．国語問題を解くための技法や留意点について
2．計算問題を解くための技法や留意点について
3．英語問題を解くための技法や留意点について
4．資料問題を解くための技法や留意点について
5．小論文を作成するための技法や留意点について
6．「教養」と「社会人基礎力」との関係について

＜ポイント＞

教科書や参考文献だけにとらわれずに、自分自身の経験などを盛り込むこと。

教科書

公務員試験専門 喜治塾 『無敵の地方公務員初級過去問クリア問題集』 高橋書店。

参考文献

保育士試験研究会『保育士就職試験問題集』実務教育出版。
東京アカデミー『教員採用試験　一般教養』七賢出版。

科目コード	教養基礎演習Ⅱ（2 単位）	登録年次	履修方法
1008		2年	R
教員名	小野智一、成田成		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、広く基礎科目を学習することにより、大学卒業程度の深い教養を身につけ、公務員および一般の就職試験や大学院入試などに対応できる、一般教養の学力をつけることをめざす。教養試験の類型は、多くの地方自治体・施設等における採用試験に取り入れられているため、福祉・保育・教育関連の資格職、公務員や地方上級公務員試験対策はもとより、一般の就職試験対策にも効果的である。また幅広い教養を身につけられることから、就職以外の進路を考えている学生にとっても有効である。

学修内容

1	環境問題については、地球・国・都道府県・市区町村レベルで起こっているものと考えられるが、まずは、思い浮かんだ例を列挙してみることである。
2	環境問題の具体例を挙げてみると、自分なりに優先順位が見えてくる筈である。優先順位の高いものについては、それに関連する環境保護のための取り組みについても調べてほしい。
3	南北ベトナムの統一について調べてみよう。その際、年代はもちろんだが、その背景にはどのようなことがあったのか、統一されることによってどのように変わったのかについても確認していただきたい。
4	ベルリンの壁の崩壊については、何が原因で起こった事件なのかを確認してほしい。また、何を象徴する事件として有名なのかについても調べていただきたい。
5	湾岸戦争については、開戦までの経緯を含めて、そのきっかけが何だったのかを考えてほしい。また、この戦争に関わった国についても調べていただきたい。
6	昭和天皇の崩御とは何を意味するのかについて、詳しく調べてほしい。また、天皇が戦前と戦後に果たした役割は何だったのかについても確認していただきたい。
7	沖縄返還については、何という諸島がどこの国から返還されたのかを確認してほしい。さらに、そこに至るまでの経緯はどうだったのか、その際に関わった人物は誰だったのか、についても調べていただきたい。
8	東京とサンフランシスコの時差の問題については、経度や地球の自転を考えながら、それぞれ現地時間を計算してほしい。また、サマータイムの開始日時と終了日時についても確認していただきたい。
9	ABO 式血液型の遺伝の仕方については、ABO の 3 つの遺伝子が対立関係であること、それらの優劣関係、AB 型の両親の卵子と精子に含まれる遺伝子とその確率、などを理解した上で論じてほしい。
10	日本の四季の天気については、春夏秋冬の特色を示す用語を確認していただきたい。また、その用語の意味するところを天気図でも理解することが重要である。さらに、それぞれの季節を満喫してみると、新たな発見があるかもしれない。
11	ビルの屋上からボールを水平方向へ投げる問題については、「水平投射」という用語を調べると理解しやすい。この場合、自由落下運動（y 軸）と水平運動（x 軸）をグラフにして考えると分かりやすい。
12	世界遺産については、その定義について調べてほしい。また、日本はもちろん、海外にも目を向けて、有名な世界遺産についてはインターネットや書籍などでも確認していただきたい。
13	世界遺産に登録されている日本の文化遺産については、押さえておきたい。また、それらの場所がどこなのかについては、地図で確認してほしい。
14	世界遺産に登録されている日本の自然遺産についても知ってほしい。また、それらが世界遺産に登録された理由について確認していただきたい。
15	世界遺産に登録されている日本の無形文化遺産としては何かあるのだろうか。ここでは、無形文化遺産の意味を理解した上で、具体例を挙げていただきたい。また、それらの価値がどこにあるのかも知ってほしい。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 環境問題と環境保護のための取り組みについて述べよ。

＜ポイント＞

これからの社会では環境問題への理解が必須である。教科書をもとに地球規模および日本の環境問題と現在の取り組みについて述べた後、環境問題にどのように取り組むべきか身近な対策も交えながらあなたの考えを述べること。参考書やインターネットなども利用して考察を深めること。

科目終了試験学修のポイント

1． 次の出来事を年代順に並べ替え、どのような出来事か簡単に説明せよ。

(a. 南北ベトナムの統一、b. ベルリンの壁の崩壊、c. 湾岸戦争、d. 昭和天皇の崩御、e. 沖縄返還)

2．東京が4月3日の午後8時のとき、サンフランシスコ（西経120度）は何日の何時か。理由も説明すること。

3．AB型とAB型の両親から生まれる子どものもつ血液型の確率を血液型ごとに求めよ。理由も説明すること。

4．日本の四季の天気の特徴を説明せよ。

5．高さ19.6mからボールを水平に初速度20m/sで投げた時，ボールが地面に着くのは何秒後か。また，ボールは水平方向に何m進むか。それぞれ説明せよ。ただし，重力加速度を9.8m/s2とする。

6．「世界遺産」とは何か説明せよ。また，世界遺産リストに登録されている日本の文化遺産と自然遺産の主なものを1点ずつ取り上げて紹介せよ。さらに，「無形文化遺産」についても説明し，日本の例を1点紹介せよ。

＜ポイント＞

上記の1～6に対する学修を行うだけでなく、教科書に掲載されている各問題にも積極的に取り組むこと。

教科書

東京アカデミー『セサミノート②一般教養』七賢出版。

参考文献

鈴木庄亮、他『シンプル公衆衛生学2011』南江堂。

科目コード	金融論（２単位）	登録年次	履修方法
8810		２年	ＳＲ
教員名	武田嘉孝		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

90 年代のバブル崩壊以降の厳しい経済環境下において、経済的リスクが国や企業から個人へと次々に転嫁されてきた。このため、正しい金融リテラシーを身につけ、主体的に堅実な金融行動を実践できるように自らを変えてゆくことが大切になっている。したがって、本科目は、生活者や職業人としての金融行動の意思決定に必要な基礎体系を中心に学んでいく。

金融とは、「資金余剰者から資金不足者にお金を融通することであり、金融は経済の潤滑油である」ということを理解するため、以下のトピックを考察する。基本知識として、金融の役割、金融の方法、金融市場、貨幣、金融機関、金融政策など、個々の経済主体の意思決定に必要な知識として、利子率、企業の金融行動、家計の金融行動に関する基本的な考え方や方法を取り扱う。

学修内容	
1	金融を学ぶ意義を理解する。 金融基礎力
2	金融が多くの分野と密接に関係していることを理解する。 金融商品、金融リテラシー、ライフプラン
3	金融の基本的な機能を理解する。 金利、単利、複利、名目金利、実質金利、短期金利、長期金利、市場金利、政策金利、マネーストック、電子マネー
4	金融のシステムと市場を理解する。 間接金融、直接金融、ファンド型金融、短期金融市場、インターバンク市場、オープン市場、長期金融市場、債券市場、株式市場、ローンの証券化
5	リスクマネジメントの重要性を理解する。 リスク、リターン、信用リスク、価格変動リスク、流動性リスク、ポートフォリオ
6	銀行の種類と機能について理解する。 預金取扱金融機関、金融仲介機能、信用創造機能、資金決済機能、預金業務、為替業務、貸出業務、信託業務、日本版金融ビッグバン、フィンテック、リレーション・バンキング
7	証券会社・ノンバンク・ファンドなどの役割と機能を理解する。 ブローカー業務、ディーリング業務、アンダーライティング業務、セリング業務、インベストメント・バンキング、イノベーション・バンキング、ノンバンク、ファンド
8	家計の金融行動の基本である安全資産、預貯金と債権について理解する。 低金利、ゼロ金利政策、ペイオフ制度、国債、地方債、社債、外債、格付け、FP、NISA
9	家計の金融行動の変化、株式や外国資産への投資について理解する。 配当金（インカムゲイン）、値上がり益（キャピタルゲイン）、日経平均株価、東証株価指数（TOPIX）、証券取引所、ROE（自己資本利益率）、配当利回り、一株当たり利益（EPR）、株価収益率（PER）、株価純資産倍率（PBR）外貨金融資産、FX、デリバティブ、円高、円安
10	ファンド型金融商品について理解する。 投資信託、目論見書、ファンドマネジャー、ETF（上場投資信託）、REIT（上場不動産投資信託）、インデックス投信、アクティブ投信、金融商品販売法、消費者契約法、金融商品取引法
11	企業の金融行動を左右する資本調達と資本コストについて理解する。 企業価値、株主資本、他人資本、EVA（経済的付加価値）、内部金融、外部金融、株式公開、増資、株主割当、第三者割当、公募発行、新株予約権付社債（ワラント債）、WACC（加重平均資本コスト）、リスクプレミアム
12	企業と銀行の関係について理解する。 セーフティ・ネット、不良債権問題、手形貸付、証書貸付、当座貸越、手形割引、コミットメントライン、メインバンク、シンジゲート・ローン、BIS 規制
13	金融政策の仕組みと役割について理解する。 中央銀行、日本銀行、デフレスパイラル、政策金利、公定歩合、買いオペ、売りオペ、ゼロ金利政策、量的緩和政策、異次元緩和政策、ブルーデンス政策、インフレ・ターゲッティング政策、FRB（連邦準備制度理事会）、FRS（連邦準備制度）、アベノミクス
14	金融危機を防ぐための方策を考える。 世界大恐慌、S&L 危機、バブル崩壊、アジア通貨危機、ロシア LTCM ヘッジファンド危機、サブプライム危機、リーマンショック、ギリシャショック、金融不安定化仮説、IMF（国際通貨基金）
15	これまでの議論を整理し、これからの金融のあり方、自分の家計行動について考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】家計の資産運用の考え方を述べよ。

＜ポイント＞

家計は金融システムにおいて資金余剰主体であり、様々な方法で資金を提供している。つまり、預金、債券、株式、保険などを購入している。家計の効用水準を最大にするには、どのようにして資産の組み合わせを選択すればよいかをまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．金融の役割について

＜ポイント＞

金融取引による経済効果を中心に説明する。

2．金融の方法と金融市場金利について

＜ポイント＞

企業の代表的な資金調達の方法である債券発行、株式発行、銀行借入の相違点に注目する。

3．金融機関の業務について

＜ポイント＞

銀行と保険会社、証券会社の業務を機能や役割の違いに基づいて説明する。

4．利子と利子率について

＜ポイント＞

単利と複利、名目利子率と実質利子率の違いがわかるように説明する。

5．企業の金融行動について

＜ポイント＞

企業の最適な設備投資の決定とそのための資金調達の方法について述べる。

6．日本銀行の金融政策について

＜ポイント＞

日本銀行の金融緩和政策と金融政策の物価に与える効果を説明する。

教科書

平田潤『プレステップ金融学』弘文堂。

参考文献

日本経済新聞社『ベーシック　金融入門』日本経済新聞出版社や、本田祐三『はじめての金融　新版』有斐閣などのテキストのほかに、デヴィッド・ビアンキ（関美和訳）『お父さんが教える13歳からの金融入門』日本経済新聞社、高山一実・奥山泰全『お金がずっと増え続ける投資のメソッド』PHP研究所、関眞興『「お金」で読み解く世界史』SB新書などといった優れた読み物も公刊されている。

科目コード	暮らしと経済（２単位）	登録年次	履修方法
8790		１年	R
教員名	田口典男		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日常、テレビや新聞で見聞きする、我々の身近な生活を取り巻く経済問題を経済学的な観点から考察する。またそれらの経済問題を題材にして、経済学的なものの考え方を身につける。

経済問題や経済学というと何かとっつきにくく、縁遠い感覚を覚えるかもしれないが、実際には意外とシンプルで、いったん身につけてしまうと、今後の社会生活を営んで行く中でも非常に便利なツールとなることがわかる。この科目の学修を通じて、生きていく上で有効なツールとしての経済学的な考え方を身につけることを目指す。また、これまでなんとなく気になっていたにも関わらず未理解だった経済問題について、理解を深めることを目指す。

学修内容

1	科目の学修の入門として、日本経済とそれをみるための視点となる経済の基本を学ぶ。科目の学修に先立ち、日頃、自分が日本経済で気になる点をまとめておくと理解度も興味も高まる。
2	GDP など日本経済の全体像を把握するためのデータについて学修する。それを通じて日本経済の概況を把握するとともに、GDP、GNP といったマクロ経済の代表的概念を理解してほしい。
3	戦後から現代にいたる日本の経済成長の動向について、成長率を中心に把握する。高度成長期はいつごろか、バブル経済はいつごろか、平成期にいたって日本の経済はどのような状況下にあるかなどを把握する。
4	経済成長とともにマクロ経済の代表的な概念である景気循環を取り上げる。景気循環のプロセスや景気循環とともに経済の諸指標はどう変わるか、などを理解する。
5	GDP は経済をフローの観点からみた指標であるが、一方、マクロ経済をストックの観点からみる場合もある。バブル期の資産価値の増大、バブル崩壊に伴う資産価値の減少といった現象が把握できる。
6	高度成長期の日本は、終身雇用制、年功序列型賃金制度など安定雇用を支えるシステムが機能していた。しかし、平成不況が深刻化するなか、その見直しが本格化している。日本の雇用形態の変化を把握する。
7	一般に、経済発展に応じて主たる産業が第１次産業から第３次産業に移行する。そういった産業構造の変化と日本型企業経営の行方について学修する。
8	日本はバブル期に異常な物価上昇に直面した。一方で、平成期の今、深刻なデフレに悩んでいる。このような物価の変動の影響とデフレ問題について学修する。
9	一国の経済で需要も供給も満足しない場合、国家間で貿易が起こる。その貿易の動向を数字で記したのが国際収支である。貿易のメカニズムや国際収支について学修する。
10	円レートの変動によって、海外では同じ価格の財でも日本国内で買う場合は価格差が生じる。その逆も同様である。円レートの変動によってどう日本経済が影響を受けるか、また実際にこれまで受けてきたかを学ぶ
11	近年、海外の安い人件費に注目して生産の拠点を海外に移す企業が多い。そのため、国内に生産拠点を持つ企業が減少するといった、生産の空洞化という現象が生じている。その実態を検討する。
12	近年、国債や公債の累積残高は著しいものがある。まずその現状を確認し、その再建の方法を考察する。併せて、財政の役割について確認する。
13	財政政策と並んで政府が行うマクロ経済政策である金融政策について、その概要、意義、効果などについて学修する。特に最近の日本銀行の施策方針の転換について理解を深めることを目指す。
14	日本では少子高齢化の傾向が進んでいる。その結果、社会保障費の増大など財政に甚大な影響を与えている。少子高齢化の現状、その影響、および今後の展開などについて考える。
15	最後に、これまで本科目で学修した内容を総括する。経済学的な視点が持てるようになったかを確認する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

東日本大震災は日本経済にどのような影響を与えたか。また、その影響に即応してどのような対策を講じていかなくてはならないか述べよ。

＜ポイント＞

震災の経済的影響はなぜ大きかったか？復興のためのいくつかの大きな流れをまとめること。また、震災というピンチをチャンスに変えるにはどうしたらよいかという視点を持つこと。

科目終了試験学修のポイント

１．現在、日本経済でどのようなことが起こり、問題になっているか述べよ。

＜ポイント＞

学修を始める前に、自分が日本経済について気になっていた事項について、この科目の学修を通してどの程度理解が進んだか、確認すること。

２．人々の収入の増減と景気の関係について

＜ポイント＞

雇用と賃金と景気の関係を考える。

３．貯蓄を増やす方法について

＜ポイント＞

貯蓄の反対が借金である。収入と支出と資金の運用を考えてみる。

４．数式やグラフを通じて物事を整理するという習慣を身につける具体的な方法について述べよ。

＜ポイント＞

数式やグラフによる整理というのはいったん慣れれば、シンプルで有効なツールであることを意識すること。

５．今後予想される大きな経済問題は何か。

＜ポイント＞

少子化、高齢化、国家財政の赤字など、今後予想される大きな経済問題について考える。

６．経済学の基本的な考え方がどのような場面で社会福祉の学修に役立つか述べよ。

＜ポイント＞

社会福祉の学修を進めていく中で、経営学的視点が必要な場面について、自分の考えを述べること。

教科書

小峰隆夫、他『最新日本経済入門第４版』日本評論社。

参考文献

岩田規久男『経済学を学ぶ』筑摩書房。

小峰隆夫『日本経済の基本　第４版』日本経済新聞出版社。

科目コード	ケアマネジメント演習（２単位）	登録年次	履修方法
2370/2371		３年	ＳＲ
教員名	岡田稔、小笠原眞紀、小田雄一朗、黒木豊域、櫻井恵美、千葉由美、辻本理絵子、宮淑恵、柳澤利之		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

ケアマネジメントは社会福祉援助技術の一手法として、わが国の社会福祉の現場で広く活用され、特に介護保険法や自立支援法の中で重要なものとして位置づけられている。本科目においてはケアマネジメントで重要なアセスメントについて、様々な対象の事例を通してアセスメントへの理解を深め、ケアマネジメントの実際について、自らがケアマネジメントの実践を行える知識を習得する。

特に演習では、ＩＣＦの概念に基づくケアマネジメントの視点を中心に、事例を通してアセスメントの視点及び方法、課題分析、ケアプランの作成について行い、さらにそのケアプランについて、カンファレンス及び検討を行い、実践でも活用できるようにする。

学修内容

1	ケアマネジメントの実践と必要について理解する。
2	ＩＣＦの概念の理解をする。健康状態、心身機能・身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子の相互作用と相対的独立性について、それぞれの意味と内容について理解する。
3	高齢者におけるケアマネジメントの実際について理解する。 高齢者の個別性を理解し、自立支援に向けた実践について理解を深める。
4	身体障害者におけるケアマネジメントの実際について理解する。 身体障害の特性を理解し、個別性をふまえた、自立支援に向けた実践について理解を深める。
5	知的障害者におけるケアマネジメントの実際について理解する。 知的障害の特性を理解し、個別性をふまえた、自立支援に向けた実践について理解を深める。
6	精神障害者におけるケアマネジメントの実際について理解する。 精神障害の特性を理解し、個別性をふまえた、自立支援に向けた実践について理解を深める。
7	児童福祉におけるケアマネジメントの実際について理解する。 児童に関わる多様な課題を理解し、取り巻く環境をふまえての実践について理解を深める。
8	生活保護におけるケアマネジメントの実際について理解する。 生活保護に関わる多様な課題を理解し、取り巻く環境をふまえての実践について理解を深める。
9	様々な分野におけるケアマネジメントの実際について理解する。 施設という環境の中で、より個別性のある自立支援をふまえた実践について理解を深める。
10	アセスメントの様々なツールの特徴を学び、アセスメントの実際について理解を深める。 アセスメントツールの特性を理解する。
11	課題分析の実際について、様々なツールがあることを学び、その活用の方法を学ぶ。 ツールによって課題分析の内容や結果が異なることを理解し、望ましいツールの使用について理解を深める。
12	ケアプランの作成の方法について学ぶ。 実際のケアプランを参考にして理解を深める。
13	カンファレンスの開催について、その進め方や方法について学ぶ。 模擬カンファレンスの実施を行って理解を深める。
14	モニタリングについて理解し、支援の見直しと継続が行えるように学ぶ。
15	ケアマネジメントの実践を行った結果、どのように成果が見られたかについて学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　テキストの中から 1 事例を選び、選んだ事例のアセスメントから、どのような支援が考えられるか、ＩＣＦの視点に基づき考察せよ。

＜ポイント＞

様々な対象に視点をあてた、対象者が異なるケアマネジメントの実際を理解する。それぞれ異なったニーズがある中でケアマネジメントを実践していく上で重要な点を理解する必要がある。

科目終了試験学修のポイント

1．ＩＣＦの視点に立ったアセスメントについて

＜ポイント＞

ＩＣＦの概念の理解とそれに基づく情報収集と整理、課題分析を行うこと。

2．ケアマネジメントと社会資源の活用について

＜ポイント＞

身近な社会資源の理解とケアマネジメントの実践に必要な社会資源を理解する。

3．様々な分野におけるケアマネジメントについて

＜ポイント＞

高齢者、障碍者に限らず、児童や生活保護等の援助が必要な人に対してのケアマネジメントを理解する。

4．権利擁護とケアマネジメントについて

＜ポイント＞

ケアマネジメントを実践する上で、対象者の人権の尊重や権利擁護について理解する。

5．ケアマネジメントにおける他機関との連携について

＜ポイント＞

ケアマネジメントの実践を行う上での他機関及び他職種との連携の重要性について理解する。

6．自立支援の視点に立ったケアマネジメントについて

＜ポイント＞

対象者の自立支援を念頭に置いたケアマネジメントの視点を理解する。

教科書

太田貞司、他『対人援助職をめざす人のケアマネジメント Learning10』株式会社みらい。

参考文献

能本守康『はじめて学ぶケアマネジメントテキスト』中央法規。

科目コード	ケアマネジメント論（２単位）	登録年次	履修方法
2360		３年	R
教員名	岡田稔、小笠原眞紀、黒木豊域、櫻井恵美、千葉由美、宮淑恵、柳澤利之		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

介護保険法の制定に伴い、ケアマネジメントが保険給付の対象となった。また、社会福祉基礎構造改革においても、従来の措置制度から、福祉サービス全般にケアマネジメントによるサービス提供手法を確立するという基本方針が打ち出され、ケアマネジメントへのニーズはますます高まりつつある。本科目ではケアマネジメントの機能やその必要性、社会福祉援助実践の中での位置づけ、介護支援サービス体制の全体構造及び関係機関、関係者の連携の方法についての基本的な理論と実践を学修する。

学修内容

1	ケアマネジメントの誕生の背景を理解し、日本におけるケアマネジメントの実際を学び、専門職がケアマネジメントを行う意義について説明ができるようにする。
2	ケアマネジメントを活用することで、社会福祉実践を行う上で様々な効果をあらわすことができる。活用する場面において具体的な効果を理解することで、ケアマネジメントの機能について理解することができる。
3	ケアマネジメントを行う際の大切な視点は、様々な課題を抱えている人である。その対象者が主体的に生活できるように支援していくことが重要となる。したがって、自立支援、エンパワメント、ストレングスといった視点が重要であることを理解することが大切となる。
4	対象には様々なニーズ及び課題があることから、その支援を行うためには、様々な社会資源の活用が必要となる。多様なニーズ対象者について理解するとともに、社会資源についても理解していく。
5	介護保険制度におけるケアマネジメントの導入背景と現状について理解する。また具体的に行われている実際についてもふれて、その方法について理解する。
6	障害者支援におけるケアマネジメントの実際の現状について理解する。また具体的に行われている実践についてもふれて、その方法について理解する。
7	児童福祉におけるケアマネジメントの必要性を理解する。また具体的に行われている実際についてもふれて、その方法について理解する。
8	生活保護におけるケアマネジメントの必要性を理解する。介護保険施設でもケアマネジメントが行われなければならないことから、その実際にもふれて理解する。
9	ケースの発見(インテーク)、アセスメント、課題分析、ケアプランの作成、カンファレンス、実践、評価・モニタリングといった展開過程を概略的に理解する。
10	対象者の個別の情報を収集し、整理する方法について理解する。また、その際に必要な視点についても理解し、ケアマネジメントにおけるアセスメントの重要性について理解する。
11	ケアマネジメントにおける支援を行う上で、ニーズの把握と課題分析は、ケアプランの作成や実践をする上で目標設定や評価につながる重要な課程であることを具体的に理解する。
12	サービスの提供や実践を行う上で、指針となるものであり、具体的な実践につながる計画書となる。したがって、ケアプラン作成の視点と留意点について理解する必要がある。
13	サービス提供や実践を行うにあたり、ケアプランの原案についても内容の確認や利用者及び家族への説明と同意が必要である。カンファレンスの意義やその方法について理解をすることが必要である。
14	ソーシャルワークにおける１手法としてのケアマネジメントの重要な視点について整理する。
15	ソーシャルワーク実践において、ケアマネジメントは狭義においても広義においても欠かすことのない手法であることの認識をして、様々な実践活動において活用できるようにする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 我が国の介護保険制度及びその他の制度におけるケアマネジメントの役割と重要な視点について述べよ。

＜ポイント＞

ケアマネジメントは、介護保険制度やその他の制度における認定範囲内の給付サービスと利用者を結びつけるだけのものではなく、個のニーズに合致した社会資源や内的資源を活用し、利用者の自立を促し生活の質を高めるために実施していくものである。そのために調整役でもある専門職は何をすべきであるか考えること。

科目終了試験学修のポイント

1．ケアマネジメントの目的及び機能について

＜ポイント＞

ケアマネジメントの誕生の背景とその目的と実践活動での効果を理解する。

2．ケアマネジメントの手法及びプロセスについて

＜ポイント＞

ケアマネジメントの一連のプロセスの理解とアセスメントの手法についても理解する。

3．ケアマネジメントを担う機関及び専門職について

＜ポイント＞

様々な分野で使われている中で、使用している機関や専門職種について理解する。

4．介護保険制度とケアマネジメントについて

＜ポイント＞

介護保険制度の理解と、その中におけるケアマネジメントの目的と具体的な活用方法について理解する。

5．障害者自立支援法とケアマネジメントについて

＜ポイント＞

障害者自立支援法の理解と、その中におけるケアマネジメントの目的と具体的な活用方法について理解する。

6．ケアマネジメントを活用したソーシャルアクションについて

＜ポイント＞

ソーシャルワークの一手法としてのケアマネジメントが社会にもたらす効果について理解する。

教科書

太田貞司『対人援助職をめざす人のケアマネジメント Learning10』株式会社みらい。

参考文献

白澤政和『ケアマネジャー養成テキストブック』中央法規。

日本介護協会『介護保険とケアマネジャー養成テキスト』日本介護協会出版会。

科目コード	経営学（非営利組織の経営を含む）（２単位）	登録年次	履修方法
8700		１年	ＳＲ
教員名	川野祐二、垰本一雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

経営学とは、企業の組織や管理について研究する学問である。本講義では、企業が成長・発展するためにはどうするかを解説する。主な内容は次の通りである。

（1）日本的経営の概念と特質（2）コーポレート・ガバナンス（3）経営戦略（4）経営管理（5）経営組織（6）コーポレート・ファイナンス（7）人的資源管理（8）企業の社会的責任（9）経営課題：環境と経営

学修内容

1	現代の企業と経営 １．現代の企業と経営：現代企業の範囲、企業規模と業種構成 ２．企業・経営の今日的課題
2	経営の基礎 １．経営学の方法と問題領域：企業論と経営論の問題領域 ２．現代企業とその経営：企業の制度化 ３．日本的経営の概念と特質 ４．企業経営の今日的課題
3	企業の概念と諸形態 １．企業のとらえ方 ２．企業の形態 ３．企業の存立 ４．形態選択の今日的課題
4	コーポレート・ガバナンス １．コーポレート・ガバナンスとは ２．コーポレート・ガバナンスと企業観の変化：企業観、企業観の研究領域 ３．コーポレート・ガバナンス・システム：取締役会、社外役員、取締役会設置会社 ４．コーポレート・ガバナンスの今日的課題
5	経営戦略 １．経営戦略の概念と考え方：チャンドラー、アンゾフの定義、沼上と伊丹の考え方を中心に ２．経営戦略の基本的要素：ドメイン、資源展開、環境分析、競争優位性、シナジー効果
6	経営戦略 １．経営戦略の階層：全社戦略、事業戦略、機能別戦略 ２．経営戦略の今日的課題
7	経営管理 １．古典的経営管理：「科学的管理法の父」ティラー、「管理原則から管理活動・マネジメントサイクルのファヨール ２．新古典的経営管理：経済人から社会人へのメイヨー、対立から協調へのフォレット、欲求段階説のマズロー、 Ｘ理論とＹ理論のマグレガー、経営管理からリーダシップへのリッカート、理論から実証へのハーズバーグ
8	経営管理 ３．経営管理の今日的課題：管理（ＰＤＣＡからＯＯＤＡグループ）、組織（内部環境から外部環境） 戦略（競争戦略からダイナミック・ケイパビリティ戦略
9	経営組織 １．バーナードと公式組織：組織の概念、クローズド・システムとオープン・システム ２．意思決定過程としての組織：システム的アプローチ、意思決定 ３．組織構造：組織デザイン、ラインとスタッフ ４．経営組織の今日的課題
10	コーポレート・ファイナンス １．コーポレート・ファイナンスの概要 ２．資本コストとＤＣＦ法：リターンとリスクの関係、株式評価と企業評価 ３．事業投資・資本構成・平アウトの意思決定：ＮＰＶによる投資決定、MM理論、株式還元 ４．コーポレート・ファイナンス今日的課題

11	人的資源管理 １．人的資源管理とは ２．モチベーション：内容理論と課程理論、リーダーシップ：ミシガン研究・オハイオ研究、 コミットメント：組織・キャリアの概念 ３．人的資源管理の今日的課題
12	企業の社会的責任と経営倫理 １．企業の社会的責任：企業体制発展の原理　　２．経営倫理 ３．現代における企業の社会的責任の動向　　４．企業の社会的貢献の今日的課題
13	企業と社会的貢献 １．企業の社会貢献活動の概要：社会貢献とフィランソロピー　　２．戦略的社会貢献活動としてのＣＲＭ ３．社会貢献とソーシャル・ビジネス　　４．企業の社会貢献の今日的課題
14	環境と経営 １．環境問題とは　　２．企業と環境問題：公害と環境問題の違い　　３．環境経営のメカニズム：環境経営の基本 ４．環境経営の今日的課題
15	経営学のまとめと課題 経営学の基本的問題として、方法、問題領域、企業の概念と形態、現代の経営問題としてのコーポレート・ガバナンス、経営戦略、経営管理、経営組織、コーポレート・ファイナンス、人的資源管理、社会的責任、環境問題について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】経営戦略の概念を明らかにして、経営戦略の基本的な要素を説明せよ。

＜ポイント＞

戦略、長期目的、ドメイン、資源展開、環境分析、競争優位性、シナジー効果

科目終了試験学修のポイント

１．今日の企業論と経営論の主な問題領域について

＜ポイント＞

企業形態、企業目的、企業環境、経営者の機能、経営政策活動、管理活動

２．経営戦略の基本要素について

＜ポイント＞

ドメイン、資源展開、環境分析、競争優位性、シナジー

３．テイラーの『科学的管理法』の必要性と内容について

＜ポイント＞

内部請負制方式、場当たり的管理、使用者、労働者、出来高賃金率、効率的管理、課業管理、作業研究、指図票制度

４．ファヨールの管理原則を挙げ、管理課程論とマネジメント・サイクルの関係について

＜ポイント＞

管理原則、分業、命令の一元化、指揮の一元化、集権化、階層組織、マネジメントサイクル

５．ラインとスタッフ、事業部制組織の特徴について

＜ポイント＞

組織化、命令伝達系統、競争意識

６．企業の社会貢献に関する意義と社会貢献活動の形態について

＜ポイント＞

社会的意義、企業価値の増大、無償提供、経営的メリット、寄付、社会的弱点

教科書

一般財団法人 日本経営協会監修 『経営学検定試験公式テキスト　経営学の基本』 中央経済社。

参考文献

菊池敏夫・櫻井克彦・田尾雅夫・城田吉孝編著『現代の経営学』税務経理協会　。

科目コード	経営学入門（２単位）	登録年次	履修方法
1930		１年	R
教員名	垉本一雄、、武田嘉孝		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

数社の経営実態に関する話をケーススタディーを通じて学ぶことによって、現実に起きている経営課題について考える。多くの経営課題は、経営学の理論を当てはめることによって解決できるが、教科書通りに問題が起きることはめったにないので、経営の現場では、そこで何が起きているのかを見極める力が必要になる。ケーススタディーは理論的に正しいか、ということよりも、そこで何が起きていたのか、を見極める力を身につける方法論であると考えるべきであろう。本科目では、経営学を理論的に学ぶ前に、まず経営の現場からモノを考える習慣をつけることに主眼を置き、理解を深めていく。

学修内容

教科書より取り上げる以下の事例、コラムについて、何が問題となり、それを解決するためにどのような工夫がなされたのかや、経営理念や経営方針が様々な問題に対してどのような効果を持ったのか、といった点を考え、実際に起こった事例を通じて、自分のケースに当てはめた時に何ができるのか、どうすべきか、参考にできるのはどこか、といった視点で考えること。その上で、アメリカ的な経営学とは異なる日本的中小企業経営について、著者の坂本教授の見識に基づき、批判的検討を加えていくことが重要である。

1	教科書 pp.18～42 を読み、中小企業経営の新たな視点とは何かを考え、従業員満足度の高い会社は顧客満足度の高い会社であることを確認する。
2	事例１：障害者の方々がほめられ、役立ち、必要とされる場をつくりたい。 （教科書 pp.44～71 日本理化学工業株式会社の取り組み）
3	コラム１：重度の障害をもつ彼女だからこそ、わが社が採用しなければ。 （教科書 pp.72～77 株式会社ファンケルスマイルの取り組み）
4	上記の事例１、コラム１がケースとして取り上げられる意味を考え、中小企業経営に必要な考え方を整理し、自分の身の回りに起きていることや感じていることへの応用方法を検討する。
5	事例２：「社員の幸せのための経営」「戦わない経営」を貫き、48 年間増収増益。 （教科書 pp.78～112：伊那食品工業株式会社の取り組み）
6	コラム２：75 年間連続増収企業は、「社員がハッピーなら会社もハッピー」。 （教科書 pp.113～116：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社の取り組み）
7	上記の事例２、コラム２がケースとして取り上げられる意味を考え、中小企業経営に必要な考え方を整理し、自分の身の回りに起きていることや感じていることへの応用方法を検討する。
8	事例３：「人を支える」会社には、日本中から社員が集まり、世界中からお客様が訪ねてくる。 （教科書 pp.117～140：中村ブレイス株式会社の取り組み）
9	コラム３：難病になった娘のためにリフト付車椅子を開発。 （教科書 pp.140～143：キシ・エンジニアリング株式会社の取り組み）
10	事例３、コラム３がケースとして取り上げられる意味を考え、中小企業経営に必要な考え方を整理し、自分の身の回りに起きていることや感じていることへの応用方法を検討する。
11	事例４：地域に生き、人と人、心と心を結ぶ経営を貫いていく。 （教科書 pp.144～169：株式会社　柳月の取り組み）
12	コラム４：心のやさしい子どもたちを育てるために、50 年間詩集を発行。 （教科書 pp.169～177：柏屋の取り組み）
13	事例４、コラム４がケースとして取り上げられる意味を考え、中小企業経営に必要な考え方を整理し、自分の身の回りに起きていることや感じていることへの応用方法を検討する。
14	事例５：「あなたのお客でほんとうによかった」と言われる、光り輝く果物店。 （教科書 pp.178～200：杉山フルーツの取り組み）
15	事例５がケースとして取り上げられる意味を考え、中小企業経営に必要な考え方を整理し、自分の身の回りに起きていることや感じていることへの応用方法を検討する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　テキスト事例1日本理化学工業(株)の場合に問題となった2つの経営課題を指摘し、日本理化学工業がどのように経営課題に対応し、その結果どのような経営が行われることになったかを踏まえ、同じような問題について他社に応用するための方法を考えなさい。
＜ポイント＞社長や従業員の思いを理解した上で、事例を整理し、何が問題となっているのか、その問題を解決するために必要なことは何か、それは現状の体制で可能なことなのか、現状では難しいのであれば何を改善すればよいのか、等について検討すること。

科目終了試験学修のポイント

1．テキスト事例1日本理化学工業(株)の場合に問題となった1つ目の経営課題は何か。
＜ポイント＞
日本理化学工業(株)の事例がなぜ取り上げられているのかについて理解し、問題となった最初の課題が何かを発見すること。

2．テキスト事例1日本理化学工業(株)の場合、最初の経営課題を解決するために、どのような工夫を行ったのか述べよ。
＜ポイント＞
問題とされた課題を解決するために、どのような取り組みがなされたのかを読み取り、理解すること。

3．テキスト事例1日本理化学工業(株)の場合の最初の経営課題が発生した理由を述べよ。
＜ポイント＞
障害者雇用が進まない現実を踏まえ、なぜ障害者雇用が進められないのかを考えること。

4．テキスト事例1日本理化学工業(株)の場合の2つ目の経営課題は何か。
＜ポイント＞
製品のライフサイクルが30年と言われている中で、30年、50年、100年と成長を続けるために不可欠なこの経営課題について理解すること。特に衰退産業の中で生き残るために不可欠な経営課題である。

5．テキスト事例1日本理化学工業(株)の事例から読み取ることができる、中小企業経営に必要な考え方を整理せよ。
＜ポイント＞
日本理化学工業(株)の事例が取り上げられる理由を整理し、ファンに支えられる会社とは何か、について考えること。

6．テキスト事例1日本理化学工業(株)の取り組みを他事例に応用できるか述べよ。
＜ポイント＞
日本理化学工業(株)のような取り組み方を、自分の身の回りに起きていることや感じていることに応用できるかを考え、応用できる点を取り組んでみる。

教科書

坂本光司『日本でいちばん大切にしたい会社1』あさ出版。

参考文献

テキストで指定したシリーズの続巻（2018年4月現在6巻まで公刊）も併せ読んで頂きたい。

科目コード	経営管理論（2単位）	登録年次	履修方法
8710		3年	R
教員名	岡田広司、孫維維		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

この科目では、組織の管理について学修し、経営管理の理論的な部分に関して初歩的な理解を促すことが目的である。そのために、まずは代表的な経営学説を学ぶことから始める。

学習の流れとしては、まず経営管理の全体を把握するため、経営学の誕生、近代組織における経営管理の登場とその発展について学習する。次に、変革する経営管理について、組織の活性化、モチベーション及び経営のリーダーシップについて学修を進める。

また、経営の創始者としてのテイラーや、管理原則を展開したファヨールの議論などについても触れる。最終的には人事労務管理論や財務管理論へと議論を展開して、経営管理の全体像を把握できるよう理解を深める。

学修内容

1	「経営管理の形成」経済の発展の鍵となるのは企業活動であり、経営管理の差異がその企業発展につながることを学ぶ。さらに資本主義経済の発展と経営管理の形成、企業の発展と経営管理について学ぶ。教科書の序章を参照。
2	「経営管理の時代」近代企業の登場により、専門経営者が台頭した点を理解する。管理の生成が専門経営管理と組織能力による企業発展をもたらした点、所有と支配の分離、経営者資本主義の体制を学ぶ。教科書の第1章を参照。
3	「経営管理の発展」工場の誕生によって、組織的な経営が必要となったが、当時は経験と勘によるものであり、やがて生産性の探究として経営管理が発展したことを学修する。近代的工場と経営管理の関係を学ぶ。教科書の第2章を参照。
4	「科学的管理法と大量生産方式の展開」科学的管理法の父と呼ばれているテイラーの理論を学ぶ。また、生産工程の標準化、単純化などを図り大量生産を進めたフォードを学習する。教科書の第2章を参照。
5	「経営管理の諸理論」管理とは何かを正面から追求し「近代管理論の真の父」と言われるフランスのファヨール、組織の管理論を展開したバーナード、その理論を発展させたサイモンの意思決定論を学ぶ。教科書の第2章を参照。
6	「組織のデザイン」組織のデザインとは、戦略を構想し、適した組織を形成することであり、ここでは環境適応へ向けての構造設計を学修する。機能別組織管理と管理諸原則、ファヨールの管理原則および貢献などを学ぶ。教科書の第3章を参照。
7	「事業別組織の経営管理」機能別組織の限界、機能別組織では対応しきれなくなった後の事業部制組織の導入、事業部制組織の設計理念およびメリットとデメリット、日本型組織について学修する。教科書の第3章を参照。
8	「日本型組織デザイン」アメリカの事業部制とやや異にした日本企業の事業部制としての事業本部制組織、カンパニー型組織を学修する。競争優位の確立に向けて、組織のヨコの連携などを学修する。教科書の第3章を参照。
9	「経営戦略」構造（組織）は戦略に従うとしたチャンドラーの考え方をはじめとして、戦略と組織の適合性、企業ドメインの策定、成長ベクトルと製品開発、事業多角化などを学修する。教科書の第4章を参照。
10	「競争戦略」事業の多角化を進めた事業の競争戦略のあり方について学修する。戦略的事業単位（SUB）の管理、ボストン・コンサルティング・グループ（BCG）のPPM分析、ポーター理論などを学ぶ。　教科書の第4章を参照。
11	「組織資源の管理」組織の戦略策定の基本である「ヒト」、「モノ」、「カネ」、それに加え「情報」の経営資源について学び、経営資源配分における意思決定プロセス、情報資源の蓄積と利用、組織風土の適性を学ぶ。教科書の第5章を参照。
12	「組織間関係の管理」戦略的提携に向けての基礎として、日本における組織間関係つまり官民一体となった系列化とグループ化、なぜ提携するのかという戦略的提携のロジックなどを学習する。教科書の第6章を参照。
13	「モチベーションと組織活性化」科学的管理法で考えられているような経済的条件だけでは説明できない、生産能率やモチベーションなどを学び、人間関係論につながるホーソン実験、組織の活性化などを学ぶ。教科書の第7章を参照。
14	「経営のリーダーシップ」組織の時代である今日では、リーダーシップは大きなテーマとなっている。そのリーダーの資質と役割行動、管理職の発揮する行動と機能、トップのリーダーシップなどを学修する。教科書の第8章を参照。
15	「企業文化と日本の経営管理」なぜ企業の経済活動にとって企業文化は必要なのか、企業文化の意義と機能、戦略を導く企業文化を学び、海外からも関心の高い日本の経営管理について学修する。教科書の第9章と第10章を参照。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】経営管理と経営戦略論とのつながりについて述べよ。

＜ポイント＞

企業の環境変化が激しくなり、内部経営管理をうまくやっても外部環境の変化に対応できないことが問題になってきている。また、環境があまり変化しない業界でも、企業規模の拡大にともない官僚制の弊害が出て、計画的に管理することが難しい状況がある。

こうした中、「構造は戦略に従う」とするチャンドラーなどが、企業全体の方向性を見定める経営職能の重要性を示し、環境への適応を経営課題とする経営戦略論が、経営学の中で注目されている。企業ドメイン、経営資源のポートフォリオ、SWOT分析、PPM分析などを考察しながら、経営戦略策定の流れをまとめ、論述する。

科目終了試験学修のポイント

1．経営管理の形成と発展について

＜ポイント＞

経営管理が、企業の資産を競争優位な資源として管理するため形成され、近代的工場の誕生などにより発展した過程を述べる。

2．科学的管理法について

＜ポイント＞

目分量的、成り行き的管理から、正確な時間及び動作研究に基づく科学的な研究と分析によるテーラーの科学的管理をまとめる。

3．経営管理の諸理論およびその実践と考え方について

＜ポイント＞

研究者の中には、フォードやファヨールのように自ら実践した実務家がいる。彼らの実践した理論と成果について説明する。

4．事業別組織の導入とその経営管理について

＜ポイント＞

企業の拡大によって、機能別組織で対応しきれなくなった事業部制管理の導入、これまでの組織との差異などについて述べる。

5．多角化を進めた企業の競争戦略のあり方について

＜ポイント＞

経営資源の配分にあたって、PPM分析などを基にGEなどが進めた、SUBの設定、個別事業を評価する手法について論ずる。

6．モチベーションと組織活動の活性化について

＜ポイント＞

ホーソン実験を経て誕生した人間関係論の展開が、モチベーション、組織活動の発展へつながった過程を中心にまとめる。

教科書

塩次清代明、他『経営管理〔新版〕』有斐閣。

参考文献

嶋口充輝、他『1からの戦略論』碩学社。
網倉久永、他『マネジメント・テキスト 経営戦略入門』日本経済新聞出版社。
岡田広司『現代経営学講座、戦略的イノベーション経営の潮流』あるむ。
岡田広司『現代経営学基礎講座　商品開発とビジネス戦略』あるむ。

科目コード	経営戦略論（２単位）	登録年次	履修方法
8760		３年	ＳＲ
教員名	岡田広司、川野祐二、孫維維		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

企業を取り巻く環境との関わりについて、企業を成功に導くために経営戦略の４つの要素（1）ドメインの定義、（2）資源展開、（3）競争優位性について学び、経営戦略のレベルとして（1）企業戦略、（2）事業戦略、（3）機能別戦略を学修する。そして地域社会における地域企業の戦略を学び、最後に新しい企業の方向性としてグローバル時代の戦略、企業の社会的責任について解説する。

学修内容

1	第１章　経営戦略とは 経営戦略の意義、経営戦略の研究の流れ（pp.1-12）。 2. 経営戦略の概念と内容 ・経営戦略の概念に５つの類型があることを学び、経営戦略の構成要素、経営戦略のレベル、経営戦略の形成プロセスを理解する（p.18 図１－１を参照）。
2	第２章から４章は伝統的な経営戦略に加えて、創造性と社会性を基調とした経営戦略を解説している。 第２章では事業領域の定義：ドメインの意義、ドメインの考え方、企業の成長とドメインの変化を学修する（pp.31-50）。
3	第３章：戦略の策定（1） ・企業戦略策定のプロセス、事業戦略策定プロセスの内容を理解する（pp.61-70）
4	第３章：戦略の策定（2） ・戦略策定のために外部環境の分析を行い、市場分析を製品ライフサイクルの関係で理解する。 ・ポーターの５つの競争要因から業界の競合を明確にする（pp.61-78）。
5	第３章：戦略の策定（3） ・事業戦略の策定には、環境分析の次に経営資源の分析である。経営資源分析の視点、価値連鎖の基本タイプを学修する。 ・事業の経済分析では、３つの経済性の概念を理解しておく必要がある。 ・経営資源と戦略とのかかわりで重要なこととして、シナジー、競争優位、コア競争力があることを学ぶ（pp.89-93）。
6	第４章　競争の戦略（1） ・市場をいくつかの顧客別の部分集合に分割することをセグメンテーションというが、自社の競争を優位に生かせる軸を見つける。競争の基本戦略にはポーターの３つの基本戦略、競争地位の４類型を理解する（pp.106-112）。
7	第４章　競争の戦略（2） ・企業は他社と競争しながら、他社と協調しながら競争優位を維持する。良い競争業者や外部資源の有効活用を図り競争基盤を強個にしようとしている。戦略として攻撃戦略があり、ほかに「タイムベース競争」もある（pp.112-123）。
8	以下の５章から第７章は「戦略を革新する」テーマで経営戦略の創造性と革新性について検討している。 第５章　新規事業創造の戦略 ・社内ベンチャー、社内起業家の条件について検討している。大企業では部課長クラスのミドルの役割が変化している。革新的ミドルの育成について考えてみる。Case１の３Mのベンチャーとポストイットを理解する（pp.137-166）。 第６章　成長の戦略：ベンチャー企業の不均衡創造 本章のポイントは「ベンチャー企業の成長は、意図的な不均衡の創造によって引き起こされる」が本質である。企業と環境との間に「適合」や「調和」をつくりだすことこそ経営戦略のかなめであるという通念に反して、「アンバランス」［ギャップ］「突出」といったコンセプトが、ベンチャー企業の成長であると述べている（pp.169-186）。 ベンチャー企業には成長過程で、リスクを伴っているがそのリスクを減少させようとする「リスク・パラドック」に直面している問題について論述されている。
9	第７章　ネットワーク戦略 ・垂直型ネットワーク組織の戦略として、アイリスオーヤマの事例を考察している（pp.203-208）。 ・データベースマーケティングとして、製販同盟を取り上げている（pp.208-209）。 ・関係マーケティングとコラボレーション戦略について述べている（pp.210-212）。 ・ＨＰからイケア・資生堂の企業概要を見ると事例が理解しやすい（pp.213-214）。

10	第８章から第１０章では、「戦略を広げる」というテーマで論述されている。 第８章　グローバル戦略 ・一国の国境の枠をこえた経営活動が増加している。グローバル戦略、と経営戦略について述べている。 ・グローバル戦略と経営組織の特徴とグローバル戦略の変化が紹介されている。ソニーのＨＰを見て理解を深めよう。
11	第９章　地域企業の戦略（１） 地域との関係者が深いところから、地域企業の経営戦略について検討している。 ・企業は社会的な存在であり、特定の地域に立地して、経済活動を行うことを通じて地域社会の形成に関わっている。 ・地場産業とは、地元の企業で地域の資源を活用している。 ・地域企業の戦略的特徴について理解する。
12	第９章　地域企業の戦略（２） ・グローバル化時代の中小企業の戦略については、p.278 の図９－１を見て理解を深めよう。 ・地域を活性化する政策と地域企業の経済的戦略と社会的戦略の意義が述べてある（pp.283-285）。
13	第１０章　経営戦略と社会（１）：地域企業の議論を踏まえ、経営戦略の視点から企業と社会の問題を検討している。 ・企業における環境は５項目に分類される（pp.295-296）。 ・企業の社会的責任：よい商品を社会に提供して、適正な利潤を確保して、従業員に雇用の機会を保障するという正常な経済活動に関する責任を意味する＝企業の職務責任の相手は出資者、消費者、取引先である。 ・企業の社会的貢献 ・企業の社会的責任の領域はp.301 の図１０－１を参照する。
14	第１０章　経営戦略と社会（２） ・経営戦略と国際社会：グローバル戦略が国際社会に及ぼす影響について解説している（pp.303-307）。 ・経営戦略と国際社会との共存ではボランティアなどが必要であることを述べている（pp.307-310）。
15	第１０章　経営戦略と社会（３） ・日本企業のガバナンスの特徴を理解する（pp.312-314）。 ・企業が社会的責任を遂行するには、企業の経済的目的を達成するための経済的戦略を追求するだけでなく、環境の改善や社会の福祉問題の解決に貢献する社会的戦略を探求する必要がある（p.317 の図１０－３参照）。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】企業と社会との関係について述べよ。

企業は、環境の中で生存しており、環境のとの間で物質や情報の交換を行うことによってのみ存続することができる。企業は社会の中で商品を生産、販売することで経済的機能を遂行している。まず、企業を取り巻く利害関係との関係を述べて、経営学における企業と社会との関係が問題となるのは「企業の社会的責任（ＣＳＲ）」というテーマである。企業の社会的責任については利害関係者に相当する「誰に」対してという問題とともに「どこまで」というレベルの問題があることを考え、「企業市民」として、経済的価値ばかりでなく利害関係者に対してさまざまな価値を創造し、提供する責任を担っていることを踏まえて論究して欲しい。

科目終了試験学修のポイント

1．経営戦略の概念と内容について述べよ。

＜ポイント＞

ミンツバークの類型と経営戦略の構成要素について述べる。

2．企業戦略策定のプロセスについて述べよ。

＜ポイント＞

企業戦略は全社レベルで決定される戦略である。

3．事業戦略策定のプロセスについて述べよ。

＜ポイント＞

企業戦略の下位にあたる戦略であること

4．製品ライフサイクルと顧客分析について述べよ。

＜ポイント＞

製品ライフサイクルの段階的特徴と戦略の関係、市場細分化を活用する。

5．競争戦略の研究には2つのタイプがある。それぞれ説明せよ。

＜ポイント＞

ポーターの基本戦略と競争地位の4類型について考える。

6．顧客満足を追求するマーケティングとして「顧客との価値の共同創造」について事例をあげて説明せよ。

＜ポイント＞

ある化粧品メーカーが「コスメティックガーデン」なるものを設置して情報発信の基地としている例がある。

教科書

大滝精一、他『経営戦略』有斐閣。

参考文献

手塚貞治『経営戦略の基本がイチから見につく本』すばる舎。

井上善海、他『経営戦略入門』中央経済社。

科目コード	経営組織論（２単位）	登録年次	履修方法
8720		３年	ＳＲ
教員名	岡田広司、杉山章		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

企業・学校・病院など、多数の人間から構成される組織を運営するためには、これらの組織を合理的・効率的な「一つの組織」として運営する必要がある。経営組織論は、社会の基礎的構成要素としての組織を対象として、その行動やメカニズムの解明を基本的課題とした学問領域である。

私たちは常に組織との相互作用の中にあり、そして取り巻く組織は常に変化しながら、行動の制約や発展・成長を私たちに与えたり、逆に私たちがより良い組織や機能を提供したりしている。ここでは、組織の一員として入社し、経営組織のトップになるまでの様々な課題を通して、組織論的課題解決手法を検索していく。そして効率的に運用・運営する組織とは何かという観点から、課題を提起して学修を進める。経営組織論は科目の性質上、経営戦略論などの他学問領域についての基礎的知識も必要となる。

学修内容

1	「個人の欲求と働き方」経営組織論を学ぶにあたって、人はなぜ働くのであろうかという人間の欲求と行動、　組織・企業のあり方、働き方と仕事の多様性などについて学修する。教科書の第１章を参照。
2	「付加価値を生むプロセス」継続的に行動する組織である企業が、永続するために付加価値を生み出すこと、それが経営である。経営資源の考え方、組織で働くことと個人で働くことなどを学修する。教科書の第１章を参照。
3	「組織社会科と組織社会プロセス」企業や組織に入った新人が、企業や折敷に適応していく組織社会化、組織社会化のメリットなどを学び、組織がもつ特有の価値観である組織文化とは何かなどを学修する。教科書の第２章を参照。
4	「会社と仕事に慣れる」まず組織のなかで会社のルールを重視して会社経営を進める官僚制という考え方、ルールがもつ本質を理解する。また人材教育、仕事に対する欲求、内発的動機づけなどを学修する。教科書の第3章を照。
5	「企業の人事異動」なぜ企業は人を異動させるのかという課題、つまり会社から見た人事異動の意義、会社のなかでのキャリア開発について学び、組織の人事管理、個人のキャリアマネジメントを学修する。教科書の第４章を参照。
6	「リーダーシップ」なぜ会社のなかにリーダーシップが必要なのか、リーダーシップの意義について理解し、職場をまとめ、部門と組織をつなぐ役割、優れたリーダー行動、状況適応理論などを学修する。教科書の第５章を参照。
7	「集団組織のダイナミズム」まず完全合理モデルによる意思決定プロセスを学習し、実際のビジネスでの限定された合理性モデル、意思決定のごみ箱モデル、集団組織の意思決定のメリットなどを学ぶ。教科書の第６章を参照。
8	「集団の失敗」集団は時にはひどい意思決定をしてしまうという課題がある。合意や全員の一致であることが支配的になり、優れた解決策を排除したり、異議を唱え難い状況をつくったりするグループ・シンク、及びグループシフトなどを学修する。教科書の第６章を参照。
9	「コンフリクト・マネジメント」コンフリクトの定義、タイプ、レベル、コンフリクトはなぜ起こるのか、そのプロセスについて学び、組織コミットメントおよびダイバシティ・マネジメントを学修する。教科書の第７章を参照。
10	「組織デザイン」組織のデザインを自らが企画する場合の基本的スタンス、組織のリフォームを学修する。また、組織における分業、階層別の分業、機能別分業、分業されたタスクの調整などを学修する。教科書の第８章を参照。
11	「ヒエラルヒーの設計」組織を作るときの上位と下位との関係を序列化するヒエラルヒーについて学修する。ヒエラルヒーの設計のポイントはどこか、機能別組織、事業部制組織、マトリックス組織を学ぶ。教科書の第８章を参照。
12	「環境のマネジメント」会社がなぜ外部に目を向けねばならないか、外部環境の課題、組織と環境とのクローズドシステムとオープンシステム、制度・市場・利害者集団と組織との関係などを学修する。教科書の第９章を参照。
13	「組織変革とトップの役割」組織は変わっていくものなのか、変えられるものなのか。組織の変革、成長のライフサイクル、環境による淘汰を理解し、トップやミドルによるアプローチを学修する。教科書の第 10 章を参照。
14	「経営理念とビジネスシステム」経営者を取り巻く利害関係者の圧力、また経営者のビジョンとリーダーシップ、役割を学ぶ。教科書の第 11 章を参照。
15	「ビジネスのさらに先へ」企業の長期的な存続に必要なものという視点から、社会や利害関係者との良好な関係を保つこと、コンプライアンス（法令遵守順守）、企業の社会的責任（CSR）などを学修する。教科書の第 12 章を参照。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】経営組織論を学ぶ意義について、経営管理・経営戦略との関連を考えながら述べよ。

＜ポイント＞

経営組織論は、会社など組織を対象とし、その行動や変化のメカニズムを解明する学問である。企業では、どんなに素晴らしい経営戦略や経営管理も、組織なしには実現しない。企業は環境の変化に応じて、その経営戦略を的確・迅速に進めねばならず、企業の戦略が変われば組織も変えなければならない。

経営組織論が影響を与える対象としては、消費者、組織内部の参加者（企業の従業員）、経営者・管理者があるが、さらにその他のステークホルダーが考えられる。また、具体的に組織が行動するその前には、必ず意思決定という重要な過程がある。

このような概念をもとに、前述した学修の流れを参考にしながら述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．付加価値を生むプロセスについて

＜ポイント＞

企業は活動を通して、インプットに何らかの価値を付け加えてアウトプットを生み出す。事例を使って論述する。

2．官僚制の特徴について

＜ポイント＞

組織全員が安定して職務を遂行するとき、ルールを重視し経営をするという官僚制の特徴を理解することにつながる。

3．コンフリクト（対立）について

＜ポイント＞

コンフリクトの発生要因、タイプと場所、その解消方法を考察し、コンフリクトが組織にもたらす効果にも注意したい。

4．集団の意思決定について

＜ポイント＞

意思決定によりあらゆる仕事が進められる。意思決定のプロセス、意思決定のメリット、集団の意思決定からくる失敗もある。

5．組織の変革について

＜ポイント＞

組織のライフサイクル・モデルを基本に、組織は変わるものなのか、変えられるものなのかという命題のもとに論述する。

6．企業の長期的存続について

＜ポイント＞

企業の長期的存続に必要なものは何か、という視点から、コンプライアンス、CSR、社会との関わりについて説明する。

教科書

稲葉祐之、他『キャリアで語る 経営組織』有斐閣。

参考文献

桑田耕太郎、田尾雅夫『組織論』有斐閣。
岡田広司『現代経営学講座、戦略的イノベーション経営の潮流』あるむ。
岸田民樹『現代経営組織論』有斐閣。
塩次喜代明、他『経営管理』有斐閣。

科目コード	経済学（国際経済を含む）（２単位）	登録年次	履修方法
1430/1431		１年/２年	R
教員名	佐々木貴雄、辻本理絵子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

経済学は、私たちが普段なにげなく行っている行動（モノやサービスを売買する、貯蓄する、ローンを組むなど）を理論化したものである。

この科目の目標は、実際の日本の経済と経済学の理論を照らし合わせながら知識を深める事であり、日本だけでなく国際的な経済動向を理解、考察できるようになることである。経済学の中でも様々な考え方があり、テキストによっても考え方が異なるので、ぜひ多様な考え方を学んでほしい。

学修内容

1	なぜ経済学を学ぶのか 経済学は、身近な経済活動についても対象としている。例えば、物価や為替レートの変動は、生活に大きな影響を与える。経済政策の立案にも経済学は使われ、ビジネスの理論的基盤にもなっている。
2	経済学の歴史・思想 多くの経済学者が、経済学の発展に貢献してきた。教科書では、アダム・スミス、リカード、ケインズが取り上げられている。それぞれ、どのような考え方をしてきたか。
3	マクロ経済学の基本①GDP マクロ経済学の基礎的な指標に、GDP（国内総生産）がある。GDP の増減は、経済成長率として示される。また、GDP に物価変動を考慮するかどうかで名目・実質の区別がある。GDP の構成項目は、消費、投資、政府支出などに分類することができる。
4	マクロ経済学の基本②景気変動 総需要曲線と総供給曲線の交点で、GDP や物価水準を示すことができる。経済成長は拡大と後退を繰り返し、これが景気循環を作り出す。財政・金融政策の目的のひとつは、このような景気変動を安定化させることにある。
5	日本経済の変化 戦後の日本経済の展開をみるばあい、石油ショックと変動相場制への移行はひとつの転換点となる。80 年代以降をみると、グローバル化や、バブルの形成と崩壊なども大きな変化である。
6	市場メカニズム①需要と供給 市場メカニズムを理解するための枠組みのひとつが、需要曲線、供給曲線である。個人や企業など個々の経済主体の行動が集約され、経済全体の資源配分が示される。
7	市場メカニズム②市場の失敗 市場メカニズムが適切な資源配分を大きく狂わせる場合があるが、これを市場の失敗と呼ぶ。その例としては、独占・寡占の場合、外部効果の発生、不完全情報の下での取引などが挙げられる。
8	ゲーム理論の考え方 経済問題の分析に、ゲーム理論の考え方が有効な場合がある。本章で取り上げられている事例や考え方として、囚人のジレンマ、ナッシュ均衡、展開型ゲームがある。
9	公共部門の経済学①公共部門の機能 公共部門の 3 つの機能として、所得の分配を公平化する機能、市場の資源配分機能を補完する機能、マクロ経済を調整する機能が挙げられる。
10	公共部門の経済学②財政政策とその課題 財政政策の目的のひとつとして、税や公共事業などの仕組みを使いながら、景気に影響を及ぼすことがある。また、税や社会保障制度に備わっている景気を安定化させる機能として、自動安定化装置（ビルトイン・スタビライザー）がある。
11	金融システム①貨幣の機能 貨幣の 3 つの機能として、価値尺度、価値貯蔵手段、取引媒介手段がある。また、3 つの保有する動機として、取引動機、予備的動機、資産保有動機がある。マネーサプライとは、流通している貨幣の総量を示すが、現金だけではなく預金も含まれる。
12	金融システム②金融政策とその課題 中央銀行による金融市場を通じた経済政策のことを、金融政策と呼ぶ。金融には資金の貸し手と借り手が存在し、直接金融と間接金融とに分類される。株式も企業による資金調達の一手段である。

13	人と組織①企業 経済において企業は、財とサービスの供給主体、雇用の主体など様々な役割を持っている。株主は株式を購入して、企業に資金提供するだけではなく、企業の所有者としての立場がある。日本的な企業システムの特徴として、雇用における終身雇用制や年功賃金、金融におけるメインバンク制などがある。
14	人と組織②労働市場 日本の失業率は、1980年代までは2%台をしばらく推移していたが、バブル経済崩壊後上昇した。労働力も労働市場で取引されるが、賃金の下方硬直性があるのが特徴である。
15	国際経済 日本と海外との経済取引の状況は、国際収支表によって示される。為替レートは、通貨の交換の基準としてあるだけではなく、通貨の需要と供給の状況を示すものでもある。比較優位の考え方に基づけば、自由貿易が望ましいとの結論になるが、話はそれほど簡単ではない。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 石油ショック以降の日本経済の動向について述べよ。

＜ポイント＞

この時期の日本経済にとって大きな出来事をいくつか挙げ、それが日本経済に与えた影響も含める形でまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．公共部門の三つの機能について

＜ポイント＞

テキスト下巻のⅥを参考に、説明すること。

2．近年の日本の国内総生産（GDP）の推移とその背景について

＜ポイント＞

テキスト上巻のⅡを参考に、最新の動向も調べた上で、説明すること。

3．市場の失敗について

＜ポイント＞

テキスト上巻のⅣを参考に、具体例を挙げながら説明すること。

4．中央銀行の役割について

＜ポイント＞

テキスト下巻のⅦを参考に、最新の動向も調べた上で、説明すること。

5．為替レートが変動する要因について

＜ポイント＞

テキスト下巻のⅨを参考に、最新の動向も調べた上で、説明すること。

6．市場経済と計画経済の違いについて

＜ポイント＞

テキスト上巻のⅣ等を参考に、テキストの考え方に縛られる必要はないので、自らの考えを述べること。

教科書

伊藤元重『はじめての経済学（上・下）』日本経済新聞社。

参考文献

中谷巌『痛快！経済学1・2』集英社。

福田慎一、他『マクロ経済学・入門』有斐閣。

吉澤昌恭、他『経済入門』法律文化社。

科目コード	経済政策（２単位）	登録年次	履修方法
2630		３年	R
教員名	佐々木貴雄、辻本理絵子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

政府は、財政政策、金融政策、再分配政策といった様々な経済政策に基づいて、経済に介入している。このような経済政策にはどのような目的と根拠があり、実際にどのようなことが実施されているのかを学修する。また、近年は規制緩和や日本銀行の独立性など、経済政策のあり方が大きく問われている。現実にある経済問題についても、考える能力の基礎を身につける。

学修内容

1	経済政策の主役 経済の主体としては、家計、企業、政府などがある。経済政策は、政府が経済問題の解決、改善のために何らかの対策を講じるものである。金融市場においては、中央銀行の役割も大きい。
2	経済活動の仕組み① ミクロ的な経済政策の目標は、市場メカニズムが十分に発揮できるような環境を整備することである。市場メカニズムの理解や評価のためには、需要・供給曲線や、（生産者・消費者）余剰などの概念を理解しておくことが必要である。
3	経済活動の仕組み② GDP（国内総生産）は、国の経済活動の大きさを図るためによく用いられている。物価水準の安定や景気循環の幅を小さくすること、貿易による利益を享受できるようにすることは、それぞれ経済政策の目標の一つである。
4	経済政策の目的 経済政策の目的として、市場による資源配分機能を適切に補完すること、社会・経済の安定のための所得再分配機能、景気変動等の安定化機能、将来世代への配慮が挙げられる。
5	資源配分機能 市場に任せていては適切な資源配分ができない場合は、政府の介入が必要となる。公害等に代表される外部性の問題、モラルハザード、逆選択、独占などが発生する場合である。
6	公共サービスの供給 公共財の場合は、政府が主体となって財・サービスを提供する必要が出てくる。そのような公共支出の評価として使われるのが、費用便益分析である。公的供給と私的供給のバランスは、どうあるべきか。
7	安定化政策：財政政策 乗数効果は、政府支出がどれだけの経済効果をもたらすかを示すものである。また、累進課税の仕組みや社会保障制度には自動安定化装置（ビルトインスタビライザー）効果があるといわれる。景気の状況によっては、政府による公債発行によって財政支出を増やす必要があるが、プライマリー・バランスは悪化することになる。
8	安定化政策：金融政策 IS-LM 分析はマクロ経済分析の代表的なモデルである。金融政策のうち数量的政策とは、貨幣供給量を直接コントロールするものである。金融政策の目標として、インフレターゲット論が主張されることがある。
9	経済成長のモデル ハロッド・ドーマーのモデルは、必要資本係数から適正成長率を明らかにするものである。その他に 7 章では、ソローのモデル、内生的成長モデル等について説明されている。
10	日本の経済成長 戦後の経済は、終戦直後の混乱期に続き、高度成長の時代、オイルショック後の安定成長の時代、そしてバブル景気後の低成長の時代が続いてきた。
11	日本経済の構造変化 日本型雇用慣行として、終身雇用制や年功序列型の賃金体系、企業別の労働組合が挙げられるが、最近はどのように変化しているか。また、貯蓄率や潜在成長率の低下の傾向もみられる。構造改革が叫ばれているが、その目的は何だろうか。
12	個人間再分配政策 個人間再分配制度の中心的なものは、社会保障制度である。社会保障制度の拡大に加えて、公債発行の拡大は、世代間の再分配や将来世代への配慮といった問題を大きくさせる。
13	地域間再分配政策 地域間再分配は、ひとつにはナショナルミニマムを国全体で確保するという理由から肯定される。課題としては、地方分権、地方交付税制度などの在り方などが指摘されている。

14	国際経済 外国との経済取引の指標としては、経常収支、資本収支を含む国際収支があり、為替レートもひとつの指標である。国際化、グローバル化が進む中で、他国との相互依存関係や地球全体における日本の役割も大きくなっている。
15	政府と政党 経済政策を行う政府の行動は、どのように説明されるか。動学的不整合性、中位投票者定理、政策の収束などの理論をもとに説明されている。また政権交代も経済政策を変化させる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 経済安定化のための経済政策について述べよ。

＜ポイント＞

景気変動を安定化させるために、好況期、不況期にどのような経済政策が実施されているか。加えて、自動安定化機能についても触れてほしい。

科目終了試験学修のポイント

１．中央銀行が行う金融政策の手法について

＜ポイント＞

複数の手法について触れ、現在の日本銀行の行動についても触れること。

２．経済政策としての規制緩和について

＜ポイント＞

規制緩和の目的と、現在議論されている具体的な内容について触れること。

３．政府の財政赤字が経済に与える影響について

＜ポイント＞

財政赤字の現状についても触れること。

４．政府が所得再分配を実施する目的とその手法について

＜ポイント＞

社会保障制度や税制などを例に説明すること。

５．乗数効果について説明せよ。

＜ポイント＞

財政政策の目的についても触れること。

６．公債発行の目的と問題点について

＜ポイント＞

現在の公債発行の状況についても触れること。

教科書

井堀利宏『経済政策』新世社。

参考文献

福田慎一、他『マクロ経済学入門　第3版』有斐閣。
田代洋一、他『現代の経済政策　第３版』有斐閣。

科目コード	健康・スポーツ（２単位）	登録年次	履修方法
1072		１年	ＳＲ
教員名	浅井泰詞、飯田昌男、沖雅美、菅家沙由梨、斉藤雅記、清水信好、 杉浦善次郎、西田希、仁藤喜久子、林廣子、山内洋一、山口栄三		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

運動やスポーツは発育段階によって質・量とも異なり、基礎体力やスキルを習得するには相応の至適時期があることを理解する。また、場や状況を考慮した各種スポーツや遊びを実践し、歩く、走る、跳ぶ、握る、ぶら下がるなど、種々の動きを促すための「運動」の重要性・必要性を理解する。さらにこれらのことを踏まえて各方面における現場での具体的な運動計画を構築できるようにし、人間の真の健康とは何かを探る。

学修内容	
1	「健康・スポーツ」の考え方とこれから必要となる健康感の大まかな把握 ・各年齢層におけるスポーツテストの意味するものの概略を理解
2	スポーツテストの歴史とその役割 ・各テスト種目の実施方法の理解１（青年期）
3	スポーツテストの歴史とその役割 ・各テスト種目の実施方法の理解２（壮年期）
4	スポーツテストの実施方法の理解 ・各テスト種目の実施方法の理解３（高齢者）
5	スポーツテストが意味するもの詳細とその意義 ・各種目テストと種々の基礎体力の関係と問題点
6	スポーツテストの分析① ・体力の総合的な分析（方法編）
7	分析の実際② ・体力の総合的な分析（統計処理 1）＊Excel を使った統計処理の理解
8	分析の実際③ ・応用編（統計処理 2）＊Excel を使った統計処理の理解
9	分析実際④ ・分析結果の考察および相互における分析（分析結果から見えてくるもの）
10	対象者（各現場の視点からによる）の体力・健康における近年の傾向 ・基礎体力から見た対象者の理解　・基本的生活習慣から見た対象者の理解
11	各種トレーニングの理解と期待される効果 ・トレーニング効果の意味するものおよびその重要性
12	近年における健康感 ・健康感の変遷と「Wellness」の基本的な考え方の理解と真の健康感の展望
13	スポーツ大会の計画・運営 ・既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画（実践も含む）
14	スポーツ大会の計画・運営 ・既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画（実践も含む）
15	本科目のまとめ ①基礎体力の具体的な分析能力　②基本的生活習慣の重要性　③理想的な健康感　④各現場において自分がすべきこと

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 現代日本の人々の生活習慣，運動，健康との関連性について述べよ。

＜ポイント＞

・生活習慣病がなぜ問題となるのかを明確にする。

・生活習慣病の予防・改善に運動がどのように関わるかを明確にする。

・生活習慣病にならないためにどのような健康習慣を行うかを考える。

科目終了試験学修のポイント

1．健康の定義とヘルスプロモーションについて

＜ポイント＞

・健康の定義について WHO の憲章と QOL から考える。

・QOL を維持・向上させるためにどのようにヘルスプロモーションを行うかを考える。

2．生活習慣と健康の関連性について

＜ポイント＞

・健康な生活習慣とはどのようなものかを考える。

・不適切な生活習慣により様々な疾患になることを押さえる。

3．トレーニングの原理・原則と効果について

＜ポイント＞

・トレーニングとはどういうものかを基本条件をふまえて考える。

・トレーニングの原理・原則とその効果を考える。

4．有酸素運動と無酸素運動の方法や効果について

＜ポイント＞

・有酸素運動と無酸素運動の違いを明確にする。

・それぞれの運動の負荷設定や得られる効果を明確にする。

5．運動と心拍数及び血圧の関係性について

＜ポイント＞

・運動により心拍数や血圧が変化することを理解する。

・運動時の心拍数の目安や、運動を継続することによる血圧の変化を理解する。

6．健康のための食事内容やダイエットの方法について

＜ポイント＞

・食事における三大栄養素とそのエネルギー量について理解する。

・ダイエットにおける消費エネルギー量増加の方法を理解する。

教科書

大学生の健康・スポーツ科学研究会『大学生の健康・スポーツ科学』道和書院。

参考文献

上杉尹宏、他『生涯スポーツと運動の科学』市村出版。

科目コード	健康・スポーツ（２単位）	登録年次	履修方法
1070/1071		１年	S
教員名	浅井泰詞、飯田昌男、沖雅美、菅家沙由梨、斉藤雅記、 清水信好、西田希、仁藤喜久子、林廣子、山内洋一		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

運動やスポーツは発育段階によって質・量とも異なり、基礎体力やスキルを習得するには相応の至適時期があることを理解する。また、場や状況を考慮した各種スポーツや遊びを実践し、歩く、走る、跳ぶ、握る、ぶら下がるなど、種々の動きを促すための「運動」の重要性・必要性を理解する。さらにこれらのことを踏まえて各方面における現場での具体的な運動計画を構築できるようにし、人間の真の健康とは何かを探る。

学修内容

1	「健康・スポーツ」の考え方とこれから必要となる健康感の大まかな把握 ・各年齢層におけるスポーツテストの意味するものの概略を理解
2	スポーツテストの歴史とその役割 ・各テスト種目の実施方法の理解１（青年期）
3	スポーツテストの歴史とその役割 ・各テスト種目の実施方法の理解２（壮年期）
4	スポーツテストの実施方法の理解 ・各テスト種目の実施方法の理解３（高齢者）
5	スポーツテストが意味するもの詳細とその意義 ・各種目テストと種々の基礎体力の関係と問題点
6	スポーツテストの分析① ・体力の総合的な分析（方法編）
7	分析の実際② ・体力の総合的な分析（統計処理１）＊Excel を使った統計処理の理解
8	分析の実際③ ・応用編（統計処理２）＊Excel を使った統計処理の理解
9	分析実際④ ・分析結果の考察および相互における分析（分析結果から見えてくるもの）
10	対象者（各現場の視点からによる）の体力・健康における近年の傾向 ・基礎体力から見た対象者の理解　・基本的生活習慣から見た対象者の理解
11	各種トレーニングの理解と期待される効果 ・トレーニング効果の意味するものおよびその重要性
12	近年における健康感 ・健康感の変遷と「Wellness」の基本的な考え方の理解と真の健康感の展望
13	スポーツ大会の計画・運営 ・既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画（実践も含む）
14	スポーツ大会の計画・運営 ・既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画（実践も含む）
15	本科目のまとめ ①基礎体力の具体的な分析能力　②基本的生活習慣の重要性　③理想的な健康感　④各現場において自分がすべきこと

教科書

大学生の健康・スポーツ科学研究会『大学生の健康・スポーツ科学』道和書院。

参考文献

中原英臣『スポーツで健康になる人ならない人』三水社。

科目コード	健康・医療心理学（２単位）	登録年次	履修方法
3690		３年	R
教員名	齋藤瞳、佐野友泰、志茂田典子、中山麻子、村山陽		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心身の健康の維持増進や疾病への対処について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割を持つのかを心理学的な側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好品の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄について具体的な理解を深める。さらに、人間性のネガティブな側面についてのみではなく、ポジティブな側面についても言及し、それらが心身の健康や疾病に対してどのような関わりを持つのかを考察し、ストレスと心身の疾病との関係、医療現場における心理社会的課題及び必要な支援、保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援、災害時等に必要な心理に関する支援について理解する。

学修内容

1	健康・医療心理学とは：①健康の定義（WHO の健康定義など）、②健康・医療心理学が生まれた社会的背景、③健康・医療心理学とはどのような学問か、④健康・医療心理学と他学問との関連領域
2	健康・医療心理学の基礎となる心理学の基礎的な考え方Ⅰ：①精神分析の理論（フロイト精神分析の理論、新フロイト派の精神分析理論）、②学習理論・行動理論（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論、行動療法、自己効力感）、③発達理論（ビューラ―の発達理論・エリクソンの生涯発達理論と発達課題・ハヴィガーストの発達課題）
3	健康・医療心理学の基礎となる心理学の基礎的な考え方Ⅱ：①動機づけと情動理論、②認知心理学（認知理論・情報処理・認知行動療法）、③人間性心理学（フランクルの意味への意志・ロゴテラピー、マズローの欲求階層説・自己実現、ロジャーズの自己理論・クライエント中心療法）
4	健康行動の理解Ⅰ：①健康行動（健康行動とは、心理学と健康行動）、②健康行動を予測する因子（ヘルスビリーフ）、③健康行動をつくるモデル（ヘルスビリーフモデル、リーズンドアクション理論、プランド・ビヘイビア理論、プリシードモデル、④予防（一次予防、二次予防、三次予防、精神保健学での予防、予防医学・行動医学の考え方）、危険因子など
5	ストレスと健康Ⅰ：①ストレスとは、②ストレスの理論（ホメオスタシス、キャノン・セリエの生理学的ストレス、ラザルスらの心理学的ストレス＜ライフイベント、デイリーハッスルズ＞）、③トランスアクショナルモデルなど
6	ストレスと健康Ⅱ：①ストレス対処（コーピング）、②認知的評価（アプレイザル）、③認知知的評価への要因（コミットメント・ビリーフなど）④ストレス反応と疾患（自律神経系・内分泌系、心身症など、心身医学・心療内科との関連）
7	パーソナリティと健康：①健康なパーソナリティ（ユングの個性化、マズローの自己実現、パールズの「いまここに生きる」、エリスの理性的であること、本明寛の態度能力）、②健康観（楽観主義、ユーモア）、③疾患とパーソナリティ（タイプA行動パターン、タイプCとがん）
8	ソーシャルサポート：①ソーシャルサポートとは、②ソーシャルサポートと健康に関する理論（メインエフェクトモデル、ストレスバッファリンクモデル、社会統合論、ネットワーク理論、個人的信頼関係の考え方）
9	災害時等に必要な心理に関するサポート：①災害等に遭遇したときの人間の心理・行動の理解、②緊急事態や災害を体験した人々に見られる心理的反応と行動の特徴、③災害への備えや対応を含む方略を考える。
10	ヘルスケアシステム：①ヘルスサービスの利用者モデル、②わが国のヘルスサービス、（健康の危機管理、現代社会と健康、高齢化をめぐる問題、厚生科学と技術評価、エイズ対策、ヘルスシステムの問題点）、健康政策との関連を考える。
11	健康教育：①各発達段階での健康教育、②各生活の場における健康教育（学校での健康教育、職場での健康教育、医療の場での健康教育、コミュニティにおける健康教育＜健康増進プログラム＞）
12	心理アセスメント：①アセスメント（健康心理学に関する各検査法）、②評価、③アセスメント技術、④アセスメントの評価の扱い方
13	心理カウンセリング：①カウンセリングの基礎理論、②健康心理カウンセリング、③カウンセリングプロセス、⑤理性感情「行動療法（ＲＥＢT）、認知行動療法など、⑥交流分析（ＴＡ）、⑦自律訓練法（ＡＴ）、⑨肯定的資質の発見
14	生活習慣と健康：①習慣の形成、②健康な生活習慣（栄養、食生活、運動、休養、疲労の解消）、③生活習慣病の予防（がん、脳卒中、心臓病、胃潰瘍＜十二指腸潰瘍＞・肥満症、喫煙、飲酒）、ライフスタイルを考える。
15	健康的な習慣をつくることとは：①自発的な行動変容、②生活習慣の維持と逆戻りの防止、健康行動をつくること（ローカス・オブ・コントロール、自己効力感）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 ストレス・トランスアクショナル・モデルの健康心理カウンセリングへの応用について述べよ。

＜ポイント＞

ストレスのトランスアクショナル・モデルとは如何なるものか、モデルを構成する各概念（ストレッサー、ストレス反応、評価、対処、et.al.）について詳述しながら説明すること。さらに、このトランスアクショナル・モデルの理論を、どのように健康行動の獲得やストレスマネジメント、ひいては健康心理カウンセリングなどに応用できるかを論考すること。

科目終了試験学修のポイント

1．ヘルスビリーフと健康行動について

＜ポイント＞健康に関して、個人と外界の間に成立している事態について、どのように知覚・認知しているのかを考える。①ブレスローの 7 つの健康習慣、②レーヴェンタールの行動予測因子、③オグデンのヘルスローカス・オブ・コントロール、④各健康行動モデル（ヘルスビリーフモデル他）について考察する。個人の信念と健康行動の関係が大切である。（テキスト：第3章）

2．ストレスのメカニズムと疾患について

＜ポイント＞ストレスのメカニズムについては、セリエの生理的ストレス、ラザルスらの心理学的ストレスの内容をよく見ること。ストレス疾患については、ストレスがもたらす症状（自律神経系、内分泌系の各症状、心身症など心療内科関連の疾患）についてまとめること。（テキスト：第4章）

3．パーソナリティおよびソーシャルサポートと健康の関連性について

＜ポイント＞健康なパーソナリティでは、ユング、マズロー、パールズ、エリス、本明寛などのパーソナリティ理論をよく見ること（キーワード：自己実現、楽観主義、ユーモア）。また、疾患とパーソナリティでは、タイプA行動パターンやタイプC行動パターンをよく見ること。（テキスト：第5章）ソーシャルサポートの定義と理論についてはテキスト第7章を参照すること。

4．ヘルスケアのシステムと健康教育について

＜ポイント＞ヘルスケアシステムの概要や内容について具体的に考える。ヘルスケアシステムの中での機能、サービスの種類、その対象者、現在我々が直面している健康問題とその対象者、健康政策との関連性やその評価など。（テキスト：第8章）

5．心身の健康とライフスタイルについて

＜ポイント＞生活習慣（ライフスタイル）と健康を考える上では、健康習慣の構築が必要となる。生活習慣の中で、栄養・食生活・運動・休養・疲労の解消は重要である。また生活習慣病では、三大疾病（がん・脳卒中・心臓病）の予防や肥満・胃潰瘍・喫煙・アルコール・飲酒などの健康問題（予防も含めて）考えることが重要である。（テキスト：第6章）

6．健康心理カウンセリングについて

＜ポイント＞①健康心理カウンセリングの基礎（マイクロカウンセリング）をまとめる。②健康カウンセリング（クライエント中心療法、意思決定のカウンセリング、行動カウンセリング、理性感情行動療法＜REBT＞、交流分析＜TA＞、自律訓練法＜AT＞）など、それぞれ内容を理解する。③健康行動やビリーフへのアプローチを行う。（テキスト：第11章）

教科書

野口京子『新版健康心理学』金子書房。

参考文献

二木鋭雄『ストレスの科学と健康』共立出版。
山田冨美雄『医療の行動科学Ⅰ：医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー』北大路書房。
津田彰『医療の行動科学Ⅱ：医療行動科学のためのカレント・トピックス』北大路書房。
島井哲志、他『健康心理学・入門』有斐閣アルマ。
森和代、他『よくわかる健康心理学』ミネルヴァ書房。

科目コード	健康管理学（健康相談活動を含む）（2 単位）	登録年次	履修方法
3530		3年	SR
教員名	石本強、橋本由利子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

人間や生活についての理解を深めるとともに社会や環境が人間の健康をどのように想定し左右するか、あるいは人間の健康を保持増進するための社会や環境はどうあるべきかなど社会や環境と健康とのかかわりについて修得する。

具体的には、国民の健康の現状、健康に影響する生活要因と健康を阻害する疾病の予防、健康管理の進め方、健康づくりの施策などについて学修する。

学修内容

1	・健康の概念について 教科書②を読み、健康の定義、健康の指標、ヘルスプロモーションの概念について学修する。
2	・健康の現状について 教科書②を読み、日本人の平均寿命、健康寿命の概念、疾病構造等について学修する。データはできれば参考書等で最新のものを調べる。
3	・健康水準の国際比較 教科書②を読み、主な生活習慣病である悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の死亡率について諸外国のデータと比較し考察する。生活習慣病の概念については教科書②p.37 を参照する。主な生活習慣病については参考書等で調べること。
4	・健康の増進 3 原則について 教科書②を読み、栄養・運動・休養が、健康増進の 3 原則であることについて学修する。 ・健康に影響する生活要因（栄養・食生活、身体活動・運動、休養） 教科書②を読み、厚生労働省が策定している食生活指針、運動指針、休養指針について学修する。
5	・健康に影響する生活要因（ストレス）について 教科書②を読み、ストレスとは何か考え、ストレスマネージメントにはどのようなものがあるか考察する。
6	・職場におけるメンタルヘルスについて 教科書①を読み、職場環境の中でのメンタルヘルス対策について考察する。
7	・健康に影響する生活要因（喫煙・飲酒）について 教科書②を読み、喫煙および飲酒の健康影響と対策についてまとめること。
8	・健康に影響する生活要因（環境）について 教科書②を読み、人類が直面している生活環境および地球環境の諸問題について学修する。
9	・健康管理の考え方と方法（健康管理の定義、体系、手段、方法） 教科書②を読み、疾病予防（一次予防、二次予防、三次予防）の考え方、健康管理の方法、スクリーニング検査について学修する。
10	・健康管理活動について 教科書②を読み、健康教育および健康相談の内容と方法について学修する。
11	・健康診断および検診の種類と方法について 教科書②を読み、健康診断にはどのようなものがあるかを学習する。とくに職域における健康診断の種類と方法については教科書①で確認する。
12	・職場における健康診断実施後の措置について 教科書②を読み、職場における健康診断後の流れについて把握する。とくに就業区分の詳しい内容については教科書①で確認する。
13	・健康づくりの施策（健康日本 21 第 2 次、健康増進法） 教科書②を読み、我が国の健康づくり施策の歴史と健康日本 21 第 2 次およびその評価について考察する。
14	・健康管理活動の実際例について 教科書②を読み、健康管理活動の実際にはどのような例があるか学修する。
15	・社会生活を心身ともに健康に過ごすための方策について 上記で学んだ健康の概念と現状、健康に影響を及ぼす様々な要因、それに対するわが国の施策等をまとめ、健康で活動できる年齢を高めるために、さらにどのような施策が必要か、また日常生活の中で個々人はどのような行動をすべきか考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 社会生活を心身ともに健康に過ごすための方策について述べよ。

＜ポイント＞

疾病は社会の状況に応じて大きく変化する。日本の平均寿命は世界第1位であるが、その一方で、生活の質（QOL）の向上は寿命の延長に追いついておらず、問題点が多い。単なる生存期間の延長ではなく、健康で活動できる年齢を高めるために、社会、環境および職場においてどのような施策が行われ、また日常生活の中で個々人はどのような行動をすべきか考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．健康診断および検診の種類と方法について

＜ポイント＞

健康診断にはどのようなものがあるか。とくに職域における健康診断について詳しく学修する。

2．職場における健康診断実施後の措置について

＜ポイント＞

職場における健康診断後の流れについて学修する。就業区分（通常勤務、就業制限、要休業）についても学修する。

3．主な生活習慣病とその予防について

＜ポイント＞

生活習慣病とは何か、主な生活習慣病にはどのようなものがあるか、それを予防するにはどうしたらよいかを一次予防、二次予防、三次予防の観点からまとめる。

4．喫煙および飲酒対策について

＜ポイント＞

喫煙および飲酒それぞれの健康に及ぼす影響とそれぞれの対策についてまとめる。

5．職場におけるメンタルヘルスについて

＜ポイント＞

ストレスとは何か考え、次に職場環境の中でのメンタルヘルス対策について考察する。

6．健康づくりの施策、特に「健康日本２１」および「健康日本２１（第二次）」について

＜ポイント＞

我が国の健康づくり施策の歴史と健康日本21とその評価および健康日本21（第二次）について考察する。

教科書

①中央労働災害防止協会『衛生管理＜上＞第1種用』中央労働災害防止協会。

②東あかね『健康管理概論』講談社サイエンティフィク。

参考文献

厚生統計協会『国民衛生の動向（最新版）』。
中央労働災害防止協会『労働衛生のしおり』中央労働災害防止協会。
鈴木庄亮、他『シンプル衛生公衆衛生学』南江堂。
苫米地孝之助『健康管理論』建帛社。
日本化学会編『ストレスを科学する』大日本図書。

科目コード	健康心理学（２単位）	登録年次	履修方法
2800		３年	R
教員名	齋藤瞳、佐野友泰、志茂田典子、中山麻子、村山陽		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心身の健康の維持増進や疾病への対処について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割を持つのかを心理学的な側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好品の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄について具体的な理解を深める。さらに、人間性のネガティブな側面についてのみではなく、ポジティブな側面についても言及し、それらが心身の健康や疾病に対してどのような関わりを持つのかを考察する。

学修内容

1	健康心理学とは：①健康の定義（WHO の健康定義など）、②健康心理学が生まれた社会的背景、③健康心理学とはどのような学問か、④健康心理学と他学問との関連領域
2	健康心理学の基礎となる心理学の基礎的な考え方Ⅰ：①精神分析の理論（フロイト精神分析の理論、新フロイト派の精神分析理論）、②学習理論・行動理論（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論、行動療法、自己効力感）、③発達理論（ビューラ―の発達理論・エリクソンの生涯発達理論と発達課題・ハヴィガーストの発達課題）
3	健康心理学の基礎となる心理学の基礎的な考え方Ⅱ：①動機づけと情動理論、②認知心理学（認知理論・情報処理・認知行動療法）、③人間性心理学（フランクルの意味への意志・ロゴテラピー、マズローの欲求階層説・自己実現、ロジャーズの自己理論・クライエント中心療法）
4	健康行動の理解Ⅰ：①健康行動（健康行動とは、心理学と健康行動）、②健康行動を予測する因子（ヘルスビリーフ）、③健康行動をつくるモデル（ヘルスビリーフモデル、リーズンドアクション理論、プランド・ビヘイビア理論、プリシードモデル
5	健康行動の理解Ⅱ：予防（一次予防、二次予防、三次予防、精神保健学での予防、予防医学・行動医学の考え方）、危険因子など
6	ストレスと健康Ⅰ：①ストレスとは、②ストレスの理論（ホメオスタシス、キャノン・セリエの生理学的ストレス、ラザルスらの心理学的ストレス＜ライフイベント、デイリーハッスルズ＞）、③トランスアクショナルモデルなど
7	ストレスと健康Ⅱ：①ストレス対処（コーピング）、②認知的評価（アプレイザル）、③認知知的評価への要因（コミットメント・ビリーフなど）④ストレス反応と疾患（自律神経系・内分泌系、心身症など、心身医学・心療内科との関連）
8	パーソナリティと健康：①健康なパーソナリティ（ユングの個性化、マズローの自己実現、パールズの「いまここに生きる」、エリスの理性的であること、本明寛の態度能力）、②健康観（楽観主義、ユーモア）、③疾患とパーソナリティ（タイプA行動パターン、タイプCとがん）
9	生活習慣と健康：①習慣の形成、②健康な生活習慣（栄養、食生活、運動、休養、疲労の解消）、③生活習慣病の予防（がん、脳卒中、心臓病、胃潰瘍＜十二指腸潰瘍＞・肥満症、喫煙、飲酒）、ライフスタイルを考える。
10	ソーシャルサポート：①ソーシャルサポートとは、②ソーシャルサポートと健康に関する理論（メインエフェクトモデル、ストレスバッファリンクモデル、社会統合論、ネットワーク理論、個人的信頼関係の考え方）
11	ヘルスケアシステム：①ヘルスサービスの利用者モデル、②わが国のヘルスサービス、（健康の危機管理、現代社会と健康、高齢化をめぐる問題、厚生科学と技術評価、エイズ対策、ヘルスシステムの問題点）、健康政策との関連を考える。
12	健康教育：①各発達段階での健康教育、②各生活の場における健康教育（学校での健康教育、職場での健康教育、医療の場での健康教育、コミュニティにおける健康教育＜健康増進プログラム＞）
13	健康心理アセスメント：①アセスメント（健康心理学に関する各検査法）、②評価、③アセスメント技術、④アセスメントの評価の扱い方
14	健康心理カウンセリング：①カウンセリングの基礎理論、②健康心理カウンセリング、③カウンセリングプロセス、④健康心理カウンセリングの理論、⑤理性感情「行動療法（ＲＥＢT）、認知行動療法など、⑥交流文政（ＴＡ）、⑦自律訓練法（ＡＴ）、⑧健康心理カウンセリング、⑨肯定的資質の発見
15	健康的な習慣をつくることとは：①自発的な行動変容、②生活習慣の維持と逆戻りの防止、健康行動をつくること（ローカス・オブ・コントロール、自己効力感）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 ストレス・トランスアクショナル・モデルの健康心理カウンセリングへの応用について述べよ。

＜ポイント＞

ストレスのトランスアクショナル・モデルとは如何なるものか、モデルを構成する各概念（ストレッサー、ストレス反応、評価、対処、et.al.）について詳述しながら説明すること。さらに、このトランスアクショナル・モデルの理論を、どのように健康行動の獲得やストレスマネジメント、ひいては健康心理カウンセリングなどに応用できるかを論考すること。

科目終了試験学修のポイント

1．ヘルスビリーフと健康行動について

＜ポイント＞健康に関して、個人と外界の間に成立している事態について、どのように知覚・認知しているのかを考える。①ブレスローの 7 つの健康習慣、②レーヴェンタールの行動予測因子、③オグデンのヘルスローカス・オブ・コントロール、④各健康行動モデル（ヘルスビリーフモデル他）について考察する。個人の信念と健康行動の関係が大切である。（テキスト：第3章）

2．ストレスのメカニズムと疾患について

＜ポイント＞ストレスのメカニズムについては、セリエの生理的ストレス、ラザルスらの心理学的ストレスの内容をよく見ること。ストレス疾患については、ストレスがもたらす症状（自律神経系、内分泌系の各症状、心身症など心療内科関連の疾患）についてまとめること。（テキスト：第4章）

3．パーソナリティおよびソーシャルサポートと健康の関連性について

＜ポイント＞健康なパーソナリティでは、ユング、マズロー、パールズ、エリス、本明寛などのパーソナリティ理論をよく見ること（キーワード：自己実現、楽観主義、ユーモア）。また、疾患とパーソナリティでは、タイプA行動パターンやタイプC行動パターンをよく見ること。（テキスト：第5章）ソーシャルサポートの定義と理論についてはテキスト第7章を参照すること。

4．ヘルスケアのシステムと健康教育について

＜ポイント＞ヘルスケアシステムの概要や内容について具体的に考える。ヘルスケアシステムの中での機能、サービスの種類、その対象者、現在我々が直面している健康問題とその対象者、健康政策との関連性やその評価など。（テキスト：第8章）

5．心身の健康とライフスタイルについて

＜ポイント＞生活習慣（ライフスタイル）と健康を考える上では、健康習慣の構築が必要となる。生活習慣の中で、栄養・食生活・運動・休養・疲労の解消は重要である。また生活習慣病では、三大疾病（がん・脳卒中・心臓病）の予防や肥満・胃潰瘍・喫煙・アルコール・飲酒などの健康問題（予防も含めて）考えることが重要である。（テキスト：第6章）

6．健康心理カウンセリングについて

＜ポイント＞①健康心理カウンセリングの基礎（マイクロカウンセリング）をまとめる。②健康カウンセリング（クライエント中心療法、意思決定のカウンセリング、行動カウンセリング、理性感情行動療法＜REBT＞、交流分析＜TA＞、自律訓練法＜AT＞）など、それぞれ内容を理解する。③健康行動やビリーフへのアプローチを行う。（テキスト：第11章）

教科書

野口京子『新版健康心理学』金子書房。

参考文献

二木鋭雄『ストレスの科学と健康』共立出版。
山田冨美雄『医療の行動科学Ⅰ：医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー』北大路書房。
津田彰『医療の行動科学Ⅱ：医療行動科学のためのカレント・トピックス』北大路書房。
島井哲志、他『健康心理学・入門』有斐閣アルマ。
森和代、他『よくわかる健康心理学』ミネルヴァ書房。

科目コード	健康相談活動の理論と方法（２単位）	登録年次	履修方法
6240		２年	R
教員名	石垣久美子、石田妙美、八重樫節子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

「健康相談活動」は、養護教諭の新たな役割（平成９年度保健体育審議会答申）として注目され、養護教諭養成カリキュラムに導入された。不登校や登校しても授業に出席できない「保健室登校」、いじめ、自殺、アレルギー、不定愁訴など、児童生徒等の心身の健康問題は、複雑多様化している。ここでは、その背景となる地域、家庭環境も含めて、現状を直視し、児童生徒等の目線で問題解決を図っていくための方法論を身につけることを目的とする。

身体不調を訴え保健室に来室する児童生徒の心の安定を図りながらの処置・対応、問題の背景の発見をはじめ、家庭・地域の専門家や機関等との連携能力の育成も含めた理論と実践を学ぶ。

学修内容

1	健康相談活動の基本的な考え方 ・健康相談活動の定義と、健康相談活動が養護教諭の新たな役割となった背景（平成９年保健体育審議会答申）。 ・学校保健安全法第８条における健康相談と健康相談活動との関連性（教科書 p.20～参照）
2	健康相談活動の概念と特質（教科書 p.10～、p.25～参照） ・健康相談活動の定義に記されている、「養護教諭の職務の特質」「保健室の機能」について理解し、健康相談活動の特殊性をつかむ。
3	健康相談活動の基本型と継続型について（教科書 p.27～参照） ・よくある来室パターンと、これに応じた養護教諭の対応のあり方
4	健康相談活動を進めるための養護教諭の力量と資質（教科書 p.35～参照） ・心理的援助に関する基礎知識、理論
5	児童生徒の心身の健康課題と、保健室での対応の実態 ・子どものヘルスニーズを理解する（教科書 p.46～参照） ・保健室利用状況調査から、（日本学校保健会 HP より参照可能）児童生徒や保健室の実態を把握する。
6	健康相談活動の基礎（教科書 p.49～） ・子どもの現れと、発達的要因、医学的要因　　・相談支援の目標とその方法
7	健康相談活動の進め方の基本（教科書 p.66～参照） ・健康相談活動の流れと、その中で養護教諭に求められていること。
8	健康相談活動の実際 ①身体的課題から、心理的不調を訴えている事例（教科書 p.98 事例１　喘息発作参照）
9	②心理的ストレスが、身体症状に発展した事例（教科書 p.95、p.108 事例６　過呼吸発作参照）
10	③精神疾患を想定した事例（教科書 p.96、p.106 事例５　摂食障害参照）
11	④発達障害が疑われる事例（教科書 p.124 事例 13　ADHD） ※その他事例については、文部科学省「教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引」を参照
12	健康相談活動における組織的対応（教科書 p.31～、p.89～参照） ①健康相談活動のプロセスにおける各教職員の役割と連携
13	②相談における守秘義務と、組織内での情報共有のあり方
14	③地域の専門機関との連携のあり方
15	健康相談活動の基本的な進め方と、養護教諭の専門性を発揮した相談支援のあり方についてまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　養護教諭の職務における健康相談活動の基本理念とその実践方法について述べよ。

＜ポイント＞

養護とは何か？養護教諭の職務としての健康相談活動の意義・役割、相談支援の原理をふまえながら、学校教育の場での児童生徒のヘルスニーズを発見し、対応していくための具体的な実践方法について論考する。

なお学校保健安全法第8条に規定された「健康相談」についても論じること。

科目終了試験学修のポイント

１．養護教諭の職務としての健康相談活動の意義について

＜ポイント＞

平成9年保健体育審議会答申などから、健康相談活動が養護教諭の新たな役割として明示された背景を読み取り、その中で養護教諭に求められている役割について触れる。

２．健康相談活動の基本型と継続型について

＜ポイント＞

受容的共感的態度を基本としつつ、他の職員や専門機関との連携による継続支援につなげるべき事例が存在することに着目する。

３．相談支援の原理と諸問題への具体的な対応方針について

＜ポイント＞

カウンセリングの基本的技術や、精神医学の基礎的知識を押さえた上で、学校現場で出会うことの多い心身症、精神疾患、いじめ、虐待、不登校などの問題に、養護教諭の立場からはどのような支援が可能であるのかを具体的に検討する。

４．健康相談活動の基礎とその背景について

＜ポイント＞

現代的子どものヘルスニーズや、その背景にある発達的、医学的要因、心理社会的要因について理解し、これに応じた支援のあり方に触れる。

５．保健室来室場面の健康相談活動の進め方の実際を、学校内外との連携を含めて、説明せよ。

＜ポイント＞

健康相談活動の定義を踏まえながら、教科書や参考文献に掲載されている様々な事例について検討し、養護教諭の専門性やコーディネーター力をいかした対応のあり方について考える。

６．子どもの健康保護とプライバシー保護について

＜ポイント＞

守秘義務を守りながらも、子どもの命や健康を保護するためには組織的対応が求められる事例があることにふれ、チーム支援を展開する際に留意すべきことを考える。

教科書

大谷尚子、他『養護教諭の行う健康相談』東山書房。

参考文献

文部科学省『教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引』。
市橋秀夫『心の地図−心の障害を理解する 上巻（児童期―青年期）』星和書店。
宍戸洲美『養護教諭の役割と教育実践』 学事出版。

科目コード	言語学概論（２単位）	登録年次	履修方法
9061		１年	R
教員名	山口雅代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

世界の言語は多様で、日本語や中国語、日本手話といった個別言語はそれぞれとても異なる特性を持っていると思われがちだが、実はよく観察してみると諸言語の間には驚くほどの共通性がある。人間言語の多様性と共通性の両側面から、音声・音調、語形態、文法、語彙、そして意味について考察を進め、ことばの豊かさとその背後にある普遍特性を発見していく。また、関連領域である脳科学、言語機能の進化についても学ぶ。

学修内容

1	序章「ことばの世界をさぐる」人間言語の多様性、普遍性、内部言語(I-言語)、言語機能とは何かを理解する。（教科書 pp.1-7；言語の普遍性については、文献[7]第１章、言語の多様性については、文献[2]第５章も参照）
2	序章「ことばの世界をさぐる」言語研究の意義、言語研究の諸領域についての理解を深める。教科書 p.12 の練習問題を解く。（教科書「序章」pp.7-13；文献[1]第 1, 2, 4, 5 章を合わせて読む。）
3	第１章「発音の仕組みをさぐる」①-④　日本語の音韻規則の１つである「連濁」について学習する。連濁現象の仕組みを理解し、簡潔に説明できるようになる。（教科書 pp.16-22、及び参考文献[2]第７章を合わせて読むとよい。）
4	第１章「発音の仕組みをさぐる」⑤-⑦　連濁に関する意味制約・構造的制約・例外事例を学修し、説明できるようにする。教科書 pp. 30～31 の練習問題を解く。（教科書 pp.23-33）
5	第２章「語の仕組みをさぐる」①-②　日本語を例にとり、複合・接辞化・転換によってできる複雑語がどういうものかを学習し、説明できるようになる。また、語のまとまりについて理解する。（教科書 pp.36-44）
6	第２章「語の仕組みをさぐる」③-④　複雑語の内部構造がどのようになっているかを考察し、語を組み合わせていくときの階層性や構造に関わる制約を理解する。教科書 p.53 の練習問題をやる。（教科書 pp.44-55）
7	第３章「文を作る仕組みをさぐる」①-②　人間の言語の句構造について学修する。諸言語に共通する特性である構造の階層性や、語順の多様性について説明できるようになる。（教科書 pp.58-64;文献[2] 第５章、 [7]第４章も参照）
8	第３章「文を作る仕組みをさぐる」③-④ 文の構造と補文標識(Complementizer)について理解する。課題として、教科書 p. 69 の例文(30～34)の文のそれぞれの構造を枝分かれ図で表示してみる。（教科書 pp.64-77）
9	第４章「ことばの意味と法則をさぐる」①-③　語の意味と意味関係について学修する。また、文の意味を理解するときに働く「構成性の原理」について説明できるようになる。（教科書 pp.80-88；文献[2]第 3-4 章を合わせて読むとよい。）
10	第４章「ことばの意味と法則をさぐる」④-⑤ 否定辞を例にとり、意味の「スコープ」という概念を理解する。また、焦点と音調の関係についても学修する。教科書 p.93 の練習問題の１と２を解く。（教科書 pp.89-96）
11	第 11 章「比喩の世界をさぐる」①-④　日常言語における比喩の働きをとりあげる。比喩の２タイプ、音の象徴性、意味の変化について学修し、例を挙げて説明できるようになる。（教科書 pp.212-221）
12	第 11 章「比喩の世界をさぐる」⑤-⑦ 英語の例を中心に、言語における比喩の拡張がどういうものかを考える。また、根源的比喩のタイプについて概観する。教科書 p.227 の練習問題を解く。（教科書 pp.221-230）
13	第 12 章「言語を生み出す脳をさぐる」①-②　人間言語を産出する脳の仕組みを学修する。第２章、第３章での学修を踏まえ、言語の構造依存性と脳の関係について考える。（教科書 pp.232-241；参考文献[4]第 1～7 章を合わせて読むとよい。）
14	第 12 章「言語を生み出す脳をさぐる」③-⑤　脳のブローカ野と構造依存性についての関係を学修し、説明できるようになる。教科書 p.247 の練習問題の 1-3 を解く。（教科書 pp.241-250；参考文献[4]第 1～7 章を合わせて読むとよい。）
15	第 13 章「起源と進化をさぐる」①-③　言語の起源と進化について学修する。生物の進化研究と言語の進化の問題を関連づけながら理解を深める。（教科書 pp.252-263；参考文献[7]第２章を合わせて読むとよい。）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】音声、語形態、文、意味の4つのテーマの中から1つを選び、人間言語に共通する普遍的特性を、日本語(およびその他の言語)を例にとりながら説明せよ。

＜ポイント＞

まず、学修した人間言語の共通特性を確認し、練習問題を参考にしながら日本語の例を列挙する。次に、それらの例について、枝分かれ図や括弧[]を使用しながら構造を分析し、音、語、文、意味に関する人間言語の共通特性を1つずつ説明していくとよい。音声・音韻に関しては、文献 [2]第 7 章を、日本語の語形態、文、意味については、文献[3], [5], [6]を参考にするとよい。また、日本語と別の言語を比較すると議論しやすい。

科目終了試験学修のポイント

1．日本語の音韻規則の1つである「連濁」とそれに課される制約について述べよ。

＜ポイント＞

連濁に課される制約（語種制約、ライマンの法則、意味制約、枝分かれ制約）を理解しておく。練習問題（pp.30-31）で確認する。

2．日本語の複雑語の内部構造について、例をあげて説明せよ。

＜ポイント＞

複雑語の語形成に課される制約を説明する際、教科書 pp.49-50 にならって、語の内部構造を枝分かれ図や括弧[]を使いながら表示するとよい。

3．人間言語の句構造の普遍性と多様性について述べよ。

＜ポイント＞

日本語とそれ以外の言語を1つ例にとり、同じような意味の文を呈示する（例：p.61 の(1)～(4)）。そして、それらの句構造を枝分かれ図や括弧[]で表示しながら、それらに共通する特徴と違いを述べる。

4．フレーゲの意味の「構成性の原理」について述べよ。

＜ポイント＞

「UCLA は再びアルパカを調査した。」など、2 つ以上の異なる意味解釈が可能な文を日本語で呈示し（p.83 参照）、構成性の原理にのっとって、それぞれの解釈がどのように得られるかを枝分かれ図や括弧[]を使いながら説明する。

5．比喩によることばの拡張について述べよ。

＜ポイント＞

比喩によることばの拡張について、日本語の例をあげて説明する。教科書 p.221-226 にあるような英文の例を参考に、日本語における比喩の例を見つけてみる。

6．脳のブローカ野と言語の関係について述べよ。

＜ポイント＞

「言語野」としてのブローカ野について説明し、その部位が果たしている重要な言語の特性を列挙する。教科書 p.237 にある英文の例を日本語に置き換えて例を挙げながら、人間言語の特性を説明するとよい。

教科書

大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学 ： ことばの世界をさぐる 17 章』ミネルヴァ書房、2009。

参考文献

[1]福井直樹著.『新・自然科学としての言語学： 生成文法とは何か』ちくま学芸文庫、2012。

[2]風間喜代三［ほか］著. 『言語学』第二版　東京大学出版会、2004。

[3]久野暲. 『新日本文法研究』大修館書店、1983。

[4]酒井邦嘉. 『言語の脳科学』中公新書、2002。

[5]寺村秀夫.『日本語のシンタクスと意味Ⅰ-Ⅲ』くろしお出版、1982。

[6] Kuno, Susumu. The Structure of the Japanese Language. Cambridge, MA: MIT Press. 1973.

[7] Fromkin, Victoria, *et al.* An introduction to language. 10th ed. Boston, MA: Thomson Wadsworth. 2014.

科目コード	現代社会と社会教育（２単位）	登録年次	履修方法
3060		３年	R
教員名	山田哲史		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会の変化に対応すべく、社会教育が当面する課題や、社会教育をめぐる新たな動きについて検討し、併せて青少年を取り巻く諸事象にも注目しながら、青少年教育に社会教育が果たす役割についても検討していく。

学修内容

1	生涯学習の内容の全体像について　＜教科書②　pp.52-55＞ 発達的観点、現代的観点、文化的観点、属性的観点、についてまとめた上で、諸課題どうしの重なり合いについて説明する。また、生きる課題の３領域（生存確保課題、生活向上課題、生きがい課題）についてもまとめる。
2	生涯学習施設の類型について　＜教科書②　pp.154-155＞ 社会教育施設の類型（活動内容や対象による分類、設置者による分類、運営者による分類）、社会教育施設や生涯学習施設の種類についてまとめる。
3	「統合」を鍵とした生涯学習について　＜教科書②　pp.46-47＞ 垂直的統合と水平的統合、それぞれの意味内容と課題について注目するとともに、生涯学習論の目指す人間像とはどのようなことであるかまとめる。
4	「解放」を鍵とした生涯学習について　＜教科書②　pp.48-49＞ 抑圧や束縛を生み出す構造を変革して学習者をより自由な存在へと脱却していく解放の過程を重視するジェルピの生涯教育論、フレイレの「解放の教育」、メジロウの「変容的学習」についてまとめる。
5	「循環」を鍵とした生涯学習について ＜教科書② pp.50-51＞ 学校から社会、社会から学校、そして再び学校から社会へと循環を可能にする教育モデルであるリカレント教育が世界的に認知された契機、スウェーデンにおけるリカレント教育の内容や特徴、日本におけるリカレント教育とその課題についてまとめる。
6	青少年の体験の実態とその影響について　＜教科書①　pp.11-15＞ 子どもの生活・体験活動等の実態（家庭でのお手伝い、親からの指導・注意、他者とのかかわり、生活体験・自然体験、地域社会とのかかわりやボランティア活動、テレビ・テレビゲームの時間、情報機器、体験活動に関する意識）についてまとめる。
7	学社融合の展開について　＜教科書①　pp.16-20＞ 家庭、学校、社会の教育機能相互の連絡・連携・協力の必要性と、青少年教育における学社融合論、今日的な学社融合論のすすめ方についてまとめる。
8	体験活動に取り組む青少年教育施策について　＜教科書①　pp.21-26＞ 文部科学省における奉仕活動・体験活動関連主要施策（地域と学校が連携協力した奉仕活動・体験活動の推進、学校における豊かな体験活動の推進、青少年の体験活動の推進）についてまとめる。
9	青少年施設の現状と課題について（その１：資料の収集と精読） ＜身近に存在する青少年教育施設に関する資料を収集し、それらを精読する＞ 注目する施設に関する内容のリーフレットやパンフレット、その施設のホームページ等に掲載されている記事、その施設について記述がなされている刊行物等、可能な限り関連する資料を収集する。
10	青少年施設の現状と課題について（その２：現状と課題を検討） ＜９で収集した資料などを活用し、青少年教育施設の現状と課題を検討する　／教科書② pp.168-169＞ 注目する施設の現状についてどんなことが言えるのかまとめる。また、実際にその施設に足を運んでみて可能な範囲で見学し、そのときに発見した事柄や実感した事柄等をまとめてみるのもよい。
11	青少年の文化芸術活動について　＜教科書①　pp.39-44　／教科書②　pp.78-79＞ 「文化芸術の振興に関する基本的な方針について」における青少年の文化芸術活動の充実に関する事柄や、文化芸術活動と生涯学習をめぐる近年の動向についてまとめる。
12	近現代日本の生涯学習について　＜教科書②　pp.216-219＞ 明治以降の社会教育行政の変遷をはじめ、民間の教育事業や学習活動などの動向や個々人が営む学習の形態などについてまとめる。

13	成果活用を意識した生涯学習について　＜教科書②　pp.94-95＞ 　学習の成果活用を促進する必要性が理解されるようになってきた背景や学習の成果活用を促進していく上で必要な事柄や留意点についてまとめる。
14	開かれた学校と学校支援ボランティア活動について　＜教科書①　pp.80-84 ／教科書② pp.156-157＞ 　学校開放の類型や展開の状況について注目した上で、開かれた学校づくりの推進方策としての学校支援ボランティアの活動の状況（活動例）や課題などについてまとめる。
15	職業能力開発について　＜教科書②　pp.172-179＞ 　職業能力開発の重要性や体系について注目した上で、公的な職業能力開発、企業による職業能力開発、大学院による高度専門職養成についてまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 青少年教育施設の現状と課題について述べよ。

＜ポイント＞

青年の家や少年自然の家等、身近に存在する青少年教育施設に随意に焦点をあて、その施設に関する資料を収集し、それらを手がかりとしながら、その施設の設置の沿革や立地条件、設備の状況、利用状況など、可能な範囲で整理し、その上で施設をめぐる課題についてもやはり可能な範囲で検討しておきたい。実際にレポートで取り上げる対象の青少年教育施設にアクセスしてみるのもこれらの施設を実感的に理解する上での有効な方法であろう。

科目終了試験学修のポイント

１．生涯学習の内容の全体像について

＜ポイント＞

発達的視点、現代的視点、文化的視点、属性的視点、生存確保課題、生活向上課題、生きがい課題、等のキーワードを反映させながらまとめる（学修内容１参照）。

２．成果活用を意識した生涯学習について

＜ポイント＞

生涯学習社会、学習成果の活用、生涯学習パスポート、現代的課題、等のキーワードを反映させながらまとめる（学修内容 13 参照）。

３．開かれた学校と学校支援ボランティア活動について

＜ポイント＞

開かれた学校、学校支援ボランティア、学校開放、等のキーワードを反映させながらまとめる（学修内容 14 参照）。

４．学社融合の展開について

＜ポイント＞

学社連携論、学社融合論、生きる力、学校教育、社会教育、等のキーワードを反映させながらまとめる（学修内容 7 参照）。

５．青少年教育施設について

＜ポイント＞

青少年教育施設、青年の家、少年自然の家、等のキーワードを反映させながらまとめる（学修内容 10＋教科書② pp.168-169 参照）。

６．職業能力開発について

＜ポイント＞

離職者訓練（能力再開発訓練）、在職者訓練（向上訓練）、学卒者訓練（養成訓練）、OJT、Ｏｆｆ－JT、エンプロイヤビリティー、科目等履修生制度、専門職大学院、等のキーワードを反映させながらまとめる（学修内容 15 参照）。

教科書

伊藤俊夫『豊かな体験が青少年を育てる』全日本社会教育連合会。

香川正広、他『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房。

参考文献

生涯学習・社会教育行政研究会『生涯学習・社会教育行政必携』第一法規。

科目コード	権利擁護と成年後見（2単位）	登録年次	履修方法
3190		3年	R
教員名	上野義光、小澤浩之、河野等		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

日常的に何らかの援助を必要とする人々に接することが多い専門職として、鋭い人権感覚を身につけておくことは重要である。相談援助と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり、成年後見制度（後見人等の役割を含む）、日常生活自立支援事業について学修する。そして、社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

学修内容

1	社会福祉士や精神保健福祉士が成年後見活動を行う上での留意点について、「権利擁護」の視点を学修する。 成年後見制度の概要を理解した上で、特に社会福祉士や精神保健福祉士といったソーシャルワーカーに求められる「身上監護」を軸とした成年後見活動を行う際の留意点を中心に考察する。また、「倫理綱領」等と照らして、権利擁護（アドボカシー）の一環としての成年後見活動とは何かを考察する。
2	「権利擁護」の具体化としての成年後見制度の位置づけと、ソーシャルワーカーとしての後見活動のあり方を考察する。 特に、入口としての「権利擁護相談」においてソーシャルワーカーが果たすべき役割（相談援助や連絡調整の専門職としての役割）、ニーズ発見と制度へのつなぎ、権利擁護制度の利用支援とコーディネート、成年後見制度の理念と身上監護の担い手としてのソーシャルワーカーのあり方について理解する。また、権利擁護センター「ぱあとなあ」の取り組みや実践内容について学修する。
3	法定後見制度の概要について理解する。 「成年後見」の概要、「保佐」の概要、「補助」の概要を理解する。特に、それぞれの対象者（「成年被後見人」「被保佐人」「被補助人」について理解し、具体的な申立ての流れについて学修する。
4	任意後見制度の概要について理解する。 任意後見契約の締結、任意後見監督人選任の申立て、任意後見契約の効力発生、任意後見人の後見事務、任意後見監督人による任意後見人の監督、任意後見契約の終了の実際について学ぶ。
5	成年後見人等の義務と責任について理解する。 成年後見業務の特徴を踏まえた上で、善管注意義務、身上配慮義務及び本人の意思尊重義務、居住用不動産の処分、利益相反行為、家庭裁判所との連携、保佐人・補助人の義務と責任について学ぶ。
6	成年後見制度の最近の動向を把握し、今後の課題を考察する。 成年後見制度の運用状況を理解し、医療行為の同意といった課題、本人死亡後の成年後見人の事務、市町村長申立ての活性化、成年後見人の養成のあり方、後見制度支援信託の導入などについて考察し、「誰でも利用できる制度」として、今後どのように改善していけばよいのかを学ぶ。
7	日常生活自立支援事業の概要について学ぶ。 日常生活自立支援事業の創設の背景を理解した上で、日常生活自立支援事業の仕組みと内容、具体的な活用の仕方について、現状と課題を考察する。
8	日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携のあり方について理解する。 日常生活自立支援事業と成年後見制度のそれぞれの特徴と相違点、日常生活自立支援事業と成年後見制度の利用の考え方を踏まえた上で、両制度の併用などについて考察する。
9	権利擁護にかかわる組織・団体について、それぞれの役割や連携の必要性について学ぶ。 特に、家庭裁判所の権限や役割・組織をはじめ、法務局の位置づけや業務内容、市町村の役割と市町村長申立て、社会福祉協議会と権利擁護、児童相談所の役割と児童虐待への対応について理解する。
10	権利擁護に向けた相談援助活動と法の関連を学ぶ。 相談援助活動において想定される法律問題を理解する。そのために、日本国憲法とその基本原理、行政法とは何か、民法における契約の概念や親族法・相続法、その他の社会福祉関連法について理解を深める。
11	成年後見制度利用支援事業の概要について理解する。 成年後見制度利用支援事業の変遷、成年後見制度利用支援事業の現状と課題及び留意点、事業の創設の経緯から将来的な展望までを概観する。
12	権利擁護にかかわる専門職の役割を理解する。 権利擁護にかかわる専門職の役割例としては、介護保険法と弁護士の役割、権利擁護における司法書士の役割、任意後見契約と公証人の役割、鑑定・診断を行う医師としての役割、権利擁護相談と社会福祉士の役割等を学ぶ。

13	「身上監護」を軸とした社会福祉士の成年後見活動について学ぶ。 また、社会福祉士の成年後見活動の実際として、「権利擁護相談」のシステムにおける現状と課題、権利擁護・成年後見活動における社会福祉士会の取り組み等についても具体的に理解する。
14	対象種別・対象領域に応じた成年後見活動の実際を、事例を通じて実際的に学修する。 具体的には、「認知症を有する者への支援の実際」「消費者被害を受けた者への対応の実際」「障害児・者への支援の実際」「市町村長申立てのケースへの対応の実際」等の事例について、成年後見活動の実際を理解する。
15	対象種別・対象領域に応じた権利擁護活動の実際を、事例を通じて実際的に理解する。 具体的には、「被虐待児への対応の実際」「高齢者虐待への対応の実際」「アルコール等依存症への対応の実際」「非行少年への対応の実際」「ホームレスへの対応の実際」「多問題重複ケースへの対応の実際」等の事例について権利擁護活動の実際を理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 ソーシャルワーカーとして成年後見活動を行う上での留意点について権利擁護の視点から具体的に述べよ。

＜ポイント＞

社会福祉士、精神保健福祉士が成年後見活動を行う上で、「身上監護」を中核に位置づけていくことが課題となる。権利擁護の具現化としての成年後見制度の位置づけと、ソーシャルワーカーとしての後見活動を考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．法定後見制度について

＜ポイント＞

法定後見制度の三類型（「後見」「補佐」「補助」）、成年後見の対象者（成年被後見人）、成年後見人の行為能力や役割などについてまとめること。

2．任意後見制度について

＜ポイント＞

任意後見制度の概要、任意後見契約の締結から終了までの流れ、任意後見人、及び任意後見監督人などについてまとめること。

3．成年後見人等の義務と責任について

＜ポイント＞

善管注意義務、身上配慮義務、本人の意思尊重義務、居住用不動産の処分、利益相反行為、家庭裁判所等との連携、保佐人と補助人の義務と責任などについてまとめること。

4．成年後見制度の最近の動向と課題について

＜ポイント＞

成年後見制度の運用状況、課題（医療行為の同意、本人死亡後の成年後見人の事務、成年被後見人・被保佐人の資格制度の見直し、市町村長申し立ての活性化、成年後見人等の養成、後見制度支援信託の導入などについてまとめること。

5．日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携について

＜ポイント＞

日常生活自立支援事業の概要、成年後見制度の概要、日常生活自立支援事業と成年後見制度との相違点と連携の重要性などについてまとめること。

6．権利擁護にかかわる組織・団体について

＜ポイント＞

家庭裁判所を中心として、法務局、市町村、社会福祉協議会、児童相談所等の役割などについてまとめること。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座19　権利擁護と成年後見制度』中央法規出版。

参考文献

新井誠、他編『成年後見制度－法の理論と実務』有斐閣。
平山尚、他『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房。

科目コード	公衆衛生（２単位）	登録年次	履修方法
2420		３年	R
教員名	石本強、橋本由利子、泉二奈緒美		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

公衆衛生学は、健康上の問題を疫学的に捉えることによって、病気の予防や健康の維持増進のための方法を考究する学問である。ここでは、地域保健の現状と課題を学ぶことにより、これからの保健・医療・福祉の方向性と、互いの連携のあり方を考察する。特に母子保健、精神保健、生活習慣病、難病、感染症、高齢者保健などの対策を中心に学修する。また、生活環境、居住環境、労働環境等の衛生行政についても学ぶ。

学修内容	
1	公衆衛生の概念および歴史について：公衆衛生の意義と目的、公衆衛生の外国の歴史および日本の歴史についてその概略を学修する。
2	保健統計について：世界の人口とその推移、日本の人口とその推移、合計特殊出生率の推移、健康指標、粗死亡率と年齢調整死亡率、平均寿命と平均余命、罹患率と有病率、患者調査等について学修する。
3	疫学について：疫学とは何か、疫学指標、年齢調整死亡率の求め方、相対危険・寄与危険の求め方等について学修する。
4	感染症とその予防について：感染症の概念、感染経路、感染症の成立、免疫、感染症対策、感染症法、日本における最近の感染症の動向と主な感染症等について学修する。
5	環境保健の概要について：環境汚染と公害対策環境の概念、地球環境の環境破壊（温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、砂漠化、化学物質による汚染）、環境衛生（空気、温熱環境、上下水道、住居環境等）等について学修する。
6	生活習慣病対策について：生活習慣病とは何か、主な生活習慣病（悪性新生物、循環器疾患、骨粗しょう症、歯および口腔疾患）の疫学とその予防対策等について学修する。参考文献等を利用し、国民の健康づくり運動である「健康日本21（第２次）」についても学修する。
7	母子保健について：母子保健の水準、乳児死亡率、周産期死亡率、妊産婦死亡率、幼児死亡率、母子保健事業、健康診査、母子健康手帳、保健指導と医療援護、母子保健の課題と動向等について学修する。
8	高齢者保健の現状と対策について：日本の高齢者の健康問題や健康状態について現状を学修し、高齢者医療確保法、介護保険制度などの医療・介護制度等についても学修する。
9	難病対策について：難病の概念、難病対策の現状と難病対象疾患について学修する。対象疾患については参考文献などを参照し、最新の情報を得ることが望ましい。難病の患者に対する医療等に関する法律(難病法 2015 年施行)についても学修する。
10	精神保健福祉の歴史と社会復帰対策について：精神障害の分類、精神障害者の処遇に関する法律の変遷を概観し、現在の精神保健福祉法や障害者総合支援法（2013 年 4 月施行）の下での社会復帰対策について学修する。
11	学校保健について：教科書学校保健の概要、児童・生徒の健康状態、学校保健行政、学校保健対策、特殊教育、学校保健の最近の問題等について学修する。
12	産業保健について：労働と健康、労働災害、産業疲労、職業性疾患、産業保健体制と労働衛生管理等について学修する。
13	保健衛生行政について：わが国の保健衛生行政（一般衛生行政・学校保健行政・労働衛生行政・環境保全行政）の概要とその担当官庁、保健所の位置づけとその業務内容、市町村保健センターの業務内容等について学修する。
14	社会保障・社会福祉について：社会保障と社会福祉の概念と意義、社会保険の歴史、医療保険制度とその問題点、医療保険以外の医療保障、年金保険等について学修する。
15	上記で学修したことを総合して、公衆衛生が、「健康上の問題を疫学的に捉えることによって病気の予防や健康の維持増進のための方法を考える学問である」ということをもう一度整理し、レポート課題である「生活習慣病とその対策について」を作成する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 生活習慣病とその対策について述べよ。

＜ポイント＞

病気（疾病）について述べるときには、原因・発生しやすい部位（好発臓器）・その治療法・予防法について述べることが最低限必要となる。死因別死亡率の上位を占めている病気は、社会的にも大きな問題をはらんでいるため、近年の動向には是非注意を払ってもらいたい。データについては、できるだけ新しいものを使用することが望ましい。

参考文献等を利用し、国民の健康づくり運動である「健康日本21（第二次）」についても述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．母子保健の現状と対策について

＜ポイント＞

日本の母子保健の水準（乳児死亡率、周産期死亡率、妊産婦死亡率、幼児死亡率等）、母子保健対策、健康診査、母子健康手帳、保健指導と医療援護、母子保健の課題と動向について学修する。

2．高齢者保健の現状と対策について

＜ポイント＞

日本の高齢者の健康問題や健康状態について現状を学習し、高齢者医療確保法、介護保険制度などの医療・介護制度について学修する。

3．精神保健福祉の歴史と社会復帰対策について

＜ポイント＞

精神保健に関する法律の変遷を概観し、現在の精神保健福祉法や障害者総合支援法（2013年4月施行）の下での社会復帰対策について学修する。

4．難病の概念と難病対策の現状について

＜ポイント＞

難病の概念、難病対策の現状と難病対象疾患について学修する。対象疾患については参考文献などを参照し、最新の情報を得ることが望ましい。また難病の患者に対する医療等に関する法律(難病法)についても述べること。

5．感染症成立の条件と最近の感染症の動向について

＜ポイント＞

感染症の成立要因、感染症予防対策の原則、感染症法、日本における最近の主な感染症等について学修する。

6．保健衛生行政について

＜ポイント＞

わが国の保健衛生行政（一般衛生行政・学校保健行政・労働衛生行政・環境保全行政）の概要とその担当官庁、保健所の位置づけとその業務内容、市町村保健センターの業務内容について学修する。

教科書

辻一郎・小山洋　編、『シンプル衛生公衆衛生学』南江堂。

参考文献

厚生統計協会『国民衛生の動向（最新版）』。

柳川洋、他『公衆衛生学』医歯薬出版。

科目コード	更生保護（２単位）	登録年次	履修方法
3210		４年	R
教員名	小澤浩之、高木俊彦、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

犯罪や非行をした人の立ち直りを図り、再び非行を起こさせないようにするには、その素質、環境を考慮しつつ、その人に必要な各種の支援、福祉でいう自立支援が必要である。これらの支援は、警察、検察、裁判、矯正の各段階で行われているが、本科目では、この内の社会の中での働きかけ（処遇）を中心とする更生保護制度について、その概要、担い手、関係機関・団体との連携、また、精神障害等の状態で重大な他害行為を行った人の社会復帰の促進を目的とする医療観察制度の概要、さらには、更生保護制度の実際と今後の展望について学修する。

学修内容

1	更生保護制度の概要Ⅰ（更生保護とは、刑事司法の中の更生保護） 古代バビロン王朝のハンムラビ法典にあるタリオの法則から刑罰と犯罪者処遇の歴史を説き起こし、近代法の成立と人道主義、科学主義の発達により可能となった犯罪者の改善更生と再犯防止、そして彼らの社会復帰を目的とし、現在、刑事司法システムの最終部分を担当する更生保護制度の歴史的意義について学ぶ。
2	更生保護制度の概要Ⅱ　仮釈放等（仮釈放の意義、種類、機関、手続き、運用の実態） 仮釈放の意義及び仮釈放の種類、すなわち①懲役又は禁錮の受刑者に対する仮釈放、②拘留受刑者又は労役場留置者に対する仮出場、③少年院在院者に対する仮退院、④婦人補導院在院者に対する仮退院について理解するとともに、それぞれの仮釈放の許可基準や仮釈放の許否を決定する権限を有する機関である地方更生保護委員会の役割機能等について学ぶ。
3	更生保護制度の概要Ⅲ　保護観察概論（保護観察の目的、種類と期間、保護観察の方法） わが国における保護観察は、保護観察対象者の再犯防止と改善更生をともに図ることを目的とするが、その目的を達成するため指導監督と補導援護という二つの方法が有機的、効果的に組み合わされて実施される。ここでは、保護観察の方法、保護観察の種類と期間、遵守事項、生活行動指針、応急の救護、保護者に対する措置、出頭の命令、引致・留置、良好・不良措置など保護観察制度の概要について学ぶ。
4	更生保護制度の概要Ⅳ　保護観察各論（保護観察における協働態勢、保護観察ケースワーク、各種処遇施） 保護観察官と保護司の役割、両者の間の協働態勢、保護観察ケースワーク、すなわち、調査と診断（見立て、アセスメント）、保護観察におけるダブルロール、保護観察処遇における社会資源ネットワーキングについて学ぶ他、類型別処遇、段階別処遇、直接処遇等各種の処遇施策、及び性犯罪者処遇プログラム、覚せい剤事犯者処遇プログラム、暴力防止プログラム等の専門的処遇プログラム、あるいは長期刑仮釈放者処遇などその他の処遇施策について学ぶ。
5	更生保護制度の概要Ⅴ　生活環境の調整、更生緊急保護、就労支援 矯正施設収容中の者に対する生活環境の調整、保護観察付き刑執行猶予者の裁判確定前の生活環境の調整など各種の生活環境の調整について理解する他、更生緊急保護について、その意義、対象者、実施の期間、実施機関、実施原則、保護の具体的内容、実施の手続等について学ぶ。また、就労支援施策についても、民間人による就労支援、自立更生促進センター、協力雇用主、公的就労支援策等について学ぶ。
6	更生保護制度の概要Ⅵ　更生保護における犯罪被害者施策 更生保護における被害者支援施策を実施するため、全国保護観察所において指名されている「被害者担当官」及び「被害者担当保護司」について、また具体的制度として実施されている、①仮釈放等審理における意見等聴取制度②保護観察対象者に対する被害者等の心情伝達制度③更生保護における被害者等通知制度（加害者の処遇状況等に関する通知）④犯罪被害者等に対する相談・支援制度等について学ぶ。
7	更生保護制度の概要Ⅶ　恩赦、犯罪予防活動 恩赦の意義及び歴史について理解する他、恩赦の本質、恩赦の機能、政令恩赦と個別恩赦による恩赦の実施方法、個別恩赦の手続き、大赦・特赦・減刑・刑の執行の免除・復権といった恩赦の種類について学ぶ。さらに、犯罪予防活動について、その意義や、世論の啓発、社会環境の改善、地域住民の活動の促進、社会を明るくする運動といった犯罪予防活動の実際について学ぶ。
8	更生保護制度の担い手Ⅰ　保護観察官・保護司 保護観察官の身分や位置づけ、その役割と保護観察官になるための採用手続等について理解する他、保護観察の実施、生活環境調整の実施、委員会保護観察官の調査の実施等、保護観察官の業務内容について理解する。また、保護司についても、その使命と資格、保護司の身分、保護司の職務、保護区及び保護司組織、保護司の現況について学ぶ。
9	更生保護制度の担い手Ⅱ　更生保護施設（社会福祉士の役割）、民間協力者 更生保護施設について、更生保護施設の被保護者、更生保護施設における処遇、更生保護施設職員の実務・処遇活動等といった側面から理解する。また民間協力者であるＢＢＳ会や更生保護女性会、協力雇用主についてもその現状等について学ぶ。
10	更生保護制度における関係機関・団体との連携Ⅰ　裁判所、検察庁とのかかわり 家庭裁判所及び地方裁判所との連携内容として、情報の共有、処遇の一貫性と継続性の保持、保護観察処遇の枠組みを決める際及び処遇の転換に当たって司法判断を求めること等について理解する。また、地方検察庁については、特に、生活困窮者や生活に困難を抱える者等の再犯防止に関する更生緊急保護をめぐる連携、及び刑執行猶予の取消し申し出手続きをめぐる連携等について学ぶ。
11	更生保護制度における関係機関・団体との連携Ⅱ　矯正施設、公共職業安定所・福祉事務所とのかかわり 矯正施設との連携については、少年院に収容されている少年の生活環境の調整、収容されている少年の仮退院審理、仮退院した少年に対する処遇の一貫性、継続性の確保、刑事施設については、受刑者の生活環境の調整、受刑者の仮釈放審理、仮釈放された者に対する処遇の一貫性と継続性の保持等について理解する。また、公共職業安定所及び福祉事務所との連携については、「刑務所出所者等総合的就労支援対策」の実施や、生活保護をめぐる問題、高齢者または障がいを抱える者を中心とした刑務所出所者を対象とする「刑務所出所者地域生活定着支援のための事業」等について学ぶ。
12	医療観察制度の概要Ⅰ　医療観察法に基づく処遇制度の創設、生活環境の調査、生活環境の調整 心神喪失または心神耗弱の状態で、殺人、放火、強盗、強姦、強制わいせつ及び傷害等の重大な他害行為を行った人たちの社会復帰の促進を目的とする「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」に基づく、司法精神医療制度としてのいわゆる医療観察制度について、「生活環境の調査」「生活環境の調整」「精神保健観察」「ケア会議」の開催と「処遇の実施計画」の作成等の側面から学ぶ。

13	医療観察制度の概要Ⅱ　地域社会における処遇（精神保健観察）、関係機関との連携、社会復帰調整官の業務の実際 　指定通院医療機関において、「通院処遇ガイドライン」に沿って、専門的な医療を受け、また、本人に対して、社会復帰調整官による精神保健観察、都道府県・市町村等による必要な精神保健福祉サービス等の援助も行われる地域社会における処遇（精神保健観察）の運用の実際について学ぶ。
14	更生保護制度の運用の実際と今後の展望Ⅰ　保護観察官の業務の実際　【保護観察の実施計画の作成等】 　保護観察官の役割として実施される、保護観察開始当初の対象者との面接による協働態勢下の保護観察への導入、保護観察処遇に関する調査・診断、「保護観察事件調査票」の作成、「保護観察の実施計画」の作成 、危機場面の調整・介入・措置、有権的措置（良好・不良措置等）、担当者（保護司）に対するスーパービジョン、集団処遇・カウンセリング、家族ケースワーク・ＳＳＴ、社会参加活動の実施、認知行動療法等に基づく専門的処遇の実施等について学ぶ。
15	更生保護制度の運用の実際と今後の展望 　現行の更生保護制度の課題として指摘された「国民・地域社会の理解の拡大」「実効性の高い官民協働」「保護観察の充実強化」の３点に関するそれぞれの改善方策について理解する。具体的には、例えば、保護観察充実方策、とりわけ性犯罪者処遇プログラムや覚せい剤事犯者処遇プログラム等の専門的処遇プログラム、またその根拠理論となっている認知行動療法におけるリラプス・プリベンション（再発予防）につき理解する。また、当面する政策課題としての、専門的処遇プログラムの更なる導入、特別遵守事項の類型に社会貢献活動を加える制度整備、刑の一部執行猶予制度の導入などについても学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】次の課題のうち１つを選んで論述しなさい。

　１　刑事政策における更生保護の意義と保護観察におけるダブルロールについて
　２　更生保護制度を支えるボランティアについて

＜ポイント＞

１　我が国の刑事政策において更生保護制度が担っている役割、機能を中心に論述し、併せて、保護観察は本人の行動を統制、制限する権力的側面とその社会復帰を援助する福祉的側面の両側面を有しているが、これをダブルロールという言葉を用いて、より具体的に詳述すること。

２　更生保護は国の行政の一環であるが、専門職である保護観察官ばかりでなく保護司など多くの民間の協力によって運用されている。保護司を含めた更生保護関係ボランティアの種類とその活動の実際等について説明すること。

科目終了試験学修のポイント

１．仮釈放制度について

＜ポイント＞

仮釈放の意義、仮釈放の種類、仮釈放の決定機関、仮釈放の手続き、仮釈放の運用実態

２．保護観察について

＜ポイント＞

保護観察の目的、種類と期間、保護観察の方法、保護観察における協働態勢、保護観察ケースワーク、各種処遇施策

３．更生保護制度における関係機関・団体との連携について

＜ポイント＞

裁判所・検察庁・矯正施設・公共職業安定所・福祉事務所とのかかわり

４．更生緊急保護について

＜ポイント＞

更生緊急保護の種類、更生緊急保護の実施期間、更生緊急保護と福祉との連携

５．医療観察制度について

＜ポイント＞

医療観察法に基づく処遇制度創設の経緯、生活環境の調査、生活環境の調整、地域社会における処遇（精神保健観察）、関係機関との連携、社会復帰調整官の業務の実際、

６．犯罪予防活動について

＜ポイント＞

「社会を明るくする運動」等地域における犯罪予防活動、「割れ窓理論」等犯罪防止の関係理論

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座20　更生保護制度』中央法規出版。

参考文献

松本勝編『更生保護入門（第４版）』成文堂。

科目コード	公的扶助論（２単位）	登録年次	履修方法
2040/2041/2042		２年	ＳＲ/Ｒ
教員名	小澤浩之、茅野由紀、佐々木貴雄、文光明、山崎篤		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

この科目では、社会保障制度において“救貧”を担う公的扶助制度に関する基礎知識を体系的に学修する。具体的には、公的扶助制度の成り立ち、目的、原則などを学修するとともに、わが国における公的扶助制度として生活保護制度の原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務に加え、近年の公的扶助制度に関する動向や課題などについて学修する。

学修内容

1	公的扶助の概念（テキスト第１章） 公的扶助とは何か。公的扶助の国際比較を踏まえた各国の共通点と、その中での日本の生活保護制度の特徴とは何か。社会保険と公的扶助の比較をすること。公的扶助の機能としては、所得再分配機能、セーフティネット機能、ナショナルミニマム機能が考えられる。
2	貧困・低所得者問題（第２章） 貧困とは何かをとらえること。貧困の基準には、絶対的貧困と相対的貧困とがある。有名な貧困調査としてブース、ラウントリーの業績を学ぶこと。また、タウンゼントの相対的剥奪、センのケイパビリティアプローチも学んでおくこと。近年は相対的貧困率も注目されている。
3	公的扶助の歴史（第３章） イギリスの歴史として、エリザベス救貧法から新救貧法を経て、第二次世界大戦後にはどのように変化したか。日本の歴史としては、恤救規則から救護法、旧生活保護法、新生活保護法に至るまでの変遷をたどること。特に、対象者、権利性、扶助の種類の変化に注目すること。また、近年の生活保護法改正や、生活困窮者自立支援制度の実施も学んでおく必要がある。
4	生活保護制度の目的・原理・原則（第４章第１節） 生活保護法には、最低生活の保障と自立の助長という２つの目的がある。また、４つの基本原理として、国家による最低生活保障の原理、無差別平等の原理、健康で文化的な最低生活保障の原理、保護の補足性の原理がある。４つの原則として、申請保護の原則、基準及び程度の原則、必要即応の原則、世帯単位の原則がある。
5	生活保護の種類と内容①生活扶助（第４章第２節、第５章） 生活扶助は、個人別経費の第１類費、世帯別経費の第２類費、母子加算など８種類の加算制度、一時的な需要を満たす一時扶助から構成されている。その計算方法も理解しておきたい。
6	生活保護の種類と内容②その他の扶助（第４章第２節） 生活扶助以外の、教育、住宅、医療、介護、出産、生業、葬祭扶助について理解する。それぞれの扶助が、どのようなものを対象にしているか、原則金銭給付か現物給付か、現物給付の場合はどのような仕組みで給付が行われるかも理解する。
7	保護施設、被保護者の権利と義務・不服申し立て（第４章第３～５節） 生活保護法上、５種類の保護施設があるので、それぞれの目的と対象者について。また、被保護者には３つの権利と、５つの義務があるので、それを学ぶ。また、不服申し立ての制度として、審査請求と再審査請求についても請求をする対象や、請求の期限なども含めて学んでおく。
8	財源・予算（第４章第６節） 生活保護費は誰がどのように負担しているか。また、生活保護受給者の増加を背景に、生活保護費はどのように推移しているか。また、扶助別で保護費を分類した場合、どの扶助にかかっている金額が大きいか。それはなぜか。
9	生活保護の動向（第６章） 生活保護受給人員・世帯は近年増加しているが、現行法になってからの推移とその背景について。また、年齢別、世帯類型別にみると、どのような特徴があるかについても理解する。また、近年はどの世帯類型が増えているかについても把握しておくこと。
10	低所得者支援の制度①生活福祉資金貸付制度（第７章第１節） 生活福祉資金貸付制度の貸付メニューには、どのようなものがあるか、生活福祉資金貸付制度の利用手順と民生委員、社会福祉協議会の役割について。また、平成 21 年の改正については制度の再編成、連帯保証人の要否など多くの改正がなされた。その背景は何か。
11	低所得者支援の制度②ホームレス支援（第７章第３節） ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法の枠組みの中でどのようなことが行われているか。自治体の役割はどのようなものか。また、ホームレスの実態に関する全国調査の結果から多い年齢層、前職、就労への意欲などを把握し、ホームレスの現状を理解する。

12	低所得者支援の制度③その他の制度（第7章第2、4節） 公営住宅、無料低額宿泊所などの低所得者向けの住宅に関する制度がある。また、無料低額診療所や、民事法律扶助制度、災害救助法についても学ぶ。テキストではカバーされていないが、自治体も様々な支援を行っている。
13	生活保護の運営実施体制（第8章） 生活保護法における、国・都道府県・市町村、民生委員の役割はどのようなものか。また、福祉事務所とはどのような組織で、そこで働く専門職にはどのようなものがあるか。また、その専門職に求められる資格はどのようなものであり、配置基準はどのようになっているか。
14	生活保護における相談援助活動（第9章） 生活保護におけるケースワークについて。アウトリーチ、インテークから始まって、要否判定、調査、記録など多くの業務が発生する。調査の回数等も決まっていたりするので、把握しておきたい。
15	生活保護における自立支援（第10章） 平成 17 年度から自立支援プログラムが導入されたが、なぜ導入されたのか。背景としてある福祉事務所の課題、受給者の課題とはどのようなものか。また、自立支援プログラムの法的な位置づけや、自立がどのように位置づけられているか、どのようなプログラムが用意されているか。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 生活保護の種類と範囲、方法について述べよ。

＜ポイント＞

生活保護法で規定されている8種類の扶助について、それぞれの扶助の範囲と方法についてまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．生活保護法の基本原理について

＜ポイント＞

生活保護法には4つの基本原理がある。それぞれについて、説明すること。

2．生活保護法における保護の原則について

＜ポイント＞

生活保護法には4つの原則がある。それぞれについて、説明すること。

3．被保護者の権利と義務について

＜ポイント＞

生活保護法では、被保護者の権利として3つ、義務が5つある。それぞれについて、説明すること。

4．近年の生活保護に関する統計の動向について

＜ポイント＞

生活保護受給者（世帯）数の全体的な動向だけではなく、年齢別、世帯人員別など個別の項目も取り上げること。

5．自立支援プログラムとその導入の背景について

＜ポイント＞

自立支援プログラムにおける自立の考え方と、実施プロセスについて取り上げること。

6．生活保護の運営実施体制について

＜ポイント＞

福祉事務所の役割を中心に、説明すること。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新社会福祉士養成講座16　低所得者に対する支援と生活保護制度』中央法規出版。

参考文献

生活保護手帳編集委員会編『生活保護手帳（各年度版）』中央法規出版。

生活保護の動向編集委員会編『生活保護の動向（各年度版）』中央法規出版。

科目コード	公的扶助論（２単位）	登録年次	履修方法
2043		２年	R
教員名	佐々木貴雄、文光明、茅野由紀、小澤浩之、山崎篤		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

この科目では、社会保障制度において“救貧”を担う公的扶助制度に関する基礎知識を体系的に学修する。具体的には、公的扶助制度の歴史的経緯などを学ぶとともに、わが国における公的扶助制度として生活保護制度の目的、原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務に加え、近年の公的扶助制度に関する動向や課題などについて学ぶ。また、低所得者支援の制度として、生活困窮者自立支援制度や生活福祉資金貸付制度等についても学ぶ。

学修内容

1	公的扶助の概念 公的扶助の国際比較を踏まえた各国の共通点と、その中での日本の公的扶助である生活保護制度の特徴とは何か。
2	貧困の概念 貧困を捉える方法には、絶対的貧困アプローチや相対的貧困アプローチ、社会的排除アプローチがあるが、違いは何か。
3	貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境 貧困状態にある人の生活状況を、それをもたらした社会環境を含めて理解する。
4	貧困の歴史 貧困観の変遷とともに、日本の歴史としては、恤救規則から新生活保護法、その後現在に至るまでの経緯をたどること。
5	生活保護制度の目的・原理・原則 生活保護法には、２つの目的がある。また、補足性の原理をはじめとする４つの基本原理と４つの原則がある。
6	生活保護の種類と内容および方法、保護施設 ８種類の扶助について理解する。それぞれの扶助の、内容や方法についても理解する。
7	被保護者の権利と義務、不正・不適正受給対策、不服申立てと訴訟 被保護者には３つの権利と、５つの義務がある。また、不服申立ての手順についても理解する。
8	生活保護の財源・予算、最低生活保障水準と生活保護基準 生活保護費の国と自治体の負担、扶助別の費用について理解する。近年の生活保護基準はどのように見直されているか。
9	生活保護の動向 生活保護被保護人員・世帯数の推移とその背景について理解する。また、年齢別、世帯類型別等の特徴も理解する。
10	低所得者に対する法制度①生活困窮者自立支援制度 生活困窮者自立支援制度創設の背景、各事業の概要、近年の動向について。
11	低所得者に対する法制度②生活福祉資金貸付制度 生活福祉資金貸付制度の資金の種類や貸付対象や利用手順について。
12	低所得者に対する法制度③その他の制度 無料低額宿泊所や無料定額診療事業などの低所得者向けの制度の概要について理解する。
13	低所得者に対する法制度④ホームレス対策 ホームレス自立支援法やそれに基づく全国調査の結果をもとに、狭義の「ホームレス」の状況について理解する。
14	貧困に対する支援における関係機関 生活保護法における、国・都道府県・市町村、福祉事務所の役割はどのようなものか。
15	貧困に対する支援の実際 生活保護制度における相談援助活動の特徴をふまえ、そのプロセスについて事例をもとに理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 生活保護の基本原理の一つである補足性の原理について、述べなさい。

＜ポイント＞

生活保護法の該当部分の条文を踏まえ、保護の要件とされることと、保護に優先されることを中心に、現状の制度の問題点とともに論じること。

科目終了試験学修のポイント

１． 貧困をとらえる３つのアプローチについて

＜ポイント＞

テキストでは、絶対的貧困アプローチ、相対的貧困アプローチ、社会的排除アプローチが説明されている。それぞれの特徴と登場の背景について理解した上でまとめること。

２． 生活保護制度の２つの目的について

＜ポイント＞

生活保護法第１条では、生活保護の目的について示されている。「最低限度の生活」や「自立」について深く考察した上で書くこと。「自立」については、テキスト第７章第３節（貧困に対する支援の実際）の記述も参考にすること。

３． 生活扶助基準の構成について

＜ポイント＞

生活扶助基準は、第１類費、第２類費、加算などから構成されている。全体像を把握した上で、まとめること。

４． 生活保護制度の動向とその背景について

＜ポイント＞

被保護人員および被保護世帯の動向とその背景について、最新の厚生労働省「被保護者調査」の結果も踏まえてまとめること。

５． 住宅に関する低所得者支援関連施策について

＜ポイント＞

生活困窮者自立支援制度の住居確保給付金など、様々な制度があるので、横断的にまとめること。

６． 生活困窮者自立支援制度について

＜ポイント＞

法の対象とする「生活困窮者」とはどのような者か、制度の実施体制、各事業の内容を中心にまとめること。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集

『最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座４　貧困に対する支援』中央法規。

参考文献

生活保護手帳編集委員会編『生活保護手帳（各年度版）』中央法規。

金子充『入門貧困論　―ささえあう/たすけあう社会をつくるために』明石書店

埋橋孝文編『福祉＋α　生活保護』ミネルヴァ書房

岡部卓編『生活困窮者自立支援: 支援の考え方・制度解説・支援方法』中央法規

岩田正美『生活保護解体論　―セーフティネットを編みなおす』岩波書店

科目コード	公認心理師の職責（２単位）	登録年次	履修方法
3770		３年	R
教員名	秋山和寛、後藤進吾、佐藤篤司、中里克治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

公認心理師とは、公認心理師登録名簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育、その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいう。

（1）心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析

（2）心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導、その他の援助

（3）心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導、その他の援助

（4）心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

このような職務を適切に遂行するために必要な知識と倫理を身につけるために、①公認心理師の役割、②公認心理師の法的義務及び倫理、③心理に関する支援を要する者等の安全の確保、④情報の適切な取扱い、⑤保健医療、福祉、教育、その他の分野における公認心理師の具体的な業務、⑥自己課題発見・解決能力、⑦生涯学習への準備、⑧多職種連携及び地域連携について学修する。

学修内容

1	公認心理師の役割：教科書１章 公認心理師の多様性を理解する。また、自分が公認心理師になった時をイメージし、どのような公認心理師になりたいかを考える。
2	公認心理師の法的義務・倫理：教科書２章 公認心理師の責任の重さについて考える。
3	クライエント／患者らの安全の確保のために：教科書３章 どのようなリスクがあるか考え、公認心理師の責任の重さを確認する。
4	情報の適切な取り扱いについて：教科書４章 守秘義務とプライバシー保護について考える。また、情報の適切な取り扱いのために、どのような確認が必要か考える。
5	公認心理師の役割遂行に必要な注意事項 公認心理師の役割遂行に必要な注意事項についてまとめる。
6	保健医療分野での公認心理師の具体的な業務：教科書５章 保健医療分野における公認心理師の具体的な業務について理解し、この領域で自分がやりたいことは何か考える。
7	福祉分野での公認心理師の具体的な業務：教科書６章 福祉分野における公認心理師の具体的な業務について理解し、この領域で自分がやりたいことは何か考える。
8	教育分野での公認心理師の具体的な業務：教科書７章 教育分野における公認心理師の具体的な業務について理解し、この領域で自分がやりたいことは何か考える。
9	司法・犯罪分野での公認心理師の具体的な業務：教科書８章 司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務について理解し、この領域で自分がやりたいことは何か考える。
10	産業・労働分野での公認心理師の具体的な業務：教科書９章 産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務について理解し、この領域で自分がやりたいことは何か考える。
11	支援者としての自己課題発見・解決能力教科書10章 どのような自己理解と解決能力が必要か考える。また、支援者としての自分の適性について考える。
12	生涯学習への準備：教科書11章 不断の研鑽がなぜ必要か考える。また、生涯学習のためには、具体的に何をすればよいのか確認する。
13	多職種連携・地域連携：教科書12章 連携の必要性について考える。また、どのような職種との連携が必要か、地域との連携とは何かを確認する。
14	公認心理師の今後の展開：教科書13章 公認心理師の未開拓の分野について考える。公認心理師の将来の可能性と自分がやりたいことを具体的に考える。
15	公認心理師とは何か（全体のまとめ） 公認心理師としての自分を具体的にイメージし、今後どのような学びや準備が必要か考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

公認心理師法の業務と多職種連携および地域連携による支援について述べよ。

＜ポイント＞

心の健康の維持増進、心の健康に関する知識の普及、心理的アセスメント、相談、助言、指導、チームアプローチ

科目終了試験学修のポイント

1．公認心理師法の目的について

＜ポイント＞

心の健康の維持増進、心の健康に関する知識の普及、要心理支援者、相談、助言、指導

2．公認心理師の業務について

＜ポイント＞

心理的アセスメント、要心理支援者への支援、要支援者の関係者への援助、心の健康に関する知識の普及、

エンパワーメント

3．秘密保持義務について

＜ポイント＞

秘密保持義務､除外規定､個人情報/保護､人命にかかわる場合

4．信用失墜行為の禁止について

＜ポイント＞

公認心理師としての信用､社会的信用

5．資質向上の責務について

＜ポイント＞

生涯学習、自己研さんと相互研さん、講義、事例検討、研修、研究会、職業的成長

6．多職種連携および地域連携による支援の意義について

＜ポイント＞

生物心理社会モデル、多職種連携、地域連携、チーム医療、領域（医療保健、福祉、教育、司法・矯正、産業労働）

教科書

野島一彦・繁枡算男監修『公認心理師の職責』遠見書房

参考文献

日本心理研修センター（監）『公認心理師現任者講習会テキスト』金剛出版　野島一彦『公認心理師入門』日本評論社

科目コード	公民科指導法Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
4140		2年	SR
教員名	小野智一、荻原邦昭、鈴木収、山田哲史		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報の機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

公民科において指導すべき（学習指導要領に示される）教育内容についての概説にとどまらず、授業実践をふまえて、公民科指導の性質を理解すること。

公民科指導法Ⅰでは、現代社会・倫理・政治経済の科目のうち、現代社会に重点を置いて、その内容および指導法について取り上げるものとする。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	◎公民科の基礎理論① 課題：教育基本法より、公民科に関係する箇所・条文を見つける。 関連…【設題１】　関連…科目終了試験学修のポイント１「「現代社会」の基本的性格について」	ガイダンス、公民科「現代社会」の射程について 公民科教育における政治教育と宗教教育の考え方	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
2	◎公民科の基礎理論② 課題:戦後に登場した高校社会科はどのような内容であったのかまとめる。 関連…【設題１】　関連…科目終了試験学修のポイント１「「現代社会」の基本的性格について」	公民科指導の性質 公民科の変遷について 指導要領改訂の歴史と公民科教育	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
3	◎科目「現代社会」について指導要領を読み解く① 課題：教科の目標、科目現代社会の目標、内容について教科書該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…【設題１】　関連…科目終了試験学修のポイント１「「現代社会」の基本的性格について」及び４「「総合的な学習の時間」と公民科「現代社会」の連携について」		印刷授業
4	◎科目「現代社会」について指導要領を読み解く② 課題:教育内容についての理解②指導計画の作成と指導上の配慮事項について教科書該当ページを読んで項目の整理をする。 関連…【設題１】　関連…科目終了試験学修のポイント４「「総合的な学習の時間」と公民科「現代社会」の連携について」及び５「生涯学習と学校教育における公民科学習の意義について」		印刷授業
5	◎公民科における学習指導案と授業計画 課題:策定の実際について事例指導案を手がかりにポイントを確認する。指導案事例はスクーリングでも取り扱うが参考文献を手掛かりに自らも探してみるとよい。 関連…【設題１】　関連…科目終了試験学修のポイント４「「総合的な学習の時間」と公民科「現代社会」の連携について」及び５「生涯学習と学校教育における公民科学習の意義について」	公民科授業の教材研究（グループ活動と発表）受講生が教員指定の教材を使用して学習指導案を策定する。	印刷授業 及び 面接授業 （2時間）
6	◎「現代社会」が取り扱う内容 現代社会の取り扱う「私たちの生きる社会」 関連…科目終了試験学修のポイント１「「現代社会」の基本的性格について」及び６「「幸福、正義、公正などについて理解させる」について」	現代社会が取り扱う「私たちの生きる社会」・模擬授業の検討① 教員が実施する模擬授業に、受講生は生徒役として参加する。模擬授業後に授業内容についてディスカッションを行う 。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
7	◎「現代社会」が取り扱う内容 現代社会の取り扱う「現代社会と人間としての在り方生き方」 「ア　青年期と自己の形成」 関連…科目終了試験学修のポイント１「「現代社会」の基本的性格について」	現代社会が取り扱う「青年期と自己の形成」・模擬授業の検討② 教員が実施する模擬授業に、受講生は生徒役として参加する。模擬授業後に授業内容についてディスカッションを行う 。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）

8	◎「現代社会」が取り扱う内容 現代社会の取り扱う「現代社会と人間としての在り方生き方」 「イ　現代の民主政治と政治参加の意義」 関連…科目終了試験学修のポイント１「「現代社会」の基本的性格について」及び２「時事問題の取り扱いについて（特に現代社会にかかわる分野）」	現代社会が取り扱う「現代の民主政治と政治参加の意義」・模擬授業の検討③ （ディベートについて実際の形式を確認しながら指導法について考えていく。）	印刷授業 及び 面接授業 （2 時間）
9	◎「現代社会」が取り扱う内容 現代社会の取り扱う「現代社会と人間としての在り方生き方」 「ウ　個人の尊重と法の支配」 関連…科目終了試験学修のポイント１「「現代社会」の基本的性格について」及び２「時事問題の取り扱いについて（特に現代社会にかかわる分野）」	現代社会が取り扱う「個人の尊重と法の支配」・模擬授業の検討④教員が実施する模擬授業に、受講生は生徒役として参加する。模擬授業後に授業内容についてディスカッションを行う。 公民科教育実践研究の動向紹介　法教育の現状	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
10	◎「現代社会」が取り扱う内容 現代社会の取り扱う「現代社会と人間としての在り方生き方」 「エ　現代の経済社会と経済活動の在り方」 関連…科目終了試験学修のポイント１「「現代社会」の基本的性格について」及び２「時事問題の取り扱いについて（特に現代社会にかかわる分野）」	現代社会が取り扱う「現代の経済社会と経済活動の在り方」・模擬授業の検討⑤ 公民科授業の教材研究（グループ活動と発表）受講生が教員指定の教材を使用して授業を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （3 時間）
11	◎「現代社会」が取り扱う内容 現代社会の取り扱う「現代社会と人間としての在り方生き方」 「オ　国際社会の動向と日本の果たすべき役割」 関連…科目終了試験学修のポイント１「「現代社会」の基本的性格について」及び２「時事問題の取り扱いについて（特に現代社会にかかわる分野）」	現代社会が取り扱う「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」・模擬授業の検討⑥ 教員が実施する模擬授業に、受講生は生徒役として参加する。模擬授業後に授業内容についてディスカッションを行う 。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
12	◎「現代社会」が取り扱う内容 現代社会の取り扱う「共に生きる社会を目指して」 関連…科目終了試験学修のポイント１「「現代社会」の基本的性格について」、２「時事問題の取り扱いについて（特に現代社会にかかわる分野）」、５「生涯学習と学校教育における公民科学習の意義について」	現代社会が取り扱う「共に生きる社会を目指して」・模擬授業の検討⑦（時事問題の教材化と ICT 活用） 教員が実施する模擬授業に、受講生は生徒役として参加する。模擬授業後に授業内容についてディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
13	公民科の「接続」について（生活科から社会科へ、社会科から公民科へ、カリキュラムの考え方） 関連…科目終了試験学修のポイント３「中学校社会科・公民的分野との接続について（特に現代社会にかかわる分野）」、４「「総合的な学習の時間」と公民科「現代社会」の連携について」	現行学習指導要領から次期指導要領へ～「学びの地図」の考え方～	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
14	公民科における評価の手法（「評価」の考え方、方法論） ほかに公民科と高等学校における道徳教育の考え方についておさえること。教科書 pp.60-61.も参照。 関連…【設題１】　関連…科目終了試験学修のポイント２「時事問題の取り扱いについて（特に現代社会にかかわる分野）」		印刷授業
15	各科目にわたる内容の取扱い（総則）…公民科「現代社会」で求められることについて整理する。 教科書 pp.59-61 参照。 関連…【設題１】		印刷授業
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 公民科の１科目である「現代社会」教授の課題について述べよ。

＜ポイント＞

課題については 3 点まで焦点化すること。「現代社会」の性質については、その時点における学習指導要領の捉え方に準拠すること。歴史的経緯を踏まえた言及の場合は、どの年度に改訂された学習指導要領であるのかを提示するなど、どの時点における言及であるのかを明確にすること。

科目終了試験学修のポイント

１．「現代社会」の基本的性格について

＜ポイント＞

教科書 pp.7-23 を読み、要旨をまとめること。

２．時事問題の取り扱いについて（特に現代社会にかかわる分野）

＜ポイント＞

「現代社会」という科目の性質上、時事問題として生徒の関心、注目度の高いトピックスが教材として取り扱われる機会が多い。こうした「時事問題」を学ぶ意義、または学ぶ上での留意事項などを論点としてまとめていく。

３．中学校社会科・公民的分野との接続について（特に現代社会にかかわる分野）

＜ポイント＞

「現代社会」の基本的性格については「１.」の教科書該当範囲を参照すること。「現代社会」は、中学校社会科・公民的分野からの発展的内容の取扱いをする科目としての性格と、高等学校で履修する「倫理」「政治経済」「世界史」「日本史」「地理」といった社会科系科目の導入部、入門的内容を取り扱うことを、開設当初は想定していた。現在の位置づけがどうなっているのかについても議論することが望ましい。

４．「総合的な学習の時間」と公民科「現代社会」の連携について

＜ポイント＞

「総合的な学習の時間」が導入された結果、現代社会は 4 単位科目から 2 単位科目へと見直された。しかしながら、指導要領に例示された学習活動例を見ると、「現代社会」の学習に関連性を持つ内容が少なくない。また、科目横断的な学習の時間を確保は、「現代社会」をはじめ様々な科目の学習にメリットとして働く部分もあるであろう。

５．生涯学習と学校教育における公民科学習の意義について

＜ポイント＞

生涯学習の定義は最低限抑えること。「現代社会」は、学校教育で行われる教育活動であるが。生徒たちの「現代社会」的な内容の学習は学校の後も継続されるものである。この観点から、教科目標でもある「公民的資質」を養う意味を議論できるとよい。

６．「幸福、正義、公正などについて理解させる」について

＜ポイント＞

教科書 pp.8-10 を読み、要旨をまとめること。

教科書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説　公民編（平成 22 年 6 月）』教育出版。

参考文献

文部科学省『高等学校学習指導要領解説　公民編（平成 17 年）』実教出版。
日本社会科教育学会編『社会科教育事典』ぎょうせい。
日本公民教育学会編『公民科教育事典』第一学習社。
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房。

科目コード	公民科指導法Ⅱ（2単位）	登録年次	履修方法
4150		2年	SR
教員名	小野智一、荻原邦昭、鈴木収、山田哲史		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報の機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

公民科において指導すべき（学習指導要領に示される）教育内容についての概説にとどまらず、授業実践をふまえて、公民科指導の性質を理解すること。

公民科指導法Ⅱでは、現代社会・倫理・政治経済の科目のうち、倫理・政治経済に重点を置いて、その内容および指導法について取り上げるものとする。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	≪倫理≫課題：教科の目標、科目倫理の目標について教科書該当ページを読んで項目のまとめをする。 学習者を取り巻く現代社会の倫理的課題についての検討（学習者の「社会的思考」の観点から） 関連…【設題1】　関連…科目終了試験学修のポイント「1．公民科「倫理」の基本的性格について」	ガイダンス、公民科・政治経済・倫理の射程について。 科目の目標について 他者と共に生きる主体を育む「倫理」について	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
2	≪倫理≫「倫理」の取り扱う「（1）現代に生きる自己の課題」学修内容について教科書該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「1．公民科「倫理」の基本的性格について」「5．「青年期」の学習について（倫理）」		印刷授業
3	≪倫理≫「倫理」の取り扱う「（2）人間としての在り方生き方　ア　人間としての自覚」学修内容について教科書該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「1．公民科「倫理」の基本的性格について」「5．「青年期」の学習について（倫理）」		印刷授業
4	≪倫理≫「倫理」の取り扱う「（2）人間としての在り方生き方　イ　国際社会に生きる日本人としての自覚」学修内容について教科書該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「1．公民科「倫理」の基本的性格について」「5．「青年期」の学習について（倫理）」		印刷授業
5	≪倫理≫「倫理」の取り扱う「（3）現代と倫理　ア　現代に生きる人間の倫理」学修内容について教科書該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「1．公民科「倫理」の基本的性格について」	倫理・政治経済の発展的な学習　内容論 （倫理について）日本の風土と伝統・近代日本の思想的課題を中心に	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
6	≪倫理≫「倫理」の取り扱う「（3）現代と倫理　イ　現代の諸課題と倫理」学修内容について教科書該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「1．公民科「倫理」の基本的性格について」	公民科における倫理の授業の検討・模擬授業①（授業後、授業内容について検討） 事例：価値ディベートで思索を深める	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
7	≪政治経済≫課題：教科の目標、科目政治経済の目標について教科書該当ページを読んで項目のまとめをする。 学習者を取り巻く現代社会の政治的経済的課題についての検討（学習者の「社会認識」の観点から） 関連…【設題1】　関連…科目終了試験学修のポイント「2．公民科「政治経済」の基本的性格について」	科目の目標について グローバル化する国際社会に主体的に生きること、持続可能な社会づくりの主体となることについて	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
8	≪政治経済≫「政治経済」の取り扱う「（1）現代の政治　ア　民主政治の基本原理と日本国憲法」学修内容について教科書該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「2．公民科「政治経済」の基本的性格について」「3．時事問題の取り扱いについて（特に政治経済にかかわる分野）」	公民科における政治分野の授業の検討・模擬授業②（授業後、授業内容について検討） 人権教育・法教育の実践研究動向	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）

9	≪政治経済≫「政治経済」の取り扱う「(1) 現代の政治　イ　現代の国際政治」学修内容について教科書該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「2．公民科「政治経済」の基本的性格について」「3．時事問題の取り扱いについて（特に政治経済にかかわる分野）」	公民科における政治分野の授業の検討・模擬授業③ （授業後、授業内容について検討） ロールプレイ・シミュレーションの活用	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
10	≪政治経済≫「政治経済」の取り扱う「(2) 現代の経済　ア　現代経済の仕組みと特質」学修内容について教科書該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「2．公民科「政治経済」の基本的性格について」「3．時事問題の取り扱いについて（特に政治経済にかかわる分野）」		印刷授業
11	≪政治経済≫「政治経済」の取り扱う「(2) 現代の経済　イ　国民経済と国際経済」学修内容について教科書該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「2．公民科「政治経済」の基本的性格について」「3．時事問題の取り扱いについて（特に政治経済にかかわる分野）」	公民科における経済分野の授業の検討・模擬授業④ （授業後、授業内容について検討） ESD・開発教育の実践研究動向	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
12	≪政治経済≫「政治経済」の取り扱う「(3) 現代社会の諸課題　ア　現代日本の政治や経済の諸課題」学修内容について教科書該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「2．公民科「政治経済」の基本的性格について」「3．時事問題の取り扱いについて（特に政治経済にかかわる分野）」	公民科における経済分野の授業の検討・模擬授業⑤ （授業後、授業内容について検討） 公民科教育における金融および統計についての指導 （Excel 等のソフトウェア活用教材事例）	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
13	≪政治経済≫「政治経済」の取り扱う「(3) 現代社会の諸課題　イ　国際社会の政治や経済の諸課題」学修内容について教科書該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「2．公民科「政治経済」の基本的性格について」「3．時事問題の取り扱いについて（特に政治経済にかかわる分野）」	倫理・政治経済の発展的な学習内容論 （経済分野について）資本主義経済・国民経済と国際経済 （政治分野について）政治機構と政治の運営	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
14	≪倫理≫≪政治経済≫公民科と道徳教育とのかかわり 公民科における道徳的実践力涵養の手立てについて、「倫理」における学修内容、「政治経済」における時事問題の取り扱いなどを事例に検討する。 関連…科目終了試験学修のポイント「3．時事問題の取り扱いについて（特に政治経済にかかわる分野）」「6．教育基本法における政治教育および宗教教育について」	公民科授業の教材研究（グループ活動）「倫理」または「政治経済」の学習内容よりテーマを選択して学習指導案を構成する。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
15	≪倫理≫≪政治経済≫各科目にわたる内容の取扱い（総則）…公民科「倫理」「政治経済」で求められることについて整理する。 「倫理」「政治経済」における評価の考え方 教科書 pp.59-61 参照。 関連…【設題1】　関連…科目終了試験学修のポイント「4．中学校社会科・公民的分野との接続について（特に政治経済にかかわる分野）」「6．教育基本法における政治教育および宗教教育について」	公民科授業の教材研究（グループ活動）「倫理」または「政治経済」の学習内容よりテーマを選択して授業実践する。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　公民科の科目である「倫理」「政治経済」教授の課題について述べよ。

＜ポイント＞
課題については、「倫理」「政治経済」双方1点以上提示すること。「倫理」「政治経済」の性質については、その時点における学習指導要領の捉え方に準拠すること。歴史的経緯を踏まえた言及の場合は、どの年度に改訂された学習指導要領であるのかを提示するなど、どの時点における言及であるのかを明確にすること。

科目終了試験学修のポイント

1．　公民科「倫理」の基本的性格について
＜ポイント＞
教科書 pp.24-41 を読み、要旨をまとめること。

2．　公民科「政治経済」の基本的性格について
＜ポイント＞
教科書 pp.42-58 を読み、要旨をまとめること。

3．　時事問題の取り扱いについて（特に政治経済にかかわる分野）
＜ポイント＞
教科書 p.53 より取り扱われている「（3）現代の諸課題」について、具体的事例を挙げながら、教材選定（課題）の考え方や授業の実際について議論するとよい。

4．　中学校社会科・公民的分野との接続について（特に政治経済にかかわる分野）
＜ポイント＞
教科書 p.57 を読み、要旨を把握する。中学校社会科・公民的分野における学修内容と高等学校公民科政治経済の学修内容の関係性について事例を挙げて説明するとよい。

5．　「青年期」の学習について（倫理）
＜ポイント＞
教科書 pp.26-28 を読み、要旨をまとめること。道徳教育の全体計画との関連も踏まえて議論できるとよい。

6．　教育基本法における政治教育および宗教教育について
＜ポイント＞
教科書 pp.59-60 を読み、要旨をまとめること。

教科書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説　公民編（平成 22 年 6 月）』教育出版。
文部科学省検定済教科書『倫理』東京書籍。
文部科学省検定済教科書『政治・経済』東京書籍。

参考文献

文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房。

科目コード	高齢社会と社会教育（２単位）	登録年次	履修方法
3070		３年	R
教員名	小笠原眞紀		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会教育・生涯学習という言葉が登場したのは 1960 年代からのことである。その社会的背景をふまえ、「生涯にわたって学び続ける」という視点から、成人、特に高齢者の教育をめぐる諸事情を理解し、その望ましいあり方について考究する。

学修内容	
1	・社会教育・生涯学習の概念について 社会教育・生涯学習という考え方はなぜ生まれたのか。その時代的、社会的背景について考えてみよう。
2	・Ｐ．ラングランの提言とその内容について 社会教育の提唱者であるＰ．ラングランはなぜそういった概念を提唱し、どのようなことを主張したのか。
3	・社会教育と生涯学習について 日本においては社会教育と生涯学習という言葉が混在している。そのわけと違いを検討してみよう。
4	・長寿社会の展望と課題について 日本は世界に類をみない「超高齢社会」となった。その背景と今後の課題について考えてみよう。
5	・高齢者の生きがいづくりと社会教育・生涯学習 男女ともに平均余命が 80 歳を超える時代になった。社会教育・生涯学習は「いきがい」づくりの方法論でもあることを理解しよう。
6	・高齢者の心理過程と「生きがい」についてⅠ 発達心理学・ライフサイクル論の視点から、高齢者の心理過程を考えてみよう。
7	・高齢者の心理過程と「生きがい」についてⅡ 発達心理学・ライフサイクル論の視点から、「生きがい」の意味について検討してみよう。
8	・高齢者が果たしてきた社会教育としての伝統文化とその継承について 全国各地につたわるさまざまな伝統文化はそれぞれの地域において高齢者が次の世代へそのわざをつたえることで継承されてきた。その意義と課題を、身近な事例（地元の祭りなど）をあげて検討してみよう。
9	・高齢者の社会教育・生涯学習の成果について 高齢者の社会教育・生涯学習の成果は、さまざまなかたちで地域に反映されていると考えられる。どのような効果をうみだしているか検討してみよう。介護保険における介護予防のプログラムなどとの接点を検討してみよう。
10	・高齢者とメディア・リテラシー・情報教育について 高齢者は情報弱者なのだろうか。インターネット時代における高齢者への情報発信などを検討してみよう。特にアクセシビリティという観点からさまざまな課題を考えてみよう。
11	・事例研究Ⅰ インターネットや市報・地域情報誌などで、自分の住んでいる自治体や団体が提供している、高齢者のための社会教育・生涯学習プログラムを調べてみよう。
12	・事例研究Ⅱ 自分の住んでいる自治体や近隣地域に、どのような高齢者のための社会教育・生涯学習施設があるのか調べてみよう。
13	・ワークショップ「高齢者と社会教育」Ⅰ 自分自身がプログラム制作者となって、高齢者施設や公民館で実際のプログラムを考えてみよう。
14	・ワークショップ「高齢者と社会教育」Ⅱ 自分が施設責任者の立場で、ワークショップⅠのプログラムを評価し、再検討してみよう。
15	・まとめ これからの日本における「高齢者の学び」について総合的に考えてみよう。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 高齢社会に対応する社会教育・生涯学習について述べよ。

＜ポイント＞

学修内容で検討したさまざまな視点から、わが国における高齢者をめぐる状況、高齢者を対象とした社会教育・生涯学習の意義、高齢者の学修内容の特色やその効果などについて具体的な事柄をあげるなどしてまとめてみよう。

科目終了試験学修のポイント

1．超高齢社会における社会教育・生涯学習の役割について

＜ポイント＞

日本は世界にさきがけて超高齢社会となった。社会教育・生涯学習の役割のひとつに、高齢者のいきがいづくりや心理的支援などが考えられるが、学修内容で検討した学びをベースにして具体的に論考すること。

2．高齢者の社会教育・生涯学習の特色について

＜ポイント＞

高齢者のいきがいづくりや心理的支援に有益とされる社会教育・生涯学習だが、そのためにはどのような特色を加味する必要があるのだろうか。学修内容で検討した学びをベースにして具体的に論述すること。

3．高齢者の社会参加活動について、社会教育・生涯学習という視点から考えてみよう。

＜ポイント＞

ふえつづける独居高齢者問題の最大のテーマは孤立である。高齢者を社会が包摂するためにはなにをどのように考えるべきなのだろうか。学修内容で検討した学びをベースにして具体的に論述すること。

4．高齢者の特性を生かした社会教育・生涯学習の支援・援助について

＜ポイント＞

社会教育・生涯学習は高齢者のさまざまな課題に対する支援・援助にむすびつくと考えられる。そのために支援者・援助者は、高齢者の特性を知り、かつ、その効果をフィードバックする必要がある。それを具体的に論述すること。

5．ライフサイクルと社会教育・生涯学習について

＜ポイント＞

発達心理学・高齢者心理学の知見にもとづいて、ライフサイクルの意味と老年期の心理的特性を考え、そのための相談援助支援などにつながる社会教育・生涯学習について考え、論述すること。

6．生きがいと社会教育・生涯学習について

＜ポイント＞

老年期における高齢者の心理的特性のなかから「生きがい」の意義について考え、その課題や「つまずき」について検討するとともに、社会教育・生涯学習という概念やプログラムがその課題に応えられるかどうか検討し、論述すること。

教科書

香川正弘、他『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房。

参考文献

山本恒夫、他『社会教育計画』文憲堂。

白石克己『生涯学習論』実務教育出版。

小杉山禮子『高齢社会と生涯学習』全日本社会教育連合会。

新・社会福祉士養成講座『相談援助の理論と方法　Ⅰ・Ⅱ』中央法規。

新・社会福祉士養成講座『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規。

科目コード	高齢者支援展開論（２単位）	登録年次	履修方法
2350		３年	R
教員名	小笠原眞紀、金貞任、千葉由美、柳澤利之		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

福祉サービスは、人が人と関わり合うなかで成立する、よりよく生きていく過程への関与である。これに対して、介護は介助･看護の技術に、監護、つまり、人を見守るという教育的な意味合いが加味された概念である。本科目では、加齢疾病や障害等による要介護者への福祉サービスの提供と介護のあり方を、介護支援サービスの必要性とその位置づけ、社会福祉(対人サービス)との関連性など、可能な限り多くの角度から検討する。また、居宅サービス、施設サービス事業の具体的な内容も検討する。

学修内容

1	介護保険と介護支援サービス（介護の目的と支援サービス） わが国は高齢化の進展とともに要介護高齢者数が増加し、その介護期間も長期化してきた。その反面、核家族化・少子化により家族の介護機能は低下し、経済的な負担も重くなっている。こうした家族の介護問題を社会全体で支えるシステムとして社会保険方式の介護保険制度が登場し、同時に介護支援専門員（ケアマネジャー）によるケアマネジメントが導入された。
2	介護保険制度の概要（理念、保険者、事業計画、認定等） 介護保険制度の理念は「福祉と医療に分立している制度を再編することにより、福祉も保健医療も同様の利用手続き、利用者負担で利用者の選択により総合的に利用できる利用者本位の仕組みを構築することにある。保険者は市町村及び特別区である。保険給付を受けるためには、被保険者からの申請に基づいて、全国一律の基準で審査判定による認定を受ける必要がある。認定は要介護１～５、要支援１～２の７段階である。
3	居宅介護支援（指定居宅介護支援事業者、居宅介護支援の目的と内容） 居宅介護支援は一般に「ケアマネジメント」と呼ばれる。「要介護者やその家族が持つ生活課題（ニーズ）と社会資源を結びつけることで、在宅生活を支援すること」である。居宅介護支援はチームアプローチであるとされ、多職種や多機関が連携し合って進めていくものである。チームで居宅サービス計画を作成するためには、関係者が集まり計画を検討するサービス担当者会議を行う必要がある。
4	居宅サービス（１）（介護支援サービスの提供者） 居宅サービスを提供する事業者は「指定居宅サービス事業者」として、申請により都道府県知事の指定を受けなければならない。指定を受けた居宅サービス事業者は一定の要件を満たす必要があり、共通事項としての基準に応えていかなければならない。また、それらの基準に何らかの問題が生じたときには、都道府県知事は指定事業者の取り消しを行うことができる。
5	居宅サービス（２）（介護支援サービスと訪問介護） 介護支援サービスにおける訪問介護は、要介護状態となった場合でも利用者が可能な限り居宅において本人の能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、入浴・排泄・食事・調理など生活全般にわたる援助を行うものである。訪問介護の内容は身体介護と生活支援に大きく分けられるが、両社は密接なかかわりを持つことから、常に一連の流れの中で行われるよう、共通の目標を持って協力し合うことが重要である。
6	介護保険施設（指定介護老人福祉施設等の内容、基準、施設サービス計画） 介護保険制度として施設介護サービス費の給付対象となるのは、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設（療養病床等）の３施設である。いずれも都道府県知事の指定又は開設許可を受ける必要がある。施設サービス計画を作成実施するに当たっては、利用するサービスを入所者に強制することがあってはならない。計画を担当する介護支援専門員は、入所者の家族との信頼関係、協働関係を構築することが重要である。
7	高齢者の特徴と高齢期に多い疾病及び障害（身体的・精神的特徴、高齢者に多い疾患） 加齢による心身の変化は個人差が大きい。日常的にはバイタルサイン（体温、血圧、脈拍）の変化に留意し、正確な測定方法で基準値と異常値をチェックすることが重要である。高齢者は老化に伴うさまざまな機能の低下が生じる。何らかの異常が生じたとき、加齢によるものと安易に判断せず、医療的検査により異常の早期発見につなぐことが重要である。
8	認知症高齢者の介護（１）（老人性認知症の特徴とアセスメント） 認知症とは、「通常、慢性あるいは進行性の脳疾患によって生じ、記憶、試行、見当識、理解、計算、学習、言語、判断など多数の高次大脳機能の障害からなる症候群」と定義されている。老人性認知症には、脳血管障害、脳変性疾患、感染性疾患、内分泌代謝性疾患、中毒性疾患、腫瘍性疾患などの要因がある。代表的な疾患はアルツハイマー型認知症と脳血管性認知症であるが、近年ではレビー小体型認知症や前頭側頭型認知症も増えている。
9	認知症高齢者の介護（２）（認知症高齢者・家族への援助と介護支援サービス） わが国では高齢化に伴う認知症高齢者の増加が大きな課題となっている。このことは同時に、介護する家族への支援の必要性に繋がっている。認知症高齢者が示す行動にはそれぞれ特徴があるものの、成育歴、職歴、性格などからくる個人差も大きい。徘徊、暴力、妄想、異常行動などがあると家族の介護負担も増大するので、認知症の高齢者家族への個別的な状況に対応する支援が求められている。
10	精神に障害のある場合の介護（高齢者の精神障害とその介護） 精神障害には統合失調症、躁うつ病（気分障害）、アルコール依存症、神経症（ノイローゼ），知的障害などがある。高齢者の精神障害は、若いときに発症しそのまま病歴が続いている場合や高齢者になってから発症した場合があるため、生活歴をゆったりした気持で丁寧に確認して行くことが重要である。特に発症前後の状況確認は慎重に行わなければならない。
11	在宅での医療管理（在宅自己注射、悪性腫瘍疼痛管理、人工透析、在宅酸素療法、在宅中心静脈栄養療法、経管栄養療法、胃ろう、在宅人工呼吸療法、ネプライザー、留置カテーテル等） ここでは人工透析について説明する。人工透析には大きく分けて血液透析と腹膜透析がある。血液透析の場合は定期的に透析センターに行く必要があるため、交通手段の確保が重要となる。在宅での透析を行う場合は高齢者自らの操作は困難なので、家族が病院や透析センターで指導を受け行うことが多い。
12	終末期介護（本人・家族とのかかわり、在宅ケア、チームケア） 終末期介護とは「死を間近に控えたものに対する介護」のことであるが、末期がん患者に対するホスピスケアと高齢者の終末期介護の場合の違いを理解しておく必要がある。高齢者の場合は、どの段階からが終末期と判断するかが明確ではなく、医師も判断に苦慮することが多いからである。そのため介護サービスの提供者は、本人及び家族との関係を密にし、本人あるいは家族の決断を重要視しなければならない。

13	ソーシャルワーク（援助困難事例への対応） 援助困難事例とは「保健医療・福祉サービスを提供する関係機関・施設で、関係職員が接し方に苦慮している事例のほか、保健医療・福祉機関・施設にかかわってこない、地域で介護保険のサービスを受けようとせず孤立している高齢者やその家族等の事例も含む。特に後者では、援助を受けようとしなかったり拒否したりという背景にはさまざまな要因が潜んでいることに配慮し、援助困難に陥っている要因を見極めていく必要がある。
14	社会資源の活用（社会資源、地域包括支援センター、在宅介護支援センター） 要介護者等の地域社会支援には、公的サービスを中心とするフォーマルな分野のサービスと、家族、近隣、ボランティア等によるインフォーマルな分野のサービスの存在が必要条件となる。この両者を合わせてケアの社会資源と考えられている。サービスや支援を提供している機関・団体・施設の連携を機関間ネットワークといい、個人や家族を対象にして要介護者等のニーズと社会資源とを調整し結びつけ、組織化することが軸となる。
15	高齢者の権利擁護（高齢者虐待、成年後見制度、地域福祉権利擁護事業） 保健医療・福祉分野で高齢者の虐待問題が社会的に問われるようになったのは 1990 年代に入ってからである。その後 2000 年の介護保険制度の施行にあたって、高齢者の尊厳を守るため、介護保険施設の入所者に対する身体的拘束の禁止規定が盛り込まれた。高齢者への虐待は、身体的虐待、心理的虐待を含む５項目が高齢者虐待の種類とされている。成年後見制度も意思決定が困難な人の権利を本人に代わり擁護する制度として登場している。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 認知症高齢者や、精神に障害のある高齢者に対する介護の展開について述べよ。

＜ポイント＞

認知症の原因となる疾患や認知症の症状について理解し、認知症判定基準や認知症による問題行動を踏まえ、その介護について考察すること。その際、高齢者が住み慣れた在宅で生活するための、公的サービス及びその他の社会資源の役割を具体的に述べること。

科目終了試験学修のポイント

１．高齢者の身体的・精神的な特徴と、高齢期に多い疾病や障害について

＜ポイント＞

身体・精神の老化現象を踏まえ、高齢者に多い特徴的な疾病や障害をおさえて整理することが大切である。

２．医療器具を装着している場合の介護の留意点について

＜ポイント＞

主な医療器具について、介護従事者としての一般的心構え、安全管理、感染予防、緊急対応などの知識をもつことが大切である。

３．高齢者のターミナルケアの実際と家族へのケアについて

＜ポイント＞

終末期ケアの意義、緩和ケア、チームケア、患者と家族は１つのケア単位、死の教育等について理解することが大切である。

４．高齢者支援展開における居宅サービス事業について

＜ポイント＞

居宅サービス事業（居宅介護支援事業所を含む）を整理し、高齢者のニーズに基づきサービスが提供されるための地域条件等について検討しておくことが必要である。

５．公的サービスおよびその他の社会資源導入方法論について

＜ポイント＞

フォーマルサービス及びインフォーマルサポートの社会資源とその特徴を理解するとともに、関連する地域包括支援センターや介護支援事業などの働きについても学修することが大切である。

６．高齢者支援における困難事例への対応について

＜ポイント＞

困難事例にはどのようなケースがあるか、その対応・アプローチ法について理解しておくことが大切である。

教科書

介護支援専門員テキスト編集委員会『介護支援専門員基本テキスト』長寿社会開発センター。

参考文献

石倉康次『形成期の痴呆老人ケア』北大路書房。
小山内美智子『あなたは私の手になれますか』中央法規。

科目コード	高齢者福祉論（２単位）	登録年次	履修方法
3160		１年	ＳＲ
教員名	遠藤修正、、金貞任、黒木豊域、河野等、近藤重晴、田中利光、 辻本理絵子、中山勇気、山﨑篤、柳澤利之、尹文九、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

急速な高齢化の進展に伴い２１世紀半ばには３人に１人が６５歳以上という超高齢社会が到来することが予想される。このような現状をふまえ、現代社会における高齢者福祉の概念・意義について理解するとともに、高齢者の精神的・身体的特徴や障害、高齢者福祉の社会的背景について考察する。また、高齢者福祉のニーズ、方法およびサービスの体系について学修し、高齢者に対する福祉サービスの現状について理解する。

学修内容	
1	高齢者のイメージについて肯定的なイメージと否定的なイメージに区分し、それぞれの具体的な内容について学修する。
2	ライフサイクルから見た高齢者に対する理解や特徴（テキスト pp.10-23） 高齢者は若者と比べ、身体的、心理的、社会的にどのような特徴があるのかについて学修する。
3	少子高齢社会と社会的問題（テキスト pp.30-40） 少子高齢社会とは、日本の少子高齢化の特徴、少子高齢化の要因、高齢者と家族の状況などについて学修する。
4	高齢者を取り巻く諸問題（テキスト pp.41-59） 諸問題のなか健康、介護、経済的問題、生活意識、生きがい問題などについて学修する。
5	高齢者保健福祉制度の歩み（テキスト pp.77-85） 戦後以来日本政府が高齢者のため行った政策・制度をマクロレベルで検討し、高齢者福祉の歩みを理解する。
6	高齢者支援関連法(老人福祉法)（テキスト pp.94-98） 老人の定義から始め、福祉法の理念と目的、内容、サービスなどについて学修する。
7	高齢者支援関連法(高齢者の医療の確保に関する法律)（テキスト pp.99-105） 老人保健法の成立背景から、その内容について学修する。
8	高齢者支援関連法(高齢社会対策基本法と権利擁護制度)（テキスト pp.88-93） 高齢社会対策基本法と成年後見制度の全体の仕組みと重要事項について学修する。
9	高齢者支援関連法(高齢者虐待防止法)（テキスト pp.106-114） 高齢者虐待の種類や虐待通報があったとき、その対応について学修する。
10	介護保険法① 介護保険制度の全体像や制度成立の背景、または理念などの社会的意義について学修する。 テキスト p. 125 を参考し、制度の全体像について理化する
11	介護保険法②（テキスト pp.137-145・pp.154-159） 制度の仕組みのなかで特に、認定のプロセスと重要な内容（保険者・被保険者、財政など）について学修する。
12	介護保険法③（テキスト pp.130-136） 介護保険法が改正された理由とどのような内容に改正されたのかについて介護給付サービスを中心に学修する。
13	介護保険法④（テキスト pp.189-204） 介護保険制度から利用できるサービスにはどのようなものがあるか、サービス利用のため必要なことについて学修する。
14	介護保険法⑤（テキスト pp.180-188） 介護保険と関連し、専門職にはどのような職種があるか、具体的な仕事の内容について学修する。
15	高齢者を支援する組織（テキスト pp.216-234） 高齢者を支援する組織（行政、第３セクター、ボランティア活動など）にはどのような機関があるか、それぞれが高齢者福祉のために果たしている役割について学修する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 在宅福祉サービスの体系と介護保険制度について述べよ。

＜ポイント＞

在宅福祉の概念や制度、現状を体系的に整理するとともに、現在施行されている介護保険制度についてもその現状や今後の課題について考察し、今後の方向性を自分なりにまとめていくこと。

科目終了試験学修のポイント

１．介護保険制度について

＜ポイント＞

まず、介護保険制度の全体の仕組みと制度の理念や目的について理解する。そして制度全般に対し、自分が理解した課題や問題点についてまとめる。

２．在宅福祉サービスをめぐる今日的課題について

＜ポイント＞

まず、高齢者のための在宅福祉サービスにはどのようなサービスがあるのかについて理解してから、その中でどのような課題や問題点があるのかについてまとめる。

３．特別養護老人ホームをめぐる今日的課題について

＜ポイント＞

高齢者の施設福祉サービスの代表的なものとして特別養護老人ホームがあるが、今日高齢化の進展と共にさまざまな課題を持っている。その課題や問題点について特に４０万人以上とも言われる施設待機者の問題や課題についてまとめる。

４．高齢者を支援する組織とその役割について

＜ポイント＞

高齢者を支援する組織には行政機関を含め、民間機関や第３セクターなどさまざまな分野がある。分野別または機関別の役割や機能を理解し、まとめる。

５．高齢者の人権と虐待について

＜ポイント＞

２１世紀は人権の時代と呼ばれ、高齢者の人権を守るためにさまざまな法律が整備されたが、マクロレベルでのその背景と、その中でも特に高齢者虐待防止法についてはその内容をより詳しく理解し、どうすれば、虐待の防止ができるのかについてまとめる。

６．戦後の高齢者福祉制度の変化について

＜ポイント＞

戦後から今まで高齢者福祉制度は時代の変化と共に時期別に新しい政策・制度への対応をしてきた。その時代別に変化した背景と特徴について政策環境を中心にまとめる。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座13　高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規。

参考文献

川村匡由『介護保険総点検』ミネルヴァ書房。
三浦文夫『図説高齢者白書』全国社会福祉協議会。

科目コード	高齢者福祉論	登録年次	履修方法
3161		1年	R
教員名	遠藤修正、金貞任、黒木豊域、河野等、近藤重晴、田中利光、辻本理絵子、 中山勇気、山﨑篤、柳澤利之、尹文九、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日本社会は、少子高齢化に伴う人口減少と福祉・介護人材の確保が課題となっており、少子高齢社会の動向を的確に把握し、問題の枠組みを理解すると共に、ニーズに基づく総合的・計画的な対応を明らかにする。

本授業では、第１に、人口構造と世帯構成をふまえ、高齢者の身体的・精神的・経済的状態など高齢者を取り巻く状況について理解を深める。第２に、高齢者福祉の発展過程として老人福祉法、老人保健法～高齢者医療確保法、介護保険法、高齢者虐待防止法等の経過について理解する。第３に、支援が必要な虚弱高齢者と要介護高齢者の現状、公的サービスの現状と問題点について検討する。第４に、介護保険法に規定されている介護に関連する各種サービスや介護予防、ケアマネジメント、認知症ケア、地域包括支援センターの諸事項について、現状と問題点を検討する。最後に、要介護状態になっても住み慣れた地域社会などで生活を継続するために、どのようなサービスや政策が必要かをデータ分析・地域調査をふまえ、より良い高齢社会を展望する。

学修内容

1	なぜ高齢者福祉を学習するのか ・高齢者の生活実態（フレイル虚弱～要介護、現役に比べ低所得、社会的孤立など）
2	高齢者福祉の歴史（戦前～現代） ・救護法～生活保護法による低所得老人への対応、人口の高齢化～後期高齢者の増加、少子高齢化、
3	高齢者の法制度(1)老人福祉法（1963）、老人福祉の原理、国・地方公共団体の責務、老人福祉の措置
4	高齢者の法制度(2)老人保健法（1982）～高齢者医療確保法（2008～） （予防・治療・リハビリテーション／後期高齢者医療制度、医療費の負担１～２～３割負担）
5	高齢者の法制度(3)介護保険法、保険者・市区町村・広域連合、被保険者（第１号、第２号） ・要介護・要支援認定、介護支援サービス、ケアプラン（介護サービス計画）、 各種介護サービス（居宅・地域密着型・施設）、保険料・利用者負担について
6	地域包括支援センターと居宅介護支援事業所 ・社会福祉士・保健師・主任ケアマネジャーの役割／介護支援専門員（ケアマネジャー）等
7	高齢者虐待防止法、その他高齢者関係法 ・虐待の定義（施設・家族等）人権尊重、権利擁護（成年後見等）
8	高齢者福祉サービス(1)施設サービス ・特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、介護老人保健施設等
9	高齢者福祉サービス(2)在宅サービス ・訪問介護、通所介護、短期入所、訪問看護、通所・訪問リハビリテーション、訪問入浴その他
10	高齢者福祉サービス(3福祉用具と住宅改修（改造） ・福祉用具の貸与、購入（関連）補装具　／住宅改修（住宅改造） ・高齢者すまい法、サービス付き高齢者住宅ほか
11	高齢者福祉サービス(4)認知症ケア、新オレンジプラン（認知症総合戦略） ・認知症グループホーム　認知症カフェ、認知症自立度判定基準
12	介護福祉と医療との関連、介護福祉士の役割 ・介護報酬について、介護福祉士等の処遇改善ほか
13	高齢者の健康づくり・高齢者の雇用 ・フレイル（Frail）の理解：予防の重要性 ・市町村総合事業、高齢者の多様な活動、高齢者の就労、シルバー人材センター
14	関連事項：アジア諸国における少子高齢化の動向、 ・「高齢者福祉の今後」、外国人介護労働者の受け入れについて
15	総括講義―2025 地域包括ケアシステム、大規模災害と高齢者 高齢者福祉の課題と展望

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】介護保険制度の基本的枠組みについて体系的に説明しなさい。

＜ポイント＞

・介護保険の保険者と被保険者について、第１号被保険者の保険料について

・要介護・要支援認定、要支援１・2、要介護1～5、介護サービス計画（ケアプラン）～介護支援専門員

・地域包括支援センターの役割（高齢者総合相談、介護予防、認知症ケア）とそのスタッフ

科目終了試験学修のポイント

１． 老人福祉法の意義、目的など主要事項について

＜ポイント＞

・老人福祉法制定（1963）の意義、目的、並びに老人福祉の原理、老人福祉の「措置」

２． 老人保健法から現在の高齢者医療確保法への移行について

＜ポイント＞

・老人保健法制定（1982）の経過・法の目的、予防・治療・リハビリテーション

・高齢者医療確保法（2008～）の意義、保険者及び被保険者、保険料、および、一部負担の動向

3. 地域包括支援センター

＜ポイント＞

・制度上の位置づけ、同センターの主な業務、スタッフ（社会福祉士、保健師、主任ケアマネジャー）、現状及び課題について

4. 介護人材の確保について

＜ポイント＞

・介護福祉士とその役割

・外国人介護労働者の受け入れ（EPA 制度、特定技能実習生制度）

５．認知症ケアのすすめ方について

＜ポイント＞

・認知症の定義、症状及び要介護の状況、関連するサービスの動向（特別養護老人ホーム、

・認知症グループホームなど）

６．高齢者虐待をめぐる諸問題と対応について

＜ポイント＞

・高齢者虐待防止法の意義、虐待の定義（施設・家族等）及び、虐待防止に向けての取り組みなどをまとめる。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集

『最新社会福祉士養成講座【専門科目】2　高齢者福祉』　中央法規。

参考文献

朝田隆・村川浩一編『ポスト・コロナ時代の高齢者ケア』第一法規、2021

村川浩一・矢部正治ほか『介護保険論』第一法規、2009

大泉啓一郎『老いてゆくアジア』中公新書、2007、2014

科目コード	国語（書写を含む）（２単位）	登録年次	履修方法
7400		２年	R
教員名	石渡宏、杉山憲江、手計茂、松村久美子、望月之美		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

書写を含む国語（日本語）に関する基礎的・基本的知識理解を確かにするとともに、今日の国語国字問題や国語教育及び言語生活について考える力を育てる。

あわせて、各自の言語生活の向上と世界の言語のひとつとしての認識力を持って母国語としての日本語を尊重し、良くしようとする態度と実践力を養う。

学修内容

1	日本語の特色（1） 教科書（上）pp.1-47 日本は、世界で珍しい一言語一民族の国家であり、国語としての日本語は公用語として使われている。日本語の多様性については、方言のちがい、階層によるちがい、職域によるちがい、官庁や学術用語、男女によるちがい等がある。
2	日本語の特色（2） 教科書（上）pp.48-85 世界の言語族を概観し、日本語の系統を考察する。外国語からの影響として、昔は中国語、今は外来語の氾濫がある。日本語の有力性については、世界第６位の使用人口の多さ、学術用語の完備、表現の自由さがある。
3	日本語の方言のちがい 教科書（上）pp.21-25 日本語の言葉の違いが激しくあらわれるのは、地域による方言である。関東と関西の方言、八丈島と沖縄の方言、未開社会の方言等、方言区画や方言の由来を考える。また、標準語の制定の意義、共通語の普及について理解する。
4	日本語の音声の特徴（1） 教科書（上）pp.87-115 日本語の発音の単位は、音声（拍）や音節、音素、母音どめ（開音節）、撥音、促音、長音があり、日本語の美しさを構成する。拍の種類や同音語、しゃれ・懸詞について理解し、拍の結びつき方の法則を学ぶ。
5	日本語の音声の特徴（2） 教科書（上）pp.116-132 日本語は、相対的な高低関係がきまっている高低アクセントの言語であり、同音語の区別に有効である。英語は拍の間の強弱関係がきまっている強弱アクセントの言語である。日本語のアクセントの特色や日本人の音感覚をまとめる。
6	日本語の語彙について（1） 教科書（上）pp.133-161 日本語の語彙の多さやその原因は、複合語を作りやすいことがある。語彙の構成として、和語、漢語、外来語、混種語について理解する。単語の形態の面から、表記や発音の不安定さ、難しい略語、単語の長さ、同音語の多さ等が課題である。
7	日本語の語彙について（2） 教科書（上）pp.161-279 日本語は、自然関係の語彙（気象・季節・地形）が多い。その他、人間関係（人体・動作）、生活関係（生業・衣食住）、社会関係（家・社交）、抽象的意味（空間・色）の語彙、一般の語彙として、擬音語や擬態語の成立を理解する。
8	日本語の文字及び表記法の問題点 教科書（下）pp.1-46 日本語は５種類の文字（平仮名・片仮名・漢字・ローマ字・アラビア数字）を使用し、表音文字と表意文字に分けられ、縦書きと横書きがある。漢字は表意性があり、音訓読み、多数性と多画性、字体、振り仮名や送り仮名の問題がある。
9	日本語の文法の特徴（1） 教科書（下）pp.47-96 日本語の文法の単位について、文節、単語を理解する。単語を文法上の性質で分けたものを品詞といい、名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助詞・助動詞がある。名詞の性と部類別、数詞、格を学ぶ。
10	日本語の文法の特徴（2） 教科書（下）pp.97-130 日本語の動詞の意味や形態を理解する。動詞の活用による語形変化（活用形）を考察する。動詞の分類法、動詞のテンス（時制）やアスペクト（相）の問題、ヴォイス（態）の変化による使役や受身の言い方がある。
11	日本語の文法の特徴（3） 教科書（下）pp.131-174 形容詞の語彙や語形変化を理解する。副詞の分類（状態の副詞・程度の副詞・陳述の副詞）、接続詞の役割、助詞や助動詞の種類と用法、否定表現、代名詞として人称代名詞、指示代名詞（コソアド言葉）を学ぶ。
12	日本語の文法の特徴（4） 教科書（下）pp.209-264 日本語のセンテンスの形と長さ、種類と特色について考える。文の成分として、主語と述語の関係、文末表現、語句の並べ方（語順）を学習する。また、日本語の並べ方の自由さ、修飾語や述語の位置、センテンスの結びつけ方を理解する。
13	日本語の敬語の使い方 教科書（下）pp.174-208 待遇表現として、敬語の種類と用法を理解する。敬意を向ける対象を高める尊敬語、話し手や話題の人を低めて、相手の人や聞き手を高める謙譲語、聞き手に敬意を表す丁寧語がある。現代の敬語では、丁重語や美化語を立て５分類とする。

14	日本語の国語国字問題　教科書（下）pp.265-294 日本人の言語表現の特色として、日本語の簡略表現、主語・修飾語・補語の省略がある。また、正書法による表記、漢字や仮名遣い、外来語の多用、女性語や敬語の後退、若者言葉やメール依存のコミュニケーションの問題がある。
15	国語力の向上や日本語の尊重に関する言語施策＜「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」参照＞ 国語問題への対応としては、まず日本語の体系、用法を理解することである。そして、学習指導要領に示された言語活動の充実による言語力の育成や活用を重視し、国語能力の向上、国語を尊重する態度を育てることが大切である。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】身近に見られる日本語の表現や理解に関する疑問点・問題点を見つけ，その類例を集めるとともに，その原因と解決法について見解を述べよ。

＜ポイント＞

１．書写を含む国語（日本語）に関して日頃気にしていることを明確にすること。

２．国語に関することについて、母国語、公用語、書写、正書法、音声、文字、文法、語彙、文体、方言、敬語、言語施策等広い視点から捉え考えること。

３．国語力の向上や日本語の尊重に関して自分なりの実践工夫を大切にすること。

科目終了試験学修のポイント

１．子どもの母国語・国語の習得の諸相について

＜ポイント＞

母国語の獲得と言語環境、日本語の単語の多さ、和語・漢語・外来語・混種語等の特徴を捉える。

２．日本語の音声に関する基礎的知識と特徴について

＜ポイント＞

音節の構造や種類、同音異義語、日本語のアクセントの特徴について理解する。

３．日本語の文法に関する基礎的知識と特徴について

＜ポイント＞

日本語の文の単位や品詞分類、自立語と付属語のはたらき、文の成分や語の順序、言語感覚を磨くことが大切である。

４．書写を含む日本語の文字及び表記法に関する基礎的知識と問題点について

＜ポイント＞

日本語の縦書き・横書き、文字の種類、漢字の音訓読みや画数の多さ、平仮名・片仮名の使い方が課題である。

５．敬語と方言に関する基礎的知識と課題について

＜ポイント＞

待遇表現としての敬語表現の種類と用法、方言区画や標準語と共通語への理解が必要である。

６．日本語における国語国字問題について

＜ポイント＞

日本語の体系・用法の合理化と、国民の言語能力の向上を図る国語教育の充実が重要である。

教科書

金田一春彦『日本語　新版上下』岩波新書。

参考文献

大野晋『日本語の教室』岩波新書。

科目コード	国語科指導法（書写を含む）（2 単位）	登録年次	履修方法
4170/7170		2年	SR
教員名	新井美也子、安藤哲也、石渡宏、伊原信一、小本そのみ、杉山憲江、望月之美		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報の機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

子どもがすこやかに育つために基本的に必要となる、「話すこと、聞くこと」及び「書くこと」「読むこと」「書写」の力を、保育・子どもの発達支援の専門家として指導できるよう、国語科の目標や内容、指導の方法の概要について、具体的な資料を通して学修する。さらに、幼児・児童の年齢相応の言語活動を具体的に探り、効果的な指導法について考察するとともに、子どもの感性を豊かに育むより良い教材について理解を深め、国語指導に関する知識・技能の習得をめざす。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	・小学校学習指導要領新旧対照表をもとに、国語科の目標を比較しながら、国語科の役割について理解する。（科目終了試験学修のポイント 1） ・国語教育と国語科教育についての違いを理解し、国語科とはどのような教科かについて、教科書 pp.1-7 を熟読し、その概略を把握する。	国語を教える意義 国語科教育の歴史	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	・「学習指導要領」による指導事項の確認と留意点について、教科書 pp.8-19 を熟読し、A「話すこと・聞くこと」B「書くこと」C「読むこと」に関する指導事項と言語活動例を理解する。（科目終了試験学修のポイント２・３）	学習指導要領における［知識及び技能］［思考力・判断力・表現力等］の内容と指導事項	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	・国語科で育成を目指す資質・能力である［知識及び技能］が新学習指導要領に位置づけられた意味と定義について、教科書 pp.106-121 を参考にし、学習内容と学習活動から深く理解する。 ・［知識及び技能］の学年ごとの取り扱い方については、実際の教科書教材を確認し、指導の実際を理解する。	〔知識及び技能〕 の指導方法 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項　(3)我が国の言語文化に関する事項	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
4	・国語科で育成を目指す資質・能力である［思考力・判断力・表現力等］のうち、A「話すこと・聞くこと」の指導に関しては、教科書 pp.20-25、pp.100-105 を熟読し、教材研究の視点と、指導の目標設定・評価等について理解する。	［思考力・判断力・表現力等］の指導方法 A「話すこと・聞くこと」 （指導の実態、実際の教材、教材の工夫・情報機器の活用等を踏まえた授業展開の構想）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
5	・国語科で育成を目指す資質・能力である［思考力・判断力・表現力等］のうち、B「書くこと」についての指導に関しては、教科書 pp.26-31、pp.92-99 を熟読し、教材研究の視点と、「書くこと」の学習課題・形態・段階・評価等について理解する。	［思考力・判断力・表現力等］の指導方法 B「書くこと」 （指導の実態、実際の教材、教材の工夫・情報機器の活用等を踏まえた授業展開の構想）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
6	・国語科で育成を目指す資質・能力である［思考力・判断力・表現力等］のうち、C［読むこと］についての指導に関しては、教科書 pp.32-37、pp.60-71 を熟読し、文学的文章についての教材研究の視点と実際の指導に関しての具体的な指導展開を理解する。 ・実際の教科書教材を参考に、詩や物語等の指導過程を考える。	［思考力・判断力・表現力等］の指導方法 C「読むこと」【文学的な文章】 （指導の実態、実際の教材、）教材の工夫・情報機器の活用等を踏まえた授業展開の構想	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
7	・国語科で育成を目指す資質・能力である［思考力・判断力・表現力等］のうち、C「読むこと」についての指導に関しては、教科書 pp.37-39、pp.72-81 を熟読し、説明的文章についての教材研究の視点と実際の指導に関しての具体的な指導展開を理解する。 ・実際の教科書教材を参考に、説明文の指導過程を考える。	［思考力・判断力・表現力等］の指導方法 C「読むこと」【説明的な文章】 （指導の実態、実際の教材、教材の工夫・情報機器の活用等を踏まえた授業展開の構想）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）

8	・「学習指導の計画と評価」について、教科書 pp.40-49 を熟読し、年間の指導計画と 1 単位時間の学習指導計画について理解し、学習指導案の作成をする。 ・評価に関しては、小学校学習指導要領を参考に、「指導と評価の一体化」の重要性について確認する。	学習指導案の作成の仕方	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
9	・「授業と指導法」について、教科書 pp.50-59 を熟読し、「学習環境の整備」「基本的な国語力・学習技能」「基本的な学習指導の知識・技能」について理解し、実際の国語科の授業に対する実践意欲を育てる。		印刷授業
10	・「文学的文章（詩）」についての模擬授業を実施する。 ・教科書 pp.32-34 を参考に、実際の教科書教材『いろいろな詩』の単元の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。		印刷授業
11	・「文学的文章（物語）」についての模擬授業をする。 ・実際の教科書教材 4 年『ごんぎつね』の単元の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。	C「読むこと」（文学的文章）の模擬授業 （教材研究、単元指導計画作成、本時の学習指導案作成、模擬授業発表）	印刷授業 及び 面接授業 (3 時間)
12	・「説明的文章」についての模擬授業をする。 ・実際の教科書教材 4 年『アップとルーズでつたえる』の単元の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。	C「読むこと」（説明的文章）の模擬授業 （教材研究、単元指導計画作成、本時の学習指導案作成、模擬授業発表）	印刷授業 及び 面接授業 (3 時間)
13	・各模擬授業における授業評価をする。その際、授業記録の取り方やそれに基づいた授業分析の実際についての理解を深めるよう努めること。	授業評価の仕方	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
14	・硬筆書写指導について、小学校国語科書写入門期の指導と幼稚園における文字指導との連携における課題や問題点を考える。（科目終了試験学修のポイント４・５） ・小学校教師として、硬筆書写指導の実際の取り組み実施し、実践意欲を育てる。		印刷授業
15	・毛筆書写指導について、基本点画を中心に指導の実際を学習し、実践意欲を育てる。（教科書 pp.122-129）		印刷授業
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 幼児向けと児童向けの絵本をそれぞれ一冊ずつ選び、それらを幼児及び児童に国語指導教材として与えるときの①ねらい、目標②指導方法、指導計画③教具、学習材等について考えを示すとともに、その決定までに参考にしたことや思索したことを述べよ。

＜ポイント＞

1．発達段階やねらいに合った教材の選択、研究について

2．国語科指導の目標、内容の系統性・発展性・関連性について

3．指導法、指導過程・計画設計の基本的事項について

4．教具、学習材の工夫創造について

科目終了試験学修のポイント

1．幼児児童の発達段階の国語力について

＜ポイント＞

「幼児児童の発達段階における言葉の特徴」「幼児期から児童期にかけての国語力（言葉から文へ）の変遷」等について、具体例を示しまとめること。

2．国語の表現、理解、コミュニケーション及び書写の力について

＜ポイント＞

「小学校学習指導要領」「幼稚園教育要領」を比較し、それぞれの領域におけるねらいについてまとめること。

3．書写を含む国語科指導の内容の全体の理解と発達段階に即した系統、発展性の知識理解について

＜ポイント＞

「新学習指導要領国語編」を参考に、1・2年、3・4年、5・6年の［知識及び技能］［思考力・判断力・表現力等］における学習内容及び言語活動例についてまとめること。

4．家庭、保育園、幼稚園での国語に関する指導、連携協力について

＜ポイント＞

「乳幼児から幼児にかけての言葉の発達」、また、「それぞれに携わる指導者としての役割」等、家庭、保育園、幼稚園の連携協力についてまとめること。

5．小学校における国語指導と幼稚園との連携について

＜ポイント＞

「文字指導」に関する幼小の連携についての課題と問題点について、学習指導要領と幼稚園教育要領を比較しまとめること。

教科書

田近洵一、他『小学校国語科授業研究　第4版』教育出版。

参考文献

大村はま『国語教室の実際』共文社。
大村はま『やさしい国語教室シリーズ』共文社。
文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編』東洋館出版。
小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）

科目コード	国際関係論（国際法を含む）（２単位）	登録年次	履修方法
2270	（旧　国際関係論）	３年	R
教員名	小野智一、辻本理絵子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

近年一層緊密化する国際社会を総体的に理解するために必要な枠組みを修得することを目標とする。国際社会の特徴と発展の歴史、国際関係理論の基礎を学んだ後、現代社会の抱える問題に対してどのような姿勢で臨めばいいかを考える。また、国際法の構造と問題点についても学ぶ。

学修内容

1	序章　国際政治への問い　　関連…科目終了試験学修のポイント１ 国内政治と国際政治の違いは何か。国際政治の構造を知る。
2	第１章　国際政治の来歴①　近代ヨーロッパと国際政治の「原型」　関連…科目終了試験学修のポイント１ 近代的な政治の考えはどこから芽生えたのか。マキャベリの考えた理想について確認する。
3	第１章　国際政治の来歴②　地球時代と国際政治意識の登場　関連…科目終了試験学修のポイント１ 「国際政治」が登場した 20 世紀はどのような時代か。国際秩序を形作ろうとする様々な試みについて確認する。
4	第１章　国際政治の来歴③　宇宙時代　　関連…科目終了試験学修のポイント５ 「宇宙船地球号」という見方は社会をどう映すようになったのか確認する。
5	第２章　安全保障の位相①　恐怖の外部化　　関連…科目終了試験学修のポイント２ 一人一人の不安や恐怖を最小化するためには国家の支配（保護）を受けることだと述べたホッブズは人々が国家の支配を受け入れる根拠を示した。人々の恐怖は外部化という形で国家が背負うこととなったことを確認する。
6	第２章　安全保障の位相②　恐怖の制度化　　関連…科目終了試験学修のポイント１および２ 軍事力を持つことの意味について確認する。
7	第２章　安全保障の位相③　「仮想の地球社会」と内なる恐怖　　関連…科目終了試験学修のポイント３ 恐怖を外部に排除することで安全保障を確保してきた人類は、「地球社会」という社会において恐怖を押し付けることはできなくなった。地球全体が一つの生命体であると考えるこの社会の登場により、どのように見方が変わったのか確認する。
8	第３章　政治経済の位相①　世界市場から世界経済へ　　関連…科目終了試験学修のポイント５ 世界を巻き込む経済の登場により世界は競争の側面を強くしてきたことを確認する。
9	第３章　政治経済の位相②　世界経済体制　　関連…科目終了試験学修のポイント５ 二つの世界大戦をとおして世界の経済システムはどのように変容したのか確認する。
10	第３章　政治経済の位相③　地球的統治の課題　　関連…科目終了試験学修のポイント５ 地球環境の問題が国際政治上の議論を起こすようになった背景について確認する。
11	第４章　価値意識の位相①　文明意識の展開　　関連…科目終了試験学修のポイント３および６ 文明意識の登場とその担い手としての「国民」の誕生について確認する。
12	第４章　価値意識の位相②　慎重な普遍主義　　関連…科目終了試験学修のポイント３ 「民主化」が普遍的倫理として叫ばれ戦争の原因となった 20 世紀の国際社会について確認する。また、人道的介入の問題についても確認する。
13	第４章　価値意識の位相③豊饒な世界市民主義の可能性 エスニシティ意識の高まりと文化的アイデンティティに対する発想の転換が求められた背景について確認する。 関連…科目終了試験学修のポイント３
14	結章　21 世紀の国際政治と人間①　世界システムと国際政治・外交、あるいは人間的なもの　　関連…【レポート設題１】 首脳同士の対話は何を生み出すのか、事例をもとに考える。
15	結章　21 世紀の国際政治と人間②　寛容　冴えない美徳　　関連…【レポート設題１】 E.M.フォースターは「寛容」が消極的ながら美徳であると主張するのはなぜか考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】グローバル化する現代社会の抱える課題を１つ選び、具体例と自分の意見を入れながら述べよ。
＜ポイント＞
教科書や参考書を参照し、新聞やインターネットも利用して、問題点がよく分かるように議論せよ。出典を明記すること。
グローバルな規模で問題化することにはどのようなものがあるのか、環境、経済的利害、国境紛争など様々である。課題にあるようにフィールドを設定して議論すること。

科目終了試験学修のポイント

１．国際社会の特徴と国内社会との違いについて
＜ポイント＞例えば、国内で罪を犯した場合にはどのようになるであろうか。法によって禁じられた行為であれば「罪」となるので、規定された罰則を受けることになるであろう。しかし、国際社会でのルールである国際法はどのような性質なのだろうか。国内法と同じような性質があるのだろうか。無政府（アナーキー）はキーワードの一つである。

２．リアリズムとリベラリズムの論争とそこから抜け落ちている問題点について
＜ポイント＞ホッブズの「万人の万人に対する闘争」は人間行動の現実的対応の形といえる。これ以外の方法で協調しようとする理想主義(リベラリズム)とは何か。両概念の定義を示すこと。
国際関係論の重要な概念ではあるが、教科書には直接「リアリズムとリベラリズム」を解説する部分がないので、要説の学習参考例または、参考文献の甲斐信好著『プレステップ政治学 <第３版>』弘文堂、2020 年。p.18.に記載の「ホッブズとロック」にて、用語の意味を確認することから始めてほしい。

３．現代国際法における人権と国家主権の関係について
＜ポイント＞国際法の原則は他国の主権を犯さない、相互不干渉といえる。ただ、人権の問題については「人道的介入」など必ずしもこの原則に従わない状況がある。

４．経済のグローバル化について
＜ポイント＞第二次世界大戦、冷戦終結を経て現出した社会はグローバル社会と呼ばれるが、国際経済の見方がこの間どのように変わっていったのであろうか。1970 年代からグローバル化の変容が見られたこと、世界各地でどのような影響がもたらされたかに着目するのもよい。

５．地球環境問題とグローバルネットワークの形成について
＜ポイント＞温暖化効果ガス排出削減にむけた国際的取り組みなど具体的事例による説明が望ましい。
教科書 pp.184-205.はグローバル時代の地球統治を紹介しているが、p.193. は地球環境問題の議論が大きくなっていったかについて詳しく述べているので参考にしてほしい。

６．国民国家とナショナリズムについて
＜ポイント＞ウェストファリア条約以降成立した主権国家は、18 世紀のフランス革命以降、国民国家としての形を見せ始める。ナポレオンのヨーロッパ侵攻は人々に「自分は何人か」という問いを訴える機会となった（プロイセンをはじめとするドイツ諸邦で顕著)。国民意識、民族意識とはどのようなものなのか。ナショナリズムの定義をまとめること。
羽場久み子・増田正人編『21 世紀国際社会への招待』有斐閣ブックス、2003 年。P.19. の「2 章　国民というまとまりの誕生」はフランス・ドイツ両国の国民国家化と国民意識（ナショナリズム）がどう芽生えた比較しているため参考にしてほしい。

教科書

中西 寛『国際政治とは何か 地球社会における人間と秩序』中公新書。

参考文献

有賀貞、他『国際政治の理論　講座国際政治１』東京大学出版会。
デヴィッド・ヘルド、中谷義和、他『グローバル化とは何か―文化・経済・政治』法律文化社。
久米郁男、他『政治学』有斐閣。
甲斐　信好 著『プレステップ政治学 <第３版>』弘文堂、2020 年。
羽場久み子・増田正人編『21 世紀国際社会への招待』有斐閣ブックス、2003 年。※羽場久み子氏の「み」の漢字表記はさんずいに尾)

科目コード	国際社会と日本（２単位）	登録年次	履修方法
1160/1161		１年	R
教員名	小野智一、辻本理絵子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

なにげなく送っている日常生活の中での出来事も、国際的な視点から見つめなおすと、普段は気づかなかった重大な問題を投げかけてくることがある。このような認識に基づき、国際的な比較の中で、わが国の政治や国際関係、文化、社会の特色について考察する。

学修内容

	※「必修用語」は教科書などで意味を調べること。「手がかり」はレポートや科目終了試験の学修をいくつかの部分に分けて考えるためのヒントとして問いに答えてみること。
1	世界の中の国連、国連の中の日本①北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』第１章 必修用語…日米安全保障条約、冷戦の終焉、日米経済紛争、国際連合、PKO 関連…【設題１】　関連…科目終了試験学修のポイント２及び６
2	世界の中の国連、国連の中の日本②北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』第１章 必修用語…食糧危機、人口爆発、資源・エネルギー問題、開発主義、南北問題、ODA、国連予算分担金 関連…【設題１】　関連…科目終了試験学修のポイント２及び６
3	世界の中の国連、国連の中の日本③北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』第１章 手がかり…「なぜ国によって貧富の差が広がるのか」「日本が経済援助をするのはどのような国なのか」「国際連合に対する日本のスタンスはどのようになっているのか」「PKO に参加する自衛隊はどのような背景から生まれたか」 関連…【設題１】　関連…科目終了試験学修のポイント２及び６
4	国連総会のダイナミクス①北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』第２章 必修用語…国連総会、外交官 関連…科目終了試験学修のポイント１
5	国連総会のダイナミクス②北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』第２章 手がかり…「日本が国連を通して達成したかった課題とはなんだろうか」 関連…科目終了試験学修のポイント１
6	戦後日本の外交と国連　北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』第３章 必修用語…国連中心主義、PKO、常任理事国　　手がかり…「日本はなぜ国連安保理常任理事国入りを目指すのか」 関連…科目終了試験学修のポイント２
7	外交という仕事　北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』第４章 必修用語…国連総会、外交官、国連代表部 関連…科目終了試験学修のポイント３
8	世界各地の紛争と日本のスタンス①北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』第５章 必修用語…PKO、アフガニスタン・タリバン 関連…科目終了試験学修のポイント３
9	世界各地の紛争と日本のスタンス②北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』第６章 必修用語…NGO、DDR、対テロ非難 関連…科目終了試験学修のポイント３
10	世界各地の紛争と日本のスタンス②北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』第７章 手がかり…「世界各地で起こる紛争はどのような契機で起こったのか。（具体例を挙げて論じること）」「日本は世界の紛争とどう向き合ってきたのか」 関連…科目終了試験学修のポイント３
11	多国間の意思決定に日本はどう関われるのか　北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』第８章 必修用語…安全保障理事会、常任理事国、日本の安保理改革 手がかり…「日本の安全保障はどのような状況にあるか」「日本の直面する領土問題とは何か」「アメリカとの安全保障上の関係はどのようになっているのか」 関連…科目終了試験学修のポイント４
12	日本と他国との関係～周辺国家との関係～①北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』第９章ほか参考文献の原康『(岩波ジュニア新書)　国際関係がわかる本』第３章 必修用語…歴史認識問題、首脳会談 関連…科目終了試験学修のポイント５
13	日本の果たすべき役割～核問題～ 必修用語…安保理制裁決議、常任理事国の拒否権 関連…科目終了試験学修のポイント６

14	これからの日本外交を考える①北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』第 11 章 必修用語‥国連中心主義の日本の外交、経済外交、日米同盟、日本の戦後 関連‥科目終了試験学修のポイント６
15	これからの日本外交を考える②北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』第 11 章 手がかり…「20 世紀はどんな時代だったのか。戦争の時代、アメリカが覇権を握った時代…」「日本外交の特色を挙げなさい。経済外交、平和主義、日米同盟、国連中心主義…」 関連‥科目終了試験学修のポイント６

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 日本の国際協力（国際貢献）のあり方について述べよ。
＜ポイント＞
冷戦崩壊後、国際情勢の舞台に浮上した様々な地球的規模の問題群を考え、それらに対して日本が国際社会でどのように役割を担うべきか自分なりに考察すること。

科目終了試験学修のポイント

１．国際連合を舞台にした政治について、日本の取り組みについて具体的事例を提示し、説明せよ。
＜ポイント＞
北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』第２章では、2005 年の国連総会を事例として、３つの課題について取り組んだことを説明している。(p.58)それぞれどのような課題で、どのような総会決議として形になったのだろうか。網羅的に全てを取り上げる必要はないが、日本の要求に対して国際連合はどう結論を出したのか説明するとともに、この結果についてどのような意見をもったか説明してもよい。

２．戦後の日本外交について説明せよ。
＜ポイント＞
全方位外交と評されることもあるがどのような意味なのか。基本方針は何か整理しておくこと。北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』p.63 および原康『(岩波ジュニア新書)　国際関係がわかる本』p.191.以降を中心にまとめること。

３．今日の世界における紛争について国連および日本の果たす役割について事例を挙げて説明せよ。
＜ポイント＞
例えば、国連におけるテロに対する対応、アフガニスタンにおけるタリバン掃討と国家の復興に果たした国連の役割などを参考事例に DDR を通した復興プロセスに日本がどのように関わったかについて説明するなどの論点が考えられる。北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』p.113.からの記述は典型的な具体例である。

４．国連安全保障理事会の課題と日本の役割について具体例を挙げて説明せよ。
＜ポイント＞
例えば、日本が主張している国連安保理の改革にはどのような意義があるのか、これまでの日本の非常任理事国としての役割や、日本の常任理事国入りへの働きかけを事例に説明するなどの論点が考えられる。北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』p.184 からの記述は典型的な具体例である。

５．日本と周辺国家との関係について、中国を事例にどのような関係作りが行われてきたか、具体的事例を挙げて説明せよ。
＜ポイント＞
例えば、国連安保理改革において中国は日本に対する批判をしたり、反対したりすることがあるが、なぜこのようなことが起こるのか。北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』p.207.からの記述は日本側から見た中国への対応の典型的な具体例である。また、この問については参考文献原康『(岩波ジュニア新書)　国際関係がわかる本』p.88 も参考にして、中国側が日本に発した意図について別の角度からの意見も見ておく必要がある。

６．核兵器問題における日本の役割について具体例を挙げて説明せよ。
＜ポイント＞
例えば、2006 年核実験を行った北朝鮮に対して、日本の対応はどのようであったか。北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』p.272 からの記述は、国連安保理における制裁決議採択に向けた取り組みについて述べており、国際法秩序に訴える形での問題解決を図ろうとする具体例といえよう。

教科書

北岡伸一『国連の政治力学―日本はどこにいるのか』中央公論新社・中公新書。

参考文献

原康『(岩波ジュニア新書)　国際関係がわかる本』岩波書店。
石井貫太郎『国際関係論へのアプローチ』ミネルヴァ書房。
高橋和夫、他『国際関係論（放送大学教材)』日本放送出版協会。
濱下武志『東アジア世界の地域ネットワーク』山川出版社。
原彬久『国際関係講義』有斐閣。
日比野正明『国際社会の動向と日本』玉川大学出版部。

科目コード	国際福祉研究（２単位）	登録年次	履修方法
2532		１年	R
教員名	小笠原眞紀、志村なぎさ、千葉由美、辻本理絵子、永澤護		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

21 世紀の日本における超高齢社会を考える上で、福祉の問題は、世代を越えて社会全体で取り組まなければならない緊急の課題である。

この科目は、世界各国の高齢化の現状、制度を学び、日本の社会保障について考察することを目的としている。

制度を議論するとき、人は感情論に陥りやすくなる。人は多かれ少なかれ「自分ならこう思う」という考えを持っているからである。皆さんにはここで学修を深め、感情論としての制度議論ではなく、客観性を持った制度議論ができるようしっかり知識を身につけていただきたい。

学修内容

1	高齢者介護保障システムの基本的視点　： 高齢者に対する介護保障の必要性を理解する。介護保障は高齢者の問題と考えられることがあるが、高齢者の介護を家族間でカバーできない以上、介護問題は全世代がかかえる共通の目的である。そこで、高齢者の介護保障システムの必要性とこれからの課題について学ぶ。
2	イギリスの介護保障（1） イギリスの高齢化の現状を踏まえ、高齢者介護政策の歴史を学ぶ。イギリスは長年、地方サービスとして介護サービスを提供してきた。近年は地域福祉にも力を入れており、医療保障（NHS）との関係をふまえ、学修を進めること。
3	イギリスの介護保障（2） イギリスの介護保障システムの課題を踏まえ、日本が参考にすべき所を考える。近年、効率よくサービスを提供するためにケアマネジメント方式を導入している。日本の介護保険と比較すると勉強になる
4	フランスの介護保障（1） フランスの高齢化の現状を踏まえ、高齢者介護政策の歴史を学ぶ。フランス人は個人主義と言われるが、ボランティアに熱心に参加し、共同体を大切にする。そのような国民がどのような介護保障システムを構築したか学ぶ。
5	ドイツの介護保障（1） ドイツは第１次世界大戦前より日本と関係が深く、多くの日本人がドイツに留学した歴史がある。国民性も似ていると言われることもあり、日本の介護保険もドイツの介護保険が手本になっている。ドイツの介護保障の歴史や方向性をしっかり学ぶことが必要である。
6	スウェーデンの介護保障（1） スウェーデンは福祉国家の代表として、日本でも多くの文献などで紹介されている。社会保障の歴史はイギリスに劣るが、第２次世界大戦後、積極的に福祉サービスを導入し高福祉システムを作り上げた歴史を学ぶ
7	スウェーデンの介護保障（2） スウェーデンは高福祉高負担で社会保障を運営してきたが、近年の低成長経済下で改正を余儀なくされている部分もある。スウェーデンが高齢化と介護コストの上昇とどう折り合いをつけ、制度を運営しているかを学ぶ。
8	アメリカの介護保障（1） 世界で初めて「社会保障法」を成立させたアメリカは、国民の自助努力やボランティア精神を重視し、国家が介護保障を積極的に提供することを避けている。そのような中で、アメリカがどのような介護保障の歴史を歩んだのか学ぶ。
9	アメリカの介護保障（2） 高齢化が進むアメリカの介護保障制度の現状を学ぶ。国家の基本理念は自助努力重視のままだが、どのように介護システムを構築し、高齢者を支えていくのか、今後の方向性はどうなるのか学ぶ。
10	中国の介護保障（1） 中国は長い間実施されていた「一人っ子政策」のため、高齢化が急激に進んでいる国である。都市部と農村部の地域格差が激しいなか、どのように高齢者介護を構築し、運営していくのかを学ぶ。
11	韓国の介護保障（1） 韓国は、ドイツや日本の社会保障をたたき台として構築した。これからの高齢化社会を見据えた導入だが、どのような歴史をもち、どのような議論の末、どのような課題を内包しているか学ぶ。
12	台湾・シンガポールの介護保障（1） 台湾では高齢化が急スピードで進んでおり、家族介護に頼る部分が高い。近年の経済成長や晩婚化によって少子化も進むなか、どのように介護保障を展開しているのか学ぶ。また、シンガポールはアメリカ同様、自助努力を国民に求めている国であり、私的な老人ホームやボランティア団体による在宅サービスに重きを置いている。そのような中、どのような制度設計をおこなっているかを学ぶ。

13	日本の社会福祉（1） 日本の高齢化の現状を踏まえ、なぜ近年、わが国で介護保障が必要となり、介護保険という形で導入されたのか考察する。日本の介護制度は、経済変動にあわせて変化した歴史を持つのでその点にも注目して欲しい。
14	日本の社会福祉（2） 現在のわが国の介護保険制度を理解し、超高齢社会での制度の重要性を認識する。また、高齢者の介護保障が高齢者のみならず、その子ども世代の生活にどのような影響を与えるのか考察する。
15	日本・ドイツ・韓国の介護保険制度の比較考察 ３カ国の介護保険制度が成立した背景を学び、共通点と特異点を確認する。また、政策過程にどのような違いがあるか学び、それが介護保険制度の内容にどのように影響したか学ぶ。最後に、３カ国の介護保険制度の内容を比較し、考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 日本の介護保険制度とその今後の課題について述べよ。

＜ポイント＞

日本が介護保険を導入するに至った歴史を踏まえ、日本の介護保険制度の概要と課題、今後の方向性について述べる。

科目終了試験学修のポイント

１．イギリスの介護保障システムの概要について

＜ポイント＞

イギリスの介護保障システムの特徴を明確にし、考察すること。

２．フランスの介護保障システムの概要について

＜ポイント＞

フランスの介護保障システムの特徴を明確にし、考察すること。

３．スウェーデンの介護保障システムの概要について

＜ポイント＞

スウェーデンの介護保障システムの特徴を明確にし、考察すること。

４．アメリカの介護保障システムの概要について

＜ポイント＞

アメリカの介護保障システムの特徴を明確にし、考察すること。

５．中国の介護保障システムの概要について

＜ポイント＞

中国の介護保障システムの特徴を明確にし、考察すること。

６．台湾・シンガポールの介護保障について

＜ポイント＞

台湾やシンガポールの介護保障システムの特徴を明確にし、考察すること。

教科書

川村匡由 編著 『国際社会福祉論』ミネルヴァ書房。

参考文献

岡本民夫、他『社会福祉入門』放送大学教育振興会。
鈴木依子『社会福祉のあゆみ－日本編－』一橋出版。
山田美津子『社会福祉のあゆみ－欧米編－』一橋出版。

科目コード	国際福祉論（２単位）	登録年次	履修方法
2650		３年	R
教員名	緒方玲子、小笠原眞紀、千葉由美、辻本理絵子、尹文九		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

先進国及び発展途上国の社会保障・社会福祉の発展と現状の理解を深め、広い視野を養う。また、欧米やアジア諸国の社会保障・社会福祉を概観し、その制度・政策について日本と比較する。

学修内容

1	資本主義の発展と社会保障の出発 今日の社会福祉の形成は、近代社会の産業化による高度な生産力の発展を前提としている。特に産業資本主義の発展は、労働者に人格的な自由を与えた代わりに、自分の労働力を売り、その代価として賃金を得なければならないという状況をもたらした。そのため労働能力を失った者（高齢者、傷病者、障害者）への「救貧政策」が必要となり、社会保障が登場したのである。
2	社会保障の歴史（１）戦前 独占資本主義の社会のもとでは労働者の相互扶助の流れが生まれ、それが保険料を主要財源とする「社会保険」になった。また、社会保険では救えない貧困者は、国、地方公共団体の税収、つまり公的負担による救済が求められ、社会福祉における「社会保障」の考えが発展してきた。
3	社会保障の歴史（２）戦後 ここでは社会保険の普及と限界に注目する。第１次世界大戦後の社会保険制度は失業保険の新設、拡大が特徴となるが、世界恐慌のなか大量の失業と貧困が発生し、失業保険だけでは対応できなくなり、社会保障への発展が求められた。特にイギリスでは、失業保険から失業保障へと対策を移行させたが、財政増大という課題を抱えることとなった。
4	欧米の社会保障（１）イギリス イギリスの社会保険は失業の大量的、長期的発生と労働運動の高まりとともに、社会保険から社会保障へと移行していった。年金も大きな変化のなか年金改革がすすめられた。医療は国民健康保険法のもとで行われ、傷病手当などの現金給付は社会保険、医療給付は公費による国民保健サービス（ＮＨＳ）としている点に特徴がある。戦後はベヴァリッジ報告に基づいた社会保障が、世界の資本主義国の典型となった。
5	欧米の社会保障（２）アメリカ アメリカの社会保障は「社会保障法」に基づいて行われているが、具体的な制度は州が責任を持って行っている。移民の国アメリカは多民族・多人種国家であることから、個人主義の原理である個人の自由な自己責任（自助）の尊重や州権尊重といった特徴がある。こうした社会背景から、医療保険に関しては先進国のなかで唯一皆保険とはなっていないが、メデイケイド（州営医療扶助）とメデイケア（医療保障制度）がある。近年ではオバマ政権のもと、「オバマケア」という医療制度への挑戦が進められているが苦戦している。
6	欧米の社会保障（３）ドイツ ドイツの社会保障は１９世紀末の世界最初の社会保険に起源を持っており、約７割が事業主、残りを被保険者が負担する拠出に依るところに特徴がある。医療保険は８種類の疾病保険からなっており、それぞれ自主性を持って運営されている。１９９４年には世界に先駆けて「介護保険法」を制定させており、わが国の介護保険制度に大きな影響を与えた。
7	欧米の社会保障（４）フランス フランスの社会保障は疾病保険、老齢保険、家族給付の３部門から構成されている。老齢保険の年金制度は、公的年金と補足年金に大別され、所得比例制を取っている。家族給付もフランスの大きな特徴であり、１６歳までの子女を養育するすべての国内居住者が受給資格者とされている。医療保険の中の出産給付（現金給付）は手厚く、子育てにやさしい政策が多い。
8	欧米の社会保障（５）イタリア イタリアでは伝統的にドイツの社会保険制度の影響を受けて社会保障が形成されてきた。ただ、医療保障はイギリス型の国民保健サービス制度によって運営されている。このようなイタリアでは多様な対立する制度が混在しており、政権体制の不安定さもあって、多様性、無原則性、無秩序性がイタリアの社会保障の基本的特徴であるとされている。
9	アジアの社会保障（１）日本 日本の社会保障は狭義のものとして社会保険、公的扶助、公衆衛生及び医療、社会福祉に分けられる。わが国の社会保障制度の大きな特徴は年金と医療が「皆年金・皆保険」となっていることであるが、近年の高齢化・少子化により、財源の確保が大きな課題となっている。ドイツを参考として２０００年から施行されているわが国の「介護保険」は高齢化社会の中で介護の社会化を目指すものとして各国から注目されている。
10	アジアの社会保障（２）韓国 韓国の社会保障は医療保障、所得保障、公的福祉サービスに分けることができる。医療保障は医療保険と医療保護とで行われる。年金は国民年金、公務員年金、軍人年金、私学年金の４制度である。公的扶助は生活保護、医療保護、国家報勲、災害救護の４事業に区分される。韓国ではわが国を参考にして、２００８年から世界で３番目の介護保険制度である「老人長期療養制度」を導入している。
11	生存権と社会保障思想の発達 資本主義の発達とともに貧困、失業、健康破壊などは個人の責任ではなく、社会あるいは資本主義制度によって生み出されるということが社会的に確認され始めた。この生存権を実現する手段の一つとして、社会保障の権利と制度が２０世紀に入って具体化され、発達してきたのである。

12	「世界人権宣言」と基本的人権 第二次世界大戦の終結とともに発足した国際連合は、平和と人権保障を第一義的なものとして希求し、１９４８年１２月に「世界人権宣言」を採択した。これにより、基本的人権の尊重確保が世界平和の維持と不可分の関係にあると認識され、社会保障を受ける権利が基本的人権の一つとして規定されたのである。
13	「国際人権規約」 「世界人権宣言」は法的拘束力を持たなかったが、１９６６年の「国際人権規約」は法的拘束力を持つ条約の形にしたものである。１９６０年代以降は国連ＩＬＯ（国際労働機関）によって多くの宣言や計画が採択され、８１年には「国際障害者年」が、８９年には「子どもの権利条約」が採択された。
14	主要国の社会保障制度比較 特徴的な政策を中心にしながら各国の社会保障制度を比較する。年金給付はイギリス，スウエーデンなどの所得比例、イタリア、フランスなどの定額給付、ドイツ、イタリア、アメリカなどの年金スライド制などがある。財源等への対策としては受給年齢の引き下げ、老齢年金、医療保険など保険料負担の引き上げ、国庫負担の導入などで、社会保障費用の増大に対応している。高齢化・少子化はいずれの国においても大きな課題となっている。
15	「新自由主義」にもとづく社会保障政策 「新自由主義」とは個人の自由や市場原理を再評価し、政府による介入は最低限にすべきという考え方である。１９８０年代において、イギリスのサッチャー、アメリカのレーガン、日本の中曽根の各政権において「新自由主義」の考えに基づいた政策がとられた。それにより、これまでの高福祉・高負担から、低福祉・高負担へという国家独占資本主義の攻撃が各国で強化され、後退政策が強まっていったのである。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 欧米やアジアの主要国の社会保障について国際的に比較し、今後の方向性について論ぜよ。
＜ポイント＞
日本と欧米、アジア諸国の社会保障システムをさまざまな角度から比較・分析し、日本の社会保障の特徴を把握すること。また、今後の日本の社会保障はどうあるべきか、自分の考えを述べること。

科目終了試験学修のポイント

１．スウェーデンの社会保障について
＜ポイント＞
「社会サービス法」から「エーデル改革」への流れ、高福祉・高負担の福祉国家の特徴と方向性を掴む。

２．イギリスの社会保障について
＜ポイント＞
ベヴァリッジ報告、公的扶助、国民保健サービス（ＮＨＳ）、サッチャー政権による社会保障政策をまとめる。

３．アメリカの社会保障について
＜ポイント＞
所得保障としての年金制度、医療保障としてのメディケアとメディケイドなど、独立心を尊ぶ考えを含め考察する。

４．ドイツの社会保障について
＜ポイント＞
職域別年金保険、医療保険の特色を掴み、ドイツの介護保険とわが国との比較を行う。

５．1960 年代以降の国連、ＩＬＯの動向について
＜ポイント＞
国連の「児童権利宣言」から「子どもの権利条約」までの流れ、およびＩＬＯの３つの条約と３つの勧告などをまとめる。

６．1980 年代の「新自由主義」政策について
＜ポイント＞
主要国における資本主義の経済的諸矛盾からきた経済悪化対策としての「新自由主義」政策とは何かを学ぶ。

教科書

川村匡由 編著 『国際社会福祉論』ミネルヴァ書房。

参考文献

足立正樹『新版　各国の社会保障』法律文化社。
厚生労働省編『海外情勢白書』日本労働研究機構。
小島蓉子、他『世界の社会福祉』学苑社。
小林明子『アジアに学ぶ福祉』学苑社。
仲村慶一、他『世界の社会保障年鑑』旬報社。

科目コード	こころとからだのしくみⅠ（２単位）	登録年次	履修方法
4560		２年	R
教員名	柳澤利之、山下喜代美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

介護実践に必要な知識という観点から、日常生活行動（身支度、移動、食事、入浴・清潔保持、排泄、睡眠）のそれぞれに関連する、こころとからだのしくみについて学修する。さらに日常生活行動の意義を再確認し、そのそれぞれの日常生活行動の一連の動作を行うために必要となるこころとからだのしくみを理解する。

学修内容

1	健康の概念： 世界保健機関憲章の前文をもとに、健康の概念について理解する。その上で、日常的に使用されている健康という言葉の意味と比較して理解する。
2	人間の行動を引き起こすこころのしくみ： A.H.Maslowの 人間の欲求に関する理論をもとに、人間の行動を引き起こすこころのしくみについて理解する。また、この理論に対する様々な批判的論証についても把握する。
3	からだのしくみ： 人体部位の名称を理解した上で、バイタルサイン、ボディメカニクスの概念について学び、これらが人間の生活とどのように関連しているのか考察する。
4	国際生活機能分類（ICF）： ICF 概念について理解する。特に各カテゴリの概念と相互作用については、具体的な事例を交えて説明できるよう注意深く学修する。
5	身支度に関連したこころとからだのしくみ： 心身機能と身体構造が身支度に及ぼす影響について考察した上で、機能障害・低下が生じた際の対応について具体的な事例を挙げて理解する。
6	移動に関連したこころとからだのしくみ： 心身機能と身体構造が移動に及ぼす影響について考察した上で、機能障害・低下が生じた際の対応について具体的な事例を挙げて理解する。
7	食事に関連したこころとからだのしくみ： 心身機能と身体構造が食事に及ぼす影響について考察した上で、機能障害・低下が生じた際の対応について具体的な事例を挙げて理解する。
8	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ： 心身機能と身体構造が入浴・清潔保持に及ぼす影響について考察した上で、機能障害・低下が生じた際の対応について具体的な事例を挙げて理解する。
9	排泄に関連したこころとからだのしくみ： 心身機能と身体構造が排泄に及ぼす影響について考察した上で、機能障害・低下が生じた際の対応について具体的な事例を挙げて理解する。
10	睡眠に関連したこころとからだのしくみ： 心身機能と身体構造が睡眠に及ぼす影響について考察した上で、機能障害・低下が生じた際の対応について具体的な事例を挙げて理解する。
11	死に行く人に関連したこころとからだのしくみ： 死に行く人の心身機能について理解した上で、出来得る対応について具体的に理解する。死に行く人の「痛み」に着目し、様々な痛みに対して出来得ることを考察すること。
12	心身の異常を発見するための兆候： 心身の異常を早期発見するためには、どのような兆候に着目する必要があるのか、具体的な事例を挙げて理解する。異常を発見する際の観察のポイントについて学ぶ。
13	医療職との連携の在り方： 医師、保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士等の医療職の法的根拠や役割について理解した上で、心身の異常を発見した際に、医療職といかに連携するべきか、具体的な事例を踏まえて考察する。

14	事例検討①： 自分自身の日常生活行動とこころとからだのしくみの関連について、国際生活機能分類（ICF）の考え方を踏まえて説明できるようにする。
15	事例検討②： 援助を必要とする人の具体的事例を挙げ、その人の日常生活行動とこころとからだのしくみの関連について、国際生活機能分類（ICF）の考え方を踏まえて説明できるようにする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

日常生活行動（身支度、移動、食事、入浴・清潔保持、排泄、睡眠）のいずれかについて、その意義、一連の動作の手順とそのときに必要なこころとからだの機能についてまとめよ。

＜ポイント＞

日常生活行動に関連する、こころとからだのしくみを理解した上で、普段自分がどのように行っているかを振り返りながら、またその時々で、どのようなこころとからだの機能を使っているのか考えること。

科目終了試験学修のポイント

１．人間の行動を引き起こすこころのしくみについて

＜ポイント＞

人間の欲求、モチベーション、学習、記憶、思考、感情、適応に関する理論を背景に、具体例を挙げて説明できるようにしておくこと。

２．機能の低下・障害が及ぼす身支度への影響について

＜ポイント＞

どのような機能低下・障害が具体的にどのように整容行動に影響を及ぼすのか、説明できるようにしておくこと。

３．活動の低下・障害が及ぼすこころとからだへの影響について

＜ポイント＞

廃用症候群（生活不活発病）の概念について理解した上で、具体的な症状やその構造等について学修しておくこと。

４．機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響について

＜ポイント＞

どのような機能低下・障害が具体的にどのように排泄に影響を及ぼすのか、説明できるようにしておくこと。

５．高齢者の睡眠障害について

＜ポイント＞

高齢者に多く見られる睡眠障害の原因、症状とその対応方法について理解しておくこと。

６．介護実践において、異常の発見のために注意すべき変化について

＜ポイント＞

介護実践において、異常を発見するための観察のポイントとその目的について理解しておくこと。

教科書

介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 11　こころとからだのしくみ』中央法規出版。

参考文献

新社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座１　人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版。

東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。

長谷川和夫、他『こころとからだのしくみ』建帛社。

科目コード	こころとからだのしくみⅡ（２単位）	登録年次	履修方法
4570		２年	R
教員名	岡田稔、柳澤利之		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本講座では介護実践を行う際に必要な「こころ」に関連する基礎的な知識の習得を目指す。内容として「発達と老化の理解」「認知症の理解」「障害の理解」について概略的に理解していく。特に多様化する介護ニーズにおいて認知症の高齢者は増加する。「認知症の理解」については、わが国の高齢社会を迎える中で最も理解を深めておくことが求められている。「発達と老化の理解」「障害の理解」と合わせて理解を深めておくことが介護実践を行う際に求められている知識である。

学修内容

1	介護を必要とする対象者(認知症・障害者等)を理解する。その上で、対象者が介護を必要とするようになった原因について疾患等も含めた理解をする。
2	介護が必要になった対象者について、生活を支援するという観点から、医療的なかかわり、社会とのかかわり等を含めて人間としての尊厳を持つことの必要性を理解する。
3	高齢者においては、現在までの生活を理解し、対象者が有する能力や価値観等の個別性を理解し、その人らしい人生とは何かを把握した上で支援していくことを理解しておく。
4	認知症高齢者について、原因疾患の理解と症状について疾患別の症状について理解をしておく。その中でも中核症状と周辺症状の理解を深めておくことが重要である。
5	障害者おいては、対象者の個別性に視点を置き、障害に対する受容の程度を把握し、対象者が有する能力や価値観等の個別性を理解し、対象者のその人らしい生活・人生とは何かを把握した上で支援していくことを理解しておく。また自立支援を目指す観点より、社会資源についても理解をしておく。
6	認知症高齢者においては、出来ない面を見ていくだけでなく、できることに視点を置き、持っている能力の活用を行う。また現在までの生活を理解し、対象者の価値観や生活歴等の個別性を理解し、その人らしい人生とは何かを把握した上で支援していくことを理解しておく。
7	認知症高齢者に対する介護について、中核症状と周辺症状について内的要因と外的要因についての理解を深め、介護実践で必要な対応について理解を深める。
8	身体障害者の対象者について理解を深め、様々な対象者への支援の視点を理解するとともに介護の必要性についても理解を深めておく。また、医療との連携についても把握しておく。
9	知的障害者の対象者について理解を深め、対象者への支援の視点を理解するとともに介護の必要性についても理解を深めておく。
10	精神障害者の対象者について理解を深め、様々な対象者への支援の視点を理解するとともに介護の必要性についても理解を深めておく。また、医療との連携についても把握しておく。
11	ＩＣＦの概念について理解し、対象者の健康状態、心身機能・身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子に該当することは何か、具体的に当てはめておく。
12	ＩＣＦの概念について理解し、対象者が今後の人生・生活について悪循環の生活にならず、良循環での生活が送れるようにＩＣＦの概念と照らし合わせた視点で理解を深めておく。
13	ＩＣＦの概念に合わせた支援が行えるように、対象者毎に介護実践の展開が行えるように具体的に考えて整理することが必要である。
14	多様なニーズを持つ対象者が増えている中で、介護実践を行う上で、介護の知識・技術のみならず、医療的な知識が必要になっている。医療的な知識を身につけて生活全般を支援していくことを理解しておく必要がある。
15	多様なニーズを持つ対象者が増えている中で、他職種・他機関との連携が求められている。それぞれの役割や機能を把握し、適切な活用と連携が図られるようにしていく必要がある。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

介護が必要な対象者（認知症、障害者）に対して、介護実践を行う上での重要となる精神的支援についてまとめ、自らが実践する上で最も大切であると思うことを、根拠も含め具体的に述べよ。

＜ポイント＞

社会福祉実践を行う上で、基本となっているＩＣＦやノーマライゼーション、人間の尊厳、自立支援等の基本的な考え方を十分理解して、それを具体的に実践していくことを考えること。

科目終了試験学修のポイント

１．介護を必要とする対象者と尊厳について

＜ポイント＞

介護を必要とする対象者（認知症、障害者）について、原因の疾患等も含めた理解をする。その上で対象者の尊厳について、具体的に理解しておく。

２．介護を必要とする対象者の自立支援について

＜ポイント＞

対象者の人生、生活を見ていく上でできない部分だけに着目せず、持っている能力や思いを見ながら、自立支援について理解しておく。

３．認知症高齢者に対する介護実践における重要な視点について

＜ポイント＞

対象者の今まで生きてきたプロセス等のバックグランドを大切にし、対象者が自分らしく生きられるための支援を理解しておく。

４．障害者に対する介護実践における重要な視点について

＜ポイント＞

対象者の人生・生活に対する思いを大切にし、対象者が今後の人生・生活をどのように歩んでいきたいかを引出し、実現していく為の方法を理解する。

５．ＩＣＦの視点に基づく介護の実践について

＜ポイント＞

ＩＣＦの概念を理解するとともに、介護実践を行っていく為のＩＣＦの活用について理解を深めておく。

６．介護実践を行う上で、「こころ」の理解の意義について

＜ポイント＞

対象者の生活・人生において「こころ」の理解は、心理的、精神的等の様々な理論的視点で考えられている。そのことをふまえながら「こころ」の理解をする。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会　編
『新・社会福祉士養成講座２　心理学理論と心理的支援』中央法規。
『新・社会福祉士養成講座 14　障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規。
『新・社会福祉士養成講座 13　高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規。

参考文献

長谷川和夫『介護福祉士養成テキスト　認知症の理解』建帛社。
長谷川和夫、他『介護福祉士養成テキスト　発達と老化の理解』建帛社。
遠藤英俊、他『介護福祉士養成テキスト　障害の理解』建帛社。

科目コード	子育て支援（2単位）	登録年次	履修方法
6730/6732		3年	SR
教員名	岡野雅子、岡林純子、駒井美智子、坂鏡子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

保育士の行う子育て支援の特性として、子どもの保育とともに行う保護者の支援、保護者との相互関係や信頼関係の形成、支援のニーズについての気づきと多面的理解、子どもと保護者が多様な他者とかかわる機会や場を提供することなどを理解する。支援の展開として、子どもと保護者の状況・状態の把握、支援の計画と環境の構成、支援の実践・記録、職員間、関係機関との連携・協働を学ぶ。多様な支援ニーズを抱える子どもと家族への支援の実際（内容・方法・技術）を学ぶ。

1．保育者による子育て支援が求められる社会的状況について理解する。
2．子育て支援の意義と原則について理解する。
3．保護者支援の基本を理解する。
4．子育て支援の実際について学び、内容や方法を理解する。
5．保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援の実際について理解する。

学修内容	
1	オリエンテーション、子育て支援とは 〈ポイント〉子育て支援とは何かについて理解する。（第1章1）
2	子育て支援の意義 〈ポイント〉いまなぜ子育て支援が必要とされているか、その背景について考える。（第1章2.3）
3	子育て支援の基本① 子どもの最善の利益 〈ポイント〉子育て支援は「子どもの最善の利益」を目指して行う取り組みであることを理解する。（第1章4.第2章2）
4	子育て支援の基本② 保育者の専門性の活用 〈ポイント〉保育の場のもつ特性と保育の専門家である保育者の専門性を生かすことを学ぶ。（第2章1）
5	子育て支援の基本③ 保護者の養育力の向上 〈ポイント〉保護者に対する子育て支援とは、保護者の養育力の向上をめざして行う取り組みであることを理解する。（第2章3）
6	子育て支援の基本④ 保護者との信頼関係の形成―共感・受容― 〈ポイント〉保護者との関係構築のためには保護者に共感し、受容する態度が重要であることを学ぶ。（第2章4）
7	子育て支援の基本⑤ 保護者の自己決定の尊重と秘密保持 〈ポイント〉保護者自身が自分で判断し決定することを尊重するとともに、保護者からの相談のなかで知り得た個人情報等の秘密保持は専門家として必須であることを学ぶ。（第2章5.6）
8	子育て支援の基本⑥ 関係機関との連携・協力 〈ポイント〉保護者が抱えている課題に対して保育所・幼稚園・認定こども園等だけでは対応しきれない場合には、適切な関係機関と連携し協力することが必要であることを理解する。（第2章7）
9	子育て支援の実際① 子育て支援における保育環境の活用 〈ポイント〉環境構成は保育の方法であるが、子育て支援においても環境を通して保護者の子育てを支えていくことを考える。（第3章1.2.3）
10	子育て支援の実際② 相互理解や交流を深める 〈ポイント〉保育者との相互理解や保護者同士の交流を深めるための工夫について考える。（第3章4.5.6）
11	子育て支援の実際③ 安心感や親としての自尊心を支える 〈ポイント〉保護者が安心感をもち心理的ゆとりを生み出すことにより自尊心がもてるように支えるための工夫について考える。（第3章7.8.9）
12	保育者の子育て支援における葛藤① 子育て支援の困難性 〈ポイント〉子育て支援の難しさについて、保護者・子ども・保育者の三者関係および保育システムの4つの視点から整理する。（第4章1）
13	保育者の子育て支援における葛藤② 保護者の特性や子どもの発達上の課題と子育て支援 〈ポイント〉保護者のモラルの低下等や、発達上の課題をもつ子どもの保護者との関わりの難しさについて考える。（第4章2.3）

14	保育者の子育て支援における葛藤③ 保育者の援助の構えや保育システムの特性と子育て支援 〈ポイント〉保育者の援助の構えのあり方や保育システムから生じる子育て支援の難しさについて考える。(第4章 4.5.6　第5章)
15	まとめ:「子どもの最善に利益」を保障する 〈ポイント〉全体を振り返り、保育の専門性を生かした子育て支援により「子どもの最善利益」を保障することに向けて考えをまとめる。(第6章)

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　現代の子育て状況についての考察を踏まえて、子育て支援の必要性について述べよ。

＜ポイント＞

いま家族のあり方が変化し、就学前の乳幼児の子育ては各家庭内で、主に母親一人が孤独の中で行っている場合が多い。親戚関係や近隣関係が希薄化しているうえに、親自身のきょうだいも少ないことから、幼い子どもと接する機会をほとんど持たないままに親になっている場合も多い。このような現状についての理解のうえに、不安の中で子育てを必死に行っている親を支援することの必要性と重要性について考えて、まとめる　。

科目終了試験学修のポイント

1．子育て支援と「子どもの最善の利益」の保障の関連について

＜ポイント＞

子育て支援は「子どもの最善の利益」をめざして行う取り組みであることを理解する。

2．子育て支援と保育者の専門性について

＜ポイント＞

子育て支援において保育の専門家である保育者の専門性が生かされることを理解する。

3．保護者との関係構築のための「共感」「受容」について

＜ポイント＞

保護者との信頼関係の形成のために、保護者に共感し、保護者を受容することが重要であることを理解する。

4．保護者の秘密保持について

＜ポイント＞

保護者からの相談の中で知り得た個人情報等の秘密保持は専門家としての倫理であることを学ぶ。

5．関係機関との連携・協力について

＜ポイント＞

子育て支援において関係機関と連携し協力することが必要であることを理解する。

6．子育て支援の難しさについて

＜ポイント＞

保護者の特性、子どもの特性、さらに保育者の援助の構えのあり方などにより、子育て支援が困難な場合があることを考える。

教科書

亀崎美沙子、他『保育の専門性を生かした子育て支援』わかば社。

参考文献

東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。
岡野雅子他著『新保育学 改訂5版』南山堂。

科目コード	子育て支援展開論（２単位）	登録年次	履修方法
7220		３年	R
教員名	稲香代子、小笠原眞紀、杉山憲江		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

「子どもが健やかに生まれ育ち、みんなで子育てを支える社会」を実践していく担い手として、就労と育児の両立支援の推進、相談支援体制の整備・充実と子育て支援情報の提供、子どもが心豊かにたくましく育つための環境づくりなどについて現状と課題を捉え、子育て支援の実践のあり方を学ぶ。

学修内容

1	地域での子育て相談の実際、その現状と課題を事例をもとに理解する。 特に、「児童館での子育て支援の取り組み」「学校現場での子育て支援にかかわる取り組み」「保健センターでの子育て支援の取り組み」について学修する。
2	地域での子育て支援活動の取り組み、その現状と課題を事例をもとに理解する。 特に、「保育所での子育て支援の取り組み」「幼稚園での子育て支援の取り組み」「公民館での子育て支援にかかわる取り組み」について学修する。
3	家庭での子育てとその支援のあり方について学ぶ。 特に、親子のアタッチメント（愛着）関係、養育者の精神的健康と子どもの発達段階・発達課題を理解した上で、いかに妊娠前からの予防・介入を効果的に展開していくかについて考察する。
4	父母子関係のあり方とそれらを支えるソーシャルサポートの重要性について理解する。 妊娠期から始まっている父母子関係を捉えた上で、現代の家族を取り巻く社会環境を理解する。その上で、「ソーシャルサポート」の概念を明らかにし、異職種を含んだチームによる支援の重要性について、事例をもとに学修する。
5	虐待の可能性とその防止への援助について学ぶ。 児童虐待防止法の概要（「通告義務」「早期発見義務」などの重要概念と「児童虐待の定義」）を理解した上で、虐待・不適切な養育を引き起こすリスク要因、児童虐待の早期発見と介入（予防的介入、早期介入、治療的介入）のあり方について考察する。
6	親としての力・親としての成長とは何かを考察し、親に対するアプローチや子育て支援の視点を学修する。 特に、子育てに関する「有能性」に着目し、子育てに関する有能性、親としての有能な行動等について考察する。また、子育ての力を高めるための「親に対するアプローチ」「生態学的な視点によるアプローチ」について理解する。
7	集団保育施設における経験と子どもの育ちの意味について理解する。 乳幼児期の育ちの節目としての集団保育施設への入園が、子どもと保護者にとってどのような意味があるのかを考察し、保育者がどのようにサポートしていくかについて、事例を通じて学ぶ。
8	保育カウンセリングのあり方について学修する。 幼稚園や保育園などの保育現場において行われる「保育カウンセリング」の現状と方法について概要を理解する。また、保育カウンセラーは、「気になる子」をどのように捉え、どのように対応していくのか、また保育や子育てに困ったり悩みを抱えている保育者・保護者をどのように支援していくのかについて理解する。
9	子どもの経験を成長につなげる保育者の役割について考察する。 保育者の子どもに対する具体的な関わりと、その背後にある保育者の専門性について理解する。特に、「幼児理解」という専門性、遊びを育ちにつなげる専門性について学ぶ。
10	幼稚園、保育所などの集団保育施設における子ども同士の関係の発達について理解する。 遊びのなかでの仲間関係への支援を展開するために、保育者はどのように意図して仲間関係を構成するのか、またそこでの仲間関係から子どもたち一人ひとりをどう成長発達へと導けばよいのかについて考察する。
11	幼稚園、保育所などの集団保育施設における子どもの自己抑制と情動調整の育ちについて理解する。 まず、「自己調整」の概念を明確にし、自己抑制と自己表現（自己主張）の発達的変化について学ぶ。その上で、自己抑制、自己主張（自己表現）の力を育てる保育のあり方、保育者の役割、環境設定について考察する。
12	家庭外保育の現状と子どもへの影響について考察する。 家庭外保育の子どもへの影響について、日本と海外の研究成果から考察する。その上で、家庭外保育の現状と課題、特に長時間保育について検討する。また、家庭外保育の質の図るための方策や第三者評価・自己評価の導入について学ぶ。
13	地域における子育て相談の専門機関の概要について理解する。 特に、地域における子育て相談の現状と課題を学ぶ。特に、児童相談所、福祉事務所、保健所・保健センター、子ども家庭支援センターの機能と役割、相談援助の専門性について理解する。

14	地域における子育て支援にかかわる施設・機関・組織について理解する。 特に、地域子育て支援センター・保育所、児童館、教育センター（教育相談室）、子育てサークル・子育て広場などの機能と役割について学ぶ。また、各施設・機関・組織の連携やネットワークについて事例をもとに考察する。
15	現代日本の子育て支援の現状と課題を捉えた上で、今後の進むべき方向性について考察する。 先進的な取り組みをしている自治体の実践事例、先進諸国の子育て支援の実際などから、現代日本の子育て支援の現状と課題を浮き彫りにする。また、現行制度の課題を明確化し、求められる制度や施策、社会資源について考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 地域での子育て相談の実際と子育て支援活動について述べよ。

＜ポイント＞

子どもが地域の中で多くの人に見守られて成長するように、親もまた地域の中でさまざまな社会資源に支えられて子育てをすることが求められている。そうした地域における子育て支援の展開について、子育て相談の実際や子育て支援活動の取り組み事例などを踏まえて論述すること。

科目終了試験学修のポイント

１．家庭での子育てとその支援について

＜ポイント＞

親子の愛着形成と親の精神衛生、養育者の精神的健康と子どもの発達についてまとめた上で、そのサポート（支援）のあり方について述べること。

２．父母子関係とソーシャルサポートについて

＜ポイント＞

父母子関係の重要性とそれらを支えるソーシャルサポート、父母子を支える子育て支援のあり方についてまとめること。

３．虐待の可能性とその防止への援助について

＜ポイント＞

児童虐待の定義と児童虐待や不適切な養育を引き起こすリスク要因、児童虐待の早期発見と介入の方法についてまとめること。

４．親としての力、親としての成長について

＜ポイント＞

子育てに関する有能性と力、親の成長や発達、親に対するアプローチや子育て支援の視点について述べること。

５．集団保育施設における経験と子どもの育ちについて

＜ポイント＞

幼稚園、保育所などの集団保育施設での子どもの経験の意味と、それを支える保育者の役割についてまとめること。

６．保育カウンセリングのあり方について

＜ポイント＞

保育カウンセリングの現状、保育者へのコンサルテーション、保護者への相談活動、保育者の協働について述べる。

教科書

無藤隆、他『子育て支援の心理学』有斐閣。

参考文献

蒲原基道、他『幼稚園、保育所、認定こども園から広げる子育て支援ネットワーク』東洋館出版社。
子育て支援研究会、他『子育て支援』生活ジャーナル。
新澤誠治『私の園は子育てセンター』小学館。

科目コード	子ども家庭支援論（2 単位）	登録年次	履修方法
6750/6752		3年	R
教員名	青木正、西村彩恵		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

子育て家庭に対する支援の意義と役割について理解し、保育士の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について、子どもの育ちの喜びを保護者と共有することや保護者自身の子育て実践力の向上に資する支援の重要性、保育士に求められる倫理観や受容的･共感的関わりのあり方などについて習得する。さらに、社会資源の活用や関係諸機関との連携、子育て家庭のニーズに応じた様々な支援の展開、近年の子育て支援の体制や施策についても理解を深める。

これらの学習を通じて、保育の現場で働く者が「家庭」を理解し、子どもの生活環境や生活状況の多様性を理解しつつ、子どもの最善の利益を尊重した柔軟な支援を行っていける力を養う。

学修内容

1	第1講　子ども家庭支援の意義と必要性（pp.1-12） 〈ポイント〉家庭による子育てを支援する制度や民間活動の概要について学び、それらを提供する意味や効果を理解する。
2	第2講　子ども家庭支援の目的と機能（pp.13-24） 〈ポイント〉児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている子ども家庭支援の目的と機能について学ぶ。さらに、子どもと家庭を理解してかかわることの必要性を学び、保育士等が備えておくべき子ども家庭支援の専門性について理解を深める。
3	第3講　子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進（pp.25-36） 〈ポイント〉子ども家庭福祉の施策体系やその計画的推進、子ども・子育て支援新制度創設に至る経緯と新制度の枠組み、実施体制を理解する。
4	第4講　子育て家庭の福祉を図るための社会資源（pp.37-48） 〈ポイント〉子育て家庭の福祉を図るために、どのような社会資源を活用して支援を行うのかを理解する。
5	第5講　保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義（pp.49-60） 〈ポイント〉まず保育の専門性と相談援助の関連性について学ぶ。次に、保育所保育指針から子育て支援の意義を知り、学びを深める。最後に、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から、求められている専門性を活かした子育て支援のあり方を学ぶ。
6	第6講　子どもの育ちの喜びの共有（pp.61-72） 〈ポイント〉まず、子どもの育ちの喜びを共有することは保護者にとってどのような意味をもつのか、保育所保育指針や幼稚園教育要領の内容を紐解きながら考える。次に、育ちの喜びを共有することに対する保育所の園長の想いから、保護者にとっての意味を改めて考えていく。
7	第7講　保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援（pp.73-84） 〈ポイント〉保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援を行うために、地域の子育て家庭を取り巻く環境を把握したうえで、保育士に求められる視点を整理し、理解を深める。
8	第8講　保育士に求められる基本的態度（pp.85-96） 〈ポイント〉保護者との信頼関係を築き、支援を行うために保育士に求められる基本的態度について学ぶ。
9	第9講　家庭の状況に応じた支援（pp.97-108） 〈ポイント〉まず、保育者が子どもの家庭の状況に応じた支援を行うために、保育者がかかわることが多いと思われる子どもと家族の状況について学ぶ。次に、保育者の価値観や一般的な概念にとらわれず支援を行うために意識すべき点を学ぶ。最後に、継続的に支援を必要とする家族にかかわる際、保育者に求められる役割と見落としやすい家族の状況について理解する。
10	第10講　地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力（pp.109-120） 〈ポイント〉地域の多様な資源の活用と自治体・関連機関との連携・協力に関する基本事項と実際のあり方、さらなる展開について具体的に学ぶ。
11	第11講　子ども家庭支援の内容と対象（pp.121-132） 〈ポイント〉子ども家庭支援の具体的な対象、内容とアプローチの方法、そして支援の形態について理解を深める。
12	第12講　保育所等を利用する子どもの家庭への支援（pp.133-144） 〈ポイント〉保育にたずさわる専門職に求められる子どもの家庭への支援について、昨今その必要性が強調されている保育ソーシャルワークの視点から学ぶ。

13	第13講　地域の子育て家庭への支援（pp.145-156） 〈ポイント〉保育者等は地域の子育て家庭への支援を行う施設として、他の関係機関と連携しながら専門性をもって取り組むことを理解する。
14	第14講　要保護児童およびその家庭に対する支援（pp.157-168） 〈ポイント〉要保護児童の現状を理解し、児童・家庭への支援のあり方について学ぶ。
15	第15講　子育て支援に関する課題と展望（pp.169-180） 〈ポイント〉まず、子育て支援の「顕在的ニーズ」と「潜在的ニーズ」について学ぶ。次に、子育て支援における関連施設・機関との連携について学ぶ。最後に、欧米から導入された子育て支援プログラムに関する知識や技術について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】子ども家庭支援の背景と意義及び支援の内容について述べよ。

〈ポイント〉

子ども家庭支援がなぜ必要になってきたのか、①その社会的背景について説明する。また、②その意義と構造③具体的な支援内容について説明を行う。

科目終了試験学修のポイント

1．子ども・子育て関連3法について

＜ポイント＞　子ども・子育て関連3法についてまとめる。

2．子育て家庭の福祉を図るための社会資源について

＜ポイント＞ まず、社会資源とは何かについて述べる。次に、子育て家庭を支える専門機関にはどのようなものがあり、どのような職員がどのような働きをするのかについてまとめる。

3.保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義について

＜ポイント＞　まず、保育の専門性と相談援助の関連性について、次に保育所保育指針から子育て支援の意義について述べる。

4．子どもの育ちの喜びの共有について

＜ポイント＞　子どもの育ちの喜びを共有することは保護者にとってどのような意味をもつのかについて述べる。

5．子ども家庭支援の対象と内容について

＜ポイント＞子ども家庭支援の対象・アプローチ・内容についてまとめる。

6．要保護児童およびその家庭に対する支援について

＜ポイント＞まず、要保護児童の現状について、次に要保護児童・家庭への支援のあり方について述べる。

教科書

松原康雄、他『子ども家庭支援論　新・基本保育シリーズ⑤』中央法規。

参考文献

伊藤嘉余子・野口啓示『MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉10　家庭支援論』ミネルヴァ書房。
伊藤篤『MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉12　子育て支援』ミネルヴァ書房。

科目コード	子ども家庭支援の心理学（2単位）	登録年次	履修方法
6740		3年	R
教員名	杉浦貴代子、橋本景子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

子ども家庭支援の心理学では、まず、乳幼児期から老年期までの人の生涯発達のプロセスや、各時期の課題について学ぶ。さらに、家族・家庭の意義や機能を学び、親子関係や家族関係等について、子どもとその家族を、発達的な視点や、包括的に捉える視点を習得する。また、現代の子育て家庭に関する社会的状況や、家庭の多様性、特別な配慮を必要とする家庭などについて学び、子どもがうける生育環境からの影響、子どもの心や健康に関わる問題について学ぶ。

① 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。
② 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
③ 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。
④ 子どもの精神保健とその課題について理解する。

学修内容

1	家庭支援へのアプローチ 〈ポイント〉新聞やニュースなどで、子育てや子どもを持つ家族をめぐる諸問題にはどのようなものがあるか、調べてみる。
2	乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴 〈ポイント〉教科書 pp.1-11 を通読し、乳幼児期から学童期にかけて、それぞれの時期の発達の特徴や発達課題を理解する。
3	思春期から青年期の発達の特徴 〈ポイント〉教科書 pp.12-23 を通読し、思春期から青年期にかけて、それぞれの時期の発達の特徴や発達課題を理解する。特に発達の段階に応じた人間関係のありようを把握すること、アイデンティティの概念を理解することは重要である。
4	成人期から高齢期の発達の特徴 〈ポイント〉教科書 pp.25-35 を通読し、成人期から高齢期にかけて、それぞれの時期の発達の特徴や発達課題を理解する。特に社会的・職業的自立（キャリア）の視点からこれらの時期を考えること、またサクセイフルエイジングなどについて考察することが重要である。
5	家族システムと家族発達 〈ポイント〉教科書 pp.37-48 を通読し、理解する。また、家族をシステムとしてとらえるとは、どのようなことか理解し、時と共に変化していく家族のありようを把握する。
6	親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達 〈ポイント〉教科書 pp.49-59 を通読し、理解する。親の養育スタイルがどのような要因に影響されながら形成されていくか、また、子どもの愛着にどのように影響するのか把握する。
7	子育て環境の社会状況的変化 〈ポイント〉教科書 pp.62-70 を通読し、理解する。戦後の子育て家族の変遷について知り、子どもの育ちの場としての家庭・地域社会の在り方を考える。
8	ライフコースとワーク・ライフ・バランス 〈ポイント〉教科書 pp.72-81 を通読し、理解する。子育て期における夫婦のワーク・ライフ・バランスについて把握すると共に、なぜワーク・ライフ・バランスが重要であるのか考える。
9	多様な子育て家庭への支援 〈ポイント〉教科書 pp.83-93 を通読し、理解する。育児不安、共働き家庭、孤立している家庭の事例から、このような家庭への支援の在り方を考察する。
10	特別な配慮を必要とする家庭への支援１ 〈ポイント〉教科書 pp.94-98 を通読し、理解する。特に、より重篤な家庭の事例として、貧困、虐待について取り上げ、このような問題・課題を持つ家庭への支援の在り方を考察する。
11	特別な配慮を必要とする家庭への支援２ 〈ポイント〉教科書 pp.98-102 を通読し、理解する。前章に引き続き重篤な家庭の事例として、保護者の精神疾患や疾病、外国にルーツを持つ家庭について取り上げ、このような問題・課題を持つ家庭への支援の在り方を考察する。
12	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康 〈ポイント〉教科書 pp.103-113 を通読し、理解する。基本的生活習慣の獲得過程、および、乳幼児期の事故防止と安全確保について把握する。

13	子どもの心と健康 〈ポイント〉教科書 pp.114-125 を通読し、理解する。子どもの心の健康の基礎知識を把握し、さらに幼児期・学童期にみられる主な精神障害について事例をもとに理解し、対応を考察する。
14	障害のある子どもの理解と対応 〈ポイント〉教科書 pp.126-135 を通読し、理解する。知的障害、自閉症スペクトラム、注意欠如・多動性障害、学習障害について、基本的な知識を把握し、保育場面での対応を考察する。
15	災害と子ども 〈ポイント〉教科書 pp.136-146 を通読し、理解する。東日本大震災からの調査などから、大きな災害と子どもの精神的健康、保護者をめぐる問題、保育者ができることなどを把握する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書き	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

育児不安、共働き家庭、孤立している家庭、貧困家庭、虐待、保護者の精神障害・疾病、外国にルーツを持つ家庭などの、「特別な配慮を必要とする家庭」の状況を1つ選び、保育園でそういった家庭を支援していく場合の具体的な方法について述べよ。

＜ポイント＞

「特別な配慮を必要とする家庭」がうまれる個人や社会の要因や、考えられる子どもへの影響、および、保育園でこういった家庭を支援していく場合の具体的な方法について、論じていく。

科目終了試験学修のポイント

1．生涯発達に関する心理学の基礎的な知識について

＜ポイント＞

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題についてまとめる。

2．家族・家庭の意義や機能の理解について

＜ポイント＞

家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。

3．子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題について

＜ポイント＞

子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題をまとめ、支援の方法を考える。

4．子どもの精神保健について

＜ポイント＞

子どもの心の健康の基礎知識、、および幼児期・児童期に陥りやすい精神疾患についてまとめる。

教科書

本郷一夫 、神谷哲司『シードブック　子ども家庭支援の心理学』建帛社。

参考文献

石川洋子『子育て支援カウンセリング―幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート』図書文化社 。
岡本祐子、深瀬裕子『シリーズ生涯発達心理学①　エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房。
滝川一廣『子どものための精神医学』医学書院。
井村圭壮、今井慶宗『保育実践と家庭支援論』勁草書房。
白幡久美子『改訂 保育士をめざす人の家庭支援 (保育士をめざす人の福祉シリーズ)』みらい。
松本園子、永田陽子、福川須美、堀口美智子『実践 家庭支援論　第3版』ななみ書房。

科目コード	子どもの健康と安全　(2 単位)	登録年次	履修方法
6770		2年	SR
教員名	佐野葉子、手塚和美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

保育環境を踏まえ子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理の具体的な方法を学ぶ。衛生管理、事故の予防及び安全対策、危機管理、防災への備えについて理解する。子どもが体調不良になった場合の対処方法、救急処置と救急蘇生法などを身に付ける。また保育における保健的対応の基本的考え方や3歳未満児への対応、慢性疾患やアレルギー性疾患など個別的な配慮を必要な子どもへの対応を学ぶ。保護者や地域との連携を図る方法、保育における保健活動の計画と評価についても学ぶ。

1．子どもの発育の観察と評価方法について理解し、実施することができるようになる。
2．子どもの健康状態の観察の方法と支援について理解し、実施することができるようになる。
3．子どもの日常生活の養護の方法について理解し、実施することができるようになる。
4．子どもの一般的な症状に対する看護の方法について理解し、説明することができるようになる。
5．子どもの事故の特徴と事故防止の方法について理解し、説明することができるようになる。
6．応急手当（一次救命処置を含む）の実際を学び、実施することができるようになる。
7．集団保育における健康管理・健康教育の実際を理解し、説明することができるようになる。
8．子どもの健康と安全を守る保育者としての必要な態度を表現することができるようになる。

学修内容	
1	ガイダンス：子どもの健康と安全を学ぶにあたって 〈ポイント〉健康の概念、母子保健統計、母子保健対策、健やか親子について理解する
2	妊娠、胎児期の発育、染色体異常 〈ポイント〉妊娠の成立、胎児期の発育、胎児に影響を与える要因について理解する
3	子どもの成長と発達①：子どもの身体発育 〈ポイント〉発育の原則、子どもの身体発育について理解する
4	身体発育の評価【演習】身体測定 〈ポイント〉身体測定の方法と評価について理解する
5	子どもの成長と発達②：運動機能、神経機能、精神機能 〈ポイント〉新生児の反射、粗大運動、微細運動、言葉の発達について理解する
6	健康の評価【演習】バイタルサインの測定 〈ポイント〉バイタルサインの測定方法、健康状態の評価について理解する
7	子どもの養護①：母乳栄養、人工栄養、離乳 〈ポイント〉母乳の分泌メカニズム、母乳栄養の利点、離乳について理解する
8	子どもの養護②【演習】調乳、手洗い 〈ポイント〉正しい手洗い方法、消毒方法、無菌的調乳方法について理解する
9	子どもの養護③【演習】沐浴、口腔の衛生、排泄の援助 〈ポイント〉排泄のメカニズム、沐浴の目的、方法、口腔衛生につて理解する
10	子どもの保健の年間計画 〈ポイント〉子どもの健康を守るための保健計画を立てる目的、内容を理解する
11	子どもの環境、事故の予防：環境の整備と安全教育 〈ポイント〉子どもの病気・事故特徴について理解する
12	子どもの安全教育【グループワーク：教材作り】 〈ポイント〉テーマに沿った子どもの安全教育の教材を作成する
13	子どもの安全教育発表、質疑応答 〈ポイント〉グループごとに子どもの安全教育の発表を行う
14	救急時の対応 〈ポイント〉一時救急の方法について理解する
15	病気の子ども、障害のある子どもの対応 〈ポイント〉病気の子ども、障害のある子どもの対応方法について理解する

レポート設題			
設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

子どもの命、健康を守るために保育者として必要なことについて述べよ。

＜ポイント＞

小児期に多い病気や事故とその対処方法、また健康を保持増進するための方法についてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１．感染症の予防と対策について

＜ポイント＞小児期に多い感染症の病態生理（病原体、感染経路、主症状、合併症）とその予防対策について理解する。

２．排泄行動の自立と援助について

＜ポイント＞排泄のメカニズムと子どもの排泄の援助について理解する。

３．小児期の事故の特徴とその対策について

＜ポイント＞小児期に多い事故を年齢別にまとめ、対策についても理解する。

４．母乳の分泌メカニズムと母乳栄養について

＜ポイント＞母乳はどのようなメカニズムで分泌するのか、また母乳栄養の利点、注意することを理解する。

５．小児の一時救急について

＜ポイント＞小児の一時救急の方法と手順を理解する。

６．障害のある子どもへの対応について

＜ポイント＞障害の種類とその特徴を理解し、保育者としてどのように関わるのか理解する。

教科書

中根淳子・佐藤直子編著　『子どもの健康と安全』　ななみ書房。

参考文献

今井七重編『演習　子どもの保健Ⅱ』（株）みらい。
東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。

科目コード	子どもの健全育成（２単位）	登録年次	履修方法
7230		３年	R
教員名	有働文雄、杉山憲江、新川泰弘		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

子どもの健全育成の内容とねらいについて理解する。本科目では、子ども理解の方法をはじめとして、豊かな自己実現の支援と、自己実現の喜び（生きがい）を感じさせる保育のあり方や活動などについて事例を通して学修する。さらに、家庭・地域との連携のあり方、健全育成に関しての動向などについても学び、実践的な理解力を深める。

学修内容

1	幼児教育と人間関係（子どもを取り巻く現状と課題） かつては、単一の価値観・指導観をもって、画一的・横並び方式で、子どもを養育・教育していくことが最善と思われてきたし、またそれが可能な時代であった。しかし、現代社会においては価値観が多様化し、子どもを取り巻く環境や家族形態のあり様が複雑化している。そうした状況のなか、画一的・横並び方式の人間関係からの教育は、転換が迫られている。それでは一体、どのような方向性が模索されるべきかについて考察する。
2	幼児教育と人間関係（幼児期の特性と幼児教育、これからの幼児教育―人間関係に着目した保育の展開―） 幼児期は、人間形成の基礎を培う上で極めて重要な時期である。したがって、幼児期の特性を十分に理解した上で、保育指針や教育要領の主旨に対するよりよい理解と啓発が求められている。その上で、教師と幼児の人間関係作りをいかに進めていくべきか、また幼児同士の人間関係をどう育んでいくのかについて考察する。
3	乳児期の心の発達（人への信頼感の形成） 心は突然生まれてくるものではなく、胎児期から養育者との深い関わりの中で培われ、育てられていく。この時期に、子ども自身が、「守られている」「愛されている」「安心できる」という思いをもつことによって、基本的信頼感を培うことができる。そのために、養育者との親密な愛情の絆（アタッチメント）の形成がいかに重要であるかを学ぶ。
4	乳児期の心の発達（自我の芽生え） 子どもは、自分と他者という存在に気づき自分自身を認知できるようになると、自分の欲求や思いを強く意識するようになる。いわゆる自我の芽生えである。つまり、生まれてから形成されてきた自我意識によって、子どもの自立欲求が強まり、自分の判断基準で関わり、強く自己表現しようとする。こうした自己意識の高まりに対して、子どもの意思を尊重した大人の関わり方とは、一体どうあるべきなのかについて考察する。
5	幼児期の人間関係の発達と学習（園生活と人間関係　　テキスト pp.64-85） 保育者と子どもの信頼関係、子どもの自己主張と衝突、生活自立と身辺自立（食事、排泄、着脱など）、ものを仲立ちとする遊び、感情体験（けんか）、コミュニケーション、共感と友達の受け入れ、友達と一緒にやり遂げようとする気持ち等、 幼児期の園生活における人間関係の発達と学習について、事例を基に学ぶ。
6	幼児期の人間関係の発達と学習（園生活と人間関係　　テキスト pp.85-105） 良いことや悪いことがあることに気づき考えながら行動すること、思いやりの気持ち、ルールの獲得、道徳性の基礎を培うこと、など幼児期の園生活における人間関係の発達と学習について、一つ一つの具体的な事例をもとにイメージし、保育者がそこにどのように関わっていくべきなのかについて、実践的に考察する。
7	幼児期の人間関係の発達と学習（地域や高齢者とのかかわり） かつての家族は、様々な世代が同居して構成され、幼児期の子どもは自然と祖父母と交流が図られた。また、地域においても、子どもを暖かく（時に厳しく）見守り、教育する土壌があった。しかし、そうした形態は高度経済成長期あたりから崩壊していったといってよい。そうした子どもを取り巻く環境が大きく変化した現代社会において、子どもと地域との関わり、及び子どもと高齢者との関わりについて考える。
8	保育者の役割と援助（未満児保育における保育者の姿勢） 母親の就労などを主な理由に、未満児保育の希望は年々増加してきている。入所した乳児は、一日の生活の大半を保育所で過ごすことになり、本来は親の役割である養育を、保育者が担うケースが多くなってきた。乳幼児期の大人の関わり方が、その子のその後の人間形成に大きく影響するといわれ、保育者の責任と課題が高まっている。そうした状況のなか、保育者に求められる資質や姿勢について学習する。
9	保育者の役割と援助（保育者の役割） 保育とは、子ども達一人ひとりの今が充実し、それぞれが幸せに生きていくために「生きる力」の基礎を獲得していく営みである。ここでは、生きる力を涵養する保育のあり方、指導課程（カリキュラム）にかかわる保育者の役割、具体的な保育場面における保育者の役割、チーム保育体制の確立などについて、実践的に学ぶ。
10	保育者の役割と援助（保育者に求められるもの） 保育所や幼稚園は、子ども達が家庭から離れ、初めて継続的に他者と交わる「社会」である。そのことを踏まえた上で、育てる心、共に育ち合う心、専門家の自覚、チームアプローチのシステム構築、専門職としての実践的思考、カリキュラム作り、人間関係を育てる実践の原理などについて、具体的な事例を基にイメージしながら検討していく。
11	保育上の留意事項（虐待、個と集団のあり方） 社会状況の変化に伴い、例えば核家族の中での虐待問題などが社会問題化している。そうした事柄に対しても、保育者の果たすべき役割は大きい。児童虐待の早期発見と早期対応、虐待発見の留意点や着眼点、観察点などについて学ぶ。また、「個」のみならず、「集団」の捉え方と管理等についても学習する。
12	保育上の留意事項（自由と一斉、行事の意味と指導） 自由形態とは、必ずしも子どもの自由に全てを任せ、放任的であったり、保育者の指導がないというものではない。また、一斉形態は、決して画一的教育のことではない。個々の子どもにとって、最も相応しい保育とはどのような形態なのかについて、また真に自由な保育とは何かについて、深く考察していく。

13	保育上の留意事項 （障害児へのかかわりとその受け入れで育てていくもの、子どもの育ちを保障するための保護者へのかかわり、子育て支援のあり方と保育者に求められるもの） 障害児保育の対象人数は、年々増加している。そうしたニーズに保育者は応えていかなければならないが、専門職としていかに関わっていくべきか、そして連携やネットワークの必要性について学ぶ。また、子どもの育ちを促進する保護者との連携や信頼関係の構築のあり方、子育て支援のあり方と保育者の資質について考えていく。
14	保育場面で気になる子どもへのかかわり（子どもの心と行動を解明する） ここでは、保育中に観察された子どもの気になる行動の事例から、人と関わる力を育てる保育者の関わりや支援のあり方について考察する。とくに、保育場面で気になる子として、親からの虐待を受けている可能性がある子、発達障害などの障害を抱えている可能性のある子などの事例について検討する。
15	保育場面で気になる子どもへのかかわり（問題児意識から発達課題へ） そもそも「問題児」とは何だろう。誰にとって何が問題なのかを十分に吟味されないまま「問題児」という言葉が一人歩きしてきた観がある。問題を呈する子とは、すなわち発達上の課題を抱える子のことである。ここでは児童観が問われているのである。問題児とは発達課題を抱える子どもだと捉えたとき、その子どもへの眼差しが変わる。そして、いかに発達課題を克服していくかという肯定的で建設的な視点に立った支援が可能になる。いくつかの事例を通じて、保育者の意識の転換の必要性と関わり方について考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 幼児の健全な育ちを培うために保育者に求められるものについて述べよ。

＜ポイント＞

幼児に真の人間性を身につけさせることのできる指導力、幼児への限りない愛情に裏打ちされた幼児理解力、そして保育への情熱から自ら切磋琢磨を求める保育者の姿等を具体的に述べること。

科目終了試験学修のポイント

１．自主性について
＜ポイント＞
どのようにして子どもたちに自主性を身につけてもらうのかについて学修すること。

２．自信を育てる条件について
＜ポイント＞
子どもたちがどのような経験をすると自信を持てるようになるのかについて学修すること。

３．思いやりの気持ちについて
＜ポイント＞
思いやりとは何か、思いやりはどう育つのかについて学修すること。

４．地域や高齢者とのかかわりについて
＜ポイント＞
子どもを取り巻く状況の変化を理解し、地域との関わりについて具体例を考えながら学修すること。

５．心を育てる場としての幼稚園の役割について
＜ポイント＞
テキストから幼稚園教育について述べられているところを読み解くこと。

６．問題児意識と発達課題について
＜ポイント＞
子どもの捉え方について学修すること。

教科書

坂下喜佐久、他『生きる力を培う人間関係』みらい。

参考文献

明石要一『中教審「心の教育」答申読本』教育開発研究所。

齋藤善郎、他『事例で学ぶ心の保育』建帛社。

杉原一昭『心を育てる幼児教育』教育出版。

文部科学省『幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集』ひかりのくに。

科目コード	子どもの権利擁護（２単位）	登録年次	履修方法
7210		３年	R
教員名	上木文夫、小笠原眞紀、鳥越由紀子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

子どもは人権の主体である。わが国においても、子どもの最善の利益の確保、差別の禁止、子どもの意見の尊重などの国際的な原則のもとで、その権利を現実に保障されるようになることが大切である。この講座では、これらの子どもの権利がどのように擁護されているのか、法令などの内容や社会、学校、家庭などの実態に即しながら考察を深める。

学修内容

1	子どもの福祉と子どもの権利について整理する。 （憲法で保障されている基本的人権との関係など、子どもの人権について自分なりの見解を整理する。）
2	「子どもの権利に関する条約」（以下「権利条約」）制定の背景を整理する。 （第２次世界大戦との関係を重視する。）
3	「権利条約」の内容について整理する。
4	日本の子どもの実情からみた「権利条約」の意義について整理する。 「権利条約」の国内法的効力について整理する。
5	学校生活における子どもの人権課題について整理する。
6	学校生活をめぐる子どもの人権擁護について整理する。
7	家庭生活における子どもの人権課題について整理する。
8	家庭生活をめぐる子どもの人権擁護について整理する。
9	社会生活における子どもの人権課題について整理する。
10	社会生活をめぐる子どもの人権擁護について整理する。
11	子どもに対する人権侵害から救済する手立てについて整理する。 （学校、家庭、社会に共通すること、特別な配慮を要することなど具体的にまとめる。）
12	学校生活と子どもの人権問題について事例から学ぶ（教科書の事例及びニュース等を通しての事例など視野を広く持つ）。
13	家庭生活と子どもの人権問題について事例から学ぶ（教科書の事例及びニュース等を通しての事例など視野を広く持つ）。
14	社会生活と子どもの人権問題について事例から学ぶ（教科書の事例及びニュース等を通しての事例など視野を広く持つ）。
15	人権が尊重される豊かな共生生活を築く為には、子どもが自ら人権を行使しできる力を身につけること、権利と義務を自覚することの大切さをまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】子どもの権利（人権）が侵害されたとき、あるいは侵害されそうなとき、子どもを救済する手だてについて述べよ。

＜ポイント＞
子どもの権利擁護には、大人と違った子ども特有の課題がある。そのことを踏まえて、具体的事例を想定して考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．大人の人権と子どもの人権について
＜ポイント＞
基本的人権は誰もが保有するが、成長途上にある子どもには人権を保守する為の支援が必要になる。子どもの人権について、保護者からの養護、育成の考えを大切にして考察する。

2．「子どもの権利条約」成立のあゆみについて
＜ポイント＞
「子どもの権利宣言」「ジュネーブ宣言」の内容との関連、第２次世界大戦後に制定された「子どもの権利に関する条約」の世界的背景などに視野を広げて考察する。

3．法令や条約にみられる子どもの人権擁護について
＜ポイント＞
学校、家庭、地域のいずれかに焦点化して、具体的に考察する。（例、権利条約、学校教育法、民法児童虐待防止等に関する法律など）

4．学校生活と子どもの人権擁護について
＜ポイント＞
学校は人権保障の一環として存在しているという観点に立って考察する。

5．家庭生活と子どもの人権擁護について
＜ポイント＞
「親権」と「子どもの最善の利益」、親の権利と義務の関係などについて、子ども主体の観点から考察する。

6．社会生活と子どもの人権擁護について
＜ポイント＞
子どもであっても社会の一員としての責任はあるが、その行為能力は未熟であり擁護が必要となる。発達段階等を考慮して具体的に考察する。

教科書

児玉勇二『子どもの権利と人権保障』明石書店。

参考文献

山田由紀子『子どもの人権をまもる知識とQ＆A』法学書院。
中野光、他『子どもの権利条約』岩波書店。
森田ゆり『新・子どもの虐待』岩波書店。

科目コード	子どもの食と栄養（２単位）	登録年次	履修方法
6530		３年	ＳＲ
教員名	浅井恭子、石本強、佐野葉子、菅沼太陽、手塚和美、橋本由利子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

小児期の栄養と食生活との関係を学び、一生涯の食生活の意義を理解する。また、保育者として、保育の食生活、「こころ」の健康について理解を深め、食生活の望ましいあり方と生活全般の関連性について広い視野に立って考察する力を養う。小児の特徴は、成人と違って常に発育・発達していることである。子どもは新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期と変化しながら成人になるが、この発育・発達の各段階によって栄養要求量や摂取方法が異なってくる。ことに、新生児期、乳児期は著しく発育・発達をとげるので、この時期に最も優れた栄養としての「母乳」を与えることによって、「こころ」と「からだ」のバランスのとれた子どもになってゆくのである。

学修内容

1	五大栄養素に栄養素を分類できる。 栄養素を五大栄養素に分類するため、五大栄養素の構造的な違いを説明する。
2	五大栄養素の体内でのそれぞれの役割を説明できる。 それぞれの栄養素（五大栄養素）について役割を構造と関連させながら説明する。
3	ビタミンの多く含まれる食品を列挙できる。 ビタミンの体内での役割、ビタミンの構造を理解し、多く含まれる食品について学ぶ。
4	離乳の定義を説明できる。 離乳とはどのようなことを示すかを理解し、母子、乳児との関連性について学修する。
5	離乳の進行と、初期、前期、中期、後期、完了期に分けて、注意点を説明できる。 離乳の期間を明確にし、それぞれの時期についての注意点を学修する。
6	母乳、調製粉乳について説明できる。 母乳に含まれている成分を列挙し、その成分の乳児への役割を理解する。
7	フォローアップミルク、ペプチドミルクを説明できる。 用途によって異なるミルクが存在することを理解し、それぞれのミルクの役割とともに、そのような時期の乳児へ与えるかを学修する。
8	母乳の栄養的、心理的長所を説明できる。 母乳の長所を栄養学だけでなく、心理学的な部分を学修する。
9	母乳の短所を説明できる。 母乳の短所となる要因を、学修する。
10	偏食の定義を説明できる。 偏食がどのように定義できるか学修し、疾患との違いを比較する。
11	食欲不振の定義について説明できる。 食欲不振の定義について学修し、疾患との違いを比較する。
12	偏食・食欲不振の食事指導法を説明できる。 偏食・食欲不振の食事指導法を学修し、指導内容について確認する。
13	熱量素、構成素、調節素について説明できる。 栄養素の役割による分類と五大栄養素との関連性について学修する。
14	初乳について説明できる。 初乳の特徴を学修する。
15	母乳の免疫について説明できる。 母乳の免疫の特徴と、どのように乳児へ与えられるかを学修する。さらに免疫のメカニズムを確認する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 各栄養素の体内での働きと多く含む食品について述べよ。

＜ポイント＞

栄養素として、糖質、脂質、たんぱく質、無機質（ミネラル）、ビタミンを取り上げ、それぞれどのような特徴をもった栄養素であるのか、体内でどのような役割を果たしているのかについてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．ビタミンの生理作用と多く含まれている食品について

＜ポイント＞

水溶性と脂溶性ビタミンに分類し、各ビタミンの多く含まれている食品について説明する。

2．母乳栄養の長所と留意点について

＜ポイント＞

新生児・乳児にとっての長所・留意点だけでなく、母親にとっての長所・留意点も説明する。

3．育児用ミルクの成分について

＜ポイント＞

育児用ミルクの定義と種類、その調整内容について説明する。

4．離乳の進め方について

＜ポイント＞

初期、中期、後期、完了期に分け、それぞれの注意点を説明する。

5．幼児における遊び食いと偏食について

＜ポイント＞

幼児期に多い遊び食いと偏食について、その対応法について説明する。

6．食育の重要性とその内容について

＜ポイント＞

「保育所における食育に関する指針」をもとに、食育の重要性とその内容を説明する。

教科書

上田玲子『新版　子どもの食生活－栄養・食育・保育－』ななみ書房。

参考文献

岡崎光子、他『子どもの食と栄養』光生館ＫＫ。
二見大介、他『保育ライブラリ　子どもを知る小児栄養』北大路書房。

科目コード	子どもの保健　(2 単位)	登録年次	履修方法
6790		2年	R
教員名	石本強、佐野葉子、手塚和美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義を理解する。子どもの運動機能及び生理機能の発達と保健について理解する。また、子どもの健康状態、心身の不調時の観察方法、発育・発達の把握と健康診断を具体的に学ぶ。子どもの疾患についての病態生理、その予防方法と保育者としての適切な対処方法について学ぶ。現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を学び、虐待の防止方法、早期発見、対応方法、保護者との連携や、地域との連携を学ぶ。

1) 子どもの形態的発育、機能的発達、精神機能の発達について学び、説明することができるようになる。
2) 小児期の発育・発達に必要な栄養、ことに母乳哺育について学び、説明することができるようになる。
3) 子どもの生活リズムについて学び、説明することができるようになる。
4) 子どもによくみられる疾病とその対処法について学び、説明することができるようになる。
5) 小児期の事故と安全教育、保育環境について学び、説明することができるようになる。
6) 母子保健の現状と課題について学び、説明することができるようになる。

学修内容

1	ガイダンス：保育における子どもの保健の概要、健やか親子 〈ポイント〉小児統計、健やか親子について理解する
2	子どもの健康を守る意義：健康の概念、解剖生理の理解 〈ポイント〉健康の概念、小児の解剖生理について理解する
3	子どもの成長と発達①胎児の発育、小児期各期の身体発育 〈ポイント〉小児期各期の身体発育について理解する
4	子どもの成長と発達②運動、神経、精神、呼吸、循環器 〈ポイント〉小児期各期の運動、神経、精神発育等について理解する
5	子どもに多い病気①感染症 〈ポイント〉小児期に多い感染症の病態生理について理解する
6	子どもに多い病気②感染症 〈ポイント〉小児期に多い感染症の病態生理について理解する
7	子どもに多い病気③消化器系、呼吸器系、内分泌系 〈ポイント〉小児期に多い消化器系、呼吸器系、内分泌系の疾患の病態生理について理解する
8	子どもに多い病気④アレルギー系 〈ポイント〉小児期に多いアレルギー系の疾患について理解する
9	子どもの精神保健：子どもの環境・虐待の要因とその影響 〈ポイント〉子どもの環境要因・虐待の要因について理解し、その対策についても考察する
10	子どもの発達障害：発達障害の種類とその対応 〈ポイント〉発達障害の種類とその特徴、子どもへの対応について理解する
11	子どもの栄養：母乳栄養、人工栄養、離乳 〈ポイント〉母乳栄養、人工栄養、離乳の特徴について理解する
12	子どもの健康管理①年間計画、月間計画（お便り作成） 〈ポイント〉子どもの健康を守るために年間計画を立て、実際におたよりを作成する
13	応急処置の方法①：一時救急 〈ポイント〉小児の一時救急の方法を理解する
14	応急処置の方法②：応急手当方法 〈ポイント〉保育現場の応急処置の方法を理解する
15	まとめ 〈ポイント〉保育者として子どもの命、健康を守るために必要なことについてまとめる

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

小児期に多い感染症と感染対策について述べよ。

＜ポイント＞小児期に多い感染症の種類、病原体、感染経路、症状、合併症、治療法と予防方法について理解する。

科目終了試験学修のポイント
１． 健康の概念と現代の小児保健における問題点について ＜ポイント＞健康の概念、現代の小児保健に関する統計や、問題点を理解する。 ２．健康状態の観察について ＜ポイント＞小児の健康状態の観察ポイントを理解する。 ３．子どもの身体的、精神的発達及び運動発達について ＜ポイント＞子どもの発育、発達の特徴を理解する。 ４．小児期に多い感染症について ＜ポイント＞小児期に多い感染症の病原体、感染経路、主症状、合併症、及び予防対策について理解する。 ５．小児期に多い消化器の疾患について ＜ポイント＞小児期に多い消化器の疾患の症状、観察ポイント、対処方法について理解する。 ６．保健活動と虐待防止について ＜ポイント＞地域社会での保健活動及び虐待の要因、対応について理解する。
教科書
岩田力、前澤眞理子　他『子どもの保健・健康と安全　―理論と実際―』同文書院。
参考文献
大西文子、『子どもの保健演習』習中山書店。

科目コード	子どもの保健Ⅰ（4単位）	登録年次	履修方法
6480		2年	R
教員名	石本強、佐野葉子、手塚和美、橋本由利子、泉二奈緒美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

ヒトの一生の中で、小児期は形態的にも機能的にも最も激しい変化のみられる時期である。しかも、この時期に「こころ」と「からだ」の基礎の大部分ができ上がってくる。発育・発達を続けている子どもの健康を増進し、健全育成をはかることが大切である。さらに、子どもの疾病とその予防、事故と安全教育など、健康障害に関する知識を習得すると同時に、幼稚園、保育所などの保育・教育活動の場で実践できる能力を身につけることが求められている。

学修内容

1	「子どもの保健Ⅰ」の概論 ①子どもの定義と範囲と区分　②保育における子どもの健康と保健（健康の定義、健康状態の評価）
2	子どもの成長と発達 ①子どもの身体発育（体重、身長、頭囲、胸囲、大泉門、発育の評価） ②精神運動機能の発達（粗大運動と微細運動、原始反射、精神機能の発達）
3	子どもの成長と発達 ③子どもの生理機能の発達（呼吸機能、循環機能、消化機能、腎臓機能、視覚、聴覚）
4	子どもの精神保健 ①子どもの精神保健　②治療と療育　③精神分析の歴史　④心の発達を理解するための理論 ⑤心の健康や行動の問題（愛着の障害、摂食障害、不安障害、ストレス関連性疾患）
5	子どもの生活と保健 ①保育現場における衛生管理（消毒薬と消毒法、手洗い、汚物の処理） ②保育現場における事故防止及び危機管理・安全対策（年齢別にみた事故の特徴、事故防止対策、安全教育）
6	子どもの食 ①子どもの食の特徴　②子どもの栄養生理（消化器系の発達、食べる機能の発達、食行動の変化、三大栄養素の消化・吸収） ③乳児期の食（母乳哺育、育児用粉乳、離乳の定義、授乳・離乳の支援ガイド）④幼児期の食　⑤学童期の食 ⑥特別な配慮を要する子どもの食（体調不良の子ども、食物アレルギーを持っている子ども、障害を持っている子ども）
7	保育現場での保健の実際 ①排泄（排泄行動、排泄機能の発達、排泄の自立の援助）　②衣服（衣服の調節、衣服着脱の自立過程、衣服の着せ方） ③清潔（手洗い、入浴・沐浴、うがい、歯みがき）　④抱っこ、おんぶ、ベビーカー、チャイルドシート
8	子どもの病気と保育 ①子どもの健康状態の把握　②おもな症状の見方と対応（発熱、せき、嘔吐・下痢、けいれん、発疹）
9	子どもの病気と保育 ③代表的な病気｛アレルギー疾患（アトピー性皮膚炎、気管支喘息、食物アレルギー）、感染症、心身症｝
10	子どもの病気と保育 ④発疹を伴う病気とその対処法
11	子どもの病気と保育 ⑤子どもの病気の予防と対応（予防接種とは？　定期予防接種と任意予防接種、予防接種の種類と接種間隔）
12	子どもの病気と保育 ⑥障害を持っている子ども｛障害の定義、障害の原因、発達障害（広汎性発達障害、注意欠陥/多動性障害、学習障害）｝
13	子どもに対する救急処置 ①意識障害、呼吸停止、心停止　②心肺蘇生法（気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫）、③ショック、④けいれん ⑤頭部打撲、⑥やけど、⑦異物誤嚥、⑧異物誤飲、⑨捻挫、脱臼、骨折
14	保育所と家庭の連携（家庭との連携方法、生活リズム、食事、睡眠）
15	母と子どもの保健 ①母子保健の歴史　②保育の現状と対策 ③乳幼児健康診査をはじめとする母子保健対策（健康診査、保健指導、療養援護、医療対策）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 わが国の新生児・乳児・幼児死亡率及び母子保健対策について述べよ。

＜ポイント＞

わが国の新生児、乳児、および幼児死亡率とその推移について、諸外国と比較しながら説明する。さらにわが国の様々な母子保健対策について論じること。

【設題2】 小児期によくみられる感染症とその対策について述べよ。

＜ポイント＞

感染症発病の要因についてまず説明する。小児期によくみられる感染症について、主な症状と予防法について述べること。出席停止期間や予防接種についても言及する。

科目終了試験学修のポイント

1．胎児の発育及び胎児期の血液循環について

＜ポイント＞

胎児の発育過程及び、胎児期と出生後の血液環境の違いを、呼吸との関連で説明すること。

2．乳幼児の体温調節と発熱のしくみについて

＜ポイント＞

体温を調節する中枢及び、発熱のメカニズムについて説明すること。

3．排泄行動の自立について

＜ポイント＞

排泄の自立について神経学的観点から説明すること。

4．小児期によくみられるアレルギー疾患とその対策について

＜ポイント＞

アレルギー発症のしくみ及び小児期に多いアレルギー疾患とその対策について説明すること。

5．小児期の事故の特徴とその対策について

＜ポイント＞

小児期に多い事故について年齢別に説明し、その予防対策について各時期毎に論じること。

6．小児の一次救命処置について

＜ポイント＞

なぜ一次救命処置が必要かについて述べ、その手技について最新の情報をもとにまとめること。

教科書

岩田力、前澤眞理子　他『子どもの保健・健康と安全　―理論と実際―』同文書院。

参考文献

新保育士養成講座編纂委員会『新保育士養成講座第7巻　子どもの保健』社会福祉法人全国社会福祉協議会。

科目コード	子どもの保健Ⅱ（１単位）	登録年次	履修方法
6490		２年	S
教員名	佐野葉子、手塚和美、橋本由利子、山下喜代美		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

子どもの保健Ⅱは、Ⅰで学んだ知識を基礎として、保育の場において保育者として、実践できる応用力と指導力を養う知識と技術を習得することを目的とする。

小児の健康状態の観察、身体発育の測定方法と評価、乳幼児の養護、事故防止と安全教育、応急処置、急病の看護、包帯法、心肺蘇生法、集団保育における健康管理、等の知識と技術を習得する。また、歯磨き、手洗い・うがいについて指導できる実践力を学ぶ。

学修内容

1	子どもの保健Ⅱの目的および保健活動の計画および評価：教科書 pp.1-7 を読み、子どもの保健Ⅱの目的、保育所における保健計画の意義と作成方法について理解する。
2	健康状態の観察と生理機能の評価：教科書 pp.8-22 を読み、発育・発達に応じた全身状態の観察のポイントとその意義、体温・呼吸・脈拍等生理機能の測定方法や評価方法とその意義を学修する。被虐待児の観察のポイントについても把握する。
3	身体発育の測定方法と評価：教科書 pp.23-39 を読み、発育に応じた体重・身長・胸囲・頭囲の計測方法、評価方法とその意義を学修する。パーセンタイル値やカウプ指数についても理解する。
4	精神、運動機能の発達、発育の観察とその評価：教科書 pp.40-43 を読み、新生児の諸反射運動、精神、運動機能の発達と発育順序およびその評価方法について、学修する。
5	子どもの保健と環境:教科書 pp.48-51 を読み、保育環境の重要性と保育所保育指針に基づいた保育所設備について理解する。
6	子どもの基本的生活習慣の確立過程と適切な援助方法について：教科書 pp.51-56 を読み、子どもの生活習慣（睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、清潔等）の確立過程と適切な援助方法について理解する。
7	子どもの養護技術について：教科書 pp.57-59 を読み、乳児の抱き方、寝かせ方について学修する。また教科書 pp.76-84 を読み、排泄のさせ方や衣服の着せ方・脱がせ方について学修する。
8	子どもの養護技術について（つづき）：教科書 pp.85-91 を読み、身体（全身、口腔、手指）の清潔の方法、日光浴と外気浴の意義と方法について理解する。
9	子どもの疾病と適切な対応：教科書 pp.99-105 を読み、体調不良のときの対応、感染症の予防と対策、個別的な配慮を必要とする子ども等への適切な対応について学修する。
10	保育における看護と応急処置：教科書 pp.132-166 を読み、子どもがかかりやすい疾病とその看護方法、罨法、薬の与え方、消毒等の方法について学ぶ。
11	救急処置および心肺蘇生法について：教科書 pp.109-122 を読み、救急処置の意義、基本処置、心肺蘇生法（成人・小児・乳児の各方法）について学修する。
12	救急処置の方法（つづき）：教科書 pp.122-131 を読み、傷病児の運搬方法、包帯の目的と主な使い方について学修する。
13	子どもに起こりやすい事故の種類について：教科書 p.106 を読み、子どもの事故はどのような時におこりやすいか、それを防止するためにはどうしたらよいかを学修する。
14	安全教育について：教科書 pp.107-108 を読み、各年齢に応じた安全教育について学修する。また参考文献「保育園における危険予知トレーニング」等を読み、どのようにしたら子どもたちにわかりやすく学修させることができるか考える。
15	今まで学習したことを総合して、保育の現場において保育者として子どもの健康を守るために行う事柄について自分なりのまとめを作成する。

教科書

白野幸子『子どもの保健Ⅱ　演習』医歯薬出版株式会社。

参考文献

今井七重編『演習　子どもの保健Ⅱ』（株）みらい。

田中哲郎『保育園における危険予知トレーニング』日本小児医事出版社。

科目コード	コンピュータサイエンスⅠ（2単位）	登録年次	履修方法
7750		2年	SR
教員名	鈴木茂樹、菅沼太陽、竹内俊彦、舘秀典、森正人		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

コンピュータを効果的に使うためには、その操作法に習熟するだけでなく、コンピュータの基本的な仕組みや動作について学ぶことが有効である。本科目では、コンピュータの基本構成や内部データ表現、ソフトウェアに関する基本概念を学び、コンピュータ内部では実際にどのような処理が行われているかを理解する。

学修内容

1	コンピュータの仕組み（1）コンピュータの基本構成と動作の概要 コンピュータの持つ機能について学修する。
2	情報の表現（1）2進数の数値表現 基数法と基数変換について学修する。
3	情報の表現（2）負の数の表現、2進数の演算 様々な負の数の表現法等と加減乗除について学修する。
4	情報の表現（3）実数の表現、誤差 固定小数点、浮動小数点とコンピュータ特有の誤差について学修する。
5	情報の表現（4）文字の表現、文字コード 数値以外のデータ表現、文字コードの歴史などについて学修する。
6	情報の表現（5）画像・音声の表現 身近なデータの表現について学修する。
7	情報の表現（6）その他のデータ表現 コンピュータのデータ表現の未来、データの可視化などについて学修する。
8	コンピュータの仕組み（1）2値の論理演算、ブール代数 コンピュータで演算を行うための代数系について学修する。
9	コンピュータの仕組み（2）真理値表、論理式 命題の論理式化、複雑な式の簡単化について学修する。
10	コンピュータの仕組み（3）論理回路 コンピュータに使われる回路の種類について学修する。
11	コンピュータの仕組み（4）組み合わせ論理回路、加算回路 回路を組み合わせた演算の方法について学修する。
12	コンピュータの仕組み（5）組み合わせ論理回路、記憶回路 回路を組み合わせたデータの保存方法について学修する。
13	コンピュータのソフトウェア　命令の実行、OS コンピュータの動作手順とソフトウェアの種類、特にOSについて学修する。
14	ソフトウェアの方法論　問題の分析、アルゴリズム ソフトウェアを作るにあたり基本となる考え方と方法論について学修する。
15	ソフトウェアの方法論　データの設計、データ型とデータ構造 ソフトウェアを作るにあたり基本となるデータの構造について学修する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき８枚以内	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 身近な日常行動の中から、何らかの問題解決を実現する行動を選び、その手順を箇条書きにせよ。

＜ポイント＞

作成する手順はアルゴリズムの条件を満たし、かつ、処理の基本３構造を含んでいること（例えば、たくさんのジャガイモの中から、今日の夕食のカレーに適したものを選び出すアルゴリズムなど)。

科目終了試験学修のポイント

１．コンピュータの５つの基本構成要素を挙げ、各々の役割を説明せよ。

＜ポイント＞

コンピュータの機能を大きく 5 つに分けてそれぞれについて述べるだけでなく、相互の関わりについても説明するとよい。

２．浮動小数点表現で、誤差の生ずる原因を２つ挙げ、符号１ビット、指数部７ビット、仮数部２４ビットにおいて、各々の原因に該当する小数の２進数表現と発生する誤差を示せ。

＜ポイント＞

誤差の種類は複数ある。そのうち 2 つを選択する。具体的な数値、演算結果などを示しながら論じること。

３．ド・モルガンの定理が成り立つことを、真理値表を使って確かめよ。

＜ポイント＞

定理は教科書 56 ページに載っている。真理値表の書き方をしっかり把握しておくこと。

４．OS とは何か、また、その機能と役割を記述せよ。

＜ポイント＞

ハードウェアの差異をなくし、同様のユーザーインターフェースを提供するような見た目に分かりやすい機能だけでなく、ユーザの操作に対しシステム全体を効率よく動作させるため裏方的な機能など役割は多岐にわたる。ソフトウェアの体系や OS の役割については教科書 85 から 89 ページ書いてあるので全体を良く学修すること。

５．データ型とデータ構造には、どのようなものがあるか挙げ、それぞれの具体例を身近なものから選び、その値を書け。

＜ポイント＞

データ構造はデータ型の集合で、集まり方によって種類が分かれる。どんな種類があるか教科書を見て学修しておくこと。データ型はコンピュータで扱うデータ表現のことである。データ表現についてもよく勉強すること。

６．コンピュータアルゴリズム化できない（定式化できない）問題の例を身近な題材から探し、アルゴリズム化できないのかを述べよ。

＜ポイント＞

アルゴリズム化できない問題とは、コンピュータが Yes、No の判断を出来ない、答えが不定の問題である。コンピュータのプログラムは人間が作るものなので、我々にとって未知であったり、答えを出せない問題を例に挙げればよい。

教科書

宮内ミナミ、他『情報科学の基礎知識』昭晃堂。

参考文献

なし

科目コード	コンピュータサイエンスⅡ（２単位）	登録年次	履修方法
7760		３年	ＳＲ
教員名	鈴木茂樹、菅沼太陽、竹内俊彦、舘秀典、森正人、ロペス・ルイス・ミゲル		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

コンピュータのハードウェア自体は、極めて単純な演算機能しか持っていない。人間が、そこにソフトウェアというアルゴリズムの集合体を与える事によってはじめて、複雑な処理を行えるシステムができあがる。つまり、コンピュータは、与えられるソフトウェア次第で有能にも無能にも変わる。

本科目では、アルゴリズムとは、どのようなものか、現実の問題をどのようにアルゴリズム化して、コンピュータに実行させるのかを学ぶ。レポートとして、簡単なプログラムの提出を求める。

学修内容

1	アルゴリズムの基礎・評価基準・オーダ記法について
2	アルゴリズムの記述・表現 流れ図を用いてアルゴリズムを表現する方法を学修する。
3	データ構造（1）　配列・リスト 配列・リスト構造の特徴や実装方法を学修する。
4	データ構造（2）　スタック・キュー スタック・キューの特徴や実装方法を学修する。
5	データ構造（3）　グラフ・木構造 グラフの１種、木構造の特徴と配列などを用いた実装方法を学修する。
6	アルゴリズムの基本概念　再帰 再帰処理の学修とこれを用いたプログラムの作成演習を行う。
7	データの探索（1）　探索とは・2 分探索法 簡単な探索方法、また 2 分探索法を使ってデータの探索プログラムを作成する。
8	データの探索（2）　ハッシュ法　実行速度の比較 ハッシュ法によるデータの格納・探索プログラム作成する。また、各探索法の性能を比較する。
9	ソートアルゴリズム（1）　ソートの定義 選択ソート、挿入ソートを使ってデータのソートプログラムを作成する。
10	ソートアルゴリズム（2） ヒープソート、クイックソートを使ってデータのソートプログラムを作成する。
11	分割統治法について　ソートアルゴリズムの性能比較 マージソートを使ったソートプログラムを作成する。また、各ソート法の性能を比較する。
12	グラフアルゴリズム（1）グラフの基礎 グラフの概念や定義、グラフ構造の実装方法について学修する。
13	グラフアルゴリズム（2）最短経路問題 ダイクストラ法を使った経路探索プログラムを作成する。
14	アルゴリズムの限界（1） 問題のクラス分け、クラスＰとクラスNPについて学修する。
15	アルゴリズムの限界（2） 解くことのできない問題、停止性問題の照明について学修する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 ある細胞が試験管中で1分毎に2つに分裂するが、分裂直後に全個体の内4つが死滅するとする。この細胞を最初に試験管に10個入れた場合にn分後の試験管中の細胞数を算出するプログラムを作成せよ。プログラムは作成が容易なWindowsのDOS窓（コマンドライン）で動作するものでかまわない。

＜ポイント＞

再帰木を用いた関数を作成せよ。言語はJava、C言語、C++の何れでも可。但し、CやC++の場合は、Microsoft社またはBorland社製、GCC（GNUコンパイラコレクション）の何れかでコンパイル可能であること。何れもコンパイラも無償でダウンロード可能である。提出は使用したコンパイラ名を明記の上、ソースファイルのみを提出すること。

科目終了試験学修のポイント

1．オーダ記法について説明せよ。

＜ポイント＞

オーダの大小関係について説明するだけでなく、オーダ記法が評価方法として用いられる理由も考えるとよい。

2．2分探索とハッシュ探索について説明せよ。

＜ポイント＞

探索方法の違いだけでなくデータの配置・格納方法についても注目し、性能を比較するとよい。

3．クイックソートの基本概念を説明せよ。

＜ポイント＞

分割統治法について学修しておくとよい。またクイックソートの最良・最悪計算量、平均計算量や、他のソート手法との違いを理解しておくことが好ましい。

4．最短経路問題に適用される、ダイクストラ法について説明せよ。

＜ポイント＞

説明にはグラフの概念理解が必須である。ダイクストラ法のアルゴリズムだけでなく特徴を挙げて説明するとよい。

5．コンピュータ上で実行可能なプログラムPとそのプログラムへの入力Iが問題として与えられるとき、Iを入力としてPを実行した場合、Pが正常終了するか、無限ループやエラーで異常終了するかを判定する問題が、解くことができないことを証明せよ。

＜ポイント＞

停止性問題の証明は理解が難しいが、様々な文献で照明の手順が紹介されている。講義時間、またはインターネットや図書を利用して理解しておくこと。

6．n個の整数{a1, a2,.....an}が与えられたとき、その中に現れる最小値を求めるアルゴリズムの流れ図を描け。ただし、与えられる整数列は、未整列である。

＜ポイント＞

まず、アルゴリズムの基本制御構造と基本的な流れ図記号は使えるようにしておかなければいけない。流れ図は入力、処理、出力に分けて考えるとよい。

教科書

藤原暁宏『情報工学レクチャーシリーズ　アルゴリズムとデータ構造』森北出版。

参考文献

塚越一雄『初めてのC++』技術評論社。

林晴彦『改訂 新Java言語入門 ビギナー編』ソフトバンククリエイティブ。

科目コード	コンピュータネットワークⅠ（2単位）	登録年次	履修方法
7790		2年	SR
教員名	加藤由樹、菅沼太陽、鈴木茂樹、舘秀典、竹内俊彦、ロペス・ルイス・ミゲル		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

インターネットをはじめとしたコンピュータネットワークの仕組みを理解することは、情報化社会をリードする人材にとって、必要不可欠の事柄である。本科目では、コンピュータネットワークの基礎を学び、現在の情報通信を担っている仕組みを理解することを目標とする。具体的には、OSI モデル、プロトコル、ネットワーク構築の基礎を身につける。

学修内容	
1	符号化と規格・アナログとデジタル（1）・実際の電気通信サービス 教科書 p.14 と pp.10-11・教科書 pp.73-77 と pp.128-135
2	アナログとデジタル（2）・デジタル化の仕組み　→　電話、ファックス等の仕組み 教科書 pp.11-13
3	データ通信を可能にしたハードウエア 教科書 pp.30-33
4	データ通信における基本的な課題：ノイズと衰弱に強い伝送方式はアナログ・モデムと 3 変調方式：AM、FM、PM 教科書 pp.17-20
5	OSI、その原則と考え方・OSI の 7 層 教科書 pp.61-64
6	OSI の 7 層・SAP・インターネット参照モデルとの比較 教科書 pp.68-70・教科書 pp.117-118
7	各層の役割→物理層・歴史的プロトコルの RS232 RS232 は同期方式が調歩同期　教科書 pp.21-22、参考文献「インターネット総論」p.58（極力、RS232 についてインターネットで 検索）
8	各層の役割・データリンク層・BSC プロトコル（日本語では「ベーシック手順」） 教科書 pp.36-43
9	各層の役割・データリンク層・HDLC プロトコル 教科書 pp.43-51
10	各層の役割・ネットワーク層電気通信サービス・パケット交換方式 vs.回線交換方式 教科書 pp.51-55
11	LAN（1）・Ethernet・CSMA/CD・バックオフ時間 教科書 pp.88-91
12	LAN（2）・Ethernet の発展・100BASE、1000BASE、10G BASE など 教科書 pp.92-93
13	LAN（3）・標準化：IEEE802 規格群 教科書 p.103 と IEEE802 規格に対してインターネット検索
14	その他の LAN・トークンパッシング方式、TDMA 方式 教科書 pp.93-97
15	無線 LAN と高速 LAN、IEEE　802.11x 教科書 pp.101-102

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 OSIモデルを記述せよ。

＜ポイント＞

OSIモデルの7層をきちんと記述し、実際動いているネットワークがどこまでOSIモデルにしたがっているかについて論じる（例：Ethernet）。通常のコンピュータを利用して、どのように第1層（物理層）、第2層等、第7層まで「自分の目で」確認できるかを書く（例えばブラウザの「オプション」メニューを使う、「コントロールパネル」を使う）。

科目終了試験学修のポイント

1．物理層について

＜ポイント＞

物理層の役割を解説し、例としてRS232とEthernetを挙げる。

2．Ethernetの MAC層について（特にCSMA/CDをわかりやすくまとめよ）

＜ポイント＞

古典的Ethernet（10BASE5）でCS・MA・CDについて解説し、特にバックオフアルゴリズムを説明する。

3．Ethernetのめざましい成功の秘訣について

＜ポイント＞

なぜほとんどのLANはEthernetなのかを解説する（コスト面、技術面）。

4．米自動車メーカGMは、IEEE 802.4規格となった「トークンバス」プロトコルを構築した。802.4と802.3について述べよ。

＜ポイント＞

両LAN技術を簡単に説明し、定時応答性中心にその違いについて解説する。

5．無線LANについて

＜ポイント＞

無線LANの仕組みを簡単に説明し、有線と比較してメリットとデメリットについて解説する。

6．スイッチングハブの出現による、Ethernetの改良について

＜ポイント＞

スイッチングハブとリピータハブの違いを簡単に説明し、スイッチングハブの出現はEthernetにどういうメリットをもたらしたかについて解説する。

教科書

針生時夫、他『新版　わかりやすい通信ネットワーク』日本理工出版会。

参考文献

W. Stallings『Data and Computer Communications』Prentice Hall（英語）。

田坂修二『情報ネットワークの基礎』数理工学社。

水野忠則、他『コンピュータネットワーク』日経BP社。

科目コード	コンピュータネットワークⅡ（2単位）	登録年次	履修方法
7800		3年	SR
教員名	竹内俊彦、舘秀典、ロペス・ルイス・ミゲル		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

現代のインターネットの通信手段の基礎である TCP/IP と Socket について、仕組みや利用方法を学ぶ。次に、ネットワークのサービス形態として、サーバクライエントモデルとP2Pモデルについて、演習を含めながら学ぶ。最後に、サーバの構築を行い、各種のサービスの提供を行う経験を通じて、コンピュータネットワークの仕組みを深く理解する。

学修内容

1	「LAN および OSI 階層構造等、コンピュータネットワークⅠの復習」 教科書 第1章 1.1-1.2 を読み理解を深め、OSI 階層モデルのどの層がどのような役割を担っているのか、なぜこのようなモデルが必要であるのかを理解し、LAN および OSI 階層構造についての演習課題を解く。
2	「インターネットの歴史と運営組織」 教科書 第 1 章 1.3 を読み理解を深め、インターネットがどのような歴史を経て現在に至るのか、インターネット上で利用されている規格はどこで決められているのかについて理解し、インターネットの歴史と運営組織についての演習課題を解く。
3	「インターネット層 (1) インターネットプロトコル」 教科書 第2章 2.1 を読み理解を深め、インターネット上で利用されているプロトコルの概要を理解する。 インターネットプロトコルの概要についての演習課題を解く。
4	「インターネット層 (2) IP アドレスの仕組み」 教科書 第2章 2.2 を読み理解を深め 、IP アドレスの概要を把握し IP アドレスの仕組みについての演習課題を解く。
5	「インターネット層 (3) 経路制御」 教科書 第2章 2.3 を読み理解を深め 、インターネット上のデータはどのような経路を辿るのか、またどのような制御をされているのか理解し、経路制御についての演習課題を解く。
6	「インターネット層 (4) 演習」 過去の講義内容全般を見直し理解を深め、インターネット層では何が行われているのか、またどのような経路選択がされてデータが届くのかを復習し、教科書 pp.52-53 演習課題を解く。
7	「物理・データリンク層 (1) 基礎技術」 教科書 第3章 3.1 を読み理解を深め、データリンク層では何が行われているかを理解する。 物理・データリンク層の基礎技術についての演習課題を解く。
8	「物理・データリンク層 (2) 有線系」 教科書 第3章 3.2 を読み理解を深め 、有線を利用するインターネット接続にはどのようなものがあるか、またどのような媒体が利用されるのか理解し、物理・データリンク層の有線系についての演習課題を解く。
9	「物理・データリンク層 (2) 無線系」 教科書 第 3 章 3.3 を読み理解を深め、無線を利用するインターネット接続にはどのようなものがあるか、またどのような媒体が利用されるのか理解し、物理・データリンク層の無線系についての演習課題を解く。
10	「トランスポート層 (1) 概要」 教科書 第4章 4.1 を読み理解を深め、トランスポート層では何が行われているのかを理解する。 トランスポート層の基礎技術についての演習課題を解く。
11	「トランスポート層 (2) TCP と UDP」 教科書 第4章 4.2 を読み理解を深め、TCP と UDP の違いについて理解し、TCP のヘッダ構成を理解する。 TCP と UDP についての演習課題を解く。
12	「トランスポート層 (3) TCP と UDP」 教科書 第4章 4.3 を読み理解を深め、UDP のヘッダ構成を理解する。 TCP と UDP についての演習課題を解く
13	「インターネット上のビジネス・セキュリティ・次世代のインターネット技術」 教科書 第5、7、10 章を読み理解を深め、業務における情報セキュリティについて学ぶ。また、次世代のインターネット技術と呼ばれるものにはどのようなものがあるか調査しまとめる。
14	「システム設計と運用」 教科書 第9章を読み理解を深め、ネットワークシステムの設計・運用手法を学ぶ。 ネットワークの運用における障害とはどのようなものがあるかを知りその対策・対応を学ぶ。 第9章の演習問題を解く。
15	「総合演習」 1～14の学修内容全般の見直しを行う これまでの総合演習課題を解き、理解度を再度確認する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 インターネットの仕組みについて述べよ。

＜ポイント＞

インターネットの歴史について触れ、現在のインターネットで利用されているプロトコルである TCP/IP について記述する。また、ドメインの概念、FQDN と IP アドレスを対応させている DNS サービスについても述べよ。最後に、インターネットのめざましい普及と今後の展望について自分の経験を含め述べよ。

科目終了試験学修のポイント

1．TCP と UDP の違いについて

＜ポイント＞

TCP と UDP について概要を述べ、違いについて明記し、それぞれの特徴を生かしたサービスにはどのようなものがあるか具体例を挙げ述べる。

2．IP アドレスの枯渇問題について

＜ポイント＞

現在の IP アドレスのバージョンと割り当て方法および割り当て可能数と現状について述べる。IP アドレスの枯渇はいつごろから危惧されてきたのか、IP アドレスが枯渇するとどのような影響があるかについてまとめ、これまでどのような方策が採られたのか考える。また、次世代バージョンの特徴をいくつか挙げるとともに現在の普及状況にも触れる。

3．現在のインターネットを利用しているネットワークサービスについて

＜ポイント＞

現代の社会には、インターネットを利用したサービスが多く存在する。それらは誰を対象とし、どのような仕組みで提供されているのかいくつか具体例を挙げて考える。

4．WWW について

＜ポイント＞

WWW はどのような経緯で生まれ進化してきたのか、どのような仕様が定められているか述べ、現代の社会ではどのようなサービスが WWW 上で展開されているかまとめ、今後の WWW の展望について述べる。

5．ドメインの管理について

＜ポイント＞

インターネット上のドメインは世界規模で運用されている。どのような組織体制になっているのか、どのように運営されているのか、また、ドメインを登録するにはどのような方法があるのか理解する。さらに、ドメインの紛争および新規 TLD の新設等、近年話題に上った情報とも関連させることが望ましい。

6．IP ルーティングについて（IGP と EGP、経路表）

＜ポイント＞

IP ネットワークの世界では、ルーティングは非常に大きな役割を担っている。経路表とはどんなものか、管理する手法にはどんなものがあるか述べ、IGP と EGP について主要なルーティングプロトコルの具体例を挙げて説明する。

教科書

小林浩、他『インターネット総論』共立出版。

参考文献

W. Stallings『Data and Computer Communications』Prentice Hall（英語）。
水野忠則、他『コンピュータネットワーク』日経 BP 社。

科目コード	算数（２単位）	登録年次	履修方法
7410		２年	R
教員名	杉山憲江、土屋修		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

算数・数学科は、積み重ねの学修であるので、最も習得が難しい教科であることを認識することが必要である。同様に、指導も難しく、指導する段になって初めて、正確で広範な知識習得が必須であることに気づかされる。

この科目を学ぶことにより、指導者が必ず習得しておかなければならない①学習指導要領の重点と概要、②算数・数学科の教育内容と教育方法について高い理解に到達し、初等数学の指導にあたるための基礎を習得することができる。

学修内容

1	小学５年生終了時に求められる学力について 前年度実施「全国学力・学習状況調査算数科問題」をダウンロードし自ら解いてみることで求められる学力を認識する。
2	算数科学習指導要領における「改訂の経緯及び基本方針」と「算数科改訂の趣旨及び要点」について 教科書①　pp.1-20 を通読し、学習指導要領の重点を知る。
3	算数科学習指導要領の「算数科の目標」について 教科書①　pp. 21-32 を通読し、目標を知るとともに数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動についての理解を深める。
4	各学年の「算数科の内容」について 教科書①　pp. 33-75 を通読し、内容を知るとともに数学的活動の意義についての理解を深める。
5	学習内容 1～4 を振り返り、現行の学習指導要領に至るまでの経緯と目標を理解し、まとめる。
6	第１・２学年の「目標及び内容」について 教科書①　pp.76-133 を通読し、数学的な活動に視点をあてながら学修内容をまとめる。 科目終了試験学修のポイント１
7	第３・４学年の「目標及び内容」について 教科書①　pp.134-231 を通読し、数学的な活動に視点をあてながら学修内容をまとめる。
8	第５・６学年の「目標及び内容」について 教科書①　pp.232-321 を通読し、数学的な活動に視点をあてながら学修内容をまとめる。 科目終了試験学修のポイント２
9	「指導計画作成上の配慮事項」、「内容の取扱いについての配慮事項」及び「数学的活動の取組における配慮事項」について 教科書①　pp. 322-338 を通読し、学修内容をまとめる。
10	「数と計算」領域の指導内容 教科書①　pp. 42-49　　教科書②　pp.41-105 を通読し、「数と計算」領域の指導内容をまとめる。 科目終了試験学修のポイント３
11	「図形」領域の指導内容 教科書①　pp. 50-56　　教科書②　pp.106-143 を通読し、「図形」領域の指導内容をまとめる。 科目終了試験学修のポイント４
12	「測定」（1～3 年）領域の指導内容 教科書①　pp. 56-61　　教科書②　pp.144-172 を通読し、「測定」（1～3 年）領域の指導内容をまとめる。
13	「変化と関係」（4～6 年）領域の指導内容 教科書①　pp. 61-66　　教科書②　pp.173-202 を通読し、「変化と関係」（4～6 年）領域の指導内容をまとめる。 科目終了試験学修のポイント５
14	「データの活用」領域の指導内容 教科書①　pp. 67-71　　教科書②　pp.203-230 を通読し、「データの活用」領域の指導内容をまとめる。 科目終了試験学修のポイント６
15	学習内容 6～14 を振り返り、小学校での初等数学の内容を理解し、まとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】『学習指導要領』における数学的活動について、導入の経緯とその充実や内容に関して述べよ。

＜ポイント＞
数学的活動を通して、主体的・対話的で深い学びを実現させるためには、どのような点に留意することが必要か考えること。

科目終了試験学修のポイント

1．第1・2学年での数学的活動を通した学習活動について
＜ポイント＞
・第1学年　教科書①　pp.96-101
・第2学年　教科書①　pp.127-133　の内容をまとめる。

2．第3～6学年での数学的活動を通した学習活動について
＜ポイント＞
・第3学年　教科書①　pp.172-178
・第4学年　教科書①　pp. 224-231
・第5学年　教科書①　pp.276-283
・第6学年　教科書①　pp.314-321　の内容をまとめる。

3．「数と計算」領域の指導内容について
＜ポイント＞
・教科書②　pp.104-105 の【課題 4－1】～【課題 4－9】を行う。

4．「図形」領域の指導内容について
＜ポイント＞
・教科書②　p.142 の【課題 5－1】～【課題 5－6】を行う。

5．「測定」（1～3 年）、「変化と関係」（4～6 年）領域の指導内容について
＜ポイント＞
・教科書②　pp .171-172 の【課題 6－1】～【課題 6－6】、及び pp .200-201 の【課題 7－1】～【課題 7－6】を行う。

6．「データの活用」領域の指導の内容について
＜ポイント＞
・教科書②　pp.229-230 の【課題 8－1】～【課題 8－6】を行う。

教科書

①文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説算数編』日本文教出版。
②土屋修・佐々木隆宏『算数教育の基礎がわかる本』学術図書出版社。

参考文献

算数科教科書(自分が受験する自治体が採用しているもの)。
文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示)』東洋館出版社。

科目コード	算数科指導法（2 単位）	登録年次	履修方法
4180/7180		2年	SR
教員名	池野正晴、加藤卓、杉山憲江、丹洋一、土屋修、守屋誠司		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報の機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

本科目は，教育職員免許法で定められた「教職に関する科目」の一つである「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。この科目は小学校での算数科の指導法について学習する。小学校学習指導要領算数科の目標及び内容を踏まえるとともに，算数科において目指す資質・能力を身に付けさせるための不断の授業改善に取り組むことが求められている。この科目を学ぶことにより，授業のための教材研究，下位目標行動の分析，児童の実態調査，学習指導案の作成，模擬授業，評価などを内容とし，研究授業の初歩を習得することができる。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	前年度実施「全国・学力学習状況調査算数科問題」の中で，正答率を上げたい問題を選ぶ。 13回までに指導案を完成し，14回に模擬授業を行う。着目した問題が，何年生のどの目標・どの単元に照応するかを調べる。また、その単元の模擬授業を行う場合、どのような数学的活動が効果的であるか考える。 教科書①pp.71-75，教科書②pp.12-18 を参照する。	・これからの算数数学科教育で求められているもの （目標と内容、数学的活動、数学的な見方・考え方）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	授業をする単元が，前の学年のどの単元と関連するか，また，後の学年のどの単元と関わっていくかを調べる。 教科書①pp.33-75 を参照し，着目した問題を解決するために，どのような既習の知識・技能が必要かについて，下位目標を分析する。(その問題を解くために，下学年で学んだどの学年の知識・技能が必要かを最低限把握すること)	・算数科の指導の実際 （子どものつまずきとそれを踏まえた指導上の留意点）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	学習評価に関する基本的な考え方を知る。 前時で設定した下位目標に照らして、その実現状況をみるための具体的な子どもの姿を明らかにすることを通して、学習評価の基本的な在り方や評価規準の設定方法等について知る。	・算数科の学習評価に関する基本的な考え方 （評価の観点等及びその趣旨と方法）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
4	教材研究を中心に指導案を作成するための方法を知る。 教科書②pp.257-283 を通読し，指導案作成の流れを知る。　科目終了試験学修のポイント 1	・算数科の教材の捉え方 （教材研究の意義とその方法）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
5	授業づくりに必要な技術を知る。 教科書②pp.284-309 を通読し，授業に必要な技術を知る。	・算数科の学習指導の技術 （教育効果を高める ICT の活用法と教材づくり）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
6	模擬授業と同じ単元の指導案を，書籍やインターネット等で探し，先行実践事例を把握する。 教科書①pp.76-321，教科書②pp.41-230 を参照する。	・算数科における学びの質を向上させる授業展開 （主体的・対話的で深い学びの在り方）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
7	1 時～6 時の学習を振り返り、算数科の授業づくりのポイントと手順，実態把握の方法について理解し，レポートにまとめる。 【レポート課題】	・算数科の基本的な授業展開 （子どもの実態を捉えた学習指導のポイント）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
8	基本的な様式に従い，指導案の「目標」から，「指導方針」までを作成する。 教科書②pp.272-278 を参照し，指導案の前 1/3 を作成する。 科目終了試験学修のポイント 2	・算数科の学習指導案の作成（1） （単元の目標、評価規準、考察（教材観、児童の実態、指導方針））	印刷授業 及び 面接授業 （2 時間）
9	指導計画の作成と内容の取扱いについて知る。 教科書①pp.322-338　を通読，教科書②pp.257-265 を参照する。 科目終了試験学修のポイント 3		印刷授業

10	基本的な様式に従い，指導案の「単元の指導計画と評価計画」を作成する。 教科書②p.279 を参照し，指導案の前 2/3 までを作成する。	・算数科の学習指導案の作成（2） （単元の指導及び評価計画、本時の展開と板書計画）	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
11	基本的な様式に従い，指導案の「本時の指導」と「板書計画」を作成する。 教科書②pp.279-281 を参照し，指導案の最後までを作成する。 科目終了試験学修のポイント 4		印刷授業
12	指導案の全体を通し不具合な点を修正し，教材を作成する。 教科書②pp.273-281 を参照し，目標・評価等に一貫性があるか，また特に，本時の発問・指示等を検討する。	・模擬授業と模擬授業研究会（1） （A「数と計算」、B「図形」、C「測定（1～3 年)」領域の指導のポイント）	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
13	授業のリハーサルを通し，本時の指導の展開の改善を図る。 指導者の言葉遣いや動き，評価，子供の支援，教具の見易さなどについて改善を図る。 科目終了試験学修のポイント 5		印刷授業
14	ビデオを使い模擬授業を行う。 模擬授業(15 分)を行い，ビデオカメラで撮影する。ビデオを再生し，自他の模擬授業の成果と課題をまとめる。	・模擬授業と模擬授業研究会（2） （C「変化と関係（4～6 年)」、D「データの活用」領域の指導のポイント） （模擬授業と模擬授業研究会のまとめ）	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
15	算数科指導法で学んだこと全体に関する疑問点，成果と課題をまとめる。		印刷授業
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 題につき 7～8 枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　算数科の授業づくりのポイントと手順，実態把握の方法について述べよ。
＜ポイント＞
小学校学習指導要領算数科において重視されている，数学的活動を通して基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力、表現力、学習意欲というポイントを押さえる。また，指導案作成の基本的な手順と子供の実態調査の方法についてまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．指導案の作成の流れについて
＜ポイント＞
算数科の教材研究の大切な点についてまとめる。
2．算数科の授業の組み立てについて
＜ポイント＞
教科書②p.265 の課題を行い，要所を押さえる。
3．指導計画と評価計画について
＜ポイント＞
教科書②pp.257-265 を参照し，児童の実態に応じた指導計画・評価計画作成の要所を押さえる。
4．本時の指導と板書計画の作成について
＜ポイント＞
問題提示の工夫，課題・まとめの照応と分かりやすい表現，評価方法の記載方法，ノート筆記が向上する板書計画等についてまとめる。
5．本時の指導の展開について
＜ポイント＞
本時の指導の中に含まれる多くの配慮事項について，まとめる。

教科書

①文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 算数編』日本文教出版。
②土屋修・佐々木隆宏『算数教育の基礎がわかる本』学術図書出版社。

参考文献

算数科教科書(自分が受験する自治体が採用しているもの)。
文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示)』東洋館出版社。

科目コード	産業・組織心理学	登録年次	履修方法
3730		3年	R
教員名	新井洋輔、志茂田典子、中山麻子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

人は社会生活を送る上で、必ずといっていいほど組織集団に所属することになる。

本科目では、組織という社会的文脈の中で、個人が状況をどう知覚し、どのように行動し、態度を形成して、組織活動に参画していくのかについて理解する。さらに、リーダーシップ行動や組織における意思決定の〜功罪などを学ぶことにより、職場における問題（キャリア形成に関することを含む。）に対して必要な心理に関する支援、組織における人の行動について理解を深める。本科目は、組織が産業効率を上げるための心理学だけではなく、個人がメンタルヘルスを向上させることで組織が活性化するという立場に立って、職務満足や職場におけるストレスなどについて理解を深める。

学修内容

1	組織心理学とはⅠ：組織心理学が扱ってきたテーマ、組織心理学の歴史等について学修すること。また、コラムの科学的管理法、ホーソン研究、オープン・システム・アプローチについても学ぶこと。（テキスト：Ⅰ産業・組織心理学の歴史の意義とテーマ）
2	組織心理学とはⅡ：組織と個人の関係、組織行動、安全と健康（メンタルヘルス）、消費者行動とマーケッティングの各項目についてまとめること。（テキスト：Ⅰ産業・組織心理学の歴史の意義とテーマ）
3	ワーク・モチベーションⅠ：基礎学習として心理学で扱う動機づけ（内容、過程、動機、動機づけ、内発的動機づけ、達成動機）についてまとめること。（テキスト：Ⅱワーク・モチベーション）
4	ワーク・モチベーションⅡ：組織ならではの動機づけについて考える。期待理論、目標設定理論、公平理論、職務満足感、コミットメントなどについて学修すること。さらに、職務満足感の中で、ハーズバーグの二要因論は大切である。（テキスト：Ⅱワーク・モチベーション）
5	採用と面接：採用選考の内容、適性の問題、採用選考の方法（採用試験、適性テスト、面接内容）などについてまとめること。（テキスト：Ⅲ採用と面接）
6	人事評価：人的資源管理（マネジメント、HRM、QCサークル）、人事評価（評価制度、評価の方法と内容）、昇進・昇格、報酬制度、360度多面評価、アセスメント・センター、コンピテンシーなどについて学ぶ。（テキスト：Ⅳ人事評価）
7	キャリア発達Ⅰ：キャリアの内容についてまとめること。次に、キャリア発達では、発達的視点から良く整理して見ること（ガイダンス、職業意識の発達、組織内キャリア）。ホランドの研究やシャインの組織内キャリア発達段階など、コラム（キャリア・ライフ、キャリア・アンカー）についてもよく見ること。（テキスト：Ⅴキャリア発達）
8	キャリア発達Ⅱ： キャリア発達の各理論（クランボルツ、ブリッジスの理論）について見ること。また、人材育成（OJT、Off-JT、自己啓発など）、技術の伝承などのメンタリング、垂直的交換関係、キャリアストレス、キャリアカウンセリングについてもよく見ること。（テキスト：Ⅴキャリア発達）
9	職場のコミュニケーションと人間関係Ⅰ：職場集団の特性（職場集団の特性、職場集団の発達、規範）、職場規範の測定法、職場のチームワーク、職場のコミュニケーションについてまとめること。（テキスト：Ⅵ職場のコミュニケーションと人間関係）
10	職場のコミュニケーションと人間関係Ⅱ：職場で発生する事態に対する問題を中心に検討すること。職場でのマネジメント、会議による意思決定過程の特性、職場の人間関係・対人葛藤・対人葛藤の処理などを見ること。（テキスト：Ⅵ職場のコミュニケーションと人間関係）
11	リーダーシップ：リーダーシップの内容と特性についてまとめること。また、古典的リーダーシップ論（専制型、民主型、自由放任型）、PM型リーダーシップ論など各理論があるので、まとめること。また、組織変革とリーダーシップでは、リーダーシップの特徴があるので良く見ておく（テキスト：Ⅶリーダーシップ）
12	消費者行動とマーケティング：消費者行動の心理的分析とマーケティングがあるので良く見ておくこと。また、くちコミの影響や悪徳商法についても良く見ておくこと。（テキスト：Ⅷ消費行動とマーケティング）
13	仕事の能率と安全：仕事をするにあたり、効率性を求める一方で、仕事の安全・安心が大切になっている。ヒューマン・エラーによる事故の検討から安心・安全を人間工学と関連して、見ていく必要がある。（テキスト：Ⅸ仕事の能率と安全）
14	職場のストレスⅠ：職場ストレス（ストレス内容、セリエ、ラザルス説、ライフイベント、職務ストレス、タイプA行動パターン、ワーク・ファミリー・コンフリクトなど）をまとめること。（テキスト：Ⅹ職場のストレスとメンタルヘルス）
15	職場ストレスⅡ：メンタルヘルスでは、過労死、ストレス対処（コーピング）、ソーシャル・サポート、EPAについてもよく見ておくこと。また、職場の健康管理、バーンアウトも見ておくこと。（テキスト：Ⅹ職場のストレスとメンタルヘルス）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】組織の中で個人が、成長し、安全かつ適応的に、充実した活動を行い、また組織全体の生産性や効率性を高めるために、個人と事業者・ラインが留意すべき点について述べよ。

＜ポイント＞ 教科書各章で紹介されている理論を幅広く用い、理論そのものをまとめるとともにその理論を現実場面に適用した具体例も挙げながら、詳細に記述すること。

科目終了試験学修のポイント

1．リーダーシップの主要な次元と、状況要因との関連について

＜ポイント＞（テキスト：Ⅶリーダーシップ）

リーダーシップの特性アプローチや行動アプローチでは、対応できない状況がでてきたため、コンティンジェンシー・アプローチ（状況即応）が必要になった。リーダーの特徴と集団状況を十分に考えならが、リーダーシップを検討することが重要である。

2．キャリア発達のきっかけや促進要因について

＜ポイント＞（テキスト：Vキャリア発達）

キャリア発達の特性をまとめ、次にホランドの六角形モデル、シャインの組織内キャリア発達段階を考える。さらに、クランボルツの計画された偶発性やブリッジスのトランジッション論などに言及するとよい。

3．不安全行動やエラーの発生要因と、効果的な防止策について

＜ポイント＞（テキスト：Ⅸ作業の能率と安全）

仕事の安全性を守るために、ヒューマン・エラーなどによる不安全行動の予防が必要である。また、事故発生モデルを検討するなど、事故防止のさまざまな取り組みについて考える。さらに、人間工学とも関連して安心・安全なシステムを形成する安全文化の構築が重要である。

4．職場ストレスの種類と、ストレスへの効果的な対処について

＜ポイント＞（テキスト：X職場のストレスとメンタルヘルス）

職場ストレスの内容とストレス対処法について、具体的に言及する。ストレス対策（ストレスマネジメント）についても考える。

5．適切な人事評価を行うための視点について

＜ポイント＞（テキスト：Ⅳ人事評価）

人事評価は、評価基準を明確する必要がある。業績や能力の成果により、昇進・昇格・報酬制度などと関係してくる。まず、人事評価制度やシステムについてよく考えること。

6．ワーク・モチベーションの職務満足感とコミットメントについて

＜ポイント＞（キスト：Ⅱワーク・モチベーション）

職場でのモチベーションについて具体的に考える。職場で楽しく、生き生き出来る要因（職務満足感やコミットメント）について検討する。

教科書

山口裕幸、他『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房。

参考文献

田尾雅夫『組織行動の社会心理学』北大路書房。

科目コード	ジェンダー論（２単位） （旧　性と役割）	登録年次	履修方法
1290/1291		１年	ＳＲ/Ｒ
教員名	小笠原眞紀、島雄利、堀聡子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

現代社会では性別役割の境目が不明瞭になってきている。どこまでが生物学的に決定された性であり、どこまでが社会的に規定された性(ジェンダー)であるかは、今後の社会を考える上で大きな問題となりうる。他の先進国における今日の男女間における価値観やライフスタイル（結婚、出産育児、労働問題など）と比較しながら、日本社会の今後の変遷を予測し、望ましい社会様式を模索する。また、ゲイなどのマイノリティのセクシャリティー問題や、シングルマザーなどの人々の問題にもアプローチを試みる。

学修内容

1	ジェンダーと社会学の視点（ジェンダーの視点から見る社会問題）： 生物学的な性差「セックス」に対し、1970～80 年代にかけて登場した「社会的に作られた性別」を示すジェンダーの言葉の意味や概念が登場した背景について学ぶ。現代社会における問題は、ジェンダーによる性別にかかわる枠づけが、差別や排除に結びつきやすいという点である。男性・女性それぞれの立場からのジェンダーの視点、社会学におけるジェンダー研究など、科目の全体像を概観する。
2	生物学的性差とジェンダー（生物学的性差、ジェンダーが意味するもの）： ジェンダーの視点を生物学的性差であるセックスとの関係性について学ぶ。また、性の多様性をふまえた上で、生物学的性差が存在するそもそもの意味や、生物学的性差を理由とした社会的差別や偏見の問題を理解する。
3	文化の中のジェンダー（国や文化で変わるジェンダー観）： 社会的な構築物であるジェンダーは、文化の違いによって変化を見せる。文化によって男性・女性それぞれの役割が異なることを理解する。日本はジェンダーの視点から見ると、どのような社会なのか？西洋社会とそれ以外では、違いがあるのか？世界を二つに区分するという方法は、多くの文化が共通して持っていたとされているが、近代社会以降は崩れ、新たな男女の関係の構築へと向かっている。そのような国や時間軸の大きな違いや変化をふまえ、学修すること。
4	歴史の中のジェンダー（時代によって変わるジェンダー観）： ジェンダーは、歴史的変化に伴い、その様相を変化させる。前近代の日本社会のジェンダー構造や、近代社会が生み出したジェンダーの変容について学修する。前近代社会から、近代産業社会へと進み、女性は、男性労働力の再生産労働（女性たちに家事や育児を分担してもらい、健全な労働力を維持する方法）にかかわる仕組みを生み出し、「主婦」が誕生する。女性は家事・育児・介護の３つの再生産労働を無償で担う仕組み（＝アンペイド・ワーク）を、産業社会は生み出したのである。ジェンダーの仕組みは、歴史の変化に対応しながら展開してきた。新しいジェンダー観が求められていることを学修する。
5	性差別とジェンダー（ジェンダー・バイアスと性差別、性差別撤廃への動き（ジェンダー・エンパワメント指数）： 性差別とは、性別を理由に、合理的な根拠のない形で行われる差別や抑圧、社会的排除のことである。前近代社会において、社会のしくみとして組み込まれていた性差別は、1970 年代以降急激にフランス革命を皮切りに、女性解放運動など急激に性差別の撤廃の動きが世界の国々で広がった経緯を学修すること。性差別解消の一つの指標として国連のジェンダー・エンパワメント指数（ＧＥＭ）を学ぶ。
6	性暴力とジェンダー（ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメントなど）： ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）やセクシュアル・ハラスメントなど、性に関わる暴力に対して、新しい言葉や視点が持ち込まれる様になってきた。新しい言葉が登場することによって、問題が顕在化し新たな人権への視座がもたらされたのである。被害者が安心して声を上げられる環境作りや、加害者教育プログラム、予防プログラムの受講機会の保障が必要であり、性に関わる暴力に対し、ジェンダーの視座は多くのヒントを与えてくれる点を学修する。
7	「女らしさ」（女らしさの形成と再生産、諸問題）： 男女平等のかけ声の一方で、今日もなお性に関わるダブルスタンダード（＝二重基準）が存在する。男性・女性それぞれに適用される基準が異なっている。私たちの社会では、幼い頃から常に外側から男であるか、女であるかの区別をつけられ、その性別に見合う態度を要求され続ける。また、子どもたちを取り巻く社会環境やメディアもまた、ジェンダー化された社会の中でジェンダーが再生産されていく。女性が社会で活躍していくためには、、男性側の女性に対しての古い固定的な視点だけでなく、女性自身が持つ「女らしさ」の呪縛がもたらす諸問題を学修する。
8	「男らしさ」（男らしさの形成と再生産、諸問題）： 現代社会におけるジェンダーのゆらぎの中で、男性たちも様々な問題と直面している。こういった、男性性の危機や男性問題も、ジェンダー研究の重要な課題である。女性だけが意識を変え、社会参加を広げても、もう一つの性である男性たちの意識改革がない限り、性差別の問題は解決しない。今日見られる典型的な男性問題として、急増する中高年男性の自殺、増加する定年離婚などが見られる。男性自身が、ジェンダーの視点でもう一度自分の意識や生活を問い直すことは、女性のためだけでなく、男性自身のためにも重要な意味を持つことを学修する。
9	労働とジェンダー（労働の場における男女間格差、男性の長時間労働、ワーク・ライフ・バランス）： 現代社会におけるジェンダー問題にとって、労働は極めて重要なテーマである。労働の場における男女間格差の問題や、男性の長時間労働の問題などを分析しながら、男女ともに社会参画と家庭参画が可能なワーク・ライフ・バランスが実現できる社会づくりを学修する。わが国を支えた高度経済成長は、家庭に女性をとどめる一方で、男性主導社会の中で、男性たちは長時間労働を強いられた結果、今もなお女性の社会参加を阻害する力や、賃金における男女格差が続く結果となった。今後、少子高齢社会を前に、男性女性それぞれにとってのワーク・ライフ・バランスが保障される社会が求められることを学修する。
10	家族の中のジェンダー（戦後の変容する家族と、家族問題）： 家族というテーマにジェンダーの視点から光を当て、多様な家族の形態や近代家族の成り立ち、現代社会における家族の変化や家族が抱えている諸問題について学修する。戦後まもない時代の日本社会は、三世代同居の家族が主流であった。その後経済成長を経て、サラリーマンの夫と専業主婦の妻と子どもの核家族が主流化する。また現在、共働き世帯が全世帯の半数を超える中で、育児や介護、離婚といった家族の抱える課題が浮上してきている現状を学ぶ。
11	教育とジェンダー（幼児期における男女の役割意識形成、教育の場におけるジェンダー・バイアス）： 幼児期における男女の役割意識形成や、学校教育・社会教育におけるジェンダー問題について学修する。隠れたカリキュラムの問題や女性研究者の抱えている課題など、教育の場におけるジェンダー・バイアスについて学修する。子どもたちは、教育の仕組みの中で、ジェンダーと直面することになる。見えない形で、男が主で女が従だという意識を植え付ける「隠れたカリキュラム」や、ジェンダー・トラッキング（＝男女で、走るコースがあらかじめ決められている）が存在する。今日では、性教育の場にジェンダー平等の視点を積極的に導入することなど、新しい取り組みが始まっている。

12	スポーツとジェンダー（スポーツにおけるジェンダー・バイアス、ジェンダーとスポーツの未来）： 近代になって発展してきたスポーツは、基本的に「男性のもの」として作り出されてきた。その結果、女性たちは、男性主導の近代スポーツから排除され続けてきた。そうした中、スポーツにおけるジェンダー平等を求める声が国際的に大きく広がってきたことで、女性スポーツの拡大、さらにはジェンダーを超えたスポーツへと、スポーツのあり方そのものを問いかけることとなった。スポーツそのものの多様化の中で、スポーツにおけるジェンダーの課題をどう実現するかが問われている背景を学修する。
13	セクシュアリティとジェンダー（性的マイノリティの問題、セクシュアル・ライツの視点）： 性的マイノリティの問題も、現代社会の重要な人権問題である。性的指向性（＝セクシュアル・オリエンテーション：性的な関心が、異性に向かうか、同性に向くか、両性なのかに関わる概念）やトランスジェンダー（＝性別越境者：社会的に構築された性別であるジェンダーをトランスする生き方を選んだ人たち）など多様な性の視点をふまえつつ、セクシュアリティ問題を学修する。社会には、セクシュアル・マイノリティの人々が存在する。セクシュアリティをめぐる問題は、セクシュアル・ライツ（性的権利：性的平等と性をめぐる自己決定権）の視点と結びつけ考察する必要がある点を学修する。
14	国際社会とジェンダー（グローバリゼーションとジェンダー、開発におけるジェンダー）： グローバル化の時代の中で広がったジェンダー平等の動きについて、「開発におけるジェンダー問題」を軸に学修する。国際社会が抱える課題の中でも、ジェンダーにおける不平等の解決は、ほとんどの国が共通して抱えている問題であり、今日、国際的・国内的なジェンダー平等の広がりの中で、女性のエンパワメントとともに、男性の巻き込み（＝インヴォルヴメント）が必要とされている。ジェンダーと開発をめぐって、現在注目されている「エンパワメント・アプローチ」は、開発途上国の女性自身の主体性や自立を軸にしたジェンダー平等戦略として考えられている。さらに、持続可能性や戦争と平和の問題など、世界の大きな動きをジェンダーの視点からアプローチする。
15	ジェンダー政策のゆくえ（ジェンダー平等社会、男女共同参画社会）： 戦後日本の男女平等理念の登場から、現代の男女共同参画政策まで、国際的な動きもふまえつつ、日本社会におけるジェンダー政策の流れを概観するとともに、今後の発展の方向性について学修する。 ジェンダー平等社会を実現するためには、国際社会においても、わが国においてもこれまで学修してきたさまざまな課題が山積している。真の意味で、男女共同参画社会を実現するための取り組みや政策がもたらす新しい社会のあり方について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 性差別と性の役割について述べよ。
＜ポイント＞
教科書をよく読んで、自分の意見を展開すること。その際、意識化されにくい性差別の問題にも十分に注意を払うこと。

科目終了試験学修のポイント

1．ジェンダーについて
＜ポイント＞
生物学的な性差であるセックスに対し、社会的に作られた性別をジェンダーと呼ぶ。現代社会においては、ジェンダーによる性別に関わる枠づけが、性別による固定的な性別役割観や、性差別や排除に結びついている身近な例があることを理解する。

2．フェミニズム運動について
＜ポイント＞
フェミニズム運動の歴史的展開について理解するとともに、今日の女性の地位向上との関連を考察すること。

3．女性の労働について
＜ポイント＞
わが国の女性の労働の特徴を示すものに、30 歳前後を境に出産・結婚のため一旦労働から離れ、子育てが一段落すると再び労働に就くというM字型曲線がある。また、「男は仕事、女は家庭と育児」の性別役割分業の意識が根強いわが国では、働く女性に何重もの負担がのしかかっている現状がある。

4．近代家族と性役割について
＜ポイント＞
戦後まもなくの三世代同居の大家族が主流の時代から、高度経済成長以降、都市化と男性のサラリーマン化、核家族化が急激に進行し、共働き世帯が増えるなか、依然として固定的な性別役割分業の意識が男性、女性それぞれを縛り付けている。近代家族から見える固定的性役割の問題に焦点をあてること。

5．アイデンティティとジェンダーについて
＜ポイント＞
今日、生物学的性差であるセックスと、社会的に作られたジェンダーとが必ずしも一致しない性同一性障害やトランスジェンダーなどのケースにおけるアイデンティティの問題、性の多様性などに触れること。

6．ジェンダー政策について
＜ポイント＞
戦後日本の男女平等理念の登場から、現代の男女共同参画政策まで、国際的な動向もふまえつつ、わが国におけるジェンダー政策の流れを概観すること。

教科書

伊藤公雄『新訂　ジェンダーの社会学』放送大学教育振興会。

参考文献

アンドレア・ドウォーキン『女たちの生と死』青土社。
上野千鶴子『近代家族の成立と終焉』岩波書店。
江原由美子、他『ジェンダーの社会学：女たち／男たちの世界』新曜社。

科目コード	システム設計（２単位）	登録年次	履修方法
7770		２年	ＳＲ
教員名	鈴木茂樹、竹内俊彦、ロペス・ルイス・ミゲル		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

システムを構築あるいは分析するためには、対象とするシステムの分析と業務分析が必要になる。これらの分析を基に、システムをUMLなどで記述することで、明確な設計が行える。本科目では、オブジェクト指向モデリングの概念およびUMLの言語仕様について学ぶことを通して、各種システムの分析・設計記述する方法を身につける。

学修内容

1	ソフトウェアとは、ソフトウェアエンジニアリングとは（pp.2-19）。 システムソフトウェア、アプリケーションソフトウェア、組み込みソフトウェアについて、インターネットで「ソフトウェア　定義」で検索して調べて、その3種類のソフトウェアの違いをよく理解する。ソフトウェアエンジニアリングの定義と役割（pp.2-19）をよく理解する。
2	ソフトウェア開発モデル：ウォーターフォールモデル、プロトタイプモデル、RADモデル、スパイラルモデル、（pp.20-24）。 ソフトウェアは「モノ」ではないため、簡単に模型のようなものが提示できない。したがって、システムが必要とするユーザーと、開発者との間はニーズ分析において隔たりが生じないために、要求定義の正確さがきわめて大事である。また、特に大規模なソフトウェアの場合、開発の際はシステム構想や方式設計などシステム全体にかかわる企画・設計作業が必要となる。
3	プロセス指向開発とデータ指向開発（pp.26-37）。 プロセス指向開発ではデータの流れに着目する、主に構造化分析とデータフロー図を利用する（pp.26-32）。データ指向開発ではデータ構造に着目する、典型的な例はER図である（pp.32-37）。
4	オブジェクト指向開発：クラスとオブジェクトの関係、抽象化、実体化（pp.40-44） オブジェクト指向のパラダイム、クラスはオブジェクトの“設計図”である（オブジェクトは必ずあるクラスのインスタンスである）。クラスの属性とは何か、クラスの操作とは何か。抽象化をよく理解する。抽象化はクラスにおいても、モデリング全体においても基本的な概念である。カプセル化とは、オブジェクト内部のデータや操作の隠蔽のことである。
5	オブジェクト指向開発：継承（汎化と特化）と多能性（pp.44-46）。 オブジェクト指向において、継承はきわめて大切な概念である。“親”クラスから“子”クラスを作成することができる。なお、UMLは、一応、多重継承（1“子”クラス複数の“親”クラスを持つこと）を許されるが、推奨しない。 多能性（ポリモーフィズム）は多様性、多相性ともいう、継承と密接に関係しており、これもオブジェクト指向の基本的な概念である、特にp.46の下の例をよく理解すること。
6	オブジェクト指向開発：オブジェクト同士の関係（pp.47-49）・UML（pp.50-51） 関連・汎化/特化・集約の3種類の関係をよく理解し、関連で結ばれているクラスを元に作成されたオブジェクトは互いに参照し合うが、「誘導可能性」を設定することによって片方だけの参照を指定することができる（p.135）。 また、UMLの構造をよく理解する（pp.50-51）。
7	UMLの図：ユースケース図（pp.60-73） ユースケース図は要求モデルに使用する。特に、pp.60-63の例をよく理解する。
8	UMLの図：クラス図とオブジェクト図（pp.86-107） p.87、図6.2にまとめてある概念を理解し、pp.97-101の例を熟読してクラス図とオブジェクト図の違いを理解する。オブジェクト図はクラス図を元に作成し、シミュレーションの道具として利用される。設計の途中段階、できたクラスを元にいくつかのオブジェクトを作成し、一目瞭然に稼働中のシステムの状態を表現できる（下記「シーケンス図」も参照）。
9	UMLの図：クラス図の種類（pp.86-88） クラスは、ドメインクラス、UIクラス、DSクラスの3種類に分かれる。それらのクラスの特性、必要性を理解し、「ステレオタイプ」（p.142）という概念をよく理解する。DSクラスに関して、pp.189-193にある例を熟読する。
10	UMLの図：クラス図における多重度（pp.99-106） オブジェクト同士に関連の大事な要素であり、1オブジェクトがいくつのオブジェクトと関連するかを表す。主に1対1、多対1、多対多があるが、多対多の関連を２つの１対多の関連にわける（「多対多の解消」）方法をよく理解する（p.101）。特に、p.106の例にある多重度を確認し、よく理解する。
11	UMLの図：シーケンス図（pp.108-114） シーケンス図でオブジェクトの振る舞いを表現する、pp.108-114にある多くの例を熟読し、シーケンス図は何をモデリングするかを理解する。
12	UMLの図：ステートマシン図（pp.130-132） UMLにおいて、「ステートマシン図」と呼ばれる図の種類は状態遷移図を表現するために用意されている、pp.130--132の遷移図の例を熟読して、理解する。
13	UMLの図：コンポーネント図（pp.123-124） コンポーネント図はシステムのアーキテクチャ（構造）を表現するために欠かせない図の種類である、pp.123--124にある例を熟読し、コンポーネント図の必要性と役割をよく理解する。

14	クラス設計（pp.140-143） クラスのプロパティ（属性）の抽出と定義（p.141）をよく理解し、特に 4 つの可視性（p.143）の必要性と基本的な使い方を理解する。UML では可視性は public、protected、package、private である。
15	インタフェース（p.218） クラスの種類である、インタフェースの役割をよく理解する。UML は多重継承を推奨しないが、１クラスは複数のインタフェースを持つことができるので、場合によって多重継承の代わりに使用できる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 オブジェクト指向モデリングに関して説明せよ。

＜ポイント＞

オブジェクト指向のパラダイム（概念と原則）、パラグラフ（構造モデリングと振る舞いモデリング）については、必ず説明すること。

科目終了試験学修のポイント

１．ポリモーフィズム（多態性）について

＜ポイント＞

身近なコンピュータコマンド（たとえば Ctrl C / Ctrl V）をもって簡単にポリモーフィズムの意味を説明し、メリットについて解説する。オブジェクト指向の一つの大きな特徴であることについて述べる。

２．クラスとオブジェクトの関係について

＜ポイント＞

クラスとオブジェクトを定義し、簡単な例を挙げる（プログラミングの例である必要はない）。

３．クラス図における名前、属性、操作について

＜ポイント＞

UML を簡単に紹介し、クラス図について解説する。

４．ユースケース図におけるアクターとユースケースおよび、それらの関係について

＜ポイント＞

UML を簡単に紹介し、ユースケース図を説明し、ユースケースとアクターを定義し、例を挙げる。

５．状態マシン図における状態と遷移について

＜ポイント＞

UML を簡単に紹介し、状態マシン図を説明し、例を挙げる。

６．抽象クラスとインタフェースについて

＜ポイント＞

UML を簡単に紹介し、クラス図とインタフェースを説明し、インタフェースのメリットについて解説する。例を挙げる。

教科書

三苫健太『オブジェクト指向開発トレーニングブック』技術評論社。

参考文献

井上樹『いちばんやさしいオブジェクト指向の本 【第二版】』技術評論社。

科目コード	システム設計演習（２単位）	登録年次	履修方法
7780		３年	ＳＲ
教員名	竹内俊彦、ロペス・ルイス・ミゲル		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

ソフトウェア開発において、UML 図はシステムの設計図といえる。しかし、いかに優れた設計図があっても、それを実現する方法を知らなければ全く意味を成さない。本科目では、UML で記述された図を元に、クラスやインターフェースをプログラミング言語で記述し、実際のプログラムの実装法を学ぶ。

スクーリングは、実習形式で行い、各自が作成した UML 図および、それを Java 言語でプログラム化した成果の提出をもって科目終了試験に換える。よって、基礎的な Java プログラミングを学修してからスクーリングに臨むこと。また、本科目のスクーリングを受けるのはシステム設計のスクーリングを受けた後の方が望ましい。

学修内容

1	クラスとオブジェクト（pp.18-19） オブジェクト指向のパラダイム、クラスはオブジェクトの“設計図”である。オブジェクトは必ずあるクラスのインスタンスである。別の言い方で、クラスの実体化でオブジェクトは生成する、書き方は「ClassX object1 = new ClassX;」である。これで、ClassX をもとに、メモリ内に object1 という新しいオブジェクトは生成される。
2	JAVA プログラムの基本構成・クラスのフィールド、メソッド、コンストラクタ（pp.20-26） JAVA のプログラムは複数のクラスから構成され、プログラムの実行は、各クラスが実体化したオブジェクト群が相互にメッセージをやりとりしながら行われる。各オブジェクトは、実体化したクラスのフィールド（古典的プログラミングでは変数に相当）を受け継ぎ、そのフィールドに値が入る。それらの値はメソッド（古典的プログラミングでは関数に相当する）によって変更される。クラスの中に、必ず「コンストラクタ」はあり、コンストラクタによって実体化が可能になる。
3	JAVA プログラムのコメントについて（pp.30-32） 特に大型プログラムの場合、コードだけを見てプログラムのメンテナンスを行うことがほぼ不可能である。JAVA では、「/**/」や「//」でテキスト囲むとそのテキストはプログラム文として認識されないので、コメントに使う。このフィールドの由来や、このメソッドは何をするメソッドなのかを記述する。
4	JAVA での文字の扱い（pp.33-34） プログラムはユーザに対して簡単な操作案内を表示したり、フィールドの値の入力を要求したり、プログラムの現状を報告したりなどしなければならない。そのために文字列の表示機能は欠かせない機能であり、JAVA では、コンピュータ出力オブジェクト System.out に print と println のメソッドが用意されている。
5	JAVA のメソッド（pp.40-43） プログラムの実行中、様々なオブジェクトの情報（つまりフィールドの値）は変更される。その変更はメソッドで行う。古典的なプログラミングでは「関数」に相当するもので、メソッドには「引数」（パラメータ）を与えることもでき、呼び出したオブジェクトに「戻り値」を返させることもできる。
6	JAVA の基本データ型・型の変換（pp.49-50、pp.57-58） JAVA は、扱うことができる基本データ型が用意されている。p.50 の表 3.1 をよく理解する。浮動小数点数のフォーマットに関して、JAVA は IEEE754 標準規格を導入している。文字や整数に関しては比較的“自然”な表現はあるが、小数点数に関してはそれがないため事態は若干複雑である。IEEE754 規格を調べて、よく理解する。
7	JAVA のリストとイテレーター（pp.107-118） プログラミング言語では簡単に配列（「アレー」とも）を扱えることが大切である。JAVA では、そのために ArrayList というクラスがライブラリで用意されている。そのクラスには配列の要素数を計算するメソッド、オブジェクトを追加および削除するためのメソッドが用意されている。また配列に対して Iterator クラスを実体化することによって逐次処理は可能である。
8	JAVA のアクセス制御、パッケージとアクセス修飾子（pp.146-155） UML と同様、JAVA には「パッケージ」の概念はある。大規模プログラムの整理整頓には欠かせない道具である。また、UML の可視性に相当する JAVA の概念もある。JAVA では「可視性」は「情報隠蔽」というが、4 種類ある。各フィールドやメソッドの前に「修飾子」と呼ばれるキーワードで指定する。キーワードを指定ないのは UML のパッケージ可視性に相当する。
9	JAVA の継承・extends の使い方、 super の使い方（pp.173-183） 継承では、スーパークラスの構造と機能がサブクラスにそのまま引き継がれるため、サブクラスでスーパークラスのコードを再利用できる。例えば、何かの操作をする機能があった場合、サブクラスではその機能を再利用できる。これにより、一連の操作を抽象化したまま機能の追加を行う事ができ、コードの再利用性が向上する。
10	JAVA の抽象クラス（pp.187-195） 抽象クラスの概念も、オブジェクト指向においては大変、重要な概念である。特にモデリングにおいて、複雑なシステムのクラスの“整理整頓”に役立つ、モデルの保守性のために欠かせないクラス類である。抽象クラスをもとにオブジェクトを作成することはできないが、抽象クラスから継承したクラスを定義することができる。
11	JAVA のインターフェース・implements の使い方（pp.201-202） インターフェースをよく理解する。JAVA では多重継承が許されないが、１クラスは複数のインターフェースを持つことができるので、場合によっては多重継承の代わりに使用できる。たとえば携帯端末は、電話できるし、写真も撮れるが携帯端末は電話できるカメラでもなければ、写真を撮れる電話機でもない。JAVA の考え方では、「写真撮影」と「電話会話」の２つのインターフェースを定義し、携帯端末というクラスにそれを実装する（implement）。

12	JAVA のポリモーフィズム（pp.207-209） 日本語では「多相性」、「多態性」、「多様性」などとよぶ。対義語はモノモーフィズム(Monomorphism)、単態性、単相性で、プログラミング言語の各要素が唯一の型に属するという性質を指す。自然言語（日常の会話に使う言葉）ではポリモーフィズムをよく使う。例えば「演奏する」という表現、当然ピアノの演奏の仕方とチェロの演奏の仕方は全く違うものであるが、「演奏する」で通じる。その“曖昧さ”はオブジェクト指向プログラミングでは許される。
13	JAVA のファイル入力（pp.211-213） JAVA では、ファイルを操作するためにライブラリ java.io やその下にある java.io.File などが用意されている。それらのライブラリには、ディスクに格納されているファイルの内容をプログラムで読み出すためのいくつかのメソッドが定義されている。たとえば Scanner()、nextline()など。
14	JAVA の I/O 例外処理（pp.214-215） I/O（入出力）処理の際、様々なエラーが起こりうる。エラーが起きた場合、当該の I/O 処理を試みたプログラムに必ずコンピュータの OS はそのエラーを知らせる信号を送る。その信号を察知して適切にプログラムを終了させないと、ユーザにとっては、メッセージもなしで不明の原因でコンピュータがフリーズしたり、プログラムは突然終了したりするという現象として現れる。したがって、プログラムを組む時に、必ず I/O 例外処理を行う必要がある。そのために、JAVA では IOException というクラスが用意されている。
15	JAVA のファイル出力（pp.216-218） JAVA では、ファイルを操作するためにライブラリ java.io やその下にある java.io.File などが用意されている。それらのライブラリには、ディスクに新規でファイルを作成し、その内容をプログラムで書き込むためのいくつかのメソッドが定義されている。たとえば Printwriter()、File()など。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 UML の記述に用いられる各図に関して説明せよ。
＜ポイント＞
構造モデリングにおけるクラス図・オブジェクト図・ユースケース図・コンポーネント図・配置図、振る舞いモデリングのシーケンス図・コラボレーション図・ステートチャート図、アクティビティ図を記述する。特に、クラス図、シーケンス図に関しては具体例を書く。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング終了時にコンピュータを使用した実技試験を行う。

１．与えられた仕様を満たす UML 図（クラス図、オブジェクト図、シーケンス図、コラボレーション図）を作成せよ。
＜ポイント＞
科目「システム設計演習」の教科書やインターネットで上記 UML 図を復習する。

２．UML 図から Java のプログラムコードを作成せよ。
＜ポイント＞
ソフトウエア Astah*の操作でクラス図を JAVA ソースコードに変換するコマンドをよく理解する。

３．ポリモーフィズムを実現するインターフェースを設計せよ。
＜ポイント＞
JAVA のポリモーフィズムとインターフェースの概念をよく理解する。
特にインターフェースと抽象クラスの違いを理解する。

４．ポリモーフィズムを実現する抽象クラスを設計せよ。
＜ポイント＞
JAVA のポリモーフィズムと抽象クラスの概念をよく理解する。特にインターフェースと抽象クラスの違いを理解する。

５．I/O 例外処理を含むクラスを設計せよ。
＜ポイント＞
教科書 p.214 の例外処理をよく理解すること。

６．教科書にない基本図形（多角形）を追加しプログラムを修正せよ。
＜ポイント＞
Polygon クラスを使うこと。

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

加藤暢、他『オブジェクト指向 JAVA プログラミング入門』近代科学社。

参考文献

河合昭男、他『Java デベロッパーのための UML 入門』ソフトバンククリエイティブ。
Russ Miles Kim Hamilton『入門　UML 2.0』オライリー・ジャパン。　（科目「システム設計」の指定教科書）

※科目コード1950：R履修／1951：ＳR履修

科目コード	死生学（２単位）	登録年次	履修方法
1950/1951		１年	ＳR/R※
教員名	小笠原眞紀、鈴木康明、辻本理絵子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

今日、日本では脳死、臓器移植、尊厳死などに代表される生命の在り方について社会的な関心が高まっている。本科目では、これらの事柄に対する思索を深めるなかで、一般的な死生学の思想や実践とは何か考察し、その上で死、苦、老の問題や生命倫理(bioethics)における倫理的ジレンマ(ethical dilemma)、意思決定(decision-making)、生命工学(biotechnology)などの諸側面について言及する。前例のない問題について取り上げ、新しい科学技術や知識等について人類社会における意義も併せて考える。また、死の背後にある宗教観、倫理観についても諸外国の例を紹介しながら考察を深める。

学修内容

1	教科書 pp.2-20。 死生論を学ぶための導入である。生命の尊厳とはどのようなことか、筆者の考えを参考にしながら、自分の意見をまとめること。 【死生観】【バイオエシックス】
2	教科書 pp.22-30。 現在、医療の倫理はどうなっているのか。尊厳ある死とは何か、そもそも人の死とはどういうことなのかについて自分の意見をまとめること。 【尊厳死】【出生前診断】
3	教科書 pp.31-40。 ここでは生きるということについて考えること。生きている意味とはどういうことか、また寿命について自分の意見をまとめること。 【自己認識】【生命の質】
4	教科書 pp.42-54。 今日的な課題である脳死の事柄を中心に考えること。脳死はこれまでの心臓死と何が異なるのか。脳死について正確に理解した上で自分の意見をまとめること。 【心臓死】【判定基準】
5	教科書 pp.77-85。 インフォームド・コンセントについて理解する。インフォームド・コンセントの前提条件とは何か、法理の意味とは何かについて自分の意見をまとめること。 【個人主義】【権利】
6	教科書 pp.85-94。 さらにインフォームド・コンセントを取り上げ理解を深める。訳語の意味からその内容を検討し、紹介された事例をもとに自分の意見をまとめること。 【医師の裁量権】【不確かさ】
7	教科書 pp.95-101。 日本の社会、文化になじむインフォームド・コンセントとはどのようなものが適切か。紹介されている事例をもとに自分の意見をまとめること。 【人権意識】【契約概念】
8	教科書 pp.102-112。 告知に際して考慮すべき事柄が述べられている。これら医療関係者からのメッセージを読み、告知の事柄に対する自分の意見をまとめること。 【道義的倫理的意味】【告知の時期】
9	教科書 pp.114-124。 ここでいう賢い患者とはどのようなことを意味するのか。また患者の痛みがわかる医療従事者になるためには何が必要か、自分の意見をまとめること。 【意思表示】【自立】
10	教科書 pp.125-133。 リビング・ウイル、臓器提供、尊厳死、安楽死について、我が国も含め世界はどのように考えているか。それらに対する自分の意見をまとめること。 【リビング・ウイル】【臓器提供】
11	教科書 pp.130-133。 もう一度安楽死について考えること。欧米の状況を参考に、消極的、積極的の二つの安楽死について自分の意見をまとめること。 【消極的安楽死】【オランダ】
12	教科書 pp.176-185。 死後の臓器提供について、世界と我が国では動きに差が見られる。臓器を移植するとはどのようなことなのか自分の意見をまとめること。 【ドナー】【レシピエント】
13	教科書 pp.186-195。 臓器移植には三種類あるが、それらを正確に理解した上で、生体臓器移植についての自分の意見をまとめること。 【患児】【プレッシャー】
14	ホスピス、緩和ケアについて、インターネット情報や新聞記事などにあたり、悪性新生物末期の方に対するかかわりについて自分の意見をまとめること。 【ホスピス】【ケア】
15	自死（自殺）問題について、インターネット情報や新聞記事にあたり、その原因や遺族へのかかわりについて自分の意見をまとめること。 【自死】【遺族】

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 「生命」の自己決定に関する事柄について意見を述べよ。

＜ポイント＞

死の判定や臓器移植、さらには告知やリビングウイルなどの事柄を通して、自分が気がついたことや考えた問題点、課題を明らかにすること。

科目終了試験学修のポイント

１． 脳死と臓器移植について

＜ポイント＞

死の決定と臓器移植の関係についてどのように考えているか述べること。

２． 安楽死について

＜ポイント＞

生命の「質」についてどのように考えているか述べること。

３． インフォームドコンセントについて

＜ポイント＞

知る権利についてどのように考えているか述べること。

４． ホスピスの役割について

＜ポイント＞

悪性新生物末期の方にはどのようにかかわることが必要なのか述べること。

５． リビング・ウイルについて

＜ポイント＞

死を自分でデザインすることについてどのように考えているか述べること。

６． 自死（殺）について

＜ポイント＞

残された遺族にどのようにかかわるのか述べること。

教科書

星野一正『医療の倫理』岩波新書。

参考文献

村上国男『医の倫理』農山漁村文化協会。

※科目コード1280・1281：ＳＲ履修／科目コード1282：Ｒ履修

科目コード	死生論（２単位）	登録年次	履修方法
1280/1281/1282		１年	ＳＲ/Ｒ※
教員名	小笠原眞紀、鈴木康明、辻本理絵子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

今日、日本では脳死、臓器移植、尊厳死などに代表される生命の在り方について社会的な関心が高まっている。本科目では、これらの事柄に対する思索を深めるなかで、一般的な死生学の思想や実践とは何か考察し、その上で死、苦、老の問題や生命倫理(bioethics)における倫理的ジレンマ(ethical dilemma)、意思決定(decision-making)、生命工学(biotechnology)などの諸側面について言及する。前例のない問題について取り上げ、新しい科学技術や知識等について人類社会における意義も併せて考える。また、死の背後にある宗教観、倫理観についても諸外国の例を紹介しながら考察を深める。

学修内容

1	教科書 pp.2-20。 死生論を学ぶための導入である。生命の尊厳とはどのようなことか、筆者の考えを参考にしながら、自分の意見をまとめること。 【死生観】【バイオエシックス】
2	教科書 pp.22-30。 現在、医療の倫理はどうなっているのか。尊厳ある死とは何か、そもそも人の死とはどういうことなのかについて自分の意見をまとめること。 【尊厳死】【出生前診断】
3	教科書 pp.31-40。 ここでは生きるということについて考えること。生きている意味とはどういうことか、また寿命について自分の意見をまとめること。 【自己認識】【生命の質】
4	教科書 pp.42-54。 今日的な課題である脳死の事柄を中心に考えること。脳死はこれまでの心臓死と何が異なるのか。脳死について正確に理解した上で自分の意見をまとめること。 【心臓死】【判定基準】
5	教科書 pp.77-85。 インフォームド・コンセントについて理解する。インフォームド・コンセントの前提条件とは何か、法理の意味とは何かについて自分の意見をまとめること。 【個人主義】【権利】
6	教科書 pp.85-94。 さらにインフォームド・コンセントを取り上げ理解を深める。訳語の意味からその内容を検討し、紹介された事例をもとに自分の意見をまとめること。 【医師の裁量権】【不確かさ】
7	教科書 pp.95-101。 日本の社会、文化になじむインフォームド・コンセントとはどのようなものが適切か。紹介されている事例をもとに自分の意見をまとめること。 【人権意識】【契約概念】
8	教科書 pp.102-112。 告知に際して考慮すべき事柄が述べられている。これら医療関係者からのメッセージを読み、告知の事柄に対する自分の意見をまとめること。 【道義的倫理的意味】【告知の時期】
9	教科書 pp.114-124。 ここでいう賢い患者とはどのようなことを意味するのか。また患者の痛みがわかる医療従事者になるためには何が必要か、自分の意見をまとめること。 【意思表示】【自立】
10	教科書 pp.125-133。 リビング・ウイル、臓器提供、尊厳死、安楽死について、我が国も含め世界はどのように考えているか。それらに対する自分の意見をまとめること。 【リビング・ウイル】【臓器提供】
11	教科書 pp.130-133。 もう一度安楽死について考えること。欧米の状況を参考に、消極的、積極的の二つの安楽死について自分の意見をまとめること。 【消極的安楽死】【オランダ】
12	教科書 pp.176-185。 死後の臓器提供について、世界と我が国では動きに差が見られる。臓器を移植するとはどのようなことなのか自分の意見をまとめること。 【ドナー】【レシピエント】
13	教科書 pp.186-195。 臓器移植には三種類あるが、それらを正確に理解した上で、生体臓器移植についての自分の意見をまとめること。 【患児】【プレッシャー】
14	ホスピス、緩和ケアについて、インターネット情報や新聞記事などにあたり、悪性新生物末期の方に対するかかわりについて自分の意見をまとめること。 【ホスピス】【ケア】
15	自死（自殺）問題について、インターネット情報や新聞記事にあたり、その原因や遺族へのかかわりについて自分の意見をまとめること。 【自死】【遺族】

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 「生命」の自己決定に関する事柄について意見を述べよ。

＜ポイント＞

死の判定や臓器移植、さらには告知やリビングウイルなどの事柄を通して、自分が気がついたことや考えた問題点、課題を明らかにすること。

科目終了試験学修のポイント

１． 脳死と臓器移植について

＜ポイント＞

死の決定と臓器移植の関係についてどのように考えているか述べること。

２． 安楽死について

＜ポイント＞

生命の「質」についてどのように考えているか述べること。

３． インフォームドコンセントについて

＜ポイント＞

知る権利についてどのように考えているか述べること。

４． ホスピスの役割について

＜ポイント＞

悪性新生物末期の方にはどのようにかかわることが必要なのか述べること。

５． リビング・ウイルについて

＜ポイント＞

死を自分でデザインすることについてどのように考えているか述べること。

６． 自死（殺）について

＜ポイント＞

残された遺族にどのようにかかわるのか述べること。

教科書

星野一正『医療の倫理』岩波新書。

参考文献

村上国男『医の倫理』農山漁村文化協会。

科目コード	自然科学（２単位）	登録年次	履修方法
1490		１年	R
教員名	荒野多門、泉二奈緒美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

目まぐるしく進化する科学技術の基礎的な概念やしくみを理解し、大学程度の一般教養を身につけるとともに、就職や採用試験などで課される自然科学の領域（物理、化学、生物、地学など）の必要な知識について学修する。

学修内容

1	イントロダクション：自然科学で取り扱う分野 自然科学は大きく、物理、化学、生物、地学の４分野に分類される。しかし、最近の自然科学では、それぞれの分野について厳密な境界を設けるのが困難である。授業のイントロダクションとして、自然科学が扱う分野について学修する。
2	物理学①　力の釣り合い 物体の間に存在する相互作用につき、ニュートン力学を中心に学ぶ。特に、てこの原理、滑車、ばね（フックの法則）、浮力（アルキメデスの原理）などについて、具体例をあげて学修する。
3	物理学②　運動とエネルギー ニュートン力学をもとに、速度と加速度、等速度直線運動、加速度運動などについて学ぶ。運動方程式から運動軌跡を求める。運動エネルギー、位置エネルギー、熱エネルギーとの関係、運動量保存の法則などについても学ぶ。
4	物理学③　原子・分子 物質の基本を構成する原子の構造（原子核中の陽子・中性子、電子）と原子核崩壊・核分裂、電離放射線（ガンマ線、X線）の発生メカニズムについて学ぶ。
5	化学①　物質の三態 物質は、気体、液体、固体の三態からなるが、それぞれの状態の特性について、温度と圧力との関係を中心に学ぶ。 気体ではボイル・シャルルの法則、液体では溶解度、固体では結晶と原子・分子間力との関係について学ぶ。
6	化学②　周期律表と原子の性質 周期律表とはどのように作成されたのか、また配置されている原子の特性について理解する。特に、第１～第３周期の原子についてはイオンの形成について学ぶ。
7	化学③　化学反応 化学反応は、原子・分子の結合を変化させてエネルギーレベルの異なる状態に変化することであるが、反応前後で質量は変化しない。代表的な化学反応として酸化・還元反応があり、電池や電気分解を例にして学修する。
8	生物学①　細胞の構造 生命体の基本構造である細胞について、細胞膜、細胞内小器官（ミトコンドリア、ゴルジ体、リボゾームなど）、核とＤＮＡについて、構造と機能について学ぶ。さらに、遺伝の法則についても学ぶ。
9	生物学②　光合成、呼吸 細胞が活動するためのエネルギーは、動物細胞、植物細胞のいずれもエネルギー源を酸化させることによって産生している。一方、植物は葉緑体において光エネルギーと水、二酸化炭素から炭水化物を産生する。動物・植物の相違点・類似点について、呼吸・光合成を踏まえて学修する。
10	生物学③　エコシステム 地球上に生命が維持されるためには、動物・植物を含めた生物多様性が必須の要件である。生産者、消費者、分解者の関係について理解し、生物多様性や環境保全の重要さについて学ぶ。
11	地学①　太陽系と惑星 太陽系は太陽と８個の惑星、多数の小惑星や準惑星、衛星などから構成されている。惑星は、構成成分と構造から、地球型、木星型、天王星型に分類されている。太陽、惑星の特徴、惑星の自転と公転について学ぶ。
12	地学②　大気と海流、天気 地球は大きく、大気圏、水圏、地圏の３圏に分類される。ここでは、大気圏と水圏について、気象現象、海洋現象について、両者の関連を考慮しながら学ぶ。また、大気汚染、海洋汚染、温室効果の生態系への影響についても学ぶ。
13	地学③　地質と地殻変動 ここでは地圏を取り上げる。岩石（火成岩、堆積岩、変成岩）、火山、地殻変動と地震・津波について学ぶ。地球の内部構造についても学ぶ。
14	自然科学総合①　宇宙の歴史と構造 現在の宇宙は137億年間に起こったビッグバンに始まるとされている。星雲の構造、恒星の誕生と爆発、原子の形成、45億年前の地球の誕生までの歴史などについて学ぶ。

15	自然科学総合②　生物進化の歴史 地球が誕生してから約 5 億年経過した 40 億年前に、生命が誕生したと考えられている。原始生命体からヒトに至るまでの生物進化の歴史について、形態的変化に加えて、最新の分子生物進化の概念を含めて学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】プレートと地震の発生について述べよ。

＜ポイント＞

日本付近では、海洋プレート（太平洋プレート、フィリピン海プレート）と大陸プレート（北米プレート、ユーラシアプレート）が接しており、海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込んでいる。まず、プレートの形成と性質について述べる。次に、プレートの移動とプレート境界型および内陸型地震の発生メカニズムを述べ、災害について考察する。

科目終了試験学修のポイント

1．水力発電における発電量と水量、落差の関係について

＜ポイント＞

水力発電では水の位置エネルギーを運動エネルギーに変換し、それをさらに電気エネルギーに変換する。位置エネルギー（ｍｇｈ＝ジュール）から電気エネルギー（ジュール→ワット）の算出を、具体例を挙げて説明する。

2．原子核崩壊と放射線、半減期について

＜ポイント＞

原子核が不安定な場合、自然と崩壊する。崩壊時に放出される粒子、形成される原子核、電磁波によるエネルギーの放出について考察する。また、原子核の崩壊スピードについても、具体的な核種を挙げて説明する。

3．周期律と元素の性質について

＜ポイント＞

原子は、最外側を回る電子数によって化学的特徴が決まっている。周期律表の 1 族（H、Li）～18 族（He, Ne）の原子について、性質を解説する。

4．地球温暖化の原因と環境への影響について

＜ポイント＞

温室効果ガスとして二酸化炭素やメタンが注目されている。これらの化合物の発生原因と、環境温の上昇が気象や生物に及ぼす影響について考察する。

5．日本における植物群落の垂直分布について

＜ポイント＞

日本の気候は基本的には温帯に属すが、南西諸島は亜熱帯、北海道は亜寒帯に属す。また、平均気温は標高が 100m 高くなると 0.6℃低下するので、高所では寒帯に属す地域がある。日本各地について、標高ゼロからに高地に至るまでの植物分布の特徴について説明する。

6．火山の形とマグマの性質について

＜ポイント＞

地下のマグマが地表に噴出したものが溶岩であり、粘性が低ければ薄く広がり、高ければ盛り上がる。マグマの温度・粘性によってどのような形の火山が作られるか考察する。

教科書

資格試験研究会『光速マスター　自然科学』実務教育出版。

参考文献

杵島正洋、他『新しい高校地学の教科書』講談社ブルーバックス。
左巻健男、他『新しい高校化学の教科書』講談社ブルーバックス。
栃内新、他『新しい高校生物の教科書』講談社ブルーバックス。
山本明利、他『新しい高校物理の教科書』講談社ブルーバックス。

科目コード	肢体不自由教育Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
6300		２年	ＳＲ
教員名	上松勝二郎、須藤典征		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本講義では、近年、障害の重度重複化・多様化が進む肢体不自由児について、その発達や障害特性について理解するとともに、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた支援を核とした、肢体不自由児への教育の在り方、指導計画の立て方、実際の指導の方法、評価の仕方について論じる。また、重度重複障害や医療的ケアを要する児童生徒への医療との連携による教育の在り方や、肢体不自由児の将来の自立をめざした教育を実践するために必要となるキャリア支援や進路指導、地域との連携の重要性について、理解を深め、支援の実際について学びを深める。

学修内容

1	肢体不自由児の教育（教科書 pp.9-20） わが国の肢不自由教育の発足や現在に至るまでの発展の歴史、養護学校教育の義務制について理解を深める。
2	肢体不自由教育の現状と仕組み（教科書 pp.21-25） 肢体不自由教育対象児童生徒の障害の重度・重複化、多様化の現状や、肢体不自由児の学ぶ場について理解する。
3	肢体不自由教育の目標・教育課程　（教科書 pp.91-102） 教育課程編成の基本を理解すると共に、編成の在り方、重複障害者等に関する教育課程の取り扱いについて知る。
4	自立活動とは　（教科書 pp.103-113） 肢体不自由特別支援学校の教育課程における自立活動の意義と自立活動の指導内容の取扱いの基本を理解する。
5	個別の指導計画に基づく支援（教科書 pp.109-113、pp.174-175） 個別の指導計画とは何か、その内容と指導計画の作成手順及び、指導計画に基づく支援の在り方について理解する。
6	肢体不自由児の発達①　発達を理解する（教科書 pp.66-79） 発達とは何か、人間は環境の中で、人とのかかわりを通してどのように発達していくのか深く理解する。
7	肢体不自由児の発達②　障害特性を理解する　（教科書 pp.80-90） 視知覚や知能、行動特性など肢体不自由児の発達における障害特性について深く理解する。
8	自立活動における取り組み①　自立活動のおける身体の動きの支援（教科書 pp.114-126） 肢体不自由児にとって、姿勢と運動・動作の基本的技能を促す支援が大事であるため、指導内容や指導の進め方を学ぶ。
9	自立活動における取り組み②　コミュニケーションの支援（pp.127-138、参考文献） 自立をめざす上で大事な要素となるコミュニケーション機能と現場で実践されている支援方法について具体的に学ぶ。
10	肢体不自由教育における各教科の支援　（教科書 pp.139-152） 肢体不自由があることで生じる学習上の困難とは何か、各教科において求められる工夫とはどのようなものか知る。
11	教育における医療的ケアの取り組みと医療との連携（教科書 pp.159-165、参考文献） 医療的ケアとは何か、教育現場では、どのような支援がどのような子どものためになされているのか深く理解する。
12	重度・重複障害のある児童生徒への支援　（pp.166-176） 重度・重複障害のある児童生徒の実態把握のポイントや健康の保持増進、摂食指導、排泄指導について学ぶ。
13	キャリア教育と進路指導について　（pp.177-182） キャリア教育とは何か、その定義や意義について理解すると共に、進路指導の実際について知る。
14	「個別の教育支援計画」に基づく支援と地域との連携　（pp.183-186） 個別の教育支援計画とは何か、その内容と作成にあたって求められる視点について、また地域との連携の在り方を学ぶ。
15	肢体不自由教育における今後の課題（pp.187-204） 障害者基本法の改正や障害者の権利条約の批准に向けた教育分野における取組や教育の充実に向けた課題について考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 肢体不自由がある子どもの特別支援教育の現状と課題について述べよ。

＜ポイント＞

テキストや参考書から特別支援学校（肢体不自由養護学校等）の位置づけと役割を理解する。さらに、可能なら地元の学校等の公開授業等で体験したことを整理するとよい。

科目終了試験学修のポイント

1．肢体不自由がある子どもの発育・発達特性について

＜ポイント＞

肢体に不自由なところがあることや障害の特性によって、発育・発達にも影響がでることもあることを踏まえる。

2．肢体不自由教育のあゆみと「特別支援教育」における肢体不自由教育について

＜ポイント＞

特殊教育から特別支援教育への変革とそれにおける肢体不自由教育について述べる。

3．肢体不自由教育の目標と教育課程の編成について

＜ポイント＞

学習指導要領等を踏まえ、教育課程の具体的な編成にみる特徴を述べる。

4．個別の指導計画と個別の教育支援計画に基づく支援とは

＜ポイント＞

個に応じた支援を実施するためのそれぞれの計画の違いを明確に示す。

5．自立活動を主とした教育の取り組みについて

＜ポイント＞

自立活動とは何か、目標と6つの区分を示しながら述べる。

6．教育における医療的ケアの取り組みと医療との連携について

＜ポイント＞

医療的ケアとは何か、教育における取り組みと医療との連携の必要性について述べる。

教科書

川間健之助、西川公司『肢体不自由児の教育』一般財団法人放送大学教育振興会。

参考文献

日本肢体不自由教育研究会監修『肢体不自由教育シリーズ2　コミュニケーションの支援と授業づくり』慶応義塾大学出版会。
日本肢体不自由教育研究会監修『肢体不自由教育シリーズ3　これからの健康管理と医療的ケア』慶応義塾大学出版会。

科目コード	肢体不自由教育Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
6310		３年	R
教員名	須藤典征		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

正常な運動発達のための援助とともに、学習レディネスの基礎となる体験不足を補充して認識の基礎を培うために、より多くの直接経験を用意する必要があることを理解する。また、特に重度の肢体不自由と重複することの多い知的発達の遅れを伴う空間や知覚の認知、環境的要因の関与、行動特性、および、医療的ケアを要する内臓疾患を伴う等の教育について学ぶ。さらに、発育期を過ぎると、その子が持っている能力を伸ばしていくことが重要で、損失した機能を回復させることから、新たな動作の学習や代償機能の伸張、自助具や支援器具の活用といったＱＯＬの向上につながるような視点について学ぶ。

学修内容

1	肢体不自由の理解。その起因疾患と現状　（教科書 p.76～） 肢体不自由とはどのような状態か、発症原因や起因疾患、起因疾患別特性や必要とする支援等について理解する。
2	肢体不自由児（脳性まひ）の発達特性　（教科書 p.77～） 肢体不自由児の多くを占める脳性まひの定義、発症原因タイプ別特性、発達・発育特性等について理解する。
3	運動機能の発達と支援 肢体不自由児の運動機能の発達を支援するために必要となる定型的な運動機能の発達について理解すると共に、運動機能の発達に遅れを有する肢体不自由児への支援の在り方について医療と療育、教育の視点から学ぶ。
4	肢体不自由児の知的発達　（教科書 p.78～） 障害の重度重複化傾向の中、肢体不自由と知的障害を合わせ有する児童・生徒が増加傾向にある。ここでは、肢体不自由児の知的発達の状況と教育的課題について理解する。
5	認知の発達 認知とは何か、認知とはどのように発達していくのか、認知発達の仕組みについて理解すると共に、発達支援の在り方について考察する。
6	社会性、コミュニケーション機能の発達（教科書 p.77～） 肢体不自由児のコミュニケーション機能及び社会性の発達特性について、教科書 p.86～の言語障害や参考文献を参照しながら理解する。また、実際の発達支援の方法についても考察する。
7	肢体不自由児の心理特性（教科書 p.79～） 肢体不自由のある子どもの心理特性があるとしたらどのようなことが考えられるか、子どもの目線に立って深く考察する。
8	肢体不自由児の健康特性・医療的ケア（教科書 p.176～及びさらに学びたい場合は、参考文献で深める） 肢体不自由児に見られる健康特性や健康上の問題点について学ぶと共に、近年必要とする児者が増加傾向にある医療的ケアとは何かについて理解する。
9	重度重複障害の理解　（教科書 p.94～） 近年増加傾向にある重度重複障害とはどのような障害か、障害の原因、障害の特性についても理解を深める。
10	肢体不自由児の自立（自律）とは（教科書 p.18～を参考にする） 自立とは、そして自律とは何か、理解した上で、肢体不自由のある子の自立とはどのようなことを意味するか、考察する。
11	肢体不自由児の保育（教科書 p.80～） 肢体不自由児の就学前の保育や療育、幼児教育とはどのようなものか、専門的な支援の内容等について学ぶと共に、保育等における配慮点などについても理解する。
12	肢体不自由児の教育（教科書 p.80～） 肢体不自由児の教育の目標や教育の場にどのようなものがあるのか、また、教育の現状と課題についても理解を深める。
13	学習レディネス（教科書 P81、教科書 p.83～病弱も参考にする） 学修する際に、基礎条件として必要となる学習レディネスとはどのようなことか、肢体不自由のある子に培いたい学習レディネスについて理解する。
14	肢体不自由児に必要な環境整備①バリアフリー環境（教科書 p.81～） バリアフリーの定義について理解し、バリアフリー環境とはどのような環境なのか、現状と課題について考察する。
15	肢体不自由児に必要な環境整備①自助具、支援器具、遊具・教材（教科書 p.81～） 自助具や支援機器は、肢体不自由のある児者にとって生活をしていく上で不可欠なものである。それらにはどのようなものがあるか学ぶと共に、教育に欠かせない遊具や教材についても理解を深める。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 肢体不自由がある子どもの自立（自律）と教育の役割について述べよ。
＜ポイント＞
発育期を過ぎると、その子が持っている能力を伸ばしていくことが重要で、損失した機能を回復させることから、新たな動作の学習や代償機能の伸張、自助具や支援器具の活用といったＱＯＬの向上につながるような視点が重要だと言われている。その視点から考察すること。

科目終了試験学修のポイント

１．肢体不自由がある子どもの知的発達について
＜ポイント＞
肢体不自由児に知的発達が生じる背景、その状態、支援の遅れによる二次障害について、触れ、アセスメント方法、学習の工夫等について示す。

２．肢体不自由がある子どもの心理的特性について
＜ポイント＞
いかなる特性が見られるか、それを特徴づけている要因を説明し、配慮や援助について述べる。

３．肢体不自由がある子どもの保育・教育について
＜ポイント＞
なぜ、早期療育（保育）が重要なのか、その支援の内容を含めながら説明すると共に、保育や教育に不可欠な医療との連携、保護者との連携などについて論じる。

４．肢体不自由がある子どもの学習レディネスとしての体験について
＜ポイント＞
肢体不自由があると、なぜ経験の不足につながりかねず、学習レディネスの形成の足かせとなるのか、分かりやすく説明し、必要な支援について論じる。

５．肢体不自由がある子どものバリアフリー環境について
＜ポイント＞
バリアフリーの意味について説明し、生活面や教育面でどのような環境整備が求められるか示す。

６．脳性麻痺児の発達特性について
＜ポイント＞
脳性麻痺について説明するとともに、定型発達の場合と比べ、どのような特徴があるか述べる。

教科書

石部元雄、上田征三、他『よくわかる障害児教育　第３版』ミネルヴァ書房。

参考文献

石部元雄、他『特別支援教育ー理解と推進のために』福村出版。
小出進、他『発達障害指導事典（第２版）』学習研究社。
茂木俊彦、他『障害児教育大事典』旬報社。

科目コード	肢体不自由教育総論（２単位）	登録年次	履修方法
6350		２年	R
教員名	須藤　典征		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

基本的には一般的な教育に準じるが、その子に応じた教育が特に重要であることを学ぶ。具体的には、①障害による個人差はあるにしても、年齢に応じた教育環境の重要性、②学習レディネスの基礎となる体験不足を補充するために、より多くの直接経験が必要であること、③親支援を含む地域における教育支援であること、④物的・環境的に一人ひとりに合わせて支援器具をうまく活用し、教育環境や住宅環境の改善をする必要性を理解する。また、教師は、そういった正確な情報や知識・技術を身につけ、その中で子どもたちの社会へのかかわり意識（自立心など）を育てることが期待されていることを学ぶ。さらに、特に重度の肢体不自由と重複することの多い知的発達の遅れを伴う空間や知覚の認知、環境的要因の関与、行動特性、および、医療的ケアを要する内臓疾患を伴う等の教育について学ぶ。

学修内容

1	肢体不自由教育とは、現状と課題　（参考文献②pp.3-13、教科書 pp.202-203） 肢体不自由教育の歩みと、現在の児童生徒および学校教育の現状を知ると共に、現状から浮かびあがる課題を理解する。
2	肢体不自由が学習レディネスの形成に及ぼす影響（参考文献①p.85） 学習レディネスとは何か、またその形成において肢体不自由が及ぼす可能性のある影響について理解しておく。
3	肢体不自由がある子の学ぶ場（教科書 pp.26-28） 肢体不自由のある子を対象とした教育の場の種類や、対象となる児童生徒の状況、教育の特性を知る。
4	肢体不自由がある子の親支援　（参考文献①pp.192-193） 親が必要としている支援とは何か。子どもの障害の受容等の心理的変容を理解し、心に寄り添った支援について学ぶ。
5	生活における環境整備の必要性とその内容（参考文献①p.85、教科書 pp.134-135） 生活におけるバリアフリー環境や、日常生活用具、コミュニケーション補助具などとその活用の意義について学ぶ。
6	肢体不自由教育の教育課程（教科書 pp.91-102） 教育課程の基本を理解すると共に、障害が多様な特別支援学校（肢体不自由）の教育課程編成の在り方を理解する。
7	重度重複障害とは、その特性（教科書 pp.153-159） 重度の肢体不自由と重度の知的障害を合わせ有する児童生徒の特性を生理や発達特性、生活上の配慮点について学ぶ。
8	重度重複障害のある児童生徒の支援について（教科書 pp.159-176） 重度重複障害のある児童生徒の教育に必要な工夫や配慮点（人的環境、物的環境）や個のニーズに応じた支援の実際を知る。
9	自立活動の指導　（教科書 pp.103-113） 自立活動とは何か、教育課程における位置づけや、自立活動の目標および内容、個別の指導計画に基づく支援について学ぶ。
10	運動・動作の発達を促す支援　（教科書 pp.114-126） 肢体不自由のある児童生徒に重要な運動・動作の基本的機能と自立活動における身体の動き等での支援の実際を理解する。
11	認知の発達を促す支援①　視知覚・聴知覚　（教科書 pp.80-82、参考文献②pp.84-96） 肢体不自由のある子の聴知覚、知覚ー運動の発達特性を理解した上で、発達を促す支援の在り方について学ぶ。
12	コミュニケーションを促す支援（教科書 pp.127-138、参考文献②pp.110-122） コミュニケーションの理解と、表出に困難を有する肢体不自由児のコミュニケーション能力を促す支援の在り方を学ぶ。
13	医療的ケアを要する児童生徒への教育における支援（教科書 pp.153-159、参考文献①pp.183-187） 医療的ケアとは何かについて理解し、ケアを要する児童生徒への学校教育における対応や、実施の意義について知る。
14	個別の教育支援計画に基づく支援（教科書 pp.183-186、参考文献①pp.148-151） 一人ひとりのニーズに応じた個別の教育支援計画とは何か、実態把握と作成及び支援の実際について理解する。
15	地域における子育て支援としての福祉サービス（参考文献①pp.190-191） 肢体不自由のある子が家族と地域で豊かに生活していく上でどのような福祉サービスが提供されているか知る。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 肢体不自由がある子どもの「個別の教育支援計画」について述べよ。

＜ポイント＞

「障害者基本計画」(2002 年 2 月)に示された基本方針に「一人一人のニーズに応じて」が、さらに、「障害者基本計画」の実施計画である「新障害者プラン」(2002 年 2 月)でも、「盲・聾・養護学校での個別の支援計画の策定」が明示された。教育の分野でも、「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）参考資料」(2003 年 3 月)のなかで、「個別の教育支援計画」策定が求められていることを理解してまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．肢体不自由がある子どもの個々のニーズに応じた教育環境について

＜ポイント＞

肢体に不自由があっても障害の状態は様々であり、発達段階も異なる中で、個々のニーズに応じた教育に必要な環境について述べる。

2．肢体不自由がある子どもの親支援について

＜ポイント＞

肢体不自由のある子の親が必要としている支援は何か、具体的に示しながら論じる。

3．肢体不自由がある子どもの地域における教育支援について

＜ポイント＞

個々にニーズに応じた支援を個別の教育計画に基づく実践において、地域の関係機関との連携の重要性を踏まえてまとめる。

4．重度の肢体不自由がある子どもの医療的ケアと教師の役割について

＜ポイント＞

医療的ケアとは何か、教育現場でどのように実践され、それにおける教師の役割とは何か、具体的に示す。

5．重度の知的障害を伴う肢体不自由がある子どもの教育について

＜ポイント＞

重度重複障害のある児童・生徒に対する自立活動を主とした教育について、説明する。

6．物的・環境的支援のあり方について

＜ポイント＞

肢体不自由教育の実践に必要な物的・環境的支援について、施設環境、教材・教具、人的環境などについて述べる。

教科書

川間健之助、西川公司『肢体不自由児の教育』一般財団法人放送大学教育振興会。

参考文献

② 石部元雄、他『よくわかる障害児教育』ミネルヴァ書房。
②下山直人『肢体不自由教育ハンドブック』社会福祉法人全国心身障害児福祉財団。

科目コード	肢体不自由者の心理・生理・病理（２単位）	登録年次	履修方法
6260		２年	R
教員名	須藤典征		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

肢体不自由の原因は、脳中枢の損傷に起因するものと他の末梢性の運動器障害群とに分けられるが、脳性まひに代表される脳性疾患と、進行性筋ジストロフィー症に代表される神経・筋疾患や骨・関節疾患、形態異常や外傷性後遺症に関する心理・病理・生理を学ぶ。また、特に重度の肢体不自由と重複することの多い知的発達の遅れや病弱の障害の発生についても学ぶ。医療面での規制が長期化することもあり、日常生活でも、家族や医療機関との連携を図り、まず、身体上・健康上の環境要因を整える知識・技術について学ぶ。また、一人ひとりに合わせて支援器具をうまく活用し、住宅環境や教育環境の改善をはかる点についても理解する。

学修内容

1	障害とは、肢体不自由とは　(教科書第１章 1～5) 「障害」および「肢体不自由」の意味について理解する。また肢体に不自由があるとはどのようなことか、考察する。
2	肢体不自由の理解：障害の概念と病理　(教科書第１章 1～5) 肢体不自由の種類や原因、障害に対する WHO の概念について理解する。
3	肢体不自由者の理解：障害があるということ、障害の受容　(教科書第１章 6) 人は、障害をどのように受容していくのか、本人や親の障害の受容における心理的変容過程について理解する。
4	脳性疾患について①　脳性麻痺の病理　(教科書第１章 6) 脳に起因する疾患の代表的なものに脳性麻痺がある。脳性麻痺とはどのような障害か、原因含めその病理について理解する。
5	脳性疾患について②　脳性麻痺の理解　(教科書第１章 6) 脳性麻痺のある子どもの肢体不自由の状態や、発達および発育特性について理解すると共に、必要となる支援について知る。
6	肢体不自由児者の健康特性、留意すべき事項　(教科書第 14 章) 肢体に不自由がある児者が示す健康特性にはどのようなものがあるか、生活していく上でいかなる配慮が必要となるか考察する。
7	肢体不自由児者の医療ニーズについて　(参考文献 2: p.176) 近年障害の重度重複化に伴い、医療を要する児者が増加傾向にある。肢体不自由児者に必要な医療の内容や医療サービスについて理解する。
8	リハビリテーション、看護について（教科書第 11 章、12 章） リハビリテーションの定義、その種類と内容について学ぶ。また肢体不自由者が必要とする看護についても知識を得る。
9	神経・筋疾患について：進行性筋ジストロフィー等の理解（教科書第 4 章） 肢体不自由の起因疾患の一つである神経・筋疾患とは何か、進行性筋ジストロフィー等代表的な疾患について理解する。
10	二分脊椎とは（水頭症含む）　(教科書第 3 章) 脊髄性疾患の一つである二分脊椎について、肢体不自由の生じる病理的特性と共に、必要な支援と配慮点について学ぶ。
11	手足の先天奇形等の理解　(教科書第 7 章) 手足の先天奇形とはどのようなことか、病理的特性と共に、生活して上での必要な支援と配慮点について学ぶ。
12	重症心身障害、重度重複障害、難病についての理解　(参考文献 2: p.94) 重症心身障害と重度重複障害の定義をふまえた上で、その違いを理解した上で、障害の特性と必要な支援について理解すると共に、重症心身障害や肢体不自由を伴う難病の定義についても学ぶ。
13	肢体不自由児者の生理・心理：思春期の理解　(参考文献 3: pp.77-83) 肢体不自由のある子の思春期に生じやすい生理・心理的状況について理解し、教育で必要となる取り組みについて考察する。
14	肢体不自由児者の生活・家族の理解と支援　(参考文献 2: pp.182-187) 肢体不自由児者が地域でより豊かに生活していく上で必要な支援の内容や家族の視点に立った支援とは何か、考察する。
15	肢体不自由児の教育について　(教科書第 14 章) 肢体不自由児の心理・生理・病理について学んだことを踏まえ、教育に求められるものは何か、教員に求められる資質やスキルとは何か、深く考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 肢体不自由の障害分類と障害特性について述べよ。

＜ポイント＞

まず、肢体不自由の障害について理解する。その上で、各障害の病理及びどのような障害なのかということ（障害特性）について整理する。特に重度の肢体不自由と重複することの多い知的発達の遅れや病弱の障害の発生についても学び、発達上の課題や心理についてもテキストや参考書にもとづき正確にまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．肢体不自由がある子どもの生理・病理・心理について

＜ポイント＞

脳性麻痺等、肢体不自由の原因や障害特性について健康面や心理的特性にふれながらまとめる。

2．重症心身障害・重度重複障害がある子どもの生理・病理・心理について

＜ポイント＞

近年増加傾向にある重度の障害を重複して有する児者の障害特性を健康や心理的特性にふれながらまとめる。

3．肢体不自由がある子どもの発達特性について

＜ポイント＞

肢体の不自由があることで定型発達を前提としながら、どのような発達特性があるのか、身体機能、知的発達、認知発達、社会性の発達などについて述べる。

4．肢体不自由がある子どもの医療について

＜ポイント＞

肢体不自由がある子どもの有する医療ニーズを踏まえ、必要とする医療、リハビリテーション医療・看護の視点を踏まえて述べる。

5．肢体不自由がある子どもの支援器具の活用について

＜ポイント＞

日常生活を送るために必要な支援器具にはどのようなものがあるか、例を挙げてまとめる。

6．肢体不自由がある子どもの適切な教育について

＜ポイント＞

肢体不自由児の教育の目的、制度や就学に向けてに仕組みについて述べる。

教科書

篠田達明『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂2版』金芳堂。

参考文献

[1]日本肢体不自由教育研究会監修『肢体不自由教育シリーズ3　これからの健康管理』慶応義塾大学出版会。

[2]石部元雄、上田征三、他『よくわかる障害児教育　第2版』ミネルヴァ書房。

[3]下山直人『肢体不自由教育ハンドブック』社会福祉法人全国心身障害児福祉財団。

科目コード	視聴覚障害者の心理・生理・病理（２単位）	登録年次	履修方法
6370		３年	ＳＲ
教員名	上田征三、木内正範、須藤典征		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

視覚障害は「盲」と「弱視」に、聴覚障害は聴力の損失によって「軽度、中等度、高度、重度」に大別されるが、その心理・病理・生理について理解する。視覚障害の発達に関しては、体格・平衡感覚・運動能力の遅れや、知的・認知発達が困難になる反面、聴覚や触覚の能力が高くなること、言語発達の遅れについても理解する。聴覚障害は、特に言語能力が、聴力の程度、知能、聴覚活用の程度、失聴の時期、家庭環境や早期療育によって大きく差が出てくることを学ぶ。また、関連分野として言語障害に関する心理・生理・病理についても学ぶ。

以上のことから、視覚障害・聴覚障害、そして、言語障害について学ぶことが、ひとの言語獲得の過程を明らかにし、教育の原点に関わることを理解する。

学修内容

1	視覚障害及び関連する障害について：視覚障害の分類と発生状況については、視機能の発達と視覚表象の発達、弱視や盲の分類について理解する。また、主な視覚障害の発生状況とその分類と教育について簡単に理解する。 注：教科書・参考書、その他の専門書等を常に参照すること。（以下同様）
2	聴覚障害及び関連する障害について：聴覚障害の分類と発生状況については、聴覚の発達と言語の発達、聾や難聴の分類について理解する。また、主な聴覚障害の発生状況とその分類と教育について簡単に理解する。
3	言語障害及び関連する障害について:言語障害の分類と発生状況については、言語機能の発達について、話しことば(speech)、言語（language)、聴覚（hearing）のそれぞれの言語障害を理解する。また、主な言語障害の発生状況とその分類と教育について簡単に理解する。
4	視覚障害の生理・病理について：視覚障害の分類と発生状況については、目の構造と網膜の視細胞から視神経を通して大脳の視覚中枢に至までの構造を理解する。また、目の構造と視覚障害の原因、視覚障害の生理・病理について理解し、視覚が視力・色覚・視野・両眼視機能などの総合的な感覚であることを理解する。
5	聴覚障害の生理・病理について：聴覚障害の分類と発生状況については、耳の構造と中耳・内耳から聴神経を通して大脳の聴覚中枢に至までの構造を理解する。また、耳の構造と聴覚障害の原因、聴覚障害の生理・病理について理解し、聴覚が聴力・聴能などの総合的な感覚であることを理解する。
6	言語障害の生理・病理について：言語障害の分類と発生状況については、言語機能の発達について、話しことば（speech)、言語（language)、聴覚（hearing）のそれぞれの言語障害を理解した上で、発声発語器官の構造と言語障害の原因を大脳の聴覚中枢や言語中枢に至るまでの構造を理解する。また、発声発語器官と言語障害の原因、言語障害の生理・病理について理解する。
7	視覚障害がある子どもの発達特性について：視覚障害児の発達特性については、その発達は基本的に障害がない子たちと変わらないことを理解した上で、あくまでも「傾向がある」という視点が重要である。具体的には、運動、知的・認知、言語、心理、社会的発達について理解する。また、視覚表象やバーバリズム、ブラインディズムについても理解する。
8	聴覚障害がある子どもの発達特性について：聴覚障害児の発達特性については、その発達は基本的に障害がない子たちと変わらないことを理解した上で、あくまでも「傾向がある」という視点が重要である。具体的には、運動、知的・認知、言語、心理、社会的発達について理解する。また、抽象的な概念が問われる「9 才の壁」についても理解する。
9	言語障害がある子どもの発達特性について：言語障害児の発達特性については、その発達は基本的に障害がない子たちと変わらないことを理解した上で、あくまでも「傾向がある」という視点が重要である。具体的には、運動、知的・認知、言語、心理、社会的発達について理解する。
10	視覚障害がある子どもの適切な療育について：盲や弱視に関しては、視覚表象があるかないかで教育の内容が変わってくる。具体的には、全体的に把握が困難な、大きすぎるもの、小さすぎるもの、遠くにあるもの、壊れやすいもの、危険なもの、動いているものなどの認知は困難になるが、それを補う療育について理解する。
11	聴覚障害がある子どもの適切な療育について：聾や難聴に関しては、トータルコミュニケーションにおける早期の言語獲得が非常に重要であることを理解する。聴覚障害特別支援学校において幼稚部が多く設けられていることを例にして、そこで行われる教育について言語獲得の視点から理解する。
12	言語障害がある子どもの適切な療育について：言語機能の発達について、話しことば（speech)、言語（language)、聴覚（hearing）のそれぞれの言語障害を理解した上で、ここでは、音韻学的な理解や言語指導の実際を難聴の子の例を取りあげ、聴覚検査や補聴器や人工内耳などについても理解する。
13	コミュニケーション言語と文字言語について：乳幼児期にコミュニケーション言語の獲得が十分になされることが非常に重要で、それを土台に、視覚障害児には文字言語として点字の活用やコミュニケーション機器活用につながる。また、聴覚障害児には、コミュニケーション言語の獲得が非常に困難で、それがなされない場合は、次の段階である文字言語の獲得が難しく、抽象的なことが問われる小学 4､5 年生で学力につまずくという、いわゆる、「9 才の壁」について具体的に理解する。

14	「盲ろう」及び視覚障害と聴覚障害及び関連する障害がある重度・重複障害について：視覚と聴覚の両方に障害があることを「盲ろう」と言うが、適切な教育がない限りコミュニケーション手段の獲得は難しい。その際は、誰とも会話ができない、一人で外出できない、自分の障害も認識できないなどが想定される。「盲ろう」については、ようやく最近になって手だてがなされるようになってきたことを理解する。
15	視覚障害及び聴覚障害及び関連する障害がある子どもの「言語」について：「盲ろう」では、言語獲得がいかに重要であるかを理解する。このことから、障害児教育の大きな目的の１つには、言語をいかに獲得するかが最大の課題であることを理解する。また、そのことから教育の原点についても考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 視覚障害及び聴覚障害の障害分類と障害特性について述べよ。

＜ポイント＞

まず、視覚・聴覚の障害について理解する。その上で、各障害の病理及びどのような障害なのかということ（障害特性）について整理する。さらに、発達上の課題や心理についてもテキストや参考書にもとづき正確にまとめる。

科目終了試験学修のポイント

１．視覚障害の生理・病理・心理について

＜ポイント＞

感覚器としての目の構造と視覚を司る脳　注：教科書・参考書、その他の専門書など複数の図表や箇所を参照（以下同様）

２．聴覚障害の生理・病理・心理について

＜ポイント＞

感覚器としての耳の構造と聴覚を司る脳

３．視覚障害がある子どもの発達特性について

＜ポイント＞

「不適切な療育がその特性を顕著にする」可能性があると言う認識が重要

４．聴覚障害がある子どもの発達特性について

＜ポイント＞

「不適切な療育がその特性を顕著にする」可能性があると言う認識が重要

５．視覚障害及び聴覚障害がある子どもの適切な療育について

＜ポイント＞

言語獲得のために早期療育が重要であることの理解

６．視覚障害・聴覚障害、および、関連障害と言語獲得の関係について

＜ポイント＞

まず、コミュニケーション言語を獲得し、次に、それを文字言語に繋げることの重要性を理解する。

教科書

青柳 まゆみ、鳥山 由子編著 『視覚障害教育入門 （改訂版）』 ジアース教育新社。

石部元雄、上田征三、他 『よくわかる障害児教育』ミネルヴァ書房。

参考文献

石部元雄『特別支援教育－理解と推進のために　改訂版』福村出版。

昼地勝人『障害特性の理解と発達援助　第２版』ナカニシヤ出版。

科目コード	児童・家庭福祉論（2 単位）	登録年次	履修方法
3170/3171		1年/2年	SR/R
教員名	上田征三、氏家博子、小笠原眞紀、上栗哲男、田中良幸、 田中利則、大門俊樹、戸田大樹、船澤修一、堀肇、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育※　教育　心理		

科目概要

少子高齢社会の進行、家庭や地域における子育て機能の変化など児童や家庭をめぐる環境が著しく変化するなかで、これからの児童・家庭福祉は、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。

このような児童・家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえて、少子高齢社会と次世代育支援、現代社会と子ども家庭の問題、子ども家庭福祉の理念と権利保障、子ども家庭福祉の法体系と実施体制、子ども家庭にかかわる福祉・保健施策と援助活動などについて学修する。

学修内容

1	第1章「現代社会と子ども家庭」：子ども家庭福祉を取り巻く現状について、少子高齢化社会と次世代育成支援の視点から学ぶ。さらに、子育てをめぐる現状、子どもの成長・発達の現状について学修する。
2	第1章「現代社会と子ども家庭」：現代社会の子 どもの育ちと子育てに関するさまざまな福祉ニーズ について取り上げ、それに対する 支援の基本的視点について理解を深める。
3	第2章「子ども家庭福祉とは」：子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障について学ぶ。まず、「子ども」という存在の意味、「子ども」観などを通して、「子ども」の意義を理解する。
4	第2章「子ども家庭福祉とは」：次に、子ども家庭福祉の定義を学び、児童福祉を実践する上での 原理、理念 を学修する。さらに、今日に至るまでの 児童福祉の歴史 について理解を深める。
5	第3章　「子ども家庭福祉にかかわる法制度」：児童福祉法をはじめとする 児童福祉六法 や「児童虐待の防止等に関する法律」など、子ども家庭福祉に深く関連する法律の概要を学ぶ。
6	第3章　「子ども家庭福祉にかかわる法制度」：子ども家庭福祉行政の 実施主体と主な実施機関、児童福祉施設 など、子ども 家庭福祉サービス体系、サービス利用の方法、財源 などを学ぶ。また、専門職、苦情処理について学修する。
7	第4章　「子ども家庭にかかわる福祉・保障」：（母子保健）母子保健の目的、歩み、母子保健法、母子保健施策の現状、今後の課題等について学修する。
8	(障害・難病のある子どもと家庭への支援)：障害児および家族の実情とニーズ、障害児の支援に関する制度、難病の子どもの支援に関する制度について学修する。
9	(児童健全育成)：時代の流れを追いながら 児童健全育成施策の目的と内容 を学び、児童健全育施策の現状 や今後の課題について学修する。
10	(保育)：保育の実施体制、保育の対象、保育制度の変遷など 保育制度の概要 について学修する。また、変化の激しい 保育施策の現状 について学ぶ。さらに、待機児童問題など今後の課題 について理解を深める。
11	(子育て支援)：児童育成の責任と 子育て支援に対する社会的支援 について理解し、「エンゼルプラン」～子ども子育て応援プランまで、子育て支援施策の動向 について学修する。
12	(ひとり親家庭の福祉、児童の社会的擁護サービス)：母子家庭等自立支援策大綱 の制定と関連法規の改正、ひとり親家庭の福祉施策 の概要や 近年の社会的擁護の考え方、社会的養護にかかわる機関・施設などについて学修する。
13	(非行児童・情緒障害児への支援)：非行と情緒障害、非行の動向と非行についての理解、非行児童とその家族への支援に関する制度 、情緒障害の内容とそれへの支援、情緒障害児とその家族への支援の課題 などについて学修する。
14	(児童虐待対策、子ども家庭にかかわる女性福祉)：児童虐待の定義 、児童虐待の実態、子どもを虐待から保護する仕組み 、児童虐待対策の課題、女性福祉の歴史的経緯と婦人保護事業、ドメスティック・バイオレンスの対応 などについて学ぶ。
15	第5章「子どもと家庭への援助活動」：子ども家庭福祉の理念及び制度を踏まえながら、子ども家庭福祉分野における留意すべき ソーシャルワーカー実践上のポイント を体系的に学修する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 少子化社会における児童・家庭福祉のあり方について述べよ。

＜ポイント＞

①わが国の少子化社会の現状とそれが及ぼす社会経済への影響について説明をする。また、②子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障及び、③子ども家庭福祉に関わる法制度と実施体制について説明をする。

科目終了試験学修のポイント

1．現代社会と子ども家庭について

＜ポイント＞

① 少子高齢化社会において、子どもの育ちや子育てに大きな変化があり、それを受けて次世代育成支援の施策が展開されていることを理解してほしい。

② 子育てをめぐる現状、子どもの成長・発達の現状、子どもの育ち、子育てのニーズへの理解が重要である。

2．子ども家庭福祉とは何か

＜ポイント＞

① 子どもの特性と発達のニーズ、子ども家庭福祉の定義について理解を深めること。

② 子もの権利、児童の権利に関する条約児童福祉の発展（歴史）に対する理解と整理が重要である。

3．子ども家庭福祉に関わる法制度について

＜ポイント＞

① 児童福祉法及び関係する法律に対する理解が重要である。

② 国・県・市町村といった行政機関と児童相談所など関連機関の役割と機能について理解を深めること。

4．子ども・子育て支援法について

＜ポイント＞

① 子ども・子育て支援法に対する理解とその施策について整理する。

② 保育制度の概要を理解した上で、現状の施策について理解を深める。子育て支援施策の動向がポイントとなる。

5．児童虐待対策について

＜ポイント＞

① 児童虐待の定義、児童虐待の実態、今後の対策の課題について整理し、理解を確かなものにすること。

6．子ども家庭への援助活動について

＜ポイント＞

① 相談援助活動の基本的視点が重要となる。援助方法を整理すること。

② 施設ケアとネットワークについて理解を深めること。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座15　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規。

参考文献

厚生労働省『厚生労働白書』。

柏女霊峰『現代児童福祉論』誠心書房。

科目コード	児童・家庭福祉論（２単位）	登録年次	履修方法
3172		２年	R
教員名	田中良幸、田中利則、堀肇、西村彩恵、大門俊樹、戸田大樹 氏家博子、小笠原眞紀、上栗哲男、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

少子高齢化社会の進行、家庭や地域における子育て機能の低下などにより、子育て環境が著しく変化している。これからの子ども家庭福祉においては、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。このような子ども家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえ、子どもや家庭を取り巻く現代社会、次世代育支援と子ども・子育て支援、子ども家庭福祉の理念と子どもの権利擁護、子ども家庭福祉の法体系と実施体制、子ども家庭福祉にかかわる福祉・保健施策とソーシャルアクションなどについて学修する。

学修内容

1	「子ども家庭福祉とは」：子ども家庭福祉の原理・理念、子どもの生命と発達、「子ども」という存在の意味、児童の権利に関する条約に通底する子ども観などを通して、「子どもの権利」について理解を深める。
2	「子どもを取り巻く現代社会」：子どもの権利保障や子どもの福祉保障における保護者の重要性、社会的養育の必要性、エコロジカルな視点、子どもと家庭を取り巻く社会環境の変化、現代社会における課題と子育ち・子育てへの影響、子どもたちの生活変化について理解を深める。
3	「子ども家庭福祉の歴史」：慈善・恩恵から権利保障に至る歴史、子どもの権利擁護の変遷など、子ども家庭福祉の歴史について理解を深める。
4	「子ども家庭福祉の支援の基盤」：児童福祉法をはじめとする児童福祉六法や「児童虐待の防止等に関する法律」など、子ども家庭福祉に深く関連する法律の概要、子ども家庭福祉行政の実施主体と主な実施機関などについて理解を深める。
5	「子ども家庭福祉の支援の基盤」：児童福祉施設などの子ども家庭福祉サービス体系と利用の方法、財源、子ども家庭福祉の人材と専門職などについて理解を深める。
6	「子ども・子育て支援」：子どもの健全育成の責任と子育て支援に対する社会的支援について整理し、エンゼルプランから子育て安心プランなどの近年の子育て支援施策の動向のほか、児童健全育成施策の目的と内容を学び、児童健全育施策の現状や今後の課題について理解を深める。
7	「母子保健」：母子保健の目的と歩み、母子保健法の概要、母子保健施策の近年の動向と現状、子育て世代包括支援センター、今後の課題等について理解を深める。
8	「保育」：保育の実施体制、保育の対象、保育制度の変遷など保育制度の概要、保育施策の現状、待機児童問題など今後の課題について理解を深める。
9	「児童虐待にかかわる支援」：児童虐待の定義、児童虐待の実態、子どもを虐待から保護する仕組み、児童虐待にかかわる対策の課題、要保護児童等と在宅支援、今後の課題について理解を深める。
10	「社会的養護」：社会的養護の概要と近年の動向、家庭養護・施設養護の取り組み(機関・施設)、社会的養護における権利擁護、今後の課題について理解を深める。
11	「ひとり親家庭への支援と女性支援」：ひとり親家庭の現状、母子父子並びに寡婦福祉法や母子生活支援施設などの支援の体系、ひとり親家庭支援の今後のあり方、女性福祉の歴史的変遷と婦人保護事業、ドメスティック・バイオレンスの対応、今後の課題について理解を深める。
12	「スクールソーシャルワーク(SSW)」：子ども・家庭・学校を取り巻く課題とスクールソーシャルワーク(SSW)、スクールソーシャルワーク(SSW)の展開と関係機関との連携と今後の課題について理解を深める。
13	「少年非行と若者支援」：非行少年への支援の歴史と動向、非行少年への支援と関係機関との連携、若者世代に現れる困難の状況、制度間の連携による若者支援と今後の課題について理解を深める。
14	「障害のある子どもへの支援」：障害者の概念と定義、インクルージョンと障害のある子どもへの支援と支援体系の概要、現状の課題と支援サービス内容、今後の課題について理解を深める。
15	「子ども家庭福祉におけるソーシャルアクション」：子ども家庭福祉の理念及び制度を踏まえながら、子ども家庭福祉分野における留意すべきソーシャルワーカー実践上のポイントを体系的に学び、今後の課題に対する理解を深める。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 少子高齢化社会における子ども家庭福祉のあり方について述べよ。

＜ポイント＞

①わが国の少子化高齢化社会の現状とそれが及ぼす子育ち・子育てへの影響について説明する。

②子ども家庭福祉の原理・理念、子どもの権利擁護及び子ども家庭福祉にかかわる法制度と実施体制について説明する。

科目終了試験学修のポイント

1．子ども家庭福祉とは何か

＜ポイント＞

① 子どもの特性や成長・発達、子ども家庭福祉の定義について理解を深めること。

② 子どもの権利擁護、児童の権利に関する条約など、子ども家庭福祉の展開(歴史)に対する理解と整理が重要である。

2．少子化高齢化社会の現状と子育ち・子育てへの影響ついて

＜ポイント＞

① 少子高齢化社会の中で子どもの育ちや子育てが変化していることを受け、子ども家庭福祉にかかわる施策が展開されていることを理解する。

② 子育ち・子育て、子どもの成長・発達の現状、社会的養育の必要性への高まりに対する理解と整理が重要である。

3．子ども家庭福祉に関わる法制度について

＜ポイント＞

① 児童福祉法及び関係する法律の要点をそれぞれ整理する。

② 国・県・市町村といった行政機関と児童相談所など関連機関の役割と機能について理解を深めることが重要である。

4．子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援制度について

＜ポイント＞

① 子ども・子育て支援法への理解、次世代育成支援や子ども・子育て支援に関する一連の施策の動向と背景を整理する。

② 子ども・子育て支援制度を含む保育制度の概要、その制度の意義や課題について理解を深めることが重要である。

5．児童虐待にかかわる支援や対策について

＜ポイント＞

① 児童虐待の定義と実態における理解を深め、児童虐待にかかわる支援や対策の意義と課題について整理する。

② 要保護児童と在宅支援、社会的養護の概要と児童虐待との関連性、支援のポイントを理解することが重要である。

6．子ども家庭福祉におけるソーシャルアクションについて

＜ポイント＞

① 地域のニーズと社会資源の創出、地域変革とネットワーク、子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践における支援のポイントや意義について理解を深めることが重要である。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集

『最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座3　児童・家庭福祉』中央法規。

参考文献

厚生労働省『厚生労働白書』。

柏女霊峰『子ども家庭福祉論』誠信書房。

科目コード	児童・家庭福祉論Ⅱ (2 単位)	登録年次	履修方法
3180		2年	R
教員名	上田征三、小笠原眞紀、黒木豊域、田中利則、大門俊樹、千葉由美、、船澤修一、堀肇		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

少子高齢社会の進行、家庭や地域における子育て機能の変化など児童や家庭をめぐる環境が著しく変化するなかで、これからの児童・家庭福祉は、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。

このような児童・家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえて、母子保健、保育、児童虐待対策など子ども家庭にかかわる福祉・保健施策と子ども家庭への援助活動について学修する。

学修内容

1	第１章「現代社会と子ども家庭」：子ども家庭福祉を取り巻く現状について、少子高齢化社会と次世代育成支援の視点から学ぶ。さらに、子育てをめぐる現状、子どもの成長・発達の現状について学修する。
2	第２章「子ども家庭福祉とは」：子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障について学ぶ。次に、子ども家庭福祉の定義を学び、児童福祉を実践する上での原理、理念を学習する。今日に至るまでの児童福祉の歴史についても理解を深める。
3	第３章　「子ども家庭福祉にかかわる法制度」：児童福祉法をはじめとする児童福祉六法や「児童虐待の防止等に関する法律」などを学ぶ。子ども家庭福祉行政の実施主体と主な実施機関、児童福祉施設などを学修する。
4	第４章　「子ども家庭にかかわる福祉・保障」 (母子保健)：母子保健の目的、歩み、母子保健法、母子保健施策の現状、今後の課題等について学修する。
5	(障害・難病のある子どもと家庭への支援)：障害児および家族の実情とニーズ、障害児の支援に関する制度、難病の子どもの支援に関する制度について学修する。
6	(児童健全育成)：時代の流れを追いながら児童健全育成施策の目的と内容を学び、児童健全育施策の現状や今後の課題について学修する。
7	(保育)：保育の実施体制、保育の対象、保育制度の変遷など保育制度の概要について学修する。また、変化の激しい保育施策の現状について学ぶ。さらに、待機児童問題など今後の課題について理解を深める。
8	(子育て支援)：児童育成の責任と子育て支援に対する社会的支援について理解し、「エンゼルプラン」～子ども子育て応援プランまで、子育て支援施策の動向について学修する。
9	(ひとり親家庭の福祉)：ひとり親家庭の現代的態様、母子家庭等自立支援策大綱の制定と関連法規の改正、ひとり親家庭の福祉施策の概要について学ぶ。
10	(児童の社会的養護サービス)：社会的養護に対する理解、近年の社会的擁護の考え方、社会的養護にかかわる機関・施設などについて学修する。
11	(非行児童・情緒障害児への支援)：非行と情緒障害、非行の動向と非行についての理解、非行児童とその家族への支援に関する制度、情緒障害の内容とそれへの支援、情緒障害児とその家族への支援の課題などについて学修する。
12	(児童虐待対策)：児童虐待の定義、児童虐待の実態、子どもを虐待から保護する仕組み、児童虐待対策の課題などについて学修する。
13	(子ども家庭にかかわる女性福祉)：女性福祉の歴史的経緯と婦人保護事業、ドメスティック・バイオレンスへの対応などについて学ぶ。
14	第５章「子どもと家庭への援助活動」：相談援助活動の必要性、相談援助活動の基本的視点、相談援助の方法、他専門実践への理解などについて学習し、理解を深める。
15	第５章「子どもと家庭への援助活動」：施設ケアの構造、内容、プロセスなどを学習する。また、地域援助活動、子ども家庭福祉とネットワークについても学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 子ども家庭への相談援助活動について述べよ

＜ポイント＞

①子ども家庭への相談援助活動の内容と②施設におけるケアと児童福祉援助活動及び③地域における活動とネットワークについて説明する。

科目終了試験学修のポイント

１．障害・難病のある子どもと家庭への支援について
＜ポイント＞
①障害児及び家族のかかえる実情とニーズへの理解が重要である。
②障害児及び難病の子どもの支援に関する制度を整理し、理解すること。

２．母子保健について
＜ポイント＞
①母子保健の目的と歩み、母子保健法に対する理解を深めること。
②母子保健の現状の施策についてよく整理する。

３．児童の社会的養護サービスについて
＜ポイント＞
①社会的養護に対する考え方と法改正の内容と流れについて整理する。
②社会的養護にかかわる機関・施設の役割と機能について理解を深める。

４．児童虐待対策について
＜ポイント＞
①児童虐待の定義、児童虐待の実態、子どもを保護する仕組みについて整理する。
②今後の対策の課題について整理して、理解を確かなものにすること。

５．保育・子育て支援について
＜ポイント＞
①保育制度の概要を理解した上で、現状の施策及び今後の課題についてよく整理し、理解を深める。
②子育て支援施策の流れ、動向について時代を追って整理し、理解を深める。

６．子ども家庭への相談援助活動について
＜ポイント＞
①相談援助活動の基本的視点が重要となる。援助方法を整理すること。
②施設ケアとネットワークについて理解を深める。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 15　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規。

参考文献

厚生労働省『厚生労働白書』。
柏女霊峰『現代児童福祉論』誠心書房。

科目コード	児童環境保健論（２単位）	登録年次	履修方法
6140		３年	R
教員名	石本強		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

成長期にある児童が、それぞれの発達段階を健康で生きていくために、自然環境からの発達刺激が必要である。人類の進化の過程で獲得された環境適応能力は、個体発生を繰り返していることを認識するところから出発する。ヒトが健康生活を営む能力は、児童の成長過程を軸にした各種環境要因との相互作用で理解することが重要である。日光、空気、気象、季節、日内リズム（生体リズム）、食品など、各種環境要因を自然科学的、人間生物学的に理解するとともに、人間社会の歴史的・文化的適応能力の発達についても論及する。養護教育・保育・児童学の基礎となる。

学修内容

1	自然環境の一部としての人間　その成長過程を探る ―自然環境と人の適応― 各自の生育環境と疾病り患（既往歴）の自分史を記述する。どのような自然環境の中で生育してきたか？原風景は？現在の健康状態は？人間と生活環境を系として包括し、適応の概念を考える。
2	乳幼児期（学齢期・思春期・壮老年期を見通して）の発達と環境 ―五感の発達と環境刺激― 皮膚粘膜・視覚・聴覚・平衡感覚・臭覚の発達過程を生理学の側面から調べ、人間の五感の発達を基盤にした臨床保育の実践事例と連動させる。（参考書『からだの地図帳』で基礎を学んでおく）
3	乳幼児の発達と環境刺激 ―皮膚粘膜による生体防御機能の発達― 疾病の回復と防御システムを理解し、環境微生物との触れ合いが少なくなった現代にあっての課題を考え、乳幼児期の環境刺激の必要性に注目する。
4	乳幼児、思春期の成長過程と環境刺激 ―自律神経系の発達と生体リズム― 自律神経系とは？生命を維持する上でどのような役割をするか？乳幼児期は、副交感神経が優位であることの意味。思春期に交感神経が優位に発達するが、そのバランスが崩れた時におこる自律神経失調症とは？その背景には、生体リズムの同調・脱同調が存在すること。昼夜、活動と休息、太陽光（光環境）、生活習慣が、生体リズムの確立に関与していることに気付く。
5	乳幼児・思春期及び老年期と環境刺激 ―中枢神経系ｂ・内分泌系・免疫系の発達と疾病り患傾向― 発育発達は通常、児童期・学齢期・思春期等の成長過程を考えるが、ここで、生涯保健の立場から、老年期にあっても、積極的な刺激―反応系の重要性を考える。
6	乳幼児・思春期及び老年期と環境刺激 ―内分泌系・免疫系の発達と疾病り患傾向― 老年期に多い疾病がなぜ多いのか？乳幼児期・学齢期・思春期とどのように異なるのか？
7	環境と乳幼児の疾病 ―感染症とアレルギー― 乳幼児期の体質傾向は、滲出性体質、学齢期になると胸腺リンパ体質に移行する。思春期は、自律神経系の急激な発達から、神経関節炎体質。乳児期の最初の感染症である突発性発疹は、皮膚粘膜に炎症がおこる。各種感染症への罹患は、免疫機能の発達と連動する。アレルギー反応もどの臓器に反応するかは、年齢によって異なる。教科書の記述から、年齢・環境刺激・心身反応・疾病り患傾向という流れを把握する。また感染とアレルギーは、相互に相関連するものとの理解も重要な鍵（キー・コンセプト）となろう。
8	環境と乳幼児、学齢期、思春期、青壮年・老年期の疾病 ―生体リズムの脱同調と生活習慣病― いわゆる生活習慣病を発達過程から理解する。その予防対策として、生体リズムの再同調が考えられるが、実際の生活場面では、どのような対策がとられているか？
9	いじめ、虐待、各種ストレスと児童の発達 ―社会的養護と児童家庭福祉― 参考文献『教育の基礎としての「公衆衛生看護ノート」』を参照し、「児童環境保健論」の社会科学的なアプローチを試みる。以下、14 回目まで、社会福祉を基盤にした問題提起を行い、その社会科学的解決を考える。本科目は、複合した臨床教育場面への展開（問題提起・問題解決含む）である。
10	子ども家庭福祉にかかわる法体系 同上、『教育の基礎としての「公衆衛生看護ノート」』pp.111-122
11	子ども家庭福祉にかかわる専門職 同上、『教育の基礎としての「公衆衛生看護ノート」』pp.123-133
12	児童の社会的養護サービスへの支援 同上、『教育の基礎としての「公衆衛生看護ノート」』pp.134-140
13	ひとり親家庭への支援 同上、『教育の基礎としての「公衆衛生看護ノート」』pp.141-147
14	子ども家庭福祉とネットワーキング　―虐待をうけた夏子さんへの支援― 同上、『教育の基礎としての「公衆衛生看護ノート」』pp.148-151
15	児童をめぐる自然科学的アプローチと社会福祉学的アプローチ ―児童環境保健論の究極的な目標と今後の課題― 本科目の学修内容 1～8 回までは、自然科学的アプローチを行った。9 回目～14 回目は、当に福祉の領域、社会科学的アプローチを行った。「児童環境保健論の究極的な目標」は、児童の健全育成をコンセプトにした、それを取り巻く環境との相互作用として、とらえることが必要である。当に教育の臨床場面への展開である。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 児童の成長過程において、自然環境要因がどのように作用するか述べよ。

＜ポイント＞

児童の生命の営みは、生涯を通じて最も重要な発達課題を獲得する過程である。病原菌に対する免疫機能、寒さ暑さ、気圧の変動等など自然環境からの刺激を受けて発達する体温調節能力や自律神経系の発達、視覚・言語・聴覚・味覚・皮膚感覚・平衡感覚など人間が生きていくための基礎的能力である五感の発達は、中枢神経系の発達を促す。心地よい風、日光、水、樹木による緑陰、太陽の動きの中での夜と昼、睡眠と覚醒、静と動、また母児の愛情、安らぎなど安定した心地よい自然環境要因が、成長ホルモンの分泌や自律神経系の発達と安定を促す。

科目終了試験学修のポイント

1．児童の成長過程と環境刺激との相互作用について

＜ポイント＞

生涯において、最も成長の著しい乳幼児期、思春期において、各種環境因子がどのように影響するかについて、生理・心理・生活行動面から明らかにする。教育の究極的な目標である、健全なる心身の発達や人格形成は、環境との相互作用の中で営まれることに注目する。

2．不適切な環境が、児童の健康にどのような障害をもたらすかについて

＜ポイント＞

先天性水俣病、イタイイタイ病、乳児のくる病、騒音性難聴などは、物理化学的環境要因によってもたらされるものである。不適切な環境とは、このように直接長期にわたって環境影響が健康被害となって現れるもの、また家庭内暴力・虐待・育児放棄等の育児環境による心的外傷、いじめによる自殺や不登校等、人的物的環境を総合して捉えること。

3．生物学的適応、生理学的適応、行動的適応、社会文化的適応能力について

＜ポイント＞

人間と環境との相互作用のなかで、適応能力の発達をとらえる。適応とは、生活生存する環境の中でよりよく生きていくための人間側の変容である。遺伝子のレベルで、その環境に容易に生きていけるよう形態機能を獲得した「生物学的適応」、これは進化の過程で生存する力を獲得したものである。「生理学的適応」とは、出生後の環境からの刺激を受けて発達するものである。体温調節能力の発達や自律神経系・免疫系・内分泌系の発達は、生存環境のもとでの相互作用の中で獲得されるものである。一方、渡り鳥の習性のように、生存しやすい環境への移動や冷暖房完備等、科学技術によって環境を変えて、生存しやすい環境への工夫や調整する能力が、行動的適応、社会文化的適応である。児童環境保健論のなかで、心身状態の環境への調和や相互作用の結果として、上記の適応能力の発達をとらえられたい。

4．日光、気圧、空気、気象など自然環境要因が、児童の体温調節、免疫機能、中枢神経系、自律神経系の発達に及ぼす影響について

＜ポイント＞

自然環境からの作用を考える。日光・気圧・空気の性状・気象などの自然環境要因とは、我々が生活生存している地球環境の恒常性の維持と考える。人体に恒常性を維持するための適応能力、具体的には、体温の調節能力の発達、感染から身を護る免疫機能の発達、感じ、考え、判断し、行動する原動力としての中枢神経系の発達、生命の基本的維持をつかさどる自律神経系の発達、それぞれが地球環境の中での生活生存する力となる。地球環境も同様に、日光や空気、気圧、気象現象として、地球環境の恒常性を維持する。近年の異常気象や震災等、地球物理学的変動の要因もこれからの児童環境保健論に導入する必要があることを認識したい。地球温暖化の課題も、人類の生存にとって大きな課題となること、人間の健康と地球環境保全は常に一体化して念頭に置いておく必要があること、これからの学問体系は従来の細分化された分化科学ではなく、人間の生活生存を環境系のなかで見据え考えることが肝心である。

5．環境汚染物質、冷暖房、気密で閉鎖された人工環境等が児童のこころやからだ、生活にどのようなゆがみをもたらしているかについて

＜ポイント＞

環境汚染物質の発生源を考える。これらが生態系をどのように影響しているか？環境を制御し、人間は快適に暮らしていくために創出された人工冷暖房、気密で閉鎖された人工環境が、児童生徒の環境適応能力の発達をゆがめ、アレルギー、癌、自己免疫疾患ほか、各種の自律神経系不安定症の増大と異常気象を引き起こす。ここで今一度、人間が生まれ、生長し、成人、老化し、生を全うする自然界の摂理を考えていくための教材として考えてみる。

6．日々の健康管理に生体リズム（日内リズム・季節リズム）を考慮する意義について

＜ポイント＞

日々の健康管理の基本的・一般的方法として、「早寝早起き朝ごはん」という標語がある。このことは、早起きによって、太陽の光を受け、朝ごはんを食することで、一日に必要なエネルギーを摂取し、身体活動を支え、夜はぐっすり眠ることができる。すなわち、早起き・朝ごはんにより交感神経系の活動を促し、夜はぐっすり眠ることで、副交感神経系の発達を促し、一日の疲労物質を分解し、成長ホルモンの分泌や組織細胞の増殖を図る。このような自然環境に遺伝子のレベルで組み込まれた人間の生きる力の根源を充分に理解することから、児童教育は出発する。「児童環境保健論」は児童がよりよく生きていくための生きる力を支えるための基本原理を学ぶことにある。よりよく生きているとは、人間の生命現象の根源としての生体リズムのより良い発動と同源であることを充分認識することから出発する。

教科書

鈴木路子『人間環境・教育福祉論』光生館。

参考文献

鈴木路子『教育の基礎としての「公衆衛生看護ノート」』教育家庭新聞社。（「地域看護学」の指定教科書）
鈴木路子『人間環境学』福村出版。
鈴木路子、他『教育健康学』ぎょうせい。
高橋長雄『からだの地図帳』講談社。
鈴木路子『教育生理・生態学序説』家政教育社。

※科目コード2190：登録年次２年、Ｒ履修／科目コード2191：登録年次１年、ＳＲ履修

科目コード	児童心理学（４単位）	登録年次	履修方法
2190/2191		２年/１年	Ｒ/ＳＲ
教員名	石暁玲、中山麻子、橋本景子、三井公一郎		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、児童の健やかな成長を促すために必要な知識を、教育心理学・発達心理学の視点から身につけることを目的とする。そのため、まず、児童心理学における主要な概念や研究方法を紹介し、さらには運動能力、知性、社会性などの諸機能の発達的変化を概説する。そして、それらの発達に即してどのような教育が必要なのか、また、遊びはどのような意義を持っていくのか考えていく。子どもの発達について、関心を高め、より具体的なイメージが持てるようにする。

学修内容

1	【説題１】に関して ・家族形態の変化　・親のライフサイクルと子育て観　・地域社会の変化と教育力　保育観の変化 ライフサイクルと家族形態の変化は人々の家族観・保育観を変化させている。どのように変化したのか検討する。
2	・「家庭」は子どもに何を教えるか　・「地域」が子どもを育てるとは　・「保育機関」は親子をどのように援助するか 子どもにとって「家庭」「地域」「保育機関」はどのような役割をもっているのか検討する。(p.19～)
3	・現代の保育状況　・親の養育力の低下　・経済の悪化　・地域で孤立する母親　・多発する虐待 ・子育て支援教員の専門性 現代の保育環境の問題と、それへの家庭・地域・保育機関における今後の取り組み方を検討する。
4	【説題２】に関して ・乳幼児期の身体発達　・発達課題　・エリクソン　・基本的信頼感の獲得 乳幼児期の身体発達の変化と特徴を理解する。乳幼児期は生活習慣・食行動・排泄の確立など重要な達成課題がある。 それに加え、基本的信頼感の獲得が重要であることをエリクソンの理論から検討する。(p.14～)
5	・乳幼児の認知の特徴　・ピアジェの認知発達理論　・感覚運動期　・前操作期　・保存の概念の獲得 ピアジェの理論から乳幼児期の認知特徴を検討する。(p.9～) (p.38～)
6	・乳幼児の言語発達　・話し言葉と書き言葉　・言葉の発達とコミュニケーション能力　・母子相互作用 言語の獲得過程とそれにより獲得されるコミュニケーション能力について検討する。また新生児期は能動的に他者に働きかけ、それを進めていることを母子相互作用の研究から理解していく。(p.29～)
7	ポイント１：発達とは　遺伝と環境　成熟と学習　発達の促進要因としての親・学校・教育者 発達とは何かを定義し、発達の個人差はなぜ生まれるかをキーワードを中心に検討する。
8	ポイント２：様々な発達理論　ピアジェ　フロイト　コールバーグ　エリクソン 著名な発達理論は、その視点の違いから子どもの発達を多面的に理解することができる。理論の特徴から子どもの発達をどのように理解できるか検討する。(p.9～・p.78～)
9	ポイント３：愛着とは　ボウルビィ―　愛着の形成と親の養育態度　モデルとしての親・保育者と教師 愛着の形成は対人コミュニケーション能力の基礎となる。発達初期に形成された愛着は、思春期の対人関係に影響を与えていく。親や教育者はどのようなモデルになることが望ましいか検討する。(p.110～)
10	ポイント４：情緒とは　発達初期の基本的情緒　情緒の形成プロセス　情緒発達を助ける要因 新生児期から情緒の形成は始まる。児童期初期にはほぼ大人と同様の複雑な情緒が完成する。怒り・喜ぶ・悲しむなど様々な情緒の表出が乳幼児期から児童期にかけてどのように発達するかを検討する。
11	ポイント５：社会性とは　社会化のプロセスと個人差　仲間関係と社会化　学校生活の影響 社会性とは何か　子どもはどのように社会性を獲得していくかを検討する。(p.68～・p.87～)
12	ポイント６：児童期の心身の発達特徴　メタ認知　脱中心化の達成　仲間集団　勤勉性の獲得　教師との関係 児童期の達成課題は認知発達に大きく関係している。認知発達を中心に検討し、幼児期との違いを理解していく。
13	児童期の臨床的問題 不登校、いじめ、学業不振、非行など臨床的問題を検討する。(p.124～)
14	発達障害と二次的障害 広汎性発達障害、軽度発達障害などの発達障害とそれに伴い起きうる二次的障害について検討する。(p.134～)
15	児童期から思春期へそして青年期へつながる発達の連続性 児童期に獲得した発達が、思春期の急激な心身の変化を支えていく。青年期の身体と認知の完成への道すじを検討する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 家庭と地域社会における保育のあり方について述べよ。

＜ポイント＞

現代社会における家族形態の変容や、地域における家庭の孤立等を踏まえ、保育環境の劣悪化が子どもの心理的発達に及ぼす影響を考察した上で、家庭・地域・保育機関における今後の保育のあり方についてまとめること。

【設題2】 乳幼児の心理についてまとめよ。

＜ポイント＞

乳幼児の認知の特性と、認知・言語等の発達の過程について、その有能さを踏まえてまとめること。また、母と子の相互作用が、乳幼児の情緒の発達や愛着の形成などに及ぼす影響についても考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．発達における個人差について

＜ポイント＞

キーワード：発達とは　発達の共通原理　遺伝と環境　成熟と学習　発達段階　定型発達と非定型発達
個人差をどうとらえるか

2．発達の理解の方法について

＜ポイント＞

キーワード：ピアジェ　エリクソン　観察　実験　心理テスト　発達研究法（横断研究と縦断研究）
著名な発達理論から理解する

3．愛着の形成について

＜ポイント＞

キーワード：愛着とは　愛着行動　愛着の形成プロセス　愛着の形成要因
愛着研究・エインズワースの実験から理解する様々な愛着のタイプ　被虐児の愛着　愛着障害

4．情緒の発達について

＜ポイント＞

キーワード：情緒とは　発達初期の情緒　情緒の形成プロセスと完成　情緒発達を助ける要因
発達障害にみられる情緒障害

5．子どもの社会化について

＜ポイント＞

キーワード：社会性とは　社会化のプロセスと個人差　子どもの社会化と親子関係、学校、地域社会　学校教育の影響
思春期への課題とは

6．児童期の発達について

＜ポイント＞

キーワード：児童期とはいつか　児童期の身体発達　児童期の心理特徴　脱中心化と発達課題　メタ認知の発達仲間集団
教師との関係　児童期にみられる臨床的問題（不登校・いじめ等）

教科書

無藤隆『児童心理学』放送大学教育振興会。

参考文献

無藤隆、他『発達心理学入門Ⅰ（乳児・幼児・児童）』東京大学出版会。

科目コード	児童心理入門（２単位）	登録年次	履修方法
1360		１年	ＳＲ
教員名	石暁玲、中山麻子、橋本景子、三井公一郎		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

乳児期・幼児期・児童期の発達心理学における最も基本的な概念、さらには認知、運動、言語などの発達的変化について概説する。本授業においては、特に子どもの発達や障害の基本知識を学びながら、確かな子ども観、発達観、教育観、保育観を築く基礎を養うことを目的とする。

学修内容

1	説題１について ①キーワード：発達とは何か　成熟と学習　遺伝と環境　発達の方向性と側面　発達段階と発達課題 発達過程の理解 （テキスト p.1～）
2	②認知とは何かを定義する：その認知にはどのような領域があるか。ピアジェの認知発達理論を理解する。 （p.82～）
3	③発達初期の知的活動：対象の永続性の理解　バウアーの研究　目的・手段の分化 対象の永続性が獲得されるのは乳幼児期のいつ頃か。それにより乳幼児の自発性と好奇心はどのように触発されるか。
4	④乳幼児の知覚の発達：知覚の特徴　直接経験の知覚　相ビョウ的知覚　アニミズム （p.82～）
5	⑤概念の発達：概念とは　保存の概念の発達　量の概念　数の保存　概念の階層性 （p.111～）
6	⑥思考の発達：思考とは　ピアジェの思考の発達段階　自己中心性　認知のスタイルの変化 （p.121～）
7	⑦知能の発達：　知能とは　様々な知能観　知能を規定する要因とは　知能の発達と環境要因
8	ポイント１：発達初期の知覚　新生児の聴覚　コンドンとサンダーの実験　新生児の視覚　ファンツの実験 新生児の環境と相互作用する力　（p.41～）
9	ポイント２：愛着とは何か　愛着の形成過程　愛着を誰と結ぶか　愛着の形成要因　愛着と主たる養育者との関係 健康的な愛着と不健康な愛着　エインズワースの実験　内的ワーキングモデルへの発展（p.62～）
10	ポイント３：言語の獲得　クーイング　喃語　一語発話　二語文から三語文へ　短文から複文へ　有意味語 一次的ことばから二次的ことばへ　言語獲得とコミュニケーション　母子相互作用（p.54～・p.95～）
11	ポイント４：こどもはなぜ遊ぶか　遊びの発達過程　象徴遊び　規則遊び　遊びとコミュニケーション能力 （p.176～・p.196～）
12	ポイント５：社会性とは　社会化とは　社会化の基礎になる親子関係　道徳の発達と社会性　向社会的行動とは （p.187～・p.208～・p.213～）　学校教育と社会性
13	ポイント６：自己とは　自己意識はいつ頃から芽生えるか　自己像の形成　形成の要因としての親の養育態度 学校環境　自己意識と自尊感情　自分を大切に思う心の発達　（p.221～）
14	著名な発達理論：フロイト　エリクソン　ピアジェ　コールバーグ　それぞれの理論の特徴とは
15	乳幼児の発達研究の方法：　主な研究方法　横断的・縦断的研究法　事例研究法　実験法 （p.23～）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 乳幼児における認知機能の発達について述べよ。

＜ポイント＞

認知機能は段階を追って発達することが知られている。対象の永続性、量や数の保存、概念の階層性などについての理解が進んで行く過程を論じること。

科目終了試験学修のポイント

1．乳児のヒト刺激に対する選択的反応について

＜ポイント＞キーワード

発達初期の知覚と聴覚　コンドンとサンダー　ファンツの実験　発達初期からもつ新生児・乳幼児の他者へ働きかける力
母子相互作用を強化する赤ちゃんの力　母子相互作用と情動調律

2．愛着の形成について

＜ポイント＞キーワード

愛着とは　ボウルビー　愛着の形成過程　愛着の形成要因　愛着の質の違い(健康的な愛着と不健康な愛着)
エインズワースの実験ストレンジシチュエーション法　養育者のみから、広く他者との愛着を結ぶ力へ発展する
被虐児の愛着障害

3．子どもの言語獲得の過程について

＜ポイント＞キーワード

クーイング　喃語　一語発話　二語文　三語文　短文から複文へ　有意味語の獲得
言葉を話せることにより進むコミュニケーション能力　一次的ことばから二次的ことばへ
影響因としての母子相互作用と学校　言葉の障害とは

4．子どもの遊びについて

＜ポイント＞キーワード

遊びとは　子どもの遊びの機能　遊びの年齢的変化　一人遊びと仲間集団　遊びと創造性 現代の子どもの遊びの特徴
遊ぶことは子どもの発達にどのように促進的に働くか

5．子どもの社会性について

＜ポイント＞キーワード

社会性とは　社会化するとは　社会化の基礎となる親子関係　役割取得と社会性　道徳判断と社会性
コールバーグの道徳発達理論　向社会的行動　広汎性発達障害にみられる社会性の障害

6．子どもの自己意識について

＜ポイント＞キーワード

自己とは　自己意識はいつ頃から芽生えるか　自己像の形成「私」はいつから認識されるか　親の養育態度と自己観の発達
自分を認め、大切に思う心の発達・自尊感情　学校集団の影響　教師の影響　自己同一性

教科書

塚田紘一『子どもの発達と環境ー児童心理学序説』明星大学出版部。

参考文献

吉田直子、他『子どもの発達心理学を学ぶ人のために』世界思想社。
藤崎真知代、他『育児・保育現場での発達とその支援』ミネルヴァ書房。

科目コード	児童生徒指導論(進路指導を含む) (2 単位)	登録年次	履修方法
4080/4081		2年	SR
教員名	攪上哲夫、金子康一、望月之美		
教職区分	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		

科目概要・到達目標

学校の本来的な中心任務は「教科指導」にあるが、その前提となる、あるいはそれと並行しての、生徒指導ないし生活指導の重要性も否定しえず、むしろ今日、学校においてはその意義はますます大きくなっている。ここでは、こうした事情を踏まえて、生徒指導における幾つかの場面に関して重点的に、理論と実践を概説しようとするのである。主な内容は、生徒指導の本来的な目的及びガイダンスの機能の充実による生徒指導の意義、いじめや不登校・児童生徒懲戒などの諸問題、更に教育相談、進路指導、学級経営の問題を扱う。

本科目の目的は、学校における生徒指導の意義・理論及び方法を理解した上で、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることである。また、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を理解した上で、児童生徒の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むために必要な知識・技能や素養を身に付けることである。さらに、個別の課題を抱える児童生徒に対する指導のあり方について、事例をとおして理解を深め、現場で役立つ理論的・実践的なセンスや能力を養うことを目指す。

本科目の目的を達成するために、以下の到達目標を設定する。

（1）生徒指導の意義や原理を理解する。
（2）すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。
（3）児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。
（4）進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。
（5）全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。
（6）児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。

学修内容

	印刷授業	面接授業	授業方法
1	生徒指導の理論と方法① ・直面する学校不適応及び問題行動 ・増加する不登校の児童生徒 ・いじめのとらえ方の変遷といじめの発生状況の分析 ・校内暴力の実態	・授業概要について ・不登校・いじめについて 【科目終了試験学習ポイント１・４】 学校における生徒指導上の諸問題について調べ、問題発生の原因について話し合い、解決のための方策を考える。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
2	生徒指導の理論と方法② ・生徒指導の意義・ねらいと性格 ・ガイダンス機能の充実と生徒指導 ・生徒指導の意義とねらいを学習指導要領から考察 ・学習指導要領に示されている「ガイダンス機能の充実」の視点と今後の生徒指導の一層の充実	・生徒指導の意義・ねらいと性格について【レポート設題】 「ガイダンスに機能の充実」が求めていること 【科目終了試験学習ポイント１～３・６】 生徒指導の目的を知り、これまで受けてきた生徒指導と比較し、課題を明確にし、個に応じた指導の意義や集団指導の意義について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
3	生徒指導の理論と方法③ ・生徒指導の歴史と理論 ・生徒指導と法制 ・戦後の我が国の生徒指導の歴史 ・生徒指導に関する主な法令についての考察	・生徒指導と法制について ・生徒指導の方法（進め方）について 【科目終了試験学習ポイント３・５】 生徒指導に関する主な法令を調べ、関係法令が目指す理念について考え、発表し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)

4	生徒指導の理論と方法④ ・生徒指導の方法(進め方) ～人間関係づくり、自己指導能力の育成、児童･生徒理解 ・教師と子ども、子ども相互の人間関係づくり ・自己指導能力育成の重要性 ･児童生徒理解の基本と児童生徒理解のための資料収集の仕方	・問題行動の理解と指導（含むいじめ）について 【科目終了試験学習ポイント１・４～６】 生きる力を育てる生徒指導と日頃の生活習慣､規範意識を育てる指導との関連について資料で調べ､どうすれば一貫性のある生徒指導になるかグループで考え合い、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
5	生徒指導の理論と方法⑤ ・生徒指導の方法(進め方) ～生徒指導の進め方や生かし方、問題行動の理解と指導 ・集団場面における生徒指導の進め方 ･教育課程の各教科、領域等における生徒指導の生かし方 ・学校不適応、不登校、いじめ問題等の問題行動の理解と適切な指導のあり方	・問題行動の理解と指導（含むいじめ） について 【科目終了試験学習ポイント１・４～６】 生徒指導の目的により､指導の在り方には多様な方法があることを教科書から学び、どの場面で，どのような指導が必要かグループで考え、発表し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
6	生徒指導の事例研究 ・ゆるすな　いじめ ・いじめの定義といじめ発見件数 ・いじめる側といじめられる側との関係 ・いじめと不登校との関係 ・大人たちの責任 ・いじめ対策への提言 ・いまだに頻発するいじめと自殺問題	・問題行動の理解と指導（含むいじめ） について 【科目終了試験学習ポイント１・４～６】 生徒指導上の諸課題を知り､その現状を文科省のデータで確認し、それぞれの事例に則し、問題解決にはどのような対応が必要かグループで考え、発表し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
7	教育相談の理論と方法① ・教育相談の意義とねらい ・教育相談の進め方 ・学校教育相談と教育との関係 ・学校教育相談の特質 ・教育相談の場と機会 ・教育相談の形態とその場面 ・演習	・教育相談の意義とねらいについて 【科目終了試験学習ポイント３～６】 生徒指導による個別指導と教育相談との違いや共通性を相互に学び合い､個別指導の意義や教育相談における意義について学び合う｡教育相談がしやすい体制をどう作るか考え、発表し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
8	教育相談の理論と方法② ・教育相談の技法と実際 ・教育相談を進める上での配慮事項 教育相談の実際～ ・不登校の理解と対応 ・いじめ、非行の理解と対応 教員の資質向上のためのスキル～ ・子どもの話の聞き方 ・ほめ方、しかり方 ・教師が行うカウンセリングの基本	・教育相談の進め方について ・教育相談を進める上での配慮事項 について 【科目終了試験学習ポイント３～６】 教育相談に大事な考え方やクライアントへの接し方など，様々な技法を調べ、どのように活用したらよいか，グループで話し合い，発表する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
9	進路指導の理論と方法① ・進路指導の意義と性格 ・進路指導の歴史と理論 ・進路指導の定義 ・進路指導の教育的・社会的意義 ・進路指導の目標と性格 ・進路指導の法制	・進路指導の意義・性格と法制につい て【レポート設題】 【科目終了試験学習ポイント１・２】 キャリア教育と職業教育の違いについて調べ､育成すべき能力に着目して進路指導の意義について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
10	進路指導の理論と方法② ・キャリア教育の意義と実際 ・キャリア教育が求められる背景・経緯 ･キャリア教育の教育課程への位置付けと進路指導の改善・充実	・進路指導の方法、課題について 【科目終了試験学習ポイント１・２】 生きる力を育む教育を有効に進めるために､生徒指導同様キャリア教育が重要になっていることを中教審答申を踏まえ､生きるための汎用的な資質能力が求められていることについて、話し合い、重要性をまとめる。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)

11	進路指導の理論と方法③ ・進路指導の組織と計画 ・進路指導の課題と展望 ・校内組織、指導体制 ・小中高における進路指導の指導計画 ・学校観、進路指導観の転換 ・能力、適性選抜システムの改善 ・物質、人的条件の拡充整備 ・学校外教育との連携強化 ・生涯学習社会への移行	・進路指導の方法、課題について 【科目終了試験学習ポイント１・２】 --- 自己指導能力を育み自己実現を目指す生徒指導とよりよく生きるための資質能力を育むためのキャリア教育の共通性をとらえ、どのような指導が望ましいのか，話し合い発表する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
12	学級経営の理論と方法① ・学級経営の基本課題 ・学級経営の意義、ねらい、役割 ・学級は教育活動の母体 ・学級における個人と集団 ・学級の人間化 ・子どものつまずきは教師のつまずき ・教師と子どもの人間関係の確立 ・学級経営の法的背景 ・学級経営の理念は管理でなく理解 ・学級経営の内容	学級経営の方法、進め方と留意点について 学級目標の作成と具体的な活動内容について 【科目終了試験学習ポイント１・３～６】 --- 児童生徒の学校生活を豊かなものにするために、学級担任が努力すべき事、児童生徒に指導すべき事を資料で調べ、支持的風土をもつ学級にするために工夫することについて話し合い、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
13	学級経営の理論と方法② ・学級経営の方法、進め方 ・学級経営の組織と計画 ・学級崩壊の事例検討 ・集団経営 ・教室経営 ・事務経営 ・連携経営 ・適応指導教室 ・学級の組織と編成 ・保護者との連携 ・学級経営案 ・学級崩壊とは ・学級崩壊の類別 ・学級崩壊の実際 ・学級崩壊からの再生	学級目標の作成と具体的な活動内容について 【科目終了試験学習ポイント１・３～６】 --- 学校でよくある事例を基にグループで事例を解決するための指導の在り方を、実際に教師の立場で児童生徒の発達段階を踏まえ、指導の実技を行う。相互に指導について評価し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
14	学級経営の理論と方法③ ・特別支援教育の理解と対応 ・軽度発達障害児支援への事例検討 ・ADHD、 LD、高機能自閉症の理解と対応 ・軽度発達障害による二次障害 ・特別支援教育の推進	特別な支援を必要とする児童生徒に対する生徒指導について --- 発達障害の特徴を知るとともに、合理的な配慮の在り方について，高機能自閉症の症例を基に話し合い、対策を考えることができる。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
15	児童生徒指導論のまとめ	生徒指導の意義、教育相談、進路指導、学級経営のポイントについてふりかえる --- 自己指導能力を育成するために、どのように生徒指導を進めればよいか、自己の考え方についてレポートにまとめる。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 学校教育における生徒指導の意義や役割及びガイダンスの機能の充実によるこれからの生徒指導のあり方について述べよ。

＜ポイント＞

生徒指導は、本来的に教師と児童生徒、児童生徒同士の好ましい人間関係上で児童生徒の自己実現を支援する働きであり、「生き方」の指導である。また、新学習指導要領で示された「ガイダンスの機能の充実」は、生徒指導の新しい視点として今後の方向を示唆している。これらを前提にして、具体例を挙げながら説述すること。

科目終了試験学修のポイント

１．ガイダンスの機能の充実を図ったこれからの生徒指導について

＜ポイント＞

・平成１０年度の学習指導要領改訂時に中学・高校の「総則」と「特別活動」に「ガイダンスの機能の充実」という言葉が登場した。内容は(5)に「 生徒が学校や学級での生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成する事が出来るよう、学校の教育活動全体を通じ、ガイダンスの機能の充実を図ること」とある。

・小学校においては「ガイダンス」の言葉は用いられていないが、ほぼそれに相当する言葉が、総則の指導計画作成上の配慮するべき事項(5) に、「各教科等の指導に当たっては、児童が学習課題や活動を選択したり、自らの将来について考えたりする機会を設けたりするなど工夫すること」とある。

・近年の児童生徒の実態から、不登校、いじめ、学校不適応、高校中退等が増加傾向にあり、また「生きる力」の育成を一層重視する立場から、生徒指導の改善充実を図るために、「ガイダンス」の機能の充実が導入されたのである。

２．ガイダンスの機能の充実と進路指導について

＜ポイント＞

・「ガイダンスの機能の充実」に関しては、「特別活動」の内容として、「学級活動」の中で、「将来の生き方と進路の適切な選択に関すること」を指導することとされ、その具体的な内容として、①進路適性の吟味と進路情報の活用、②望ましい職業観・勤労観の形成、③主体的な進路の選択と将来設計などが明示されている。

・生徒が多様な進路の選択、将来の生き方、あるいは各教科の学修内容を理解できるように工夫し、ガイダンスの機能の充実が図られるようにしなければならない。

・近年は、進路指導はキャリア教育の推進の中に位置づけられ、キャリア発達を促す指導と進路決定のための指導が系統的に展開され、幅広い能力の形成を目指して行われている。

３．生徒指導を実践するにあたり考慮すべき基本事項について

＜ポイント＞

・生徒指導の究極の目的は、自己指導能力の育成である。自己指導能力は、学習指導要領の総則の「生徒指導」に示されているように「自主的に判断行動し、積極的に自己を生かしていく」ことである。

・自己指導能力の育成のためには、①児童生徒に自己存在感を与える。②共感的な人間関係を育成する。③できるだけ多く自己決定の場を与え、自己の可能性を援助するである。

・生徒指導を行うための前提条件は、教師と児童徒との信頼関係である。生徒指導を効果的に行うために、教師は児童生徒の行動や背景を正しく、客観的に理解する必要がある。教師は常に事実にあった適切な指導を心掛けなければならない。

４．いじめ・不登校・暴力行為等の指導及びLD児・ADHD児の理解について

＜ポイント＞

・いじめや不登校、暴力行為等は、学校教育の根幹を揺るがす重大な問題であり、学校関係者は、日頃から家庭をはじめ、地域の民生・児童委員や児童相談所、警察などの関係機関との連携を密にして、速やかな解決に努めなければならない。

・いじめ　～学校はいじめを発見しやすい立場にあり、児童生徒の学校生活のみならず日常生活にも注意を払い、早期発見とその解決に努めなければならない。

・不登校　～「不登校は誰にでも起こりうること」の認識が大切である。不登校児童生徒の再登校に目を向けるだけでなく、児童生徒の自主性や社会性の伸長、登校意欲の回復、家庭機能の回復と言った対応を取ることが特に大切である。

・校内暴力　～対教師暴力、生徒間暴力、器物破損に分類される。学校は組織の機能を十分に生かし、関係団体や機関と連携を図りながら、将来のある一人ひとりの児童生徒が良さや可能性を精一杯伸ばせるよう指導と援助を推進しなければならない。

・LD児・ADHD児の理解　～中枢神経系に何らかの機能障害などがあり、学習上困難を有する児童生徒のことである。教師は、

対象児童生徒に対する正しい理解と専門的な知識・理解を持つことが求められる。特別支援教育の理念に基づき、教師は障害児と障害をもたない児童生徒との共修や保護者の理解と協力を得て、適切な学級経営を推進しなければならない。

5．学級集団に適応できない児童生徒の指導と特別活動の役割について

＜ポイント＞

・コーディネーターを中心とした校内体制を確立し、不適応児童生徒の学習面、心理面、社会面、進路面、健康面などについて多面的に児童生徒の理解を深め、学校と家庭で信頼関係の構築に努め、情報を共有することが重要である。
・学校で出来ること、家庭で出来ることの意見を出し合って役割分担をすることで、指導・援助出来ることが増えていく。
・不適応の解決に向けた個別的かつ具体的な指導・援助計画として短期の目標、長期の目標を作成することが大切である。
・必要に応じて、病院や相談機関、教育相談室等と協力して、組織的な指導・援助を進めることも大切である。

6．生徒指導上の諸課題と「生きる力」の育成との関連について

＜ポイント＞

・　生徒指導は、人間形成の場としての学校教育において、学習指導と共に心を育てる主要な教育活動である。しかし、今までの生徒指導においては、問題行動そのものへの対応といった消極的な面（消極的な生徒指導）のみがクローズアップされがちであった。しかし、問題行動を自らが未然に防止することができる心を育てる指導(積極的な生徒指導)こそが本来の生徒指導の在り方と言える。
・　生徒指導上の諸問題であるいじめ、暴力行為、不登校等は必ずしも減少傾向に有るとは言えず、依然として厳しい状況が継続している。生徒指導上の諸課題を解決するためには、全ての児童生徒を対象にした積極的な生徒指導を重視し、児童生徒の生きる力を育む生徒指導がますます重要となっていると言える。
・　これからの生徒指導は、児童生徒の「生きる力」の育成をより重視する必要がある。そのためには、集団への適応能力の育成、人間関係を上手に結ぶ能力の育成、人間としての在り方・生き方を考え、行動する能力・態度の育成等の指導、つまり、ガイダンスの機能の充実を図ることに重なってくる。

教科書

高橋哲夫著『生徒指導の研究　第三版』教育出版、2009 年。
東京福祉大学編『レポート・試験はこう書く 教職科目要説[初等教育編][改訂版]: 小学校教諭をめざす人のための専門科目・関連科目学習参考例』ミネルヴァ書房、2015 年。
東京福祉大学編『レポート・試験はこう書く 教職科目要説[中等教育編][改訂版]: 特別支援学校教諭・養護教諭・高等学校教諭〔福祉・公民〕をめざす人のための 専門科目・関連科目学習参考例』ミネルヴァ書房、2015 年。

参考文献

文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2011 年。
文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則編』東洋館出版社、2016 年。
文部科学省『中学校学習指導要領解説　総則編』ぎょうせい、2008 年。
文部科学省『小学校学習指導要領解説　特別活動編』東洋館出版社、2008 年。
文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別活動編』ぎょうせい、2016 年。
中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）

科目コード	児童文化論（２単位）	登録年次	履修方法
7160		３年	R
教員名	上木文夫、駒井美智子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

健全な子育て及び保育、教育に欠くことのできない児童文化に関して、その意義や課題を述べ、遊びを中心にその具体的な内容や価値を解説するとともに、遊園地設計、ストーリーテリング、絵本、紙芝居作り等の実践を通して、児童文化の理解力と指導力を育てる。

学修内容

1	児童文化・子ども文化とは何か。 ・歴史、定義、範囲、種類
2	子育て、子育ちにとっての児童文化。 ・自己の体験から、地域、家庭、保育所、幼稚園での状況
3	子ども文化における遊び ・歴史、伝統　・子育て、子育ちにおける価値　・指導支援の仕方
4	玩具や遊具及び遊園地と児童文化 ・歴史　・遊び方、与え方　・遊園地の設計　・今日の課題
5	手遊び、ことば遊び、折り紙等の伝統文化 ・与え方、指導法、価値
6	昔話、素話、ストーリーラリングの内容、技術、練習 ・受容した体験からの考察　・具体的経験、練習　・子どもの受容の仕方
7	子育てにおける絵本 ・絵本の種類　・選び方、与え方　・読み聞かせの基本的技術と練習
8	紙芝居の価値と演じ方 ・歴史　・保育所、幼稚園における活用の仕方　・紙芝居と絵本の違い
9	幼児画の見方、扱い方 ・幼児にとっての画の表現　・幼児画の指導と見方　・用具、用紙の与え方
10	わらべ歌、童謡、唱歌 ・歴史と体験　・与え方と指導の工夫
11	劇遊び、即興劇の価値、扱い方 ・ごっこ遊びから　・生活の場から　・絵本、童話から
12	人形劇、ペープサート、紙芝居作り ・お話、絵本から　・行事、生活の場から　・表現活動から
13	お遊戯会、学芸会での幼児演劇と劇鑑賞の意義と指導 ・脚本作りと脚本選び　・道具、衣装作り　・セリフ、動作の指導　・劇選びと楽しみ方　・保護者への指導、協力
14	テレビ、ビデオ、雑誌と児童文化 ・活字メディア、視聴覚メディアへの対応　・メディアリテラシーの基本指導　・保護者との連携子育て
15	児童文化政策、運動、施設及び営利的活動からの児童文化の課題 ・読書　・図書館・劇場　・公園、遊園地　・児童館　・マスコミ　・玩具製作、発表

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 発達の特徴に応じた、玩具や集団遊びを挙げ、選定のポイントと保育者の援助について述べよ。

＜ポイント＞
1．乳幼児期の発達過程について理解する。
2．玩具の特徴、種類、安全性などについて調べる。
3．現在の乳幼児や児童の遊び等の状況や環境を調べ考える。
4．5領域（言葉・健康・人間関係・表現・環境）との関連から、集団遊びや玩具の具体を選定し、具体的な援助についてその方法を考える。

科目終了試験学修のポイント

1．変化する社会と児童文化の価値及び今日的課題について
＜ポイント＞
日本における「児童文化」に対する定義及びその考え方を理解し、現代社会における遊びの変化と課題を考察する。

2．伝承遊びとその意義及び指導について
＜ポイント＞
教科書の例以外に自分自身の体験や地域に見られる独特な遊びの保育や教育の観点から考察し、その継承、指導の具体的な方法を提示する。

3．子どもの遊びの変化と現状について
＜ポイント＞
遊びを「空間」「時間」「仲間」「地域」の観点から考え、現在の遊びの特徴と現状について、具体的な子どもの姿や遊びの例などを提示する。。

4．保育における年中行事の意義について
＜ポイント＞
幼稚園や保育所で年中行事を行うことについて、年中行事が子どもにとってどのような意味があったものであったのか、歴史的意義を踏まえ、現状の子どもの生活の変化や生活経験の変化から現代における意義を具体的に提示する。

5．児童文化財の理解と保育実践の展開について - ペープサート・パネルシアター―
＜ポイント＞
ペープサート、パネルシアターの特徴を挙げ、その制作方法を具体的に提示する。また、実践における演じる時の留意点や配慮点、及び展開について、具体的に考察する。

6．児童文化としての絵本・児童文学とその意義について
＜ポイント＞
絵本や児童文学を読み合うことの重要さについて具体的に提示し、子どもが読書を通して得ることについて考察する。

教科書

原晶、他『児童文化』建帛社。

参考文献

仙田満『子どもとあそび』岩波新書。
武田京子『子どもの生活と文化』樹村房。

科目コード	司法福祉論（2480：４単位／2481：２単位）	登録年次	履修方法
2480/2481		３年	R
教員名	吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

非行・犯罪少年の審判や裁判、少年院や少年刑務所に関わる矯正行政、保護観察や仮釈放などの更生保護行政、児童福祉施設や児童自立支援施設などに関わる児童福祉行政、さらには家事審判法などによる家庭福祉、法律扶助制度などについての専門的知識の修得をめざす。あわせて、犯罪被害者の支援、司法福祉の領域における公衆の参与についても学修する。

学修内容

1	「刑事司法と福祉」について 再犯率が多いといわれているわが国において、ソーシャルワークがどのような役割を果たすべきなのかについて学ぶ
2	社会と犯罪 犯罪とはなにか、エビデンスに基づいた政策等について学ぶ
3	犯罪原因論と対策 犯罪の原因を各種アプローチ（生物学的・心理学的・社会学的）の展開について学ぶ
4	刑罰とは何か 犯罪をした者に制裁を科す刑罰制度、制度の歴史等について学ぶ
5	刑事司法 刑事手続きの概要と重要な原則、犯罪の成立要件などについて学ぶ
6	少年司法 犯罪の低年齢化が叫ばれているわが国における、少年司法制度の処分とその適用状況を学ぶ
7	施設内処遇①～成人 刑事施設の処遇の在り方等を通して、地域生活に向けた支援のあり方、対人援助職の連携のあり方を学ぶ
8	施設内処遇②～少年 少年院における矯正教育のあり方と社会復帰支援の実際について学ぶ
9	社会内処遇①～更生保護の理念と概要 更生保護におけるソーシャルワーカーの役割・課題について学ぶ
10	社会内処遇②～更生保護の実際 更生保護のネットワークについて確認し、どのような有機的連携が可能か学ぶ
11	多様なニーズを有する犯罪的行為①～精神障害者をちい対象とした医療観察制度 医療観察制度の概要、社会復帰調整官の役割、地域のソーシャルワーカーの役割について学ぶ
12	多様なニーズを有する犯罪的行為②～高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉 司法と福祉の連携の展開、地域生活定着支援センターの役割や機能、入口支援・出口支援等について学ぶ
13	多様なニーズを有する犯罪的行為③～アディクションを抱える人と刑事司法 アディクションについての様々な誤解や、ソーシャルワーカーや地域社会の協力について学ぶ
14	犯罪被害者等支援 犯罪被害者等支援に関する制度の概要を把握し、支援の実際について学ぶ
15	コミュニティと刑事司法 地域共生社会が叫ばれる昨今、刑事司法への国民参加のあり方、対話という問題解決のあり方などについて学ぶ

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

<u>※2006（平成18）年度以降の入学者は、設題１と設題２からいずれか１つを選んでレポートを作成すること。</u>

【設題１】

社会内処遇としての更生保護について述べよ。

＜ポイント＞

社会内処遇としての更生保護の意義と歴史を確認し、更生保護におけるソーシャルワークについて考察し、国の機関である保護観察所や保護観察官の役割や保護観察、仮釈放などについてまとめること。

【設題２】

多様なニーズを有する犯罪行為者について述べよ。

＜ポイント＞

医療保護制度、地域生活定着支援センターなど、地域共生社会を目標にしているわが国のソーシャルワーカーが必要な知識・技術などについて考察して、自らの意見を述べること。

科目終了試験学修のポイント

１． ソーシャルワーカーがなぜ刑事司法と福祉を学ぶのかについて

＜ポイント＞

措置とも契約とも違う「司法福祉」を学ぶ意義について検討すること。

２． 刑罰とは何かについて

＜ポイント＞

刑罰の本質と機能および刑罰の種類と適用の状況に焦点を当てること。

３． 少年司法について

＜ポイント＞

少年法の意義、少年保護手続きの流れ、少年院制度に焦点を当てること。

４． 刑事司法について

＜ポイント＞

刑事手続きの概要、原則、責任能力などに焦点を当てること。

５． 犯罪被害者の支援について

＜ポイント＞

犯罪被害者等の支援制度の概要、考え方に焦点を当てること。

６． ダブルロールについて

＜ポイント＞

保護観察における、法的支援である指導監督と福祉的支援である補導援護について焦点を当てること。

教科書

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　『刑事司法と福祉』　中央法規。

参考文献

社会福祉士養成講座編集委員会　『更生保護制度』　中央法規。

科目コード	司法・犯罪心理学	登録年次	履修方法
3710		3年	R
教員名	久保貴、高木俊彦		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心理学の立場に依拠しつつ、犯罪や非行の原因を生物学的要因、パーソナリティ要因、社会的要因などから探る。生物学的要因として主にロンブローゾの学説やホルモン・神経伝達物質、条件付けとの関連等について理解し、パーソナリティ要因としては行為障害や人格（パーソナリティ）障害、セルフコントロールとの関連等について理解する。社会的要因としてはアノミー論や分化的接触理論、社会的絆理論、ラベリング理論、競争の激化に伴う格差社会の進展やマスコミ報道が及ぼす影響等について考察する。

また、具体的犯罪内容については、暴力犯罪、性犯罪、ＤＶ・ストーキング・虐待、窃盗・強盗・放火などの類型に分けて理解する。さらに、犯罪捜査や防犯、犯罪者や非行少年の矯正・保護といった処遇システムについても、心理学のみならず、社会学、司法、精神医学などの立場からの理解も深めながら、犯罪心理学という学問あるいは心理職がどのような役割を果たせるのか、その可能性について考察する。以上の学修を通して、犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について、理解を深める。

学修内容

1	オリエンテーション ― 犯罪とは何か、犯罪と刑罰の歴史、凶悪犯罪は増えているか 犯罪とは何か、社会の掟と掟破りとしての「犯罪」、掟から成文法あるいは宗教的戒律に基づく「犯罪」、そして法の下での「犯罪」＝罪刑法定主義へと、犯罪と刑罰の歴史について概観する。次に、我が国の刑法の例を挙げ、刑法に定める行為が犯罪とされ有罪とされるための条件について説明。最後に、犯罪の種類が多様化する一方、凶悪犯罪は増えているかという問いかけにつき考察、犯罪心理学における科学的な分析と考察の重要性について学ぶ。
2	人はなぜ犯罪者になるのか ― 犯罪の生物学的原因論 犯罪の生物学的原因論について、人類学的立場からロンブローゾの生来性犯罪者説を紹介。また、犯罪と遺伝との関連から、犯罪者の家系研究、養子研究、双生児の研究を、さらに犯罪と環境との関連では野生児の研究を、また、医学的、病理学的関連からはホルモンと犯罪、神経伝達物質と犯罪などについて学ぶ。最後に、現在の犯罪心理学では、環境か遺伝かという二元論ではなく、素質と環境両方の要因の相関関係に求めるクルト・レビンのＢ＝Ｆ（Ｐ・Ｅ）の公式について考察する。
3	人はなぜ犯罪者になるのか ― 犯罪の心理学的原因論 犯罪の心理学的原因論について、精神疾患、知的障がいと犯罪との関係について言及したのち、フロイトの精神力動的アプローチを紹介。次いで、犯罪と性格特性との関係で、グリュク夫妻の研究や敵意帰属バイアス、敵意的反芻傾向、セルフコントロールの欠如、サイコパス（psychopathy）傾向、生涯持続型反社会性などについて学ぶ。さらに、犯罪と家族関係、犯罪とメディア、特に、暴力的な映画やテレビ番組と暴力犯罪又ポルノメディアと性犯罪の増加との関係等について考察する。
4	人はなぜ犯罪者になるのか ― 犯罪の社会学的原因論 犯罪の社会学的原因論の観点から、アノミー理論（緊張理論）、分化的接触理論、分化的同一化理論、社会的絆理論（social bond theory）又は統制理論（control model）、漂流理論・ドラフト理論（drift theory）、ラベリング理論（Labeling theory）、割れ窓理論（broken window theory）等について学ぶ。
5	犯罪の種類と犯罪の心理（1）暴力犯罪（暴行、傷害、殺人） 暴力犯罪について、まず、その代表である殺人・傷害事件について、その定義と現状について説明する。そのあと、計画的な暴力犯罪と衝動的な暴力犯罪、ホームズの連続殺人犯の分類、秩序型と無秩序型についてテッド・バンディ事件の例などを挙げて考察。その他、女性による連続殺人、宗教テロリズム、又「秋葉原大量殺傷事件」や「津山３０人殺し」（「八つ墓村」）事件の例など挙げながら、無差別大量殺傷事件の原因と行動パターンの共通性等について学ぶ。
6	犯罪の種類と犯罪の心理（2）性犯罪 性犯罪について、特にその代表的犯罪であるレイプ（強姦）を採り上げ、レイプの定義と現状を紹介し、知人間レイプ、ストレンジャー・レイプについて触れたあと、ナイトとプレンツキーによるレイプ犯人の分類とレイプ犯人の犯行のテーマに関する研究を紹介。また、性犯罪者の多くに見られるレイプ神話（rape myths）、そして最後に、レイプ犯罪に関する偏見とセカンド・レイプについて言及。最後に、子どもに対する性犯罪についても触れる。
7	犯罪の種類と犯罪の心理（3）ＤＶ、ストーキング ドメスティック・バイオレンスとストーキングについて、ドメスティック・バイオレンス（Domestic Violence）の定義と現状 、ドメスティック・バイオレンスの原因、離脱するのが困難なドメスティック・バイオレンスの特質とその対処法について学ぶ。ストーキング（stalking）については、その定義と現状、ストーカーの特性、拒絶型、憎悪型、親密希求型などストーカーの分類、ストーカーの危険予測について学ぶ。。
8	犯罪の種類と犯罪の心理（4）窃盗、強盗、 まず窃盗犯罪に関しては、窃盗の定義と現状 、侵入窃盗、内部窃盗、万引きなどをブースター型、スニッチ型などの分類に従って説明。強盗に関しては、強盗の定義と現状、強盗犯人のテーマ、そして強盗のタイプを、プロフェッショナルタイプ、盗賊タイプ、カウボーイタイプ等に分け、あるいは、路上強盗、銀行強盗・金融機関強盗といった分類で説明。その他、ホワイトカラー犯罪やコンピュータ犯罪についても学ぶ。
9	犯罪の種類と犯罪の心理（5）放火、誘拐、監禁 放火は、日本の火災原因のトップであり、犯行の隠蔽、復讐、保険金目当てのほか、老人、子ども、女性、自信欠如者などが不満解消、鬱憤晴らし、八つ当たり的に行う「弱者の犯罪」とも言われている。また、放火が、手段としての放火、放火症（ピロマニア）、もうろう状態での放火の三つに分けられることについて学ぶ。誘拐、監禁については、その原因背景として、意のままに他人を支配したいという支配欲、ヒトと家畜との関係への「先祖がえり」、サディズム（性嗜好異常の一類型）といった諸説を紹介。また、誘拐の目的から、強制わいせつや強姦を目的とする通り魔的な「わいせつ誘拐」、人質の安全・解放と引き換えに近親者から多額の金品を奪おうとする「身の代金目的略取等」を目的とする誘拐に分けて説明する。犯人の中には、空想虚言者、粘着気質の者、衝動的な境界性パーソナリティ障害者などが少なくない。その他、人質を盾に取り監禁し、物質的、個人的な利益を得ようとする「三菱銀行人質強盗殺人事件」事件や「日航よど号ハイジャック事件」など政治・思想的な背景をもつ事件もあることに言及する。監禁された被害者が加害者に親近感を感じるストックホルム症候群についても学ぶ。
10	犯罪の種類と犯罪の心理（6）いじめ、虐待 いじめについて、その現状と背景を、人間の本能的攻撃性、過剰な競争や格差社会のストレス、自己統制能力の未熟等の観点から考察する。また、陰湿ないじめがが子どもの自殺をもたらす深刻な社会病理についても言及する。その他、ノルウェイの生物学者ソレリフ・シェルデラップ＝エッベによるニワトリ社会のイジメ現象（Pecking Order）の研究と「イジメの構造」についても紹介する。虐待については、その定義と現状、また、その内容について、身体的虐待、性的虐待（sexual abuse）、ネグレクト、心理的虐待（emotional abuse）、代理（による）ミュンヒハウゼン症候群（Münchhausen Syndrome by Proxy：MSbP）、虐待の連鎖（intergenerational transmission of abuse）などについて学ぶ。その他、最近問題になっている高齢者虐待についても触れる。
11	事例研究 （各受講生による事例研究とレポートの報告、講師によるコメント等） 各受講生が、自分の関心のある犯罪事件の事例を一例取り上げ、その動機や原因背景、また犯罪者の心理について分析、考察し、その結果を小レポート（1200 字程度）にまとめて提出する。

12	犯罪捜査 まずプロファイリング（profiling）に関し、ＦＢＩ方式やリバプール方式（Offender profiling or criminal profiling）、そして 地理的プロファイリングなどその歴史と現状を紹介。併せて、我が国における歴史とプロファイリング発動事件の例として世田谷一家惨殺事件を取り挙げる。次に、ポリグラフ検査（polygraph test）について、ポリグラフ検査の質問法（ 犯行知識検査 ＝ ＧＫＴ Guilty Knowlege Test）及び中枢神経系指標を用いたポリグラフ検査（脳波検査）を紹介。その他、目撃証言や取り調べ過程の科学的研究、あるいは似顔絵とモンタージュ写真による犯罪捜査についても学ぶ。
13	犯罪予防 犯罪予防について、心理学の知識を効果的に用い、犯罪を起こさないためにどうすればよいのかを明らかにしていく。まず、環境設計による犯罪予防として、「プルイット・アイゴーの悲劇」の例を挙げ、犯罪から「守りやすい（住）空間」を作り上げる必要性について考察する。また、ジェフリーらによる防犯環境設計（CPTED）理論や状況的犯罪予防、防犯について有名な理論である「ルーティン・アクティビティ・セオリー」などについて紹介する。その他、ウィルソンとケリングの「割れ窓理論」やメーガン法、わが国の「社会を明るくする運動」等の犯罪予防活動や地域活動についても学ぶ。
14	犯罪者の処遇・社会復帰１　矯正における犯罪者処遇 有罪となり懲役刑が確定すると刑務所など刑事施設に入所する。刑務所（刑事施設）では、受刑者の刑が執行（処遇）される。処遇の一つが「作業」で、懲役刑では、一定の期間の作業が義務づけられる。処遇のもう一つが「矯正指導」である。少年については、少年院送致の保護処分を受けた者は少年院に収容される。少年院では、非行深度等により区分別に収容され、共同生活を通して、生活習慣の改善や学習、勤労意欲の育成、教科教育、職業訓練などが行われる。ここでは、刑事施設及び少年院など矯正施設における犯罪者や非行少年の処遇について学ぶ。
15	犯罪者の処遇・社会復帰２　更生保護における犯罪者処遇 犯罪や非行をした人の立ち直りを図り、再び犯罪や非行を起こさせないようにするには、その素質、環境を考慮しつつ、その人に必要な各種の支援、福祉でいう自立支援が必要である。ここでは、社会の中での働きかけ（処遇）を中心とする更生保護制度について、その概要、担い手、関係機関・団体との連携、また、精神障害等の状態で重大な他害行為を行った人の社会復帰の促進を目的とする医療観察制度や新しい専門的処遇プログラムの概要、さらには、更生保護制度の現状と今後の展望について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】
最近の「無差別殺人事件」や「通り魔殺人事件」に象徴される現代型犯罪の原因・背景について、犯罪心理学の観点から論述せよ。
＜ポイント＞
秋葉原無差別殺人事件や最近の通り魔殺人事件と呼ばれる犯罪の原因・背景とこの種犯罪者の心理を、次に示す言葉の幾つかをキーワードとして論述する。
幼少期における虐待や母性的愛情の欠如、トラウマ、競争と格差社会、ワーキングプア、都市化と匿名社会の中での孤独、マスコミの犯罪報道と模倣犯、劇場型犯罪、拡大自殺と間接自殺、情性欠如者、自己確認型犯罪

科目終了試験学修のポイント

１．暴力団や暴走族など逸脱集団への加入を「否定的同一性」獲得の観点から説明する。
＜ポイント＞
「アノミー論」や「分化的接触理論」などの理解の下、逸脱集団への加入を「否定的同一性」獲得の観点から考察、説明する。

２．犯罪者や非行少年の更生・社会復帰のための社会内処遇、特に心理治療的処遇について
＜ポイント＞
少年院や保護観察所における専門的処遇プログラムの実施など、更生・社会復帰のための施設内、社会内処遇、特に心理治療的処遇について理解しておくこと。

３．犯罪・非行の素因としての「虐待と暴力の連鎖」について
＜ポイント＞
いじめや学校内暴力などの多くが、過去に虐待や暴力の被害経験を有する者によって行われているとの主張がある。このように、特に暴力が介在する犯罪・非行を「虐待と暴力の連鎖」の観点から考察、説明する。

４．シュナイダーの「情性欠如者」と DSM の「反社会的パーソナリティ」について
＜ポイント＞
犯罪者の人格的理解について、シュナイダーの「情性欠如者」あるいは「精神病質者」の概念から、DSM の「反社会的パーソナリティ」の概念が用いられるようになった歴史とその内容について理解する。

５．犯罪被害者の「PTSD」について
＜ポイント＞
犯罪被害者は、犯罪に遭ったそのときに害を被るだけでなく、その後も様々な心身の障害に苦しむ者が少なくない。これを「ＰＴＳＤ」の概念と関連させ説明し、最近の犯罪被害者支援施策との関連においても考察しておく。

６．マスメディア、ＩＴ社会の進展と犯罪について
＜ポイント＞
特に、ＩＴ社会の進展などによる新たらしい形の犯罪の発生が注目されている。マスメディア、ＩＴ社会と現代型犯罪との関係について考察しておくこと。

教科書

越智啓太『Progress&Application 犯罪心理学』サイエンス社。

参考文献

松本勝『更生保護入門』成文堂。

科目コード	社会（２単位）	登録年次	履修方法
4290		２年	R
教員名	荻原邦昭、小野智一、金子康一、篠大輔、鈴木収、安田博行、若狭清紀		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

小学校社会科の目標と内容について、小学校学習指導要領解説・社会編を基にして学修し、理解を深める。特に、今回の学習指導要領の改訂における小学校社会科の改訂のねらいと社会科の目標及び各学年の目標と指導内容の特色等について具体的に学修する。また、学び方や調べ方を身につける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習のあり方について学修する。

学修内容

1	課題：「社会科」に期待されていることは何だろう。 教科書 pp.1-9.を読み、改訂された学習指導要領の性格をまとめよう。 関連…【設題１】　関連…科目終了試験学修のポイント１
2	課題①：教育基本法より、社会科に関係する箇所・条文を見つけよう。 課題②：戦後に登場した社会科はどのような内容であったのか。 関連…【設題１】　関連…科目終了試験学修のポイント１
3	課題：各学年の目標のうち、「理解に関する目標」「態度に関する目標」「能力に関する目標」について注目し、学年を追ってどのような発達を子どもに期待しているのか説明してみよう。教科書 pp.10-17.を参照するとよい。 関連…科目終了試験学修のポイント２
4	課題①：指導計画を作成する上での配慮事項にはどのようなものがあるのか。要点をまとめよう。 課題②：各学年にわたる内容の取り扱いと指導上の配慮事項にはどのようなものがあるのか。要点をまとめよう。 教科書 pp.100-107.を参照するとよい。 関連…科目終了試験学修のポイント６
5	課題：学習指導案作成にあたってのポイントを整理しよう。 授業の時に大切にすることは何か。その根拠も含めて各々リストアップしてみよう。 関連…【設題１】
6	課題：社会科における「言語活動」はどうあるべきか。具体的な指導方法を取り上げ、どう評価するのか説明しよう。 言語活動は例えば実践としてはレポート作成や新聞づくりなどの形で現れる。その成果をどのような観点で評価するべきか考える。 関連…【設題１】
7	第３・４学年の地域学習① 課題：「地域における社会的事象を観察や調査する」にあたり具体的に取り組ませる時のポイントを指摘しよう。 見学活動指導での注意点をリストアップしてみる。 関連…科目終了試験学修のポイント３
8	第３・４学年の地域学習② 課題：地形図から「地形」「土地利用の様子」を読み取ろう。 地元や実習先の学区、または大学付近の地形図を見て気になった場所をリストアップしてみる。 関連…科目終了試験学修のポイント３
9	第３・４学年の地域学習③ 課題：地域巡検を実践しよう。教科書 pp.20-24.を参照し、身近な地域の探検・見学コース案を考えてみる。 関連…科目終了試験学修のポイント３
10	第５学年の国土学習 課題：我が国の位置と領土について調べる際の留意点について説明しよう。教科書 pp.51-52.を参照。 関連…科目終了試験学修のポイント４
11	第５学年の産業学習 課題：統計資料にはどのような種類があるのか。またそれぞれの特性について考えよう。 身近な統計データを一つ取り上げどのように授業で活用できるのか考えてみる。年間降水量、コメの生産量など統計から社会的事象を読み解く機会を積極的に持つこと。　関連…科目終了試験学修のポイント４

12	第６学年の国際社会と日本の学習 課題：「グローバル化する世界と日本の役割」をどう学ばせるのか、具体的に学ばせる時のポイントを指摘しよう。教科書①pp.122-125.を参照。 関連…科目終了試験学習のポイント５．「小学校６年生の目標と内容の特色について」
13	課題：指導計画の作成に当たっての配慮事項にはどのようなものがあるのか。要点をまとめよう。 教科書①pp.126-132.を参照。 関連…科目終了試験学習のポイント６．「指導計画の作成と内容の取扱いについて」
14	課題：内容の取り扱いについての配慮事項にはどのようなものがあるのか。要点をまとめよう。 教科書①pp.132-139.を参照。 関連…科目終了試験学習のポイント６．「指導計画の作成と内容の取扱いについて」
15	課題：学習指導案作成にあたってのポイントを整理しよう。授業の時に大切にすることは何か。その根拠も含めて各々リストアップしてみよう。教科書①pp.140-175.を参照。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】小学校学習指導要領社会の目標・内容の具体化を図る視点・方法について、教科書を根拠にしながら具体的に述べよ。

＜ポイント＞

小学校社会科の目標・内容が具体化される場は授業である。そこで、学習指導要領に示された各学年の目標・内容のうち、どれか一つを取り上げ、その内容について児童が興味・関心をもって主体的に取り組めるようにするための内容の具体化について述べる。特に内容の具体化を図る教材研究の仕方や、具体化した教材の作成・提示について着目したい。

科目終了試験の各ポイントについて学修を進めた上で、レポート作成にとりかかると、より理解しやすい。

科目終了試験学修のポイント

１．小学校社会科の目標の特色と学年の目標の構造及び系統について

＜ポイント＞

教科書『小学校学習指導要領解説　社会編』を参照し要旨をまとめること。

２．小学校３年生の目標と内容の特色について

＜ポイント＞

教科書『小学校学習指導要領解説　社会編』を参照し要旨をまとめること。

３．小学校４年生の目標と内容の特色について

＜ポイント＞

教科書『小学校学習指導要領解説　社会編』を参照し要旨をまとめること。

４．小学校５年生の目標と内容の特色について

＜ポイント＞

教科書『小学校学習指導要領解説　社会編』を参照し要旨をまとめること。

５．小学校６年生の目標と内容の特色について

＜ポイント＞

教科書『小学校学習指導要領解説　社会編』を参照し要旨をまとめること。

６．指導計画の作成と内容の取扱いについて

＜ポイント＞

教科書『小学校学習指導要領解説　社会編』を参照し要旨をまとめること。

教科書

①北俊夫、加藤寿朗　編『小学校新学習指導要領の展開　社会編』明治図書。

②文部科学省『小学校学習指導要領解説　社会編』東洋館出版。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍。

科目コード	社会科学（２単位）	登録年次	履修方法
1470		１年	R
教員名	佐々木貴雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

現代社会のさまざまな重要事項・問題や社会の仕組みを総合的に理解し、大学程度の一般教養を身につけるとともに、就職試験などで課される社会科学の領域（政治・法律、経済、社会・労働・時事問題、思想など）に関する重要概念を学修する。

学修内容

1	東日本大震災 巨大地震とそれに続く巨大津波は、大きな被害をもたらした。地域の復興や原発事故への対応も課題となっているが、単に東日本大震災が問題を引き起こしただけではなく、それまですでに存在していた課題を震災が顕在化させたという面も考えられる。被害地域だけの問題としてではなく、日本全体の問題としてとらえたい。
2	福島第一原発事故・再生可能エネルギー 東日本大震災のもたらした被害の中でも、原発事故は大きなもののひとつであった。これまでの日本の経済社会の発展における、原子力の功罪や、今後エネルギーをどう確保していくかという観点からもこの問題をとらえる必要がある。
3	政治 3 年余りの民主党政権が終焉し、再び自民党中心の政権へと交代がなされたが、この 2 回の政権交代はどのような背景があったのか。また、地域主権改革は引き続き国と地方の関係で大きな課題であり続けている。選挙における「一票の格差」についても、裁判で争われている。
4	国際問題 「アラブの春」とは、中東地域で民衆のデモによって、独裁政権が次々に倒れていったことを指す。2012 年の米大統領選挙では、オバマ大統領が再選を果たした。東アジア情勢も、領土問題を含めて様々な不安定要素がある。
5	経済 ギリシャから始まった欧州金融不安は、世界経済にも大きな影響を及ぼした。環境との関連では、震災後の電力不足との関連で、スマートコミュニティーが注目されている。TPP（環太平洋経済連携協定）の交渉も大詰めを迎えているが、これが何をもたらすか。
6	社会 2009 年から裁判員裁判が行われているが、なぜこのような制度が作られたのか。地域では、「孤族化」「孤立化」などの問題が大きくなっている。児童虐待も、児童相談所の対応件数が増加しているが、この背景も多角的にとらえていく必要がある。
7	医療・福祉 年金制度の今後については、不安を持っている人が多いが、政府はこれに対してどのように取り組んでいるか。障害者総合支援法は、2013 年から施行されているが、それまでの障害者自立支援法とはどのような違いがあるか。「5 疾病」として精神疾患が含まれることになったが、なぜか。
8	情報通信・交通 スマートフォン・タブレット端末が普及しているが、我々の生活をどのように変えていくか。交通では、LCC と呼ばれる低価格の航空会社が運航を開始しているが、競争環境は厳しい。また、リニア中央新幹線が開業に向けて進んでいるが、その目的とは何か。
9	科学・技術 ISS（国際宇宙ステーション）には、日本の実験棟もあり、様々な実験が行われている。iPS 細胞と呼ばれる万能細胞は、今後の医学などの発展につながることが期待されている。スーパーコンピューターは、より速い速度を求めて、各国で開発競争が行われている。
10	教育 大学全入時代を迎えたが、今後の大学に何を求めるか。国際的な学習到達度調査（PISA）における日本の順位が度々話題になるが、この調査で評価される力とは何か。民主党政権下で実施された高校無償化は、政権交代によって見直されることとなった。
11	労働 2011 年から「第二のセーフティネット」として求職者支援制度が実施されたが、なぜそのような制度が求められたのか。労働市場では「非正社員」の増加が続いているが、どのような問題があるか。職場でも国際化が進み、英語を公用語にする会社まで生まれている。
12	文化 日本の世界遺産登録件数は着々と増えており、2013 年には富士山が登録された。インターネット上ではニコニコ動画等の動画投稿・共有サイト、ソーシャルゲームなどが人気であり、人と人とのつながりの在り方にも影響を及ぼしている。
13	くらし 2012 年に「子ども・子育て関連三法」が成立したが、これまでの制度をどう変えていくのか。消費者被害に対する消費者庁の役割は大きく、独居高齢者の増加も大きな課題である。生活保護制度は受給者が増加し、2013 年には生活保護法の改正が行われた。

14	スポーツ 「なでしこジャパン」の活躍に代表されるように、女性のスポーツ分野での活躍も目覚ましいものがある。2011 年にスポーツ基本法が成立したが、何が変わったか。各地で市民マラソンが多く開催されるようになっている。
15	マスコミ・広告 ウィキリークスは世界外交にも影響を及ぼした。日本のテレビは「地デジ化」が行われたが、これによって視聴者はどういうメリットを得たか。多くのソーシャルメディアの登場が、人のつながりの在り方を変えている。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 現代議会制民主主義の特徴と問題点をまとめ、現代社会において民主主義を再活性化するための方法について述べよ。

＜ポイント＞

特徴としては、議員を国民が選挙で選ぶ間接民主主義であること、問題点としては、国民の政治意識の低下などが挙げられる。再活性化の方法としては、市民が直接政治に参加する機会を増やすことなどが挙げられよう。

科目終了試験学修のポイント

１．大きな政府と小さな政府のそれぞれの利点と欠点について

＜ポイント＞

それぞれどのような政府のことを言うのかを示した上で、利点と欠点を具体的に示すこと。

２．議院内閣制と大統領制の違いについて

＜ポイント＞

議院内閣制と大統領制をとる国を具体的に挙げた上で、その違いを述べること。

３．日本国憲法の基本原理について

＜ポイント＞

基本原理とよばれるものは3つある。その3つの内容についても説明すること。

４．市場のはたらきと市場の失敗について

＜ポイント＞

「市場の失敗」については、事例も挙げながら説明すること。

５．国際連合の仕組みについて

＜ポイント＞

国際連合を構成する主要な機関についても触れること。

６．雇用環境の変化について

＜ポイント＞

雇用形態や失業（率）の変化に加え、その変化の背景についても触れること。

教科書

朝日新聞社『朝日キーワード』朝日新聞社。

参考文献

伊藤正己、他『現代法学入門』有斐閣。

伊藤元重『はじめての経済学（上・下）』日経文庫。

久米郁男、他『政治学』有斐閣。

※心理学科　2008 年度入学の 1 年次入学生及び 2009 年度以降入学生用。

2008 年度入学の編入学生は、科目コード 1682「社会学概論（4 単位）」を履修してください。

科目コード	社会学概論（2 単位）	登録年次	履修方法
1680/1681/1683		1 年/2 年	R/SR
教員名	佐々木貴雄、若狭清紀		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理※		

科目概要

私たちが生きている社会について、それをあるがままに観察し、その仕組みについて分析するのが社会学である。また、社会学からは様々な社会問題が提起されている。この科目では社会学の考え方やその対象、社会問題等について幅広く学修する。

学修内容

1	社会学とはどのような学問なのか、社会学の研究対象は何なのか 教科書 pp.2-3 および参考文献を読んで、社会学の学問的特徴、研究対象について理解する。 広義の社会に焦点を当てる場合と狭義の社会に焦点を当てる場合の違いに注意すること。
2	社会学成立の時代的背景について 教科書 pp.3-7 および参考文献を読んで、西欧近代社会の成立が社会学成立の背景となったことを理解する。 近代以前の社会とは異なる西欧近代社会の特徴、および成立当初の社会学の特色について把握すること。
3	社会変動とは何か、社会変動の要因について 教科書 pp.58-60 および参考文献を読んで、社会変動の定義、社会変動の要因に関する学説について理解する。 コント、スペンサー、マルクス、テンニース、デュルケーム、ウェーバーらの社会変動論について把握すること。
4	近代化について 教科書 pp.60-63 および参考文献を読んで、近代化とはどのような社会変動なのかを理解する。 経済・政治・文化・人と人とのつながりの、それぞれの領域における変動の内容について把握すること。
5	産業化とそれによる社会の変化について 教科書 pp.63-64 および参考文献を読んで、産業化がどのような社会の変化をもたらしたのかを理解する。 産業化の初期の段階は工業化であり、その後に工業化の次の段階の産業化が続くことに注意すること。
6	都市化について 教科書 pp.126-127 および参考文献を読んで、都市化とはどのような社会変動なのかを理解する。 シカゴ学派の都市化理論の概要、都市の人間関係の特徴、都市的生活様式について把握すること。
7	情報化について 教科書 pp.64-66 および参考文献を読んで、情報化とはどのような社会変動なのかを理解する。 産業化と情報化の関係について確認し、情報化がもたらした広範な社会の変化について把握すること。
8	メディアとその変化について 教科書 pp.65-66 および参考文献を読んで、情報化に伴うメディアの変化について理解する。 マスメディアによるマスコミュニケーションの特徴、コンピュータメディアがもたらすものについて把握すること。
9	少子高齢化の要因と社会への影響について 教科書 pp.76-84 および参考文献を読んで、少子高齢化が進む要因と、少子高齢化による社会の変化について理解する。 わが国の出生、婚姻、死亡、人口構造の動向について確認し、それらの動向の社会的背景および社会への影響を考察すること。
10	社会システムについて 教科書 pp.14-20 および参考文献を読んで、社会システムの概念について理解する。 システムと呼ばれるものの特色について確認し、社会システムの構造と機能、規範と文化の働きについて把握すること。
11	家族の構造と機能について 教科書 pp.105-116 および参考文献を読んで、社会学における家族の把握の仕方について理解する。 制度・集団・ネットワークとしての家族の把握の仕方、家族の機能、現代日本の家族変容の傾向について学ぶ。
12	ウェーバーの理解社会学と行為論について 教科書 pp.138-142 および参考文献を読んで、ウェーバーの理解社会学と行為論について理解する。 ウェーバーが方法論的個人主義の立場から展開した行為論の主な内容と、理解社会学の特徴について把握すること。
13	社会学における行為について 教科書 pp.143-150 および参考文献を読んで、ウェーバー以後の行為論の展開について理解する。 パーソンズ、ゴッフマン、ブルデュー、ハーバマスらの行為論のそれぞれの特徴について把握する。
14	社会集団とその分類について 教科書 pp.164-169 および参考文献を読んで、社会集団の概念と諸類型について理解する。 テンニース、クーリーほか、マッキーヴァーのそれぞれの集団分類の特徴について注意すること。
15	社会問題について 教科書 pp.211-224 および参考文献を読んで、現代の社会問題について理解する。 貧困・労働問題、非行、いじめ・ひきこもり、ドメスティック・バイオレンス、児童虐待などの社会問題について考察すること。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 産業化とそれによる社会の変化について述べよ。

＜ポイント＞

産業化とは何かを明らかにした上で、それが社会全体にどのような影響を与えたかについてまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．社会変動の要因について

＜ポイント＞

社会変動の定義を明らかにした上で、社会変動を引き起こす諸要因について代表的な学説を中心にまとめる。

2．家族の構造と機能について

＜ポイント＞

家族構造として、家族制度、集団としての家族について述べ、さらに家族機能の変化と家族固有の機能について述べる。

3．社会システムについて

＜ポイント＞

社会システムの概念を明らかにし、社会システムの構造と機能についてまとめる。

4．少子高齢化の要因と社会への影響について

＜ポイント＞

少子高齢化のメカニズムとその社会的背景、少子高齢化がもたらす社会への広範な影響についてまとめる。

5．社会集団とその分類について

＜ポイント＞

社会集団の概念について述べ、社会集団の類型の代表的なものについてまとめる。

6．社会学成立の時代的背景について

＜ポイント＞

オーギュスト・コントを中心にして、西欧近代社会の成立が社会学成立の背景となったことをまとめる。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新社会福祉士養成講座3　社会理論と社会システム』中央法規出版。

参考文献

A．ギデンズ『社会学（第5版）』而立書房。

長谷川公一、他『社会学』有斐閣。

科目コード	社会学概論	登録年次	履修方法
1684		1年	R
教員名	佐々木貴雄、若狭清紀		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

対人援助職に就く者には、被援助者とそのニーズを、社会的な関係性の中で把握することが求められる。人間は社会的な関係の中で生まれ育つものであるし、援助を必要とするような問題（ニーズ）も社会的関係の中から生ずるものだからである。こうしたことから、援助職に就こうとする者には、人間を取り巻く「社会」のなりたちや変化について観察・分析する学問である社会学の学修が必要となる。この科目では、社会学の基本的な考えかたと対象について幅広く学修する。

学修内容

1	社会学の意義と対象、社会学の歴史について 教科書 pp.2-26 および参考文献を読んで、社会学を学ぶことの必要性、社会学の歴史の概要について理解する。
2	社会学成立の時代的背景について 教科書 pp.13-14,78-79 および参考文献を読んで、西欧近代社会の成立が社会学成立の背景となったことを理解する。近代以前の社会とは異なる西欧近代社会の特徴、および成立当初の社会学の特色について把握すること。
3	社会システムについて 教科書 pp.28-39 および参考文献を読んで、社会システムの概念について理解する。システムと呼ばれるものの特色について確認し、社会システムの構造と機能について把握すること。
4	社会集団とその分類について 教科書 pp.40-41,80,93 および参考文献を読んで、社会集団の概念と諸類型について理解する。テンニース、クーリーほか、マッキーヴァーのそれぞれの集団分類の特徴について注意すること。
5	組織の形成と諸相について 教科書 pp.42-50 および参考文献を読んで、組織がどのように形成され、どのような問題を生み出すのかを理解する。また、非営利組織や非営利セクターについて理解する。
6	少子高齢化の要因と社会への影響について 教科書 pp.51-64 および参考文献を読んで、少子高齢化が進む要因と、少子高齢化による社会の変化について理解する。わが国の出生、死亡、婚姻、人口構造の動向について確認し、それらの動向の社会的背景および社会への影響を考察すること。
7	社会変動とは何か、社会変動の要因について 教科書 pp.77-81 および参考文献を読んで、社会変動の定義、社会変動の要因に関する学説について理解する。コント、スペンサー、マルクス、デュルケム、テンニース、ウェーバーらの社会変動論について把握すること。
8	産業化とそれによる社会の変化について 教科書 pp.82-87 および参考文献を読んで、産業化がどのような社会の変化をもたらしたのかを理解する。産業化の初期の段階は工業化であり、その後に工業化の次の段階の産業化（サービス産業化、情報化）が続くことに注意すること。
9	地域とコミュニティについて 教科書 pp.88-102 および参考文献を読んで、地域とコミュニティの概念、日本におけるコミュニティ、ソーシャルキャピタルについて学ぶ。
10	社会的格差について 教科書 pp.112-122 および参考文献を読んで、格差と貧困、雇用格差、教育格差、健康格差について学ぶ。
11	家族の構造と機能について 教科書 pp.154-169 および参考文献を読んで、社会学における家族の把握の仕方について理解する。家族に関する基本的概念、家族変動について学ぶ。
12	世代と社会について 教科書 pp.194-205 および参考文献を読んで、ライフサイクルとライフステージ、ライフコース、個人化する社会と社会問題について学ぶ。
13	自己と他者について 教科書 pp.208-213 および参考文献を読んで、クーリーの「鏡に映った自己」、ミードの自己形成論について学ぶ。
14	社会化について 教科書 pp.214-219 および参考文献を読んで、社会化の定義、家族における社会化、大人の社会化について学ぶ。

15	相互行為について 教科書 pp.220-227 および参考文献を読んで、行動と行為の違い、相互作用論、構築主義、公共圏について学び、社会問題を相互行為論の観点から考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 産業化とそれによる社会の変化について述べよ。

＜ポイント＞

産業化とは何かを明らかにした上で、それが社会全体にどのような影響を与えたかについてまとめる。産業化の初期の段階は工業化であり、その後に工業化の次の段階の産業化（サービス産業化、情報化）が続くことに注意すること。

科目終了試験学修のポイント

１．社会変動の要因について

＜ポイント＞

社会変動の定義を明らかにした上で、社会変動を引き起こす諸要因について代表的な学説を中心にまとめる。

２．家族の構造と機能について

＜ポイント＞

家族構造として、家族制度（直系家族制、家制度、夫婦家族制）、集団としての家族（核家族、拡大家族、複婚家族、世帯）について述べ、さらに家族機能の変化と家族固有の機能（マードックとパーソンズの説）について述べる。

３．社会システムについて

＜ポイント＞

社会システムの概念を明らかにし、社会システムの構造（社会構造）と機能についてまとめる。

４．少子高齢化の要因と社会への影響について

＜ポイント＞

少子高齢化のメカニズム（出生・死亡・婚姻の動向）とその社会的背景、少子高齢化がもたらす社会への広範な影響についてまとめる。

５．社会集団とその分類について

＜ポイント＞

社会集団の概念について述べ、社会集団の類型の代表的なもの（第一次集団と第二次集団、ゲマインシャフトとゲゼルシャフト、コミュニティとアソシエーション）についてまとめる。

６．社会学成立の時代的背景について

＜ポイント＞

オーギュスト・コントを中心にして、西欧近代社会の成立が社会学成立の背景となったことをまとめる。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集

『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座【共通科目】3　社会学と社会システム』　中央法規。

参考文献

A．ギデンズ『社会学（第5版）』而立書房。

長谷川公一、他『社会学』有斐閣。

科目コード	社会科指導法（2 単位）	登録年次	履修方法
4190		2年	ＳＲ
教員名	荻原邦昭、小野智一、戸田大樹、福島裕、安田博行、山田哲史、若狭清紀		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報の機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

小学校社会科の指導方法について具体的な資料等を通して学び、実践的な指導力を身につける。そのために、まず小学校社会科及び学年の目標と内容について再確認する。次に、各学年の年間計画と各単元の指導計画の作成について具体的に学習する。そして、これらの学習を踏まえ、児童が社会的事象に興味・関心をもって主体的に社会科の授業に取り組み、確かな学力を身につける問題（課題）解決学習などの指導法に重点を置いて学習する。また、総合的な学習の時間との関連についても学ぶ。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	「小学校でねらう公民的資質の基礎」【科目終了試験学修のポイント１】【レポート設題】について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.10-11、pp.18-22 等で確認し理解する。	ガイダンス、小学校社会科の役割について レポート：「児童が社会的事象に興味関心をもち、確かな学力を身に付ける社会科授業について」を含む内容。（学習指導要領　比較対照表の内容確認を含む）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	小学校社会科第３・４学年の目標について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.24-25、pp.42-43 で理解する。	社会科指導の性質①・模擬授業の検討①（科目終了試験：(1)「小学校社会科でねらう公民的資質の基礎について」、(6)「小学校社会科と総合的な学習の時間との関連について」を含む内容）受講者は児童役にとどまらず教師やゲストティーチャーなどの立場から教材に触れるようにする。授業後は意見交換をする。（学習指導要領比較対照表の内容確認を含む）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	小学校社会科第５学年・第６学年の目標について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.64-65、pp.86-87 で確認し理解する。	社会科指導の性質②（学習指導要領を中心に）（科目終了試験：(1)「小学校社会科でねらう公民的資質の基礎について」、(2)「小学校社会科の年間指導計画作成のポイントについて」を含む内容）学習指導要領を中心に中心概念「公民的資質の基礎」を学習する。（学習指導要領比較対照表の内容確認を含む）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
4	小学校社会科第３・４学年の内容【レポート設題】について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」から確認し理解する。あわせて「地図記号」、「方位」、「古くから残る建造物」、「節水や節電などの資源の有効な利用」、「法やきまり」、「47 都道府県の名称と位置」等について、情報機器の活用を含めた指導方法を理解する。	事例検討と演習：第３・４学年の地域学習①（科目終了試験：(3)「小学校社会科における単元の指導計画作成のポイントについて」、(5)「小学校社会科における体験的な学習について」を含む内容）フィールドワークを行い、地域巡検の取り組ませ方について演習する。フィールドワークは第 3 学年、第 4 学年、第 5 学年、第６学年の内容も含む。（学習指導要領比較対照表の内容確認を含む）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
5	小学校社会科第５学年の内容【レポート設題】について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」から確認し理解する。あわせて「世界の主な大陸と海洋」、「主な国の名称と位置」、「我が国の位置と領土」、「自然災害の防止」、「価格や費用」、「情報化した社会の様子」等について、情報機器の活用を含めた指導方法を理解する。	事例検討と演習：第３・４学年の地域学習②（科目終了試験：(3)「小学校社会科における単元の指導計画作成のポイントについて」、(5)「小学校社会科における体験的な学習について」を含む内容）前の時間に実践したフィールドワークの成果をもとにグループで調査のまとめをする。あわせて情報機器の活用を図る。（学習指導要領比較対照表の内容確認を含む）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
6	小学校社会科第６学年の内容【レポート設題】について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」から確認し理解する。あわせて「狩猟・採集や農耕の生活」、「我が国の代表的な文化遺産」、「社会保障」、「三権相互の関連」、「国民の司法参加」等について、情報機器の活用を含めた指導方法を理解する。	事例検討と演習：第３・４学年の地域学習③（科目終了試験：(3)「小学校社会科における単元の指導計画作成のポイントについて」、(5)「小学校社会科における体験的な学習について」、(2)「小学校社会科の年間指導計画作成のポイントについて」を含む内容）グループで制作した調査成果を発表。意見交換を行う。（学習指導要領比較対照表の内容確認を含む）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
7	「確かな学力を身につける社会科の授業」【レポート設題】について、「小学校学習指導要領解説　社会編」の改訂の趣旨や「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.2-7 から、「生きる力」、「習得・活用・探究」を確認し、観点別学習評価の趣旨と具体的な手立てを理解し、授業を想定した学習指導案を作成する。	社会科における言語活動について①・模擬授業の検討②（ディベート学習）ディベートについて実際の形式を確認しながら指導法について考えていく 。模擬授業後に授業内容についてディスカッションを行う。（学習指導要領比較対照表の内容確認を含む）	印刷授業 及び 面接授業 （2 時間）

8	模擬授業を振り返り、授業改善を図る手立てを具体的に考えまとめる。「社会的な見方や考え方」【レポート設題】について、「小学校学習指導要領解説　社会編」pp.105-106、pp.3-5、「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.10-11、pp.20-21 等から確認し理解する。（学習指導要領比較対照表の内容確認を含む）		印刷授業
9	「社会科における言語活動の充実」について、「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.135-136、「小学校学習指導要領解説　社会編」p.4 等から確認し理解する。（学習指導要領比較対照表の内容確認を含む）	先人の業績や文化遺産について興味関心をもたせ理解を深めるための指導をする上でのポイント、及び政治の働きについて学習を進める上でのポイント（第６学年の内容を中心に）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
10	「社会科における問題解決学習」【科目終了試験学修のポイント４】【レポート設題】について、これまでの授業実践や研究成果を踏まえ、「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.126-128 等から理解する。	ロールプレイを生かした模擬授業の検討③問題解決学習、系統学習、発見学習、探求学習等の学習過程を理解し、社会科学習における問題解決学習の一つであるロールプレイを取り入れた学習過程を検討する。模擬授業後、活動のねらいやロールプレイの効果的な学習活動について児童の視点から見直しを行う。（科目終了試験：(4)「社会科における問題解決学習について」を含む内容）（学習指導要領比較対照表の内容確認を含む）	印刷授業 及び 面接授業 （2 時間）
11	「社会科における体験的学習」【科目終了試験学修のポイント５】【レポート設題】について、「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.134-135、「小学校学習指導要領解説　社会編」pp.100-101 から理解する。（学習指導要領比較対照表の内容確認を含む）		印刷授業
12	「小学校社会科と総合的な学習の時間の関連」【科目終了試験学修のポイント６】について、総合的な学習が誕生した背景を理解し、社会科と総合的な学習の時間の共通点と相違点を確認しながら理解する。	社会科で身につけた問題解決的学習を生かし、総合的な学習の時間では探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して探求的・協働的に課題を解決し、自己の行き方を考えていく学習が展開される。共通点は「実社会や実生活から問いを見出し、課題を立て情報を集め整理・分析してまとめ表現する」ことである。情報収集の一つに社会科における統計資料の取り扱いがあげられる。統計資料にはどのような種類があるか、それぞれの特性について考え、身近な統計データを情報機器の利用を通して収集し、教材としてどのように活用するかを研究する。年間降水量、コメの生産量などの統計資料を整理・分析してまとめ表現することを通して社会的事象を読み解く。また、社会科と総合的な学習の相違点は、学習指導要領に内容が明示されているか否かであることを理解する。（学習指導要領比較対照表の内容確認を含む）	印刷授業 及び 面接授業 （2 時間）
13	「小学校社会科の年間指導計画作成のポイント」【科目終了試験学修のポイント２】について、「小学校学習指導要領解説　社会編」pp.100-105、「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」p.126 以降から理解する。（学習指導要領比較対照表の内容確認を含む）		印刷授業
14	「小学校社会科の単元の指導計画作成のポイント」【科目終了試験学修のポイント３】について、単元の目標や指導計画、単元の展開のポイント、評価の手立て等について、「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」p.126 以降からポイントを整理し確認する。	社会科における言語活動について②・模擬授業の検討④（考えを伝えあい集団の考えを発展させる社会科授業）教員が実施する考えを伝え集団の考えを発展させる模擬授業へ、受講生は児童役として参加する。模擬授業後、児童の視点から考えが伝わり集団の考えが発展できたか、さらに学習内容が身についたか等の検討を行う。（科目終了試験：(4)「社会科における問題解決学習について」を含む内容）（学習指導要領比較対照表の内容確認を含む）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
15	「社会事象に興味・関心を持って取り組む」【レポート設題】について、「小学校学習指導要領解説　社会編」pp.100-101、「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.127-128 等から確認し理解する。	身近な社会的事象を発達段階に応じた教材研究を行うことの意義を理解し、児童にとって興味・関心を高める指導の在り方を検討し、具体的に講じることができるようにする。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価		
	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　社会的事象に興味・関心をもって取り組み、確かな学力を身につける社会科授業のあり方について述べよ。

＜ポイント＞
小学校社会の学習では、公民的資質の基礎を育成することが重視されなければならない。
地域社会や我が国の国土、産業、歴史などに目を向け、知識偏重、暗記重視の社会科授業から脱却し、社会的な見方や考え方を養うとともに、問題解決的な学習を一層充実させるための、児童が主体的に取り組む社会科授業のあり方について考える。特に、「小学校学習指導要領解説　社会編」や「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」を手がかりに、具体的な指導方法に着目したい。科目終了試験の各ポイントについて学習を進めた上で、レポート作成にとりかかると、より理解しやすい。

科目終了試験学修のポイント

１．小学校社会科でねらう公民的資質の基礎について
＜ポイント＞
小・中学校社会科、高校地理歴史科、公民科の目指す「公民的資質」について、その述べられている意味をよく理解し、小学校段階ではどんな学習を前提にし「公民的資質」の基礎を養うのかをまとめる。

２．小学校社会科の年間指導計画作成のポイントについて
＜ポイント＞
「小学校学習指導要領解説　社会編」では、年間指導計画作成上の四つの配慮事項が示されている。小学校社会科や当該学年の目標を前提に、示されている配慮事項の内容を具体的に理解しまとめる。

３．小学校社会科における単元の指導計画作成のポイントについて
＜ポイント＞
単元指導計画については、単元全体を見通し学習の目標を具体的にとらえ、各単元の指導ポイントを明らかにし指導することが大切である。その際、「社会的事象を公正に判断できる」ことや、「社会的な見方や考え方が養われる」ようにすることなどを大切にして単元計画作成についてまとめる。

４．社会科における問題解決学習について
＜ポイント＞
社会科の学習では知識・技能の習得・活用が強調されている。「活用」して新たな課題を解決するには、問題意識を明確にもつとともに、思考力、判断力、表現力などの様々な力を発揮することが求められている。これらの学習の流れを前提に探究も加え具体的に問題解決学習の進め方についてまとめる。

５．小学校社会科における体験的な学習について
＜ポイント＞
児童が興味・関心をもって学習に取り組めるよう体験的な活動を効果的に行うことは、社会科指導では大切なことである。体験的な学習を行うとき、事前事後や現地での指導、実物や本物を見たり触れたりさせるときの工夫や、指導計画にどう位置づけるかなどについてまとめる。あわせて学習結果を適切に表現する方法についてもまとめる。

６．小学校社会科と総合的な学習の時間との関連について
＜ポイント＞
子どもたちが問題としてとらえた内容をさらに追究するためには、社会科の指導時間だけでは不十分なことも予想される。そこで「総合的な学習の時間」のねらいや活動内容を整理し、活用を含めた探究ということのために「総合的な学習の時間」を社会科とどう関連させて活用するかまとめる。

教科書

文部科学省「小学校学習指導要領」東京書籍。
文部科学省「小学校学習指導要領解説　社会編」東洋館出版。
北俊夫、他「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」明治図書。

参考文献

小学校学習指導要領　比較対照表（平成 29 年３月 31 日告示　文部科学省）

科目コード	社会教育演習（1単位）	登録年次	履修方法
3350		3年	S
教員名	手打明敏		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目は、生涯学習概論、生涯学習支援論、社会教育経営論、社会教育特講の履修をふまえ、社会教育の現代的課題に関わるテーマを取り上げて社会教育・生涯学習について理解を深めるとともに社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の定着を図り、「社会教育実習」を履修する際の課題意識を明確にすることを目的としている。

学修内容

1	オリエンテーション：演習の進め方について
2	現代社会における社会教育の学習課題について関連文献（社会教育関係雑誌等）を読み、受講者自身の理解を深める。
3	現代社会における社会教育の学習課題について、受講者の関心を発表し討論する。
4	前回までに検討した学習課題に直面している学習者を具体的に理解し、学習者の特性をふまえた学習支援について関連文献を参考にして検討する。(①)
5	前回に引き続き、学習者の特性をふまえた学習支援について検討する。(②)
6	①と②で検討した学習者の特性をふまえた学習支援について発表し討論する。
7	社会教育法を参照して社会教育主事の職務について理解する。
8	社会教育主事の職務について関連文献を参考にして考察し、社会教育主事の専門性を理解する。
9	社会教育主事の専門性について討論し理解を深める。
10	社会教育士に期待される役割について関連文献を参考にして理解する。
11	社会教育士に期待される役割について討論し理解を深める。
12	学習者を支援する社会教育施設および職員の役割について関連文献等を参考にして考察する。
13	学習者を支援する社会教育施設および職員の役割について討論し理解を深める。
14	これまで検討してきたことを踏まえ、関心をもった研究テーマと問題関心を発表する。
15	関心をもった研究テーマと問題関心について1200字以内にまとめる。

教科書

参考文献

科目コード	社会教育課題研究（４単位）	登録年次	履修方法
3020/3021		３年	ＳＲ
教員名	山田哲史		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

わが国では高学歴化、産業構造の高度化などに伴う国民生活の質的変化、及び自由時間の増加にともなう人々の学習ニーズの多様化に対応して新しい生涯教育のあり方が求められている。そこで本科目では、人々の生涯学習を推進する社会教育行政の課題や社会教育・生涯学習機関・施設の課題について理解を深め、考察していく。

学修内容

1	社会教育の基本的理解①　社会教育・生涯学習とはなにか →社会教育・生涯学習の定義や理論成立の経過などを理解する。
2	社会教育の基本的理解②　産業構造の変化と生活の変化について　（社会学テキストなどを参考に） →産業構造の変化が、なぜ生活の質的変化、自由時間の増加につながるのか、社会変動を理解する。
3	社会教育の基本的理解③　社会教育・生涯学習の歴史①　（社会福祉原論テキストなどを参考に） →セツルメント運動など、社会福祉の歴史と社会教育について考えてみよう。
4	社会教育の基本的理解④　社会教育・生涯学習の歴史②　（社会福祉原論テキストなどを参考に） →日本における社会教育の事例を考えてみよう（たとえば「寺子屋」、長谷川平蔵の「人足寄せ場」など）。
5	社会教育・生涯学習推進のために必要な施策について① →国や地方公共団体の考える社会教育・生涯学習の方向性と施策について考えてみよう。
6	社会教育・生涯学習推進のために必要な施策について②　（Bテキスト第７章参照） →民間で展開される学習機会について考えてみよう（とくに行政と民間の連携・協力について　pp.140-141）
7	身近な自治体の生涯学習推進の現状と課題について① →身近な自治体の現状（地理、年齢構成、社会資源など）についてインターネットで調べてみよう。
8	身近な自治体の生涯学習推進の現状と課題について② →自治体の現状をふまえて、社会教育・生涯学習のニーズを検討してみよう。
9	身近な自治体の生涯学習推進の現状と課題について③ →地域のニーズからみえてくる課題（予算、参加者など）について考えてみよう。
10	利用経験のある社会教育・生涯学習施設について① →公民館・図書館の役割について考え、身近な地元の活動を調べてみよう。
11	利用経験のある社会教育・生涯学習施設について② →スポーツ施設、文化ホールなどの利用と課題を考えてみよう。
12	利用経験のある社会教育・生涯学習施設（図書館・公民館など）について③ →学校施設開放の現状と課題について考えてみよう。
13	自分自身が社会教育主事として社会教育・生涯学習プログラムを作成してみる① →自分自身の興味やニーズを検討してみよう。
14	自分自身が社会教育主事として社会教育・生涯学習プログラムを作成してみる② →具体的にどのようなプログラムがのぞましいか考えてみよう（ここでは予算などを考えずに）。
15	自分自身が社会教育・生涯学習に期待するものについて →自分自身の育ち（生育歴）をふりかえって、どのような社会教育を受けたか、これから受けたいか、またこれからの時代に、だれを対象にどのような社会教育・生涯学習のプログラムが望まれるか考えてみよう。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 あなたの身近な自治体の社会教育行政（施策）の実態について調べ、その課題について論ぜよ。

＜ポイント＞

生涯学習を推進する社会教育行政の具体的な施策を把握するため、自分の住む地域の実態について調べ、考察すること。自分自身の育ち（生育歴）をふりかえって、どのような社会教育を受けたか、これから受けたいか、またこれからの時代に、だれを対象にどのような社会教育・生涯学習のプログラムが望まれるか考えてみる。

【設題2】 あなたの身近な社会教育、生涯学習のための機関・施設（公民館、図書館、博物館、体育施設などのうちいずれか一つ）の取り組みについて調べ、問題点や課題を述べよ。

＜ポイント＞

具体的な施設の例を挙げ、施設の教育活動への取り組みや広報活動について調べ、考察すること。利用者の視点から見えてくる課題を想定し、社会福祉主事側の視点からどのような解決法を考えれば良いのか検討してみよう。

科目終了試験学修のポイント

1．現代社会における社会教育・生涯学習の意義について

＜ポイント＞

学修内容（1）（2）を参考にして、現代社会が求めている社会教育・生涯学習の役割を考える。

2．社会教育・生涯学習推進のために必要な施策について

＜ポイント＞

社会教育・生涯学習の必要性を検討し、住民のニーズに応えるだけではなく、あるべき未来のために、国や地方公共団体はどのような方向性で施策をうちだしていくべきか考える。

3．身近な自治体の生涯学習推進の現状と課題について

＜ポイント＞

学修内容（7）を基にして、現状と課題を検討する（かならず事前に調査など自分なりの準備をやっておくこと）。

4．利用経験のある社会教育・生涯学習施設（図書館・公民館など）について

＜ポイント＞

学修内容（10）を基にして、利用者の視点から現状と課題を検討する（かならず事前に調査など自分なりの準備をやっておくこと）。

5．自分自身が社会教育主事として社会教育・生涯学習プログラムを作成してみる

＜ポイント＞

学修内容（13）（14）を基にして、具体的に立案してみる（かならず事前に自分なりの準備をやっておくこと）。

6．自分自身が社会教育・生涯学習に期待するものについて

＜ポイント＞

自分自身の育ち（生育歴）をふりかえって、どのような社会教育を受けたか、これから受けたいか、またこれからの時代に、だれを対象にどのような社会教育・生涯学習のプログラムが望まれるか考えてみる。

教科書

香川正弘、他『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房。

参考文献

山本恒夫、他『社会教育計画』文憲堂。
佐藤晴雄『生涯学習概論』学陽書房。
白石克己編『生涯学習論』実務教育出版。
吉川弘他『生涯学習推進・社会教育計画（第2版）』文教書院。

科目コード	社会教育課題研究（２単位）	登録年次	履修方法
3022		４年	ＳＲ
教員名	手打明敏		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

生涯学習推進が取り組まれている今日、学校以外の家庭や職場、地域等において様々な学習活動が展開されている。現代社会の諸問題に向き合い、持続可能な社会づくりを志向する社会教育実践の領域は多岐にわたっている。こうした学習活動に対し社会教育行政や公民館等の地域社会教育施設の社会教育専門職員ならびに学習支援NPOなどの民間社会教育団体が支援を展開している。

授業では、受講者自身の体験や各地の実践事例を取り上げ、学習支援の取り組みを具体的に理解するとともに、どのような課題があるかを検討し受講者が研究テーマを設定して考察する。

学修内容

1	教科書の序章をもとに現代社会におけるつながりの意味について理解する。
2	教科書の第１章をもとに生涯学習政策における連携・協働・ネットワークについて理解する。
3	教科書の第２章をもとに近年の地域づくり政策の動向と住民の学びについて解説する。
4	教科書の第３章をもとに公民館の機能、役割について理解する。
5	教科書の第４章をもとに地域共同体と住民の地域づくり活動について理解する。
6	学校と地域の協働関係づくり①：教科書の第５章をもとにコミュニティ・スクールの仕組みについて理解する。
7	学校と地域の協働関係づくり②：教科書の第５章をもとに「地域とともにある学校」を支援する地域の取り組みについて理解する。
8	教科書の第６章をもとに若者にとっての「たまり場」・「居場所」の意義について理解する。
9	教科書の第７章をもとに多文化共生の地域づくりについて理解する。
10	教科書の第８章、第９章をもとに東日本大震災被災地の復興にかかわる地域自治、地域福祉を志向する住民の学びついて理解する。
11	教科書の第10章をもとに障害者の自立を支える親の役割について理解する。
12	教科書の第11章をもとにワークライフバランスを志向する学習について理解する。
13	教科書の第12章をもとにリテラシーの学びに関する国際的動向を理解する。
14	研究テーマの明確化：　これまでの学習を通じて関心を持った研究テーマを設定する。
15	研究テーマのまとめ：研究テーマに関わる内容の概要を400字程度にまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 あなたの身近な自治体（市区町村）の社会教育行政（施策）について調べ、施策の特徴とどのような課題があるかを論じなさい。

＜ポイント＞

生涯学習を推進する社会教育行政の具体的な施策を把握するため、例えば、生涯学習、社会教育施設を取り上げ、施設の学習支援活動への取り組みについて調べるとともに、利用者の視点から見えてくる課題等について論じる。

科目終了試験学修のポイント

１．現代社会における社会教育・生涯学習の意義について

＜ポイント＞

現代社会が求めている社会教育・生涯学習の役割について論述する。

２．社会教育・生涯学習推進のために必要な施策について

＜ポイント＞

社会教育・生涯学習推進において、住民のニーズに応えるとともに国や地方公共団体はあるべき未来のためにどのような方向性で施策をうちだしていくべきか論述する。

３．成人の学習支援に関する国際的な取り組みについて

＜ポイント＞

ユネスコを中心とする国際連合による EFA, ESD, SDGs などの取り組みに言及し、リテラシーの学びの支援について論述する。

４．学校と地域の連携について

＜ポイント＞

地域学校協働活動、コミュニティ・スクールの意義について論述する。

５．障害を持つひとの自立を支援する学習について

＜ポイント＞

障害を持つひとの親による障害児（者）支援活動の歴史的展開と課題について論述する。

６．ワークライフバランスについて

＜ポイント＞

ワークライフバランスの取り組みについて国等の施策や社会教育事業について論述する。

教科書

手打明敏・上田孝典編著『つながりの社会教育・生涯学習』東洋館出版社。

参考文献

科目コード	社会教育経営論（4単位）	登録年次	履修方法
3340		3年	SR
教員名	手打明敏		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目は 2020 年度から実施された新しい社会教育主事養成課程の必修科目である。この科目は、「多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図る」（文部科学省「社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令の施行について（通知）」）ことを目的としている。ここで指摘されている「多様な主体」とは首長部局、企業、NPO 等の社会教育活動に携わっている関係者（社会教育士の称号を有する者を含む）であり、社会教育行政の専門職である社会教育主事と連携・協働して地域社会教育を推進していく人材である。本科目では、社会教育主事、社会教育士に求められる知識・技能を理解することを目指している。

学修内容

1	地域課題に取り組む社会教育については、現代社会の様々な地域課題の解決にかかわるマルチステークホルダーと連携・協働する社会教育行政の役割について理解する。　教科書の第 1 章参照。
2	地域づくりを支える社会教育については、戦後の社会教育の歴史をふまえ、公民館などの社会教育事業が地域住民の地域づくりに参加するきっかけとなることを理解する。教科書の第 2 章参照。
3	地域学校協働活動については、マルチステークホルダープロセスの事例として取り上げ、「学習する組織」という観点から社会教育の意味について理解する。教科書の第 2 章参照。
4	社会教育行政の役割については、社会教育関連法制を通して法制上の仕組みを理解するとともに社会教育計画策定の役割について理解する。教科書の第 3 章参照。
5	社会教育事業の計画については、まず学習課題の把握に取り組む必要があることを理解し、学習情報提供の意義についても理解する。教科書の第 3 章参照。
6	社会教育施設の経営については、施設経営の責任者である館長の役割についてリーダーシップ、管理・運営の手法について理解する。教科書の第 4 章参照。
7	社会教育施設の新しい経営手法については、民間企業の経営管理手法である NPM（ニュー・パブリック・マネージメント）等について学ぶとともに、施設の複合化、ネットワーク化について理解する。教科書第 4 章参照。
8	地域づくりと学習については、地域課題に気づき、主体的に関わろうとする地域人材を育成し、支援する社会教育の役割を理解する。教科書の第 5 章参照。
9	地域づくりの担い手育成については、教科書で紹介されている町民大学等を事例として検討する。教科書の第 5 章参照。
10	コーディネート機能については、学校支援ボランティアのコーディネートを事例としてコディネートの機能について理解する。教科書の第 6 章参照。
11	社会教育におけるコーディネートについては、地域の多様な課題に応える社会教育では関連行政機関や民間団体等との連携・協働というコーディネート機能が求められていることを理解する。現代的なコーディネート機能として地域学校協働活動における事例を学ぶ。　教科書の第 6 章参照。
12	地域づくりと学習の循環的発展については、学習成果の活用と経験学習という地域づくりに組み込まれている学習の循環構造について理解する。教科書の第 7 章参照。
13	地域づくにおける社会教育の役割については、社会教育行政とともに、首長部局、民間部門の役割と可能性について理解を深める。教科書の第 7 章参照。
14	社会教育におけるネットワークについては、公民館の事業や地域づくりに関わる市民団体の活動事例を通して、社会教育におけるネットワークについて具体的に理解する。教科書の第 8 章参照。
15	社会教育におけるネットワーク推進の課題については、関連組織・団体等と連携・協働して総合的に社会教育事業を推進していくためには社会教育主事とともに社会教育士の果たす役割が重要であることを理解する。教科書の第 8 章参照。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 「現代的課題」や「社会の要請」にかかわる学習の事例を取り上げ、社会教育主事や社会教育士の役割について述べよ。

＜ポイント＞

「現代的課題」や「社会の要請」にもとづいた学習は、社会教育行政のみならず、首長部局、学校、民間団体、企業等の多様な主体間との連携・協働によって進められる必要がある。関係する機関、団体との調整（コーディネート）機能が必要である。このコーディネート機能を担うことが求められているのは社会教育行政の専門職である社会教育主事の他に、新たに養成されることになった社会教育士である。2020 年度から養成が始った社会教育士の称号を有する人材が広く関係する機関、団体、企業等に配置されることの意義についても言及して欲しい。

【設題2】 地域づくり学習における社会教育の役割について述べよ。

＜ポイント＞

地域づくりの活動には、その活動に参加する人々の学習成果が活用されるとともに、活動を通じて体験的、経験的に学ぶ経験学習が組み込まれている。これらの学習が循環的に作用することで、地域づくりを担う人材の育成が促進される。そうした学習活動を支援する役割を担っているのが社会教育である。地域づくり活動の事例から学習の循環構造を説明し、社会教育の果たしている役割について述べて欲しい。

科目終了試験学修のポイント

1． 現代社会における社会教育への期待について

＜ポイント＞

現代社会の様々な地域課題の解決に社会教育はどのような役割を果たすことが期待されてるのかを論述する。

2． インキュベーターとしての社会教育について

＜ポイント＞

社会教育の機能として、人びとに地域の課題についての気付きを促し、課題解決に関わる学習支援について論述する。

3． 社会教育施設の経営における館長の役割について

＜ポイント＞

社会教育施設の管理者である館長の役割と新しい経営手法について論述する。

4． 社会教育におけるコーディネート機能について

＜ポイント＞

コーディネートの意味を理解し、コーディネーターの役割について論述する。

5． ネットワークとしての地域学校協働活動について

＜ポイント＞

学校と地域の連携・協働という観点から地域学校協働活動の意義を論述する。

6． ネットワーク型行政における社会教育士への期待について

＜ポイント＞

多様な主体との連携・協働を推進して社会教育を進めていくうえで、社会教育士の果たす役割について論述する。

教科書

田中雅文・中村　香編著『社会教育経営のフロンティア』玉川大学出版部。

参考文献

科目コード	社会教育計画（２単位）	登録年次	履修方法
3080		３年	R
教員名	小笠原眞紀、須藤典征		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会の成熟化に伴い、私たちの生活スタイルは変化している。この生活スタイルの変化に対応すべく家庭や学校、職場、地域社会において学習意欲の高まる中、現代的課題に対する正確な知識・技術を豊富に身につけることが必要になっている。特に本科目では、地域社会における社会教育学級・講座の役割や意義、並びに学習情報提供・学習相談について考察するとともに、社会教育行政の取り組みについての理解を深めていく。

学修内容

1	社会教育の基本的理解①　社会教育とはなにか　（テキスト pp.7-12） →社会教育計画の基礎となる社会教育の定義などを理解する。
2	社会教育の基本的理解②　生涯学習とはなにか　（テキスト pp.13-16） →社会教育計画の基礎となる社会教育と生涯学習の概念の違いなどを理解する。
3	社会教育の基本的理解③　社会教育の歴史を学ぶ　（テキスト pp.17-20） →日本人は古くから「習い事」の文化をもっていた。また戦後になって社会教育はさらなる広がりをみせる。
4	社会教育活動の推進力①　社会教育団体の意義と役割について　（テキスト pp.33-36） →地域において社会教育を推進する社会教育団体について、その意義と役割を考えてみる。
5	社会教育活動の推進力②　社会教育委員、社会教育職員の意義と役割について　（テキスト pp.25-28、pp.37-40） →地域において社会教育を推進する社会教育委員や団体職員について、その意義と役割を考えてみる。
6	社会教育活動の推進力③　社会教育を支えるボランティアの意義と役割について　（テキスト pp.41-44） →地域において社会教育活動を支えるボランティアの意義と役割を考える。
7	社会教育行政とはなにか①　国の方針と任務（テキスト pp.49-52） →社会教育を支援・奨励する行政の役割～社会教育行政の仕組みと国の施策について考えてみる。
8	社会教育行政とはなにか②　生涯学習時代の学校教育行政（テキスト pp.53-56） →学校教育と生涯学習の関係について、その仕組みと国の施策について考えてみる。
9	社会教育行政とはなにか③　生涯学習時代の文化・スポーツ振興行政（pp.57-64） →社会教育としての文化スポーツ振興施策について考えてみる。
10	社会教育行政とはなにか④　社会教育の実践を支える地方公共団体の役割（pp.65-72） →社会教育を支援・奨励する行政の役割～地方公共団体の社会教育行政の仕組みについて考えてみる。
11	社会教育の課題①　社会教育計画について考える（科目終了試験学修のポイント②） →自分自身が住んでいる地域の特性からニーズを考え、実情に即した社会教育計画を立案してみよう。
12	社会教育の課題②　学習情報の提供と学習相談のあり方について① →立案した社会教育計画について、どう情報を提供すればいいか、社会教育主事の立場に立って考えてみよう。
13	社会教育の課題③　学習情報の提供と学習相談のあり方について② →社会教育において、どのような学習相談が想定されるか、社会教育主事の立場に立って考えてみよう。
14	社会教育の課題④　学習成果の評価と活用（テキスト pp.101-104） →生涯学習・社会教育の評価をどう行うか、また活用するか、社会教育主事の立場に立って考えてみよう。
15	社会教育の課題⑤　変わりゆく社会にどう対応するか（知識基盤社会と社会教育）（テキスト pp.109-110） →情報化がすすみ、かつ価値観が多様化しする時代にあって、地域社会もさまざまな特性を把握した上で社会教育に取り組む必要に迫られている。こういった変化や地域特性をどうやって把握し、社会教育の立案につなげていくか、社会教育主事の立場に立って考えてみよう。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 学習情報の提供と学習相談のあり方について述べよ。

＜ポイント＞

社会は常に変動している。社会教育はこういった変化を理解し、かつ地域のニーズに応える必要がある。こういった流れをふまえて、学習情報の提供の仕方、学習相談のあり方について考察すること。自分自身の住んでいる地域の実態をふまえて考えるとよい。

科目終了試験学修のポイント

1．地域社会における社会教育・生涯学習の意義について

＜ポイント＞

いま地域社会がかかえる問題について考え、そこから見えてくるニーズに社会教育計画でどう対処するか検討する。

2．社会教育計画の立案の仕方について

＜ポイント＞

まず社会教育の必要性を考え、具体的に自分自身が住んでいる地域の特性から見えてくるニーズに即した社会教育計画を立案してみる。

3．社会教育の学習方法・形態について

＜ポイント＞

自分自身が住んでいる地域社会の一員として、社会教育・生涯学習になにを望み、どう学んでいくか具体的に考える。

4．学習ボランティアの養成・研修について

＜ポイント＞

自分自身が住んでいる地域社会の一員として、社会教育・生涯学習になにを望み、どう学んでいくか具体的に考え、かつ学修内容（6）を基にそのための人材をどう養成するか、またボランティアの資質向上のための研修をどう考えるか検討する。

5．学習成果の評価と活用について

＜ポイント＞

社会教育計画は実施されてはじめて成果となる。それを多面的に評価することでさらなる社会教育の成果をめざすことができるはずだ。その評価方法について検討してみる。またその評価をどう活用できるかも検討してみる。

6．社会教育・生涯学習の推進体制について

＜ポイント＞

自分自身が住んでいる地域社会の社会教育・生涯学習の推進体制について、パンプレットやインターネットを通じて情報を集めどのような推進体制になっているのか、その特徴などを検討する。

教科書

伊藤俊夫『新しい時代を作る社会教育』全日本社会教育連合会。

参考文献

吉川浩編『生涯学習推進・社会教育計画』文教書院。
佐藤晴雄『生涯学習概論』学陽書房。
白石克己編『生涯学習論　自立と共生』実務教育出版。
吉川浩編『生涯学習論』文教書院。
香川正弘、他『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房。

科目コード	社会教育実習（１単位）	登録年次	履修方法
3360		４年	P
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目は、2020 年 4 月に施行された「社会教育主事講習等の一部を改正する省令」（文部科学省）により社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることを目的に、必修科目として開設された。実習先としては、公民館や青少年施設などの社会教育施設、教育委員会、社会教育にかかわる NPO・ボランティア団体、放課後子供教室や地域未来塾などの地域学校働活動等を予定している。

社会教育実習が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。

１） 地域の社会教育に関わる多様な主体との間で事業等を調整する社会教育主事の手順を理解する。

２） 学習支援の事業の企画・実施方法について理解する。

３） 社会教育事業の広報について理解する。

学修内容

社会教育主事の職務を遂行するために必要な以下の基礎的な知識、技術について学ぶ。

1. 地域社会教育施設の運営や施設職員への支援方法について学ぶ。

2. 地域の学習支援に関わる首長部局、学校、NPO・ボランティア団体との調整の手順について学ぶ。

３．学習プログラムの企画、実施、広報の手順について学ぶ。

4. 社会教育主事の職務の専門性について理解する。

教科書

全国公民館連合会編著　『新訂　よくわかる公民館のしごと』　第一法規。

科目コード	社会言語学（２単位）	登録年次	履修方法
9111		２年	R
教員名	坂井二郎		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

どのような言語が、どんな表現で、だれが、どんな環境で、だれに話し、書くかといった視点で言語を研究する分野が社会言語学である。この講座では、社会がつくりだす日本語の多様性を、階層・性差・地域性など様々な角度から考察することを通して、ことばの豊かさを学んでいく。また、日本語のバラエティーのみならず、世界における多文化、多言語社会での言語政策、言語教育も視野に入れ、ことばと社会の関わりについて考える。

学修内容

1	第1節「社会言語学の視点」社会言語学の視点とはどういうものかを学び、「生まれ、変化し、死んでいく」ものとして言語を捉える姿勢を身につける。（教科書 pp.10-17；文献[1]序章を合わせて読むとよい。）
2	第1節「社会言語学の視点」ことばのゆれ、言語変異という概念を理解し、日本語のバリエーションについて、例を挙げて説明できるようになる。（教科書 pp.18-27）
3	第2節「社会がつくり出すことば」社会がつくり出すことばとして、差別語、女のことば、男のことばのバリエーションを検証する。また、特定の語に対するメディアでの扱いや国の言語改革についても学ぶ。（教科書 pp.28-39）
4	第2節「社会がつくり出すことば」社会がつくり出す役割語について学習する。自分が目にするテレビや新聞、Web でのことばの扱いを検証しながら、マスメディアと言語の関係について考えをまとめる。（教科書 pp.39-55）
5	第3節「ことばとアイデンティティ」自分が所属する集団における言語を具体的に考えながら、自己のアイデンティティとどのように繋がっているのか考える。「ウチとソト」の区別がそれにどうかかわっているかも考察する。（教科書 pp.56-64）
6	第3節「ことばとアイデンティティ」方言・共通語・標準語の基本的概念を学習する。新方言のバラエティーを概観し、ことばの「乱れ」と「美しさ」について考えをまとめる。練習問題 p.121 の 7 をやる。（教科書 pp.64-77）
7	第4節「日本語と日本文化」サピア・ウォーフ仮説を理解し、日本語の発想と日本語の語彙や表現のバリエーションがどのようにかかわっているかを考え、意見をまとめる。（教科書 pp.78-83；文献[1]第Ⅱ部を合わせて読むとよい。）
8	第4節「日本語と日本文化」高（低）コンテキスト文化の概念、及びメタファー・メトニミーといった比喩表現について学び、説明できるようになる。練習問題 p.122 の 3, 8 をやる。（教科書 pp.83-93、文献[3]第2章を合わせて読むとよい。）
9	第5節「日本人のコミュニケーション」「らせん」型コミュニケーション、あいづち、タテ社会のコミュニケーションについて学び、日本人のコミュニケーションの特性について説明できるようになる。（教科書 pp.94-105）
10	第5節「日本人のコミュニケーション」媒体によって特徴が異なる言語の多様性を検証し、会話における協調・気配りの原則を学ぶ。練習問題 pp.119-122 の 1, 2, 4, 5, 6, 9 をやる。（教科書 pp.105-118、参考文献[2]第2章を合わせて読むとよい。）
11	第6節「多文化社会と多言語社会」国際化による日本語景観の変化、情報の多言語化、外国人向けのやさしい日本語について考え、言語的少数者の視点を養う。（教科書 pp.126-149）
12	第7節「文化の変容と言語」外来語への意識、日本の外来文化の受け入れ方について学び、カタカナ語の受容の変遷と「ケータイ言語」の実情について、自分の意見をまとめる。（教科書 pp.150-171）
13	第8節「言語政策」日本の国語施策、多言語社会の言語政策、バイリンガル教育を概観する。自分の言語体験に照らし合わせて、多言語社会における言語政策の在り方について意見をまとめる。（教科書 pp.172-199）
14	第9節「英語と世界の言語」国際共通語としての英語の在り方を考える。インターネットと言語、マイノリティー言語と言語権、英語の拡大と不平等を視野に入れ、言語と人権の関係について意見をまとめる。（教科書 pp.200-219）
15	第10節「日本語教育政策」世界と日本の留学生受け入れ政策、海外における日本語教育の推進について学び、日本語教育の将来について自分の意見をまとめる。練習問題 p.246 をやる。（教科書 pp.220-245）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】社会と言語が強く関係している言語事象を1つテーマに選び、具体的な例をあげながら、社会言語学分析と考察を行いなさい。

＜ポイント＞　社会言語学の視点で言語現象を捉え、テーマを設定する（差別語・役割語の変異、新方言の分布、病院での「やさしい日本語」施策など）。まず、テーマに関する自分自身の言語体験や社会における問題点などを具体的に述べる（「言葉の乱れ」など、社会の中で議論を呼んでいるテーマの場合は、争点を明確に述べておく）。次に、学修した社会言語学に関する基本的概念・キーワードに言及しながら、その言語事象を分析する。最後に、その分析に対して、自分の考察を加える（この表現に関する「ことばのゆれ」は〔放置すべき/…のように解決するべき〕である、病院/ホテルでの外国人向けの日本語は…にすべきであるなど）。可能であれば、実際にフィールド調査を行い、その結果を議論してもよい。

科目終了試験学修のポイント

1．社会がつくり出すことばについて

＜ポイント＞

差別語、女のことば、男のことば、役割語など、社会がつくり出す日本語のバリエーションについて、それぞれ例を挙げながら記述する。これらのバリエーションの時代ごとの変異、及びメディアや媒体（書きことば、話しことば、携帯ことばなど）による違いを視野に入れ、社会がどのようにことばを作り出してきた/作り出しているかを述べること。

2．ことばとアイデンティティについて

＜ポイント＞

教科書 p.62 の「ウチ・ソト・ヨソ」の概念に言及しながら、集団語が日本人のアイデンティティとどのように関わっているかを述べる。会社や学校、同好会など、特定の集団を1つか2つ選び、その集団に帰属する人たちがどのように「ウチ・ソト・ヨソ」の日本語表現を使い分けるのかを観察して議論するとよい。

3．日本語と日本文化について

＜ポイント＞

日本文化に密接に関係していると思われる表現（特にイディオムや比喩）を例にあげながら、それらの表現が日本文化のどのような側面を映し出しているかを議論する。特に、日本語以外の言語において、同様な表現や比喩が観察されるか、もしそうならば（もしくは、そうでないなら）、なぜかという自分の考察を述べるとよい。

4．日本人のコミュニケーションについて

＜ポイント＞

日本人に特有だと思われるコミュニケーションの特性（あいづち、お礼・謝罪などの配慮表現、挨拶・ジェスチャーなどの非言語コミュニケーションなど）を例にあげながら、それらが日本文化のどのような側面を映し出しているかを議論する。特に、日本語以外の言語において、同様なコミュニケーション特性が観察されるか、もしそうならば（もしくは、そうでないなら）、なぜかという自分の考察を述べるとよい。文献[3]第2, 3, 4, 5章を参考にするとよい。

5．多文化・多言語社会における言語政策について

＜ポイント＞

特定の国における言語政策を取り上げ、簡潔に記述する。日本における日本語・外国語共存政策や、ヨーロッパやアジアなど多言語社会での言語政策をテーマに選び、試験前に調べておく。自分の議論する地域・時代・言語（方言）名を明確に述べ、言語政策に関する問題点と自分の意見を述べること。

6．日本語教育政策

＜ポイント＞

留学生に対する日本語教育、海外における日本語教育など、日本語教育に関するテーマを事前に選び、その現状と問題点、自分の考察について議論する。特に教科書第10章を参照しながら、海外での外国語教育のありかたと比較しながら、議論するとよい。また自分自身の体験談を踏まえた考察を加えてもよい。

教科書

岡本佐智子著『日本語教育能力検定試験に合格するための社会言語学10』アルク、2008。

参考文献

［1］田中春美，田中幸子編著『社会言語学への招待 ： 社会・文化・コミュニケーション』 ミネルヴァ書房、1996。

［2］山岡政紀，牧原功，小野正樹著『コミュニケーションと配慮表現 ： 日本語語用論入門』　明治書院、2010。

［3］矢代 京子 他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社、2001。

科目コード	社会・集団・家族心理学（家族）（２単位）	登録年次	履修方法
3720		３年	R
教員名	荒井理帆、石川清子、志茂田典子、橋本景子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

人間は、生涯を通じて他者との中で生きていく。その最も身近な人間関係の中のひとつに「家族」がある。家族を普遍的固定的な存在としてとらえるのではなく、変動可能な動的な存在として、あるいは開かれたシステムの一部としての家族という見方を学ぶ。また家族が今後どのように変動を遂げる可能性があるのかについて知見を深め、家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について理解する。

学修内容

1	現代日本の家族、家族の起源・進化・発展、家族の成立（該当箇所：pp.8-12） 現代の家族の特徴を理解するに際して、なぜ人が「家族」という形態を作り、生活を維持してきたのか、その理由をヒトという種の成立過程から紐解く。
2	日本の「近代家族」の歴史（多様な家族）（該当箇所：pp.13-30） 近代から現代にかけて家族、特に日本において家族はどのように変遷を遂げてきたのかということを理解する。また異なる文化における家族を理解することで現代日本における家族の特徴を把握する。
3	家族の成立の前提としての恋愛、結婚、夫婦間の問題（該当箇所：pp.31-45） 現代家族、中でも結婚をめぐる諸特徴（例：結婚時期、結婚をめぐるメリット・デメリットなど）を調査データから動向を明らかにし、現代人にとっての結婚はどのような意味をもつものなのかを理解する。
4	家族生活を営むとはどのようなことか（家計問題を考える）（該当箇所：pp.59-65） 家庭内経済の運用は、家族生活にとって極めて重要な事項である。各家庭における貨幣配分のあり方を中心に男女の共同生活における平等さを学ぶ。
5	夫婦間のコミュニケーションについて（定年後の夫婦の問題について）（該当箇所：pp.73-85） 中高年世代の夫婦のコミュニケーションの特徴を実証データから明らかにし、なぜこのようなコミュニケーションがなされているのかその実情を理解する。
6	子どもの価値について（該当箇所：pp.94-100） 近年の科学技術の進歩に伴い、子どもの誕生には親側の「作る」意図に基づいて生まれてくる傾向がますます強くなっている。現代の子どもにはどのような価値が見出されて誕生を果たすのかを歴史や文化（地域）から概観する。
7	家族機能の重要な部分である子育てについて（働く母親、父親の心理について）（該当箇所：pp.134-141 , pp.142-148） 子育てをめぐる神話「母性神話」「三歳児神話」が科学的には否定されているが、その根拠を理解する。また、「親になる」とはどのようなことなのか、その親としての発達を理解する。
8	子育て不安について（子育てにおける父親の役割について）（該当箇所：pp.142-148） 性別（父親と母親）による育児行動はどのように異なるのか、異なるとすればどのような違いがなぜ生じるのかということを、養育行動の多少という観点から理解する。
9	家庭内に発生する暴力について（該当箇所：pp.126-133） ここでは児童虐待とドメスティックバイオレンス（DV）について、その背景と要因について理解を深め、支援についても考えていく。
10	子育てをする親としての成長、発達について（子どもの誕生と夫婦関係について）（該当箇所：pp.90-93, pp.149-156） 子どもを育てるということによって一人の人間の「成長」が促進されるという。子育てとはどのようなものかを再考する。
11	中年期の親と青年期の子ども間で起こる問題について（該当箇所：pp.164-170） 子育てがひと段落するといわれる子どもの青年期、成人期において、親子の間に生じやすい問題とは何か、現代的な特徴である、パラサイト・シングルや一卵性母娘という観点から理解する。
12	老年期の親と中年期の子ども間で起こる問題について（該当箇所：pp.171-175） 親の高齢化・長寿命化に伴う「老老介護」や介護をめぐるジェンダー（社会生物学的性）の問題を取り上げる。
13	家族を支える制度や政策について（該当箇所：pp.185-191） これまで家庭内労働（家事や介護）は女性が担うものという暗黙の家族観や政策がなされてきた。これからの家庭内労働の在り方を「男女共同参画」の観点から理解を進める。
14	家族を取り巻く物理的環境について（該当箇所：pp.177-184） 家族の生活の拠点である「家」「マイホーム」の在り方は時代に大きく影響される。物理的環境から規定される家族の在り方を理解する。
15	今改めて「家族」とは何か？について（家族発達）（該当箇所：pp.192-208） 人類の開始から「家族」という形態で居を共にする形で生活を営んできた「ヒト」にとって、今後どのような家族の形が模索されていくのか、その未来の形を予測する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 青年期の我が子を育てる際の親の留意点について述べよ。
＜ポイント＞ 次の言葉のいくつかをキーワードとして考えてみるとわかりやすい。
・パラサイト・シングル
・一卵性母娘
・親を支える子ども達
・「対等」な関係は維持できるか

科目終了試験学修のポイント

1．日本の「近代家族」の歴史について述べよ。
＜ポイント＞
現代における典型的な家族像というものがどのような要因から成立してきたのかについて言及しながらその歴史を説明しなさい。

2．社会変動がもたらす家族の変化・発達について述べよ。
＜ポイント＞
近年における社会変動についてとらえながら、それらが家族をどのように変化・発達させてきたのか、そしてどのような変化可能性を有するのかについて言及しなさい。

3．夫婦のコミュニケーションの重要性について述べよ。
＜ポイント＞
実証的な研究知見をもとに、現在の夫婦に見られるコミュニケーションの形を踏まえて説明すること。

4．家族ライフサイクルの観点から親の発達と子どもの発達について述べよ。
＜ポイント＞
家族のライフサイクル理論について言及すること。

5．子育てには不安がつきものであるが、何が育児不安を強めているか述べよ。
＜ポイント＞
実証的な研究知見をもとに、育児不安について言及すること。

6． 近年の晩婚化・非婚化傾向をもたらす結婚の現代的意味について述べよ。
＜ポイント＞
晩婚化や非婚化が必然性をもって生じてきている現象であるという点を踏まえること。

教科書

柏木惠子『家族心理学への招待　第2版』ミネルヴァ書房。

参考文献

平木典子、中釜洋子『家族の心理』サイエンス社。
中釜洋子、野末武義、布柴靖枝、無藤清子『家族心理学』有斐閣ブックス。

科目コード	社会・集団・家族心理学（社会・集団）	登録年次	履修方法
3630		2年	SR
教員名	新井洋輔、荒井理帆、岡本香、島雄利、村山陽		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会心理学の研究対象は、「社会的認知」、「社会的影響」、「対人行動と対人相互作用」、「個人と集団」、「マス」などの多岐にわたる。本講義では、実験や調査データに基づきながら、社会心理学について学び、対人関係や集団における人の意識・態度と行動についての心の過程について考え、日常生活における自己や他者を理解するための視点を獲得することを目的とする。

学修内容

1	社会心理学とは何か 社会心理学の課題と研究視点について
2	社会心理学の研究方法 社会心理学の主な研究方法（調査法、実験法）について
3	印象形成 印象形成の過程について
4	帰属 内的帰属、外的帰属、エラーとバイアスについて
5	態度と態度変容、説得 認知的均衡理論、認知的不協和理論、依頼と説得について
6	勢力と服従 社会的勢力、権威への服従について
7	社会的比較 社会的比較理論について
8	多数派と少数派について 同調と少数派の多数派への影響力について
9	社会的スティグマ 社会的スティグマ、ステレオタイプについて
10	自己呈示 自己過程（自己認知、自己概念、自己評価、自己呈示）について
11	援助行動と攻撃行動 援助行動の促進要因と抑制要因、攻撃行動の生起と抑制について
12	集団意思決定 リスキーシフトと集団極性化について
13	集団内ひいきと集団間葛藤 社会的アイデンティティ理論、自己カテゴリー化理論、一般互酬性仮説について
14	囚人のジレンマ、社会的ジレンマ 囚人のジレンマとナッシュ均衡、社会的ジレンマについて
15	マスコミュニケーションについて 議題設定機能、培養理論、沈黙の螺旋仮説について

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 個人が他者や集団から受ける影響について述べよ。

＜ポイント＞

態度変化や行動変化のきっかけとなる、他者の影響（説得、勢力、服従など）や、集団の影響（同調、多数派や少数派、集団意思決定など）に関わる社会心理学の研究知見を基に論ずること。

【設題2】 集団間葛藤について述べよ。

＜ポイント＞

集団間葛藤が生じる理由を、現実葛藤理論や社会的アイデンティティ理論を基に説明するとととともに、集団間葛藤の解消方法についても論ずること。

科目終了試験学修のポイント

1．対人認知に影響を及ぼす様々な要因について

＜ポイント＞

対人認知に影響を及ぼす要因にはどのようなものがあるかを挙げ、その影響過程を説明すること。

2．フェスティンガーの認知的不協和理論における態度の変容について

＜ポイント＞

態度変容がどのような認知過程を経て生起するかについて説明すること。

3．マスコミュニケーションが、情報の受け手に与える影響について

＜ポイント＞

マスコミュニケーションの効果研究で明らかにされた複数の知見をもとに説明すること。

4．援助行動の生起過程と抑制要因について

＜ポイント＞

援助行動の生起過程を説明した上で、援助行動の抑制要因と生起過程の関連を説明すること。

5．囚人のジレンマと社会的ジレンマについて

＜ポイント＞

囚人のジレンマを説明した上で、社会的ジレンマの定義を述べ、その解決ついて、適切な理論を用いて説明すること。

6．社会関係資本の正の側面と負の側面について

＜ポイント＞

社会関係資本の定義を説明した上で、正の側面の特徴と負の側面の特徴を説明すること。

教科書

山田一成、他『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房。

参考文献

井上隆二、山下富美代『図解雑学 社会心理学』ナツメ社。
岡本浩一『社会心理学ショートショート』新曜社。
間場寿一『社会心理学を学ぶ人のために』世界思想社。
ロバート･B・チャルディーニ『影響力の武器　社会行動研究会訳』誠信書房。

科目コード	社会情報学（２単位）	登録年次	履修方法
7700		２年	R
教員名	有働文雄、小笠原眞紀、舘秀典		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

情報化によって仕事や生活の様式が大きく変化している現代において、メディアやIT（Information Technology）に関する理解は不可欠なものである。本科目では、メディアや文化、コミュニケーションなどの観点から、社会におけるメディアや情報のあり方、そして、それによる社会的影響について考える。

学修内容

1	世論について 世論を切り口とした著者の考えを理解する。日常用語として頻繁に使用されている「世論」という言葉の概念について、研究史をふまえた上で再検討をしていることに注目をする。
2	公共圏と社会 「公共圏」について調べ学習を行い、理解を深める。近代の始まりとともに成立した「公共圏」の概念がメディアによってどのように変容しているのか考察している点に注目する。また、「公共圏」に関してインターネットを使って調べ、理解を深める。
3	記憶とメディア 「記憶」をキーワードとして著者の考えを理解する。メディアと記憶との関係を、第一次世界大戦の社会・文化史のコンテクストに沿って検討している点に注目する。
4	カルチュラル・スタディーズ 「受け手」をキーワードとして理解を深める。受け手の能動性、社会・文化的文脈を重視し、言説的実践のなかに文化と権力との複雑なせめぎ合いを見いだそうとするカルチュラル・スタディーズのアプローチを理解する。
5	ポストモダンの文化 メディア論やメディア技術の観点からの理解を深める。特にデジタル・メディア技術という観点から、インターネットは社会を映し出すメディアであり、その分散性、グローバル性、多元的価値の混在性、脱中心性といった特徴に注目する。
6	コミュニケーション変容と携帯電話 携帯電話によるコミュニケーションについて考える。携帯電話の普及速度はこれまでのどのメディアと比較しても急速であったことや、携帯電話が若年層に一種の記号的価値をもち、社会的脈絡から自由なバーチャルなたまり場を提供するものとして受け入れられた点に注目する。
7	コミュニケーション変容とインターネット インターネットによるコミュニケーションについて考える。インターネットの急速な普及を背景として、電子メールによるコミュニケーションが増加した。新しいメディアの台頭で私たちのコミュニケーションのあり方が変化するものなのかどうかという点に注目する。
8	コミュニケーション変容とメディアの普及 情報技術の普及について考える。インターネットによる情報検索により、新しい情報技術やメディアの普及について調べ、それらが自分の生活にどのような変化をもたらしたのかを考察する。
9	読み書きと電子化 CMCについて理解を深める。読み書きの歴史は音声言語に比べるとごく最近のもので、認知的処理の様相にも相違がある。手書きからワープロ利用に変わったことなどから、コンピュータを介したコミュニケーションが私たちの言語行動や認知的処理様相に与えた影響について注目する。
10	パーソナライゼーション 自分がこれまで電話をどのように使ってきたのかを考える。メディアの個人利用化によってもたらされた影響、特に私たちのコミュニケーションにおける場の意味の変化に注目する。
11	パーソナライゼーション：電子文字によるコミュニケーション 日常における電子文字によるコミュニケーションについて考える。インターネットによる情報検索により、ポケベルや携帯電話、電子メールでの文字のコミュニケーションについて調べ、それらが自分の生活にどのような変化をもたらしたのかを考察する。
12	メディアとは何か 情報技術の観点からメディアについて考える。社会情報学におけるメディアの基本的な概念について学ぶ。また、メディアリテラシー（読み書き能力）の知見などをふまえ、人間や社会との関係性においてメディアを捉える考え方に注目する。
13	メディアとは何か：メディア・リテラシー メディア・リテラシーについて調べて理解を深める。また、インターネットによる情報検索により、メディア・リテラシーと自分との関わりについて考察する。
14	「オンナ・コドモ」とジャーナリズム マス・メディアを通した「オトコ」のジャーナリズムに対する「オンナ・コドモ」のジャーナリズムの必要性と現実の台頭に注目する。
15	「オンナ・コドモ」とジャーナリズム：戦争とメディア 戦争におけるメディアの使われ方について調べる。インターネットによる情報検索により、戦争におけるメディアについて調べ、それが社会にどのような影響をもたらしたのかを考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】「情報技術の変化」、「社会への影響」、「ニュースにおけるメディア」の3つをキーワードとして、日常生活におけるメディアとコミュニケーションについて論じよ。このとき、教科書で述べられている意見や研究などを適宜参照すること。

＜ポイント＞

教科書を読むだけでなく、自分自身の経験を例に挙げて論述するとよい。また、書籍やインターネットを活用して関連事項を調べ、理解を深めること。

科目終了試験学修のポイント

1．インターネットが普及するようになった経緯について

＜ポイント＞

まさにインターネット上に多くの情報があるので、多くのサイトを見て調べること。

2．インターネットの普及がもたらした社会的影響について

＜ポイント＞

教科書でも複数箇所で取り上げられているが、例えばp.115から詳しく述べられている。

3．テレビや電話といった日常生活に関わりが深いメディアについて

＜ポイント＞

インターネットでごく最近の状況について調べるとよい。

4．テキスト（文字）によるコミュニケーションについて

＜ポイント＞

インターネットでごく最近の状況について調べるとよい。

5．Computer Mediated Communicationについて

＜ポイント＞

メール、チャット、BBS、ブログ、SNSなどをキーワードとして調べるとよい。

6．テレビのニュースによる情報受容

＜ポイント＞

インターネットでごく最近のテレビ報道について調べるとよい。

教科書

西垣通・伊藤守　『よくわかる社会情報学』 ミネルヴァ書房。

参考文献

吉見俊哉、花田達朗『社会情報学ハンドブック』東京大学出版会。

池田理知子、松本健太郎『メディア・コミュニケーション論』ナカニシヤ出版。

科目コード	社会心理学（４単位）	登録年次	履修方法
2210		３年/２年	R
教員名	荒井理帆、岡本香、島雄利、村山陽		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

社会心理学は、社会学と心理学との境界領域にあたる分野で、人が他者（自分以外の異質な存在）との関係の中で、人の態度や認知に表れる、様々な特徴を解明することを主なねらいとしている。学修内容としては、他者や社会が個人の態度や認知にどのように影響するか（光背効果や社会的促進）や、個人と個人との関係や相互作用（ハイダーの認知的均衡理論やフェスティンガーの認知的不協和理論）などを取り上げる。その他、集団を構成するメンバーの心理、グループダイナミクス、傍観者効果、リーダーシップ、消費行動などについても考察していく。

学修内容

1	社会心理学とは（1） 社会心理学の課題と研究視点、社会心理学の研究方法について
2	社会的認知（1） 印象形成について
3	社会的認知（2） 期待効果とステレオタイプについて
4	社会的推論（1） 帰属について
5	社会的推論（2） 推論の仕組み、エラーとバイアスについて
6	態度（1） 態度の定義、認知的均衡理論、認知的不協和理論、精緻化可能性モデルについて
7	態度（2） 説得的コミュニケーションと態度変容について
8	自己（1） 自己認知、自己概念、個人的アイデンティティ、社会的アイデンティティについて
9	自己（2） 自尊感情、社会的比較理論、SEM モデル、セルフ・ディスクレパンシー理論について
10	自己（3） 自己呈示について
11	対人行動（1） 援助行動について
12	対人行動（2） 対人魅力について
13	集団と個人（1） 社会的促進、社会的抑制、社会的手抜きについて
14	集団と個人（2） 集団ダイナミクスとしての集団意思決定、多数派と少数派、リーダーシップについて
15	集団と個人（3） 社会的ジレンマについて

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 社会的相互作用について述べよ。

＜ポイント＞

社会的相互作用と社会心理学との関連性についても考察すること。

【設題2】 集合行動の社会心理について論ぜよ。

＜ポイント＞

ル・ボンの「群衆心理」やスメルサーの「集合行動論」などについても考察し、集合行動はどのような過程を経て形成・維持されていくのかを理解すること。

科目終了試験学修のポイント

1．都市化と人間について

＜ポイント＞

都市化にともなう個人の心理的変化について説明すること。

2．ル・ボンの群衆心理の特徴について

＜ポイント＞

群集（集団）内にある個人の心理的特徴について説明すること。

3．エリクソンの発達理論について

＜ポイント＞

心理社会的発達課題の特徴と、その発達課題の未達成が生じさせる問題について説明すること。

4．フェスティンガーの認知的不協和理論について

＜ポイント＞

態度変容がどのような認知過程経て生起するかについて説明すること。

5．アニミズムとシャーマニズムについて

＜ポイント＞

アニミズムとシャーマニズムが社会的動物である人の心に及ぼす影響について説明すること。

6．推論のエラーとバイアスについて

＜ポイント＞

認知資源を節約するための判断方略が、どのようなエラーおよびバイアスを生じさせるかについて説明すること。

教科書

池上知子、他『グラフィック社会心理学』サイエンス社。

参考文献

井上隆二、山下富美代『図解雑学 社会心理学』ナツメ社。

岡本浩一『社会心理学ショートショート』新曜社。

間場寿一『社会心理学を学ぶ人のために』世界思想社。

ロバート･B・チャルディーニ『影響力の武器　社会行動研究会訳』誠信書房。

科目コード	社会心理学（４単位）	登録年次	履修方法
2211		２年	ＳＲ
教員名	荒井理帆、岡本香、島雄利、村山陽		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会心理学の研究対象は、「社会的認知」、「社会的影響」、「対人行動と対人相互作用」、「個人と集団」、「マス」などの多岐にわたる。本講義では、実験や調査データに基づきながら、社会心理学について学び、対人関係や集団における人の意識・態度と行動についての心の過程について考え、日常生活における自己や他者を理解するための視点を獲得することを目的とする。

学修内容

1	社会心理学とは何か 社会心理学の課題と研究視点について
2	社会心理学の研究方法 社会心理学の主な研究方法（調査法、実験法）について
3	印象形成 印象形成の過程について
4	帰属 内的帰属、外的帰属、エラーとバイアスについて
5	態度と態度変容、説得 認知的均衡理論、認知的不協和理論、依頼と説得について
6	勢力と服従 社会的勢力、権威への服従について
7	社会的比較 社会的比較理論について
8	多数派と少数派について 同調と少数派の多数派への影響力について
9	社会的スティグマ 社会的スティグマ、ステレオタイプについて
10	自己呈示 自己過程（自己認知、自己概念、自己評価、自己呈示）について
11	援助行動と攻撃行動 援助行動の促進要因と抑制要因、攻撃行動の生起と抑制について
12	集団意思決定 リスキーシフトと集団極性化について
13	集団内ひいきと集団間葛藤 社会的アイデンティティ理論、自己カテゴリー化理論、一般互酬性仮説について
14	囚人のジレンマ、社会的ジレンマ 囚人のジレンマとナッシュ均衡、社会的ジレンマについて
15	マスコミュニケーションについて 議題設定機能、培養理論、沈黙の螺旋仮説について

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 個人が他者や集団から受ける影響について述べよ。

＜ポイント＞

態度変化や行動変化のきっかけとなる、他者の影響（説得、勢力、服従など）や、集団の影響（同調、多数派や少数派、集団意思決定など）に関わる社会心理学の研究知見を基に論ずること。

【設題2】 集団間葛藤について述べよ。

＜ポイント＞

集団間葛藤が生じる理由を、現実葛藤理論や社会的アイデンティティ理論を基に説明するとととともに、集団間葛藤の解消方法についても論ずること。

科目終了試験学修のポイント

1．対人認知に影響を及ぼす様々な要因について

＜ポイント＞

対人認知に影響を及ぼす要因にはどのようなものがあるかを挙げ、その影響過程を説明すること。

2．フェスティンガーの認知的不協和理論における態度の変容について

＜ポイント＞

態度変容がどのような認知過程を経て生起するかについて説明すること。

3．マスコミュニケーションが、情報の受け手に与える影響について

＜ポイント＞

マスコミュニケーションの効果研究で明らかにされた複数の知見をもとに説明すること。

4．援助行動の生起過程と抑制要因について

＜ポイント＞

援助行動の生起過程を説明した上で、援助行動の抑制要因と生起過程の関連を説明すること。

5．囚人のジレンマと社会的ジレンマについて

＜ポイント＞

囚人のジレンマを説明した上で、社会的ジレンマの定義を述べ、その解決ついて、適切な理論を用いて説明すること。

6．社会関係資本の正の側面と負の側面について

＜ポイント＞

社会関係資本の定義を説明した上で、正の側面の特徴と負の側面の特徴を説明すること。

教科書

山田一成、他『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房。

参考文献

井上隆二、山下富美代『図解雑学 社会心理学』ナツメ社。
岡本浩一『社会心理学ショートショート』新曜社。
間場寿一『社会心理学を学ぶ人のために』世界思想社。
ロバート･B・チャルディーニ『影響力の武器　社会行動研究会訳』誠信書房。

科目コード	社会心理学（２単位）	登録年次	履修方法
2213		３年	R
教員名	荒井理帆、岡本香、島雄利、村山陽		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会心理学は、社会学と心理学との境界領域にあたる分野で、人が他者（自分以外の異質な存在）との関係の中で、人の態度や認知に表れる、様々な特徴を解明することを主なねらいとしている。学修内容としては、他者や社会が個人の態度や認知にどのように影響するか（光背効果や社会的促進）や、個人と個人との関係や相互作用（ハイダーの認知的均衡理論やフェスティンガーの認知的不協和理論）などを取り上げる。その他、集団を構成するメンバーの心理、グループダイナミクス、傍観者効果、リーダーシップ、消費行動などについても考察していく。

学修内容

1	社会心理学とは（1） 社会心理学の課題と研究視点、社会心理学の研究方法について
2	社会的認知（1） 印象形成について
3	社会的認知（2） 期待効果とステレオタイプについて
4	社会的推論（1） 帰属について
5	社会的推論（2） 推論の仕組み、エラーとバイアスについて
6	態度（1） 態度の定義、認知的均衡理論、認知的不協和理論、精緻化可能性モデルについて
7	態度（2） 説得的コミュニケーションと態度変容について
8	自己（1） 自己認知、自己概念、個人的アイデンティティ、社会的アイデンティティについて
9	自己（2） 自尊感情、社会的比較理論、SEM モデル、セルフ・ディスクレパンシー理論について
10	自己（3） 自己呈示について
11	対人行動（1） 援助行動について
12	対人行動（2） 対人魅力について
13	集団と個人（1） 社会的促進、社会的抑制、社会的手抜きについて
14	集団と個人（2） 集団ダイナミクスとしての集団意思決定、多数派と少数派、リーダーシップについて
15	集団と個人（3） 社会的ジレンマについて

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 社会的相互作用について述べよ。

＜ポイント＞

社会的相互作用と社会心理学との関連性についても考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．都市化と人間について

＜ポイント＞

都市化にともなう個人の心理的変化について説明すること。

2．ル・ボンの群衆心理の特徴について

＜ポイント＞

群集（集団）内にある個人の心理的特徴について説明すること。

3．エリクソンの発達理論について

＜ポイント＞

心理社会的発達課題の特徴と、その発達課題の未達成が生じさせる問題について説明すること。

4．フェスティンガーの認知的不協和理論について

＜ポイント＞

態度変容がどのような認知過程経て生起するかについて説明すること。

5．アニミズムとシャーマニズムについて

＜ポイント＞

アニミズムとシャーマニズムが社会的動物である人の心に及ぼす影響について説明すること。

6．推論のエラーとバイアスについて

＜ポイント＞

認知資源を節約するための判断方略が、どのようなエラーおよびバイアスを生じさせるかについて説明すること。

教科書

池上知子、他『グラフィック社会心理学』サイエンス社。

参考文献

井上隆二、山下富美代『図解雑学 社会心理学』ナツメ社。

岡本浩一『社会心理学ショートショート』新曜社。

間場寿一『社会心理学を学ぶ人のために』世界思想社。

ロバート･B・チャルディーニ『影響力の武器　社会行動研究会訳』誠信書房。

科目コード	社会政策（２単位）	登録年次	履修方法
2620/2621		３年/２年	R
教員名	小笠原眞紀、小澤浩之、佐々木貴雄、辻本理絵子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

資源の分配には、生産への「貢献」に基づいて行う方法と、生活の「必要（ニーズ）」に基づいて行う方法がある。経済政策は主に前者の立場をとっているのに対して、新しい社会政策は後者の方法論に立っている。

本科目では、労働者という生産者サイドよりも、生活者、消費者のポジションから社会政策の課題を考えていく。

学修内容

1	社会政策の原理 社会政策は国家や時代背景などによって様々な形で実施されてきた。しかし、その基本は「資本主義の根本原理である市場原理が持つ問題点（市場の失敗）をどのように公的部門でカバーするか」というものであろう。ここでは、社会の構成原理を学び社会政策とは何か理解する。
2	社会政策の公準 社会政策における原則や基準である、「憲法で規定された社会権」「ILO によって設定されている国際労働基準」「ナショナルミニマムとソーシャルオプティマム」「機会の平等と結果の平等」「ノーマライゼーション」について学ぶ。
3	社会政策の歴史（1） 初期資本主義の時代の社会政策から第二次世界大戦までの世界の社会政策の歴史を学ぶ。社会政策が「労働力の創出と陶冶」を目的としていた時代から、どのような歴史をたどって変化し、実施が進められていったかを学ぶ。そして、その時代ごとの課題は何だったのか考える。
4	社会政策の歴史（2） 第二次世界大戦後、ヨーロッパで本格的に導入された福祉国家体制と、その限界を学ぶ。また、日本の社会政策の歴史を概観し、歴史から何を学び、これからの社会政策に活かしていかなければならないか考察する。
5	労働時間と社会政策（1） 人間にとっての時間とは何か、経済学との関係はどのようなものか学ぶ。また、古代より労働時間の長さの基準は 1 日であったが、産業革命時代のイギリスでは 1 日 17 時間～18 時間労働が横行しており、多くの労働者が過酷な労働を強いられた。今日、ほとんどの国々で労働の基準時間が法定化され、19 世紀より労働時間が短くなった。その要因についても学ぶ。
6	労働時間と社会政策（2） 世界の労働時間の現状を知り、日本の労働時間の現状を考える。また、日本は諸外国に比べ労働時間が長いことで有名であり、その原因となっているものは何か、日本での労働時間を巡る諸問題について学び、労働者にとって、社会にとってよりよい労働時間のあり方を考える。
7	賃金と社会政策 賃金が決まる方法には「労使の個人交渉」「労使の集団的交渉」「国家が介入する最低賃金制度」がある。ここでは、なぜ国家が賃金決定に介入する必要があるのか、介入しない場合の問題点を踏まえて考える。そして、最低賃金をどのように決めるかその設定方法を知り、最低賃金制度が社会に与える影響を考える。
8	労働市場と社会政策（1） 労働市場とは、労働者の労働力が企業との間で取引される事を通じて、さまざまな業種・職種に分配される仕組みである。社会政策が未整備であれば、労働力と企業の間で色々な摩擦が生じ、労働者が望まない失業（不完全雇用状態）が発生する。社会政策がどのように労働市場に働きかけ、労働者の雇用を守り、失業に対して手当しているか学ぶ。
9	労働市場と社会政策（2） 1980 年代から先進国で始まった環境の変化が大量失業を生んだ。非正規労働者の労働市場が拡大し、欧米では外国人労働者が増えた。このような労働環境の変化の中で、日本の雇用・失業対策をどのように行っていくのか学び、これからの日本の労働市場の方向性について考える。
10	社会保障の原理と制度（1） 市場の失敗が避けられない中、社会保障が果たしてきた役割は大きい。日本では近年、社会保障の財源を社会保険方式に変更している（介護保険や後期高齢者医療など）。しかし、社会保障制度は社会保険制度だけで成り立つものではない。社会保険制度の特徴を押さえ、公的扶助の特徴を踏まえながら日本の社会保障について学ぶ。
11	社会保障の原理と制度（2） 日本の社会保障は中央集権的な制度であった。近年、少しずつではあるが地方分権が進んでいる。また、人口構造が少子高齢化する中、これからの社会保障制度改革をどのような形で行い、どのような社会保障制度を再構築するか、しっかり学び考察する。

12	少子・高齢社会と社会政策 現在の日本の人口は、少子高齢化していると言われる。少子高齢化の原因は「医療技術の高度化と利用しやすさ」や「高い衛生観念」「平和」によってもたらされ、本来誇らしい現象である。しかし、人口構成バランスにゆがみが生じるため、これまでの社会政策では乗り越えられない問題も噴出する。それらについて学び、考察する。
13	福祉国家と福祉社会 福祉国家とはどのような目的や目標をもった国家であるか概観し、歴史的にどのような影響を与え、どのような限界に直面しているか学ぶ。また、福祉国家が存続するためにどのような工夫をこらしているかも学ぶ。そして、近年注目されている福祉社会とは何か学び、考察する。
14	21 世紀の社会政策（1） 20 世紀後半から現在にいたるまで、国境をこえたグローバルな経済、労働、金融の動きが活発化している（いわゆるグローバル化）。このような環境の変化の中で、様々な組織や社会を統制していくか（グローバルガバナンス）考える。
15	21 世紀の社会政策（2） 21 世紀の社会（日本だけでなく世界）が抱える課題を学び、これからの社会政策のあるべき姿を考える。たとえば、経済成長と環境問題は相反する問題であるが、どちらが欠けても私達の社会に様々な問題が発生する。相反する問題にどのように対応すべきか考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】社会政策の原理についてまとめよ。

＜ポイント＞

社会構成原理を踏まえ、社会政策の種類と対象領域についてまとめ、考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．福祉国家の限界と見直しについて

＜ポイント＞

福祉国家と呼ばれる北欧諸国に対する批判や福祉国家の限界を踏まえ、ベーシックインカム構想について自身の意見を述べること。

2．福祉社会と福祉多元主義について

＜ポイント＞

福祉社会とは、福祉多元主義とは何かを学び、福祉社会における行政の集権・分権のあり方について自身の意見を述べる。

3．最低賃金制度のあり方と課題について

＜ポイント＞

最低賃金の決定方式について学び、最低賃金制度のあり方と課題について自分の意見を述べる。

4．雇用・失業対策の仕組みと変遷について

＜ポイント＞

これまでの労働市場の歴史や変化を踏まえ、雇用・失業対策の今後の動向と課題について考察する。

5．世界と日本の労働時間の現状について

＜ポイント＞

欧米、アジアの労働時間と日本の労働時間を比較、考察する。

6．21 世紀の社会政策のグローバルな課題について

＜ポイント＞

近年特有のグローバルな課題を学び、これからの社会政策のあり方、方向性について考察する。

教科書

成瀬龍夫『増補改訂　総説　現代社会政策』桜井書店。

参考文献

石畑良太郎、他『よくわかる社会政策』ミネルヴァ書房。
椋野美智子、他『はじめての社会保障』有斐閣。
玉井金五『三訂　社会政策を学ぶ人のために』世界思想社。

科目コード	社会政策論（２単位）	登録年次	履修方法
8800		２年	R
教員名	佐々木貴雄、田口典男		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

現代社会は様々な社会問題を抱えている。その問題群に対応する政策が社会政策であり、労働・人口・社会保障を含めた生活保障など、幅広い分野をカバーしている。一方で、このような社会政策が十分に機能しているかというと、不十分な点も多くあり、さらには政策自体が逆に問題を大きくしている場合もある。

この科目では、そのような社会問題や、社会政策について勉強し、少しでも良い方向に向かわせるためにはどうすればいいかを、自分の住んでいる社会のこととしてとらえ、一緒に考えてもらいたい。

学修内容

1	序　社会政策の考え方　①　社会政策の理論と展開 ・社会政策とは何か ・新しい社会政策の構想とは ・社会政策はどのような歴史背景のなかで必要とされてきたのか
2	序　社会政策の考え方　②　社会政策の現代的課題 ・福祉国家とはどのような国家か ・「働き方」はどのように多様化しているか ・現在の貧困問題はどのような状況か
3	Ⅰ　賃金①　日本の賃金の歩みと現状 ・なぜ「労働者の立場は弱い」といわれるのか ・「日本的経営」とは何か ・成果主義賃金はなぜ「再設計」が求められたのか
4	Ⅰ　賃金②　賃金格差と課題 ・日本の賃金格差は、「差別」なのか ・「同一価値労働同一賃金の原則」に照らすと、現在の賃金にはどのような問題があるか ・最低賃金制の意義と現状について
5	Ⅱ　労働時間①　労働時間制度の歴史と現状 ・生活時間のなかで、労働時間はどのくらいを占めているか ・労働基準法で労働時間はどのように定められているか ・労働時間は、どのように変化しているか
6	Ⅱ　労働時間②　労働時間制度の課題 ・休暇や休業の制度にはどのようなものがあるか ・「サブロク協定」とは何か ・長時間労働はどのような問題をもたらすか
7	Ⅲ　雇用・失業①　失業と雇用形態の変化 ・失業はなぜ発生するか ・雇用形態にはどのようなものがあるか ・派遣労働はなぜ広まったか
8	Ⅲ　雇用・失業②　雇用・失業政策とその課題 ・若者の雇用問題にはどのようなものがあるか ・失業時の生活保障制度にはどのようなものがあるか ・ディーセントワークとは何か
9	Ⅳ　労使関係①　労使関係と労働組合運動 ・労使関係における労働者と使用者の関係とは ・労働組合運動の意義とは ・「日本的労使関係」とはどのようなものか
10	Ⅳ　労使関係②　「労働ビックバン」と課題 ・「新時代の『日本的経営』」とはどのような内容か ・「労働ビックバン」の背景と内容 ・新しい労働組合運動の動きとはどのようなものか
11	Ⅴ　高齢社会　高齢社会の課題 ・日本の高齢化の特徴とは ・高齢者福祉に関する政策展開について ・高齢者雇用に関する政策展開について
12	Ⅵ　社会保障①　社会保障制度 ・現代社会における社会保障の意義とは ・一般的な保険（私的保険）と社会保険の違いとは ・生活保護制度の課題にはどのようなものがあるか

13	Ⅵ　社会保障②　医療・介護・年金 ・後期高齢者医療制度の課題にはどのようなものがあるか ・介護保険制度の課題にはどのようなものがあるか ・年金制度の信頼性を高めていくためには
14	Ⅶ　男女平等　雇用・人口変動との関連 ・雇用の場における男女の格差とは ・ワークライフバランスとは何か ・母子世帯の貧困問題とは
15	Ⅷ　外国人労働者　外国人労働者と外国人住民 ・日本における外国人労働者の状況 ・外国人技能実習制度の内容とその課題とは ・外国人「定住化」による社会問題とは

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】長時間労働の現状と問題点、さらに解決に向けた政策について論ぜよ。

＜ポイント＞

「解決に向けた政策」については、現在どのような政策が行われているかも十分検討した上で、論じること。

科目終了試験学修のポイント

１．　日本の最低賃金制度の現状と課題について

＜ポイント＞

テキストで最低賃金制の経緯、仕組みなど基本的なポイントを押さえ、さらに最新の情報を得た上で論じること。

２．　若者の雇用問題について

＜ポイント＞

テキストで雇用形態や就労支援など基本的なポイントを押さえ、さらに最新の情報を得た上で論じること。

３．　新しい労働組合運動の動きについて

＜ポイント＞

テキストで労働組合の課題や「ユニオン」の登場など、基本的なポイントを押さえ、さらに最新の情報を得た上で論じること。

４．　高齢者雇用の現状と課題について

＜ポイント＞

テキストで高齢者就業の実態や雇用延長のための制度など、基本的なポイントを押さえ、さらに最新の情報を得た上で論じること。

５．　ワークライフバランスの実現に向けた課題について

＜ポイント＞

テキストで労働時間や家庭・地域生活など基本的なポイントを押さえ、さらに最新の情報を得た上で論じること。

６．　外国人労働者受け入れの課題について

＜ポイント＞

テキストで外国人労働者の状況や「定住化」など基本的なポイントを押さえ、さらに最新の情報を得た上で論じること。

教科書

石畑良太郎・牧野富夫　編著『よくわかる社会政策　第２版』ミネルヴァ書房。

参考文献

玉井金五、大森真紀編『三訂　社会政策を学ぶ人のために』世界思想社。

駒村康平他『社会政策』有斐閣

科目コード	社会調査法（２単位）	登録年次	履修方法
3090		２年	ＳＲ
教員名	荒井理帆、内平八重子、大矢日信、大久保常明、金貞任、 田中利光、田中利則、松崎茂、若狭清紀		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会調査は、社会的事実を認識するための方法であり、社会福祉士が行う相談援助活動を支え、基礎づけるものである。本科目では、この社会調査の基本的性格を考察し、その代表的な調査技法である統計調査法と事例調査法の基本原理と方法、手順について学ぶ。また、標本抽出の方法や、調査結果の整理や分析の方法、質問紙、調査票の作成の手順、観察や面接の技法といった具体的な方法論も学ぶ。

学修内容	
1	社会調査の歴史（1：ヨーロッパ） （重要人物の業績とその特徴：ハワード、ル・プレー、ブース、ラウントリー　等）
2	社会調査の歴史（2：日本） （重要な人物や事項とその特徴：横山源之助、国勢調査の開始、戸田貞三　等）
3	調査の手順 （アイデアから研究テーマへ：ブレーンストーミング、ＫＪ法の概要、先行研究の検討：インターネット等を利用した先行研究の探し方、一般仮説と作業仮説のたて方）
4	社会調査の種類 （量的調査と質的調査の概要：両調査の特徴を各所方法の長所と短所を中心に概観する）
5	量的調査と質的調査の比較 （とくに両者の特質の比較：それぞれの特質を表にし比較する、専門用語の意味：全数調査・標本調査・母集団・サンプル・サンプリング　等、標本抽出法：有意抽出と無作為抽出とそれらの具体的抽出方法）
6	量的調査（1） （調査の手順概要：調査の企画から報告書の作成までの手順の概要、依頼文書の作り方：調査を依頼する施設長等への依頼文書の作り方）
7	量的調査（2） （質問紙の作成、ワーディングの注意点：威光暗示効果・キャリーオーバー効果・ダブルバーレル質問　等）
8	量的調査（3） （標本数と標本誤差、平均値、中央値、偏差、分散、標準偏差などの概要：それぞれの用語の意味を理解する）
9	量的調査（4） （量的変数間の関連性：代表的なものを理解する、度数分布図のいろいろ：棒図表・ヒストグラム・度数多角形・パイ図表・帯図表の特徴を知る、信頼性と妥当性・横断調査と縦断調査・クロス集計の意味を理解する）
10	質的調査（1） （質的調査の特徴：量的調査との比較により理解する、質的調査の種類：観察法と面接法、KJ 法とグランデッドセオリー法の概要）
11	質的調査（2） （調査手法：観察法と面接法および記録の種類について具体的な内容の理解）
12	質的調査（3） （質的調査のデータ分析：ＫＪ法やグランデッドセオリー法の具体的な内容の理解）
13	社会調査における倫理 （社会調査士倫理綱領や個人情報保護法等から、社会調査に必要な倫理を知る）
14	報告書のまとめ方（1） （報告書と論文の特性比較、プレゼンテーションの方法、報告書や論文の一般的な構成を知る）
15	報告書のまとめ方（2） （報告書等の作成に必要な、項目の数字のつけ方の基本、引用文献・参考文献の書き方を知る）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 社会調査の性格と類型についてまとめ、量的調査（統計調査）と質的調査（事例調査）の相違について述べよ。

＜ポイント＞

社会調査の意義と目的をよく理解した上で、社会調査の基本的性格および量的調査（統計調査）と質的調査（事例調査）それぞれの調査方法をまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1． 量的調査の方法とその特徴について

＜ポイント＞

量的調査の種類には、それぞれ長所と短所があるので、それらを理解することが重要である。

2． 質的調査の方法とその特徴について

＜ポイント＞

KJ 法など、質的調査で用いられる主な手法を実際に模擬練習すると、現場で応用することが可能である。

3． 量的調査と質的調査の特徴の比較について

＜ポイント＞

量的調査と質的調査の長所と短所を表（一覧）にしてまとめると、両者の特徴が比較的わかりやすくなる。

4． サンプリングの方法とそれらの特徴について

＜ポイント＞

サンプリングの方法を実際に模擬練習すると、どのようなサンプリングの方法が有効であるかがわかる。

5． 調査票作成上の諸注意点について

＜ポイント＞

実際に質問紙作りを（ワーディングに注意しながら）模擬練習すると、実際に調査票を作る時、応用が可能である。

6． 社会調査における倫理と個人情報保護について

＜ポイント＞

今日、個人情報保護は大変重要であり、倫理綱領等からしっかりと学修することが求められる。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座5　社会調査の基礎』中央法規。

参考文献

なし

科目コード	社会調査法（２単位）	登録年次	履修方法
3091/3092		3091：２年／3092：３年	R
教員名	金貞任、若狭清紀、田中利光、田中利則、大矢日信、松崎茂 荒井理帆、大久保常明、内平八重子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目は、国が定める社会福祉士および精神保健福祉士の養成カリキュラムにおける「社会福祉調査の基礎」に対応するものである。本科目では、社会調査および社会福祉調査の基礎的事項を学習するが、社会福祉調査は社会福祉領域での社会調査のことであるため、本科目の内容の多くの部分は社会調査に関するものとなる。本科目を学習することにより、社会調査の重要性、世の中に氾濫する社会調査の真実や問題点、社会福祉領域における社会調査の活用法について把握することが可能となる。

学修内容

1	社会調査・社会福祉調査の意義、歴史について、教科書 pp.2-14 および参考文献を読んで理解する。
2	統計法の概要、統計法改正のポイントについて、教科書 pp.15-19 および参考文献を読んで理解する。
3	社会調査・社会福祉調査における倫理と個人情報保護の基本的な考え方について、教科書 pp.22-26 および参考文献を読んで理解する。
4	ソーシャルワークにおける理論と調査の関係、社会調査・社会福祉調査のプロセス、目的と対象、データ収集と分析の概略について、教科書 pp.28-53 および参考文献を読んで理解する。
5	量的調査の概要、量的調査での因果関係の推論、ソーシャルワーク実践に対する量的調査の貢献と限界について、教科書 pp.56-62 および参考文献を読んで理解する。
6	量的調査の種類と方法（全数調査と標本調査の特徴、標本抽出と標本の代表性、横断調査と縦断調査の種類）について、教科書 pp.63-70 および参考文献を読んで理解する。
7	質問紙の作成方法と留意点、測定の水準、コーディングについて、教科書 pp.72-86 および参考文献を読んで理解する。
8	自記式と他記式の違い、質問紙の配布（配付）と回収の方法およびそれぞれの方法の特徴（長所と短所）について、教科書 pp.87-93 および参考文献を読んで理解する。
9	量的調査の集計と分析（収集したデータの整理、データの概要を把握する方法、統計的推論の方法）について、教科書 pp.94-128 および参考文献を読んで理解する。
10	質的調査の概要と方法（質的調査の特徴とその目的、質的調査のメリットとデメリット、質的調査の諸方法）について、教科書 pp.130-133 および参考文献を読んで理解する。
11	質的調査のサンプリング（質的調査におけるサンプリングの特徴、サンプリングの手法、ソーシャルワーク・リサーチにおけるサンプリング戦略）について、教科書 pp.135-138 および参考文献を読んで理解する。
12	質的調査のデータ収集法（観察法の種類、面接法の種類、インタビューガイド、調査におけるコミュニケーションの技法）について、教科書 pp.139-153 および参考文献を読んで理解する。
13	質的調査における記録の方法と留意点（観察や面接の記録方法、実践の記録や会議資料等の活用、資料収集における ICT の活用、データ保管における留意事項）について、教科書 pp.155-165 および参考文献を読んで理解する。
14	質的調査のデータの分析方法（事例研究、ナラティヴアプローチ、エスノグラフィー、TEM、グラウンデッドセオリーアプローチ、アクション・リサーチ）について、教科書 pp.166-196 および参考文献を読んで理解する。
15	ソーシャルワークにおける評価の意義、評価対象、評価方法について、教科書 pp.200-229 および参考文献を読んで理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 社会調査および社会福祉調査の性格についてまとめた上で、量的調査（統計調査）と質的調査（事例調査）の相違について述べよ。

＜ポイント＞

社会調査、社会福祉調査それぞれの意義と目的をよく理解した上で、社会調査、社会福祉調査の基本的性格をまとめること。また、量的調査（統計調査）と質的調査（事例調査）それぞれの調査方法についてまとめ、両者の相違点について考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1． 社会調査における倫理と個人情報保護について

＜ポイント＞

社会調査における倫理については、一般社団法人社会調査協会の倫理規程の内容を押さえておくこと。個人情報保護については、教科書の記述が少ないので参考文献で補充しておくこと。

2． 全数調査と標本調査の特徴および標本抽出法について

＜ポイント＞

全数調査、標本調査それぞれの特徴を理解してまとめるとともに、様々な標本抽出法について整理して述べる。

3． 質問紙の作成方法と留意点について

＜ポイント＞

質問紙の表紙に記載すべき内容、質問文のワーディングにおける留意点をまとめる。

4． 質問紙の配布と回収の方法について

＜ポイント＞

自記式と他記式の違いを説明し、質問紙の配布と回収の様々な方法のそれぞれの特徴（長所と短所）についてまとめる。

5． 質的調査のデータ収集法について

＜ポイント＞

観察法、面接法のそれぞれの種類についてまとめる。面接法については、インタビューガイド、調査におけるコミュニケーションの技法についても述べる。

6． 質的調査における記録の方法と留意点について

＜ポイント＞

フィールドノーツ、インタビュー記録を中心的内容としてまとめる。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集
『最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座5　社会福祉調査の基礎』中央法規。

参考文献

橋本有理子編著『最新・はじめて学ぶ社会福祉5　社会福祉調査の基礎』ミネルヴァ書房。
宮本和彦他責任編集『社会福祉士シリーズ 5 社会調査の基礎 第4版』弘文堂。

科目コード	社会的養護Ⅰ／社会的養護（２単位）	登録年次	履修方法
6800/6460		２年	R
教員名	田中利則、中嶋一郎		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

社会的養護は、福祉施設において、意図的・継続的に展開されている日々の支援活動を通じて行われるものである。そこで、学生は、この科目において、社会的養護および児童養護に関する考え方や理念、児童養護の歴史、児童養護の制度など、基礎的な知識の学修を行う。また、学生が実際に福祉現場で支援活動を行う際に必要とされる基礎的な知識や技術を身につけるために、児童養護に関する事例を基にして、ケースワークやグループワークなどの方法によるクライエントに対する支援の方法や解決・緩和に関する技法について学ぶ。

学修内容

1	現代社会の環境や家庭の機能の変容 ＜家族のカプセル化や家族員のコミュニケーションの希薄化、近隣住民との交流の欠如、親戚関係の希薄化が進むなかで、女性の社会進出が促進され、家庭機能の重要項目である児童の養育や高齢者の介護、家事の外部委託化がなされるなかで、家庭の機能や役割が変化したり、家族員の人間関係がゆらいだり破綻したりする事態を迎えている＞
2	現代社会の現状と課題 ＜少子高齢化や地域格差、グローバリゼーション等が進展する中で、競争社会、経済格差、学歴格差、ニートの増加、結婚年齢の高齢化や結婚しない若者の増加、自殺者の増加、生活保護家庭の増加、生活環境の変化、労働環境の悪化、地域社会の崩壊等、大人や子どもの生活や未来に多様な影響を与えかねない状況が散見されている＞
3	現代社会における児童及び母子・父子家庭が抱える問題 ＜児童の養育機能や教育機能の低下、ひとり親家庭の増加、貧困家庭等の増加、児童の不登校や非行、ひきこもり、児童虐待の増加、DV の増加、、離婚の増加（母子家庭・・父子家庭の増加）等の問題が生じ、福祉的支援の必要性が高まってきている＞
4	現代社会における社会的養護の意義 ＜家族関係や親戚関係、近隣住民同士の交流の減少、友人・知人の関係等が希薄化してゆく中で、これらに代わる公的・私的な福祉サービス、あるいは福祉ネットワークの構築が必要となりつつある。加えて、福祉施設における養護ばかりではなく、家庭養護や家庭的養護の充実や新たな開発の必要性に迫られている＞
5	社会的養護の歴史的変遷と今日的課題 ＜社会的養護の充実のために、法制度やサービス自体は随時改善が実施されている。これらの状況の中で、国家財政の不安定さや経済状況、社会情勢、雇用や就労条件が不安定になることにより、家庭経済や家族員の人間関係はゆらぎ、そのために家庭や子どものニーズは多様化し、且つ増大しやすくなっている＞
6	社会的養護の制度と実施体系 ＜社会的養護の制度を推進する柱となっているのは児童福祉法及び児童福祉施設最低基準、総合障害者支援法等である。これらの法律に規定されている実施体系は、主に福祉施設や家庭養護、家庭的養護に分けられている＞
7	児童の権利擁護 ＜児童は生まれながらにして、健全な保護者(親権者)の庇護の下で大人と同様に人間として有する多様な権利を有している。その中で、彼等の権利を擁護するための専門機関（児童相談所や保健所・警察の生活安全課）や専門職（社会福祉士や精神保健福祉士・保育士等）の充実が必要とされている＞
8	施設養護の理念と施設養護の原理と援助 ＜施設養護は要保護児童や保護者（親）を入所させて養育・支援し、且つ彼等に必要な支援を行い、児童の最善利益や安全・安心の保障、ニーズを的確に把握する等の原理を背景とした、養育や教育、治療、家族の再統合等を実現するための取り組み、社会生活に適応するために就労支援やアフターケア等を行っている＞
9	社会的養護の領域（家庭養護） ＜一般家庭と同等の機能や役割を果たすために、家庭養護として要保護児童を受け入れ、家庭の代替としての里親やファミリーホーム等の機能を活用し、当該児童の心身の成長や感情を豊かにする試み、学習指導、進路指導、相談援助、アフターケア等を実施している＞
10	社会的養護の領域（施設養護） ＜施設養護には 24 時間 365 日養護を実施する入所施設（生活施設）や一般家庭をイメージしたグループホーム、自宅から通いデイケアを施す通所施設等がある。その中で、近年は施設規模の縮小化や通所施設の開設に力が注がれている＞
11	施設養護の実態 ＜施設養護は、施設形態の小規模化を促進し、可能な限り家庭の代替機能を果たすことを目的とした活動を推進している。また、それぞれの利用者のニーズに相応する施設やサービス、専門性の高いスタッフ、設備、建物が整えられるように努めている。加えて、近年は地域住民の相談援助や退所者のアフターケアの機能も拡充している＞
12	社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術① ＜社会的養護を実践するスタッフには、豊かな人間性や多様な利用者とかかわる力、適切な倫理感の獲得が期待されているが、同時に、社会常識やエチケット、マナー及び隣接分野に関する知識や技術に関しても関心を持つ必要がある＞

13	社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術② ＜社会的養護の実践者は、利用者に対して日常的に行うケアワークや保護者や家族も含めて行うソーシャルワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ファミリーソーシャルワーク等を用いて支援する＞
14	施設運営管理及び経営 ＜施設は利用者に必要な福祉サービスを組織体として適切、且つ効果的、あるいは健全に提供するための適切な運営管理が必要不可欠であるとともに、リスク管理や福祉サービスの向上を目指した内容や質の管理等が求められている＞
15	理想とする社会的養護と支援の内容や質 ＜近年、ノーマライゼーション理念の浸透が図られる中で、施設機能のネットワーク化が促進されるとともに、施設環境や設備、雰囲気、人間関係、近隣住民との交流、社会への参加、利用者の多様な進路の選択と支援、アフターケア等に力が注がれている＞

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　現代社会の子どもや家庭の状況と社会的養護の必要性及び基本的な原理について述べよ。

＜ポイント＞

現代社会は、都市化・産業化・核家族化が進展するなかで、家庭の位置づけが不安定となり、家族員の関係も希薄化してきている。これらの状況のなかで、長期不況が継続し、児童の環境が劣化してきている。その中で、社会的養護の必要性が高まり、支援の内容や質の向上や環境の整備が求められている。また、充実した支援を児童に提供する際には、児童養護の基本原理を踏まえながら、対象児童に相応することが求められる。さらに、支援職員は日常生活のなかで、児童の何に着目し、どのような基本原理に基づいて、如何なる支援を実施しているのか、加えて、課題となるものは何なのかなどについて注目して考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．児童養護の意義と基本原理について

＜ポイント＞

社会の状況・家庭のゆらぎ・児童の発達成長の歪曲化・社会的養護の必要性・児童養護の意義と必要性

2．社会的養護の制度と特質について

＜ポイント＞

我が国における制度上の分類・施設系養護の概要・家庭的養護の概要

3．社会的養護の日常生活及び自立支援について

＜ポイント＞

我が国における社会的養護の方向性・小規模化・自立支援の理念・自立支援の具体的な目的

4．社会的養護における親子・地域との関係調整について

＜ポイント＞

社会的養護における子どもと家庭の調整方法(面会・通信連絡・外出・帰省)

5．社会的養護に関わる職員の資質について

＜ポイント＞

ヒューマニズム・専門的知識・専門技術・ネットワークの創出及び充実

6．子どもの支援におけるチームワークについて

＜ポイント＞

社会的養護の施設における専門職間のチームワーク・生活場面における支援(個別支援・集団支援)

教科書

小野澤昇、他『子どもの生活を支える社会的養護』ミネルヴァ書房。

参考文献

山縣文治、他『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。
新社会福祉士養成講座編集員会『新・社会福祉士養成講座15　児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度』中央法規。
片山義弘『相談援助』北大路書房。

科目コード	社会的養護Ⅱ／社会的養護内容（２単位）	登録年次	履修方法
6810/6550		２年	ＳＲ
教員名	田中利則、中嶋一郎		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

学生は、居住型児童福祉施設の創設の意図や目的について、座学や演習を通して学ぶ。また、同時に施設を利用する子どもへの理解を深めるとともに、福祉施設が内在する機能や役割について学ぶ。さらに、児童の心身の成長や発達を保障し支援するために必要な知識や技術、環境について学修し、適切な児童観を育て、かつ施設養護の有効性について学ぶ。加えて、地域社会と居住型児童福祉施設の関係性についても学修する。

学修内容

1	社会的養護内容とは何か ＜社会的養護内容とは、家庭の代替として、児童の最善の利益を保護・増進するために、要保護児童を対象として社会の公的な責任で保護養育し、児童が心身共に健康に育つように保障するための実践分野のことである＞
2	社会的養護内容の基本的視点 ＜社会的養護内容の基本的な視点として重要視する必要があるのは、権利擁護のための取り組みや施設利用者からの苦情解決の取り組み、利用者の課題の解決・緩和、支援者としての倫理・責務等である＞
3	社会的養護内容を進める際の基本的方向性 ＜社会的養護内容を進める際の基本的方向性としては、家庭養護・家庭的養護の推進、専門的ケアの充実、自立支援の充実、家族支援・地域支援の充実、相談支援・アフターケア、その他による予防ケアの充実である＞
4	施設養護の現状と課題① ＜施設養護の現状と課題については、施設内における暴力や虐待が近年一層問題視されていることを背景として、あらためて利用者の人権擁護に向けたスーパービジョンの活用等の取り組みは欠かせない＞
5	施設養護の現状と課題② ＜施設養護の今一つの現状と課題は、施設退所後のリービングケア（生活力や社会力の強化）や進路の拡充、相談援助あるいはアフターケアの充実は必要不可欠である＞
6	施設における支援の実際① ＜利用者の状況やニーズの分析、支援計画作成、支援の実際、支援の評価等の流れを理解することは重要＞
7	施設における支援の実際② ＜施設の小規模化や職員の労働状況の内容および質の変化が進んだ中での利用者のアメニティの推進やインターンシップ体制の確立、就労支援と自立等の理解は重要な事柄＞
8	児童福祉施設・機関における支援の実際① ＜児童施設の支援の実際の中で必要とされるのは、利用者に寄り添う支援や成長・発達を促進するための支援、退所や自宅へ向けての準備、社会活動の参加に向けての支援を重要視するとともに、関係機関とのつながりを強めておく必要がある＞
9	児童福祉施設・機関における支援の実際② ＜施設の支援の実際では、保護者や家族とのつながりを再構築したり、ADL や IADL の獲得は当然のこと、日常の生活日課や行事、利用者個々に応じた個別指導にも力を注いだりしていく必要性がある＞
10	社会的養護内容の実践を行うための専門的技術 ＜適切な社会的養護内容の実践を行うために、スタッフの技術や知識、専門性、一般常識、福祉観、価値観、隣接分野に関する知識を日常的に身につけたり磨いたりすることは必要不可欠である＞
11	社会的養護内容の実践を行うための専門的技術の応用 ＜社会的養護内容の充実（利用者の QOL の向上）を図るためには、施設の住環境の整備に関する考え方や建物の設計・施工・設備面から考えた整備に関する工夫の方向性、ケアや支援・レクリエーション等に関する工夫、それぞれの利用者のニーズに合わせた住環境や設備、嗜好品の提供等に関する工夫は必要不可欠である＞
12	利用者支援とリスク管理 ＜施設において利用者の権利擁護に力を注ぐための一環として、支援する際に彼等の心身を傷つけたり、人権を侵害する危険性は多分に生じやすかったりしやすいので、これらの事態を回避するためにリスクの管理は重要である＞
13	社会的養護内容を受け持つ施設の役割と運営管理のあり方 ＜社会的養護内容を受け持つ施設の役割は、基本的には、家庭の代替を務め、要保護児童の現実的な問題や将来に向けての課題を克服するために継続的な支援を実施する。その中で重要視したいのは、組織の健全化とスタッフ間のコミュニケーションの適切な管理である＞

14	施設実習に向けて必要とする知識 ＜施設実習に向けて必要とする知識は、当該施設に関する情報や一般社会常識、施設で日常的に必要とされる知識、そして利用者・保護者に関する情報、利用に至る家庭背景や障害・難病等に関する情報、データ等である＞
15	今後の展望と課題 ＜国家や社会が安定していることは、社会的養護内容の充実を図る上においては重要な課題である。その中で、現在、社会福祉の制度の脆弱化や職員不足、職員の質の低下が問題視されている。加えて、一般社会においては、利用者の権利擁護の問題が一層着目されるようになってきている。これらを背景として、施設養護内容の適正化や維持・向上は欠かせないものとなってきている＞

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　児童福祉施設を1つ選び，その目的及び利用者の状況，支援の実際と課題について述べよ。

＜ポイント＞

それぞれの児童福祉施設について、どのような対象者が施設を利用者し、如何なる支援が提供されていて、当該施設が抱えている問題や課題はどのようなものかについて着目して説明すること。

科目終了試験学修のポイント

1．養護実践の基本的な考え方について

＜ポイント＞

社会的養護・児童施設の必要性と基本的な理念・社会的養護の実施体制

2．児童福祉施設の種類とその目的について

＜ポイント＞

養護系施設(家庭養護・家庭的養護・施設養護)・障害系施設（(医療系施設・福祉系施設)・情緒行動系施設

3．児童福祉施設における利用者の入所理由について

＜ポイント＞

家庭の破綻・家庭の代替・養育困難・虐待・非行・障害

4．児童福祉施設における職員の支援内容について

＜ポイント＞

支援・相談支援・集団支援・家庭支援・地域支援・就労支援・アフターケア

5．児童福祉施設と地域社会について

＜ポイント＞

ノーマライゼーション・エンパワメント・ストレングス・コミュニティ・ソーシャルワーク

6．児童福祉施設と社会資源との連携について

＜ポイント＞

児童委員（民生委員）・児童相談所・福祉事務所・保健所・社会福祉協議会・ハローワーク・警察（生活安全課）・大学病院

教科書

小野澤昇、田中利則、大塚良一『子どもの生活を支える社会的養護内容』ミネルヴァ書房。

参考文献

小木曽宏、宮本秀樹、鈴木崇之『よくわかる社会的養護』ミネルヴァ書房。

「子どもが語る施設の暮らし」編集委員会『子どもが語る施設の暮らし』明石書店。

※心理学科　2009 年度以降入学生用。2008 年度入学生は、科目コード 2430「社会病理」（4 単位）を履修してください。

科目コード	社会病理（２単位）	登録年次	履修方法
2431		３年	R
教員名	入江正勝、高木俊彦、若狭清紀		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理※		

科目概要

社会病理現象の分析を通じて、社会と私たちの関わり方を科学的に分析する視点を養うことを目的とする。1）社会病理とは何か、2）社会病理の発生・形成過程、3）社会生活に及ぼす影響、これらを非行・犯罪、自殺、アルコール依存、児童虐待などの事例を用いながら学修する。

学修内容

1	成熟社会の概念と病理認識の枠組みについて 教科書 pp.1-10 を読み、成熟社会の概念と、機能障害および逸脱という病理認識の枠組みについて理解する。 成熟社会とはどのような社会なのか、機能不全、逆機能、逸脱とはそれぞれどのようなことなのかということについて確認する。
2	成熟社会が抱える病理現象について 教科書 pp.12-27 を読み、成熟化の概念、成熟化の諸傾向と日本社会の病理状況について理解する。 成熟化の概念がどのように規定され、そこにどのような傾向が含意されているかということについて確認する。さらに、成熟社会の機能不全、成熟化の未成熟、成熟化の逆機能のそれぞれの観点から、日本社会の病理状況について概観する。
3	高齢化に伴う社会病理について 教科書 pp.28-41 を読み、高齢化の概念、高齢社会の病理、高齢者観の病理について理解する。 高齢化と高齢社会の概念、高齢社会の特徴、高齢化の推移について把握する。高齢社会の病理については高齢者・家族・社会のそれぞれの抱える病理について、高齢者観の病理については「老い」観と高齢者の性に関する認識の問題について把握する。
4	高学歴化社会について 教科書 pp.43-64 を読み、学歴社会の概念、高学歴化の推移、高学歴化の社会病理について理解する。 高学歴化社会と学歴社会の違いを確認し、高学歴化の推移については大学の急成長と進学形態の変化について把握する。高学歴化の社会病理については、高学歴化の未成熟・機能不全・逆機能のそれぞれに該当する現象について把握する。
5	国際化の社会病理について 教科書 pp.65-89 を読み、国際化に伴う外国人との共生の阻害について理解する。 日本の国際化の進展を第一次産業・第二次産業・第三次産業それぞれとの関わりから把握し、農村での外国人女性との共生、都市部で働く外国人との共生それぞれの問題点について考える。
6	「働きすぎ社会」の病理現象について 教科書 pp.92-108 を読み、働きすぎの実態と病理、働きすぎの形成要因と変革の契機について理解する。 年間労働時間の推移とその背景、所定外労働の恒常化、長時間就業者の増加と「働きすぎ」意識の拡大、「働きすぎ」がもたらす病理現象と生活障害、「サービス残業」の社会問題化、長時間労働を生み出す意識と構造、「日本的経営」と「過剰適応」のメカニズムといった論点について把握し、働きすぎ社会の変革の方向性について考える。
7	スポーツ参加の社会病理について 教科書 pp.110-134 を読み、スポーツ参加の問題点と、その問題を発生させる社会的な病理性について理解する。 スポーツの社会的機能について確認し、スポーツの文化としての未成熟さ、勝利至上主義、スポーツ参加の強制化という問題について考える。
8	高齢者の社会的扶養・介護と福祉・介護マンパワー問題について 教科書 pp.136-155 を読み、高齢者の社会的扶養・介護を担う福祉・介護マンパワーの量的確保の問題について理解する。 人口構成の高齢化と高齢者の社会的扶養・介護、労働力需給と福祉・介護マンパワーの必要量の試算、福祉・介護マンパワーの確保と労働条件、福祉・介護マンパワーの確保と公共政策の諸問題といった論点について把握する。
9	学校化社会について 教科書 pp.157-185 を読み、教育・子ども・社会の学校化および学校化社会における病理現象について理解する。 教育の学校化、子どもの学校化、社会の学校化のそれぞれの意味、およびそれらの社会的連関について把握し、学校化社会のなかで生じている病理現象としてどのようなものがあるかということについて学ぶ。
10	資格化の進展に伴う病理現象について 教科書pp.187-206を読み、教育資格と職業資格の結びつき、資格化の歴史と現状、その中での病理現象について理解する。 資格化の病理としては、学歴社会の病理、職業資格取得それ自体が社会的成功の制度的手段になっていること、国家による管理・統制、能力主義化、組織・企業による管理・統制、資格による権威化という問題について把握する。
11	国際化と環境問題について 教科書 pp.208-237 を読み、環境破壊の国際問題化、地球環境問題解決に向けての国際的対応について理解する。 環境破壊が国際問題になった理由、地球環境破壊の現状について確認し、環境問題の解決困難な要因は何かを把握した上で、地球環境問題への国際的な対応について考える。

12	非行・犯罪について 参考文献を調べて、非行・犯罪に関する諸理論と非行・犯罪の現状について理解する。 非行・犯罪に関する理論としては、文化学習理論、社会緊張理論、機会構造論、ラベリング理論について調べる。
13	自殺について 参考文献を調べて、自殺問題の現状と対策について理解する。 わが国の自殺率の推移、性別・年代別の自殺要因、自殺対策として行われている主要な事柄について調べ、自殺対策のあるべき姿について考える。
14	アルコール依存について 参考文献を調べて、アルコール依存のメカニズムとそれが引き起こす諸問題について理解する。 アルコール依存を引き起こす個人的要因、社会・文化的要因、およびアルコール依存によって起きる疾患、事故、家族解体などの問題について把握する。
15	児童虐待について 参考文献を調べて、児童虐待の要因と現状、対策について理解する。 児童虐待の多様な要因について調べて整理し、統計的資料や調査報告書によって現状を把握する。さらに児童虐待への対応策として実際になされていることを調べ、その問題点について考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 「高学歴化社会」について述べよ。

＜ポイント＞

社会が高学歴化するにつれて、どのような社会病理現象が現われているのか、また、その社会的対応の課題は何かについて事例を挙げながら論じること。

科目終了試験学修のポイント

１．「成熟社会」が抱える病理現象について

＜ポイント＞

「成熟社会」の概念を明らかにした上で、その中で起きている病理現象について概観的にまとめる。

２．「学校化社会」について

＜ポイント＞

「学校化社会」とはどのような社会なのかを明らかにし、学校化社会における病理現象についてまとめる。

３．「働きすぎ社会」の病理現象について

＜ポイント＞

「働きすぎ社会」の実態と形成要因について述べ、「働きすぎ社会」における病理現象についてまとめる。

４．「資格化の進展」に伴う病理現象について

＜ポイント＞

資格化の現状と病理について、それぞれ複数の項目を挙げて論じる。

５．「高齢化」に伴う社会病理について

＜ポイント＞

「高齢化」の概念、高齢化の推移について述べ、高齢化の進行とともに生じている病理現象についてまとめる。

６．国際化と環境問題について

＜ポイント＞

環境破壊の国際問題化、地球環境問題の現状と解決に向けての国際的対応についてまとめる。

教科書

米川茂信、他『成熟社会の病理学』学文社。

参考文献

米川茂信『現代社会病理学－社会問題への社会学的アプローチー』学文社。

※心理学科　2008 年度入学生用。

2009 年度以降入学生は、科目コード 2431「社会病理」（２単位）を履修してください。

科目コード	社会病理（４単位）	登録年次	履修方法
2430		３年	R
教員名	入江正勝、高木俊彦、若狭清紀		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理※		

科目概要

社会病理現象の分析を通じて、社会と私たちの関わり方を科学的に分析する視点を養うことを目的とする。１）社会病理とは何か、２）社会病理の発生・形成過程、３）社会生活に及ぼす影響、これらを非行・犯罪、自殺、アルコール依存、児童虐待などの事例を用いながら学修する。

学修内容

1	成熟社会の概念と病理認識の枠組みについて 教科書 pp.1-10 を読み、成熟社会の概念と、機能障害および逸脱という病理認識の枠組みについて理解する。 成熟社会とはどのような社会なのか、機能不全、逆機能、逸脱とはそれぞれどのようなことなのかということについて確認する。
2	成熟社会が抱える病理現象について 教科書 pp.12-27 を読み、成熟化の概念、成熟化の諸傾向と日本社会の病理状況について理解する。 成熟化の概念がどのように規定され、そこにどのような傾向が含意されているかということについて確認する。さらに、成熟社会の機能不全、成熟化の未成熟、成熟化の逆機能のそれぞれの観点から、日本社会の病理状況について概観する。
3	高齢化に伴う社会病理について 教科書 pp.28-41 を読み、高齢化の概念、高齢社会の病理、高齢者観の病理について理解する。 高齢化と高齢社会の概念、高齢社会の特徴、高齢化の推移について把握する。高齢社会の病理については高齢者・家族・社会のそれぞれの抱える病理について、高齢者観の病理については「老い」観と高齢者の性に関する認識の問題について把握する。
4	高学歴化社会について 教科書 pp.43-64 を読み、学歴社会の概念、高学歴化の推移、高学歴化の社会病理について理解する。 高学歴化社会と学歴社会の違いを確認し、高学歴化の推移については大学の急成長と進学形態の変化について把握する。高学歴化の社会病理については、高学歴化の未成熟・機能不全・逆機能のそれぞれに該当する現象について把握する。
5	国際化の社会病理について 教科書 pp.65-89 を読み、国際化に伴う外国人との共生の阻害について理解する。 日本の国際化の進展を第一次産業・第二次産業・第三次産業それぞれとの関わりから把握し、農村での外国人女性との共生、都市部で働く外国人との共生それぞれの問題点について考える。
6	「働きすぎ社会」の病理現象について 教科書 pp.92-108 を読み、働きすぎの実態と病理、働きすぎの形成要因と変革の契機について理解する。 年間労働時間の推移とその背景、所定外労働の恒常化、長時間就業者の増加と「働きすぎ」意識の拡大、「働きすぎ」がもたらす病理現象と生活障害、「サービス残業」の社会問題化、長時間労働を生み出す意識と構造、「日本的経営」と「過剰適応」のメカニズムといった論点について把握し、働きすぎ社会の変革の方向性について考える。
7	スポーツ参加の社会病理について 教科書 pp.110-134 を読み、スポーツ参加の問題点と、その問題を発生させる社会的な病理性について理解する。 スポーツの社会的機能について確認し、スポーツの文化としての未成熟さ、勝利至上主義、スポーツ参加の強制化という問題について考える。
8	高齢者の社会的扶養・介護と福祉・介護マンパワー問題について 教科書 pp.136-155 を読み、高齢者の社会的扶養・介護を担う福祉・介護マンパワーの量的確保の問題について理解する。 人口構成の高齢化と高齢者の社会的扶養・介護、労働力需給と福祉・介護マンパワーの必要量の試算、福祉・介護マンパワーの確保と労働条件、福祉・介護マンパワーの確保と公共政策の諸問題といった論点について把握する。
9	学校化社会について 教科書 pp.157-185 を読み、教育・子ども・社会の学校化および学校化社会における病理現象について理解する。 教育の学校化、子どもの学校化、社会の学校化のそれぞれの意味、およびそれらの社会的連関について把握し、学校化社会のなかで生じている病理現象としてどのようなものがあるかということについて学ぶ。
10	資格化の進展に伴う病理現象について 教科書 pp.187-206 を読み、教育資格と職業資格の結び付き、資格化の歴史と現状、その中での病理現象について理解する。 資格化の病理としては、学歴社会の病理、職業資格取得それ自体が社会的成功の制度的手段になっていること、国家による管理・統制、能力主義化、組織・企業による管理・統制、資格による権威化という問題について把握する。
11	国際化と環境問題について 教科書 pp.208-237 を読み、環境破壊の国際問題化、地球環境問題解決に向けての国際的対応について理解する。 環境破壊が国際問題になった理由、地球環境破壊の現状について確認し、環境問題の解決困難な要因は何かを把握した上で、地球環境問題への国際的な対応について考える。

12	非行・犯罪について 参考文献を調べて、非行・犯罪に関する諸理論と非行・犯罪の現状について理解する。 非行・犯罪に関する理論としては、文化学習理論、社会緊張理論、機会構造論、ラベリング理論について調べる。
13	自殺について 参考文献を調べて、自殺問題の現状と対策について理解する。 わが国の自殺率の推移、性別・年代別の自殺要因、自殺対策として行われている主要な事柄について調べ、自殺対策のあるべき姿について考える。
14	アルコール依存について 参考文献を調べて、アルコール依存のメカニズムとそれが引き起こす諸問題について理解する。 アルコール依存を引き起こす個人的要因、社会・文化的要因、およびアルコール依存によって起きる疾患、事故、家族解体などの問題について把握する。
15	児童虐待について 参考文献を調べて、児童虐待の要因と現状、対策について理解する。 児童虐待の多様な要因について調べて整理し、統計的資料や調査報告書によって現状を把握する。さらに児童虐待への対応策として実際になされていることを調べ、その問題点について考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 「高学歴化社会」について述べよ。
＜ポイント＞
社会が高学歴化するにつれて、どのような社会病理現象が現われているのか、また、その社会的対応の課題は何かについて事例を挙げながら論じること。

【設題２】 「高齢化」に伴う社会病理について述べよ。
＜ポイント＞
日本は、他国に例を見ない速さで、高齢化が進んできている。高齢化社会は高齢者自身に対して、また高齢者を抱える家族、地域社会に対しても様々な病理現象を出現させている。レポートではこれらの病理現象について概観すること。

科目終了試験学修のポイント

１．「成熟社会」が抱える病理現象について
＜ポイント＞
「成熟社会」の概念を明らかにした上で、その中で起きている病理現象について概観的にまとめる。

２．「学校化社会」について
＜ポイント＞
「学校化社会」とはどのような社会なのかを明らかにし、学校化社会における病理現象についてまとめる。

３．「働きすぎ社会」の病理現象について
＜ポイント＞
「働きすぎ社会」の実態と形成要因について述べ、「働きすぎ社会」における病理現象についてまとめる。

４．「資格化の進展」に伴う病理現象について
＜ポイント＞
資格化の現状と病理について、それぞれ複数の項目を挙げて論じる。

５．国際化と環境問題について
＜ポイント＞
環境破壊の国際問題化、地球環境問題の現状と解決に向けての国際的対応についてまとめる。

６．高齢者の社会的扶養・介護と福祉・介護マンパワー問題について
＜ポイント＞
高齢化、高齢者の扶養・介護の社会化について述べた上で、福祉・介護マンパワーの労働条件の問題を中心にまとめる。

教科書

米川茂信、他『成熟社会の病理学』学文社。

参考文献

米川茂信『現代社会病理学ー社会問題への社会学的アプローチー』学文社。

科目コード	社会福祉（２単位）	登録年次	履修方法
1610		２年	R
教員名	小笠原眞紀、奥野治子、北爪克洋、黒木豊域、大門俊樹、 藤堂千浪、水島正浩、文光明、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

基礎的な社会福祉について体系的に学修する。具体的には、わが国や諸外国の社会福祉の歴史や歩み、現代社会において社会福祉が果たしている役割、社会福祉の法体系と運営実施体制、社会福祉の行財政と費用負担、民間社会福祉の組織と活動、少子高齢社会となっているわが国の社会福祉の課題と展望などを学修する。

学修内容

1	社会福祉の概要と枠組み 社会福祉は人間の生老病死とその課題を取り扱い、負担の軽減や減少を図る。
2	日本における社会福祉の歩み（1）明治・大正時代の社会事業について 明治・大正時代には、国や地方自治体の社会福祉行政については殆んどみるべきものがなく、民間の人道主義者、博愛主義者の活動が主であった。
3	日本における社会福祉の歩み（2）昭和年代の社会福祉について 大戦前には厚生事業と呼ばれ、健児健兵政策が中心であったが、大戦後には占領国軍総司令部（ＧＨＱ）によって方向づけられた。
4	日本における社会福祉の歩み（3）平成年代の社会福祉について 社会福祉基礎構造改革がなされ、介護保険が実施され、少子高齢化対策が大きな課題となった。
5	欧米における社会福祉の歩み　イギリスを中心とした社会福祉の歩みについて 17 世紀初頭には救貧法が制定されたが、19 世紀になると民間の慈善組織協会が大きな役割を果たしていくようになる。
6	社会福祉の援助対象 社会福祉の援助対象は、貧困、疾病などの現象であったが、次第にそれらを担う人びとに焦点化されていった。
7	社会福祉におけるニーズの捉え方 ニーズは、必要性、需要、欲求、要求、要件などと訳されることが多いが、それらを担っている人びとへのサービスと関係づけられる。
8	社会福祉の法制度 いわゆる憲法第 25 条の生存権、第 13 条の幸福追求権を基盤として、社会福祉六法及びその関連法から展開されていく。
9	社会福祉の行政と財政　社会福祉行財政について 社会福祉行財政は、国を主導者としていた時代から、近年では法定受託事務などの基礎的自治体（市町村）へと分権化された。
10	社会福祉と民間福祉活動 社会福祉法、特定非営利活動法人（ＮＰＯ）、福祉事業、ボランティアなどのさまざまな民間福祉活動がある。
11	社会福祉援助技術（相談援助）の意味 相談援助には直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術などの各種の技術体系がある。
12	社会福祉機関の組織と運営 福祉事務所、児童相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所、婦人相談所などの専門機関がある。
13	社会福祉の国際動向 社会福祉に関する国際協力が行われているが、なかなか国連だけでは進まず、国際的ＮＰＯ、国際的ＮＧＯの活動もある。
14	21 世紀社会福祉の展望 21 世紀には、多くの国々が少子高齢化の問題をかかえており、それらへの対処が大きな課題である。
15	これまでの学修を振り返り、これからの社会福祉政策と相談援助活動のあり方をまとめる。 社会福祉のハード面である社会福祉政策と、ソフト面である相談援助活動の組み合わせが重要である。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　わが国の第2次世界大戦後の社会福祉の歩みについて述べよ。

＜ポイント＞

わが国の社会福祉の歩みや歴史は、非常に長いものがあるが、第二次世界大戦以後においても大きく変化してきている。21 世紀においても色々な課題を抱えているが、それらを時代背景とともにしっかりと把握すること。

科目終了試験学修のポイント

1．措置制度から契約制度への変遷について

＜ポイント＞

契約制度になった時点で何が変わったのか、その理由も含めて述べよ。

2．わが国における少子高齢化の現状と課題について

＜ポイント＞

日本における少子高齢化による問題点と今後の課題について把握する。

3．地域福祉について

＜ポイント＞

在宅福祉サービスの概要だけではなく、地域社会において課題となっていることをおさえておく。

4．現代の貧困の問題について

＜ポイント＞

ひとり親、子ども、高齢者などの貧困における背景を検討すること。

5．諸外国の社会福祉の歩みや歴史について

＜ポイント＞

イギリス、アメリカ、スウェーデンにおける福祉制度の特徴について把握しておく。

6．相談援助（ソーシャルワーク）について

＜ポイント＞

相談援助の定義とそのプロセスについて把握しておく。

教科書

小田兼三、杉本敏夫『社会福祉概論：社会福祉の原理と政策』勁草書房。

参考文献

ミネルヴァ書房編集部『社会福祉小六法（最新版）』ミネルヴァ書房。

科目コード	社会福祉運営管理論（2 単位）	登録年次	履修方法
2501		4年	R
教員名	小笠原眞紀、中野隆之、姫野建二		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

少子高齢社会の到来により、福祉サービスの新たなニーズが増加し、わが国の社会福祉制度を根幹から改革しなければならない時代が到来した。規制緩和によるさまざまな主体の参入に連携と競合が生まれたことにより、経営の必要性が増大した。

このことから、福祉サービスにおける組織と経営管理について、社会福祉法人や特定非営利活動法人などの組織や団体の活動内容、経営の基礎的な概念・戦略などを学修する。また、福祉サービスの視点からの管理運営（人事・労務・財務・情報管理等）の方法を学修する。

学修内容	
1	福祉サービスにおける組織と経営（テキスト第１章第１節） 福祉サービスとは、福祉サービス事業主体とサービス提供組織、福祉サービスの経営管理について
2	福祉サービスにおける組織と経営（テキスト第１章第２節） 社会市場における経営、社会市場における経営環境、福祉サービス提供主体が求められている経営の倫理について
3	福祉サービスにかかわる組織や団体（テキスト第２章第１節～第２節） 法人とは何か、法人の基本形態と統治の機関、社会福祉法人の基本的性格、社会福祉法人の設立と機関について
4	福祉サービスにかかわる組織や団体（テキスト第２章第３節～第４節） 特定非営利活動法人の概要及び管理運営の基本、医療法人、営利法人、公益法人等について
5	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（テキスト第３章第１節～第２節） 戦略の基礎概念、経営戦略の策定プロセス、事業計画の策定と実行・評価、事業計画策定のヒントについて
6	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（テキスト第３章第３節～第４節） 組織と福祉サービス、組織構造と組織原則、組織形態、及び管理運営の基礎理論について
7	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（テキスト第３章第５節～第６節） 集団の力学に関する基礎理論、リーダーシップに関する基礎理論について
8	福祉サービスの管理運営の方法①　サービス管理（テキスト第４章第１節～第２節） サービスマネジメント、サービスの質の評価について
9	福祉サービスの管理運営の方法①　サービス管理（テキスト第４章第３節～第４節） 苦情対応とリスクマネジメント、サービス提供のあり方の方向性について
10	福祉サービスの管理運営の方法②　人事管理と労務管理（テキスト第５章第１節） 福祉サービスにおける人事・労務管理、人材確保と採用、配置と異動、人材の評価、労務管理・労使関係管理について
11	福祉サービスの管理運営の方法②　人事管理と労務管理（テキスト第５章第２節） 人材育成の意義と必要性、経営管理と人材育成について
12	福祉サービスの管理運営の方法③　会計管理と財務管理（テキスト第６章） 社会福祉法人の経営と財務管理、社会福祉法人における資金の流れ、社会福祉法人の財務管理の目的について
13	福祉サービスの管理運営の方法③　会計管理と財務管理（テキスト第６章） 社会福祉法人における会計制度、社会福祉法人の財務諸表の見方・使い方について
14	福祉サービスの管理運営の方法④　情報管理と戦略的広報（テキスト第７章） 事業経営に必要な情報管理、事業経営における情報の活用について
15	福祉サービスの管理運営の方法④　情報管理と戦略的広報（テキスト第７章） 経営における情報戦略、個人情報保護と情報開示、介護サービス情報の好評制度、福祉サービスの第三者評価制度について

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 福祉サービスにおける組織と経営について述べよ。

＜ポイント＞

福祉サービスとは何か、組織とは何か、経営とは何かの概念整理をすること。

民間企業も含めたさまざまな主体の参入と規制緩和が進むこととなったが、新たな時代における福祉サービスの組織とその新たな視点からの経営の必要性を考察する。

科目終了試験学修のポイント

1．福祉サービスに関わる組織と団体について

＜ポイント＞

福祉サービスとは何か、法人とは何か、また社会福祉法人、特定非営利活動法人その他の組織や団体について説明すること。

2．福祉サービスの組織と経営の基本理論について

＜ポイント＞

組織の経営戦略の策定プロセスや事業計画の策定および集団力学・リーダーシップに関する基礎理論について説明すること。

3．福祉分野におけるサービスマネジメントについて

＜ポイント＞

サービスとは、有形製品（モノ）と異なるサービスの特性、および福祉分野におけるサービスマネジメントの特徴的な課題について説明すること。

4．福祉サービスにおける苦情対応とリスクマネジメントについて

＜ポイント＞

福祉サービスにおける苦情の対応およびリスクマネジメントの考え方やその方法について説明すること。

5．福祉サービスにおける人材の評価について

＜ポイント＞

人事考課制度、目標管理制度、人事評価の課題等について考察すること。

6．福祉サービスにおける人材の育成について

＜ポイント＞

人材育成の意義と必要性や人材育成の推進方法について説明すること。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座11　福祉サービスの組織と経営』中央法規。

参考文献

宇山勝儀『社会福祉施設経営論』光生館。

平山尚、武田丈『人間行動と社会環境』ミネルヴァ書房。

※学科により単位数が異なりますので注意してください。

科目コード	社会福祉援助技術演習（２単位）※	登録年次	履修方法
2060/2061		４年	ＳＲ
教員名	青木正、荻野基行、田中利則、千葉由美、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会福祉援助技術演習では、クライエントや家族員に関する相談支援の内容を、事例やロールプレイなどを通じて学修する。そのために、学生は福祉の現場で将来的に活動する際に、児童や高齢者、障害者などと適切にかかわり、彼らが有する問題や課題の解決・緩和をはかるための技術や知識を身につけるために、より実践的な演習を行う。

そのために、社会福祉のサービスの提供を必要としている児童や高齢者、障害者などに対して、専門的な支援を如何なる技法で行うのか、あるいはどのようなチームでかかわるかなどについて考察し、適切な支援を提供するために必要とされる面談技術やかかわる技術、知識、あるいは意識などについて習得する。

学修内容

1	社会福祉援助技術演習（相談援助演習）を学ぶ意図や意義。 社会福祉を実践する際に、なぜ社会福祉援助技術を学ぶ必要があるのだろうか。また、近年、保育ソーシャルワークという領域に注目が集まっている背景はどこにあるのだろうか、などについて把握する。
2	自己理解・自己覚知をはかる。 対人援助を行う際には、自己理解や自己覚知を実践する必要性があることを理解する。
3	多面的に他者理解を行う。 対人援助を行う際には「先入観」や「決めつける」ことはリスクが伴う。そのために、他者を理解する際には多面的な検討が要請される。
4	多彩な福祉的ニーズの理解を行う。 クライエントが抱えるニーズは多彩である。そのために、クライエントが問題を抱える際には福祉的ニーズが複雑な絡まっている可能性が高いことを予想して、多様なニーズを掌握する必要がある。
5	支援関係形成の必要性と有効性を知る。 支援関係形成は、クライエントを支援する際には、欠かせないことである。また、支援関係を形成することは、それだけでもクライエントにとっては、支援効果がある。
6	面接技術の重要性を理解する。 支援者はクライエントと面接する際には、面接技術を活用する必要がある。その意味で、面接技術の理解は欠かせない。
7	面接に関する留意点について理解し、体得する。 面接する際には、一定のルールやセオリーがある。これらのポイントを押さえておくことは必要不可欠である。
8	実際の面接の展開過程を理解し、自由自在に活用できるようにする。 面接には基本原則があり、展開過程を順守する必要がある。その意味で、展開過程を自由自在に活用することは不可欠である。
9	地域福祉の必要性と有効性、社会資源の種類や内容、ネットワークの重要性について知る。 近年の社会福祉に関する支援は、地域社会で行われることが多い。特に、社会資源を活用したり、チームアプローチやネットワークを使った支援が中心となっている。これらの状況について理解しておくことは大切なことである。
10	各種アプローチについて理解する。 アプローチはエンパワメントアプローチやストレングスアプローチ、心理療法アプローチなど数多くある。すべてのアプローチを活用することは困難なことではあるが、充実したアプローチを行うためには、可能な限りのアプローチを理解しておくことは欠かせない。
11	ケアマネジメント・支援計画を作成する必要性や実際について理解する。 クライエントの抱える状況に応じた福祉サービスを提供するためには、適切なマネジメントと目安としての支援計画を立てる必要がある。
12	グループワークの必要性や有効性・危険性及び実際について理解する。 グループワークは、メンバーを成長させる良い機会ともなれば、リーダーの力量を高める可能性を秘めている。また、一方では、グループワークを実践することによって、メンバーの負の連鎖に繋がってしまう危険性を隠しもっている。したがって、リーダーの力量やメンバーの構成はバランスの良いものでなくてはならない。
13	社会福祉援助技術演習（相談援助演習）とスーパービジョンの必要性 対人援助を実践する場合には、ひとり善がりの支援にならないように、第三者によるスーパービジョンの導入は欠かせない。
14	社会問題を基盤とした社会福祉援助演習（事例検討）① 事例の検討を行いながら対人援助の実際について学ぶ。
15	社会問題を基盤とした社会福祉援助演習（事例検討）② 事例の検討を行いながら対人援助の実際について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】一般社団法人日本社会福祉士養成協会監修　白澤政和・福山和女・石川久展編集『社会福祉士　相談援助演習』のテキストの中に記載してある高齢者（認知症）とその家族への相談援助に関する事例（pp.268-269）、障害者（身体障害者）とその家族に関する事例（pp.276-277）、児童（児童養護施設入所）に関する事例（pp.296-297）、地域におけるネットワーキングに関する事例（pp.120-121）、医療分野（病院からの退院に関する）の事例（pp.236-237）、社会資源の活用に関する事例（pp.130-131）の 6 つの事例及び解説を参考にして、ソーシャルワーカーに求められる視点や相談支援の際に取るべきスタンスとして、重要であると思われる事項について、あなたの意見を述べよ。

＜ポイント＞

テキストの事例を精読し、記載されている事実を丁寧に理解した上で、各事例に共通する事項や特筆すべき事項を読み解き、記述すること。さらに、将来自分が援助活動を行っていく上で、参考になった事例や支援の内容や質、方向性がある場合は必ず記述すること。

科目終了試験学修のポイント

１．高齢者への援助に必要な専門的技術・知識と具体的な支援の方法について

＜ポイント＞

高齢者の特性、加齢現象から生じる症状の理解、家族の介護負担、家庭支援、介護の技術や知識、社会資源の活用

２．障害者への援助に必要な専門的技術・知識と具体的な支援の方法について

＜ポイント＞

障害者の特性（各障害別）、物理的・社会的・心理的バリア、障害者の主体性の尊重、家庭支援、支援技術や知識、社会資源の活用

３．児童への援助に必要な専門的技術・知識と具体的な支援の方法について

＜ポイント＞

家族関係の重要性、児童の心身の発達の理解、支援技術や知識、社会資源の活用

４．地域における援助に必要な専門的技術・知識と具体的な支援の方法について

＜ポイント＞

社会のダイナミズムの理解、児童の社会経験の重要性、社会の資源やネットワークの活用

５．医療分野の援助に必要な専門的技術・知識と具体的な支援の方法について

＜ポイント＞

福祉サービスと医療サービスの連携の必要性、医学知識の理解、医師や看護師、医療ソーシャルワーカーとの連携

６．社会資源の開発に必要な専門的技術・知識と具体的な支援の方法について

＜ポイント＞

クライエントのニーズの把握、当該地域の社会資源の理解、福祉関連機関以外の機関や人材との交流、他の地域の社会資源情報の把握、

※実習修了者又は現場経験者は具体的経験もふまえながら述べることが望ましい。

教科書

一般社団法人日本社会福祉士養成協会（監修）『社会福祉士　相談援助演習』中央法規。

参考文献

社会福祉士養成講座編集委員会『相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規。

社会福祉士養成講座編集委員会『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規。

※学科により単位数が異なりますので注意してください。

科目コード	社会福祉援助技術演習（４単位）※	登録年次	履修方法
2062		３年	ＳＲ
教員名	青木正、荻野基行、田中利則、千葉由美、真野由美子、柳澤利之		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会福祉援助技術演習では、クライエントや家族員に関する相談支援の内容を、事例やロールプレイなどを通じて学修する。そのために、学生は福祉の現場で将来的に活動する際に、児童や高齢者、障害者などと適切にかかわり、彼らが有する問題や課題の解決・緩和をはかるための技術や知識を身につけるために、より実践的な演習を行う。

そのために、社会福祉のサービスの提供を必要としている児童や高齢者、障害者などに対して、専門的な支援を如何なる技法で行うのか、あるいはどのようなチームでかかわるかなどについて考察し、適切な支援を提供するために必要とされる面談技術やかかわる技術、知識、あるいは意識などについて習得する。

学修内容

1	社会福祉援助技術演習（相談援助演習）を学ぶ意図や意義。 社会福祉を実践する際に、なぜ社会福祉援助技術を学ぶ必要があるのだろうか。また、近年、保育ソーシャルワークという領域に注目が集まっている背景はどこにあるのだろうか、などについて把握する。
2	自己理解・自己覚知をはかる。 対人援助を行う際には、自己理解や自己覚知を実践する必要性があることを理解する。
3	多面的に他者理解を行う。 対人援助を行う際には「先入観」や「決めつける」ことはリスクが伴う。そのために、他者を理解する際には多面的な検討が要請される。
4	多彩な福祉的ニーズの理解を行う。 クライエントが抱えるニーズは多彩である。そのために、クライエントが問題を抱える際には福祉的ニーズが複雑な絡まっている可能性が高いことを予想して、多様なニーズを掌握する必要がある。
5	支援関係形成の必要性と有効性を知る。 支援関係形成は、クライエントを支援する際には、欠かせないことである。また、支援関係を形成することは、それだけでもクライエントにとっては、支援効果がある。
6	面接技術の重要性を理解する。 支援者はクライエントと面接する際には、面接技術を活用する必要がある。その意味で、面接技術の理解は欠かせない。
7	面接に関する留意点について理解し、体得する。 面接する際には、一定のルールやセオリーがある。これらのポイントを押さえておくことは必要不可欠である。
8	実際の面接の展開過程を理解し、自由自在に活用できるようにする。 面接には基本原則があり、展開過程を順守する必要がある。その意味で、展開過程を自由自在に活用することは不可欠である。
9	地域福祉の必要性と有効性、社会資源の種類や内容、ネットワークの重要性について知る。 近年の社会福祉に関する支援は、地域社会で行われることが多い。特に、社会資源を活用したり、チームアプローチやネットワークを使った支援が中心となっている。これらの状況について理解しておくことは大切なことである。
10	各種アプローチについて理解する。 アプローチはエンパワメントアプローチやストレングスアプローチ、心理療法アプローチなど数多くある。すべてのアプローチを活用することは困難なことではあるが、充実したアプローチを行うためには、可能な限りのアプローチを理解しておくことは欠かせない。
11	ケアマネジメント・支援計画を作成する必要性や実際について理解する。 クライエントの抱える状況に応じた福祉サービスを提供するためには、適切なマネジメントと目安としての支援計画を立てる必要がある。
12	グループワークの必要性や有効性・危険性及び実際について理解する。 グループワークは、メンバーを成長させる良い機会ともなれば、リーダーの力量を高める可能性を秘めている。また、一方では、グループワークを実践することによって、メンバーの負の連鎖に繋がってしまう危険性を隠しもっている。したがって、リーダーの力量やメンバーの構成はバランスの良いものでなくてはならない。
13	社会福祉援助技術演習（相談援助演習）とスーパービジョンの必要性 対人援助を実践する場合には、ひとり善がりの支援にならないように、第三者によるスーパービジョンの導入は欠かせない。
14	社会問題を基盤とした社会福祉援助演習（事例検討）① 事例の検討を行いながら対人援助の実際について学ぶ。
15	社会問題を基盤とした社会福祉援助演習（事例検討）② 事例の検討を行いながら対人援助の実際について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

一般社団法人日本社会福祉士養成協会監修　白澤政和・福山和女・石川久展編集『社会福祉士　相談援助演習』のテキストの中に記載してある高齢者（認知症）とその家族への相談援助に関する事例（pp.268-269）、障害者（身体障害者）とその家族に関する事例（pp.276-277）、児童（児童養護施設入所）に関する事例（pp.296-297）、地域におけるネットワーキングに関する事例（pp.120-121）、医療分野（病院からの退院に関する）の事例（pp.236-237）、社会資源の活用に関する事例（pp.130-131）の 6 つの事例及び解説を参考にして、ソーシャルワーカーに求められる視点や相談支援の際に取るべきスタンスとして、重要であると思われる事項について、あなたの意見を述べよ。

＜ポイント＞

テキストの事例を精読し、記載されている事実を丁寧に理解した上で、各事例に共通する事項や特筆すべき事項を読み解き、記述すること。さらに、将来自分が援助活動を行っていく上で、参考になった事例や支援の内容や質、方向性がある場合は必ず記述すること。

【設題2】

社会福祉援助技術における「自己覚知」に注目して、自己理解との違いやその重要性について事例を示唆しながら検討し述べよ。

＜ポイント＞

社会福祉援助技術のテキスト及び演習のテキストを参考にして、自己覚知に関する理解を深める。日常的に人間関係の中に、「転移」や「逆転移」、あるいはさまざまな意識や先入観などを背景として、支援者の「主観」が支配される危険性が潜んでいることを予測する必要性があることを認識する。また、これらの事態を回避する一つの手法として、「自己覚知」の必要性があることを理解する。

科目終了試験学修のポイント

1．高齢者への援助に必要な専門的技術・知識と具体的な支援の方法について

＜ポイント＞

高齢者の特性、加齢現象から生じる症状の理解、家族の介護負担、家庭支援、介護の技術や知識、社会資源の活用

2．障害者への援助に必要な専門的技術・知識と具体的な支援の方法について

＜ポイント＞

障害者の特性（各障害別）、物理的・社会的・心理的バリア、障害者の主体性の尊重、家庭支援、支援技術や知識
社会資源の活用

3．児童への援助に必要な専門的技術・知識と具体的な支援の方法について

＜ポイント＞

家族関係の重要性、児童の心身の発達の理解、支援技術や知識、社会資源の活用

4．地域における援助に必要な専門的技術・知識と具体的な支援の方法について

＜ポイント＞

社会のダイナミズムの理解、児童の社会経験の重要性、社会の資源やネットワークの活用

5．医療分野の援助に必要な専門的技術・知識と具体的な支援の方法について

＜ポイント＞

福祉サービスと医療サービスの連携の必要性、医学知識の理解、医師や看護師、医療ソーシャルワーカーとの連携

6．社会資源の開発に必要な専門的技術・知識と具体的な支援の方法について

＜ポイント＞

クライエントのニーズの把握、当該地域の社会資源の理解、福祉関連機関以外の機関や人材との交流
他の地域の社会資源情報の把握

※実習修了者又は現場経験者は具体的経験もふまえながら述べることが望ましい。

教科書

一般社団法人日本社会福祉士養成協会（監修）『社会福祉士　相談援助演習』中央法規。

参考文献

社会福祉士養成講座編集委員会『相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規。

社会福祉士養成講座編集委員会『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規。

科目コード	社会福祉援助技術論Ⅰ（４単位）	登録年次	履修方法
2050/2051	（旧　社会福祉援助技術総論）	２年	ＳＲ
教員名	黒木豊域、関秀司、千葉由美、永澤護、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会福祉援助技術は、社会福祉専門職の中核をなす対人援助技術である。また、個人、家族、グループ、地域社会を対象とした、対人援助、地域向上の援助方法である。本科目ではまず、社会福祉サービスと社会福祉援助技術との関係から、社会福祉援助技術の体系として、社会福祉援助の構造を明らかにする。そして、直接援助技術であるケースワークとグループワーク、間接援助技術であるコミュニティワークやソーシャルリサーチについて学ぶ。さらに、援助の展開過程を事例を用いながら理解し、社会福祉実践の全体系を総合的に学修する。

学修内容

1	○社会福祉士の役割と意義 国家資格である社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の役割と意義について学ぶ。
2	○相談援助の定義と構成要素 国際ソーシャルワーカー連盟の定義（国際定義）と日本社会福祉士会の倫理綱領を中心に、ニーズの発見から相談面接、援助計画の策定と社会資源の活用等について学ぶ。
3	○社会福祉援助活動における倫理 福祉倫理、専門知識、専門技術という「専門性の三要素」について、実際の援助活動に即した倫理性について学ぶ。
4	○専門職倫理と倫理的ジレンマ 援助活動で直面する倫理的ジレンマについて、その倫理的判断過程と解決方法について学ぶ。
5	○社会福祉援助技術の歴史的展開 イギリスにおける社会改良運動（青少年団体の運動、慈善組織協会の活動、セツルメント運動）から、アメリカにおける専門化の展開（リッチモンドやパールマンの貢献）について学ぶ。
6	○ソーシャルワークの形成過程 ケースワーク・グループワーク・コミュニティーワークの形成過程と特徴について学ぶ。
7	○ケースワークにおける援助の展開過程 インテーク・アセスメント・プランニング・インターベンション・モニタリング・エバリュエーション・ターミネーションの各展開過程の特徴について学ぶ。
8	○ソーシャルサポート・ネットワーク 総合的な支援体制や援助組織等の構築の重要性と、フォーマル（専門的）なサポートとインフォーマル（非専門的）なサポートの内容について学ぶ。
9	○社会福祉援助技術の共通概念 国際ソーシャルワーカー連盟の定義（国際定義）が指摘している、人間の福利（ウェルビーイング）の増進、人間関係における問題解決、エンパワメントと解放等について学ぶ。
10	○社会福祉援助技術の独自な社会的機能 総合的かつ包括的な相談援助の５つの社会的機能、地域を基盤としたソーシャルワークの８つ社会的機能、ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質について、その関連性と意義について学ぶ。
11	○総合的かつ包括的な相談援助（予防機能・新しいニーズへの対応機能） 第１次予防から第３次予防の特徴、エイズ患者や発達障害者等への支援の方法等について学ぶ。
12	○総合的かつ包括的な相談援助（総合的支援機能） エコシステムを活用して行われる重層的な総合的な支援方法とチームアプローチの重要性について学ぶ。
13	○総合的かつ包括的な相談援助（権利擁護機能・社会資源開発機能） 利用者や家族の権利や主張を支持・代弁・弁護するケースアドボカシーと、社会資源の発展・創造・開発の重要性について学ぶ。
14	○地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座 ソーシャルリサーチ活用の重要性とソーシャルアクションの意義、権利擁護活動等の８つの機能について学ぶ。
15	○ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点 多方面にわたる知識や多様な介入方法を用い、複数の分野や幅広い問題を対象に、総合的な援助を目指すジェネラリスト・ソーシャルワークの特質について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 社会福祉援助活動の意義と社会的機能について述べよ。

＜ポイント＞

社会福祉サービスと社会福祉援助活動との関係、社会福祉援助活動の概念と内容についてよく理解した上で、社会福祉援助技術の意義とその働きについてまとめること。

【設題2】 社会福祉援助の技術と援助過程について述べよ。

＜ポイント＞

社会福祉援助技術は、利用者の生活をあらゆる領域や観点から総合的に援助するために体系化がはかられていることを理解すること。その上で、直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術の体系と各援助技術の概要についてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1. 社会福祉援助活動における倫理について

＜ポイント＞

「専門性の構成要素」（福祉倫理、専門知識、専門技術）と倫理性の重要について述べ、日本社会福祉士会の倫理綱領における「原則と価値」の内容を実践の基盤として述べる。

2. 社会福祉援助技術の歴史的展開について

＜ポイント＞

イギリスにおける社会改良運動（青少年団体の運動、慈善組織協会の活動、セツルメント運動）について述べ、アメリカにおける専門化の展開とリッチモンドやパールマンの役割について述べる。

3. ソーシャルサポート・ネットワークについて

＜ポイント＞

総合的な支援体制や援助組織等の構築についてその重要性を述べ、フォーマル（専門的）なサポートとインフォーマル（非専門的）なサポートの内容について述べる。

4. 社会福祉援助技術の共通概念について

＜ポイント＞

国際ソーシャルワーカー連盟の定義（国際定義）が指摘している、人間の福利（ウェルビーイング）の増進、人間関係における問題解決、エンパワメントと解放等について述べる。

5. 社会福祉援助技術の独自な社会的機能について

＜ポイント＞

総合的かつ包括的な相談援助の5つの社会的機能（予防機能・新しいニーズへの対応機能・総合的支援機能・権利擁護機能・社会資源開発機能）について述べる。

6. 社会福祉における援助の展開過程について

＜ポイント＞

ケースワークの展開過程として、インテーク・アセスメント・プランニング・インターベンション・モニタリング・エバリュエーション・ターミネーションの各展開過程の特徴について述べる。

教科書

（平成20年度までの配本）

福祉士養成講座編集委員会『社会福祉士養成講座8 社会福祉援助技術論Ⅰ』中央法規。

福祉士養成講座編集委員会『社会福祉士養成講座9 社会福祉援助技術論Ⅱ』中央法規。

（平成21年度以降の配本）

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座6　相談援助の基盤と専門職』中央法規。

参考文献

ゾフィア・T・ブトゥリム『ソーシャルワークとは何か』川島書店。

科目コード	社会福祉経営論（２単位）	登録年次	履修方法
8680		１年	ＳＲ
教員名	中野隆之		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

この科目では、主に非営利法人の経営について学修する。非営利法人には財団法人、社団法人、NPO、医療法人などがあり、それぞれの特徴について理解する。非営利法人の共通する問題としては、財源や人材の確保、社会的評価などがある。これらについて具体的な問題点を学修していき、その解決方法について学修を進める。また、現代社会で重要視されている、コンプライアンスと非営利法人との関係についても学修する。

学修内容

1	社会福祉と経営の概念について、教科書を精読する。 社会福祉経営の基本は経営を理解することである。経営の基本を理解してから、社会福祉という材料をどう料理するかを考察する。
2	社会福祉法人の基本的知識について学修する。 社会福祉に携わる事業体は様々な法人格で行うことができる。その法人格を理解した上で、それぞれのメリット・デメリットを検証する。
3	これまでの社会福祉経営がどのように行われてきたか、教科書の他にも各自資料を集め、学修する。 物事を検証するには、現状と過去を理解しなければならない。特にこのテーマでは、財源というキーワードを軸に様々な角度から検証していく。
4	これからの社会福祉経営はどのように行われていくべきか、教科書の他にも各自資料を集め、学修する。 1～3 の内容を理解した上で、問題点を検証していく作業が中心となる。その問題点に対して改善という実証を行うためには何が必要かを考察する。
5	社会福祉経営を取り巻く環境の変化について、教科書の他にも各自資料を集め、学修する。 21 世紀を迎え小さな政府と言う方向になり、自治体自体の経営のスリム化を求められる時代となった。教科書以外の資料等も各自用意し皆でディスカッションして考察を深める。
6	社会福祉経営を取り巻く身の回りの変化について気付いたことを整理する。 5 の内容に加え 3 での内容を、更にそれ以外の要素も検証しながら理解していく。特に今回は利用者側からの視点を取り入れて検証したい。
7	21 世紀型社会福祉経営のあり方　その１　国の財源と社会福祉経営の視点から考える。 経営を考えるには収入と支出のバランスが必要である。少子高齢化や日本経済の停滞感により、国の財政は破綻してもおかしくない状態である。その上で、国や自治体と己の法人がどうあるべきかをお金の部分で考察してみる。Part1
8	21 世紀型社会福祉経営のあり方　その２　地方の財源と社会福祉経営に視点から考える。 経営を考えるには収入と支出のバランスが必要である。少子高齢化や日本経済の停滞感により、国の財政は破綻してもおかしくない状態である。その上で、国や自治体と己の法人がどうあるべきかをお金の部分で考察してみる。Part2
9	21 世紀型社会福祉経営のあり方　その３　従来型の人的資源の管理について考える。 これまでの経済や経営の考え方は人「材」であった。材料として考えそこに感情等の組入は置き去りにされていたのが現状である。その部分を考察してみる。
10	21 世紀型社会福祉経営のあり方　その４　これからの人的資源の管理について考える。 これまでの人は材料である考え方から、財産である人「財」へと 21 世紀は変化するべきである。受動態から能動態のこの力を合わせる新たな人材管理の方法を考察する。
11	21 世紀型社会福祉経営のあり方について、7～10 までの学修を振り返り、まとめる。 7～10 まで検証した部分をディスカッションを中心としながら、より自分のものとする。
12	社会福祉経営と行政のあり方　その１　現状 財源の部分でも触れたように、財政的にも少子高齢化の波を受けているのが、行政である。これまでの組織体の課題を探る前に現状を把握する。
13	社会福祉経営と行政のあり方　その２　課題 12 で触れた現状を自治体として何が問題なのかをそれぞれ検証してみる。

14	社会福祉経営と行政のあり方　その３　解決手法の策定 13 で出た課題を、「なぜ？を 5 回繰り返す問題解決手法」により新たな自治体のあり方を検証してみる。
15	これまでの学修をまとめ、これからの社会福祉経営について自分の考えをまとめる。 これからの社会福祉において、現場により近い法人とそれを支える行政のあり方を立体的にまとめてみる。その上で各自が自分のビジネスがどうあるべきかも総括として取り入れていきたい。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】現代における社会福祉経営において、行政の問題点、運営法人の問題点及びその解決策を述べよ。

＜ポイント＞
「福祉」というキーワードにとらわれることなく、業種的に客観的な視点で考察してみること。

科目終了試験学修のポイント

１．経営の基本的視点とは何か。
＜ポイント＞
料理の基本と一緒で、「特にこの業種だからこういう経営」という基本形はない。それを踏まえて考察すること。

２．これまでの福祉経営の問題点とは何か。
＜ポイント＞
90 年代以前の受け身の視点が軸にあることを念頭に置いて考察すること。

３．90 年代以降の経営環境の変化から産まれた新たなニーズとは何か。
＜ポイント＞
現代社会における各自の視点を大事に考察すること。

４．21 世紀における福祉経営のあり方の４つの柱とは何か。
＜ポイント＞
「福祉」という概念にとらわれないことも重要な点となる。

５．21 世紀における福祉行政のあり方について
＜ポイント＞
政策として求められる形の変化を分類してみる。

６．理想的な行政と事業主とのスタンスについて
＜ポイント＞
この科目の学修内容を再整理して考察してみる。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 11　福祉サービスの組織と経営』中央法規出版。

参考文献

なし

科目コード	社会福祉原論（４単位）	登録年次	履修方法
2010/2011		１年	ＳＲ
教員名	青木正、卯尾章、遠藤修正、君島久康、永澤護、中山勇気、姫野建二、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

社会福祉に関する基礎知識の体系的な習得をめざす。具体的には、現代社会において社会福祉が果たしている役割や機能、福祉専門職としての資格である社会福祉士として活躍するために必要な基礎知識、社会福祉の歴史（社会事業成立以前、社会事業成立期、戦後）、社会福祉の法体系と運営実施体制、社会福祉の財源と費用負担、民間社会福祉の組織と活動、日本の社会福祉の動向と今後の課題などについて学修する。

学修内容

1	社会福祉の概念と枠組み 社会福祉は人間の生老病死とその課題に対応して、いろいろな格好で支援していく枠組みをもっている。
2	社会福祉と関連諸施策 社会福祉の思想と倫理 社会福祉と社会保障、国民保健サービス、住宅、雇用などとの関連諸施策との関わりが大切である。
3	日本における社会福祉の史的展開：わが国の近代、現代の社会福祉 欧米における社会福祉の史的展開：イギリスなどの社会福祉史について わが国やイギリスの社会福祉の展開過程と歴史とを吟味しなければならない。
4	社会福祉の援助対象 社会福祉のニーズ 社会福祉の援助対象は、当初においては貧困、疾病などであったが、次第にそれらを担う人びとのニーズとして理解されていく。
5	社会福祉政策と制度体系 社会福祉の法制度 憲法の生存権（第 25 条）、幸福追求権（第 13 条）といわゆる社会福祉六法の法制度が重要である。
6	社会福祉の行政 社会福祉の財政 あわせて社会福祉行財政というが、国主導から近年では市町村主導へと変化している。
7	社会福祉と民間福祉活動 社会福祉法人、特定非営利活動法人（NPO）、福祉企業、ボランティアなどの民間福祉活動がある。
8	社会福祉援助の意味（相談援助） 直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術などの相談援助の仕方がある。
9	社会福祉援助の方法 傾聴、共感、洞察といった人間関係の技法がとくに重要である。
10	関連諸サービスとの連携 社会福祉は、所得保障、国民保健サービス、住宅、雇用などと連携していくことが求められる。
11	社会福祉機関の組織と運営 福祉事務所、児童相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所などにおいて相談する。
12	社会福祉援助の利用と支援 社会福祉援助はあくまでも利用者主体であり、援助者はなるべく側面的援助に徹するべきである。
13	社会福祉援助の評価システム 社会福祉の専門性：社会福祉専門職の諸資格、社会福祉士 社会福祉援助の専門性を十分に評価し、専門的に水準を高める必要がある。
14	戦後社会福祉の展開とこれからの社会福祉政策の方向性 社会福祉の国際動向（1）イギリス、アメリカの社会福祉の動向 社会福祉の国際動向（2）ドイツ、北欧、アジアの社会福祉の動向 世界の国々は、大きく低福祉低負担、中福祉中負担、高福祉高負担の３類型に分けられる。
15	21 世紀の社会福祉の展望 世界の多くの国々は少子高齢化に向かっており、それぞれの国々の協力体制が必要である。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 福祉国家の思想と原理について述べよ。

＜ポイント＞

英国のベヴァリッジ報告の内容についてまとめ、それが現代社会における福祉施策にどのような影響を与えるかについて考察すること。

【設題2】 戦後の社会福祉の展開と今日の課題について述べよ。

＜ポイント＞

今日の社会福祉は、少子・高齢社会を前にさらなる充実が迫られているが、その理念や制度体系は一朝一夕に成立したわけではない。それは、時代や社会体制を反映し、それらの発展とともに展開されてきたのであり、そのことを踏まえてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．社会福祉士の社会的役割について

＜ポイント＞

「社会福祉士及び介護福祉士法」における社会福祉の役割と位置づけを参考にすること。

2．社会福祉政策について

＜ポイント＞

国（厚生労働省）や地方自治体が、国民や住民の福祉ニーズの充足のための政策をとっていることから考える。

3．民間社会福祉活動の歴史と今後の課題について

＜ポイント＞

社会福祉法人や特定非営利活動（ＮＰＯ）法人などの歴史とあり方について考える。

4．社会福祉制度と生存権について

＜ポイント＞

憲法第25条の生存権から派生してくる社会福祉制度について考える。

5．公的扶助と福祉サービスについて

＜ポイント＞

公的扶助は生活保護として実施されているので、その目的や福祉サービスの特色を考える。

6．社会福祉政策と相談援助の関係について

＜ポイント＞

社会福祉政策は社会福祉士などの人手を介した相談援助によって実践されていることを考える。

教科書

（平成20年度までの配本）

社会福祉士養成講座編集委員会『社会福祉士養成講座1　社会福祉原論』中央法規。

（平成21年度以降の配本）

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座4　現代社会と福祉』中央法規。

参考文献

今村理一『新しい時代の社会福祉サービス論』ミネルヴァ書房。

京極高宣『改訂　社会福祉学とは何か』全国社会福祉協議会。

ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法（最新版）』ミネルヴァ書房。

科目コード	社会福祉原論	登録年次	履修方法
2012		1年	R
教員名	青木正、卯尾章、遠藤修正、君島久康、永澤護、中山勇気、姫野建二		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

社会福祉に関する基礎知識の体系的な習得をめざす。具体的には、社会福祉の原理や理論、福祉政策、福祉サービスの供給体制などについて、概念や理念、歴史的展開などを踏まえて理解する。さらに、社会問題と社会構造の関係や国際比較の視点などを通して、日本の社会福祉の特性や今後のあり方についても考察を深める。

学修内容

1	社会福祉の原理 全体の導入として社会福祉の原理に関する内容を整理する。社会福祉の原理とは、多種多様な形で存在する社会福祉に共通する前提やルールのことである。
2	社会福祉の歴史① 欧米の社会福祉の歴史的展開をイギリスとアメリカに焦点を当てて学ぶ。
3	社会福祉の歴史② 日本の社会福祉の歴史的展開を古代・中世社会から現代（1980 年代）まで学習する。
4	社会福祉の思想・哲学・理論① イデオロギーごとに社会福祉の見方が異なることを確認する。
5	社会福祉の思想・哲学・理論② ニーズをはじめとする社会福祉の対象について、その捉え方・論じ方の変遷と現代的な課題を学ぶ。
6	社会問題と社会構造 社会問題は非常に多くの要素が複雑に絡みあっていることから、これを解決へ導くためにもどのような社会構造となっているのかについて理解を深める。
7	福祉政策の基本的な視点 福祉政策が対象とする「福祉」という概念について、幸福、徳、選好、功績の四つの関連概念を通して、掘り下げて考える。
8	福祉政策におけるニーズと資源 ニーズという言葉の使い方、ニーズ（必要）とデマンド（需要）の対比、必要原則と貢献原則の対比、資源（リソース）の性質、種類などについて学ぶ。
9	福祉政策の構成要素と過程 福祉政策を成り立たせる要素や過程にはどのようなものがあるかを学ぶ。
10	福祉政策の動向と課題 2000 年代における福祉政策と近年の社会福祉を特徴づける包括的支援の・課題について学ぶ。
11	福祉政策と関連施策① 福祉政策の動向と課題を踏まえたうえで、関連政策を理解する。　保健医療政策、教育政策、住宅政策
12	福祉政策と関連施策② 福祉政策の動向と課題を踏まえたうえで、関連政策を理解する。労働政策、災害対策
13	福祉サービスの供給と利用の過程 福祉政策の実施体制の中核を担う、福祉サービスの供給過程と利用過程を学ぶ。
14	福祉政策の国際比較 福祉政策における動きは、脱商品化を主な機能としていた 20 世紀型福祉政策から、脱商品化を抑制しつつ再商品化と援商品化という機能を取り入れた 21 世紀型福祉政策への転換といえる。
15	これからの社会福祉　出発点・到達点・展望 今日の福祉政策・福祉改革のキーコンセプトは「地域共生社会」の実現である。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 福祉国家の思想と原理について述べよ。

＜ポイント＞

英国のベヴァリッジ報告の内容についてまとめ、それが現代社会における福祉施策にどのような影響を与えるかについて考察すること。

【設題２】 戦後の社会福祉の展開と今日の課題について述べよ。

＜ポイント＞

今日の社会福祉は、少子・高齢社会を前にさらなる充実が迫られているが、その理念や制度体系は一朝一夕に成立したわけではない。それは、時代や社会体制を反映し、それらの発展とともに展開されてきたのであり、そのことを踏まえてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１． 慈善組織協会（COS）について

＜ポイント＞

イギリスとアメリカにおける慈善組織協会とその役割を考える。

２． 戦後における社会福祉理論の歴史的展開について

＜ポイント＞

政策論、技術論、固有論、統合論、運動論、経営論に区別して考える。

３． 福祉という概念について

＜ポイント＞

幸福、徳、選好、功績という四つの概念から考える。

４．福祉政策の構成要素について

＜ポイント＞

福祉政策の構成要素を、政策の分野と各分野の目的から考える。

５．地域共生社会の実現について

＜ポイント＞

地域共生社会と地域包括ケアシステムの関係と地域共生社会の実現に向けた改革の骨格を整理する。

６．福祉供給部門について

＜ポイント＞

四つの供給主体の特徴（長所と短所）について考える。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集

『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座【共通科目】4　社会福祉の原理と政策』　中央法規。

参考文献

小田憲三・杉本敏夫監修『社会福祉概論　第５版　社会福祉の原理と政策』　勁草書房

今村理一『新しい時代の社会福祉サービス論』ミネルヴァ書房。

京極高宣『改訂　社会福祉学とは何か』全国社会福祉協議会。

ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法（最新版）』ミネルヴァ書房。

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座４　現代社会と福祉』中央法規。

科目コード	社会福祉入門（２単位）	登録年次	履修方法
1010/1011/1012		１年	ＳＲ/Ｒ
教員名	小笠原眞紀、奥野治子、北爪克洋、黒木豊域、大門俊樹、水島正浩、文光明、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

少子高齢化の進むわが国は、ますます福祉重視型の社会をめざしている。これから社会福祉に関わる仕事をめざす学生のために、福祉の基本や福祉に関連する職業にはどのようなものがあるのか、社会的に見て福祉とは何か、そして、福祉の職業に従事するためにはどのような資格があるのか、各々の福祉領域で必要不可欠な能力とは何か等を学修する。また同時に、これまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会における、これからの福祉のあり方についても考える。

学修内容

1	社会福祉とは何か（教科書 pp.12-33, pp.75-99 参照） 広義・狭義の社会福祉について理解するとともに、社会福祉の目的、理念、対象、主体についても理解する。社会福祉理論の展開については、ヨーロッパと日本に分けて学ぶ。社会福祉の対象については、救貧法の時代、社会事業の時代、現代に分けて学ぶ。社会福祉の対象把握を学ぶ際には、ニーズの視点で考える。主体については、政策主体・経営主体・実践主体について理解する。
2	イギリスにおける社会福祉の発達（教科書 pp.34-39 参照） 福祉国家づくりに世界で最初に取り組んだイギリスにおける社会福祉の歴史について、エリザベス救貧法の成立からベバリッジ報告書の登場までの間を、それぞれの時代背景を正しく理解しながら学ぶ。
3	アメリカにおける社会福祉の発達（教科書 pp.39-42 参照） 専門職としての社会福祉援助を発達させたアメリカにおける社会福祉の歴史について、ソーシャルワーク確立以前とソーシャルワーク確立期に分けて、それぞれの時代背景を正しく理解しながら学ぶ。
4	日本における社会福祉の発達（教科書 pp.42-54 参照） わが国日本における社会福祉の歴史について、明治時代の救貧事業から転換期（2000 年代初頭）に至るまで、それぞれの時代背景を正しく理解しながら学ぶ。
5	わが国の社会福祉制度の展開（教科書 pp.99-109 参照） わが国の社会福祉の法制度の概要、歴史、法体系について理解した後、介護保険法などの現行法について、1980 年代以降の社会福祉の制度改革の流れのなかで正しく理解する。
6	わが国の社会福祉行政（教科書 pp.109-115 参照） 社会福祉の行政について、社会福祉行政のしくみ、福祉事務所と社会福祉主事、社会福祉事業、法定受託事務と自治事務について、順をおって学ぶ。
7	社会福祉援助とソーシャルワーク、援助の原則（教科書 pp.124-127, pp.130-135 参照） 社会福祉援助とソーシャルワークについて、「社会福祉士及び介護福祉士法」や E.グリーンウッドの理論などを通して学ぶ。その後、F.バイスティック によるケースワークの原則など、社会福祉援助において重要な原則についていくつか検討する。
8	ソーシャルワークの種類（教科書 pp.135-141 参照） ソーシャルワークの種類について、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、その他の方法（ソーシャル・アクション、ソーシャル・リサーチ、ソーシャル・ウェルフェア・アドミニストレーション、ソーシャル・プランニング）に分けて学ぶ。
9	わが国の高齢者福祉の現状（教科書 pp.144-149 参照） わが国の高齢者福祉の現状について、高齢者の生活問題、女性と介護、介護の社会化への動きについて学ぶ。また、介護保険制度、ゴールドプラン、新ゴールドプラン、ゴールドプラン２１などについても学ぶ。
10	わが国の児童福祉の現状（教科書 pp.149-152 参照） わが国の児童福祉の現状について、管理教育、体罰、いじめ、家庭内での児童虐待など、さまざまな問題について社会的背景から理解し、少子化の社会的影響、子どもの権利条約の要点について学ぶ。
11	わが国の障害者福祉の現状（教科書 pp.152-154 参照） わが国の障害者福祉の現状について、障害の社会的定義を WHO（世界保健機関）の定義からとらえ、障害者の生活問題、ノーマライゼーションの要点について学ぶ。
12	地域福祉活動の重要性（教科書 pp.154-157 参照） 近代化の進展に伴うコミュニティの崩壊に起因するさまざまな問題を理解し、地域福祉の目指すものについて学ぶとともに、地域福祉活動の重要性について考える。
13	貧困問題と社会福祉（教科書 pp.157-159 参照） 社会福祉の出発点としての貧困問題について、イギリスとわが国を中心に、17 世紀以降の歴史的背景と現状について取り上げる。
14	社会福祉士及び介護福祉士法（教科書 p.125, p.168 参照） 社会福祉士及び介護福祉士法制定の理由とその経緯について明らかにするとともに、同法の意義についても学ぶ。その後、同法において、両国家資格に関する規定、課せられている義務などについて学ぶ。

15	社会福祉士・介護福祉士の職場と福祉専門職に求められる資質（教科書 p.86,p.168 参照） 　社会福祉士・介護福祉士が活躍する職場（施設・機関）について具体的に学ぶ。また、利用者のニーズに適切に応えるために、福祉専門職にはどのような資質が必要になるのか、また、どのような学修をして、そうした資質を身につけていくべきかについても考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 福祉サービスの利用者を支えるためのしくみが定められた背景とそのしくみの概要について述べよ。
＜ポイント＞
措置制度の仕組みについて理解し、なぜ措置制度から契約制度へ移行するに至ったのか理由を考えること。

科目終了試験学修のポイント

1．わが国の社会福祉法制について
＜ポイント＞
社会福祉法を中核として、基本法やサービスに関する法律もおさえておく。

2．わが国の社会保障制度の体系について
＜ポイント＞
セーフティネットとしての社会保障の役割と社会保険、公的扶助のシステムについて把握しておく。

3．わが国の社会福祉行財政について
＜ポイント＞
福祉行財政の実施体制と福祉計画の意義あるいは方法について把握しておく。

4．社会福祉を支える原理について
＜ポイント＞
社会福祉の背景となる原理について把握し、「なぜ福祉が必要なのか」につなげること。

5．わが国における貧困をめぐる現状について
＜ポイント＞
女性や子ども、高齢者など現代における貧困の現状について把握しておく。

6．地域福祉の意義とその担い手について
＜ポイント＞
在宅福祉サービスだけではなく、地域住民のつながりの再構築について検討すること。

教科書

大島侑、他『シリーズ・はじめて学ぶ社会福祉①社会福祉概論』ミネルヴァ書房。

参考文献

今村理一『新しい時代の社会福祉施設論』ミネルヴァ書房。
京極高宣『社会福祉学小辞典（改訂版）』ミネルヴァ書房。
ミネルヴァ書房編集部『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房。

科目コード	社会保障政策論（２単位）	登録年次	履修方法
2640		３年	R
教員名	小笠原眞紀、小澤浩之、佐々木貴雄、辻本理絵子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、２１世紀において社会保障が果たしている役割・機能と今後対応していかなければならない課題について学修する。
まず、社会保障の理念、目的、機能について学ぶ。そして、社会保障の基本的なフレームワークとして、社会保険、公的扶助（生活保護）、社会福祉等の仕組みについて理解を深める。その後、わが国における社会保障制度の体系上の特質を踏まえながら、これからわが国が取り組まなければならない社会保障の課題について学修する。

学修内容

1	社会保障の機能（貧困の予防と救済、所得の再分配、経済の成長と安定、社会の統合や政治的安定） テキスト第８章３「社会保障の働きにはどんなものがある？」：社会保障は、国民が健康で安心して暮らせるよう、その生活を支える基盤である。社会保障の機能の代表である、①貧困の予防と救済、②所得の再分配、③経済の成長と安定、④社会の統合や政治的安定、について学修する。
2	社会保障の財政（社会保障給付費、国民負担率）： テキスト第８章４「社会保障のお金は、どこからどこへ、どう流れているのか？」：社会保障は、国や自治体、これらに順ずる特別な法律に基づいて設立される法人などが国民から資金を集め、これを用いて、国民への金銭給付や現金給付を行う仕組みである。財政資金の主なものは、租税（税金）と社会保険料の２つである。社会保障という大掛かりな所得の移転システムを通じて、財政資金が国中を動く。このような財政の仕組みは、どこの国においても共通している。社会保障給付費（社会保障給付費用の総額）や、国民負担率（租税と社会保険料の負担が国民所得に占める割合のこと）が、社会保障の財政の特徴を示す指標の一つとなる。それぞれの概念を学修すること。
3	世界の社会保障の歴史（救貧法から、社会保障制度の確立と福祉国家への歩み） テキスト第８章１「現代の社会保障という大河の源流は？」：中世になって、社会的弱者に対して、宗教的慈善活動でなく、行政組織による全国的な公的扶助制度を最初に実施したのはイギリスで、1601年のエリザベス救貧法に始まる。20世紀初頭までには、ヨーロッパを中心とした先進諸国で、社会保障の基本的な仕組みが整備されていく。第２次世界大戦後には、イギリスでは、ベヴァリッジ報告が公表され、戦後の世界の社会保障の形成に大きな影響を与えた。その他の先進諸国もその後社会保障の充実による福祉国家の実現を目指す。しかしながら、経済の低成長や高齢社会の到来を背景に、今日福祉国家の危機が危惧されている、一連の世界の社会保障の歴史の歩みを学修する。
4	日本の社会保障の歴史（わが国の医療保険制度の歩みを戦前戦後と概観する） テキスト第８章２「今の日本の仕組みは、どんな蓄積の上に立つのだろう？」：わが国初めての政府による救貧法制は1874年制定の恤救規則である。その後、1922年にわが国初の社会保険である健康保険法が制定された。第二次世界大戦敗戦後は、生活困窮者対策、福祉三法の制定に続き、1961年には、国民皆保険・皆年金が実現。その後の高度経済成長、オイルショックを経て、わが国は経済の低成長と少子高齢化の進行という課題への対応が迫られている、一連のわが国における社会保障の歩みを理解する。
5	医療保険(1)：わが国の医療保険制度のしくみ（被保険者と保険料、保険給付、診療報酬、医療提供体制など） テキスト第１章1～4・7「病気になったら、どうする？」「あなたはどのグループで、どれだけ保険料を納める？」「どんな医療サービスが、どれだけの負担で受けられる？」「保険での医療サービスの値段はどう決まる？」「日本の医療サービスはどんな姿をしている？」：以上を手がかりに、わが国の医療保険制度のしくみの特徴を学修する。
6	医療保険(2)：後期高齢者医療制度、国民医療費（後期高齢者医療制度の理念としくみ、増大する国民医療費の問題） テキスト第１章５・６「高齢者の医療費は誰が負担する？」「日本では医療費はどう使われている？」：2006年の高齢者の医療の確保に関する法律により、老人保健制度が廃止され、2008年４月から新たな高齢者医療制度である後期高齢者医療制度が創設された。その理念としくみを学修する。また毎年１兆円ずつ増え続けるわが国の国民医療費を誰が、どう負担していくのか、またどこに費用配分すれば、より効率的で望ましい分野により多くの費用が適切に配分できるのか、を学修する。
7	生活保護制度（生存権、基本原理原則、給付要件、保護基準、給付の内容など） テキスト第１章１「最低限度の生活にも困ったら？」：生活保護は、生存権を国が最終的に保障するための制度であり、最後の受け皿と呼ばれる。生存権とは、「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を意味する、憲法で定める日本国民の基本的人権の一つである。生活保護には、基本原理として４原理４原則が定められ、給付要件として、資力調査（ミーンズテスト）が行われるのが特徴である。その上で、保護基準に基づき、現在給付の内容として、８つの扶助が実施されている。わが国の生活保護制度の全体像について、学修する。
8	社会福祉制度（給付の種類と内容、対象、実施主体など） テキスト第２章２「福祉サービスを受けるのは？」：社会福祉制度に基づくサービスには、施設サービスと在宅サービスがある。施設サービスは、入所施設、通所施設、利用施設の３種類に大別される。在宅サービスもホームヘルプサービスをはじめ、車椅子の利用など、在宅生活を支える多岐に渡るサービスが整備されている。対象者としては、かつては貧困が理由であったり、老人、児童、障害者といった社会的弱者を中心にわが国の社会福祉制度が構築されていったこともあり、一部の人たちに限られていたが、今日社会福祉に対するニーズの拡大の中で、対象者も国民全体へと広がりつつある。実施主体としては、福祉サービスはできるだけ住民に身近な自治体である市町村が担うのが望ましいとされ、地方分権の流れのなかで、都道府県から市町村へと移行する方向にある。わが国の社会福祉制度の概要全体について、学修する。
9	社会手当（手当の種類と対象） テキスト第２章３「社会福祉制度はサービス給付だけ？」：社会手当は、このような場合に一定の金銭給付を行い、貧困に陥るのを予防しようとするものである。加入や拠出が給付要件となっていない点で、社会保険とは異なる。生活保護と社会保険の中間にある制度である。社会保険を補完する金銭給付としての性格をもつ。現在のわが国の制度としては、児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当などがある。それぞれの手当の内容と給付要件などを学修すること。
10	介護保険制度（仕組み、保険者、保険料、保険給付の種類とサービス内容など） テキスト第３章１「家族に介護が必要になったらどうする？」：2000年４月に始まった介護保険は、医療保険と同じように介護サービスを社会保険で給付する制度である。誰が加入し、保険料はどういうルールで決まり、どう払うのか、介護が必要になったら、どんな手続きで誰からどんなサービスが受けられ、利用料はいくらかなど、介護保険の基本的な仕組みを理解する。医療保険にはない、要介護認定やケアプランにはどんな意味があるのか。介護サービスの整備はどう進められているのか。わが国の介護保険制度の全体像について、学修する。
11	年金保険制度（国民年金と厚生年金の違い、被保険者と保険料、老齢年金、障害年金、遺族年金、企業年金など） テキスト第４章1～8「老後の生活費は？」：年金制度は、主にサービスを給付する医療保険や介護保険とは異なり、金銭を給付する代表的な社会保険である。わが国の年金保険制度は、社会保険方式、３階建て年金の制度体系、賦課方式を基本にした財政方式に基づいて運営されている。また、個別制度として、全国民を対象とする国民年金、民間企業の一般被用者を対象とする厚生年金保険がある。年金は被保険者から徴収する保険料でまかなわれている。年金の種類として、老齢年金、障害年金、遺族年金、企業年金がある。以上をふまえ、わが国の年金保険制度の全体像について、学修する。

12	雇用保険（仕組み、被保険者と保険料、保険給付など） 第5章1～4「失業した場合に所得を保障する仕組み」：失業したときに所得を保障してくれる雇用保険は、医療保険や介護保険等と違い、労働者だけが加入する社会保険である。失業した場合だけでなく、育児・介護休業給付など雇用継続のための給付もある。これらの費用を賄う保険料は、どんなルールで決まっているのか？社会保険とどこが違い、どこが共通なのだろうか。雇用保険が適用される事業所で働く労働者は、強制的に被保険者となる。保険料は、給与やボーナスのうち、1%は失業等給付に当たる分で、会社と本人が折半する。残りは雇用安定と能力開発事業に当てる分で、会社のみが負担する。保険給付としては、失業したときに受ける給付を求職者給付という。基本手当の給付日数はあらかじめ決まっており、被保険者期間が長い人ほど、給付日数も長い。また、雇用保険の目的はそれだけでなく、失業予防や再就職支援の各種給付も設けられている。以上をふまえ、わが国の雇用保険の全体像について、学修する。
13	労働者災害補償保険（労災保険の特徴、労災の認定、保険給付、社会復帰促進等事業など） 第6章1～5「業務上の事故について補償する仕組み」：労災保険は、業務災害、つまり仕事による病気、けが、障害、死亡に対して、必要な医療サービスや金銭給付を行う制度である。労災保険は、個別の事業主の災害補償責任を保険化し、これにより被災労働者への補償が早く、公平で、確実に行われるようにしたものである。保険料はすべて事業主負担である。労災保険の保険給付は、労働者の業務上のけが、病気、障害または死亡の、業務上災害に関して行われる。保険給付としては、療養補償給付、休業補償給付、傷病補償年金、障害補償給付、遺族補償給付がある。保険給付以外にも社会復帰促進等事業が設けられ、被災労働者の社会復帰の促進、被災労働者およびその遺族の援護等の事業を行っている。わが国の労働者災害補償保険の全体像について、学修する。
14	社会保険と民間保険（社会保険と民間保険の共通点、民間保険の種類と働き） 第7章1～3「保険って、どういう仕組み？」：社会保険と民間保険の共通点として、危険を分散し、プールするという機能を有する点がある。民間保険は、保険会社と多数の加入者の間の契約によって成立する。万が一の時の補償のため、保険事業を営む会社は、国の認可だけでなく、保険業法に基づき、国の監督のもとに置かれている。民間保険の種類としては、生命保険と損害保険の２種類に分けられる。民間保険は、一人ひとりが人生設計上の必要性と費用負担能力に応じて加入し、社会保険が提供する基礎的保障を超えた個人のニーズを満たす重要な手段である。民間保険の全体像について、学修する。
15	現在の社会保障の課題と今後の展望（少子高齢化、労働市場の変化） 第８章５「今の社会保障はどんな挑戦を受けているのだろう？」：わが国は、すでに４人に１人が高齢者となり、急速な勢いで高齢化が進んでいる。一方で合計特殊出生率は1.4人台が続いており、急速な少子高齢化を迎えている。少子高齢化は、年金財政に深刻な影響を与える。また、社会経済の変化に対応して、将来に向けた社会保障の安定財源を確保する観点から、社会保障と税の一体改革が進められている。また、労働市場の変化による非正規雇用やパートやフリーターの増加は、社会保険料の収入が減少するという面においても悪影響を及ぼす。国際化の進展のなかで、外国で生活する日本人や、日本に住む外国人への社会保険の適用上の問題も生じている今日の社会保障制度が抱えている課題を学修する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 わが国の社会保障制度の主要な役割と機能について述べよ。
＜ポイント＞
社会保障は国民生活において大きな役割を果たしている。社会保障の役割・機能はいろいろあるが、教科書の説明をよく読んで、主要な役割と機能について整理すること。

科目終了試験学修のポイント

１．少子高齢化と社会保障の関係について
＜ポイント＞
今日わが国が直面している少子高齢化は、人口減少をもたらし、労働力人口の減少による社会保障財政の悪化をもたらす一方で、高齢者の増加による年金医療介護への支出が増大するという特徴をもつ。テキスト「第８章　社会保障の歴史と構造・５現在の社会保障の課題と今後の展望」を学修のこと。

２．社会保険の原理と仕組みについて
＜ポイント＞
社会保障は、国民が健康で安心して生活できるように、その生活を支える基盤としての働きがある。社会保障の 5 つの機能についても触れるとよい。

３．年金財政の仕組みと問題点について
＜ポイント＞
わが国の公的年金制度は、社会保険方式、２階建て年金の制度体系、賦課方式を基本とした財政方式に基づいて運営されており、個別制度として、国民年金、厚生年金保険がある。近年では、少子高齢社会における制度の長期的安定が課題になり、改革が積み重ねられている。

４．わが国の医療提供体制の特色と課題について
＜ポイント＞
1961（昭和 36）年の国民皆保険の実現によって、わが国では「いつでも、どこでも、誰でも、安心してかかることのできる」医療が目標とされ、画一的で平等な医療が提供されてきた。社会保険方式による医療提供体制は、患者のフリーアクセス、医療機関の自由開業医制、診療報酬の出来高払いを特徴とする。課題についても複数示すとよい。

５．生活保護制度の考え方と仕組みについて
＜ポイント＞
生活保護の基本原理、基本原則を中心にまとめること。

６．健康保険と国民健康保険の異同について
＜ポイント＞
民間企業のサラリーマンや公務員が加入する医療保険は、被用者保険または職域保険と総称され、農業者や自営業者が加入する国民健康保険は地域保険と称されている。制度間・保険者間の格差は今日徐々に縮小されているが、保険料負担や保険給付の内容が異なる点もあるため、比較整理して理解すること。

教科書

椋野美智子、他『はじめての社会保障』有斐閣。

参考文献

山崎泰彦、他『社会保障』中央法規。

科目コード	社会保障法（２単位）	登録年次	履修方法
2600		３年	R
教員名	小澤浩之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会保障法は、国民の疾病・障害・高齢・失業などの生活困難をきたす生活事故に備え、健康で文化的な生活を維持するための諸法律である。わが国の社会保障は年々充実してきたが、世界に類を見ない高齢化社会に突入したことにより、社会保障の費用負担は国民に重くのしかかってきている。本科目では、社会保障に関する基礎的な法律および国の社会保障全般のあり方について学ぶ。

学修内容

1	１社会保障とは（教科書p.3～） （１）1950（昭和25）年社会保障制度審議会勧告　公的扶助、社会保険、公衆衛生と医療、社会福祉 →最近の考え（制度別分類と機能別分類）
2	（２）社会保障の目的と機能　①目的　国民の生活保障　個人の自立の確保 ②機能　所得再分配機能　リスク分散機能　ビルト・イン・スタビライザー機能
3	２社会保障法とは（p.42～） （１）社会保障の理念　日本国憲法２５条の生存権 とくに朝日訴訟（行政裁量）、堀木訴訟(立法裁量)
4	（２）社会保障法の体系　①制度別体系論 ②給付別体系論
5	（３）社会保障法における各制度　①公的扶助　生活保護 ②社会保険　年金・医療・労災・雇用・介護（後出→３）の各保険
6	①　社会手当　児童手当　児童扶養手当　特別児童扶養手当 ④社会福祉　高齢者・児童・障害者・母子父子寡婦の各福祉
7	３介護保険（教科書になし・社会保障の概説書参照） （１）意義　社会保険方式　社会連帯による支え合い
8	（２）理念　①自己決定権の尊重（利用者本位） ②生活の継続性 ③自立支援（残存能力の活用）
9	※理念を具体化するための目標 ①自己決定権の尊重　高齢者自身による選択　利用者本位のサービス提供
10	②生活の継続性　在宅ケアの推進　介護基盤の整備 ③自立支援　予防とリハビリテーションの重視
11	（３）制度の概要　①保険者　市町村　②被保険者　第１号被保険者　第２号被保険者 ③保険給付　介護給付　予防給付　④財源　保険料など
12	※法改正　①2005（平成17）年改正　ⅰ介護予防重視型のシステム　ⅱ新たなサービス体系 ⅲ施設給付の見直し
13	①　2008（平成20）年改正　ⅰ不正事案の再発防止 ⅱ介護事業運営の適正化
14	②　2012（平成24）年改正　ⅰ地域包括ケアシステムの構築 ⅱ介護人材の確保とサービスの質の向上
15	（４）課題　制度の持続可能性 介護サービスの質の確保 被保険者の範囲の見直し

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 公的介護保険法の理念と概要について述べよ。

＜ポイント＞

平成１８年度から、介護保険制度のあり方が大幅に見直され、実施されることとなった。改正介護保険法の理念と実態との関係についてその問題点を探る。できれば個人的意見として、あるべき公的介護保険制度についても触れる。

科目終了試験学修のポイント

１．生存的基本権（社会権）について

＜ポイント＞（教科書 p.42～・他に憲法の概説書参照）社会権とくに生存権（日本国憲法２５条）をどのように理解するか。

（1）生存権の意義　20 世紀的な人権といわれる生存権は、18・19 世紀的な人権の自由権とどう違うのか。

（2）法的性格　①プログラム規定説（最高裁の考え→朝日訴訟・堀木訴訟）　②抽象的権利説（学説の多数説）

（3）課題　従来の「権利論」の当否

２．公的年金の意義について

＜ポイント＞（教科書 p.75～）

（1）公的年金の意義　所得保障の中核　社会保険方式　　（2）保険事故　①老齢　②障害　③死亡

（3）沿革　①1961（昭和 36）年の国民皆保険・皆年金　②1986（昭和 61）年の基礎年金制度

（4）課題　賦課方式　少子高齢化での世代間の格差

３．雇用保険制度の意義と機能について

＜ポイント＞（教科書 p.195、p.226、p.233）被用者保険・労働保険のひとつとしての雇用保険の意義・機能を検討する。

（1）雇用保険の意義　　（2）失業対策としての機能　失業者に対する所得保障

（3）失業予防対策としての機能　①失業の防止　②職業能力の開発　③雇用の場の創出・確保

（4）課題　非正規労働者への適用

４．通勤災害の認定について

＜ポイント＞（教科書 p.209～）

業務上の災害そのものではないが、一種の社会的危険を伴う通勤途上の災害をどのように認定するか。

（1）通勤の意義

（2）通勤の３類型　①住居と就業の場所との間の移動　②労災保険適用事業所から他の労災保険適用事業所への移動
③単身赴任者の赴任先住居と帰省先住居の移動

（3）合理的な経路及び逸脱・中断

５．社会福祉における支援費方式について

＜ポイント＞（教科書 p.50、p.242）

社会福祉基礎構造改革の理念（ノーマライゼーション）の下で創設された支援費方式を検討する。

（1）支援費の意義：サービス給付方式から費用支給方式へ　（2）その狙い：措置から契約へ　自己決定権の尊重

（3）支援費支給の具体的仕組み　（4）課題　給付面での一元化→障害者自立支援法

６．医療保険の財政方式について

＜ポイント＞（教科書 p.167～、p.25、p.80）増え続ける医療費と財政方式との関連を検討する。

（1）なぜ問題となるのか。医療費の増大→医療保険財政の持続可能性の危機→財政方式の検討

（2）財政方式の２類型　①賦課方式　②積立方式　（3）両方式の比較検討　　（4）課題　世代間扶養の当否

教科書

加藤智章、他『社会保障法』有斐閣。

参考文献

荒木誠之『社会福祉読本　第３版』有斐閣。

岩村正彦、他『目で見る社会保障法教材　第３版』有斐閣。

科目コード	社会保障論（４単位）	登録年次	履修方法
2073		２年	R
教員名	佐々木貴雄、小澤浩之、堀正昭、河野等、鳥越由紀子、文光明、辻本理絵子、森脇克樹		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、社会保障制度全体についてくまなく概説した上で、今後社会保障制度が対応していかなければならない問題は何かを検討する。年金、医療、介護保険など各制度については、制度の詳細についても学修する。そのことにより、社会福祉の現場で働く場合に必要となる、社会保障に関する専門的かつ正確な知識を習得することになる。

社会保障制度は頻繁に改正が行われている。教科書だけでなく、様々な文献で最新の動向を把握しながら、学修すること。

学修内容

1	現代社会と社会保障 社会保障制度をとりまく環境として、人口変動、経済変動、労働環境の変化について理解しておくこと。
2	社会保障の概念や対象およびその理念 社会保障の概念や範囲、役割と意義について理解しておくこと。
3	社会保障の展開 各国で社会保障制度が創設されるまでの社会保険や公的扶助の展開に加え、創設後の展開について理解しておくこと。
4	社会保障の財政 社会保障財源と社会保障給付費の推移や内訳、国民負担率について理解しておくこと。
5	社会保険・社会扶助・民間保険の関係 社会保険と社会扶助との違い、社会保険と民間保険との違いについて理解しておくこと。
6	医療保険制度の概要①医療保険の体系 各医療保険制度に加入するのはどのような人達か、保険料はどのように決められているかを理解しておくこと。
7	医療保険制度の概要②保険給付と財政 各医療保険制度の給付やそれに伴う負担、財源構成はどのようになっているかを理解しておくこと。
8	介護保険制度の概要 介護保険制度創設の経緯、制度の概要について理解しておくこと。
9	年金保険制度の概要①加入と負担 各年金保険制度に加入するのはどのような人達か、保険料はどのように決められているかを理解しておくこと。
10	年金保険制度の概要②給付と財政 各年金保険制度の給付やその受給要件、加えて私的年金の位置づけについて理解しておくこと。
11	労災保険制度 労災保険制度の適用労働者、業務災害等の認定、保険給付の内容、保険料について理解しておくこと。
12	雇用保険制度 雇用保険制度の適用労働者、保険給付の内容、保険料を含む財源構成について理解しておくこと。
13	社会手当制度 児童手当、児童扶養手当など各制度の対象者、給付内容、財源等について理解しておくこと。
14	諸外国の社会保障 主要国の社会保障制度について、年金、医療など分野別に整理することで、日本を含む各国の特徴を理解しておくこと。
15	社会保障と国際化 人口変動や国民負担率、社会支出を比較するとともに、社会保障制度の国際化への対応について理解しておくこと。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 近年の公的年金制度改正の内容や背景、その意義について、述べなさい。

＜ポイント＞

おおむね2000年以降の公的年金制度改正について、その背景にある社会や経済の変化も含めて述べること。

【設題2】 労災保険の給付対象となる災害と、給付の内容について、述べなさい。

＜ポイント＞

どのような場合に労災保険の給付対象になるか、どのような給付があるかについて述べること。

科目終了試験学修のポイント

1． 社会支出の国際比較について

＜ポイント＞

OECD基準で算出される社会支出について、GDP比や政策分野別構成など、各国の水準を比較するとともに、日本の特徴を指摘すること。

2． 健康保険制度の被保険者と被扶養者について

＜ポイント＞

健康保険制度の加入者は、被保険者と被扶養者に区分されている。年齢や労働時間、収入等の基準にも注目しながら、それぞれの要件等についてまとめること。

3． 雇用保険制度の雇用継続給付について

＜ポイント＞

雇用保険制度の雇用継続給付には2つの給付がある。それぞれの内容をまとめること。

4． 医療保険制度における出産に関する給付について

＜ポイント＞

給付の内容や、それぞれの給付の対象者についてまとめること。

5． 垂直的再分配と水平的再分配について

＜ポイント＞

所得再分配には、垂直的再分配と水平的再分配がある。それぞれの制度にこの機能がどのように組み込まれているかに加え、厚生労働省「所得再分配調査」等の結果を踏まえ、その効果についても検討すること。

6． 1980年代の社会保障制度改革について

＜ポイント＞

1980年代は基礎年金制度や老人保健制度の実施など、大きな制度改革が行われた。その内容と背景について検討すること。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集

『最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座7　社会保障』中央法規。

参考文献

喜多村悦史『身につく役立つ社会保障　苦手科目を得意科目に』中央法規。

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障　福祉を学ぶ人へ』有斐閣アルマ。

今井伸編『わかる・みえる社会保障論　事例でつかむ社会保障入門』みらい。

横山和彦・田多英範編著『日本社会保障の歴史』学文社

厚生労働省『厚生労働白書（各年版）』

国立社会保障・人口問題研究所『社会保障費用統計（各年度版）』

科目コード	社会保障論Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
3140		2年	SR
教員名	小澤浩之、河野等、佐々木貴雄、辻本理絵子、 鳥越由紀子、堀正昭、文光明、森脇克樹、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、社会保障制度全体についてくまなく概説した上で、今後社会保障制度が対応していかなければならない問題は何かを検討する。年金、医療、介護保険など各制度については、制度の詳細についても学修する。そのことにより、社会福祉の現場で働く場合に必要となる、社会保障に関する専門的かつ正確な知識を習得することになる。

社会保障論Ⅰではこのうち、社会保障の体系や機能、財政に加えて、具体的な制度としては年金・雇用・労災保険を中心に学修する。

学修内容

1	社会保障制度の体系・機能・方法（テキスト第1章） 社会保障制度は、1950年の「社会保障制度に関する勧告」のなかで、どのように定義されているか。また、日本では社会保障制度として、どのような制度が含まれているか。社会保障の機能としては、所得再分配機能や、生活と経済の安定機能などが挙げられる。
2	社会保障給付の方法（テキスト第1章） 社会保障制度には、社会保険制度や公的扶助制度などが含まれるが、仕組みや財源、機能にどのような違いがあるか。児童手当等の社会手当は、社会保険と公的扶助の中間的な位置づけにある
3	社会保障制度の財源（テキスト第2章） 国立社会保障・人口問題研究所が毎年発表している「社会保障費用統計」の内容について理解する。社会支出に加えて、社会保障給付費については、部門別、機能別の状況と、これまでの推移についても理解する必要がある。財源については、社会保険料と公費が中心であるが、近年の変化も見ておく必要がある。
4	国際的な社会保障の流れ（テキスト第4章） イギリスの救貧法や、ドイツの宰相ビスマルクによる社会保険などを経て、先進諸国で社会保障制度が創設されてきた。社会保障という言葉が世界として初めて使われた法律として、アメリカ社会保障法がある。第二次世界大戦後の社会保障計画としては、ベヴァリッジ報告が有名である。
5	日本の社会保障の発展（テキスト第4章） 特に、各種の社会保険制度がどのような経緯で作られていったか。国民皆保険・皆年金、「福祉元年」の内容は必ず押さえておきたい。また、1980年代の制度改正はどのような目的があったと考えられるか。近年は、社会保障・税一体改革も行われている。
6	年金保険制度の概要（テキスト第5章） 1階部分、2階部分、3階部分には、それぞれどのような制度が含まれているか。また、スライドとは何かについてもここで理解しておきたい。
7	年金保険制度の沿革（テキスト第5章） 国民皆年金の実現とは、どのような内容であったか。また、1980年代の基礎年金制度の実施は何を目的としていたか。今後の年金制度を考える上では、2004（平成16）年の改革が重要である。
8	国民年金（基礎年金）制度の保険者・被保険者と費用負担（テキスト第6章） 国民年金の被保険者は、大きく分けると3つに分かれており、保険料の負担方法もそれぞれ異なる。第一号被保険者には、保険料の免除や猶予となる仕組みもあり複雑である。
9	国民年金（基礎年金）制度の保険給付（テキスト第6章） 基礎年金には老齢基礎年金、障害基礎年金、遺族基礎年金がある。受給要件や、給付の内容について押さえておく必要がある。年金額の計算は、老齢基礎年金の金額がベースとなっている。加えて、第1号被保険者には独自の給付が存在する。
10	厚生年金保険の保険者・被保険者と費用負担（テキスト第7章） 厚生年金の被保険者は、国民年金にも第2号被保険者として、同時に加入することになる。保険料は定率負担であるが、上限があり、労使折半で拠出する。また、被保険者となる条件についても、理解しておきたい。
11	厚生年金保険の保険給付（テキスト第7章） 年金給付には老齢厚生年金、障害厚生年金、遺族厚生年金があり、基礎年金とは異なり報酬比例の年金であることに注意が必要である。また、就労しながら老齢厚生年金を受給している場合は、在職老齢年金の対象となることがある。また、同じ給付事由の年金であっても、基礎年金と厚生年金では対象範囲の違いがあることも理解しておきたい。

12	旧共済年金と被用者年金一元化（テキスト第7章） 以前は国家公務員、地方公務員、私立学校教職員は、共済年金に加入していたが、2015年10月から被用者年金一元化が実施された。
13	雇用保険（テキスト第12章） 雇用保険の中心的な給付は、失業時の求職者給付である。基本手当は、給付条件や給付額、給付日数等詳しく見ておく必要がある。また、雇用保険では、頻繁に給付内容の改正が続いている。特に、教育訓練給付や育児や介護等を対象とした雇用継続給付については詳しく見ておきたい。
14	労災保険（テキスト第13章） 労災保険と雇用保険では、加入対象が異なる。また、労災保険では保険料に特徴があり、それは労災保険の目的を反映したものとなっている。給付範囲も幅広く、特別給付金等の制度もある。医療保険や年金保険との棲み分けについても、把握しておきたい。
15	保険の意義と企業年金（テキスト第15章） 保険の原則には、収支相等の原則や、給付反対給付均等の原則があるが、社会保険ではどうなっているか。企業年金には、厚生年金基金、確定給付企業年金、確定拠出年金がある。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 国民年金制度の概要と課題について述べよ。

＜ポイント＞

国民年金制度の仕組みや財源、給付内容に加えて、今後の課題についても検討すること。

科目終了試験学修のポイント

1．社会保障給付費の近年の動向について
＜ポイント＞
近年の動向を部門別、機能別分類にも触れながら説明すること。

2．「国民皆保険・皆年金」とは何かについて
＜ポイント＞
「国民皆保険・皆年金」に至るまでの、医療・年金保険両制度の経緯についても触れること。

3．2004（平成16）年の年金制度改革の内容について
＜ポイント＞
制度改革の内容と、それが今後の年金財政に与える影響について考察すること。

4．雇用保険制度の雇用継続給付の内容について
＜ポイント＞
雇用継続給付には大きく分けて3つの給付がある。それぞれの対象と給付内容について説明すること。

5．労働者災害補償保険制度の財源と、保険料について
＜ポイント＞
他の社会保険と比較した保険料の特徴についても、説明すること。

6．民間保険と社会保険との違いについて
＜ポイント＞
その違いについて、2点以上示しながら論じること。

教科書

喜多村悦史『身につく役立つ社会保障』中央法規出版。

参考文献

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障　福祉を学ぶ人へ』有斐閣アルマ。

今井伸編『わかる・みえる社会保障論　事例でつかむ社会保障入門』みらい。

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座12　社会保障』中央法規。

厚生労働省『厚生労働白書（各年版）』。

科目コード	社会保障論Ⅱ（2単位）	登録年次	履修方法
3150		2年	SR
教員名	小澤浩之、佐々木貴雄、鳥越由紀子、堀正昭、文光明、森脇克樹、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、社会保障制度全体についてくまなく概説した上で、今後社会保障制度が対応していかなければならない問題は何かを検討する。年金、医療、介護保険など各制度については、制度の詳細についても学修する。そのことにより、社会福祉の現場で働く場合に必要となる社会保障に関する専門的かつ正確な知識を習得することになる。

社会保障論Ⅱではこのうち、医療・介護保険や社会保障制度の今後の課題、国際比較を中心に学修する。

学修内容

1	医療保険制度の概要（テキスト第8章） 日本の医療保険は「国民皆保険」と呼ばれるが、すべての国民が同じ医療保険に加入するわけではない。では、どのような種類の医療保険があるのか。また、医療保険の給付には医療給付と現金給付がある。
2	医療保険制度の沿革（テキスト第8章） 医療保険は、日本の社会保険の中で一番早く制度化された。歴史では、特に国民皆保険がどのように達成されていったか、福祉元年における給付の充実、老人保健制度の内容と背景について押さえておく必要がある。さらに、2008年からは新しい高齢者医療制度が実施されている。
3	医療保険制度の課題（テキスト第8章） 社会保障・税一体改革の中で、医療保険制度ではどのような改革が行われているのか。
4	健康保険（テキスト第9章） 健康保険を中心とした、被用者保険の仕組みを理解しておきたい。対象となる事業所や、被保険者と被扶養者、保険料の拠出方法、財源構成、自己負担（給付率）と給付内容については押さえておきたい。
5	国民健康保険（テキスト第10章） 国民健康保険の保険者、被保険者と保険料（税）の拠出方法、給付内容や財源構成についても押さえておきたい。また、健康保険と比較することも大切である。
6	高齢者医療制度（テキスト第10章） 2008年から後期高齢者医療制度が実施されたが、実施の背景や、老人保健制度との違いについて理解しておきたい。また、前期高齢者についても財政調整の仕組みが導入されているので、併せて理解しておきたい。
7	介護保険制度の保険者と被保険者、保険料（テキスト第11章） 2000年に介護保険が実施されるまでは、どのような制度で介護が提供されていたか。介護保険の保険者、被保険者、保険料はどのように決められているか。介護保険は地域保険であり、市町村の役割が大きいことに注目する必要がある。
8	介護保険制度の保険給付（テキスト第11章） 介護保険で給付されるサービスの内容は、要支援・要介護度によって決められるが、どのような違いがあるか。また、施設サービスにはどのようなものが含まれているか。
9	介護保険制度の利用者負担・財政構造（テキスト第11章） 介護保険の利用者負担の仕組みはどうなっているか。また、財源構成はどうなっているか。
10	介護保険の制度改正（テキスト第11章） 近年は「地域包括ケアシステム」が目指されているが、どのようなものか。社会保障・税一体改革の中では、「地域医療・介護総合確保推進法」が成立し、順次実施されている。
11	児童手当（テキスト第1章） 児童手当は、民主党政権下での子ども手当を経て、また名称は児童手当に戻ったが、この間に制度はどのように変化したか。また、ひとり親世帯向けの児童扶養手当の内容についても、併せて見ておきたい。
12	社会保障の今後の課題①人口問題（テキスト第3章） 少子化、高齢化、人口減少などの人口変動は、社会保障に大きな影響を与えている。関連して、世帯構造の変化も重要な論点である。家族の機能が弱くなるなかで、社会保障に求められる役割は、より大きくなっている。
13	社会保障の今後の課題②労働環境の変化（テキスト第3章） 働き方の変化も、社会保障に大きな影響を与える。特に非正規雇用の増加は社会保障にどのような課題を投げかけていて、それに対してどのような制度改正がなされているか。

14	諸外国の社会保障制度①主要国の年金・医療制度（テキスト第 14 章） 主要先進国の社会保障制度はどのような制度になっているか。特に、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデンについては、制度を比較しながら学ぶ必要がある。年金はどうか、医療はどうかなど、比較の視点が有用である。
15	諸外国の社会保障制度②社会保障の国際化（テキスト第 14 章） 国際機関は社会保障制度の形成において、どのような役割を果たしているか。また、国際化に伴って社会保障協定が二国間で締結されている。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 介護保険制度の概要と課題について述べよ。

＜ポイント＞

制度の内容に加えて、近年の制度改正や課題についても含めること。

科目終了試験学修のポイント

１．後期高齢者医療制度の課題について

＜ポイント＞

以前の老人保健制度との違いと、今後の高齢化の進展を踏まえて論じること。

２．国民健康保険の財源と保険料（税）について

＜ポイント＞

国民健康保険の財源構成と保険料の計算方法についても触れること。

３．児童に関する社会手当について

＜ポイント＞

近年の変更点と、現在の給付内容について触れること。

４．労働環境の変化が社会保障制度に与える影響について

＜ポイント＞

具体的な制度の内容にも触れながら、説明すること。

５．欧米の医療保障制度について

＜ポイント＞

医療保障制度の違いについて、財源調達方法の面から区分しながら示すこと。

６．医療保険制度における、出産に関する給付について

＜ポイント＞

特に出産手当金と出産育児一時金について、その給付内容や対象者を含めて示すこと。

教科書

喜多村悦史『身につく役立つ社会保障』中央法規出版。

参考文献

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障　福祉を学ぶ人へ』有斐閣アルマ。

今井伸編『わかる・みえる社会保障論　事例でつかむ社会保障入門』みらい。

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 12　社会保障』中央法規。

厚生労働省『厚生労働白書（各年版）』。

科目コード	就労支援（２単位）	登録年次	履修方法
3200		３年	R
教員名	小金澤嘉		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

近年、「就労支援」が社会福祉において大きなウエイトを占めるようになってきている。本科目では、福祉専門職として必要とされる就労支援について、最低限の知識の習得を目的とする。学修のねらいとして以下のものを挙げる。

- 相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。
- 労働を取り巻く状況について理解する。
- 就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。
- 就労支援分野との連携について理解する。

学修内容

1	私たちにとって働く事とはどのようなことなのか、社会にとって働く事はどのような意味を持つのか、国の政策として働く事はどのような位置づけになるのか理解を深める。働く事は経済的自立のみでなく、精神的自立になることについて理解を深める。
2	少子高齢化の進むなか、我が国の労働市場、労働形態は大きく変化してきている。特に、労働形態は終身雇用制度、年功序列制度から非常用雇用の増加、派遣社員の増加等被雇用者の労働状況が変化していることを理解し、労働環境を整備するには何が必要か考察する。
3	労働に関する法律と制度には、個別的労働関係の法規、集団的労使関係の法規、労働市場の法規があるが、それぞれの労働者に対する役割を理解する。その他、労働契約法、雇用保険法、労働者災害補償保険法、就労支援のための法律等、労働・就労に関わる法律の概要を理解する。
4	障害者と就労支援：従来、就労関係は労働省、福祉関係は厚生省で別々に行われていたが、厚生労働省となってより就労と福祉の連携が行われるようになっている。歴史的経緯を踏まえながら、障害者の就労支援の現状を理解する。また、数値的な観点から障害者の就労状況を考察する。
5	障害者と就労支援：障害者の就労支援の発展過程を理解することで、現在における障害者就労支援の課題を考察する。特に旧厚生省と旧労働省で縦割り的に行われてきた障害者就労支援が、厚生労働省の発足以後連携が行われていることを理解する。その上で、障害者総合支援法における就労支援制度を理解する。
6	障害者と就労支援：障害者の就労支援はいくつもの制度とサービスが本人のニーズに応じて使い分け、連携し支援を展開している。障害者雇用促進法・障害者総合支援法を中心に就労支援のサービスの根拠法を理解する。
7	障害者と就労支援：障害者総合支援法では、就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型の各事業で障害者の就労が展開されている。各事業の支援内容、利用用件、配置されている専門職について理解する。また、平成 25 年度より障害者の雇用率が変更となったが、その影響も考察する。
8	障害者と就労支援：我が国における障害者就労支援は、障害者雇用率制度を中心として行われている。雇用率制度、納付金制度、調整金制度、特例子会社制度、助成金制度を理解し、障害者雇用の現状・課題・課題への対策を実雇用者数の推移から考察する。
9	障害者と就労支援:我が国は障害者雇用率制度を採用しているが､世界的には差別禁止法で障害者の就労支援をしている国々もある。障害者雇用率制度と差別禁止法の相違を理解するとともに、障害者の権利条約における障害者就労支援の理念について考察する。
10	低所得者の就労支援：生活保護における自立概念の変化、増加を続ける生活保護世帯の世帯類型を理解し、生活保護における就労支援の必要性を考察する。また、母子世帯、ホームレスの推移と現在の状況から母子世帯、ホームレスに対する就労支援を考察する。
11	低所得者の就労支援：生活保護における自立支援プログラムの内容、機能、特に福祉事務所とハローワークの連携について理解を深める。生活保護受給者等就労自立促進事業（「福祉から就労」支援事業）の内容について理解する。また、自立支援プログラムと生活保護受給者等就労自立促進事業の違いを理解する。
12	低所得者の就労支援：福祉事務所、ハローワーク（マザーズハローワークを含む）、生活困窮者自立支援事業、母子家庭等就業・自立支援センター、ホームレスへの自立支援対策と就労支援の役割・機能・連携について理解を深める。特に近年はそれぞれが連携しながら支援を展開している点に留意すること。
13	障害者自立支援法における就労支援に関わる専門職、障害者就業・生活支援センターの担当職員の違い、ハローワークで障害者雇用を支援する専門職、地域障害者職業センターの職業カウンセラー、職場適応援助者・福祉事務所の就労支援担当者について、各事業の内容と関連させて役割・機能を理解する。

14	就労支援におけるケアマネジメントの留意点を理解する：ニーズ把握の方法、就労ニーズの特徴、留意点、支援計画の作成の留意点、就労支援の実際を事例を利用しながら理解する。
15	就労支援における連携・ネットワーキングの実際を事例を基に理解する。 社会問題として起こっているフリーター、ワーキングプア、ニートなどの要因を理解し、様々な働き方とその支援方法を理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 障害者の就労支援について事例を用いて述べよ。

＜ポイント＞

WAM-NET などで障害者の就労事例について調べ、その事例に関係している就労支援施設・機関、制度、専門職の役割・ネットワークについて論じること。その際、法律等で示されていることが事例のどの部分にあたるのか明確にし、就労に関する施設・機関・制度・サービス・連携の理解を深めること。

科目終了試験学修のポイント

1．労働法規について

＜ポイント＞

個別的労働関係の法規、集団的労使関係の法規、労働市場の法規、労働契約について理解を深めること。

2．生活保護制度における就労支援制度について

＜ポイント＞

自立支援プログラム、生活保護受給者等就労自立促進事業について理解を深めること。

3．母子世帯に対する就労支援について

＜ポイント＞

母子世帯の就労支援に関わる福祉事務所、ハローワーク、母子家庭等就労・自立支援センターについて理解を深めること。

4．低所得者の就労支援に係る組織・団体の役割について

＜ポイント＞

福祉事務所、ハローワークの機能、特に関わる専門職について理解を深めること。

5．障害者雇用率制度について

＜ポイント＞

障害者雇用率制度の概要、制度と差別禁止法との違いについて理解を深めること。

6．労働市場の変化について

＜ポイント＞

労働年齢期人口の変化、就業構造の変化、雇用形態の変化について理解を深めること。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座18　就労支援サービス』中央法規出版。

参考文献

なし

科目コード	授業研究（総合学習含む）（２単位）	登録年次	履修方法
4160		３年	ＳＲ
教員名	石渡宏、攪上哲夫、木内正範、杉山憲江、土屋修、濱地幸		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

教師の役割の第一は授業である。児童の「確かな学力」をはぐくむためには授業の充実が欠かせないことである。今、学校で教師の指導力が問われている。本科目では近年盛んに論議されている「学力」について明確にしながら、児童の学力の向上と授業との関連について考える。その中で、授業づくりのポイントとなる指導上の工夫について総合的関連的に考察を深める。また、新しい学習観にたった「総合的な学習の時間」について、その趣旨を理解するとともに授業（学習活動）の展開についても考察する。

学修内容

1	「確かな学力」を育てる授業の基本的事項（教科書②p.112～） レポート設題１ 教科書① (3) 教材と切り結んだ子ども理解、p.20～、発問、p.136～ 学修のポイント：授業に直結する基本的事項を具体的に考察する。 キーワード：確かな学力、授業づくり、学ぶ力、子ども理解、教材研究、学習技能、指導技術
2	「確かな学力」と授業との関連（教科書②p.99） 科目終了試験学修のポイント１ 学修のポイント：知識や技能を応用する確かさが定着する授業が課題になる。 キーワード：反復練習、確かさ
3	授業づくりにおける教材研究（教科書②p.116） 科目終了試験学修のポイント２ 教科書① p.39～、第５章 p.59～ 学修のポイント：教科書教材の教材化、開発教材の教材化が課題になる。 キーワード：教材研究、主たる教材（教科書）、教材開発
4	学力の基礎・基本の確実な定着を図る授業づくり（教科書②p.117） 科目終了試験学修のポイント３ 教科書② (2) 学習形態の工夫、p.56～ 学修のポイント：学修内容の系統性・重要性と授業の工夫や形態が課題になる。 キーワード：学習形態、一斉指導、少人数指導、習熟度別指導、分かる授業
5	子どもの学ぶ力をつける授業研究のあり方（教科書②p.118） 科目終了試験学修のポイント４ 学修のポイント：教師集団が授業改善を目的として、授業の見直しが課題になる。 キーワード：授業研究、授業分析、共同研究者、授業記録
6	「総合的な学習の時間」における授業づくり（教科書②p.119） 科目終了試験学修のポイント５ 学修のポイント：子どもの興味関心に基づく課題解決授業が課題になる。 キーワード：探求型の学習、知の総合化、課題の選定
7	学習指導と評価の一体化 （教科書① 第10章 p.140～） 科目終了試験学修のポイント５ 学修のポイント：指導と評価のサイクルは授業の工夫や改善が課題になる。 キーワード：絶対評価、相対評価、到達度評価、自己評価
8	教育の方法・技術 （教科書①第１章 p.1～） 学修のポイント：子ども理解を前提にして、可能性を引き出す方法・技術が課題になる。 キーワード：目的と目標、方法と技術
9	授業が目指すものは何か（教科書①第２章 p.15～） 学修のポイント：子どもの主体性を重視した教師の指導性が課題になる。 キーワード：教授の原則、基本課題
10	授業の構想と計画（教科書①第３章 p.29～） 学修のポイント：指導案作成の目的や内容（項目、形式など）が課題になる。 キーワード：指導案、教材解釈
11	問いの創造と授業展開（教科書①第４章 p.44～） 学修のポイント：子どもの疑問を重視した授業展開が課題になる。 キーワード：展開プラン、授業形態
12	授業と教授メディア（教科書①第６章 p.74～） 学修のポイント：コンピュータの多面的な活用の工夫が課題になる。 キーワード：視聴覚教育、多メディア教育
13	コンピュータの利用（教科書①第７章 p.86～） 学修のポイント：コンピュータの特性を生かした有効利用が課題になる。 キーワード：高度情報化社会、インターネット
14	学習障害（LD）の理解と指導（教科書①第８章 p.104～） 学修のポイント:学習障害の定義や事例を通して、教育現場での理解と対応が課題になる。 キーワード:定義、行動特徴、普通学級での対応
15	授業と教師（教科書①第９章 p.121～） 学修のポイント：教師の言動の影響や発問による授業展開のあり方が課題になる。 キーワード：教師のことば、ことばの機能

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】「確かな学力」を育てる授業の確立のために必要となる、いくつか（3または4）の事項について具体的に考察せよ。
＜ポイント＞
授業の成立には、目標や内容が明確になっていることが必要であることは言うまでもない。同時に、学習主体である児童の実態に即した教師の指導の工夫が欠かせない。教師と子供と教材との関連を常に念頭におく。

科目終了試験学修のポイント

1．「確かな学力」と授業との関連について
＜ポイント＞
・「確かな学力」とは？を明らかにすることが前提になる。
・授業のポイントは、教師が一人ひとりの力を引き出し、子どもが主体的に取り組み「確かな学力」が身につくような学習支援をすることである。
・一人ひとりに適切な学習支援を行うには、児童理解や教材研究、指導方法（教具）、評価などの具体的な事前研究が不可欠である

2．授業づくりにおける教材研究について
＜ポイント＞
・授業づくりの教師の役割は（1）教材の本質や矛盾を明らかすること（2）教師の願いや教えたいことを明らかにすること（3）子どもの思考・感じ方、考え方を予測することである。
・教科書の内容を教師が正しく解釈し、子どもに楽しく分かりやすく教えるために、学習過程（導入、展開、まとめ）を具体化した学習指導案を作成する。
・開発した教材は、子どもの実態（学力、興味、関心）に応じて、適切に授業化できるような学修内容、指導方法、時間数、評価などの検討が必要になる。

3．基礎・基本の確実な定着を図る授業づくり（例えば算数）について
＜ポイント＞
・各学年の学習計画（内容）を作成する時点で、系統性、重要性、関連性を重視することが必要になる。
・例えば、算数「計算のしくみ」では、各学年の学習課題と授業時間数を明らかにするとともに、1単位時間ごとの学習指導案を作成し、一人ひとりが確実に学力を身につけられる重点課題を明確にした指導の工夫が大切になる。
・指導体制として、ティーム・ティーチングや少人数指導、習塾度別指導などの工夫により、基礎・基本の確実な定着を図ることが可能になる。

4．子どもの学ぶ力をつける授業研究のあり方について
＜ポイント＞
・子どもの学力を伸ばすためには、学習状況を十分に理解するとともに、1単位時ごとの学習目標と指導計画を具体化して実践することである。
・授業研究は、数名から10数名の教師による共同研究であり、授業改善がねらいである。具体的には、(1) 授業者（A教諭）が学習指導案を作成し、他の教師に配付し、事前研修会で説明、確認する。(学力レベルを抽出=高児、中児、下児）(2) 授業参観では、共同研究者の教師が、分担して、抽出児を観察し、学習状況を記録する。(3) 事後研修会で、ビデオ、抽出児の記録などを参考に、授業分析を行い、研究授業のよかった点、改善点などを明らかにする。

5．「総合的な学習の時間」における授業（学習）づくりについて
＜ポイント＞
・この領域のねらいを明らかにすることが重要になる。
・学校の置かれた地域性や伝統、特色などを考慮した課題を児童に提供する。
・一人ひとりの興味、関心のあることについて、課題を選択し、課題解決のための活動を計画する。(資料を集めて調べる、人に聞く、現場を観察するなど)
・課題解決の経過と結果をまとめる方法や発表の仕方を検討する。

6．学習指導と評価の一体化について
＜ポイント＞
・評価のねらいは、学習状況を把握し、児童のつまずきを見極めて個に応じた適切な指導方法を考えたり、指導のあり方を修正することである。
・1単位時間の評価や単元途中の評価、総括的評価などを重視し、児童のつまずきが生じないような学習指導をすることが大切である。
・学習状況についての問題や課題を教師と児童が共有し学習課題へのステップを一緒に考えて学び方を改善し、進んで学習する意欲と努力を支援することが必要である。

教科書

①松平信久、横須賀薫『新訂　教育の方法・技術』教育出版。
②東京福祉大学編『教職科目要説　初等教育編』ミネルヴァ書房。

参考文献

天野正輝『教育方法の探求』晃洋書房。
金子光男、他『教育方法論』酒井書店。
多田俊文『教育の方法と技術』学芸図書。
松平信久、他『教育方法　第4版』教育出版。

科目コード	生涯学習概論（４単位）	登録年次	履修方法
2520/2521		２年	R/SR
教員名	小笠原眞紀、栗山究、手打明敏		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) と深く関連している。		

科目概要・到達目標

本科目では、社会教育・生涯学習の基本的知識を解説するとともに、「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」への転換をめざす学校教育改革を推進するためには社会教育・生涯学習との連携・協働が必要であることを理解することをめざす。そのために、社会教育・生涯学習と学校教育との関係を解説するとともに、社会教育・生涯学習の思想・歴史、法制度、地域学習施設、成人学習者、地域づくり等について理解を深める。

学修内容

1	社会教育・生涯学習と学校教育（1） （生涯学習・社会教育と学校教育との関係）
2	社会教育・生涯学習と学校教育（2） （生涯学習政策の展開と学校、　地域と連携・協働する学校）
3	社会教育・生涯学習の思想と歴史（1） （社会教育の思想と法制）
4	社会教育・生涯学習の思想と歴史（2） （ユネスコの生涯教育論の日本への導入、現代的課題と社会教育・生涯学習）
5	社会教育・生涯学習の法制・行政 （日本国憲法、教育基本法、社会教育・生涯学習振興行政）
6	社会教育・生涯学習の施設と職員（1） （公民館・公民館の主事）
7	社会教育・生涯学習の施設と職員（2） （図書館・司書、博物館・学芸員）
8	社会教育・生涯学習の対象と方法 （アンドラゴジー、　アウトリーチ）
9	世界の生涯学習政 （ユネスコ学習権宣言、OECD の生涯学習政策、アジアの CLC）
10	「開かれた学校」にみる社会教育 （地域学校協働活動、コミュニティスクール）
11	地域づくりと地域防災教育 （地域文化の継承、安心・安全な地域づくりと住民の学習）
12	子どもの貧困、格差に対処する社会教育 （子どもの貧困、　地域で支える仕組みづくり）
13	若者支援と居場所づくり （社会教育における青年教育、たまり場・居場所）
14	多様性を包摂する社会教育（1） （日本の多文化共生の現状）
15	多様性を包摂する社会教育（2） （国際化の進展と多文化共生教育）

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

社会教育・生涯学習の観点から「開かれた学校」を具体化するための課題について論ぜよ。論じるにあたっては、自分自身の体験を踏まえること。

＜ポイント＞

「開かれた学校」とはどのような学校になることなのかを、自身の体験をもとにあるべき姿を明示する。そのためにどのような取り組みが求められるのか、社会教育・生涯学習の観点を入れて論じる。

【設題2】

今日、地域社会には多様な課題が生起している。そのような問題のうち、社会教育・生涯学習に関わる問題を取り上げ、その問題の社会教育・生涯学習上の意味を明らかにし、課題への取り組みについて述べよ。

＜ポイント＞

授業で取り上げた地域課題の他にも、自分自身が感じている課題を取り上げてもよい。それがどのような問題であるかを説明し、その問題に対する社会教育・生涯学習の観点からの取り組みについて述べよ。

科目終了試験学修のポイント

1．「社会教育法」と「生涯学習振興法」の立法趣旨について

＜ポイント＞

1949年に制定された「社会教育法」は、戦後の民主化の影響をうけて、国民の自己教育、相互教育による「自由な学習」を重視している。また地域社会教育施設として公民館を位置づけていた。一方、「生涯学習振興法」は国民の学習要求の高度化・多様化に対応することをめざしていた。

2．学校教育を支援する社会教育の役割

＜ポイント＞

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動など地域住民による学校教育を支援するの活動への参画が求められている。学社連携、学社融合など社会教育施設を活用した事業や地域住民の地域理解を支援する社会教育事業について考える。

3．学習支援者としての社会教育専門職員の役割について

＜ポイント＞

社会教育法によれば、社会教育主事は社会教育を行う者に専門的技術指導と助言を与えることができるが、命令及び監督をしてはならないと規定されている。こ規定にもとづいて社会教育専門職員の役割について考える。

4．P.ラングランとE.ジェルピの生涯教育論を比較し、両者の特徴について

＜ポイント＞

1965年に、ユネスコでポール・ラングラン（Lengrand, P）により提唱された生涯教育は、、生涯にわたって時系列的に行われる教育を統合するとともに、家庭教育・学校教育・社会教育などに分けられて行われている教育を統合しようとするものである。他方,1972年にラングランの後を継いだE.ジェルピは被抑圧者の解放という点を強調した。

5．「たまり場」、「居場所」の教育的意味について

＜ポイント＞

学校、家庭以外の第3の場である「たまり場」と「居場所」の異同を明らかにし、今日の青少年教育の観点からその意義について考える。

6．多文化共生社会について

＜ポイント＞

地域社会がグローバル化する状況のなかで、外国籍住民を含む多様な文化背景をもつ人々と共生する地域社会あり方をめざす社会教育・生涯学習の役割を考える。

教科書

手打明敏・上田孝典編著『社会教育・生涯学習（はじめて学ぶ教職7）』ミネルヴァ書房。

参考文献

香川正弘、他『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房。
白石克己『生涯学習概論』実務教育出版。

科目コード	生涯学習支援論（４単位）	登録年次	履修方法
3330		２年	ＳＲ
教員名	手打明敏		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目は、2020 年度から実施された新しい社会教育主事養成課程の必修科目であり、「学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図ること」（文部科学省「社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令の施行について（通知）」）を目的としている。この科目では、学習支援に関する教育理論、効果的な学習支援方法、学習プログラムの編成等について具体的事例を参照して学ぶ。

学修内容

1	生涯学習を支える社会教育については、現代社会において広がる多様な生涯学習について理解するとともに、生涯学習を支援する社会教育について理解する。教科書の第１章を参照。
2	生涯学習支援の構造については、生涯学習を支援する社会教育主事、社会教育士やユースワーカーなどの学習支援者の働きについて理解する。教科書の第１章を参照。
3	学習者の主体性が育つ学習支援については、生涯にわたる発達課題を理解するとともに現代的学習課題をふまえて、主体的な学習者を育む学習支援のあり方について理解する。教科書の第２章を参照。
4	子どもとともにつくる社会については、「子ども・若者育成支援推進法」（2009 年）をふまえ、子ども・若者が主体的に人生を切り拓いていくことを目指す学習支援について理解する。教科書の第２章を参照。
5	成人の学習を支える考え方については、アンドラゴジーという成人学習理論を理解し、社会をつくる成人の学び合いとはどのようなことかを理解する。教科書の第３章を参照。
6	高齢者を捉え直すについては、生涯発達論や老年学のエイジング（agening）をふまえ、ジェロゴジーの原理にもとづく高齢者の学習支援のあり方について理解する。教科書の第４章を参照。
7	超高齢社会に生きる人々の生涯学習については、高齢者の学習の事例を参照して超高齢社会の学習について理解を深める。教科書の第４章を参照。
8	学習プログラムの企画については、学習支援の観点から学習プログラムの必要性や事業企画のデザインについて理解する。教科書の第５章を参照。
9	パートナーとしての講師や学習支援者については、公民館等の事業担当者が事業実施にあたり講師や学習支援者と協働することの意味について理解するとともに、具体的事例を通じて理解を深める。教科書の第５章を参照。
10	学習プログラムの展開については、学習の質を高める事前準備、学習の導入から終了までのプロセスと学習方法について理解を深める。教科書の第６章を参照。
11	学習プログラムの評価については、学校教育の評価との違いを理解し、学習者の主体的な学びを評価する観点、方法について理解する。教科書の第７章を参照。
12	学習支援者の種類と役割については、社会教育主事、社会教育関係職員、ボランタリーな学習支援者の３タイプについて理解を深めるとともに「社会教育士」の可能性について理解する。教科書の第８章を参照。
13	学習支援者に求められる能力については、ファシリテーション、コーディネート、プレゼンテーションの３つの能力について理解を深める。教科書の第８章を参照。
14	学習支援者の力量形成については、学習支援者自身が学び続ける学習者であるという観点から、実践的な力量形成を目指す養成・研修について理解を深める。教科書の第９章を参照。
15	学習支援者の学び合うコミュニティについては、学び合うコミュニティとはどのようなことか、さらに学び合うコミュニティのネットワークについて理解を深める。教科書の第９章を参照。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 学習者の特性をふまえた学習支援の形態、方法について述べよ。

＜ポイント＞

ペダゴジー、アンドラゴジー、ジェロゴジーの考え方にみられる学習者理論の特性をふまえて、発達課題の観点からそれぞれの世代、発達時期に対応した学習支援の方法について論じるとともに、学習者のおかれた社会的立場、例えば、幼いこどもがいる親、社会生活が困難な子ども・若者や障がい者、外国につながる子どもなどに着目し、特定の世代、対象者に着目して論じてもよい。受講者の身近に関連する学習支援の事例があれば、その事例を取り上げて論じていただいてもよい。

【設題2】 学習支援者に求められる能力と学習支援者の学び合うコミュニティとはどのようなことかを述べよ。

＜ポイント＞

学習支援者には教育委員会事務局の専門職である社会教育主事、公民館の主事や図書館の司書、博物館の学芸員などの社会教育関連施設の職員、NPOやボランティア団体のリーダーなど、立場が異なる学習支援者（社会教育士の称号を有する人材を含む）が存在することを理解するとともに学習支援者に求められ能力について述べる。また学習支援者自身が学習者として学び合う必要があることを論じる。受講者の身近に関係する事例があれば、その事例を取り上げて論じていただいてもよい。

科目終了試験学修のポイント

1． 主体性を育む学習支援について

＜ポイント＞

ユネスコ「学習権宣言」（1985年）、「子どもの権利条約」（1989年）、発達課題などを参照して、学習者の主体性を育むとはどういうことかを論述する。

2． 社会をつくる成人の学び合いについて

＜ポイント＞

アンドラゴジーの観点から成人学習者の特性について説明し、成人の学習が社会をつくる側面について論述する。

3． 高齢者の特性と学習支援について

＜ポイント＞

ジェロゴジーの観点から高齢学習者の特性について説明し、高齢期の学習支援の課題について論述する。

4． 学習プログラム展開における学習方法と空間のデザインについて

＜ポイント＞

学習プログラムを展開する上での留意点を説明し、どのような学習方法や学習空間をデザインするかを論述する。

5． 学習支援者の役割と能力について

＜ポイント＞

学習支援者の形態別に役割を説明し、学習支援者に共通して求められる能力について論述する。

6． 学習支援者の学び合うコミュニティとネットワークについて

＜ポイント＞

学び続ける学習支援者という観点から、学習支援者の養成・研修について論述する。

教科書

高井正・中村香編著『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部。

参考文献

※科目コード2240：登録年次3年・R履修　／科目コード2241：登録年次3年・SR履修　／科目コード2242：登録年次2年・SR履修

科目コード	障害児・者の心理（2単位）	登録年次	履修方法
2240/2241/2242		3年/2年	R/SR
教員名	上松勝二郎、緒方鈴子、河合雅代、須藤典征、酒井博美、中野聡子、中澤由美子、西脇雅彦、安田誠人		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

障害者の心理を学ぶことは、障害の種類について理解することから始まる。それは、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、発達障害、精神障害といったものが挙げられ、それぞれの障害ごとに学修する。また、心理学的視点から見た、それぞれの障害を持つことでの行動パターンや心理特性について学んでいく。障害児・者に関わる専門家にとって、それぞれの障害の原因や症状に関わる、科学的な基礎理解が不可欠である。症状を引き起こすメカニズムや、重症度やその予後などが正確に理解できていなければ、行動を客観的に評価できず、十分な心理的援助が期待できない。すなわち適切な心理的援助をするためにも、生理的・病理的な基本理解が必要であることを認識すべきである。その上で、人間学的視点から、障害児・者としていかに生きるか、その家族としていかに生きるか、それを専門家としてどのように支えるのかについて考察を進め、身体障害、知的障害及び精神障害の概要、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について理解する。

学修内容

1	○障害特性を理解することの重要性 ・障害児、障害者の心理を学ぶにあたって ・「障害をもつこと」とその心理（本人、家族、社会） ・家族や社会が障害の特性を理解することの重要性
2	○障害を受容すること（本人の立場から、保護者・家族の立場から ・中途障害者の障害受容過程段階説について（本人が障害を受け入れる初段階について） ・障害児の親の心理について（障害のある子を持つ親が辿る心理的プロセスについて）
3	○肢体不自由身体障害児・者（運動障害）の心理的特性と援助 ・小児脳性マヒの運動障害の機序（脳性マヒの類型、運動障害の特性、重症度の判別、合併する障害など） ・筋ジストロフィーにおける運動障害の機序（障害の類型、運動障害の特性、重症度の判別、合併する障害など） ・脳血管障害による運動障害、事故による脊髄損傷等の運動障害（障害による運動への影響について） ・上記の基礎を学んだ上でそれぞれの障害や類型、重症度などに応じた心理的援助と物理的支援のあり方について
4	○視覚障害児・者の心理的特性と援助 ・視覚障害のメカニズムおよび目の基本構造について ・視力と視覚認知について ・視覚障害児・者の行動特性および心理特性 ・視覚障害児への教育的支援　　・親への支援や理解
5	○聴覚障害児・者の心理的特性と援助 ・聴覚障害のメカニズムおよび耳の基本構造について ・聴覚と聴覚認知について（聞こえの程度、重症度の特定やｄB） ・聴覚障害児・者の行動特性および心理特性 ・聴覚障害児への教育的支援 ・親への支援や理解
6	○知的障害児・者の心理的特性と援助 ・知的障害児・者の認知特性と行動特性 ・知的障害の重症度による分類 ・知的障害に伴う併存障害や合併症 ・知的障害児への教育的支援 ・親への支援や理解
7	○発達障害児・者の心理的特性と援助①　広汎性発達障害 ・自閉症スペクトラム障害の中核症状 ・幼児期・児童期・青年期・成人期における行動特性 ・行動の理解と支援 ・広汎性発達障害児への教育的支援
8	○発達障害児・者の心理的特性と援助①　注意欠如多動性障害（ADHD）や学習障害（LD）など ・ADHDの中核症状とLDに特徴的な学習の困難性 ・幼児期・児童期・青年期・成人期における行動特性 ・行動の理解と支援 ・ADHD児、LD児および青年期・成人期における教育的支援
9	○精神障害の心理的特性と援助①（統合失調症） ・統合失調症の陽性症状と陰性症状について ・医学的治療と心理教育について ・ソーシャルスキルトレーニング（SST） ・青年期・成人期における支援や援助

10	○精神障害の心理的特性と援助②（抑うつ障害と双極性障害） ・抑うつ障害と双極性障害に関する基礎理解 ・双極性及び単極性の行動特性と認知特性について ・医学的治療と心理教育について
11	○精神障害の心理的特性と援助③（認知症） ・認知症の中核症状と周辺症状について ・長谷川式認知スケールと症状の観察 ・治療と家族支援 ・事例ケース紹介
12	○心理評価尺度の活用について ・WISC およびWAIS ・抑うつ尺度 ・CBCL（子どもの行動チェックリスト）
13	○障害児への援助と家庭・学校・医療機関との連携 ・障害のある子どもに支援するケースでは、本人への援助のほか、家族や学校との連携が重要となる。 ・発達障害者支援法の趣旨 ・法的・行政的支援とその利用
14	○障害者への援助と家庭・職場・医療機関との連携 ・障害のある成人に支援するケースでは、家族や医療機関との連携はもちろん、職場での理解も重要になる。 ・行政機関との連携 ・精神障害や認知症のケース
15	本科目は内容が豊富であるために、整理すべきことが大量に存在する。最後にまとめを行い、自身の学修ノートにまとめ直す。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 障害児・者に共通する心理的問題は何か述べよ。
＜ポイント＞
障害児・者に共通する不安や欲求不満、劣等感等と、それに基づく適応機制についてまとめること。また、障害児・者の学習や社会的適応を困難にしている環境要因を踏まえた上で、求められる適切な指導や援助について考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．中途障害者の障害受容過程段階説について
＜ポイント＞
障害受容にいたるプロセスについて、それぞれの段階での心理特性の理解が重要である。

2．障害児の親の心理について
＜ポイント＞
障害受容のみならず、問題行動に対する関わりや発達的支援についても理解することが重要である

3．知的障害児・者の心理・行動特徴について
＜ポイント＞
知的障害の程度により行動・認知特性も大きく変化する。人格特性や認知特性、行動特性やその側面に分けて理解することが重要である。

4．自閉症スペクトラム障害の援助について
＜ポイント＞
自閉症スペクトラム障害の中核障害は「対人関係の質的な障害」（他2つ）であり、行動特性や対人認知特性を踏まえた援助の重要性を理解しなければならない。

5．聴覚障害児・者のコミュニケーションについて
＜ポイント＞
先天性の聴覚障害者においては、言語発達に決定的な遅れを生じさせることがある。聞こえの程度と言語理解の状況によって、適切なコミュニケーション指導と支援が必要となる。

6．抑うつ障害者の援助について
＜ポイント＞
多くの精神障害の中でももっとも支援を必要とする方が多い。医療機関との連携や家族への支援も重要であることを認識することが重要である。

教科書

太田信夫監修、柿崎敏文編　『シリーズ心理学と仕事　障害者心理学』　北大路書房。

参考文献

坂本龍生他『障害児理解の方法』学苑社。
田中農夫男、他『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』福村出版。
井澤信三　他編『障害児心理入門第2版』ミネルヴァ書房。

科目コード	障害児教育課程論（２単位）	登録年次	履修方法
6380		３年	R
教員名	木内正範、工藤傑史、須藤典征、西脇雅彦		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

特別支援学校は、「学校教育法」第 72 条に定める目的を実現するために設けられたが、幼、小、中、高等学校に準ずる教育とともに、障害にもとづく困難を改善・克服するために特別な教育をすることを目標にしている。ここでは、教育課程はこの学校の目的・目標を達成するための教育内容であり、「学校教育法」をはじめとする教育関係法令及び学習指導要領にその基準が示されていることを理解する。そして、障害のある子ども達が自らの可能性を伸ばし、自立・社会参加の基盤となる生きる力を培うために、きめ細かな指導と教育課程の改善の視点が欠かせないことも学ぶ。

学修内容

1	オリエンテーション Ⅰ　障害児教育の基本　1･2･3　障害児教育の概念①②③（pp.1-13） キーワード：障害者の権利に関する宣言、障害者基本法、サラマンカ宣言、ノーマライゼーション
2	Ⅰ　障害児教育の基本 4･5･6　障害をもって生きる①②③（pp.14-25） キーワード：リハビリテーション、ＡＤＬ、ＱＯＬ、国際障害者年、ハートビル法、障害者権利条約
3	Ⅱ　障害者教育の歴史と今日的課題　１草創期の障害児教育（pp.26-35）　２普通児教育の成立と障害児教育（pp.28-29）　３わが国における障害児教育の転換（pp.30-35） キーワード：公立養護学校整備特別措置法、就学基準、聾唖学校、1944 教育法（イギリス）
4	Ⅲ　障害児教育から特別支援教育へ　１日本の特別支援教育（pp.36-41）　２アメリカ（pp.42-45）　３イギリス（pp.46-49）　４スウェーデン（pp.50-53） キーワード：障害者基本計画、障害者教育法（アメリカ）、ウォーノック報告（イギリス）、学校教育法（スウェーデン）
5	Ⅳ　障害児の発達特性と教育方法　１障害発生の時期と障害児（者）のライフコース（pp.54-55）　２視覚障害（pp.56-59）　３聴覚障害（pp.60-65）４知的障害（pp.66-69）５～７自閉症①②③（pp.70-79）　８肢体不自由（pp.80-85） キーワード：障害発生、障害原因、障害特性、就学指導委員会、早期教育
6	Ⅳ　障害児の発達特性と教育方法　９病弱（pp.86-89）　１０言語障害（pp.92-93）　１１情緒障害（pp.94-97）　１２重度・重複障害（pp.98-101） キーワード：学習空白、教育・福祉的配慮、個別の指導計画、6 区分 26 項目
7	Ⅴ　発達障害のある子どもの理解と教育支援　1 発達障害のある子の理解①学習障害（pp.102-103）2 発達障害のある子の理解②ＡＤＨＤ（pp.104-105）3 発達障害のある子の理解③高機能自閉症（pp.106-107） キーワード：困り感、学習場面、二次的な問題、広汎性発達障害
8	Ⅴ　発達障害のある子どもの理解と教育支援　4 発達障害のある子どもへの教育支援①学習障害（pp.108-109）5 発達障害のある子どもへの教育支援②学習障害（pp.110-113）6 発達障害のある子どもへの教育支援③ＡＤＨＤ（pp.114-115）7 発達障害のある子どもへの教育支援④高機能自閉症（pp.116-117） キーワード：苦手意識、自己肯定感、実行機能、過敏性、人間関係
9	Ⅵ　特別支援学校、特別支援学級、通級による指導の教育課程　1 特別支援学校の教育課程（pp.118-121）　2 領域「自立活動」（pp.122-125）3 知的障害特別支援学校の教育課程（pp.126-129）３特別支援学級、通級による指導の教育課程（pp.130-131） キーワード：教育課程の基準、教育目標の統一、生きる力、訪問教育、領域・教科を合わせた指導
10	Ⅶ　指導要録の改善と教育評価　１特別支援学校教育における指導要録の改善（pp.132-135）　２障害児教育における評価のあり方と指導（pp.136-139） キーワード：相対評価、絶対評価、個人内評価、教育評価、通知表
11	Ⅷ　障害児の発達のアセスメントと支援　１障害児保育のアセスメントと発達支援（pp.140-143）２知的障害児のアセスメントと発達支援（pp.144-147）３個別の教育支援計画（pp.148-151）４個別の移行支援計画（pp.152-153） キーワード：障害児保育対策事業、身ぶり動作、サイン言語、モニタリング
12	Ⅸ　障害児教育・療育の専門職の資格と養成　1 特別支援学校教諭等の資格と養成（pp.154-157）２福祉関係専門職の資格と養成（pp.158-159）３医療関係専門職、心理関係専門職資格と養成（pp.160-161） キーワード：特別支援教育コーディネーター、免許法認定講習、保育士、理学療法士、作業療法士
13	Ⅹ　障害児教育の課題　１合理的配慮（pp.162-163）２就学前障害児保育のあり方（pp.164-167）３統合保育（pp.168-169）４交流及び共同作業（pp.170-171） キーワード：障害児保育、統合保育、インクルーシブ保育、共生社会
14	Ⅹ　障害児教育の課題　５教育相談（pp.172-175）６コミュニケーションの発達を促す指導（pp.176-177） キーワード：カウンセリング・マインド、保護者との連携、指導法のユニヴァーサルデザイン
15	Ⅹ　障害児教育の課題　７気になる就学前児の保育・育児（pp.178-181）　８医療的ケア（pp.182-187）　９障害児に役立つ福祉制度（pp.188-191）　10 障害児をもつ親のあり方（pp.192-193） キーワード：保育対応、窓口相談、思春期危機、児童福祉法、手帳制度、在宅福祉支援、養育態度

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 特別支援学校における教育課程の編成と教育目標について述べよ。

＜ポイント＞

特別支援学校の教育課程は、「幼稚園、小・中・高等学校の教育課程」の基準に準ずることが基本であるが、「一人一人のニーズに応じた」教育目標のために特別の教育課程が編成できることを理解する。また、特別支援学級や通級による指導についても把握した上でまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．特別支援学校における教育課程について

＜ポイント＞

「学校教育法第72条」（特別支援学校の目的）をふまえ、学校教育法施行規則第126条から第132条により、児童生徒の障害の特性や発達段階、地域や学校の実態を考慮し、前年度の教育課程実施の評価（成果と課題）を活かして、全教育の総力で教育課程を編成することが求められる。特に児童生徒の立場から、日々の学修内容を充実させる視点で考えるとよい。

2．特別支援学校における教育目標について

＜ポイント＞

障害のある子に対する学校の教育目標は、「幼・小・中・高等学校に準ずる教育」として、学校教育法第23条「保育の目標」、第30条「小学校教育目標」、第46条「中学校教育目標」、第51条は「高等学校教育目標」などの規定がある。また、障害のある子に対する独自の教育目標は、学習指導要領「総則」に示されている。両方の教育目標を調べ、学修する。

3．特別支援学校（知的障害）における教育課程について

＜ポイント＞

知的障害特別支援学校の教育課程には、「領域・教科を合わせた指導」とともに、「領域・教科別指導」による教育課程の編成が必要になる。そして双方の関係を明確にすることで、よりよい指導が可能になる。

4．特別支援学校における領域・教科を合わせた指導について

＜ポイント＞

知的障害や重複障害のある子の教育は、「学校教育法施行規則第130条2」により、「領域・教科を合わせた指導」の授業を行うことができる。「日常生活の指導」「遊びの指導」「生活単元学習」「作業学習」などの学習形態や、「自立活動」も含めた教育課程を編成して適切な指導をすることが求められる。

5．特別支援学校における自立活動について

＜ポイント＞

自立活動は、①健康の保持②心理的な安定③人間関係の形成④環境の把握⑤身体の動き⑥コミュニケーションの6区分（26項目）が内容である。各種の障害のある子の自立と社会参加のために、その必要性を理解するとともに、「個別の指導計画」を作成してきめ細やかな指導を行うことが重要である。

6．特別支援学級及び通級による指導における教育課程について

＜ポイント＞

特別支援学校の教育課程は、「学校教育法施行規則第138条」により、「特別の教育課程によることができる。」とあり、その意味を理解することが重要である。通級による指導の教育課程は「学校教育法施行規則第140条」により、「障害に応じた特別の教育課程によることができる。」とあり、「自立活動」の領域において編成することになる。障害のある子一人ひとりに即した適切な教育課程の編成が求められる。

教科書

石部元雄、上田征三、他『よくわかる障害児教育　第3版』ミネルヴァ書房。

参考文献

石部元雄、他『特別支援教育ー理解と推進のために』福村出版。

茂木俊彦『障害児教育大事典』旬報社。

※科目コード6180：2単位・R履修
※科目コード6181：2単位・SR履修

科目コード	障害児教育論（2単位）	登録年次	履修方法
6180/6181		2年	SR
教員名	上田征三、須藤典征、西脇雅彦		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

障害児教育を取り巻く現在の課題には、就学基準の見直しとその弾力的運用、そして、教師を含む専門家の役割の再検討が挙げられる。その背景は、リハビリテーションとノーマライゼーションの国際的進展にもあるが、わが国でも教育制度の大幅な見直しが「特別支援教育」としてなされようとしている。

以上をふまえ、まず、障害児教育と福祉のあゆみ、障害の理解と教育方法について学ぶ。さらに、就学前や就学期はもとより、将来の障害児本人の自立・社会参加を念頭に置いた新たな教師の役割を理解する。

学修内容

1	特別支援教育の基本：①「障害」とはでは、国際的な視点から今日の到達点や「障害者の権利条約」を2014年1月わが国が批准したことを理解する。②障害の構造的理解では、障害が社会との関連で論じられるようになった国連及び、WHOの「国際障害分類」や「国際生活機能分類（ICF）」の理解と活用を整理する。（テキストp.2～）
2	特別支援教育の基本：③インクルージョンに向けてでは、ノーマライゼーション理念の進展を受けて、統合教育が進み、さらに「質的な統合」や「同世代の人が分け隔てられない」ことを重視する「インクルーシブ教育」がわが国においても課題であることを理解する。④障害の受容では、これまでの研究から明らかになったことやその障害受容の段階を理解する。（テキストp.10～）
3	特別支援教育の基本：⑤「自分らしく生きる」ということの支援では、リハビリテーションの役割と「障害や病気があってもあたりまえの生活ができる」というノーマライゼーションの意味を理解する。⑥障害者の権利擁護の現状と課題では、権利擁護者の課題は、身近な権利擁護の仕組みを理解し自立支援の視点を学ぶ。（テキストp.18～）
4	特別支援教育の歴史と課題：①障害児教育の始まりと公教育では、欧米やわが国の障害児教育の歩みを理解する。また、わが国の明治期以後の障害児教育（特殊教育）を整理し、とくに、戦後の義務教育の流れを理解する。②わが国の特別支援教育の現状では、1979年4月からの「養護学校義務化」に伴う障害児の「完全就学」の意味と課題を整理するが、「インクルーシブ教育」の視点から「特別支援教育」への転換が図られていることを理解する。（テキストp.26～）
5	障害児教育から特別支援教育へ：①日本の特別支援教育では、わが国の障害児教育が2001年から第3期に入ったこと、つまり、盲・聾・養護学校から特別支援学校への転換と通常学級における支援も含めた教育の転換が推進されていることを理解する。②諸外国の特別支援教育では、アメリカやイギリス、スウェーデンの特別支援教育の仕組みや「個に応じた教育」について具体的に学ぶ。（テキストp.36～）
6	障害児の発達特性と教育方法：①障害発生とライフコースでは、障害の発生時期やその原因と医療・福祉・教育・労働などの役割を理解する。②視覚障害、③聴覚障害では、感覚受容器である目や耳の構造とそれから得られた情報を脳に伝えるまでの働きを理解する。また、視覚障害、聴覚障害は、コミュニケーション言語とその後の文字言語獲得に向けてどのような困難があるかを映像などで具体的に学ぶ。（テキストp.54～）
7	障害児の発達特性と教育方法：④知的障害では、知的機能と精神機能や情動の働きなどを区別して知的障害の根本的な「生活のしづらさ」を学ぶ。また、発達検査についても理解し知的機能とは何かを明らかにする。⑤自閉症では、自閉症研究の歴史を簡単に学び、自閉症の診断基準や発達特性、そして、「教育活動の構造化」の例から映像などで具体的に学ぶ。（テキストp.66～）
8	障害児の発達特性と教育方法：⑥肢体不自由では、肢体不自由の起因疾患別分類を理解し、そのなかでも、脳性まひ児の発達特性や心理的特性、保育・教育について学ぶ。⑦病弱では、悪性新生物やネフローゼ症候群などの病気の理解をし、接し方の基本的配慮、年齢に応じた教育・福祉的配慮について映像などで理解する。（テキストp.76～）
9	障害児の発達特性と教育方法：⑧言語障害では、言語の発達過程や構音の発達を理解し、言語障害が生じる要因や各レベルの主な言語障害について理解する。⑨情緒障害では、医学的基礎と定義を学び、情緒障害の種類と教育・福祉の現状や配慮について理解する。⑩重度・重複障害では、その定義と分類を理解し、「動く重症児」「超重度障害児」「思春期危機」といったことが課題として取りあげられてきたことも理解する。（テキストp.86～）
10	発達障害のある子どもの理解と教育支援：①学習障害、②ADHD、③高機能自閉症では、それぞれの診断について学び、その「困り感」について具体的に理解する。その上で、それぞれの教育支援の基本として、具体的な研究や試みが進んできたことを理解する。また、授業や集団の中で「動けるようになる」「トラブルを避ける」といった点も映像などで学ぶ。（テキストp.102～）

11	特別支援教育における教育課程：①教育課程では、その基準と「学習指導要領」について理解し、「準じた教育」の意味を学ぶ。②自立活動では、特別支援学校では、「領域」としての「自立活動」があることを学びその内容を知る。③知的特別支援学校、④特別支援学級及び通級では、それぞれの具体的な教育課程の編成を理解し、とくに、知的障害特別支援学校における「領域・教科を合わせた指導」や「自立活動」について具体的に学ぶ。（テキスト p.118～）
12	指導要録の改善と教育評価：①指導要録の改善では、「指導要録」とは何かを理解しその評価法や基本的な評価例について学ぶ。②障害児教育における評価のあり方と指導では、その意義について理解し、「個別の指導計画」における評価の手順について具体的に学ぶ。（テキスト p.132～）
13	障害児の発達のアセスメントと発達支援：①障害児保育のアセスメントと支援では、保育段階における「気になる子」のアセスメントの具体例を挙げながら各発達検査についても理解し指導計画立案のポイントを理解する。とくに、知的障害児については、よく使用される心理検査の活用例や発達支援の方法について学ぶ。②教育支援・移行支援計画では、「個別の教育支援計画」策定の社会的背景やその概要と「個別の指導計画」との関係を理解する。（テキスト p.140～）
14	特別支援教育・療育の専門職の資格と養成：①特別支援学校教諭では、その教育に関する科目および最低修得単位数や特別支援教育コーディネーターの養成研修について学ぶ。②福祉専門職、③医療・心理では、福祉関係専門職や医療・心理関係専門職などの資格とその養成を理解する。同時に、そういった多職種との連携が欠かせないことを理解する。（テキスト p.154～）
15	障害児教育の課題:：①合理的配慮では、「障害者の権利条約」を受けた中央教育審議会の報告では、「合理的配慮」がキーワードになっていることを学び、その観点を理解する。②就学前・統合・交流教育、③教育相談、④コミュニケーション、⑤「気になる子」医療・福祉・親のあり方などに関しては、このテキストで学んだことを踏まえて現状と課題を整理する。（テキスト p.162～）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 障害児の理解と教育についてまとめよ。
＜ポイント＞
障害ごとの定義や概念、特性を整理し、その正しい理解と教育方法や自立支援について整理する。

科目終了試験学修のポイント

1．障害児教育と特別支援教育のあゆみについて
＜ポイント＞
特別支援教育に至る背景を理解する。

2．障害児・者の状況と我が国の教育制度について
＜ポイント＞
特別支援学校、特別支援学級の在籍児、及び通級利用児の現状を理解する。

3．障害の理解と指導について
＜ポイント＞
それぞれの障害について正確に理解し指導上の留意点について理解する。

4．特別支援教育における学校や教師の役割について
＜ポイント＞
教員や学校に求められる知識・技術、マインドについて理解する。

5．特別支援学校における教育課程について
＜ポイント＞
さまざまな児童に対応できる教育課程編成の意味とその応用を学ぶ。

6．特別支援学校における自立活動の内容について
＜ポイント＞
さまざまな児童に対応できる自立活動の編成と応用を学ぶ。

教科書

石部元雄、上田征三、他『よくわかる障害児教育　第3版』ミネルヴァ書房。

参考文献

石部元雄、他『特別支援教育―理解と推進のために　改訂版』福村出版。
文部科学省
『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領　平成21年3月告示』海文堂出版。
『特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）　平成21年6月』海文堂出版。
『特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（高等部）　平成21年12月』海文堂出版。
文部科学省
『特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚部・小学部・中学部）　平成21年6月』教育出版。

科目コード	障害者・障害児心理学	登録年次	履修方法
3620		3年	SR
教員名	酒井博美、須藤典征、緒方鈴子、上松勝二郎、中野聡子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

障害者の心理を学ぶことは、障害の種類について理解することから始まる。それは、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、発達障害、精神障害といったものが挙げられ、それぞれの障害ごとに学修する。また、心理学的視点から見た、それぞれの障害を持つことでの行動パターンや心理特性について学んでいく。障害児・者に関わる専門家にとって、それぞれの障害の原因や症状に関わる、科学的な基礎理解が不可欠である。症状を引き起こすメカニズムや、重症度やその予後などが正確に理解できていなければ、行動を客観的に評価できず、十分な心理的援助が期待できない。すなわち適切な心理的援助をするためにも、生理的・病理的な基本理解が必要であることを認識すべきである。その上で、人間学的視点から、障害児・者としていかに生きるか、その家族としていかに生きるか、それを専門家としてどのように支えるのかについて考察を進め、身体障害、知的障害及び精神障害の概要、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について理解する。

学修内容

1	○障害特性を理解することの重要性 ・障害児、障害者の心理を学ぶにあたって ・「障害をもつこと」とその心理（本人、家族、社会） ・家族や社会が障害の特性を理解することの重要性
2	○障害を受容すること（本人の立場から、保護者・家族の立場から ・中途障害者の障害受容過程段階説について（本人が障害を受け入れる初段階について） ・障害児の親の心理について（障害のある子を持つ親が辿る心理的プロセスについて）
3	○肢体不自由身体障害児・者（運動障害）の心理的特性と援助 ・小児脳性マヒの運動障害の機序（脳性マヒの類型、運動障害の特性、重症度の判別、合併する障害など） ・筋ジストロフィーにおける運動障害の機序（障害の類型、運動障害の特性、重症度の判別、合併する障害など） ・脳血管障害による運動障害、事故による脊髄損傷等の運動障害（障害による運動への影響について） ・上記の基礎を学んだ上でそれぞれの障害や類型、重症度などに応じた心理的援助と物理的支援のあり方について
4	○視覚障害児・者の心理的特性と援助 ・視覚障害のメカニズムおよび目の基本構造について ・視力と視覚認知について ・視覚障害児・者の行動特性および心理特性 ・視覚障害児への教育的支援　　・親への支援や理解
5	○聴覚障害児・者の心理的特性と援助 ・聴覚障害のメカニズムおよび耳の基本構造について ・聴覚と聴覚認知について（聞こえの程度、重症度の特定やｄB） ・聴覚障害児・者の行動特性および心理特性 ・聴覚障害児への教育的支援 ・親への支援や理解
6	○知的障害児・者の心理的特性と援助 ・知的障害児・者の認知特性と行動特性 ・知的障害の重症度による分類 ・知的障害に伴う併存障害や合併症 ・知的障害児への教育的支援 ・親への支援や理解
7	○発達障害児・者の心理的特性と援助①　広汎性発達障害 ・自閉症スペクトラム障害の中核症状 ・幼児期・児童期・青年期・成人期における行動特性 ・行動の理解と支援 ・広汎性発達障害児への教育的支援
8	○発達障害児・者の心理的特性と援助①　注意欠如多動性障害（ADHD）や学習障害（LD）など ・ADHD の中核症状と LD に特徴的な学習の困難性 ・幼児期・児童期・青年期・成人期における行動特性 ・行動の理解と支援 ・ADHD 児、LD 児および青年期・成人期における教育的支援
9	○精神障害の心理的特性と援助①（統合失調症） ・統合失調症の陽性症状と陰性症状について ・医学的治療と心理教育について ・ソーシャルスキルトレーニング（SST） ・青年期・成人期における支援や援助

10	○精神障害の心理的特性と援助②（抑うつ障害と双極性障害） ・抑うつ障害と双極性障害に関する基礎理解 ・双極性及び単極性の行動特性と認知特性について ・医学的治療と心理教育について
11	○精神障害の心理的特性と援助③（認知症） ・認知症の中核症状と周辺症状について ・長谷川式認知スケールと症状の観察 ・治療と家族支援 ・事例ケース紹介
12	○心理評価尺度の活用について ・WISC およびWAIS ・抑うつ尺度 ・CBCL（子どもの行動チェックリスト）
13	○障害児への援助と家庭・学校・医療機関との連携 ・障害のある子どもに支援するケースでは、本人への援助のほか、家族や学校との連携が重要となる。 ・発達障害者支援法の趣旨 ・法的・行政的支援とその利用
14	○障害者への援助と家庭・職場・医療機関との連携 ・障害のある成人に支援するケースでは、家族や医療機関との連携はもちろん、職場での理解も重要になる。 ・行政機関との連携 ・精神障害や認知症のケース
15	本科目は内容が豊富であるために、整理すべきことが大量に存在する。最後にまとめを行い、自身の学修ノートにまとめ直す。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 障害児・者に共通する心理的問題は何か述べよ。
＜ポイント＞
障害児・者に共通する不安や欲求不満、劣等感等と、それに基づく適応機制についてまとめること。また、障害児・者の学習や社会的適応を困難にしている環境要因を踏まえた上で、求められる適切な指導や援助について考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．中途障害者の障害受容過程段階説について
＜ポイント＞
障害受容にいたるプロセスについて、それぞれの段階での心理特性の理解が重要である。

2．障害児の親の心理について
＜ポイント＞
障害受容のみならず、問題行動に対する関わりや発達的支援についても理解することが重要である

3．知的障害児・者の心理・行動特徴について
＜ポイント＞
知的障害の程度により行動・認知特性も大きく変化する。人格特性や認知特性、行動特性やその側面に分けて理解することが重要である。

4．自閉症スペクトラム障害の援助について
＜ポイント＞
自閉症スペクトラム障害の中核障害は「対人関係の質的な障害」（他2つ）であり、行動特性や対人認知特性を踏まえた援助の重要性を理解しなければならない。

5．聴覚障害児・者のコミュニケーションについて
＜ポイント＞
先天性の聴覚障害者においては、言語発達に決定的な遅れを生じさせることがある。聞こえの程度と言語理解の状況によって、適切なコミュニケーション指導と支援が必要となる。

6．抑うつ障害者の援助について
＜ポイント＞
多くの精神障害の中でももっとも支援を必要とする方が多い。医療機関との連携や家族への支援も重要であることを認識することが重要である。

教科書

太田信夫監修、柿崎敏文編　『シリーズ心理学と仕事　障害者心理学』　北大路書房。

参考文献

坂本龍生他『障害児理解の方法』学苑社。
田中農夫男、他『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』福村出版。
井澤信三　他編『障害児心理入門第2版』ミネルヴァ書房。

科目コード	障害者福祉論（４単位）	登録年次	履修方法
2020/2021		２年	ＳＲ
教員名	上田征三、上松勝二郎、茅野由紀、須藤典征、 田中利光、中村淑子、西村明子、牧坂浩之、山﨑篤		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

今日、障害者福祉の考え方は、国連の人権宣言やノーマライゼーションの理念に基づいて発展してきている。本科目ではまず、障害者福祉の理念と考え方、歴史的変遷、法体系、障害者運動の展開、障害の種類の多様性とニーズの多様性など、障害者に関する基礎知識を学修する。そして、福祉現場に出たときに必要な援助方法について、障害別に事例ケースを基に紹介する。障害者福祉に関する施策は近年多くの変化を見せつつあるが、これを単に知識として理解するのではなく、実践と結びつけながら、現場で生きる理解を深める。

学修内容

1	障害者を取り巻く社会情勢 （障害者を取り巻く社会情勢：国際障害者年を中心とした国際情勢と、その影響を受けてのわが国の状況を押さえることを基本に理解する。）
2	障害者を取り巻く生活実態（1） （障害者の生活実態：事例より―参加の次元の促進を基本に、環境因子がどのように社会生活に影響をもたらすのかを重視し理解する。）
3	障害者を取り巻く生活実態（2） （WHO の ICF にみる障害の考え方の変化：ICF の成立経緯とその特徴を押さえる、医学モデルと生活モデルの特徴：ICIDH で指摘された医学モデルと ICF の社会生活モデルの相違を理解し、全人的視点に立った支援の視点を知る。）
4	障害者にかかわる法体系（1） （障害者基本法、身体障害者福祉法：三障害を包括した障害者基本法の概要と、身体障碍者福祉法の概要を知る。）
5	障害者にかかわる法体系（2） （知的障害者福祉法、精神保健福祉法：それぞれの法律の概要を把握する。）
6	障害者にかかわる法体系（3） （発達障害者支援法、障害者虐待防止法、医療観察法、バリアフリー新法等：比較的新しいこれらの法律の特徴を理解し、今日の障害者の社会参加との関わりを理解する。）
7	障害者自立支援制度（1） （理念・考え方、自立支援給付：障害者自立支援法の成立経緯を理解し、自立支援給付の具体的内容を知る。）
8	障害者自立支援制度（2） （支給決定のプロセス、自立支援医療費、舗装具等：それぞれの具体的内容に踏み込んで理解する。）
9	障害者自立支援制度（3） （地域生活支援事業、障害福祉計画、苦情解決、審査請求等：それぞれの具体的内容に踏み込んで理解する。）
10	障害児に対する支援（1） （施策の歴史：戦後の児童福祉法における障害児の法的位置づけからはじまり、発達障害者支援法までの障害児に対する制度施策の経過を理解する。）
11	障害児に対する支援（2） （最近の動向：障害児と児童相談所や保健所等の関わり、発達障害者支援法との関わりを含め動向を理解する。）
12	組織・機関の役割 （行政機関の役割、その他の事業者等の役割。）
13	専門職の役割 （専門職の価値と倫理、主な専門職員と役割：障害者福祉にかかわる専門職とかれらの職業倫理を理解する。）
14	他職種連携 （連携の実際：保健・医療福祉の連携、チームケアの実際を理解する。）
15	ネットワーキング （ネットワーキングの動向：地域自立生活支援の視点から、障害児・者に対するネットワーキングの実際を知る。）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 障害者福祉施策の概要について述べよ。

＜ポイント＞

わが国の障害者福祉施策の概要を、身体障害者福祉、知的障害者福祉、障害児福祉、および精神障害者福祉のそれぞれについて、関連する法規と対応させながらまとめ、今後のあり方について述べよ。

【設題2】 障害者雇用の現状と課題について述べよ。

＜ポイント＞

障害者の社会参加を支援するための法整備や施策について整理し、今後のあり方について自分なりに考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．障害者福祉の基本理念について

＜ポイント＞

歴史的な理念の変遷をよく理解することが重要である。

2．障害の概念について

＜ポイント＞

WHO の国際生活機能分類の障害概念をよく理解することが必要である。

3．ノーマライゼーションの理念について

＜ポイント＞

バンク・ミケルセンから始まる今日のノーマライゼーションの歴史をよく学修していただきたい。

4．障害者福祉の法体系とサービス内容について

＜ポイント＞

法体系とサービス内容は年々変化しているので最新情報を常に収集することが必要である。

5．障害者福祉における民間活動について

＜ポイント＞

民間活動の歴史をよく学修してもらいたい。

6．障害者福祉分野における多職種連携・ネットワーキングについて

＜ポイント＞

実際に当事者団体や援助団体等に当たって、具体的な状況を知るのも大切な学修の一つである。

教科書

（平成 20 年度までの配本）

福祉士養成講座編集委員会『社会福祉士養成講座3　障害者福祉論』中央法規。

（平成 21 年度以降の配本）

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 14　障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規。

参考文献

大野智也『障害者はいま』岩波新書。

佐藤久夫『障害者福祉論』誠信書房。

科目コード	障害者福祉論（２単位）	登録年次	履修方法
2022		２年	ＳＲ
教員名	上田征三、上松勝二郎、茅野由紀、須藤典征、田中利光、 中村淑子、西村明子、牧坂浩之、山﨑篤、渡辺博文		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

今日、障害者福祉の考え方は、国連の人権宣言やノーマライゼーションの理念に基づいて発展してきている。本科目ではまず、障害者福祉の理念と考え方、歴史的変遷、法体系、障害者運動の展開、障害の種類の多様性とニーズの多様性など、障害者に関する基礎知識を学修する。そして、福祉現場に出たときに必要な援助方法について、障害別に事例ケースを基に紹介する。障害者福祉に関する施策は近年多くの変化を見せつつあるが、これを単に知識として理解するのではなく、実践と結びつけながら、現場で活きる理解を深める。

学修内容

1	障害者を取り巻く社会情勢 （障害者を取り巻く社会情勢：国際障害者年を中心とした国際情勢と、その影響を受けてのわが国の状況を押さえることを基本に理解する。）
2	障害者を取り巻く生活実態（1） （障害者の生活実態：事例より―参加の次元の促進を基本に、環境因子がどのように社会生活に影響をもたらすのかを重視し理解する。）
3	障害者を取り巻く生活実態（2） （WHO の ICF にみる障害の考え方の変化：ICF の成立経緯とその特徴を押さえる、医学モデルと生活モデルの特徴：ICIDH で指摘された医学モデルと ICF の社会生活モデルの相違を理解し、全人的視点に立った支援の視点を知る。）
4	障害者にかかわる法体系（1） （障害者基本法、身体障害者福祉法：三障害を包括した障害者基本法の概要と、身体障害者福祉法の概要を知る。）
5	障害者にかかわる法体系（2） （知的障害者福祉法、精神保健福祉法：それぞれの法律の概要を把握する。）
6	障害者にかかわる法体系（3） （発達障害者支援法、障害者虐待防止法、医療観察法、バリアフリー新法等：比較的新しいこれらの法律の特徴を理解し、今日の障害者の社会参加との関わりを理解する。）
7	障害者自立支援制度（1） （理念・考え方、自立支援給付：障害者自立支援法の成立経緯を理解し、自立支援給付の具体的内容を知る。）
8	障害者自立支援制度（2） （支給決定のプロセス、自立支援医療費、舗装具等：それぞれの具体的内容に踏み込んで理解する。）
9	障害者自立支援制度（3） （地域生活支援事業、障害福祉計画、苦情解決、審査請求等：それぞれの具体的内容に踏み込んで理解する。）
10	障害児に対する支援（1） （施策の歴史：戦後の児童福祉法における障害児の法的位置づけからはじまり、発達障害者支援法までの障害児に対する制度施策の経過を理解する。）
11	障害児に対する支援（2） （最近の動向：障害児と児童相談所や保健所等の関わり、発達障害者支援法との関わりを含め動向を理解する。）
12	組織・機関の役割 （行政機関の役割、その他の事業者等の役割。）
13	専門職の役割 （専門職の価値と倫理、主な専門職員と役割：障害者福祉にかかわる専門職とかれらの職業倫理を理解する。）
14	他職種連携 （連携の実際：保健・医療福祉の連携、チームケアの実際を理解する。）
15	ネットワーキング （ネットワーキングの動向：地域自立生活支援の視点から、障害児・者に対するネットワーキングの実際を知る。）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 障害者の自立支援の現状と課題について述べよ。

＜ポイント＞

障害者の社会参加を支援するための法整備や施策について整理し、今後のあり方について自分なりに考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．障害者福祉の基本理念について

＜ポイント＞

歴史的な理念の変遷をよく理解することが重要である。

2．障害の概念について

＜ポイント＞

WHO の国際生活機能分類の障害概念をよく理解することが必要である。

3．ノーマライゼーションの理念について

＜ポイント＞

バンク・ミケルセンから始まる今日のノーマライゼーションの歴史をよく学修する。

4．障害者福祉の法体系とサービス内容について

＜ポイント＞

法体系とサービス内容は年々変化しているので最新情報を常に収集することが必要である。

5．障害者福祉における民間活動について

＜ポイント＞

民間活動の歴史をよく学修してもらいたい。

6．障害者福祉分野における多職種連携・ネットワーキングについて

＜ポイント＞

実際に当事者団体や援助団体等に当たって、具体的な状況を知るのも大切な学修の一つである。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座 14　障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規。

参考文献

小澤温『よくわかる障害者福祉』ミネルヴァ書房。

木村浩子『おきなわ 土の宿物語』小学館。

科目コード	障害者福祉論（２単位）	登録年次	履修方法
2023		２年	R
教員名	上田征三、田中利光、須藤典征、中村淑子、西村明子 上松勝二郎、山﨑篤、渡辺博文、茅野由紀		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

今日、障害者福祉の考え方は、国連の人権宣言やノーマライゼーションの理念に基づいて発展してきている。本科目ではまず、障害者福祉の理念と考え方、歴史的変遷、法体系、障害者運動、障害者と家族等への支援、障害の種類の多様性とニーズの多様性等、障害者に関する基礎知識を学修する。そして、福祉現場に出たときに必要な援助方法について、障害別に事例ケースを基に紹介する。障害者福祉に関する施策は近年多くの変化を見せつつあるが、これを単に知識として理解するのではなく、実践と結びつけながら、現場で活きる理解を深める。

学修内容

1	「障害概念と特性」(1) 障害者の定義と特性：各法律による障害者の定義・様々な障害者の特性と支援内容の理解。
2	「障害概念と特性」(2) 国際生活機能分類（ICF）と障害の社会モデル：WHO の ICF にみる障害の考え方の変化。ICIDH で指摘された医学モデルと ICF の社会生活モデルの相違を理解し、全人的視点に立った支援の視点を知る。
3	「障害者福祉の理念」 障害観の変遷：差別や偏見と障害者観の関係、優生思想の概要を把握し、今日の障害者福祉を支える代表的な基本的理念（ノーマライゼーション・自立生活思想・ソーシャルインクルージョン・合理的配慮・多様性と共生等）の理解。
4	「障害者福祉の歴史」(1) 障害者処遇の変遷：過去における障害者の処遇を理解し、障害者福祉の歴史、障害者福祉制度、当事者運動の歩みを学ぶ。
5	「障害者福祉の歴史」(2) 障害者権利条約の概要：国連障害者政策の歴史と障害者権利条約の基本と障害者基本法の改正のポイントを理解する。
6	「障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題」(1) 障害者の生活実態：障害者を取り巻く情勢と暮らしの現状について理解する。また、障害者の生活における生活問題と支援ニーズについて理解する。
7	「障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題」(2) 障害者と家族：障害児・者の家族支援のあり方について学ぶ。また、障害児・者を取り巻く社会環境の現状と課題の理解。
8	「障害者に対する法制度」(1) 身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法：それぞれの概要を理解する。
9	「障害者に対する法制度」(2) 児童福祉法・発達障害者支援法：障害児と児童相談所や保健所等の関わり、発達障害者支援法との関わりを含め動向を理解する。
10	「障害者に対する法制度」(3) 障害者総合支援法①：法の概要を理解し、理念・考え方、支給決定のプロセス、障害福祉サービス等を理解する。
11	「障害者に対する法制度」(4) 障害者総合支援法②：自立支援医療、補装具、地域生活支援事業、障害福祉計画等、具体的内容に踏み込んで理解する。
12	「障害者に対する法制度」(5) 障害者虐待防止法・障害者差別解消法・バリアフリー法・障害者雇用促進法：それぞれの概要を理解する。
13	「障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割」(1) 組織・機関の役割：行政機関、労働機関、教育機関、医療機関等の役割
14	「障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割」(2) 関連する専門職の役割：障害者福祉に関連する主な専門職員等の役割を理解する。
15	「障害者と家族等に対する支援の実際」 障害領域におけるソーシャルワーカーの役割：ソーシャルワーカーの中核的使命と多職種連携の実際を理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 障害者の自立支援の現状と課題について述べよ。

＜ポイント＞

障害者の社会参加を支援するための法整備や施策について整理し、今後の在り方について自分なりに考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．障害者福祉の基本理念について

＜ポイント＞

歴史的な理念の変遷をよく理解することが重要である。

2．障害の概念について

＜ポイント＞

WHO の国際生活機能分類の障害概念をよく理解することが必要である。

3．ノーマライゼーションの理念について

＜ポイント＞

バンク・ミケルセンから始まる今日のノーマライゼーションの歴史をよく学修する。

4．障害者福祉の法体系とサービス内容について

＜ポイント＞

法体系とサービス内容は年々変化しているので最新情報を常に収集することが必要である。

5．障害者権利条約について

＜ポイント＞

障害者権利条約を批准した経緯をよく学修してもらいたい。

6．障害者福祉分野における多職種連携について

＜ポイント＞

多職種連携の必要性の意味をよく理解することが必要である。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集

『最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座８　障害者福祉』中央法規。

参考文献

小澤温『よくわかる障害者福祉』ミネルヴァ書房

※科目コード2410：登録年次３年、Ｒ履修／科目コード2411：登録年次３年、ＳＲ履修

科目コード	障害児療育（２単位）	登録年次	履修方法
2410/2411		３年	R/SR
教員名	李玄玉、上田征三、齋藤厚子、須藤典征、立松英子、千葉由美、西脇雅彦、村上百合子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

近年、個のニーズや生活様式の多様化とともに、療育における支援のあり方も多様化している。そのような中で統合保育の効果が実証されつつあり、障害のある子どもの療育の場として統合保育を希望する保護者は多い。一方、明確な診断はないがトラブルの目立つ「気になる」子どもの報告が増え、今やこれらの子どもに対する専門的知識と対応力の向上は必須となっている。

本科目では、乳幼児の定型発達に関する基本的な知識をふまえながら、特別なニーズのある子どもへの対応、障害の受容期にある保護者への支援のあり方、保育所の職員間や外部専門機関との連携等に視点をおきながら、障害児療育の理論と実践について学ぶ。

学修内容

1	療育・発達支援とは何か1 Key words：「障害の概念」、ICIDH、ICF、療育
2	療育・発達支援とは何か2 Key words：知的障害、学習障害、注意欠如多動症、自閉症スペクトラム症
3	療育・発達支援とは何か3 Key words： 視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、重症心身障害
4	療育・発達支援に必要なアセスメントの基本とチームアプローチ Key words：アセスメント、チームアプローチ
5	療育・発達支援に関わる職種とその役割 Key words：心理職、作業療法士、言語聴覚士、理学療法士、視能訓練士、医師、社会福祉士
6	アセスメントから個別の児童発達支援計画 Key words：児童発達支援計画、集団支援、グループ支援
7	様々な支援技法 Key words：TEACCH プログラム、感覚統合理論、拡大・代替コミュニケーション、SST
8	よりよい療育実践のために Key words：モンテッソーリ教育
9	保育士・児童指導員の専門性と生活場面・遊び場面での療育・発達支援１ Key words：療育・発達支援の専門性、集団の場面における役割
10	保育士・児童指導員の専門性と生活場面・遊び場面での療育・発達支援２ Key words：集団での療育・発達支援
11	療育・発達支援における家族支援 Key words：親の障害がある子の受容、保護者支援・家族支援、親子通所
12	療育・発達支援機関における就学支援 Key words：就学支援
13	他機関連携と地域支援 Key words：インクルージョン、地域の他機能機関
14	おわりに-定型発達児も視野に入れた療育・発達支援のために- Key words：個に応じた発達支援、インクルーシブ保育、専門職の支援の実際
15	まとめ Key words：ノーマライゼーション、インクルージョン、障害者の権利条約、多様性

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 保育の場で出会う可能性のある障害について，いくつかの例を挙げ，それぞれの特徴を示すとともに起こりうる生活上の困難さと支援のあり方について述べよ。

＜ポイント＞

障害のある子どもが日常生活や保育の現場で遭遇する困難性について、本人や保護者の側に立って考えること。

科目終了試験学修のポイント

1．早期発見・早期療育について

＜ポイント＞

①早期発見の重要性について2次障害の観点から理解を深める。

②保護者支援の視点から早期発見・早期療育の意義について理解を深める。

2．保育所における「気になる」子への支援について

＜ポイント＞

①「気になる子」の行動が保育士や保護者にどのような影響を与えるかについて理解する。

②「気になる子」への支援における保育園内外の連携のあり方について理解を深める。

3．療育における専門性と地域支援に求められる役割について

＜ポイント＞

①児童福祉法に示されている障害児支援体系をふまえ地域支援における専門職の役割について理解する。

②障害を抱える子どもへの虐待予防においてどのように療育の専門性が生かされているのかについて理解を深める。

4．療育におけるチームアプローチについて

＜ポイント＞

①療育に関わる専門職それぞれの専門性と役割について理解を深める。

②チームアプローチで活用されるケース会議（支援会議）について理解する。

5．発達障害における2次障害について

＜ポイント＞

①1次障害と2次障害の違いについて理解する。

②2次障害出現の背景を理解し、さらに予防のためのに周囲ができることについての理解を深める。

6．障害児保育の変遷と課題について

＜ポイント＞

①　「統合保育」（インテグレーション）と「包括教育」（インクルージョン）の違いについて理解を深める。」

②「障害者差別解消法」の施行により求められる保育現場の課題について理解する。

教科書

市川奈緒子・岡本仁美編著『発達が気になる子どもの療育・発達支援入門』金子書房。

参考文献

田中千穂子、他『発達障害の心理臨床』有斐閣アルマ。
本郷一夫『保育の場における「気になる子ども」の理解と対応ー特別支援教育への接続ー』ブレーン出版。
内閣府『子ども・若者白書』http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h24honpenpdf/index_pdf.html
内閣府『障害者白書』http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/index-w.html
厚生労働省『障害者総合支援法』http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/sougoushien/
全国発達障害福祉連盟『発達障害白書2021』明石書店。

※科目コード6120：登録年次３年、Ｒ履修／科目コード6121：登録年次２年、ＳＲ履修

科目コード	小児栄養（２単位）	登録年次	履修方法
6120/6121		３年/２年	R/SR
教員名	浅井恭子、石本強、菅沼太陽、手塚和美		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

小児期の栄養と食生活との関係を学び、一生涯の食生活の意義を理解する。また、保育者として、保育の食生活、「こころ」の健康について理解を深め、食生活の望ましいあり方と生活全般の関連性について広い視野に立って考察する力を養う。小児の特徴は、成人と違って常に発育・発達していることである。子どもは新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期と変化しながら成人になるが、この発育・発達の各段階によって栄養要求量や摂取方法が異なってくる。ことに、新生児期、乳児期は著しく発育・発達をとげるので、この時期に最も優れた栄養としての「母乳」を与えることによって、「こころ」と「からだ」のバランスのとれた子どもになってゆくのである。

学修内容

1	五大栄養素に栄養素を分類できる。 栄養素を五大栄養素に分類するため、五大栄養素の構造的な違いを説明する。
2	五大栄養素の体内でのそれぞれの役割を説明できる。 それぞれの栄養素（五大栄養素）について役割を構造と関連させながら説明する。
3	ビタミンの多く含まれる食品を列挙できる。 ビタミンの体内での役割、ビタミンの構造を理解し、多く含まれる食品について学ぶ。
4	離乳の定義を説明できる。 離乳とはどのようなことを示すかを理解し、母子、乳児との関連性について学修する。
5	離乳の進行と、初期、前期、中期、後期、完了期に分けて、注意点を説明できる。 離乳の期間を明確にし、それぞれの時期についての注意点を学修する。
6	母乳、調製粉乳について説明できる。 母乳に含まれている成分を列挙し、その成分の乳児への役割を理解する。
7	フォローアップミルク、ペプチドミルクを説明できる。 用途によって異なるミルクが存在することを理解し、それぞれのミルクの役割とともに、どのような時期の乳児へ与えるかを学修する。
8	母乳栄養の栄養的、心理的長所を説明できる。 母乳の長所を栄養学だけでなく、心理学的な部分を学修する。
9	母乳栄養の短所を説明できる。 母乳の短所となる要因を、学修する。
10	偏食の定義を説明できる。 偏食がどのように定義できるか学修し、疾患との違いを比較する。
11	食欲不振の定義について説明できる。 食欲不振の定義について学修し、疾患との違いを比較する。
12	偏食・食欲不振の食事指導法を説明できる。 偏食・食欲不振の食事指導法を学修し、指導内容について確認する。
13	食育の基本と内容 食育の内容と計画および評価について学修する。
14	児童福祉施設における食事と栄養 児童福祉施設ごとの食事の役割について学ぶ。
15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 疾病および体調不良の子どもへの対応、食物アレルギーのある子どもへの対応を学修する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 各栄養素の体内での働きと多く含む食品について述べよ。

＜ポイント＞

栄養素として、糖質、脂質、たんぱく質、無機質（ミネラル）、ビタミンを取り上げ、それぞれどのような特徴をもった栄養素であるのか、体内でどのような役割を果たしているのかについてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１．ビタミンの生理作用と多く含まれている食品について

＜ポイント＞

水溶性と脂溶性ビタミンに分類し、各ビタミンの多く含まれている食品について説明する。

２．母乳栄養の長所と留意点について

＜ポイント＞

新生児・乳児にとっての長所・留意点だけでなく、母親にとっての長所・留意点も説明する。

３．育児用ミルクの成分について

＜ポイント＞

育児用ミルクの定義と種類、その調整内容について説明する。

４．離乳の進め方について

＜ポイント＞

初期、中期、後期、完了期に分け、それぞれの注意点を説明する。

５．幼児における遊び食いと偏食について

＜ポイント＞

幼児期に多い遊び食いと偏食について、その対応法について説明する。

６．食育の重要性とその内容について

＜ポイント＞

「保育所における食育に関する指針」をもとに、食育の重要性とその内容を説明する。

教科書

上田玲子『新版　子どもの食生活ー栄養・食育・保育―』ななみ書房。

参考文献

岡崎光子、他『子どもの食と栄養』光生館ＫＫ。

二見大介、他『保育ライブラリ　子どもを知る小児栄養』北大路書房。

科目コード	小児保健（４単位）	登録年次	履修方法
7020		２年	R
教員名	石本強、菅沼太陽、手塚和美、泉二奈緒美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

ヒトの一生の中で、小児期は形態的にも機能的にも最も激しい変化のみられる時期である。しかも、この時期に「こころ」と「からだ」の基礎の大部分ができ上がってくる。発育・発達を続けている子どもの健康の意味を理解し、健全育成をはかることが大切である。さらに、幼稚園、保育所の連携が進んでいる今日、子どもの疾病とその予防対策、事故と安全対策などの健康障害に関する知識の習得を行うと同時に、保育活動の場で実践できる能力を身につけることが求められている。

学修内容

1	「子どもの保健Ⅰ」の概論 ①子どもの定義と範囲と区分　②保育における子どもの健康と保健（健康の定義、健康状態の評価）
2	子どもの成長と発達 ①子どもの身体発育（体重、身長、頭囲、胸囲、大泉門、発育の評価） ②精神運動機能の発達（粗大運動と微細運動、原始反射、精神機能の発達）
3	子どもの成長と発達 ③子どもの生理機能の発達（呼吸機能、循環機能、消化機能、腎臓機能、視覚、聴覚）
4	子どもの精神保健 ①子どもの精神保健　②治療と療育　③精神分析の歴史　④心の発達を理解するための理論 ⑤心の健康や行動の問題（愛着の障害、摂食障害、不安障害、ストレス関連性疾患）
5	子どもの生活と保健 ①保育現場における衛生管理（消毒薬と消毒法、手洗い、汚物の処理） ②保育現場における事故防止及び危機管理・安全対策（年齢別にみた事故の特徴、事故防止対策、安全教育）
6	子どもの食 ①子どもの食の特徴　②子どもの栄養生理（消化器系の発達、食べる機能の発達、食行動の変化、三大栄養素の消化・吸収） ③乳児期の食（母乳哺育、育児用粉乳、離乳の定義、授乳・離乳の支援ガイド）④幼児期の食　⑤学童期の食 ⑥特別な配慮を要する子どもの食（体調不良の子ども、食物アレルギーを持っている子ども、障害を持っている子ども）
7	保育現場での保健の実際 ①排泄（排泄行動、排泄機能の発達、排泄の自立の援助）　②衣服（衣服の調節、衣服着脱の自立過程、衣服の着せ方） ③清潔（手洗い、入浴・沐浴、うがい、歯みがき）　④抱っこ、おんぶ、ベビーカー、チャイルドシート
8	子どもの病気と保育 ①子どもの健康状態の把握　②おもな症状の見方と対応（発熱、せき、嘔吐・下痢、けいれん、発疹）
9	子どもの病気と保育 ③代表的な病気｛アレルギー疾患（アトピー性皮膚炎、気管支喘息、食物アレルギー）、感染症、心身症｝
10	子どもの病気と保育 ④発疹を伴う病気とその対処法
11	子どもの病気と保育 ⑤子どもの病気の予防と対応（予防接種とは？　定期予防接種と任意予防接種、予防接種の種類と接種間隔）
12	子どもの病気と保育 ⑥障害を持っている子ども｛障害の定義、障害の原因、発達障害（広汎性発達障害、注意欠陥/多動性障害、学習障害）｝
13	子どもに対する救急処置 ①意識障害、呼吸停止、心停止　②心肺蘇生法（気道確保、人工呼吸、心臓マッサージ）、③ショック、④けいれん ⑤頭部打撲、⑥やけど、⑦異物誤嚥、⑧異物誤飲、⑨捻挫、脱臼、骨折
14	保育所と家庭の連携（家庭との連携方法、生活リズム、食事、睡眠）
15	母と子どもの保健 ①母子保健の歴史　②保育の現状と対策 ③乳幼児健康診査をはじめとする母子保健対策（健康診査、保健指導、療養援護、医療対策）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 わが国の乳児・新生児死亡率について述べよ。

＜ポイント＞

「死亡率」とは何かについて説明し、新生児および乳幼児の死亡率の推移や最近の動向、今後の小児保健上の課題などについて、諸外国と比較しながらまとめること。

【設題2】 「離乳」に関する最近の考え方について述べよ。

＜ポイント＞

「離乳」とは何か?「離乳」に対する考え方や歴史的変遷について記述するとともに、自分の意見をまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．胎児・新生児の血液循環について

＜ポイント＞

出生後の外界への適応、ことに「呼吸と循環」について述べる。

2．乳幼児の体温調節について

＜ポイント＞

体温発生のメカニズム、およびそれを調節する中枢の働きについて解説する。

3．小児期によくみられる病気とその対策について

＜ポイント＞

小児期区分ごとにみられる代表的な病気を挙げ、その治療法、予防法について述べる。

4．小児期の事故の特徴について

＜ポイント＞

発育・発達によって発生する事故の種類を列記して、小児期における事故の特徴をまとめる。

5．小児期における各時期の特徴について

＜ポイント＞

小児期の範囲を説明し、各時期の特徴を挙げて述べる。

6．母乳哺育の意義について

＜ポイント＞

母乳哺育（Breastfeeding）の定義とその意義について述べる。

教科書

岩田力、前澤眞理子　他『子どもの保健・健康と安全　―理論と実際―』同文書院。

参考文献

新保育士養成講座編纂委員会『新保育士養成講座第7巻　子どもの保健』社会福祉法人全国社会福祉協議会。

科目コード	少年と犯罪（２単位）	登録年次	履修方法
1170/1171/1172		１年	ＳＲ/Ｒ
教員名	小澤浩之、梶原洋生、久保貴、高木俊彦		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

日本は犯罪発生率の低い治安の良好な国として世界に知られているが、次代を担う少年によるいじめ、非行や犯罪の発生状況とその様態にはかなりの問題があり、福祉国家を標榜するわが国の将来にとって深刻な社会問題となっている。そこで、少年による犯罪・非行の現状と時代による変化の様相、少年非行に対する警察・裁判の取り組み、児童福祉・少年院・保護観察所などの諸機関における各処遇システムについて理解を深め、更には犯罪・非行の発生機序ついて素質と環境の両面から解明を試みる。また効果的な治療、処遇の方法、犯罪・非行の被害者支援等についても考察する。

学修内容

1	少年非行・犯罪に対する基礎知識の確認（刑罰や犯罪・非行対策の歴史を含む） 近代の罪刑法定主義など犯罪と刑罰の歴史について学ぶ。次に、心理学や生理学の発達過程で、犯罪に関する成人と子どもの取扱いの違いが主張され、大人の犯罪・刑罰と子どもの非行・保護処分の異なった制度が確立される過程について学ぶ。
2	少年非行の定義、非行少年に対する手続きの流れと少年非行の最近の動向 少年非行の定義について学んだのち、犯罪少年、触法少年、ぐ犯少年等の非行少年に対する取扱いの手続きの流れについて概観。その後、家庭裁判所における非行少年の取扱いについて理解するとともに、少年非行の最近の動向とその背景、少年非行率の変遷について学ぶ。
3	少年非行の原因と説明理論（非行原因論等） 少年非行の関連要因・危険因子として、本人の特性、家庭、学校、友人、地域社会における諸要因について考察。次いで、緊張理論、サザーランドの分化的接触理論、ゴットフレッドソンとハーシーの統制理論、社会的反作用理論（ラベリング理論）など少年非行の説明理論（過去の代表的非行理論）、発達犯罪学や発達精神病理学を中心とする非行理論の新動向について学ぶ。
4	少年非行の諸相①　凶悪・粗暴な非行 凶悪・粗暴な非行に関し、「人を死に至らしめる犯罪」の少年被疑者に関する科学警察研究所の調査結果で示された、①非行歴・補導歴のない（「いきなり型」）群、②「殺人願望」群、③「快感追求」群の分類について学ぶ。その他、少年による殺人に関する欧米の知見、虐待の連鎖や暴力の連鎖などの研究、少年による殺人の前兆把握と予防のための対応策等について学ぶ。
5	少年非行の諸相②　暴走族など非行集団 非行集団の定義と我が国における非行集団の現状について学んだのち、非行集団に関する行動科学的研究や科学警察研究所の調査に基づく知見、非行集団に加入する理由と暴走族や学校の校内粗暴集団、地域の不良集団等、我が国における具体的犯罪・非行集団の実情について概観する。
6	少年非行の諸相③　女子非行、性非行、ネット犯罪 女子非行の発生状況とその動向について概観したのち、思春期発達と女子非行を身体的成熟の加速、学業達成へのプレッシャー等の観点から考察。次いで、出会い系サイト、性非行、ネット犯罪の問題について、出会い系サイトの利用実態、地域社会との関わり、架空請求詐欺の実例などの問題の所在について学ぶ。
7	少年非行の諸相④　いじめ、学校内暴力、家庭内暴力　（ストローク理論） 家庭と学校における非行として、いじめ、家庭内暴力、学校内暴力を取り挙げ、その実態と発生のメカニズムについて、ニワトリ社会のイジメ現象（Pecking Order）の研究などから考察する。また、そのような問題行動の克服策として、アサーション・トレーニングやストローク理論からのアプローチを学ぶ。
8	少年非行の諸相⑤　万引き、薬物非行、交通非行 万引の全体的状況、少年による万引きの実態を理解する。万引きは弱者の犯罪であると言われるがすべての犯罪・非行への入り口とも言われ、軽視できない点を確認する。次に、薬物犯罪について、薬物依存の蔓延状況、シンナー（吸入剤）や覚せい剤、違法薬物等の薬理作用とその危険性について学ぶ。最後に、交通犯罪の一般的動向を紹介するとともに暴走族や危険運転など違法な交通行動について学ぶ。
9	虐待や暴力にみる被害から加害への転化と暴力の連鎖 虐待や暴力の転化と連鎖のメカニズムについて考察する。特に、被害が与える影響、児童虐待と非行との関連、学校や地域における暴力の被害と非行との関連、被害と加害の双方向性等について学ぶ。被害から加害への転化に関する理論的背景として、社会的学習理論、社会的情報処理モデル、トラウマモデルなどの理論を概観する。
10	非行を未然に防止する活動（地域の非行防止活動と警察における少年相談） 非行防止の種類に一次的予防、二次的予防、三次的予防の３種類があること、地域の非行防止活動として、内的非行抑制因子を育むための活動と青少年が非行を行う機会を除去する二つの方向の活動があることを学ぶ。次いで、警察における非行防止活動を、街頭補導や少年相談などの少年の非行防止および健全育成活動等少年サポートセンターの活動を通して学ぶ。最後に、修復的司法（restorative justice ）について学ぶ。
11	少年事件の法的手続き―家庭裁判所 少年事件の全件を受理し審理する（全件送致主義）家庭裁判所の役割と機能の概要、家庭裁判所における少年事件手続きについて概観し、家庭裁判所調査官による社会調査（記録調査・照会調査、面接調査、心理テスト等、環境調査）、審判出席、試験観察といった諸過程、家庭裁判所における非行理解の方法や最近における保護的措置の多様化について学ぶ。
12	非行少年の処遇①　児童相談所と少年鑑別所 最初に児童相談所の機能と業務内容の概要を、①相談機能、②一時保護機能、③措置機能のいわゆる三大機能を中心に学ぶ。また、相談業務の種類と内容として、養護相談、保護相談、障がい相談、非行相談、育成相談、その他の相談があることを理解する。次いで、家庭裁判所により観護措置の決定がなされた者を収容する少年鑑別所の役割と機能を、鑑別面接、心理検査、行動観察などの過程、収容して鑑別を行う意義について学ぶ。
13	非行少年の処遇②　少年院 少年院は国の施設で全国に４９庁あり、第一種、第二種、第三種、第四種の４種類に分けられている。第三種の少年院を除けば、それぞれに男子と女子に別々の施設が設けられること、少年院における矯正教育の特色として、教育と生活の場で、「生活指導」「職業指導」「教科指導」「体育指導」「特別活動指導」の５つの領域での教育活動（矯正教育）が行われていること、処遇を行う場として、個別指導と集団指導の方法で様々な働きかけが行われていることを学ぶ。

14	非行少年の処遇③　保護観察所（少年に対する処遇施策、保護司との協働態勢等） 保護観察所の役割と機能について概観する。そのうち、少年の保護観察対象者である保護観察処分少年（１号観察）と少年院仮退院者（２号観察）の保護観察については詳しく学ぶ。また、少年対象者に対するケースワーク的処遇やカウンセリングの実施、類型別処遇や段階別処遇についても理解する。加えて、我が国の保護観察の特色である保護観察官と保護司の協働態勢について概観する。
15	犯罪・非行の被害者支援 犯罪・非行の被害者支援としては、①被害回復・経済的支援等の取組、②精神的・身体的被害の回復・防止の取組、③刑事手続への関与拡充の取組、④支援等のための体制整備の取組、⑤国民の理解の増進と配慮・協力の確保の５分野で制度整備が進められた。うち④の取組みの例として、保護観察所における「被害者担当官」および「被害者担当保護司」の設置・指名と犯罪被害者等基本法の制定を受け実施された更生保護における犯罪被害者等施策について詳しく学ぶほか、修復的司法観に基づく実践形態の一つとしての「被害者と加害者の対話（VOM：Victim Offender Mediation）」などについて学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 我が国における少年非行の特徴とその対策について述べよ。
＜ポイント＞
我が国における犯罪・非行の量的及び質的変化、犯罪者・非行少年対策の歴史的推移について理解すること。犯罪・非行の現状、犯罪者・非行少年がどのように処遇され、そこにはどのような機関、人々が関わっているのかを理解すること。

科目終了試験学修のポイント

１．家庭内暴力・学校内暴力について
＜ポイント＞
少年の暴力の背景として、親による虐待や暴力の連鎖が主張されることが少なくない。ストローク理論や発達障害、不登校、引きこもりなど今日の子どもをめぐる諸現象と関連づけながら理解すること。

２．少年非行の定義について
＜ポイント＞
少年法における少年の定義、非行少年の種類とその対応の違い等について正確に理解すること。

３．少年非行とマスメディア、ネット社会について
＜ポイント＞
少年非行に与えるマスメディアやネット社会の影響には看過できないものがある。少年非行の報道の仕方も併せて、少年非行とマスメディア・ネット社会の関係について考察、理解しておくこと。

４．少年審判について
＜ポイント＞
非行少年に対する家庭裁判所の審判の仕組みと審判により決定される保護処分の種類とその執行機関等について理解しておくこと。

５．少年の矯正・更生保護について
＜ポイント＞
少年院における非行少年の矯正教育や、保護観察所が地域社会において実施する保護観察など、少年の矯正・更生保護の措置について理解しておくこと。

６．少年法改正について
＜ポイント＞
近年における少年による凶悪事件の発生を受け、厳罰化の方向で少年法が改正されてきた。その経緯と改正の内容等について正確に理解しておくこと。

教科書

鮎川潤　『少年非行　社会はどう処遇しているか』　左右社（放送大学叢書 025）

参考文献

鮎川潤『新版　少年非行の社会学』、世界思想社、2002 年。
伊藤冨士江『司法福祉入門　第２版＜増補＞』、上智大学出版・発行（ぎょうせい製作・発売）、2015 年。
河原俊也編著『ケースから読み解く少年事件　実務の技』、青林書院、2017 年。
澤登俊雄『少年法入門　第６版』、有斐閣、2015 年。
須藤明『少年はどのように裁かれるのか。　成人犯罪への道をたどらせないために』、合同出版、2019 年。
日本司法福祉学会編『改訂新版　司法福祉』、生活書院、2017 年。
藤川洋子『「非行」は語る　一家裁調査官の事例ファイル一』、新潮社（新潮選書）、2002 年。
法務省法務総合研究所『令和元年版　犯罪白書』、昭和情報プロセス株式会社、2019 年。

科目コード	情報科指導法Ⅰ (2単位)	登録年次	履修方法
4390		2年	SR
教員名	菅沼太陽、竹内俊彦、森正人		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法(情報の機器及び教材の活用を含む。)		

科目概要・到達目標

本講座は、高等学校教諭免許状「情報」を取得しようとする学生を対象とし、高等学校・教科「情報」の指導法の基本的事項について学修する。

「情報科指導法Ⅰ」では、教科「情報」の設定の趣旨や、科目の目標と内容を理解するとともに、情報教育の３つの目標である、「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」を育成するための具体的な授業展開のしかたについても学修する。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	○教科書[1] pp.7-15 ・情報科設置の経緯及び趣旨について理解すること。 ・普通（共通）教科「情報」と専門教科「情報」それぞれの目標を理解し、設置目的の違いを、「普通教育」と「専門教育」の観点で捉える事。 ・情報教育の必要性や小中学校における情報教育との関係や連続性に関しても考察すること。	教科「情報」の概要や、情報教育が設置されることになった歴史的経緯について、歴史を学び、自分なりの仮説を立てること。また情報教育の目標・体系および、他教科との関係についても、自分なりの理解を説明できるようになること。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
2	○教科書[2] pp.2-13 学習指導要領改訂の経緯及び内容について理解すること。この際、教科書[1]なども併せて参照し、指導要領改訂の経緯とPISA（OECDが進めている「生徒の学習到達度調査」）の調査結果が、改訂に与えた影響等に関しても理解すること。 今回の改訂は科目構成の大きな変更が行われている。この事と旧指導要領下の現場での運用実態に関して考察すること。	学習指導要領改訂の経緯について概観する。また、PISAの問題を実際に解くことで、新たな学力観について理解する。さらに、教育の目標と国家の目標の一致について議論し、自分なりの意見を述べられるようになる。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
3	○教科書[1] pp.16-28、教科書[2] pp.14-17 共通教科情報科の概要（目標や科目編成など）について理解すること。 ・「情報の科学」と「社会と情報」、両科目の２科目の目標と内容を理解すること。 ・旧指導要領と新指導要領の科目それぞれの関係について考察すること。	そもそも学校では何を目的に何を教えるべきかについて軽く議論した後に、共通教科「情報」の意義、目標、科目編成について学ぶ。 「情報の科学」と「社会と情報」に分けられた経緯と、その概要について学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
4	○教科書[1] pp.22-28、教科書[2] pp.48-57 専門教科情報科の概要（目標や科目編成など）について理解すること。 ・専門教科「情報」の目標は、共通教科「情報」の目標と対比しつつ、その設置目的の違いに留意すること。 ・科目構成の概略を理解すること。	経済的な繁栄とコンピュータ専門家の育成の関係について、シリコンバレーの例などを挙げつつ説明する。その後、情報のエキスパートを養成するという視点から、専門教科情報科の概要について説明し、諸外国の事情も説明する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
5	○教科書[2] pp.18-26 「社会と情報」の目標、学修内容、内容の取り扱いについて理解すること。特に、本科目で取り扱う情報モラルや情報セキュリティに関する内容は、小中学校の指導要領でも指導するように定められている事を鑑み、その重要性を意識しておく必要がある。情報化が社会に及ぼす影響や一般人の生活への浸透に関して、様々な実例を自身で調査すること。	「社会と情報」については、コンピュータがますます社会と密接にかかわり、その中でトラブルなく過ごすために知るべき技術的、道徳的なことを学ぶ。実際に起きた事例を通じつつ討論する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
6	○教科書[2] pp.27-37 「情報の科学」の目標、学修内容、内容の取り扱いについて理解すること。本科目の取り扱う項目は、一般的に軽視、かつ嫌われる傾向の強い内容であるが、「普通教育」の中でこれらを学ぶ必要性に関して、十分に理解すること。また、本科目で取り扱う「問題解決」に関する能力の涵養は、小中学校や、高等学校の他教科も含めて現行の学習指導要領の眼目のひとつといえる。十分に理解すること。	「情報の科学」については、技術的な要素が高い分野であるが、情報のデジタル化をはじめとした、情報技術を支える基盤となる理論は、時代による変化が少ない部分なので、基本的な理論を中心に教える。その際、数学をあまり使わず、図やモデルを用い、概念を捉えさせることに重点を置く。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)

7	○教科書[2] pp.38-45 共通教科情報科の指導計画作成に当たっての配慮事項について理解すること。指導要領上は、基本的な情報活用の実践力は、中学校までで身につけていることになっている。これを踏まえた上での指導計画であることに留意すること。 現指導要領では、実習に配当すべき時間数の割合を明記していないが、情報教育における実習の重要性に変わりは無く、できるだけ多くの実習時間を配当する必要があることにも留意すること。	共通教科情報科の指導案を作成する際に気を付けるべき点について、実際に用いられている指導案を批判的に検討し、自分で作成することを通じて学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
8	○教科書[1] pp.30-40、教科書[2] pp.6-8 「情報活用の実践力」の指導項目及び指導法について理解すること。現指導要領で、旧指導要領の「情報A」に対応する科目が設置されなかった事から誤解が生じているが、「情報教育の3つの観点」としての「情報活用の実践力」の必要性に、なんらの変わりは無い事に留意すること。	「情報活用の実践力」の指導項目及び指導法について、実際に用いられている指導案を批判的に検討し、自分で作成することを通じて学ぶ。また既存の指導法についていくつか紹介し、自分なりのアレンジを提案し、ディスカッションする。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
9	○教科書[1] pp.42-53、教科書[2] pp.6-8 「情報の科学的な理解」の指導項目及び指導法について理解すること。情報の科学的理解に関する事項は、学習者に興味を持たせる事が比較的難しいものが多く、授業内容や教材、教具の工夫が難しい。教科書の例を参考に、考察を深めること。また、理論的に難しいところまで踏み込み過ぎると、学習者の理解が追いつかないケースも出てくるので、教授内容の吟味も重要である。	「情報の科学的な理解」については、単元よっては、スタンダードな指導法や教具があるので、代表的なものをざっと紹介する。またスタンダードな指導法がない分野については、各自、提案し、その有効性についてディスカッションする。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
10	○教科書[1] pp.54-78、教科書[2] pp.6-8、教科書[3] 「情報の科学的な理解」の指導法について、具体例(問題解決、モデル化・シミュレーション、アルゴリズム、プログラミング) をもとに理解を深めること。特に、問題解決に関する学習は、現行指導要領の眼目の一つであるので、適切な指導を行えるように、十分な学習を行う事。	「情報の科学的な理解」のかなり高度な内容、具体的には問題解決や、モデル化・シミュレーション、アルゴリズム、プログラミングについて、入門用プログラミング言語を用いた体験や、簡単なゲームを持いて、アルゴリズムやシミュレーションについて理解し、指導法について学ぶ。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
11	○教科書[1] pp.80-81、教科書[2] pp.6-8 「情報社会に参画する態度」の指導項目及び指導法について理解すること。最近は、情報倫理や情報セキュリティに絡む事件、事故等の報道も増えており、次々に新しい問題が発生しているように感じられるかもしれないが、問題の根本を理解すると、各々の事象が同根であることが多い。具体例の枝葉末節に囚われる事無く、適切な判断ができるように指導することが肝要である。	「情報社会に参画する態度」について、ことに若者が陥りやすいタイプのトラブルについての事例を中心に学ぶ。しかし暗い側面だけではなく、適切に情報機器を用いれば非常に明るい未来を構築可能であることも、実例を示して理解する。また事例を元にディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
12	○教科書[1] pp.82-117、教科書[2] pp.6-8、教科書[3] 「情報社会に参画する態度」の指導法について、具体例 (情報モラル、情報倫理、メディアリテラシー、情報通信ネットワークとコミュニケーション、情報システムと社会) をもとに理解を深めること。情報モラルや情報倫理に関しては、小中学校でも指導することになっている。連続性にも留意しつつ、高等学校の教科「情報」にふさわしい内容はどのようなものかを考えながら学修すること。	「情報社会に参画する態度」の指導項目及び指導法について、現場の教育事例集を紹介し、小中との接続で、高校ではどのような内容に発展させて指導すべきか考える。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
13	○教科書[3] 高等学校で授業を行うことを想定して、「情報活用の実践力」を育成するための指導内容・指導法について検討し、模擬授業に向けて準備をする。重要な項目であると同時に、従来から、単なる操作方法習熟教育に陥ることが指摘されている項目である。「情報活用の実践力」とは何であるかを常に考えながら学修すること。	「情報活用の実践力」の指導項目及び指導法について、実際に用いられている指導案を批判的に検討し、模擬授業に向けて自分で作成する。また互いの指導案についてディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
14	○教科書[3] 高等学校で授業を行うことを想定して、「情報の科学的な理解」を促すための指導内容・指導法について検討し、模擬授業に向けて準備をする。高校生ともなると、情報機器操作の習熟度には大きな差が出ている。その中で、できるだけ、全ての生徒が、興味を持って取り組める課題や教材を案出するのは難しい事に留意しながら学修すること。	「情報の科学的な理解」の指導項目及び指導法について、実際に用いられている指導案を批判的に検討し、模擬授業に向けて自分で作成することを通じて学ぶ。また互いの指導案についてディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)

15	○教科書[3] 高等学校で授業を行うことを想定して、「情報社会に参画する態度」を育成するための模擬授業に向けて準備をする。現在の社会情勢を鑑みるに、教材に利用する具体例には事欠かないとは思うが、一歩間違うと、単に漠然とした不安感を植え付けるだけに留まる可能性もある。	「情報社会に参画する態度」の指導項目及び指導法について、実際に用いられている指導案を批判的に検討し、自分で作成することを通じて学ぶ。また模擬授業を行い、ふりかえりを行う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
			面接授業：合計15時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の50%、参加態度・課題提出　総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点）　F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 情報教育の３つの目標である、「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」をそれぞれ育成するための指導法を具体的に述べよ。

＜ポイント＞

３つの目標を達成するための具体的な授業（講義と実習）の内容を示しながら論述せよ。

科目終了試験学修のポイント

１．教科「情報」の設定の趣旨について

＜ポイント＞

学修内容[1]、学修内容[2] を中心に学修する。

２．情報教育の３つの目標について

＜ポイント＞

学修内容[1]、学修内容[2] を中心に学修する。

３．共通教科「情報」と専門教科「情報」の違いについて

＜ポイント＞

学修内容[3]、学修内容[4] を中心に学修する。

４．「社会と情報」の目標と内容の特色について

＜ポイント＞

学修内容[5]、学修内容[7] を中心に学修する。

５．「情報の科学」の目標と内容の特色について

＜ポイント＞

学修内容[6]、学修内容[7] を中心に学修する。

６．教科「情報」の指導法について

＜ポイント＞

学修内容[3]～学修内容[15] を中心に学修する。

教科書

[1]久野　靖　他『情報科教育法　改訂２版』オーム社。
[2]文部科学省『高等学校学習指導要領解説　情報編』開隆堂出版。
[3]文部科学省検定済教科書『最新社会と情報、最新情報の科学』実教出版。

参考文献

岡本敏雄、他『情報科教育法』丸善出版事業部。
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房。

科目コード	情報科指導法Ⅱ (2 単位)	登録年次	履修方法
4400		3年	SR
教員名	菅沼太陽、竹内俊彦、森正人		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法(情報の機器及び教材の活用を含む。)		

科目概要・到達目標

本科目は、高等学校教諭免許状「情報」を取得しようとする学生を対象とし、高等学校・教科「情報」の指導法の基本的事項について学修する

「情報科指導法Ⅱ」では、「情報科指導法Ⅰ」で学習したことを基礎として、具体的な教材作成や、指導案の作成、模擬授業の実施、評価のしかた等について学修する。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	○教科書[1]pp.132-141 観点別評価と教科「情報」の評価について理解すること。「成績」を付けるための「評価」だけではないことに、十分留意すること。また、評価基準は、授業後に考えるのではなく、具体的な評価基準を予め決めておいてから授業に臨むことが必要である点にも留意すること。	教科「情報」の単元の授業について、その効果を評価する手法と、その基礎となる発想について理解する。到達度評価と形成的評価の違いについて説明できるようになること。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
2	○教科書[1] pp.142-169 学習指導案の作成方法について理解すること。指導案の書式は、全国で統一のフォーマットが存在するわけではないので、教科書の例は、あくまでも参考資料である。教育実習等で実際に作成する際には、実習先のフォーマットで作成する必要がある。ここでは、書式云々ではなく、記述すべき内容や授業計画立案法について学ぶ。	指導案のフォーマットを複数、示し、さまざまな書式のスタイルがあることを実感する。その後、どのような書式であれコアとなる内容や、典型的な授業の流れを把握し、授業計画立案を立ててみる。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
3	○教科書[1] pp.30-40、教科書[2] pp.6-8 「情報活用の実践力」の指導に活用できる教材を検討（作成）すること。アプリケーションソフトウェアの操作習熟に重きを置いたものにならぬように注意すること。インターネット上には、様々な実践例や教材例が公開されているが、必ずしも良い例とはいえないものも存在するので、参考にする際には注意すること。	「情報活用の実践力」の指導に用いる教材を単元ごとに分担し、提案し、作成する。各アイデアを発表し、ディスカッションを行い、ブラッシュアップする。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
4	○教科書[1] pp.42-78、教科書[2] pp.6-8 「情報の科学的な理解」を促すための教材を検討（作成）すること。科学的理解の内容は、ともすると理論、とりわけ数学的な内容が主となるために、生徒にとって魅力ある教材・教具とするのが難しい。特に数学や数値の取り扱いが不得意な生徒の興味や関心を引き出せるかがポイントとなる。	「情報の科学的な理解」の指導に用いる教材を単元ごとに分担し、提案し、作成する。各アイデアを発表し、ディスカッションを行い、ブラッシュアップする。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
5	○教科書[1] pp.80-117、教科書[2] pp.6-8、教科書[3] 「情報社会に参画する態度」の指導に活用できる教材を検討（作成）すること。現在は、ネットワーク上で様々な問題が次から次へと発生しているので、題材には事欠かないと思うが、生徒の生活経験と照らし合わせて、適切な題材を選ばないと、自身の問題として認識してくれない可能性がある。十分に検討すること。	「情報社会に参画する態度」の指導に用いる教材を単元ごとに分担し、提案し、作成する。各アイデアを発表し、ディスカッションを行い、ブラッシュアップする。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
6	○教科書[1] pp.161-162(p.25)、教科書[2]、教科書[3] 「社会と情報」の年間指導計画を立てること。学習指導要領の項目を元に立案する方法と、実際に授業で使用する教科書の章立てをベースに立案する方法とが考えられるが、初めての場合、後者の方がやりやすいだろう。ただし、分野によっては、必要に応じて、教科書を離れて別途、教材・教具を準備した方が良いものもある。学修内容[2]～[5]で案出した教材等を組み込んでみるのも面白いだろう。	教科書の章立てを基本として、「社会と情報」の年間指導計画を作成し、指導を受ける。また、ピアレビューやディスカッションを行い、年間指導計画の実現可能性と教育効果について検討する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
7	○教科書[1] pp.161-162(p.25)、教科書[2]、教科書[3] 学修内容[6]での計画案から学習単元を１つ選び、目標と評価規準を検討すること。関心、意欲、態度などの一般的なものの他に、学習単元独自の基準を案出する必要がある。この際、当該単元の学習目標を明確化し、何をもって、目標が達せられたと判断するのかを考えること。評価の方法は、ペーパーテストや質疑・発言内容だけではなく、課題の成果物や、実習中の活動内容などから読み取るべきものもあることを忘れないこと。	「社会と情報」の年間指導計画から 1 授業分の単元を選び、模擬授業に向けた準備をする。具体的には、その授業における目標と評価規準を再検討し、授業の指導法について方針を定め、ディスカッションする。教具・教材について準備をはじめる。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)

8	○教科書[1] pp.161-162(p.25)、教科書[2]、教科書[3] 学修内容[7]をもとに、学習指導案を作成すること。自分の得意な分野の単元を選ぶと良いだろう。単元は、通常、複数回の授業で構成されるので、その中の１時限を選んで具体的な指導案を作成すること。高校の一時限は短いため、一回の授業に盛り込める内容は、かなり限定される。無理に詰め込む事が無いように留意すること。	「社会と情報」模擬授業に向けた準備をする。教具・教材と指導案を完成させ、評価のためのテスト等も完成させる。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
9	○教科書[1] pp.161-162(p.25)、教科書[2]、教科書[3] 学修内容[8]のための教材（提示資料、配付資料など）を検討（作成）すること。教材と教具を混同しないように留意すること。授業に使用する装置類やプリント等を準備しただけでは「教具の準備」しかしていない。教具を使って、実際にどのような授業を展開するかまで考えて、はじめて「教材の準備」となる。	「社会と情報」の模擬授業を行い、ディスカッションを行う。ディスカッションで指摘された事項を、指導案や教材に反映させる。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
10	○教科書[1] pp.161-162(p.25)、教科書[2]、教科書[3] 「情報の科学」の年間指導計画を立てること。生徒のレディネスによって、どこまで踏み込んだ内容にできるかが大きく変わる事に留意すること。特に、数学の授業の進度とうまく合わせないと、無駄（本来、数学で指導する内容を情報科で指導することになるなど）が発生することもありえるので、注意が必要である。	教科書の章立てを基本として、「情報の科学」の年間指導計画を作成し、指導を受ける。また、ピアレビューやディスカッションを行い、年間指導計画の実現可能性と教育効果について検討する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
11	○教科書[1] pp.161-162(p.25)、教科書[2]、教科書[3] 学修内容[10]での計画案から学習単元を１つ選び、目標と評価規準を検討すること。理論的な内容は、ペーパーテストによる評価を多用したくなりがちであるので、注意が必要である。また、数式や値の操作方法を覚え込ませるのが目的ではないことを常に念頭に置くこと。	「情報の科学」の年間指導計画を作成し、指導」の年間指導計画から 1 授業分の単元を選び、模擬授業に向けた準備をする。具体的には、その授業における目標と評価規準を再検討し、授業の指導法について方針を定め、ディスカッションする。教具・教材について準備をはじめる。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
12	○教科書[1] pp.161-162(p.25)、教科書[2]、教科書[3] 学修内容[11]をもとに、学習指導案を作成すること。おおむね学修内容[8]と同様であるが、数値操作等は、生徒によって、学習進度にかなりバラツキが発生する可能性が高いので、授業の進行においては、十分に配慮が必要であることに留意すること。	「情報の科学」の年間指導計画を作成し、指導」模擬授業に向けた準備をする。教具・教材と指導案を完成させ、評価のためのテスト等も完成させる。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
13	○教科書[1] pp.161-162(p.25)、教科書[2]、教科書[3] 学修内容[12]のための教材（提示資料、配付資料など）を検討（作成）すること。おおむね学修内容[8]と同様であるが、理論や数値の概念を理解させる必要がある項目が多いことに留意する必要がある。抽象的な表現が苦手な生徒は、数式や言葉を使っての説明だけでなく、概念図等を駆使して、理解を助ける必要があるだろう。	「情報の科学」の年間指導計画を作成し、指導」の模擬授業を行い、ディスカッションを行う。ディスカッションで指摘された事項を、指導案や教材に反映させる。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
14	○教科書[1] pp.170-182 情報科におけるプレゼンテーションと模擬授業の重要事項について理解すること。一般には「プレゼンテーション」イコール「発表」と誤解されている事が多いようである。プレゼンテーションは、単なる発表ではない事を教員自身も肝に銘じておく必要がある。また、派手なスライドや資料は、却ってプレゼンテーションの効果を減ずる可能性もあることも忘れてはならない。	模擬授業を振り返り、特にすぐれた班については、ビデオを見直す等を行い、そのすぐれた技術を共有する。また、過去のすぐれた教え方の実例を視聴し、自分の模擬授業と比較して、どこが上手いかを説明する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
15	○教科書[1] pp.184-193 情報教育の今後の展望について理解すること。教授する対象の技術分野は、変転が激しいだけに、他教科に比べて指導内容の更新も早いことが予想される。ただし、これは、表層に現れる部分のことであり、本当に基礎的な事項は、あまり変わっていない。情報教育に携わる人間は、この点を意識して、「普通教育における情報科」では、何を理解させるべきかを十分に吟味しながら教育を行っていく必要がある。	情報教育の過去の経緯について概観し、今後の展望についてディスカッションする。また、情報教育の在り方や現在の情報教育における主要な問題点についてまとめ、ディスカッションする。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価		
	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　社会と情報、情報の科学の中からそれぞれ１つの学習単元（２時間連続授業で学習する内容）を選び、独自の学習指導案を作成せよ。

＜ポイント＞
社会と情報、情報の科学の中から選んだ学習項目ごとに、それぞれ２枚の学習指導案を作成し（３枚×２＝６枚）、残りの２枚でそれらの解説をする。なお、学習指導案は、「学習項目名、学習目標、時間、学修内容・学習活動、指導上の留意点、備考」を表に示すこと。

科目終了試験学修のポイント

１.「情報活用の実践力」を育成するための指導法について
＜ポイント＞
学修内容[3]、学修内容[6]～学修内容[13] を中心に学修する。

２.「情報の科学的な理解」を促進するための指導法について
＜ポイント＞
学修内容[4]、学修内容[6]～学修内容[13] を中心に学修する。

３.「情報社会に参画する態度」を育成するための指導法について
＜ポイント＞
学修内容[5]、学修内容[6]～学修内容[13] を中心に学修する。

４.教科「情報」の評価方法について
＜ポイント＞
学修内容[1]、学修内容[2] を中心に学修する。

５.効果的な教材の作成について
＜ポイント＞
学修内容[3]～学修内容[5] を中心に学修する。

６.教科「情報」の問題解決学修について
＜ポイント＞
学修内容[4]、学修内容[6]～学修内容[13] を中心に学修する。

教科書

[1]久野靖、他『情報科教育法　改訂２版』オーム社。
[2]文部科学省『高等学校学習指導要領解説　情報編』開隆堂出版。
[3]文部科学省検定済教科書『最新社会と情報、最新情報の科学』実教出版。

参考文献

岡本敏雄、他『情報科教育法』丸善出版事業部。
高等学校学習指導要領（平成 29 年３月告示　文部科学省）

科目コード	情報処理演習Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
1042		１年	ＳＲ
教員名	ロペス・ルイス・ミゲル、舘秀典、竹内俊彦、鈴木茂樹 松崎茂、中山麻子、加藤由樹		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。

学修内容	
1	「コンピュータとは何か、仕組み、基本的な操作、歴史等について」 コンピュータの発達の歴史・機能等について理解を深める。
2	「インターネットの歴史、サービスについて」 インターネットはどのようにして生まれたのか、インターネットを利用したさまざまなサービスについて理解を深める。
3	「コンピュータ・ネットワークを利用する上でのマナーについて」 情報の受信者、消費者ではなく、発信者としての心構えも身につける。
4	「著作権について」 文化庁のWeb等を参照し著作権制度および著作権について最近の知識を身につける。
5	「ワープロソフトとは・基本的な利用方法」 ワードプロセッサソフトでは何ができるのか、ワードプロセッサソフトを用いるメリットについて理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。
6	「さまざまな機能を用いたレポート文書の作成」 ワープロソフトにはさまざまな機能が備わっている。これらの機能を実際の文章を作成しながら試してみる。
7	「表計算ソフトとは・基本的な利用方法」 表計算ソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。
8	「関数の利用」 表計算ソフトに備わっている関数の概念および、よく利用される関数を実際に試してみる。
9	「グラフの作成」 データをもとにしたグラフを作成する技術を身に付ける。
10	「データの処理、並べ替え、フィルタリングなど」 表計算ソフトに備わっているデータ処理機能について学ぶ。
11	「プレゼンテーションソフトとは・基本的な利用方法」 プレゼンテーションソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。
12	「プレゼンテーションをするにあたっての注意点」 資料作成の際に気をつけること、発表の際の注意事項について学ぶ。
13	「プレゼンテーション実習」 実際にプレゼンテーションを行い、課題を見つける。
14	「総合演習」 本演習で学んだ知識、演習で学んだことを再度見直す。
15	「総合演習」 本演習で利用したソフトウエアは、実生活においてどのように利用すると有効であるか考え、実際に導入してみる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

最近一ヶ月以内にインターネット上で起きた事件のうち、興味があるものを1～2つ選び、効果的な対策と自身の考えを述べよ。

＜ポイント＞

・レポートの最初にその事件の発生日と概要を、引用元を示しつつ300字程度で書くこと。

・その事件についてあなたはどう思うか、今後、そのような事件は増えると思うか減ると思うか、効果的な対策や今後の展望について述べること。

・客観的な統計データを示しつつ論じることが望ましい。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング終了時にコンピュータを使用した実技試験を行う。

1.Microsoft Wordの基本操作（罫線、図形描画など）

2.Microsoft Excelの基本操作（グラフ、関数など）

3.Microsoft Power Pointの基本操作（アニメーションなど）

4.Microsoft Word、Excel、Power Pointの総合的な利用

（データの分析から、報告書の作成、プレゼンテーションまで）

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

奥村晴彦、他『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社。

参考文献

FOM出版『情報リテラシーWindows 10/Office 2019対応』。
戸田山和久『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』NHK出版。
藤井直弥、他『Excel 最強の教科書』SBクリエイティブ。
吉藤智広、他『伝わるプレゼンの法則100』大和書房。
松上純一郎『PowerPoint資料作成　プロフェッショナルの大原則』技術評論社

科目コード	情報処理演習Ⅰ（4単位）	登録年次	履修方法
1043		1年	SR
教員名	ロペス・ルイス・ミゲル、舘秀典、竹内俊彦 鈴木茂樹、松崎茂、加藤由樹		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。

学修内容

1	「コンピュータとは何か、仕組み、基本的な操作、歴史等について」 コンピュータの発達の歴史・機能等について理解を深める。
2	「インターネットの歴史、サービスについて」 インターネットはどのようにして生まれたのか、インターネットを利用したさまざまなサービスについて理解を深める。
3	「コンピュータ・ネットワークを利用する上でのマナーについて」 情報の受信者、消費者ではなく、発信者としての心構えも身につける。
4	「著作権について」 文化庁のWeb等を参照し著作権制度および著作権について最近の知識を身につける。
5	「ワープロソフトとは・基本的な利用方法」 ワードプロセッサソフトでは何ができるのか、ワードプロセッサソフトを用いるメリットについて理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。
6	「さまざまな機能を用いたレポート文書の作成」 ワープロソフトにはさまざまな機能が備わっている。これらの機能を実際の文章を作成しながら試してみる。
7	「表計算ソフトとは・基本的な利用方法」 表計算ソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。
8	「関数の利用」 表計算ソフトに備わっている関数の概念および、よく利用される関数を実際に試してみる。
9	「グラフの作成」 データをもとにしたグラフを作成する技術を身に付ける。
10	「データの処理、並べ替え、フィルタリングなど」 表計算ソフトに備わっているデータ処理機能について学ぶ。
11	「プレゼンテーションソフトとは・基本的な利用方法」 プレゼンテーションソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。
12	「プレゼンテーションをするにあたっての注意点」 資料作成の際に気をつけること、発表の際の注意事項について学ぶ。
13	「プレゼンテーション実習」 実際にプレゼンテーションを行い、課題を見つける。
14	「総合演習」 本演習で学んだ知識、演習で学んだことを再度見直す
15	「総合演習」 本演習で利用したソフトウエアは、実生活においてどのように利用すると有効であるか考え、実際に導入してみる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

最近一ヶ月以内にインターネット上で起きた事件のうち、興味があるものを1～2つ選び、効果的な対策と自身の考えを述べよ。

＜ポイント＞

・レポートの最初にその事件の発生日と概要を、引用元を示しつつ300字程度で書くこと。

・その事件についてあなたはどう思うか、今後、そのような事件は増えると思うか減ると思うか、効果的な対策や今後の展望について述べること。

・客観的な統計データを示しつつ論じることが望ましい。

【設題2】

インターネットの光と影について、それぞれ、具体的な例を挙げて述べよ。

＜ポイント＞

インターネットの普及によって生活はより便利になった。しかし、インターネットには良い面ばかりでなく、悪い面もある。インターネットの光（良い）の面、影（悪い）の面について、それぞれまとめるとともに、陰の面については、その対策も述べられていることが望ましい。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング終了時にコンピュータを使用した実技試験を行う。

1. Mrosoft Word の基本操作（罫線、図形描画など）
2. Microsoft Excel の基本操作（グラフ、関数など）
3. Microsoft Power Point の基本操作（アニメーションなど）
4. Microsoft Word、Excel、Power Point の総合的な利用
(データの分析から、報告書の作成、プレゼンテーションまで)

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

奥村晴彦、他『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社。

参考文献

FOM 出版『情報リテラシーWindows 10/Office 2019 対応』。
戸田山和久『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』NHK 出版。
藤井直弥、他『Excel 最強の教科書』SB クリエイティブ。
吉藤智広、他『伝わるプレゼンの法則 100』大和書房。
松上純一郎『PowerPoint 資料作成　プロフェッショナルの大原則』技術評論社。

科目コード	情報処理演習Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
1052		２年	ＳＲ
教員名	加藤由樹、舘秀典、竹内俊彦、鈴木茂樹		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側（受け手）の観点の内容が主であったが、本講義では、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。

マルチメディア情報の作成や、Web 技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習等を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。

学修内容

1	HTML の歴史～現状について学ぶ Web サービスはいつ頃からどのようにして始まったのか、また現代社会におけるインターネットの位置づけを理解し、最近のインターネットに関するニュース等をまとめる。
2	基礎的な HTML の演習、Web ページを作成するツールの調査 Web ページはどのような仕組みでできているのか、またどのような文法で書かれているのか理解する。 Web ページを記述する言語である HTML を編集するためのエディタについて調べて使う。HTML の骨格を記述する。
3	HTML リファレンスを見る、HTML タグ・属性について学ぶ HTML リファレンスの使い方を学習する。よく使うタグの意味を理解する。 メディアを挿入するタグ、ハイパーリンクのタグなど、よく使うタグを記述する。
4	その他 さまざまな HTML タグ・属性を利用した演習 HTML にはさまざまな要素が定義されている。それらについて理解し記述して試してみる。
5	スタイルシートの基礎・概要について学ぶ、スタイルシートを実装する Web ページのデザインは主に CSS で行う。CSS とは何かを理解する。 スタイルシートの記述方法やさまざまなセレクタについて学習する。
6	ビジュアルコンテンツの作成、画像処理ソフト・ツールの利用 ビジュアルコンテンツを作成することで、情報発信の可能性は大きく高まる。画像処理ソフトや様々なツールを使って静止画像を作るスキルを学習する。
7	ビジュアルコンテンツの作成、動画編集ソフト・ツールの利用 動画編集ソフトや様々なツールを使って動画を作るスキルを学習する。
8	Web のユーザビリティについて考える 見やすい Web、使いやすい Web とはどのようなものだろうか。ユーザビリティの観点から考え、説明できるようになる。
9	Web サイトを設計する 情報を発信するための Web サイトはユーザビリティの観点から、情報を整理し、見つけやすくするための設計が必要である。 ページデザイン、サイトマップや競合サイトの調査など具体的なサイトの構成を考える方法を学習する。
10	テーマを決めて HTML、CSS を利用した Web ページを作成する 検討したサイトデザインを元に、実際に HTML,CSS を利用してサイトを構築する。
11	HTML・CSS 作成演習(1)
12	HTML・CSS 作成演習(2)
13	作成した Web の相互評価 完成したサイトをピアレビューし、より良いものにするにはどうしたら良いのか検討する。
14	JavaScript とは、簡単な JavaScript の演習 JavaScript とは何かを理解し、JavaScript を利用した簡単なページを作成してみる。
15	Web サービスの今後の展望について Web は社会の中で今後どのような役割を担っていくだろうか。スマートフォンの普及、HTML5 にも触れ展望を検討する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】情報化社会におけるコンピュータについて述べ、今後の電子メディアの展望について述べよ。

＜ポイント＞

ネットワークの基本構成とコンピュータ通信の仕組みをよく理解すること。インターネットの普及に伴って電子メール・ホームページ・SNS など新しい電子メディアが発展し活用されている。社会福祉・教育・ビジネスなどさまざまな分野への情報化の進展と影響を述べること。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング終了時にコンピュータを使用した実技試験を行う。

1．HTML 言語による基本的な Web ページの作成
2．スタイルシートを利用した Web ページの作成
3．JavaScript 言語による対話型の Web ページの作成

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

奥村晴彦、他『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社。

参考文献

千貫りこ『デザインの学校 これからはじめる HTML & CSS の本』技術評論社。
Mana『1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座』SB クリエイティブ。
狩野祐東『確かな力が身につく JavaScript「超」入門 第2版』SB クリエイティブ。

科目コード	情報処理演習Ⅱ（4単位）	登録年次	履修方法
1053		2年	SR
教員名	加藤由樹、舘秀典、竹内俊彦、鈴木茂樹		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側（受け手）の観点の内容が主であったが、本講義では、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。

マルチメディア情報の作成や、Web 技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習等を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。

学修内容

1	HTML の歴史～現状について学ぶ Web サービスはいつ頃からどのようにして始まったのか、また現代社会におけるインターネットの位置づけを理解し、最近のインターネットに関するニュース等をまとめる。
2	基礎的な HTML の演習、Web ページを作成するツールの調査 Web ページはどのような仕組みでできているのか、またどのような文法で書かれているのか理解する。 Web ページを記述する言語である HTML を編集するためのエディタについて調べて使う。HTML の骨格を記述する。
3	HTML リファレンスを見る、HTML タグ・属性について学ぶ HTML リファレンスの使い方を学習する。よく使うタグの意味を理解する。 メディアを挿入するタグ、ハイパーリンクのタグなど、よく使うタグを記述する。
4	その他 さまざまな HTML タグ・属性を利用した演習 HTML にはさまざまな要素が定義されている。それらについて理解し記述して試してみる。
5	スタイルシートの基礎・概要について学ぶ、スタイルシートを実装する Web ページのデザインは主に CSS で行う。CSS とは何かを理解する。 スタイルシートの記述方法やさまざまなセレクタについて学習する。
6	ビジュアルコンテンツの作成、画像処理ソフト・ツールの利用 ビジュアルコンテンツを作成することで、情報発信の可能性は大きく高まる。画像処理ソフトや様々なツールを使って静止画像を作るスキルを学習する。
7	ビジュアルコンテンツの作成、動画編集ソフト・ツールの利用 動画編集ソフトや様々なツールを使って動画を作るスキルを学習する。
8	Web のユーザビリティについて考える 見やすい Web、使いやすい Web とはどのようなものだろうか。ユーザビリティの観点から考え、説明できるようになる。
9	Web サイトを設計する 情報を発信するための Web サイトはユーザビリティの観点から、情報を整理し、見つけやすくするための設計が必要である。 ページデザイン、サイトマップや競合サイトの調査など具体的なサイトの構成を考える方法を学習する。
10	テーマを決めて HTML、CSS を利用した Web ページを作成する 検討したサイトデザインを元に、実際に HTML,CSS を利用してサイトを構築する。
11	HTML・CSS 作成演習(1)
12	HTML・CSS 作成演習(2)
13	作成した Web の相互評価 完成したサイトをピアレビューし、より良いものにするにはどうしたら良いのか検討する。
14	JavaScript とは、簡単な JavaScript の演習 JavaScript とは何かを理解し、JavaScript を利用した簡単なページを作成してみる。
15	Web サービスの今後の展望について Web は社会の中で今後どのような役割を担っていくだろうか。スマートフォンの普及、HTML5 にも触れ展望を検討する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】情報化社会におけるコンピュータについて述べ、今後の電子メディアの展望について述べよ。
＜ポイント＞
ネットワークの基本構成とコンピュータ通信の仕組みをよく理解すること。インターネットの普及に伴って電子メール・ホームページ・SNS など新しい電子メディアが発展し活用されている。社会福祉・心理・教育・ビジネスなどさまざまな分野への情報化の進展と影響を述べること。

【設題2】インターネット時代のセキュリティについて、具体的な例を挙げて、自由に論じよ。
＜ポイント＞
インターネット時代のセキュリティに関連する事柄として、コンピュータウィルス、不正アクセス、ネット詐欺など、さまざまある。まず、セキュリティに関するどんな事柄に注目したかを明確にし、それについて具体的に述べること。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング終了時にコンピュータを使用した実技試験を行う。
1．HTML 言語による基本的な Web ページの作成
2．スタイルシートを利用した Web ページの作成
3．JavaScript 言語による対話型の Web ページの作成

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

奥村晴彦、他『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社。

参考文献

千貫りこ『デザインの学校 これからはじめる HTML & CSS の本』技術評論社。
Mana『1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座』SB クリエイティブ。
狩野祐東『確かな力が身につく JavaScript「超」入門 第2版』SB クリエイティブ。

科目コード	情報処理演習Ⅲ（２単位）	登録年次	履修方法
1400		３年	ＳＲ
教員名	加藤由樹、鈴木茂樹、竹内俊彦、舘秀典		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目では、プログラミング言語として VBA 言語を取り上げ、プログラミングを構成する基本要素を、演習を行いながら学んでいく。具体的には、プログラムの作成、プログラムの実行およびデバック、変数、数式、制御構造など、プログラムを構成する基本的な要素を理解することを目標とする。

学修内容

1	VBA でプログラミング：プログラミング、VBA、マクロ プログラミングの概念、VBA とはどのような言語か、それでマクロを組めるようになることのメリット
2	プログラミングの基礎知識：VBE の利用、プログラム入力、判断・繰り返し・変数などの基礎知識 エディタ VBE の起動と操作法の取得、かんたんなプログラムの入力と実行、基本的な命令文
3	プロシージャの作成：Sub プロシージャの作成 Sub プロシージャを利用し、プログラムを複数のパーツに分割する
4	変数と論理式：変数の宣言、有効範囲、計算、論理式 「変数」を宣言してから利用する。変数のスコープ(有効範囲)の議論、計算と論理式
5	配列変数の利用：配列変数の宣言と利用、組み込み定数 複数の値を格納する「配列」の利用
6	組み込み関数・文字列の扱い：さまざまな組み込み関数、文字列処理 あらかじめ VBA に備えられている組み込み関数の紹介と利用、文字列処理系の関数
7	フォームの作成　（1）フォームの作成、プロパティ、ボタン・ラベル・テキストボックス フォーム構成要素のうち、最も基本的な各パーツ(プロパティ、ボタン・ラベル・テキストボックス)を学ぶ
8	フォームの作成　（2）イメージ・チェックボックス・ラジオボタン、フレーム フォーム構成要素のうち、利用頻度が中程度の各パーツ(イメージ・チェックボックス・ラジオボタン、フレーム)を学ぶ
9	フォームの作成　（3）コンボボックス・リスト フォーム構成要素のうち、選択に利用するコンボボックス・リストを学ぶ
10	フォームの作成　（4）スクロールバー、タブストリップ、マルチページ フォーム構成要素のうち、利用頻度の低いスクロールバー、タブストリップ、マルチページを学ぶ
11	プログラムのラフ案作成：自分の作成したいプログラムのアイデアを文書にする 作成したいソフトのアイデアを練り、画面のイメージ図を白紙に手書きで描く
12	プログラム作成（1）オブジェクトの配置 フォームにオブジェクトを配置し、ユーザインタフェースを完成させる
13	プログラム作成（2）各イベントに応じたプログラムの作成 想定する動作をするようなプログラムを完成させる
14	プログラム作成（3）デバッグ プログラムの誤りを修正する
15	完成プログラムの文書化：プログラムのレポートの作成技術 作成したプログラムの目的、動作説明、入力と出力、プログラムリスト、感想を提出する

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

あなたが一日、プログラミングすれば作れそうな、VBA のオブジェクトから 4 種類以上を使うプログラムを想像し、そのイメージ図を描き、そのプログラムの目的と動作(このボタンを押すとこのイメージの写真が変わる、等)を述べよ。

＜ポイント＞

VBA のオブジェクト(コマンドボタン、テキストボックス、ラベル、イメージ、チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックス・リスト、スクロールバー、タブストリップ、マルチページなど)を 4 種類以上利用したことを明示するために、イメージ図には、たとえば占いプログラムであれば、「占う」ボタンのところに「コマンドボタン」と補足すると良い。実際にプログラミングする必要はない。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング終了時に、コンピュータを使用した実技試験を行う。

１．ユーザフォームを用いたプログラムの作成
２．そのプログラムに関するレポートを作成
　レポートには次の内容を含めること。
　・プログラムの名前　・何かをするプログラムか　・.なぜそのプログラムを作りたいと考えたか
　・プログラムの外見　・入力と出力の例　・ソースコード　・.感想及び改良したい部分

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

門脇香奈子 『これからはじめる Excel VBA の本』 技術評論社。

参考文献

立山秀利『Excel VBA のプログラミングのツボとコツがゼッタイにわかる本』秀和システム。

科目コード	情報処理演習Ⅲ（４単位）	登録年次	履修方法
1401/1402		３年/２年	ＳＲ
教員名	加藤由樹、鈴木茂樹、竹内俊彦、舘秀典		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、プログラミング言語として VBA 言語を取り上げ、プログラミングを構成する基本要素を、演習を行いながら学んでいく。具体的には、プログラムの作成、プログラムの実行およびデバック、変数、数式、制御構造など、プログラムを構成する基本的な要素を理解することを目標とする。

学修内容

1	VBA でプログラミング：プログラミング、VBA、マクロ プログラミングの概念、VBA とはどのような言語か、それでマクロを組めるようになることのメリット
2	プログラミングの基礎知識：VBE の利用、プログラム入力、判断・繰り返し・変数などの基礎知識 エディタ VBE の起動と操作法の取得、かんたんなプログラムの入力と実行、基本的な命令文
3	プロシージャの作成：Sub プロシージャの作成 Sub プロシージャを利用し、プログラムを複数のパーツに分割する
4	変数と論理式：変数の宣言、有効範囲、計算、論理式 「変数」を宣言してから利用する。変数のスコープ(有効範囲)の議論、計算と論理式
5	配列変数の利用：配列変数の宣言と利用、組み込み定数 複数の値を格納する「配列」の利用
6	組み込み関数・文字列の扱い：さまざまな組み込み関数、文字列処理 あらかじめ VBA に備えられている組み込み関数の紹介と利用、文字列処理系の関数
7	フォームの作成 （1）フォームの作成、プロパティ、ボタン・ラベル・テキストボックス フォーム構成要素のうち、最も基本的な各パーツ(プロパティ、ボタン・ラベル・テキストボックス)を学ぶ
8	フォームの作成 （2）イメージ・チェックボックス・ラジオボタン、フレーム フォーム構成要素のうち、利用頻度が中程度の各パーツ(イメージ・チェックボックス・ラジオボタン、フレーム)を学ぶ
9	フォームの作成 （3）コンボボックス・リスト フォーム構成要素のうち、選択に利用するコンボボックス・リストを学ぶ
10	フォームの作成 （4）スクロールバー、タブストリップ、マルチページ フォーム構成要素のうち、利用頻度の低いスクロールバー、タブストリップ、マルチページを学ぶ
11	プログラムのラフ案作成：自分の作成したいプログラムのアイデアを文書にする 作成したいソフトのアイデアを練り、画面のイメージ図を白紙に手書きで描く
12	プログラム作成（1）オブジェクトの配置 フォームにオブジェクトを配置し、ユーザインタフェースを完成させる
13	プログラム作成（2）各イベントに応じたプログラムの作成 想定する動作をするようなプログラムを完成させる
14	プログラム作成（3）デバッグ プログラムの誤りを修正する
15	完成プログラムの文書化：プログラムのレポートの作成技術 作成したプログラムの目的、動作説明、入力と出力、プログラムリスト、感想を提出する

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

あなたが一日、プログラミングすれば作れそうな、VBA のオブジェクトから４種類以上を使うプログラムを想像し、そのイメージ図を描き、そのプログラムの目的と動作(このボタンを押すとこのイメージの写真が変わる、等)を述べよ。

＜ポイント＞**※設題１については枚数の指定なし**

VBA のオブジェクト(コマンドボタン、テキストボックス、ラベル、イメージ、チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックス・リスト、スクロールバー、タブストリップ、マルチページなど)を４種類以上利用したことを明示するために、イメージ図には、たとえば占いプログラムであれば、「占う」ボタンのところに「コマンドボタン」と補足すると良い。実際にプログラミングする必要はない。

【設題２】プログラミング言語を、自由に２つ選んで、それぞれの特長について述べよ。

＜ポイント＞

プログラミング言語には、さまざまな種類がある。そのため、プログラミングをする人は、プログラミング言語の特長に応じて、使用目的を分けている。選んだ２つのプログラミング言語の特長を挙げたあと、それぞれが、どのような利用に向いているかについても論じることが望ましい。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング終了時に、コンピュータを使用した実技試験を行う。

１．ユーザフォームを用いたプログラムの作成
２．そのプログラムに関するレポートを作成
　レポートには次の内容を含めること
　・プログラムの名前　・何かをするプログラムか　・.なぜそのプログラムを作りたいと考えたか
　・プログラムの外見　・入力と出力の例　・ソースコード　・感想及び改良したい部分

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

門脇香奈子 『これからはじめる Excel VBA の本』 技術評論社。

参考文献

立山秀利『Excel VBA のプログラミングのツボとコツがゼッタイにわかる本』秀和システム。

科目コード	情報セキュリティ（２単位）	登録年次	履修方法
7810		３年	ＳＲ
教員名	菅沼太陽、竹内俊彦、ロペス・ルイス・ミゲル		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、コンピュータシステムおよびデータのセキュリティとプライバシー保護について学ぶ。具体的には、システム保護、システムの信頼性、システムの欠陥への対処、データ保護と暗号、ハッキングとソーシャルエンジニアリングについて、演習を通じて、かなり高度な内容にまで踏み込み、情報セキュリティに関する深い理解を図る。

学修内容

1	情報セキュリティとは（pp.2-8） 現在の情報ネットワークに潜む危険について学ぶ：フィッシング、P2P と情報漏洩、スパイウエア等。インターネットを利用して、最近の情報漏えい事件を調べる。インターネットの通常のデータ通信モデル（つまりクライアントサーバモデル）との違いをよく理解すること。
2	インターネットとセキュリティ（1）不正アクセスの手口（p.15、参考文献（以下参照）pp.151-156） 不正アクセス（外部からの侵入）手口について調べる。適切なパスワードを選択することの大切さをよく理解する（パスワードクラッキングとは何か）。また、パスワードの適切な保管について考える。外部からの侵入による最近の被害事件を調べて、侵入できた第一の要因について考える。
3	インターネットとセキュリティ（2）ポートスキャン、クロスサイトスクリプティング、SQL インジェクション等（pp.84-89） インターネットの IP パケットの構造と TCP や UDP パケットの構造を調べ、「ポート」の意味をよく理解する。また、ポートスキャンを行うことによって、先方（標的）のシステムについて何がわかるかを考える。特に、クロスサイトスクリプティング攻撃の仕組みと DNS キャッシュポイズニング攻撃の仕組みをよく理解する。
4	インターネットとセキュリティ（3）：ファイアーウォール、NAT、DMZ（pp.94-95、参考文献（以下参照）pp.84-85（TCP と 3 ウェイ・ハンドシェイク）、pp.156-160） ファイアーウォールの仕組みは、TCP の 3 ウェイ・ハンドシェイクに深くかかわっている、3 ウェイ・ハンドシェイクについて調べる。また NAT の仕組み、DMZ の仕組みを確認し、よく理解する。ファイアーウォールの 3 段階、パケット・フィルタリング、ステートフルインスペクション、アプリケーションゲートウエイをよく理解する。
5	攻撃手法（pp.84-85） 攻撃手法は 4 つのステップに分かれている、それは行うべき順番で、事前調査、権限取得、不正実行、後処理である。各ステップの内容をよく理解し、そのステップの必要性を理解する。また、不正行為を行うために、まずどのように自信の IP アドレスを隠すことができるかを調べる（Tor、匿名プロキシ）。
6	暗号化と電子認証（1）暗号技術（pp.95-100、参考文献（以下参照）pp.166-168） 暗号化技術には基本的に共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の 2 種類ある。その 2 つの方式の違いを理解し、それぞれのメリットとデメリットについて調べる。現在使用されている方式について調べる、共通鍵は DES、AES、MISTY１、公開鍵は RSA、 Diffie-Hellman。また、ハイブリッド暗号方式について調べる。
7	暗号化と電子認証（2）認証局（pp.98-104、参考文献（以下参照）pp.168-169） 暗号化のみの脆弱性：中間者攻撃について調べる。認証局（CA）の必要性と仕組みを理解する、また認証局と SSL プロトコルとの関係をよく理解する。電子メールにおけるセキュリティ、PGP の仕組みを理解する（そのためにハッシュ関数のすくみも調べる）。
8	脅威とリスク（1）情報セキュリティの定義（p.10） 情報セキュリティの定義　次の 3 つの概念に強く依存している：情報の機密性、完全性、可用性。その 3 つの概念をよく理解し、情報セキュリティの課題をよく理解する。特に完全性と可用性の大切さを理解する必要がある：セキュリティとは、機密性を保つのみだけではないことをよく理解する。
9	脅威とリスク（2）：情報資産・リスク・脅威・脆弱性・インシデント（pp.11-12） ページ 11 の図 2.1 をよく理解する。その図に書いてある「脅威」、「脆弱性」、「インシデント」を確認し、それらの概念同士の関係をよく理解する。それに加わって、「リスク」という概念はあるが、日常でよく使われていおり、情報セキュリティにおける正確な意味をよく確認する必要がある。
10	マルウエア（pp.13-14） マルウエアにはウイルス、スパイウエア、トロイの木馬などがあるが、名称の由来も含めてその 3 つについて調べる。事例として、「原田ウイルス」について調べる。欠かせない存在であるセキュリティソフト（ウイルス対策ソフトとも）と各メーカが頻繁に発表する各 OS のセキュリティパッチの大切さをよく理解する。

11	攻撃の種類（p.16） 主な種類は盗聴、改ざん、なりすまし、破壊、コンピュータ不正使用、不正プログラムの埋め込み、踏み台である。各攻撃の内容を調べて、それらの攻撃（脅威）に対してどのような脆弱性が考えられるかを調べる。
12	情報セキュリティポリシー（pp.66-72） 情報セキュリティポリシーは、情報資産を守るための対策の集合である。情報セキュリティの策定は、ISO の国際規格である ISMS をもとに策定する。基本的には、次に示す４つの段階を経て対策を実施する：組織内の体制を確立して策定する（P）、ソフトウェアを導入・設定し、運用する（D）、実施の効果が上がっているか評価する（C）、改善を施す（A）。つまり、PCDA サイクルが用いられる。
13	従業員とセキュリティ（pp.73-78） 規則を知り、遵守できるようなルール作りの難しさについて考える。情報セキュリティは、災害、火災、人的ミス、外からの攻撃という幅広い脅威に対す脆弱性を最低限度に抑えなければならない。したがって、情報セキュリティは、専門家だけ考えれば良いということではなくて従業員全員の課題である、特に従業員教育は大切となる。
14	情報セキュリティに関する基準（pp.108-110、参考文献（以下参照）pp.160-162） 主な国際基準は ISO/IEC27000 シリーズにまとめられた、各規格を確認し、ISO/IEC27000 シリーズの原点を調べる。それに加えて ISO/IEC15408、OECD 情報セキュリティガイドラインもあるが、その２つの基準を確認する。
15	法制度（pp.109-112、参考文献（以下参照）pp.162-164） 日本においては、不正アクセス禁止法、電子署名法、個人情報保護法、著作権法などがあるが、それらの法律の制定された年月を調べる。また、認証と電子証明に対して、電子署名及び認証業務に関する法律（電子証明法）があるが、証明事業者になるためのプロセスを調べる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 情報資産への脅威について述べよ。
＜ポイント＞
攻撃の種類をまとめ、各種類に対する対応方法を細かく記述する。この授業を受けて、ネットサーフィンなどした際に知らずうち危険にさらされていたことに気づいたことがあれば書くと良い（自分の体験でも他人の体験でも良い）。

科目終了試験学修のポイント

１．情報セキュリティマネジメントシステムの設計について
＜ポイント＞
PDCA サイクルを説明し、各ステップを解説する。特に Plan の目的はセキュリティポリシーを策定することである（セキュリティポリシーの階層を挙げる：教科書 p.66）。国際基準がある（ISO/IEC 27001）。

２．暗号化と電子認証について
＜ポイント＞
暗号化の定義を挙げ、暗号化の必要性を説明する。タイプは２つ：共通キーアルゴリズムと公開キーアルゴリズム。CA の仕組み説明し、認証局の必要性について解説する。

３．電子情報セキュリティに関する基準・法制度について
＜ポイント＞
ISO/IEC 27000 シリーズ、特に ISO/IEC 27001（ISMS）、セキュリティ製品の評価認証 ISO/IEC 15408。法律は不正アクセス禁止法、電子署名法、個人情報保護法、著作権法

４．脅威とリスクについて（危機管理システム）
＜ポイント＞
情報資産、リスク、脅威、脆弱性、インシデントの定義を挙げる。

５．ウイルスについて
＜ポイント＞
ウイルスは一般用語だが、マルウエアが正確な名称。その中でスパイウエアが最近多い。自分を守ることは他人を守ること。セキュリティソフトは欠かせない存在であるが、各ユーザの注意が必要。

６．ファイアーウォールについて
＜ポイント＞
ファイアーウォールを定義し、ファイアーウォールの原理について解説する。

教科書

独立行政法人情報処理推進機構（ＩＰＡ）『情報セキュリティ読本　第４版　―IT 時代の危機管理入門―』実教出版。

参考文献

小林浩、他『インターネット総論』共立出版。

科目コード	情報と職業（２単位）	登録年次	履修方法
7860		３年	R
教員名	小笠原眞紀、菅沼太陽、鈴木茂樹		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

情報化社会の進展に伴い、生活環境、ビジネス環境、産業環境が大きく変化している。端的には携帯電話やインターネット等、情報技術の浸透がどれほど私たちの生活やビジネスモデルに影響を与えているかを考えてみるとよいだろう。そこで、情報化社会における職業構造、情報化社会におけるビジネス環境、勤労環境と勤労観、職業倫理、企業や社会における情報活用などについて学んでいく。

学修内容

1	情報社会および情報システムの意味について理解し、現代社会を支える情報システムの具体例とそれらの概要について理解する。（pp.1-14）
2	現在の行政サービスには、どのような分野で情報システムが稼働し、どのような目的で情報システムが活用されているのか理解する。（pp.15-21）
3	コンビニエンスストアなどの具体例を通して POS・CRM・CTI などに関するビジネスモデルについて理解する。（pp.23-42）
4	情報通信技術によるビジネスおよび生活環境の変化に関する基本事項について理解する。（pp.44-54）
5	情報システムが様々な分野（製造業、商品サポート業、サービス業など）で活用されていることを具体例を通して理解する。（pp.55-81）
6	情報システムが企業経営に広く活用されていることを具体例を通して理解する。（pp.81-97）
7	インターネットを利用したビジネスモデルと、従来の（インターネットを利用しない）ビジネスモデルとを比較しながら、インターネットがビジネスに与えた影響について理解する。（pp.99-115）
8	企業および学術機関（大学など）でのインターネットの活用方法について理解する。（pp.115-121）
9	現代の一般的な労働観（働く環境）について理解する。（pp.123-128）
10	情報通信技術の発展および普及に伴う職場環境と仕事内容の変化について理解する。（pp.128-143）
11	情報通信機器に関する犯罪および法制度について具体例を通して理解する。（pp.145-163）
12	情報社会におけるセキュリティ対策の基本事項（ファイアーウォール、暗号技術、電子署名など）について具体例を通して理解する。（pp.153-173）
13	リスクおよびリスクマネジメントの意味や方法について事例を通して理解する。（pp.175-188）
14	今後の情報社会と深く関係することが予想される事項（仮想現実・ウェアラブルコンピュータなど）について具体例を通して理解する。（pp.189-200）
15	ディジタルデバイドの意味と現状を理解し、それらの問題点と解決策について検討する。（pp.200-203）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 労働ということに対する意識の変容について述べよ。

＜ポイント＞

われわれの労働環境が、情報化によってどのように変わったのかということを必ず踏まえて記述すること。

科目終了試験学修のポイント

1．インターネットを活用した新たな働き方と企業経営について

＜ポイント＞

学修内容[5]、学修内容[6]、学修内容[9]、学修内容[10] を中心に学修する。

2．出版・マスメディアにおける変化について

＜ポイント＞

学修内容[9]、学修内容[10]、学修内容[11] を中心に学修する。

3．企業における情報活用と問題について

＜ポイント＞

学修内容[3]、学修内容[5] ～ 学修内容[7]、学修内容[11] ～ 学修内容[13] を中心に学修する。

4．犯罪など、情報化社会のネガティブな側面について

＜ポイント＞

学修内容[1]、学修内容[2]、学修内容[11]、学修内容[12]、学修内容[13] を中心に学修する。

5．情報化社会の労働者にはどんなスキルが必要か、それはなぜか。

＜ポイント＞

学修内容[3]～学修内容[9] を中心に学修する。

6．現代の企業活動における情報機器及び情報技術の役割と功罪について

＜ポイント＞

学修内容[5]、学修内容[6]、学修内容[7]、学修内容[11] を中心に学修する。

教科書

駒谷昇一、 他『情報と職業』オーム社。

参考文献

春木良且『情報って何だろう』岩波ジュニア新書。
山形浩生『あたらしい教科書〈9〉コンピュータ』プチグラパブリッシング。

科目コード	情報倫理（２単位）	登録年次	履修方法
7710		２年	R
教員名	小笠原眞紀、竹内俊彦		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、情報機器およびインターネットを活用するときの基本的倫理を学修する。具体的には、知的所有権、プライバシー、ネチケット、セキュリティなどの論点を情報社会の諸問題として取り上げ、それに伴う技術や倫理や法規制を学んでいく。

学修内容	
1	情報倫理とは 情報倫理とは何か、なぜ必要なのかについて、ネットで問題となっている例をもとに説明する。
2	インターネット インターネットの基本的なしくみを説明し、生活にもたらした利便性と、さまざまな問題点について説明する。
3	ネット利用のマナー ネット上のエチケット(ネチケット)は、コンピュータに不慣れな場合、常識では推測しにくいものもあるため、重点的に解説する。また電子メールを利用するときの注意点についても述べる。
4	個人情報とプライバシー(1) プライバシー権の歴史を概観し、表現の自由とプライバシー権の矛盾について述べる。
5	個人情報とプライバシー(2) 個人情報保護への取り組み、個人情報保護法の概要、個人情報保護とプライバシーの今後を概観する。
6	電子商取引 ビジネスに利用される情報システムの紹介、電子商取引の概要・現状・進化・課題について述べる。
7	知的財産権(1) 知的財産権・著作権について、主に法律的な観点から述べる。また著作権による制限についても述べる。
8	知的財産権(2) 著作権を規定する各条約と、マークについて説明する。また情報化社会による、著作権の変化について説明する。
9	メディアリテラシー(1) メディアを利用する際の情報の真偽の見分け方について説明する。また報道の現場からの事例を解説する。
10	メディアリテラシー(2) 放送と倫理の相克について、メディアの見分け方、情報社会においてトラブルを防ぐために求められる能力を説明する。
11	ネットワーク不法行為 ネットワーク・ウイルスのしくみと種類、不正アクセスの手口、迷惑メール、(悪い意味での)ハッカーについて説明する。
12	暗号方式と電子署名(1) 暗号の発達による利便、暗号化のしくみ、インターネット上の暗号技術の発展、電子署名とデジタル署名の技術について説明する。
13	暗号方式と電子署名(2) セキュリティにおけるネットワーク管理者の役割と、ユーザにできるセキュリティ対策について説明する。
14	情報倫理とリテラシー 情報リテラシーを高めるためにすべきこと、情報社会を支える三本柱について説明する。
15	情報倫理の未来 未来における、情報技術の発達に伴う情報倫理の変化について述べる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

情報ネットワーク社会の中で他人の権利を侵すことなく快適に過ごすためにはどのようにしたらいいのか。具体例を挙げつつ論じよ。

＜ポイント＞

ネットワーク社会における技術、思想、法規制などをめぐって実際にどんな問題がおこっているか参照しながら、自分の立場を論理的に述べていくこと。

科目終了試験学修のポイント

1．インターネット上の個人間で起きる、私的なトラブルについて

＜ポイント＞

抽象的な理想論になりやすいので、個人的な経験や、過去の事例に基づいて論を展開するのが望ましい。

2．プライバシー保護と個人情報保護をめぐる問題について

＜ポイント＞

時代や技術の進歩によって、法律が大きく変わった分野なので、歴史的な背景に関する考察が不可欠である。

3．知的所有権をめぐる問題をどのように扱うべきか

＜ポイント＞

人によって意見が大きく異なる分野である。一方の立場に固執せず、あえて反対側の立場からも考えること。

4．メディアリテラシーとは何か、どのように高めていくべきかについて

＜ポイント＞

コンピュータの発達によって、どの能力がより必要になり、どの能力はあまり必要でなくなるだろうか。電卓によって暗算能力がそれほど必要ではなくなった等、過去に参考になる事例はないだろうか。

5．電子商取引の進化と、今後の課題について

＜ポイント＞

インターネットサイトを通じて様々な物品を購入することが、今以上に当たり前になったとき、既存の商店の役割は？など具体的に考えること。

6．映画もしくは音楽の新たなビジネス・モデルについて

＜ポイント＞

未知の巨大な市場がある分野である。100年後の未来を想像し、そこから逆算して現在できることを考えるとよい。大胆なアイデアを期待する。

教科書

大島武、他『ケースで考える情報社会』三和書籍。

参考文献

春木良且『情報って何だろう』岩波ジュニア新書。

『RFC1855 日本語訳』（http://www.p.chiba-u.ac.jp/lab/bukka/rfc/rfc1855j.html）

『まんがでわかるネチケット』（http://www.netkun.com/manners/netiquette/）

科目コード	資料解釈（２単位）	登録年次	履修方法
1510		１年	R
教員名	成田成		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

数的資料は適切に整理し、数表あるいはグラフの形で表現することにより、その意味することが理解しやすくなる。

大学での学修を進めていく上で必要な数表やグラフの資料から、社会問題や時事問題などを的確に把握し理解する能力を養う。そのためにも、過去問題や予想問題などを解くのはもちろんであるが、出題者側の意図を理解しながら、実際に自分で例題や模範解答を作成するところまで学修する。

学修内容

1	イントロダクション：数的資料とはどういうものか 調査によって得られる数情報にはどのようなものがあり、またその数値は何を意味しようとしているのか、具体例をあげて理解する。
2	資料源と採集の方法 数的資料は調査によって得ることができるが、その手続きにはインタビュー、書面、その他がある。それぞれの資料採集方法の特性と解析可能な内容について理解する。
3	度数分布表の作成 調査によって得られた数値について度数分布表（ある範囲内に含まれる数をまとめた表）の作成と、その意味することを、具体例をあげて理解する。
4	度数分布の比較 作成した度数分布表から、グループ間の差異について比較する。また、サンプル数が違う度数分布を比較する際の注意点についても理解する。
5	頻度割合表の作成 打数分布表を基に頻度割合表（ある範囲内に含まれる数の割合をまとめた表）を作成し、その意味することを、具体例をあげて理解する。
6	頻度割合の比較 頻度割合表から、グループ間の差異について比較する。また、サンプル数が違う頻度分布を比較する際の注意点についても理解する。
7	指数表の作成 ある値を基準とした場合の数値を指数という。調査資料から指数表を作成し、その意味することを把握する際の注意点について理解する。
8	指数の比較 指数表に示された数値の差異から、グループ間の比較や変化について把握する方法を理解する。また、指数による比較の際の注意点についても学ぶ。
9	指数と実数の関係 指数は実数をもとに、計算によって変換された値である。調査資料に含まれる情報を読み解く際に注意すべき、実数と指数の関係、およびそれぞれの数値が意味することを理解する。
10	数表から円グラフの作成 数的資料の表現方法の一つである円グラフについて、どのような資料が表現に適しているのか、また示されたグラフから何が読み取れるか理解する。
11	数表から棒グラフの作成 数的資料の表現方法の一つである棒グラフについて、どのような資料が表現に適しているのか、また示されたグラフから何が読み取れるか理解する。
12	数表から折れ線グラフの作成 数的資料の表現方法の一つである折れ線グラフについて、どのような資料が表現に適しているのか、また示されたグラフから何が読み取れるか理解する。
13	グラフの理解 数的資料を視覚的に早く理解するのに、グラフの作成は適している。円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフそれぞれの特徴と理解の仕方について理解する。
14	数的資料の解釈時の注意点 数表やグラフで表現される数的資料をどのように解釈し、その意味することを把握する際の注意点について学ぶ。また、グラフにによる数的資料の表現の特徴と注意点について理解する。
15	総括 実際に資料を集め、数表とグラフを作成して解釈を行う。また、その結果を文章によって説明する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 大学生として「資料解釈」を学ぶことの意義について述べよ。

＜ポイント＞

過去の経験を踏まえた上で、超高齢化、少子化、情報化、不登校、いじめ、教員の能力不足などと関連させながら、自分の将来につながるような内容の濃いレポートを期待している。

科目終了試験学修のポイント

1．「教育」に関する内容の数表を1つ作って資料解釈の小問題を5つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。

＜ポイント＞

教育現場では、成績、生活、友人関係、家庭環境などについて様々な調査が行われており、数的資料が発表されている。これらのテーマに関連する具体的な数表を作成し、その意味することを5択の設問にして、模範解答の解説をする。

2．「福祉」に関する内容のグラフを1つ作って資料解釈の小問題を5つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。

＜ポイント＞

数的資料を視覚的に表現する場合、円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフなどが使われる。福祉関連の数的資料を表現する際にどのグラフが最も適しているか考慮しながら作成する。グラフの解釈について5択の設問を作成し、模範解答の解説をする。

3．「学生」に関する内容の数表を1つ作って資料解釈の小問題を5つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。

＜ポイント＞

学生の学修・生活などに関する数的資料を数表にまとめ、その意味することを5択の設問にして、模範解答の解説をする。

4．「大学入試」に関するグラフを1つ作って資料解釈の小問題を5つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。

＜ポイント＞

大学志願者数、合格者数、学部・専攻の入学者数など、大学入試に関連する数的資料について実数あるいは頻度割合を使って円グラフ、棒グラフまたは折れ線グラフを作成し、グラフの解釈について5択の設問を作成し、模範解答の解説をする。

5．「就職」に関する内容の数表を1つ作って資料解釈の小問題を5つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。

＜ポイント＞

職種別就職者数、就職率、男女差など就職に関する数的資料を数表にまとめ、その意味することを5択の設問にして、模範解答の解説をする。

6．「教員」に関する内容のグラフを1つ作って資料解釈の小問題を5つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。

男女の教員数、小学校・中学校・高等学校の教員数、教科別教員数など、教員に関連する数的資料について円グラフ、棒グラフまたは折れ線グラフを作成し、グラフの解釈について5択の設問を作成し、模範解答の解説をする。

※科目終了試験では、定規の持ち込みは可とする。

教科書

保育士試験研究会編『保育士 就職試験問題集』実務教育出版。

参考文献

中学・高校の参考書や問題集など

科目コード	人格心理学（2単位）	登録年次	履修方法
2780/2781		3年/1年	R
教員名	志茂田典子、中山麻子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

「人格」とは、心の動きのパターンであり、「性格」とほぼ同じ意味で用いられるが、「性格」と区別する場合、「人格」は態度、興味、価値観などを含んだ全体的な特徴を指す。本科目では、人格の発達および形成過程の理解や人格の理解、人格の障害および病理などについて学ぶ。

学修内容

1	パーソナリティの基本概念を学ぶ（1）；自分とはどのような人間か、青年期には誰もが一度は問いかけるものであろう。そう思う心の裏側には、性格が気に入らなくて、変れるものなら変えたいという願いのある人もいよう。では、本当に変れるのであろうか。 答えは、変えられる面と変りづらい部分とがあるということである。その理由は、人格は一面構造ではなく、多面的であるからである。ここではパーソナリティ（人格）とキャラクター（性格）の違いについて学ぶ。
2	パーソナリティの基本概念を学ぶ（2）；女性と男性、その性質には違いがありそうである。例えば、女性は感性が豊かであるが、男性はそうではない、等々である。そこで、かつてはそういった個々の性質を測定することを通して、女らしさ男らしさを判定する性度テストというのもあった。しかし、これは本当であろうか。そのような性質は社会が作り上げたものではないか、そう今では考えられている。ここでは文化の違いから生じるパーソナリティの問題を学ぶ。
3	パーソナリティの研究法（1）人生は一生一度の営みである。二人として同じ体験をしている人はいない。一方、心理学は科学である。繰り返して確かめられる内容を材料としている。心理学の一分野であるパーソナリティ研究も同じである。客観的方法により誰もが納得できる法則の確立を目指している。ここでは基本である観察法、面接法、実験法、質問紙法について学ぶ。
4	パーソナリティの研究法（2）；前回に続いて、パーソナリティ研究法を取り上げる。ここでは、作業検査法、投影法、事例研究法を学ぶ。次にパーソナリティ研究は、学問に貢献するなら何でもやってよいか考える。例えば、人格の形成にとって母親との触れ合いが重要かを調べるため、母親と引き離した子育てと比較していく研究は許されるか。当然、否である。研究には倫理がある。パーソナリティ研究法の最後は、研究の倫理を学ぶ。
5	パーソナリティ理論（1）；この人の性格はあの人に似ている、そう思うことがある。そういう場合はあるタイプを想定しているのである。パーソナリティの見方の1つは、あるタイプに分類して理解するものである。類型論という。2つ目には、性格を作っている要素を発見し、その要素の割合や組み合わせで人をみていくものである。特性論と言われる。今は、ビッグ・ファイブという考え方が有力である。ここでは類型論と特性論の代表的なものを学ぶ。
6	パーソナリティ理論（2）；精神分析では、悩みというものは心の内側に葛藤があるからと考えている。イド、エゴ、スーパーエゴという力関係があるからと言う。また、精神分析は、人格の発達のメカニズムや防衛機制やコンプレックス論も含んでいる。一方、性格の形成は、心の内側の力動ではなく、全て学習という立場から説明できるという学習理論の考え方もある。条件づけや社会的学習理論でパーソナリティは作られているという。ここではこの二つを対比しながら学ぶ。
7	パーソナリティ理論（3）；来談者中心療法の創始者であるロジャーズは、独特なパーソナリティ論を展開している。有機体（本当の自分）と自己概念（思い込みの自分）との不一致が不適応を導くとしている。ロジャーズをはじめとする人間主義心理学では、人間には潜在的に成長する力があり、それを解放させることが治療という考え方がある。ここでは、人間主義心理学のパーソナリティ論について学ぶ。
8	パーソナリティ理論（4）；人の行動は、環境とかけ離れて生じるものではなく、環境との相互作用により生まれると考える。この考えからレヴィンは人の構造を考えている。これが場理論である。また、ある役割をするからあるタイプになるという役割理論もある。更には、我々人間にはものをみる認知枠があり、その枠を通してみている。従って、その認知を知ることが重要という考え方もある。これは社会認知理論と言われる。ここでは場理論、役割理論、社会的認知理論の立場からパーソナリティを学ぶ。
9	パーソナリティ発達の諸相（1）；パーソナリティの形成を考える。まず、エリクソンの発達を取り上げる。自己意識の形成から始まり、青年期の自分への問い直し、等々、人生という長いスタンスで発達上のパーソナリティの諸相を考えていく。特にアイデンティティの形成について学ぶ。
10	パーソナリティ発達の諸相（2）；積極的に生きている人は、自分はやれるという自己効力感がある。そして、物事への対処のため自己開示を適度にしながら自己制御も巧みである。ここでは生きるという観点からパーソナリティの機能について学ぶ。
11	パーソナリティ発達の諸相（3）；人格形成にとっては、乳幼児期からの親子関係のあり方は外せない。また、同じ親から育っているきょうだいもパーソナリティは異なる。ここではパーソナリティ形成にかかわる環境の働きについて学ぶ。また、似たもの夫婦という言葉があるが、本当か。更には、年をとるに従いパーソナリティはどのように変化していくか、学ぶ。
12	パーソナリティの歪み（1）；現代はストレス社会と言われる。パーソナリティはこのストレスに対抗していく。しかし、時にやられてしまう。適応障害がその代表である。また、人格障害もある。多重人格はその一つである。ここではストレスとパーソナリティとの関係について学ぶ。

13	パーソナリティの歪み（2）；パーソナリティの歪みの現象としてよく知られている性同一性障害やひきこもりや対人恐怖やコンプレックス並びに非行について学ぶ。また、その治療法についても触れる。
14	パーソナリティの知的側面（1）；その人の特徴的行動の仕方をパーソナリティといった。実は、この行動には知能にかかわる面もある。では頭が良いとはどのようなことか。一般には、成績の良い人は頭が良いと言われるように学習能力や数学のできる人は頭が良いなど抽象的思考能力などが挙げられている。ここではパーソナリティを知的側面から学ぶ。
15	パーソナリティの知的側面（2）；人間の頭の良さは、知能だけでは測定できない。社会的知能や創造性という面もあるからである。世の中に貢献する力量は、むしろこちらの能力も関係している。ここでは社会的賢さや創造的パーソナリティ並びに知能障害について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 精神分析における人格理論について述べよ。

＜ポイント＞ 次のものを必ずキーワードとして考えること。

①精神分析での心の発達

②心的構造論

③防衛機制論

④コンプレックス論

科目終了試験学修のポイント

1．類型論を1つ挙げ説明せよ。

＜ポイント＞

類型論とはどのようなものか、またその特徴について述べること。また、数多くある類型論から興味あるもの一つを挙げ、それについて解説すること。

2．特性論とはどのようものか、説明せよ。

＜ポイント＞

類型論に対して特性論は主にどこで発展したものであるか、その特徴について述べること。また、興味ある特性論を一つ以上挙げ、その解説をすること。

3．人格の歪みと適応障害について述べよ。

＜ポイント＞

適応障害の診断基準について述べ、次にストレスの関係について記述すること。また、自殺が心配されるうつ病との違いにも触れること。

4．人格研究法としての観察法について述べよ。

＜ポイント＞

観察法の特徴を他の研究法との比較を通して述べること。

5．人格はいかに形成されるか、述べよ。

＜ポイント＞

基本的には、遺伝と環境であるが、特に環境要因について述べること。親子関係やきょうだい、学校環境との関係まで触れられるとよい。

6．自己概念と適応との関係について述べよ。

＜ポイント＞

自尊感情と自己概念の関係が理解できると適応との関係が明確になろう。ただし、自己愛的なものが行き過ぎると却って不適応となる。その点についても触れて欲しい。

教科書

二宮克美、他『パーソナリティ心理学』新曜社。

参考文献

詫摩武俊、他『性格心理学への招待〔改訂版〕』サイエンス社。

清水弘司『性格心理学』ナツメ社。

杉山憲司、他『性格研究の技法』福村出版。

町沢静夫『性格は変えられる』KK ベストセラーズ。

科目コード	神経・生理心理学	登録年次	履修方法
3670		3年	R
教員名	荒井理帆、志茂田典子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

生理心理学は心理学と生理学にまたがる学問領域である。心を直接観察することはできないが、それに関連した生理的活動は観察可能であり、生理心理学においては心理的機能と生理的機能の対応関係が研究されている。この科目では、そのような生理学的変化を支える脳の働きを中心に据えながら、心理的機能と生理的機能の関連性についての知見を学修し、脳神経系の構造及び機能、記憶、感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能障害の概要を理解する。

学修内容

1	生理心理学とは何か① 生理心理学とは何を対象とした、どのような学問なのかを理解する。
2	生理心理学とは何か② ４つの研究方法について、それぞれ具体例をみながら理解する。
3	人間の脳の構造について① 脳を構成する神経細胞の構造と、それらの間の情報伝達について理解する。
4	人間の脳の構造について② 脳の基本的な構造について理解する。
5	生理心理学の観点からみた向精神薬の働きについて① 向精神薬とは何か、また、薬物のメカニズムについてシナプスで何が起こっているのかを理解する。
6	生理心理学の観点からみた向精神薬の働きについて② うつ病に関する生理心理学的理論と抗うつ薬による治療について理解する。
7	生理心理学の観点からみた向精神薬の働きについて③ 統合失調症に関する生理心理学的理論と抗うつ薬による治療について理解する。
8	学習・記憶に関する神経生理学的背景について① 脳の可塑性および長期増強について理解し、記憶障害と脳部位の関連を学ぶ。
9	学習・記憶に関する神経生理学的背景について② 非連合学習と連合学習の神経機構について理解する。
10	視知覚の神経機構について① 光情報が網膜で電気信号に変換される流れについて学び、網膜以降の２つの視覚経路について理解する。
11	視知覚の神経機構について② 視知覚障害と脳部位の関連を学ぶ。
12	情動の生理機構と情動が精神的・身体的健康に及ぼす影響について① 情動の生理機構に関する説を学び、情動の持つ３つの側面（情動体験、情動表出、情動活動）を理解する。
13	情動の生理機構と情動が精神的・身体的健康に及ぼす影響について② 情動が精神的・身体的健康に及ぼす影響について、特にストレスと HPA 軸との関連について理解する。
14	心理・精神の疾患と脳機能について① 不安障害、ADHD、自閉症（広汎性発達障害）、PTSD 等について、その病態と脳機能との関連を理解する。
15	心理・精神の疾患と脳機能について② 失語症、左半側無視、睡眠障害、パーキンソン病、アルツハイマー病等について、その病態と脳機能との関連を学び、神経心理学的リハビリテーションについて理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 生理心理学の観点からみた向精神薬の働きについて述べよ。

＜ポイント＞

①薬物が働くメカニズムについて、シナプス上にて起こっていると考えられている事象を詳述する。さらに、特に②うつ病に関する生理心理学的理論と抗うつ薬による治療、③統合失調症に関する生理心理学的理論と抗精神病薬による治療について整理しながらまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1． 生理心理学の研究方法について

＜ポイント＞

生理心理学としての特徴は何かを説明し、そのために、生理心理学ではどのような研究方法がとられているのかを考えること。具体的には、生理心理学における4つの研究方法について説明すること。

キーワード：脳、刺激法、破壊法、記録法、分子生物学的方法

2．人間の脳の構造と神経細胞の情報伝達について

＜ポイント＞

構造については、神経細胞と脳について、分けて考えるとよい。具体的には、神経細胞の構造について説明し、神経細胞で情報伝達がどのように行われているのかを説明する。脳の構造については、大脳、小脳、脳幹に分けて説明できるとよい。

キーワード：伝導、伝達、神経伝達物質、グリア細胞、脳血管、大脳、小脳、脳幹、髄膜、脳脊髄液、脳梁

3．視知覚の神経機構について

＜ポイント＞

光情報が網膜で電気信号に変換されるしくみを説明すること。次いで、網膜以降の2つの視覚経路について言及する。さらに、視覚障害と脳部位との関連についても言及するとよい。

キーワード：桿体細胞、錐体細胞、色覚異常、第1視覚系、第2視覚系、盲視、視野欠損、臨界期

4．学習･記憶に関する神経生理学的背景について

＜ポイント＞

記憶については、脳の可塑性および長期増強について説明し、記憶障害と脳の関連部位について言及できるようにする。

学習については、非連合学習と連合学習の神経機構について説明すること。

キーワード：シナプス可塑性、加重、長期増強、海馬、古典的条件づけ、オペラント条件づけ

5．心理・精神の疾患と脳機能について

＜ポイント＞

心理・精神の疾患と脳機能の関連性について簡略に説明し、次に、具体的な疾患名を1つ以上挙げ、脳のどの部分のどんな機能と関連しているのかに重点を置いて説明すること。ストレスに着目するのもよい。最後に機能回復についても言及する。なお、テキストにない疾患を選ぶ場合には、DSM-IV-TR や ICD-10 から選ぶこと。

キーワード：神経伝達物質、リハビリテーション、再建（復元）、再組織化（再編成化）

6．情動の生理機構と情動が精神的・身体的健康に及ぼす影響について

＜ポイント＞

情動の生理機構に関するいくつかの説を説明し、情動の持つ3つの側面、すなわち、情動体験、情動表出、情動活動について言及する。さらに、情動が精神的身体的健康に及ぼす影響について述べる。特にストレスと HPA 軸との関連を考えるとよい。

キーワード：神経伝達物質、扁桃体、視床下部、内側前脳束、ストレス、HPA 軸

教科書

岡田隆、他『生理心理学―脳のはたらきから見た心の世界』サイエンス社。

参考文献

藤沢清、他『新生理心理学〈1巻〉生理心理学の基礎』北大路書房。

柿木昇治、他『新生理心理学〈2巻〉生理心理学の応用分野』北大路書房。

Kevin Silber、苧阪直行、他『心の神経生理学入門―神経伝達物質とホルモン』新曜社。

科目コード	人権教育（２単位）	登録年次	履修方法
1450		１年	R
教員名	上木文夫、小澤浩之、須藤典征、鳥越由紀子、西村明子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

人権尊重は２１世紀の世界の課題である。わが国においても人権尊重の精神の涵養（かんよう）を目的とする多くの教育・啓発活動が行われている。本科目では、諸種の人権課題に対するわが国の取り組みについて理解を深め、それらの課題と人権教育との関連について考察を深める。また、日常の学校教育における人権教育のあり方についても学修する。

学修内容

1	人権教育について自身の体験について想起し整理する。
2	「憲法」および「世界人権宣言」にみられる基本的人権について整理する。
3	「人権教育・啓発に関する法律」及び、その基本計画について、その制定の経緯や関連について整理する。
4	子どもの人権について、特に「子どもの権利に関する条約」について理解を深める。
5	「子どもの権利に関する条約」の中で、子どもの「最善の利益」がどのように捉えられているか、整理する。
6	「子どもの権利に関する条約」の中で、子どもの「意見表明権」がどのように捉えられているか、また日常的にみられる子どもの意見の扱いについて整理する。
7	「子どもの権利に関する条約」の中で、子どもの「ゆとりや遊びの権利」がどのように捉えられているか、また、日常的にみられる子どもの遊びの扱いについて整理する。
8	「子どもの権利に関する条約」や「民法」などにみられる、「親の権利義務と子どもの権利義務」について整理する。（虐待などについても考察を広める）
9	高齢者、障害者など、今日的課題をも含めて、日常的にみられる、人権障害の事例を見いだし自分の考えを整理する。
10	わが国の人権教育の歩みと「同和教育」との関連を整備理する。
11	わが国の人権教育の歩みと「アイヌの人びと、外国人」の人権侵害・保障について整理する。
12	学校における人権教育の実際について、指導方法を含めて事例的に調査し自分なりの考えを整理する。
13	幼保および小学校の人権教育の実際について調査し、特に人権感覚の育成について考察し整理する。
14	中学校における人権教育の日常化についての在り方を考える。（いじめのない学校に向かって）
15	人権尊重の文化を築くために、（共生社会の実現のために）学校教育の果たす役割について考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

人権教育の現状と課題について考察し，学校での人権教育のあり方について考えを述べよ。

＜ポイント＞

「人権教育・啓発に関する基本計画」（平成14年3月15日閣議決定）などを参考にして、国の動向をも踏まえて自分の考えを構築することが大切である。

科目終了試験学修のポイント

1．「世界人権宣言」と憲法の「基本的人権」について

＜ポイント＞

法的拘束力を持たない「世界人権宣言」が、世界的に大切にされていること。また、わが国の「憲法」と基本的人権の尊重において一致していること。

2．「児童の権利に関する条約」について

＜ポイント＞

子どもは一人の人間として権利の主体であるという条約の考え方を理解することが重要である。

3．学校教育における人権教育について

＜ポイント＞

学校は子どもの人権保障の一環として存在すること。発達段階に即した教育が重要であること。

4．教科等の学習における人権教育について

＜ポイント＞

特に知的な教科は点数により子どもの価値を決めてしまいがち。子ども一人ひとりの存在が大切にされる学習の在り方が重要になってくる。

5．わが国の人権問題の現状と課題について

＜ポイント＞

ハード面や法の整備に比べて、ソフト面の遅れ、人権感覚の問題など、また、国際的な視野も大切にする。

6．わが国の人権問題（課題）の解決について

＜ポイント＞

21世紀が「人権の世紀」と言われるように、人権尊重、共生社会の実現が望まれていること。人権尊重の文化を築くため人権尊重の日常化を図ること。

教科書

中野光、他『子どもの権利条約』岩波書店。

中野陸夫『早わかり人権教育小事典』明治図書。

参考文献

内山一雄『人権教育の基礎理論』明石書店。

ラルフ・ペットマン、内田多美『幼児からの人権教育』明石書店。

科目コード	人事管理論（2単位）	登録年次	履修方法
8740		4年	R
教員名	岡田広司、孫維維		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

企業など組織が利潤を最大化するためには、経営資源の適切な配分が重要である。ここでは経営資源の中で重要である「人」について学ぶ。この「人」がどのような価値をもち、どのように機能しているのかを考えていく。

近年めまぐるしく変動する社会環境のもとで、労働力の需要と供給の構造変化も大きく変化している。そこで企業では、従業員をどのように育成し活用すれば、組織の最大の生産性を上げることができるかが、重要な課題となっている。従業員は「人財」と呼ばれ、最も重要なファクターの一つであることから、人事管理の効率的な運営とは何かについて考察を深める。

学修内容

1	「人事労務管理の機能」人事労務管理の目的は、労働者の働く意欲の維持と向上である。経営管理上の人事労務管理の3つの機能をよく理解する。また人事労務管理の基本的課題の把握はこの学修の実務への活用につながる。教科書の第1章を参照する。
2	「人事労務管理システム」人事労務管理システムは、組織の経営目標を実現するために労働提供を合理的に調整するものである。内外の環境の変化によって常に変化すること、人事戦略に基づいて経営的に選択されることを学修する。教科書の第1章を参照する。
3	「採用管理」採用管理は、雇用管理の入り口の管理として極めて重要なテーマである。企業など組織の業務量に基づいて必要とされる労働と提供可能な労働量の差が採用数になるなど、仕組みとしての考え方を理解したい。教科書の第2章を参照する。
4	「定年制と人事管理システムの変化」定年退職が職業生活からの引退として「終身雇用」の用語が当てはまった時代から、平均寿命の伸長などを背景に変化している現在の人事管理システムについて学修する。教科書の第2章を参照する。
5	「人事制度」人事制度は人事労務管理の基盤である。ここでは企業の人事制度の骨格である職能資格制度と人事考課制度を中心に学修する。職能資格制度と職務遂行能力および人事考課との相互関係を確認する。教科書の第3章を参照する。
6	「賃金管理」労働者にとって最も関心のある賃金制度について学ぶ。ここでは、個々の従業員の賃金がどのようにして決められているのかを理解することが目的である。賃金の本質、賃金体系なども学ぶ。教科書の第4章を参照する。
7	「昇進管理」人事制度の学修を踏まえて、企業など組織の昇進管理について学修する。昇進管理の3つの側面、育成、選抜、動機づけ、さらには同期入社の昇進競争、長期競争のベネフィットを学ぶ。教科書の第5章を参照する。
8	「役職昇進の遅れ」役職につかない管理職にどう対応するかという点を検討したい。多くの企業が管理職ポストの不足にもかかわらず、管理職比率は上昇しているという点も考察する。教科書の第5章を参照する。
9	「労働時間制度」労働者が企業などに提供する労働サービスの量とそれを提供するタイミングを規定する労働時間制度について学修し、フレックスタイム、ジョブ・シェアリング制なども学修する。教科書の第6章を参照する。
10	「労働時間の弾力化」企業にとっての弾力化、個人にとっての弾力化について理解し、変形労働時間制度、裁量労働制などの労働時間制度などを学修する。教科書の第6章を参照する。
11	「能力とは何か」仕事に必要な能力とは何か、そして能力開発の必要性、求められる能力の多様性について学修し、事例を通して能力開発における人事部の役割を学ぶ。教科書の第7章を参照する。
12	「職場の能力形成」職業能力を身に付ける手法であるOJTおよびOff-JTについて学修し、OJTが有効であるかなどを検討する。日本企業の製造現場で広く使われているスキルマップを例にして理解を深める。教科書の第7章を参照する。
13	「非正規従業員の活用」企業が労働サービス需要の量的変動への対応、量的柔軟性の向上のために、積極的に活用する非正規従業員や派遣労働者について学修する。教科書の第8章を参照する。
14	「福利厚生制度」企業の従業員の生活支援としての福利厚生制度について理解する。また福利厚生がもたらす従業員の労働意欲の向上、福利厚生の現状、国際比較について学修する。教科書の第9章を参照する。
15	「ワーク・ライフ・バランスの実現」ワーク・ライフ・バランス支援の取り組みについて学修する。仕事上の責任だけでなく家庭生活との調和を考察し理解を深める。教科書の第9章を参照する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】「人事管理論」を学ぶ意義について述べよ。

＜ポイント＞

企業などの経営体は、ヒト（人的資源）、モノ（原材料や生産設備）、カネ（資本）の3つの経営資源から構成されている。また人事管理は、この経営資源の中でも人的資源に関わる管理機能を担うものである。まさに生きた資源として、資源を確保（採用）し、職務能力を育成し、合理的・効率的に活用するなどといった課題がある。さまざまな課題を持つ人的資源の管理を学ぶことにより、今後、企業など組織に参画し、職務を担当したり、管理をしたりする自分の将来と結びつけながら考えをまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．人事労務管理の3つの機能について

＜ポイント＞

企業（組織）の経営資源のうち、人的資源に関わる管理機能について説明する。

2．企業の採用計画について

＜ポイント＞

企業(組織)の採用管理による採用数の算出は、短期および中期があり、業務量に基づく必要労働量の測定からはじまる。

3．人事制度の基本的な考え方について

＜ポイント＞

人事制度とはどのようなものか、職能資格制度が人事労務管理の中でどのような役割を果たしているかまとめる。

4．昇進管理の3つの側面と昇進競争について

＜ポイント＞

企業（組織）の昇進管理である役職昇進と資格昇格という2つの側面を理解し、昇進における長期の競争について述べる。

5．仕事の能力開発について

＜ポイント＞

仕事に必要とされる能力とは何か。求められる能力の多様性、そして能力開発の主体は自分自身であるという点について述べる。

6．生活支援としての福利厚生について

＜ポイント＞

従業員が受ける法定福利厚生と法定外福利、福利厚生を提供する6つの考え方、そして労働意欲の向上などについて説明する。

教科書

佐藤博樹、他『新しい人事労務管理』有斐閣。

参考文献

佐藤正男『経営人事管理』弘文堂。
慶應義塾大学ビジネススクール『人的資源ビジネスマネジメント戦略』有斐閣。
守島基博『人材マネジメント入門』日本経済新聞社。
今野浩一郎、佐藤博樹『人事管理入門』日本経済新聞社。

科目コード	人体の構造と機能及び疾病	登録年次	履修方法
1910		1年	SR
教員名	橋本由利子、石本強、泉二奈緒美、呂智濱、岡本真哉、宋暁鈞、清水竜		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

近年、医学・医療に関するニーズは高まっており、医療、介護、保健、福祉といった専門的分野はもちろん、教育や一般社会組織の現場でも最低限の知識と技術が要求される。本科目では人体の構造と機能及び疾病について学修し、心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害、がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について理解し、日常業務で生かせる基本的な医学的知識の習得を目的とする。

学修内容

1	イントロダクション：命と医学・医療、医学・医療の歴史 病気とはどういうことか考え、医学と医療は何をするのか定義する。医学・医療の歴史を振り返り、将来の方向性について、終末期医療、再生医療を含めて考える。
2	心身機能と身体構造①：人体各部の名称と機能の概要。体液・血液の性状。呼吸器系。循環器系。機能と代表的な関連疾患 人体を部位別に分け、存在する各種臓器・組織の構造と機能の概略を理解する。生体活動を維持するための体液（血液を含む細胞外液、細胞内液）の恒常性、呼吸器・循環器系の相互関連を理解し、代表的な疾患を学ぶ。
3	心身機能と身体構造②：消化器系、泌尿器系。代表的な関連疾患 消化器系（消化管、肝臓、膵臓など）の構造と機能（消化・吸収）について理解し、栄養素の機能について学ぶ。泌尿器系（腎臓、膀胱）の構造と機能から、排泄機能について学ぶ。さらに、これらの器官における代表的な疾患を知る。
4	心身機能と身体構造③：骨格系、筋系。代表的な関連疾患 身体の姿勢維持と運動に関与する骨格系と筋系の構造と機能を学び、筋収縮の機序と関連疾患を理解する。骨および筋の運動以外の機能とその障害についても学ぶ。
5	心身機能と身体構造④：神経系、内分泌系、生殖器系、皮膚と感覚器。代表的な関連疾患 生体内の情報伝導・伝達機能を担う神経系と内分泌系の特性と調節機序を理解する。皮膚の構造と機能について理解し、障害の発生原因について考察する。
6	疾病と障害①：生活習慣病（がん、虚血性心疾患、脳卒中、メタボリックシンドローム） 生活習慣病の定義を理解し、メタボリックシンドロームの予防と対策について考える。悪性新生物（がん）の発症機序、リスク因子、対策について理解する。
7	疾病と障害②：先天性疾患、周生期障害、乳幼児のリスク因子、心身の機能障害、発達障害 精子・卵子の形成、受精から出生までの胎芽・胎児の成長過程をもとに、先天奇形の原因と対策について学ぶ。乳児期の成長における栄養・刺激提示の重要性から、障害発生のリスク因子と予防策について考察する。
8	疾病と障害③：感染症とその対策 感染、感染症を定義して、病原体の種類と特徴について学ぶ。特に、細菌とウイルスの違いを区別する。感染症発症の 3 原則をもとに、予防対策について考察する。
9	疾病と障害④：精神障害、高次脳機能障害 精神障害の診断マニュアル（DSM-5, ICD-10）について、なぜマニュアルが必要なのかを含めて理解する。精神障害の分類とそれぞれの特徴、治療方法について整理・理解する。
10	疾病と障害⑤：加齢と老化（老化性疾患、認知症、生活不活発病） 加齢を定義し、受精・分化・成長、成熟、老化について、段階ごとに理解する。高齢者に起こりやすい疾病について、身体面、メンタル面に関連するものを整理し、進化および成長との関連を含めて理解するとともに、その予防策について考察する。
11	疾病と障害⑥：老化性疾患（骨粗鬆症、視聴覚障害、嚥下障害、内部障害など） 高齢者に多い疾患（老化性疾患）のうち、身体面を中心に、原因と対策について理解する。障害、特に内部障害に含まれる症状の発症率から、障害発生の原因と対策について考察する。ICF とリハビリテーションについても理解する。
12	疾病と障害⑦：ストレス性疾患、免疫異常、難病 ストレス刺激、ストレスを定義し、代表的なストレス性疾患について理解する。免疫・自律神経機能の関連から、ストレスと疾病リスクとの関連について考察する。
13	日本人の健康状態と寿命：現代の健康状態、および人口統計の現状と将来人口の予測 平均寿命の変遷、栄養状態をもとに、日本人の、現在と将来の健康状態について理解する。健康とはどういう状態なのかについて、WHO の定義の是非を含めて考察する。
14	健康づくり：健康度の向上、健康寿命延長のための活動 老化による機能低下、および健康寿命と寿命の定義を理解し、健康度上昇のための活動にはどのようなものがあるか考察する

15	最新の医学情報 　生きていること、また命を巡る様々な考えについて学ぶ。最新の医学・医療技術について学び、それぞれについて将来の展望をまとめる。 総括 　医学・医療は何を目的としているのか、医療・福祉を施す側、施される側から、広い観点で考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 認知症について述べよ。

＜ポイント＞

単なる物忘れとの違いについて触れながら認知症の定義について説明し、認知症の原因と症状、認知症と間違われやすい病態とその違い、治療（薬物療法および非薬物療法）について論じること。

科目終了試験学修のポイント

1．生活習慣病と未病について

＜ポイント＞

生活習慣病にはどういう疾患が含まれるのか、また発症には至らないまでも一歩手前の状態である未病の概念について理解した上で、現代社会における生活様式の変化、医療の進歩などとの関係について、さらには生活習慣病への対策について考察すること。

2．悪性腫瘍について

＜ポイント＞

悪性腫瘍は体内で異常細胞（がん細胞）が増殖したもので、器官・組織の正常機能が損傷され、最終的には死に至る。がん細胞の発生・増殖要因と防止策、悪性腫瘍の治療方法について考察すること。

3．骨・関節疾患について

＜ポイント＞

骨には身体の支持・運動、内臓の保護、カルシウムの蓄積、造血機能がある。骨同士を結ぶ関節は運動と関連するが、二足歩行をする人間は、下肢に特有の関節障害が現れやすい。その原因と対策を考察すること。

4．感染症について

＜ポイント＞

病原体（感染性たんぱく質、ウイルス、細菌、真菌、原虫など）が体内に侵入・定着・増殖し、その結果、増殖部位で炎症が生じるのが感染症である。感染症成立の三大要因について述べ、感染症の予防対策について考察すること。

5．先天性障害について

＜ポイント＞

ヒトはたった1個の受精卵から始まり、DNA の遺伝情報に基づくタンパク質合成、細胞分裂、器官形成、機能分化、機能発達の歴史を経て出生するが、それらの過程のどれか1つでも異常があると先天性障害が現れる。先天性障害のリスク因子と、障害発生の予防策について考察すること。

6．老化に伴う心身機能の変化について

＜ポイント＞

老化は避けられない現象で、心身の機能が低下で特徴づけられ、様々な疾患が出現したり、その発症リスクが上昇したりする。老化の進行はとめられないが、進行を遅らせることは可能である。老化に伴う生理機能低下の代表例を挙げ、その概要と予防策を考察すること。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座1　人体の構造と機能及び疾病』中央法規。

参考文献

東京福祉大学編『 新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。

科目コード	人体の構造と機能及び疾病	登録年次	履修方法
1911		1年	R
教員名	石本強、大島一成、岡本真哉、清水竜、宋暁鈞、手塚和美、橋本由利子、泉二奈緒美、呂智濱		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

この講義は、医学の総合社会科学としての側面についても触れ、生活の質（QOL）を豊かにする保健・医療・福祉・心理のあり方についても学び、福祉専門職者・心理専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。

具体的には、

●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化や日常生活との関係を踏まえて理解する。

●生活習慣病とその予防について、健康増進の正しい方策について理解する。

●国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。

●リハビリテーションの概要について理解する。

学修内容

1	イントロダクション：命と医学・医療、医学・医療の歴史 病気とはどういうことか考え、医学と医療は何をするのか定義する。医学・医療の歴史を振り返り、将来の方向性について、終末期医療、再生医療を含めて考える。ＩＣＦの基本的考え方と概要について理解する。
2	心身機能と身体構造①：人体各部の名称と機能の概要、体液・血液の性状、呼吸器系、循環器系、機能と代表的な関連疾患 人体を部位別に分け、存在する各種臓器・組織の構造と機能の概略を理解する。生体活動を維持するための体液（血液を含む細胞外液、細胞内液）の恒常性、呼吸器・循環器系の相互関連を理解し、代表的な疾患を学ぶ。
3	心身機能と身体構造②：消化器系、泌尿器系、代表的な関連疾患 消化器系（消化管、肝臓、膵臓など）の構造と機能（消化・吸収）について理解し、栄養素の機能について学ぶ。泌尿器系（腎臓、膀胱）の構造と機能から、排泄機能について学ぶ。さらに、これらの器官における代表的な疾患を知る。
4	心身機能と身体構造③：骨格系、筋系、代表的な関連疾患 身体の姿勢維持と運動に関与する骨格系と筋系の構造と機能を学び、筋収縮の機序と関連疾患を理解する。骨および筋の運動以外の機能とその障害についても学ぶ。
5	心身機能と身体構造④：神経系、内分泌系、生殖器系、皮膚と感覚器、代表的な関連疾患 生体内の情報伝導・伝達機能を担う神経系と内分泌系の特性と調節機序を理解する。皮膚の構造と機能について理解し、障害の発生原因について考察する。
6	疾病と障害①：生活習慣病（がん、虚血性心疾患、脳卒中、メタボリックシンドローム） 生活習慣病の定義を理解し、メタボリックシンドロームの予防と対策について考える。悪性新生物（がん）の発症機序、リスク因子、対策について理解する。ICF とリハビリテーションについても理解する。
7	疾病と障害②：先天性疾患、周生期障害、乳幼児のリスク因子、心身の機能障害、発達障害 精子・卵子の形成、受精から出生までの胎芽・胎児の成長過程をもとに、先天奇形の原因と対策について学ぶ。乳児期の成長における栄養・刺激提示の重要性から、障害発生のリスク因子と予防策について考察する。
8	疾病と障害③：感染症とその対策 感染、感染症を定義して、病原体の種類と特徴について学ぶ。特に、細菌とウイルスの違いを区別する。感染症発症の３原則をもとに、予防対策について考察する。
9	疾病と障害④：精神障害、高次脳機能障害 精神障害の診断マニュアル（DSM-5, ICD-10）について、なぜマニュアルが必要なのかを含めて理解する。精神障害の分類とそれぞれの特徴、治療方法について整理・理解する。
10	疾病と障害⑤：加齢と老化（老化性疾患、認知症、生活不活発病） 人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 加齢を定義し、受精・分化・成長、成熟、老化について、段階ごとに理解する。高齢者に起こりやすい疾病について、身体面、メンタル面に関連するものを整理し、進化および成長との関連を含めて理解するとともに、その予防策について考察する。
11	疾病と障害⑥：老化性疾患（骨粗鬆症、視聴覚障害、嚥下障害、内部障害など） 高齢者に多い疾患（老化性疾患）のうち、身体面を中心に、原因と対策について理解する。障害、特に内部障害に含まれる症状の発症率から、障害発生の原因と対策について考察する。ICF とリハビリテーションについても理解する。
12	疾病と障害⑦：ストレス性疾患、免疫異常、難病 ストレス刺激、ストレスを定義し、代表的なストレス性疾患について理解する。免疫・自律神経機能の関連から、ストレスと疾病リスクとの関連について考察する。

13	日本人の健康状態と寿命：現代の健康状態、および人口統計の現状と将来人口の予測 平均寿命の変遷、栄養状態をもとに、日本人の、現在と将来の健康状態について理解する。健康とはどういう状態なのかについて、WHO の定義の是非を含めて考察する。
14	公衆衛生・保健医療の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。 健康づくり：健康度の向上、健康寿命延長のための活動 老化による機能低下、および健康寿命と寿命の定義を理解し、健康度上昇のための活動にはどのようなものがあるか考察する
15	最新の医学情報 生きていること、また命を巡る様々な考えについて学ぶ。最新の医学・医療技術について学び、それぞれについて将来の展望をまとめる。 総括 医学・医療は何を目的としているのか、医療・福祉を施す側、施される側から、広い観点で考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 認知症について述べよ。

＜ポイント＞

認知症の原因と症状と経過、ＩＣＤ－１０診断について説明し、認知症の下位分類とその症状の特徴について述べる。また認知症の鑑別診断についても述べる。治療（薬物療法および非薬物療法）について論じること。

科目終了試験学修のポイント

1．生活習慣病と未病について

＜ポイント＞

生活習慣病にはどういう疾患が含まれるのか、また発症には至らないまでも一歩手前の状態である未病の概念について理解した上で、現代社会における生活様式の変化、医療の進歩などとの関係について、さらには生活習慣病への対策について考察すること。

2．悪性腫瘍について

＜ポイント＞

悪性腫瘍（がん）は悪性細胞からなる腫瘍で、自律性増殖、浸潤、転移という 3 つの性質をもつ。遺伝的要因が強いが環境要因も関与している。治療の三本柱は①手術、②薬物療法、③放射線療法であり、早期発見、早期治療が重要であるが、予防策も重要である。日本人の男性・女性それぞれに多い癌（各上位3疾患） について、以上の観点から述べる。

3．骨・関節疾患について

＜ポイント＞

骨には身体の支持・運動、内臓の保護、カルシウムの蓄積、造血機能がある。骨同士を結ぶ関節は運動と関連するが、二足歩行をする人間は、下肢に特有の関節障害が現れやすい。その原因と対策を考察すること。

4．感染症について

＜ポイント＞

病原体（感染性たんぱく質、ウイルス、細菌、真菌、原虫など）が体内に侵入・定着・増殖し、その結果、増殖部位で炎症が生じるのが感染症である。感染症成立の三大要因について述べ、感染症の予防対策について考察すること。

5．先天性障害について

＜ポイント＞

ヒトはたった1個の受精卵から始まり、DNA の遺伝情報に基づくタンパク質合成、細胞分裂、器官形成、機能分化、機能発達の歴史を経て出生するが、それらの過程のどれか1つでも異常があると先天性障害が現れる。先天性障害のリスク因子と、障害発生の予防策について考察すること。

6．老化に伴う心身機能の変化について

＜ポイント＞

老化は避けられない現象で、心身の機能が低下で特徴づけられ、様々な疾患が出現したり、その発症リスクが上昇したりする。老化の進行はとめられないが、進行を遅らせることは可能である。老化に伴う生理機能低下の代表例を挙げ、その概要と予防策を考察すること。

教科書
一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集 『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座【共通科目】1　医学概論』　中央法規
参考文献
東京福祉大学編『 新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。

科目コード	人文科学（２単位）	登録年次	履修方法
1480		１年	R
教員名	小野智一		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

文化や歴史など人間の思想や行動に深くかかわる人文科学の領域（日本史、世界史、地理、倫理、国語・芸術など）を総合的に学び、大学程度の一般教養を身につけるとともに、就職試験などで課される重要概念を理解し、必要な知識を修得する。

また、本講では読書を通じて人文科学についての見方考え方を養うことも目的としている。

学修内容

1	読書を通じて人文科学の見方を養う―日本史、世界史、地理、倫理、国語・芸術などを事例として― 福沢諭吉『学問のすゝめ』教科書『日本の名著』pp.2-10.テキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「１．福沢諭吉『学問のすゝめ』の論点と影響について」
2	時代を見る視点～北村透谷『徳川氏時代の平民的理想』～ 教科書『日本の名著』pp.23-28.テキスト該当ページを読んで「国民」イメージの形成について、北村透谷の視点を整理する。
3	明治期における欧米コンプレックスとの対峙～志賀重昂『日本風景論』～ 教科書『日本の名著』pp.41-60. 志賀の日本の風土と西欧の風土を比較する視点についてテキストを読んでまとめる。 関連…科目終了試験学修のポイント「２．志賀重昂『日本風景論』の論点と影響について」
4	EU 理念にも連なる思想を築く～岡倉天心『東洋の思想』～ 教科書『日本の名著』pp.61-77. 天心の「アジアは一つ」についてテキスト該当ページを読んでまとめる。 関連…科目終了試験学修のポイント「３．岡倉天心『東洋の思想』の論点と影響について」
5	求道の精神～河口慧海『西蔵旅行記』～ 教科書『日本の名著』pp.77-82. 慧海のエピソードについてテキスト該当ページを読んでまとめる。
6	近代的自我の確立～夏目漱石『文学論』～ 教科書『日本の名著』pp.95-100. 夏目の考える文学的内容の形式についてテキストを読んでまとめる。
7	日本最初の独走哲学～西田幾多郎『善の研究』～ 教科書『日本の名著』pp.107-112. 西田の提示する「純粋経験」についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「４．西田幾多郎『善の研究』における「純粋経験」について」
8	環境と民族性～和辻哲郎『風土』～ 教科書『日本の名著』pp.227-232.和辻の風土論についてテキストを読んでまとめる。 関連…科目終了試験学修のポイント「５．和辻哲郎『風土』の論点と影響について」
9	西洋は「模範」か「外圧」か～大塚久雄『近代欧洲経済史序説』～ 教科書『日本の名著』pp.251-256.大塚の西欧社会についての考えをテキストからまとめる。
10	新しい史観を形作った理学者～梅棹忠夫『文明の生態史観』～ 教科書『新・現代歴史学の名著』pp.19-32. 生態史観についてテキストを読んで項目のまとめをする。
11	グローバル世界のはじまりをどのように考えるか～ウォーラーステイン『近代世界システム』～ 教科書『新・現代歴史学の名著』pp.49-62. 近代世界システム論についてテキストを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「６．ウォーラーステイン『近代世界システム』 の論点と影響について」
12	異文化の見方～サイード『オリエンタリズム』～ 教科書『新・現代歴史学の名著』pp.104-119. オリエンタリズム概念の意義についてテキストを読んで項目のまとめをする。
13	民衆の歴史～網野善彦『無縁・公界・楽』『日本中世の非農業民と天皇』～ 教科書『新・現代歴史学の名著』pp.120-135. 網野の歴史観についてテキストを読んで項目のまとめをする。 関連…【設題１】「政治学」の学び方について述べよ。
14	ステレオタイプ日本人観からの脱却～ダワー『敗北を抱きしめて』～ 教科書『新・現代歴史学の名著』pp.244-252. ダワーの提示した日本人観についてテキストを読んで項目のまとめをする。
15	歴史学は政策科学に役立つのか？～速水融『近代移行期の人口と歴史』『近代移行期の家族と歴史』～ 教科書『新・現代歴史学の名著』pp.253-268.テキスト該当ページを読んで、歴史人口学が政策科学に与える影響について、項目のまとめをする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 明治期日本の文化人の気質について述べよ。

＜ポイント＞

教科書『日本の名著』では、明治期日本を代表する文化人についての著作とともにエピソードがまとめられている。さまざまな分野の人物の著作とその意義を様々な角度からの分析をすることを推奨する。解答にあたっては、受講生自身が関心ある人物を３～４人取り上げ、主要著作の意義と気になったエピソードを取り上げながら論述すること。

科目終了試験学修のポイント

１．福沢諭吉『学問のすゝめ』の論点と影響について

＜ポイント＞

教科書『日本の名著』pp.2-10.を読み、要点をまとめること。

２．志賀重昂『日本風景論』の論点と影響について

＜ポイント＞

教科書『日本の名著』pp.41-60.を読み、要点をまとめること。

３．岡倉天心『東洋の思想』の論点と影響について

＜ポイント＞

教科書『日本の名著』pp.61-77.を読み、要点をまとめること。

４．西田幾多郎『善の研究』における「純粋経験」について

＜ポイント＞

教科書『日本の名著』pp.107-112.を読み、要点をまとめること。

５．和辻哲郎『風土』の論点と影響について

＜ポイント＞

教科書『日本の名著』pp.227-232.を読み、要点をまとめること。

６．ウォーラーステイン『近代世界システム』 の論点と影響について

＜ポイント＞

教科書『新・現代歴史学の名著』pp.49-62.を読み、要点をまとめること。

教科書

桑原武夫『日本の名著–近代の思想–』中央公論社。

樺山紘一『新・現代歴史学の名著』中央公論社。

参考文献

A.ハミルトン、他『ザ・フェデラリスト』岩波文庫。

佐々木毅『政治学の名著30』ちくま新書。

山内昌之『歴史学の名著30』ちくま新書。

日本経済新聞社編『経済学名著と現代』日本経済新聞社。

林敏彦『市民と社会を知るために』放送大学教育振興会。

科目コード	人文地理（２単位）	登録年次	履修方法
1420		１年	R
教員名	小野智一、山田哲史		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

人文地理学は、地理学において政治、経済、文化など人間活動と空間及び環境の相互作用について、その多様性や枠組みを探究してきた分野である。

本講座では人文地理学における基本概念の理解のほか、GIS（地理情報システム）による研究環境の変容についても取り扱っていく。また、地理学は実地の検証などフィールドワーク実践を重視する分野でもある。フィールドワーク実践に係る基礎的な概念（調査法や統計など）については、参考文献を参考に補完することが望ましい。

学修内容

1	人文地理学の研究対象 教科書 pp.11-29.学修内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
2	地理情報の整備と社会 教科書 pp.30-43.学修内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
3	GIS 革命と地理情報科学 教科書 pp.44-58.学修内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
4	フィールドワークと GIS 教科書 pp.59-75.学修内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「１．GIS（地理情報システム）の可能性について」 関連…【設題１】グローバル化と環境問題について
5	日本の森林とグローバル化 教科書 pp.76-91.学修内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…【設題１】グローバル化と環境問題について
6	グローバル化と環境問題 教科書 pp.92-109.学修内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…【設題１】グローバル化と環境問題について
7	グローバル化と世界の森林 教科書 pp.110-122.学修内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…【設題１】グローバル化と環境問題について
8	グローバル化と人口移動 教科書 pp.123-140.学修内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「２．グローバル化と人口移動について」
9	都市システムと世界都市 教科書 pp.141-156.学修内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
10	都市の発展と都心空間の変容 教科書 pp.157-171.学修内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
11	情報化と現代空間 教科書 pp.172-185.学修内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「３．「監視の情報化」のメリットとデメリットについて」
12	生活空間と福祉 教科書 pp.186-200.学修内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「４．福祉サービスの供給と地域格差について」
13	ジェンダーと都市空間 教科書 pp.201-215.学修内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「５．女性のライフスタイルと居住地の選択について」
14	都市郊外にみる現代社会の課題 教科書 pp.216-230.学修内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「６．郊外ニュータウンの再編について」
15	人文地理学のまとめ 教科書 pp.231-248.学修内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 グローバル化と環境問題について

＜ポイント＞

グローバル化の進展は結果として環境の変化をもたらしてきた。環境の変化は、環境破壊のような深刻な課題も引き起こしている。

教科書 pp.60-75.、pp.76-91.、pp.92-109.、pp.110-121.より、一つ事例を選び、各種地理データが示す環境変化の様子について説明すること。

科目終了試験学修のポイント

1．GIS（地理情報システム）の可能性について

＜ポイント＞

1980 年代以降の地理学は、GIS を活用することにより、さまざまな分析を可能としてきた。pp.49-57.を中心に GIS により普及したサービスや分析手法の事例を一つ挙げて説明すること。

2．グローバル化と人口移動について

＜ポイント＞

グローバル化の進展とともに、世界各地の大都市を中心に、外国人居住者が増加している。一部では国別に集住する例も見られる。（教科書では、東京都を事例に、東アジア、フィリピン、欧米人の集住の状況を説明している。）

教科書 pp.123-140.より一つ事例を挙げて説明すること。

3．「監視の情報化」のメリットとデメリットについて

＜ポイント＞

「環境の情報化」の身近な事例に「防犯カメラ」がある。「防犯カメラ」活用による安全・安心の確保はメリットと考えられる。しかし、不特定多数が監視対象となることへの不安もある。pp.180-183.を参考にまとめること。

4．福祉サービスの供給と地域格差について

＜ポイント＞

都市部では福祉サービスの提供主体として、営利企業の参入が郊外部と比べて多いが、その理由はどのように考えられるのか、pp.190-194.を参考にまとめること。

5．女性のライフスタイルと居住地の選択について

＜ポイント＞

教科書では、30 歳代の女性の各種データをもとに、女性のライフスタイルと居住地選択の特徴を解説している。教科書 pp.209-213.を参考にまとめること。

6．郊外ニュータウンの再編について

教科書では、日本の多摩ニュータウンを事例に現在の郊外ニュータウンの再編について説明している。教科書 pp.225-228.を参考に、進行する再編の様子についてまとめること。

教科書

小林茂、他『グローバル化時代の人文地理学』放送大学教育振興会。

参考文献

AERA Mook『地理学がわかる』朝日新聞社。
上野和彦『地理学概論』朝倉書店。
佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社。
高橋伸夫『現代地理学入門』古今書院。

※スクーリングを受講するためには、「臨床心理学概論」「心理学的支援法（基礎）」「心理学的支援法（演習）」「精神疾患とその治療」「心理的アセスメント」「関係行政論」のすべてを履修済であること。

科目コード	心理演習（２単位）	登録年次	履修方法
3760		３年	ＳＲ
教員名	新井雅人、大島朗生、齋藤瞳、志茂田典子、武内智弥、橋本景子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目は、公認心理師国家試験受験資格の要件となる心理実習を行うための準備として、具体的場面を想定した心理支援に関する知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。そのために、次の（ア）から（オ）について、基本的な知識を修得し、また具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）、事例検討を行う。

（ア）心理に関する支援を要する者等に関する次の（1）から（4）の知識及び技能の修得
　　（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援　等
（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援の計画の作成
（ウ）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ
（エ）多職種連携及び地域連携
（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

学修内容

1	心理支援とは何か：障害除去のアプローチと内面アプローチの観点。 事前学修：心理支援の目指すものについて復習する。 事後学修：感情的混乱とこだわりの処理の仕方について検討する。
2	コミュニケーション①傾聴：話を正しく聴き取る→事実・感情・価値観、情動に耳を傾ける。非言語的コミュニケーション。 事前学修：カウンセリングにおける傾聴についてこれまで学んだことを見直す。 事後学修：5 つの技法について確認する。
3	コミュニケーション②アサーション：DESC アイメッセージ。非言語的メッセージ。 事前学修：自分のコミュニケーションについてその特徴を考える。 事後学修：難しい問題について DESC の考え方で表現し、その結果を見直してみる。
4	心理アセスメント①心理検査の実施：行動観察を含む心理アセスメント。正しく記録して総合的な解釈をする。 事前学修：自分でできる心理検査となかなかできない心理検査を選別する。 事後学修：自分でできる心理検査を実際に行ってみて自分の特徴を知る。
5	心理アセスメント②心理検査結果の伝え方：心理アセスメントのフィードバックについて。本人並びに関係者にわかりやすい説明。 事前学修：他者への説明の仕方について復習する。 事後学修：5 因子性格検査の結果を他者に説明し、気持ちよく聞けたか確認する。
6	心理面接①認知行動療法の実施：ロールプレイにて学ぶ。録音する、逐語をつくる。 事前学修：なぜ今の時代は認知行動療法が使われることが多いのか調べる。 事後学修：ストレスと心の 4 つの面との関係について確認する。
7	心理面接②認知行動療法の振り返り：いくつかの注意点を取り上げたワーク。 事前学修：認知行動療法について見直す。 事後学修：実際に自分が行った認知行動療法において指摘された点を明らかにし、実践する。
8	地域支援　等①：いじめの事件を取り上げ、問題点を検討する。 事前学修：いじめの歴史的変遷について調べる。 事後学修：さらに事例を詳しく学ぶ。
9	地域支援　等②：立場を決めて劇にて演じて皆で何をどうすべきか検討する。 事前学修：取り上げた事例を復習する。 事後学修：何が問題でいじめが生じるか、その背景について調べる。
10	クライエントの理解と支援計画：DSM-5 を学ぶ。 事前学修：DSM-5 を確認する。 事後学修：統合失調症とウツについて、DSM-5 の見解を確認する。
11	チームアプローチ①：産業・労働におけるメンタルヘルスを検討する。 事前学修：産業界での今のメンタルヘルスの実体について考える。 事後学修：メンタルヘルスを健全にする職場になるためには、どのような対策が必要か考える。
12	チームアプローチ②：復職支援や従業員支援プログラムにおける公認心理師の役割 事前学修：復職支援や従業員支援プログラムとはどのようなものか調べる。 事後学修：産業界での公認心理師の役割について復習する。

13	多職種連携及び地域連携：学校と児童相談所、地域との関係を考える。 事前学修：多職種と共働していく必要があるとはどういうことか考える。 事後学修：連携がうまくいくための条件について考えてみる。
14	職業倫理及び法的義務への理解：インフォームドコンセント、人権擁護、守秘義務など。倫理ジレンマの乗り越え方を考える。 事前学修：公認心理師が留意すべきことは何かについて考える。 事後学修：倫理ジレンマにはどのようなものがあるか、さらに考える。
15	心理的な支援のあり方を振り返る。 事前学修：これまでに学んだことを全体として見直す。 事後学修：アセスメントが正しくでき、心理面接が良好に実施できても改善されない時には、どのようなことを改善したらよいか考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】心理師による心理支援について、いずれかの分野における架空のケースをひとつ考案すること。そして、その架空のケースにおけるインテークからアセスメント、見立て、考慮すべき多職種連携を含む方針および留意点をまとめること。

＜ポイント＞

医療・教育・産業など、心理師が従事する職域によって、そのあり方は異なってくるが、将来のケース展開について、複数の可能性を常に見据えておく必要がある点は共通している。当然ながら、実在のケースについて記述することは許されない（守秘義務）。

科目終了試験学修のポイント

1．クライエントの話を聴いていく際に、起こりうる具体的問題について

＜ポイント＞

起こりうる具体的問題をとりあげ、それぞれの場合にどう対処すべきかをまとめる。

2．心理アセスメントの結果のフィードバックの方法および留意点について

＜ポイント＞

実際の面接場面におけるフィードバックの方法と、具体的留意点を理解しておく。

3．認知行動療法の実施方法と、その留意点について

＜ポイント＞

心理療法において認知行動療法を実施する場合の、具体的実施方法と留意点を理解しておく。

4．精神疾患の診断・統計マニュアル（DSM）と、疾病及び関連保健問題の国際統計分類（ICD）について

＜ポイント＞

2つの国際的な疾患の分類について、その歴史的経緯や相違点を理解しておく。

5．心理師と多職種連携について

＜ポイント＞

医療分野や、教育分野、産業・労働分野における心理師の役割について理解しておく。

6．心理師の職業倫理と法的義務について

＜ポイント＞

インフォームドコンセントや守秘義務の実地における運用、課せられた法的義務を理解しておく。

教科書

特に指定しない。

※その他、公認心理師国家試験受験資格取得のために必要な必修科目の教科書を使用すること。

参考文献

福山清蔵著『入門カウンセリング　ワークブック』日本・精神技術研究所。

高橋三郎、大野裕監訳『DSM-5　精神疾患の分類と診断の手引き』医学書院。

科目コード	心理学（４単位）	登録年次	履修方法
1260/1261		１年	ＳＲ
教員名	新井雅人、新井洋輔、志茂田典子、前川泰彦		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

現代社会が抱えるさまざまな問題を心理学の観点からアプローチできるようここでは心理学全体を見渡すことを目的とする。そこで、心理学とは何か、から始まり、心理学分野を「心の仕組み」、「心の問題を紐解く」、「心のケアと支援」、という３つの大きな領域から考え、心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きについて学修していく。本科目を学ぶことで、心理学とはどのような学問か、その体系を知ることができ、かつ考え方が理解できる。

学修内容

1	心理学とは何かについて、学修する。教科書 pp.1-15 を通読し、定義、研究対象、実証科学、応用分野を理解していく。特に心理学の対象が変化していく歴史的な変遷並びに実証科学という面について学ぶ。
2	第１部の「心の仕組み」領域として、ここでは「認知心理学」を取り上げる。教科書 pp.17-42 を通読し、「知覚」「記憶「思考」「動機づけと情動」といった基礎的な事柄について理解していく。
3	「発達心理学」の前半を取り上げる。教科書 pp.45-50 を通読し、まず発達とはどのような現象かを学び、次に乳幼児期と児童期の発達課題を理解する。どのようにかかわるか、考えてみる。
4	「発達心理学」の後半を取り上げる。教科書 pp.51-67 を通読し、思春期・青年期並びに老人期までの発達内容を学ぶ。特に青年期の心的な特徴とその対応や老人期の心的な特徴について学ぶ。
5	人間の個は社会の中にあると言える。そこで、心の仕組みの最後として「社会心理学」について学ぶ。教科書 pp.69-89 を通読し、対人関係と集団で生じる人間の行動について学ぶ。
6	第２部の「心の問題を紐解く」領域として、まず「人格心理学」の前半から取り上げる。教科書 pp.93-108 を通読し、性格とは何か、そのとらえ方の理論、そして性格の形成の問題について学ぶ。
7	「人格心理学」の後半を取り上げる。教科書 pp.108-113 を通読し、性格のアセスメントの仕方について学ぶ。また、性格は変化するかという基本的な問題について考える。
8	「教育心理学」を取り上げる。教科書 pp.117-140 を通読し、学習の問題と学級集団の心理的な課題を学ぶ。また、いじめや不登校等の学校社会での問題も取り上げる。
9	「家族心理学」を取り上げる。教科書 pp.143-169 を通読し、親子関係と夫婦関係を学ぶ。親子関係では特に親子の愛着関係と子育て支援、夫婦関係では、結婚をめぐる最近の動向を知り、それがどのようなことに結びついているか学ぶ。
10	「産業・組織心理学」を取り上げる。教科書 pp.173-184 を通読し、組織の中での行動、リーダーシップにまつわる心理学上の問題、並びに消費者行動について学ぶ。
11	「犯罪心理学」を取り上げる。教科書 pp.187-209 を通読し、犯罪捜査に心理学がどのように貢献しているか、また犯罪者矯正に心理学がどのように貢献しているか学ぶ。
12	第３部の「心のケアと支援」領域として、まず「臨床心理学」の前半を取り上げる。教科書 pp.211-228 を通読し、不適応行動が生じるメカニズム並びに病的な行動について学ぶ。
13	「臨床心理学」の後半を取り上げる。教科書 pp.229-235 を通読し、心理療法の基本的な流派を学ぶ。また、ここでは心理療法の基礎基本を押さえる。
14	「健康心理学」を取り上げる。教科書 pp.239-261 を通読し、現代社会のストレス対処にどのように心理学が貢献しているか、またソーシャルサポートについて学ぶ。
15	「福祉心理学」を取り上げる。教科書 pp.263-285 を通読して、心理学が福祉分野にどのように貢献しているかを学ぶ。障害者、高齢者、児童の福祉の心理学の貢献を取り上げる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 人格形成に及ぼす環境要因とその役割について述べよ。

＜ポイント＞

人格の形成では、遺伝的な要因とともに環境的な要因も重視される。本設題では、特に「環境と個人の相互作用」を中心に具体的な例を挙げつつ考察すること。

【設題2】 各発達段階の特徴について述べよ。

＜ポイント＞

乳幼児期・児童期・青年期・壮年期・老年期など発達段階特有の身体的・心理的特徴について述べ、さらに発達段階でどんな問題行動があるか考察し、その対処法について述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．人格の諸理論について

＜ポイント＞

類型論、特性論、力動論のそれぞれについて理解する。

2．人間の感覚・知覚・認知の特質について

＜ポイント＞

感覚では、「刺激閾」「弁別閾」「順応」について、知覚では、「体制化」「図と地」「群化」「恒常性」「錯視現象」について、認知では、「社会的認知」について、それぞれを理解しておく。

3．人間の発達課題について

＜ポイント＞

エリクソンのライフサイクルにおける発達課題を学ぶ。

4．心理的アセスメント（見立て）について

＜ポイント＞

さまざまな心理検査の特徴について、特に知能検査を中心に学修する。

5．対人関係の発展について

＜ポイント＞

対人認知と社会的態度における代表的な理論および集団過程と集合現象について理解する。

6．心理療法について

＜ポイント＞

来談者中心療法、精神分析療法、行動療法、認知行動療法といった代表的な心理療法の考え方について理解する。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座2　心理学理論と心理的支援』中央法規。

参考文献

梅本堯夫『心理学への招待：心の科学を知る』サイエンス社。
羽成隆司、他『心理学へのファーストステップ』おうふう出版。
長谷寿一、他『はじめて出会う心理学』有斐閣。

科目コード	心理学概論（４単位）	登録年次	履修方法
1671		１年	ＳＲ
教員名	秋山和寛、新井雅人、新井洋輔、荒井理帆、緒方玲子、加藤宏一、 齋藤瞳、酒井博美、志茂田典子、坪井菜奈子、橋本景子、村山陽		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

現代社会が抱えるさまざまな問題を心理学の観点からアプローチできるようここでは心理学全体を見渡すことを目的とする。そこで、心理学とは何か、から始まり、心理学分野を「心の仕組み」、「心の問題を紐解く」、「心のケアと支援」、という３つの大きな領域から考え、心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きについて学習していく。本科目を学ぶことで、心理学とはどのような学問か、その体系を知ることができ、かつ考え方が理解できる。

学修内容

1	心理学とは何かについて、学習する。心理学の定義、研究対象、実証科学性、応用分野を理解していく。特に心理学の対象の歴史的な変遷並びに心理学の実証科学という面について学ぶ。参考文献１．第１章　　参考文献２．第１章を参照。
2	第１部の「心の仕組み」領域として、ここでは「認知心理学」を取り上げる。教科書第４章、第５章を通読し、「感覚・知覚」、「記憶・思考と言語」と言った心の最も基礎的な事項について理解していく。
3	「発達心理学」の前半を取り上げる。教科書の第９章第１節を通読し、まず発達とはどのような現象かを考え、次に乳幼児期と児童期の発達特徴を学ぶ。
4	「発達心理学」の中半を取り上げる。教科書の第９章第２節および第２章第３節を通読し、思春期・青年期の発達特徴を学ぶ。また、その心的特徴に添った対応について考えてみる。
5	「発達心理学」の後半を取り上げる。教科書第９章第４節および第２章第３節を通読し、成人期・老人期の発達特徴について学ぶ。また、その心的特徴から来る問題への対処について考えてみる。
6	人間は社会的存在であると言われている。そこで、心の仕組みの最後として「社会心理学」について学ぶ。教科書の第７章を通読し、人がいかに社会の影響を受けるかを学ぶ。その上で、実際の対人関係と集団で生じる人間の行動について考える。 参考文献２．第４章を参照。
7	第２部の「心の問題を紐解く」領域として、まず「人格心理学」の前半から取り上げる。教科書第１章第１・２節を通読し、性格とは何か、そのとらえ方の理論、そして性格の形成の問題について学ぶ。
8	「人格心理学」の後半を取り上げる。教科書第１章第３節を通読し、性格のアセスメントの仕方について学ぶ。また、性格は変化するかという基本的な問題について考えてみる。
9	「教育心理学」を取り上げる。教科書の第３章第２節を通読し、学習の問題と動機付け並びに学級集団の心理的な課題を学ぶ。また、いじめや不登校等の学校社会での問題も取り上げる。参考書２．第６章を参照。
10	「家族心理学」を取り上げる。教科書第１１章第３節の家族心理学の箇所を通読し、子どもの心の発達にかかわる親子関係や家族関係を学ぶ。親子関係では特に親子の愛着関係と子育て支援、家族関係では、結婚をめぐる最近の動向を知り、それが家庭のどのようなことに結びついているか考えてみる。
11	「産業・組織心理学」を取り上げる。教科書第７章第２節を通読し、組織の中での行動、リーダーシップにまつわる心理学上の問題、並びにワークモチベーションについて学び、現在の問題点を考えてみる。
12	第３部の「心のケアと支援」領域として、まず「臨床心理学」の前半を取り上げる。教科書第１０章第４節を通読し、不適応行動が生じるメカニズム並びに病的な行動について学ぶ。参考文献１．第９章を参照。
13	「臨床心理学」の後半を取り上げる。同じく教科書の第１１章第３節を通読し、心理療法の基本的な流派を学ぶ。ここでは心理療法の基礎基本を押さえる。また、地域援助についても考える。
14	「健康心理学」を取り上げる。教科書 10 章を通読し、まず対人関係について取り上げ、現代社会のストレス対処にどのように心理学が貢献しているか、またソーシャルサポートについて考える。参考文献２．第 11 章を参照。
15	「福祉心理学」を取り上げる。心理学が福祉分野にどのように貢献しているかを学ぶ。主に高齢者、障害者、児童の福祉の心理学の貢献について考えてみる。参考文献２．第 12 章を参照。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 人格形成に及ぼす環境要因とその役割について述べよ。

＜ポイント＞

人格の形成では、遺伝的な要因とともに環境的な要因も重視される。本設題では、特に「環境と個人の相互作用」を中心に具体的な例を挙げつつ考察すること。

【設題2】 各発達段階の特徴について述べよ。

＜ポイント＞

乳幼児期・児童期・青年期・壮年期・老年期など発達段階特有の身体的・心理的特徴について述べ、さらに発達段階でどんな問題行動があるか考察し、その対処法について述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．人格の諸理論について
＜ポイント＞
類型論、特性論、力動論のそれぞれについて理解する。

2．人間の感覚・知覚・認知の特質について
＜ポイント＞
感覚では、「刺激閾」「弁別閾」「順応」について、知覚では、「体制化」「図と地」「群化」「恒常性」「錯視現象」について、認知では、「社会的認知」について、それぞれを理解しておく。

3．人間の発達課題について
＜ポイント＞
エリクソンのライフサイクルにおける発達課題を学ぶ。

4．心理的アセスメント（見立て）について
＜ポイント＞
さまざまな心理検査の特徴について、特に知能検査を中心に学習する。

5．対人関係の発展について
＜ポイント＞
対人認知と社会的態度における代表的な理論および集団過程と集合現象について理解する。

6．心理療法について
＜ポイント＞
来談者中心療法、精神分析療法、行動療法、認知行動療法といった代表的な心理療法の考え方について理解する。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編　『新・社会福祉士養成講座2　心理学理論と心理的支援』　中央法規

参考文献

1．角山　剛　他編著『基礎からの心理学』おうふう出版
2．梅本堯夫『心理学への招待：心の科学を知る』サイエンス社

※社会福祉学科・保育児童学科　科目コード1670：R履修／心理学科　科目コード1672：ＳR履修

科目コード	心理学概論（２単位）	登録年次	履修方法
1670/1672		１年	R/ＳR※
教員名	秋山和寛、新井雅人、新井洋輔、荒井理帆、緒方玲子、加藤宏一、 齋藤瞳、酒井博美、志茂田典子、坪井菜奈子、橋本景子、村山陽		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

現代社会が抱えるさまざまな問題を心理学の観点からアプローチできるようここでは心理学全体を見渡すことを目的とする。そこで、心理学とは何か、から始まり、心理学分野を「心の仕組み」、「心の問題を紐解く」、「心のケアと支援」、という３つの大きな領域から考え、心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きについて学習していく。本科目を学ぶことで、心理学とはどのような学問か、その体系を知ることができ、かつ考え方が理解できる。

学修内容

1	心理学とは何かについて、学習する。心理学の定義、研究対象、実証科学性、応用分野を理解していく。特に心理学の対象の歴史的な変遷並びに心理学の実証科学という面について学ぶ。参考書１．第１章　　参考文献２．第１章を参照。
2	第１部の「心の仕組み」領域として、ここでは「認知心理学」を取り上げる。教科書第４章、第５章を通読し、「感覚・知覚」、「記憶・思考と言語」と言った心の最も基礎的な事項について理解していく。
3	「発達心理学」の前半を取り上げる。教科書の第９章第１節を通読し、まず発達とはどのような現象かを考え、次に乳幼児期と児童期の発達特徴を学ぶ。
4	「発達心理学」の中半を取り上げる。教科書の第９章第２節および第２章第３節を通読し、思春期・青年期の発達特徴を学ぶ。また、その心的特徴に添った対応について考えてみる。
5	「発達心理学」の後半を取り上げる。教科書第９章第４節および第２章第３節を通読し、成人期・老人期の発達特徴について学ぶ。また、その心的特徴から来る問題への対処について考えてみる。
6	人間は社会的存在であると言われている。そこで、心の仕組みの最後として「社会心理学」について学ぶ。教科書の第７章を通読し、人がいかに社会の影響を受けるかを学ぶ。その上で、実際の対人関係と集団で生じる人間の行動について考える。 参考文献２．第４章を参照。
7	第２部の「心の問題を紐解く」領域として、まず「人格心理学」の前半から取り上げる。教科書第１章第１・２節を通読し、性格とは何か、そのとらえ方の理論、そして性格の形成の問題について学ぶ。
8	「人格心理学」の後半を取り上げる。教科書第１章第３節を通読し、性格のアセスメントの仕方について学ぶ。また、性格は変化するかという基本的な問題について考えてみる。
9	「教育心理学」を取り上げる。教科書の第３章第２節を通読し、学習の問題と動機付け並びに学級集団の心理的な課題を学ぶ。また、いじめや不登校等の学校社会での問題も取り上げる。参考文献２．第６章を参照。
10	「家族心理学」を取り上げる。教科書第１１章第３節の家族心理学の箇所を通読し、子どもの心の発達にかかわる親子関係や家族関係を学ぶ。親子関係では特に親子の愛着関係と子育て支援、家族関係では、結婚をめぐる最近の動向を知り、それが家庭のどのようなことに結びついているか考えてみる。
11	「産業・組織心理学」を取り上げる。教科書第７章第２節を通読し、組織の中での行動、リーダーシップにまつわる心理学上の問題、並びにワークモチベーションについて学び、現在の問題点を考えてみる。
12	第３部の「心のケアと支援」領域として、まず「臨床心理学」の前半を取り上げる。教科書第１０章第４節を通読し、不適応行動が生じるメカニズム並びに病的な行動について学ぶ。参考文献１．第９章を参照。
13	「臨床心理学」の後半を取り上げる。同じく教科書の第１１章第３節を通読し、心理療法の基本的な流派を学ぶ。ここでは心理療法の基礎基本を押さえる。また、地域援助についても考える。
14	「健康心理学」を取り上げる。教科書 10 章を通読し、まず対人関係について取り上げ、現代社会のストレス対処にどのように心理学が貢献しているか、またソーシャルサポートについて考える。参考文献２．第 11 章を参照。
15	「福祉心理学」を取り上げる。心理学が福祉分野にどのように貢献しているかを学ぶ。主に高齢者、障害者、児童の福祉の心理学の貢献について考えてみる。参考文献２．第 12 章を参照。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 各発達段階の特徴について述べよ。

＜ポイント＞

乳幼児期・児童期・青年期・壮年期・老年期など発達段階特有の身体的・心理的特徴について述べ、さらに発達段階でどんな問題行動があるか考察し、その対処法について述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．人格の諸理論について
＜ポイント＞
類型論、特性論、力動論のそれぞれについて理解する。

2．人間の感覚・知覚・認知の特質について
＜ポイント＞
感覚では、「刺激閾」「弁別閾」「順応」について、知覚では、「体制化」「図と地」「群化」「恒常性」「錯視現象」について、認知では、「社会的認知」について、それぞれを理解しておく。

3．人間の発達課題について
＜ポイント＞
エリクソンのライフサイクルにおける発達課題を学ぶ。

4．心理的アセスメント（見立て）について
＜ポイント＞
さまざまな心理検査の特徴について、特に知能検査を中心に学習する。

5．対人関係の発展について
＜ポイント＞
対人認知と社会的態度における代表的な理論および集団過程と集合現象について理解する。

6．心理療法について
＜ポイント＞
来談者中心療法、精神分析療法、行動療法、認知行動療法といった代表的な心理療法の考え方について理解する。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編　『新・社会福祉士養成講座2　心理学理論と心理的支援』　中央法規

参考文献

1．角山　剛　他編著『基礎からの心理学』おうふう出版
2．梅本堯夫『心理学への招待：心の科学を知る』サイエンス社

※社会福祉学科・保育児童学科　科目コード1673：R履修　／　心理学科　科目コード1674：SR履修

科目コード	心理学概論	登録年次	履修方法
1673・1674		1年	R/SR※
教員名	新井雅人、新井洋輔、緒方玲子、後藤進吾、齋藤瞳、酒井博美、志茂田典子、橋本景子、前川泰彦		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

現代社会が抱えるさまざまな問題を心理学の観点からアプローチできるようここでは心理学全体を見渡すことを目的とする。そこで、心理学とは何か、から始まり、心理学分野を「心の仕組み」、「心の問題を紐解く」、「心のケアと支援」、という３つの大きな領域から考え、心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働きについて学習していく。本科目を学ぶことで、心理学とはどのような学問か、その体系を知ることができ、かつ考え方が理解できる。

学修内容

1	心理学とは何かについて、学習する。教科書の第１章を通読し、心理学の定義、研究対象、実証科学性、応用分野を理解していく。特に心理学の対象の歴史的な変遷並びに心理学の実証科学という面について学ぶ。
2	「心の仕組み」領域として、ここでは「認知心理学」を取り上げる。教科書第２章を通読し、「感覚・知覚」、「記憶・思考と言語」と言った心の最も基礎的な事項について理解していく。
3	「発達心理学」の前半を取り上げる。教科書の第３章を通読し、まず発達とはどのような現象かを考え、次に乳幼児期と児童期の発達特徴を学ぶ。
4	「発達心理学」の中半を取り上げる。引き続き教科書の第３章を通読し、思春期・青年期の発達特徴を学ぶ。また、その心的特徴に添った対応について考えてみる。
5	「発達心理学」の後半を取り上げる。引き続き教科書第３章を通読し、成人期・老人期の発達特徴について学ぶ。また、その心的特徴から来る問題への対処について考えてみる。
6	人間は社会的存在であると言われている。そこで、心の仕組みの最後として「社会心理学」について学ぶ。教科書の第２章第７節を通読し、人がいかに社会の影響を受けるかを学ぶ。その上で、実際の対人関係と集団で生じる人間の行動について考える。
7	「心の問題を紐解く」領域として、まず「人格心理学」の前半から取り上げる。教科書第１章第６節を通読し、性格とは何か、そのとらえ方の理論、そして性格の形成の問題について学ぶ。
8	「人格心理学」の後半を取り上げる。引き続き、教科書第１章第６節を通読し、性格のアセスメントの仕方について学ぶ。また、性格は変化するかという基本的な問題について考えてみる。
9	「心の不適応」について取り上げる。教科書の第４章を通読し、学習の問題と動機付け並びに学級集団の心理的な課題を学ぶ。また、いじめや不登校等の学校社会での問題も取り上げる。
10	「家族心理学」を取り上げる子どもの心の発達にかかわる親子関係や家族関係を学ぶ。親子関係では特に親子の愛着関係と子育て支援、家族関係では、結婚をめぐる最近の動向を知り、それが家庭のどのようなことに結びついているか考えてみる。適宜配布資料を使用し、理解を深める。
11	「産業・組織心理学」を取り上げる。組織の中での行動、リーダーシップにまつわる心理学上の問題、並びにワークモチベーションについて学び、現在の問題点を考えてみる。適宜配布資料を使用し、理解を深める。
12	「心のケアと支援」領域として、まず「臨床心理学」の前半を取り上げる。教科書第５章第１節を通読し、不適応行動が生じるメカニズム並びに病的な行動のアセスメントについて学ぶ。
13	「臨床心理学」の後半を取り上げる。同じく教科書の第５章第３節を通読し、心理療法の基本的な流派を学ぶ。ここでは心理療法の基礎基本を押さえる。また、地域援助についても考える。
14	「健康を維持するための心理学」を取り上げる。教科書第４章第２節を通読し、まず対人関係について取り上げ、現代社会のストレス対処にどのように心理学が貢献しているか、またソーシャルサポートについて考える。
15	「福祉に関する支援と心理学」を取り上げる。教科書第６章を通読し、心理学が福祉分野にどのように貢献しているかを学ぶ。主に高齢者、障害者、児童の福祉の心理学の貢献について考えてみる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 各発達段階の特徴について述べよ。

＜ポイント＞

乳幼児期・児童期・青年期・壮年期・老年期など発達段階特有の身体的・心理的特徴について述べ、さらに発達段階でどんな問題行動があるか考察し、その対処法について述べること。

科目終了試験学修のポイント

１．人格の諸理論について

＜ポイント＞

類型論、特性論、力動論のそれぞれについて理解する。

２．人間の感覚・知覚・認知の特質について

＜ポイント＞

感覚では、「刺激閾」「弁別閾」「順応」について、知覚では、「体制化」「図と地」「群化」「恒常性」「錯視現象」について、認知では、「社会的認知」について、それぞれを理解しておく。

３．人間の発達課題について

＜ポイント＞

エリクソンのライフサイクルにおける発達課題を学ぶ。

４．心理的アセスメント（見立て）について

＜ポイント＞

さまざまな心理検査の特徴について、特に知能検査を中心に学習する。

５．対人関係の発展について

＜ポイント＞

対人認知と社会的態度における代表的な理論および集団過程と集合現象について理解する。

６．心理療法について

＜ポイント＞

精神分析療法、来談者中心療法、行動療法、認知行動療法といった代表的な心理療法の考え方について理解する。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集

『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座【共通科目】２　心理学と心理的支援』　中央法規

参考文献

角山　剛　他編著『基礎からの心理学』おうふう出版

梅本堯夫『心理学への招待：心の科学を知る』サイエンス社

社会福祉士養成講座編集委員会編　「新・社会福祉士養成講座２　心理学理論と心理的支援」　中央法規

科目コード	心理学基礎実験（４単位）	登録年次	履修方法
2300/2301/2302		２年/１年	ＳＲ
教員名	新井雅人、岡本香、緒方玲子、加藤宏一、志茂田典子、永田愛、成本忠正、村山陽		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目では、心理学における実験法の意義をよく理解した上で、実験計画の基本的な枠組みと立案方法を、実際にその展開を参照しながら学んでいく。具体的には、「触２点閾の測定」、「ミュラーリヤーの錯視」、「鏡像描写」などの感覚知覚に関する実験から、「性格検査」、「知能検査」などのテストまで幅広く実施する。このように、さまざまな心理分野の実験の計画立案、実験を通して、統計に関する基礎的な知識も習得し、人間行動の問題の解決方法を探る。

学修内容

1	**A．心理現象を科学的に扱う「実験」について知る** 自然観察と実験との相違、目的と仮説について、実験デザインとは何かについてなど、心理学における実験研究の基本について学ぶ。具体例として教科書に挙がっている実際の実験を通して理解する。（該当箇所：教科書 pp.1-30、改訂版 pp.1-33）
2	独立変数と従属変数、被験者内要因と被験者間要因、グループ比較デザインと１事例研究 実験デザインにおける基本的な要素について理解する。実際の実験において、それらがどのように実現されているかについても理解を深める。１事例研究とは何のために、どのような場合に使われるものなのか。（該当箇所：教科書 p.16、改訂版 p.18）
3	心理学研究における倫理 心理学は人間その他の生体を研究対象としている。臨床や応用分野はもちろん、基礎心理学の分野においても倫理の問題は発生しうる。研究倫理の原則と、問題の発生を事前に防ぐための工夫について学ぶ。（該当箇所：教科書 p.24、改訂版 p.26）
4	実験法の長所と短所について 主に観察法や質問紙法と比較した、実験法の長所と短所について学ぶ。長所と短所を知ることにより、実験法の特性をより理解することになる。理解のためには、比較という観点で見ること。（該当箇所：教科書 p.26、改訂版 p.30）
5	**B．感覚・知覚心理学分野における実験研究** 空間知覚における手がかり理論や、運動の知覚について学ぶ。この章においても教科書には、さまざまな実際の実験が紹介されているので、単に理論を覚えるのではなく、それらを併せて理解する（該当箇所：教科書 pp.31-56、改訂版 pp.41-67）
6	感覚・知覚の特性とゲシュタルト心理学 感覚遮断実験やさまざまな錯視の実験、また、ゲシュタルト心理学における知覚の体制化の理論と実験について学び、感覚・知覚の特性に関する知見を学ぶ。（該当箇所：教科書 p.32、改訂版 p.42）
7	**C．学習心理学分野における実験研究** 心理学における「学習」について、実験研究を通して学ぶ。また、観察学習、代理強化、モデリング等についても理解する（該当箇所：教科書 pp.57-82、改訂版 pp.69-96）
8	古典的条件づけとオペラント条件づけ 学習のもっとも基本的な形の一つである古典的条件づけと、自発行動に関わるオペラント条件づけについて学ぶ。日常使われない術語の多い分野であるので、ひとつひとつ丁寧におさえていくこと（該当箇所：教科書 p.57、改訂版 p.69）
9	学習の転移と学習された無力感 学習の正の転移と負の転移、および、そこから発展した考え方について学ぶ。学習の構えや学習された無力感についても実験が紹介されているのでよく読むこと（該当箇所：教科書 p.72、改訂版 p.86）
10	**D．記憶心理学分野における実験研究** 短期記憶と長期記憶（と感覚記憶）は実験によってどのように検討されてきたのか。また、エピソード記憶と意味記憶についてなど、記憶についてのさまざま理論と代表的な実験を学ぶ。（該当箇所：教科書 pp.83-112、改訂版 pp.99-139）
11	符号化と検索、再生 心理学における記憶の機能の研究は、符号化、保持、検索の３段階に分けておこなわれいる。記憶の研究も特殊な術語が多いが、順を追って理解を進めてほしい（該当箇所：教科書 p.90、改訂版 p.118）
12	**E．思考の心理学における実験研究** 生産的思考と再生的試行、情報処理モデルによる説明など、応用分野の一つである思考の心理学について学ぶ。例として挙げられている実験は、さまざまな工夫のこらされたものである。（該当箇所：教科書 pp.113-138、改訂版 pp.143-172）
13	**F．動機づけの心理学における実験研究** 人間や生体は、行動の原因として「要求」を持つが、同じ環境にいても人々は異なった行動をとる。ここでは基本的要求、社会的要求、達成要求、親和要求について学ぶ。（該当箇所：教科書 pp.139-166、改訂版 pp.173-203）

14	外発的動機づけと内発的動機づけ ２つの動機づけについては基礎的研究から応用まで、実際の実験がいくつか紹介されている。内発的動機づけを高めるにはどうしたらよいかなどについて、心理学の知見に基づいて理解する（該当箇所：教科書 p.152、改訂版 p.186）
15	**G．これからの実験心理学** 環境（住空間や宇宙、海洋）と心理学、高齢化社会、科学技術の進歩など、実験心理学が社会問題に関わる分野でのいくつかのトピックについて、教科書にて触れられている。（該当箇所：教科書 pp.167-188、改訂版 pp.207-226）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
２題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 心理学実験法についてまとめ、自分の問題意識に沿った実験のテーマや方法について考察せよ。
＜ポイント＞
実験法の特徴や目的、実験の仮説設定から結果の分析に至るまでの実験の展開について、具体例を交えながらまとめること。加えて、あなた自身の身近な問題背景や関心のある人間行動・意識現象などを取り上げ、実験法を用いてどのような問題をどのような手続きで研究することが可能であると予測されるか、自分なりの考えを述べること。

【設題２】 日常生活や社会問題に貢献する実験心理学研究について考察せよ。
＜ポイント＞
身近な日常生活における諸問題や社会問題の解決に向けて、実験心理学が果たすべき役割を具体的に考察すること。特に、自分自身が興味・関心をもつ日常生活や社会関係における諸問題を取り上げて、その解決策の発見や効果測定をめざした実験的研究のあり方について考察すること。

科目終了試験学修のポイント

１．グループ比較デザインと一事例研究について
＜ポイント＞
グループ比較デザインとは、統計的検定に耐えうる数の被験者を集めて行う一般的な実験デザインである。
それに対して一事例研究とは、一個人を対象とした特殊な研究方法である。

２．実験の利点と欠点について
＜ポイント＞
心理学のさまざまな研究方法のうち、実験法に焦点を当てて記述する。比較をしてもよいだろう。

３．感覚・知覚の一般的特性と、形やパターンの知覚について（関連する実験を含めて）
＜ポイント＞
恒常性、図と地、知覚の体制化を含めること。関連する実験を含めての記述のためには教科書内の「BOX」参照。

４．記憶における符号化と検索について（関連する実験を含めて）
＜ポイント＞
符号化と検索とは何を指すか。また、その特性についてまとめる。

５．外発的動機づけと内発的動機づけについて（関連する実験を含めて）
＜ポイント＞
対となる語だが、主に研究されているのは「内発的動機づけ」なので、そちらを中心にまとめる。

６．学習の正負の転移と、学習の構えについて
＜ポイント＞
教科書 p. 89 図 3. 15 学習の構えの形成のグラフの見方に注意。「1-8」の線は１～8 番目の課題における、第 1～6 試行(x 軸)の正反応率の平均値を示す。

教科書

大山正、他『新心理学ライブラリ８　実験心理学への招待』サイエンス社。

参考文献

浅井邦二『心理学実験計画入門』学芸社。
市川伸一『新心理学ライブラリ 13　心理測定法への招待』サイエンス社。
木下富雄、他『教材心理学』ナカニシヤ出版。
後藤宗理、他『心理学マニュアル　要因計画法』北大路書房。
高橋順一、他『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版。
中島義昭『実験心理学の基礎』誠信書房。

科目コード	心理学研究演習Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
2830		3年	S
教員名	志茂田典子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心理学は人間の心や行動を科学的に研究し、人間を幸せにする学問である。そこで、人間の心理と行動をどのように調べるか、診断するか、具体的に人間はどのような時に、どのような行動をするか、日常生活の中での具体例を調べてみる。

学修内容

1	無気力をもたらすものは何か① 無力・無気力状態は、一般にどのような条件で生じやすいかを考え、その治療や予防にはどのような方法があるのかを検討する。テキスト第1章参照。
2	無気力をもたらすものは何か② 「やる気」を積極的に高めるためにはどのようなことに着目して努力すればよいかを考える。テキスト第1章参照。
3	制御能力を高める学習の進め方 「思考力」「問題解決能力」を着実に高めるためにはどのようなことに注意すべきか考え、どのような方針で臨むべきかを検討する。テキスト第2章参照。
4	外向性、内向性で何がわかるか① 外向的か内向的かで生ずる諸特性の違いを説明する理論について学ぶ。テキスト第3章参照。
5	外向性、内向性で何がわかるか② 向性をもとにして他者のパーソナリティに見当をつけようとするとき、注意しなければならない点について考える。テキスト第3章参照。
6	オオカミ少女は本当か テキストの「オオカミ少女」の話を読んで、人の発達と臨界期について考える。テキスト第4章参考。
7	気になる子どもの正体 発達障害について理解し、いわゆる問題児とはどのような子どもをいうのかを考える。テキスト第5章参考。
8	なぜ大金を振り込んでしまうのか① うっかりミスと思い込みエラーについて調べ、テキストのケースや、自身の過去経験上で該当するところがないかどうかについて検討する。テキスト第7章参照。
9	なぜ大金を振り込んでしまうのか② 振り込め詐欺対策について理解し、自分がテキストのケースと同じ立場だったら、どのような点にリスクがありそうかについて検討する。テキスト第7章参照。
10	なぜ虐待をしてしまうのか① 虐待の定義についてまとめ、テキストの統計資料から虐待の傾向を把握する。テキスト第8章参考。
11	なぜ虐待をしてしまうのか② 虐待に至る恐れのあるリスク要因について検討し、防止・予防のための方策について考える。テキスト第8章参考。
12	なぜ「うつ状態」になり死を急ぐのか① ストレスとうつ状態、うつ状態とうつ病との関連について考える。テキスト第9章参考。
13	なぜ「うつ状態」になり死を急ぐのか② 自殺の原因や兆候について考え、どのようにすれば防止することができるのか検討する。テキスト第9章参考。
14	人を見る目を養う① 日常生活で人をみるときに、どのような観点からみればよいか。その心理学的な枠組みについて検討する。 テキスト第11章参考。
15	人を見る目を養う② 人をより客観的に評価し、判断するときに気をつけるべきことは何か。偏見を排除するためにはどうしたらよいかを考える。テキスト第11章参考。

教科書

森正義彦『心理学の切り口』培風館。

参考文献

松原達哉『心理学概論』培風館。

科目コード	心理学研究演習Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
2840		４年	S
教員名	加藤宏一、志茂田典子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目では、卒業研究や研究論文等、実際の論文作成における基本についての指導を行う。そこで、学生一人ひとりが興味を持つ分野における問題点とその解決方法について考えていくこととする。

具体的には、自分が興味を持つ分野において、どのような問題があり、それについて何がどこまでわかっているのかを調べ、どのような方法で解決策を考えることが出来るのかについて検討していく。

学修内容

1	問題提起について① 自分の興味のあるテーマを探す。学術雑誌のみならず、Web 検索で、幅広く検索をかけて、いろいろな視点から探してみること。適切なキーワードを 3～5 つ用いて、検索する。
2	問題提起について② ①で見つけたテーマを、より具体的に絞り込んでいく。特に、卒業研究では、ポイントを１つに絞るようにする。 論文のタイトルもより具体的なものを考えること。
3	文献調査 テーマに関連する先行研究を探す。学術雑誌だけでなく、Web を駆使し、白書や統計情報なども検索していく。
4	研究方法の検討 探索型研究か仮説検証型研究か、調査にするか実験にするかを考える。
5	方法の設定① 調査：調査目的を絞り、質問紙の調査項目について考える。既存の質問紙を用いる場合も目的との妥当性を考慮すること。 実験：一事例研究法か、グループ比較デザインか、独立変数、従属変数、仮説を設定する。
6	方法の設定② 調査：回答者と人数、回答者の集め方を考え、回答者を確保する。 実験：被験者と人数、被検者の集め方を考え、被験者を確保する。
7	方法の設定③ 調査：調査場所、配布・回収方法について検討する。 実験：実験プロトコルを考える。最少の試行回数・試行時間で結果が出せるようなプロトコルを考える。
8	方法の設定④ 用いる統計手法を考える。
9	予備調査・予備実験 調査：予備調査実施。この結果をもとに、項目修正を行う。 実験：予備実験実施。この結果をもとに、プロトコルや教示を修正する。
10	方法の設定⑤ 調査：本調査用質問紙作成 実験：本実験用プロトコル作成
11	本調査・本実験実施 調査：調査用紙は集まった分からどんどん集計していく。 実験：実験中は記録をきちんととること。
12	結果 集計結果のまとめをおこなう。欠損値の処理、データ不足の場合は、追加調査、追加実験を行う。 適切なグラフ・表を作成する。
13	考察 ここは、理論との照合を行う部分である。このような結果が導き出された理由を理論的に考え、結論に導く。
14	仕上げ①　すでに章ごとにまとめていた文章を１つの大きな論文としての体裁にまとめる。
15	仕上げ②　第３者に論文を読んでもらい、文章のチェックを受けて校正を行う。

教科書

都筑学『心理学論文の書き方』有斐閣アルマ。

参考文献

堀洋道、他『心理測定尺度集Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』サイエンス社。

浦上昌則、脇田貴文『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京図書。

吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方（第２版）』ナカニシヤ出版。

科目コード	心理学研究法（４単位）	登録年次	履修方法
2310/2311/2312		３年/２年	ＳＲ
教員名	新井雅人、荒井理帆、岡本香、志茂田典子、 中山麻子、永田愛、成本忠正、村山陽、		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心理学の主要な内容とも言える感覚・知覚・学習・認知・人格・社会について、実験・調査などの実証的研究法を学ぶ。一般的に心理学の研究では何のために研究するのか研究の目的をはっきりさせ、その方法を考え、その結果を分析していく。本科目では、それらの技能と共に、データを用いた実証的な思考方法を身につけさせていくことが主要な目的である。また、結果の分析にあたっては、統計学の知識、コンピュータリテラシーも必要であり、その習得も併せてめざす。さらに、それらの研究法に内在する問題点も検討し、心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）、データを用いた実証的な思考方法、研究における倫理について理解する。

学修内容

1	科学とは何か 「科学」とは何か、「科学的」であるために必要なことは何かを理解する。
2	研究とは何か 研究の目的や意義、研究のタイプ、研究の流れ、研究倫理について理解する。
3	データ収集と情報源について データの種類や収集方法について学ぶ。どのようなデータを集めるためには、どのような情報源が必要になるのかを理解する。
4	文献調査の方法 実際に、自分の興味のある資料（研究論文等）を探してみる。
5	サンプリングについて サンプリングとは何か、どのような方法があるのかを理解する。
6	研究倫理とは何か 心理学における研究倫理の必要性について理解する。
7	心理尺度について 尺度を考えることの意味、４つの尺度と注意点、信頼性と妥当性について理解する。
8	観察法① 観察法とはどのような方法なのかを理解する。
9	観察法② 実際に観察法の文献を読んで、観察法を理解する。
10	面接法 調査的面接法について理解する。構造化面接、半構造化面接、非構造化面接の違いを理解する。
11	質問紙調査法 質問紙調査法の特徴、設計、データ解析について理解する。
12	実験法① 実験法の意義、手続きについて理解する。
13	実験法② 実験データの解析方法について、分散分析と多重比較、t-検定、χ二乗検定の意味と違いを理解する。
14	実験論文の構成について① 心理学実験論文としての特徴はどこにあるのかに着目すること。インフォームドコンセントや研究倫理に関する記述にも着目すること。
15	実験論文の構成について② 実験論文の実際を読んで、実験論文の構成を理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 心理学の研究法のうち、面接法と質問紙調査法について述べよ。

＜ポイント＞

心理学をはじめとする人間科学の研究法として、面接法、質問紙調査法がある。それぞれの方法の特徴や問題点、準備・実施上の留意点などについてまとめること。

【設題2】 心理学の研究法のうち、観察法と実験法について述べよ。

＜ポイント＞

心理学をはじめとする人間科学の研究法として、観察法、実験法がある。それぞれの方法の特徴や問題点、準備・実施上の留意点などについてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．「研究とはなにか」について

＜ポイント＞研究の目的や意義、研究のタイプ、研究の流れについて述べる。研究における倫理についても言及すること。

キーワード：問題意識、公共性、先行研究、倫理

2．データ収集と情報源について

＜ポイント＞データとは何か、データの種類、データの収集方法について述べる。

キーワード：質的データ、量的データ、メディアリテラシー

3．サンプリングについて

＜ポイント＞実験法や調査法におけるサンプリングの意味と方法について述べる。

キーワード：母集団、標本（サンプル）、標本調査、無作為（標本）抽出、非確率（標本）抽出法

4．人間科学における研究倫理について

＜ポイント＞研究倫理とは何か、どのようなものがあり、なぜ必要なのかを述べる。研究を始める前、研究中、論文を発表する段階等に分けて考えるとよい。

キーワード：倫理原則、インフォームドコンセント、プライバシー、ディセプション、デブリーフィング、秘密保持

5．実験論文の構成について

＜ポイント＞一般的な論文構成ではなく、実験論文としての特徴はどこにあるのかを考えること。インフォームドコンセントについても必ず言及すること。

キーワード：変数、先行研究、仮説、実験デザイン、被験者属性、インフォームドコンセント、分析方法

6．心理学で用いる尺度について

＜ポイント＞心理学でなぜ尺度を考える必要があるのかを説明すること。それぞれの尺度について、具体例を挙げていくとよい。

キーワード：尺度水準、名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度、妥当性、信頼性

教科書

高橋順一、他『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版。

参考文献

鎌原雅彦、他『心理学マニュアル　質問紙法』北大路書房。
後藤宗理、他『心理学マニュアル　要因計画法』北大路書房。
中澤潤、他『心理学マニュアル　観察法』北大路書房。
保坂亨、他『心理学マニュアル　面接法』北大路書房。
森敏昭、吉田寿夫『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房。

科目コード	心理学研究法（4単位）	登録年次	履修方法
2313		3年	SR
教員名	新井雅人、荒井理帆、岡本香、佐野友泰、志茂田典子、 中山麻子、永田愛、成本忠正、村山陽、三井公一郎		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心理学の主要な内容とも言える感覚・知覚・学習・認知・人格・社会について、実験・調査などの実証的研究法を学ぶ。一般的に心理学の研究では何のために研究するのか研究の目的をはっきりさせ、その方法を考え、その結果を分析していく。本科目では、それらの技能と共に、データを用いた実証的な思考方法を身につけさせていくことが主要な目的である。また、結果の分析にあたっては、統計学の知識、コンピュータリテラシーも必要であり、その習得も併せてめざす。さらに、それらの研究法に内在する問題点も検討し、心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）、データを用いた実証的な思考方法、研究における倫理について理解する。

学修内容

1	科学とは何か 「科学」とは何か、「科学的」であるために必要なことは何かを理解する。
2	研究とは何か 研究の目的や意義、研究のタイプ、研究の流れ、研究倫理について理解する。
3	データ収集と情報源について データの種類や収集方法について学ぶ。どのようなデータを集めるためには、どのような情報源が必要になるのかを理解する。
4	文献調査の方法 実際に、自分の興味のある資料（研究論文等）を探してみる。
5	サンプリングについて サンプリングとは何か、どのような方法があるのかを理解する。
6	研究倫理とは何か 心理学における研究倫理の必要性について理解する。
7	心理尺度について 尺度を考えることの意味、4つの尺度と注意点、信頼性と妥当性について理解する。
8	観察法① 観察法とはどのような方法なのかを理解する。
9	観察法② 実際に観察法の文献を読んで、観察法を理解する。
10	面接法 調査的面接法について理解する。構造化面接、半構造化面接、非構造化面接の違いを理解する。
11	質問紙調査法 質問紙調査法の特徴、設計、データ解析について理解する。
12	実験法① 実験法の意義、手続きについて理解する。
13	実験法② 実験データの解析方法について、分散分析と多重比較、t-検定、χ二乗検定の意味と違いを理解する。
14	実験論文の構成について① 心理学実験論文としての特徴はどこにあるのかに着目すること。インフォームドコンセントや研究倫理に関する記述にも着目すること。
15	実験論文の構成について② 実験論文の実際を読んで、実験論文の構成を理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 心理学の研究法のうち、面接法と質問紙調査法について述べよ。

＜ポイント＞

心理学をはじめとする人間科学の研究法として、面接法、質問紙調査法がある。それぞれの方法の特徴や問題点、準備・実施上の留意点などについてまとめること。

【設題2】 心理学の研究法のうち、観察法と実験法について述べよ。

＜ポイント＞

心理学をはじめとする人間科学の研究法として、観察法、実験法がある。それぞれの方法の特徴や問題点、準備・実施上の留意点などについてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．「研究とはなにか」について

＜ポイント＞研究の目的や意義、研究のタイプ、研究の流れについて述べる。研究における倫理についても言及すること。

キーワード：問題意識、公共性、先行研究、倫理

2．データ収集と情報源について

＜ポイント＞データとは何か、データの種類、データの収集方法について述べる。

キーワード：質的データ、量的データ、メディアリテラシー

3．サンプリングについて

＜ポイント＞実験法や調査法におけるサンプリングの意味と方法について述べる。

キーワード：母集団、標本（サンプル）、標本調査、無作為（標本）抽出、非確率（標本）抽出法

4．人間科学における研究倫理について

＜ポイント＞研究倫理とは何か、どのようなものがあり、なぜ必要なのかを述べる。研究を始める前、研究中、論文を発表する段階等に分けて考えるとよい。

キーワード：倫理原則、インフォームドコンセント、プライバシー、ディセプション、デブリーフィング、秘密保持

5．実験論文の構成について

＜ポイント＞一般的な論文構成ではなく、実験論文としての特徴はどこにあるのかを考えること。インフォームドコンセントについても必ず言及すること。

キーワード：変数、先行研究、仮説、実験デザイン、被験者属性、インフォームドコンセント、分析方法

6．心理学で用いる尺度について

＜ポイント＞心理学でなぜ尺度を考える必要があるのかを説明すること。それぞれの尺度について、具体例を挙げていくとよい。

キーワード：尺度水準、名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度、妥当性、信頼性

教科書

高橋順一、他『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版。

参考文献

鎌原雅彦、他『心理学マニュアル　質問紙法』北大路書房。
後藤宗理、他『心理学マニュアル　要因計画法』北大路書房。
中澤潤、他『心理学マニュアル　観察法』北大路書房。
保坂亨、他『心理学マニュアル　面接法』北大路書房。
森敏昭、吉田寿夫『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房。

科目コード	心理学実験（４単位）	登録年次	履修方法
3560		２年	ＳＲ
教員名	新井雅人、岡本香、緒方玲子、加藤宏一、志茂田典子、永田愛、成本忠正、村山陽		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目では、心理学における実験法の意義をよく理解した上で、実験計画の基本的な枠組みと立案方法を、実際にその展開を参照しながら学んでいく。具体的には、「触２点閾の測定」、「ミュラーリヤーの錯視」、「鏡像描写」などの感覚知覚に関する実験から、「性格検査」、「知能検査」などのテストまで幅広く実施する。このように、さまざまな心理分野の実験の計画立案、実験を通して、統計に関する基礎的な知識も習得し、人間行動の問題の解決方法を探る。

学修内容

1	**A．心理現象を科学的に扱う「実験」について知る** 自然観察と実験との相違、目的と仮説について、実験デザインとは何かについてなど、心理学における実験研究の基本について学ぶ。具体例として教科書に挙がっている実際の実験を通して理解する。（該当箇所：教科書 pp.1-30、改訂版 pp.1-33）
2	独立変数と従属変数、被験者内要因と被験者間要因、グループ比較デザインと１事例研究 実験デザインにおける基本的な要素について理解する。実際の実験において、それらがどのように実現されているかについても理解を深める。１事例研究とは何のために、どのような場合に使われるものなのか。（該当箇所：教科書 p.16、改訂版 p.18）
3	心理学研究における倫理 心理学は人間その他の生体を研究対象としている。臨床や応用分野はもちろん、基礎心理学の分野においても倫理の問題は発生しうる。研究倫理の原則と、問題の発生を事前に防ぐための工夫について学ぶ。（該当箇所：教科書 p.24、改訂版 p.26）
4	実験法の長所と短所について 主に観察法や質問紙法と比較した、実験法の長所と短所について学ぶ。長所と短所を知ることにより、実験法の特性をより理解することになる。理解のためには、比較という観点で見ること。（該当箇所：教科書 p.26、改訂版 p.30）
5	**B．感覚・知覚心理学分野における実験研究** 空間知覚における手がかり理論や、運動の知覚について学ぶ。この章においても教科書には、さまざまな実際の実験が紹介されているので、単に理論を覚えるのではなく、それらを併せて理解する（該当箇所：教科書 pp.31-56、改訂版 pp.41-67）
6	感覚・知覚の特性とゲシュタルト心理学 感覚遮断実験やさまざまな錯視の実験、また、ゲシュタルト心理学における知覚の体制化の理論と実験について学び、感覚・知覚の特性に関する知見を学ぶ。（該当箇所：教科書 p.32、改訂版 p.42）
7	**C．学習心理学分野における実験研究** 心理学における「学習」について、実験研究を通して学ぶ。また、観察学習、代理強化、モデリング等についても理解する（該当箇所：教科書 pp.57-82、改訂版 pp.69-96）
8	古典的条件づけとオペラント条件づけ 学習のもっとも基本的な形の一つである古典的条件づけと、自発行動に関わるオペラント条件づけについて学ぶ。日常使われない術語の多い分野であるので、ひとつひとつ丁寧におさえていくこと（該当箇所：教科書 p.57、改訂版 p.69）
9	学習の転移と学習された無力感 学習の正の転移と負の転移、および、そこから発展した考え方について学ぶ。学習の構えや学習された無力感についても実験が紹介されているのでよく読むこと（該当箇所：教科書 p.72、改訂版 p.86）
10	**D．記憶心理学分野における実験研究** 短期記憶と長期記憶（と感覚記憶）は実験によってどのように検討されてきたのか。また、エピソード記憶と意味記憶についてなど、記憶についてのさまざま理論と代表的な実験を学ぶ。（該当箇所：教科書 pp.83-112、改訂版 pp.99-139）
11	符号化と検索、再生 心理学における記憶の機能の研究は、符号化、保持、検索の３段階に分けておこなわれいる。記憶の研究も特殊な術語が多いが、順を追って理解を進めてほしい（該当箇所：教科書 p.90、改訂版 p.118）
12	**E．思考の心理学における実験研究** 生産的思考と再生的試行、情報処理モデルによる説明など、応用分野の一つである思考の心理学について学ぶ。例として挙げられている実験は、さまざまな工夫のこらされたものである。（該当箇所：教科書 pp.113-138、改訂版 pp.143-172）
13	**F．動機づけの心理学における実験研究** 人間や生体は、行動の原因として「要求」を持つが、同じ環境にいても人々は異なった行動をとる。ここでは基本的要求、社会的要求、達成要求、親和要求について学ぶ。（該当箇所：教科書 pp.139-166、改訂版 pp.173-203）

14	外発的動機づけと内発的動機づけ ２つの動機づけについては基礎的研究から応用まで、実際の実験がいくつか紹介されている。内発的動機づけを高めるにはどうしたらよいかなどについて、心理学の知見に基づいて理解する（該当箇所：教科書 p.152、改訂版 p.186）
15	**G．これからの実験心理学** 環境（住空間や宇宙、海洋）と心理学、高齢化社会、科学技術の進歩など、実験心理学が社会問題に関わる分野でのいくつかのトピックについて、教科書にて触れられている。（該当箇所：教科書 pp.167-188、改訂版 pp.207-226）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
２題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 心理学実験法についてまとめ、自分の問題意識に沿った実験のテーマや方法について考察せよ。
＜ポイント＞
実験法の特徴や目的、実験の仮説設定から結果の分析に至るまでの実験の展開について、具体例を交えながらまとめること。加えて、あなた自身の身近な問題背景や関心のある人間行動・意識現象などを取り上げ、実験法を用いてどのような問題をどのような手続きで研究することが可能であると予測されるか、自分なりの考えを述べること。

【設題２】 日常生活や社会問題に貢献する実験心理学研究について考察せよ。
＜ポイント＞
身近な日常生活における諸問題や社会問題の解決に向けて、実験心理学が果たすべき役割を具体的に考察すること。特に、自分自身が興味・関心をもつ日常生活や社会関係における諸問題を取り上げて、その解決策の発見や効果測定をめざした実験的研究のあり方について考察すること。

科目終了試験学修のポイント

１．グループ比較デザインと一事例研究について
＜ポイント＞
グループ比較デザインとは、統計的検定に耐えうる数の被験者を集めて行う一般的な実験デザインである。
それに対して一事例研究とは、一個人を対象とした特殊な研究方法である。

２．実験の利点と欠点について
＜ポイント＞
心理学のさまざまな研究方法のうち、実験法に焦点を当てて記述する。比較をしてもよいだろう。

３．感覚・知覚の一般的特性と、形やパターンの知覚について（関連する実験を含めて）
＜ポイント＞
恒常性、図と地、知覚の体制化を含めること。関連する実験を含めての記述のためには教科書内の「BOX」参照。

４．記憶における符号化と検索について（関連する実験を含めて）
＜ポイント＞
符号化と検索とは何を指すか。また、その特性についてまとめる。

５．外発的動機づけと内発的動機づけについて（関連する実験を含めて）
＜ポイント＞
対となる語だが、主に研究されているのは「内発的動機づけ」なので、そちらを中心にまとめる。

６．学習の正負の転移と、学習の構えについて
＜ポイント＞
教科書 p. 89 図 3. 15 学習の構えの形成のグラフの見方に注意。「1-8」の線は１～8 番目の課題における、第 1～6 試行(x 軸)の正反応率の平均値を示す。

教科書

大山正、他『新心理学ライブラリ８　実験心理学への招待』サイエンス社。

参考文献

浅井邦二『心理学実験計画入門』学芸社。
市川伸一『新心理学ライブラリ 13　心理測定法への招待』サイエンス社。
木下富雄、他『教材心理学』ナカニシヤ出版。
後藤宗理、他『心理学マニュアル　要因計画法』北大路書房。
高橋順一、他『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版。
中島義昭『実験心理学の基礎』誠信書房。

科目コード	心理学的支援法（基礎）（２単位）	登録年次	履修方法
3590		２年	ＳＲ
教員名	秋山和寛、新井雅人、志茂田典子、坪井菜奈子、長坂正文、野口理英子、橋本景子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

カウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界やカウンセリングの土台となる人間の心のメカニズムについて理解し、面接中に生起する様々な現象とカウンセリングのプロセスについて基礎的な内容を学ぶ。また、カウンセラーの基本的態度や面接技法、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援について、討議や演習を通して実践的に理解する。さらに、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮などの倫理的側面についても理解する。

学修内容

1	心理学的支援とは何か：カウンセリングの定義として論じられているものから心理学的支援を具体的に理解する。
2	心理学的支援とは何か：他の近接領域との違いを理解する。一般的にイメージされているカウンセリングを明らかにし、カウンセリングと心理療法や臨床心理学との違いについてまとめる。
3	代表的な心理療法やカウンセリングの歴史的背景を理解し、その適応と限界を知る。 19 世紀のヨーロッパ・アメリカの世界史の動向を調べ、現代における心理学的支援の歴史的必然性についてまとめる。
4	支援対象者の話を「聴く」ことの意味について理解する。また、支援対象者との良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法についても学修する。（教科書 pp.2-12 参照） 「聴く」ことの意味と支援対象者との良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法についてまとめる。
5	心理学的支援（カウンセリング等）の過程Ⅰ：事例を通して、心理学的支援全体に起こっていることを理解する。（教科書 pp.28-37 参照） 心理学的支援（カウンセリング等）の過程で起こることの意味について理解したことをまとめる。
6	心理学的支援（カウンセリング等）の過程Ⅱ：初回面接の意義について理解を深める。（教科書 pp.38-47 参照） 初回面接の意義について理解したことをまとめる。
7	こころの構造Ⅰ：自我の構造を理解する。（教科書 pp.52-58 参照） 自我の構造について理解したことをまとめる。
8	こころの構造Ⅱ：自我防衛と自己実現について理解する。（教科書 pp.59-75 参照） 「自我防衛」と「自己実現」の意味について理解したことをまとめる。
9	心理学的支援を行う者の基本的態度と理論Ⅰ：特にカウンセリングが本来的に持つ、二律背反性について理解する。（教科書 pp.82-95） カウンセリングの二律背反性について理解したことをまとめる。
10	心理学的支援を行う者の基本的態度と理論Ⅱ：心理学的支援を行う者の基本的態度を学ぶ。（教科書 pp.95-107 参照） 心理学的支援を行う者の基本的態度に関する要点をまとめる。
11	心理学的支援を行う者と支援対象者との関係：転移と逆転移について理解する。（教科書 pp.204-223 参照） 「転移」「逆転移」について理解したことをまとめる。
12	心理学的支援（特にカウンセリング）の中断と終結について理解する。（教科書 pp. 150–172） カウンセリングの中断の意味をまとめる。
13	カウンセラーの訓練、心理学的支援を行う際のプライバシーへの配慮：リスクに対するアセスメントを踏まえた守秘義務と連携について理解する。（教科書 pp. 178–195 参照） カウンセラーの訓練、心理学的支援を行う際のプライバシーへの配慮について理解したことをまとめる。
14	カウンセリングにおける並行面接のメリットと問題について理解する。 公的な相談機関について調べ、並行面接のメリットと問題について理解したことをまとめる。
15	カウンセリングにおける沈黙と自己開示の意味について学ぶ。 カウンセリングにおける沈黙と自己開示の意味についてまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 カウンセリングが発展するに至った近代以降の歴史を簡潔に述べ、どういう人を対象としてどのように進めていくのか、その技法などに触れながら述べよ。

＜ポイント＞

まず、20 世紀半ばに助言指導、職業指導から始まったカウンセリングの歴史を知る。次に、どのような人を対象に行われ、どのように進めていくものかを学ぶ。カウンセリングは決して万能ではなく、その対象者も限られることを考慮すること。

科目終了試験学修のポイント

1．心理学的支援とは何か

＜ポイント＞

カウンセリングと心理療法や臨床心理学との違いについてまとめる。

2．心理学的支援の過程について

＜ポイント＞

心理学的支援の過程で起こることの意味について要点をまとめる。

3．支援対象者との良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について

＜ポイント＞

「聴く」ことの意味と支援対象者との良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法についてまとめる。（教科書 pp.2-12 参照）

4．心理学的支援を行う者の基本的態度について

＜ポイント＞

特にカウンセリングが本来的に持つ、二律背反性について理解し、心理学的支援を行う者の基本的態度に関する要点をまとめる。（教科書 pp.82-107）

5．心理学的支援を行う者と支援対象者との関係について

＜ポイント＞

転移と逆転移について理解する。（教科書 pp.204-223 参照）

6．カウンセラーの訓練、心理学的支援を行う際のプライバシーへの配慮について

＜ポイント＞

リスクに対するアセスメントを踏まえた守秘義務と連携について理解する。（教科書 pp. 178–195 参照）

教科書

河合隼雄『カウンセリングの実際問題』誠信書房。

渡辺三枝子『新版カウンセリング心理学』ナカニシヤ出版。

参考文献

国分康孝『カウンセリングの技術』誠信書房。

佐治守夫・岡村達也・保坂亨『カウンセリングを学ぶ』東京大学出版。

科目コード	心理学的支援法（演習）（２単位）	登録年次	履修方法
3600		３年	ＳＲ
教員名	秋山和寛、新井雅人、荒井理帆、志茂田典子、 坪井菜奈子、中山麻子、長坂正文、野口理英子、橋本景子、		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

カウンセリングの理論は、医療、社会福祉、教育などの現場で幅広く活用・実践されている。そこで、カウンセリングとはどのようなものなのか、そしてカウンセリングに必要な技法や態度、心構えとはどのようなものなのか、基礎から学修していく。また、カウンセリングは比較的新しい学問領域であるため、いくつもの理論が存在しているが、その中でも基礎となる、精神分析、来談者中心療法、行動療法（認知行動療法）の三つを中心に学修していく。また、訪問による支援や地域支援の意義、心の健康教育についても学ぶ。

学修内容

1	**Ⅰ　カウンセリングとは何か**（該当箇所：教科書 pp.2-45） 現代社会とカウンセリング：カウンセリングを含む相談活動の現状について知る。
2	カウンセリングの定義、歴史、社会的背景（該当箇所：教科書 p.23） ：相談とカウンセリングの違い、コンサルテーション、リエゾン、コーディネーションについて知る。
3	**Ⅱ　カウンセリングの構造と機能**（該当箇所：教科書 pp.46-153） カウンセリングの構造：構造とは何を指すか。また、カウンセリングにおけるさまざまな枠とその意義を知る。
4	カウンセリングのはじめから終わりまで（該当箇所：教科書 p.61） ：カウンセリングは通常、継続的に面接が行われ、数年にわたることもある。そのプロセス（過程）を概観する。
5	カウンセリングの基本的態度と技法１（該当箇所：教科書 p.78） ：ロジャーズをベースとして、アイビーのマイクロカウンセリングのモデルを学ぶ。
6	カウンセリングの基本的態度と技法２ ：前回に続き、イーガンとカーカフ、それぞれのカウンセリングのモデルを学ぶ。
7	心理アセスメントと個性の理解（該当箇所：教科書 p.109） ：心理アセスメントとは、心理テストの施行を含む包括的なものであることを学ぶ。
8	カウンセリングの生成プロセス（該当箇所：教科書 p.129） ：単なる相談とは異なる、カウンセリング独特のプロセスについて知っておく。
9	**Ⅲ　洞察と気づきへの手がかりを求めて**（該当箇所：教科書 pp.154-195） 無意識過程への視線：フロイトの精神分析理論におけるこころのとらえ方を学ぶ。
10	関係性と気づきへの視線（該当箇所：教科書 p.170） ：ロジャーズの人間中心理論におけるこころのとらえ方を学ぶ。
11	**Ⅳ　はたらきかけの手がかりを求めて**（該当箇所：教科書 pp.196-243） 身体への定位と注意集中：催眠法、自律訓練法について学ぶ。
12	行動論的アプローチ（該当箇所：教科書 p.206） ：行動療法、認知行動療法におけるこころのとらえ方を学ぶ。
13	カウンセリングの多面的アプローチ（該当箇所：教科書 p.221） ：折衷主義、多面的アプローチについて学ぶ。
14	**コミュニティ、災害時・危機介入の心理学的支援** 教育現場や福祉現場の特徴、コンサルテーションについて調べ、個人面接中心の心理学的支援とコミュニティでの心理学的支援の相違についてまとめ、地域支援の意義について理解する。また、災害や危機が起きた時の個人や集団の反応について調べ、それぞれの場面で、心理職として出来ること、またすべきでないことをまとめ、訪問による支援の意義について理解する。
15	**心の健康教育と予防教育** 心の健康とはどのようなものか、予防とは何を意味するのかまとめる。また、主な現場において、心理職として心の健康増進のために出来ることをまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】現代人の生活とカウンセリングについて考え、カウンセリングがどうあるべきか述べよ。

＜ポイント＞

現代の社会状況を捉え、何故カウンセリングが必要なのか、カウンセリングがどのような形で、どういったことに役立っているのか考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．パーソナリティの成長論について

＜ポイント＞

医学モデルに対する、成長モデル（心理学モデル）をまとめるとよい。

2．クライアント中心カウンセリングについて

＜ポイント＞

この理論の基本仮定、また想定されているカウンセリングのプロセスなどについてまとめる。

3．認知行動カウンセリングについて

＜ポイント＞

教科書の行動論的アプローチの章の全体を見てまとめる。

4．精神分析的カウンセリングについて

＜ポイント＞

この理論の基本仮定、治療論などについてまとめる。精神分析的カウンセリングは分析の考え方を背景に持つカウンセリングを指す。

5．交流分析について

＜ポイント＞

自我状態、パターン分析、脚本分析などについてまとめる。

6．さまざまなクライエントに対する対応について

＜ポイント＞

折衷主義とその周辺についてまとめるとよい。

教科書

福島脩美『総説カウンセリング心理学』金子書房。

参考文献

福原真知子監修『マイクロカウンセリング技法』風間書房。
楡木満生、田上不二夫『カウンセリング心理学　ハンドブック　上巻』金子書房。
曽根剛『ロジャース理論概説』学苑社。
田畑治、他『講座サイコセラピー　カウンセリング』日本文化科学社。
小俣和義（編）『こころのケアの基本―初学者のための心理療法』北樹出版。
下山晴彦（監修）『面白いほどよくわかる！臨床心理学』西東社。

科目コード	心理学的支援法（心理療法）	登録年次	履修方法
3700		3年	R
教員名	新井雅人、荒井理帆、志茂田典子、中野真也、長坂正文、野口理英子、橋本景子、村上百合子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心理療法の理論は、４０を越えるものがあり、変転進歩しつつある領域である。その中でも広く実践されているものとして、精神分析的療法、クライエント中心療法、行動療法、認知行動療法、家族療法、芸術療法、森田療法、内観療法、集団心理療法などの考え方を学ぶ。それぞれの理論や定石を知ることで、目前の個人に即応するよう工夫し、クライエントの資質や周りの資源の力を生かせるような援助を可能にするために、それぞれのアプローチに関する効用と限界に関する理解を深める。事例論文を読み、ディスカッションを通しても実践的な理解を図る。

学修内容

1	・心理療法とはなにか：心理療法の効果研究、心理療法の構造（関係性、枠組み、職業倫理、カウンセラーの学び・訓練）
2	・精神分析の理論と技法：精神分析の基礎理論、フロイト、無意識、局所論・構造論、無意識の理論、夢、防衛機制、自由連想法、転移・抵抗・解釈
3	・分析心理学：ユング、こころの構造、コンプレックス、外向・内向、4 つの心理機能、普遍的無意識と元型、個性化、夢分析など
4	・遊戯療法（プレイセラピー）：遊戯療法の歴史、アクスラインの 8 原則、治療構造と制限、遊戯療法の目標と治療過程、遊びの機能、カタルシスなど
5	・交流分析：自我状態モデル、やりとり分析、ゲーム分析、人生脚本、エゴグラムなど
6	・クライエント中心療法：ロジャーズ理論の歴史的展開、クライエント中心療法の基本的な考え方、セラピィ理論、カウンセラーの３条件（中核三条件）、パーソナリティの理論、自己概念と体験の一致、十分に機能する人間
7	・フォーカシング：フェルト・センス、体験過程、体験過程スケール、フォーカシングのステップなど
8	・行動療法：行動療法の歴史、学習理論、レスポンデント条件付け、オペラント条件付け、行動分析、観察学習、系統的脱感作法、暴露反応妨害法、課題分析・シェイピング
9	・ブリーフセラピー（解決志向アプローチ）：ブリーフセラピーの歴史、解決志向アプローチ（SFA）、リソース、コンプリメント、例外、コーピングクエスチョン、関係性のアセスメントなど
10	・認知行動療法：認知行動療法の歴史、ベックの認知療法（中核的信念・スキーマ、自動思考）、エリスの論理情動行動療法、特徴的な技法、認知行動療法の構造、第三世代の認知行動療法とその要素（マインドフルネス・アクセプタンス）
11	・家族療法：家族療法の歴史、二重拘束仮説、家族ホメオスタシス、家族システム理論、円環的因果律、IP、家族療法の代表的なモデル（多世代家族療法、構造的家族療法、MRI 家族療法、戦略的家族療法）
12	・芸術療法：芸術療法の歴史、芸術療法の理論、箱庭療法、セラピストの態度、風景構成法、スクリブル法、音楽療法など
13	・森田療法：森田療法の歴史、ヒポコンドリー性基調、精神交互作用、あるがまま、目的本位、入院治療と絶対臥褥、外来での森田療法など
14	・内観療法：内観療法の歴史、身調べ、内観３項目、集中内観・日常内観、内観療法の変化の過程など
15	・集団心理療法：心理劇の歴史、役割、心理劇の構造、すすめ方、基本技法、集団精神療法、エンカウンターグループの歴史、人間性回復運動、エンカウンターグループの理論・技法など

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 各種の心理療法の中から、３つの心理療法を取り上げて、それぞれについて論述せよ。

＜ポイント＞

それぞれの技法について、治療のねらい、その対象者、治療法などについて述べ、その効用と限界について考察すること。自分自身の体験や事例について触れられればより望ましい。

科目終了試験学修のポイント

１．心理療法の構造について

＜ポイント＞

特別な人間関係、信頼関係（ラポール）、作業同盟・治療同盟、枠組み、インテーク面接（初回面接・受理面接）、面接契約、守秘義務、インフォームドコンセントなどについて押さえること。

２．精神分析の治療について

＜ポイント＞

防衛機制、神経症、ヒステリー、自由連想法、転移（陽性・陰性）、中立性、葛藤の再現、逆転移、教育分析、などについて押さえること。

３．カウンセラーの３条件（中核三条件）について

＜ポイント＞

「治療的パーソナリティ変化の必要にして十分な条件」、６条件、一致（純粋性）、無条件の肯定的配慮（受容）、共感的理解（共感）、などについて押さえること。

４．認知療法における「認知」について

＜ポイント＞

認知療法、うつ病の認知の３要素、中核的信念、自動思考、抑うつ・否定的な状態、などについて押さえること。

５．日本で生まれた心理療法について

＜ポイント＞

森田療法（ありのまま、ヒポコンデリー性基調、精神交互作用、体験的理解、絶対臥褥）、内観療法（身調べ、集中内観、日常内観、場所、時間、期間、内容、効果、特徴）などについて押さえること。

６．家族療法の考え方について

＜ポイント＞

システム、サブシステム、円環的因果律、IP(identified patient)、家族療法の代表的なモデル、などについて押さえること。

教科書

矢澤美香子　編　『基礎から学ぶ心理療法』　ナカニシヤ出版

参考文献

国分康孝　著　『カウンセリングの理論』　誠信書房
霜山徳爾、鍋田恭孝　『心理療法を学ぶ』　有斐閣選書
松原達哉、楡木満生　『臨床心理学シリーズ⑥臨床心理実習』　培風館

科目コード	心理学統計法（２単位）	登録年次	履修方法
3550		１年	ＳＲ
教員名	加藤宏一、志茂田典子、鈴木克也、三好一英		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心理学で用いられる統計手法について、その基本的な考え方や理論を学び、統計に関する基礎的な知識を習得できるよう、心理学における統計の概要を理解する。

学修内容

1	心理学における心理統計の役割　pp.6-12 心理学において，心理統計がどのような役割を果たしているのかについて学修する。心を数字に置き換えること(尺度化)，データのまとめ作業(数値要約)などを通してデータの特徴を記述すること(記述統計)や，データの背後にある情報についての推測(推測統計)など，心理学はデータの学問であることを理解する。
2	データとは　データの役割　pp.18-29 データに様々な種類があることについて学修する。具体的には質的変数・量的変数の区別がまずできるようになることであるが，心理統計においては，この質的・量的の二分法を超え，4 つの尺度水準(比率尺度，間隔尺度，順序尺度，名義尺度)があり，それぞれの尺度水準ごとに可能な演算が異なることについて理解する。
3	代表値　(平均値、中央値、最頻値)　pp.30-33 データの数値要約，要約統計量の１つとしての代表値について学修する。データ全体のもつ情報を１つの値にまとめる作業を数値要約といい，数値要約によって要約された値のことを要約統計量と呼ぶ。ここでは，3 つの代表値(平均値，中央値，最頻値)について学修する。それぞれの代表値の特徴を理解するとともに，それぞれの代表値の長所短所，使い分けについて理解する。
4	散布度　(分散、標準偏差)　pp.34-37 データの散らばりについての数値的指標である散布度について学修する。平均からの偏差をどのように処理するかにより，範囲，分散，標準偏差などの指標が考えられる。特に，心理統計においては，後に学ぶことになる推測統計との兼ね合いから標準偏差が用いられることが多いため，標準偏差の理解が重要になる。
5	標準化と偏差値の求め方　pp.38-43 標準化について学修する。データを標準化することの必要性，意義，利用方法について理解する。標準得点を算出することにより平均，分散の異なる集団のデータを同じものさしによって比較することが可能となる。標準得点の応用的使用法である偏差値についての学修もここで行う。
6	正規分布の特徴とその利用　pp.80-89 心理統計において最も重要であり，かつ最も頻繁に用いられる確率分布である正規分布について学修する。正規分布の特徴について理解するとともに，正規分布と標準偏差との関係，標準正規分布と標準得点との関係について理解する。標準正規分布と標準得点との関係は標準正規分布表を用いることによって理解が進むため，標準正規分布表の見方についてもここで理解する。
7	散布図、共分散と相関係数　pp.44-55 2 変数の関係を示す数値的指標である共分散と相関係数について学修する。これまでは 1 変数の特徴の記述方法を学んできたが，ここでは 2 変数の関係の記述方法について学修する。2 変数の関係を図示するための散布図の書き方と，散布図において現れる 2 変数の直線的関係である相関関係について学修する。
8	相関係数の見方と、正の相関・負の相関，クロス集計表と連関　pp.52-55, 62-65 前節で学んだ相関係数，特にピアソンの積率相関係数についてさらに学修を深める。共分散から相関係数を求める方法，相関係数の取りうる範囲，相関係数の値の評価，相関係数と散布図との関係について学修する。また 2 変数が共に質的変数である場合の集計方法であるクロス集計表と，2 つの質的変数の関係を示す指標である連関と連関係数についても学修する。
9	注意すべき相関、因果関係と相関関係　pp.56-59 相関係数を評価する際の注意点について学修する。具体的には，外れ値の影響，擬似相関(偽相関)，偏相関，層別相関，選抜効果(切断効果)などについて注意すべき点について理解する。また，相関関係を解釈する際に，留意しなければならない因果関係と相関関係の違いについてもここで理解する。
10	記述統計から推測統計へ　pp.68-107 記述統計と推測統計との違いを中心に，主に推測統計について学修する。これまで学修した事項はすべて記述統計に関するものであった。これ以降は手元のデータの背後にある，さらに大きな対象について推測する推測統計について学修する。母集団と標本との関係，標本抽出，標本分布と標準誤差，不偏分散について学修する。
11	統計的仮説検定　pp.108-125 心理学をはじめとする科学における仮説の検証方法の一つである，統計的仮説検定について学修する。帰無仮説と対立仮説，有意水準と有意確率，採択と棄却，両側検定と片側検定，第一種の過誤と第二種の過誤などについて学修する。特にこの学修事項はレポート課題とも密接に関係しているため，しっかりと学修し理解する必要がある。
12	t 検定　pp.144-161 様々な t 検定について学修する。1 つの平均値の差に関する検定を行う場合，母分散が未知の場合には t 検定を行う必要がある。同様に，2 つの平均値の差に関する検定を行う場合にも t 検定を行う。2 つの平均値の比較を行う場合には 2 つの平均値が得られた群間に対応がある場合とない場合とでは行う t 検定が異なる。相関係数の検定(無相関検定)の場合にも t 検定を利用することができる。

13	実験計画法　pp.174-177 代表的な実験計画法について学修する。要因，水準がそれぞれどのようなものであるのかを理解する。被験者間計画，被験者内計画の違いとそれぞれの長所，短所について理解する。また，一要因，二要因の実験計画の違いについて理解するとともに，二要因の実験計画においては主効果と交互作用に留意する必要があることについても注意する。
14	分散分析(一要因)　pp.162-209 3 つ以上の平均値の比較を行う際に用いられる分散分析について学修する。ここでは分散分析が「分散」分析と呼ばれる理由について理解する。データの散らばりである分散を平方和として捉えることにより，データ全体の分散を群間の分散と群内の分散，個人差の分散などに分解することが可能になる。
15	分散分析(二要因)　pp.162-209 3 つ以上の平均値の比較を行う際に用いられる分散分析について学修する。一要因の分散分析と異なり，二要因の分散分析では交互作用の分散も考慮する必用がある。また，一要因の分散分析においては，被験者間計画と被験者内計画の二種類のみであったが，二要因の分散分析の場合にはさらに混合計画が加わるため，それらの違いについてきちんと理解することが重要になる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　下記の言葉をすべて用いながら、統計的仮説検定について述べよ。
「母集団」・「標本」・「帰無仮説」・「対立仮説」・「有意水準」
なお、言葉を用いる順番は特に指定しない。

＜ポイント＞
・上記の言葉を用いるときには、それぞれの定義(意味)についても述べること。
・心理学の研究において、データを集めて分析する場合の基本的な流れを念頭においてレポートを作成するとよい。
具体例の有無は問わない。
・教科書の記述をただまとめただけのレポートは歓迎しない。拙くても良いので自分の言葉で記述することが求められる。
・文献やインターネットからの丸写しは容赦なく不合格とする。
どこまでが文献からの引用であるかを明らかにする。

科目終了試験学修のポイント

１．　平均値、中央値、最頻値の使い分けについて
＜ポイント＞
３つの代表値の定義を述べる。それぞれの長所・短所を踏まえ、どういう場合にどれを用いるのが望ましいかを考える。

２．相関関係と因果関係の違いについて
＜ポイント＞
それぞれの定義を述べる。２変数の関係ということを軸に、両者の違いは何か、どのように異なるのかについて考える。

３．記述統計と推測統計について
＜ポイント＞
それぞれの定義を述べる。両者の違い、どのような場面で用いられるのかについて考える。

４．「第Ｉ種の誤り」と「第II種の誤り」について
＜ポイント＞
それぞれの定義を述べる。「統計上の誤り」の意味を正しく理解する。有意水準との関係や検定力についても押さえておく。

５．被験者間計画、被験者内計画それぞれの長所と短所について
＜ポイント＞
それぞれの定義を述べる。長所・短所は何か。比較すべきものがあればそれと対比する。

６．交互作用について
＜ポイント＞
まず定義を述べ、分散分析との関連、特徴などについて考える。

教科書

山田剛史、村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房。

参考文献

吉田寿夫『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。

森敏昭、吉田寿夫『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房。

南風原 朝和『心理統計学の基礎―統合的理解のために』有斐閣アルマ。

※科目コード1640：R履修／科目コード1641：ＳR履修

科目コード	心理学入門（２単位）	登録年次	履修方法
1640/1641		１年	R/ＳR※
教員名	新井洋輔、加藤宏一、齋藤瞳、沢哲司、成本忠正、橋本景子、前川泰彦、三井公一郎、村山陽、		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心理学が誕生・発展してきた歴史を概観しつつ、今後、様々な心理学の応用分野を学ぶために必要な心理学的思考方法、および、基礎知識を身につけることを目的とする。簡便な心理学実験や心理テストなどの実践を通して、「心理学とは何か」といった入門学修を行っていく。

学修内容

1	心理学と科学 客観性・普遍性など心理学が科学であることの条件・意味を理解する。そして、心のはたらきを科学することにより、心理学は何を目指す学問であるのか考察を深める。
2	心理学のあゆみ 人々が心をどのようにとらえてきたのか、その流れを振り返るとともに、心理学が学問として独立した経緯を理解する。そして現代にいたるまで、さまざまな研究領域と分野にわかれ発展してきた研究史について概観する。
3	心理学の専門分野 代表的な心理学関係の学会や福祉・教育・医療・産業を中心に心理学専門職を踏まえながら、心理学を専門とする分野についての理解を深める。
4	適応とストレス ストレスに関する理論的背景を理解し、そのメカニズムについて学ぶ。そして、日常生活におけるストレスについての気づきを深め、ストレスコーピングについて理解する。
5	学習のメカニズム 人々が経験の中で様々な新しい行動を獲得するメカニズムについて理論的に理解する。そして、様々な学習方法について学び、家庭・教育など日常への応用可能性について考察する。
6	古典的条件づけとオペラント条件づけ 古典的条件づけと道具的条件づけの代表的な実験例について学び、その違いを理解する。そして、日常生活における行動の獲得あるいは除去に各条件づけがどのように関連しているか検討する。
7	心理療法 精神分析、認知行動療法、来談者中心療法など代表的な心理療法を学び、それぞれの心理療法の成り立ち、人間観、目標などを理解し、異同を考察する。
8	心理査定 心理査定の目的を理解し、心理検査や面接など査定の方法について幅広く理解を深める。その上で、心理査定を通したパーソナリティの構造と機能をはじめとしたクライエント理解について学び、現状と予後の見立てについて考える。
9	心理検査 人格検査、適性検査、能力検査などの代表的な心理検査について知識を得る。また、質問紙法、作業検査法、投影法の違いについても理解を深め、心理検査の施行方法についても学ぶ。
10	パーソナリティ 心理学におけるパーソナリティの定義について理解し、その歴史を概観する。そして、類型論・特性論などのパーソナリティ理論について学び、パーソナリティと疾患の関連についても理解を深める。
11	人格の発達 パーソナリティの形成と遺伝・環境の関連について、その研究方法も踏まえ、現代までの研究史を振り返る。また、各発達段階とパーソナリティの変化についても学ぶ。
12	記憶のメカニズム 記憶の質的な違いと時系列的な違いを踏まえ、記憶のメカニズムを理解する。また、記憶に関連する種々の障害についても学ぶ。
13	心理学研究法 心理学研究の手法として実験方法、調査方法、統計分析をはじめとし、観察、面接、フィールドワークなどの質的研究方法について学ぶ。また、研究を行う際に重要となる研究倫理についても理解する。

14	実験者・実験協力者体験 心理学研究について体験的に理解を深める。実験協力者としての体験を通して、実験に影響する要因、実験者として留意すべき点などを考察する。
15	心理学の応用 心理学的知見がどのように現代社会に応用されているかについて実例を含めて理解する。その上で、日々の生活にも応用可能な心理学の理論についても考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 心理学の歴史と現代社会への応用について述べよ。

＜ポイント＞

心理学が学問として成立してきた歴史について述べるとともに、心理学的知見がどのように現代社会に応用されているかについて実例を含めて記述すること。ヴントの構成主義心理学以降、新行動主義までの心理学史について、それぞれの立場を簡潔に整理しながらまとめ、さらに、福祉・教育・医療・産業などの分野において、心理学で明らかになった事柄がどのように利用されているかを考察する。

科目終了試験学修のポイント

1．心理学が科学であることについて

＜ポイント＞

心理学が学問として独立した経緯も踏まえ、「科学」であることの条件・意味を理解していること。

2．記憶のメカニズムについて

＜ポイント＞

記憶の質的な違いと時系列的な違いを踏まえ、記憶のメカニズムを理解していること。

3．古典的条件づけと道具的条件づけについて

＜ポイント＞

古典的条件づけと道具的条件づけの代表的な実験例が説明でき、違いを理解していること。

4．心理的ストレスについて

＜ポイント＞

心理学におけるストレスに関する理論的背景を理解し、ストレスコーピングについて説明できること。

5．人格の発達について

＜ポイント＞

心理学における人格の定義について説明でき、発達的観点からの理解ができていること。

6．心理検査について

＜ポイント＞

代表的な心理検査を挙げることができ、各心理検査の特徴が理解できていること。

教科書

山田冨美雄『医療の行動科学Ⅰ：医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー』北大路書房。

参考文献

津田彰『医療の行動科学Ⅱ：医療行動科学のためのカレント・トピックス』北大路書房。

科目コード	心理学を活かしたキャリアデザイン（２単位）	登録年次	履修方法
3640		１年	R
教員名	新井雅人、岡本香、加藤宏一、齋藤瞳、中野真也、成本忠正、八賀洋介		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心理学部の学生は、心理学の各分野の理解を深めると共に、社会福祉、精神保健福祉、教育などの心理学近接領域におけるヒューマンサービスの実情を学び、それぞれの現場で心理学の知見を応用していくための基礎的な力を身につけることが期待されている。その背景には、心理学を学ぶ学生が、多様なキャリアを展開させることが想定されている。
本科目では、改めて心理学部に入学したことを踏まえて、心理学を学ぶことの意義を考えながら、心理学を活かした職業やキャリアの多様性を学び、社会人として踏み出すための自己理解と、将来働く場についての理解を促す。

学修内容

1	大学で心理学を学ぶということについて （『あなたの知らない心理学　大学で学ぶ心理学入門』p.1-15）
2	心理の仕事について （『あなたの知らない心理学　大学で学ぶ心理学入門』p.17-36）
3	心理学の概要について （『あなたの知らない心理学　大学で学ぶ心理学入門』p.49-66）
4	心理学を学ぶとどうなるかについて （『あなたの知らない心理学　大学で学ぶ心理学入門』p.99-111）
5	身近にある心理学１ （『あなたの知らない心理学　大学で学ぶ心理学入門』コラム⑦～⑪）
6	身近にある心理学２ （『あなたの知らない心理学　大学で学ぶ心理学入門』コラム⑫～⑯）
7	身近にある心理学３ （『あなたの知らない心理学　大学で学ぶ心理学入門』コラム⑰～㉑）
8	自分に気づく１ （『キャリデザイン入門テキスト』p.12-25）
9	自分に気づく２ （『キャリデザイン入門テキスト』ｐ26，27　エゴグラムの分析）
10	自己キャリアを意識する （『キャリデザイン入門テキスト』p.32-49）
11	自分に立ち返る１ （『キャリデザイン入門テキスト』p52−53　ジョハリの窓）
12	自分に立ち返る２ （『キャリデザイン入門テキスト』p.54-66）
13	自己キャリアを認めることについて （『キャリデザイン入門テキスト』p.68-87）
14	自分と折り合うことについて （『キャリデザイン入門テキスト』p.90-107）
15	自己キャリアを育むことについて （『キャリデザイン入門テキスト』p.108-125）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

「エゴグラム」、「ジョハリの窓」、「シャインの3つの問い」についてのワークを実施し、自身についての分析を行い、その結果を受けて、どのような大学生活を送っていきたいか、将来、心理学を仕事にどのように活かしていきたいかについて述べよ。

＜ポイント＞

教科書『キャリデザイン入門テキスト』の「エゴグラム」、「ジョハリの窓」、「シャインの3つの問い」に関するワークシートを完成させたうえで、課題に取り組むのが望ましい。

科目終了試験学修のポイント

1．心理学を活かした援助職について述べよ。

<ポイント>

保健・医療領域、福祉領域、教育領域、労働・産業領域、司法・犯罪領域の5分野について、①どのような仕事や職場があるのかについて整理し、5つの領域から一つを選び、自分は心理学をどう活かしていきたいかについて述べる。

2．心理学を学ぶことで、どのような能力を身につけたいのかについて述べよ。

<ポイント>

教科書（『あなたの知らない心理学　大学で学ぶ心理学入門』p.99-111）を参考にしながら、自分はどのような能力を伸ばしていきたいのかについて述べる。

3．身近にある事柄や出来事などを心理学の観点から説明せよ。

<ポイント>

教科書（『あなたの知らない心理学　大学で学ぶ心理学入門』コラム⑦～㉑）を手掛かりにして、心理学を用いて説明する。

4．自分のエゴグラムの結果について分析せよ。

<ポイント>

エゴグラムについて概説した上で、実施したエゴグラム（教科書『キャリデザイン入門テキスト』p.26, 27）の結果を用いて分析する（試験前には教科書のワークを実施しておくこと）。

5．ジョハリの窓について述べよ。

<ポイント>

ジョハリの窓について概説した上で、実施したワーク（教科書『キャリデザイン入門テキスト』p.27）の結果を用いて分析する（試験前には教科書のワークを実施しておくこと）。

6．シャインの3つの問いについて述べよ。

<ポイント>

シャインの3つの問いについて概説した上（参考文献p20-21）で、自身の能力・才能（自分にできることは何か）、意味・価値（自分は何をやることに価値を感じるか）、動機・欲求（自分は何がやりたいのか）について整理し（教科書『キャリデザイン入門テキスト』p.121）分析する。

教科書

中西大輔・今田純雄（編）『あなたの知らない心理学　大学で学ぶ心理学入門』ナカニシヤ出版。
中嶌剛『キャリデザイン入門テキスト』学事出版。

参考文献

大久保幸夫『キャリデザイン入門Ⅰ基礎力編』日本経済新聞出版社。

科目コード	心理学を活かしたキャリアマネジメント（2単位）	登録年次	履修方法
3650		2年	R
教員名	岡本香、後藤進吾、中野真也、成本忠正		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心理学部の学生は、心理学の各分野の理解を深めると共に、社会福祉、精神保健福祉、教育などの心理学近接領域におけるヒューマンサービスの実情を学び、それぞれの現場で心理学の知見を応用していくための基礎的な力を身につけることが期待されている。その背景には、心理学を学ぶ学生が、多様なキャリアを展開させることが想定されている。

本科目では、「心理学を活かしたキャリア・デザイン」において学んだことを踏まえて、心理学を活かした将来展望やキャリア形成について、より具体的に考える。特に資格取得を想定している場合は、資格を活かして働く自分をイメージし、実現するためには何をなすべきかについて整理し、以下を学修目標とする。

1．心理の仕事について具体的にイメージできるようになる。
2．心理専門職について理解できるようになる。
3．自分の仕事にどのように心理学を活かせるかについて、具体的なイメージを形成することができるようになる。

学修内容

1	心理の仕事と心理学に関連する諸資格について 教科書 pp.92-129、参考文献（『あなたの知らない心理学　大学で学ぶ心理学入門』）pp.17-36 を参考にして、心理学に関連する諸資格の名称を挙げ、それらの資格を有する者が働く場所と担っている役割についてまとめる。
2	臨床心理士の概要と臨床心理士になるためには 教科書 pp.124-127、参考文献（『あなたの知らない心理学　大学で学ぶ心理学入門』）pp.28-29、「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会ホームページ」を参考にして、臨床心理士資格の概要と資格取得方法についてまとめる。
3	医療領域における心理専門職に求められている役割について 教科書 p63 を参考にして、医療領域で働く心理専門職に求められている役割と他職種とのかかわりについてまとめる。
4	医療領域における心理専門職の仕事内容について 教科書 p63 を参考にして、医療領域で働く心理専門職の仕事内容についてまとめる。
5	福祉領域における心理専門職に求められている役割について 教科書 pp.66-67 を参考にして、福祉領域で働く心理専門職に求められている役割と多職種とのかかわりについてまとめる。
6	福祉領域における心理専門職の仕事内容について 教科書 pp.66-67 を参考にして、福祉領域で働く心理専門職の仕事内容についてまとめる。
7	教育領域における心理専門職に求められている役割について 教科書 p64 を参考にして、教育領域で働く心理専門職に求められている役割と他職種とのかかわりについてまとめる。
8	教育領域における心理専門職の仕事内容について 教科書 p64 を参考にして、教育領域で働く心理専門職の仕事内容についてまとめる。
9	労働・産業領域における心理専門職に求められている役割について 教科書 p68 を参考にして、労働・産業領域で働く心理専門職に求められている役割と他職種とのかかわりについてまとめる。
10	労働・産業領域における心理専門職の仕事内容について 教科書 p68 を参考にして、労働・産業領域で働く心理専門職の仕事内容についてまとめる。
11	司法・矯正領域における心理専門職に求められている役割について 教科書 p65 を参考にして、司法領域で働く心理専門職に求められている役割と他職種とのかかわりについてまとめる。
12	司法・矯正領域における心理専門職の仕事内容について 教科書 p65 を参考にして、司法領域で働く心理専門職の仕事内容についてまとめる。
13	心理専門職として働く者に共通して求められる知識・技能とは 学修内容 1～12 でまとめた内容から、心理専門職として働く者に共通して求められる知識・技能を抽出しまとめる。
14	心理専門職として働く者に共通して求められる倫理について 日本心理臨床学会倫理基準を読み、心理専門職として働く者に共通して求められる倫理の要点をまとめる。
15	心理の仕事（デザインのおさらい） 参考文献 pp.17-25、pp.99-110 を-再学修し、心理学を活かした仕事についてまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

心理専門職として働く者に求められる知識と倫理について述べた上で、それらを将来、自身の仕事にどのように活かすことができるかについて述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.8-59、pp.92-129 を参考にして、複数の心理専門職の仕事内容について調べ学修をした上で、それら心理専門職に共通して求められる知識と倫理をまとめること。倫理については、日本心理臨床学会の倫理基準を熟読することが望ましい。

科目終了試験学修のポイント

1．心理学に関連する諸資格について

＜ポイント＞

心理学に関連する諸資格のうち、3 つを選んで、どのような団体がどのような名称の資格を認定し、その資格を有する者がどのような場所で、どのような役割を担っているのかについて述べること。ただし、必ず「臨床心理士」を含むこととする。

2．医療領域で働く心理専門職について

＜ポイント＞

教科書 p.63 を参考にしながら、医療領域で働く心理専門職の仕事内容、医療領域で働く他職種（医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）との違いと関わりについて述べること。

3．福祉領域で働く心理専門職について

＜ポイント＞

教科書 pp.66-67 を参考にしながら、福祉領域で働く心理専門職の仕事内容、福祉領域で働く他職種（社会福祉士、介護福祉士、児童指導員）との違いと関わりについて述べること。

4．教育領域で働く心理専門職について

＜ポイント＞

教科書 p.64 を参考にしながら、教育領域で働く心理専門職の仕事内容、教育領域における支援の対象者（児童生徒、教職員、保護者）との関わりについて述べること。

5．司法・矯正領域で働く心理専門職について

＜ポイント＞

教科書 p.65 を参考にしながら、司法・矯正領域で働く心理専門職の仕事内容、司法・矯正領域における支援対象者との関わりについて述べること。

6．労働・産業領域で働く心理専門職について

＜ポイント＞

教科書 p.68 を参考にしながら、労働・産業領域で働く心理専門職の仕事内容、労働・産業領域における支援対象者との関わりについて述べること。

教科書

新川田譲(監修) 『心理カウンセラーをめざす人の本』 成美堂出版。

参考文献

中西大輔、今田純雄 編『あなたの知らない心理学　大学で学ぶ心理学入門』ナカニシヤ出版。

『日本心理臨床学会倫理基準』一般社団法人 日本心理臨床学会 https://www.ajcp.info/pdf/rules/015_rules_512.pdf

科目コード	心理検査法（２単位）	登録年次	履修方法
2680		２年	ＳＲ
教員名	秋山和寛、荒井理帆、齋藤瞳、沢哲司、坪井菜奈子、中山麻子、三井公一郎		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

事例理解のために、性格テストや知能検査など各種の心理検査がどのように役に立つのかを知り、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）、適切な記録及び報告について学修し、各種の心理検査の基本となる考え方について理解を深める。

学修内容

1	心理検査とは　心理検査法の基礎概念 心理検査の定義について理解し、心理検査が誕生し発展してきた歴史について概観する。そして、その心理検査の種類と利用方法、倫理について学ぶ。
2	心理検査の妥当性と信頼性 よい心理検査の条件の１つである信頼性と妥当性について、その意味と種類について理解する。そして、心理検査の使用目的にそった適切な心理検査の選び方について考える。
3	検査者 - 被検者関係 心理検査を実施する際に重要となる検査者と被検者の関係性について学び、ラポール（信頼関係）について理解を深める。そして、心理検査の結果に影響を与えると考えられる要因についても検討する。
4	心理検査報告書の書き方 心理検査の結果を被検者に伝える時の注意点をはじめとし、心理検査施行後の留意点について理解する。また、心理検査結果を報告書にまとめる具体例についても学ぶ。
5	質問紙法の長所と短所 人格検査の１つの手法である質問紙法の代表的な心理検査について知識を得、その効用と限界について学ぶ。そして、他の２つの手法である投影法・作業検査法との相違点を理解する。
6	テイラー不安検査 テイラー不安検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについても考察する。
7	YG 性格検査 YG 性格検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについても考察する。
8	投影法の長所と短所 人格検査の１つの手法である投影法の代表的な心理検査について知識を得、その効用と限界について学ぶ。そして、他の２つの手法である質問紙法・作業検査法との相違点を理解する。
9	ロールシャッハテスト ロールシャッハテストについて、理論的背景や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方について概観する。
10	作業検査法の長所と短所 人格検査の１つの手法である作業検査法の代表的な心理検査について知識を得、その効用と限界について学ぶ。そして、他の２つの手法である質問紙法・投影法との相違点を理解する。
11	内田クレペリン検査 内田クレペリン検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについても考察する。
12	個別式検査法と集団式検査法の長所と短所 心理検査の代表的な実施方法である個別式検査と集団式検査法の相違点を理解し、それぞれの方法の長所と短所について理解する。
13	知能検査　ウェクスラー知能検査 ウェクスラー知能検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについて考察する。

14	発達検査　新版Ｋ式発達検査 新版Ｋ式発達検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについて考察する。
15	VPI 職業興味検査　職業適性検査 VPI 職業興味検査と職業適性検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、各心理検査の相違点、テストバッテリーの組み方について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 以下の６種の心理検査の中から、好きなものを１種選択し、選択した心理検査について、その特徴を述べよ。

＜心理検査＞

「ウェクスラー知能検査」、「Y-G 性格検査」、「テイラー不安検査」

「VPI 職業興味検査」、「新版Ｋ式発達検査」、「ロールシャッハテスト」

＜ポイント＞

選択した検査について、どのような考え方に基づいて作成された検査なのか、理論、実施法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて、できるだけ分かりやすく自分の言葉でまとめること。検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについても触れられているとなおよい。

科目終了試験学修のポイント

１．信頼性について

＜ポイント＞

心理検査における信頼性の意味、信頼性の種類について理解していること。

２．妥当性について

＜ポイント＞

心理検査における妥当性の意味、妥当性の種類について理解していること。

３．個別式検査の長所と短所について

＜ポイント＞

個別式検査を代表的な心理検査を説明でき、集団式検査との相違点を理解していること。

４．質問紙法の長所と短所について

＜ポイント＞

質問紙法の代表的な心理検査を説明でき、投影法・作業検査法との相違点を理解していること。

５．投影法の長所と短所について

＜ポイント＞

投影法の代表的な心理検査を説明でき、質問紙法・作業検査法との相違点を理解していること。

６．作業検査法の長所と短所について

＜ポイント＞

作業検査法の代表的な心理検査を説明でき、質問紙法・投影法との相違点を理解していること。

教科書

渡部洋『心理検査法入門』福村出版。

参考文献

塩見邦夫『心理検査ハンドブック』ナカニシヤ出版。

松原達也『心理テスト法入門』日本文化科学社。

科目コード	心理検査法（４単位）	登録年次	履修方法
2681/2682		３年/２年	ＳＲ
教員名	秋山和寛、荒井理帆、齋藤瞳、坪井菜奈子、中山麻子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

事例理解のために、性格テストや知能検査など各種の心理検査がどのように役に立つのかを知り、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）、適切な記録及び報告について学修し、各種の心理検査の基本となる考え方について理解を深める。

学修内容

1	心理検査とは　心理検査法の基礎概念 心理検査の定義について理解し、心理検査が誕生し発展してきた歴史について概観する。そして、その心理検査の種類と利用方法、倫理について学ぶ。
2	心理検査の妥当性と信頼性 よい心理検査の条件の１つである信頼性と妥当性について、その意味と種類について理解する。そして、心理検査の使用目的にそった適切な心理検査の選び方について考える。
3	検査者 - 被検者関係 心理検査を実施する際に重要となる検査者と被検者の関係性について学び、ラポール（信頼関係）について理解を深める。そして、心理検査の結果に影響を与えると考えられる要因についても検討する。
4	心理検査報告書の書き方 心理検査の結果を被検者に伝える時の注意点をはじめとし、心理検査施行後の留意点について理解する。また、心理検査結果を報告書にまとめる具体例についても学ぶ。
5	質問紙法の長所と短所 人格検査の１つの手法である質問紙法の代表的な心理検査について知識を得、その効用と限界について学ぶ。そして、他の２つの手法である投影法・作業検査法との相違点を理解する。
6	テイラー不安検査 テイラー不安検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについても考察する。
7	YG 性格検査 YG 性格検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについても考察する。
8	投影法の長所と短所 人格検査の１つの手法である投影法の代表的な心理検査について知識を得、その効用と限界について学ぶ。そして、他の２つの手法である質問紙法・作業検査法との相違点を理解する。
9	ロールシャッハテスト ロールシャッハテストについて、理論的背景や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方について概観する。
10	作業検査法の長所と短所 人格検査の１つの手法である作業検査法の代表的な心理検査について知識を得、その効用と限界について学ぶ。そして、他の２つの手法である質問紙法・投影法との相違点を理解する。
11	内田クレペリン検査 内田クレペリン検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについても考察する。
12	個別式検査法と集団式検査法の長所と短所 心理検査の代表的な実施方法である個別式検査と集団式検査法の相違点を理解し、それぞれの方法の長所と短所について理解する。

13	知能検査　ウェクスラー知能検査 ウェクスラー知能検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについて考察する。
14	発達検査　新版Ｋ式発達検査 新版Ｋ式発達検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについて考察する。
15	VPI 職業興味検査　職業適性検査 VPI 職業興味検査と職業適性検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、各心理検査の相違点、テストバッテリーの組み方について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
２題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 以下の６種の心理検査の中から、好きなものを１種選択し、選択した心理検査について、その特徴を述べよ。

【設題２】 以下の６種の心理検査の中から、【設題１】で選択したもの以外で好きなものを１種選択し、選択した心理検査について、その特徴を述べよ。

＜心理検査＞

「ウェクスラー知能検査」、「Y-G 性格検査」、「テイラー不安検査」

「VPI 職業興味検査」、「新版Ｋ式発達検査」、「ロールシャッハテスト」

＜ポイント＞

選択した検査について、どのような考え方に基づいて作成された検査なのか、理論、実施法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて、できるだけ分かりやすく自分の言葉でまとめること。検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについても触れられているとなおよい。

科目終了試験学修のポイント

１．信頼性について

＜ポイント＞

心理検査における信頼性の意味、信頼性の種類について理解していること。

２．妥当性について

＜ポイント＞

心理検査における妥当性の意味、妥当性の種類について理解していること。

３．個別式検査の長所と短所について

＜ポイント＞

個別式検査を代表的な心理検査を説明でき、集団式検査との相違点を理解していること。

４．質問紙法の長所と短所について

＜ポイント＞

質問紙法の代表的な心理検査を説明でき、投影法・作業検査法との相違点を理解していること。

５．投影法の長所と短所について

＜ポイント＞

投影法の代表的な心理検査を説明でき、質問紙法・作業検査法との相違点を理解していること。

６．作業検査法の長所と短所について

＜ポイント＞

作業検査法の代表的な心理検査を説明でき、質問紙法・投影法との相違点を理解していること。

教科書

渡部洋『心理検査法入門』福村出版。

参考文献

塩見邦夫『心理検査ハンドブック』ナカニシヤ出版。

松原達也『心理テスト法入門』日本文化科学社。

科目コード	心理検査法演習（２単位）	登録年次	履修方法
2690		４年	ＳＲ
教員名	秋山和寛、齋藤瞳、沢哲司、坪井菜奈子、中山麻子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

事例理解のために性格テストがどのように役に立つのか、受講者には実際にテストを体験し、結果を整理するなどの作業を通して、その理解を深めてもらう。

学修内容

1	臨床心理アセスメントとは 臨床心理アセスメントの目的を理解し、心理検査や面接などアセスメントの方法について理解を深める。その上で、心理アセスメントを通したクライエント理解について学び、現状と予後の見立てについて考える。
2	良い心理検査の選び方 標準化がされていること、信頼性と妥当性があることなど、良い心理検査の条件について学ぶ。そして、心理検査の使用目的にそった適切な心理検査の選び方について考える。
3	信頼性と妥当性 良い心理検査の条件の１つである信頼性と妥当性について、その意味と種類について理解する。さらに、代表的な心理検査における信頼性・妥当性について考察する。
4	人格検査とテスト・バッテリー 人格検査における質問紙法、投影法、作業検査法の効用と限界など相違点を理解し、各手法の代表的な人格検査をどのように組み合わせることが適切なのか検討する。
5	心理検査の効用と限界 心理検査を実施する際に共通して理解しておくべき効用と限界について学ぶ。また、各心理検査独自の効用と限界についても、理解を深める。
6	作業検査とは 人格検査の１つの手法である作業検査法の代表的な心理検査について知識を得、その効用と限界について学ぶ。そして、他の２つの手法である質問紙法・投影法との相違点を理解する。
7	内田クレペリン検査 内田クレペリン検査について、理論的背景、実施目的、利用上の注意点、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、実施方法、得点の算出方法、解釈の仕方、検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などを体験的に理解する。
8	検査に影響する要因について 検査者・被検者の関係性を中心とし、被検者や環境要因など検査の実施および検査結果に影響を与える事柄について検討する。そして、その要因を踏まえた結果の解釈法について考える。
9	検査結果のまとめ方 心理検査の結果をまとめる際に共通して理解しておくべき留意点について学ぶ。また、各心理検査独自の結果の解釈法、まとめ方についても考察する。
10	心理検査報告書の書き方 心理検査結果の報告書へのまとめ方について必要事項や留意点を学び、代表的な心理検査について心理検査報告書を作成し、体験的に理解する。
11	心理検査フィードバックにおける留意点 心理検査をフィードバックする際に共通して理解しておくべき留意点について学ぶ。また、被検者に応じた留意すべき点や、各心理検査独自の注意点についても検討する。
12	知能検査 代表的な知能検査について学び、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて概観する。そして、各知能検査の相違点について理解する。
13	精神年齢 精神年齢の定義について理解し、精神年齢が使用されてきた理論的背景について概観する。また、各心理検査における精神年齢の算出方法と、その位置づけの相違点について理解する。

14	投影法検査 人格検査の１つの手法である投影法検査の代表的な心理検査について知識を得、その効用と限界について学ぶ。そして、他の２つの手法である質問紙法・作業検査法との相違点を理解する。
15	ロールシャッハ・テスト ロールシャッハ・テストについて、理論的背景、実施目的、利用上の注意点、適用範囲や限界などについて学び、実施方法、得点の算出方法、解釈の仕方、検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などを体験的に理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 「内田クレペリン精神検査」のことを知らない被検者１名に協力を仰ぎ、内田クレペリン精神検査を実際に実施して、その結果を整理し解釈せよ。その結果と解釈に基づき、「あなたはどのようなときに作業ミスを起こしやすいか」を協力してもらった被検者に伝えるつもりで、レポートを作成せよ。

＜ポイント＞

・被検者は、内田クレペリン精神検査について何も知らないのであるから、内田クレペリン精神検査とはどのような心理検査であるかを専門家でない人にも分かるように説明してから、相手に分かりやすく結果を伝えるよう心がけること。

・クレペリン検査用紙は、教科書を参考に自作したものを用いて良い。

・検査状況や検査手続きなどがどのようなものであったか、問題はなかったかなども記載すること。

・結果については、文章で説明するほか、必要に応じてグラフや表も用いてよい。

科目終了試験学修のポイント

１．良い心理検査の選び方について

＜ポイント＞

心理検査が作成される経緯をふまえ、信頼性・妥当性について理解していること。

２．精神年齢について

＜ポイント＞

知能検査において重要な指標となる精神年齢について、その概要と算出方法について理解していること。

３．人格検査について

＜ポイント＞

代表的な人格検査を挙げることができ、その概要を理解していること。

４．テスト・バッテリーについて

＜ポイント＞

代表的な心理検査の有用性と限界について理解し、適切な組み合わせを選択出来ること。

５．心理検査に影響する要因について

＜ポイント＞

検査者・被検者の関係性を中心とし、被検者・環境など様々な要因を踏まえて結果を検討出来ること。

６．心理検査の効用と限界について

＜ポイント＞

心理検査を実施する際に共通して理解しておくべき効用と限界、および各心理検査独自の効用と限界が記述出来ること。

教科書

澤田丞司『心理検査の実際』新興医学出版社。

参考文献

塩見邦夫『心理検査ハンドブック』ナカニシヤ出版。

松原達也『心理テスト法入門』日本文化科学社。

科目コード	心理検査法演習（２単位）	登録年次	履修方法
2691		３年	S
教員名	秋山和寛、齋藤瞳、沢哲司、坪井菜奈子、中山麻子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心理検査は臨床心理学やカウンセリングを行う前後において臨床心理アセスメント（診断・査定）として利用するものである。主な心理検査に関して理解し、実際に体験することによって利用できるようになることをめざす。

学修内容

1	臨床心理アセスメントとは 臨床心理アセスメントの目的を理解し、心理検査や面接などアセスメントの方法について理解を深める。その上で、心理アセスメントを通したクライエント理解について学び、現状と予後の見立てについて考える。
2	良い心理検査の選び方 標準化がされていること、信頼性と妥当性があることなど、良い心理検査の条件について学ぶ。そして、心理検査の使用目的にそった適切な心理検査の選び方について考える。
3	心理検査の効用と限界 心理検査を実施する際に共通して理解しておくべき効用と限界について学ぶ。また、各心理検査独自の効用と限界についても、理解を深める。
4	行動・社会性検査
5	性格・人格検査
6	検査者・被検者関係の体験的理解
7	心理検査施行・ロールプレイ
8	心理検査結果整理
9	心理検査報告書作成
10	心理検査フィードバック
11	質問紙法と投影法
12	ロールシャッハ・テスト ロールシャッハ・テストについて、理論的背景、実施目的、利用上の注意点、適用範囲や限界などについて学び、実施方法、得点の算出方法、解釈の仕方、検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などを体験的に理解する。
13	描画法
14	適性検査
15	知能検査と発達検査

教科書

松原達哉、楡木満生『臨床心理アセスメント演習』培風館。

参考文献

塩見邦夫『心理検査ハンドブック』ナカニシヤ出版。

松原達哉『心理テスト法入門』日本文化科学社。

科目コード	心理実習（２単位）	登録年次	履修方法
3780/3781		４年	Ｐ（S）
教員名	新井雅人、大島朗生、齋藤瞳、志茂田典子、武内智弥、長坂正文、野口理英子、橋本景子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目は、次の(ア)から(ウ)までに掲げる事項について、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働等の分野の施設において、見学等による実習を行う。また、そのための事前指導および実習の事後指導を受けるものである（ただし、経過措置として当分の間は、医療機関での実習を必須とし、医療機関以外の施設での実習については適宜行う）。(ア)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ(イ)多職種連携及び地域連携(ウ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。これにより，(ア)から（ウ）の事項についての基本的な水準の知識及び技能を理解し、習得できることを目的とする。

この授業は、心理実習の事前・事後における学習を通して、臨床心理に関する基本的な知識と技能を高め、自己理解を深めることが目標となる。授業の中で触れるさまざまな心理臨床の理論を学び、そして実習で体験する中で、それぞれの流派の人間観や方法論が理解できるようになると考えられる。

履修条件：「人体の構造と機能及び疾病」「心理学概論」「心理学統計法」「発達心理学」「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学（社会・集団）」「心理学的支援法（基礎）」「心理学実験」「知覚・認知心理学」「精神疾患とその治療」「心理学研究法」「教育・学校心理学」「心理的アセスメント」「障害者・障害児心理学」「心理学的支援法（演習）」「関係行政論」「健康・医療心理学」「心理学的支援法（心理療法）」「心理演習」「公認心理師の職責」（計 20 科目）全てを履修済みであること。

学修内容

1	【内容】オリエンテーション ＜ポイント＞講義概要、学習目標、成績評価の方法の確認を行う。
2	【内容】心理実習のための知識と技能①(社会常識、実習先でのマナー) ＜ポイント＞心理実習で求められる実習生としてのマナーについて学ぶ。
3	【内容】心理実習のための知識と技能②(実習前のご挨拶について) ＜ポイント＞心理実習の手引きをもとに、実習前のご挨拶について学ぶ。
4	【内容】心理実習のための知識と技能③(実習中の指導、実習記録について) ＜ポイント＞実習中の指導、実習記録の作成について学ぶ。
5	【内容】心理実習のための知識と技能④(0 歳から 6 歳までの精神発達) ＜ポイント＞心理実習で求められる知識、特に精神発達に関することを学ぶ。
6	【内容】心理実習のための知識と技能⑤（6 歳から成人以降の精神発達) ＜ポイント＞心理実習で求められる知識、特に精神発達に関することを学ぶ。
7	【内容】心理実習のための知識と技能⑥（精神病、発達障害、精神遅滞) ＜ポイント＞心理実習で求められる知識、特に精神疾患に関することを学ぶ。
8	【内容】心理実習のための知識と技能⑦（パーソナリティ障害、不安障害、その他の疾患) ＜ポイント＞心理実習で求められる知識、特に精神疾患に関することを学ぶ。
9	【内容】心理実習先別事前指導(教育分野①適応指導教室・学校) ＜ポイント＞教育分野での心理職の仕事、援助対象者について学ぶ。
10	【内容】心理実習先別事前指導(教育分野②その他) ＜ポイント＞教育分野での心理職の仕事、援助対象者について学ぶ。
11	【内容】心理実習先別事前指導(福祉分野①高齢者・児童) ＜ポイント＞福祉分野での心理職の仕事、援助対象者について学ぶ。
12	【内容】心理実習先別事前指導(福祉分野②障害者) ＜ポイント＞福祉分野での心理職の仕事、援助対象者について学ぶ。
13	【内容】心理実習先別事前指導(保健医療分野①病院・診療所) ＜ポイント＞保健医療分野での心理職の仕事、援助対象者について学ぶ。
14	【内容】心理実習先別事前指導(保健医療分野②その他) ＜ポイント＞保健医療分野での心理職の仕事、援助対象者について学ぶ。
15	【内容】実習実施 ＜ポイント＞事前指導で学んだことを整理し実習に臨み，実習後は記録をまとめる。
16	【内容】実習実施 ＜ポイント＞事前指導で学んだことを整理し実習に臨み，実習後は記録をまとめる。
17	【内容】実習実施 ＜ポイント＞事前指導で学んだことを整理し実習に臨み，実習後は記録をまとめる。
18	【内容】実習実施

	＜ポイント＞事前指導で学んだことを整理し実習に臨み，実習後は記録をまとめる。
19	【内容】実習実施 ＜ポイント＞事前指導で学んだことを整理し実習に臨み，実習後は記録をまとめる。
20	【内容】実習実施 ＜ポイント＞事前指導で学んだことを整理し実習に臨み，実習後は記録をまとめる。
21	【内容】心理実習事後指導（教育分野①適応指導教室） ＜ポイント＞実習先での体験を個別に報告し、討議する。
22	【内容】心理実習事後指導（教育分野②学校） ＜ポイント＞実習先での体験を個別に報告し、討議する。
23	【内容】心理実習事後指導（教育分野③その他） ＜ポイント＞実習先での体験を個別に報告し、討議する。
24	【内容】心理実習事後指導（福祉分野①高齢者） ＜ポイント＞実習先での体験を個別に報告し、討議する。
25	【内容】心理実習事後指導（福祉分野②児童） ＜ポイント＞実習先での体験を個別に報告し、討議する。
26	【内容】心理実習事後指導（福祉分野③障害者） ＜ポイント＞実習先での体験を個別に報告し、討議する。
27	【内容】心理実習事後指導（保健医療分野①病院） ＜ポイント＞実習先での体験を個別に報告し、討議する。
28	【内容】心理実習事後指導（保健医療分野②診療所） ＜ポイント＞実習先での体験を個別に報告し、討議する。
29	【内容】心理実習事後指導（保健医療分野③その他） ＜ポイント＞実習先での体験を個別に報告し、討議する。
30	【内容】確認のワーク ＜ポイント＞授業と実習のまとめを行う。
スクーリング修了試験 【設題】実習を通して学んだことについて、特に(ア)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ(イ)多職種連携及び地域連携(ウ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解に関して重要だと考えられる点をレポートにまとめる。2000 字程度。	
教科書	
『心理実習の手引き』	
参考文献	
野島一彦・繁桝算男監修『公認心理師の基礎と実践①　公認心理師の職責』遠見書房。	

科目コード	心理的アセスメント	登録年次	履修方法
3540		3年	SR
教員名	秋山和寛、荒井理帆、齋藤瞳、沢哲司、坪井菜奈子、中山麻子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

事例理解のために、性格テストや知能検査など各種の心理検査がどのように役に立つのかを知り、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）、適切な記録及び報告について学修し、各種の心理検査の基本となる考え方について理解を深める。

学修内容

1	心理検査とは　心理検査法の基礎概念 心理検査の定義について理解し、心理検査が誕生し発展してきた歴史について概観する。そして、その心理検査の種類と利用方法、倫理について学ぶ。
2	心理検査の妥当性と信頼性 よい心理検査の条件の１つである信頼性と妥当性について、その意味と種類について理解する。そして、心理検査の使用目的にそった適切な心理検査の選び方について考える。
3	検査者 - 被検者関係 心理検査を実施する際に重要となる検査者と被検者の関係性について学び、ラポール（信頼関係）について理解を深める。そして、心理検査の結果に影響を与えると考えられる要因についても検討する。
4	心理検査報告書の書き方 心理検査の結果を被検者に伝える時の注意点をはじめとし、心理検査施行後の留意点について理解する。また、心理検査結果を報告書にまとめる具体例についても学ぶ。
5	質問紙法の長所と短所 人格検査の１つの手法である質問紙法の代表的な心理検査について知識を得、その効用と限界について学ぶ。そして、他の２つの手法である投影法・作業検査法との相違点を理解する。
6	テイラー不安検査 テイラー不安検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについても考察する。
7	YG 性格検査 YG 性格検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについても考察する。
8	投影法の長所と短所 人格検査の１つの手法である投影法の代表的な心理検査について知識を得、その効用と限界について学ぶ。そして、他の２つの手法である質問紙法・作業検査法との相違点を理解する。
9	ロールシャッハテスト ロールシャッハテストについて、理論的背景や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方について概観する。
10	作業検査法の長所と短所 人格検査の１つの手法である作業検査法の代表的な心理検査について知識を得、その効用と限界について学ぶ。そして、他の２つの手法である質問紙法・投影法との相違点を理解する。
11	内田クレペリン検査 内田クレペリン検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについても考察する。
12	個別式検査法と集団式検査法の長所と短所 心理検査の代表的な実施方法である個別式検査と集団式検査法の相違点を理解し、それぞれの方法の長所と短所について理解する。

13	知能検査　ウェクスラー知能検査 ウェクスラー知能検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについて考察する。
14	発達検査　新版Ｋ式発達検査 新版Ｋ式発達検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについて考察する。
15	VPI 職業興味検査　職業適性検査 VPI 職業興味検査と職業適性検査について、理論的背景、実施方法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて学ぶ。そして、各心理検査の相違点、テストバッテリーの組み方について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 以下の6種の心理検査の中から、好きなものを1種選択し、選択した心理検査について、その特徴を述べよ。

【設題2】 以下の6種の心理検査の中から、【設題1】で選択したもの以外で好きなものを1種選択し、選択した心理検査について、その特徴を述べよ。

＜心理検査＞

「ウェクスラー知能検査」、「Y-G 性格検査」、「テイラー不安検査」

「VPI 職業興味検査」、「新版Ｋ式発達検査」、「ロールシャッハテスト」

＜ポイント＞

選択した検査について、どのような考え方に基づいて作成された検査なのか、理論、実施法、得点の算出法、解釈の仕方や利用上の注意、適用範囲や限界などについて、できるだけ分かりやすく自分の言葉でまとめること。検査を行う目的や検査結果の活用方法、検査結果を相手に伝える際の注意点などについても触れられているとなおよい。

科目終了試験学修のポイント

1．信頼性について

＜ポイント＞

心理検査における信頼性の意味、信頼性の種類について理解していること。

2．妥当性について

＜ポイント＞

心理検査における妥当性の意味、妥当性の種類について理解していること。

3．個別式検査の長所と短所について

＜ポイント＞

個別式検査を代表的な心理検査を説明でき、集団式検査との相違点を理解していること。

4．質問紙法の長所と短所について

＜ポイント＞

質問紙法の代表的な心理検査を説明でき、投影法・作業検査法との相違点を理解していること。

5．投影法の長所と短所について

＜ポイント＞

投影法の代表的な心理検査を説明でき、質問紙法・作業検査法との相違点を理解していること。

6．作業検査法の長所と短所について

＜ポイント＞

作業検査法の代表的な心理検査を説明でき、質問紙法・投影法との相違点を理解していること。

教科書

渡部洋『心理検査法入門』福村出版。

参考文献

塩見邦夫『心理検査ハンドブック』ナカニシヤ出版。

松原達也『心理テスト法入門』日本文化科学社。

※科目コード2660：R履修／科目コード2661：ＳR履修

科目コード	心理統計法（２単位）	登録年次	履修方法
2660/2661		１年	R/ＳR※
教員名	加藤宏一、志茂田典子、鈴木克也、三好一英		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心理学で用いられる統計手法について、その基本的な考え方や理論を学び、統計に関する基礎的な知識を習得できるよう、心理学における統計の概要を理解する。

学修内容

1	心理学における心理統計の役割　pp.6-12 心理学において，心理統計がどのような役割を果たしているのかについて学修する。心を数字に置き換えること(尺度化)，データのまとめ作業(数値要約)などを通してデータの特徴を記述すること(記述統計)や，データの背後にある情報についての推測(推測統計)など，心理学はデータの学問であることを理解する。
2	データとは　データの役割　pp.18-29 データに様々な種類があることについて学修する。具体的には質的変数・量的変数の区別がまずできるようになることであるが，心理統計においては，この質的・量的の二分法を超え，4 つの尺度水準(比率尺度，間隔尺度，順序尺度，名義尺度)があり，それぞれの尺度水準ごとに可能な演算が異なることについて理解する。
3	代表値　(平均値、中央値、最頻値)　pp.30-33 データの数値要約，要約統計量の１つとしての代表値について学修する。データ全体のもつ情報を１つの値にまとめる作業を数値要約といい，数値要約によって要約された値のことを要約統計量と呼ぶ。ここでは，3 つの代表値(平均値，中央値，最頻値)について学修する。それぞれの代表値の特徴を理解するとともに，それぞれの代表値の長所短所，使い分けについて理解する。
4	散布度　(分散、標準偏差)　pp.34-37 データの散らばりについての数値的指標である散布度について学修する。平均からの偏差をどのように処理するかにより，範囲，分散，標準偏差などの指標が考えられる。特に，心理統計においては，後に学ぶことになる推測統計との兼ね合いから標準偏差が用いられることが多いため，標準偏差の理解が重要になる。
5	標準化と偏差値の求め方　pp.38-43 標準化について学修する。データを標準化することの必要性，意義，利用方法について理解する。標準得点を算出することにより平均，分散の異なる集団のデータを同じものさしによって比較することが可能となる。標準得点の応用的使用法である偏差値についての学修もここで行う。
6	正規分布の特徴とその利用　pp.80-89 心理統計において最も重要であり，かつ最も頻繁に用いられる確率分布である正規分布について学修する。正規分布の特徴について理解するとともに，正規分布と標準偏差との関係，標準正規分布と標準得点との関係について理解する。標準正規分布と標準得点との関係は標準正規分布表を用いることによって理解が進むため，標準正規分布表の見方についてもここで理解する。
7	散布図、共分散と相関係数　pp.44-55 2 変数の関係を示す数値的指標である共分散と相関係数について学修する。これまでは 1 変数の特徴の記述方法を学んできたが，ここでは 2 変数の関係の記述方法について学修する。2 変数の関係を図示するための散布図の書き方と，散布図において現れる 2 変数の直線的関係である相関関係について学修する。
8	相関係数の見方と、正の相関・負の相関，クロス集計表と連関　pp.52-55, 62-65 前節で学んだ相関係数，特にピアソンの積率相関係数についてさらに学修を深める。共分散から相関係数を求める方法，相関係数の取りうる範囲，相関係数の値の評価，相関係数と散布図との関係について学修する。また 2 変数が共に質的変数である場合の集計方法であるクロス集計表と，2 つの質的変数の関係を示す指標である連関と連関係数についても学修する。
9	注意すべき相関、因果関係と相関関係　pp.56-59 相関係数を評価する際の注意点について学修する。具体的には，外れ値の影響，擬似相関(偽相関)，偏相関，層別相関，選抜効果(切断効果)などについて注意すべき点について理解する。また，相関関係を解釈する際に，留意しなければならない因果関係と相関関係の違いについてもここで理解する。
10	記述統計から推測統計へ　pp.68-107 記述統計と推測統計との違いを中心に，主に推測統計について学修する。これまで学修した事項はすべて記述統計に関するものであった。これ以降は手元のデータの背後にある，さらに大きな対象について推測する推測統計について学修する。母集団と標本との関係，標本抽出，標本分布と標準誤差，不偏分散について学修する。
11	統計的仮説検定　pp.108-125 心理学をはじめとする科学における仮説の検証方法の一つである，統計的仮説検定について学修する。帰無仮説と対立仮説，有意水準と有意確率，採択と棄却，両側検定と片側検定，第一種の過誤と第二種の過誤などについて学修する。特にこの学修事項はレポート課題とも密接に関係しているため，しっかりと学修し理解する必要がある。

12	t検定　pp.144-161 様々なt検定について学修する。1つの平均値の差に関する検定を行う場合，母分散が未知の場合にはt検定を行う必要がある。同様に，2つの平均値の差に関する検定を行う場合にもt検定を行う。2つの平均値の比較を行う場合には2つの平均値が得られた群間に対応がある場合とない場合とでは行うt検定が異なる。相関係数の検定(無相関検定)の場合にもt検定を利用することができる。
13	実験計画法　pp.174-177 代表的な実験計画法について学修する。要因，水準がそれぞれどのようなものであるのかを理解する。被験者間計画，被験者内計画の違いとそれぞれの長所，短所について理解する。また，一要因，二要因の実験計画の違いについて理解するとともに，二要因の実験計画においては主効果と交互作用に留意する必要があることについても注意する。
14	分散分析(一要因)　pp.162-209 3つ以上の平均値の比較を行う際に用いられる分散分析について学修する。ここでは分散分析が「分散」分析と呼ばれる理由について理解する。データの散らばりである分散を平方和として捉えることにより，データ全体の分散を群間の分散と群内の分散，個人差の分散などに分解することが可能になる。
15	分散分析(二要因)　pp.162-209 3つ以上の平均値の比較を行う際に用いられる分散分析について学修する。一要因の分散分析と異なり，二要因の分散分析では交互作用の分散も考慮する必用がある。また，一要因の分散分析においては，被験者間計画と被験者内計画の二種類のみであったが，二要因の分散分析の場合にはさらに混合計画が加わるため，それらの違いについてきちんと理解することが重要になる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　下記の言葉をすべて用いながら、統計的仮説検定について述べよ。
「母集団」・「標本」・「帰無仮説」・「対立仮説」・「有意水準」
なお、言葉を用いる順番は特に指定しない。

＜ポイント＞
・上記の言葉を用いるときには、それぞれの定義(意味)についても述べること。
・心理学の研究において、データを集めて分析する場合の基本的な流れを念頭においてレポートを作成するとよい。
具体例の有無は問わない。
・教科書の記述をただまとめただけのレポートは歓迎しない。拙くても良いので自分の言葉で記述することが求められる。
・文献やインターネットからの丸写しは容赦なく不合格とする。
どこまでが文献からの引用であるかを明らかにする。

科目終了試験学修のポイント

1．　平均値、中央値、最頻値の使い分けについて
＜ポイント＞
3つの代表値の定義を述べる。それぞれの長所・短所を踏まえ、どういう場合にどれを用いるのが望ましいかを考える。

2．相関関係と因果関係の違いについて
＜ポイント＞
それぞれの定義を述べる。2変数の関係ということを軸に、両者の違いは何か、どのように異なるのかについて考える。

3．記述統計と推測統計について
＜ポイント＞
それぞれの定義を述べる。両者の違い、どのような場面で用いられるのかについて考える。

4．「第Ⅰ種の誤り」と「第Ⅱ種の誤り」について
＜ポイント＞
それぞれの定義を述べる。「統計上の誤り」の意味を正しく理解する。有意水準との関係や検定力についても押さえておく。

5．被験者間計画、被験者内計画それぞれの長所と短所について
＜ポイント＞
それぞれの定義を述べる。長所・短所は何か。比較すべきものがあればそれと対比する。

6．交互作用について
＜ポイント＞
まず定義を述べ、分散分析との関連、特徴などについて考える。

教科書

山田剛史、村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房。

参考文献

吉田寿夫『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。
森敏昭、吉田寿夫『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房。
南風原 朝和『心理統計学の基礎―統合的理解のために』有斐閣アルマ。

※科目コード2710：登録年次３年、SR履修　／　科目コード2711：登録年次２年、R履修

科目コード	心理療法概説	登録年次	履修方法
2710/2711		３年/２年	ＳＲ/R※
教員名	新井雅人、荒井理帆、志茂田典子、中野真也、長坂正文、野口理英子、橋本景子、村上百合子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心理療法の理論は、４０を越えるものがあり、変転進歩しつつある領域である。その中でも広く実践されているものとして、精神分析的療法、クライエント中心療法、行動療法、認知行動療法、家族療法、芸術療法、森田療法、内観療法、集団心理療法などの考え方を学ぶ。それぞれの理論や定石を知ることで、目前の個人に即応するよう工夫し、クライエントの資質や周りの資源の力を生かせるような援助を可能にするために、それぞれのアプローチに関する効用と限界に関する理解を深める。事例論文を読み、ディスカッションを通しても実践的な理解を図る。

学修内容

1	・心理療法とはなにか：心理療法の効果研究、心理療法の構造（関係性、枠組み、職業倫理、カウンセラーの学び・訓練）
2	・精神分析の理論と技法：精神分析の基礎理論、フロイト、無意識、局所論・構造論、無意識の理論、夢、防衛機制、自由連想法、転移・抵抗・解釈
3	・分析心理学：ユング、こころの構造、コンプレックス、外向・内向、4 つの心理機能、普遍的無意識と元型、個性化、夢分析など
4	・遊戯療法（プレイセラピー）：遊戯療法の歴史、アクスラインの 8 原則、治療構造と制限、遊戯療法の目標と治療過程、遊びの機能、カタルシスなど
5	・交流分析：自我状態モデル、やりとり分析、ゲーム分析、人生脚本、エゴグラムなど
6	・クライエント中心療法：ロジャーズ理論の歴史的展開、クライエント中心療法の基本的な考え方、セラピィ理論、カウンセラーの３条件（中核三条件）、パーソナリティの理論、自己概念と体験の一致、十分に機能する人間
7	・フォーカシング：フェルト・センス、体験過程、体験過程スケール、フォーカシングのステップなど
8	・行動療法：行動療法の歴史、学習理論、レスポンデント条件付け、オペラント条件付け、行動分析、観察学習、系統的脱感作法、暴露反応妨害法、課題分析・シェイピング
9	・ブリーフセラピー（解決志向アプローチ）：ブリーフセラピーの歴史、解決志向アプローチ（SFA）、リソース、コンプリメント、例外、コーピングクエスチョン、関係性のアセスメントなど
10	・認知行動療法：認知行動療法の歴史、ベックの認知療法（中核的信念・スキーマ、自動思考）、エリスの論理情動行動療法、特徴的な技法、認知行動療法の構造、第三世代の認知行動療法とその要素（マインドフルネス・アクセプタンス）
11	・家族療法：家族療法の歴史、二重拘束仮説、家族ホメオスタシス、家族システム理論、円環的因果律、IP、家族療法の代表的なモデル（多世代家族療法、構造的家族療法、MRI 家族療法、戦略的家族療法）
12	・芸術療法：芸術療法の歴史、芸術療法の理論、箱庭療法、セラピストの態度、風景構成法、スクリブル法、音楽療法など
13	・森田療法：森田療法の歴史、ヒポコンドリー性基調、精神交互作用、あるがまま、目的本位、入院治療と絶対臥褥、外来での森田療法など
14	・内観療法：内観療法の歴史、身調べ、内観３項目、集中内観・日常内観、内観療法の変化の過程など
15	・集団心理療法：心理劇の歴史、役割、心理劇の構造、すすめ方、基本技法、集団精神療法、エンカウンターグループの歴史、人間性回復運動、エンカウンターグループの理論・技法など

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 各種の心理療法の中から、３つの心理療法を取り上げて、それぞれについて論述せよ。

＜ポイント＞

それぞれの技法について、治療のねらい、その対象者、治療法などについて述べ、その効用と限界について考察すること。自分自身の体験や事例について触れられればより望ましい。

科目終了試験学修のポイント

１．心理療法の構造について

＜ポイント＞

特別な人間関係、信頼関係（ラポール）、作業同盟・治療同盟、枠組み、インテーク面接（初回面接・受理面接）、面接契約、守秘義務、インフォームドコンセントなどについて押さえること。

２．精神分析の治療について

＜ポイント＞

防衛機制、神経症、ヒステリー、自由連想法、転移（陽性・陰性）、中立性、葛藤の再現、逆転移、教育分析、などについて押さえること。

３．カウンセラーの３条件（中核三条件）について

＜ポイント＞

「治療的パーソナリティ変化の必要にして十分な条件」、６条件、一致（純粋性）、無条件の肯定的配慮（受容）、共感的理解（共感）、などについて押さえること。

４．認知療法における「認知」について

＜ポイント＞

認知療法、うつ病の認知の３要素、中核的信念、自動思考、抑うつ・否定的な状態、などについて押さえること。

５．日本で生まれた心理療法について

＜ポイント＞

森田療法（ありのまま、ヒポコンデリー性基調、精神交互作用、体験的理解、絶対臥褥）、内観療法（身調べ、集中内観、日常内観、場所、時間、期間、内容、効果、特徴）などについて押さえること。

６．家族療法の考え方について

＜ポイント＞

システム、サブシステム、円環的因果律、IP(identified patient)、家族療法の代表的なモデル、などについて押さえること。

教科書

矢澤美香子　編　『基礎から学ぶ心理療法』　ナカニシヤ出版

参考文献

国分康孝　著　『カウンセリングの理論』　誠信書房
霜山徳爾、鍋田恭孝　『心理療法を学ぶ』　有斐閣選書
松原達哉、楡木満生　『臨床心理学シリーズ⑥臨床心理実習』　培風館

科目コード	数学（２単位）	登録年次	履修方法
1271		１年	R
教員名	ロペス・ルイス・ミゲル		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

私たちの日常生活に直接、間接的に深く関わり合いのある「数」と「数字」の発展の歴史から始まり、数の概念の拡張、自然数、整数、有理数、無理数、実数、複素数の理論とそれらの応用について学修する。特に本科目の履修については、多くの学生が、文科系や社会科学系の専攻生であることに留意して、微分積分等を含む高度な数学テクニックは必要としない学修をする。

学修内容

1	自然数の表記： 自然数とは何かを理解する。数の表記の文化や時代による多様性や、表記法の歴史とその展開など、数をめぐる様々な側面の面白さを純粋に味わう。
2	数の表示： 数の表示についてより深く知る。我々は通常は10進法を使っているが、実は7進法、60進法など様々なものがある。また、近年では2進法や16進法も注目されている。その内容と歴史、さらには暦や度量衡などとの関係も押さえる。
3	数の演算（1）： 数の演算について理解する。加法・乗法の基本法則をはじめ、負数（減法）の法則と、その導入をめぐる諸問題について理解する。交換則、結合則、分配則などについては、その内容を押さえ、実地に応用できるようにする。負数の積算についてもおさらいする。
4	数の演算（2） 数の演算について理解する。逆数（除法）の法則と、その導入による分数について理解する。分数からさらに展開し、素数、倍数などについて押さえる。倍数については、どの数字の倍数かの見分け方も理解しておくこと。少数表示についてもその特性を押さえておく。
5	実数（数概念の拡張）（1）有理数： 上記のさまざまな数に加えて、さらに数の概念を広げていく。有理数の定義とその性質などについて理解する。有理数を小数表示した場合の、有限小数と循環小数についても押さえておく。
6	実数（数概念の拡張）（2）無理数： 無理数の定義とその性質などについて理解する。また、無理数に関連した問題として、ピタゴラスの定理、平方根の近似値などについても押さえておく。座標や曲尺については、理解できる範囲でよい。
7	実数（数概念の拡張）（3）連分数： 連分数の定義とその性質などについて理解する。また、円周率の連分数表示や黄金比分割についても理解できる範囲で押さえておく。
8	円周率： 円周率の性質と定義、その研究の歴史などについて理解する。円周率と角度の問題など、数学の様々な分野に関連する円周率についても押さえておく。
9	群： 群の概念を理解する。その幾何学や行列への展開を押さえる。行列の記法と計算規則を覚え、行列を用いた簡単な演算が出来るようにする。
10	複素数（数概念の拡張）： 複素数の性質と定義について理解する。複素数の四則演算が出来るようにする。可能であれば、複素数の幾何学について理解する。
11	無限： 無限の概念についてまとめ、無限を扱う方法としての数学的帰納法を理解する。可能であれば、集合論についても理解しておく。無限のとはどういったことか、思い描くと同時に、無限大の記号∞の歴史や他のエピソードなども楽しもう。
12	統計学の初歩（1） 初歩的な記述統計について理解する。代表値としての平均値、中央値、最頻値の算出法を理解し、それぞれの代表値の特徴や長所・短所についてネットや参考文献などで調べる。
13	統計学の初歩（2） 初歩的な記述統計について理解する。散布度としての分散、標準偏差、四分位偏差、範囲の算出法を理解し、上記の代表値の他に散布度を算出することの意味や有用性についてネットや参考書で調べる。

14	家庭の中の数学: 家庭生活の中で、数学がどのように用いられているか、いろいろな事例を探してみる。あるいは、日常生活の様々な事柄で、数学を適用すれば、さらに効率的、効果的に実践できるものがないかを考える。
15	人類史における数学： 人類の歴史の中で、数学が科学・技術にどのように応用され、その発展に貢献してきたかを概観する。事例を一つ取り上げ、それを詳しく調べてみる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 われわれの文化における「数学」の重要性について述べよ。

＜ポイント＞

「数学」という学問は、その有効性や応用性について私達の実生活の上に欠くことのできない非常に大切な学問であるという意見がある一方、「数学」の勉強は中学生や高校生の大学等への受験生を苦しめる事のみ多くて実生活にはほとんど役に立たないという意見もある。そのどちら側の意見にも耳を傾けて聞くべき論点はあると思うが、あなたの意見は如何なるものか、あなたなりの結論を出すこと。

科目終了試験学修のポイント

１．数字の表記法の変遷について

＜ポイント＞

数字の表記の仕方の種類と歴史を述べ、また、10進法とそれ以外のｐ進法の違いとそれぞれの歴史などについてまとめる。現在、なぜ10進法や2進法が主に使われるようになっているのか、暦とｐ進法の関係といった問題にも言及できるとよい。

２．有理数と無理数について

＜ポイント＞

有理数の定義とその性質、無理数の定義とその性質、そして有理数と無理数それぞれの例をいくつかあげ、まとめる。

３．円周率について

＜ポイント＞

円周率とは何か。その性質と定義、それからその歴史についてまとめる。円周率の数字の記憶法や、角度との関係など数学の様々な分野における円周率などにも言及できるとよい。

４．有限と無限について

＜ポイント＞

無限の概念についてまとめ、無限を扱う方法としての数学的帰納法と集合論、およびそれぞれの例などについてまとめる。

５．初歩的な統計の手法について

＜ポイント＞

代表値としての平均値、中央値、最頻値の算出法を示し、それぞれの特徴や長所・短所などについてまとめる。また、散布度としての分散、標準偏差、四分位偏差、範囲などの算出法を示し、散布度を算出することの意味や有用性などについて述べる。

６．数学の家庭生活への応用について

＜ポイント＞

数学は家庭生活のあらゆるところでもちいられているが、その例をいくつか挙げ、数学を家庭生活に応用することにどのような意義や有用性があるかについてまとめる。また、どのような応用可能性があるかについて言及してもよい。

教科書

赤井逸『数学外論』共立出版。

参考文献

渡辺信、他『これって、数学？』日本評論社。
数学教育協議会、他『算数・数学なぜなぜ事典』日本評論社。
小寺平治『ゼロから学ぶ統計解析』講談社。

科目コード	図画工作Ⅰ（1単位）	登録年次	履修方法
7130		1年	S
教員名	井上昌樹、上田葉介、片岡浩、菅生均、手塚千尋、畑山未央、三沢幸彦		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

造形教育を通しての教育は、子どもたちの創造性や個性・情操をバランスよく養うなど、望ましい人間的な資質の形成に深くかかわっている。本講義においては、造形教育の目的の理解と併せて保育内容（表現）や図画工作科の内容を理解し展開するために必要とされる多様な材料体験や造形表現体験を通して造形表現活動の経験を豊かにし、造形教育において必要な基本的な知識や技術を体験的に理解し習得する場とする。

また、本講義においては、多様な材料経験や造形における基礎的な実習等、指導者として求められる豊かな造形表現活動の体験に主眼をおく。

学修内容

1	第1章　造形教育の目的と内容 1．造形を学ぶねらいー美術教育に生かす　p.10～15
2	2．幼少接続ー学びの連続・幼少期の終わりまでに育ってほしい姿　p.16～17 3．表現活動と鑑賞活動（えがく・つくる・みる活動）の内容と方法　p.18～21
3	4．他教科との連携による造形教育　p.22～23 5．子どもの表現と大学での実技体験　p.24～25
4	第2章　絵画 ①　p.27～ 1.~18.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
5	第2章　絵画 ②　p.27～ 1.~18.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
6	第3章　版画 ①　p.69～ 1.~4.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
7	第3章　版画 ②　p.69～ 1.~4.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
8	第4章　彫刻 ①　p.79～ 1.~1.2 について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。 もし難しいと感じたら興味のあることについて調べたり、作品鑑賞を行ってください。
9	第4章　彫刻 ②　p.79～ 1.~1.2 について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。 もし難しいと感じたら興味のあることについて調べたり、作品鑑賞を行ってください。
10	第5章　デザイン・映像メディア表現 ①　p.105～ 1.~18.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
11	第5章　デザイン・映像メディア表現 ②　　p.105～ 1.~18.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
12	第6章　工作・工芸 ①　p.143～ 1.~22.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
13	第6章　工作・工芸 ②　p.143～ 1.~22.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
14	第7章　鑑賞　p.195～
15	第8章　社会への広がり　p.211～

教科書

樋口一成：編著『小学校図画工作の基礎』萌文書林。

参考文献

花篤實、他『新造形表現　理論・実技編』三晃書房。

科目コード	図画工作Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
7131		1年	SR
教員名	井上昌樹、井戸川敦、上田葉介、片岡浩、菅生均、武本大志、手塚千尋、畑山未央、三沢幸彦		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

造形教育を通しての教育は、子どもたちの創造性や個性・情操をバランスよく養うなど、望ましい人間的な資質の形成に深くかかわっている。本講義においては、造形教育の目的の理解と併せて保育内容（表現）や図画工作科の内容を理解し展開するために必要とされる多様な材料体験や造形表現体験を通して造形表現活動の経験を豊かにし、造形教育において必要な基本的な知識や技術を体験的に理解し習得する場とする。

また、本講義においては、多様な材料経験や造形における基礎的な実習等、指導者として求められる豊かな造形表現活動の体験に主眼をおく。

学修内容

1	第1章　造形教育の目的と内容 1．造形を学ぶねらいー美術教育に生かす　p.10～15
2	2．幼少接続ー学びの連続・幼少期の終わりまでに育ってほしい姿　p.16～17 3．表現活動と鑑賞活動（えがく・つくる・みる活動）の内容と方法　p.18～21
3	4．他教科との連携による造形教育　p.22～23 5．子どもの表現と大学での実技体験　p.24～25
4	第2章　絵画 ①　p.27～ 1.~18.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
5	第2章　絵画 ②　p.27～ 1.~18.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
6	第3章　版画 ①　p.69～ 1.~4.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
7	第3章　版画 ②　p.69～ 1.~4.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
8	第4章　彫刻 ①　p.79～ 1.~1.2 について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。 もし難しいと感じたら興味のあることについて調べたり、作品鑑賞を行ってください。
9	第4章　彫刻 ②　p.79～ 1.~1.2 について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。 もし難しいと感じたら興味のあることについて調べたり、作品鑑賞を行ってください。
10	第5章　デザイン・映像メディア表現 ①　p.105～ 1.~18.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
11	第5章　デザイン・映像メディア表現 ②　　p.105～ 1.~18.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
12	第6章　工作・工芸 ①　p.143～ 1.~22.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
13	第6章　工作・工芸 ②　p.143～ 1.~22.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみましょう。
14	第7章　鑑賞　p.195～
15	第8章　社会への広がり　p.211～

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

材料経験の重要性と，子どもの主体的な制作活動を促す題材化との関係について，具体的な題材例を示し，自身の制作経験もふまえて述べよ。

＜ポイント＞

・実際に造形材料に触れながら題材化を試み、素材や技法の特色・表現効果についての自身の気づきを踏まえながら、題材化における材料経験の重要性を考察すること

・実践した題材について、題材名、ねらい、対象年齢、内容を具体的かつ詳細に説明すること

・実践した題材の教育的な意義についても考えること

科目終了試験学修のポイント

1．幼児期における造形表現活動について

＜ポイント＞

・子どもの主体的活動を促す支援について考え、その活動を支える保育者のあり方を考察すること

・幼児の表現活動の特色について考え、造形活動と作品の関係について考えること

2．造形遊びの意義と望ましい環境づくりについて

＜ポイント＞

・子どもにとっての「遊び」の意義と造形表現との関係について考えること

・造形遊びを豊かに展開するための要素について考察すること

3．造形の要素について

＜ポイント＞

・造形を構成する諸要素について学びを深め、子どもの造形表現との結びつきについて考えること

4．造形技法と活動の展開について①

＜ポイント＞

・造形活動における偶然性を生かした表現について考えること

・表現技法と造形材料の関わりについて考えること

5．造形技法と活動の展開について②

＜ポイント＞

・造形活動を豊かに展開するための題材のねらいについて考えること

・表現技法と造形材料の関わりについて考えること

6．素材と表現の関わりについて

＜ポイント＞

・造形素材の分類やその特性について考えること

・素材体験や材料経験の重要性について考え、制作活動の展開に及ぼす素材の影響について考察すること

教科書

樋口一成：編著『小学校図画工作の基礎』萌文書林。

参考文献

花篤實、他『新造形表現　理論・実技編』三晃書房。

科目コード	図画工作Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
7140	※登録年次は学科により異なります。	1年/2年※	R
教員名	井戸川敦 、井上昌樹、片岡浩、、菅生均、武本大志、手塚千尋、畑山未央、三沢幸彦		

科目概要

保育内容を展開する上で必要とされる、保育における造形活動の事例を例証・傍証して取り上げ、具体的な考察を行い、造形活動の題材系列や指導・援助に必要な個人の素養と、保育実践に必要な知識や技能を習得する。

学修内容

1	第１章　領域「表現」のねらいと内容　　pp.1~4 １．表現の本質 ２．幼児期と表現の教育 ３．領域「表現」のねらいと内容
2	第２章　造形表現の特質　pp.5~7 １．表現の分類 ２．造形表現の特質 第３章　幼児期と造形表現の特質　pp.8~10 １．幼児期と造形表現 ２．造形表現の指導のねらい
3	第４章　子どもの造形表現能力の発達　pp.11~24 １．幼児の成長発達と造形表現 ２．造形表現能力の発達段階について ３．外国における児童画の研究
4・5	第５章　造形表現の内容と指導　p.25 （第５章の各項目について各自で興味のある実技研修に取り組む。） （造形的な遊び）　pp.26~37 1. 砂遊び 2. 積み木で 3. 自然物で遊ぶ 4. 紙で遊ぶ 5. 空き箱，空容器などで
6・7・8	（絵で表わす）　pp.38~63 ①自身の絵描き経験に照らし合わせながら幼児の絵を理解する。 ②自由にのびのびと楽しむことを大切にして取り組んでみる。 ③様々な成果を記録し保管しておくとよい。6. 好きな動物 7. お話の絵（絵の具・コンテ） 8. 生活の中から（コンテ） 9. 線で描く 10. ゆび絵（フィンガーペインティング） 11. あわせ絵（デカルコマニー） 12.にじみ絵 13.型押し版画 14.スチレン版画 15.はじき絵 16.吹き散らし 17.紙版画
9	（いろいろな飾り）　pp.64~73 18.石や貝を並べて 19.おめん 20.吊るす飾り 21.身につける飾り 22.箱やかんを飾る

10 ・ 11	（作る）　pp.74~95 ①様々な素材の特性を活かしながら自由に表現してみる。 ②安全面に配慮すること。 ③様々な成果や工夫点について、写真や映像等も含め記録し、保管しておくとよい。23.粘土を使って 24.いろいろな動物（粘土を主に） 25.紙粘土 26.新聞紙などを使って 27.紙の袋を使って 28.空箱の利用 29.身の回りの材料を使って 30.こいのぼり 31.手さげ袋やかご 32.動くおもちゃ
12	（みんなで力をあわせて）　pp.96~105 33.大きな絵を描く 34.大きなものを空箱で作る 35.園行事の中で
13	第６章　指導の計画・方法・留意点　pp.106~116 現場の環境や状況、児童の発育段階を意識・イメージしながら様々な課題に取り組む。 １．指導計画の必要性とその意義 ２．指導計画の基本 ３．望ましい指導のあり方 ４．指導の過程（指導の段階） ５．個人製作と共同製作
14	第７章　材料・用具の種類と扱い方　pp.117~122 １．造形表現の材料・用具について ２．絵の具類 ３．紙類 ４．粘土類 ５．木材・その他
15	これまでのまとめと今後の課題 ①美術・造形というと苦手意識を持つ人もいるが、気にせず興味のあること・楽しそうなことに取り組んでみる。 ②NHK 日曜美術館などのメディアや美術館等の企画展示を鑑賞し、美術・造形を身近に感じてみる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】幼児の生き生きとした造形活動を促すための「指導者の役割」と「指導過程」のポイントを，制作の実体験を踏まえ具体例を交えながら述べよ。

＜ポイント＞

1．「指導者の役割」とその重要性を説明できる。

2．指導の過程4段階を構想することができる。

3．構想した環境で想定される「指導の過程」について、具体例を挙げながら留意点を説明することができる。

科目終了試験学修のポイント

1．領域〈表現〉における造形活動の指導について

＜ポイント＞

幼児期と造形表現とはどのようなものかを理解し、造形表現指導のねらいを理解する。

2．幼児の成長発達と造形表現について

＜ポイント＞

造形表現能力の発達段階の特色を理解した上で、どのような題材を設定するのかを考えられるようにする。

3．指導計画の必要性とその意義について

＜ポイント＞

幼児の活動と実態を踏まえて、弾力的指導計画の実施に取り組むことが出来る。

4．望ましい指導のあり方について

＜ポイント＞

指導者の果たす役割と指導の留意点について具体的に考えることができる。

5．指導の過程（指導の段階）について

＜ポイント＞

事前の準備・動機付け・展開・まとめの4段階について、具体的な活動の展開と評価を構想することができる。

6．造形表現と材料・用具について

＜ポイント＞

材料・用具の種類と扱い方について、具体的に述べるとともに、それぞれの注意点について考えられるようにする。

教科書

村内哲二、他『保育内容　造形表現の指導』建帛社。

参考文献

樋口一成『小学校図画工作の基礎』萌文書林。

科目コード	図画工作科指導法（2 単位）	登録年次	履修方法
4230		2年	SR
教員名	井出道夫、井戸川敦、井上昌樹、片岡浩、菅生均、手塚千尋、畑山未央		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報の機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

図画工作科教育の目標、育成を目指す資質・能力、「造形的な見方・考え方」を働かせる学習内容及び学びの方法についての概説や具体的な事例を通して、学校教育（公教育）で美術教育がおこなわれる教育的意義について理解を深めていく。併せて、授業分析や授業デザインの演習、模擬授業を通して、授業の組み立て方や評価規準設定の視点、指導案の書き方、指導方法について習得を目指す。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	図画工作科の目標、ねらい 教科書 pp.8-17 を読解し、図画工作科の目標、表現の「楽しさ」、育成すべき資質・能力について理解する。	「図画工作科」は何を学ぶ教科なのか①② -これまでの学習経験のふりかえり -子どもの具体的な姿から考察する 【映像鑑賞＋ディスカッション】	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	図画工作科の内容と指導計画 教科書 p.16-17 を読解し、図画工作科の変遷を理解する。 内容構成・指導計画について教科書 pp.18-21 を読み、ねらいや内容を理解する。	図画工作科の歴史的変遷と内容概観–目標、資質・能力、教科内容、カリキュラム構造、評価規準、教育的課題について 【講義】	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	共通事項について 【共通事項】について教科書 pp.22-23 を読み、設定の理由やその意義をまとめる。		印刷授業
4	造形表現の発達段階と表現の個別性・多様性 教科書 p.44、p.72、p.98 を読解し、発達段階で特徴のある造形表現があることを理解し、発達段階や個別性・多様性を保持した授業設計や指導の在り方を考える。	造形表現領域の発達段階の理解と児童の個別性・多様性を保持した学習環境デザイン 【講義】	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
5	A表現ア「造形遊び」 教科書 pp.24-25 を読解し、「造形遊び」の学習のねらいと内容・指導のあり方について理解する。また、A表現イとの違いや指導する際の留意点をまとめる。	図画工作科の内容と教育的意義１　A 表現ア「造形遊び」の概説と演習 【講義＋演習】	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
6	A表現イ「絵や立体、工作に表す」 教科書 pp.26-27 を読解し、「絵や立体・工作に表す」学習のねらいと内容・指導のあり方について理解する。 A表現アとの違いや指導する際の留意点をまとめる。	図画工作科の内容と教育的意義２　A 表現イ「絵や立体、工作で表す」の概説と「美術教育のマニュアル化」を考える 【講義＋グループディスカッション】 図画工作科の内容と教育的意義 3　A 表現とB鑑賞―表現と鑑賞活動の関連性を理解する 【演習＋講義】	印刷授業 及び 面接授業 （2 時間）
7	教材の工夫について 教科書 pp.118-119「夢の会社をつくろう！」の実践例を読み、児童の発想・構想力を支えるワークシートのデザインを考える。	図画工作科の内容と教育的意義４　A 表現イ「絵や立体、工作で表す」　―学びを深めるためのツールとメディア ―ワークシートのデザインと ICT 教材活用法　【演習＋講義】	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
8	B鑑賞とA表現とのつながり 教科書 pp.28-29 を読解し、鑑賞のねらいや表現と鑑賞のかかわりについて理解を深める。また図画工作科の中で鑑賞学習が重要視されていることを理解し、指導のあり方を考える。 【レポート設題１】教科書 pp.28–29 等で理解し、①「つくる」と「みる」活動はどのように関連づいているかをまとめ、②「表現と接続した鑑賞活動」について具体例を交えながら説明する。	図画工作科の内容と教育的意義５　B 鑑賞ア–ことば・対話・身体・感覚による鑑賞の体験的理解と授業デザイン　【グループワーク】	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
9	評価規準と評価方法 教科書 pp.30-33 を読み、図画工作科における評価の意義や目的を理解し、図画工作科独自の評価のあり方について認識を深める。 育成を目指す資質・能力に基づく評価規準の設定と評価方法について理解する。	指導案作成① 題材設定の理由と評価規準、評価方法を設定する。 【グループワーク】	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）

10	材料・用具の扱いについて 教科書 pp.34-42 を読み、図画工作の授業で扱う材料や、それに伴う用具について理解を深める。 実際に扱い、道具や用具の活用方法や安全指導のポイントを確認する。		印刷授業
11	学びの連続性と広がり 教科書 pp.40-42 を読み、各教科や総合的な学習の時間・特別活動等と密接な関連があることを理解する。 幼稚園教育（表現）や中学校教育（美術）との関連や学びの連続性について確認する。		印刷授業
12	教材研究① 低学年の指導・学習指導案について教科書 pp.44-71 を参照して理解する。 教材研究：p.50-51「クレヨンとなかよし」に取り組み、導入を含む1時間目の指導案を作成する。	指導案作成② 題材を選択して教材研究やその活用に取り組みながら気づきや留意点をまとめる 【グループワーク】	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
13	教材研究② 中学年の指導・学習指導案について教科書 pp.71-97 を参照して理解する。 教材研究：pp.84-85「世界にひとつだけのキラキラトロフィー」に取り組み、導入を含む 1 時間目の指導案を作成する。	指導案作成③ 授業設計と本時の展開を構想する 【グループワーク】	印刷授業 及び 面接授業 （2時間）
14	教材研究③ 高学年の指導・学習指導案について教科書 pp.98-129 を参照して理解する。 教材研究：pp.112-113「紙ってすてき！－1枚の紙がオブジェに変身」に取り組み、導入を含む 1 時間目の指導案を作成する。	模擬授業と授業研究会 模擬授業とプレゼンテーションと授業の再検討	印刷授業 及び 面接授業 （2時間）
15	これまでの学習内容をふり返り図画工作科とは何を学ぶ科目であるかをまとめる。 【レポート課題４】12～14 回で取り組んだ題材を具体例に挙げながら、教材研究がなぜ必要なのかをまとめる。	授業のまとめとふりかえり―最終課題：図画工作科の目標と意義を再考する	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 表現の内容「感じたことや想像したことを絵や立体に表す」で、対象学年と題材を決め、具体的な展開例をもとに、「その子なりの多様な表現を保障する」教師の支援について述べよ。

＜ポイント＞

1． 実際に描いたり作ったりして、子どもの側から題材を理解する。

2． 題材が持っている内容、造形的な価値を分析する。

3． 指導過程で、個や全体に対し、どこで、どのような手だてが、適切であるか組み立ててみる。

科目終了試験学修のポイント

具体的な展開例をもとに、述べよ。

1．表現活動と鑑賞活動とのかかわりについて

＜ポイント＞

表現と鑑賞はそれぞれに独立して働くものではなく、お互いに働きかけたり、働きかけられたりしながら高まっていくものである。

2．造形遊びの価値について

＜ポイント＞

「何かをつくる」ことにとらわれず、材料やその形・色など造形要素にかかわりながら発想したり創造性を発揮する行為そのものに価値をおく。

3．評価方法の工夫について

＜ポイント＞

図画工作科の評価の意義を捉らえ、自主的、意欲的に造形表現をに取り組めるような評価のあり方を工夫する。また、評価は目標に準拠したものであることを踏まえ、4つの観点からすすめる。

4．教材研究の必要性について

＜ポイント＞

図工の教材研究は、子どもの立場に立って「実際に描いてみる、作ってみる」ことである。そのことにより材料・用具を知り、安全面や子どもが困るところが分かったり表現に関わる時間を予想したりする。また、指導に必要な掲示物・参考資料等も準備することになる。そのため、授業準備に欠かせないものである。

5．他教科等との関連について

＜ポイント＞

生活科、総合的な学習の時間、特別活動等と密接な関連がある。また、幼稚園教育（表現）との関連も重要なものである。しかし、あくまでも図工本来の目標を見失わないよう指導する必要がある。

6．「共通事項」の捉え方とその重要性について

＜ポイント＞

共通事項は「A表現」「B鑑賞」に共通して働いている子どもの資質や能力である。造形要素である形や色をもとに創造性や造形性を発揮して楽しく表現することが重要となる。

教科書

藤江充、他『これからの図画工作』日本文教出版。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領解説　図画工作編』日本文教出版。

小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）

科目コード	生活（２単位）	登録年次	履修方法
7420		２年	R
教員名	坂本史生、杉山憲江		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

幼児期から児童期へのスムーズな活動の移行を意図して、教科「生活」が設定された。「生活」では、幼児からの連続を踏まえて、具体的な活動や体験を通して自分と身近な環境とのかかわりを大切にしながら実感的に学んで知的な気づきを深めたり、自分自身や自分の生活について考えたり、基本的な生活習慣を身につけたりする。したがって、本科目では、「生活」の趣旨や目標および内容について学ぶ際に、幼児保育との関連を重視する。

学修内容

1	各自の生活科の学習体験を想起する。生活科の子ども観を考える。 生活科学習のイメージが持てるように、各自の生活科の学習体験を想起する。それらを通して、低学年児童が具体的な体験を通して学ぶことの意義を理解する。
2	生活科誕生の背景と経緯を整理する。幼児教育と生活科の共通するところを整理する。 生活科は、低学年児童の学習のあり方を問うところから発想して誕生した教科である。その一つである幼児教育との関連を把握しておくことが必要である。
3	生活科の教科目標と体験とのつながりを整理する。学年目標と（4）生活科の遊び方について整理する。 教科目標では、体験を目標の一環として含む。学年目標では自分自身への気付き、生活科の学び方を示しているところに生活科としての特徴がある。
4	生活科の三層の内容構成とその特色について整理する。 第１の階層は児童の生活圏としての内容、第２の階層は児童が自らの生活を豊かにしていくために体験させておきたい内容、第３の階層は自分自身の生活や成長に関する内容である。
5	生活科の内容1～3（学校、家庭、地域）について、子どもの生活環境との関係で整理する。 低学年児童の生活圏はおよそ学校、家庭、地域である。児童は普段無意識に生活していることが多い。児童が環境に意識的に、積極的に働きかけていくことにより、生活圏と自分とのかかわりを発見し愛着を深める学習を重視していく。
6	生活科の内容について4～8（公共物、季節、自然、動植物、交流）について、子どもの生活との関係で整理する。 自分たちの生活を豊かにしていくために、低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容である。内容の（8）では身の回りの人との積極的な交流を目指していて、他の内容との関連が深いことを明確にしておくことが必要である。
7	生活科の内容９（自分自身）について、子どもの成長との関係で整理する。 自分の成長を多面的に振り返り、過去の自分と現在の自分を比較する。その際重要なことは児童が自分の成長を実感できることである。そのためには、児童一人ひとりの具体的な手掛かりが必要になる。
8	生活科の指導計画作成上の配慮事項と内容の取り扱いについての配慮事項について整理する。 特に郊外での活動を積極的に取り入れること、動植物の飼育栽培に関しては２学年にわたって取り扱うこと、他教科等との関連を積極的に図ることなどを確認しておくことが重要である。
9	生活科の内容と単元構成の関連について整理する。 生活科の内容は単一で、単元が構成されることは少ないと捉えておくことが重要である。しかし、複数の内容で単元を構成する場合、それぞれの内容の重点が曖昧にならないように配慮する必要がある。
10	生活科の学習指導の特徴と、指導案の特徴との関連について整理する。 生活科の学習指導は、地域や学校、また児童の実態に即して展開される。したがって、指導案にそれらの実態が指導の内容に即して明確に示される必要がある。このような実態把握が、実感のある学習に不可欠であることを確認する。
11	生活科の体験を重視した学習と、教科書との関連を考える。 生活科の教科書は、そのまま学習の内容や順序を示すのではない。学習のきっかけを見出したり、学習のステップを考えたり、学習対象の事例を参考にしたりすることに活用するものであることを理解する。
12	生活科の学習指導の実際を、教育実習などを活用して、できるだけ直接授業に触れ実感を持つ。 実際の授業を参観したり、ビデオ等の映像にふれる機会を持ったりして、生活科の授業についての実感を得たい。特に体験を重視する生活科においては、感性から理解することが多い。
13	生活科と他教科等、総合的な学習の時間とのつながりを整理する。 体験的な学習は総合的になる。したがって生活科の学習では、自然に他教科との関連が生まれてくる。また、3 年生以上の総合的な学習の時間への接続も検討しておく必要がある。

14	幼保との連携と生活科のスタートカリキュラムの特色とのつながりを考える。 特に入学当初に設定される単元は、学習環境の設定について幼保との関連を図ったり、具体的な活動を総合的に展開したりできるよう、他の単元以上に生活科を中心にした合科的な指導を工夫することが必要である。
15	生活科の特質に即した評価のあり方について整理する。 児童の実態に即して体験的に学習する生活科は、相対的に数量的に評価するのではなく、個々の児童の学習状況に応じて評価する必要がある。指導と評価の一体化を他教科以上に重視する必要がある。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】幼児保育の基本と，教科「生活」の目標や内容との関連や連続について具体的に考察して述べよ。

＜ポイント＞

「生活」は子どもの実感を伴った気づきを重視する。したがって、子どもの身近な環境との情緒的なかかわりが学びの第一歩となる。子どもの心と頭と身体活動が一体となった学びの姿を見出すようにすること。

科目終了試験学修のポイント

１．教科「生活」の内容の特色について

＜ポイント＞

「生活」の内容の特色について、生活科の教科目標にも触れつつ考察する。

２．目標や内容が２学年まとめて示されることについて

＜ポイント＞

体験学習の特性、児童の関心、地域の特性、２年にまたがる単元など、生活科の学習特性との関連で考察する。

３．幼児の集団保育と「生活」の基本的な生活習慣を重視することの関連について

＜ポイント＞

幼児は外発的動機が大きく作用するが、生活科ではできるだけ児童の内発的動機をもって主体的に身に付けていくことを重視する。

４．幼児の「探検遊び」と「生活」の学習の関連について

＜ポイント＞

生活科の学び方の特徴を踏まえて考察する。特に、振り返り重視に着目する。

５．「生活」と他教科等の学習との関連について

＜ポイント＞

体験を重視する生活科の学習では必然的に他教科等の内容が関連してくる。具体的な学習を想定して考察する。

６．「生活」の特質と気付きの質を高めることの関連について

＜ポイント＞

体験の中から生まれる気づきや感動を、意識化し、言語化などによって明確にして、学びあいや考えることに役立つ知恵に高めることを実践的に考察する。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説　生活編』日本文教出版。

参考文献

高浦勝義、他『生活科の理論』黎明書房。
高浦勝義、他『生活科の授業づくりと評価』黎明書房。
有田和正『生活科の授業づくりと技術』教育出版。
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。

科目コード	生活科指導法（2 単位）	登録年次	履修方法
4240/7310		2年	SR
教員名	伊藤京一、岡林純子、坂本史生、杉山憲江、廣田須美子、沼澤清一		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：（情報の機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

科目概要

生活科の特質は、直接体験を重視した学習活動を展開し、意欲的に学習や生活ができるようにすることにある。本科目では、生活科の趣旨や目標・内容を理解した上で、2年間にわたる指導計画や学習指導案の作成を行ったり、模擬従業を行ったりするなどの具体的な実践を伴いながら生活科の指導方法について学習する。その中で、子どもが知的好奇心・探求心をもって主体的に学ぶ学習が成立するための方策について具体的に追求する。

到達目標

1. 生活科の目標、内容、全体構造及び指導上の留意点について理解する。
2. 生活科の特質、子どもの実態を視野に入れた学習指導案及び教材を作成できるようになる。
3. 模擬授業の実施を通して、授業の批判的検討及び授業改善ができるようになる。
4. 適切な学習評価について理解し、実践できるようになる。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	各自の生活科学習の経験を想起し、自身の学習体験から生活科の教科としての目標や特徴、全体構造を考えるとともに、学習指導要領との関連から生活科という教科について捉えなおす。	・小学校教育課程における生活科の魅力について考察する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	小学校教育課程における生活科の位置づけを確認し、体験重視の学習であることを明確にする。 具体的な体験を通して児童の生活を豊かにすることを、生活科は重視する。したがって、文化の伝承を重視する知的な学習が先行するのではなく、児童の生活そのものが学習の対象となる。	・小学校教育課程における生活科の位置づけと特質について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	生活科学習の基本過程と各単元の特徴との関連について理解を深める。 学習の発端を児童の生活や関心に求める。探検活動、飼育栽培活動など各単元の特性に応じて、各単元の展開計画を工夫することが重要である。	・教科書や実践事例をもとに生活科の各単元のあり方について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
4	児童の生活環境の地域的特徴や行事等の特徴の理解の必要性について整理する。 児童の生活する地域には、社会的・自然的な特徴がある。教師はあらかじめそれらを把握して生活科の学習指導に生かすようにする必要がある。加えて、教師の地域とのかかわりが強く求められる。	現代の子どもと子どもを取り巻く環境について、多様な視点から話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
5	生活科の二カ年指導計画を、地域の学校を想定した作成を試みる。 二カ年の学習指導計画を、具体的な地域を想定してたてる試みをする。それによって、二カ年での指導という視点や、地域や学校のどのようなことを理解しておくことが必要であるかが把握できる。地域や各学校の実態を生かした学習指導計画が児童に実感のある学習を生み出すことに通じる。	指導計画の事例を持ち寄り、よりよい指導計画について検討する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
6	生活科の指導計画を、地域の学校を想定した作成を試みる。 年間学習指導計画を、具体的な地域を想定してたてる試みをする。それによって、地域や学校のどのようなことを理解しておくことが必要であるかが把握できる。地域や各学校の実態を生かした学習指導計画が児童に実感のある学習を生み出すことに通じる。	指導計画を持ち寄り、よりよい指導計画について検討する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
7	教科書等を参考にして指導計画を具体化すると共に学修内容との関連を吟味する。 教科書に即した学習指導計画を参考にし、自身の作成した学習指導計画を吟味する。それによって、地域の実態に即しながら、生活科の目標や内容から逸脱しない学習指導計画が編成される。	指導計画を持ち寄り、よりよい指導計画について検討する。また、合わせて学習指導案作成において重要となる教材研究のあり方について検討する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
8	6、7 で作成した指導計画に従って学習指導案と教材（情報機器の活用含む）の作成を試みる（地域の特性を活かした単元）。 一単元の作成を試みる。その際、地域の事態、児童の実態、学修内容、教師の願い等を明確にすることを試みる。それによって単元目標、本時目標、本時の展開が想定できてくる。	学習指導案をもとに模擬授業を行い、「地域の特性を活かす」という視点での授業改善について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）

9	6、7 で作成した指導計画に従って学習指導案と教材（情報機器の活用含む）の作成を試みる（学校生活に関連する単元）。 特に、1 年生を対象とする。まず学校の施設や人々が自分とのかかわりにおいて理解され、自分の居場所として愛着を持つことができるように探検を通して学んでいけるように工夫する。	学習指導案をもとに模擬授業を行い、「学校への愛着」という視点での授業改善について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
10	6、7 で作成した指導計画に従って学習指導案と教材（情報機器の活用含む）の作成を試みる（入学当初のスタートカリキュラムとなる単元）。 4 月当初の単元である。幼児教育から小学校教育への円滑な接続を図るために、内容や活動を限定しすぎない緩やかな複線化された学習指導案とする。	学習指導案をもとに模擬授業を行い、「スタートカリキュラム」という視点での授業改善について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
11	6、7 で作成した指導計画に従って学習指導案と教材の作成を試みる（動植物の飼育栽培に関連する単元）。 動植物の飼育栽培は、長期にわたる活動となる。したがって、生活科の学習として活動する内容を焦点化しておくことと、常時活動をして児童が主体的に活動するところを明確にしておくことが重要である。	学習指導案をもとに模擬授業を行い、「主体的な動植物の栽培活動」という視点での授業改善について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
12	6、7 で作成した指導計画に従って学習指導案と教材の作成を試みる（自分の成長に関連する単元）。 自分の成長への気付きを促す単元である。したがって、生活科の他の単元や他の教科等の学習が関連してくる。特に一般的な成長単元にならないようにすると同時に、個人のプライバシーへの配慮が欠かせない単元であることに留意する。	学習指導案をもとに模擬授業を行い、「自身の成長への気づき」という視点での授業改善について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
13	6、7 で作成した指導計画に従って学習指導案と教材の作成を試みる（季節の変化や、自然を生かした活動に関する単元）。 それぞれの季節に親しみながら学習する。その際、楽しかったことや気付いたことを振り返り、伝えたり比べて考えたりできるように計画する。大単元と小単元として年間を通して季節感が得られるように配慮する。	学習指導案をもとに模擬授業を行い、「季節の変化や自然への気づき」という視点での授業改善について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
14	体験を重視した生活科に即した評価の観点や方法について整理する。 特に個々の児童に即しながら、関心・意欲、思考・表現、気付きを大切にしていく。児童の活動に対する教師の共感の姿勢が大切になる。同時に、教師の指導の改善に生かすことを重視する。 また、その際重要になる教材研究のあり方についても整理し理解を深める。	実際の子どもの授業記録から、直接体験や気づきを重視する生活科の評価のあり方について討論する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
15	生活科と他教科等を一体的に捉えた総合的な学習の重要性について考察し整理する。 総合的な学習は、未分化の児童に即した学習であると同時に、身に着けた学習力を総動員して学習対象を一体的に学習するものである。生活科では、未分化から分化した学習への方向をとりながら、総合的な学習の大切さを児童に実感として残すことも同時に重視する。	生活科を中心とした合科的な学習の意義や留意点について、実際の事例をもとに検討する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価		
	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 学年を特定して「生活」の単元を、一つ具体的に作成せよ。

＜ポイント＞
教科書「教職科目要説　初等教育編」を参考にして作成すること。
その際に、単元構成の考え方、評価および展開上の留意事項、学習展開上の留意事項について十分検討し、単元展開計画例および指導細案例に活かすこと。

科目終了試験学修のポイント

１．「生活」の目標、内容と単元構成との関連について
＜ポイント＞
直接学習に関する経験のまとまりである単元は、いくつかの目標や内容が関連してくる。それを踏まえて考察する。

２．指導計画作成上の要点について
＜ポイント＞
目標や内容を考慮するのは当然であるが、体験を重視する生活科においては環境の実態や児童の興味関心など主体的な学習を支える配慮が欠かせないことに留意する。

３．子どもの思いや願いと教師の指導意図との接近を図ることについて
＜ポイント＞
子どもの実態把握が弱いと子どもの主体的で意欲的な学習が期待できない。教師の指導意図と子どもの意欲的な学習を近づける手立てについて考察する。

４．家庭や地域および幼保との連携を重視した指導について
＜ポイント＞
身近な環境を通して体験的に学ぶ生活科は児童にとっては生活そのものであることを踏まえて考察する。

５．「生活」の学習と他教科や総合的な学習の時間との関連について
＜ポイント＞
具体的に活動したり、体験の振り返りを意識化したり明確にしたりするためには、他教科等の力が欠かせないことを実践的、具体的に考察する。

６．動物や植物へのかかわり方が深まる指導の工夫について
＜ポイント＞
かかわる活動のきっかけについて、児童の実態を重視した無理のない接触と、継続的かかわり、心情的に愛着の深まる指導を具体的に考察する。

教科書

木村吉彦、他『小学校新学習指導要領の展開　生活科編』明治図書。
東京福祉大学編『教職科目要説・初等教育編』ミネルヴァ書房。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領解説　生活編』日本文教出版。
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。
文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍。

科目コード	生活の中の福祉（２単位）	登録年次	履修方法
1940		１年	R
教員名	北爪克洋、水島正浩		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理 こども		

科目概要

近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会で必要な生活の中の福祉とは何か、その考え方や対象となる様々な人々に必要な福祉にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。

学修内容

1	福祉を学ぶ意義について 教科書の冒頭にある「はじめに」を中心に読み、理解を深める
2	生活と福祉（ライフサイクルと福祉） 教科書の第 1 章(pp.8～9）を中心に読み、理解を深める
3	生活と福祉（高齢化と福祉） 教科書の第 2 章(pp.24～25）を中心に読み、理解を深める
4	生活と福祉（少子化と福祉） 教科書の第 2 章（pp.22～23）を中心に読み、理解を深める
5	少子高齢社会における福祉のあり方について 1～4 までの学修内容を踏まえて、自分なりの考えをまとめる
6	福祉の考え方（福祉の捉え方） 教科書の第 1 章（pp.2～3）を中心に読み、理解を深める
7	福祉の考え方（福祉と援助） 教科書の第 1 章（pp.4～5）を中心に読み、理解を深める
8	福祉の考え方（ナショナルミニマム） 教科書の第 7 章（pp.108～109）を中心に読み、理解を深める
9	福祉の考え方（ノーマライゼーション） 教科書の第 1 章（pp 20～21）を中心に読み、理解を深める
10	福祉の考え方について 6～9 までの学修内容を踏まえて、自分なりの考えをまとめる
11	対象となる人々と福祉（子どもと福祉） 教科書の第 8 章（pp.122～123）を中心に読み、理解を深める
12	対象となる人々と福祉（高齢者と福祉） 教科書の第 9 章（pp.144～145）を中心に読み、理解を深める
13	対象となる人々と福祉（障がい者と福祉） 教科書の第 10 章（pp.168～169）を中心に読み、理解を深める
14	対象となる人々と福祉（低所得者と福祉） 教科書の第 7 章（pp.114～115）を中心に読み、理解を深める
15	これからの福祉のあり方について 11～14 までの学修内容を踏まえて、自分なりの考えをまとめる

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

少子高齢化と福祉についてまとめ、今後の福祉のあり方について述べよ。

＜ポイント＞

少子高齢化の状況について整理し、高齢者に対する福祉、子どもや家庭に対する福祉について、その仕組みや現状、課題等を踏まえた上で、今後の福祉のあり方について自分なりの考えを述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．ライフサイクルと福祉について

＜ポイント＞

ライフサイクルの変化を踏まえ、その特徴に応じた福祉について述べること。

2．福祉の捉え方と援助について

＜ポイント＞

福祉の捉え方や援助に関する様々な考え方を整理し、その特徴について述べること。

3．ナショナルミニマムについて

＜ポイント＞

ナショナルミニマムの考え方を踏まえ、現在の福祉制度への影響について述べること。

4．ノーマライゼーションについて

＜ポイント＞

ノーマライゼーションの考え方を踏まえ、現在の福祉援助への影響ついて述べること。

5．障がい者と福祉について

＜ポイント＞

障がい者に対する福祉について、その仕組みや現状、課題について述べること。

6．低所得者と福祉について

＜ポイント＞

低所得者に対する福祉について、その仕組みや現状、課題について述べること。

教科書

山縣文治・岡田忠克編　『よくわかる社会福祉』　ミネルヴァ書房。

参考文献

大久保秀子著　『新・社会福祉とは何か』　中央法規出版。

科目コード	政治学（国際政治を含む）（２単位）	登録年次	履修方法
1190/1191	(旧　政治学)	１年	ＳＲ/Ｒ
教員名	小野智一、辻本理絵子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

政治学とは、人間の生活に関する決定が下される制度と過程についての学問であり、社会福祉を考える上で重要な枠組みである。政治学の基本的概念を理解した後、近代国家の仕組みを日本の現代政治の実例を交えながら学んでいく。また、現代政治の課題に我々がどのように取り組んでいくべきかを考える。国際社会の仕組みと国際社会の一員としての日本の役割についても考える。

学修内容

1	※１～１２は教科書と対応する。１３～１５は参考文献と対応する。 組織化された集団～政治と経済１～（鉄の三角同盟、フリーライダー） 利益集団が組織されるのはなぜか。鉄の三角同盟、多元的民主主義の観点から考える。
2	官と民の関係～政治と経済２～（市場の失敗、政府の失敗） 市場の失敗の観点から政府の役割について考える。また、政府の失敗を通して政府の限界についても考察する。 関連…科目終了試験学修のポイント３
3	大企業と政治～政治と経済３～（規制、資本主義、経済団体、圧力団体） 政策決定に影響力を及ぼすものは何か。大企業の行動を事例として影響力資源について考える。
4	選挙と政治～政治と社会１～（選挙制度、政党の機能） 政策投票をめぐる問題を中心に選挙について考察する。選挙制度の違いによって実現される世論はどう異なるのか考える。 関連…科目終了試験学修のポイント１及び４
5	地方分権～政治と社会２～（国と地方との関係、基礎自治体と市町村合併） 日本における地方自治のあり方を考える。革新知事、革新市長はなぜ誕生したのかについて考える。 関連…科目終了試験学修のポイント１及び６
6	マスメディアと政治について考える～政治と社会３～（第４の権力、政治過程１） 第４の権力とは何を意味するのか考える。政策実現過程におけるマスメディアの役割について考察する。
7	国会～政治のしくみ１～（政治過程２（政策過程）、立法） 議院内閣制のもとでの国会の影響力について考える。日本を事例として国会で審議される法案を手掛かりに考察する。 関連…【設題１】　関連…科目終了試験学修のポイント２及び３
8	内閣と総理大臣～政治のしくみ２～（議院内閣制、大統領制、行政１） 日本の内閣総理大臣とアメリカの大統領。どちらがよりリーダーシップを行使できるのか考える。リーダーシップを発揮するための条件に付いて考える。　関連…【設題１】　関連…科目終了試験学修のポイント２及び３
9	官僚～政治のしくみ３～（行政２、官僚機構） 政府官僚のキャリアパスを手掛かりに、政治家と官僚の関係性について考察する。　関連…【設題１】
10	冷戦の終わりからテロとの戦いへ～政治と世界１～（国際政治１、冷戦、日本の外交政策） 日本をめぐる国際環境はどのように変化してきたのか。第二次世界大戦後の歴史的経緯を振り返り、現在の状況がどのように形成されてきたのか考察する。
11	経済交渉～政治と世界２～（グローバル経済、日本の経済外交、自由貿易） 貿易をめぐる国家間の利害対立を事例として、国際政治が国内政治に与える影響について考える。 関連…科目終了試験学修のポイント５
12	国境を越える政治３～政治と世界～（環境問題、新国際主義、新民族主義、相互依存性） 国と国との関係性について「リアリズム」「リベラリズム」の二つの観点から考える。国境を越える政治問題の争点について考える。　関連…科目終了試験学修のポイント５
13	補足テーマ１～福祉国家～社会保障、公的扶助といった仕組みはなぜ生まれてきたのか。現在、先進国の多くが福祉国家の体制をとっている。しかし、税制の逼迫などそのあり方が見直されている面もある。 関連…科目終了試験学修のポイント３
14	補足テーマ２～宗教と政治の関連～押さえるべきキーワードとしては、パレスティナ問題、サミュエル・ハンチントン「文明の衝突」。特にパレスティナ問題は典型的な国際問題の事例であるため、その原因が何であったのか調べるとよい。
15	まとめ～権力～誰が権力を行使すべきか。これが政治学のテーマである。押さえるべきキーワードとしては、マックス・ヴェーバーの支配の三類型、ホッブズ「万人の万人に対する闘争」、ロック「社会契約説」 ※高等学校で政治経済を未履修の場合は最初にこのキーワードを確認しておくこと。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 現代社会における議会制民主主義について述べよ。

＜ポイント＞

わが国で、国会は「国権の最高機関」として、国民の生活に大きな影響力を持っている。それは、国会が、主権者である国民の代表機関であるからにほかならない。しかし現実には、国家は、そして代表者である国会議員は国民の信託に応えているのか、また、国民は主権者として政治に関わってきたといえるのか。そのような視点でまずわが国の実態を明らかにした上で、現代のグローバル社会における議会制民主主義の問題点や方向性について考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．現代民主主義における政治参加について

＜ポイント＞

政治参加について定義を述べること。選挙で投票することは政治参加の一つの形に過ぎない。どのような政治参加の形態があるのか議論し、現代における課題を指摘するとよい。選挙の例で言えば、選挙制度に問題はないのか、有権者は政策を理解して投票する政策投票が可能なのかなどが挙げられる。

2．議院内閣制と大統領制について

＜ポイント＞

両制度の定義について比較することが可能であるように論述するとよい。また、それぞれを説明するときには制度を導入している国名などを例示し、どのような実態なのか論述できることが望ましい。

3．「大きい政府」と「小さい政府」について

＜ポイント＞

何を基準として「大きい」「小さい」と規定しているのか明確にすること。どのような状況が「大きい政府」でどのような状況になれば「小さい政府」といえるのか。政府支出など具体的な数字から論証できると説得力ある説明が展開できる。

市場の失敗、夜警国家、福祉国家などが重要キーワードである。

4．大選挙区制と小選挙区制の長所と短所について

＜ポイント＞

両制度をどの項目で比較するのかハッキリさせること。選出方法の違いが、代表される民意に影響を及ぼすこともありうることなど様々な観点から比較してみること。

5．国内政治と国際政治の相違について

＜ポイント＞

例えば、国内で罪を犯した場合にはどのようになるであろうか。法によって禁じられた行為であれば「罪」となるので、規定された罰則を受けることになるであろう。しかし、国際社会でのルールである国際法はどのような性質なのだろうか。国内法と同じような性質があるのだろうか。

6．日本における地方分権について

＜ポイント＞

国と地方はどのような関係にあるのか。地方は国の命令を受ける下位の存在なのだろうか。国のトップと地方のトップはどのような性質の違いがあるのだろうか。国と地方とでは担う役割が違うのか。平成の大合併はなぜ実行されたのか。

教科書

北山俊哉、他『はじめて出会う政治学』有斐閣。

参考文献

依田博『政治（新版）』有斐閣。
篠原一、他『現代政治学入門』有斐閣。
甲斐信好『プレステップ政治学』弘文堂。
久米郁男、他『政治学』有斐閣。

※教育学科　科目コード5013：登録年次２年、R履修

科目コード	精神医学（４単位）	登録年次	履修方法
5010/5011/5012 5013/5014		３年/２年	ＳR/R
教員名	石本強、大島一成、清水竜、先﨑章、辻築久子		
履修可能な学科	社福　保育　教育※　心理		

科目概要

精神医学は、こころの病の学問であるが、最近急速に脳科学との関連性が解明されてきている。その一方で、精神医学を理解するためには、人やこころの理解、人間社会についての知識も不可欠である。患者の生育歴、生活環境、人間関係、心理状態、文化風習など、さまざまな側面を切り離しては、病の本質が見えてこない。

本科目では、精神疾患やこころの在り方の分析・治療の基本を学ぶ。まず脳神経細胞の生理的理論を知り、次に精神医学の概念として疾患の成因や分類について学ぶ。そして代表的な精神疾患である器質性精神障害・認知症・アルコールや薬物による精神や行動の障害・統合失調症・気分障害・神経症性障害などについての知識を獲得し、精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む）、向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、医療機関との連携について理解する。

学修内容

1	精神医学の歴史 西洋と日本における精神医学の歴史を学び、現在の精神医療の状況に至る日本の制度的変遷の流れを把握する。
2	脳神経細胞の解剖生理学的理論 心の活動と脳神経の働きについて、神経伝達物質の基礎や脳局所解剖との関連について理解する。またそれらが、心の変化や疾病とどのように関わっているのか理解する。
3	精神医学の概念 精神医学の概念として、疾患の成因や分類の基礎を理解する。その理解の基に、疾患の成り立ちを段階的に把握し、精神疾患を理解する。
4	精神疾患の診断 精神症状と状態像について、具体的な事例を参考にしながら全体を理解する。
5	器質性精神障害 認知症の分類、成因と症状と予後を理解する。また、認知症がある人への適切な対応について学ぶ。
6	精神作用物質による精神障害 アルコールや薬物による精神や行動の障害を、わが国の現状と照らし合わせ理解し、方策について考える。
7	統合失調症Ⅰ 統合失調とはどのような状態をいうのかを理解し、現在の病因論や病期と症状を学ぶ。
8	統合失調症Ⅱ 経過と予後および対応を学ぶ。特に危機介入、中・長期的対応は福祉職において重要な課題である。
9	気分障害 うつ病・躁うつ病の症状理解を基本にして、対応・予防について理解する。さらには自殺予防などの理解を深める。
10	神経症性障害、ストレス関連性障害 不安障害、パニック障害、強迫性障害、解離性（転換性）障害、ストレス障害の成因や症状について理解し、対応方法を学ぶ。
11	生理的障害、パーソナリティおよび行動の障害 摂食障害の症状や成因、睡眠障害の分類や特色、対応について理解する。パーソナリティ障害の分類と対応を学ぶ。
12	知的障害、神経系の疾患 知的障害・心理的発達障害・行動および情緒の障害・てんかんについて、医学的知識、社会・制度的な対応を学ぶ。
13	神経疾患の治療 身体療法・精神療法・環境社会療法の基礎を理解し、それらの実践に向け展開する。
14	病院精神科医療と地域精神科医療 わが国の現状と課題を、実際の事例を参考にしながら明らかにし、それに対する地域精神科医療の今後の展開を考える。
15	精神科医療における人権養護 インフォームドコンセントを中心とした人権養護を理解し、それに基づく精神障害者のQOL向上を把握する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 統合失調症の症状、病因、治療、対応（個別での対応、地域での対応、地域精神医療も含む）について述べよ。

＜ポイント＞

統合失調症の頻度、発症年齢、症状、病因、薬物治療、リハビリテーションについて述べた上で、日本のこれまでの精神医療の歴史を踏まえ、現在の地域精神医療における対応、支援にも言及する。

【設題2】 気分（感情）障害および神経症性障害について、それぞれの種類、症状、成因、治療、対応について述べよ。

＜ポイント＞

気分（感情）障害（うつ病、躁病、双極性障害）および神経症性障害（不安障害、パニック障害、強迫性障害、PTSD、解離性障害、身体表現性障害）についてそれぞれの症状、成因、治療を中心にまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．統合失調症について

＜ポイント＞

頻度、発病年齢、病期と症状、病型、病因、治療、統合失調症患者に接するときの注意点などについて要点を理解する。

2．気分（感情）障害について

＜ポイント＞

症状、病型と分類、病因、治療、患者に接するときの注意点などについて要点を理解する。

3．神経症性障害、ストレス関連性障害、心身症について

＜ポイント＞

神経症性障害、ストレス関連性障害の種類と成因、治療などについて理解する。また心身症との違いについて理解する。

4．認知症、てんかんについて

＜ポイント＞

脳器質性疾患である認知症、てんかんのそれぞれの疾患の概念、分類、治療などについて理解する。

5．地域精神医療について

＜ポイント＞

地域精神医療の展開について概要を理解する。

6．精神疾患の身体療法（向精神薬）について

＜ポイント＞

種類、適応（投与する疾患）、副作用、注意事項などについて理解する。

教科書

（平成27年度以前の配本）

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会

『新版精神保健福祉士養成セミナー第1巻　精神医学ー精神疾患とその治療』へるす出版。

（平成28年度以降の配本）

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会

『精神保健福祉士養成セミナー1（第6版）　精神医学ー精神疾患とその治療』へるす出版。

参考文献

小此木敬吾、他『心の臨床家のための必携精神医学ハンドブック』創元社。

山下格『【新版】精神医学ハンドブック』日本評論社。

日本精神保健福祉士養成校協会『新・精神保健福祉士養成講座1（第2版）　精神疾患とその治療』中央法規。

科目コード	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
5100		２年	R
教員名	茅野由紀		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

１．精神保健福祉士の役割（総合的包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解する。
２．社会福祉士の役割と意義について理解する。
３．相談援助の概念と範囲について理解する。
４．相談援助の理念について理解する。

学修内容

1	精神保健福祉士の役割と意義 ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士、我が国の精神保健福祉施策と精神保健福祉士国家資格化 ＜学修のポイント１＞
2	精神保健福祉士の役割と意義 精神保健福祉士と社会福祉士　＜学修のポイント１＞
3	現代社会と精神保健福祉士 精神保健福祉士の役割の見直し、ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士、現代社会の特徴と精神保健福祉の課題 ＜学修のポイント１、２＞
4	現代社会と精神保健福祉士 精神保健福祉士の領域の拡大、チームアプローチの必要性、ソーシャルアクションの重要性 ＜学修のポイント２、３＞
5	ソーシャルワークの定義と構成要素 ソーシャルワークの定義、ソーシャルワークの構成要素としての知識・価値・技術 ［レポート設題１］
6	ソーシャルワークの定義と構成要素 精神保健福祉士の基盤としてのソーシャルワークの価値・理念と原則　［レポート設題１］
7	ソーシャルワーク関係における価値・理念と原則―人間尊重、人間の社会性、変化の可能性 クライエントの自己決定の尊重、鍵概念としての「状況の中の人」　＜学修のポイント４、５＞
8	ソーシャルワーク関係における価値・理念と原則―人間尊重、人間の社会性、変化の可能性 ソーシャルワーク関係（かかわり）の固有性、ソーシャルワーカーとしての自己覚知　＜学修のポイント４、６＞
9	イギリスにおけるソーシャルワークの歴史と精神保健のかかわり エリザベス救貧法と精神保健前史、産業革命と精神保健ソーシャルワーカーの芽生え　［レポート設題１］
10	イギリスにおけるソーシャルワークの歴史と精神保健のかかわり 第一次世界大戦と精神保健、イギリス型福祉国家の進展と精神保健のかかわり ［レポート設題１］＜学修のポイント３＞
11	アメリカにおける精神保健分野のソーシャルワーク発展の歴史 精神保健分野のソーシャルワークのはじまり、巨大収容施設からの脱施設へ ―コミュニティケア運動、戦時下のサイキアトリックソーシャルワーク　［レポート設題１］＜学修のポイント３＞
12	アメリカにおける精神保健分野のソーシャルワーク発展の歴史 コミュニティメンタルヘルス運動、クライシスセンターや地域ケア、ソーシャルワークに影響を及ぼした多様な運動とエコロジカルな視点　［レポート設題１］＜学修のポイント３＞
13	アメリカにおける精神保健分野のソーシャルワーク発展の歴史 実践モデルの模索―多様なアプローチや理論の出現、ソーシャルワーカーとクライエントの関係変化 ―クライエント主導の流れ　［レポート設題１］
14	日本におけるソーシャルワークの歴史と精神保健のかかわり 日本におけるＰＳＷ誕生の軌跡、ＰＳＷと人権侵害　［レポート設題１］＜学修のポイント１、３＞
15	日本におけるソーシャルワークの歴史と精神保健のかかわり国家資格化へ向けて ［レポート設題１］＜学修のポイント１、３＞

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの歴史を振り返り、ソーシャルワークの定義と構成要素を述べよ。

＜ポイント＞

教科書を熟読するとともに、他の科目の教科書も参考にして要点をまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．我が国の精神保健福祉施策と精神保健福祉士の役割について

＜ポイント＞

・「入院から地域生活支援へ」の流れを理解すること。

2．現代社会の特徴と精神保健福祉の課題について

＜ポイント＞

・精神保健福祉士はソーシャルワーカーの一領域である。

・チームアプローチの必要性について。

3．精神保健福祉士が活動する領域について

＜ポイント＞

・イギリス、アメリカ、日本での精神保健福祉の歴史のなかで、必要とされ、発展してきた領域。

4．ソーシャルワーク関係（関わり）の固有性について

＜ポイント＞

・環境（状況）とクライエント（人）との交互作用

5．クライエントがおこなう自己決定の重要性について

＜ポイント＞

・自己決定の重要さ

6．ソーシャルワーカーとして自己覚知の必要性について

＜ポイント＞

・自己覚知とは何か

・自己覚知の必要性

教科書

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集

『精神保健福祉士養成セミナー第3巻　精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門]』へるす出版。

参考文献

精神保健医療福祉白書編集委員会編集『精神保健医療福祉白書』中央法規出版。

『我が国の精神保健福祉（精神保健福祉ハンドブック）平成27年度版』日本公衆衛生協会。

科目コード	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
5110		２年	R
教員名	茅野由紀		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

１．精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。
２．精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。
３．精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。
４．精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

学修内容

1	日本におけるソーシャルワークの歴史と精神保健のかかわり 日本におけるＰＳW誕生の軌跡、ＰＳWと人権侵害、国家資格化へ向けて
2	ソーシャルワーク理論 ソーシャルワークの実践モデル、Ⅲ方法の統合とジェネラリストソーシャルワークの意義
3	ソーシャルワーク理論 ジェネラリストソーシャルワークの特質、地域を基盤とした生活支援としてのソーシャルワーク
4	協同作業としてのソーシャルワークの展開過程 インテーク・契約・アセスメント・支援計画・支援の実施、ソーシャルワークのミクロ・メゾ・マクロ領域、個別支援 ＜学修のポイント１＞
5	協同作業としてのソーシャルワークの展開過程グループを活用した支援
6	協同作業としてのソーシャルワークの展開過程地域を対象とした支援
7	社会福祉調査・研究　量的調査
8	社会福祉調査・研究　質的調査
9	社会福祉調査・研究　実践評価、社会福祉調査の展望
10	チームアプローチと多職種連携 多職種連携の必要性、精神保健福祉領域における多職種連携の現況　［レポート設題１］＜学修のポイント２、５＞
11	チームアプローチと多職種連携 多職種連携と精神保健福祉士の専門性、利用者の参加　＜学修のポイント２、５＞
12	精神保健福祉領域における精神保健福祉士の生活支援 生活支援について、精神障害者のリハビリテーションと社会的復権　＜学修のポイント３、４＞
13	精神保健福祉領域における精神保健福祉士の生活支援 精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割、地域生活支援と精神保健福祉士の役割　＜学修のポイント３、４＞
14	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割 胎児期～青少年期の精神保健福祉課題、胎児期～青少年期における精神保健福祉士の役割　＜学修のポイント６＞
15	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割 成人期～老年期の精神保健福祉課題と専門的援助技術　＜学修のポイント６＞

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】精神科医療機関、社会福祉事務所、保健所に勤務する職種とその業務内容について述べよ。

＜ポイント＞

他の科目も含めて教科書を熟読してまとめること。なお、当該機関を訪ねて職員から説明を受けるなどの方法も有効である。

科目終了試験学修のポイント

1．インテーク・契約・アセスメント・支援計画（プランニング）・支援の実際（インターベンション）について

＜ポイント＞

・それぞれのステージに関して解説することが必要である。

2．医療、保健、福祉、司法など、精神障害者とかかわりのある機関、施設に勤務する専門職と業務内容について

＜ポイント＞

・それぞれの領域、機関、施設に勤務している職種と業務内容などをまとめる必要がある。

・「精神保健学」の教科書など、他の教科書も読んでまとめることが必要である。

3．相談援助における権利擁護の概念と範囲について

＜ポイント＞

・精神障害者における権利擁護や実施上の留意点などについてまとめる必要がある。

4．精神障害者の人権擁護と精神保健福祉士の役割について

＜ポイント＞

・精神障害者における過去の人権問題や現在の状況を概観し、精神保健福祉士が果たす役割について述べる必要がある。

5．多職種連携（チームアプローチ）の意義と内容について

＜ポイント＞

・他職種連携の概念やメリット、デメリット、実際、実施上の留意点などについてまとめる必要がある

6．メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割について

＜ポイント＞

・胎児期～老年期に至る精神保健の特徴と、それぞれにおける精神保健福祉士が果たす役割について述べる必要がある。

教科書

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集

『精神保健福祉士養成セミナー第3巻　精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門]』へるす出版。

参考文献

精神保健医療福祉白書編集委員会『精神保健医療福祉白書（最新版）』中央法規出版。

『我が国の精神保健福祉（精神保健福祉ハンドブック）平成27年度版』日本公衆衛生協会。

科目コード	精神科リハビリテーション学（４単位）	登録年次	履修方法
5030/5031/5032		３年/２年	ＳＲ
教員名	神谷恭子、茅野由紀、小金澤嘉、先﨑章、辻本理絵子、辻築久子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

精神科リハビリテーションにおいては、精神医学、精神保健学、社会福祉諸科目をその土台とし、ソーシャルワークとも類似の側面を持つため、福祉専門職の活躍が期待されている。

この科目では以下の項目を中心に学修する。

（1）精神保健医療福祉の歴史と動向

（2）精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識

（3）精神科リハビリテーションの概念と構成

（4）精神科リハビリテーションのプロセス

（5）医療機関における精神科リハビリテーション（精神科専門療法を含む）の展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割

（6）精神障害者の支援モデル。

学修内容

1	「リハビリテーションの概念と歴史、わが国の精神科リハビリテーションの歴史」（教科書 pp.1-9、pp.39-43） 「リハビリテーションの理念と原則」　リハビリテーションの草創期、確立期、発展期、ノーマライゼーション、ICF
2	「精神科リハビリテーションの概念」（教科書 pp.9-16）　WHO 勧告と行動指針、日本の精神科医療の現状と課題 「精神科リハビリテーションの理念と意義」　エンパワメント、リカバリーの用語の理解
3	「精神科リハビリテーションの基本原則」（教科書 pp.18-31）　アンソニー、スレッシュホールズ、中川正俊 「精神保健福祉士の役割」「精神障害の特性と ICF」
4	「精神科リハビリテーションの基本アプローチ」（教科書 pp.31-37）　医学的・職業的・教育的・社会的・地域 「精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業（総論）」障害者総合支援法（旧・障害者自立支援法）
5	「精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業（各論）」（教科書 pp.39-69） 障害者総合支援法（旧・障害者自立支援法）に基づく障害者福祉サービス等の概要
6	「精神科リハビリテーションのプロセス」（教科書 pp.71-81） （1）アセスメント、（2）計画、（3）実施、（4）評価
7	「精神科リハビリテーションの展開」（教科書 pp.82-94）（1）精神科病院におけるリハビリテーション、 （2）社会復帰施設におけるリハビリテーション、（3）社会資源における・地域社会におけるリハビリテーション
8	「地域におけるリハビリテーションの具体的内容」（教科書 pp.94-101）　薬物療法からピアサポートまで 「疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション」（教科書 pp.101-107）疾病の側面から、生活の側面から
9	「作業療法」（教科書 pp.109-121） 「集団精神療法」（教科書 pp.122-129）
10	「認知行動療法（生活技能訓練 SST）」（教科書 pp.130～135） 生活技能訓練の意義、生活技能訓練の実際、グループで行うことの意義、ソーシャルワークと生活技能訓練
11	「家族教育プログラム、心理教育」（教科書 pp.136-141） 「チームアプローチ」（教科書 pp.142-146）
12	「精神科リハビリテーションサービス」（教科書 pp.147-174）　デイケアおよびナイトケア、居住支援（地域生活支援センター、居宅生活支援事業と精神保健福祉士の役割）、就労支援（就労の意義と援助活動、障害者雇用率制度、施策）
13	「地域を基盤にしたリハビリテーション」（教科書 pp.177-197）ケアマネジメント、アウトリーチ、ACT 「仲間による地域生活支援」（教科書 pp.197-211）セルフヘルプ・グループとピアサポート、プロシューマー
14	まとめ　　障害者総合支援法（旧・障害者自立支援法）下での各種障害者福祉サービスの各論（教科書 pp.43-63） 日中活動系（教科書 pp.165-174）、居住支援系（教科書 pp.158-164）、精神保健福祉士の役割
15	まとめ　　最近の精神科リハビリテーションの話題など

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 精神科リハビリテーションの概念について述べよ。

＜ポイント＞

リハビリテーションの分類を踏まえ、精神科リハビリテーションの理念や意義、基本原則などについてまとめること。

【設題2】 精神科リハビリテーションの構成について述べよ。

＜ポイント＞

精神科リハビリテーションの対象、施設と、専門職の役割についてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．病院リハビリテーションについて

＜ポイント＞

各種療法（含、デイケア・ナイトケア）、病相期に合わせた目標と介入、チーム医療にも言及してまとめること。

2．地域リハビリテーションについて

＜ポイント＞

精神保健医療福祉の改革ビジョン、ストレングスモデル、家族支援、居住支援、危機介入にも言及してまとめること。

3．職業リハビリテーションについて

＜ポイント＞

障害者総合支援法（旧・障害者自立支援法）、障害者雇用促進法での各種サービス、支援活動の実際にも言及する。

4．社会生活技能訓練（SST）について

＜ポイント＞

理論的背景、日本での歴史、方法と展開、基本モデル、モジュールの例などに言及してまとめること。

5．デイケア及びナイトケアについて

＜ポイント＞

理論的背景、日本での歴史、集団力動（グループダイナミクス）、実際の運営方法にも言及してまとめること。

6．精神科リハビリテーションの基本原則について

＜ポイント＞

アンソニーや中川正俊のいう基本原則、スレッシュホールズ・プログラムにおける15の原則を参考にまとめること。

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会

『新版　精神保健福祉士養成セミナー第5巻　精神保健福祉におけるリハビリテーション』へるす出版。

参考文献

なし

※科目コード5210：登録年次２年、ＳＲ履修／科目コード5211：登録年次３年、ＳＲ履修／科目コード5212：登録年次２年、Ｒ履修

科目コード	精神疾患とその治療	登録年次	履修方法
5210/5211/5212		２年/３年	ＳＲ/Ｒ
教員名	石本強、大島一成、先﨑章、清水竜、辻築久子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

精神医学は、こころの病の学問であるが、最近急速に脳科学との関連性が解明されてきている。その一方で、精神医学を理解するためには、人やこころの理解、人間社会についての知識も不可欠である。患者の生育歴、生活環境、人間関係、心理状態、文化風習など、さまざまな側面を切り離しては、病の本質が見えてこない。

本科目では、精神疾患やこころの在り方の分析・治療の基本を学ぶ。まず脳神経細胞の生理的理論を知り、次に精神医学の概念として疾患の成因や分類について学ぶ。そして代表的な精神疾患である器質性精神障害・認知症・アルコールや薬物による精神や行動の障害・統合失調症・気分障害・神経症性障害などについての知識を獲得し、精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む）、向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、医療機関との連携について理解する。

学修内容

1	精神医学の歴史 西洋と日本における精神医学の歴史を学び、現在の精神医療の状況に至る日本の制度的変遷の流れを把握する。
2	脳神経細胞の解剖生理学的理論 心の活動と脳神経の働きについて、神経伝達物質の基礎や脳局所解剖との関連について理解する。またそれらが、心の変化や疾病とどのように関わっているのか理解する。
3	精神医学の概念 精神医学の概念として、疾患の成因や分類の基礎を理解する。その理解の基に、疾患の成り立ちを段階的に把握し、精神疾患を理解する。
4	精神疾患の診断 精神症状と状態像について、具体的な事例を参考にしながら全体を理解する。
5	器質性精神障害 認知症の分類、成因と症状と予後を理解する。また、認知症がある人への適切な対応について学ぶ。
6	精神作用物質による精神障害 アルコールや薬物による精神や行動の障害を、わが国の現状と照らし合わせ理解し、方策について考える。
7	統合失調症Ⅰ 統合失調とはどのような状態をいうのかを理解し、現在の病因論や病期と症状を学ぶ。
8	統合失調症Ⅱ 経過と予後および対応を学ぶ。特に危機介入、中・長期的対応は福祉職において重要な課題である。
9	気分障害 うつ病・躁うつ病の症状理解を基本にして、対応・予防について理解する。さらには自殺予防などの理解を深める。
10	神経症性障害、ストレス関連性障害 不安障害、パニック障害、強迫性障害、解離性（転換性）障害、ストレス障害の成因や症状について理解し、対応方法を学ぶ。
11	生理的障害、パーソナリティおよび行動の障害 摂食障害の症状や成因、睡眠障害の分類や特色、対応について理解する。パーソナリティ障害の分類と対応を学ぶ。
12	知的障害、神経系の疾患 知的障害・心理的発達障害・行動および情緒の障害・てんかんについて、医学的知識、社会・制度的な対応を学ぶ。
13	神経疾患の治療 身体療法・精神療法・環境社会療法の基礎を理解し、それらの実践に向け展開する。
14	病院精神科医療と地域精神科医療 わが国の現状と課題を、実際の事例を参考にしながら明らかにし、それに対する地域精神科医療の今後の展開を考える。
15	精神科医療における人権養護 インフォームドコンセントを中心とした人権養護を理解し、それに基づく精神障害者のQOL向上を把握する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 統合失調症の症状、病因、治療、対応（個別での対応、地域での対応、地域精神医療も含む）について述べよ。

＜ポイント＞

統合失調症の頻度、発症年齢、症状、病因、薬物治療、リハビリテーションについて述べた上で、日本のこれまでの精神医療の歴史を踏まえ、現在の地域精神医療における対応、支援にも言及する。

【設題2】 気分（感情）障害および神経症性障害について、それぞれの種類、症状、成因、治療、対応について述べよ。

＜ポイント＞

気分（感情）障害（うつ病、躁病、双極性障害）および神経症性障害（不安障害、パニック障害、強迫性障害、PTSD、解離性障害、身体表現性障害）についてそれぞれの症状、成因、治療を中心にまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．統合失調症について

＜ポイント＞

頻度、発病年齢、病期と症状、病型、病因、治療、統合失調症患者に接するときの注意点などについて要点を理解する。

2．気分（感情）障害について

＜ポイント＞

症状、病型と分類、病因、治療、患者に接するときの注意点などについて要点を理解する。

3．神経症性障害、ストレス関連性障害、心身症について

＜ポイント＞

神経症性障害、ストレス関連性障害の種類と成因、治療などについて理解する。また心身症との違いについて理解する。

4．認知症、てんかんについて

＜ポイント＞

脳器質性疾患である認知症、てんかんのそれぞれの疾患の概念、分類、治療などについて理解する。

5．地域精神医療について

＜ポイント＞

地域精神医療の展開について概要を理解する。

6．精神疾患の身体療法（向精神薬）について

＜ポイント＞

種類、適応（投与する疾患）、副作用、注意事項などについて理解する。

教科書

（平成27年度以前の配本）

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会

『新版精神保健福祉士養成セミナー第1巻　精神医学ー精神疾患とその治療』へるす出版。

（平成28年度以降の配本）

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会

『精神保健福祉士養成セミナー1（第6版）　精神医学ー精神疾患とその治療』へるす出版。

参考文献

小此木敬吾、他『心の臨床家のための必携精神医学ハンドブック』創元社。

山下格『【新版】精神医学ハンドブック』日本評論社。

日本精神保健福祉士養成校協会『新・精神保健福祉士養成講座1（第2版）　精神疾患とその治療』中央法規。

科目コード	精神障害リハビリテーション論（２単位）	登録年次	履修方法
5250		２年	ＳＲ
教員名	先﨑章、神谷恭子、茅野由紀、辻築久子、辻本理絵子、小金澤嘉		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

以下の①～③を目標に、下記の学修内容を学んでいく。

①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。

②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。

③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。

学修内容

1	オリエンテーション、精神科リハビリテーションとソーシャルワークの関係（総論） 精神障害リハビリテーションの構成要素・原理と特徴、精神保健ソーシャルワークとは、精神保健福祉士の役割
2	精神科リハビリテーションとソーシャルワークの関係（続き） ソーシャルワークの価値、重要な視点（ストレングス、エンパワメント、リカバリー、レジリエンス）、多職種連携
3	精神障害者リハビリテーションの理念と定義、医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション 障害者リハビリテーションの理念・歴史・定義、精神障害リハビリテーションの特性、基本原則、価値背景
4	精神障害リハビリテーションの基本原則、リカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義 世界・日本の精神障害者リハビリテーションの歴史、共通する原則、地域福祉サービスの変遷と課題
5	精神障害リハビリテーションの構成 対象、チームアプローチ、多職種連携について学ぶ
6	精神障害リハビリテーションのプロセス インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価について学ぶ
7	精神障害リハビリテーションプログラム・医学的なもの 認知行動療法、行動療法、作業療法、健康自己管理プログラム、依存症回復プログラム、デイケアプログラムについて学ぶ
8	精神障害リハビリテーションプログラム・職業的なもの 就労準備プログラム、援助付雇用プログラム、IPS モデル、復職支援プログラム、就労定着プログラムについて学ぶ
9	精神障害リハビリテーションプログラム・社会的なもの SST、心理教育プログラム、WRAP、生活訓練プログラム、地域移行プログラムとそれらの実施機関について学ぶ
10	精神障害リハビリテーションプログラム・教育的なもの　その他の当事者プログラム 特別支援教育プログラム、障害学生支援プログラム、マインドフルネス、オープンダイアローグについて学ぶ
11	家族支援プログラム 家族支援、家族心理教育（個人・集団）、家族による家族支援、家族会について学ぶ
12	精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション ピアサポートグループとピア活動、ピアスタッフ、家族による家族支援、当事者プログラム、ケアラーの支援
13	依存症のリハビリテーション クライエントに対する理解、治療プログラムと生活支援、今後の課題（インターネット依存、ギャンブル依存等）
14	精神障害リハビリテーションの動向と実際、最近のトピックス（各自 Web にて収集）
15	精神障害リハビリテーションのまとめ（事例検討など）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 精神障害リハビリテーションの価値背景に影響を与えた実践や考え方を説明し、精神障害（精神科）リハビリテーションの原則と特性を述べよ。

＜ポイント＞リカバリー、ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ、レジリエンス、多職種連携などの考え方について各々説明し、アンソニーなどが唱えた精神科リハビリテーションの原則、あるいは共通する原則を述べ、精神障害リハビリテーションの特性（①当事者の参加、②）個別性の重視、③生活環境への適応、④技能の育成、⑤環境面への介入、⑥多職種・当事者・市民との協働、⑦希望、⑧自尊心の回復、⑨科学的根拠に基づいた支援・協働）を自分の言葉で説明する。

科目終了試験学修のポイント

1． 精神障害リハビリテーションの原則について述べよ。
＜ポイント＞当事者の参加と関与（自主性の尊重）、治療的な人間関係、意思決定の共有、技能開発（スキルアップ）と環境的開発、臨機応変さ、希望を持つ、リカバリー、ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ、レジリエンス

2． 精神障害リハビリテーションのプロセスについて述べよ。
＜ポイント＞インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、リカバリー、ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ、レジリエンス、多職種連携

3． 医学的な精神障害リハビリテーションプログラムの代表的なものを5つ以上挙げ、それぞれを説明せよ。
＜ポイント＞認知（行動）療法、作業療法、健康自己管理プログラム、依存症回復プログラム、デイケアプログラム

4． 職業的な精神障害リハビリテーションプログラムの代表的なものを5つ挙げ、それぞれを説明せよ。
＜ポイント＞就労準備プログラム、援助付雇用プログラム、IPS モデル、復職支援プログラム、就労定着プログラム

5． 社会的な精神障害リハビリテーションプログラムの代表的なものを5つ挙げ、それぞれを説明せよ。
＜ポイント＞SST、心理教育プログラム、WRAP、生活訓練プログラム、地域移行プログラム

6． ①家族支援プログラム、および②当事者や家族を主体としたリハビリテーションについて説明せよ。
＜ポイント＞①心理教育プログラム、EE（感情表出）、集団による家族心理教育、
②家族による家族支援、ピアサポートグループとピア活動、ピアスタッフ、当事者研究

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集
『最新　精神保健福祉士養成講座3　精神障害リハビリテーション論』中央法規。

参考文献

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集
『最新・精神保健福祉士養成講座1　精神医学と精神医療』　中央法規。

科目コード	精神保健学（4単位）	登録年次	履修方法
2220		3年	R
教員名	石本強、上松勝二郎、大山勉、岡田良浩、 茅野由紀、先﨑章、辻本理絵子、三井三枝子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

精神保健とは、精神的健康に関する公衆衛生であり、精神障害の予防・治療・リハビリテーションから、精神的健康の保持・増進を図るための諸活動までも含んでいる。このような精神保健の基本的視点や基礎知識を学修し、現代の精神保健の意義や課題を考える。

具体的には、精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要、精神保健の視点から見た（1）家族の課題とアプローチ、（2）学校教育の課題とアプローチ（3）勤労者の課題とアプローチ（4）現代社会の課題とアプローチ、精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割、地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題、精神保健に関する専門職種（保健師等）と国・都道府県・市町村・団体等の役割及び連携、諸外国の精神保健活動の現状及び対策を学ぶ。

学修内容

1	現代社会と精神保健、精神保健の意義と課題　　WHO 日本調査、改革ビジョン、健康日本21、健康指標、DALY、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、第1～3次予防、ライフサイクル、エリクソン
2	ライフサイクルにおける精神保健、乳幼児期、学童期 乳幼児の現状、エリクソンの発達課題、ピアジェ、子育て負担と子育て支援、DV、虐待、いじめ、不登校、学級崩壊
3	ライフサイクルにおける精神保健、思春期、青年期 思春期の課題・問題と対応、アイデンティティ、性意識、自傷、家庭内暴力、非行、青年と危機、自我同一性の拡散
4	ライフサイクルにおける精神保健、成人期 30 代の危機、下流社会、生活習慣病、うつ病、自殺、職場・地域における精神保健
5	ライフサイクルにおける精神保健、老年期、認知症について 老化と精神保健、老人虐待、認知症対策、認知症の予防、保健・医療・福祉の連携、権利擁護、若年認知症対策
6	わが国の精神障害対策　　精神科医療対策の歴史・変遷、精神科病院の現状、社会復帰・福祉対策の展開、障害者総合支援法（旧・障害者自立支援法）下での各種障害者福祉サービス、当事者活動
7	アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策について アルコール依存症の特徴・精神症状、治療、家族支援、社会的問題、各種薬物の種類と特徴、薬物乱用防止対策
8	思春期の精神保健対策 異文化との共存、行動と規範意識、社会背景、精神保健システムの構築、大人がすべきこと
9	地域精神保健活動、こころの健康づくり、司法精神保健福祉対策 こころの病、障害学、ICF、こころの健康づくり、医療観察法の概要・入院処遇・通院処遇
10	緩和ケアと精神保健、精神保健における技法・カウンセリングやケアについて クオリティ・オブ・ライフ、トータルペイン、実存的苦痛、苦痛のマネジメント、チーム医療、家族・遺族のケア
11	家庭における精神保健、学校における精神保健 少子高齢社会、育児支援、児童虐待防止、学校現場の様相、いじめ、発達障害、各種機関との連携
12	地域精神保健の現状と課題、精神保健福祉に関する調査研究 日本の精神保健施策、地域精神保健活動の実際、各種関係法規・施策、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、実態調査
13	メンタルヘルスの諸課題における関連専門職種の役割と連携 精神保健福祉士の役割、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー、保健専門職の役割、連携のあり方
14	世界の精神保健　　健康と医療における格差、DALY、世界的に重要なメンタルヘルスの問題 世界の精神科医療サービスと精神科病院、WHO の勧告、精神保健の流れ、保健医療改革の動向
15	これまでの精神保健学の学修内容をまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 ライフサイクルにおける精神保健について述べよ。

＜ポイント＞

精神保健の概要を踏まえ、教科書に挙げられているライフサイクル（ライフステージ）のいくつかを取り上げて、精神保健の重要性をまとめること。

【設題2】 精神保健における個別課題の取り組みについて述べよ。

＜ポイント＞

我が国の精神保健における個別対策の一つを取り上げて考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．認知症高齢者対策について

＜ポイント＞

認知症の原因や症状、特徴をふまえ、特に保健・医療・福祉の連携やネットワークの点に留意し論述を展開すること。

2．アルコール関連問題について

＜ポイント＞

アルコール依存症の特徴・精神症状、治療（含、心理教育治療、断酒会）、家族支援、最近の社会的問題について述べる。

3．世界の精神保健の現状について

＜ポイント＞

健康と医療における格差、メンタルヘルス・精神科医療サービス、WHOの勧告、保健医療改革の動向も含めて述べる。

4．思春期精神保健対策について

＜ポイント＞

ライフサイクルにおける思春期の特徴や社会的背景について述べた上で、思春期の各種問題と対応について展開すること。

5．地域での精神保健施策の現状と課題について

＜ポイント＞

日本の精神保健施策、障害者総合支援法（旧・障害者自立支援法）下での地域精神保健活動の実際も含めて述べること。

6．現代社会の精神保健学的な課題と対策について

＜ポイント＞

（1）総論的に各種問題を列挙して述べるか、（2）ある課題一つを取り上げて深く掘り下げて論述する。

教科書

(平成23年度までの配本)

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会

『精神保健福祉士養成セミナー第2巻　精神保健学』へるす出版。

(平成24年度以降の配本)

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集

『新版精神保健福祉士養成セミナー第2巻　精神保健学―精神保健の課題と支援』へるす出版。

参考文献

なし

※社会福祉学科・保育児童学科

登録する資格課程により、履修する科目が異なりますので、『履修登録』をよく確認してください。

科目コード	精神保健学（４単位）	登録年次	履修方法
2223/2226/2229		３年/２年/１年	ＳＲ
教員名	石本強、上松勝二郎、大山勉、岡田良浩、茅野由紀、 先﨑章、谷口卓、辻本理絵子、三井三枝子		
履修可能な学科	社福※　保育※　教育　心理		

科目概要

精神保健とは、精神的健康に関する公衆衛生であり、精神障害の予防・治療・リハビリテーションから、精神的健康の保持・増進を図るための諸活動までも含んでいる。このような精神保健の基本的視点や基礎知識を学修し、現代の精神保健の意義や課題を考える。

具体的には、精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要、精神保健の視点から見た（1）家族の課題とアプローチ、（2）学校教育の課題とアプローチ（3）勤労者の課題とアプローチ（4）現代社会の課題とアプローチ、精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割、地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題、精神保健に関する専門職種（保健師等）と国・都道府県・市町村・団体等の役割及び連携、諸外国の精神保健活動の現状及び対策を学ぶ。

学修内容

1	現代社会と精神保健、精神保健の意義と課題　　WHO 日本調査、改革ビジョン、健康日本21、健康指標、DALY、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、第１～３次予防、ライフサイクル、エリクソン
2	ライフサイクルにおける精神保健、乳幼児期、学童期 乳幼児の現状、エリクソンの発達課題、ピアジェ、子育て負担と子育て支援、DV、虐待、いじめ、不登校、学級崩壊
3	ライフサイクルにおける精神保健、思春期、青年期 思春期の課題・問題と対応、アイデンティティ、性意識、自傷、家庭内暴力、非行、青年と危機、自我同一性の拡散
4	ライフサイクルにおける精神保健、成人期 30 代の危機、下流社会、生活習慣病、うつ病、自殺、職場・地域における精神保健
5	ライフサイクルにおける精神保健、老年期、認知症について 老化と精神保健、老人虐待、認知症対策、認知症の予防、保健・医療・福祉の連携、権利擁護、若年認知症対策
6	わが国の精神障害対策　　精神科医療対策の歴史・変遷、精神科病院の現状、社会復帰・福祉対策の展開、障害者総合支援法（旧・障害者自立支援法）下での各種障害者福祉サービス、当事者活動
7	アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策について アルコール依存症の特徴・精神症状、治療、家族支援、社会的問題、各種薬物の種類と特徴、薬物乱用防止対策
8	思春期の精神保健対策 異文化との共存、行動と規範意識、社会背景、精神保健システムの構築、大人がすべきこと
9	地域精神保健活動、こころの健康づくり、司法精神保健福祉対策 こころの病、障害学、ICF、こころの健康づくり、医療観察法の概要・入院処遇・通院処遇
10	緩和ケアと精神保健、精神保健における技法・カウンセリングやケアについて クオリティ・オブ・ライフ、トータルペイン、実存的苦痛、苦痛のマネジメント、チーム医療、家族・遺族のケア
11	家庭における精神保健、学校における精神保健 少子高齢社会、育児支援、児童虐待防止、学校現場の様相、いじめ、発達障害、各種機関との連携
12	地域精神保健の現状と課題、精神保健福祉に関する調査研究 日本の精神保健施策、地域精神保健活動の実際、各種関係法規・施策、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、実態調査
13	メンタルヘルスの諸課題における関連専門職種の役割と連携 精神保健福祉士の役割、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー、保健専門職の役割、連携のあり方
14	世界の精神保健　　健康と医療における格差、DALY、世界的に重要なメンタルヘルスの問題 世界の精神科医療サービスと精神科病院、WHO の勧告、精神保健の流れ、保健医療改革の動向
15	これまでの精神保健学の学修内容をまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 ライフサイクルにおける精神保健について述べよ。

＜ポイント＞

精神保健の概要を踏まえ、教科書に挙げられているライフサイクル（ライフステージ）のいくつかを取り上げて、精神保健の重要性をまとめること。

【設題2】 精神保健における個別課題の取り組みについて述べよ。

＜ポイント＞

我が国の精神保健における個別対策の一つを取り上げて考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．認知症高齢者対策について

＜ポイント＞

認知症の原因や症状、特徴をふまえ、特に保健・医療・福祉の連携やネットワークの点に留意し論述を展開すること。

2．アルコール関連問題について

＜ポイント＞

アルコール依存症の特徴・精神症状、治療（含、心理教育治療、断酒会）、家族支援、最近の社会的問題について述べる。

3．世界の精神保健の現状について

＜ポイント＞

健康と医療における格差、メンタルヘルス・精神科医療サービス、WHOの勧告、保健医療改革の動向も含めて述べる。

4．思春期精神保健対策について

＜ポイント＞

ライフサイクルにおける思春期の特徴や社会的背景について述べた上で、思春期の各種問題と対応について展開すること。

5．地域での精神保健施策の現状と課題について

＜ポイント＞

日本の精神保健施策、障害者総合支援法（旧・障害者自立支援法）下での地域精神保健活動の実際も含めて述べること。

6．現代社会の精神保健学的な課題と対策について

＜ポイント＞

（1）総論的に各種問題を列挙して述べるか、（2）ある課題一つを取り上げて深く掘り下げて論述する。

教科書

（平成23年度までの配本）

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会

『精神保健福祉士養成セミナー第2巻　精神保健学』へるす出版。

（平成24年度以降の配本）

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集

『新版精神保健福祉士養成セミナー第2巻　精神保健学―精神保健の課題と支援』へるす出版。

参考文献

なし

科目コード	精神保健学（２単位）	登録年次	履修方法
2227/2228		３年/１年	R/SR
教員名	石本強、上松勝二郎、大山勉、岡田良浩、 茅野由紀、先﨑章、谷口卓、辻本理絵子、三井三枝子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

精神保健とは、精神的健康に関する公衆衛生であり、精神障害の予防・治療・リハビリテーションから、精神的健康の保持・増進を図るための諸活動までも含んでいる。このような精神保健の基本的視点や基礎知識を学修し、現代の精神保健の意義や課題を考える。

具体的には、精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要、精神保健の視点から見た（1）家族の課題とアプローチ、（2）学校教育の課題とアプローチ（3）勤労者の課題とアプローチ（4）現代社会の課題とアプローチ、精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割、地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題、精神保健に関する専門職種（保健師等）と国・都道府県・市町村・団体等の役割及び連携、諸外国の精神保健活動の現状及び対策を学ぶ。

学修内容

1	現代社会と精神保健、精神保健の意義と課題　　WHO 日本調査、改革ビジョン、健康日本 21、健康指標、DALY、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、第１～３次予防、ライフサイクル、エリクソン
2	ライフサイクルにおける精神保健、乳幼児期、学童期 乳幼児の現状、エリクソンの発達課題、ピアジェ、子育て負担と子育て支援、DV、虐待、いじめ、不登校、学級崩壊
3	ライフサイクルにおける精神保健、思春期、青年期 思春期の課題・問題と対応、アイデンティティ、性意識、自傷、家庭内暴力、非行、青年と危機、自我同一性の拡散
4	ライフサイクルにおける精神保健、成人期 30 代の危機、下流社会、生活習慣病、うつ病、自殺、職場・地域における精神保健
5	ライフサイクルにおける精神保健、老年期、認知症について 老化と精神保健、老人虐待、認知症対策、認知症の予防、保健・医療・福祉の連携、権利擁護、若年認知症対策
6	わが国の精神障害対策　　精神科医療対策の歴史・変遷、精神科病院の現状、社会復帰・福祉対策の展開、障害者総合支援法（旧・障害者自立支援法）下での各種障害者福祉サービス、当事者活動
7	アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策について アルコール依存症の特徴・精神症状、治療、家族支援、社会的問題、各種薬物の種類と特徴、薬物乱用防止対策
8	思春期の精神保健対策 異文化との共存、行動と規範意識、社会背景、精神保健システムの構築、大人がすべきこと
9	地域精神保健活動、こころの健康づくり、司法精神保健福祉対策 こころの病、障害学、ICF、こころの健康づくり、医療観察法の概要・入院処遇・通院処遇
10	緩和ケアと精神保健、精神保健における技法・カウンセリングやケアについて クオリティ・オブ・ライフ、トータルペイン、実存的苦痛、苦痛のマネジメント、チーム医療、家族・遺族のケア
11	家庭における精神保健、学校における精神保健 少子高齢社会、育児支援、児童虐待防止、学校現場の様相、いじめ、発達障害、各種機関との連携
12	地域精神保健の現状と課題、精神保健福祉に関する調査研究 日本の精神保健施策、地域精神保健活動の実際、各種関係法規・施策、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、実態調査
13	メンタルヘルスの諸課題における関連専門職種の役割と連携 精神保健福祉士の役割、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー、保健専門職の役割、連携のあり方
14	世界の精神保健　　健康と医療における格差、DALY、世界的に重要なメンタルヘルスの問題 世界の精神科医療サービスと精神科病院、WHO の勧告、精神保健の流れ、保健医療改革の動向
15	これまでの精神保健学の学修内容をまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 ライフサイクルにおける精神保健について述べよ。

＜ポイント＞

精神保健の概要を踏まえ、教科書に挙げられているライフサイクル（ライフステージ）のいくつかを取り上げて、精神保健の重要性をまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．認知症高齢者対策について

＜ポイント＞

認知症の原因や症状、特徴をふまえ、特に保健・医療・福祉の連携やネットワークの点に留意し論述を展開すること。

2．アルコール関連問題について

＜ポイント＞

アルコール依存症の特徴・精神症状、治療（含、心理教育治療、断酒会）、家族支援、最近の社会的問題について述べる。

3．世界の精神保健の現状について

＜ポイント＞

健康と医療における格差、メンタルヘルス・精神科医療サービス、WHOの勧告、保健医療改革の動向も含めて述べる。

4．思春期精神保健対策について

＜ポイント＞

ライフサイクルにおける思春期の特徴や社会的背景について述べた上で、思春期の各種問題と対応について展開すること。

5．地域での精神保健施策の現状と課題について

＜ポイント＞

日本の精神保健施策、障害者総合支援法（旧・障害者自立支援法）下での地域精神保健活動の実際も含めて述べること。

6．現代社会の精神保健学的な課題と対策について

＜ポイント＞

（1）総論的に各種問題を列挙して述べるか、（2）ある課題一つを取り上げて深く掘り下げて論述する。

教科書

(平成23年度までの配本)

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会

『精神保健福祉士養成セミナー第2巻　精神保健学』へるす出版。

(平成24年度以降の配本)

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集

『新版精神保健福祉士養成セミナー第2巻　精神保健学―精神保健の課題と支援』へるす出版。

参考文献

なし

科目コード	精神保健福祉演習Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
5260		2年	SR
教員名	上松勝二郎、大山勉、小笠原眞紀、神谷恭子、茅野由紀、黒木豊域、小金澤嘉 谷口恵子、辻本理絵子、辻築久子、中澤由美子、藤島薫、三野宏治、森田和美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

精神保健福祉演習Ⅰは、精神保健福祉演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと連続して学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。

精神保健福祉演習Ⅰは、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む。）を活用し、ソーシャルワークの過程を通した援助、個別面接、グループワークの展開やリハビリテーションプログラムの実践、また社会福祉調査や普及啓発活動といった間接的なソーシャルワーク実践について総合的にその技術を習得する。また、すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する方法を学ぶ。

精神保健福祉演習Ⅰが終了した時点で、精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、取り巻く状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識・技術・価値）の基礎を獲得することが期待される。

学修内容

1	オリエンテーション ＜ポイント＞学習目標の明確化と規範・個人の役割の確認。
2	医療機関における事例①：ソーシャルワークの過程を通した援助（インテーク、アセスメント、プランニングの実践） ＜ポイント＞事例を用いて、インテーク、アセスメント、プランニングを模擬的に実践し、ポイントをまとめる。
3	医療機関における事例②：ソーシャルワークの過程を通した援助（支援の実施と終結を踏まえ、モニタリング、事後評価の実施、アフターケア方法の検討） ＜ポイント＞事例を用いて、ソーシャルワーク展開過程のモニタリング、事後評価を模擬的に実践し、援助の展開に必要なことをまとめる。適切なアフターケアの方法を検討する。
4	産業・労働分野における事例：個別面接 ＜ポイント＞ソーシャルワークの面接技術に基づき、個別面接を模擬的に実践し、ポイントをまとめる。
5	高齢者福祉施設における事例：グループワークの展開 ＜ポイント＞事例を使い、グループワークの展開に基づき、グループワーク計画を模擬的に立案する。
6	教育機関における事例：ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメント ＜ポイント＞事例を基に、学校内における支援会議の方法の検討しポイントをまとめる。
7	デイケアにおける事例：リハビリテーションプログラムの実施 ＜ポイント＞リハビリテーションの要素を振り返り、リハビリテーションプログラムの計画を模擬的に立案する。
8	社会福祉協議会の事例①：アウトリーチ、コミュニティソーシャルワークの展開 ＜ポイント＞　事例をもとに、アウトリーチの重要性をまとめる。
9	社会福祉協議会の事例②：アウトリーチ、コミュニティソーシャルワークの展開 ＜ポイント＞事例をもとにコミュニティソーシャルワーク展開に向けての準備に必要なことをまとめる。
10	社会福祉調査①：社会福祉調査の実施、計画策定、評価 ＜ポイント＞社会福祉調査の方法を振り返り、一つの地域で社会福祉調査を実施する。その地域の社会福祉計画にも目を通し、計画策定に必要なことをまとめる。
11	社会福祉調査②：資源創出と政策提言 ＜ポイント＞社会福祉調査を実施した地域における資源創出と政策提言の在り方を検討する。
12	障害福祉サービス事業所における事例：普及啓発活動と人材育成 ＜ポイント＞事例をもとに、普及啓発活動と人材育成の計画を立案する。
13	記録①：個別支援記録、業務（日誌・月報等）の記録作成 ＜ポイント＞ソーシャルワーク専門職の記録の意義と専門職としての記録の書き方を振り返り、記録を模擬的に作成する。
14	記録②：公文書作成、スーパービジョンのためのレポート作成 ＜ポイント＞ソーシャルワーク専門職の記録の意義と専門職としての記録の書き方を振り返り、記録を模擬的に作成する。
15	まとめ：精神保健福祉士の専門性 ＜ポイント＞精神保健福祉士の専門性（知識・技術・価値）とは何か振り返り、言語化する。また自己を振り返り専門性を身につけるための課題を明確化する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】 ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性について述べよ。

＜ポイント＞
ソーシャルワークとは何かを踏まえ、精神保健福祉士の専門性の３つの要素（知識・技術・価値）のそれぞれの意味と内容についてまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取る方法について述べよ。
＜ポイント＞
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の特徴に基づき、ソーシャルワークの面接技術についてまとめる。

2． 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のアセスメントについて述べる。
＜ポイント＞
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の特徴に基づき、取り巻く状況や環境を含めて理解し、ニーズを見出す際のポイントをまとめる。

3． ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメントについて述べよ。
＜ポイント＞
ケア会議においてコーディネーターとして大切にするべきポイントをまとめる。

4． 社会福祉調査について述べよ。
＜ポイント＞
社会福祉調査の種類、方法についてまとめ、社会福祉調査の意義についても触れる。

5． コミュニティソーシャルワークについて述べよ。
＜ポイント＞
コミュニティソーシャルワークとは何か、その展開のために必要なことは何かについてまとめる。

6．ソーシャルワーク専門職の記録について述べよ。
＜ポイント＞
ソーシャルワーク専門職の各種記録と、記録の記載方法、取り扱い方法において大切にするべきポイントをまとめる。

教科書

一般社団法人日本ソーシャルワーク学校教育連携編集
『最新　精神保健福祉士養成講座７　ソーシャルワーク演習（精神専門）』中央法規。

参考文献

「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編『はじめてのソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房。

科目コード	精神保健福祉演習Ⅱ（2単位）	登録年次	履修方法
5270		3年	SR
教員名	上松勝二郎、大山勉、小笠原眞紀、神谷恭子、茅野由紀、黒木豊域、小金澤嘉 谷口恵子、辻本理絵子、辻築久子、中澤由美子、藤島薫、三野宏治、森田和美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

精神保健福祉演習Ⅱは、ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱにおいて、「ソーシャルワークの基礎」「ソーシャルワークの展開」を学んだ後に位置づけられる科目で、精神保健福祉演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと連続して学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。

精神保健福祉演習Ⅱは、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む。）を活用し、精神保健及び精神障害者に関する法律、障害者基本法、また障害者総合支援法をはじめとする各種法制度の運用について実践的に学習する。また精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む。）を用いて、医療機関、障害福祉サービス事業や行政機関等、関連する専門職について実践的に学ぶ。さらに、すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する方法を学ぶ。

精神保健福祉演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。

①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。

②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。

学修内容

1	オリエンテーション ＜ポイント＞学習目標の明確化と規範・個人の役割の確認。
2	医療機関における事例（受診・受療・課題発見、退院支援、地域移行支援）：精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の理解と活用 ＜ポイント＞精神科医療機関において理解するべき精神保健福祉法について振り返り、実践の場で活用できるようになる。
3	障害福祉サービス事業所における事例（地域生活支援）：障害者基本法、障害者総合支援法の理解と活用 ＜ポイント＞障害者基本法の理念を理解し、地域生活支援で活用できる障害者総合支援法の内容をまとめる。
4	行政機関における事例：障害者差別解消法、障害者虐待防止法の理解と活用 ＜ポイント＞障害者差別解消法と障害者虐待防止法について法律の内容を理解し、実践的に活用できるようになる。
5	司法分野における事例：医療観察法の理解 ＜ポイント＞医療観察法の内容を理解し、精神保健福祉士としてかかわる場面を認識する。
6	行政機関における事例：生活保護制度、障害年金制度、各種手当の理解と活用 ＜ポイント＞生活保護制度、障害年金制度、その他クライエントが利用できる各種手当についてまとめ、説明できるようになる。
7	産業・労働分野の事例（職場ストレス、リワーク支援、就労（雇用）支援）：障害者雇用促進法、労働安全衛生法の理解と活用 ＜ポイント＞障害者雇用促進法、労働安全衛生法について理解し、実践的に活用できるようになる。
8	高齢者福祉施設における事例：介護保険法、老人福祉法、高齢者虐待防止法の理解と活用 ＜ポイント＞介護保険法、老人福祉法、高齢者虐待防止法について理解し、実践的に活用できるようになる。また精神保健福祉士としての関わりについて考察する。
9	児童分野における事例（児童虐待への対応）：児童福祉法、児童虐待防止法の理解と活用 ＜ポイント＞児童虐待への対応において必要となる児童福祉法、児童虐待防止法について理解し、精神保健福祉士としての関わりについて考察する。
10	アルコール依存、ギャンブル依存等の予防や回復に関する事例：アルコール健康障害対策基本法の理解と活用、当事者活動の理解と専門職としての関わり方 ＜ポイント＞依存症の特徴について理解するとともに、アルコール健康障害対策基本法について理解する、また、当事者活動における専門職としての関わり方についてまとめる。
11	薬物依存の予防や回復に関する事例：刑の一部執行猶予制度、覚せい剤取締法の理解と活用 ＜ポイント＞刑の一部執行猶予制度、覚せい剤取締法について理解し、実践的に活用できるようになる。
12	自殺対策に関する事例：自殺防止対策基本法の理解 ＜ポイント＞日本における自殺の現状を知り、自殺防止対策基本法について説明できるようになる。

13	貧困、低所得、ホームレス支援に関する事例：居住支援制度、生活困窮者自立支援制度の理解と活用 ＜ポイント＞日本におけるホームレスの現状を理解し、居住支援制度、生活困窮者自立支援制度を理解し、実践的に活用できるようになる。
14	自立支援協議会における事例：チーム連携、コーディネート役の理解と実践 ＜ポイント＞自立支援協議会の意義を理解し、チーム連携におけるポイント、コーディネート役に必要なことを理解する。
15	まとめ ＜ポイント＞自己評価の言語化と課題の明確化。精神保健福祉演習Ⅱでの学びを振り返り、精神保健福祉演習Ⅲに向けた自己課題をまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】 本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際に必要な要素について述べよ。

＜ポイント＞

精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割について触れ、それら関係者をコーディネートしながら、本人中心のチーム連携の在り方について述べる。また、コーディネート役として求められていることにも触れる。

科目終了試験学修のポイント

1．精神科医療機関で働く精神保健福祉士として理解しておくべき精神保健及び精神障害者福祉に関する法律のポイントを述べよ。

＜ポイント＞

精神保健福祉法について理解をしておくことで、患者の権利擁護につながることもある、それを踏まえ、精神保健福祉法のポイントをまとめる。

2． 障害者総合支援法について述べよ。

＜ポイント＞

クライエントが法律に基づくサービスを利用する際に、専門職として理解しておくべきポイントを考えそれらをまとめる。

3．介護保険法について述べよ。

＜ポイント＞

クライエントが法律に基づくサービスを利用する際に、専門職として理解しておくべきポイントを考えそれらをまとめる。

4．障害者虐待防止法について述べよ。

＜ポイント＞

障害者虐待防止法の意義と精神保健福祉士として理解しておくべきポイントをまとめる。

5．医療観察法について述べよ。

＜ポイント＞

医療観察法のポイントを説明し、地域や医療機関で働く精神保健福祉士として理解しておくべきポイントをまとめる。

6．障害者雇用促進法について述べよ。

＜ポイント＞

障害者の雇用促進法のポイントをまとめ、これが障害者の就労支援にどのように役立つのかについても触れる。

教科書

一般社団法人日本ソーシャルワーク学校教育連携編集

『最新　精神保健福祉士養成講座7　ソーシャルワーク演習（精神専門）』中央法規。

参考文献

「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編『はじめてのソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房。

科目コード	精神保健福祉演習Ⅲ（2 単位）	登録年次	履修方法
5280		4 年	ＳＲ
教員名	上松勝二郎、大山勉、小笠原眞紀、神谷恭子、茅野由紀、黒木豊域、小金澤嘉 谷口恵子、辻本理絵子、辻築久子、中澤由美子、藤島薫、三野宏治、森田和美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

精神保健福祉演習Ⅲは、ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱにおいて、「ソーシャルワークの基礎」「ソーシャルワークの展開」を学んだ後に位置づけられる科目で、精神保健福祉演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと連続して学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。

精神保健福祉演習Ⅲは、精神保健福祉援助の事例（集団に関する事例を含む。）を活用し、社会的排除や社会的孤立、退院支援や地域移行支援、地域生活支援、加えて自殺対策やひきこもり支援といった社会的課題へのアプローチについて実践的に学習するとともに、そのような支援を展開するために求められる職業倫理や職責、専門性の特質について考察を深める。

精神保健福祉演習Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。

①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去した共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。

②精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。

学修内容

1	オリエンテーション ＜ポイント＞学習目標の明確化と規範・個人の役割の確認。
2	社会的排除・社会的孤立に関する事例①：社会的排除・社会的孤立が存在する社会状況についての考察 ＜ポイント＞精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人に焦点をあてて、社会的排除・社会的孤立の状況とそれらが存在する社会の在り方についてまとめる。
3	社会的排除・社会的孤立に関する事例②：共生社会を実現するための活動（政策・制度への働きかけ、地域住民への働きかけ）の検討 ＜ポイント＞社会的排除・社会的孤立がなくなるための方法としての共生社会実現のためには、政策・制度への働きかけとともに、地域住民への働きかけがもとめられる。それらを実現するためのポイントをまとめる。
4	退院支援・地域移行支援・地域生活支援の事例：退院支援から、地域生活支援までの流れの実践 ＜ポイント＞退院支援から、地域移行支援、地域生活支援の活用できる制度について理解し、精神保健福祉士として大切にするべきポイントを理解する。
5	ひきこもり支援の事例①：ひきこもりに関する社会状況についての考察 ＜ポイント＞日本社会のひきこもりについての状況を理解する。
6	ひきこもり支援の事例②：支援の展開、政策・制度への働きかけの検討 ＜ポイント＞ひきこもりに対する支援の展開と、ひきこもりへのサポートとしてどのような政策や制度が求められるか考察する。
7	家族支援に関する事例①：家族の現状及び家族支援に関する社会状況についての考察 ＜ポイント＞家族支援が必要な日本の社会状況について理解する。
8	家族支援に関する事例②：家族を含めた支援の展開、政策・制度への働きかけの検討 ＜ポイント＞家族支援において大切にするべきこと、また支援が十分ではない家族支援の充実のために制作・制度への働きかけはどうあるべきか検討する。
9	災害被災者に関する事例①：災害支援における精神保健福祉士の役割についての考察 ＜ポイント＞災害支援において精神保健福祉士として、何が求められているかまとめる。
10	災害被災者支援に関する事例②：災害支援における支援の展開の実践 ＜ポイント＞災害支援の現場において、精神保健福祉士としてどのように支援を展開できるか考察する。
11	医療観察法に関する事例①：犯罪被害者支援、触法精神障害者支援についての理解と啓発活動を含めた地域住民への働きかけの検討 ＜ポイント＞犯罪被害者支援と触法精神障害者支援の日本社会の現状を理解するとともにそれらを充実させるために、何ができるかを考える。

12	医療観察法に関する事例②：犯罪被害者支援、触法精神障害者支援での精神保健福祉士の役割、支援の検討 ＜ポイント＞犯罪被害者支援と触法精神障害者支援において、精神保健福祉士の役割について論じる。
13	精神保健福祉士として行動するための基盤の検討 ＜ポイント＞　精神保健福祉士として行動するたに基盤となることをまとめる。
14	精神保健福祉士としての職業アイデンティティについての検討 ＜ポイント＞精神保健福祉士としての職業アイデンティティを言語化できるようになる。
15	まとめ ＜ポイント＞自己評価の言語化と課題の明確化。精神保健福祉演習Ⅱでの学びを振り返り、精神保健福祉演習Ⅲに向けた自己課題をまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】精神保健福祉専門職としての行動の基盤と職業アイデンティティについて述べよ。

＜ポイント＞

精神保健福祉専門職として何を大切に行動するべきか、実践拠り所とするべきものを挙げそれらについて説明する。さらに、職業アイデンティティについて述べる。

科目終了試験学修のポイント

1．精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人への差別や偏見について現在の日本社会の状況を踏まえ述べよ。

＜ポイント＞

データや、ニュースをもとに、現在の日本社会の状況について論じる。

2．共生社会実現のための政策・制度への働きかけと関係行政や地域住民への働きかけについて述べよ。

＜ポイント＞

共生社会を実現させるためには、どのように政策・制度に働きかけるべきか、また地域住民へ働きかける際に大切にするべき要素について触れる。

3．　ひきこもり支援の現状について述べよ。

＜ポイント＞

現在の日本社会におけるひきこもりへの支援の状況について述べ、何が求められているか論じる。

4．　家族支援の現状について述べよ。

＜ポイント＞

現在の日本社会における家族支援の現状について述べ、何が求められているか論じる。

5．　災害被災者支援について述べよ。

＜ポイント＞

災害被災者支援において大切な要素、また精神保健福祉士の役割について論じる。

6．触法精神障害者支援について述べよ。

＜ポイント＞

触法精神障害者支援において大切な要素また、精神保健福祉士の役割について論じる。

教科書

一般社団法人日本ソーシャルワーク学校教育連携編集

『最新　精神保健福祉士養成講座7　ソーシャルワーク演習（精神専門）』中央法規。

参考文献

「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編『はじめてのソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房。

科目コード	精神保健福祉援助演習（２単位）	登録年次	履修方法
5070/5071		３年	ＳＲ
教員名	上松勝二郎、神谷恭子、黒木豊域、谷口恵子、 辻本理絵子、辻築久子、中村淑子、藤島薫		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により、個別指導及び集団指導を通し、学生自身が積極的に報告し合う形で事例研究及びロールプレイ等を行う。

学修内容

1	教科書の対応については、平成23年度までの配本＝（1）　平成24年度以降の配本＝（2）とする。 （1）：第１章　Ⅰ演習課題と到達目標 （2）：【基礎編】序章、第１章　精神保健福祉援助演習の目的、　【基礎編】第２章　専門職としての相談援助の基盤
2	（1）：第１章　Ⅱ演習課題と展開方法 （2）：【基礎編】第３章　保健福祉援助演習の方法　＜学修のポイント１＞
3	（1）：第２章　イントロダクション＜事例検討の意図＞、Ⅰ保健医療施設等のおけるケースワーク ［レポート設題１］＜学修のポイント１＞ （2）：【基礎編】第４章：基本的援助方法の理解　＜学修のポイント１、２、３、４、５＞
4	（1）：第２章　Ⅰ保健医療施設等のおけるケースワーク　［レポート設題１］＜学修のポイント１＞ （2）：【基礎編】付章　自己理解を深める―演習実践に備えて
5	（1）：第２章　Ⅱ社会復帰施設等におけるケースワーク　［レポート設題１］＜学修のポイント１＞ （2）：【実践編】序章　事例を活用した演習の実践に向けて
6	（1）：第３章　イントロダクション＜事例検討の意図＞、Ⅰ保健医療施設等におけるグループワーク ［レポート設題１］＜学修のポイント２＞ （2）：【実践編】第１章　援助過程に沿った事例展開の実際
7	（1）：第３章　Ⅰ保健医療施設等におけるグループワーク　［レポート設題１］＜学修のポイント２＞ （2）：【実践編】第２章　　Ⅰ社会的排除、Ⅱ退院支援・地域移行　［レポート設題１］
8	（1）：第３章　Ⅱ社会復帰施設等におけるグループワーク　［レポート設題１］＜学修のポイント２＞ （2）：【実践編】第２章　　Ⅲ地域生活支援、　Ⅳひきこもり・家族支援　［レポート設題１］
9	（1）：第３章　Ⅲセルフヘルプグループとグループワーク　［レポート設題１］＜学修のポイント２＞ （2）：【実践編】第２章　　Ⅴ児童虐待、　Ⅵアルコール依存症の回復途上における支援　［レポート設題１］
10	（1）：第４章　イントロダクション＜事例検討の意図＞、Ⅰ医療保険施設等におけるコミュニティワーク ［レポート設題１］＜学修のポイント３＞ （2）：【実践編】第２章　　Ⅶ認知症、　Ⅷ就労・雇用　［レポート設題１］
11	（1）：第４章　Ⅱ社会復帰施設等におけるコミュニティワーク　［レポート設題１］＜学修のポイント３＞ （2）：【実践編】第２章　　Ⅸホームレス、　Ⅹ精神科デイケア　［レポート設題１］
12	（1）：第４章　Ⅲ地域組織化とコミュニティワーク　［レポート設題１］＜学修のポイント３＞ （2）：【実践編】第３章　　ⅩⅠ危機状態にある精神障害者への支援、　ⅩⅡピアサポート　［レポート設題１］
13	（1）：第５章　イントロダクション＜事例検討の意図＞、Ⅰチームアプローチによる援助 ［レポート設題１］＜学修のポイント４＞ （2）：【実践編】第３章　　Ⅰアウトリーチ、Ⅱケアマネジメント、　Ⅲチームアプローチとネットワーキング ［レポート設題１］＜学修のポイント６＞
14	（1）：第５章　Ⅱケアマネジメントによる援助　［レポート設題１］＜学修のポイント５＞ （2）：【実践編】第３章　　Ⅳ社会資源の活用・整備・開発、　Ⅴ－１サービス評価、　Ⅴ－２地域福祉計画 ［レポート設題１］
15	（1）：第５章　Ⅲソーシャルサポート・ネットワークによる援助　［レポート設題１］＜学修のポイント６＞ （2）：【実践編】第４章　まとめ―実習を体験して

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】教科書から事例を1題選び、事例末に記載されている課題の中から自分が関心のある課題を1～3つ選び論述せよ。

＜ポイント＞

事例を熟読し、十分に分析した上で、課題に取り組む事。その時に、課題に沿いながらも自分なりの分析の切り口を定めて論述することが必要である。

科目終了試験学修のポイント

精神保健福祉援助演習は精神保健福祉援助技術各論など、他の科目で学んだ知識や技術を「演ずる」ことによってさらに身につけようとする科目である。したがって他の科目で学んだ内容の応用とも言える。

科目終了試験では、他の科目で学んだ知識や技術も駆使して臨むことが求められる。

1．個別援助技術の実践と展開について

＜ポイント＞

・個別援助技術の構成要素、原則とともに過程について述べることが求められる。

2．集団援助技術の実践と展開について

＜ポイント＞

・集団援助技術の過程、援助媒体、原則について述べることが求められる。

3．地域援助技術の実践と展開について

＜ポイント＞

・地域援助技術の方法、家庭、原則について述べることが求められる。

4．地域ケア活動におけるチームアプローチによる援助について

＜ポイント＞

・チームアプローチの概説、必要性などが求められる。

5．地域ケア活動におけるケアマネジメントによる援助について

＜ポイント＞

・ケアマネジメントの概説、過程、原則が求められる。

6．ソーシャルサポート・ネットワークによる援助について

＜ポイント＞

・ソーシャルサポート・ネットワークの概説、必要性などが求められる。

教科書

（平成23年度までの配本）

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会

『精神保健福祉士養成セミナー第7巻　精神保健福祉援助演習』へるす出版。

（平成24年度以降の配本）

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集

『精神保健福祉士養成セミナー第7巻　精神保健福祉援助演習[基礎][専門]』へるす出版。

参考文献

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健福祉士養成セミナー第6巻　精神保健福祉援助技術各論』へるす出版。

科目コード	精神保健福祉援助演習Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
5150		3年	SR
教員名	上松勝二郎、大山勉、小笠原眞紀、神谷恭子、茅野由紀、黒木豊域、小金澤嘉 谷口恵子、辻本理絵子、辻築久子、中澤由美子、藤島薫、三野宏治、森田和美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

精神保健福祉の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

1．相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いる。

2．個別指導ならびに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げる。

学修内容

1	自己覚知 自己覚知とは何か、また精神保健福祉士としての自己覚知の意義を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
2	自己覚知 ジェノグラム、エコマップ、タイムライン等を用いて自己における理解を深める。
3	コミュニケーション コミュニケーションとは何か、コミュニケーションの過程を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
4	基本的な面接技術 面接における基本的な姿勢（傾聴、共感、距離）について理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
5	基本的な面接技術 面接における基本的応答技法（反射、言い換え、要約、明確化、受容、開いた質問、閉じた質問など）について理解し、自分のクセを把握した上で、実践できるようにする。
6	グループダイナミクス グループダイナミクスの概念を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
7	グループダイナミクス グループダイナミクスを活用したグループワークを実践する。
8	情報の収集・整理・伝達 情報の収集・整理・伝達の原則を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
9	情報の収集・整理・伝達 精神保健福祉士として、適切な情報の収集・整理・伝達の方法を身に付ける。
10	課題の発見・分析・解決 情報収集、整理したものを基に課題の発見・分析・解決に導く方法を学ぶ。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
11	記録 専門職としての記録の必要性、記録の種類。記録の方法を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
12	記録 記録作成上の留意点を理解した上で、情報を正確に伝達する記録の方法を身に付ける。
13	地域福祉の基盤整備 地域の基盤整備とは何か理解し、福祉ニーズ把握の必要性と方法を学ぶ。
14	地域福祉の基盤整備 地域の基盤整備に必要な技術（コミュニティ・アウトリーチ、コミュニティ・アセスメント、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発）について理解する。
15	地域福祉の基盤整備 事例を用いて、地域の基盤整備に関する展開を実践的に理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】自己覚知について説明するとともに、自己覚知の必要の可否、及びその理由を述べよ。

＜ポイント＞

他の科目も含めて教科書を熟読し、自己覚知に関してまとめること。また、自己知覚に関する自分の意見をまとめることが必要である。

科目終了試験学修のポイント

1．自己覚知について

＜ポイント＞

自己覚知とは何か、また、精神保健福祉士における自己覚知の意義を理解する。また、自分自身における自己覚知の意義を考察する。

2．基本的な面接技術について

＜ポイント＞

コミュニケーションの概念を理解した上で、面接における基本的応答技法（反射、言い換え、要約、明確化、受容、開いた質問、閉じた質問）について説明する。傾聴、共感といった、面接における基本的な姿勢についても言及する。

3．グループダイナミックスへの理解について

＜ポイント＞

グループダイナミクスを理解する上で必要となる概念（相互交流パターン、凝集性、規範、役割、など）を説明する。また、グループダイナミクスの理解が、グループワークを実践するうでどのように生かされるのかについても説明する。

4．情報収集、整理、伝達技術について

＜ポイント＞

情報収集、整理、伝達における原則と方法を理解し、精神保健福祉士にとっての情報収集、整理、伝達の意義を説明する。

5．記録の仕方について

＜ポイント＞

専門職としての記録の必要性を理解した上で、記録の方法（例、マッピング技法）、記録作成上の留意点について説明する。

6．地域福祉の基礎整備について

＜ポイント＞

地域の基盤整備に係る福祉ニーズ把握の必要性について理解した上で、基盤整備に必要な技術（コミュニティ・アウトリーチ、コミュニティ・アセスメント、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発）について説明する。

教科書

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集

『精神保健福祉士養成セミナー第7巻　精神保健福祉援助演習[基礎][専門]』へるす出版。

参考文献

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集

『精神保健福祉士養成セミナー第4巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』へるす出版。

科目コード	精神保健福祉援助演習Ⅱ（2単位）	登録年次	履修方法
5160		3年	SR
教員名	上松勝二郎、大山勉、小笠原眞紀、神谷恭子、茅野由紀、黒木豊域、小金澤嘉 谷口恵子、辻本理絵子、辻築久子、中澤由美子、藤島薫、三野宏治、森田和美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

1．具体的な課題別の精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む）を活用し、現実に向けた精神保健福祉課題を理解し、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。

2．事例を題材として、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。

学修内容

1	ケースワーク：インテーク~終結まで、インテークの展開過程とケースワークの原則を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』　pp. 53-57
2	ケースワーク：インテーク、アセスメントにおける留意点を理解する。
3	ケースワーク：プランニング～終結に至る支援の流れを把握する。
4	ケースワーク：事例を用いて援助の展開過程の実際を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
5	アウトリーチ：アウトリーチとは何か学んだ上で、事例を通してアウトリーチの必要性、アウトリーチの技法を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
6	ケアマネジメント：　ケアマネジメントとは何かを理解し、ケアマネジメントの過程を把握する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
7	ケアマネジメント：ケアマネジメントの基本理念と原則を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
8	ケアマネジメント：事例を通して、ケアマネジメントの過程、原則を実践的に理解し、ケアマネジメントが必要となる状況について考察する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
9	チームアプローチ：チームアプローチの必要性、チームアプローチの際に留意すべき点を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
10	ネットワーキング：ソーシャルサポートネットワーク、ネットワークのタイプについて理解する。
11	チームアプローチとネットワーキング：事例を通して、チームアプローチとネットワークの必要性について考察する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
12	社会資源の活用・調整・開発：社会資源とは何か、社会資源の活用と開拓の方法について理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
13	社会資源の活用・調整・開発：事例を通して社会資源の活用・調整・開発が実際にどのように行われ、支援の中でどのような意義があるのか理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
14	事例を活用した精神保健福祉の課題の把握と援助の方法 　事例を読み、それぞれの課題（社会的排除、退院支援、地域移行、地域生活支援、ひきこもり・家族支援、児童虐待）について理解し、援助の方法を学ぶ 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』
15	事例を活用した精神保健福祉の課題の把握と援助の方法 　事例を読み、それぞれの課題（アルコール依存症、認知症、就労・雇用、ホームレス、精神科デイケア、危機状態、ピアサポート）について理解し、援助の方法を学ぶ 『新版　精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉士援助演習〔基礎〕〔専門〕』

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

教科書の「実践編／第2章、第3章」から事例を 1 つ選び、事例の末に記載されている演習課題の中から1つ以上を選んで論述せよ。

＜ポイント＞

教科書の事例を熟読し、課題をよく理解した上で、他の科目で学んだ知識を応用しながら論述することが必要である。

科目終了試験学修のポイント

1．ケースワークにおける、インテークから終結に至る過程について

＜ポイント＞

ケースワークが、インテーク、アセスメント、プランニング、インターベンション、モニタリング、評価、終結の流れにそって展開されること、それぞれの段階の内容について説明する。

2．インテーク、アセスメント、プランニング、モニタリングで実施すべき内容について

＜ポイント＞

インテーク、アセスメント、プランニング、モニタリングで実施すべき内容について、特に留意点やワーカーの姿勢について明確に示す。

3．アウトリーチの意味と技法について

＜ポイント＞

アウトリーチの意味について理解した上で、アウトリーチが必要な状況について考察する。また、ニーズの掘り起し、予防、ネットワーク形成といったアウトリーチの技法について説明する。

4．精神障害者を対象としたケアマネジネントについて

＜ポイント＞

「障害者ケアガイドライン」、「精神障害者ケアガイドライン」を踏まえて、精神障害者を対象としたケアマネジメントの基本理念、原則、具体的手順について説明できる。また、なぜケアマネジメントが求められているのかについても考察する。

5．ネットワーキングについて

＜ポイント＞

ソーシャルサポートネットワークとは何か理解した上で、ネットワークのタイプ（精神障害者や家族を地域レベルで直接支援するネットワーク、市民活動レベルのネットワーク、組織的なネットワーク）を説明できる。ネットワーク形成が支援にどのような意義があるかについて述べる。

6．社会資源の活用、調整、開発方法について

＜ポイント＞

社会資源とは何か理解した上で、社会資源を活用するとはどのようなことか、また社会資源を開拓する際の原則について述べる。

教科書

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集

『精神保健福祉士養成セミナー第7巻　精神保健福祉援助演習[基礎][専門]』へるす出版。

参考文献

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集

『精神保健福祉士養成セミナー第4巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』へるす出版。

科目コード	精神保健福祉援助演習Ⅲ（２単位）	登録年次	履修方法
5170		４年	ＳＲ
教員名	上松勝二郎、大山勉、小笠原眞紀、神谷恭子、茅野由紀、黒木豊域、小金澤嘉 谷口恵子、辻本理絵子、辻築久子、中澤由美子、藤島薫、三野宏治、森田和美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、精神保健福祉援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。実習体験をもとに理論と実践を結びつけることが本科目の目的である。

学修内容

1	ソーシャルワーク理論の理解を深める① 心理社会的アプローチ
2	ソーシャルワーク理論の理解を深める② ストレングスアプローチ
3	ソーシャルワーク理論の理解を深める③ エンパワメントアプローチ
4	ソーシャルワーク理論の理解を深める④ 危機介入アプローチ
5	ソーシャルワーク理論の理解を深める⑤ 問題解決アプローチ
6	ソーシャルワーク理論の理解を深める⑥ 行動変容アプローチ
7	ソーシャルワーク理論の理解を深める⑦ 家族システムアプローチ
8	ソーシャルワーク理論の理解を深める⑧ ナラティブアプローチ
9	ソーシャルワーク理論の理解を深める⑨ リカバリーモデル
10	ソーシャルワーク理論の理解を深める⑩ ＳＳＴ／心理教育を用いたリハビリテーション
11	事例研究と理論の結合　① 実習中の体験を事例として振り返る
12	事例研究と理論の結合　② 事例から自身が学んだことを考察する
13	事例研究と理論の結合　③ 体験した事例をソーシャルワーク理論と結合し理解する
14	事例研究と理論の結合　④ 理論と実践の統合について学んだことを振り返る
15	自己覚知について 事例を作成・考察・評価するにあたり、自分自身の思考の過程や感情の発露なども併記し実習体験が自身にどのような影響を与えたかについても考察・分析する

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】ソーシャルワークの理論・アプローチを一つ選び、実習体験と結びつけて論ぜよ。

＜ポイント＞

ソーシャルワーク理論・アプローチを理解した上で、実習体験を振り返り論じることが必要である。

※３月卒業予定者で実習が１２月に実施される学生は、レポート提出期間について通信教育課まで連絡すること。

※８月卒業予定者で実習が５月に実施される学生は、レポート提出期間について通信教育課まで連絡すること。

科目終了試験学修のポイント

スクーリングを通して、下記内容を踏まえ、実習で体験した事例を１～２つ挙げてレポートを作成し、スクーリング終了後に提出する。

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

１．実習で出会った事例の特性について

＜ポイント＞

当事者の病歴や生活歴、経済的状況や家族の状況などを明らかにした上で、当事者のニーズを明確に示すこと。

２．実習で出会った事例の包括的な援助方法について

＜ポイント＞

フォーマルな支援（医療的・福祉的）とインフォーマルな支援、人的な支援と制度的支援がどのようになされているかを整理する。

３．事例研究、事例分析の意義と留意点について

＜ポイント＞

現在の支援に至る経緯に関して把握すること。経緯には当事者がおかれていた状況や社会資源の有無なども含まれる。

環境とクライエントの相互関係に注目すること。

４．文献研究と事例研究の方法について

＜ポイント＞

制度および支援機関・精神保健福祉士の役割を理解すること。

「チーム医療の一員としての相談援助職」「長期入院患者の地域移行支援を行う役割」

「地域生活支援を行いQOL向上を担う役割」「関連分野における精神保健福祉の課題に対し相談支援を行う役割」

文献研究においては精神保健福祉士が遵守すべき視点や倫理、支援を行う上での「入院中心から地域生活中心」や「リカバリー志向」あるいは「自己決定の遵守」といった概念についての理解をすすめること。

５．研究レポートの書き方（課題設定と研究方法）について

＜ポイント＞

事例の概要と支援の内容を簡潔にまとめ、当該事例の課題や自分自身の事例に対する考察を記述すること。その上で、自身の考察がどのようなエピソードや感情の発露によってのものなのかについても分析すること。

６．事例をもとにした理論と実践のインテグレート（結合）について

＜ポイント＞

事例の支援がどのような制度や人的資源によってなされているのかを整理すること。また、「入院中心から地域生活中心」や「リカバリー志向」あるいは「自己決定の遵守」といった理念がどう具現化されているのかを分析する視点をもつこと。

教科書

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集

『精神保健福祉士養成セミナー第７巻　精神保健福祉援助演習[基礎][専門]』へるす出版。

参考文献

『福祉・保育実習の手引き』。

『福祉実習の学習ガイド』。

科目コード	精神保健福祉援助技術各論（４単位）	登録年次	履修方法
5060/5061		３年	ＳＲ
教員名	上松勝二郎、神谷恭子、黒木豊域 小金澤嘉、谷口恵子、辻本理絵子、辻築久子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目は社会福祉援助技術を精神医療・保健の分野で適用するソーシャルワーク実践の理論であり、精神保健福祉士の実践に関する中心的科目である。

各論においては、障害者福祉の理念、精神保健と精神障害、精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの動向、国家資格としての精神保健福祉士の意義、ソーシャルワークの展開過程、面接技術、スーパービジョンとコンサルテーション、ケアマネジメント、チーム医療における精神保健福祉士の役割、等を理解することを目標としている。

学修内容

1	障害者福祉の理念と精神障害:ノーマライゼーション、リハビリテーション、生活の質（QOL）、自立支援、ソーシャルインクルージョン
2	精神障害者の人権:国連原則をめぐって、インフォームドコンセント、精神科医療における権利擁護、地域社会における精神障害者の人権 障害者権利条約の理念条約制定に至る道すじ、障害者権利条約の理念、今後の課題
3	精神障害及び精神障害者:精神障害の概念、国際生活機能分類、障害者福祉法に見る障害の規定
4	精神保健福祉と精神障害者福祉:精神保健福祉の概念と精神障害者福祉、精神保健福祉と精神保健福祉士 精神保健福祉の歴史と理念:治安対策と監護、医療と精神科病院収容、地域ケアと入院医療中心、地域ケアと民間活動、人権保障と社会復帰、社会参加と地域生活支援、共生社会と障害保健福祉の総合化
5	精神保健福祉の現状と展望:精神科医療の現状、地域生活支援体制の現状、精神保健福祉の展望―精神保健福祉士の課題
6	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向 ①　導入期:アメリカにおける草創期の精神科ソーシャルワーク、我が国へのPSWの導入、PSWの全国組織化、日本PSW協会の草創期の活躍　②混乱期:Y問題、組織の機能回復の時期
7	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向 ②　展開期:「精神保健法」と国家資格化の模索、国家資格の具現化　④拡大期
8	国家資格としての精神保健福祉士の意義:国家資格化前史、国家資格化野の経緯、現況、連携 神保健福祉士の専門性と倫理:Y問題の提起、精神保健福祉士の専門性、精神保健福祉士の倫理と業務
9	ソーシャルワークの展開過程受理面接（インテーク）、契約、アセスメント、支援計画、支援の実際、経過観察、支援の評価、終結 ＜学修のポイント6＞
10	ソーシャルワーク面接:面接の構造と技術、精神保健面接の特徴 個別支援:疾病および障害に配慮した個別支援、パターナリズムと自己決定の尊重、個別支援の過程、家族への個別支援、事例分析
11	グループを活用した支援:疾患および障害に配慮したグループ支援、グループ支援の展開過程、適用分野とグループ支援の特徴、セルフヘルプ・グループへの支援、家族調整・支援、事例分析　［レポート課題1］＜学修のポイント1～3＞
12	地域を対象とした支援（教科書:ノーマライゼーションの推進、地域組織化の過程とソーシャルインクルージョン、社会資源の活用と開発 災害時における精神保健福祉士の役割
13	スーパービジョンとコンサルテーション:スーパービジョンの意義と方法、コンサルテーションの意義と方法 ケアマネジメント精神障害者と障害者ケアマネジメント、障害者ケアマネジメントの基本理念、障害者ケアマネジメントの原則、障害者ケアマネジメントの過程、事例分析、障害者ケアマネジメントの課題、今後のケアマネジメントの行方―近年の相談支援体制に関する施策の動向から。　［レポート課題2］＜学修のポイント5＞
14	チーム医療における精神保健福祉士の役割:チーム医療の必要性、精神科医療機関における精神保健福祉士の役割と視点、精神科病院における精神保健福祉士の業務、精神科病院における精神保健福祉士の具体的活動 専門職の役割と機能:精神保健福祉領域における専門職の役割、精神科医師と他のスタッフとの関係、これからの専門職の課題 ＜学修のポイント4＞
15	チームアプローチおよび生活支援の理念と精神保健福祉士の役割チームアプローチ、チームリーダーの役割、チームアプローチの利点、利用者の参加、チームアプローチにおいて留意すべきこと、精神障害者を対象とする保健・医療・福祉の連携協力の課題とカンファレンスのあり方、事例分析＜学修のポイント4＞

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 精神障害者を対象とした集団援助技術について述べよ。

＜ポイント＞

精神障害者の抱える疾病及び障害の特徴を十分理解した上で、集団援助技術についてまとめることが必要である。

【設題2】 精神障害者のケアマネジメントについて述べよ。

＜ポイント＞

ケアマネジメントの発展の歴史的背景と構成要素を整理し、そして各プロセスについてまとめる。また、実施する上での留意点についても押さえることが必要である。

科目終了試験学修のポイント

1．ＳＳＴについて

＜ポイント＞

・ＳＳＴがグループワークの一技法であることを理解するとともに、基礎理論を理解し、実施上の留意点をまとめることが必要である。

2．集団援助技術の過程について

＜ポイント＞

・グループワークにおける原則を述べることは必要である。

・準備期から始まり終結期に至る過程とそれぞれのステージの解説が必要である。

3．セルフヘルプ・グループと精神保健福祉士の役割について

＜ポイント＞

・セルフヘルプ・グループに関する説明と、精神保健福祉士のかかわりが必要である。

4．チーム医療における精神保健福祉士の役割について

＜ポイント＞

・チーム医療における精神保健福祉士の業務についてまとめる必要がある。

・チームアプローチにおける留意点をまとめる必要がある。

5．ケアマネジメントのプロセスについて

＜ポイント＞

・障害者ケアマネジメントの解説とケアマネジメントをする際のプロセス、各ステージの解説が必要である。

6．個別援助技術の過程とそれぞれの内容について

＜ポイント＞

・インテークから終結に至る各ステージを明記し、それぞれについて解説することが必要である。

教科書

（平成23年度までの配本）

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会

『精神保健福祉士養成セミナー第6巻　精神保健福祉援助技術各論』へるす出版。

（平成24年度以降の配本）

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集

『精神保健福祉士養成セミナー第4巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』へるす出版。

参考文献

岩田泰夫『セルフヘルプ運動とソーシャルワーク実践』やどかり出版。

リバーマン、安西信雄『リバーマン実践的リハビリテーション』創造出版。

科目コード	精神保健福祉援助技術論（４単位）	登録年次	履修方法
5120		３年	ＳＲ
教員名	上松勝二郎、岡田良浩、茅野由紀、小金澤嘉、谷口恵子、辻本理絵子、三野宏治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

１．精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む）の展開について理解する。
２．精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。
３．精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する。
４．地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関、及び専門職との連携についての理解を含む）の実践について理解する。
５．地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について理解する。

学修内容

1	相談援助の対象者：精神保健福祉の歴史を理解したうで、精神保健福祉領域における支援対象を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー　第４巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開』
2	相談援助の過程：相談援助の展開過程（インテーク～終結）を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー　第４巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開』
3	面接技術：面接の構造、面接の技法、精神保健面接の特徴を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー　第４巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開』
4	家族への援助方法：法制度にみる精神障害者と家族を歴史的に理解し、家族支援の視点、具体的方法を知る。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー　第４巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開』
5	地域移行：地域移行の現状と、地域移行を推進する制度、施策を知る。
6	地域移行：地域移行支援の対象と地域移行の体制、精神保健福祉士の役割と多職種との連携を理解する。
7	地域移行：具体的事例を通して地域移行の流れを理解する。
8	精神科リハビリテーション：精神科リハビリテーションの概念、理念、意義と基本原則を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー　第４巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開』
9	地域を基盤にした相談援助：精神障害者の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を踏まえ、相談援助の主体と対象、体制について理解する。
10	地域を基盤にしたリハビリテーション：地域ネットワーク、地域生活支援事業、家族会、セルフヘルプグループ、精神保健福祉ボランティアの理解を踏まえ、地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方を学ぶ。
11	地域を基盤にした支援とネットワーキング：具体的事例を用いて、地域を基盤にした支援とネットワーキングについて理解する。
12	スーパービジョンとコンサルテーション：スーパービジョン、コンサルテーションそれぞれの意義、方法、展開を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー　第４巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開』
13	精神障害者のケアマネジメント：ケアマネジメントの原則、意義と方法、プロセスを学ぶ。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー　第４巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開』
14	精神障害者のケアマネジメント：具体的事例を通して、精神障害者のケアマネジメントを理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー　第４巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開』
15	地域生活を支援する包括的支援：事例を通して、地域生活を支援するために必要な包括的な支援の意義と展開を理解する。 『新版　精神保健福祉士養成セミナー　第４巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開』

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 地域を基盤とした相談援助の特徴と援助過程を述べよ。

＜ポイント＞

医療機関で実施されている相談や、入所福祉施設で入所者に対して実施される相談援助との違いを明確にし、あわせてインテークから相談の終了にいたる経過を論述することが求められる。

【設題2】 精神障害者を対象としたケアマネジメントの原則、意義、方法を述べよ。

＜ポイント＞

ケアマネジメントの発展の歴史、構成要素を整理し、介護保険法によるケアマネジメントとの違いを明確にする必要がある。

科目終了試験学修のポイント

1．相談援助の対象者、過程、面接技術について

＜ポイント＞

相談援助の対象者のとらえ方（精神障害の概念）についてふれた上で、インテークから終結に至る相談援助の過程、また関わる際に必要となる基本的な面接技術（傾聴、共感、受容、応答技法）について説明する。

2．家族への援助方法について

＜ポイント＞

精神障害者を家族に抱える困難さについて理解した上で、家族への個別支援の過程、家族に必要な支援（家族教育、家族会など）について説明する。

3．スーパービジョンとコンサルテーションについて

＜ポイント＞

スーパービジョン関係について理解した上で、スーパービジョンの機能（支持的、教育的、管理的）について説明する。コンサルテーションとスーパービジョンの違いについても明確に示す。

4．地域移行の対象及び支援体制について

＜ポイント＞

地域移行を推進する制度・施策を知り、地域移行とは何か理解した上で、地域移行の対象となるクライエントが抱える困難さについて考察する。地域移行に必要な支援体制（フォーマル、インフォーマルな資源の活用）について説明する。

5．地域を基盤にした相談援助とリハビリテーション、ネットワーキングについて

＜ポイント＞

精神科リハビリテーションの理念、基本原則を理解した上で、精神科リハビリテーションが地域を基盤に行われる意義を考察する。さらに、地域を基盤にしたリハビリテーションを行う際に必要となる地域ネットワークをとりあげ、その必要性、目的、精神保健福祉士の役割について言及する。

6．精神障害者の地域生活を包括的に支援する意義と展開方法について

＜ポイント＞

精神障害者の地域生活を包括的に支援することが必要となっている社会的背景を理解した上で、ソーシャルインクルージョンの理念を踏まえた地域精神保健福祉活動の展開について説明する。

教科書

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集

『精神保健福祉士養成セミナー第4巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』へるす出版。

参考文献

なし

科目コード	精神保健福祉援助実習・事後指導	登録年次	履修方法
5082		4年	S
教員名	小笠原眞紀、茅野由紀、小金澤嘉、谷口恵子、 辻本理絵子、辻築久子、三野宏治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

実習を経験した学生として、その実習で得た経験を有効に活用できるよう、事例をもとに、理論と実践のインテグレート(結合)が行えるようにする。事例の中で、相談援助対象者は異なる個性の持ち主のはずであり、その人権を尊重しつつ問題解決する方法を検討していく。問題解決技術を援助対象者のみではなく、その家族との人間関係、それも含む社会適応にも応用できるようにする。援助活動の適・不適、社会資源の有無、福祉専門職の実習生としての自分を常に評価する方法(自己覚知)を身につけ、その結果を次の課程に適用できるように学修する。

学修内容	
1	事後学習の具体的展開 実習記録を読む。精神保健福祉の現場において学んだ体験や、直接精神障害者とかかわった体験から、実習全体を振り返り、実習体験の内容を思い出す。
2	事後学習の具体的展開 実習を振り返り仲間と学び合う。実習において、どのような体験をしたのか、何を得たのか、何を課題と感じたのかなどを仲間と話し合う。相互に体験を振り返り、実習の経験や場面について多面的に考え、自己覚知を深める。
3	事後学習の具体的展開 自己評価と学習課題を明確化する。実習現場における自らの態度や行動を自己点検・自己評価することで、対人援助職としての自己理解を深めることができる。実習で得たことは何か、実習でやり残したことは何かなどを確認する。
4	実習の評価の意味と方法 実習評価の意味・視点・方法について理解する。実習評価では、事前学習により立てた計画が、実習体験により達成できたのかどうか、スーパービジョンを受け、どのように成長したのかなどを中心的に評価する。
5	実習評価の意味と方法 評価項目とポイントについて学ぶ。専門性の要素として、態度、理解（知識）、行動（技能）をどれだけ身につけることができたのかなどがポイントになる。
6	課題の整理と総括レポート 実習の成果をまとめる。実習全体の総括をしていく上で、体験の言語化と意識化、その内容を記録化していく作業をしながら、学修課題を整理する。
7	実習報告会および実習報告集 実習報告書を作成する。実習において体験したことを意識化して、精神保健福祉士としての知識と技術、価値に照らし合わせて認識し、体験を客観的に記録する。
8	実習評価の意義と目的 実習においてどれだけの学修をしたか振り返る。精神保健福祉士として自分自身の今後の学習の課題や、将来精神保健福祉士として働いていく上での問題点などを整理する。
9	実習評価の内容と方法 精神保健福祉士としての習得すべき知識・技術の習得度を確認する。精神障害の概念、精神疾患が生活に及ぼす影響、 精神障害者が利用できる社会資源、 現代社会における家族や地域社会等に関する知識、 面接技術、 集団援助技術などの習得度について確認する。
10	実習評価の内容と方法 精神保健福祉士として具備すべき価値の習得度を確認する。倫理綱領を踏まえ、基本的人権や権利擁護に関する認識、クライエントの自己決定の尊重に関する視点や秘密保持義務についての認識などについて確認する。
11	実習評価の内容と方法 社会人としてもつべき態度・学生としての態度について振り返る。専門職である以前に社会人として求められる行動や、真摯に学ぶ態度について考える。
12	実習評価の内容と方法 実習目標に対する到達度を評価する。実習においては、到達度評価を軸に、学修プロセスの途中で、実習目標の達成状況や学修の進行状況に関するフィードバックを行う形成的評価を組み合わせて行う。
13	実習の各課程における評価 実習前・現場実習・事後指導の各過程において評価する。実習指導は、実習前、実習中、実習後にわたって行われる。各ステージにおける評価とその活用を通して、実習体験は経験値として昇華されることを理解する。
14	実習評価の種類 自己評価し、自己覚知・自己理解を深める。自らの関心、行動パターン、自己概念、他人が自分をどう見ているのか等を振り返る。自分自身の態度や感情の傾向に気づくこと、クライエントと一定の距離概念を維持し、境界性を意識することが求められる。
15	実習評価の種類 実習指導者・実習担当教員・精神障害当事者による評価を振り返る。実習現場において、実習指導者や実習担当教員から

	の評価だけでなく、精神障害当事者の率直な「声」による評価も参考にする。

スクーリング課題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき1枚	横書	指定書式(「実習のまとめ」)

【設題1】実習ノートを完成させ、「精神保健福祉援助実習全体を通して学んだこと(実習のまとめ)」を使用して実習を振り返り、まとめよ。

＜ポイント＞実習前に作成した実習計画を見直し、実習目標等の達成度を整理する。

＜注意事項＞

・本項目のレポートは、実習ノートとともに、実習終了後1週間を目安に実習施設に提出すること。実習施設から大学へ返却された後、本学の教員が評価を行う。

・通常のレポート提出期間には受け付けられない。また、提出されない場合、実習の単位認定は行われない。

・提出にあたっては、「福祉・保育実習の手引き」を参照すること。

教科書

(平成23年度までの配本)

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健福祉士養成セミナー第8巻　精神保健福祉援助実習』へるす出版。

(平成24年度以降の配本)

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会

『新版精神保健福祉士養成セミナー第8巻　精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版。

参考文献

精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書』中央法規。

『福祉・保育実習の手引き』。

『福祉実習の学習ガイド』。

※精神保健福祉援助実習を行うためには（A）・（B）両方の受講が必要です。

科目コード	精神保健福祉援助実習・事前指導（A）※	登録年次	履修方法
5081		3年	S
教員名	上松勝二郎、大山勉、小笠原眞紀、茅野由紀、黒木豊域、小金澤嘉、谷口恵子、辻本理絵子、辻築久子、中島基彰、藤島薫、三野宏治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

精神保健福祉援助実習に向けて、精神保健福祉の現状(利用者理解を含む)に関する基本的理解を行い、実際に実習を行う施設・機関・団体・地域社会に関する基本的理解を学ぶ。
実習先で必要とされる精神保健福祉援助に関する専門的知識と技術に関する理解、特にクライエントに対するかかわりの基本的態度についての理解や、また精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的義務、守秘義務について学ぶ。これらを踏まえて、実習先の選定と受け入れ決定までの事前準備と調整、手続きについて整理する。

学修内容

1	実習申込みまでの流れを理解する(『福祉・保育実習の手引き』) 実習基礎資格科目・実習申込期間・申込手続きについて。実習資格科目の履修や実習時期の計画をたて、実習申込みに備える。実習に必要な手続きについて理解し、実習可能な施設種別等を理解する。
2	精神保健福祉援助実習の意義と目的 なぜ、精神保健福祉援助実習を行うのか考える。宇都宮事件やY問題なども踏まえ、精神保健福祉士が国家資格化した経緯を学ぶ。法制度など、精神保健福祉を取り巻く環境の変化について理解することが必要である。
3	精神保健福祉援助実習の目標～実習に行くということ 実習の目標を明確にする。目標をたてる際に他科目での学修内容を踏まえ、「見たい」「聞きたい」「知りたい」だけでなく何を体験し何を考えてみたいかを具体的にイメージすることが必要である。
4	精神保健福祉援助実習の学修内容 精神障害者について理解する。精神障害者の定義について学び、精神疾患の各症状や状態がその人の日常生活や社会生活にどのような影響を及ぼすのかを学ぶ。
5	精神保健福祉援助実習の学修内容 施設・機関について理解する。各施設・機関の根拠法や特性、対象者の要件と利用方法などの知識について学ぶ。施設・機関が提供しているサービスや支援の内容についても理解をしておくことが必要である。
6	精神保健福祉援助実習の基本的な流れ 事前準備から事後学習までを理解する。事前の学習によって、実習に臨む自己アセスメントを行い、実習計画をプランニングする。その後の配属実習施設決定までの過程において、不足している学習に関する評価（モニタリング）をしながら、必要に応じた再アセスメントを行い、学習を行うという経緯を学ぶ。
7	実習事前準備 実習生に対する期待について理解する。実習において理論と実践の統合化を図ること、実習施設・機関の任務や方針、職務規定を踏まえた上で行動をすること、社会人としてのマナーやルールをわきまえることなどが求められている。
8	実習受け入れ決定までの事前準備と調整 実習生、実習担当教員・実習先に求められる認識について理解する。三者において、実習の位置づけ、実習の展開方法について共有する必要性について理解する。
9	事前学習の意義と目的 言語化と応答性について理解する。自分の言葉で語る力と応答性について学ぶ。応答性が高まると、人と反応しあい、外部に向けての発信作業が行われる。
10	事前学習の内容 精神保健福祉士に求められる職業倫理について理解する。社団法人日本精神保健福祉士協会倫理綱領について確認する。信用失墜の行為、秘密保持義務、連携、質の向上の責務が法的に規定されている意味を考えることが重要である。
11	事前学習の内容 個人情報と守秘義務について理解する。精神保健福祉士の業務上、精神障害者の疾患の状態、病歴・経歴、その家族関係等の個人の秘密に当たるような事情についても知ることが必要な場合がある。守秘義務が課されている意味について考える。
12	事前学習の方法 実習先を見学する。実習への動機や意欲を高めるため、見学することが望ましい。机上のイメージとは違い、リアルな現場の雰囲気を感じることが必要である。
13	配属実習 配属実習の具体的展開について理解する。配属前の段階、配属実習中、配属実習の終了のそれぞれの段階おいて、必要な準備や学習について理解する。
14	配属実習 実習指導者と実習担当教員の役割・巡回教員によるスーパービジョンについて理解する。「実習プログラムにおける指導（マネジメント）」と「実習スーパービジョン」の2つの側面を区別し、それぞれの内容について理解をすることが必要である。
15	配属実習 留意事項・実習準備状況と学習過程について。精神保健福祉士の価値、精神障害者や精神科医療と保健福祉に関する現状を理解することが必要である。精神保健福祉援助技術や精神保健福祉に関する法制度について学ぶ。

教科書

（平成23年度までの配本）
精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健福祉士養成セミナー第８巻　精神保健福祉援助実習』へるす出版。
（平成24年度以降の配本）
新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会
『新版精神保健福祉士養成セミナー第８巻　精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版。

参考文献

公益社団法人日本精神保健福祉士協会倫理綱領
新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会
『新版　精神保健福祉士養成セミナー第５巻　精神保健福祉におけるリハビリテーション』へるす出版。
『新版　精神保健福祉士養成セミナー第６巻　精神障害者の生活支援　―制度・システムとサービス』へるす出版。
『福祉・保育実習の手引き』。

※精神保健福祉援助実習を行うためには（A）・（B）両方の受講が必要です。

科目コード	精神保健福祉援助実習・事前指導（B）※	登録年次	履修方法
5081	（実習直前指導）	3年	S
教員名	小笠原眞紀、茅野由紀、小金澤嘉、 谷口恵子、辻本理絵子、辻築久子、三野宏治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

現場実習に必要な知識・技術の習得に加え、実習とは何か、何を目的をして実習を行うか等、実習に臨む上での考え方、姿勢を学修する。具体的には、施設や機関の枠組みの中で、援助対象者の福祉ニーズにあった援助法を選択し、援助技術を演習する方法を学修する。さらに、援助対象者のケースを通して、その地域社会におけるほかの福祉及び、教育・医療その他のサービスのあり方を学び、市民の必要に応じて社会資源を活用する方法を学ぶ。そして、学生が実際に職業倫理に基づいて上記のことを実践できるようにしていく。

学修内容

1	実習施設・機関の概要 精神科医療機関の目的・機能と役割について理解する。精神科医療機関は医療法に規定されており、単科の精神科病院、精神科診療所（精神科クリニック）、総合病院の精神科がある。地域にある施設・機関との連携についても学ぶ必要がある。
2	実習施設・機関の概要 障害福祉サービス事業所の目的・機能と役割について理解する。根拠法について学び、障害福祉サービス事業所がどのような理念のもとで事業を展開しているのか理解する必要がある。
3	実習施設・機関の概要 行政機関等の目的・機能と役割について理解する。保健所や、精神保健福祉センターなどは、精神障害者に関する初期段階での相談をはじめ、退院後の地域生活等について相談に応じる機関である。地域における役割や連携についても学ぶ必要がある。
4	実習経験と課題 精神科病院における援助や課題について理解する。精神科病院には部門が多くあり、精神保健福祉士は所属する部門によって役割が異なるが、基本的な役割の共通点を確認しておくことが必要である。
5	実習経験と課題 精神科診療所における援助や課題について理解する。精神科診療所では、、地域に根付いた外来精神科医療を展開している。夜間の救急対応などの課題について学ぶ。
6	実習経験と課題 障害者福祉サービス事業所における援助や課題について理解する。障害福祉サービス事業所が、利用者の地域における生活をどのように支援していくのか、そのためにどのような理念をもち、何を実行しようとしているのかを学ぶ。
7	精神保健福祉における多職種連携とチームアプローチの実際 多職種連携とチームアプローチの意義等について理解する。精神保健福祉士はさまざまな関係機関と、日々頻繁に連絡を取り合って、業務を行っている。連携には意図があることや、連携の相手や方法は必要性に沿って選択されることを学ぶ。クライエントのエンパワメントにつながるような多職種連携の在り方について考える。
8	精神保健福祉における多職種連携とチームアプローチの実際 多職種連携における精神保健福祉士の役割について理解する。ニーズの可能性を発見し、相談援助に必要な情報や支援の役割分担を確認したり、他の職種にクライエントの生活上必要な情報を提供したり、相談援助の進行状況を報告する役割について学ぶ。
9	精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務 精神保健福祉士に求められる職業倫理について理解する。社団法人日本精神保健福祉士協会倫理綱領について確認する。信用失墜の行為、秘密保持義務、連携、質の向上の責務が法的に規定されている意味について学びを深める。
10	組織の一員としての精神保健福祉士の役割と責任 精神保健福祉士に求められる役割と責任について理解する。精神障害者への支援の必要性を考える中で、精神保健福祉士としての理念や思いに葛藤を抱く現実がある。そうした葛藤を抱くだけでなく、よかれと思った支援でさえ、常に精神障害者の人権や権利を侵害する危険性があるという認識を保持する必要性について理解する。
11	地域社会のなかの実習施設・機関とアウトリーチ、地域ネットワーク、社会資源の活用、調整・開発 ケアマネジメント・アウトリーチ・社会資源等について理解する。精神保健福祉士は多職種チームの中で専門性を生かし、存在価値を高めていく職種であり、クライエントの地域での生活を総合的かつ包括的に支援するために、単一での専門職では限界があることを理解する必要がある。
12	実習指導計画の基本モデル 実習指導計画について理解する。実習施設・機関に対する理解、各実習施設機関における精神保健福祉士の位置づけと業務内容について学ぶ。
13	実習計画・施設概要を作成する 実習先に沿った実習計画をたて、施設の概要について調べる。施設・機関の①法的位置づけ②地域の情報（人口、歴史、地理など）③概要（歴史、現状など）④組織、機能、⑤職種や業務内容、などについて文献や資料、インターネット等を使い調査する。精神保健福祉の実践場面に身をおいて、体験したいことや考えたいことを具体的に考え、計画を作成する。
14	実習記録の指導 実習記録の意義・書き方について理解する。記録を書くための能力を養うという訓練的な目的と、実習という枠組みにおいて、自己洞察を深めたり、実習の達成度を評価したりする目的について理解する。個人情報について最大限の配慮が必要である。
15	実習スーパービジョン 実習スーパービジョンについて理解する。実習担当教員と実習指導者という二者をスーパーバイザーに持つことを理解する。実習計画に沿って、実習プログラムを活用して、体験的に精神保健福祉士として行動したり感じたり考えたりしながらスーパービジョンを受けることについて理解する。

教科書

（平成23年度までの配本）
精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健福祉士養成セミナー第８巻　精神保健福祉援助実習』へるす出版。
（平成24年度以降の配本）
新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会
『新版精神保健福祉士養成セミナー第８巻　精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版。

参考文献

公益社団法人日本精神保健福祉士協会倫理綱領
新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会
『新版　精神保健福祉士養成セミナー第５巻　精神保健福祉におけるリハビリテーション』へるす出版。
『新版　精神保健福祉士養成セミナー第６巻　精神障害者の生活支援　―制度・システムとサービス』へるす出版。
『福祉・保育実習の手引き』。
『福祉実習の学習ガイド』。

科目コード	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
5180		２年	ＳＲ
担当教員	上松勝二郎、大山勉、小笠原眞紀、茅野由紀、小金澤嘉、谷口恵子、 辻本理絵子、辻築久子、中澤由美子、中島基彰、藤島薫、牧野孝行、三野宏治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

精神保健福祉援助実習に向けて、精神保健福祉の現状(利用者理解を含む)に関する基本的理解を行い、実際に実習を行う施設・機関・団体・地域社会に関する基本的理解を学ぶ。
実習先で必要とされる精神保健福祉援助に関する専門的知識と技術に関する理解、特にクライエントに対するかかわりの基本的態度についての理解や、また精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的義務、守秘義務について学ぶ。これらを踏まえて、実習先の選定と受け入れ決定までの事前準備と調整、手続きについて整理する。

学修内容

1	実習申込みまでの流れを理解する(『福祉・保育実習の手引き』) 実習基礎資格科目・実習申込期間・申込手続きについて。実習資格科目の履修や実習時期の計画をたて、実習申込みに備える。実習に必要な手続きについて理解し、実習可能な施設種別等を理解する。
2	精神保健福祉援助実習の意義と目的 なぜ、精神保健福祉援助実習を行うのか考える。宇都宮事件やY問題なども踏まえ、精神保健福祉士が国家資格化した経緯を学ぶ。法制度など、精神保健福祉を取り巻く環境の変化について理解することが必要である。
3	精神保健福祉援助実習の目標～実習に行くということ 実習の目標を明確にする。目標をたてる際に他科目での学修内容を踏まえ、「見たい」「聞きたい」「知りたい」だけでなく何を体験し何を考えてみたいかを具体的にイメージすることが必要である。
4	精神保健福祉援助実習の学修内容 精神障害者について理解する。精神障害者の定義について学び、精神疾患の各症状や状態がその人の日常生活や社会生活にどのような影響を及ぼすのかを学ぶ。
5	精神保健福祉援助実習の学修内容 施設・機関について理解する。各施設・機関の根拠法や特性、対象者の要件と利用方法などの知識について学ぶ。施設・機関が提供しているサービスや支援の内容についても理解をしておくことが必要である。
6	精神保健福祉援助実習の基本的な流れ 事前準備から事後学習までを理解する。事前の学習によって、実習に臨む自己アセスメントを行い、実習計画をプランニングする。その後の配属実習施設決定までの過程において、不足している学習に関する評価（モニタリング）をしながら、必要に応じた再アセスメントを行い、学修を行うという経緯を学ぶ。
7	実習事前準備 実習生に対する期待について理解する。実習において理論と実践の統合化を図ること、実習施設・機関の任務や方針、職務規定を踏まえた上で行動をすること、社会人としてのマナーやルールをわきまえることなどが求められている。
8	実習受け入れ決定までの事前準備と調整 実習生、実習担当教員・実習先に求められる認識について理解する。三者において、実習の位置づけ、実習の展開方法について共有する必要性について理解する。
9	事前学習の意義と目的 言語化と応答性について理解する。自分の言葉で語る力と応答性について学ぶ。応答性が高まると、人と反応しあい、外部に向けての発信作業が行われる。
10	事前学習の内容 精神保健福祉士に求められる職業倫理について理解する。社団法人日本精神保健福祉士協会倫理綱領について確認する。信用失墜の行為、秘密保持義務、連携、質の向上の責務が法的に規定されている意味を考えることが重要である。
11	事前学習の内容 個人情報と守秘義務について理解する。精神保健福祉士の業務上、精神障害者の疾患の状態、病歴・経歴、その家族関係等の個人の秘密に当たるような事情についても知ることが必要な場合がある。守秘義務が課されている意味について考える。
12	事前学習の方法 実習先を見学する。実習への動機や意欲を高めるため、見学することが望ましい。机上のイメージとは違い、リアルな現場の雰囲気を感じることが必要である。
13	配属実習 配属実習の具体的展開について理解する。配属前の段階、配属実習中、配属実習の終了のそれぞれの段階おいて、必要な準備や学習について理解する。
14	配属実習 実習指導者と実習担当教員の役割･巡回教員によるスーパービジョンについて理解する。「実習プログラムにおける指導(マネジメント)」と「実習スーパービジョン」の２つの側面を区別し、それぞれの内容について理解をすることが必要である。
15	配属実習 留意事項・実習準備状況と学習過程について。精神保健福祉士の価値、精神障害者や精神科医療と保健福祉に関する現状を理解することが必要である。精神保健福祉援助技術や精神保健福祉に関する法制度について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】これまでの学修や経験を踏まえ、資格取得動機を論じるとともに、医療機関及び福祉施設(種別)について具体的に施設の例を挙げまとめ、その施設(種別)における精神保健福祉実践に実習生として参加する自分が何を感じとり、学ぶのか(実習の動機)を述べよ。

＜ポイント＞

以下の3点は必ず入れてまとめること

①(資格取得の動機)これまでの学修や経験を踏まえて、資格取得を希望したのはなぜか、その専門性を今後どのように役立てたいかについて述べること。

②(施設のまとめ)医療機関(精神科または心療内科を標榜する医療機関)と福祉施設(障害者自立支援法に規定され、主たる対象が精神障害である施設)における支援の対象者(利用者)に対し、主な支援内容、背景、根拠となる法律を調査し、施設名を例に挙げて具体的にまとめ、原則として医療機関と福祉施設の2施設(種別)を取り上げて論述すること。

③(実習志望の動機) ①、②の内容を踏まえ、実習生として現場の臨床実践に参加するとき、自分がそこで何を感じとり、学ぶのか、具体的に述べること。

【提出における注意事項】提出期間は実習申込み前までとする。ただし、実習申込みは科目履修済み（合格）であることが必要。

科目終了試験学修のポイント

1．実習を行う目的と意義について

＜ポイント＞ 精神保健福祉士資格を取得するためになぜ実習が必要なのかを考えること。

2．実習生が実習機関とクライエントと接する場合の留意点と心構えについて

＜ポイント＞ 実習生としての立場を踏まえ留意点と心構えについて述べること。

3．実習中の実習生(スーパーバイジー)と実習指導者(スーパーバイザー)との関係について

＜ポイント＞スーパービジョンにおける関係について述べること。

4．実習の基本的な流れについて

＜ポイント＞事前準備から実習終了後までの流れについて述べること。

5．実習施設・機関利用における個人情報保護と守秘義務について

＜ポイント＞精神保健福祉士の職業倫理を踏まえ、個人情報と守秘義務について述べること。

6．実習中に守るべき倫理について

＜ポイント＞社団法人日本精神保健福祉士協会倫理綱領を熟読すること

教科書

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会

『精神保健福祉士養成セミナー第8巻　精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版。

参考文献

公益社団法人日本精神保健福祉士協会倫理綱領

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会

『精神保健福祉士養成セミナー第5巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』へるす出版。

『精神保健福祉士養成セミナー第6巻　精神保健福祉の制度・サービスと生活支援システム』へるす出版。

『福祉・保育実習の手引き』。

科目コード	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
5190		３年	ＳＲ
担当教員	上松勝二郎、大山勉、小笠原眞紀、茅野由紀、小金澤嘉、谷口恵子、 辻本理絵子、辻築久子、中澤由美子、中島基彰、藤島薫、牧野孝行、三野宏治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

この科目では、実習の事前学習として、実際に実習を行う予定の実習機関(利用者理解を含む)と、施設、事業者、機関、団体、地域社会に関する基本的な理解を身につける。スクーリングでは、実習で関わる個別及び集団指導を通して、精神保健福祉現場での相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得することを目標とする。実習先と指導教員との指導のもとで実習計画を作成する。

学修内容

1	実習施設・機関の概要 精神科医療機関の目的・機能と役割について理解する。精神科医療機関は医療法に規定されており、単科の精神科病院、精神科診療所（精神科クリニック）、総合病院の精神科がある。地域にある施設・機関との連携についても学ぶ必要がある。
2	実習施設・機関の概要 障害福祉サービス事業所の目的・機能と役割について理解する。根拠法について学び、障害福祉サービス事業所がどのような理念のもとで事業を展開しているのか理解する必要がある。
3	実習施設・機関の概要 行政機関等の目的・機能と役割について理解する。保健所や、精神保健福祉センターなどは、精神障害者に関する初期段階での相談をはじめ、退院後の地域生活等について相談に応じる機関である。地域における役割や連携についても学ぶ必要がある。
4	実習経験と課題 精神科病院における援助や課題について理解する。精神科病院には部門が多くあり、精神保健福祉士は所属する部門によって役割が異なるが、基本的な役割の共通点を確認しておくことが必要である。
5	実習経験と課題 精神科診療所における援助や課題について理解する。精神科診療所では、、地域に根付いた外来精神科医療を展開している。夜間の救急対応などの課題について学ぶ。
6	実習経験と課題 障害者福祉サービス事業所における援助や課題について理解する。障害福祉サービス事業所が、利用者の地域における生活をどのように支援していくのか、そのためにどのような理念をもち、何を実行しようとしているのかを学ぶ。
7	精神保健福祉における多職種連携とチームアプローチの実際 多職種連携とチームアプローチの意義等について理解する。精神保健福祉士はさまざまな関係機関と、日々頻繁に連絡を取り合って、業務を行っている。連携には意図があることや、連携の相手や方法は必要性に沿って選択されることを学ぶ。クライエントのエンパワメントにつながるような多職種連携の在り方について考える。
8	精神保健福祉における多職種連携とチームアプローチの実際 多職種連携における精神保健福祉士の役割について理解する。ニーズの可能性を発見し、相談援助に必要な情報や支援の役割分担を確認したり、他の職種にクライエントの生活上必要な情報を提供したり、相談援助の進行状況を報告する役割について学ぶ。
9	精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務 精神保健福祉士に求められる職業倫理について理解する。公益社団法人日本精神保健福祉士協会倫理綱領について確認する。信用失墜の行為、秘密保持義務、連携、質の向上の責務が法的に規定されている意味について学びを深める。
10	組織の一員としての精神保健福祉士の役割と責任 精神保健福祉士に求められる役割と責任について理解する。精神障害者への支援の必要性を考える中で、精神保健福祉士としての理念や思いに葛藤を抱く現実がある。そうした葛藤を抱くだけでなく、よかれと思った支援でさえ、常に精神障害者の人権や権利を侵害する危険性があるという認識を保持する必要性について理解する。
11	地域社会のなかの実習施設・機関とアウトリーチ、地域ネットワーク、社会資源の活用、調整・開発 ケアマネジメント・アウトリーチ・社会資源等について理解する。精神保健福祉士は多職種チームの中で専門性を生かし、存在価値を高めていく職種であり、クライエントの地域での生活を総合的かつ包括的に支援するために、単一での専門職では限界があることを理解する必要がある。
12	実習指導計画の基本モデル 実習指導計画について理解する。実習施設・機関に対する理解、各実習施設機関における精神保健福祉士の位置づけと業務内容について学ぶ。
13	実習計画・施設概要を作成する 実習先に沿った実習計画をたて、施設の概要について調べる。施設・機関の①法的位置づけ②地域の情報（人口、歴史、地理など）③概要（歴史、現状など）④組織、機能、⑤職種や業務内容、などについて文献や資料、インターネット等を使

	い調査する。精神保健福祉の実践場面に身をおいて、体験したいことや考えたいことを具体的に考え、計画を作成する。
14	実習記録の指導 実習記録の意義・書き方について理解する。記録を書くための能力を養うという訓練的な目的と、実習という枠組みにおいて、自己洞察を深めたり、実習の達成度を評価したりする目的について理解する。個人情報について最大限の配慮が必要である。
15	実習スーパービジョン 実習スーパービジョンについて理解する。実習担当教員と実習指導者という二者をスーパーバイザーに持つことを理解する。実習計画に沿って、実習プログラムを活用して、体験的に精神保健福祉士として行動したり感じたり考えたりしながらスーパービジョンを受けることについて理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】精神障害者の困難と生活課題について考察し、自分が予定(希望)している施設(種別)では、どのような支援が提供されているか具体的に述べよ。

<ポイント>

・以下の内容を反映させ、具体的に論述すること

①根拠法を参考にまとめること

②利用者への支援に用いられるソーシャルワークの知識・技術について、抽出すること

・「施設の一員として課題提起する精神保健福祉士」の立場に留意し、一方的な批判や根拠のない私論ではなく、建設的に論じること。

・文献や新聞記事など、適切な方法を選んで情報を収集し、調査資料をA4サイズ両面2枚程度にまとめ添付すること

〈提出における注意事項〉

・提出期間は実習申込み手続きを実施した後から、予定する実習期間に定められる実習基礎資格科目の履修期限までとする。ただし、実習開始は科目履修済み(合格)であることが必要。

・提出のあて先は本学通信教育課となる。

科目終了試験学修のポイント

1．病院と診療所の違いについて
＜ポイント＞医療機関としての機能の違いについてまとめること。

2．精神科医療機関の入院形態について
＜ポイント＞入院形態の違いについてまとめること。

3．精神障害者を支援する公的機関とその概要について
＜ポイント＞公的機関の概要や業務内容等について調べること。

4．障害者福祉サービス事業所について
＜ポイント＞障害者福祉サービス事業所の特徴について調べること。

5．精神保健福祉における他職種連携とチームアプローチについて
＜ポイント＞他職種の視点等を踏まえ、チームアプローチの必要性について述べること。

6．精神障害者の家族支援について
＜ポイント＞家族支援をする上で留意すべき点について述べること。

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会
『新版精神保健福祉士養成セミナー第8巻　精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版。

参考文献

公益社団法人日本精神保健福祉士協会倫理綱領
新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会
『新版　精神保健福祉士養成セミナー第5巻　精神保健福祉におけるリハビリテーション』へるす出版。
『新版　精神保健福祉士養成セミナー第6巻　精神障害者の生活支援　―制度・システムとサービス』へるす出版。
『福祉・保育実習の手引き』。
『福祉実習の学習ガイド』。

科目コード	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ（２単位）	登録年次	履修方法
5200		４年	ＳＲ
教員名	上松勝二郎、大山勉、小笠原眞紀、茅野由紀、小金澤嘉、谷口恵子、 辻築久子、辻本理絵子、中澤由美子、中島基彰、藤島薫、牧野孝行、三野宏治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

実習を経験した学生として、その実習で得た経験を有効に活用できるよう、事例をもとに、理論と実践のインテグレート(結合)が行えるようにする。事例の中で、相談援助対象者は異なる個性の持ち主のはずであり、その人権を尊重しつつ問題解決する方法を検討していく。問題解決技術を援助対象者のみではなく、その家族との人間関係、それも含む社会適応にも応用できるようにする。援助活動の適・不適、社会資源の有無、福祉専門職の実習生としての自分を常に評価する方法(自己覚知)を身につけ、その結果を次の課程に適用できるように学修する。

学修内容

1	事後学修の具体的展開 実習記録を読む。精神保健福祉の現場において学んだ体験や、直接精神障害者とかかわった体験から、実習全体を振り返り、実習体験の内容を思い出す。
2	事後学修の具体的展開 実習を振り返り仲間と学び合う。実習において、どのような体験をしたのか、何を得たのか、何を課題と感じたのかなどを仲間と話し合う。相互に体験を振り返り、実習の経験や場面について多面的に考え、自己覚知を深める。
3	事後学修の具体的展開 自己評価と学習課題を明確化する。実習現場における自らの態度や行動を自己点検・自己評価することで、対人援助職としての自己理解を深めることができる。実習で得たことは何か、実習でやり残したことは何かなどを確認する。
4	実習の評価の意味と方法 実習評価の意味・視点・方法について理解する。実習評価では、事前学習により立てた計画が、実習体験により達成できたのかどうか、スーパービジョンを受け、どのように成長したのかなどを中心的に評価する。
5	実習評価の意味と方法 評価項目とポイントについて学ぶ。専門性の要素として、態度、理解（知識）、行動（技能）をどれだけ身につけることができたのかなどがポイントになる。
6	課題の整理と総括レポート 実習の成果をまとめる。実習全体の総括をしていく上で、体験の言語化と意識化、その内容を記録化していく作業をしながら、学修課題を整理する。
7	実習報告会および実習報告集 実習報告書を作成する。実習において体験したことを意識化して、精神保健福祉士としての知識と技術、価値に照らし合わせて認識し、体験を客観的に記録する。
8	実習評価の意義と目的 実習においてどれだけの学修をしたか振り返る。精神保健福祉士として自分自身の今後の学習の課題や、将来精神保健福祉士として働いていく上での問題点などを整理する。
9	実習評価の内容と方法 精神保健福祉士としての習得すべき知識・技術の習得度を確認する。精神障害の概念、精神疾患が生活に及ぼす影響、 精神障害者が利用できる社会資源、 現代社会における家族や地域社会等に関する知識、 面接技術、 集団援助技術などの習得度について確認する。
10	実習評価の内容と方法 精神保健福祉士として具備すべき価値の習得度を確認する。倫理綱領を踏まえ、基本的人権や権利擁護に関する認識、クライエントの自己決定の尊重に関する視点や秘密保持義務についての認識などについて確認する。
11	実習評価の内容と方法 社会人としてもつべき態度・学生としての態度について振り返る。専門職である以前に社会人として求められる行動や、真摯に学ぶ態度について考える。
12	実習評価の内容と方法 実習目標に対する到達度を評価する。実習においては、到達度評価を軸に、学習プロセスの途中で、実習目標の達成状況や学習の進行状況に関するフィードバックを行う形成的評価を組み合わせて行う。
13	実習の各課程における評価 実習前・現場実習・事後指導の各過程において評価する。実習指導は、実習前、実習中、実習後にわたって行われる。各ステージにおける評価とその活用を通して、実習体験は経験値として昇華されることを理解する。
14	実習評価の種類 自己評価し、自己覚知・自己理解を深める。自らの関心、行動パターン、自己概念、他人が自分をどう見ているのか等を振り返る。自分自身の態度や感情の傾向に気づくこと、クライエントと一定の距離概念を維持し、境界性を意識することが求められる。
15	実習評価の種類 実習指導者・実習担当教員・精神障害当事者による評価を振り返る。実習現場において、実習指導者や実習担当教員からの評価だけでなく、精神障害当事者の率直な「声」による評価も参考にする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	両面1枚	横書	指定書式（「実習のまとめ」）

【設題1】実習ノートを完成させ、「精神保健福祉援助実習全体を通して学んだこと(実習のまとめ)」を使用して実習を振り返り、まとめよ。

<ポイント>

実習前に作成した実習計画を見直しながら、実習で何を学んだか言語化し、その学びを今後どのように活かしたいか考察することが必要である。

<注意事項>

・本項目のレポートは、実習ノートとともに、実習終了後1週間を目安に実習施設に提出すること。実習施設から大学へ返却された後、本学の教員が評価を行う。
・通常のレポート提出期間には受け付けられない。また、提出されない場合、実習の単位認定は行われない。
・提出にあたっては、『福祉・保育実習の手引き』を参照すること。
・OCR用紙は不要

科目終了試験学修のポイント

1. 自分の実習の体験を振り返って、「実習報告書」を作成せよ。

＜ポイント＞

「実習施設の概要」「私の学び(事例)」「実習のまとめ」を整理する。実習中最も印象に残った出来事を「事例」とし、その体験を通し、何を考え、どのような学びにつながったのか記述することが必要である。

＜注意事項＞

・本科目の科目終了試験はスクーリング受講中に作成・提出される「実習報告書」を評価する。
・草稿の準備はスクーリング前に行い、スクーリング中の指導や実習の振り返りを具体的に反映させて作成すること。
・指定書式（計1枚）を使用すること。
・作成にあたっては、「福祉・保育実習の手引き」を参照すること。

教科書

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会
『精神保健福祉士養成セミナー第8巻　精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版。

参考文献

精神保健医療福祉白書編集委員会編集『精神保健医療福祉白書』中央法規。
『福祉・保育実習の手引き』。
『福祉実習の学習ガイド』。

科目コード	精神保健福祉実習（6 単位）	登録年次	履修方法
5320		3 年	P
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

厚生労働省により定められている指定施設・機関を実習先とし、施設・機関の役割及びサービス利用者やその関係者について学び、利用者やその家族のニーズに応じた相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術を体得する。また、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得するとともに、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

精神保健福祉実習が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。

①精神保健福祉実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。

②精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人々のおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題について精神保健福祉実習を行う実習先において調査し具体的に把握する。

③実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携の在り方及びその具体的内容を実践的に理解する。

学修内容

１．実習施設・機関について理解する

①実習施設・機関の概要（組織・就業規則・業務内容、管理運営等）を理解する。

②実習施設・機関の就業規則に基づく行動の実施と組織の一員としての役割と責任に対して自覚を持つ。

③地域社会における実習施設・機関の位置づけを理解する。

２．利用者（クライエント）理解とニーズの把握及び個別支援を学ぶ：医療機関実習においては、受診前、入院時、治療中、急性期の患者と家族の相談援助を体験する

①利用者（クライエント）及びその家族への権利擁護を理解し、実践しその評価を行う。

②利用者（クライエント）及びその家族の生活やニーズを理解し、そのニーズを実現するための援助の在り方と必要性を学ぶ。

③利用者（クライエント）及びその家族との適切な支援関係の形成を経験する。

④退院又は地域移行支援・地域定着支援に向けた相談援助について理解する。

⑤情報収集、アセスメント、相談支援計画を理解・経験し、その評価を行う。

３．精神保健医療福祉におけるチームアプローチ（多職種連携）の実際を学ぶ

①実習施設・機関内外で働く専門職（医師・看護師・作業療法士・保健師等）の職務内容や役割、専門的な視点を理解する。

②実習施設・機関内におけるチームアプローチ（多職種連携）へ参加しチームアプローチ（多職種連携）による支援の実際を学ぶ、

４．地域社会における実習先施設・機関の役割及び機能、地域連携を学ぶ

①地域で行われている活動や事業における実習施設・機関の役割を理解する。

②地域社会への働きかけ（アウトリーチ、社会資源の活用・調整等）について理解する。

③地域社会の関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワークについて理解する。

④実習先施設・機関や所属地域における精神保健福祉向上のための課題発見と政策提言に関して理解する。

５．精神保健福祉士としてのアイデンティティ、倫理について学ぶ

①適切に記録をとり、精神保健福祉士として実践に活かす方法を身につける。

②利用者（クライエント）及びその家族、施設・機関内外の専門職などと精神保健福祉士として適切な人間関係を形成する。

③実習施設・機関における精神保健福祉士の役割について理解し、精神保健福祉士としてのアイデンティティについて考える。

④精神保健福祉士としての自己について理解する。

⑤精神保健福祉士としての倫理と法的義務に基づく行動を実践する。

実習を通して学生は、下記のことに取り組む。

①実習体験及び学習成果の考察と記述、プレゼンテーション実習総括と精神保健福祉士としての学習課題の明確化、及び研鑽計画の立案。

②実習体験と考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョンと、精神保健福祉実習指導担当教員による巡回指導及び帰校日を通して、実習事項について個別指導や集団指導を受ける。

実習指導担当教員は、下記のことを行う。

①巡回指導等を通して実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分行う。

教科書

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集
『最新精神保健福祉士養成講座８　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（精神専門）』中央法規。

・東京福祉大学『福祉・保育実習の手引き』

参考文献

精神保健医療福祉白書編集委員会編集『精神保健医療福祉白書』中央法規。

科目コード	精神保健福祉実習指導Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
5290		2年	ＳＲ
担当教員	上松勝二郎、大山勉、小笠原眞紀、茅野由紀、小金澤嘉、谷口恵子、 辻本理絵子、辻築久子、中澤由美子、中島基彰、藤島薫、牧野孝行、三野宏治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

精神保健福祉実習指導Ⅰは、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと精神保健福祉実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。

精神保健福祉実習指導Ⅰでは、専門職養成における実習の意義、法的な位置づけ、どのように実習が展開されるのかという基本的学習を中心として行う。

精神保健福祉実習指導Ⅰが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。

①精神保健福祉士実習の意義について理解する。

②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。

③実習施設・機関の概要について明瞭な説明ができる。

④資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。

⑤個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。

学修内容

1	オリエンテーション ＜ポイント＞精神保健福祉実習指導Ⅰのねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明 ・精神保健福祉実習と精神保健福祉実習指導における個別指導及び集団指導の意義の説明
2	精神保健福祉実習の全体像 ＜ポイント＞実習前中後の流れ（全体像）と指導体制についての理解
3	専門職養成における実習の意義の理解 ＜ポイント＞専門職養成における実習の意義を理解する
4	精神保健福祉士を目指す自己の動機の明確化 ＜ポイント＞精神保健福祉士を目指したきっかけから、動機の言語化。
5	事前学習の意義の理解 ＜ポイント＞事前学習の必要性を理解する。 精神保健医療福祉に関する知識① ＜ポイント＞精神保健医療福祉の歴史と現状、利用者理解について理解。
6	精神保健医療福祉に関する知識② ＜ポイント＞主な精神疾患についての知識の確認、精神保健医療福祉関連の制度の確認
7	精神保健医療福祉関する知識③ ＜ポイント＞実習先で必要とされる精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的技術に関する理解
8	精神保健医療福祉に関する知識④ ＜ポイント＞精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解
9	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 ＜ポイント＞精神保健福祉士法、個人情報保護法の理解
10	実習先施設・機関の基本的理解①：実習が可能な施設・機関紹介と説明（「実習の手引き」使用） ＜ポイント＞実習先を理解する意義と理解するべき内容の把握（施設・機関・事業者・団体・地域社会等を含む）
11	実習先施設・機関の基本的理解②：医療機関 ＜ポイント＞医療機関の理解及びそこでの実習内容の考察
12	実習先の理解③：障害福祉サービス事業所 ＜ポイント＞障害福祉サービス事業所の理解及びそこでの実習内容の考察
13	実習先の理解④：行政 ＜ポイント＞行政における精神保健福祉士の役割の理解とそこでの実習内容の考察
14	「契約としての実習」についての理解 ＜ポイント＞実習における契約の意義についての理解
15	学習のまとめ ＜ポイント＞精神保健福祉実習指導Ⅱに向けた課題の明確化

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】 これまでの学修や経験を踏まえ、資格取得動機を論じるとともに、施設(種別)について具体的に施設の例を挙げまとめ、その施設(種別)における社会福祉実践に実習生として参加する自分が何を感じとり、学ぶのか(実習の動機)を述べよ。

＜ポイント＞

以下の３点を必ず含めること。

①（資格取得の動機）これまでの学修や経験を踏まえて、資格取得を希望したのはなぜか、その専門性を今後どのように役立てたいかについて述べること。

②（施設のまとめ）施設（種別）における支援の対象者（利用者）に対し、主な支援内容、背景、根拠となる法律を調査し、施設名を例に挙げて具体的にまとめ、論述すること。

③（実習志望の動機）①、②の内容を踏まえ、実習生として現場の福祉実践に参加するとき、自分がそこで何を感じとり、学ぶのか、具体的に述べること。

【提出における注意事項】提出期間は実習申込前までとする。ただし、実習申込みは科目履修済み（合格）であることが必要。

科目終了試験学修のポイント

１． 精神保健福祉実習の意義と内容について述べよ。

＜ポイント＞

精神保健福祉実習は、法令上定められた教育内容があることを理解したうえで、実習の意義と想定される内容を述べる。

２．実習契約の意義とリスクマネジメントについて述べよ。

＜ポイント＞

実習契約の内容とあるべきリスクマネジメントについてまとめる。

３．精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について述べよ。

＜ポイント＞

データなどに基づき、実習先で出会う利用者理解につながるように、生活実態や困難についてまとめる。

４．実習先を理解する意義について述べよ。

＜ポイント＞

精神保健福祉実習として可能な施設・機関についてまとめ、実習先について実習前に理解する意義について論じる。

５．精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務について述べよ。

＜ポイント＞

精神保健福祉士が基づくべく倫理と法的責務について倫理綱領、精神保健福祉士法などを基に論じる

６．個人のプライバシーの保護と守秘義務について述べよ。

＜ポイント＞

実習中、守るべき個人情報保護について、精神保健福祉法、個人情報保護法について触れながら論じる

教科書

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集
『最新精神保健福祉士養成講座８　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（精神専門）』中央法規。

・東京福祉大学『福祉・保育実習の手引き』

参考文献

精神保健医療福祉白書編集委員会編集『精神保健医療福祉白書』中央法規。

科目コード	精神保健福祉実習指導Ⅱ（2単位）	登録年次	履修方法
5300		3年	ＳＲ
担当教員	上松勝二郎、大山勉、小笠原眞紀、茅野由紀、小金澤嘉、谷口恵子、 辻本理絵子、辻築久子、中澤由美子、中島基彰、藤島薫、牧野孝行、三野宏治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

精神保健福祉実習指導Ⅱは、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと精神保健福祉実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。

精神保健福祉実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク基礎実習の実施を軸として、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習の実施に向けて課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。

精神保健福祉実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。

①実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。

②ソーシャルワーク技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。

③記録について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。

また、これらの達成を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術を体得し、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得するための基礎を身につける。

学修内容

1	オリエンテーション ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習指導Ⅱのねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明
2	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法① ＜ポイント＞「実習記録ノート」の記載方法、取り扱いに等について理解する
3	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法② ＜ポイント＞「実習記録ノート」の記載方法に基づいて記録を作成する
4	スーパービジョンと巡回指導の理解 ＜ポイント＞スーパービジョンについて理解するとともに巡回指導の目的と内容を理解する
5	精神保健福祉実習、実習計画の作成① ＜ポイント＞：実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画作成の意義の理解
6	精神保健福祉実習、実習計画の作成② ＜ポイント＞実習計画作成の方法、実習プログラムシートの理解
7	精神保健福祉実習、実習計画の作成③ ＜ポイント＞実習担当教員による指導を受けながら実習計画を完成させる
8	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の確認 ＜ポイント＞精神保健福祉士法、個人情報保護法を振り返る
9	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務の確認 ＜ポイント＞実習中にこれらに沿った対応をするための自己の課題を言語化する
10	実習で活用できるソーシャルワークの技術の理解① ＜ポイント＞ソーシャルワーカーとして求められる専門的技術を認識し、実習の場で応用できるようになる準備
11	実習で活用できるソーシャルワークの技術の理解② ＜ポイント＞実習の場で実践できるようになるためロールプレイを用いての練習
12	評価についての理解 ＜ポイント＞実習における評価の種類とその意義の理解
13	見学実習（事前訪問）の準備① ＜ポイント＞見学実習（事前訪問）の意義
14	見学実習（事前訪問）の準備② ＜ポイント＞実習指導者へ伝えるべき事柄を考え、見学実習に備える
15	見学実習（事前訪問）の最終確認と学習のまとめ ＜ポイント＞精神保健福祉実習に向けた課題の明確化

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】自分が実習を予定（希望）している施設（種別）では、どのような援助が提供されているか具体的に述べよ。

＜ポイント＞
・以下の内容を反映させ、具体的に論述する。
① 根拠法を参考にまとめる。
② 利用者に提供される支援について、具体的にまとめる。
③ 制度や運用の現状と課題について、具体的にまとめる。
・「施設の一員として課題提起するソーシャルワーカー」の立場に留意し、一方的な批判や根拠のない私論ではなく、建設的に論じる。
・文献や新聞記事など、適切な方法を選んで情報を収集し、調査資料をＡ４サイズ両面２枚程度にまとめて添付する。

【提出における注意事項】
・提出期間は実習申込み手続きを実施した後から、予定する実習期間に定められる実習基礎資格科目の履修期限までとする。ただし、実習開始は科目履修済み（合格）であることが必要。
・提出のあて先は本学通信教育課となる。

科目終了試験学修のポイント

１．実習計画の意義について述べよ
＜ポイント＞
実習計画書に盛り込まれる事項も含め、まとめる。

２．支援計画の作成について述べよ
＜ポイント＞
評価までの一連の過程とそれぞれの段階を理解する。また、どのような技法を活用するか整理する。

３．ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士について述べよ。
＜ポイント＞
社会福祉士としての価値、職業倫理を理解し、それらが示されている目的について考察する。

４．実習記録ノートの内容について述べよ
＜ポイント＞
ソーシャルワークにおける記録の意味を理解し、実習記録の内容、記述の留意点をまとめる。

５．スーパービジョンの意義について述べよ
＜ポイント＞
スーパービジョンの機能を理解し、スーパーバイジーとして果たす役割についてまとめる。

６．評価の意味について述べよ
＜ポイント＞
評価の意義、手順、活用方法について、まとめる。

教科書

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集
『最新精神保健福祉士養成講座８　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（精神専門）』中央法規。
・東京福祉大学『福祉・保育実習の手引き』

参考文献

精神保健医療福祉白書編集委員会編集『精神保健医療福祉白書』中央法規。

科目コード	精神保健福祉実習指導Ⅲ（2単位）	登録年次	履修方法
5310		3年	ＳＲ
教員名	上松勝二郎、大山勉、小笠原眞紀、茅野由紀、小金澤嘉、谷口恵子、 辻築久子、辻本理絵子、中澤由美子、中島基彰、藤島薫、牧野孝行、三野宏治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

精神保健福祉実習指導Ⅲは、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと精神保健福祉実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。

精神保健福祉実習指導Ⅲは、精神保健福祉実習と並行して開講されており実習帰校指導と位置づけられている。（実習）実践を通じて課題となる事項を、本講義内で担当教員からのスーパービジョン、またグループ、報告・発表を用いて学生間で検討し、その結果を再び（実習）実践へと結びつける。（実習）実践と講義との相互作用を通じてソーシャルワーク実践に必要な専門技術と知識を統合化する。

精神保健福祉実習指導Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。

①精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術を体得する。

②精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

③具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

学修内容

1	オリエンテーション ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習指導Ⅲのねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明
2	ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解（実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討） ＜ポイント＞アセスメントについて
3	ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解（実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討） ＜ポイント＞ジェノグラムとエコマップについて・プランニングについて
4	ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解（実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討） ＜ポイント＞インターベンション・結果と評価
5	多職種連携とチームアプローチについての理解（実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討） ＜ポイント＞実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解を深める
6	事例検討の意義と方法① ＜ポイント＞事例検討の意義と方法を理解する。
7	事例検討の意義と方法② ＜ポイント＞事例検討を実施し、学びを振り返る。
8	地域社会への働きかけについての理解 ＜ポイント＞実習施設・機関と関わる社会資源についてまとめたうえで、その関連性と働きかけの方法についてまとめる。
9	クライエントへの援助実践についての理解 ＜ポイント＞クライエントへの支援において適用できる実践アプローチについて考察する。
10	専門職の倫理綱領と実践についての理解 ＜ポイント＞実習施設・機関での実践と専門職倫理との関係性についてまとめる。
11	・実習の評価及び全体総括会 ＜ポイント＞担当した事例（事業）についての報告と意見交換
12	・実習の評価及び全体総括会 ＜ポイント＞担当した事例（事業）についての報告と意見交換
13	実習の評価及び全体総括会 ＜ポイント＞担当した事例（事業）についての報告と意見交換。実習の評価について理解する。 ＜ポイント＞実習評価の意義について理解を深め、自己評価を行う。
14	ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める ＜ポイント＞自分の家族背景、交友関係等から、どのような価値観念をもつようになったか、この価値観念が援助にどのように反映すると考えるかまとめる。
15	自己の実践上の課題明確化 ＜ポイント＞実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】実習ノートを完成させ、「ソーシャルワーク実習全体を通して学んだこと（実習のまとめ)」を使用して実習を振り返り、まとめよ。

＜ポイント＞

実習前に作成した実習計画書を見直し、実習目標等の達成状況を整理する。

＜注意事項＞

- 本科目のレポートは、実習ノートとともに、実習終了後1週間を目安に実習施設に提出すること。実習施設から本学への返却後、教員が評価を行う。
- 通常のレポート提出期間には受付けられない。また、提出されない場合、実習の単位認定は行われない。
- 提出にあたっては、『福祉・保育実習の手引き』を参照すること。
- レポート受付票（OCR用紙）の添付は不要。

科目終了試験学修のポイント

1．自分の実習の体験を振り返って、「実習報告書」を作成せよ。

＜ポイント＞

「実習施設の概要」、「私の学び（事例)」、「実習のまとめ」を整理する。

＜注意事項＞

- 本科目の科目終了試験はスクーリング受講中に作成・提出される「実習報告書」を評価する。
- 草稿の準備はスクーリング前に行い、スクーリング中の指導や実習の振り返りを具体的に反映させて作成すること。
- 指定書式（計1枚）を使用すること。
- 作成にあたっては、『福祉・保育実習の手引き』を参照すること。

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集
『最新精神保健福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（精神専門)』中央法規。
・東京福祉大学『福祉・保育実習の手引き』

参考文献

精神保健医療福祉白書編集委員会編集『精神保健医療福祉白書』中央法規。

科目コード	精神保健福祉制度論（2 単位）	登録年次	履修方法
5240		2 年	ＳＲ
教員名	三野宏治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目は以下に挙げる内容について理解することを目的とする。①精神障害者に関する法律の体系についての理解。②精神障害者の医療に関する制度（精神保健福祉法の概要及び医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割、精神障害者の医療に関する課題）、③精神障害者の生活支援に関する制度（相談支援制度、居住支援制度、就労支援制度などと精神保健福祉士の役割並びに精神障害者の生活支援制度に関する課題）、④精神障害者の経済的支援に関する制度（生活保護制度、生活困窮者自立支援制度、低所得者対策等諸制度と精神保健福祉士の役割について、及び精神障害者の経済的支援制度に関する課題）

学修内容

1	精神障害者に関する法制度は多岐にわたる。まず、社会保障が精神障害者に果たす機能と役割について理解する。そして、諸制度や施策の仕組みを理解したうえで、ライフサイクルと精神障害者に対応した制度・施策について体系的に理解する。
2	精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴を理解しようとするとき、精神障害への理解と対応の歴史は決して無視できないものである。社会の障害者観によって奪われた尊厳を理解し、いかなる状況によって制度が成立・変容したのかについて、また現在の問題点を理解する。
3	本科目を学ぶ必要性について実際の事例を用い、様々な制度・サービスが支援を行う上で必要であることを学ぶ。 テキスト「精神障害者に関する制度活用の流れ――事例から」を参照。また、精神障害者の医療に関する制度のうち、精神保健福祉法について学修する。まず、精神保健福祉法の概要と権利擁護について学修し、精神保健福祉士が精神保健福祉法においてどのような役割を果たすのかを理解する。
4	精神障害者の医療に関する制度のうち、次の施策について理解する。①医療計画と関連事項　②自殺対策　③認知症支援施策　④依存症対策　⑤高次脳機能障害支援施策　⑥ひきこもり支援施策
5	医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割について、次の項目を理解する。①医療観察法の基本的仕組み、②医療観察制度における多職種チームと医療および精神保健観察、③医療観察制度が精神保健医療福祉に及ぼした影響と課題および展望
6	精神障害者の医療と関連する施策について学修を進める。具体的には、障害者差別解消法と障害者虐待防止法、意思決定支援、家族への支援、地域移行・地域定着支援と地域包括ケアシステム、アウトリーチ　の諸施策である。
7	精神障害者の生活支援に関する制度のうち、ここでは生活支援の基本的な考え方について学修する。具体的には、生活支援の概念、生活支援の発想の基盤、公的な生活支援（障害者総合支援法）の仕組に至るま経緯、障害者総合支援法　についてである。
8	相談支援制度について理解する。内容は、相談支援の概要について、現在の相談支援制度に至るまでの経緯、相談支援の制度上の位置づけ、相談支援を支える事業実施者について、相談支援制度における精神保健福祉士の役割、相談支援制度における課題である。
9	居住支援制度および就労支援制度について理解する。内容は、居住支援制度の概要にはじまり、居住支援における精神保健福祉士の役割、居住支援制度の課題、加えて、精神障害者と働くこと、障害者総合支援法における精神障害者の就労について、障害者雇用促進法における就労支援、就労支援における精神保健福祉士の役割、精神障害者の就労支援における課題である。
10	精神障害者の経済的支援について、精神障害者の暮らしに果たす経済的支援の意義と役割について学修する。具体的な学習項目は、精神障害者の生活実態から見える経済的支援の必要性について、生活支援に果たす経済的支援の機能、経済的支援に果たす精神保健福祉士の役割と課題である。
11	精神障害者の経済的支援について、所得保障にかかわる経済的支援について学修する。具体的な学習項目は、障害年金（精神の障害）および関連する制度、社会手当について、法令による所得保障の関連制度および施策である。
12	精神障害者の経済的支援について、経済的負担の軽減について学修する。具体的な学習項目は、医療に関する制度や施策（国レベルの医療制度や施策）、医療に関する制度や施策（自治体レベルの医療費助成）、生活の安定・社会参加のための制度や施策　とする。
13	生活困窮と生活保護制度について学修をすすめる。生活困窮と精神保健福祉、生活保護制度、自立支援プログラム、生活保護制度の動向と課題、生活保護制度における精神保健福祉士の役割　の各項目について理解する。
14	生活困窮者自立支援制度について、①生活困窮者自立支援制度の概要、②生活困窮者自立支援制度と関係制度等との連携、③生活圏窮者自立支援制度における精神保健福祉士について学修する。
15	低所得者対策について理解する。具体的内容としては、低所得者対策の概要、経済的支援、居住支援：無料低額宿泊所について、生活支援について、低所得者対策における精神保健福祉士の役割である。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

精神保健福祉法成立までの過程とその内容について記述せよ。

＜ポイント＞

1950年精神衛生法制定から現在までの改正とその経緯、現行法の内容について書くこと。特に1965年、1987年の改正は背景となった出来事についても述べるとよい。また、障害者自立支援法（現在の障害者総合支援法に相当）成立に伴う改正内容も重要である。

科目終了試験学修のポイント

１． 医療観察法の基本的仕組みについて述べよ。

＜ポイント＞

医療観察法の概要とその目的、また処遇の種類と処遇決定から終了までの過程について説明できるよう学修する。具体的には、当該自由の発生から、処遇が如何に決定され、どのような処遇を経て終了に至るのかを理解する必要がある。

２． 障害者総合支援法について、その成立過程と概要を述べよ。

＜ポイント＞

2006年の障害者自立支援法成立までの経過と自立支援支援法の問題点について述べること。加えて精神障害者の地域移行支援制度についても述べる。2013年成立の障害者総合支援法（現行法）の基本理念、対象、サービスの概要について述べること。

３． 障害年金（精神障害者が利用できるもの）について、その概要と受給の内容を述べよ。

＜ポイント＞

公的年金における障害年金、その沿革について述べる。さらに新規請求時の3つの要件である「加入要件」「保険料納付要件」「障害状態要件」についても記述できるようにする。また、受給後の手続きについても学修しておく必要がある。

４． 医療に関する制度や施策（国レベルの医療制度や施策と自治体レベルの医療費助成）について述べよ。

＜ポイント＞

公的医療保険の種類と給付の内容、高額療養費について学修する。また自立支援医療についてその概要も理解しておくこと。自治体レベルの医療費助成に関しては、精神疾患についての実施例を挙げ学修しておくとよい。

５． 生活困窮者自立支援制度について、その概要と各事業について述べよ。

＜ポイント＞

生活困窮者自立支援制度の沿革（歴史的経過）と概要、対象について学修すること。必須事業である「自立相談支援事業」「住居確保給付金の支給」と任意事業である「就労準備支援事業」「家計改善支援事業」「一時生活支援事業」「子どもの学習・生活支援事業」についてそれらの概要にも言及できるように学修しておくとよい。

６． 低所得者対策について、その概要を述べよ。

＜ポイント＞

生活福祉資金貸付制度について、その概要と実施主体、対象と貸付資金の種類（4種類）、求職者支援制度の概要、対象者、求職者支援訓練、職業訓練受講給付金について学修しておく。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集
『最新　精神保健福祉士養成講座４　精神保健福祉制度論』中央法規。

科目コード	精神保健福祉の原理（４単位）	登録年次	履修方法
5220		２年	ＳＲ
教員名	三野宏治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目は、障害者福祉の思想と原理、理念、また歴史的展開を理解したうえで、現代の「障害」や「障害者」に関する概念について学ぶ。また、諸外国の動向を踏まえ、日本の障害に関する現状や課題、精神科医療の特異性を学修する。さらには現代社会にあって、精神保健福祉士が有するべき原理や価値、理解しておくべき根拠法（精神保健福祉士法）や倫理綱領、職域と業務内容について考究することを目的とする。具体的には次の7つの項目を学修目標とする。

① 「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。
② 精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。
③ 精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。
④ 精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。
⑤ 現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。
⑥ 精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。
⑦ 近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。

学修内容

1	障害の捉え方と障害者福祉の理念、精神障害者福祉の歴史的展開について学修する。
2	精神障害と精神障害者の概念について、制度における「精神障害者」の定義及び国際生活機能分別 CF）と精神障害について理解する。
3	精神障害と精神障害者の概念について、精神障害の「障害特性」について理解する。加えて精神障害の理解と支援にかかわる新の潮流についても学修する。
4	諸外国における排除の歴史とその後の展開について学修する。具体的項目として、①日本と諸外国の共通点と相違点、②ヨーロッパにおける魔女狩りとその背景 ③精神科病院への隔離・収容の広がりとピネルの「鎖からの解放」 ④アメリカから始まった精神保健運動 ⑤非自発的入院の根拠の一つである精神障害者観 ⑥イタリアにおけるバザーリアの精神医療改革 ⑦精神障害者の人権保障に関する国際的な取り組み ⑧取り組みを継続し、発展させるうえで重要なことは何か。
5	目本における排除の歴史と構造を理解する。学修項目は、精神障害者に係る施策の動向に影響を与えた各種事件として、相馬事件と精神病者監護法、精神病院法について、ライシャワー事件と精神衛生法改正、宇都宮病院事件と精神衛生法改正、大和川病院事件の発生、池田小学校事件と医療観察法創設、相模原障害者殺傷事件とその影響、精神保健福祉士がもつべき視点と留意点とする。
6	日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組みを学修する。
7	精神障害者の生活特性について、精神科医療による生活への影響を学修する。
8	精神障害者の家族が置かれている状況について学修する。
9	精神障害者の社会生活の実際について学修する。
10	メンタルヘルスをめぐる新たな課題について学修する。
11	精神保健福祉の原理が培われた足跡・過程について理解する。
12	精神保健福祉士による実践の価値・原理を学修する。
13	精神保健福祉士による実践の視野や視点を学修する。
14	援助における関係性を学修する。
15	「精神保健福祉士」の役割と機能について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 精神障害についての概念について説明せよ。

＜ポイント＞

ICIDH と ICF を援用した精神障害の構造を説明する。そのうえで、疾病と障害の共存について、障害の可逆性、環境因子との相互作用、体験としての障害などについて具体例を挙げながら述べること。

【設題2】 明治期から現代にかけて、精神障害者の対応法の歴史的変遷について述べよ。

＜ポイント＞

精神病者監護法・精神病院法の戦前二法がいかなる状況で制定されたのか、またどのような内容の法令であったかを述べる。加えて、1950 年成立した、精神衛生法がいかなる改正を経て現在に至っているのかについて述べること。

科目終了試験学修のポイント

1． 1965 年と1987 年の精神衛生法改正について、その内容と改正のきっかけになった事件の内容を書け。

＜ポイント＞

1964 年のライシャワー事件と1984 年宇都宮病院事件発覚について、それぞれ何が問題とされたのかについて述べる。加えてそれらの問題について、法改正によって如何に対応がなされたのかについて述べること。

2． わが国の精神科医療の特異性について述べよ。

＜ポイント＞

病院収容についての歴史と精神科特例、多剤併用についてその概要と問題点を述べる。また、施設化した精神科病への警告としてのクラーク勧告の内容、開放化運動についても学修しておくこと。

3． 精神障害者の家族が置かれている状況について述べよ。

＜ポイント＞

法律に規定された家族の位置づけを、法の変遷にそって述べること。まずは精神病者監護法での規定と役割、精神衛生法の改正によって幾度もその規定と役割が変わっている。その問題点と変遷についても述べること。

4． 「Y問題」について、概要とその後の影響を述べよ。

＜ポイント＞

まず、「Y問題」というものが何かについて述べること。そのうえで、「Y問題」が示したPSW への教訓と課題について学修すること。その後整えられた倫理綱領への言及があるとなおよい。

5． エンパワメントとリカバリーについて、その特徴と定義を述べよ。

＜ポイント＞

それぞれの概念が生成された背景と定義、それらの視点を活用した実践などを述べることができるように学修すること。

6． 精神保健福祉士法（＊注意：精神保健福祉法ではない）について、その概要を述べよ。

＜ポイント＞

精神保健福祉士法の成立とその目的について、その定義、義務規定について説明できるように学修すること。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集

『最新　精神保健福祉士養成講座5　精神保健福祉の原理』中央法規。

科目コード	精神保健福祉論（6単位）	登録年次	履修方法
5040/5041		3年	SR
教員名	石本強、上松勝二郎、大山勉、神谷恭子、小金澤嘉、辻本理絵子、三野宏治		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目は、精神保健福祉士になるための土台作りの科目で、教科の中心的な位置づけが与えられ、単位数もその他の科目に比べて多くなっている。精神保健福祉士として、実践する際の視点・ものの考え方を身につけ、必要な基礎知識を学修するのが目的である。

精神障害者の歴史と課題、精神障害者の人権、障害者福祉の理念を学修しながら、精神障害者の援助の視点を身につける。その上に立って、精神保健福祉法を中心とした精神障害者施策を学び、精神障害者の社会復帰の促進や地域生活支援をするための援助活動のあり方を概観する。また、精神保健福祉士の理念及び業務、義務なども学ぶ。

学修内容

1	障害者福祉の理念と精神障害
2	精神障害者の人権
3	障害者権利条約の理念
4	精神障害および精神障害者
5	精神保健福祉の歴史と理念
6	精神保健福祉の現状と展望
7	国家資格としての精神保健福祉士の意義
8	精神保健福祉士の専門性と倫理
9	災害時における精神保健福祉士の役割
10	チーム医療における精神保健福祉士の役割
11	精神保健福祉法の意義と内容
12	精神障害者福祉制度の概要と福祉サービス
13	医療観察用の意義と内容
14	精神障害者の生活実態
15	精神障害者の生活支援システム

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
3題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 障害者福祉の理念について述べよ。

＜ポイント＞

排除からノーマライゼーションへ向かう障害者福祉の理念の形成過程および具体的な課題を含めて概説すること。

【設題2】 精神保健福祉の歩みを踏まえた上で、精神保健福祉法の概要について述べよ。

＜ポイント＞

精神病者監護法から改正精神保健福祉法に至る経緯について、精神保健福祉の歴史と関連づけながら、歴史的背景、改正の理念、主な改正点を踏まえ、改正精神保健福祉法の全体的な構成、法の目的と対象を押さえること。

【設題3】 精神保健福祉施策の現状と課題について述べよ。

＜ポイント＞

精神保健福祉行政を保健福祉行政の枠組みの中で捉え、国および都道府県レベルと市町村レベルでの施策の内容を押さえること。

科目終了試験学修のポイント

1．障害者福祉の理念と意義について

＜ポイント＞

改正された障害者基本法をよく読み、理念をまとめるとともに、精神保健福祉士が果たすべき役割について考察すること。

2．精神障害者の人権について

＜ポイント＞

精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の果たすべき役割についてまとめること。

3．精神保健福祉士について

＜ポイント＞

精神保健福祉士法をよく読み、精神保健福祉士の業務内容についてまとめること。

教科書

（平成23年度までの配本）

精神保健福祉養成セミナー編集委員会『精神保健福祉士養成セミナー第4巻 精神保健福祉論』へるす出版。

（平成24年度以降の配本）

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会

『新版精神保健福祉士養成セミナー第4巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開[基礎][専門]』へるす出版。

『新版精神保健福祉士養成セミナー第6巻 精神障害者の生活支援－制度・システムとサービス』へるす出版。

参考文献

日本精神医学ソーシャル・ワーカー協会編『改訂これからの精神保健 －精神保健福祉士ガイドブック』へるす出版。

厚生省大臣官房障害保健福祉部精神保健福祉課『我が国の精神保健福祉』厚健出版。

科目コード	精神保健福祉論Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
5130		２年	ＳＲ
教員名	上松勝二郎、神谷恭子、小金澤嘉、小久保志乃、 辻本理絵子、藤島薫、牧野孝行、三野宏治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

1．精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。
2．精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。
3．職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む）について理解する。
4．行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。

学修内容

1	精神障害者の概念（1） ①障害の概念…医学モデルから社会モデル、ICF　②精神障害者の特性 1980 年に WHO が障害構造モデルとして発表した ICIDH から、どのような経緯で ICF を成立させたのかを国際障害者年のテーマである「完全参加と平等」と合せ理解することが求められる。また、障害のとらえ方としての社会モデルと医学モデルの統合についても学修を深め、それをふまえて精神障害者の特性についての考察を深める。
2	精神障害者の概念（2） ①障害者基本法における精神障害者　②精神保健福祉法における精神障害 障害をどのように規定するのかについてわが国における法的な面から理解を深め、その中で、精神障害（者）がどのような歴史的背景をもって法律の中に位置付けられてきたのかを理解する。具体的には障害者基本法、精神保健福祉法を中心として、障害者総合支援法および発達障害支援法、知的障害者福祉法などもあわせて総合的に理解を深める。
3	精神障害者の生活の実際（1） 日本における精神障害者の生活実態（経済、家族、住居、施設から地域へ） わが国の精神障害者の地域生活支援の状況について理解を深めるために、教科書を中心に理解を深めると共に、患者調査をはじめ各調査報告書や白書などからのデータをよく読みこんで生活実態を把握する。また、ノーマライゼーションの理念と共に障害者の脱施設化を進めた諸外国に比べてなぜわが国がその流れにのることができなかったのかについても考察をする。さらに、精神障害者が地域生活をする上での現状の制度の理解と課題を把握する。
4	精神障害者の生活の実際（2） 海外における精神障害者への地域生活支援 ノーマライゼーションの理念とともにおこった地域移行の流れは諸外国によってその展開過程が異なっている。アメリカの大統領教書からはじまった急激な脱施設化の反省からおこったケアマネジメントやセルフヘルプグループ、リカバリー概念などを抑えること。また、入口を閉じることで脱施設化を推進したイタリア、コミュニティにおけるケアを推進したイギリスなどの地域生活支援について理解を深める。
5	精神障害者の生活と人権（1） ①精神障害者の生活支援の理念　②地域生活における精神障害者の人権 歴史的背景から考えて、精神医療及び精神保健福祉における「人権」のあり方について専門職を目指す者として深く学ぶことが求められる。特に、わが国では未だに精神科病床数の多さから入院中心の処遇であることを否定することはできず、今後の改革を進めるためにも考察を深める。国際基準である「精神病者の保護およびメンタルヘルスケア改善のための諸原則」、「精神保健ケアに関する法―基本 10 原則」を熟読し現状との比較において考察をする。
6	精神障害者の生活と人権（2） ①精神障害者への差別と偏見の現状　②精神障害者の人権擁護にはたす精神保健福祉士の役割 精神障害者に対する差別と偏見に関する実態を把握し、なぜ、そのようなことが起こるのかを歴史的背景、社会の仕組みなどから考察をする。更に、偏見を撲滅するためのアクションとしてどのようなことが考えらえるのか、精神保健福祉士が果たすことのできる役割とは何かを具体的に考察をする。また、制度としての人権擁護についても理解を深め、課題についても考察をする。
7	精神障害者の居住支援（1） ①精神障害者の居住支援制度の概要　②精神障害者の居住支援の実際…精神保健福祉士の役割 地域で生活をすることが当たり前であることを可能とする社会つまりノーマライゼーションを実現するために精神障害者の居住支援がどうなされているのかを制度としてまず捉える。どのような制度・事業・施設等があるのか、公営住宅法、障害者総合支援法などからそれぞれの目的を理解する。精神障害者が病院を退院して地域生活をするために、精神保健福祉士が果たす役割や具体的な支援について理解をする。
8	精神障害者の居住支援（2） ①精神障害者の居住支援に関係する専門職と関係機関の連携　②居住支援における近年の動向 精神障害者の居住支援には様々なアプローチから考える必要がある。長期入院からケアが提供される居住を経てからの自立支援から家族との同居から公営住宅などにおける自立生活など、その当事者によって様々であり、関係する専門職も病院の精神保健福祉士、ピアサポーター、行政職員、グループホームの世話人など多様であることから、各種制度と併せて理解を深める。
9	精神障害者の就労支援（1） ①職業リハビリテーションの概念　②雇用・就業支援制度の歴史的展開 リハビリテーションの一つである職業リハビリテーションが生まれた歴史的背景と現在における概念を整理し理解する。また、ほかのリハビリテーションとの関連も含めて総合的に精神障害者のトータルなリハビリテーションについて考察をする。障害者雇用促進法、障害者自立支援法から障害者総合支援法など雇用・就業支援制度の歴史的な展開についてまとめる。
10	精神障害者の就労支援（2） ①就労支援制度の概要　②就労支援に関わる専門職の役割と連携 障害者雇用促進法における雇用義務制度と納付金制度、および職業リハビリテーションの推進について学びを深める。また、雇用・就業に関する社会資源および労働保険制度についての理解も深める。障害者総合支援法における就労支援制度についても理解を深める。さらに、様々

	な領域や制度において就労支援に関わっている専門職の役割と連携について学ぶ。
11	精神障害者の就労支援（3） ①福祉的就労における支援の実際　②雇用・就業支援における近年の動向 地域で生活をする精神障害者を対象とした福祉的就労はどのような経緯で生まれ発展してきたのかを理解する。障害者総合支援法（旧：障害者自立支援法）において訓練等給付に位置づけられている就労移行支援、就労継続支援 A（雇用型）、就労継続支援 B（非雇用型）について、その目的と役割について理解を深める。また、雇用・就業支援における近年の動向についても幅広く理解をし、今後の方向性等について考察をする。
12	精神障害者の生活支援システム（1） ①精神障害者の自立と社会参加　②相談援助　③雇用・就業以外の就労 生活とは何かという根本的な問いをもって精神障害者の自立と社会参加について考察をする。昨今、精神障害者の手記から生まれたリカバリーという概念が広まっており、自立と社会参加を考える上で重要なキーワードとしてとらえた上で、支援の関係にあり方について考察し、求められる相談援助のあり方について学びを深める。また、多様な自立と社会参加から雇用・就業以外の就労あるいは社会参加の在り方についても考察を深める。
13	精神障害者の生活支援システム（2） ①　ーシャル・サポート・ネットワーク　②余暇活動　③地域生活支援システムの実際 人が社会で生きていくために必要とされるソーシャル・サポート・ネットワークの概念について学修をする。ソーシャル・サポートの不足や不備などをどのように充足させていくかをエコロジカルな視点でとらえ考察をする。生活を豊かにするものの一つとして余暇活動は重要なものであり、それらを合わせて地域生活支援システムの実際について学ぶ。
14	行政における相談援助（1） ①市町村における相談援助　②都道府県、保健所、精神保健福祉センター等における相談援助 障害者総合支援法に位置づけられている地域生活支援事業には市町村および都道府県で行う事業があり、それぞれで行われる相談事業の内容と役割について理解を深める。また、そのほかに保健所および精神保健福祉センターで行われている相談援助の内容と役割についても理解を深める。
15	行政における相談援助（2） 行政における精神保健福祉士の役割と機能 行政における精神保健福祉士がどのような役割と機能を必要とされるのかを考えるために、保健所および精神保健福祉センターなどの行政機関の理解を深める。また、そのほか地方行政に所属する精神保健福祉士に求められる役割と機能は地方公務員という立場に規定されることも理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】精神障害者の生活支援システムについて述べよ。
＜ポイント＞
精神障害者の生活実態、居住支援、雇用・就労、地域生活支援についてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．精神障害者の概念と生活実態について
＜ポイント＞
障害をどのような視点（モデル）でとらえるのか、また、法制度による定義の違いなどを含め、歴史的背景と合わせて理解することが重要である。その上で、生活実態を考察する。

2．障害者福祉の理念と精神障害者の人権について
＜ポイント＞
ノーマライゼーション理念から障害者福祉の理念がどのように発展してきたのかを理解し、精神障害者の人権が尊重されるためにはどのような事が重要であり、また、課題であるのかについて考察する。

3．精神保健福祉に関する制度とサービスについて
＜ポイント＞
精神保健福祉法、障害者自立支援法とその見直し等を理解し、具体的なサービスの概要を理解する。

4．精神障害者の居住支援に関する制度と課題について
＜ポイント＞
精神障害者の居住支援に関する制度と実際をよく理解し、どのような課題があるのかを考察する。

5．精神障害者の就労支援に関する制度と課題について
＜ポイント＞
就労支援制度の概要と実際をよく理解し、特に精神障害者の就労においてどのような課題があるのかを考察する。

6．市町村における精神保健福祉士の相談援助について
＜ポイント＞
市町村における精神保健福祉業務（障害者自立支援法、精神保健福祉法等）を理解した上で、精神保健福祉士がどのような立場・役割をもって相談援助を行っているのかについて理解する。

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集
『新版精神保健福祉士養成セミナー第4巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開』。
『新版精神保健福祉士養成セミナー第6巻　精神障害者の生活支援ー制度・システムとサービス』へるす出版。

参考文献

日本精神保健福祉士養成校協会編集
『新・精神保健福祉士養成講座　第７巻　　精神障害者の生活支援システム』中央法規。

科目コード	精神保健福祉論Ⅱ（４単位）	登録年次	履修方法
5140		３年	ＳＲ
教員名	上松勝二郎、神谷恭子、小金澤嘉、小久保志乃、 辻本理絵子、中澤由美子、藤島薫、牧野孝行、三野宏治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

1．精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法）との関わりについて理解する。
2．精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。
3．精神障害者の支援において係る施設、団体、関連機関等について理解する。
4．更生保護制度と医療観察法について理解する。
5．社会資源の調整・開発に係る社会調査の概念と活用について基礎的な知識を理解する。

学修内容

1	精神保健福祉法の意義と内容（1） ①精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法 精神障害者は精神疾患に対する医療的支援と同時に、社会生活上における様々な困難や自己実現をめざすための支援が必要とされる。その意味で、精神障害者が福祉政策の対象として位置づけられた精神保健福祉法は相談援助活動において重要なものであることを理解する。
2	精神保健福祉法の意義と内容（2） ①精神保健福祉法の成立までの経緯と意義　②精神保健福祉法成立後の変化 精神障害者を福祉の対象と位置づけた精神保健福祉法が成立するまでの歴史的背景と併せて制度の変遷について詳しくまとめて理解する。具体的には精神病者監護法から精神衛生法、そして精神保健福祉法の経緯と意義を押さえることである。更に、精神保健福祉法成立後のめまぐるしい変化については、十分に学修を深めることが求められる。精神保健医療福祉の改革ビジョン策定と障害者自立支援法成立は精神保健福祉士を目指す者にとって重要な部分である。
3	精神保健福祉法の意義と内容（3） ①精神保健福祉法の構成　②精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割　③最近の動向 精神保健福祉法の条文に沿って、全体の構成を把握するとともに、主要な内容（目的、精神保健福祉センター、地方精神保健福祉審議会および精神医療審査会、精神保健指定医、登録研修機関および精神科病院、医療および保護、保険および福祉、精神障害者社会復帰促進センター）について学ぶ。また、各専門機関等における精神保健福祉士の配置と役割についても理解を深める。
4	精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス（1） ①障害者基本法と精神障害者施策とのかかわり　②障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービスの実際 心身障害者対策基本法の改正によって成立した障害者基本法が成立したことで、精神障害者施策がどのように整備されたのかを具体的にまとめ理解する。また、ADA　や障害者権利条約とわが国の障害者施策に対する対応についても理解を深める。障害者自立支援法によって精神障害者の福祉サービスがどのように体系化され提供されるようになったのかを理解した上で、何が課題とされ障害者総合支援法の成立に至ったのか、その改正点などの概要を把握する。
5	精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス（2） ①精神障害者等を対象とした福祉施策・事業 障害者総合支援法における福祉施策と事業について具体的に体系と内容をまとめ理解を深め、障害者自立支援法からの改正点についての詳細や、実際の方向性についてとらえる。そのほか、精神保健福祉に関する行政組織および業務内容等についても学ぶ。
6	精神障害者に関連する社会保障制度の概要（1） ①医療保険制度　②介護保険制度 精神障害者が利用する制度は障害者総合支援法以外に様々なものがある。わが国における公的な医療保険制度と介護保険制度は社会保障制度の一部門である社会保険のなかに位置づけられている。医療保険制度および後期高齢者医療制度の概要を理解する。2000 年から始まった介護保険制度について、その成立に至る社会的背景と目的をおさえ、仕組みおよび介護保険給付の概要を学ぶ。
7	精神障害者に関連する社会保障制度の概要（2） ①経済的支援に関する制度の意義　②所得保障（障害年金・手当・生活保護・労災など）　③税金控除 精神障害者が福祉の対象となったのは歴史的にまだ浅く、その生活実態調査の結果からも経済的支援が必要であることがわかっている。生活の質を保障することは国家の責務でもあることから経済的支援に関する制度の意義について考察する。 その上で、所得保障（障害年金・手当・生活保護・労災など）および税金控除の概要と内容を学ぶ。
8	相談援助に係る組織、団体、関連機関及び専門職や地域住民との連携（1） ①相談援助に係る行政組織と民間組織　②福祉サービス提供施設・機関 相談援助に係る行政組織と民間組織（地方自治体、社会福祉法人、特定非営利活動法人、社会福祉協議会、民生委員、児童委員、自治会、ボランティア組織、企業）などについて理解する。　また、福祉サービス提供施設・機関である、社会復帰施設、グループホーム、相談支援事業所、地域活動支援センターなどについて理解し、それぞれの連携について学ぶ。
9	相談援助に係る組織、団体、関連機関及び専門職や地域住民との連携（2） ①インフォーマルな社会資源の役割と実際　②専門職や地域住民の役割と実際 家族会、セルフヘルプグループ、ピアサポートなどのインフォーマルな社会資源の役割と実際について理解する。また、精神保健福祉士、社会福祉士、地域福祉専門活動委員、認知症サポーターなどの専門職および地域住民などの相談援助に係る連携について学ぶ。
10	更生保護法（1） ①更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係　②更生保護制度の担い手 更生保護法において規定されている「保護観察における遵守事項の整理・充実」、「社会復帰のための生活環境の調整の充実」、「犯罪被害者等が関与する制度の導入」についてまとめ、更生保護制度の概要と精神保健福祉の関係について理解する。更生保護制度の担い手である保護観察官、保護司について理解する。
11	更生保護法（2） ①更生保護制度における関係機関・団体との連携　②保護観察所の役割と実際 地方裁判所の所在地におかれている保護観察所の役割について理解を深める。また、更生保護施設の目的と保護内容、および民間協力者における活動内容を理解する。また、司法・医療・福祉の連携が必須であることから、地域生活定着支援センター、覚せい剤やアルコール

	などの専門医療機関、保健所などとの連携についても学ぶ。
12	医療観察法（1） ①医療観察法の概要　②医療観察法の意義と内容　③社会復帰調整官の役割と実際 医療観察法が成立された経緯と背景について理解した上で、医療観察法の概要をまとめ、どのような処遇の流れになっているのかを学ぶ。医療観察法が果たす意義と内容について理解し精神保健福祉士が果たす役割について学ぶ。医療観察法における社会復帰調整官が審判の開始から処遇終了までどのような役割を担っているのかを理解する。
13	医療観察法（2） ①医療観察法の審判と精神保健参与員の役割　②指定入院医療機関における処遇　③地域処遇 医療観察法の審判において精神保健参与員が精神保健福祉分野の専門家として、どのような役割を果たしているのかについて理解する。指定入院医療機関における処遇の内容、手続きなどについて理解する。また、地域処遇の具体的内容についても理解する。
14	社会資源の調整・開発に係る社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用について（1） ①社会調査の意義と目的　②社会調査の対象　③社会調査における倫理と個人情報 地域社会における福祉ニーズを把握し社会資源の調整・開発を行うために必要とされる社会調査の意義と目的について学び、社会調査の対象について理解する。また、社会調査を実施する場合の倫理のあり方と個人情報の保護をどのように守るかについて理解を深める。
15	社会資源の調整・開発に係る社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用について（2） ①量的調査法と活用　②質的調査法と活用　③ICT の活用方法 社会調査の具体的方法として量的調査の方法と活用（全数調査と標本調査、横断調査と縦断調査、測定の水準、信頼性と妥当性、質問紙の作成方法と留意点、調査票の配布と回収、集計と分析）、質的調査の方法と活用（観察法、面接法、記録の方法と留意点、データの整理と分析）について理解する。また、最近、社会調査に活用されているICT(情報通信技術)についても理解を深める。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】精神保健福祉法の歴史について述べよ。
＜ポイント＞
法制定及び改正の背景、改正の目的、主な改正点についてまとめること。

【設題2】医療観察制度における精神保健福祉士の役割について述べよ。
＜ポイント＞
法制定の背景、経過及び目的、精神保健福祉士の機能についてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．精神保健福祉士法改正の経緯とその背景及び目的について
＜ポイント＞
精神保健福祉士法改正は自立支援法など関連制度の改正とともに、精神保健福祉士の養成の在り方を検討する動きがあったことをふまえ、その背景及び目的について理解する。

2．精神障害者の医療に関する制度と課題について
＜ポイント＞
障害者自立支援法の自立支援給付の一つである自立支援医療と公的医療保険制度を理解する。

3．精神障害者の社会復帰に関する制度と課題について
＜ポイント＞
精神障害者の「入院から社会復帰施設へ」という動きが「地域生活支援へ」と変化してきた根拠となる法制度を理解する。
また、医療観察制度が成立した背景と概要・目的・実際について理解し課題を考察する。更生保護制度の概要と目的そして現状を理解し、どのような課題があるのかを考察する。

4．精神障害者の地域生活支援に関する制度と課題について
＜ポイント＞
精神障害者が地域で生活をするために何が必要となり、それを支える制度にはどのようなものがあるのかについて幅広く理解し、どのような課題があるのかについて考察する。

5．更生保護制度と医療観察制度の関連について
＜ポイント＞
更生保護制度の概要と課題をふまえ、医療観察制度が成立した背景を理解し両制度の関連について理解する。

6．医療観察制度における精神保健福祉士の役割について
＜ポイント＞
精神保健福祉士法で規定されている精神保健福祉士の業務を理解し、重大な他害行為を行った精神障害者を支援するためには、精神保健福祉士はどのような役割を担うのかについて具体的に考察する。

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会
『新版精神保健福祉士養成セミナー第4巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開』。
『新版精神保健福祉士養成セミナー第6巻　精神障害者の生活支援－制度・システムとサービス』へるす出版。

参考文献

日本精神保健福祉士養成校協会

『新・精神保健福祉士養成講座第６巻　精神保健福祉に関する制度とサービス』中央法規。

科目コード	生物学（２単位）	登録年次	履修方法
1300/1301		１年	ＳＲ/Ｒ
教員名	荒野多門、石本強、伊藤京一、有働文雄、成田成		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

現存している生物は、地球の長い変遷の中で生じてきた歴史的産物である。このような生物の起源、地球環境の変化に伴う適応や進化、体の形態や機能などを学ぶことは、生物学を理解する上で必要不可欠である。特に人間との関わりでいえば、生態系の構成を認識できるかどうかが、直接、生存という形で我々に降りかかってくる。

この科目では、生物学の基礎ともいうべき、生態系、染色体と遺伝子、細胞の核、ホメオスタシス、発生、炭酸同化作用、生物の進化などについて学修する。

学修内容

1	「生態系」とは何かを理解する。生態系を構成する生物には、①生産者（植物）、②消費者（草食・肉食動物）、③分解者（細菌類）の３つがあり、環境には、光、温度、水、空気、土壌などの無機的環境がある。教科書の「生物学」のページを参照。
2	「生産者」としては、主に緑色植物が挙げられ、光合成によって、光と水と二酸化炭素といった無機物から有機物であるブドウ糖を合成している。教科書の「生物学」のページ、高校生向けの「生物」の教科書などを参照。
3	「消費者」としては、草食動物、小型肉食動物、大型肉食動物が挙げられる。これらの間には食物連鎖の関係も成り立っている。教科書の「生物学」のページ、高校生向けの「生物」の教科書などを参照。
4	「分解者」としては、細菌類が挙げられる。細菌類は動物の死体を分解する役割を果たしている。教科書の「生物学」のページ、高校生向けの「生物」の教科書などを参照。
5	「染色体」は、細胞の核内で細胞分裂時に染色質（染色糸）が濃縮してできるものである。また、内部には遺伝子が含まれている。教科書の「生物学」のページ、高校生向けの「生物」の教科書などを参照。
6	「遺伝子」の本体はDNAである。DNAは２本のヌクレオチドが二重らせん構造をしおり、内部の塩基の配列が遺伝情報となっている。教科書の「生物学」のページ、高校生向けの「生物」の教科書などを参照。
7	「核」は、細胞のほぼ中央に位置しており、内部には遺伝情報となるDNAを含んでいる。教科書の「生物学」のページ、高校生向けの「生物」の教科書などを参照。
8	「ホメオスタシス」とは、恒常性とも呼ばれており、自律神経とホルモンの働きによって調節されている。教科書の「生物学」のページ、高校生向けの「生物」の教科書などを参照。
9	「自律神経系」は交感神経と副交感神経に大別される。前者は興奮時や緊張時に働き、後者は食後や安静時に働いている。教科書の「生物学」のページ、高校生向けの「生物」の教科書などを参照。
10	「ホルモン」は、内分泌腺（脳下垂体、甲状腺、副腎、すい臓、卵巣、精巣など）から分泌され、血液やリンパ液から全身へ運ばれるが、特定の細胞のみに働いている。教科書の「生物学」のページ、高校生向けの「生物」の教科書などを参照。
11	「発生」とは、動物の卵子と精子が受精した受精卵から個体が形成されるまでのことをいう。教科書の「生物学」のページ、高校生向けの「生物」の教科書などを参照。
12	「形成体」とは、オルガナイザーとも呼ばれ、隣接する外胚葉から神経管などを誘導する働きがある。教科書の「生物学」のページ、高校生向けの「生物」の教科書などを参照。
13	「炭酸同化作用」とは、植物などが二酸化炭素を利用してブドウ糖を合成する働きのことで、使用するエネルギーによって、光合成と化学合成に大別される。教科書の「生物学」のページ、高校生向けの「生物」の教科書などを参照。
14	「光合成」は、光エネルギーと二酸化炭素と水を用いてブドウ糖を合成する働きのことで、植物細胞内の葉緑体で行われる。教科書の「生物学」のページ、高校生向けの「生物」の教科書などを参照。
15	「生物の進化」については、いくつかの学説があるが、地球規模でのさまざまな環境変化に適応できた生物によってなされてきたと考えられている。教科書の「生物学」のページ、高校生向けの「生物」の教科書などを参照。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】生態系における有機物の合成と重要性について述べよ。

＜ポイント＞

「生態系」とは、「生物群集」と彼らを取り巻く「環境」を総合的にとらえたものである。「生物群集」は、その役割から、①生産者（植物）、②消費者（草食・肉食動物）、③分解者（細菌類）の3つに大別される。一方、「環境」としては、光、温度、水、空気、土壌などの無機的環境が挙げられる。ここでは、生産者が行う有機物の合成について詳細に述べ、その重要性をさまざまな方面から論じること。

科目終了試験学修のポイント

1．染色体と遺伝子について

＜ポイント＞

・染色体や遺伝子の位置関係、それぞれの役割などについて論述する。

2．細胞内器官の核について

＜ポイント＞

・核の構成要素を4つ挙げ、それぞれの構造、主成分、働き、性質などについて解説する。

3．ホメオスタシスにおける神経とホルモンの関係について

＜ポイント＞

・ホメオスタシス（恒常性）を維持する上で重要な神経系とホルモンについて、具体例を挙げながら説明する。

4．卵発生とその機構について

＜ポイント＞

・受精卵から個体が完成するまでの動物の発生については、その過程を分かりやすく論述する。

5．炭酸同化作用と自然界に果たす役割について

＜ポイント＞

・炭酸同化作用には何があるのか。また、それが自然界に果たす役割の具体例について分かりやすく説明する。

6．生物の進化について

＜ポイント＞

・生物がどのようにして進化してきたのか、具体例を挙げながら説明する。

教科書

東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。

参考文献

高校生向けの「生物」の教科書、参考書、図説など

科目コード	生理学（４単位）	登録年次	履修方法
2560/2561/2562		１年/２年	R
教員名	石本強、菅沼太陽		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

ヒトの「からだ」に関係のある仕事に携わる人々にとって、正常なヒトの機能を知ることは大切なことである。

本科目では、人体の各々の器官ごとの正常な生体機能について理解を深めると同時に、その機能が破綻したときの疾病について学ぶ。

学修内容

1	イントロダクション：生理学とは、生理学と関連する分野 生理学で学ぶ目標と方向を把握し、医学における位置づけ、および医学以外の科学分野との関連を理解する。生理学で頻繁に使用する単位について理解する。
2	細胞：構造と機能 人体を構成する主な元素を把握する。人体構造の階層性（細胞→組織→器官→器官系→個体）について学び、最小単位である細胞の構造と細胞膜、細胞内小器官、核（DNA）の機能について理解する。
3	体液と血液：組成、機能、恒常性の調節機構 体液量と分布について理解する。細胞内液と細胞外液（組織液、管内液＝血液）の特徴と機能を理解し、恒常性を維持する機構について学ぶ。また、恒常性が破綻した状態の症状と予防策について理解する。
4	循環器系：心臓機能の調節機構、血管系の調節機構 心臓の構造と機能、血液循環の特徴について理解する。心臓拍動の機序について、刺激伝導系と自律神経による調節から理解し、心不全のリスク因子と防止策について、AED 使用を含めて考える。血圧の意味について理解する。
5	呼吸器系：呼吸器機能の調節機構、ガス交換（外呼吸、内呼吸） 外呼吸・内呼吸について理解し、呼吸調整に関与する因子を学ぶ。呼吸障害の原因と対策を考える。呼吸器系と循環器系との関連についても理解する。
6	消化器系：消化管機能の調節機構、肝臓・膵臓の機能、消化・吸収、消化管ホルモン 食物摂取・消化・吸収の定義を理解し、消化器運動と消化液分泌の機序について学ぶ。消化管と肝臓、膵臓の活動における自律神経系の関与を理解し、消化器系疾患のリスク因子について考察する。
7	栄養と代謝：栄養素、中間代謝、活動とエネルギー所要量 五大栄養素の機能を理解し、過不足の影響について考える。空腹時と満腹期におけるエネルギー代謝をもとに、肥満とやせの機序について理解する。
8	体温：体温の生理的変動、熱産生・放射、熱中症、低体温症 恒温動物としてのヒトの体温について、熱産生・熱放散を介する維持機構について学ぶ。発熱・解熱の過程について、温度センサーと視床下部機構との関連から理解する。熱中症、低体温症についても学ぶ。
9	排尿：腎臓の機能（糸球体ろ過、尿細管再吸収）、体内の水平衡 腎臓における原尿産生、再吸収の機序から、尿中成分の特徴について理解する。尿量の増減、成分の変化について、腎臓機能、心臓機能との関連を考える。
10	骨とカルシウム代謝：骨吸収･再形成、骨代謝とホルモン、骨粗鬆症 骨の機能のうち、運動、支持、保護、カルシウム貯蔵を中心に学ぶ。骨の形成・吸収・再吸収の機序と関与するホルモン、ビタミンについて理解する。
11	内分泌系：内分泌腺とホルモン分泌の調節機構、代表的なホルモンの機能 情報伝達の一方法としての内分泌機構について、神経伝導・伝達との相違点を理解する。内分泌器官（分泌腺）の種類と体内の存在部位、分泌の調節機構(フィードバック機構)について学ぶ。視床下部－下垂体系のホルモン分泌機構とストレスの影響、膵臓におけるインスリン分泌など、代表的なホルモンの機能について学ぶ。
12	生殖器系：性分化、二次性徴、性周期、受精・分娩 生殖器系の男女差について、染色体（遺伝子）、性ホルモン分泌から学ぶ。性周期と性ホルモン分泌、妊娠、出産時のホルモン分泌の特徴を理解する。併せて、性ホルモンと副腎皮質ホルモンの相互関連についても考察する。
13	中枢神経系：大脳新皮質・辺縁系の機能分化、間脳・脳幹の機能 神経伝導・伝達の機序について理解する。神経系の発生・成長過程をもとに、神経系の構造（大脳、脳幹、脊髄）と機能分化について理解する。中枢神経系の機能障害と出現する症状の特徴について学ぶ。

14	末梢神経系：自律神経系、運動神経系、感覚神経系 自律神経系（交感神経系、副交感神経系）、運動神経系、感覚神経系について、解剖学的特徴、および神経伝達物質から理解する。末梢神経系の障害と症状について学ぶ。
15	感覚：特殊感覚、体性感覚 特殊感覚（視覚、嗅覚、味覚、聴覚、平衡覚）、体性感覚、内臓感覚の機序について、末梢の感覚受容器、神経伝導・伝達、脳の感覚野との関連を理解する。さらに、感覚機能の障害についても学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1(2)題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】生命を維持するために必要な機能（循環、呼吸、消化・吸収、排泄、内分泌・代謝系、神経系、など）について述べよ。

＜ポイント＞

人体機能を器官系ごとに理解し、それぞれの特徴や働きについてまとめること。

※平成17年度以前の入学者は設題１のみ

【設題2】 感覚（体性感覚、味覚、嗅覚、聴覚、視覚、など）の生理機能について述べよ。

＜ポイント＞

感覚についてライフステージによる変化を理解し、その病態生理についても考えてみること。

科目終了試験学修のポイント

１．神経系（中枢神経系、末梢神経系）について

＜ポイント＞

神経系を中枢神経系、末梢神経系（自律神経系、運動神経系、感覚神経系）に分類し、どの神経系が生体活動の調節に関わっているのか考察する。

２．血液の働きについて

＜ポイント＞

血液は血球部分と血漿部分に分けられる。それぞれを構成する成分の役割および血液性状の異常に伴う代表的疾患について考察する。

３．感覚の種類について

＜ポイント＞

体性感覚と特殊感覚、内臓感覚の感覚受容器と、それらと関連する脳部位について考察し、機能障害の原因について考察する。

４．呼吸・循環器系の機能について

＜ポイント＞

呼吸・循環器系は生体各部の代謝に必要な酸素や栄養素の供給、老廃物の排除に寄与しているが、その調節機構の概要と、障害に伴う代表的な症状について考察する。

５．外的環境要因によって影響を受ける生理機能について

＜ポイント＞

生体の生理活動は、中枢神経系を頂点として、主に自律神経系と内分泌系によって調節されている。物理・化学的、生物学的、心理・社会的な外部刺激（ストレス刺激）の提示に対する生理的活動の変化を、ストレス反応の観点に立って考察する。

６．体温の調整機構について

＜ポイント＞

ヒトの深部体温は、外界温度は変化しても、ほぼ 37℃の一定値が維持されている。熱産生・放散について、その調節機構を考察する。また、高体温・低体温の生理的影響についても考察する。

教科書

真島英信、他『人体生理学ノート』 金芳堂。

参考文献

大島清『成長する脳の不思議』第三文明社。

科目コード	生理学（4 単位）	登録年次	履修方法
2562	（第一種衛生管理者コース登録者用）	1 年	ＳＲ
教員名	石本強、菅沼太陽		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

人の正常機能（働き）を知ることは、疾患を理解し、その機能を回復させて生活の質（QOL）を高める上で、必須の要件である。生理学では、労働環境下における生体機能について、各器官の独自な機能発現の機序と調節をもとに理解する。それとともに、個体としての働きが統合して発現するには、これら諸器官の総合的な調節作用が必要であることも理解しつつ、身体的、精神的労働の影響を学び、疾病防止策を学ぶ。

学修内容

1	イントロダクション：生理学とは、生理学と関連する分野 生理学で学ぶ目標と方向を把握し、医学における位置づけ、および医学以外の科学分野との関連を理解する。生理学で頻繁に使用する単位について理解する。
2	細胞：構造と機能 人体を構成する主な元素を把握する。人体構造の階層性（細胞→組織→器官→器官系→個体）について学び、最小単位である細胞の構造と細胞膜、細胞内小器官、核（DNA）の機能について理解する。
3	体液と血液：組成、機能、恒常性の調節機構 体液量と分布について理解する。細胞内液と細胞外液（組織液、管内液＝血液）の特徴と機能を理解し、恒常性を維持する機構について学ぶ。また、恒常性が破綻した状態の症状と予防策について理解する。
4	循環器系：心臓機能の調節機構、血管系の調節機構 心臓の構造と機能、血液循環の特徴について理解する。心臓拍動の機序について、刺激伝導系と自律神経による調節から理解し、心不全のリスク因子と防止策について、AED 使用を含めて考える。血圧の意味について理解する。
5	呼吸器系：呼吸器機能の調節機構、ガス交換（外呼吸、内呼吸） 外呼吸・内呼吸について理解し、呼吸調整に関与する因子を学ぶ。呼吸障害の原因と対策を考える。呼吸器系と循環器系との関連についても理解する。
6	消化器系：消化管機能の調節機構、肝臓・膵臓の機能、消化・吸収、消化管ホルモン 食物摂取・消化・吸収の定義を理解し、消化器運動と消化液分泌の機序について学ぶ。消化管と肝臓、膵臓の活動における自律神経系の関与を理解し、消化器系疾患のリスク因子について考察する。
7	栄養と代謝：栄養素、中間代謝、活動とエネルギー所要量 五大栄養素の機能を理解し、過不足の影響について考える。空腹時と満腹期におけるエネルギー代謝をもとに、肥満とやせの機序について理解する。
8	体温：体温の生理的変動、熱産生・放射、熱中症、低体温症 恒温動物としてのヒトの体温について、熱産生・熱放散を介する維持機構について学ぶ。発熱・解熱の過程について、温度センサーと視床下部機構との関連から理解する。熱中症、低体温症についても学ぶ。
9	排尿：腎臓の機能（糸球体ろ過、尿細管再吸収）、体内の水平衡 腎臓における原尿産生、再吸収の機序から、尿中成分の特徴について理解する。尿量の増減、成分の変化について、腎臓機能、心臓機能との関連を考える。
10	骨とカルシウム代謝：骨吸収･再形成、骨代謝とホルモン、骨粗鬆症 骨の機能のうち、運動、支持、カルシウム貯蔵を中心に学ぶ。骨の形成・吸収・再吸収の機序と関与するホルモン、ビタミンについて理解する。
11	内分泌系・生殖器系：内分泌腺とホルモン分泌の調節機構、代表的なホルモンの機能、性周期、受精・分娩 情報伝達の一方法としての内分泌機構について、神経伝導・伝達との相違点を理解する。内分泌器官（分泌腺）の種類と体内の存在部位、分泌の調節機構(フィードバック機構)について学ぶ。視床下部－下垂体系のホルモン分泌機構とストレスの影響、膵臓におけるインスリン分泌など、代表的なホルモンの機能について学ぶ。
12	神経活動と感覚：中枢神経系、末梢神経系の機能分化、特殊感覚、体性感覚 神経系の構造（大脳、脳幹、脊髄）と機能分化、中枢神経系および末梢神経系（自律神経系：交感神経系、副交感神経系、運動神経系、感覚神経系）の機能障害と出現する症状の特徴について学ぶ。 特殊感覚（視覚、嗅覚、味覚、聴覚、平衡感覚）、体性感覚、内臓感覚の機序について理解する。
13	疲労と休息：疲労の機序、睡眠・覚醒 疲労物質について理解し、身体的疲労の回復策を考える。脳の疲労と睡眠の関連、睡眠・覚醒パターンの特徴から、メンタル面の疲労と回復策を考察する。

14	ストレス反応：ストレス刺激と生理機能変化 H. セリエのストレス学説をもとに、ストレスの段階と生理的特徴について、自律神経系機構と視床下部ー下垂体ー副腎皮質系の内分泌機構を中心に理解する。ストレス病の発症要因と対策について考察する。
15	生理学的に見た職業適性 労働現場では、労働形態に応じて心身に様ざまな影響を及ぼすことになり、適応を失敗すると疾病につながる。労働環境と個人の生理機能の相互関連から、快適な職業形態について考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】生命を維持するための機能である循環・呼吸・消化・排泄について、それらを調節する内分泌系や自律神経系の機能について述べよ。

＜ポイント＞

人体機能の基本である生理学的概念の要点を把握し、それぞれの機能について理解しておく。機能については、その構造と調節の特徴からまとめること。

【設題2】物理・化学的および心理的ストレス誘発因子による心身の機能変化と、それらへの対処について述べよ。

＜ポイント＞

労働者は職場の中では様々なストレス誘発因子にさらされており、対処に失敗すると身体的あるいは精神的疾病、つまりストレス病に陥る。身体的・心理的ストレス刺激による生理機能の変化とストレス病の発現機序、およびその対処法についてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．中枢神経系と末梢神経系（体性神経、自律神経系）について

＜ポイント＞

神経系は中枢神経系、末梢神経系（自律神経系、運動神経系、感覚神経系）に分類できるが、どの神経系がどのような生体活動の調節に関わっているのかについて考察する。

2．筋肉疲労と睡眠について

＜ポイント＞

筋肉の疲労（肉体的疲労）は筋収縮の低下として、脳の疲労（精神的疲労）は睡眠欲求として現れる。疲労の発現と回復の機序について考察する。

3．呼吸・循環器系と血液について

＜ポイント＞

呼吸・循環器系は生体各部の代謝に必要な酸素や栄養素の供給、老廃物の回収・排出に寄与している。それらの調節機構の概要と、障害に伴う代表的な症状について考察する。

4．消化器系について

＜ポイント＞

人体の活動に必要な栄養素の消化・吸収を行っているのが消化器系である。消化・吸収に関係する諸器官の役割、および活動の調節機序について考察する。

5．内分泌系について

＜ポイント＞

内分泌系はホルモン分泌を介して、神経系とともに、生体活動の調節にとって重要な働きをしている。代表的なホルモンの生理作用と、フィードバックによる分泌の調節機構について考察する。

6．労働生理と職業適性について

＜ポイント＞

労働に伴う各種生理機能の変化は、有力な疾病発症の原因となり得るもので、それに対する予防・回復の対策に注目が集まっている。身体面および精神面の生理学的観点に立って、健康的な就労条件について考察する。

教科書

中央労働災害防止協会『衛生管理＜上＞第1種用』中央労働災害防止協会。

中央労働災害防止協会『衛生管理＜下＞第1種用』中央労働災害防止協会。

参考文献

大島清『成長する脳の不思議』第三文明社。

※科目コード2770：ＳＲ履修／科目コード2771：Ｒ履修

科目コード	生理心理学（2単位）	登録年次	履修方法
2770/2771		3年	ＳＲ/Ｒ※
教員名	荒井理帆、志茂田典子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

生理心理学は心理学と生理学にまたがる学問領域である。心を直接観察することはできないが、それに関連した生理的活動は観察可能であり、生理心理学においては心理的機能と生理的機能の対応関係が研究されている。この科目では、そのような生理学的変化を支える脳の働きを中心に据えながら、心理的機能と生理的機能の関連性についての知見を学修し、脳神経系の構造及び機能、記憶、感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能障害の概要を理解する。

学修内容

1	生理心理学とは何か① 生理心理学とは何を対象とした、どのような学問なのかを理解する。テキスト第0章参照。
2	生理心理学とは何か② ４つの研究方法について、それぞれ具体例をみながら理解する。テキストpp.6-7、pp.202-206、pp.212-213参照。
3	人間の脳の構造について① 脳を構成する神経細胞の構造と、それらの間の情報伝達について理解する。テキストpp.12-13、pp.18-25、第2章参照。
4	人間の脳の構造について② 脳の基本的な構造について理解する。テキストpp.14-17、p.153、p.157参照。
5	生理心理学の観点からみた向精神薬の働きについて① 向精神薬とは何か、また、薬物のメカニズムについてシナプスで何が起こっているのかを理解する。 テキストp.18、pp.38-39、p.137参照。
6	生理心理学の観点からみた向精神薬の働きについて② うつ病に関する生理心理学的理論と抗うつ薬による治療について理解する。テキストpp.142-145参照。
7	生理心理学の観点からみた向精神薬の働きについて③ 統合失調症に関する生理心理学的理論と抗うつ薬による治療について理解する。テキストpp.138-141参照。
8	学習・記憶に関する神経生理学的背景について① 脳の可塑性および長期増強について理解し、記憶障害と脳部位の関連を学ぶ。テキスト第4章参照。
9	学習・記憶に関する神経生理学的背景について② 非連合学習と連合学習の神経機構について理解する。テキスト第5章参照。
10	視知覚の神経機構について① 光情報が網膜で電気信号に変換される流れについて学び、網膜以降の２つの視覚経路について理解する。 テキストpp.46-55参照。
11	視知覚の神経機構について② 視知覚障害と脳部位の関連を学ぶ。テキストpp.156-161、pp.198-199、pp.210-211参照。
12	情動の生理機構と情動が精神的・身体的健康に及ぼす影響について① 情動の生理機構に関する説を学び、情動の持つ3つの側面（情動体験、情動表出、情動活動）を理解する。 テキストpp.100-111参照。
13	情動の生理機構と情動が精神的・身体的健康に及ぼす影響について② 情動が精神的・身体的健康に及ぼす影響について、特にストレスとHPA軸との関連について理解する。 テキストpp.112-115参照。
14	心理・精神の疾患と脳機能について① 不安障害、ADHD、自閉症（広汎性発達障害）、PTSD等について、その病態と脳機能との関連を理解する。 テキストp.149、pp.212-213、pp.214-216、p.215参照。
15	心理・精神の疾患と脳機能について② 失語症、左半側無視、睡眠障害、パーキンソン病、アルツハイマー病等について、その病態と脳機能との関連を学び、神経心理学的リハビリテーションについて理解する。 テキストp.155、pp.160 -161、第10章、pp.216 -217、pp.218-222参照。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 生理心理学の観点からみた向精神薬の働きについて述べよ。

＜ポイント＞

①薬物が働くメカニズムについて、シナプス上にて起こっていると考えられている事象を詳述する。さらに、特に②うつ病に関する生理心理学的理論と抗うつ薬による治療、③統合失調症に関する生理心理学的理論と抗精神病薬による治療について整理しながらまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1． 生理心理学の研究方法について

＜ポイント＞

生理心理学としての特徴は何かを説明し、そのために、生理心理学ではどのような研究方法がとられているのかを考えること。具体的には、生理心理学における4つの研究方法について説明すること。

キーワード：脳、刺激法、破壊法、記録法、分子生物学的方法

2．人間の脳の構造と神経細胞の情報伝達について

＜ポイント＞

構造については、神経細胞と脳について、分けて考えるとよい。具体的には、神経細胞の構造について説明し、神経細胞で情報伝達がどのように行われているのかを説明する。脳の構造については、大脳、小脳、脳幹に分けて説明できるとよい。

キーワード：伝導、伝達、神経伝達物質、グリア細胞、脳血管、大脳、小脳、脳幹、髄膜、脳脊髄液、脳梁

3．視知覚の神経機構について

＜ポイント＞

光情報が網膜で電気信号に変換されるしくみを説明すること。次いで、網膜以降の2つの視覚経路について言及する。さらに、視覚障害と脳部位との関連についても言及するとよい。

キーワード：桿体細胞、錐体細胞、色覚異常、第1視覚系、第2視覚系、盲視、視野欠損、臨界期

4．学習･記憶に関する神経生理学的背景について

＜ポイント＞

記憶については、脳の可塑性および長期増強について説明し、記憶障害と脳の関連部位について言及できるようにする。

学習については、非連合学習と連合学習の神経機構について説明すること。

キーワード：シナプス可塑性、加重、長期増強、海馬、古典的条件づけ、オペラント条件づけ

5．心理・精神の疾患と脳機能について

＜ポイント＞

心理・精神の疾患と脳機能の関連性について簡略に説明し、次に、具体的な疾患名を1つ以上挙げ、脳のどの部分のどんな機能と関連しているのかに重点を置いて説明すること。ストレスに着目するのもよい。最後に機能回復についても言及する。なお、テキストにない疾患を選ぶ場合には、DSM-IV-TR や ICD-10 から選ぶこと。

キーワード：神経伝達物質、リハビリテーション、再建（復元）、再組織化（再編成化）

6．情動の生理機構と情動が精神的・身体的健康に及ぼす影響について

＜ポイント＞

情動の生理機構に関するいくつかの説を説明し、情動の持つ3つの側面、すなわち、情動体験、情動表出、情動活動について言及する。さらに、情動が精神的身体的健康に及ぼす影響について述べる。特にストレスと HPA 軸との関連を考えるとよい。

キーワード：神経伝達物質、扁桃体、視床下部、内側前脳束、ストレス、HPA 軸

教科書

岡田隆、他『生理心理学―脳のはたらきから見た心の世界』サイエンス社。

参考文献

藤沢清、他『新生理心理学〈1巻〉生理心理学の基礎』北大路書房。

柿木昇治、他『新生理心理学〈2巻〉生理心理学の応用分野』北大路書房。

Kevin Silber、苧阪直行、他『心の神経生理学入門―神経伝達物質とホルモン』新曜社。

科目コード	世界史（２単位）	登録年次	履修方法
1410		１年	R
教員名	小野智一、山田哲史		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

現代社会を理解する上で必要な世界史の視点をここでは欧米諸国に焦点をあてながら整理し、現存の社会、経済、政治制度、文化、思想、技術などがどのように発展してきたのか総体的に捉えていきたい。

学修内容

1	ポリスの成立と発展について　＜教科書　pp. 34-36＞ ポリス、アテネ、アクロポリス、アゴラ、クレーロス、集住、ヘレネス、バルバロイ、隣保同盟、植民市、重装歩兵密集隊、等のキーワードを反映させながらまとめる。
2	アレクサンドロスの東方遠征とヘレニズム時代について　＜教科書　pp.46 -48＞ アレクサンドロス、東方への遠征、アレクサンドリア、ディアドゴイの争い、ヘレニズム時代、等のキーワードを反映させながらまとめる。
3	共和政ローマの発展と社会の矛盾について　＜教科書　pp.50-52＞ 身分闘争、リキニウス・セクスティウス法、ホルテンシウス法、ローマ市民権、植民市、ポエニ戦争、ラティフンディア、無産市民、等のキーワードを反映させながらまとめる。
4	封建社会の成立と教会の権威について　＜教科書　pp.190 -194＞ 封建社会（封建制）、主従関係、階層制、騎士、荘園制、ローマ=カトリック教会、ローマ教皇、聖職階層制、公会議、私有教会制、教皇庁改革（グレゴリウス改革）、カノッサ事件、ヴォルムス協約、等のキーワードを反映させながらまとめる。
5	十字軍とその影響について　＜教科書　pp.202 -205＞ 国土回復運動（レコンキスタ）、十字軍、ウルバヌス２世、クレルモン宗教会議、イェルサレム王国、騎士修道会（宗教騎士団）、コンスタンティノープル攻撃、ラテン帝国、等のキーワードを反映させながらまとめる。
6	大航海時代について（その１：大航海時代と新大陸の発見）＜教科書　pp.273-278＞ 新航路の発見、大航海時代、東方貿易、羅針盤、香料、新大陸の発見、世界周航、等のキーワードを反映させながらまとめる。
7	大航海時代について（その２：大航海時代と世界の一体化）＜教科書　pp.278-282＞ コンキスタドール、プランテーション、造船技術、キャラヴェル船、世界の一体化、価格革命、商業革命、銀、等のキーワードを反映させながらまとめる。
8	ルネサンス期における近代科学の幕開けについて　＜教科書　pp.282-289＞ ルネサンス、ヒューマニスト（人文主義者）、遠近法、フランドル地方、占星術、錬金術、羅針盤、印刷術、等のキーワードを反映させながらまとめる。
9	世界経済の覇権を握ったオランダについて　＜教科書　pp.303-304＞ 毛織物工業、乞食党、ネーデルランド連邦共和国（オランダ）、連合東インド会社、レヘント、等のキーワードを反映させながらまとめる。
10	イギリスにおける絶対王政について　＜教科書　pp.304-306＞ ジェントルマン、貴族院、庶民院、国王至上法、囲い込み、ピューリタン、統一法、救貧法、東インド会社、等のキーワードを反映させながらまとめる。
11	フランスにおける絶対王政について　＜教科書　pp.307-309＞ ルイ 14 世（太陽王）、マゼラン、フロンドの乱、コルベール、コルベール主義、ヴェルサイユ宮殿、等のキーワードを反映させながらまとめる。
12	生活革命と民衆の文化について　＜教科書　pp.327-328＞ 生活革命、コーヒーハウス、ジャーナリズム、プランテーション開発、博物学、高貴な未開人、等のキーワードを反映させながらまとめる。
13	産業革命とその影響について　＜教科書　pp.330-335＞ 産業革命、資本主義、綿工業、飛び杼、ジェニー紡績機、水力紡績機、ミュール紡績機、力織機、工業都市、毛織物工業、製鉄法、蒸気機関、等のキーワードを反映させながらまとめる。

14	ウィーン体制とその動揺について　＜教科書　pp.358-359＞ ウィーン会議、メッテルニヒ、正統主義、ウィーン議定書、ウィーン体制、神聖同盟、四国同盟、五国同盟、ブルシェンシャフト、カルボナリ、等のキーワードを反映させながらまとめる。
15	帝国主義について　＜教科書　pp.424-426＞ 世界分割競争、帝国主義、オリエンタリズム、資本主義体制、世界の一体化、移民、等のキーワードを反映させながらまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 大航海時代について述べよ。

＜ポイント＞

東インド航路の発見、新大陸の発見、世界周航、コンキスタドール、プランテーション等、この時代を象徴する事柄を複数組み合わせながら説明するとともに、この時代が世界史上、どのような状況をもたらしたのか考察する（学修内容６・７参照)。

科目終了試験学修のポイント

１．アレクサンドロスの東方遠征とヘレニズム時代について

＜ポイント＞

学修内容２を参照し、この時代を象徴する事柄を複数組み合わせながら説明する。

２．共和政ローマの発展と社会の矛盾について

＜ポイント＞

学修内容３を参照し、この時代を象徴する事柄を複数組み合わせながら説明する。

３．十字軍とその影響について

＜ポイント＞

学修内容５を参照し、この時代を象徴する事柄を複数組み合わせながら説明する。

４．フランスにおける絶対王政について

＜ポイント＞

学修内容11を参照し、この時代を象徴する事柄を複数組み合わせながら説明する。

５．産業革命とその影響について

＜ポイント＞

学修内容13を参照し、この時代を象徴する事柄を複数組み合わせながら説明する。

６．ウィーン体制とその動揺について

＜ポイント＞

学修内容14を参照し、この時代を象徴する事柄を複数組み合わせながら説明する。

教科書

木下康彦、他『詳説世界史研究』山川出版社。

参考文献

鈴木旭、石川理夫『新版面白いほどわかる世界史』日本文芸社。

小松田直『手にとるように世界史がわかる本』かんき出版。

科目コード	専門演習（２単位）	登録年次	履修方法
4610		４年	ＳＲ
教員名	宋暁鈞		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目では日本における日本語学修者の現状を把握し、日本語学修者の言語保障・社会参画のみならず、日本が多文化共生社会を実現するために貢献できる日本語教育の在り方について考える。地域における日本語学修者の実態を理解・把握するために、各自が地元自治体、ボランティア団体などが行う日本語支援活動に参加し、理論と実践の両面から多文化共生のための日本語教育の在り方について理解を深める。さらには「多文化共生」の視点を持つ日本語教師の理論と実践を自分なりに構築することを目的とする。教科書のみに頼らず、地域・日本・世界の日本語教育・多文化共生の現状について積極的に情報収集を行うことが必要である。

学修内容

1	日本語学修者の現状：生活者・労働者・帰国者・留学生など多様な学修者がいる。彼らはそれぞれどのような課題に直面し、どのような日本語学修を必要としているのかを考える。（第１章　日本語教育の文脈を考える）
2	日本語教室の理想：多文化共生を目指す日本語教育の背景となる「全人的教育」「異文化間教育論」について理解を深め、日本語教育と日本語学修者の現状の相互作用性について考える。（第２章　個性ゆたかな人間をつくる日本語教育）
3	同化への圧力：「郷に入っては郷に従え」ということわざがあるが、同化を強要するのでは多文化共生とは言えない。日本語教室で起こりうる同化の圧力について理解を深める。（第８章　日本語教室における同化圧力の検討）
4	日本の言語政策：文化庁の日本語教育への取り組みなどをはじめとする、日本の言語に関する政策について調べ分析し、日本の多文化共生社会に必要な取り組みについて考える。（文化庁、文部科学省ウェブサイトなど）
5	多文化共生の取り組み：地方自治体やボランティア団体が多文化共生のために様々な取り組みをしている。地元の取り組みについての調べ分析し、現状を把握する。（第３章　「地域の日本語教室」のために「日本語コーディネーター」に望まれること、第４章　日本語ボランティア養成講座を考える）
6	地域の語学支援活動の取り組み：地方自治体やボランティア団体などが行っている「地域日本語教室」活動について、地元の現状を理解する。（第５章　地域日本教室活動模索中！）
7	他国における多文化共生：世界各国でも多文化共生の取り組みが行われている。日本以外の国（留学生の場合は自国）における活動の内容や背景にある理念について調べる。（参考文献『多文化共生は可能か』第１章・第６章・第８章）
8	日本語教育を通した多文化共生：学修者と教師・支援者の関係を見直し、学修者・教師・支援者がそれぞれ社会の一員として積極的に文化構築に貢献できるような学修環境作りについて考える（第９章　エンパワメントとしての日本語教育）
9	日本語教室での多文化共生：教室の中には様々な多文化が存在し、共生の方法も様々考えられる。教室の中での多文化共生について考える。（第１０章　学修者が学修内容を選べる日本語教育）
10	ボランティア活動①：身近な日本語支援活動について、実際にボランティア活動に参加することで、成り立ち、現状、直面する課題などを理解する。
11	ボランティア活動②：実際のボランティア活動を通し、学修者の現状と直面する問題について理解を深める。
12	ボランティア活動③：実際のボランティア活動を通し、教師・支援者の状況と直面する問題について理解を深める。
13	ボランティア活動④：ボランティア活動を通し、学修者のニーズに合った多様な日本語教育の在り方について理解を深める。
14	ボランティア活動から学ぶ：ボランティア活動で経験したことを振り返り、生活者の現状と課題解決のために必要な取り組みについて考える。
15	多文化共生に役立つ教授法・教材：これまでの学修を総合し、自分なりに多文化共生に貢献できる教授法・教材について意見をまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

日本語教育実践の経験（ボランティア経験）をふまえて、多文化共生に役立つ教授法・教材について、具体的教授法・教材を分析し、今後どのような教授法、教材開発が望まれるか、自分の意見を述べよ。

＜ポイント＞

ボランティア活動に参加して学んだことをまとめた上で、「多文化共生」を念頭に、様々な教授法・教材を分析し、どのような教授法・教材が必要であるかをまとめる。自分の意見の根拠を明確にするためにも、教授法・教材分析と、ボランティア活動での経験を関連づける工夫をする。

科目終了試験学修のポイント

１．外国人生活者の現状と課題

＜ポイント＞　様々な外国人生活者の現状を多角的に捉え分析し課題を明確にした上で、日本社会・日本語教師に求められる支援のあり方を具体的に提案する。

２．（地域自治体などの）多文化共生の取り組み

＜ポイント＞　日本における多文化共生の取り組みについて具体的な例を挙げ、その現状をまとめた上で、良いと思うこと、改善が必要だと思うところなどを述べる。

３．ボランティアを通して学んだこと

＜ポイント＞　地域で日本語支援（ボランティア）活動に参加した経験を、日本語教師として、地域社会の一員として、語学学修者としてなど、多様な視点から振り返り、自分が学んだことをまとめる。

４．他国における多文化共生の取り組み

＜ポイント＞　他国の多文化共生の取り組みについて調べたことをまとめ、今後の自分の活動にどのようなヒントが得られたかについても書く。

５．学修者・生活者としての内省

＜ポイント＞　（教師・支援者も含め）誰もが学修者であり生活者である。多文化共生の日本語教育を考える上で、自分自身の学修者・生活者という立場について考えたことをまとめる。

６．多文化共生を目指した日本語教育とは

＜ポイント＞　日本が多文化共生社会を実現していくために、日本語教育・日本語教師はどのように貢献できると思うか、なるべく具体的な例を挙げながら自分の意見を述べる。

教科書

岡崎洋三・西口光一・山田泉　編著　『人間主義の日本語教育』　凡人社。

参考文献

馬渕仁　編著　『「多文化共生」は可能か：教育における挑戦』　勁草書房。

科目コード	専門演習Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
4410		3年	SR
教員名	石﨑達也、石渡宏、金子康一、木内正範、戸田大樹		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

生徒指導は、学校がその教育目標を達成するための重要な機能の一つであり、子どもの人格の形成を図る上で、大きな役割を担っている。今日の子どもを取り巻く環境の変化にともない、文部科学省は生徒指導の実践に際し、小学校段階から高等学校段階までの組織的・体系的な生徒指導を進めることができるよう生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書として、平成 22 年に『生徒指導提要』を取りまとめた。本科目では、『生徒指導提要』への理解を深めるとともに、学校の教育活動全体における生徒指導・教育相談の意義および法制度など、基礎的な知識を学修した上で、児童生徒のさまざまな問題行動（飲酒、喫煙、薬物乱用、非行、いじめなど）に対する指導のあり方を見つめ直すこと、を目的とする。これらの学修をとおして、生徒指導に関する専門的な知見を身に付けるとともに、教師に求められる生徒指導に関する教育臨床場面における実践的なセンスを養うことが重要である。

学修内容	
1	『生徒指導提要』を読む①　（『生徒指導提要』）pp.1-39 第１章　生徒指導の意義と原理　　第２章　教育課程と生徒指導
2	『生徒指導提要』を読む②　（『生徒指導提要』）pp.40-91 第３章　児童生徒の心理と児童生徒理解　　第４章　学校における生徒指導体制
3	『生徒指導提要』を読む③　（『生徒指導提要』）pp.127-191 第５章　教育相談
4	『生徒指導提要』を読む③　（『生徒指導提要』）pp.127-191 第６章　生徒指導の進め方
5	『生徒指導提要』を読む④　（『生徒指導提要』）pp.192-207 第７章　生徒指導に関する法制度等
6	『生徒指導提要』を読む⑤　（『生徒指導提要』）pp.208-225 第８章　学校と家庭・地域・関係機関との連携
7	生徒指導とは何か　（教科書）pp.1-11 １．生徒指導の意味と重要性　２．基礎となる人間理解　３．生徒指導の変遷　４．授業における生徒指導の機能
8	生徒指導と教育課程　（教科書）pp.12-23 １．生徒指導と教育課程の関係　２．教科における生徒指導　３．総合的な学習の時間、道徳教育における生徒指導 ４．特別活動における生徒指導
9	生徒指導と問題行動　（教科書）pp.24-40 １．『生徒指導提要』に述べられている生徒指導と問題行動　２．生徒指導と問題行動はどのように論じられてきたか ３．問題行動に向き合う教師の生徒指導における留意点
10	青年期における生徒指導　（教科書）pp.41-56 １．青年期の心の成長と生徒指導　２．青年期における生徒指導上の留意点　３．青年期の心の問題 ４．思春期における発達障害の問題
11	生徒理解のための方法と技術　（教科書）pp.57-79 １．集団指導・個別指導の方法原理　２．集団指導の方法原理　３．個別指導の方法原理 ４．児童生徒理解の資料とその収集　５．保護者からの資料収集　６．資料収集にあたっての留意点
12	生徒指導における学級経営および地域や家庭との連携（教科書）pp.80-102 １．学校運営と生徒指導　２．学校における生徒指導体制　３．生徒指導の年間計画と生徒指導体制 ４．全校生徒指導体制の確立　５．教育相談　６．基本的な生活習慣の確立 ７．学校と家庭・地域・関係機関等との連携活動
13	学校段階に応じた生徒指導とその実践　（教科書）pp.103-123 １．小学校における生徒指導とその工夫・改善　２．中学校における生徒指導とその工夫・改善 ３．高等学校における生徒指導とその工夫・改善
14	生徒指導実践と教師の在り方　（教科書）pp.124-139 1. 生徒指導で求められる教師の資質と技能 2. 生徒指導実践力を高める研修 3. 生徒指導の側面からの教科指導の課題
15	コミュニケーションと生徒指導　（教科書）pp.140-153 １．子どもたちを取り巻く「コミュニケーション不全」状況　２．学校教育における「コミュニケーション不全」状況 ３．「交わり」の復権に向けて

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 「よりよい生徒指導」の在り方についてあなたの考えを述べよ。

＜ポイント＞
教育現場が直面する児童生徒の問題行動の具体的事例を取り上げ、生徒指導の意義、児童生徒理解の方法など、本科目で学修した内容をふまえた上で論じること。

科目終了試験学修のポイント

1．生徒指導の意義と課題について
＜ポイント＞
『生徒指導提要』および教科書・参考書の該当箇所をよく読み、生徒指導の意義と課題について、子どもたちのおかれている時代状況や社会環境、そこでの子どもや大人の意識や行動のあり方などに言及した上で論じること。

2．生徒指導における児童生徒理解の重要性とその方法について具体的に述べよ。
＜ポイント＞
『生徒指導提要』および教科書・参考書の該当箇所をよく読み、児童期・青年期の心理および発達の特徴をおさえた上で論じること。

3．教育相談の意義とその進め方について
＜ポイント＞
『生徒指導提要』および教科書・参考書の該当箇所をよく読み、教育相談における教職員の役割およびスクールカウンセラー・関係機関等との連携についても論じること。

4．生徒指導における学級経営・ホームルーム経営の基本的な役割と課題について
＜ポイント＞
『生徒指導提要』および教科書・参考書の該当箇所をよく読み、児童生徒理解、人間関係づくり、開かれた学級経営・ホームルーム経営などの重要用語をおさえた上で論じること。

5．いじめ問題に対するあなたの考えについて
＜ポイント＞
いじめ問題に対する取組事例を参照しながら、生徒指導の観点から学校における「いじめ問題」に関する基本的認識と取組のポイントを整理すること。

6．不登校の定義と現状および不登校への対応方法について
＜ポイント＞
不登校の定義と現状を把握した上で、学校における不登校に対する取組事例を参照しながら、生徒指導の観点から不登校への対応方法についてまとめること。

教科書

文部科学省『生徒指導提要』教育図書。
広岡義之『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論－「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版。

参考文献

高橋哲夫他編『生徒指導の研究　第三版』教育出版。
鈴木康明編『生徒指導・進路指導・教育相談テキスト』。

科目コード	専門演習Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
4420		３年	ＳＲ
教員名	石﨑達也、石渡宏、金子康一、木内正範、戸田大樹		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えを育成する。内容としては、教育実習の意義、目的、教育実習の概要、教育実習生としての基本姿勢、生活態度、教育実習の心構え等と、教科等の学習指導案の作成及び模擬授業実践、実習日誌の作成等教育実習に必要な内容について学修する。

学修内容

1	「教育実習生密着レポート」（教科書 pp.4-7 頁）を読み、自分が実習に行く校種の教育実習の内容について理解して、参考になる点をまとめる。
2	「教育実習が始まる前に」〈ギモン 01～05〉（教科書 pp.10-19）を読み、教育実習に行く前の準備や教育実習の依頼方法などについて学ぶ。
3	「実習中の心得」の中で〈ギモン 06～09〉（教科書 pp.20-27）を読み、教育実習中の礼儀やマナー、子どもたちや先生方との接し方について学ぶ。
4	「実習中の心得」の中で〈ギモン 10～14〉（教科書 pp.28-37）を読み、朝の会・帰りの会や学級経営のポイントなどについて理解を深める。
5	「実習中の心得」の中で〈ギモン 15～16〉（教科書 pp.38-43）を読み、教育実習中に予想される難しい判断や対応について理解し、さらに教育実習でどのような点が評価されるのかについて検討し、足りない資質や能力を実習までに補う努力をする。
6	「先輩たちの声」〈「事前準備」編・「失敗」編〉（教科書 pp.44-45）を読み、事前にしておくべき準備や失敗しないための心構えを養う。
7	「学習指導案の書き方」の中で〈ギモン 17～19〉（教科書 pp.46-51）を読み、学習指導案を作成するために必要なことや学習指導案作成の手順などを理解した上で、さらに実際に授業を行うためにはどのように教材研究をすればよいのかについて学ぶ。
8	「学習指導案の書き方」の中で〈ギモン 20～29〉（教科書 pp.52-71）の中で自分が実習に行く校種・教科に関連する部分を読み、よりよい学習指導案の書き方について学び、実際に教育実習で担当する科目の学習指導案についていくつか作成してみる。
9	「授業の実際」の中で「教育実習にはどんなプロセスがある？」〈ギモン 30〉（教科書 pp.72-73）を読み、教育実習には３つの段階（①観察、②観察＋参加、③観察＋参加＋授業実習）があることを理解し、それぞれの段階で何をすべきか、何を学ぶべきかについて教育実習前にまとめておく。
10	「授業の実際」の中で〈ギモン 31～35〉（教科書 pp.74-83）を読み、授業を行う上で必要な教授技術（板書の書き方・発問と指名のポイント・ノート指導や机間指導・情報機器の使用法）について理解し、足りない部分については実習前までに補う努力をする。
11	「授業の実際」の中で〈ギモン 36～37〉（教科書 pp.84-87）を読み、研究授業に向けての準備や心得について学び、さらに研究授業の反省会で気をつけるべきことについて理解を深める。
12	「実習日誌はこう書こう」の中で〈ギモン 38～42〉（教科書 pp.88-97）を読み、実習日誌の書き方のポイントや書く際に注意するべきことを理解し、よりよい実習日誌を書けるようにする。
13	「実習日誌はこう書こう」の中で〈ギモン 43～44〉（教科書 pp.98-101）を読み、実習日誌のまとめの書き方のポイントについて学ぶ。
14	「教育実習最終日のチェックポイント」「教育実習を終えて」（教科書 pp.102-103）を読み、教育実習最終日にすべきことや教育実習を終えてお世話になった先生方への礼状の書き方について学ぶ。また「先輩たちの声」〈「感動」編〉（教科書 105 頁）を読み、教育実習への意欲を高める。
15	「教員採用試験に向けて」〈ギモン 45～50〉（教科書 pp.106-121）を読み、教員採用試験に向けて準備すべきことや勉強法について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 各教科等から1題材（1単元）を選び、その学習指導案を作成し、提出する。

＜ポイント＞

自分で関心の高い教科、学年、題材（単元）を選び、各項目の内容をできるだけ具体的に自分の考えとして記述する。児童生徒の実態は想定で書くことでよい。最後に本時の展開をつける。

科目終了試験学修のポイント

1．教育実習の目的と内容について述べよ。

＜ポイント＞

教育実習をなぜ行うのかについて教科書をよく読んで整理し、取得しようとしている免許の校種・教科における教育実習の内容をよく調べた上で論じること。

2．教育実習の基本姿勢、生活態度など実習上の心得について述べよ。

＜ポイント＞

「実習中の心得」〈ギモン06～16〉（教科書pp.20-43）をよく読み、自らの教育実習中に問題となりそうな基本姿勢や生活態度を列挙し、それを克服する方法についてよく考えた上で論じること。

3．指導案形式の中で大切な項目を1つ挙げ、そこに書くべき内容について述べよ。

＜ポイント＞

「学習指導案の書き方」〈ギモン17～29〉（教科書pp.46-71）をよく読み、学習指導案の中で特にどの項目に注目して書くべきかについて自分の意見をまとめた上で論じること。

4．模擬授業を行うに当たって、指導過程の中で特に力を入れたいところを1つ挙げ、その理由を述べよ。

＜ポイント＞

「授業の実際」〈ギモン31～37〉（教科書pp.74-87）をよく読み、自ら授業を行う上で特に大切だと考えた部分について抜き出し、なぜその部分を大切だと考えたのかについて自分の意見を整理した上で論じること。

5．教育実習に当たっては児童生徒の実態を把握することが大切である。どのような方法で把握するか述べよ。

＜ポイント＞

教科書の中で児童生徒理解や児童生徒との接し方について参考になる部分について抜き出し、それを参考に自らが教育実習中にどのようにして児童生徒の実態を把握するのかについて整理した上で論じること。

6．教育実習の自己評価について

＜ポイント＞

教科書の中で教育実習の評価に関係している部分をよく読んだ上で「教育実習の評価表（例）」（教科書p.43）を見て、自己評価をしていく。その中でよくできた点や反省点、改善点などについてまとめた上で論じること。

教科書

宮崎猛、他『教育実習完璧ガイド』小学館。

参考文献

学習してきた教職課程各科目の教科書

文部科学省『小・中・高・特別支援学校　学習指導要領および解説』。

※学科によって設題内容が異なりますので注意してください。

科目コード	総合演習（２単位）	登録年次	履修方法
1340/1341		１年	ＳＲ
教員名	荒野多門、木内正範、菅沼太陽、竹内俊彦、松本秀藏、泉二奈緒美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

人為活動によって、個人を取り巻く住環境、地域環境及び地球環境が変化することが、どのようにして人の健康に影響を及ぼしているのか、また、人の健康に害を及ぼす環境の悪化をどのようにして、改善していこうとしているのか、その現状と問題点について最新の情報などを通して理解・総括し、21 世紀を担う地球市民として何が求められているのかを児童・生徒に自ら考えさせる教育能力を養う。

学修内容

1	**健康増進対策** 我が国の健康増進対策については、第１次から第３次までの国民健康づくり対策にその目標が定められてきて、一番最新の第４次国民健康づくり対策（健康日本 21（第２次））にいたる流れがある。各々の時代に求められていた健康増進対策の変遷を理解し、そこで定められてきた具体的な数値目標が達成されてきたかどうかについても学ぶ。 (教科書『国民衛生の動向 2016/2017』pp.99-108)
2	**生活習慣の改善＜健康日本 21(第２次)＞－栄養・食生活** 平成 23 年 10 月に厚生労働省により取りまとめられた健康日本 21 最終評価において、目標値に達した項目や変わらない項目、悪化した項目などの総括をもとに、第４次国民健康づくり対策が策定され、５分野の目標が設定された。その１つである栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙および歯・口腔の健康に関する生活習慣および社会環境の改善について詳しく学ぶ。 (教科書 pp.101-104)
3	**食の安全について** 我々の生命、健康を維持・増進するために必要不可欠な食品の安全性を確保することは非常に重要であり、食品安全を担当する国の行政機関が定められ食品安全に関する法律（食品衛生法、食品安全基本法）が制定されている。具体的に、食品安全確保対策にはどのようなものがあるか、あるいは最近増加する傾向にある健康食品対策についても学ぶ。 (教科書 pp.299-314)
4	**食に関する指導** 近年、朝食欠食、偏食などの食生活の乱れや肥満傾向が見られることから、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう、学校における食育の推進が重要となっている。このような中で、学校教育における食に関する指導について学ぶ。 (教科書 pp.381-384)
5	**世界の食糧事情について** 国連による世界の食糧事情に関する最新の報告書(『世界の食糧不安の現状(SOFI)』,2013)によると、2011～13 年の間、8 億 4200 万人が慢性的な飢餓に苦しんでいる。一方で、飽食による健康障害に悩まされている先進諸国がある。このような現実を各種の報告書を収集する中で学び、解決に向けての課題と、今日からでも我々が取り組むことができることを学び、実践につなげる。 (各自、検索して情報を収集する。国連食糧農業機関(FAO)や世界食糧計画(WFP)の HP を参照のこと)
6	**化学物質の安全対策** 近年、安全・安心についての関心が高まり、国民の化学物質に対する懸念も広がっており、化学物質管理を巡る状況は大きく変化しつつある。家庭や学校環境、自然環境に見られる化学物質についての問題を探り、どのような対策がとられるようになっているかについて学ぶ。 (教科書 pp.315-319)
7	**オゾン層保護対策** 人体に有害な紫外線を吸収し地球上の生物を保護しているオゾン層が破壊されている現状を改善するために、今までに制定されてきた各種の法律による取り組みを学び、今後の課題について考察する。 (教科書 pp.362-363)
8	**地球温暖化対策** 人間活動に伴う二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの排出の増大や、フロンなどの人為的な温室効果ガスの放出により、 地球が温暖化してきている。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告書を中心に、地球温暖化の科学的根拠や、影響・緩和策などについて学ぶ。 (教科書 pp.361-362　関連資料は、各自で検索する)
9	**酸性雨対策** 国境を超えた広域的な環境問題となっている酸性雨について、原因となる大気汚染物質の排出量が増加している地域の現状を知るとともに、地域をまたいだモニタリングネットワーク（EANET）についても学ぶ。 (教科書 p.363)
10	**喫煙に対する取り組み** 喫煙の健康影響（有害化学物質、慢性呼吸器疾患の誘発など）について知り、我が国の喫煙状況（喫煙習慣者の割合、未成年喫煙実態など）、たばこ対策の概況（禁煙週間、受動喫煙の防止規定など）を学んだ上で、今後のたばこ対策について考察する。 (教科書 pp.105-108)
11	**感染症の最近の動向について** 我が国における感染症の最近の動向として、新興・再興感染症の出現や医学・医療の進歩、衛生水準の向上、国際交流の活発化などの近年の状況の変化を踏まえ、平成 11 年に感染症法が施行された。主な感染症の最近の動向を押さえた上で、対策について具体的に学ぶ。 (教科書 pp.139-153)
12	**予防接種について** 予防接種は、これまで感染症による患者の発生や死亡者の大幅な減少をもたらし、感染症対策上極めて重要な役割を果たしてきた。予防接種により国民全体の免疫水準を維持するために必要なことを学ぶ。具体的には、予防接種法等による対策やワクチン等について学ぶ。 (教科書 pp.162-169)

13	**ストレスについて** 日常生活でも用いられているストレスという言葉は、一般的にネガティブな意味合いで使用することが多い。しかし、ストレスに向き合う生体にとって、ストレス反応は進化の過程で獲得した恒常性を活性化させるために必要な適応機構であり、ストレッサーは人間が「生きる」「成長する」ために必要な存在でもある。我々の身体の不調や疾病、老化を促進するストレスである酸化ストレスについて学ぶとともに、「よいストレス」についても考える。 (教科書 p.88, p.439 第 29 表)
14	**大気汚染対策について・身体活動や運動について** 大気汚染に係る環境基準としては,「大気汚染」と「有害大気汚染物質」に分けて基準が定められている。このうち、近年注目を浴びているのが前者に区分されている「浮遊粒子状物質（SPM)」や「微小粒子状物質(PM2.5)」であり、国境を越えてその被害が近隣諸国にまで及んでいる現状について学ぶ。また、適切な運動・身体活動は、生活習慣病の予防やストレスの解消に有効であることについても学ぶ。 (教科書 pp.351-356,pp.104-105)
15	**放射線利用の動向** 放射線を適切に利用することで人類ははかりしれない恩恵を享受することができるが、反面利用の仕方によっては放射線障害をもたらすおそれがある。近年、東日本大震災に伴う原子力発電所の事故で話題になっている放射線による健康被害についても学ぶ。 (教科書 pp.204-205　「放射線による健康障害」については、各自検索して情報を収集する)

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】食環境と健康について述べよ。

＜ポイント＞

日本のように飽食に伴う健康障害と途上国のように飢餓に伴う健康障害、さらに健康な生活を維持するための食生活のあり方にも目を向けること。

科目終了試験学修のポイント

１．シックスクールの原因と健康リスクについて

＜ポイント＞

「学校におけるシックハウス」と表現されるシックスクールについてその原因物質を明らかにするとともに、化学物質過敏症のように環境中の化学物質による健康影響が多発している現状についても学修すること。

２．フロンガスなどによるオゾン層破壊のもたらす健康障害について

＜ポイント＞

地球上に生命が誕生して以降、長い年月をかけて生成されてきたオゾン層が生物を守ってきたが、人為的に開発された夢の物質であるはずのフロンガスなどの化学物質により、このオゾン層が急速な勢いで破壊されてきている。このオゾン層破壊による健康障害と、オゾン層破壊に対する世界規模での取り組みについても学修すること。

３．喫煙と健康障害について

＜ポイント＞

健康日本２１においても、成人の喫煙率の減少・受動喫煙防止の規定が盛り込まれている今日、「たばこ病」ともいわれる様々な疾患にかかる確率が高くなる客観的事実や、禁煙に向けての世界的な取り組みについても学修すること。

４．微生物感染症の蔓延について

＜ポイント＞

われわれの体は様々な免疫システムによって微生物の侵入を防いでいるが、微生物の感染力が強い場合や各種の全身疾患により防御機構が弱くなっている場合に微生物感染症が重篤な結果をもたらすことになる。自然災害時や施設のように集団生活をする中でも問題となる微生物感染症の蔓延について、その対策を含めて学修すること。

５．酸化ストレスと健康について

＜ポイント＞

我々はめまぐるしく変化する社会の中で様々なストレスを受けているが、生体内外の様々な刺激（ストレッサー）は酸化ストレスに結びつき、やがて身体の不調や疾病、老化を促進する結果となる。そのしくみについて学修すること。

６．自動車の普及が健康に及ぼす影響について

＜ポイント＞

自動車の普及による健康障害は、歩く機会が減ったことによるものと、排気ガスによる大気汚染によるものとの２面から捉える必要がある。近年、話題となっている浮遊粒子状物質(SPM)、特に微少粒子状物質(PM2.5)についても学修すること。

教科書

厚生統計協会編『国民衛生の動向』廣済堂。

自ら検索して集めた情報などの資料と教員の配付する資料を教材とする。

参考文献

山本・奥田・濵口編『食育・食生活論』講談社サイエンティフィック。

佐巻・平山・九里編著『地球環境の教科書 10 講』東京書籍。

二木編著『ストレスの科学と健康』共立出版。

※学科によって設題内容が異なりますので注意してください。

科目コード	総合演習（２単位）	登録年次	履修方法
1341		３年	ＳＲ
教員名	荒野多門、飯田昌男、岡村弘、岡野雅子、河合光利、関口はつ江、 竹内俊彦、舘秀典、立松英子、橋本由利子、松本秀藏、泉二奈緒美		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

子どもの生命を守り、よりよい子育て支援を行うために、身近な衣食住環境とのかかわりから、地域、国、国際、地球レベルでの環境保全に至るまでの視点を導入し、人間社会環境間の相互作用を人間環境・教育福祉システムとして考え、課題発見および課題解決学修を行う。児童の人権と健やかな成長を育むための人的物的資源のあり方を人間環境科学（自然科学的方法）及び人間社会環境科学（社会科学的方法）等を総合して考え、問題解決能力を培うためのプロジェクト学修科目である。

学修内容

1	**発育の一般原則の理解** 子ども達の成長と各発育発達段階においてみられる環境について考える。具体的には、胎児の時期における体内環境因子、発育における生物学的発育現象と生活環境因子との相互作用、生育環境の違い（自然環境に恵まれた農山村と都市部）による発育の違いなどについて学ぶ。 (教科書『人間環境･教育福祉論』pp.2-5)
2	**子ども達の未来を考える** 失われていく自然環境とテクノストレスのなかで、子ども達が未来に向けてどのように変化することが予測されるかについて考える。具体的には、発育期における子どもの生理的、心理的、社会的不適応現象や発育異常、各種アレルギー疾患の急激な増加などについて学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.6-12)
3	**乳幼児期の発達を支える環境刺激** 人類にとっての環境を理解し、胎児期を経て出生後、乳幼児はどのように環境との関わりを通して発達していくか、また発達における環境刺激の重要性について学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.15-29)
4	**ムーブメント教育を例とした教育環境** 乳幼児期の子ども達にとって、遊びは毎日の生活の中で一番に大切なものであり、発育発達の源泉である。子どもの発達支援を目的とした運動遊びからなる教育的支援方法の１つにムーブメント教育がある。ムーブメント教育の最大の特徴である発達に遅れのある子ども達１人ひとりの発達段階に応じた支援プログラムが提供できることを具体例から学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.29-39)
5	**乳幼児期の発達を支える地域福祉環境** 子どもの発達に影響を及ぼす環境として、人的環境、物的環境といった子ども達が日々の生活の中で直接関わることのできる環境以外にも、家庭と保育園の連携や近所の人と学校との連携、子どもが住む自治体の母子保健、社会福祉のあり方、まちの産業構造など子どもが育つ地域や社会を特徴づけるものがある。このような地域福祉環境について学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.40-51)
6	**現代の学校教育の原点を探る** 学校教育における健康教育は、それまでの病気の危険因子となる行動変容の手段となる予防に関する学習中心のものから、人々が自らの行動と努力による健康的なライフスタイル形成に重きを置くものとなっている。個々の健康に対する考え方を「何のための健康か」という原点から考えることを学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.54-60)
7	**児童･生徒の発達課題と学校教育** 小中学校と高等学校の２つの段階について、健康という視点からその特徴と課題について理解し、学校教育との関わりの中での解決方法について学ぶ。具体的には、「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）」で挙げられた具体的な目標等について発達課題に応じた検討を行う。特にアレルギー疾患の増加については、教育現場で大きな問題と考えられていることからも、詳しく取り上げる。 (『人間環境･教育福祉論』pp.60-67　『国民衛生の動向 2013/2014』pp.175-176)
8	**教育健康学と学校教育における課題解決** 現在の学校教育における健康教育について、小学校・中学校・高等学校の各学習指導要領でどのように取り上げられているかを比較し、教育健康学の視点で学校教育を取り巻く問題について考え、実現可能な解決策、予防策について学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.73-79)
9	**学校保健と保健教育** 学校保健と保健教育について整理し、保健に関連する学習指導要領の変遷を比較する中で、その改訂のポイントを現場の状況を踏まえながら、子ども達の心身の健康を保持増進させるための知識や技術を学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.126-133　『国民衛生の動向 2013/2014』pp.372-374)
10	**保健学習で育む資質と能力** 保健学習を通して、子ども達に何を学んでもらいたいのか、どのような能力を身につけて欲しいのか（学習目標）、学習目標を達成するために用いられる方法（学修内容）は何か、について、現行の学習指導要領から学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.133-137)
11	**人間環境・教育福祉の原点** 教育の原点を、育児、育児行動の観察に意義を求め、よりよい地球環境の存続に人間を含めた生態系を維持することからの学びを教育に原点におくべきであることを学ぶ。 (『人間教育･教育福祉論』pp.166-175)

12	**乳幼児の鍛錬保育と自然環境** 各種環境刺激を受けて、生体側が反応する能力、すなわち生体内部での調整力を発達させることを目的とした保育の方法は「鍛錬保育」といわれるが、応用展開例としてぜん息やアトピーなどアレルギー反応を持つ乳幼児への対応を学ぶ。 (『人間教育･教育福祉論』pp.175-182)
13	**成長過程と人間環境・教育福祉** ポートマンのいう「生理的早産」で生まれたヒト（個体）が人、そして人間となる上で必要不可欠な教育過程を経て、社会的存在となるために、心身ともに健康な国民の育成に力を入れていることを学ぶ。 (『人間教育･教育福祉論』pp.182-183)
14	**人間の心と身体と生活を支援する「臨床の知」** 「臨床の知」とは、近代社会が見失ってしまった「現実」は、生命現象がもたらす意味、自律的な振る舞い、自己創造と人との交流、人間の現実の生活、関係の相互性、生態系、人間環境としての地球環境をよりよく次世代に引き継ぐために現実の生活の中で思考し、創りだし、実践することなど現場において察知できることを学ぶ。 (『人間教育･教育福祉論』pp.183-185)
15	**子どもを取り巻く社会環境と子どもの成長** 子どもの発育環境に対する問題提起は、多くの書物、新聞記事、関連資料の中で触れられている。これらの資料を各自で収集し、そこで提起されている問題を整理し、自分なりの考察をする（参考文献にあげた書籍以外でも構わない）。 (子どもの発育環境に対する問題提起がなされている資料を、各自で収集し考察する)

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】小児の発育に環境が与える影響について述べよ。
＜ポイント＞
　発育の一般原則を踏まえ、都市部・農山村による影響や熱帯地域、寒冷地域、山岳地域などの気候環境による影響、開発途上国の小児の発育の現状など、自然・社会・文化・経済・時代背景などにも視点をおいた小児の発育の地域（生育環境）差について自由に論究する。

科目終了試験学修のポイント

１．都市化人工化が人間の心身状態や疾病の罹患傾向に及ぼす影響について
＜ポイント＞
　急激な都市化、人工化により、発育期における子どもは各種の生理的、心理的、社会的不適応現象を示すようになる。これらを具合的に説明すること。

２．胎児の発育と母体環境との相互作用について
＜ポイント＞
　胎児が母体内でどのように発育していくかについて具体的に述べていく中で、胎児の発育が母体に及ぼす影響と、母体の環境が胎児に及ぼす影響の両面について考察すること。

３．アレルギー疾患の年齢的消長について述べ、近年、アレルギー疾患はなぜ増加しているのかについて考察せよ。
＜ポイント＞
　アレルギー疾患の発生が年齢によりどのように変化するかを述べた上で、アレルギー疾患が増加している要因について考察すること。

４．ムーブメント教育の意義について、具体例を示して説明せよ。
＜ポイント＞
　ムーブメント教育とは何か、その理念、目的、特徴を明らかにした上で、ムーブメント教育実践例について具体的に説明すること。

５．学校教育の場で健康教育を行う必要性とその方法について
＜ポイント＞
　今日の学校教育の現場において発生しているさまざまな教育問題に対して、保健教育に期待されている役割について述べた上で、健康教育を授業で展開していく際のポイントについて具体的に説明すること。

６．子どもを取り巻く社会環境と子どもの育ちについて
＜ポイント＞
　子どもの生育環境がその発育にどのように影響しているかについて、多面的に考察すること。

教科書

厚生統計協会『国民衛生の動向』厚生統計協会。
鈴木路子、他『人間環境・教育福祉論』光生館。

参考文献

荒井良『胎児の環境としての母体』岩波新書。
瀧井宏臣『こどもたちのライフハザード』岩波書店。
神山潤『「夜ふかし」の脳科学ー子どもの心と体を壊すもの』中公新書ラクレ。

科目コード	総合的な学習の時間の指導法（２単位）	登録年次	履修方法
4740		２年	ＳＲ
教員名	攪上哲夫、沼澤清一		
教職区分	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：総合的な学習の時間の指導法		

科目概要・到達目標

「総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、実社会・実生活の課題をよりよく解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す」学習であることを理解し、児童に指導できるようにするための探究学習に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学校において編成する指導計画や指導方法のあり方、考え方を習得し、実践できる資質･能力を身に付けるようにする。到達目標は次の三点とする。

1. 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。
2. 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。
3. 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	オリエンテーション 「今、求められる力」について、各種の調査、報告、答申を基に整理し、これからの時代に必要な資質･能力について考え、過去の「総合的な学習の時間」の学習経験を思い出す。	・総合的な学習の時間の学習経験を基に、学習からどのようなことを学び，身に付けたのか，相互に発表し合い、総合的な学習の時間の指導における、教員の役割を考える。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	総合的な学習の時間の意義 総合的な学習の時間が設けられた経緯について 知識基盤社会とは、２０３０年の社会、変化に対応する資質･能力、人間の生活と AI の役割、総合的な学習の時間と教員の役割	・総合的な学習の時間の指導で、実社会・実生活の課題をよりよく解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す学習にすることについて，考えをまとめ、グループで話し合い、発表し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	総合的な学習の時間の目標 総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う学習であることを参考書を読み，まとめる。	・総合的な学習の時間の意義を実現するために、どのような資質･能力を育成すれば良いのかについて、資料を調べ、グループで話し合い、考えを発表し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
4	教育課程において果たす役割 各教科で身に付ける見方･考え方と総合的な時間で身に付ける資質･能力について、学習指導要領を基に調べる。思考力、判断力･表現力などの能力の育成と知識･技能の活用の関係、言語活動の充実	・各教科で身に付けた力を活用して、実社会･実生活の課題を探究する汎用的な資質･能力を育てる学習として位置付いていることを資料を基に調べ、どのように学習を進めればよいのか話し合い、発表し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
5	総合的な学習の時間で育てる資質･能力 各教科を越えて必要となる基礎的な能力とは何かについて教科書を読んでおく。キャリア教育における汎用的な能力、PISA におけるキーコンピテンスについて調べる。	・総合的な学習の時間は、実生活や実社会の課題を児童の探究能力に合わせ、課題解決を図る学習であることを調べ、探究の学習過程を身に付けさせるための能力や方策について考え合い、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
6	各学校が定める総合的な学習の目標 学校で総合的な学習の目標や内容を定める際の考え方について、教科書を読んでおく。 ・目標、内容、目標及び内容の取扱、目標実現にふさわしい探究課題，カリキュラムマネジメント	・各学校の教育課程の目標をどのように実現したら良いか、教育課程論で学んだカリキュラムマネジメントを想起させる資料を活用し、総合的な学習にふさわしい目標設定ができるよう，グループで話し合い，目標作りを行って，発表し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
7	各学校で定める学習内容 目標を実現するにふさわしい探究課題、国際理解,情報，環境，福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題，地域の人々の暮らし，伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題,児童の興味・関心に基づく課題	・総合的な学習の時間の内容は、学校の教育目標･地域の環境･児童の実態等を考慮して定める必要があることを教科書や参考書を調べ、理解するとともに、どのような内容が児童の発達について望ましいのか話し合い、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）

8	総合的な学習の時間の学習指導 内容を定める条件を整理するとともに、学習対象となる内容について教科書や話し合いを基に，まとめとともに、総合的な学習の時間の学習指導について、教科書を読んでおく。	・総合的な学習の時間において，どのような学習指導を行うことが求められているかについて、教科書を調べ、主体的・対話的で深い学びになるようにするにはどうしたらよいか話し合い、意見をまとめて発表し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
9	総合的な学習の時間の評価 総合的な学習の時間の評価の在り方について，教科書を読んでおく。・学習評価の充実、児童の学習状況の評価、目標に準拠した評価と評価規準、教育課程の評価	・教科書「探究学習の指導のポイント」をもとに、学習の成果の取り上げ方をしらべ、目標に準拠した評価規準をどのように考えるかを話し合い、発表し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
10	総合的な学習の時間の指導計画 総合的な学習の時間の指導計画の作成に向け、作成の仕方を教科書で学んでおく。基本的な考え方、年間指導計画の在り方、作成及び実施上の配慮事項	・総合的な学習の時間の指導計画の考え方を調べ、年間計画、単元計画について教科書を調べ、ポイントを理解し、配慮すべき事項について話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
11	総合的な学習の時間の指導計画の作成 指導計画作成に向けて、参考書をよんで、学習対象を探しておく。単元計画の作成、国際理解,情報，環境,福祉・健康、伝統と文化、児童の興味・関心等の課題から指導計画を考える。	・学習対象を探した中から、総合的な学習の目標・内容を想起させ、内容ごとにグループをつくり、課題追究のための指導計画を協働で作成する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
12	総合的な学習の時間の学習計画の作成 自分のグループで決めた内容を児童に追究させるための，教材や教具など、学習過程の組み立てを行っておく。	・グループのメンバーが考えてきた指導内容について話し合い、学習展開ができるまでに高め，指導案に構成する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
13	指導計画の発表と模擬授業 話し合いでまとまった指導の仕方について各自まとめるとともに、役割分担して、グループの指導計画について、全体の場で発表できるように資料作成を行う。	・各グループで作成した指導計画を発表すると同時に、児童に投げかける課題について模擬授業を行う。相互評価を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
14	指導計画に見る具体事例について 各グループの指導計画について，整理し、具体事例の取扱について、各人評価しておく。	・各グループで作成した指導計画を発表すると同時に、児童に投げかける課題について模擬授業を行う。 ・各グループが提案した事例を基に，指導計画作成の課題を話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
15	総合的な学習の時間の指導のポイント 主体的・対話的で深い学びを実現するような計画の作成であったかについてまとめを行う。その対応策について整理しておく。	・１５回の学習から得られた知見について、目標・内容の設定、探究活動のポイントなど、視点ごとに振り返り、この学習のまとめを行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
			面接授業：合計15時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の50%、参加態度・課題提出　総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点）　F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 教育課程における総合的な学習の時間の意義や目的についてふれ、総合的な学習の時間の目標の実現に向けて重視すべき事について、論述しなさい。

＜ポイント＞

総合的な学習の時間が設けられた経緯や目的について、知識基盤社会やAIの導入により、社会の変化が著しい中、人はその社会の中で適応して人間らしい生活を営んでいくのかの観点から論述し、この資質能力を実現するために、主体的･対話的で深い学びに向かわせるにはどうしたらよいかについて，学習を基に学習論を展開することが望ましい。

科目終了試験学修のポイント

1．総合的な学習の時間が設けられた意義と目的について

＜ポイント＞

教科書の第1章総説，第2章総合的な学習の時間の目標をじっくり読み、その要点をまとめることが重要。

2．各学校において定める目標･内容について

＜ポイント＞

総合的な学習の時間は，実生活や実社会との関わりを重視し，その中で生きる力を育むことが求められていることから、各学校の置かれている教育課題に照らし、創意工夫をこらし、目標内容を設定するカリキュラムマネジメントが求められている事に留意すること。

3．総合的な学習の時間で育成すべき資質･能力について

＜ポイント＞

主体的･対話的で深い学びの中で、変化の激しい社会で生きる力を発揮できるための汎用的な能力をどのように育むのか、現代社会のトレンドを見据えて整理しておくことが重要。

4．目標を実現するにふさわしい探究課題とは何か

＜ポイント＞

各教科で基礎的･基本的な知識･技能の習得が図られてきている事を前提に、その知識・技能を活用する能力を生かすことができる、発達段階②応じた横断的･総合的な課題は何かを整理することが重要。

5．総合的な学習の時間の指導計画作成で配慮すべき事は何か

＜ポイント＞

教科書第5章、第6章を参考に、配慮事項について整理しておくことが重要。

6．総合的な学習の時間の学習指導と評価について

＜ポイント＞

探究的な学習の指導のポイントや目標に準拠した評価についてまとめるとともに、カリキュラムマネジメントの視点からの評価を考えることが重要。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説編　総合的な学習の時間』東洋館出版社。
文部科学省『中学校学習指導要領解説編　総合的な学習の時間』教育出版。
文部科学省『高等学校学習指導要領解説編　総合的な学習の時間』海文堂出版。

参考文献

文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」教育出版社

小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
生徒指導提要（平成22年3月告示　文部科学省）

科目コード	相談援助演習（２単位）	登録年次	履修方法
6430		２年	ＳＲ
教員名	遠藤修正、茅野由紀、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

保育者の専門的能力として、相談援助の理論と方法を理解し、ソーシャルワークの技術を有することが重要視されていることを理解し、実践の場でその技術が活用できるよう、具体的な身近な事例を取り上げる。対人援助者としての素養を培うとともに、計画、記録、評価等の具体的な方法も身につけることを目指す。

学修内容

1	第１章「社会福祉士の役割と意義」：社会福祉士は、どのような仕事をするのか、社会福祉士及び介護福祉士法の改正に伴う社会福祉士の役割と意義について学ぶ。
2	第１章「社会福祉士の役割と意義」：地域を基盤としたソーシャルワークが必要となってきた背景を理解するために、現代社会と地域社会の概要について学修する。
3	第２章「相談援助の定義と構成要素」：ソーシャルワークの定義について学ぶことによって、ソーシャルワークの目的を理解し、さらにソーシャルワークの介入や活動範囲の広さについて認識を深める。
4	第２章「相談援助の定義と構成要素」：ソーシャルワークを構成する要素として、クライエントシステム、ニーズ、ソーシャルワーカー、社会資源・サービス等について学ぶ。
5	第３章「相談援助の形成過程Ⅰ」：ソーシャルワークの歴史を見るにあたり、まず、宗教的な救済の歴史、産業革命とともに表面化してきた社会問題、それに対応するために展開された社会活動について学ぶ。
6	第３章「相談援助の形成過程Ⅰ」：現代のさまざまなソーシャルワーク活動の原型を形づくったソーシャルワークの源流（慈善組織協会・セツルメント・YMCA 等）について学ぶ。
7	第４章「相談援助の形成過程Ⅱ」：ソーシャルワークの発展期を学び、ソーシャルワークが専門職として確立していく過程で、個々の方法や技術をどのように位置づけたか、また、どの活動に重点を置いたかを学修する。
8	第４章「相談援助の形成過程Ⅱ」：ソーシャルワークの展開期、統合化の流れなど、ソーシャルワークのあり方について焦点となった議論や方向性を学ぶ。
9	第５章「相談援助の理念Ⅰ」：ソーシャルワークと価値との関係について学ぶ。専門職として共有する価値のなかで、最も重要な基盤となる「社会正義」「人権尊重」「権利擁護」について理解を深める。
10	第６章「相談援助の理念Ⅱ」：ソーシャルワーカーがよく理解しておくべき、クライエントの自己決定、自立支援、エンパワメント、ストレングス視点、ノーマライゼーション、社会的包摂などの理念について学ぶ。
11	第７章「専門職倫理と倫理的ジレンマ」：ソーシャルワーカーの専門職倫理について、またソーシャルワークの実践における倫理綱領の活用について理解を深め、学修する。
12	第８章「総合的かつ包括的な援助の全体像」：総合的かつ包括的な相談援助が求められる背景、基本的視座、機能について学修する。
13	第９章「総合的かつ包括的な援助を支える理論」：ジェネラリスト・ソーシャルワークを支える理論や特質について、点と面の融合、システム理論、生態学、本人主体、ストレングス視点、マルチシステムなどを学修する。
14	第10章「相談援助にかかる専門職の概念と範囲」：専門職の成立条件や、ソーシャルワーカーの専門職としての独自性、また、職能団体の役割や活動について学ぶ。
15	第11章「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」：これまで学んできた総合的かつ包括的な相談援助の各機能について、５つの事例から学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】相談援助にかかる専門職の概念と範囲について述べよ。

＜ポイント＞

専門職の成立条件や専門領域、職能団体の役割や活動について学ぶ。さらに、相談援助専門職の活動分野について理解を深める。

科目終了試験学修のポイント

１． ソーシャルワークの源流について

＜ポイント＞

①ソーシャルワーク前史についてよく整理して理解を深める。

②慈善組織協会（COS)、セツルメント、YMCA・YWCA、ボーイスカウト・ガールスカウトはソーシャルワークの方法論の系譜になるもので、深く理解する。

２． ソーシャルワークの基礎確立期について

＜ポイント＞

① ケースワークが確立する上でのリッチモンドの果たして役割について理解を深める。

② 同時に、ソーシャルワークが専門化する点や諸科学から影響を受ける点、時代の中で公的性格を帯びることなどを学修する。

３． ソーシャルワーク実践と権利擁護について

＜ポイント＞

①権利擁護が必要とされる背景、深刻な権利侵害の実態につて理解する。

②権利擁護の定義、権利擁護の種類、権利擁護を行うシステム、実践としての権利擁護について、整理する。

４． ノーマライゼーションと社会的包摂について

＜ポイント＞

①ノーマライゼーションの歴史、原理、理念の展開について理解する。

②社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の概念を理解する。

５． 専門職倫理の概念について

＜ポイント＞

専門職と倫理、専門職倫理の必要性について状況をイメージしながら理解する。

６． 倫理綱領の意義と内容について

＜ポイント＞

倫理綱領の意義、全米ソーシャルワーク協会の倫理綱領、日本社会福祉士会倫理綱領及び行動規範をよく読み、理解を深めること。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座６　相談援助の基盤と専門職』中央法規。

参考文献

小田兼三、他『社会福祉援助技術論』勁草書房。

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座７・８　相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ』中央法規。

科目コード	相談支援（２単位）	登録年次	履修方法
6670		１年	R
教員名	岡野雅子、齋藤厚子、柳澤利之		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理　※幼稚園教諭免許状既取得者のみ履修可		

科目概要

保育士養成課程の教科「家庭支援論」「保育相談支援」の２つの科目の目標・内容をもとに、幼稚園教諭免許を有する者が幼稚園等での勤務経験により、保護者対応等の経験を一定程度積んでいることを考慮し、「家族支援・保育相談支援の意義と役割」及び「多様な支援と関係機関との連携」のほか幼稚園等での勤務経験では得られない内容等を中心に学修する。

学修内容

1	１．家庭支援の意義と役割 ・家庭の意義と機能及び家庭支援の必要性
2	・保育士等が行う家庭支援の原理
3	・子育て家庭の福祉を図るための社会資源
4	２．多様な支援の展開と関係機関との連携 ・子育て支援サービスの概要
5	・地域の子育て家庭、要保護児童及びその家庭に対する支援
6	・子育て支援における関係機関との連携
7	３．保育相談支援の意義 ・保護者に対する保育相談支援の意義 ・保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
8	４．保育相談支援の基本 ・保護者の養育力の向上に資する支援
9	・信頼関係を基本とした受容的かかわり、自己決定、秘密保持の尊重
10	５．保育相談支援の実際 ・保育に関する保護者に対する指導及び支援の内容
11	・保護者支援の方法と技術
12	・保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
13	６．児童福祉施設における保育相談支援 ・保育所における保育相談支援及び特別な対応を要する家庭支援の実際
14	・児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
15	・障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 家庭支援、保育相談支援の意義と役割、及び多様な支援と関係機関との連携について述べよ。

＜ポイント＞

家庭支援や保育相談支援がなぜ必要になってきたのか、その社会的背景について説明する。また、具体的な支援内容について説明するとともに、関係機関との連携がなぜ必要であるかについて述べる。

科目終了試験学修のポイント

１．家庭の意義と機能及び家庭支援の必要性について

＜ポイント＞

家庭とは本来どのような意義や機能をもっているのか。また、近年それが変化するなかで、家庭支援がなぜ必要になってきたかについて考察する。

２．地域の子育て家庭、要保護児童及びその家庭に対する支援について

＜ポイント＞

地域の子育て家庭に対する支援や、要保護児童とその家庭に対する支援の必要性について考察するとともに、関係機関との連携の必要性について述べる。

３．保育の特性と保育士の専門性を生かした支援について

＜ポイント＞

保育とは何か。また、保育士の専門性と家庭支援の関係について述べる。

４．保育相談支援の基本について

＜ポイント＞

子どもの発達を支えるための保護者に対する支援のあり方について、信頼関係を基本とした受容的かかわり、自己決定、秘密保持の尊重等についてまとめる。

５．保育相談支援の実際について

＜ポイント＞

保護者に対する支援の内容や方法、技術、そして計画、記録等についてまとめる。

６．児童福祉施設における保育相談支援について

＜ポイント＞

さまざまな児童福祉施設における保育相談支援についてまとめる。

教科書

山縣文治、他『よくわかる家庭支援論』ミネルヴァ書房。

大嶋恭二・金子恵美　編著『保育相談支援』建帛社。

参考文献

小林育子『演習保育相談支援』萌文書林。

科目コード	ソーシャルワークⅠ（4単位）	登録年次	履修方法
3100		2年	R
教員名	黒木豊域、、関秀司、田代幹康、千葉由美		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

社会福祉士の役割と意義、そして相談援助の概念と範囲、理念について講義するとともに、権利擁護の実際について学ぶ。また、相談援助に係る専門職の概念と範囲及び倫理についても学び、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義の内容について理解する。学修のねらいとして以下のものを挙げる。

・社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む。）と意義について理解する。
・相談援助の概念と範囲について理解する。
・相談援助の理念について理解する。
・相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。
・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。
・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義の内容について理解する。

学修内容

1	社会福祉の役割と意義（テキスト pp.1-17） ソーシャルワークの国家資格である社会福祉士の法的位置づけについて学ぶ。
2	ソーシャルワークの概念（テキスト pp.21-28） ソーシャルワークとは何か。国際ソーシャルワーク連盟の定義から詳しく読み解く。
3	ソーシャルワークの構成要素（テキスト pp.29-41） ソーシャルワークを構成する要素にはどのようなものがあるのか。その要素が互いに影響し合う点を理解し、ソーシャルワーカーの介入ポイントについて理解を深める。
4	ソーシャルワークの源流（テキスト pp.44-52） ソーシャルワークの前史から、その源流となった活動を歴史から学ぶ。
5	ソーシャルワークの基礎確立期（テキスト pp.53-59） リッチモンドから世界恐慌まで、ソーシャルワークがどのように発展したかを学ぶ。
6	ソーシャルワークの発展期（テキスト pp.62-68） ソーシャルワークがよりどころとした理論により、学派に分かれるが、それぞれがソーシャルワークをどのように捉えていたかに着目する。
7	ソーシャルワークの展開期（テキスト pp.69-75） ２つの学派が統合し、構築した現代ソーシャルワークを築く理論について学ぶ。
8	ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク（テキスト pp.77-81） スペシャリストからジェネラリストへの統合化について理解する。
9	相談援助の理念Ⅰ（テキスト pp.84-103） ソーシャルワーカーと価値の関係を理解し、価値が実践でどのように影響するかを捉える。また、権利擁護(アドボカシー)についても理解する。
10	相談援助の理念Ⅱ（テキスト pp.106-118） クライエントの自己決定、自立支援、エンパワメント、ストレングス視点、ノーマライゼーションおよび社会的包摂という理念の具現化を考察する。
11	専門職倫理と倫理的ジレンマ（テキスト pp.120-140） 倫理綱領からその概念、意義、内容を学び、ジレンマにあって、ソーシャルワーカーとしてより適切な判断に近づけるよう考察を深める。
12	「総合的かつ包括的な相談援助」の全体像（テキスト pp.142-154） 総合的かつ包括的な相談援助が求められる背景、基本的視座、機能などについて体系的に学ぶ。
13	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論（テキスト pp.156-167） 総合的かつ包括的な相談援助の基盤となるジェネラリスト・ソーシャルワークについてその理論とともに理解を深める。
14	相談援助にかかる専門職の概念と範囲　（テキスト pp.170-188） ソーシャルワーカーは社会の中でどのような機能を実際に果たしているのだろうか。主な相談援助専門職と職場についても学ぶ。
15	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能（テキスト pp.190-231） 現代ソーシャルワーク実践の特質を反映する５つの機能について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 ソーシャルワークの形成過程について述べよ。

＜ポイント＞

①ソーシャルワークの源流と確立期②発展及び展開期③そして統合化とジェネラリスト・ソーシャルワークについて説明する。

【設題2】 ソーシャルワークの理念について述べよ。

＜ポイント＞

①ソーシャルワーク実践と価値及び②権利擁護について整理し、クライエントの尊厳と自己決定について説明する。

科目終了試験学修のポイント

1．社会福祉士の役割と意義について

＜ポイント＞

ソーシャルワークの国家資格である社会福祉士の法的位置づけから、現代社会における社会福祉士の役割と意義についてまとめる。

2．ソーシャルワークの概念について

＜ポイント＞

ソーシャルワークとは何かを国際ソーシャルワーク連盟の定義やソーシャルワークの構成要素から分析する。

3．ノーマライゼーションと社会的包摂について

＜ポイント＞

生活支援の基盤となるノーマライゼーションと社会的包摂について、その成り立ちや意味について説明する。

4．倫理綱領の意義と内容について

＜ポイント＞

倫理綱領の内容を踏まえ、なぜ倫理綱領があるのかについて考察する。

5．地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座について

＜ポイント＞

テキストから4つの基本的視座についてまとめる。

6．相談援助にかかる専門職の概念について

＜ポイント＞

専門職の成立条件について考え、生活支援の専門職としてのソーシャルワーカーおよび職能団体についてまとめる。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座6　相談援助の基盤と専門職』中央法規。

参考文献

小田兼三、他『社会福祉援助技術論』勁草書房。
社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座7　相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規。
社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規。

科目コード	ソーシャルワークⅡ（4単位）	登録年次	履修方法
3110		2年	R
教員名	茅野由紀、河合純、黒木豊域、田中利光、千葉由美、永澤護、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目では、ある課題（ニーズ）をもったクライエントに対する援助者の働きかけについて、クライエントと援助者との直接的な関わりの中で展開される相談援助の方法及び技術についてみてゆく。具体的には、相談援助の展開過程（ケース発見・インテークから援助の終結まで）の各段階の流れをおさえ、そこにおいてなされる援助の方法及び必要な技術（アウトリーチ、契約、アセスメント、介入、モニタリング、面接、記録、交渉等）を学修する。

学修内容	
1	ソーシャルワークの概念（国際ソーシャルワーカー連盟のソーシャルワークの定義から） ソーシャルワークの理念（人権尊重、社会正義、利用者本位、自立支援、エンパワメント　等の意味の理解）
2	相談援助実践における価値と倫理（1）（バイスティックによるソーシャルワークの７原則） 相談援助実践における価値と倫理（2）（日本社会福祉士会の倫理綱領等）
3	歴史上の実践モデルとアプローチ （リッチモンドから今日までの社会福祉実践モデルとアプローチの概略：診断主義派、機能主義派、問題解決アプローチ、危機介入アプローチ、課題中心アプローチ、行動変容アプローチ、システム理論、生活モデル　等の概要）
4	社会福祉援助技術理論の最近の動向（1） （エコロジカルソーシャルワークと生活モデル：その特徴とそれを事例に適応した場合の理解）
5	社会福祉援助技術理論の最近の動向（2） （ストレングスモデルとエンパワーメントアプローチ：その特徴とそれを事例に適用した場合の理解）
6	人と環境の交互作用（1） （システムとは、エコロジカル・モデルとは：それぞれのモデルに出てくる用語と概念の理解）
7	人と環境の交互作用（2） （エコロジカル・モデルの事例学習：事例を取り上げ、そこから理解する）
8	個別援助の展開過程：各論（1） （ケース発見、受理面接、ニーズ確定、アセスメント：とくにアセスメントの重要性に注目し展開過程の前半部に必要なワーカーの援助技術を理解する）
9	個別援助の展開過程：各論（2） （プランニング、介入、モニタリング、再アセスメント、終結：後半部の展開過程で必要なワーカーの援助技術を理解する）
10	マッピング技法 （ジェノグラム、ファミリーマップ、エコマップ：視覚化した事例理解のためのツールを活用できるようにする）
11	面接の諸場面、コミュニケーション技法（1） （面接室での面接、家庭訪問による面接、生活場面面接、効果的な面接：面接の種類の理解と、その技術の基本を習得する）
12	面接の諸場面、コミュニケーション技法（2） （マイクロカウンセリング技法等の面接技法の実際：面接技法のひとつであるマイクロカウンセリング技法の特徴とその方法について理解する）
13	援助実践の効果測定 （集団比較実験計画法、単一事例実験計画法、プロセス評価、アウトカム評価：援助の効果測定の方法を理解する）
14	記録の意義と方法（1） （記録の意義・目的、記録の種類、記録の方法、記録と倫理的配慮：「正しく・わかりやすく・正確な」記録の書き方を習得し、併せて必要な利用者への倫理的配慮について、倫理綱領から理解する）
15	事例分析・発表の方法と留意点 （事例分析の着目点、発表・報告の方法や留意点等：事例をまとめ分かりやすく発表するための方法を知る）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 相談援助における人と環境との交互作用の視点について述べよ。

＜ポイント＞

相談援助において、なぜ人と環境との交互作用の視点が必要であると考えられるのか、またそれらは援助の展開過程の中でどのように扱われるのかを考えること。

【設題2】 相談援助の展開過程における各段階の特徴について述べよ。

＜ポイント＞

まず、展開過程の一連の流れを把握し、そこでなされる相談援助の方法・技術にはどのようなものがあるのかを押さえることが必要である。次に、各方法・技術における留意点等を考えること。

科目終了試験学修のポイント

1．国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）の「ソーシャルワークの定義」の特徴について

＜ポイント＞

定義の中のひとつひとつの文言の意味を精査すること。 定義の見直しが検討されているが、その理由について調べる。

2．バイスティック（F, Biestek）によるケースワークの7原則について

＜ポイント＞

援助実践現場（実習や社会福祉実践現場）において7原則がどのように意識されるのかをよく思考することが大切である。

3．家族への相談援助において、家族をシステム論的に理解するということについて

＜ポイント＞

ケースワークでは援助対象の個人のみではなく、その個人を含んだ家族をケースとして取り扱うことが多い。

4．相談援助における人と環境との交互作用の視点について

＜ポイント＞

WHOの国際生活機能分類（ICF）の概念図（とくに環境因子）を意識しながら交互作用を考えるとよい。

5．相談援助におけるアセスメントの意義、目的、方法、留意点について

＜ポイント＞

相談援助においてアセスメントの出来不出来が援助全体の成果に大きく影響する。アセスメントを大事にされたい。

6．個別援助技術（ケースワーク）の展開過程について

＜ポイント＞

援助の展開過程はどの分野の社会福祉援助でも大方共通しているので、しっかりとその内容を押さえていただきたい。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規。

参考文献

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規。

科目コード	ソーシャルワークⅢ（4単位）	登録年次	履修方法
3120		3年	R
教員名	北爪克洋、黒木豊域、近藤重晴、千葉由美、永澤護		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目では、ソーシャルワーク演習Ⅱで学んだ内容からさらに踏み込み、相談援助の価値、知識、理論について学ぶ。援助対象の理解やグループワークの方法論、コーディネーションやネットワーキングの実際、社会資源の活用方法等といった包括的な相談援助実践について学ぶ。

また、相談援助実践に用いられる実践理論の歴史的変遷や、さまざまな実践モデル、アプローチ、関連する援助技術についての理解を深める。

学修内容

1	相談援助における対象の理解（テキストpp.2-19） ソーシャルワークの定義を根底に、相談援助の視点とクライエントシステムについて理解する。
2	ケースマネジメント（テキストpp.22-52） ケースマネジメントの目的を理解した上で、その実践（展開）について方法論を学ぶ。
3	グループを活用した相談援助（テキストpp.54-73） 支援のレパートリーとしてグループを活用することの意義と、その実践方法について学ぶ。
4	コーディネーションとネットワーキング（テキストpp.76-98） コーディネーション、ネットワーキングが必要となる実践背景と、その具体的手法について理解を深める。
5	相談援助における社会資源の活用・調整・開発（テキストpp.100 -120） 社会福祉実践における社会資源とは、またそれらを調整・開発することの意義と方法について理解を深める。
6	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ（テキストpp.122-141） 実践モデルの意義、また治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルについて説明ができるようにする。
7	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ　その1（テキストpp.144-152） 心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチの基盤理論と効果について説明ができるようにする。
8	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ　その2（テキストpp.153-161） 課題中心アプローチ、危機介入アプローチ、行動変容アプローチの基盤理論と効果について説明ができるようにする。
9	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ　その1（テキストpp.164-171） エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチの基盤理論と効果について説明ができるようにする。
10	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ　その2（テキストpp.172-181） 実存主義アプローチ、フェミニストアプローチ、解決志向アプローチの基盤理論と効果について説明ができるようにする。
11	スーパービジョンとコンサルテーションの技術（テキストpp.184-204） スーパービジョンとコンサルテーションの相違点を理解し、それぞれの機能と必要となる技術について理解を深める。
12	ケースカンファレンスの技術（テキストpp.206-229） ケースカンファレンスの意義を理解し、必要となる技術について理解を深める。
13	相談援助における個人情報の保護（テキストpp.232-242） 制度と倫理の双方を理解し、実践者として留意する点を整理する。
14	相談援助における情報通信技術（ICT）の活用（テキストpp.244-255） 情報通信技術が必要となる背景からその積極的活用、留意点についてまとめる。
15	事例研究・事例分析（テキストpp.258-298） 事例を通じてこれまでの学びを、より実践的に解釈し、総合的に学びを評価する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 相談援助におけるグループワークの持つ意味とその展開過程について説明せよ。

＜ポイント＞

1）ライフサイクルとグループの関係性　2）グループの持つ力

3）グループの発達段階

【設題2】 相談援助におけるスーパービジョンの意義について説明せよ。

＜ポイント＞

1）スーパービジョンの歴史的変遷　2）スーパービジョンの機能

3）スーパービジョンの目的　　4）スーパービジョンの構造

科目終了試験学修のポイント

1．ケースマネジメントにおけるアセスメントの意義と方法について

＜ポイント＞

クライエント支援の過程において、アセスメントの必要性について理解した上で、具体的方法と留意点について理解する。

2．グループワークの意義、定義及び展開過程における援助者の役割について

＜ポイント＞

グループの特性を理解し、その援用と果たすべきソーシャルワーカーの役割についてまとめる。

3．コーディネーション、ネットワーキングの概念及び展開方法について

＜ポイント＞

それぞれの技術において、その必要性と効果、具体的に実践方法についてまとめる。

4．さまざまな実践モデル、アプローチの理解について

＜ポイント＞

各種実践モデル、アプローチに関する基盤理論とその効果性について適切にまとめる。

5．スーパービジョン、コンサルテーションの意義及び概念について

＜ポイント＞

スーパービジョンの定義を基盤に、それらが如何に機能し、それを支える技術とは何かを理解し、まとめる。

6．相談援助における個人情報保護の意義と課題について

＜ポイント＞

法律と倫理、それぞれの概要に対する理解を前提として、実践活動における課題点について明確化する。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規。

参考文献

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座7　相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規。

科目コード	ソーシャルワーク演習Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
3220		1	SR
教員名	青木正、上田征三、大矢日信、小笠原眞紀、荻野基行、小倉弘幸、茅野由紀、黒木豊域、田中利光、田中利則、田中良幸、高橋登志子、中澤由美子、西村明子、宮淑恵、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

ソーシャルワーク演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。

ソーシャルワーク演習Ⅰは「ソーシャルワークの基礎」という位置づけとなり、個人、集団、地域といった、いわゆるソーシャルワーカーが支援の対象とするクライエントシステムについて基礎的な理解を図るとともに、働きかけの方法としての基本的なコミュニケーション、システムの特徴について学習する。

ソーシャルワーク演習Ⅰが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。

1）自己覚知への取り組みを通じて、自分自身、集団の中での自身、また地域生活における自身について明瞭な説明ができる。
2）コミュニケーションの構造を理解し、基本的なコミュニケーションを実施することができる。
3）基本的な面接技術について説明ができる。
4）ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。
5）ソーシャルワーク・プロセスについて説明することができる。
6）ソーシャルワーク実践に必要となる記録についてその特性を説明することができる。
7）集団（グループ）の特質、グループダイナミクス、グループワークのプロセスについて説明することができる。
8）地域（コミュニティ）に関する理解と、その定義・役割、機能についてプレゼンテーションを実施することができる。

学修内容

1	オリエンテーション・オープニング（契約） ＜ポイント＞学習目標の明確化と規範・個人の役割の確認。
2	自己覚知（個人） ＜ポイント＞自己覚知と他者理解について理解する。自分自身の価値観、思考傾向、ストレングスやウィークポイントについてまとめ、専門職を目指す自己について確認する。
3	基本的なコミュニケーション技術 ＜ポイント＞言語的技術と非言語技術について理解する。自身のコミュニケーションスキルについてまとめる。
4	基本的な面接技法 ＜ポイント＞面接の構造化、場の設定、用いられツールの活用について理解する。面接技法における専門的なコミュニケーションの方法についてまとめる。
5	ソーシャルワークの展開過程 ＜ポイント＞ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と評価、アフターケアについて理解する。ソーシャルワーク・プロセスについてまとめる。
6	ソーシャルワークの記録 ＜ポイント＞支援過程の把握と管理について理解する。※2～6の内容を振り返り、学んだ内容をまとめる。
7	集団（グループ）の理解 ＜ポイント＞グループワークの定義、グループワークの機能、グループワークの構成について理解する。これまでの自身の生活を振り返り、集団のメリットとデメリットについて自らの考えをまとめ、集団（グループ）の定義と機能についてまとめる。
8	グループダイナミクスの活用 ＜ポイント＞グループリーダー、コリーダー、グループメンバーの役割について理解する。
9	グループワークの展開過程 ＜ポイント＞準備期、開始期、作業期、終結期について理解する。※7～9の内容を振り返り、学んだ内容をまとめる。
10	自己覚知（地域） ＜ポイント＞自身の生活と地域社会とのつながりについて理解する。これまでの自身の生活を振り返り、地域社会とのつながりについて想起し、「コミュニティ」の特徴についてまとめる。
11	地域の理解 ＜ポイント＞コミュニティの定義、概念について理解する。「コミュニティ」の定義・概念について内容を確認し、「ソーシャル・キャピタル」について、その内容をまとめる。

12	地域調査(1) ＜ポイント＞コミュニティ要素モデルに基づく特定の地域の調査方法について理解するとともに調査を実践する。
13	地域調査(2) ＜ポイント＞12「地域調査(1)」にて調査した内容をまとめるとともに、プレゼンテーションの準備を行う。
14	プレゼンテーションの実施 ＜ポイント＞個人プレゼンテーションの実施　※10～14 の内容を振り返り、学んだ内容をまとめる。
15	まとめ ＜ポイント＞自己評価の言語化と課題の明確化。ソーシャルワーク演習Ⅰで学習できたことをまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】

ソーシャルワーク実践の対象（ケース、グループ、コミュニティ）とその特徴、支援者に求められる技術について述べよ。

＜ポイント＞

ケース、グループ、コミュニティそれぞれの特性を整理したうえで、自己覚知、基本的なコミュニケーション技術を前提とする必要な技術についてまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．基本的な面接技術について

＜ポイント＞

コミュニケーションの構造と実践について理解したうえで面接技法の効果や方法についてまとめる。

2．ソーシャルワークの展開過程と専門的視点

＜ポイント＞

ソーシャルワークの展開過程（ソーシャルワーク・プロセス）について、その流れを適切にまとめる。

3．ソーシャルワークの記録について

＜ポイント＞

ソーシャルワーク実践において用いられる記録の種類と、必要とされる技術についてまとめる。

4．グループワークの実践について

＜ポイント＞

集団の定義と機能、また中でもグループダイナミクス、グループの展開過程についての理解を踏まえ、支援のレパートリーとしてのグループワークについてまとめる。

5．生活の基盤としてのコミュニティに関する理解について

＜ポイント＞

自身にとってのコミュニティの意義と、コミュニティの定義、またコミュニティに関するアセスメントについてまとめる。

6．プレゼンテーションについての理解について

＜ポイント＞

プレゼンテーションに必要な準備と実践について例をもとにまとめる。

教科書

はじめてのソーシャルワーク演習編集委員会編　『はじめてのソーシャルワーク演習』　ミネルヴァ書房。

参考文献

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座11ソーシャルワークの基盤と専門職（共通+社会専門）』中央法規出版。
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座12ソーシャルワークの理論と方法（共通）』中央法規出版。

科目コード	ソーシャルワーク演習Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
3221		1	SR
教員名	青木正、上田征三、大矢日信、小笠原眞紀、荻野基行、、小倉弘幸、茅野由紀、黒木豊域、田中利光、田中利則、田中良幸、高橋登志子、中澤由美子、西村明子、宮淑恵、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

ソーシャルワーク演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。

ソーシャルワーク演習Ⅰは「ソーシャルワークの基礎」という位置づけとなり、個人、集団、地域といった、いわゆるソーシャルワーカーが支援の対象とするクライエントシステムについて基礎的な理解を図るとともに、働きかけの方法としての基本的なコミュニケーション、システムの特徴について学習する。

ソーシャルワーク演習Ⅰが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。

1）自己覚知への取り組みを通じて、自分自身、集団の中での自身、また地域生活における自身について明瞭な説明ができる。
2）コミュニケーションの構造を理解し、基本的なコミュニケーションを実施することができる。
3）基本的な面接技術について説明ができる。
4）ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。
5）ソーシャルワーク・プロセスについて説明することができる。
6）ソーシャルワーク実践に必要となる記録についてその特性を説明することができる。
7）集団（グループ）の特質、グループダイナミクス、グループワークのプロセスについて説明することができる。
8）地域（コミュニティ）に関する理解と、その定義・役割、機能についてプレゼンテーションを実施することができる。

学修内容

1	オリエンテーション・オープニング（契約） ＜ポイント＞学習目標の明確化と規範・個人の役割の確認。
2	自己覚知（個人） ＜ポイント＞自己覚知と他者理解について理解する。自分自身の価値観、思考傾向、ストレングスやウィークポイントについてまとめ、専門職を目指す自己について確認する。
3	基本的なコミュニケーション技術 ＜ポイント＞言語的技術と非言語技術について理解する。自身のコミュニケーションスキルについてまとめる。
4	基本的な面接技法 ＜ポイント＞面接の構造化、場の設定、用いられツールの活用について理解する。面接技法における専門的なコミュニケーションの方法についてまとめる。
5	ソーシャルワークの展開過程 ＜ポイント＞ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と評価、アフターケアについて理解する。ソーシャルワーク・プロセスについてまとめる。
6	ソーシャルワークの記録 ＜ポイント＞支援過程の把握と管理について理解する。※2～6の内容を振り返り、学んだ内容をまとめる。
7	集団（グループ）の理解 ＜ポイント＞グループワークの定義、グループワークの機能、グループワークの構成について理解する。これまでの自身の生活を振り返り、集団のメリットとデメリットについて自らの考えをまとめ、集団（グループ）の定義と機能についてまとめる。
8	グループダイナミクスの活用 ＜ポイント＞グループリーダー、コリーダー、グループメンバーの役割について理解する。
9	グループワークの展開過程 ＜ポイント＞準備期、開始期、作業期、終結期について理解する。※7～9の内容を振り返り、学んだ内容をまとめる。
10	自己覚知（地域） ＜ポイント＞自身の生活と地域社会とのつながりについて理解する。これまでの自身の生活を振り返り、地域社会とのつながりについて想起し、「コミュニティ」の特徴についてまとめる。
11	地域の理解 ＜ポイント＞コミュニティの定義、概念について理解する。「コミュニティ」の定義・概念について内容を確認し、「ソーシャル・キャピタル」について、その内容をまとめる。

12	地域調査(1) ＜ポイント＞コミュニティ要素モデルに基づく特定の地域の調査方法について理解するとともに調査を実践する。
13	地域調査(2) ＜ポイント＞12「地域調査(1)」にて調査した内容をまとめるとともに、プレゼンテーションの準備を行う。
14	プレゼンテーションの実施 ＜ポイント＞個人プレゼンテーションの実施　※10～14 の内容を振り返り、学んだ内容をまとめる。
15	まとめ ＜ポイント＞自己評価の言語化と課題の明確化。ソーシャルワーク演習Ⅰで学習できたことをまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】

ソーシャルワーク実践の対象（ケース、グループ、コミュニティ）とその特徴、支援者に求められる技術について述べよ。

＜ポイント＞

ケース、グループ、コミュニティそれぞれの特性を整理したうえで、自己覚知、基本的なコミュニケーション技術を前提とする必要な技術についてまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1． 基本的な面接技術について

＜ポイント＞

コミュニケーションの構造と実践について理解したうえで面接技法の効果や方法についてまとめる。

2． ソーシャルワークの展開過程と専門的視点について

＜ポイント＞

ソーシャルワークの展開過程（ソーシャルワーク・プロセス）について、その流れを適切にまとめる。

3．ソーシャルワークの記録について

＜ポイント＞

ソーシャルワーク実践において用いられる記録の種類と、必要とされる技術についてまとめる。

4． グループワークの実践について

＜ポイント＞

集団の定義と機能、また中でもグループダイナミクス、グループの展開過程についての理解を踏まえ、支援のレパートリーとしてのグループワークについてまとめる。

5． 生活の基盤としてのコミュニティに関する理解について

＜ポイント＞

自身にとってのコミュニティの意義と、コミュニティの定義、またコミュニティに関するアセスメントについてまとめる。

6． プレゼンテーションについて

＜ポイント＞

プレゼンテーションに必要な準備と実践について例をもとにまとめる。

教科書

はじめてのソーシャルワーク演習編集委員会編　『はじめてのソーシャルワーク演習』　ミネルヴァ書房。

参考文献

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座11ソーシャルワークの基盤と専門職（共通+社会専門）』中央法規出版。
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座12ソーシャルワークの理論と方法（共通）』中央法規出版。

科目コード	ソーシャルワーク演習Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
3230/3231		１年/２年	ＳＲ
教員名	青木正、上田征三、大矢日信、小笠原眞紀、荻野基行、小倉弘幸、茅野由紀、黒木豊域、田中利光、田中利則、田中良幸、高橋登志子、中澤由美子、西村明子、宮淑恵、柳澤利之、先野祐史、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。特に以下の内容について、要援護者に対する専門的援助の基礎を学修する。
ア）自己覚知　イ）基本的なコミュニケーション技術の習得　ウ）基本的な面接技術の習得

学修内容

1	「人」に関する理解（1） 事例を通じて「人」についての理解を深める。
2	「人」に関する理解（2） 「クライエント」とはどのような「人」か？について理解を深める。
3	「人のこころ」の理解（1） 他者のこころを理解する。
4	「人のこころ」の理解（2） 自己のこころを理解する。
5	「人の気持ち」の理解（1） 他者の気持ちを理解する。
6	「人の気持ち」の理解（2） 自己の気持ちを理解する。
7	「人の行動」に関する理解（1） 他者の行動について、実習記録を題材に理解する。
8	「人の行動」に関する理解（2） 他者の行動について、面接を想定し理解する。
9	「人の行動」に関する理解（3） 自己の行動について理解する。
10	相談援助における面接の目的と特性 事例をもとに面接の特性について理解を深める。
11	面接の基盤 事例をもとに共感や支持といった面接の基盤を理解する。
12	面接における基本的応答技法（1） 面接において用いる応答技法の種類と目的について理解する。
13	面接における基本的応答技法（2） 事例を通じて基本的応答技法の用い方について実践的に理解する。
14	面接の展開 事例を用いて、面接をどうのように展開するかを学ぶ。
15	非言語的コミュニケーション その活用と意義、効力について理解を深める。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】　社会福祉士に求められる資質について述べよ。

＜ポイント＞

自己覚知、共感、基本的なコミュニケーション技術、基本的な面接技術について述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．基本的なコミュニケーションの技術について

＜ポイント＞

言語・非言語的コミュニケーションの特質を理解し、意図的な活用を学ぶ。

2．対人関係の持ち方について

＜ポイント＞

挨拶、会話、態度等に加え、専門的対人関係形成のためのバイスティックの原則について学ぶ。

3．傾聴について

＜ポイント＞

基礎的面接技術としての傾聴、受容、共感について学ぶ。

4．ソーシャルワークにおける記録について

＜ポイント＞

記録の種類とその内容、特性について理解し、記述の方法について学ぶ。

5．ソーシャルワーカーの倫理について

＜ポイント＞

社会福祉士の倫理についてその内容と意義について学ぶ。

6．ケースカンファレンスについて

＜ポイント＞

ケースカンファレンスの意義と目的、運営方法と展開過程について学ぶ。

教科書

一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（監修）『社会福祉士　相談援助演習』中央法規。

参考文献

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座7　相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規。

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規。

科目コード	ソーシャルワーク演習Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
3232		２年	ＳＲ
教員名	青木正、上田征三、大矢日信、小笠原眞紀、荻野基行、小倉弘幸、茅野由紀、黒木豊域、田中利光、田中利則、田中良幸、高橋登志子、中澤由美子、西村明子、宮淑恵、柳澤利之、先野祐史、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと１年次から４年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。

ソーシャルワーク演習Ⅱは「ソーシャルワークの展開」という位置づけとなり、ソーシャルワーク演習Ⅰで学習したクライエントシステムに関する理解を踏まえて、ソーシャルワーク・プロセスの展開とプロセスにおいて活用される面接やプログラム分析、アウトリーチやチームアプローチといった技術についてトレーニングする。

ソーシャルワーク演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。

1) ケースワークのプロセスについて説明ができる。
2) 基本的な面接技術について実践できる。
3) グループワークのプロセスと、ソーシャルワーカーの役割について明瞭な説明ができる。
4) グループワークにおける専門技術について実践できる。
5) コミュニティワークのプロセスについて説明ができる。
6) アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発といった援助技術についてその目的と方法について説明ができる。

学修内容

1	オリエンテーション・オープニング（契約） ＜ポイント＞ソーシャルワーク演習Ⅰの振り返り。ソーシャルワーク演習Ⅰでの学習を踏まえ、ソーシャルワーク演習Ⅱの自己の学習目標を明確にする。
2	人間（個人）の理解 ＜ポイント＞エコロジカル、バイオ・サイコ・ソーシャルの視点から理解する。
3	面接技法 ＜ポイント＞面接における適切な姿勢・態度、基本的応答技法について理解する。面接技法における、あるべき姿勢と態度についてまとめる。
4	ソーシャルワークの支援過程（1） ＜ポイント＞ケースの発見、インテーク、アセスメントについて事例をもとに理解する。面接技法における基本的応答技法についてまとめる。
5	ソーシャルワークの支援過程（2） ＜ポイント＞プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケアについて事例をもとに理解する。※2～5の内容を振り返り、学んだ内容をまとめる。
6	グループワークにおけるワーカーの役割 ＜ポイント＞展開過程に応じたワーカーの役割について理解する。グループワーク実践におけるワーカーの役割についてまとめる。
7	グループワーク技法(1) ＜ポイント＞準備期、開始期における介入方法について理解する。グループワークにおける準備期・開始期に必要となる技術についてまとめる。
8	グループワーク技法(2) ＜ポイント＞作業期、終結期における介入方法について理解する。グループワークにおける作業期・終結期に必要となる技術についてまとめる。　※6～8の内容を振り返り、学んだ内容をまとめる。
9	コミュニティソーシャルワーク・プロセス ＜ポイント＞支援の展開方法について理解する。
10	アウトリーチ ＜ポイント＞アウトリーチの必要性と実践方法について理解する。アウトリーチの意義と方法についてまとめる。
11	チームアプローチ ＜ポイント＞コミュニティソーシャルワークにおけるチームアプローチの必要性と実践方法について理解する。チームアプローチの意義と方法についてまとめる。
12	ソーシャルアクション ＜ポイント＞有機的なソーシャルアクションの必要性と実践方法について理解する。ソーシャルアクションの意義と方法についてまとめる。

13	コーディネーションとネットワーキング ＜ポイント＞コミュニティにおけるコーディネーションとネットワーキングの必要性と実践方法について理解する。ネットワーキングの意義と方法についてまとめる。
14	ファシリテーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション ＜ポイント＞コーディネーションの実践において求められる技術について理解する。 ※9～14 の内容を振り返り、学んだ内容をまとめる。
15	まとめ ＜ポイント＞自己評価の言語化と課題の明確化。ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びを振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅲに向けた自己課題をまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】

ソーシャルワーク実践における展開過程について述べよ。

＜ポイント＞

ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、それぞれの展開過程について整理し、求められる技術や知識について整理する。

科目終了試験学修のポイント

1．人を理解するための総合的な視点（バイオ・サイコ・ソーシャル）について

＜ポイント＞

人間（個人）を理解する際に必要なバイオ・サイコ・ソーシャルの視点について、それぞれにどのような項目が該当するのかをまとめる。

2． ソーシャルワークの支援過程（ソーシャルワークプロセス）について

＜ポイント＞

ケースの発見から始まるソーシャルワークの支援過程において、それぞれの局面で求められる視点と専門的技術・知識についてまとめる。

3．グループワークの展開過程とソーシャルワーカーの働きについて

＜ポイント＞

グループの展開過程において果たすべきソーシャルワーカーの役割、専門的技術・知識についてまとめる。

4． コミュニティワークの支援過程とソーシャルワーカーの働きについて

＜ポイント＞

コミュニティワークを展開するうえでの支援の流れと果たすべきソーシャルワーカーの役割、専門的技術・知識についてまとめる。

5． ネットワーキングについて

＜ポイント＞

ネットワーキングの意義と、それを実現するためのコーディネーションの在り方についてまとめる。

6． ファシリテーション、ネゴシエーション、プレゼンテーションについて

＜ポイント＞

有益なネットワーキングの構築に求められるコーディネーション、それを実現するためのファシリテーション、ネゴシエーション、プレゼンテーションに係る技術についてまとめる。

教科書

「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編 『はじめてのソーシャルワーク演習』 ミネルヴァ書房。

参考文献

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座11ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規出版。

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法（共通）』中央法規出版、2020 年 12 月。

※ソーシャルワーク演習Ⅰ及びⅡを履修してから学修することが望まれます。

科目コード	ソーシャルワーク演習Ⅲ（２単位）	登録年次	履修方法
3240		２年	ＳＲ
教員名	青木正、上田征三、大矢日信、小笠原眞紀、荻野基行、小倉弘幸、茅野由紀、黒木豊域、田中利光、田中利則、田中良幸、高橋登志子、中澤由美子、西村明子、宮淑恵、森脇浩子、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

個別援助技術の内容や展開過程を、ロールプレイ等を通じて実践的に学ぶ。

① 次に掲げる具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む。）を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。

・社会的排除　・虐待（児童・高齢者）　・家庭内暴力（D.V）　・低所得者

・ホームレス　・その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。）

② ①に掲げる事例を題材として、以下に掲げる具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。

・インテーク　・アセスメント　・プランニング　・支援の実施　・モニタリング

・効果測定　・終結とアフターケア　・ケアマネジメントとプロセスと具体的展開

③ ②の実技指導に当たっては、次に掲げる内容を含める。

・アウトリーチ　・チームアプローチ　・ネットワーキング

・社会資源の活用・調整・開発

・ケアマネジメントの事例研究、ケースカンファレンスの実際

学修内容

1	社会的排除に関する相談援助（教科書 pp.208-213） 社会的排除に陥る背景とマクロ的視点で問題を捉えることについて理解を深める。
2	就労支援（障害者）に関する相談援助（教科書 pp.228-231） 就労支援に必要な計画の策定と総合的なネットワーキングについて学ぶ。
3	就労支援（母子）に関する相談援助（教科書 pp.232-235） 母子世帯をめぐる諸問題、その支援のあるべき方法について学ぶ。
4	病院からの退院に関する相談援助（教科書 pp.236-239） チームアプローチにおけるソーシャルワーカーの役割と退院支援の方法について理解を深める。
5	家庭内暴力（DV）に関する相談援助（教科書 pp.240-243） DV の特質とそれに対応する援助方法、制度について理解を深める。
6	虐待（高齢者）への相談援助（教科書 pp.244-247） 虐待に陥る背景、状況と支援の在り方について理解を深める。
7	学校でのいじめ問題に関する相談援助（教科書 pp.252-258） 教育現場での社会福祉ニーズに把握と支援の方法について学ぶ。
8	低所得者への相談援助（教科書 pp.260-263） 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。
9	ホームレスへの相談援助（教科書 pp.264-267） 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。
10	高齢者（認知症）とその家族への相談援助（教科書 pp.268-271） 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。
11	高齢者（要介護）とその家族への相談援助（教科書 pp.272-275） 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。
12	障害者（身体障害）とその家族への相談援助（教科書 pp.276-281） 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。
13	障害者（知的障害）とその家族への相談援助（教科書 pp.282-285） 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。
14	児童（児童養護施設入所）とその家族への相談援助（教科書 pp.296-299） 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。
15	在住外国人への相談所（教科書 pp.312-315） 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】 個別援助の展開過程について述べよ。

＜ポイント＞
具体的な事例に基づき学習を深めると、それぞれの段階における援助技術がいっそう理解しやすくなる。

科目終了試験学修のポイント

1．インテークについて
＜ポイント＞
インテーク段階の内容と、ソーシャルワーカーが果たすべき役割、留意点について学ぶ。

2．アセスメントについて
＜ポイント＞
「バイオ」「サイコ」「ソーシャル」の側面から適切な情報をもとに分析することの必要性と、そこでのソーシャルワーカーの果たすべき役割と留意点について学ぶ。

3．プランニングについて
＜ポイント＞
アセスメントにもとづき策定される支援計画の特質と、立案にあたって意識すべき事柄、留意点等について学ぶ。

4．支援の実施、モニタリングについて
＜ポイント＞
モニタリングについて内容、目的、対象またその方法について学ぶ。

5．効果測定、終結とアフターケアについて
＜ポイント＞
一連のソーシャルワークプロセスについて評価する方法、また評価に基づく終結の意義、アフターケアの機能について学ぶ。

6．エコロジカル・アプローチについて
＜ポイント＞
エコロジカル・アプローチについてその内容と諸要素、視座について学ぶ。

教科書

一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（監修）『社会福祉士　相談援助演習』中央法規。

参考文献

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座７　相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規。
社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座８　相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規。

科目コード	ソーシャルワーク演習Ⅲ（２単位）	登録年次	履修方法
3241		２年	ＳＲ
教員名	青木正、上田征三、大矢日信、小笠原眞紀、荻野基行、小倉弘幸、茅野由紀、黒木豊域、田中利光、田中利則、田中良幸、高橋登志子、中澤由美子、西村明子、宮淑恵、森脇浩子、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと１年次から４年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。

ソーシャルワーク演習Ⅲは「ソーシャルワークの実践」という位置づけとなり、これまでのソーシャルワーク演習Ⅰ及びソーシャルワーク演習Ⅱにおいて学習した内容を踏まえ、それらの知識と実践技術を、事例を通じてより実践的に活用し、総合的、また横断的な理解の促進を図る。

ソーシャルワーク演習Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。

1）ソーシャルワークに関する事例を用いて、個人に対するソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。

2）ソーシャルワークに関する事例を用いて、グループ（集団）を活用したソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。

3）ソーシャルワークに関する事例を用いて、地域（コミュニティ）に対するソーシャルワーク実践に関し、必要な知識と技術を言語化することができる。

4）ソーシャルワークに関する事例を用いて、個人、集団（グループ）、地域（コミュニティ）を対象とした横断的・総合的な専門知識・技術の活用を理解することができる。

学修内容

1	オリエンテーション ＜ポイント＞ソーシャルワーク演習Ⅱの振り返り。ソーシャルワーク演習Ⅰ・ソーシャルワーク演習Ⅱでの学習を踏まえ、ソーシャルワーク演習Ⅲの自己の学習目標を明確にする。
2	事例１　ケースワークを題材とした事例の展開（1） ＜ポイント＞児童虐待への対応と支援の実践
3	事例１　ケースワークを題材とした事例の展開（2） ＜ポイント＞高齢者虐待への対応と支援の実践
4	事例１　ケースワークを題材とした事例の展開（3） ＜ポイント＞障害者虐待への対応と支援の実際　※2～4 の内容を振り返り、学んだ内容をまとめる。
5	事例２　グループを用いた支援を題材とした事例の展開（1） ＜ポイント＞認知症高齢者への対応と支援の実際
6	事例２　グループを用いた支援を題材とした事例の展開（2） ＜ポイント＞高齢者の権利擁護への対応と支援の実際
7	事例２　グループを用いた支援を題材とした事例の展開（3） ＜ポイント＞終末期ケアへの対応と支援の実際　※5～7 の内容を振り返り、学んだ内容をまとめる。
8	事例３　コミュニティを題材とした事例の展開（1） ＜ポイント＞災害リスクを抱える地域への支援
9	事例３　コミュニティを題材とした事例の展開（2） ＜ポイント＞災害リスクを抱える地域への支援
10	事例３　コミュニティを題材とした事例の展開（3） ＜ポイント＞災害リスクを抱える地域への支援　※8～10 の内容を振り返り、学んだ内容をまとめる。
11	事例４　総合的・包括的な事例の展開（1） ＜ポイント＞発達障害、ひきこもり、貧困等複合的なニーズを有するクライエントの権利擁護活動に関する実践
12	事例４　総合的・包括的な事例の展開（2） ＜ポイント＞発達障害、ひきこもり、貧困等複合的なニーズを有するクライエントの権利擁護活動に関する実践
13	事例４　総合的・包括的な事例の展開（3） ＜ポイント＞発達障害、ひきこもり、貧困等複合的なニーズを有するクライエントの権利擁護活動に関する実践
14	事例４　総合的・包括的な事例の展開（4） ＜ポイント＞発達障害、ひきこもり、貧困等複合的なニーズを有するクライエントの権利擁護活動に関する実践 ※11～14 の内容を振り返り、学んだ内容をまとめる。

15	まとめ ＜ポイント＞これまでの学習内容を振り返る。ソーシャルワーク演習Ⅲで学習できたことをまとめるとともに、ソーシャルワーク演習Ⅳの実施に向けた自己課題を明確化する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】

総合的・包括的な支援の意義と方法について述べよ。

＜ポイント＞

個人、集団、地域を対象とした事例を踏まえて、多様な支援対象者への専門知識・技術の適応方法について整理する。

科目終了試験学修のポイント

１． 個人に対するソーシャルワーク実践について

＜ポイント＞

これまでの学習を振り返り、個人へのソーシャルワーク実践に必要な知識と技術を想起する。

２． 集団に対するソーシャルワーク実践について

＜ポイント＞

これまでの学習を振り返り、集団へのソーシャルワーク実践に必要な知識と技術を想起する。

３．地域に対するソーシャルワーク実践について

＜ポイント＞

これまでの学習を振り返り、地域へのソーシャルワーク実践に必要な知識と技術を想起する。

４． 虐待が疑われるケースへの支援について

＜ポイント＞

対象者、また関係する人々、機関、法制度について整理し、そのあるべき対応をまとめる。

５． 災害被災者への支援について

＜ポイント＞

対象者、また関係する人々、機関、法制度について整理し、そのあるべき対応をまとめる。

６． 複合的なニーズを有する人々への支援について

＜ポイント＞

対象者、また関係する人々、機関、法制度について整理し、そのあるべき対応をまとめる。

教科書

「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編 『はじめてのソーシャルワーク演習』 ミネルヴァ書房。

参考文献

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座11ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規。

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法（共通）』中央法規。

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座12ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』中央法規。

※ソーシャルワーク演習Ⅰ及びⅡを履修してから学修することが望まれます。

科目コード	ソーシャルワーク演習Ⅳ（１単位）	登録年次	履修方法
3250		２年	S
教員名	青木正、上田征三、大矢日信小笠原眞紀、奥野治子、荻野基行、、小倉弘幸、茅野由紀、黒木豊域、田中利光、田中利則、田中良幸、高橋登志子、中澤由美子、西村明子、宮淑恵、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

個別・集団の両援助技術と関連援助技術について、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。

学修内容

1	ケースマネジメントに関する理解（1）（参考文献 pp.22-32） ケースマネジメントの目的と過程について理解する。
2	ケースマネジメントに関する理解（2）（参考文献 pp.33-52） ケースマネジメントにおけるアセスメントの特徴、またケースマネジメントとソーシャルワークの関係性について理解する。
3	コーディネーションとネットワーキング（1）（参考文献 pp.76-85） コーディネーションの目的・意義、・方法・技術について理解する。
4	コーディネーションとネットワーキング（2）（参考文献 pp.86-92） ネットワーキングの目的・意義・方法・技術について理解する。
5	コーディネーションとネットワーキング（3）（参考文献 pp.93-98） 地域福祉を推進するためのネットワークのシステム化について理解を深める。
6	社会資源の活用・調整・開発（1）（参考文献 pp.100 -104） 社会資源とは何か、その活用の意義と目的について理解する。
7	社会資源の活用・調整・開発（2）（参考文献 pp.105-120） ソーシャルワーク実践における社会資源の活用・開発、システム化について理解を深める。
8	ケースカンファレンス（1）（参考文献 pp.206-216） ケースカンファレンスの意義と目的、運営、また展開過程について理解する。
9	ケースカンファレンス（2）（参考文献 pp.207-229） ケースカンファレンスを活用した専門技術の普遍化についてその方法を学ぶ。
10	地域福祉計画の策定に関する相談援助実践（教科書 pp.110 -113） 事例を用いて地域の課題解決と計画策定に関する知識と技術を学ぶ。
11	地域におけるサービス提供に関する相談援助実践（教科書 pp.114-119） チームアプローチとコーディネーションの方法について学ぶ。
12	地域におけるネットワーキングに関する相談援助実践（教科書 pp.120-125） ネットワーキングの手法とその中でのソーシャルワーカーの果たすべき役割、プログラム評価について学ぶ。
13	地域における権利擁護活動に関する相談援助実践（教科書 pp.126 -129） 権利擁護の実践に関する制度と技術の活用について学ぶ。
14	社会資源の把握、活用、調整、開発に関する相談援助実践（教科書 pp.130 -133） 社会資源の活用とシステム化、改善・開発に関する技術について理解を深める。
15	住民参加と組織化活動に関する相談援助実践（教科書 pp.134-140） 住民参加の意義、目標、形態と方法について理解する。

教科書

一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（監修）『社会福祉士　相談援助演習』中央法規。

参考文献

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座８　相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版。

科目コード	ソーシャルワーク演習Ⅳ（２単位）	登録年次	履修方法
3251		３年	ＳＲ
教員名	青木正、上田征三、大矢日信小笠原眞紀、奥野治子、荻野基行、、小倉弘幸、茅野由紀、黒木豊域、田中利光、田中利則、田中良幸、高橋登志子、中澤由美子、西村明子、宮淑恵、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと１年次から４年次まで断続的に学習するよう構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。

ソーシャルワーク演習Ⅳでは、実践モデルやアプローチに関して事例をもとにその内容を検討するとともに、今までに学習した内容を総合的に学習し理解を深めます。具体的には、ソーシャルワークに関する理論やアプローチを事例などを通して修得します。また地域の特性や課題を適切に把握し、課題を解決するための理論と技術について、やはり事例を用いて実践的に理解を深めます。

ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待される。

1）ソーシャルワークに関する理論やアプローチの特徴やポイントについて、明瞭な説明をすることができる。

2）事例等を通して、理論やアプローチの実際をイメージすることができる。

3）グループ活動や他者との意見交換などを通して自己の思考を整理し、発表することができる。

4）地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。

学修内容

1	オリエンテーション ＜ポイント＞ソーシャルワーク演習Ⅳのねらいと単元の解説、授業の進め方について。ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅲでの学びを振り返り、学習内容を確認する。
2	医学モデル・生活モデル・ストレングスモデル（1） ＜ポイント＞3つのモデルついて事例を通じモデルの実践について理解を深める。
3	医学モデル・生活モデル・ストレングスモデル（2） ＜ポイント＞3つのモデルについて事例を通じてモデルの実践について理解を深める。 ※2～3の内容を振り返り、学んだ内容をまとめる。
4	問題解決アプローチ（1） ＜ポイント＞問題解決アプローチの概念について理解を深める。
5	問題解決アプローチ（2） ＜ポイント＞ビネットを通して問題解決アプローチのプロセスとその利点と課題を学ぶ。
6	行動変容アプローチ（1） ＜ポイント＞行動変容アプローチの概念について理解を深める。
7	行動変容アプローチ（2） ＜ポイント＞ビネットを通して行動変容アプローチの考えたかと相談援助のプロセスについて学ぶ。 ※4～7の内容を振り返り、学んだ内容をまとめる。
8	ナラティブアプローチ（1） ＜ポイント＞ナラティブアプローチの概念について理解を深める。
9	ナラティブアプローチ（2） ＜ポイント＞ビネットを通してナラティブアプローチのドミナントストーリーの弊害とオルタナティブストーリー可能性について理解を深める。
10	地域福祉の基盤整備と開発 ＜ポイント＞地域住民に対するアウトリーチとニーズの把握について理解する。
11	地域福祉の基盤整備と開発 ＜ポイント＞地域アセスメント 地域ｱｾｽﾒﾝﾄの方法について調べ、事例を通じて理解した地域ｱｾｽﾒﾝﾄの方法と留意点について学習内容をまとめる。
12	地域福祉の基盤整備と開発 ＜ポイント＞地域福祉の計画 地域福祉の計画について、自分自身が関わる自治体の地域福祉計画を検索し、地域福祉計画を含めた地域のニーズに対する計画の立案について学習内容をまとめる。

13	地域福祉の基盤整備と開発 ＜ポイント＞地域の組織化 地域の組織化について、自分自身が関わる地域の社会資源を調べ、事例を通じて理解した地域の組織化に関する意義と留意点についてまとめる。
14	地域福祉の基盤整備と開発 ＜ポイント＞社会資源の活用・調整・開発 フォーマル、インフォーマルな社会資源のメリットとデメリットについて調べ、事例を通じて理解した社会資源の活用・調整・開発の必要性と活用・調整・開発の際の留意点についてまとめる。
15	地域福祉の基盤整備と開発 ＜ポイント＞サービス評価 ソーシャルワーク実践における評価方法について、考えられるものをあげ、その内容を確認し、事例を通じて理解した地域社会への介入に対するサービス評価方法についてまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】

地域における課題の解消と軽減に向け、必要なアプローチの方法について述べよ。

＜ポイント＞

地域へのアウトリーチとアセスメント、また把握された課題に対する計画とその計画の実践のための社会資源の活用等についてまとめる。

科目終了試験学修のポイント

１． 生活モデルについて

＜ポイント＞

生活モデルの意義と必要性、その主要概念についてまとめる。

２． 問題解決アプローチについて

＜ポイント＞

問題解決アプローチの理論的基盤、主要概念、展開過程についてまとめる。

３．行動変容アプローチについて

＜ポイント＞

行動変容アプローチの理論的基盤、主要概念、展開過程についてまとめる。

４． ナラティブアプローチについて

＜ポイント＞

ナラティブアプローチの理論的基盤、主要概念、展開過程についてまとめる。

５． 地域福祉課題の把握と計画の作成について

＜ポイント＞

地域住民へのアウトリーチとアセスメント、プランニングの方法についてまとめる。

６． 地域福祉課題の解決に向けた取り組みについて

＜ポイント＞

地域の組織化と適切な社会資源の活用、調整、開発、また取り組みの評価についてまとめる。

教科書

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規。

参考文献

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座11ソーシャルワークの基盤と専門職（共通+社会専門）』中央法規。

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法（共通）』中央法規。

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』中央法規。

※ソーシャルワーク演習Ⅰ及びⅡを履修してから学修することが望まれます。

科目コード	ソーシャルワーク演習Ⅴ（２単位）	登録年次	履修方法
3260		２年	ＳＲ
教員名	青木正、上田征三、大矢日信、小笠原眞紀、荻野基行、小倉弘幸、茅野由紀、黒木豊域、田中利光、田中利則、田中良幸、高橋登志子、中澤由美子、中山勇気、西村明子、宮淑恵、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会福祉に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を養う。

集団を活用した相談援助の意義、目的、方法、留意点について学修する。特に高齢者、精神障害者、アルコール・薬物依存患者等に対する集団援助技術や自助グループについて、事例を通して学び、各分野の個別領域への理解を深める。

学修内容	
1	人間・集団とグループワーク 人にとっての集団（グループ）について理解する。
2	福祉グループワーク グループワークの定義をもとにその内容を理解する。
3	グループワークの歴史 グループワークの起源と発展を学ぶ。
4	グループワークの理論モデルと動向 グループワークに用いられる理論とその変遷について理解する。
5	グループワークの原則と援助関係 グループワークのおけるソーシャルワーカーの役割・機能等について理解を深める。
6	グループワークの援助過程（1） 準備期と開始期についてその内容とソーシャルワーカーの役割について理解する。
7	グループワークの援助過程（2） 作業期と終結期についてその内容とソーシャルワーカーの役割について理解する。
8	グループワークのプログラム活動と社会資源 プログラム活動の目的・機能、用いる社会資源について理解する。
9	グループワークの記録と評価 記録媒体とその方法、また評価の目的と方法について理解する。
10	グループワークの関連援助技術 グループワークの特質をもとに、関連分野での位置づけと機能を学ぶ。
11	老人デイサービスセンターにおけるグループワーク実践 事例を用いてグループワークの実際を知る。
12	児童自立支援施設におけるグループワーク実践 事例を用いてグループワークの実際を知る。
13	知的障害者施設におけるグループワーク実践 事例を用いてグループワークの実際を知る。
14	精神保健活動におけるグループワーク実践 事例を用いてグループワークの実際を知る。
15	ボランティア活動におけるグループワーク実践 事例を用いてグループワークの実際を知る。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】 集団援助技術（グループワーク）について述べよ。

＜ポイント＞

展開過程の各段階における援助を「個人」と「集団」の両方を対象に検討し、まとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．高齢者領域における集団援助技術（グループワーク）の留意点について

＜ポイント＞

対象者、サービスの特質を考慮しグループを展開していく上で、プログラム等留意すべき事柄について学ぶ。

2．精神障害者領域における集団援助技術（グループワーク）の留意点について

＜ポイント＞

グループの目的や他職種との連携に基づくグループワークを実践することの意義について学ぶ。

3．グループワーク、サポートグループ、自助グループについて

＜ポイント＞

それぞれのグループの種類について、内容とそれらが有する機能（目的）について学ぶ。

4．グループワーク概論（援助技術における位置づけ、定義、機能等）について

＜ポイント＞

グループダイナミクスにもとづくグループの効果と機能について学ぶ。

5．グループワークの展開過程について

＜ポイント＞

各過程の内容及び意義について学ぶ。

6．グループワークにおけるワーカーの役割について

＜ポイント＞

グループワークの展開過程にもとづき、各段階で果たすべきソーシャルワーカーの役割について学ぶ。

教科書

一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（監修）『社会福祉士　相談援助演習』中央法規。

保田井進、他『福祉グループワークの理論と実際』ミネルヴァ書房。

参考文献

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座８　相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版。

科目コード	ソーシャルワーク演習Ⅴ（２単位）	登録年次	履修方法
3261		４年	ＳＲ
教員名	青木正、上田征三、大矢日信、小倉弘幸、小笠原眞紀、荻野基行、茅野由紀、黒木豊域、先野祐史、田中利光、田中利則、田中良幸、高橋登志子、中澤由美子、西村明子、宮淑恵、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと、１年次から４年次まで断続的に学習するように構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多彩な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。

ソーシャルワーク演習Ⅴでは、ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験、つまりソーシャルワーク実習での体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅴが終了した段階で、次の学習目標を達成することが期待される。

1）実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。

2）実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。

学修内容

1	オリエンテーション ＜ポイント＞ソーシャルワーク演習Ⅴのねらいと単元の解説、授業の進め方について。ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳでの学びを振り返り、学習内容を確認する。
2	スーパービジョンの方法 ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習における個人スーパービジョン、グループスーバービジョンを振り返り、その方法についてグループにて検討を行う。ソーシャルワーク実習におけるスーパービジョンの経験を振り返りその内容をまとめる。
3	ケースカンファレンスの方法 ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習におけるケースカンファレンスやケース検討の実践を振り返り、その方法についてグループにて検討を行う。ソーシャルワーク実習におけるケースカンファレンス及びケース報告について振り返りその内容をまとめる。
4	事例研究（1） ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習において経験した、ケース及びコミュニティに対する支援についてインシデントをまとめる。ソーシャルワーク実習における実習内容を振り返り、インシデントをまとめる。
5	事例研究（2） ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習において経験したケース及びコミュニティに対する支援についてプレゼンテーション用の資料を作成する。
6	事例研究（3） ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習において経験したケース及びコミュニティに対する支援についてプレゼンテーション用の資料を作成する。
7	事例検討（1） ＜ポイント＞プレゼンテーションの実践と個人スーパービジョン、グループスーパービジョン、ピアスーパービジョンを実施する。スーパービジョンを踏まえ、事例から学んだ事項をまとめる。
8	ソーシャルワーク実践と専門知識・技術（1） ＜ポイント＞事例検討（1）にて報告された事例について、用いられていた専門知識及び技術について振り返り、その一般化を図る。確認された専門的知識・技術について、自らのソーシャルワーク実習経験に照らし合わせ考察を行う。
9	事例検討（2） ＜ポイント＞プレゼンテーションの実践と個人スーパービジョン、グループスーパービジョン、ピアスーパービジョンを実施する。スーパービジョンを踏まえ、事例から学んだ事項をまとめる。
10	ソーシャルワーク実践と専門知識・技術（1） ＜ポイント＞事例検討（2）にて報告された事例について、用いられていた専門知識及び技術について振り返り、その一般化を図る。確認された専門的知識・技術について、自らのソーシャルワーク実習経験に照らし合わせ考察を行う。
11	事例検討（3） ＜ポイント＞プレゼンテーションの実践と個人スーパービジョン、グループスーパービジョン、ピアスーパービジョンを実施する。スーパービジョンを踏まえ、事例から学んだ事項をまとめる。
12	ソーシャルワーク実践と専門知識・技術（1） ＜ポイント＞事例検討（3）にて報告された事例について、用いられていた専門知識及び技術について振り返り、その一般化を図る。確認された専門的知識・技術について、自らのソーシャルワーク実習経験に照らし合わせ考察を行う。
13	事例検討（4） ＜ポイント＞プレゼンテーションの実践と個人スーパービジョン、グループスーパービジョン、ピアスーパービジョンを実施する。スーパービジョンを踏まえ、事例から学んだ事項をまとめる。

14	ソーシャルワーク実践と専門知識・技術（1） ＜ポイント＞事例検討（4）にて報告された事例について、用いられていた専門知識及び技術について振り返り、その一般化を図る。確認された専門的知識・技術について、自らのソーシャルワーク実習経験に照らし合わせ考察を行う。
15	まとめ ＜ポイント＞1～14の学習内容を振り返り、ソーシャルワーク実践の重要ポイントをまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題】

ソーシャルワーク実習を通じて、獲得したソーシャルワークの倫理と価値、技術、知識について述べよ。

＜ポイント＞

ソーシャルワーク実習での学習を事例としてまとめ、スーパービジョンを受けることで一般化された事項についてまとめる。

科目終了試験学修のポイント

１． スーパービジョンについて

＜ポイント＞

スーパービジョンの機能とスーパーバイザーの役割、スーパーバイジーの役割等について知識を整理する。

２． ケースカンファレンスについて

＜ポイント＞

ケースカンファレンスの意義と具体的な展開方法、ケースカンファレンスに参加する者の相互の役割についてまとめる。

３．事例研究に関する理解

＜ポイント＞

事例のまとめ方、事例を共有するための資料の作成とそれらの留意点についてまとめる。

４． 事例検討に関する理解

＜ポイント＞

事例検討におけるプレゼンテーションの方法と留意点についてまとめる。

５． 実践から獲得したソーシャルワークの倫理と価値、技術、知識について

＜ポイント＞

事例研究、事例検討を通じて受けたスーパービジョンを振り返り、それらから援用可能な項目を抽出する。

６． ソーシャルワーク実践活動に向けた自己課題

＜ポイント＞

ソーシャルワーク実習、及び事例研究、事例検討を通じて自覚したソーシャルワーク実践に向けた自己課題を言語化する。

教科書

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集

『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規。

参考文献

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座11ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規。

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規。

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』中央法規。

※ソーシャルワーク実習終了後に履修してください。

科目コード	ソーシャルワーク演習Ⅵ（１単位）	登録年次	履修方法
3270		３年	S
教員名	青木正、上田征三、大矢日信、小倉弘幸、小笠原眞紀、荻野基行、茅野由紀、黒木豊域、先野祐史、田中利光、田中利則、田中良幸、高橋登志子、中澤由美子、西村明子、宮淑恵、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

実習体験を通じた事例検討及びケース報告書の作成・発表等を通して実習の成果を振り返る。

学修内容

1	治療モデルの理解と実践 治療モデルを理解し、事例を通じて実践に必要な知識と技術を学ぶ。
2	環境モデルの理解と実践 環境モデルを理解し、事例を通じて実践に必要な知識と技術を学ぶ。
3	生活モデルの理解と実践 生活モデルを理解し、事例を通じて実践に必要な知識と技術を学ぶ。
4	ストレングスモデルを用いた相談援助実践 ストレングスモデルの主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。
5	心理社会的アプローチを用いた相談援助実践 心理社会的アプローチの主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。
6	機能的アプローチを用いた相談援助実践 機能的アプローチの主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。
7	問題解決アプローチを用いた相談援助実践 問題解決アプローチの主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。
8	危機介入アプローチを用いた相談援助実践 危機介入アプローチの主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。
9	行動変容アプローチを用いた相談援助実践 行動変容アプローチの主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。
10	エンパワメントアプローチを用いた相談援助実践 エンパワメントアプローチの主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。
11	家族システム論を用いた相談援助実践 家族システム論の主要概念を理解し、事例を通じて実践を学ぶ。
12	ケースマネジメントに関する相談援助実践 ケースマネジメントの主要概念を理解し、事例を通じて理解を深める。
13	事例研究・事例分析に関する理解（1） 事例研究の目的と意義について理解を深める。
14	事例研究・事例分析に関する理解（2） 事例研究の方法と留意点について理解する。
15	事例研究・事例分析に関する理解（3） 実習事例を用いて、事例研究・事例分析を実践的に行い、相談援助技術の一般化を図る。

教科書

一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（監修）『社会福祉士　相談援助演習』中央法規。

参考文献

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座８　相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版。

科目コード	ソーシャルワーク実習（6単位）	登録年次	履修方法
3311		3年	P
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

厚生労働省により定められている指定施設・機関を実習先とし、施設・機関の役割及びサービス利用者やその関係者について学び、利用者やその家族のニーズに応じた相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術を体得します。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得するとともに、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

ソーシャルワーク実習が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。

1. ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。
2. 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。
3. 生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。
4. 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。
5. 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

学修内容

1. 基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成について学ぶ
   ①利用者やその関係者（家族・親族友人等）、施設・事業・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成
   ②利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成

2. 社会福祉施設・機関の経営やサービスの管理運営について学ぶ
   ①施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）について学ぶ。
   ②実習施設・機関の組織構造及び意思決定過程を学ぶ。
   ③当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけについて学ぶ。

3. 社会福祉施設・機関の利用者、また生活ニーズについて学ぶ
   ①実習施設・機関の利用者理解の方法を学ぶ。
   ②実習施設・機関の利用者の動向や利用状況を学ぶ。
   ③実習施設・機関の利用者の生活を理解する。
   ④実習施設・機関の利用者との接し方や信頼関係の築き方について学ぶ。

4. 社会福祉施設・機関の職員の役割、また他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを学ぶ
   ①実習施設・機関における各専門職の役割・業務について学ぶ。
   ②実習施設・機関における社会福祉士の役割・業務について学ぶ。
   ③実習施設・機関の他職種連携及びチームアプローチの実践的理解について学ぶ。
   ④実習施設・機関の会議の運営方法を学ぶ。
   ⑤実習施設・機関に関連する施設・機関の業務や連携状況を学ぶ。

5. クライエントへの援助実践を通じて、相談援助技術を高める
   ①利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成を学ぶ。
   ②担当ケースの情報収集を行いその方法を学ぶ。
   ③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価について学ぶ。
   ④利用者やその関係者（家族・親族、親友等）への権利擁護活動とその評価を学ぶ。
   ⑤利用者へのソーシャルワーク実践理論、アプローチの適応方法を学ぶ。
   ⑥アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、またソーシャルアクションについて実践的理解を深める。

6. 社会福祉施設・機関と地域社会との関係性について理解し、地域社会への具体的な働きかけについて学ぶ
①実習施設・機関のある地域の歴史や人口構造等を学ぶ。
②実習施設・機関のある地域の社会資源を学ぶ。
③地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解について学ぶ。
④社会福祉計画と実習施設・機関との関連性について理解を深める。また計画の策定・実施・評価方法について学ぶ。

7. 社会福祉士としての職業倫理、職員の就業に関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任について学ぶ
①社会福祉士としての職業倫理について学ぶ。
②組織の一員としての役割と責任の理解について学ぶ。
③社会福祉専門職としての自己について理解を深める。

教科書

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集
『最新社会福祉士養成講座8ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（社会専門）』中央法規。
・東京福祉大学『福祉・保育実習の手引き』

参考文献

川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規

科目コード	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
3280		２年	ＳＲ
教員名	青木正、上田征三、大矢日信、荻野基行、茅野由紀、北爪克洋、黒木豊域、佐々木貴雄、田代幹康、高橋登志子、大門俊樹、中澤由美子、西村明子、水島正浩、宮淑恵、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

この科目では、社会福祉実習現場の現状と課題、相談援助実習と実習指導の意義、実習先で必要とされる相談援助に係る知識、技術、実習先で行われる介護や保育等の関連業務や、実習の記録内容及び記録方法、巡回指導の必要性等、実習全般に関する基本的な事項を学修し、学生一人ひとりの実習に臨む動機や学修目標を明確化する。個人情報保護法の施行を踏まえ、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の重要性を理解する。

学修内容

1	実習申込までの流れを理解する。（『福祉・保育実習の手引き』） 実習基礎資格科目、実習申込期間、申込手続きについて
2	専門職養成と実習の関係を明確化する。 専門職養成において実習を実施することの意味・意義について理解を深める。
3	相談援助実習の位置づけと内容 相談援助実習を規定する法律の理解と相談援助実習に求められる実習内容について理解を深める。
4	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士 社会福祉士とソーシャルワーカーとの関係性について理解を深める。
5	実習の場と形態 ソーシャルワーク実習が実施可能な機関・施設の理解とそこでのソーシャルワーク業務について理解を深める。
6	契約関係のなかにある実習 実習契約関係と実習におけるリスクマネジメントについて学ぶ。
7	実習スーパービジョンの理解 「スーパービジョン」の意味と機能について理解を深める。
8	実習評価の理解 実習における「評価」とは何か、その意味を理解する。
9	事前学習として実習先を理解する意義 事前学習の重要性について理解を深める。
10	実習先機関・施設、地域の理解 実習先機関・施設の概要とその実習内容を理解する。
11	実習先機関・施設、地域の利用者理解と援助方法 実習先機関・施設における利用者と実習先機関・施設のある地域における利用者の理解を深める。
12	実習先機関・施設、地域の利用者理解と援助方法 施設における援助方法と地域における援助方法について理解する。
13	実習先機関・施設の基本的な理解 希望種別に関する調査を行い、選定した機関・施設の理解を深める。
14	社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化
15	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

これまでの学修や経験を踏まえ、資格取得動機を論じるとともに、施設(種別)について具体的に施設の例を挙げまとめ、その施設(種別)における社会福祉実践に実習生として参加する自分が何を感じとり、学ぶのか(実習の動機)を述べよ。

＜ポイント＞

以下の3点を必ず含めること。

①（資格取得の動機）これまでの学修や経験を踏まえて、資格取得を希望したのはなぜか、その専門性を今後どのように役立てたいかについて述べること。

②（施設のまとめ）施設（種別）における支援の対象者（利用者）に対し、主な支援内容、背景、根拠となる法律を調査し、施設名を例に挙げて具体的にまとめ、論述すること。

③（実習志望の動機）①、②の内容を踏まえ、実習生として現場の福祉実践に参加するとき、自分がそこで何を感じとり、学ぶのか、具体的に述べること。

【提出における注意事項】提出期間は実習申込前までとする。ただし、実習申込みは科目履修済み（合格）であることが必要。

科目終了試験学修のポイント

1．実習契約の意義とリスクマネジメントについて

＜ポイント＞

実習契約の内容とあるべきリスクマネジメントについてまとめる。

2． 相談援助実習の位置づけと内容について

＜ポイント＞

相談援助実習は、法令上定められた教育内容があることを理解する。

3．実習の場と形態について

＜ポイント＞

ソーシャルワーク実践の枠組みについて整理する。

4．スーパービジョンの意義について

＜ポイント＞

スーパービジョンの機能を理解し、スーパーバイジーとして果たす役割についてまとめる。

5．ソーシャルワーカーとしての社会福祉士について

＜ポイント＞

ソーシャルワークの枠組みについて理解し、まとめる。

6．事前学習として実習先を理解する意義について

＜ポイント＞

実習先機関・施設には多様性があることを理解する。

教科書

一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（監修）『社会福祉士　相談援助実習』中央法規。

参考文献

加藤幸雄、他『相談援助実習　ソーシャルワークを学ぶ人のための実習テキスト』中央法規。

『福祉・保育実習の手引き』。

科目コード	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
3281		2年	ＳＲ
教員名	青木正、上田征三、大矢日信、荻野基行、茅野由紀、北爪克洋、黒木豊域、佐々木貴雄、田代幹康、高橋登志子、大門俊樹、中澤由美子、西村明子、水島正浩、宮淑恵、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。

ソーシャルワーク実習指導Ⅰでは、専門職養成における実習の意義、法的な位置づけ、どのように実習が展開されるのかという基本的学習を中心として、次年度に行う実習に必要な知識を学習する。

ソーシャルワーク実習指導Ⅰが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。

1）ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習の意義について理解する。
2）実習施設・機関の概要について明瞭な説明ができる。
3）資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。
4）個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。

学修内容

1	オリエンテーション ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習指導Ⅰのねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明
2	ソーシャルワーク実習の全体像 ＜ポイント＞実習前中後の流れ（全体像）と指導体制についての理解
3	相談援助実習の位置付けについて理解する ＜ポイント＞実習及び実習指導の意義（スーパービジョン含む）について理解を深める。
4	「相談援助実習ガイドライン」及び東京福祉大学における実習の理解 ＜ポイント＞相談援助実習において求められる実習内容と本学の実習目標を相互に理解し、実習目標への理解を深める
5	ソーシャルワーク実習が可能な施設・機関の紹介と説明 ＜ポイント＞法定施設・機関の紹介と希望種別の選択
6	事前学習として実習先を理解する意義 ＜ポイント＞希望種別に関する事前学習レポートをまとめる。社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化
7	実習施設・機関の基本的理解 ＜ポイント＞個人レポートの発表と共有
8	実習施設・機関の基本的理解 ＜ポイント＞個人レポートの発表と共有
9	実習施設・機関の基本的理解 ＜ポイント＞個人レポートの発表と共有
10	実習先の理解 ＜ポイント＞配属先実習施設・機関に関する情報収集。誓約書・個人調書等書類の作成（実習への抱負の明文化）。
11	実習施設の基本的理解 ＜ポイント＞配属先実習施設・機関の利用者理解と援助方法
12	見学実習（事前訪問）に向けた準備 ＜ポイント＞見学実習（事前訪問）の目的と意義の確認
13	実習計画の作成 ＜ポイント＞実習計画の意義と作成についての理解を深める。
14	「契約としての実習」についての理解 ＜ポイント＞実習における契約の意義について理解を深める。
15	見学実習（事前訪問）の最終確認と学習のまとめ ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習指導Ⅱに向けた課題の明確化

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

これまでの学修や経験を踏まえ、資格取得動機を論じるとともに、施設(種別)について具体的に施設の例を挙げまとめ、その施設(種別)における社会福祉実践に実習生として参加する自分が何を感じとり、学ぶのか(実習の動機)を述べよ。

＜ポイント＞

以下の３点を必ず含めること。

①（資格取得の動機）これまでの学修や経験を踏まえて、資格取得を希望したのはなぜか、その専門性を今後どのように役立てたいかについて述べること。

②（施設のまとめ）施設（種別）における支援の対象者（利用者）に対し、主な支援内容、背景、根拠となる法律を調査し、施設名を例に挙げて具体的にまとめ、論述すること。

③（実習志望の動機）①、②の内容を踏まえ、実習生として現場の福祉実践に参加するとき、自分がそこで何を感じとり、学ぶのか、具体的に述べること。

【提出における注意事項】提出期間は実習申込前までとする。ただし、実習申込みは科目履修済み（合格）であることが必要。

科目終了試験学修のポイント

１．実習契約の意義とリスクマネジメントについて

＜ポイント＞

実習契約の内容とあるべきリスクマネジメントについてまとめる。

２．　ソーシャルワーク実習の位置づけと内容について

＜ポイント＞

ソーシャルワーク実習は、法令上定められた教育内容があることを理解する。

３．実習の場と形態について

＜ポイント＞

ソーシャルワーク実践の枠組みについて整理する。

４．スーパービジョンの意義について

＜ポイント＞

スーパービジョンの機能を理解し、スーパーバイジーとして果たす役割についてまとめる。

５．ソーシャルワーカーとしての社会福祉士について

＜ポイント＞

ソーシャルワークの枠組みについて理解し、まとめる。

６．事前学習として実習先を理解する意義について

＜ポイント＞

実習先機関・施設には多様性があることを理解する。

教科書

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集

『最新社会福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（社会専門）』中央法規。

・東京福祉大学『福祉・保育実習の手引き』

参考文献

川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規

科目コード	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
3290		３年	ＳＲ
教員名	青木正、上田征三、大矢日信、荻野基行、茅野由紀、北爪克洋、黒木豊域、佐々木貴雄、田代幹康、高橋登志子、大門俊樹、中澤由美子、西村明子、水島正浩、宮淑恵、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

この科目では、実習の事前学習として、実際に実習を行う予定の実習分野（利用者理解を含む）と、施設、事業者、機関、団体、地域社会に関する基本的な理解を身につける。スクーリングでは、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得することを目標とする。実習先と指導教員との指導のもとで実習計画を作成する。

学修内容

1	相談援助実習の仕組み 相談援助実習の在り方（3段階実習プログラム）を理解する。
2	配属先決定後から実習開始までの流れを理解する。（『福祉・保育実習の手引き』）
3	配属先実習機関・施設の理解 配属先実習機関・施設の概要、支援内容について情報収集する。
4	施設概要の作成（『福祉・保育実習の手引き』、『福祉実習の学習ガイド』）
5	実習計画の作成 実習計画の意義についての理解を深める。
6	実習計画書を作成する（『福祉・保育実習の手引き』、『福祉実習の学習ガイド』）
7	事前訪問における確認 事前訪問の目的と意義について理解する。
8	事前訪問における準備（『福祉・保育実習の手引き』） 基本的な態度と訪問時の注意事項について理解する。
9	相談援助技術の理解と実習における実践 基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係形成、利用者理解、利用者の需要把握、支援計画の作成について理解する。
10	相談援助技術の理解と実習における実践 利用者や家族との人間関係の形成、権利擁護、支援と評価について理解する。
11	相談援助技術の理解と実習における実践 チームアプローチの実際、社会福祉士としての職業倫理、施設・職員などに関する規定と責任について理解する。
12	相談援助技術の理解と実習における実践 実習先機関・施設の経営やサービスの管理運営、地域社会の一員としての実習先機関・施設、実習で何をどこまで経験するのかについて理解する。
13	実習評価の理解 実習評価の意義について理解を深める。
14	実習記録の理解（『福祉実習の学習ガイド』、『福祉・保育実習の手引き』） 実習記録の意義、書き方、取り扱い等について
15	実習スーパービジョン、訪問指導の理解 実習スーパービジョン関係を理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 自分が実習を予定（希望）している施設（種別）では、どのような援助が提供されているか具体的に述べよ。

＜ポイント＞

・以下の内容を反映させ、具体的に論述する。

① 根拠法を参考にまとめる。

② 利用者に提供される支援について、具体的にまとめる。

③ 制度や運用の現状と課題について、具体的にまとめる。

・「施設の一員として課題提起するソーシャルワーカー」の立場に留意し、一方的な批判や根拠のない私論ではなく、建設的に論じる。

・文献や新聞記事など、適切な方法を選んで情報を収集し、調査資料をA4サイズ両面2枚程度にまとめて添付する。

【提出における注意事項】

・提出期間は実習申込み手続きを実施した後から、予定する実習期間に定められる実習基礎資格科目の履修期限までとする。ただし、実習開始は科目履修済み（合格）であることが必要。

・提出のあて先は本学通信教育課となる。

科目終了試験学修のポイント

1．相談援助実習の仕組み

＜ポイント＞

相談援助実習、実習教育の全体像と関連する科目との関係性について整理する。

2．実習計画の意義について

＜ポイント＞

実習計画書に盛り込まれる事項も含め、まとめる。

3．支援計画の作成について

＜ポイント＞

評価までの一連の過程とそれぞれの段階を理解する。また、どのような技法を活用するか整理する。

4．ソーシャルワーカーとしての社会福祉士について

＜ポイント＞

社会福祉士としての価値、職業倫理を理解し、それらが示されている目的について考察する。

5．実習記録ノートの内容について

＜ポイント＞

相談援助における記録の意味を理解し、実習記録の内容、記述の留意点をまとめる。

6．評価の意味について

＜ポイント＞

評価の意義、手順、活用方法について、まとめる。

教科書

一般社団法人日本社会福祉士養成校協会『社会福祉士　相談援助実習』中央法規。

参考文献

加藤幸雄、他『相談援助実習　ソーシャルワークを学ぶ人のための実習テキスト』中央法規。

『福祉・保育実習の手引き』。

『福祉実習の学習ガイド』。

科目コード	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（2単位）	登録年次	履修方法
3291		3年	SR
教員名	青木正、上田征三、大矢日信、荻野基行、茅野由紀、北爪克洋、黒木豊域、佐々木貴雄、田代幹康、高橋登志子、大門俊樹、中澤由美子、西村明子、水島正浩、宮淑恵、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。

ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、実習実施、また実践に必要なソーシャルワーク及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習の実施に向けて課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。

ソーシャルワーク実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。

1）実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。
2）ソーシャルワーク技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。
3）記録について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。
4）実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。
5）実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。

学修内容

1	オリエンテーション ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習指導Ⅱのねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明
2	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解（1） ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。
3	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解（2） ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習で必要とされるソーシャルワークの知識について理解する。
4	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解（3） ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習で必要とされる技術について理解する。
5	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解（1） ＜ポイント＞実習記録の意義、記入方法、取扱い等に関する説明
6	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解（2） ＜ポイント＞実習記録の意義、記入方法、取扱い等に関する書き方演習
7	・ソーシャルワーク実習の目的と内容の理解 ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習の全体像と目的、課題について理解する
8	・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（1） ＜ポイント＞実習目標と目標を達成するための展開方法について
9	・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（2） ＜ポイント＞「実習記録」及び「ソーシャルワークケース記録」の記載内容及び記録方法について
10	ソーシャルワーク実習計画の作成（1） ＜ポイント＞実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
11	ソーシャルワーク実習計画の作成（2） ＜ポイント＞実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
12	ソーシャルワーク実習計画の作成（3） ＜ポイント＞実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成と修正
13	実習スーパービジョン・巡回指導の理解 ＜ポイント＞巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する。
14	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解 ＜ポイント＞実習における契約構造の説明と実習生の義務・権利について確認
15	見学実習（事前訪問）の最終確認と学習のまとめ ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習に向けた課題の明確化

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 自分が実習を予定（希望）している施設（種別）では、どのような援助が提供されているか具体的に述べよ。

＜ポイント＞

・以下の内容を反映させ、具体的に論述する。

① 根拠法を参考にまとめる。

② 利用者に提供される支援について、具体的にまとめる。

③ 制度や運用の現状と課題について、具体的にまとめる。

・「施設の一員として課題提起するソーシャルワーカー」の立場に留意し、一方的な批判や根拠のない私論ではなく、建設的に論じる。

・文献や新聞記事など、適切な方法を選んで情報を収集し、調査資料をＡ４サイズ両面２枚程度にまとめて添付する。

【提出における注意事項】

・提出期間は実習申込み手続きを実施した後から、予定する実習期間に定められる実習基礎資格科目の履修期限までとする。ただし、実習開始は科目履修済み（合格）であることが必要。

・提出のあて先は本学通信教育課となる。

科目終了試験学修のポイント

１．ソーシャルワーク実習の仕組み

＜ポイント＞

ソーシャルワーク実習、実習教育の全体像と関連する科目との関係性について整理する。

２．実習計画の意義について

＜ポイント＞

実習計画書に盛り込まれる事項も含め、まとめる。

３．支援計画の作成について

＜ポイント＞

評価までの一連の過程とそれぞれの段階を理解する。また、どのような技法を活用するか整理する。

４．ソーシャルワーカーとしての社会福祉士について

＜ポイント＞

社会福祉士としての価値、職業倫理を理解し、それらが示されている目的について考察する。

５．実習記録ノートの内容について

＜ポイント＞

ソーシャルワークにおける記録の意味を理解し、実習記録の内容、記述の留意点をまとめる。

６．評価の意味について

＜ポイント＞

評価の意義、手順、活用方法について、まとめる。

教科書

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集

『最新社会福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（社会専門）』中央法規。

・東京福祉大学『福祉・保育実習の手引き』

参考文献

川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規

科目コード	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（2 単位）	登録年次	履修方法
3300		3年	ＳＲ
教員名	青木正、上田征三、大矢日信、荻野基行、茅野由紀、北爪克洋、黒木豊域、佐々木貴雄、田代幹康、高橋登志子、大門俊樹、中澤由美子、西村明子、水島正浩、宮淑恵、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

この科目では、学生自身の現場実習の具体的な体験や援助活動を振り返り、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。実践事例の報告と検討、総括を行い、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

学修内容

1	実習終了後からの流れを理解する。（『福祉・保育実習の手引き』）
2	「実習のまとめ」を作成 実習終了後、実習全体を通して学んだ内容を整理する。
3	社会福祉専門職についての理解 実習先機関・施設で行われる各種手続きについてまとめる。
4	社会福祉専門職についての理解 実習先機関・施設における相談援助業務についてまとめる。
5	社会福祉専門職についての理解 実習先機関・施設で行われている行事等の実施過程についてまとめる。
6	職種間連携についての理解 実習先機関・施設における各部門職種とその機能・関係についてまとめる。
7	実習先機関・施設の社会的連携についての理解 実習先機関・施設と社会資源・関係機関との連携についてまとめる。
8	専門職の倫理綱領と実践についての理解 実習先機関・施設での実践と専門職倫理との関係性についてまとめる。
9	ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める 自分の家族背景、交友関係等から、どのような価値観念をもつようになったか、この価値観念が援助にどのように反映するか考察する。
10	実習評価の理解 評価内容について理解し、自己評価を行う。
11	実習後の学習課題 目標と結果の照合、今後の課題について明確化する。
12	実践事例の報告と検討 担当した事例（事業）についての報告と意見交換。
13	実習の全体総括 実習報告会の意義と形態について理解する。
14	「実習報告書」の草稿を事前に作成する。（『福祉・保育実習の手引き』） 「実習施設の概要」、「私の学び（事例）」、「実習のまとめ」を整理する。 個人情報に留意すること。
15	「実習報告書」を作成する。 スクーリング中の指導や実習の振り返りを具体的に反映させて作成すること。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	両面1枚	横書	指定書式（「実習のまとめ」）

【設題1】 実習ノートを完成させ、「ソーシャルワーク実習全体を通して学んだこと（実習のまとめ）」を使用して実習を振り返り、まとめよ。

＜ポイント＞

実習前に作成した実習計画書を見直し、実習目標等の達成状況を整理する。

＜注意事項＞

・本科目のレポートは、実習ノートとともに、実習終了後 1 週間を目安に実習施設に提出すること。実習施設から本学への返却後、教員が評価を行う。

・通常のレポート提出期間には受付けられない。また、提出されない場合、実習の単位認定は行われない。

・提出にあたっては、「福祉・保育実習の手引き」を参照すること。

・OCR 用紙は不要。

科目終了試験学修のポイント

1．自分の実習の体験を振り返って、「実習報告書」を作成せよ。

＜ポイント＞

「実習施設の概要」、「私の学び（事例）」、「実習のまとめ」を整理する。

＜注意事項＞

・本科目の科目終了試験はスクーリング受講中に作成・提出される「実習報告書」を評価する。

・草稿の準備はスクーリング前に行い、スクーリング中の指導や実習の振り返りを具体的に反映させて作成すること。

・指定書式（計1枚）を使用すること。

・作成にあたっては、「福祉・保育実習の手引き」を参照すること。

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（監修）『社会福祉士　相談援助実習』中央法規。

参考文献

加藤幸雄、他『相談援助実習　ソーシャルワークを学ぶ人のための実習テキスト』中央法規。

『福祉・保育実習の手引き』。

『福祉実習の学習ガイド』。

科目コード	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（2 単位）	登録年次	履修方法
3301		3年	ＳＲ
教員名	青木正、上田征三、大矢日信、荻野基行、茅野由紀、北爪克洋、黒木豊域、佐々木貴雄、田代幹康、高橋登志子、大門俊樹、中澤由美子、西村明子、水島正浩、宮淑恵、柳澤利之、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。

ソーシャルワーク実習指導Ⅲでは、ソーシャルワーク実習（実践）を通じて得られた専門知識と技術、また課題について、担当教員からのスーパービジョン、またグループ、報告・発表を用いて学生間で検討し知識と技術の一般化を図る。

ソーシャルワーク実習指導Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。

1）実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関の職員の役割、また他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチについて明確に説明できる。
2）実習先での実践を振り返り、クライエントへの援助実践に必要な技術と知識、また自己課題について明確に説明できる。
3）実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関と地域社会との関係性について理解し、地域社会への具体的なアプローチについて明確に説明できる。
4）実習先での実践を振り返り、社会福祉士としての職業倫理、職員の就業に関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任について明確に説明できる。

学修内容

1	オリエンテーション ＜ポイント＞ソーシャルワーク実習指導Ⅲのねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明
2	ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解（実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討） ＜ポイント＞アセスメントについて
3	ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解（実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討） ＜ポイント＞ジェノグラムとエコマップについて・プランニングについて
4	ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解（実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討） ＜ポイント＞インターベンション・結果と評価
5	多職種連携とチームアプローチについての理解（実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討） ＜ポイント＞実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解を深める
6	実習の振り返り ＜ポイント＞実習実施上の問題点等について検討
7	実習の振り返り（帰校指導記録を用いた報告） ＜ポイント＞実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いて検討
8	地域社会への働きかけについての理解 ＜ポイント＞実習施設・機関と関わる社会資源についてまとめたうえで、その関連性と働きかけの方法についてまとめる。
9	クライエントへの援助実践についての理解 ＜ポイント＞クライエントへの支援において適用できる実践アプローチについて考察する。
10	専門職の倫理綱領と実践についての理解 ＜ポイント＞実習施設・機関での実践と専門職倫理との関係性についてまとめる。
11	・実習の評価及び全体総括会 ＜ポイント＞担当した事例（事業）についての報告と意見交換
12	・実習の評価及び全体総括会 ＜ポイント＞担当した事例（事業）についての報告と意見交換
13	実習の評価及び全体総括会 ＜ポイント＞担当した事例（事業）についての報告と意見交換。実習の評価について理解する。 ＜ポイント＞実習評価の意義について理解を深め、自己評価を行う。
14	ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める ＜ポイント＞自分の家族背景、交友関係等から、どのような価値観念をもつようになったか、この価値観念が援助にどのように反映すると考えるかまとめる。

15	自己の実践上の課題明確化 ＜ポイント＞実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	両面1枚	横書	指定書式（「実習のまとめ」）

【設題1】 実習ノートを完成させ、「ソーシャルワーク実習全体を通して学んだこと（実習のまとめ）」を使用して実習を振り返り、まとめよ。

＜ポイント＞

実習前に作成した実習計画書を見直し、実習目標等の達成状況を整理する。

＜注意事項＞

・本科目のレポートは、実習ノートとともに、実習終了後1週間を目安に実習施設に提出すること。実習施設から本学への返却後、教員が評価を行う。
・通常のレポート提出期間には受付けられない。また、提出されない場合、実習の単位認定は行われない。
・提出にあたっては、「福祉・保育実習の手引き」を参照すること。
・レポート受付票（OCR用紙）の添付は不要。

科目終了試験学修のポイント

1．自分の実習の体験を振り返って、「実習報告書」を作成せよ。

＜ポイント＞

「実習施設の概要」、「私の学び（事例）」、「実習のまとめ」を整理する。

＜注意事項＞

・本科目の科目終了試験はスクーリング受講中に作成・提出される「実習報告書」を評価する。
・草稿の準備はスクーリング前に行い、スクーリング中の指導や実習の振り返りを具体的に反映させて作成すること。
・指定書式（計1枚）を使用すること。
・作成にあたっては、『福祉・保育実習の手引き』を参照すること。

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集
『最新社会福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（社会専門）』中央法規。
・東京福祉大学『福祉・保育実習の手引き』

参考文献

川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規

科目コード	ソーシャルワークの基盤と専門職（２単位）	登録年次	履修方法
3370/3371		3370：２年／3371：１年	ＳＲ
教員名	田代幹康		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ（社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法）について理解した上で、ソーシャルワークの概念、基盤となる考え方（原理・理念）を学び、現代に至るまでのソーシャルワークの歴史的な形成過程について学ぶ。

さらに、社会福祉士、精神保健福祉士、ソーシャルワーカーそれぞれの倫理綱領を読み解き、ソーシャルワークの価値規範と倫理について考究を行う。

学修内容

1	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ（1） ：ソーシャワーク専門職への期待と社会福祉士及び介護 福祉士法、精神保健福祉士法について学ぶ。
2	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ（2） ：ソーシャワーク専門職の国家資格について学ぶ。
3	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ（3） ：社会福祉士および精神保健福祉士、ソーシャルワーカーの専門性について学ぶ。
4	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ（4） ：ソーシャルワーカーに求められるコンピテンシーについて学ぶ。
5	ソーシャルワークの概念（1） ：ソーシャルワークの定義について学ぶ。
6	ソーシャルワークの概念（2） ：シーシャルワークの構成要素について学ぶ。
7	ソーシャルワークの基盤となる考え方（1） ：ソーシャルワークの原理について学ぶ。
8	ソーシャルワークの基盤となる考え方（2） ：ソーシャルワークの理念（当事者主権、尊厳の保持、 権利擁護、自立支援）について学ぶ。
9	ソーシャルワークの基盤となる考え方（3） ：ソーシャルワークの理念（エンパワメント、ノーマラ イゼーション、ソーャルインクルージョン、原理・理 念に基づくソーシャルワーク）について学ぶ。
10	ソーシャルワークの形成過程（1） ：ソーシャルワークの源流と基礎確立期、発展期について学ぶ。
11	ソーシャルワークの形成過程（2） ：ソーシャルワークの展開期と統合、日本におけるソーシャルワークの形成過程について学ぶ。
12	ソーシャルワークの倫理（1） ：専門職倫理の概念と倫理綱領について学ぶ。
13	ソーシャルワークの倫理（2） ：倫理綱領とソーシャルワーク実践について学ぶ。
14	ソーシャルワークの倫理（3） ：倫理綱領と倫理的ジレンマについて学ぶ。
15	まとめ ：これまでの学習を振り返りその内容を確認、今後の自己課題を明確にする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 ソーシャルワーカーの倫理綱領・行動規範学び、ソーシャルワーク実践においてなぜ倫理綱領を遵守することが大切なのかを考察せよ。

＜ポイント＞

以下の内容でレポートを作成すること。

①社会福祉士、精神保健福祉士、ソーシャルワーカーのいずれかの倫理綱領、又は行動規範の内容をまとめ説明する。

②ソーシャルワーク実践においてなぜ倫理綱領を遵守することが重要なのかを述べる。

科目終了試験学修のポイント

1． ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について

＜ポイント＞

・ソーシャルワーク専門職のグローバル定義の内容を理解する。

・定義で使われている用語の内容を理解する。

2． ソーシャルワークの理念について

＜ポイント＞

・当事者主権、尊厳の維持、自立支援、エンパワメント、ノーマライゼーションの理念について理解する。

3． ソーシャルワークの源流と基礎確立期の歴史的展開

＜ポイント＞

・ソーシャルワーク前史～ソーシャルワークの基礎確立期の内容・流れについて理解する。

4． ソーシャルワークの発展期について

＜ポイント＞

・世界恐慌の影響、診断主義と機能主義、グループワークの発展、コミュニティオーガニゼーションの発展の内容について理解する。

5 ソーシャルワークの展開期と統合化について

＜ポイント＞

・ソーシャルワークの広がり、実践の統合化からジェネラリスト・ソーシャルワーク、の内容について理解する。

6. 日本におけるソーシャルワークの形成過程について

＜ポイント＞

・日本における社会事業前史、社会事業の基礎確立期、ソーシャルワークの展開について理解する。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集

『最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 11　ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規。

参考文献

科目コード	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）（２単位）	登録年次	履修方法
3380		２年	R
教員名	田代幹康		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

社会福祉士の職域、福祉行政等における専門職、また民間の施設・組織における専門職等、ソーシャルワークにおける専門職の概念と範囲について諸外国の動向も踏まえ理解を深める。加えて、ソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ・マクロレベルの対象、それぞれのレベルにおける支援の実際と相互の連関性を学ぶ。ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援と多職種連携、チームアプロ―チの意義と内容について理解する。

学修内容

1	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲（1） ：ソーシャルワーク専門職の概念と範囲について学ぶ
2	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲（2） ：社会福祉士の職域と役割について学ぶ
3	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲（3） ：多様な組織・機関・団体における専門職について学ぶ
4	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲（4） ：諸外国の動向について学ぶ
5	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク （1） ：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象について学ぶ
6	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク （2） ：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開について学ぶ①（グローバル定義と実践の展開、 介入の考え方）
7	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク （3） ：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開について学ぶ②（ミクロ・メゾ・マクロレベルでの実践の展開と考え方）
8	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容（1） ：総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点について学ぶ①（ジェネラリストの視点について）
9	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容（2） ：総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点について学ぶ②（実践活動と事例の検討）
10	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容（3） ：ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容について学ぶ①（多機関・多職種連携・ 協働による包括的支援体制の構築）
11	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容（4） ：ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容について学ぶ②（社会資源の活用、ソーシャルサポートネットワーキング）
12	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容（5） ：多職種連携及びチームアプローチの意義と内容について学ぶ①（多職種連携とチームアプローチの意義）
13	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容（6） ：多職種連携及びチームアプローチの意義と内容について学ぶ②（機関・団体間の合意形成の促進とクライエントとの連携・協働）
14	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容（7）：多職種・他機関連携、チームアプローチ、に関する事例について検討する。
15	まとめ ：これまでの学習を振り返りその内容を確認、今後の自己課題を明確にする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 メゾ・ミクロ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開について述べよ。

＜ポイント＞

メゾ・ミクロ・マクロレベル、各レベルでの実践の展開と考え方についてまとめ、ミクロ、メゾ、マクロレベルが連関する支援の展開例について述べる。

科目終了試験学修のポイント

1． 社会福祉士が活躍する様々な職域について述べる。

＜ポイント＞

子ども家庭、高齢者、障害者、生活困難者、保健医療、学校教育、司法関係等での職域

2． 社会福祉行政、民間の社会福祉施設・組織における社会福祉専門職について述べる。

＜ポイント＞

社会福祉行政においては、福祉事務所、各相談所等、民間においては、各種法律に基づく社会福祉施設・機関等

3． アメリカ、イギリス、北欧諸国のソーシャルワーカーの養成制度や実践分野について述べる。

＜ポイント＞

ソーシャルワークの仕事に従事する人々、仕事内容の多様性について

4． ソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ・マクロの意味と相互の関係について述べる。

＜ポイント＞

ミクロ・メゾ・マクロの意味、そしてそれぞれの関係性について理解する

5． ソーシャルワークにおけるジェネラリストの視点について説明する。

＜ポイント＞

視点の内容と視点にもとづくソーシャルワークの特徴について

6． ジェネラリストの視点にもとづく総合的かつ包括的な支援の意義と内容について説明する。

＜ポイント＞

ジェネラリストソーシャルワークの視点について述べ、総合的かつ包括的な支援の内容としての、他機関・多職種の連携・協働、地域生活課題への対応と地域福祉の推進、社会資源となる人や組織等との協働体制、ソーシャルサポートネットワーキングについても含み説明する。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集

『最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座11　ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規。

参考文献

科目コード	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（4単位）	登録年次	履修方法
3390		2年	SR
教員名	中土純子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、個人、家族、集団、また地域社会といったクライエント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。特に、ソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス（相談援助の展開過程）と、様々な実践モデル及びアプローチについての理解を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術を学修し、ケアマネジメントや集団を活用した支援、コミュニティワーク等の理論と展開方法、スーパービジョンやコンサルテーションの専門知識と技術についての理解を深める。

学修内容

1	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク（1） ソーシャルワーカーが学ぶ理論について理解する。教科書の第1章第1節～第3節を参照すること。
2	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク（2） バイオ・サイコ・ソーシャルモデルとミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークを理解する。教科書の第1章第4節～第6節を参照すること。
3	ソーシャルワークの過程（1） ケースの発見、エンゲージメント（インテーク）、アセスメントについて理解する。教科書の第2章･第3章を参照すること。
4	ソーシャルワークの過程（2） プランニング、支援の実施とモニタリングについて理解する。教科書の第4章･第5章を参照すること。
5	ソーシャルワークの過程（3） 支援の終結と結果評価、アフターケアについて理解する。教科書の第6章を参照すること。
6	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ（1） ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方、様々な実践モデルを理解する。教科書の第7章第1節を参照すること。
7	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ（2） ソーシャルワークの様々なアプローチを理解する。教科書の第7章第2節を参照すること。
8	ソーシャルワークの面接 面接の意義と目的、面接の方法と実際を理解する。教科書の第8章を参照すること。
9	ソーシャルワークの記録 記録の意義と目的、記録の内容とフォーマットについて理解する。教科書の第9章を参照すること。
10	ケアマネジメント（ケースマネジメント） ケアマネジメント（ケースマネジメント）の原則、意義と方法について理解する。教科書の第10章を参照すること。
11	グループを活用した支援 グループの意義と目的、グループワークの展開過程、セルフヘルプグループについて理解する。教科書の第11章を参照すること。
12	コミュニティワーク コミュニティワークの意義と目的、展開、理論的系譜とモデルについて理解する。教科書の第12章を参照すること。
13	ソーシャルアドミニストレーション ソーシャルアドミニストレーションの概念と意義、組織介入･組織改善の実践モデル、組織運営における財源確保について理解する。教科書の第13章を参照すること。
14	ソーシャルアクション ソーシャルアクションの概念と意義、コミュニティ･オーガナイジングについて理解する。教科書の第14章を参照すること。
15	スーパービジョンとコンサルテーション スーパービジョンとコンサルテーションの意義と目的、方法について理解する。教科書の第15章を参照すること。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 ソーシャルワークにおける、人と環境との交互作用に関する視点と理論について述べよ。

＜ポイント＞

ソーシャルワークにおいて、人と環境との交互作用に関する視点がどのように位置づけられているのかを理解し、ソーシャルワーク実践の目的と特徴を説明することが求められる。

【設題2】ソーシャルワークの展開過程と各段階の特徴、ソーシャルワーカーの役割について述べよ。

＜ポイント＞

ソーシャルワークの展開過程について、一連の流れを把握し、ソーシャルワークの方法・技術を理解することが必要である。

そしてソーシャルワークの価値に基づく実践として、ソーシャルワーク専門職の果たすべき役割を考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1． ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて、それぞれの対象と目的、方法について述べよ。

＜ポイント＞

ソーシャルワーク実践の対象と目的を理解し、具体的な方法について理解すること。

2． ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて、それぞれの考え方と方法、特徴を述べよ。

＜ポイント＞

ソーシャルワーク実践において適切な支援方法を選択するためには、様々な実践モデルやアプローチの理論を学び、それぞれの特徴を理解することが必要である。

3． ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について述べよ。

＜ポイント＞

ソーシャルワークの展開過程を理解し、各展開過程において必要な知識と技術について説明できることが必要である。

4． グループワークの概念とその展開方法をまとめ、実際の事例をもとにグループの意義とソーシャルワーカーの役割について述べよ。

＜ポイント＞

ソーシャルワークの技法のひとつとしてグループワークを理解し、グループの意義や活用方法について学ぶことが求められる。

5． ソーシャルワークにおける面接の意義と目的･技法について説明したうえで、ソーシャルワーカーに求められる専門的態度について述べよ。

＜ポイント＞

基本的な面接技術に対する理解を深めると共に、面接場面で求められる配慮や態度、自身の課題について考察すること。

6． ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの意義と目的、課題について述べよ。

＜ポイント＞

スーパービジョンとコンサルテーションの違いを理解し、スーパービジョンの目的と課題について考察すること。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集

『最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 12　ソーシャルワークの理論と方法』中央法規。

参考文献

ｿﾞﾌｨｱ･T･ﾌﾞﾄｩﾘﾑ 著　川田誉音 訳 「ソーシャルワークとは何か　その本質と機能」川島書店

久保紘章･副田あけみ 編著 「ソーシャルワークの実践モデル　心理社会的アプローチからナラティブまで」川島書店

F･P･バイステック著　尾崎新･福田俊子･原田和幸 訳 「ケースワークの原則　援助関係を形成する技法」誠信書房

科目コード	組織心理学（２単位）	登録年次	履修方法
2820		３年	R
教員名	新井洋輔、志茂田典子、中山麻子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

人は社会生活を送る上で、必ずといっていいほど組織集団に所属することになる。

本科目では、組織という社会的文脈の中で、個人が状況をどう知覚し、どのように行動し、態度を形成して、組織活動に参画していくのかについて理解する。さらに、リーダーシップ行動や組織における意思決定の功罪などを学ぶことにより、職場における問題（キャリア形成に関することを含む。）に対して必要な心理に関する支援、組織における人の行動について理解を深める。本科目は、組織が産業効率を上げるための心理学だけではなく、個人がメンタルヘルスを向上させることで組織が活性化するという立場に立って、職務満足や職場におけるストレスなどについて理解を深める。

学修内容

1	組織心理学とはⅠ：組織心理学が扱ってきたテーマ、組織心理学の歴史等について学修すること。また、コラムの科学的管理法、ホーソン研究、オープン・システム・アプローチについても学ぶこと。（テキスト：Ⅰ産業・組織心理学の歴史の意義とテーマ）
2	組織心理学とはⅡ：組織と個人の関係、組織行動、安全と健康（メンタルヘルス）、消費者行動とマーケッティングの各項目についてまとめること。（テキスト：Ⅰ産業・組織心理学の歴史の意義とテーマ）
3	ワーク・モチベーションⅠ：基礎学習として心理学で扱う動機づけ（内容、過程、動機、動機づけ、内発的動機づけ、達成動機）についてまとめること。（テキスト：Ⅱワーク・モチベーション）
4	ワーク・モチベーションⅡ：組織ならではの動機づけについて考える。期待理論、目標設定理論、公平理論、職務満足感、コミットメントなどについて学修すること。さらに、職務満足感の中で、ハーズバーグの二要因論は大切である。（テキスト：Ⅱワーク・モチベーション）
5	採用と面接：採用選考の内容、適性の問題、採用選考の方法（採用試験、適性テスト、面接内容）などについてまとめること。（テキスト：Ⅲ採用と面接）
6	人事評価：人的資源管理（マネジメント、HRM、QCサークル）、人事評価（評価制度、評価の方法と内容）、昇進・昇格、報酬制度、360度多面評価、アセスメント・センター、コンピテンシーなどについて学ぶ。（テキスト：Ⅳ人事評価）
7	キャリア発達Ⅰ：キャリアの内容についてまとめること。次に、キャリア発達では、発達的視点から良く整理して見ること（ガイダンス、職業意識の発達、組織内キャリア）。ホランドの研究やシャインの組織内キャリア発達段階など、コラム（キャリア・ライフ、キャリア・アンカー）についてもよく見ること。（テキスト：Ⅴキャリア発達）
8	キャリア発達Ⅱ： キャリア発達の各理論（クランボルツ、ブリッジスの理論）について見ること。また、人材育成（OJT、Off-JT、自己啓発など）、技術の伝承などのメンタリング、垂直的交換関係、キャリアストレス、キャリアカウンセリングについてもよく見ること。（テキスト：Ⅴキャリア発達）
9	職場のコミュニケーションと人間関係Ⅰ：職場集団の特性（職場集団の特性、職場集団の発達、規範）、職場規範の測定法、職場のチームワーク、職場のコミュニケーションについてまとめること。（テキスト：Ⅵ職場のコミュニケーションと人間関係）
10	職場のコミュニケーションと人間関係Ⅱ：職場で発生する事態に対する問題を中心に検討すること。職場でのマネジメント、会議による意思決定過程の特性、職場の人間関係・対人葛藤・対人葛藤の処理などを見ること。（テキスト：Ⅵ職場のコミュニケーションと人間関係）
11	リーダーシップ：リーダーシップの内容と特性についてまとめること。また、古典的リーダーシップ論（専制型、民主型、自由放任型）、PM型リーダーシップ論など各理論があるので、まとめること。また、組織変革とリーダーシップでは、リーダーシップの特徴があるので良く見ておく（テキスト：Ⅶリーダーシップ）
12	消費者行動とマーケティング：消費者行動の心理的分析とマーケティングがあるので良く見ておくこと。また、くちコミの影響や悪徳商法についても良く見ておくこと。（テキスト：Ⅷ消費行動とマーケティング）
13	仕事の能率と安全：仕事をするにあたり、効率性を求める一方で、仕事の安全・安心が大切になっている。ヒューマン・エラーによる事故の検討から安心・安全を人間工学と関連して、見ていく必要がある。（テキスト：Ⅸ仕事の能率と安全）
14	職場のストレスⅠ：職場ストレス（ストレス内容、セリエ、ラザルス説、ライフイベント、職務ストレス、タイプA行動パターン、ワーク・ファミリー・コンフリクトなど）をまとめること。（テキスト：Ⅹ職場のストレスとメンタルヘルス）
15	職場ストレスⅡ：メンタルヘルスでは、過労死、ストレス対処（コーピング）、ソーシャル・サポート、EPAについてもよく見ておくこと。また、職場の健康管理、バーンアウトも見ておくこと。（テキスト：Ⅹ職場のストレスとメンタルヘルス）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】組織の中で個人が、成長し、安全かつ適応的に、充実した活動を行い、また組織全体の生産性や効率性を高めるために、個人と事業者・ラインが留意すべき点について述べよ。

＜ポイント＞ 教科書各章で紹介されている理論を幅広く用い、理論そのものをまとめるとともにその理論を現実場面に適用した具体例も挙げながら、詳細に記述すること。

科目終了試験学修のポイント

1．リーダーシップの主要な次元と、状況要因との関連について

＜ポイント＞（テキスト：Ⅶリーダーシップ）

リーダーシップの特性アプローチや行動アプローチでは、対応できない状況がでてきたため、コンティンジェンシー・アプローチ（状況即応）が必要になった。リーダーの特徴と集団状況を十分に考えならが、リーダーシップを検討することが重要である。

2．キャリア発達のきっかけや促進要因について

＜ポイント＞（テキスト：Vキャリア発達）

キャリア発達の特性をまとめ、次にホランドの六角形モデル、シャインの組織内キャリア発達段階を考える。さらに、クランボルツの計画された偶発性やブリッジスのトランジッション論などに言及するとよい。

3．不安全行動やエラーの発生要因と、効果的な防止策について

＜ポイント＞（テキスト：Ⅸ作業の能率と安全）

仕事の安全性を守るために、ヒューマン・エラーなどによる不安全行動の予防が必要である。また、事故発生モデルを検討するなど、事故防止のさまざまな取り組みについて考える。さらに、人間工学とも関連して安心・安全なシステムを形成する安全文化の構築が重要である。

4．職場ストレスの種類と、ストレスへの効果的な対処について

＜ポイント＞（テキスト：X職場のストレスとメンタルヘルス）

職場ストレスの内容とストレス対処法について、具体的に言及する。ストレス対策（ストレスマネジメント）についても考える。

5．適切な人事評価を行うための視点について

＜ポイント＞（テキスト：Ⅳ人事評価）

人事評価は、評価基準を明確する必要がある。業績や能力の成果により、昇進・昇格・報酬制度などと関係してくる。まず、人事評価制度やシステムについてよく考えること。

6．ワーク・モチベーションの職務満足感とコミットメントについて

＜ポイント＞（キスト：Ⅱワーク・モチベーション）

職場でのモチベーションについて具体的に考える。職場で楽しく、生き生き出来る要因（職務満足感やコミットメント）について検討する。

教科書

山口裕幸、他『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房。

参考文献

田尾雅夫『組織行動の社会心理学』北大路書房。

科目コード	体育（２単位）	登録年次	履修方法
4310		２年	ＳＲ
教員名	浅井泰詞、沖雅美、斉藤雅記、清水信好、西田希、仁藤喜久子、山口榮三、山内洋一		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

小学校教育課程における体育授業の基本的考え方や運動指導に必要な基本的知識を理解し（R）、各領域（体つくり運動、器械運動、陸上運動、ゲーム・ボール運動、表現運動、保健学習等）の特性を踏まえ実技を行う（S）。スクーリングについては実技中心の授業であり、適宜講義とディスカッション形式を取り入れる。

学修内容	
1	体育科の他教科にはない特性及び学習指導要領に示される目標について教科書をもとに整理する。
2	体育科の領域構成について教科書をもとに理解する。
3	技能差のはっきりする体育学習において「できないこと」を「できるようにする」ための指導のポイントを教科書等の実践例をもとに整理する。(鉄棒運動「さかあがり」を中心として)
4	技能差のはっきりする体育学習において「できないこと」を「できるようにする」ための指導のポイントを教科書等の実践例をもとに整理する。 (跳び箱運動「開脚跳び」を中心として)
5	技能差のはっきりする体育学習において「できないこと」を「できるようにする」ための指導のポイントを教科書等の実践例をもとに整理する。(水泳「水に恐怖心を持つ児童について」)
6	全学年で取り上げられた「体つくり運動」の特性と教材価値(期待できる児童の変容)について教科書等の実践例をもとに整理する。
7	「ボール運動」(ゴール型)の典型教材を例示し、児童に身につけさせたい技能や態度の内容について教科書等の実践例をもとに整理する。
8	「ボール運動」(ネット型)の典型教材を例示し、児童に身につけさせたい技能や態度の内容について教科書等の実践例をもとに整理する。
9	「ボール運動」(ベースボール型)の典型教材を例示し、児童に身につけさせたい技能や態度の内容について教科書等の実践例をもとに整理する。
10	「表現運動」や「ダンス」の教材やその指導法について教科書等を参考にしながら整理する。
11	「陸上運動」のリレーやハードル走の教材づくりについて教科書等を参考にしながら整理する。
12	「器械運動」の技の系統性や安全面の配慮事項について教科書等を参考にしながら整理する。
13	スクーリングに備え、近隣の公園などを利用して、「さかあがり」「リフティング(サッカー)」「縄跳び」などの身近な運動を実践する。(実技)
14	スクーリングに備え、近隣の公園などを利用して、「さかあがり」「リフティング(サッカー)」「縄跳び」などの身近な運動を実践する。(実技)
15	「保健学習」の教材配列を整理し、指導法について考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 体育の目標，特性，領域を整理し，体育学習において子どもに身に付けさせたい内容について述べよ。

＜ポイント＞

・学習指導要領（体育）の目標を的確に把握する。

・他教科には無い体育科の特性を整理する。

・特性を踏まえ、体育学習で期待できる子どもたちの変容について具体的に記述する。

科目終了試験学修のポイント

1．現代日本における体育科教育の重要性について

＜ポイント＞

・体育の目標を理解するとともに、その目標の変遷の内容を理解する。

・現代における体育科の抱える課題を明確にするとともに、それを理解する。

2．新体力テストの目的と，子どもの体力との関連性について

＜ポイント＞

・新体力テストの目的を理解するとともに、子どもの体力低下の要因を考える。

・新体力テストの項目とそれぞれの運動特性を理解する。

3．体つくり運動の内容と指導方法について

＜ポイント＞

・小学校現場で行われる体つくり運動の各学年での内容を理解する。

・それぞれの体つくり運動の目的や効果の内容を把握する。

4．器械運動領域における段階的な指導について

＜ポイント＞

・器械運動の種目と、学年が上がるに連れて難易度が高まることを知る。

・各学年での技の展開や指導のポイントを理解する。

5．小学校体育におけるボールゲームの指導方法について

＜ポイント＞

・ボールゲームの種類と、生涯スポーツになる要因について理解する。

・ボールゲームの展開について段階的な授業計画により行うことを理解する。

6．小学校体育における保健学習の指導について

＜ポイント＞

・小学校体育における保健領域の学習のねらいについて理解する。

・中～高学年での保健領域の内容を理解する。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領　体育編』東洋館出版。

参考文献

高橋健夫『新版　体育科教育学入門』大修館書店。

科目コード	体育科指導法（2 単位）	登録年次	履修方法
4210		2年	SR
教員名	浅井泰詞、小谷川元一、斉藤雅記、清水信好、西田希、仁藤喜久子		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報の機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

体育を指導する上での基本的な知識・技能を身につけ、各領域の教材づくりと指導のポイントについて学修する。
スクーリングは実技中心の授業であり、体育の模擬授業形式で授業を進める。部分的には講義やディスカッション形式で授業を行う。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	体育科の特性及び目標を整理し、体育科とはどのような教科なのかについて理解を深める。 (スポーツと学校体育の違いについても見解をまとめる)	現行や新学習指導要領に示されている体育の目標を比較しながら、「楽しく明るい生活を営む態度を育てる」という体育科の究極的な目標について話し合い、小学校体育の特性を理解する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
2	体育の学習の主体である子どもはどのような性質を持つのかについて自身の経験などをもとに考える。 (社会的背景に起因する最近の子ども像を経験の中からまとめる)	子どもは大人のミニチュアではないことをスキャモンの発育曲線などの資料から理解するとともに近年における子どもの心身における変化・変容についての理解を深める。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
3	体育の領域と単元構成について教科書等をもとに整理する。 (低・中・高学年の領域構成と単元の組み立て方について事例をもとに整理する)	教科書や学習指導要領等を参考にして、体育が構成する領域や単元を整理する。また、低・中・高学年の2年間のスパンでの履修の意味も考え、他の教科とは性格が大きく異なる教科であることにも気づく。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
4	―教材研究―体育科の教材・教具論について教科書等をもとに整理する。 (中学校での種目主義と小学校の教材主義の違いについても関連付けてまとめる)	他の教科同様、教材・教具の重要性に触れるとともに子どもたちが潜在的にもっている欲求を満たすことが出来るような工夫や開発が必要であることを理解する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
5	―教材研究― 典型教材を作成する。 (資料等を参考にしながら、児童に学習させたい教材を考案する)	各自がイメージする活動領域の中から教科書や学習指導要領を参考としながら子どもたちの発育段階に応じた教材の提示を行い意見を出し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
6	人間関係を構築する体育学習について教科書等をもとに整理する。 (希薄な人間関係の社会背景についても考察する)	近年における変化の激しい世の中でどのように子どもたちが生きていけばよいのか、体育という教科を中心においてお互いの考えを出し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
7	体育科学習指導案の作成のポイントについて参考書の具体事例などをもとに整理する。 (児童の実態把握→教材づくり→単元計画と目標設定→学習過程→評価の流れをもとに)	実際に作成された具体的な指導案の詳細を見ながら指導案の構成を理解し、作成のポイントやおさえるべき内容を把握する ※情報機器及び教材の活用を含む	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
8	体育科学習指導案を作成するにあたり、「体つくり運動領域」の特性を調べておく	各自で指導してみたい領域（単元）を選び実際に指導案（準細案）を作成する。その際、学年の設定、児童の実態などを十分の考慮しながら作成する。(①) 特に「体つくり運動」については新学習指導要領では一部改正になっているため、発達段階を十分考慮して作成する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
9	体育科学習指導案を作成するにあたり、「器械運動領域」の特性を調べておく	各自で指導案（準細案）を作成する。(②) 「器械器具を使っての運動遊び」の領域から発展した領域であることを十分考慮して作成する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
10	体育科学習指導案を作成するにあたり、「表現運動領域」の特性を調べておく	各自で指導案（準細案）を作成する。(③) 「表現リズム遊び」の領域から発展した領域であることを十分考慮して作成する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
11	体育科学習指導案を作成するにあたり、「陸上運動領域」の特性を調べておく	各自で指導案（準細案）を作成する。(④) 「走跳の運動遊び」の領域から発展した領域であることを十分考慮して作成する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
12	体育科学習指導案を作成するにあたり、「ボール運動領域」の特性を調べておく	各自で指導案（準細案）を作成する。(⑤) 「ゲーム」領域から発展した領域であることを十分考慮して作成する。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
13	作成した指導案を見合いながらディスカッションをするにあたり、質問項目をチェックしておく	それぞれの指導案の良い点や改善点などを話し合い、より良い指導案にするにはどうすれば良いのか意見を出し合う。※情報機器及び教材の活用を含む	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
14	模擬授業と評価規準の関係を整理しておく	代表で何人かが模擬授業を行い、授業後に全員で課題となる点や改善点など振り返りを行う。Power point 等の有効活用	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)

15	良い体育授業の条件についてまとめて学習のまとめをする。	・体育とは子どもたちにどのような影響を与える教科なのか ・人間関係を構築する体育学習とはどのようなものか ・体育の教材づくりの重要性について ・体育科学習指導案作成上の留意点について ・いじめ・学級崩壊を防ぐために体育が果たす役割について ・体育の授業場面において教師が特に配慮すべきことについて など、良い体育授業の条件についてまとめる。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
		面接授業：合計15時間	

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の50%、参加態度・課題提出　総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点）　F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　体育学修のポイントを整理し、具体事例をもとにより良い体育授業について述べよ。

＜ポイント＞

・「わかる」「できる」「かかわる」が両立する体育授業とは何か把握する。

・体育の特性を整理し、人間関係構築のために体育の果たす役割を理解する。

・子どもが伸びる具体的な教材を示し、授業のポイントを整理する。

科目終了試験学修のポイント

１．体育とは子どもたちにどのような影響を与える教科なのか

＜ポイント＞

・現代の子ども像を分析し、不足している力を整理する。

・体育の特性を他教科と比較し、学習効果により獲得が可能な能力を具体的に記述する。

２．人間関係を構築する体育学習とはどのようなものか

＜ポイント＞

・人間関係の希薄化が指摘される今日の社会情勢を考察する。

・体育学習によって醸成できる強固な人間関係について教科書のポイントを踏まえて記述する。

３．体育の教材づくりについて、具体的な事例をもとに述べよ。

＜ポイント＞

・体育における教材づくりの必要性をまとめる。

・教科書を参考にしながら具体的教材を取り上げ、その指導観について事例とともに記述する。

４．体育科学習指導案作成上の留意点について

＜ポイント＞

・体育科の学習指導案と他教科との根本的差異についてまとめる。

・児童の実態と取り上げる教材の関連性を指導案の形式に則って記述する。

５．いじめ・学級崩壊を防ぐために体育学習が果たす役割について

＜ポイント＞

・参考書などの文献をもとにいじめ・学級崩壊のメカニズムを整理する。

・体育学習における達成・葛藤・感動場面が子どもや教師との関係性にもたらす効果について記述する。

６．体育の授業場面において教師が特に配慮すべきことについて

＜ポイント＞

・他教科にはない体育学習における配慮事項について整理する。

・その配慮事項に対する具体的な教師行動についてのポイントを記述する。

教科書

高橋健夫『新版　体育科教育学入門』大修館書店。

参考文献

小谷川元一『教師と親の「共育」で防ぐ　いじめ・学級崩壊』大修館書店。
小学校学習指導要領解説体育編（平成29年7月告示　文部科学省）
小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）

科目コード	対照言語学（２単位）	登録年次	履修方法
9120		３年	R
教員名	坂井二郎		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

この科目は、言語学の関連分野の中でも、最も古い歴史をもつ比較言語学・歴史言語学の方法論と研究成果を学ぶ対照言語学の入門講座である。対照言語学の重要な課題の１つは、同じ系統に属する諸言語を比較することによって、かつて存在したそれらの言語の源である「祖語」を再建し、それぞれの言語がどのように成立したかという歴史をたどることである。ダイナミックな言語変化の醍醐味を感じてほしい。

学修内容

1	第１章「言語の歴史を考える」第１節・第２節　言語の歴史的変化について説明できるようになる。（教科書 pp.1-10；　文献[1]第1～3 章、 [5]第1～3 章も参照）
2	第１章「言語の歴史を考える」第３節　解読　ヒッタイト語の解読について学び、簡潔に説明できるようになる。（教科書 pp.10-23；　文献[1]第1～3 章、 [5]第1～3 章も参照）
3	第１章「言語の歴史を考える」第３節　解読　象形文字ルウィ語の解読について学び、簡潔に説明できるようになる。（教科書 pp.10-23；　文献[1]第1～3 章、 [5]第1～3 章も参照）
4	第２章「比較方法」第１節　祖語を推定する、第２節　比較方法　「祖語」の概念を理解し、言語成立の歴史を明らかにするための比較方法を説明できるようになる。（教科書 pp.24-41；　文献[1]第1～3 章、 [5]第1～3 章も参照）
5	第２章「比較方法」第３節　再建される祖語の性格　　近代言語学の確立に貢献したボップ、グリム、ヴェルネル、シュライヒャーらの功績を学び、紹介できるようになる。（教科書 pp.41-53；　文献[1]第1～3 章、 [5]第1～3 章も参照）
6	第４章「類推」第１節　類推の役割　言語変化における類推の役割について理解する。（教科書 pp.104-112、文献[3]第４章も参照；大母音推移については、文献[2]第１章も参照）
7	第４章「類推」第２節　パラダイムの画一化　「グリムの法則」「ヴェルネルの法則」を理解し、説明できるようになる。（教科書 pp.112-120；　文献[1]第4～5 章、[5]第1～3 章も参照）
8	第４章「類推」第３節　残存形式　類推プロセスにおける残存形式について学ぶ。（教科書 pp.120 -123；　文献[1]第4～5 章、[5]第1～3 章も参照）
9	第５章「生成文法から音変化をみる」第１節　生成音韻論とは　　生成音韻論の考え方をを理解し、説明できるようになる。（教科書 pp.149 -153；文献[4]を合わせて読むとよい。）
10	第５章「生成文法から音変化をみる」第２節　言語変化のメカニズム　表層の音声表示は、基底にある音声表示から順序づけされた規則群の適用によって生成されるものであるという考え方を理解する。（教科書 pp.153-156；文献[4]）
11	第５章「生成文法から音変化をみる」第３節　規則の追加　　ドイツ語の現象に関する「規則の追加」を学修し、説明できるようになる。（教科書 pp.156-157；文献[4]）
12	第５章「生成文法から音変化をみる」第４節　基底表示の組み替え　ドイツ語の現象に関する「基底表示の組み替え」を学修し、説明できるようになる。（教科書 pp.157-161；文献[4]）
13	第５章「生成文法から音変化をみる」第５節　規則の順序替え　ドイツ語の現象に関する「規則の順序替え」を学修し、説明できるようになる。（教科書 pp.162-166；文献[4]）
14	第５章「生成文法から音変化をみる」第６節　規則の消失　　イディッシュ語の現象に関する「規則の消失」を学修し、説明できるようになる。（教科書 pp.166-168；文献[4]）
15	第５章「生成文法から音変化をみる」第７節　規則の挿入　ラテン語の現象に関する「規則の挿入」を学修し、説明できるようになる。（教科書 pp.169 -172；文献[4]）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】フランスの言語学者ソシュールの「覚え書」で発表された印欧祖語の母音に関する研究成果について述べよ。

＜ポイント＞

教科書第2章第3節、及び文献[1]第8章を参考に、ソシュールの研究成果について簡潔にまとめる。キーワードとして、「祖語、長母音、ソナント、ヒッタイト語」を使用すること。まず、比較言語学における祖語再建の方法論について簡単に議論し、次に、ソシュールの研究成果を記述し、最後に、彼が予測した現象がヒッタイト語に残っていたというクリウォーヴィッチの指摘まで論じるとよい。

科目終了試験学修のポイント

1．言語の歴史的変化について述べよ。

＜ポイント＞

第 1-2 章で学修した言語の歴史的変化の研究の方法論、目的について簡潔に述べる。キーワードとして、「祖語」・「再建」を議論の中で使用すること。文献[1]第1～3章、 [5]第1～3章を読むとよい。

2．大母音推移について説明せよ。

＜ポイント＞

第4章 pp.104-105 で述べられている大母音推移についてまとめておく。教科書（p.105）に書かれているような推移の図（イラスト）を描きながら説明するとよい。文献[2]第3章も参照のこと。

3．言語変化の歴史における「類推」について説明せよ。

＜ポイント＞

第 4 章での学修を踏まえ、「類推」の現象について簡潔に述べ、教科書 p.109 にある例を使いながら説明するとよい。尚、この現象は、日本語の「ら抜き」ことば（cf. 見（ら）れる、来（ら）れる）にも関連していると考えられるが、それについての議論を加えてもよい。「ら抜き」ことばについては、文献 [3]第7章4節を読むとよい。

4．印欧祖語からゲルマン祖語への子音変化に関するグリムの法則・ヴェルネルの法則について述べよ。

＜ポイント＞

第 4 章での学修を踏まえ、グリムの法則と、その例外を扱うヴェルネルの法則について、無声子音 /p,t,k/ の歴史的変化がこれらの法則でどのように説明されるかについて簡潔に述べる。教科書 pp.41-45、文献[1]第4～5章、[5]第1～3章が参考になる。

5．生成音韻論について述べよ。

＜ポイント＞

第 5 章での学修を踏まえ、生成音韻論の考え方を簡潔に述べる。文献[4] 第2～4章により詳しい解説があるので、参考にするとよい。キーワードとして、「(表層の) 音声表示」・「(音韻) 規則」・「基底表示」を使用すること。このレポートでは、生成音韻論の枠組みのもと、表層の音声形式がどのように生成されると考えられるかについて、例を挙げながら述べればよい（音変化について議論する必要はない）。

6．生成音韻論が捉える音変化の歴史について述べよ。

＜ポイント＞

第 5 章第 3-7 節で学修した音変化の現象の中から1つ選び、「音声表示」・「規則」・「基底表示」のキーワードを使いながら、簡潔に述べる。もしくは、文献[4] 第9章で紹介されている音変化の事例を議論してもよい。

教科書

吉田和彦著『言葉を復元する ： 比較言語学の世界』 三省堂、1996.

参考文献

[1]風間喜代三 著『言語学の誕生: 比較言語学小史』岩波新書、1978。
[2]長谷川瑞穂編著『はじめての英語学』 研究社、2006。
[3]沖森卓也著『はじめて読む日本語の歴史 ： うつりゆく音韻・文字・語彙・文法』 ベレ出版、2010。
[4]清水克正著『生成音韻論概説』篠崎書林 、1978。
[5]高津春繁著『比較言語学入門 』岩波文庫、1992。

科目コード	第二言語習得理論（２単位）	登録年次	履修方法
9190		２年	R
教員名	山口雅代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

第二言語を学び習得する際の理論や問題点について学んでいく。日本語教育の場では、主に日本語を第二言語としている学習者である。第二言語習得(Second Language Acquisition:SLA)は、日本語教師になることを目指す者にとって必要な知識である。本講座では、基本的な専門用語や、日本語習得の際に起こる問題について学ぶ。

学修内容

1	第１章　　第二言語習得理論とは　pp.1-9 第二言語習得理論とは何かについて学ぶ。第二言語習得理論がどのように生まれ発達してきたか、その過程で対照分析、誤用分析、中間言語分析が第二言語習得理論にどう影響されたか考える。
2	第２章　中間言語：学習者独自の言語体系　pp.11-21 日本語学習者が第二言語を習得する過程でどのような中間言語を構築していくのかについて考える。
3	第３章　学習者の母語は第二言語習得にどう影響するか　pp.23-37 学習者は母語の知識を活用しながら第二言語を習得していくが、その過程でどのような影響を受け、何が問題になるのか考える。
4	第４章　習得には決まった順序があるのか　pp.39-55 「習得順序」と「発達順序」の違いについて考慮しながら、習得に順序があるのか把握する。
5	第５章　必要なのはインプットかアウトプットか　pp.57-74 インプット仮説、アウトプット仮説、インターアクション仮説にはどのような主張があるのかまとめる。
6	第６章　文法を教えることに効果はあるのか（１．意識的に得られた知識と無意識的な知識とは～４．理解可能なインプットだけでは習得が難しいもの）　pp.75-83 暗示的知識と明示的知識について把握した上で、教室で第二言語を習得するにあたり、どのような言語項目がどういった要因で学ぶことを困難にしているのか考える。
7	第６章　文法を教えることに効果はあるのか（５．目立ちやすさや余剰性は母語によっても異なる～９．習得環境による教室の役割の違い）　pp.83-92 学習者の母語が第二言語習得にどう影響されているかを読み取り、また「第二言語としての日本語」と「外国語としての日本語」の違いについて理解する。
8	第７章　教室で何ができるのか（１．インプット重視の指導、２．言語形式に焦点をあてる）　pp.93-103 どのような教え方が効果的とされてきたのか、その変遷について読み取る。
9	第７章　教室で何ができるのか（３．フィードバックはどう行えば効果的なのか、４．再び、教える順序について）　pp.103-123 肯定的フィードバック、否定的フィードバック、訂正フィードバックなど、フィードバックの方法について理解した上で、どのような誤りにこれらのフィードバックが有効か考える。
10	第８章　言語習得に及ぼす年齢の影響　pp.125-135 臨界期仮説を踏まえ、子どものバイリンガルの仕組みやダブル・リミテッドについて理解する。
11	第９章　言語習得に及ぼす個人差の影響（１．言語適性、２．女性の方が言語学習に向いているのか）（１） pp.137-149 言語学習に適性はあるのか、あるとすればどのような教育方法が必要か考える。

12	第9章　言語習得に及ぼす個人差の影響（3．学習スタイルの違い）（1）　pp.149-159 どのような学習スタイルがあるのか理解した上で、学習スタイルに合った教育方法とは何か考える。
13	第10章　言語習得に及ぼす個人差の影響（1．動機づけと第二言語習得～3．曖昧さに対する寛容性）（2）　pp.161-170 教師は、学習者の動機づけを高めたり、学習者が母語に訳せない第二言語に対し不満やフラストレーションを感じたりした時、どうすればよいのか考える。
14	第10章　言語習得に及ぼす個人差の影響（4．学習ストラテジー～6．個人差に関するまとめ）（2） pp.170-177 学習ストラテジーにどのような種類があるか理解した上で、学習者に合ったストラテジーを考える。
15	第11章　まとめ：教室で私たちにできること　pp.179-188 教師は教室で何を行っていけばよいのか、これまでのことを振り返りながら考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】「第二言語習得理論と日本語教育」について述べよ。

＜ポイント＞

日本語学習者はどのように日本語を習得していくのか、第二言語習得について考えながら具体的に述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．第二言語習得理論はどのように生まれ発達してきたのか。

＜ポイント＞

第二言語習得理論の誕生について、対照分析、誤用分析、中間言語分析を踏まえて述べる。

2．中間言語体系について自分の外国語学習を振り返って考え、述べよ。

＜ポイント＞

外国語学習に際し、どのような独自のルールを作ってきたのか、考える。

3．　教える順序はどうすればよいか、自分の意見を述べよ。

＜ポイント＞

「習得順序」や「発達順序」を踏まえ、やさしいものから教えるのか、考える。

4．　インプットとアウトプットについて具体的に述べよ。

＜ポイント＞

自身の外国語学習や、日本語教育の場におけるインプットとアウトプットでもよいので、具体的に述べる。

5．　言語習得における個人の影響にはどのようなものがあるか、具体的に述べよ。

＜ポイント＞

学習者の何が第二言語習得に影響するのか考える。

6．教室指導について述べよ。

＜ポイント＞

教室で何を行うか、指導法とフィードバックについて、日本語教育について述べる。

教科書

大関浩美『日本語を教えるための第二言語習得入門』くろしお出版，2010。

参考文献

小柳かおる『日本語教師のための新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク，2004。

科目コード	第二言語習得理論演習（２単位）	登録年次	履修方法
9200		３年	ＳＲ
教員名	山口雅代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

第二言語習得理論を踏まえ、更なる実践的な教育能力を身につけると共に、研究能力養成を目指す。本講座では、日本語教育と日本語習得研究の間にどのような関係があるのかを考えると共に、第二言語習得についてどのような研究や報告がなされているのか知見を深める。

学修内容

1	第１章　　第二言語習得研究はなぜ必要か　pp.8-18 母語と母国語、第二言語と外国語の違いを考えながら、第二言語習得研究がなぜ必要かを考える。
2	第２章　　第二言語習得研究の発達　pp.19-34 第二言語習得研究と外国語教授法との関係を理解する。
3	第３章　　第二言語習得の理論・モデル（3.1 文法変容モデル～3.3 モニター・モデル）　pp.35-47 「文法変容モデル」「普遍文法理論」「モニター・モデル」について理解する。
4	第３章　第二言語習得の理論・モデル（3.4 有標性差異仮説～3.6 その他）　pp47-57 「有標性差異仮説」「コンベンション・モデル」について理解する。
5	第４章　　第二言語習得にかかわる要因（4.1 中間言語と差異～4.3 自然な習得順序）　pp.58-81 第一言語と第二言語の習得順序について考える。
6	第４章　第二言語習得にかかわる要因（4.4 言語転移～4.6 学習環境の違いと第二言語習得）　pp.81-107 第二言語を学習する際に、学習者の母語の影響はあるのか、また指導をどうするのか考える。
7	第４章　第二言語習得にかかわる要因（4.7 学習者のさまざまなストラテジー、第４章のまとめ）　pp.107-122 学習ストラテジーにどのようなものがあるか考える。
8	第５章　バイリンガリズムと年少者教育（5.1 言語接触～5.4 バイリンガル教育）　pp.123-141 バイリンガルについての理論や用語を理解し、日本語教育の場ではどのような年少者教育が行われているのか考える。
9	第６章　第二言語習得研究の方法　pp.142-156 第二言語習得研究にはどのような方法や研究が行われているか考える。
10	第７章　第二言語としての日本語の習得研究（7.1 誤用分析から中間言語研究へ～7.2.2 語彙・意味の習得） pp.157-167 日本語の習得研究にはどのような研究があるのか考える。
11	第７章　第二言語としての日本語の習得研究（7.2.3 文字・表記の習得～第７章のまとめ）pp.168-180 これからの日本語の第二言語習得研究には何が重要か考える。
12	第８章　日本語の習得研究と日本語教育　pp.181-193 第二言語習得研究が日本語教育にどのように活用できるか考える。
13	付録１　データ分析方法の理解のために　pp.194-205 データ分析のための、統計について学ぶ。
14	付録１　データ分析方法の理解のために　pp.194-205 掲載されている先行研究の中から１稿選び、どのようなデータを用い分析を行っているか理解する。
15	付録２　第二言語習得研究のキーワードおよび関連用語　pp.206-220 これまで学んできた第二言語習得研究についてのキーワードや関連用語を理解する。わからない用語がある場合は、その章に戻り見直す。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】あなたなら、第二言語習得を日本語教育の場に応用してどのような研究を行えると思うか述べよ。

＜ポイント＞

第二言語習得研究においてどのような研究が行われ、教育の場に導入されているかをまとめる。さらに、日本語教育ではそれがどう応用されているか理解し、自身はどのような研究を行ってみたいか考える。

科目終了試験学修のポイント

１．第二言語習得研究はなぜ日本語教育の場に必要なのか。

＜ポイント＞

第二言語習得研究がなぜ生まれたのか考え、日本語教育の場への応用を考える。

２．第二言語習得研究にはどのような外国語教授法が関係しているのか。

＜ポイント＞

どのような外国語教授法が問題となって第二言語習得研究が行われたのか考える。

３．第二言語習得理論にはどのようなものがあるか。

＜ポイント＞

第二言語習得の理論・モデルについてまとめる。

４．第二言語習得研究においてデータ分析は必要なのか具体的に述べよ。

＜ポイント＞

選んだ論文がどのような対象からデータを集め分析を行っているのかまとめる。

５． 第二言語習得から学習者に考えた、求められる日本語教師とあなたが望む教師像について考え、述べよ。

＜ポイント＞

学習者はどのような日本語教師を求めているのか踏まえた上で、自分の望む教師の姿について書く。

６．第二言語習得研究が日本語教育にどのように活用できるか具体的に述べよ。

＜ポイント＞

第二言語としてどのような日本語の習得研究が行われてきたのかをまとめ、それがどのように活用されているのか考える。

教科書

迫田久美子『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク、2002。

参考文献

大関浩美『日本語を教えるための第二言語習得入門』くろしお出版、2010。

小柳かおる『日本語教師のための新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク、2004。

科目コード	多文化コミュニケーション（２単位）	登録年次	履修方法
1830		１年	R
教員名	内藤伊都子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

通信・交通技術の発達、また経済のグローバル化により、私たちはこれまで以上に日常生活において「多文化」を意識し、様々な文化的背景を持つ人々とコミュニケーションをとり、共に暮らしていくことが求められている。世界・日本に暮らす多様な人々と向き合い共に問題発見・解決をしていくためには、自分自身の視野を広げ、豊かな感受性と想像力を養うことが必要である。そのために、世界の人々の文化、日常生活、経済状況などを知り、異なるものの見方・考え方やその背景にある歴史への理解を深めることを目的とする。また、ただ単に「違い」を認識することに止まらず、様々な文化と自文化との共通性を見直すことにより、自文化を国際社会の一部として再認識し、世界の人々との共生の在り方を自分なりに考え抜く力を養うことも重要である。＊教科書にはさまざまな多文化を理解するためのゲーム・活動が紹介されている。みなさんの周りの人々と一緒にやってみてほしい。

学修内容

1	１章「グローバリゼーションとは」　身近な人・ものと世界の繋がりを再確認し、世界と自分の関わりについて見なおすと同時に、グローバリゼーションの概念を理解する。
2	２章「グローバリゼーションのと社会変動」　グローバリゼーションが進むとともに、様々な問題も地球規模で考える必要があります。地球規模の課題を理解する。
3	３章「多文化共生のパースペクティブ」　様々なパースペクティブ（視点）を知り考えることで、自分自身の視点（考え方・価値観）もまた多数ある一つにすぎないことを理解する。
4	４章「文化とは何か」　多角的に文化を検証することにより、文化の多様性、流動性を理解する。
5	５章「現実はつくられる―男性と女性」　社会・文化的価値観によってつくられるイメージを（教科書で取り上げられている「女性」以外のイメージにおいても）分析できるようにする。
6	６章「外国人」として生きる　日本社会における「外国人」の人々の現状を理解する。
7	７章「マイノリティとマジョリティ」　差別・偏見を社会の力関係として捉え、日本社会の強者（マジョリティ）と弱者（マイノリティ）の構造を理解する。
8	８章「多文化社会と社会統合のあり方」　日本社会の多様性を認識し、日本における多文化共生社会について自分の意見を考えまとめるようにする。
9	９章「つながる世界―世界を見るレンズ」　世界と日本とのつながりを確認し、今の自分の「世界」を見るレンズ（イメージや考え方が何に影響を受けているのか）を理解し、一つの視点にすぎないことを確認する。
10	１０章「南北問題を考える」　地球規模での経済格差の問題である南北問題について知り、日本・自分との関係性を理解し、問題解決のために自分ができることを考える。
11	１１章「環境問題を考える」　地球規模の環境問題について知り、自分との関係性を理解し、問題解決のために自分ができることを考える。
12	１２章「平和問題を考える」　平和について多角的に考え、日本社会そして世界の積極的平和のために自分ができることを考える。
13	１３章「国際協力と開発」　様々な国際協力のあり方を理解し、世界の人々のために自分ができることを考える。
14	１４章「日本社会と日本人であること」　現在の日本社会の基準・規範・特権を理解し、より平等な多文化共生社会のあり方を自分なりに考える。
15	１５章「未来をつくるために」　これまでの学修を振り返り、どのような未来を自分が望むのか、またそのために何をすることが必要・重要なのかを考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　様々な「多文化共生」への取り組みの中から、自分の興味にそって一例を選び、その活動理念や活動内容について調べ、その効果や課題を自分なりに分析し、レポートを作成する。

＜ポイント＞

地球規模での問題解決は自分の足元から考える必要がある。日本にも、様々なボランティア団体、地方自治体、学校など、多文化共生を目指した活動が数多くある。それらの中から一つを選び、活動について多角的に調べレポートを作成する。また、どんな真摯な取り組みも、必ず改善の必要性や直面する課題があるはずである。その課題を解決するために、自分が今後どのようにその活動に貢献できるかも考えること。

科目終了試験学修のポイント

１．社会・文化的価値観によってつくられるイメージについて（教科書で挙げられている「女性」のイメージ以外）分析し、述べよ。

＜ポイント＞５章では広告や物語によってつくられる「女性」のイメージについて分析した。「女性」以外にもつくられたイメージはたくさんある。各自の興味にそって、社会的イメージの分析をすること。

２．日本の多様性について具体的な例を挙げて、日本における多文化共生社会のあり方について自分の考えを述べよ。

＜ポイント＞日本も多文化社会であることを８章で考えた。多様性の例を一つ具体的に挙げ、共生するためには何が必要か、自分の意見を述べること。

３．　自分の持つ差別・偏見について具体例を挙げ、社会の力関係の視点から振り返り、差別を軽減するために必要な価値観・意識の変革について述べよ

＜ポイント＞文化と差別・偏見の関わりについて５～８章で学んだ。社会生活を営む中で、誰もが差別・偏見から逃れることはできない。しかし、自分の持つ差別・偏見を一つ一つ意識化することで、軽減することはできる。自分自身を振り返り、具体例をあげながら、自分自身の差別的考えを軽減するために必要なことを考え、まとめること。

４．南北問題と日本のかかわりについてまとめ、問題解決のために自分ができることを述べよ。

＜ポイント＞１０章で広がる世界の経済格差について考えた。チョコレートの例を見てもわかるように、世界の貧困は日本と決して無関係ではない。「日本は豊かで良かった」で済ますのではなく、世界の人々と豊かさを共有するために、自分ができることを考え、まとめること。

５．地球規模の環境問題と自分の日常生活を関連づけてまとめ、問題解決のために自分ができることを述べよ。

＜ポイント＞環境問題は大きな問題だが、一人一人の取り組みが大切である。自分の生活と関連づけることで、自分ができることを考え、まとめること。

６．平和について自分の考えを述べ、また平和な社会構築のために必要だと思うことを述べよ。

＜ポイント＞１２章では「平和＝戦争がないこと」だけとは限りらず様々な暴力の形があることを学んだ。その視点から考えると、日本社会は本当に「平和」だろうか。日本の平和、世界の平和について、自分なりの考えをまとめ、より平和な社会を築くために必要だと思うことを述べること。

教科書

松尾知明『多文化共生のためのテキストブック』　明石書店。

参考文献

科目コード	多文化理解入門（２単位）	登録年次	履修方法
1880		１年	R
教員名	内藤伊都子、小笠原眞紀		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

現代はグローバル化の影響で以前にもまして人やモノが国境を越え移動するようになり、文化背景が異なる他者が日常の中で身近に存在している。その一方、文化を共有している人々の間では常識であることも、文化背景が異なると相手は自分と同じ考え方をするとは限らないし、自分とは異なった行動をすることもある。そのような文化の違いにより誤解などが生じることもあるため、「文化」の影響について知ることは多文化共生のために特に大切である。

本講座では、異文化理解の入門書をテキストとして使用する。確認チェックやワーク、解説などが付記されているため、自主学習をしながら進めていける。各テーマを通して、異なる文化背景を持つ様々な他者への理解を深めると共に、自文化、つまりは自分について理解していく。自分とは異なる文化背景を持つ他者に向かい合うことで、自分と自分が属する文化への理解を深めていく。

学修内容

1	異文化を理解する：教科書 pp.19-26。異文化コミュニケーション教育における「異文化」とはどういうものか、なぜ異文化コミュニケーションを教育し、異文化を理解する必要があるのかなど、異文化交流の歴史とともに異文化理解の意義について考察していく。
2	文化とはなにか：教科書 pp.29-38。異文化とは簡単にいえば文化が異なることである。したがって、異文化のもととなるそれぞれの文化とはなにか、異文化理解の基本となる「文化」について、氷山モデルや常識の視点から考察していく。
3	文化の特徴：教科書 pp.41-54。自身が所属している文化は、国籍や民族的な違いだけによるものではない。トータルカルチャーとサブカルチャー、文化の特徴、文化的側面に対する個人的側面と普遍的側面等の視点を通して、身近に存在する文化について考察していく。
4	異文化適応：教科書 pp.57-68。異文化に適応するとはどういうことか、人生において海外で暮らすこと以外にも大学に入学したり引っ越したり、新しい職場に就いたりするなどの環境の変化を経験し、異文化適応が必要な状況が生じる。異文化に適応していくプロセスについて考察していく。
5	シミュレーション：教科書 pp.71-76。異文化コミュニケーションの研究領域では、異文化理解を促進するためのさまざまなトレーニングが考案されている。シミュレーションはそのうちの一つであり、異文化における軋轢や葛藤を実際に感じ取ることができる体験型のトレーニング方法である。シミュレーションにもいくつかの種類があり、バーンガというシミュレーションについて概観していく。
6	違いに気づく：教科書 pp.79-89。異文化理解にとって異なる文化の存在に気づくことは重要である。「行動」「視点」「環境」という 3 つの要素から生じる文化の違いに焦点を当てながら、人はだれでも同じように物事を見たり考えたりするわけではないことを確認していく。
7	異文化の認識：教科書 pp.93-101。ある文化に対して繰り返し生起するイメージや認識は、ステレオタイプによって説明される。異文化に対するイメージはどのように形成されどのような認知プロセスを経るのか、認識のメカニズムについて考察していく。
8	差別を考える：教科書 pp.105-113。異文化の対人関係においては、しばしば偏見や差別が問題となる。異なる者の存在を認めず、否定し、自分たちだけの価値観を押し付けることで起こる問題である。異質な存在として排斥しようとする差別の意識について考察していく。
9	世界の価値観：教科書 pp.117-128。世界には多くの文化が存在し、同様に多くの価値観が存在する。従来の異文化コミュニケーションの研究から多様な文化の価値観を 2 つの対立する考え方で説明する立場もある。自分自身の考え方を確認しながら、文化的価値観に対する理解を深めていく。
10	異文化とトレーニング：教科書 pp.131-140。異文化コミュニケーションの教育の一つに、異文化トレーニングがある。異文化トレーニングは主に知識学習と体験学習に大別されるが、円滑で効果的な異文化コミュニケーションを行うための能力養成としての体験学習の一部を概観していく。
11	異文化受容：教科書 pp.143-152。異文化に接触し、自分とは異なる考え方の存在に気づき、価値観を認め尊重し、受け入れていくことで、新たなアイデンティティの創造へと向かっていく。異文化を受容しながらマルチカルチュラルな人間へと成長するプロセスを探求していく。
12	自分を知る：教科書 pp.155-165。異文化コミュニケーションでは、自文化とは異なる文化を理解するために、自分が所属する文化についても客観的に認識する必要がある。自文化を知るためには自分自身についても理解する必要があるため、自文化の原点である自分について分析していく。

13	非言語コミュニケーション：教科書 pp.169-178。異文化コミュニケーションでは、言語の問題が注目されやすいため、非言語に依存する傾向がある。しかし、非言語コミュニケーション行動にも文化差は存在する。無意識に表出されることもある非言語コミュニケーションの重要性について考察していく。
14	アサーティブ・コミュニケーション：教科書 pp.181-190。異文化環境下や異文化の対人関係においては、自身の目的を達成したり欲求を満たしたりするためにアサーティブ、すなわち主張的なコミュニケーションが必要になってくる。相手を尊重しながらのアサーティブなコミュニケーション・スタイルの方法について概観していく。
15	多文化共生社会の実現に向けて：教科書 pp.193-199。日本国内においても共生社会の問題が考究されている。多文化と共存する社会の実現に向けて、異文化コミュニケーションの視点からなにができるかについて探求していく。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

異なる文化を理解する上でもっとも必要であることあるいはもっとも重要であることはどのような要因であると思うか自身の考えを述べよ。

＜ポイント＞

各テーマで扱った内容を踏まえ、具体的な要因について触れること。なぜもっとも必要、もっとも重要であると考えるのか、他の要因と比較しながら自分の考えや意見をまとめること。

教科書以外の書籍文献やネット等の情報を参考にしたり引用したりする場合は、盗用はせず、必ず出典（書籍名、編著者名、出版社、出版年、URL　等）を明らかにし、レポート内に記載すること。

科目終了試験学修のポイント

１．トータルカルチャーとサブカルチャーについて説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.29-54 を振り返っておく。文化の特徴にも触れながら説明すること。具体例をあげながら自分の考えや意見も含めてまとめていくこと。

２．異文化適応の U 字曲線と W 曲線について説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.57-68 を振り返っておく。適応の各ステージの説明も含めること。具体的な例をあげながら自分の考えや意見とあわせてまとめていくこと。

３．差別を減らすためにはどうしたらよいと思うか、具体的な例をあげながら自身の意見を述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.105-113 を振り返っておく。差別が生まれる背景について考えてみる。具体例とともになぜそれが差別を減らすことに繋がるのかという理由も含めて考えや意見をまとめていくこと。

４．価値観が異なる人同士が共生するとどのような問題が起こると思うか、具体的な例をあげながら自身の意見を述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.118-126 を振り返っておく。自分の価値観の傾向を分析してみる。自分とは異なる価値観をもつ相手とどのように接したらよいか考え意見をまとめていくこと。

５．異文化トレーニングの種類と方法について具体的な例をあげながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.71-74，pp.131-138 を振り返っておく。なぜ異文化トレーニングが必要なのかについてもあわせて述べること。また、具体例とともに自分の考えや意見も含めてまとめていくこと。

６．非言語コミュニケーションの重要性について説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.169-178 を振り返っておく。なぜ重要なのかその理由を明確に述べること。具体的な例をあげながら自分の考えや意見も含めてまとめていくこと。

教科書

原沢伊都夫 著『異文化理解入門』研究社，2013。

参考文献

石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013。

科目コード	地域看護学（２単位）	登録年次	履修方法
6071		３年	R
教員名	高橋登志子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

地域看護とは、生活の場としての地域社会と住民の健康を保持増進するための看護活動であり、「地域保健（Community Health）」「公衆衛生看護学（Public Health Nursing）」と同意語である。本科目では、母子、老人、家族が生活を営む地域（Community）の保健医療・福祉行政施策（サービス）と保健看護諸活動の実際を包括した医療（Comprehensive Medicine）を体系的に学ぶ。この包括的看護活動においては、地域医療機関で行われる「臨床看護実習」等を介して、地域住民のよりよい健康安全とそれを支える地域社会、環境を総合する働きかけを行う実践力を身につける。母子保健、成人保健、老人保健、環境保健、精神保健、地域保健行政施策、地区診断（地域の健康評価）等、広域的な内容が含まれる。養護教諭、社会福祉士、精神保健福祉士などは、地域看護活動を基盤としてそれぞれの専門性を発揮することが重要である。

学修内容

1	地域看護（公衆衛生看護）とは？　教科書：序章　養護教諭の職務と公衆衛生看護（地域看護）に果たす役割を読み、養護教諭が地域看護に果たす役割を理解する。 課題①　地域看護（公衆衛生看護）活動の目的・対象・方法、領域内容についてまとめる。（学校看護と地域看護との連携を認識して、課題①を自らの言葉で、表現し、まとめる。）
2	地域社会と地域看護の考え方を考える。実習先の地域社会を想定し、その地域における保健・医療・福祉関係機関の実態を把握する。地域保健法を調べ、地域住民の健康の実態を把握する。 課題②　地域社会と地域看護（公衆衛生看護）について考え、地域住民の健康把握の方法についてまとめる。
3	地域における健康教育と学校における健康教育について、比較検討しながら、健康教育の重要性を考える。 課題③地域における健康教育の情報を、保健所、保健センター、各種診療所、病院等から収集し、その特性を把握すると共に、学習指導要領の基づいた学校健康教育の全体像を把握し、実習先の学校における健康教育（保健教育・保健指導）の指導案を作成する。
4	学校看護（学校保健）と地域看護（公衆衛生看護）との連携（１）感染症対策と健康危機管理対策について考える。 課題④　地域の保健センター、保健所等を訪問し、資料収集を主として、感染症対策と健康危機管理対策についての資料収集を行うと共に、分析し、その結果を報告書にまとめ、検討する。学校（実習校）における感染症の実態把握とその対策及び健康危機に際しての対策を学び、その特性と連携の実態を把握する。
5	学校看護（学校保健）と地域看護（公衆衛生看護）との連携（２）性教育・母子保健対策について、考える。 課題⑤　地域保健法・母子保健法・学校保健安全法・労働安全衛生法を調べ、対比し、保健師（医師等）、養護教諭（学校医等）、衛生管理者（産業医等）の職務とその特性について理解する。
6	保健福祉医療関係の人的資源、物的資源について、３・５で学んだことを整理する。 課題⑥　思春期保健の課題とその対策、保健行政施策について学び、各領域間の連携の必要性を提言する。
7	学校保健と子ども家庭福祉の連携を学ぶ。教科書第１・２章を熟読する。 課題⑦　養護教諭を目指す人が、社会福祉を学ぶ目的とその意義について考え、自らの言葉で提言する。
8	社会福祉の理念と権利保障　子どもの権利条約を読み、子どもの生命、生活、生存の重要性を認識する。 課題⑧　子どもの権利条約について、その時代背景、条約制定の目的、意義、内容についてまとめる。
9	子どもを養育する権利と義務について学ぶ。教科書第３章を読み、子どもの養育、権利、義務への思考を深める。 課題⑧　親権とは何か？親権を巡る問題について、法律の改定も含めて整理しまとめる。 「ハーグ条約」とは何か、日本の加盟が確実となっているが、その意義と問題点についてまとめる。
10	子ども家庭福祉に関する法体系、児童虐待対策とその課題について考える。 課題⑩　児童福祉法、児童福祉を支える法律の法体系についてまとめ、児童虐待防止対策とその課題、地域ネットワークの必要性を認識する。
11	子ども家庭福祉と地域ネットワーク　教科書８章を読み、地域ネットワークの必要性を認識する。 課題⑪　出身地（市区町村）の要保護児童対策地域協議会について、現状と課題を面接調査する。
12	児童の社会的養護サービスについて学ぶ。社会的養護とは？社会的養護に関わる機関施設等について学ぶ 課題⑫　里親制度の意義と現状、問題点についてまとめる。
13	ひとり親家庭への支援　教科書第７章を読み、ひとり親家庭について理解を深める。 課題⑬　父母の離婚が子どもの心身に与える影響について、近年の動向も踏まえて考察する。
14	要保護児童対策協議会についての面接調査の結果を、レポートにまとめる。 課題⑭　養護教諭の地域協議会へのかかわり方を考察する。
15	子ども家庭支援の実際　教科書９章を読み、子ども家庭支援の具体的実践事例を知る。（事例Ⅰ：虐待を受けた夏子さんへの支援、事例２：夏子さんの不登校への支援） 課題⑮　事例２について、支援の長期目標と短期目標を立案する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 地域社会と地域看護（公衆衛生看護）の考え方を論ぜよ。
＜ポイント＞
地域には、地理的環境を共有しているという「地域性」と共通の関心事や帰属意識、規範や制度を共有する「共同体」の考え方が存在する。「一定の環境（生活圏）や特徴を共有する人々の集まり」である地域社会のよりよい生存を支えるための地域看護（公衆衛生看護）活動が存在する。ここでは改めて、公衆衛生の定義を振り返って、考え、平成 22 年（2012 年）より、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改定により、保健師養成の教育内容は、「地域看護学」から、地域保健・学校保健・産業保健の内容を含む「公衆衛生看護学」に変更となったことに留意すること。

科目終了試験学修のポイント

1．地域と地域社会について
＜ポイント＞
日本国内外の地域を例に挙げ、そこではどのような地域社会を形成しているかについて、社会文化的環境、社会経済的条件、産業等を含めて、その地域住民の特性を人口構成、家族形態、風俗風習、疾病り患傾向、死亡率、乳児死亡率、出生率、日常生活の状況（衣食住）等の指標を用いて、実態を把握し、その地域における公衆衛生行政施策の実態を各種公衆衛生関連施設や専門職種の存在等の指標を用いて把握し、課題解決の糸口を考える。

2．地域看護（公衆衛生看護）活動の際に「地域」を考慮する理由について
＜ポイント＞
地域に生活生存している人々のよりよい健康をめざし、その地域及び地域住民の活性化と自己実現を目標とする地域看護（公衆衛生看護）活動の実践に当たっては、その地域の地理的条件、歴史文化的条件、社会経済的条件の把握を第一のステップとする。「地域」とは、地理的・文化的諸条件を加味し、そこに生活生存する人びとの生活生産活動との相互作用として、把握されるものである。

3．児童生徒等の健康問題を解決するために地域看護（公衆衛生看護）活動の果たす役割について
＜ポイント＞
児童生徒等の健康問題は、それぞれの地域特性を有するものである。家族形態、職業、地域産業、都市計画、住居、交通、人口構成、社会経済的・歴史文化的諸条件も含めた地域ぐるみで判断することが重要である。児童生徒等の健康問題は、学校のみで解決できるものではなく、学校は、家庭、地域との連携が必要である。したがって、より良い健康状態への支援は、地域住民全体の健康危機管理も含めた公衆衛生看護活動の一環としてとらえることが不可欠であることに留意すること。

4．地域看護（公衆衛生看護）は、学校における児童生徒の健康理解とその解決にどのように役立つかについて、具体例を挙げて説明せよ。
＜ポイント＞
事例としての児童虐待、不登校等、児童の人権にかかわる課題解決に当たっては、児童福祉法、児童虐待防止法ほか、多くの法的体系の基に社会的養護の視点から、福祉医療行政施策が必要である。公衆衛生看護は、福祉・医療・保健・心理・教育が一体となった実践活動である。教科書の事例をもとに、不登校夏子さんの背景を理解し、その解決には多くの領域の関係者が、チームを組んで（連携して）問題解決に当たっていることに注目すること。

5．地域保健法について
＜ポイント＞
基本方針、具体的施策に注目して、全体像を把握すること。

6．母子保健、学校保健、産業保健、成人保健、老人保健における地域看護（公衆衛生看護）活動について
＜ポイント＞
人間の一生涯にわたって、人間の生命、健康がどのように守られているかに視点をおいて、各発達段階における心身の健康や生活の特性を把握し、それぞれの発達特性に応じた公衆衛生看護活動の実態を把握すること。

教科書

東京福祉大学大学院教育学研究科『教育の基礎としての公衆衛生看護ノート』教育家庭新聞社。

参考文献

岩波ジュニア新書『子どもの権利条約』岩波書店。

科目コード	地域福祉論（４単位）	登録年次	履修方法
2032		３年	R
教員名	茅野由紀、田代幹康、永澤護、中土純子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

地域福祉の基本的な考え方、主体と対象、係る組織、団体及び専門職の役割と実際、地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法及びその実際について理解する。そして地域福祉の推進方法(ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービス評価方法を含む)についても学ぶ。

学修内容

1	新しい社会福祉システム　教科書 pp.2-13 ①地域福祉の発展過程、②行政と住民の協働による新しい福祉としての地域福祉
2	新しい社会福祉システム　教科書 pp.14-33 ③新しい生活課題に対応する地域福祉、④新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉、⑤福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体の形成
3	地域福祉の基本的な考え方　教科書 pp.36-56 ①地域福祉理論の発展と広がり、②地域自立生活支援と地域福祉の理念、③地域のとらえ方と福祉圏域、④地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の有機的連携
4	地域福祉の主体と福祉教育　教科書 pp.58-76 ①地域福祉の推進と福祉教育、②地域福祉の推進と福祉教育の歩み、③福祉教育の概念と内容
5	行政組織と民間組織の役割と実際　教科書 pp.78-109 ①社会福祉における地方分権化と地域福祉計画、②社会福祉協議会の役割と実際、③社会福祉法人の役割と実際
6	行政組織と民間組織の役割と実際　教科書 pp.110-132 ④特定非営利活動法人の役割とボランティア活動、⑤民生委員・児童委員・保護司、⑥福祉コミュニティビジネスと企業の社会貢献
7	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割　教科書 pp.134-172 ①コミュニティソーシャルワークの考え方、②コミュニティソーシャルワークの展開とシステム、③コミュニティソーシャルワークの方法、④専門多職種のチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク、⑤専門職と住民の関係、
8	住民の参加と方法　教科書 pp.174-194 ①地域福祉推進における住民参加の意義、②市町村社会福祉行政における住民参加、③住民の代表性と参加方法
9	ソーシャルサポートネットワーク　教科書 pp.196-212 ①ソーシャルサポートネットワークの考え方と位置、②ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ、 ③事例から読みとくソーシャルサポート
10	地域における社会資源の活用・調整・開発　教科書 pp.214-238 ①社会資源の活用と開発、②ニーズ対応型福祉サービスの開発、③税制優遇と助成金の活用、④福祉でまちづくりとソーシャルアクション
11	地域における福祉ニーズの把握方法と実際　教科書 pp.240-252 ①地域福祉におけるアウトリーチの意義、②質的な福祉ニーズの把握方法と実際、③量的な福祉ニーズの把握方法と実際
12	地域トータルケアシステムの構築と実際　教科書 pp.254-279 ①地域トータルケアシステムの必要性と考え方、②地域トータルケアシステムの展開方法、③地域トータルケアシステムの事例、④ソーシャルケア従事者の研修と組織化
13	地域における福祉サービスの評価方法と実際　教科書 pp.282-298 ①福祉サービスの評価を必要とする背景、②評価の考え方、③福祉サービスの評価方法と実際、④福祉サービスのプログラム評価とその展開
14	災害支援と地域福祉　教科書 pp.300-312 ①災害支援の考え方と方法、②災害支援の実際
15	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方　教科書 pp.314-329 ①イギリス、②アメリカ

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 コミュニティソーシャルワークの展開方法について、住民の組織化が行われた具体的な事例を挙げながら述べよ。
＜ポイント＞
コミュニティソーシャルワークとはどのような考え方で、どのような手順を踏んで進められるのかを理解する。その上で、住民の組織化が行われた実際の事例を示し、その展開プロセスをまとめること。

【設題2】 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方について述べよ。
＜ポイント＞
イギリスやアメリカ等にて発展してきた地域福祉に関連する考え方などについてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．生活困窮者自立支援制度について
＜ポイント＞
新しい生活課題である生活困窮問題の社会的背景を理解し、生活困窮者自立支援制度の概要と、地域福祉の役割についてまとめること。

2．社会福祉協議会の組織と機能について
＜ポイント＞
社会福祉協議会の役割・組織・機能についてその活動内容なども含めてまとめること。

3．在宅福祉サービスの基盤整備について
＜ポイント＞
わが国における在宅福祉サービスの基盤整備を歴史的展開、法的整備、政府の福祉計画も含めて述べること。

4．地域福祉活動における住民参加の意義と地域福祉計画について
＜ポイント＞
地域福祉活動における住民参加の意義や重要性、市町村地域福祉計画の策定プロセス、行政や福祉機関・施設等との連携について述べること。

5．災害支援と地域福祉について
＜ポイント＞
災害支援に関する法制度、被災者ニーズの時系列変化、求められるソーシャルワーク実践、ボランティアとの関係などについてまとめること。

6．民生委員・児童委員・保護司とその活動について
＜ポイント＞
民生委員・児童委員・保護司制度の法的位置づけも含めてその活動について述べること。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座9 地域福祉の理論と方法 第3版』中央法規、2015年。
東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。

参考文献

なし

科目コード	地域福祉論（４単位）	登録年次	履修方法
2033		２年	R
教員名	田代幹康、永澤護、佐藤惟		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目では地域福祉の基本的な考え方をはじめ、地域福祉に関わる組織・団体や専門職、住民の主体形成の概念、福祉行財政の実施体制や福祉計画の意義、包括的支援体制の考え方などについて学ぶ。現代の地域福祉を取り巻く問題として社会的孤立や 8050 問題、生活困窮者支援、災害時の支援などについても取り扱う。本科目は社会福祉士および精神保健福祉士受験資格の指定科目である「地域福祉と包括的支援体制」に対応するものである。

学修内容

1	第１章　地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題１：「地域社会」や「コミュニティ」という言葉の意味内容の変遷と、現代の地域社会の状況について学ぶ。（教科書 pp.2-19）
2	第１章　地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題２：買い物困難やひきこもり、8050 問題、外国人住民の増加、社会的孤立など多様化・複雑化している地域生活課題について理解する。（教科書 pp.19-36）
3	第 2 章　地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制１：地域包括ケアシステムの考え方と歴史的経過、地域における展開の方法について学ぶ。（教科書 pp.38-43）
4	第２章　地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制２：生活困窮者自立支援制度の目的と概要、「包括的な支援」や「伴走型支援」について学ぶ。（教科書 pp.44-52）
5	第２章　地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制３：子育て・障害領域等を対象とする包括的支援を目的とした機関や、社会福祉法の改正による「包括的支援体制」に向けての展開、「地域共生社会」とは何かを学ぶ。（教科書 pp.52-74）
6	第 3 章　地域福祉ガバナンスと多機関協働１：「ガバナンス」の考え方と多機関協働が重要になった社会的背景、「協議体」や「地域ケア会議」などの多機関協働を促進する仕組みについて学ぶ。（教科書 pp.76-91）
7	第 3 章　地域福祉ガバナンスと多機関協働２：多職種連携のためのチームモデルと、専門職間連携の利点と欠点、個人情報保護、社会資源、地方創生や社会的企業など福祉以外の分野との機関協働について学ぶ。（教科書 pp.92-114）
8	第４章　地域福祉の基本的な考え方１：日本の地域福祉発展に寄与した研究者の仕事や、地域福祉発展の歴史について学ぶ。また、2025 年問題や買い物弱者、空き家問題などの現在の地域福祉の動向について学ぶ。（教科書 pp.116-138）
9	第４章　地域福祉の基本的な考え方２：社会福祉協議会や町内会・自治会、民生委員、NPO などの地域福祉の推進主体と、地域住民の主体形成に向けた福祉教育の必要について学ぶ。（教科書 pp.139-156）
10	第５章　地域を基盤としたソーシャルワークの展開：コミュニティソーシャルワークが求められるようになった社会的背景と、「住民の主体形成」の方法、その具体的展開過程について学ぶ。（教科書 pp.158-197）
11	第６章　災害時における総合的かつ包括的な支援体制：非常時・災害時のための法制度と、被災者が抱える多様なニーズへの対応、他職種との連携、平時からの支援体制の構築について学ぶ。（教科書 pp.200-237）
12	第７章　福祉計画の意義と種類、策定と運用１：福祉計画の定義と歴史的展開や、「市町村地域福祉計画」等に盛り込むべき事項、福祉計画の策定過程等について学ぶ。（教科書 pp.240-267）
13	第 7 章　福祉計画の意義と種類、策定と運用２：福祉計画の策定に不可欠な「ニーズ把握の方法」と、策定後の運用に活用される「プログラム評価」の方法について学ぶ。（教科書 pp.268-283）
14	第 8 章　福祉行財政システム１：福祉行政の推進における国、都道府県、市町村のそれぞれの役割と、国と地方の関係性、地方創生への動きなどについて理解する。（教科書 pp.286-300）
15	第 8 章　福祉行財政システム２：福祉行政の展開に深くかかわっている専門機関とそこで働く専門職間について理解する。また、社会福祉に活用される財源の種類と現状について学ぶ。（教科書 pp.301-323）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 地域における福祉以外の分野との機関協働のあり方について、実際に行われている先駆的な取り組みを 1 つ事例として取り上げ、その取り組みが地方創生や地域福祉の推進に及ぼしている影響について考察しなさい。

＜ポイント＞

「地域福祉ガバナンス」の考え方や、「社会資源」のとらえ方について簡潔に触れた上で、「福祉以外の分野との機関協働」がなぜ重要なのかについてまとめること。その上で事例を1つ取り上げ（必ずしも教科書に載っているものでなくても構わない）、その事例の取り組みが地域に与える影響について、良い点と課題になっている点の両面から考察すること。

【設題2】 災害時に活用される法制度の概要と、被災者のニーズおよび平時からの支援体制のあり方について述べよ。

＜ポイント＞

「災害救助法」「災害対策基本法」等について、「災害時要配慮者支援」や「福祉避難所」を含めてまとめること。その上で、時間の経過とともに変化する被災者のニーズへの対応や、平時からの支援体制構築のための具体的な方法について、あなた自身の経験や考えも交えながらまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1． 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題について

＜ポイント＞

日本における地域社会の歴史的な変化について簡潔に触れた上で、現在地域で生じている多様化・複雑化した生活課題の例を2つ以上挙げ、その内容と必要な支援についてまとめること。

2． 包括的支援体制（包括的な相談支援体制）とその具体例について

＜ポイント＞

「包括的支援体制」とはどのような相談支援体制かについて述べた上で、その具体例である「地域包括ケアシステム」と「生活困窮者自立支援制度」がどのような点で「包括的」なのかまとめること。

3． 地域福祉の推進主体について

＜ポイント＞

地域福祉の推進主体として長く活動している「社会福祉協議会」、「町内会・自治会等」、「民生委員・児童委員」の3つについて、それぞれの概要と活動内容、現在の課題などについてまとめること。

4． 地域を基盤としたソーシャルワークの展開について

＜ポイント＞

地域を基盤としたソーシャルワークが求められるようになった社会的背景を説明した上で、社会的包摂（地域共生社会）形成のための住民学習のあり方についてまとめること。

5． 市町村地域福祉計画の概要と PDS サイクルについて

＜ポイント＞

「市町村地域福祉計画」の概要と、福祉計画の過程モデルである「PDS サイクル」について説明すること。

6． 福祉行政における地方公共団体の役割と社会福祉の実施体制について

＜ポイント＞

福祉行政における都道府県と市町村の役割をそれぞれまとめ、福祉行政の実施機関のうち「福祉事務所」と「児童相談所」の設置場所と業務について、そこで働く専門職の名称も含めて説明すること。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集

『最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座6　地域福祉と包括的支援体制』中央法規。

参考文献

社会福祉学習双書編集委員会編『社会福祉学習双書 2021 第8 巻　地域福祉と包括的支援体制』全国社会福祉協議会。

科目コード	知覚・認知心理学（４単位）	登録年次	履修方法
3610		２年	R
教員名	加藤宏一、成本忠正		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

認知心理学のうち、注意、パターン認知、作動記憶、長期記憶、言語理解、思考などの領域に関して理解する。また、認知心理学における実験の計画・実施方法、データの分析法、モデルの構成法などについて学修し、人の感覚・知覚等の機序及びその障害、人の認知・思考等の機序及びその障害について理解する。

学修内容

1	認知心理学の成立と展開について：認知心理学の誕生の経緯やその後の発展について理解する。 キーワード:実験心理学、情報理論、内的過程、認知革命、認知心理学、情報工学、機能的生物学など
2	知覚と注意について：知覚や注意に関する過程や様々な特徴について理解する。 キーワード：知覚の基本特性、恒常性、体制化、特徴分析モデル、知覚と文脈、マーの円柱理論、カクテル・パーティ効果、注意の分配、選択的注意、有限資源としての注意など
3	知識と表象について：表象および知識の構造について理解する。 キーワード：命題とアナログ表象、スキーマとスクリプト
4	長期記憶の特徴について：長期記憶の符号化、貯蔵、検索に影響を及ぼす諸要因について理解する。 キーワード：リハーサル、処理水準、干渉、体制化、文脈効果と状況依存性など
5	概念と言語について：概念の構造に関する諸理論と言語の獲得過程について理解する。 キーワード：定義的特徴、プロトタイプ理論、家族的類似性、意味ネットワーク理論、言語規則と般化、意味の獲得、臨界期など
6	問題解決と推論の過程について：問題解決へのアプローチとさまざまな推理の過程について理解する。 キーワード：試行錯誤と洞察、計算論的アプローチ、手段－目的分析、ヒューリステックとアルゴリズム、演繹的推論と帰納的推論、推論のバイアス、素朴理論など
7	認知心理学の特徴について理解する。 キーワード：情報処理モデル、実験心理学的方法と認知科学的方法など
8	知覚における文脈効果およびボトムアップ処理とトップダウン処理について理解する。 キーワード：文脈効果、ボトムアップ処理、トップダウン処理
9	視覚および聴覚領域における注意の特徴について理解する。 キーワード：注意、カクテル・パーティ効果、フィルタ・モデル、注意分割課題、閾下知覚、注意の分配、有限資源と処理の自動化、自動処理とコントロール処理など
10	心的イメージ研究から明らかになったこと、イメージ論争について理解する。 キーワード：心的イメージ、二重符号化仮説、心的回転、心的走査、イメージ論争、など
11	スキーマの定義、構造、特徴について理解する。 キーワード：スキーマ、スクリプト、アクション・スリップ、機能的固着
12	記憶の二重貯蔵モデルとその根拠について理解する。 キーワード：二重貯蔵モデル、短期記憶と長期記憶、ブラウン＝ピーターソン・パラダイム、系列位置効果、直後と遅延再生、逆向と前向健忘など
13	短期記憶と作動記憶の類似点・相違点について理解する。 キーワード：短期記憶、作動記憶、リーディング・スパン・テスト、音韻ループ、視空間スケッチパッド、中央制御系、二重課題法など
14	日常場面における記憶研究について理解する。 キーワード：展望記憶、リアリティ・モニタリング、メタ記憶、自伝的記憶、フラッシュ・バルブ記憶、トラウマ経験の記憶、偽りの記憶など
15	様々な種類の推論について理解する。また、推論課題を用いて明らかになった推論の特徴について理解する。 キーワード：演繹的推論、帰納的推論、Wason 課題、主題内容効果、メンタル・モデル、カテゴリー推論、アブダクション、推論のバイアス、など

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 短期記憶、長期記憶、作動記憶という用語を用いて、人間の記憶の仕組みとその特徴について述べよ。
＜ポイント＞
まず、人間の持つさまざまな記憶の特徴と役割をまとめた上で、それぞれの記憶の間にどのような関係があるかをまとめること。さらに、人間にとって記憶が何故重要なのか、その意義が考察されているとなお良い。

【設題2】人の感覚・知覚等の機序、人の認知・思考等の機序について、いずれかを選択して述べよ。
＜ポイント＞
「機序」とは一般的には仕組みやメカニズムと解される。本科目の学修内容だけでなく、「心理学概論」で学んだ“心の仕組み”に関する領域についての学修内容等も振り返りながら、教科書、及びその他参考文献等も参照しながらまとめてもらいたい。なお、レポート設題は、感覚・知覚等を選択する場合は、「人の感覚・知覚等の機序について述べよ。」、認知・思考等を選択する場合は、「人の認知・思考等の機序について述べよ。」とすること。

科目終了試験学修のポイント

1．認知心理学の成立と展開について
＜ポイント＞
認知心理学の誕生の経緯やその後の発展について述べる。具体的には、実験心理学の誕生以降、どのような流れの中で認知心理学という心理学の分野が誕生したのか、そしてその後、どのような変貌をとげてきたのかについてまとめる。
キーワード：実験心理学、情報理論、内的過程、認知革命、認知心理学、情報工学、機能的生物学など

2．知覚と注意について
＜ポイント＞
知覚や注意に関する過程や様々な特徴の中から興味・関心があるものについて述べること。なお、具体例を用いて説明することが望ましい。
キーワード：知覚の基本特性、恒常性、体制化、特徴分析モデル、知覚と文脈、マーの円柱理論、カクテル・パーティ効果、注意の分配、選択的注意、有限資源としての注意など

3．知識と表象について
＜ポイント＞
表象とは何か、知識の構造について認知心理学研究からどのようなことが明らかになっているのかについて述べること。
キーワード：命題とアナログ表象、スキーマとスクリプト

4．長期記憶の特徴について
＜ポイント＞
長期記憶の符号化、貯蔵、検索に影響を及ぼす諸要因について説明すること。なお、具体例を用いて説明することが望ましい。
キーワード：リハーサル、処理水準、干渉、体制化、文脈効果と状況依存性など

5．概念と言語について
＜ポイント＞
概念と言語について：概念の構造に関する諸理論と言語の獲得過程について説明すること。
キーワード：定義的特徴、プロトタイプ理論、家族的類似性、意味ネットワーク理論、言語規則と般化、意味の獲得、臨界期など

6．問題解決と推論の過程について
＜ポイント＞
問題解決と推論の過程について：問題解決へのアプローチと様々な推理の過程について理解し、興味・関心のある問題解決や推論の方法について、具体例を用いて説明すること。
キーワード：試行錯誤と洞察、計算論的アプローチ、手段－目的分析、ヒューリステックとアルゴリズム、演繹的推論と帰納的推論、推論のバイアス、素朴理論など

教科書

道又爾『認知心理学―知のアーキテクチャを探る』有斐閣。

参考文献

森敏昭、他『認知心理学キーワード』有斐閣。

御領謙『最新認知心理学への招待』サイエンス社。

科目コード	知的障害教育Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
6280		３年	ＳＲ
教員名	木内正範、工藤傑史、須藤典征、立松英子、西脇雅彦		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

本科目では、特別支援教育の理念や我が国の現状をおさえながら、知的障害教育の教育課程の基礎的事項を学ぶ。具体的には、各種教育計画（個別の指導計画・個別の教育支援計画・年間指導計画・学習指導案など）、各教科、領域、各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、生活単元学習、作業学習、遊びの指導）のねらいや内容、また、児童生徒の実態把握のための各種アセスメントの基礎知識などが含まれる。

学修内容

1	オリエンテーション／障害児教育の動向と改革 Key words：ノーマライゼーション、インクルーシブ教育、ICIDH と ICF、障害者の権利に関する条約
2	特別支援教育への改革 Key words：特殊教育と特別支援教育、特殊学級と特別支援学級、通級指導教室、特別支援教育コーディネーター、個別の教育支援計画、就学基準と認定就学者
3	知的障害児の教育課程　(学校教育法施行規則第 130 条、131 条、特別支援学校学習指導要領解説総則等編　pp.242-248) Key words：p.78 図、領域、教科、領域・教科を合わせた指導、日常生活の指導、作業学習、生活単元学習、遊びの指導
4	知的障害児の教育活動 Key words：教科指導、領域・教科を合わせた指導、食育、職業教育とキャリア教育、自立活動
5	各種教育計画の概要 Key words：実態把握、PDCA サイクル、個別の指導計画、個別の教育支援計画、年間指導計画、学級経営計画
6	発達の概念と発達評価 Key words：発達評価、発達理論、発達の最近接領域、知能検査、発達指標
7	各種障害の特徴と対応 Key words：知的障害の定義、自閉症の診断基準、発達障害者支援法、発達障害と知的障害、自閉症との関係ダウン症、染色体異常、てんかん
8	事例について考える Key words：自閉症の障害特性、行動障害、同一性の保持、感覚過敏
9	知的障害に合併する自閉症と行動障害 Key words：自閉症の診断基準、シンボル機能、視覚-運動機能、強度行動障害、移動支援と行動援護
10	各種指導方法、教材・教具 Key words：教材観、発達の最近接領域、主体性の尊重
11	保護者や他機関との連携 Key words：乳幼児健診、教育相談、子ども家庭センター、発達障害センター、就労支援、特例子会社臨床心理士、臨床発達心理士、特別支援教育支援士、特別支援教育コーディネーター
12	行事の立案と留意点 Key words：学校行事、特別活動、儀式的行事、宿泊学習
13	キャリア教育の動向 Key words：学習指導要領の改訂、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力
14	知的障害児とライフステージ Key words：早期発見・早期対応、障害児療育、統合保育、インクルージョン、後期中等教育、放課後活動、青年学級
15	知的障害教育の現状と課題（まとめ）特別支援学校学習指導要領解説総則等編　p.425 Key words：特別支援学校学習指導要領改訂のポイント

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 平成１８年度までの「特殊教育」と、平成１９年度から始まった「特別支援教育」の違いを述べ、特別支援教育の理念と目的についてまとめよ。

＜ポイント＞

世界的なノーマライゼーションの流れを受け、障害のある子どもへの教育理念が大きく変わった。特別支援教育に携わる専門家をめざす者として、現在教育の現場で求められている変革の根拠と、今後のあるべき姿について知っておくこと。

科目終了試験学修のポイント

１．特別支援教育の理念と基本的考え方について

＜ポイント＞

ICF（2001、pp.22-23）の発表とともに、障害は、個人と環境の相互作用(誰にでも起こりうる状態)ととらえられるようになった。

「障害者の権利に関する条約」の成立とあいまって、共生社会の実現に向かって世界中が動いている。昨年度は共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）が発表され、学校教育では「合理的配慮」が具体的に検討されることとなった。「特別支援教育」はこれらを背景に、通常の学校でも行われるもの、これまで障害と認識されていなかったADHD、LDなどを伴う場合も含めて行うよう、法律も学習指導要領も改正されている。

２．「知的障害」の定義と「発達障害」等との関係について

＜ポイント＞

自閉症の半数に知的障害があり、発達障害者支援法で定義される「発達障害」の筆頭に自閉症がある。しかし、従来医学でいわれてきた「発達障害」は発達期に起こるすべての障害を含むものである。この関係を整理して考えること。

３．知的障害児のための教育課程編成について

＜ポイント＞

学校教育法施行規則第130条の2、及び131条を読むこと。領域・教科を合わせた指導(各教科等を合わせた指導)については、学習指導要領解説総則等編のpp.244-248に解説がある。

４．個別の指導計画と個別の教育支援計画の違いについて

＜ポイント＞

字面が似ているのでよく混同される。Web 上には各自治体の教育委員会が作成したひな形や記入要領が乗っているので調べておくこと。

５．交流教育及び特別支援教育コーディネーターの仕事について

＜ポイント＞

学習指導要領の改訂で、交流及び共同学習が推進されるようになった。異種学校間の交流においては、特別支援教育コーディネーターが活躍することになる。文部科学省では、ガイドラインをweb上に公表しているので調べておくこと。

６．重度の知的障害に対して行うアセスメントの概要について

＜ポイント＞

知能検査は言語の教示に応じる形式のものが多く、言語操作が困難な子どもには適用できない。その代わりに、子どもの行動観察を通して発達を測定する「発達評価」が使用される。様々なものが開発されているので、調べておくこと。

教科書

玉村公二彦、他『新版　キーワードブック　特別支援教育』クリエイツかもがわ。

参考文献

文部科学省

『特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚部・小学部・中学部）（平成21年6月）』教育出版。

『特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）（平成21年6月）』海文堂出版。

科目コード	知的障害教育Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
6290		３年	R
教員名	木内正範、工藤傑史、須藤典征、立松英子、西脇雅彦		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、特別支援学校の新しい学習指導要領改訂のポイント、及び自立活動の意義、各区分と内容（6 区分・26 項目）、教材・教具の活用について学ぶとともに、個別の指導計画や学習指導案等を作成し、実際に授業を行う力を身につける。また、知的障害者の福祉や就労に関する今日的話題を取り上げ、学齢期の生活全般及び学校教育修了後の進路や生活に見通しをもって教育内容を考える資質を養う。

学修内容

1	オリエンテーション／知的障害者を取り巻く世界 Key words：ノーマライゼーション、インクルーシブ教育、ICF、障害者の権利に関する条約、障害者虐待防止法 合理的配慮
2	知的障害者を教育する特別支援学校の現状　（内閣府　学校基本調査や参考書：日本文化科学社「発達障害白書」の在籍数のデータ、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校に在籍する児童生徒の増加の実態と教育的対応い関する研究」など） Key words：特別支援学校への人口流入、教員の配置、専門性の向上、障害者雇用との関係
3	知的障害教育の教育課程と実態把握 Key words：アセスメント、PDCA サイクル、指導計画、教材・教具
4	各種教育計画の作成と評価 Key words：個別の指導計画、個別の教育支援計画、絶対評価、個人内評価、評価基準、評価規準
5	日常生活の指導の実際と指導計画　（特別支援学校学習指導要領解説総則等編　p.246） Key words：衣服の着脱、洗面、手洗い、排せつ、食事、清潔、挨拶、言葉遣い、礼儀作法、時間やきまりを守る
6	生活単元学習の実際と指導計画（特別支援学校学習指導要領解説総則等編　p.247） Key words：見通し、課題意識、習慣形成、生活態度
7	作業学習の実際と指導計画　（特別支援学校学習指導要領解説総則等編　p.248） Key words：農耕、園芸、紙工、木工、縫製、織物、金工、印刷、調理、食品加工、クリーニング、販売、清掃、接客
8	行動障害への対応 Key words：同一性の保持、感覚過敏、シングルフォーカス、強度行動障害、二次的障害
9	事例について考える
10	自立活動の位置づけと内容 Key words：主体性の尊重、心身の調和的発達、健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、 コミュニケーション
11	交流及び共同学習 Key words：共生社会の実現、インクルーシブ教育、合理的配慮
12	キャリア教育と就労支援(Key words：進路指導とキャリア教育、個別の移行支援計画、障害者総合支援法
13	学校組織における危機管理 Key words：不審者対応、宿泊行事、水泳学習、災害時危機管理、安全管理マニュアル、ハインリッヒの法則
14	就学相談の実際と保護者への対応 Key words：就学相談、統合保育、インクルーシブ教育、個別の就学支援計画
15	知的障害のある子どもの教育課題（まとめ）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 「自立活動」の目標と意義、教育課程上の位置づけ、各区分と具体的な指導内容について述べよ。
＜ポイント＞
「自立活動」は障害児教育の特別な指導領域として発展してきた。ここでの「自立」は一般的な自立と意味が異なる。障害児教育における「自立活動」の重要性をふまえた上で、教育実践にどのように反映されるのかも調べること。

科目終了試験学修のポイント

1．特別支援学校学習指導要領改訂のポイントについて
＜ポイント＞
特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（平成30年3月)を確認し、改訂の経緯や基本方針、要点をおさえること。

2．「自立活動」の6区分とその内容について
＜ポイント＞
「自立活動」は以前5区分22項目であった。しかし、平成19年の特別支援教育の制度化に伴い、21年3月告示の学習指導要領では6区分26項目になっている。変わった部分とその理由も調べておくこと。

3．特別支援学校（知的障害）の「学習指導案」作成上の留意点について
＜ポイント＞
特別支援学校の授業は、チームティーチングが通常の形態である。とりわけ、知的障害特別支援学校では、障害や発達の実態の異なる小グループで行うことが多い。指導案には、必ず「個別の目標と手立て」「サブ教員の動き」が記載されているはずである。そのような特色を踏まえて自分も書けるようにしておくこと。

4．「個別の指導計画」作成上の留意点について
＜ポイント＞
「個別の指導計画」の目標設定は個別のものであり、その生徒の実態に合ったものでなくてはならない。1年たっても達成できないような目標、達成の可否が客観的に確認できないような目標は適さないのである。このほかにも、具体的な留意点があるので、確認しておくこと。「個別の指導計画」のひな型やその理念については、多くの都道府県教育委員会から、そのモデルがweb上に掲載されている。

5．「キャリア教育」の意義について
＜ポイント＞
職業教育とキャリア教育の違いを認識しておくこと。詳細は、国立特別支援教育総合研究所のwebsiteに載っている。

6．知的障害者が陥りやすい生活上の困難と、高等部で備えるべき対策について
＜ポイント＞
知的障害は脳の中枢の障害であり、読み書き計算だけでなく生活に必要な運動動作や学んだことの応用など、あらゆる面に不便さが生じてくる。これらを踏まえながら、就労や社会生活で必要なスキルをどのように培っていくか、考えておこう。

教科書

玉村公二彦、他『新版　キーワードブック　特別支援教育』クリエイツかもがわ。

参考文献

日本発達障害福祉連盟『発達障害白書（最新版)』日本文化科学社。
文部科学省
『特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚部・小学部・中学部)』教育出版。
『特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部)』海文堂出版。

科目コード	知的障害教育総論（２単位）	登録年次	履修方法
6340		３年	R
教員名	木内正範、工藤傑史、立松英子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、知的障害のある児童生徒への教育的支援のほか福祉制度、国際的動向など、障害者を取り巻く現状など、幅広い視野から知的障害教育について学んでいく。国際的な「障害者の権利に関する条約」、国内の法令である「障害者基本法」「発達障害者支援法」等や、特別支援学校学習指導要領にあらわれる知的障害教育の理念を理解するとともに、グレーゾーンの子どもが在籍する小学校･中学校での教育や、各種指導法（応用行動分析、TEACCHプログラムなど）も含めて基礎的な知識を身につける。

学修内容

1	「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築」（pp.17-23）。「障害者の権利に関する条約」の批准に向けた国内法（障害者基本法、障害者差別解消法、障害者虐待防止法、学校教育法施行令等）改正の経緯を踏まえ、「インクルーシブ教育」、「合理的配慮」など、新しい時代のキーワードの意味を、その背景とともに説明できるようになる。
2	「インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」（pp.24-48）。知的障害児（者）として遭遇する社会的状況及び、障害児教育の歴史、制度の変化、対象の拡大、教育課程の編成の原則を踏まえて、共生社会の形成に向けて特別支援教育の将来を展望する。科目終了試験のポイント→「日本における知的障害児（者）の現状について」
3	「特別支援学校の教育（１）」（pp.49-64）。特別支援学校における教育課程の編成、知的障害教育の教育課程の特徴、自立活動の６区分、22 項目などを学修する。学校教育法施行規則第 130 条の２（各教科等を合わせた指導）や学習指導要領解説自立活動編等を参照のこと。レポート課題→「知的障害教育の教育課程・各教科等を合わせた指導」
4	「特別支援学校の教育（２）」（pp.65-68）。特別支援教育が制度化されて８年、制度は整ったがその内容はどうだろうか。特別支援教育コーディネーターや特別支援学校のセンター的機能の進展に着目しながら、小･中学校や関係専門機関との連携の概要と実際を知る。科目終了試験のポイント→「日本における知的障害児（者）の現状について」
5	「小学校･中学校等における特別支援教育」(pp.69-73)。発達障害、個別の指導計画･教育支援計画、交流及び共同学習、関係機関との連携等をキーワードとして、グレーゾーンの子どもの激増を背景とした、平成 20 年度の学習指導要領改訂における変化の意味を説明できるようになる。科目終了試験のポイント→「日本における知的障害児（者）の現状について」
6	「小学校･中学校等における特別支援教育」(p74-79)。特別支援学級、通級指導教室、院内学級における指導や、幼稚園や高等学校における特別支援教育の推進状況について知識を得る。科目終了試験のポイント→「特別支援学級の現状と課題」
7	「特別支援教育関係法令」（pp.80-88）。学校の教育活動には、全て法的根拠が存在する。知的障害教育においては、例えば「学校教育法施行規則」では、条項の第２項として特別に項立てされている部分が多い（第 130 条の２等）。重複障害についての記述（学校教育法施行規則第 131 条）と特別支援学校学習指導要領との関連についても確認しておく。
8	「知的障害の基礎知識と実態把握」（pp.153-155）。知的障害の定義や特性、それらが法令（学校教育法施行令や同規則等）、学習指導要領にどのように反映されているかを知った上で、各種心理検査について、その種類や概要を調べておく。
9	「知的障害のある子どもに応じた教育課程編成」（pp.156-161）。教育課程編成の基盤となる法令について復習しつつ、知的障害を伴う幼児児童生徒への教育的対応の基本を学ぶ。レポート課題→「知的障害教育の教育課程・各教科等を合わせた指導」
10	「各教科等の指導、キャリア教育、自立活動、情報機器活用」（pp.162-186）知的障害教育で重視されている指導内容について学修する。科目終了試験のポイント→「知的障害教育におけるキャリア教育･職業教育について」、下記参考書や WEB などを参考とする。例えばインクル DB（国立特別支援教育総合研究所のサイト）。
11	「重複障害のある子どもの指導」（pp.244-270）。重複障害とは何か、知的障害との関連、教育課程の取り扱い、実態把握、指導の実際、情報機器を含めた教材教具の活用などの基礎知識を得る。教材教具は、特別支援教育関連 web サイトを参照のこと。例えば、特別支援教育のおもちゃ箱　http://kotan.at-ninja.jp/
12	「発達障害の基礎知識・自閉症の子どもに応じた指導」（pp.313-331）。知的障害を主たる対象とした特別支援学校では、約半数が自閉症スペクトラムを伴っているといわれる。「発達障害」「自閉症スペクトラム」等の用語及び知的障害との関連を正しく理解した上で、専門的な指導方法について情報を集め、実践場面に対応できるようにしておく。科目終了試験のポイント→「自閉症スペクトラムの教育について」。
13	「注意欠陥／多動性障害（ADHD）の理解と対応」（pp.343-352）。ADHD の診断は、知的障害や自閉症スペクトラム、LD との重なりがしばしば議論され、また、最近は、DSM（アメリカの診断基準）の変化により、その診断にも微妙な変化が出てきている。教科書だけでなく、WEB 上の情報も参考に、もっとも新しい情報を得ておくこと。
14	「障害のある子どもへのアセスメント、専門家との連携」（pp.361-371）。アセスメントは、常に「子どもの利益のために」という理念にもとづき実施されなければならない。実態把握から実践の PDCA サイクルが学校の中で具体化されていく過程で、専門家との連携は重要であり、年間計画の中に位置づけられる必要がある。専門家の話を理解するためには、発達評価を含む各種心理検査の基礎知識を身につけ、自分でも実施できるものがあることが望ましい。これらを踏まえて学んでいく。

15	「特別支援学校の教員養成にかかる現状と課題」近年、発達障害圏の児童生徒数の増加に専門性のある教員の養成が追いつかない状況があり、現職研修の重要性が指摘されている。我が国の学校教育課題の観点から、特別支援教育の意義や重要性について理解しておく。科目終了試験のポイント→「特別支援学校の教員養成にかかる現状と課題について」。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 知的障害教育の歴史や社会的な現状を通して、知的障害教育の教育課程の二重構造とそれを特徴づける要素としての「各教科等を合わせた指導」の必要性及びその意義について論じなさい。

＜ポイント＞

知的障害児（者）の特性、発生状況、また現在どのような課題を背負いながら社会参加しているかについてを理解すると、おのずと「合わせた指導」が知的障害教育の中心になっている理由が見えてくる。なぜ「合わせた指導」なのか、「合わせた指導」で何を教育するのか、その背景を分析しながら論述する。(特別支援学校学習指導要領解説総則等編pp.245-250参照)

科目終了試験学修のポイント

1．日本における知的障害児（者）の現状について

＜ポイント＞

知的障害の発生について、その特性、定義、障害者総合支援法等の法制度についてまとめながら、彼らが社会でどのような生活をしているのか、を調べておく。

2．知的障害教育における「合わせた指導」の意義について

＜ポイント＞

知的な障害を伴う場合の特例としての「合わせた指導」4点について、具体的な例を挙げながらそれぞれの意義や目的、内容について調べておく。　(特別支援学校学習指導要領解説総則等編 pp.245-250 参照)

3．知的障害教育におけるキャリア教育･職業教育について

＜ポイント＞

特別支援学校では、中学部、高等部と年齢が上がるにしたがい地域の小中学校からの入学が増えていく。また、企業就労を目指す高等部単独校の設置が各地で進んでいる。これらを背景に、知的障害者の進路や就労を展望しながら、学齢期に行なうキャリア教育･職業教育の課題を考える。(「特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック」　参照)

4．特別支援学級の現状と課題について

＜ポイント＞

特別支援学校と特別支援学級は、同じ「分けた場」であっても、教育委員会の位置づけや法的根拠も全く違っている。その違いを明らかにした上で、特別支援学級の現状と課題について整理する。

5．自閉症スペクトラムの教育について

＜ポイント＞

自閉症スペクトラムを伴う子どもを取り巻く現状と課題、また行動障害への対応や教育方法についても説明できるようにしておく。

6．特別支援学校の教員養成にかかる現状と課題について

＜ポイント＞

特別支援学校教員免許状の保有率は、改善しつつあるといえどもまだ十分とはいえない。その現状を踏まえて、特別支援教育に関する教員免許制度の改善において、文部科学省が何をねらっていたかを明らかにしておく。

教科書

独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所　『特別支援教育の基礎･基本　新訂版』　ジアース教育新社。

参考文献

独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所のサイト http://www.nise.go.jp/cms/1.html

独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所『特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック』ジアース教育新社。

全日本特別支援教育研究連盟編／名古屋恒彦責任監修『基礎から学ぶ知的障害教育」日本文化科学社。

『特別支援学校学習指導要領解説　総則等編』教育出版。

『特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編』海文堂出版。

科目コード	知的障害者の心理・生理・病理（２単位）	登録年次	履修方法
6250		２年	ＳＲ
教員名	上田征三、木内正範、須藤典征		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

ダウン症、自閉症などの知的障害のある児童生徒の心理面の特徴及び各障害に附随する行動特徴について理解する。また、知的障害や肢体不自由、病虚弱として区分される各障害や病気の発生メカニズム（染色体異常、周生期における脳機能障害、てんかん発作の合併、脳性マヒ、腎臓病、喘息、ネフローゼ症候群など）について、医学的観点から学び、種々の障害に対する理解を深める。さらに、特別支援学校での具体的な指導内容や、個々の児童生徒の心理・生理・病理特性に合わせた配慮のあり方について検討する。

学修内容

1	てんかん 特別支援学校に在籍する児童生徒の中には、てんかん発作を有する者の割合が少なくない。そうしたてんかんの成因や、治療法の種類、発作時の対応などについて、基本的な理解を深めていくと共に、てんかんを巡る教育上の課題について学ぶ。
2	ダウン症 ダウン症は 1000 人に 1 人の割合で生まれ、知的障害児の約 1 割を占めるとされている。特別支援学校にも多くのダウン症児が在籍しているため、その障害特性や早期教育のあり方について幅広く学ぶ。
3	早期発見・早期対応 障害のある子どもの支援には、できるだけ早い時期から、個々の障害特性に応じた対応を進めていくことが望ましい。保健センター等で実施している 1 歳半検診、3 歳児検診、一部の地域で取り組み始められている 5 歳児検診など、早期発見・早期対応の現状について理解を深める。
4	広汎性発達障害 広汎性発達障害は、現在、自閉症スペクトラム障害（ASD）として括られる診断概念ではあるが、3 つの主要となる特性によって区分されてきた。広汎性発達障害は知的障害特別支援学校の中での割合が比較的高いため、医学的な診断概念の広がりや変化などを踏まえながら、障害特性などについて、包括的に学ぶ必要がある。
5	広汎性発達障害に関連する指導法等 TEACCH プログラムは、米国のノースカロライナ州全域における自閉症児者とその家族への生涯にわたる支援システムを意味する。TEACCH プログラムをはじめ、広汎性発達障害に関連する指導法について、学びを深めていく。
6	アスペルガー症候群と高機能自閉症 アスペルガー症候群は、知的障害を伴わない広汎性発達障害で、早期の言語能力に大きな問題を持たない者を意味している。知的に遅れがないため、通常の学級などに在籍する場合が多く、課題も少なくない。アスペルガー症候群の学校での対応などについて理解を深める必要がある。
7	アスペルガー症候群に関連する内容等 「心の理論」（Theory of mind）とは、人が他者の意図や信念を把握する能力を意味している。心の理論を扱ったサリーとアンの実験では、アスペルガー症候群など広汎性発達障害の人は、他者の心情の理解に困難さを示すことなどが明らかにされている。心の理論と関連する自閉症の社会性や心理面での障害特性について、より詳しく学ぶ。
8	ADHD の子どもへの対応 ADHD は不注意と多動、衝動性を主な症状とする行動上の課題を持つ発達障害とされている。近年、LD や広汎性発達障害と共に、通常の学級に在籍する割合も高くなっており、こうした ADHD の特性や対応の仕方などを学ぶ。
9	学習障害（LD） 学習障害とは、聞く、話す、読む、書く、推論するなどの能力のうち、特定の能力の習得と使用に著しい困難を示す状態を指す。こうした学習障害児の心理的なケアを理解することは欠かせない内容である。
10	知的障害１ 特別支援学校においては、知的障害を併せ持つ児童生徒が大半を占めている。したがって、知的障害の特性や対応のあり方について包括的に理解していくことは、特別支援学校の教員を目指す上で必須の課題である。
11	知的障害２ 特別支援学校では文部科学省が示す「学習指導要領」に沿って様々な教育活動が展開されていく。知的障害教育の歴史的な変遷や教育課程の内容、指導法等についての理解を深めることが必要である。
12	知的障害に関連する内容 特別支援学校や特別支援学級で行われている教育の形態（例えば教科別の指導、領域・教科を合わせた指導、領域別の指導（自立活動の指導）などについて、多方面から学ぶ。
13	重複障害１ 重複障害の子どもの教育に関しては、肢体不自由特別支援学校や病弱特別支援学校等で主に展開されているが、その中でも医療的ケアの必要な児童生徒も少なくない。医療的ケアについては、これまでにも様々な形で議論されてきたが、その経過や実際に学校現場で進められている内容、取り組んでいくための諸課題について、十分理解していくことが必要である。

14	重複障害２ 　インクルージョンは包括的な教育として位置づけられるが、障害児に対する特別なケアや支援を否定するものではない。障害があるか無いか、重度か軽度かなどの区別無く、全ての子どもたちが適切な支援を受けられるための施策や取り組みについて学んでいく。
15	障害児の公的支援制度について 　特別支援教育に関連する様々な施策や制度等について、学校教育だけでなく、福祉施策、障害の概念の変遷（ICIDH から ICF へ）などについて、支援者として幅広く学ぶ必要がある。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】染色体異常が原因で起こるダウン症の心理・生理・病理的特徴を挙げ、早期からの発達支援の意義について述べよ。

＜ポイント＞

　ダウン症は臨床的な特徴がはっきりしているため、早期からの発見が可能とされている。また、身体及び知的な発達が全般に遅れがちで、心臓疾患やてんかん、耳鼻科、眼科的合併症を伴う場合が多い。こうしたダウン症の心理・生理・病理的特徴について解説するとともに、早期からの療育や経験の蓄積により、彼らの才能や可能性を大きく広げられることについても論述すること。

科目終了試験学修のポイント

１．てんかんの主要原因、介護法、治療法について

＜ポイント＞

　てんかん発作とけいれん発作の違い、てんかんの原因、発作時の対応や治療法について理解することが重要である。

２．ADHD（注意欠陥多動性障害）の主要症状と支援のあり方について

＜ポイント＞

　ADHD の主要症状、年齢や教育の場に応じた支援のあり方について、実践事例などを参考に、よく学修してもらいたい。

３．自閉症児の主要症状と支援のあり方について

＜ポイント＞

　自閉症を中心とする広汎性発達障害について、３つの特徴を中心とする症状や、障害の特性に応じた支援のあり方について最新の情報などを参考に、理解を深めてもらいたい。

４．TEACCH プログラムについて

＜ポイント＞

　広汎性発達障害の支援に有効とされる「TEACCH プログラム」の理念や援助方法についてよく学修してもらいたい。

５．重複障害児の日常生活における配慮点について

＜ポイント＞

　脳性まひや肢体不自由のある子どもたちが、健康面に留意しながら、学校で安定した日常生活を送るために留意すべき点についてよく学修してもらいたい。

６．知的障害のある子どもの学習上の特性について

＜ポイント＞

　知的障害のある子どもの学習上の特性について理解を深めてもらいたい。ボランティアなどを通して、実際に教育現場に入ることも大切な学修の一つである。

教科書

玉村公二彦、他『新版　キーワードブック　特別支援教育』クリエイツかもがわ。

参考文献

高木俊一郎『目で見る障害児医学』学苑社。
日本小児神経学会機関誌『脳と発達』診断と治療社。

科目コード	中国の文化と言語Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
1110／1111		１年	ＳＲ
教員名	岡安栄子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

初心者を対象に、中国語の基礎を学修する。やさしく正確に、しかも気軽に話せるように、まず簡単な会話を理解する。同時に、古来より日本にはかりしれない影響を与え続けてきた、「隣の国」中国の文化と歴史についても学修していく。国連公用語に指定されている、国際語としての中国語の言語的特徴（リズミカルな美しい音調等）を理解し、簡単な会話であれば、気軽に正確に使えるようになることをめざし、学修を進めていく。

学修内容

1	５千年といわれる長い歴史の中で培われた文化と、表意文字である漢字を使う中国語の学修を通して、中国を理解して行く科目である。教科書は『入門・北京カタログ』（朝日出版社）を使用する。イラストや写真が多く、独習者が楽しめる構成になっている。春・夏・秋・冬の４章に分かれていて、「中国の文化と言語Ⅰ」では、春の章、夏の章、秋の章（一部）を学ぶ。 教科書の春の章は中国語の発音について説明している。スクーリングで実際の音声で学ぶ前に、イラストを眺めながら、中国語はどんな言語であるかを想像してみるのもよい。２日間のスクーリングで中国語をどのように読み、発音するかを理解し、文型、日本語との違いを学ぶことができる。その上で、科目終了試験の中国語会話文を読み、日本語に訳す。文章題については、コピー教材やディスカッションを通して理解する。事前に何か読んでおきたい、という受講生には、教科書の著者、相原茂著『はじめての中国語』講談社現代新書、がある。中国語がどんな言語であるかが易しく解説されている。
2	【レポート設題、科目終了試験で求められる記述について】 長い、短いに関わらず、学修レポートは論説文であり、客観視した表現が求められる。段落を用いて話題の展開を明示し、テーマに添った内容で構成していく。文章は基本的に書き手の考えや思いを書くものであり、「～と考える」「～と思う」の多用を避けて具体的な表現にする。また、ラブレターは誰をも名文家にするというように、書きたいこと、論じてみたいことをテーマにすることによって、文章は書きやすくなる。レポート作成も例外ではない。当科目設題のテーマは広い選択幅があり、自分が興味をもつテーマを探してレポートを作成し、科目終了試験の文章題を考えて試験に備えてほしい。
3	【レポート設題について】 長い中国の歴史から自由にテーマを選んで論述する。興味のある分野、事柄を中国史のなかで考察してみよう。 歴史は繰り返し、継続し、そして発展していく。紀元前に統一王朝ができてから今日の中華人民共和国まで、多くの王朝や国の興亡があった。文化、民族、風習、政治、経済、芸術の歴史があり、物語に残る人物がいる。その中から、語りたい事、物、人を選び、語りやすい２つの時代、国、王朝で対比させる。
4	【レポート設題のポイントについて】 例として、王朝の歴史や制度を語る場合、王朝全体を概説するのではなく、例えば、２つの王朝・国の成り立ちの違い、人口や面積を対比してみる、など、テーマを絞って具体的に論じるとよい。同じ時代の日本の状況も語ってみるのも興味深い。宦官、纏足など中国独自の風俗習慣はどのように引き継がれてきたのか、日本にも違う形で行われたのではないか、と、日本の歴史に思いを馳せてみる。漢字、陶磁器、服装の歴史、人物では、始皇帝とラストエンペラー、民族の異なる皇帝、賢帝と愚帝、美女と悪女、烈女。取り上げるテーマは広く、多い。
5	【レポート設題のまとめ方】 すべての文章がそうであるように、何を書くかを明示することが大切である。どんなテーマで論じるか、どの王朝・国について述べるかを最初に提示する。選んだ理由も加える。 最後のまとめとして、レポート作成を通して学んだこと、そこから広がる興味、客観的な観察、等を加える。
6	【科目終了試験学修のポイント１】その１ 「覇王別姫」は元来、京劇の題目である。京劇は日本の歌舞伎と同じく、代表的な中国の伝統芸能として、現在も演じられている。覇王とは漢の劉邦に破れた項羽で、姫は愛妾虞姫である。四面楚歌で有名な項羽の最期を題材にして、京劇の名優、梅蘭芳が創作し、虞姫を演じた。
7	【科目終了試験学修のポイント１】その２ 第７課の会話に出て来る「覇王別姫」は映画で、日本では「さらば、わが愛」として上映され、ロングランとなった。京劇「覇王別姫」を演じる２人の京劇役者が、辛い修行を経て有名な役者になり、現代中国の激しい時代の流れの中で翻弄されていく運命を描いている。説明には、京劇と映画の区別を明示してほしい。
8	【科目終了試験学修のポイント１】その３ スクーリング授業では、長い映画だが、受講生に観てもらうことにしている。清朝が倒れ中華民国になった時代から、文化大革命が終わる激動の時代を背景にしているので、中国の現代史が理解できる映画である。また、主人公の成長過程で京劇「覇王別姫」の各場面が演じられ、全編を通じての京劇が鑑賞できるので、中国の伝統芸能への理解が深まることを願っている。
9	【科目終了試験学修ポイント２】 世界遺産に登録されている万里の長城は、中国では「長城」と呼ばれる。会話文は万里の長城に行く相談をしている場面である。中国の１里は日本と違い、500 メートルであり、１万里というと、だいたい５千キロになる。 紀元前から作られていた長城がどのように形や場所を変えて現代に残って来たのかを理解する。万里の長城についてのコピー教材をスクーリングで配付するが、興味のある場合は、『馬と黄河と長城の中国史』西野広祥著・PHP 文庫を読んでみるのもよい。

10	【科目終了試験学修ポイント３】その１ ９課は「小芳」という歌のテープについての会話である。「小芳」は、中国では始めてのシンガーソングライターとしてデビューした李春波氏の歌で、当時大ヒットした。文化大革命時代に青春を過ごした中国の若者の気持ちが代弁され、同じ体験をした人々の心の琴線に触れたのである。スクーリング授業で歌を聴いてみよう。
11	【科目終了試験学修ポイント３】その２ 文章題は北京について語る。北京の地が歴史に現れるのは紀元前のことである。教科書の第１０課は北京概況で、プロフィールに簡単な説明が載っている。教科書の初版は１９９６年で、上水道普及率やデータ、写真は古く、現在と大きく違っている。スクーリング授業では新しい資料を配るつもりだが、ニュースなどで見聞きする北京を我々の首都東京と対比させるのもよいし、北京の歴史を述べてもよい。参考文献にもあげている『北京』竹内実著・文藝春秋、にも詳しい。
12	【科目終了試験学修ポイント４】 １１課はタクシーの中での客と運転手の会話である。「いくらですか」や、お金の言い方など、旅行や買い物には欠かせない表現が出てくる。教科書の p.124 ページには、中国の紙幣・貨幣の写真がある。この会話に出て来る「燕京ホテル」は、北京では古いホテルで、北京が燕の都であることから名付けられた。 文章題は簡体字の成り立ちを説明する。中華人民共和国成立前の繁体字は日本の旧字と共通点が多いが、戦後、中国は簡体字に、日本は当用漢字を定め、両国の漢字はだいぶ違ってきた。中国はなぜ簡体字という思い切った漢字の簡略化を実施したのか、また、どのように簡体字を作ったのか、日本の漢字との違いはどうか、などを説明するとよい。
13	【科目終了試験学修ポイント５】 天安門についての散文である。祝祭日には祝賀行事が行われると書かれていて、次のページには中国の祝祭日が説明されている。経済成長を遂げた中国は豊かさを反映して、休日になる期間が変わってきている。スクーリング授業で新しい資料を配布するが、インターネットでも情報が得られる。記念日は中国の社会体制から定められたものがあり、調べてみるのも興味深い。旧暦の祭りの中には、中国から伝わった行事も多く、時代とともに違った祝い方をしていることを対比させてみる。
14	【科目終了試験学修のポイント６について】その１ 第１３課は、北京城外の前門街にシュウマイを食べに行く会話である。日本人にも有名な北京ダックも出てくる。教科書には北京の町中で見かける店や点心（軽食）がイラストで描かれていて、発音記号がついているので、中国語で練習してみるとよい。「都一處」と書かれた看板の写真が載っている。賢帝として歴史に残る清朝６代皇帝、乾隆帝が名付けたと伝えられている。清朝時代から続く老舗は北京には多くあり、１４課にも看板の写真と地図が紹介されている。
15	【科目終了試験学修のポイント６について】その２ 四大中華料理として、北京・上海・広東・四川の各料理が有名だが、広い中国には地方料理が豊かである。中国を訪ねて食べた料理について書くのも楽しいし、好きな中華料理を語ってもよい。食事は文化である。食事の作法、料理の特色、食生活の変化、伝統的な料理、宮廷料理などテーマは広い。来日して長い中国人が久しぶりに帰国して書いた『中華料理の文化史』張競著・ちくま新書、は中華料理の歴史にも触れていて興味深い内容である。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 テーマをひとつ提示し、中国の二つの国・王朝を対比させて述べよ。

＜ポイント＞

テーマは政治・経済・文化・民族・風習から、何を取り上げてもよい。例えば、王朝の規模や制度、皇帝（始皇帝とラストエンペラーなど）、女性史、服装など、自分が関心を持てるテーマを選んで述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．第7課の本文を日本語に訳し、『覇王別姫』を説明せよ。

＜ポイント＞

「覇王別姫」は、京劇の題目であり、また、映画「さらば、わが愛」の中国語原題名でもある。その違いを明確にして、説明する。

2．第8課の会話を日本語に訳し、万里の長城について述べよ。

＜ポイント＞

万里の長城と呼ばれる由来、歴史的な変遷、長城が築かれている地域性、遊覧した経験などを加えながら説明する。

3．第9課の会話を日本語に訳し、首都北京について述べよ。

＜ポイント＞

首都北京は、いつ頃から中国史に現れてきたのか、いつ首都になったのか、などの歴史を考察したり、どんな都市であるかを東京と比較して説明する。

4．第11課の会話を日本語に訳し、中国語の簡体字の成り立ちを説明せよ。

＜ポイント＞

現在、中国で使われている漢字には簡体字が多い。簡体字とは何か、なぜ使われるようになったか、どのように作られたのか、日本の当用漢字との対比、などを説明する。

5．第12課の散文を日本語に訳し、中国の祝祭日を一つ取り上げて説明せよ。

＜ポイント＞

どの国にも祝祭日がある。日本の昔から伝わる習慣には、中国から伝わってきたものが多い。また、それぞれの国の体制の違いで、祝日の決め方も違う。そんな視点で祝祭日を一つ取り上げ、日本との違いなどを加えて説明できるとよい。

6．第13課の会話を日本語に訳し、中国の食文化について述べよ。

＜ポイント＞

会話文は、北京で有名な北京ダックとシュウマイを食べにいく話である。中華料理は豊かである。広い中国には地方を代表する料理があり、食に対する中国人のこだわりは強い。食に関わる文化的な背景を考察する。食事作法などを日本と比較してもよい。

教科書

相原茂　他『入門・北京カタログ（中国文化・中国事情）』朝日出版社。

参考文献

竹内実『北京』文芸春秋。

竹内実『現代中国の展開』NHKブックス。

鳥山喜一『中国小史　黄河の水』角川文庫。

科目コード	中国の文化と言語Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
1120／1121		２年	ＳＲ
教員名	岡安栄子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

中国語の文型を基礎にして、文章を読み、日常会話を学修していく。同じように漢字を使いながら、意味や用法が異なる中国語を学ぶ中で、漢字の広く深い意味をたどってみる。中国の文学や映画、伝統芸術に触れ、人々の日常生活の暮らしや習慣を取り上げた教材を用い、言語を学びながら、その背景となる中国の文化を学修する。「中国の文化と言語Ⅰ」の既習者、あるいは中国語の発音記号が読める受講生を対象にする。

学修内容

1	教科書は「中国の文化と言語Ⅰ」で使った『入門・北京カタログ』を使い、秋の章、冬の章に進む。スクーリング授業では、初めに発音記号、四声の復習をするが、予め基本音節表をチェックして、発音の難しい箇所を質問できるとよい。 当科目においても、レポート、科目終了試験の文章題における記述は、論説文としての文章表現で、独創性のある内容を期待する。
2	【レポート設題について】その１ 「中国の小説を読んで、その時代背景を考察し、考えたことを述べる」という設題である。 中国の人々、社会、文化について、小説を通して理解する。「中国の小説」というと、中国人が書いた小説が主になる。現代作家も多く、地方の図書館にも何冊かは並べられている。ノーベル文学賞を受賞した莫言、来日して芥川賞を受賞した楊逸の著書もある。
3	【レポート設題について】その２ 日本人が書いた中国の小説でもよい。井上靖の『敦煌』『蒼き狼』、中島敦の『山月記』などの愛読者も多い。好きな小説を選んでほしい。古典・現代など時代は問わないが、特に古典文学に多い要約や解説書は不可とする。中国の古典文学は長編小説が多いので、好きな一章を選んで論じてもよい。
4	【レポート設題の学修ポイントについて】 まず、著書名・著者名（翻訳者名）・出版社名・出版年度を明記する。著者について簡単に紹介する。 段落をかえて、小説の内容を要約する。 次の段落で、小説がどの地域を舞台にし、何年頃に、どんな社会を背景に描いているのかを説明する。中国の時代の流れ、社会の変化は激しい。社会性の強い中国文学に触れる中で、描かれた時代や社会の背景を理解する。 最後の段落で、小説を読んで、何を考えたかを記述する。感想文ではなく、自分の感想を具体的な内容で述べるようにする。日本と対比させて語るのもよい。「～と思う」「～と感じた」という主観表現を多用せずに、客観視した文章を書く。
5	【科目終了試験学修のポイント１について】その１ 第１４課は、薬の老舗、同仁堂への行き方を尋ねる会話である。中国を旅行したり、中国人に道を尋ねる時に使える文型である。同仁堂などの老舗は、清朝時代に庶民の街だった城外に多い。この付近には「胡同」と呼ばれる横丁が縦横に広がり、伝統的な家屋である「四合院」があって、古い中国の町並みがあった。経済成長に伴う都市開発、オリンピック開催での建設ラッシュで、横丁の風景は失われてきている。
6	【科目終了試験学修のポイント１について】その２ 「胡同」という名前の由来、たくさんの「胡同」の名称、そこに暮らす人びとの昔からの営みの風景などについては、世界の都市の物語『北京』竹内実著・文藝春秋、に詳しい。スクーリング授業でも一部コピーして配付する。
7	【科目終了試験学修のポイント２について】その１ 第１５課は、自己紹介の会話である。教科書の内容に合わせたビデオ教材で実際の会話を聞いてみるが、大学の先生の家に留学生を含む学生が集まり、餃子を作る。新しく入って来た学生を紹介し、それぞれが自己紹介する場面である。参考に留学情報が載っているが、１９９５年の資料として参考にしてほしい。
8	【科目終了試験学修のポイント２について】その２ 中国語と日本語は同じような漢字でも、点が多かったり、横線が短かったり、一本すくなかったりと、よく見ると違っている。また、同じ漢字でも意味がまったく違うものもある。漢字の違い、考え方の違い、習慣の違い、国土の違い、音楽の違い、楽譜の違い、などなど、日本と中国の違いで興味深いことがらを選んで述べる。テーマは自由である。
9	【科目終了試験学修のポイント３について】 第１６課は、市民生活小景と題して，北京に住む若い夫婦と子どもの会話を取り上げている。この家族の住む「四合院」は一軒の屋敷だったが、今は数家族で住み、庭を共有して暮らしている。近代化の中で、こうした旧い住宅が壊され、近代的なビルや住宅の建設ラッシュが続いている。 文章題は、中国の高齢者について述べる。日本では、高度経済成長を遂げた後、バブル時代を迎え，今、超高齢社会となっている。中国はどうなのだろうか。統計資料を参考にして考えてみたい。
10	【科目終了試験学修のポイント４について】その１ 第１７課は京劇を観に行った会話である。教科書には美を創る人々、として、中国の映画、京劇、民間工芸品が紹介されている。映画は今、新しい作品が次々に創られているが、この時代の映画には創成期の監督の意気込みが感じられる作品が多い。当科目のスクーリング授業では、中国の障碍児福祉を考える映画を観る予定にしている。
11	【科目終了試験学修のポイント４について】その２ 文章題は京劇についての説明を求めている。「中国の文化と言語Ⅰ」で、映画のなかで、「覇王別姫」の京劇が演じられていた。京劇の衣装、隈取り、発声、所作などは、日本の歌舞伎と似ているところが多く、歌舞伎役者の猿之助や玉三郎が京劇風に演じたり、中国の京劇に出演するなどの交流が深まっている。京劇については、資料は多いが、参考文献とした『北京』（世界の都市の物語）に分かりやすい解説がある。スクーリング授業で配付する。

12	【科目終了試験学修のポイント５について】 第１８課の会話文はお土産のお酒を買う場面である。急速な経済発展途上の中国では、お酒の値段も上がっている．豊かになった中国は、一方で日本の高度経済成長期と同じような問題を抱えている。大気汚染、公害、物価の高騰貧富の格差など、興味を持った話題を糸口に、中国と日本の今を論じる。
13	【科目終了試験学修のポイント６について】その１ 第２０課は結婚をする２人へのインタビューの会話である。男の子が欲しいか、女の子が欲しいか、と聞かれて、どちらでもよい、と答える若い世代には、「家」の観念が薄れている。老舎著『四世同堂』の小説にもあるように、大家族で暮らすのが中国の伝統だった。今では一人っ子政策による少子化と高齢化が進み、都市部に増える高齢者世帯、農村では若い世代が出稼ぎに行き、残される高齢者などの課題は日本と共通している。
14	【科目終了試験学修のポイント６について】その２ 中国人の家族観は変化しているのだろうか。親子の関係、高齢となった親への対応など、中国の家族についてまとめてみる。藩充康著・園田茂人監訳『変貌する中国の家族』岩波書店、などの参考文献があるが、身近な中国人にインタビューしてみてもよい。「ある中国人の家族観」として述べても興味深い文章になる。
15	【スクーリングの授業について】 「中国の文化と言語Ⅱ」のスクーリング授業では、対人援助に関わる仕事に就く受講生であることから、中国における社会福祉に関わる映画を観る。自閉症の息子を持つ父親を描いた「海洋天堂」である。カンフー映画で有名なジェット・リーが父親を好演している。息子と父親の二人暮らしの家族がどのように過ごし、父親は息子にどのように対していくか、家族の思いが胸に響く映画である。障碍児施設、職員の対応など、中国の障碍児・障碍者福祉の現状についても触れていきたい。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 中国の小説を読んで内容を要約し、その時代背景を考察して考えたことを述べよ。
＜ポイント＞
古典・現代など時代は問わない。著書名・著者名（翻訳者名）・出版社を明記し、著者の略歴、物語のあらすじをまとめる。時代背景を考察しながら、考えたことを書くこと。

科目終了試験学修のポイント

１．第１４課の会話を日本語に訳し、北京の庶民生活の場である「胡同」について説明せよ。
＜ポイント＞
北京の清朝から続く老舗の薬局を訪ねる会話である。この付近には「胡同」と呼ばれる横丁が多い。「胡同」の歴史、北京に散在する「胡同」の名前や、そこで暮らす人々の生活風景などをまとめる。

２．第１５課の会話を日本語に訳し、日本と中国の違いで興味深い事柄を取り上げて論ぜよ（言語・文化）。
＜ポイント＞
会話文は、中国の大学での自己紹介の風景である。日本語の「紹介」が中国語では逆になっているように、言語だけでなく、中国と日本は同じようで違うことが少なくない。一つ取り上げて論じる。

３．第１６課の会話を日本語に訳し、日本と中国の高齢者についてテーマを決めて、対比させて述べよ。
＜ポイント＞
会話文は、子どものいる核家族の風景である。都市部では老夫婦世帯が増えている。高齢になった中国の人びとの暮らしを考えてみる。高齢者数の違い，老後の暮らし方，介護について等、話題を一つに絞って日中両国を対比して述べる。

４．第１７課の会話を日本語に訳し、京劇について説明を加えよ。
＜ポイント＞
会話は京劇の話題である。京劇については、「中国の文化と言語Ⅰ」で、映画を通して学んだ。衣装、隈取り、台詞など、興味のある題材を選んで述べる。日本の歌舞伎との違いを論じるのも興味深い。

５．第１８課の会話を日本語に訳し、中国の経済・政治事情で、興味ある話題を取り上げて論じる。
＜ポイント＞
会話文は、お土産の酒を買う場面である。急速な経済成長途上の中国では、お酒の値段も上がった．経済成長から見える中国について述べる。興味を持った話題に関連したニュース、統計数などを書き留め、終了試験に備えるとよい。

６．第２０課の会話を日本語に訳し、中国人の家族観について述べよ。
＜ポイント＞
会話文は、結婚をした２人へのインタビューである。一人っ子政策が続く中国での家族観を考察する。経済成長を遂げた都市部では、日本と同じように高齢者世帯が増えている。社会の変化は、中国の人びとの家族に対する考え方、状況を変えたのか。
また、身近な中国人の家族観を聞いて、日本人との共通点や違いを述べるのもよい。

※各論題は教科書の内容に限らない。

教科書

相原茂　他『入門・北京カタログ（中国文化・中国事情)』朝日出版社。

参考文献

鐘ヶ江信光『中国語のすすめ』講談社現代新書。
竹内実『北京』文芸春秋。

科目コード	聴覚障害者の言語障害指導（２単位）	登録年次	履修方法
6390		３年	ＳＲ
教員名	木内正範、須藤典征		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

言語の獲得には聴覚の機能が大きく作用する。聴覚の障害があると言語能力の獲得に問題が生ずる。言語習得の過程では、聴覚の問題を補う補助手段を導入して言語理解・言語表出を支援していくことが必要である。言語理解のためには補聴器などによる聴覚補償のほか、他の感覚経路を利用した口話や手話などの手段を用いる。言語表出のためには発話練習や機器を利用した発語訓練などが行われている。音声言語を媒体にしたコミュニケーションだけではなく、文字など視覚的な情報を有効に利用してコミュニケーション能力を高めていく指導が必要である。語彙の獲得・文能力の増進・他者との交流能力の促進も視野に入れるとともに、家庭・学校における対応にも配慮が必要である。このような観点について、乳幼児期・学齢期・青年期/成人期・熟年期それぞれの時期の言語指導について学修する。

学修内容

1	聴覚障害の基礎知識：教科書『聴覚障害児の言語指導』pp.5-17 ・難聴の種類とその特徴について、正確に理解する。その際、耳の構造と各部位の生理学的な特徴･機能についてもまとめる。 ・聴力検査（純音聴力検査と語音聴力検査、補聴器装用下）についてまとめること。オージオグラムを解釈したり、実際に書いたりして、慣れること。
2	補聴器と聴覚補償：教科書『聴覚障害児の言語指導』pp.18-23 ・補聴器を使用した聴覚補償について(特に補聴器の種類や機能)理解する。 ・補聴器の選択やその調整についてまとめ、なぜ調整が必要なのかを理解する。また補聴器を通した聞こえがどのような特徴を持つのかを理解する。 ・人工内耳の構造や仕組みについてまとめる。
3	音声の特徴：教科書『聴覚障害児の言語指導』pp.24-31 ・聴覚に障害があると、障害の程度や聞き取れる周波数によって音声をどのくらい聞き取れるのかが変わってくる。音声の特性と、母音や子音の聞き取りについて理解する。また音素レベルの聞き取りと日本語音声の特徴についても理解する。
4	聴力と音声の聞こえ、話し言葉の受容：教科書『聴覚障害児の言語指導』pp.32-38 ・オージオグラムと音声の聞こえの関係を理解する。 ・音節の聞き取りと文の聞き取りの関係を、明瞭度と了解度という概念を通して理解する。
5	聴覚障害児の言語発達(1)　聴覚障害とライフステージ：参考文献『聴覚障害Ｉ基礎編』pp.6-13 ・聴覚障害がいつ発症するかによって、もたらされる影響はかなり異なってくる。子どもの聴覚障害は言語発達の問題が大きく関わってくる。聴覚障害をライフステージと関連づけて理解する。
6	聴覚障害児の言語発達(2)　難聴と言語獲得：参考文献『聴覚障害Ｉ基礎編』pp.39-42 ・言語獲得の時期に聴覚障害があると、それらの発達に致命的な影響を与える。乳幼児期の難聴の発見と対応の重要性について理解する。また言語発達の臨界期についても理解する。
7	早期教育の基礎知識：教科書『聴覚障害児の言語指導』pp.61-69 ・聴覚障害児には早期の発見と介入が重要である。行動観察から様々な発達評価、諸検査について理解する。 ・言語コミュニケーションの理解と表出の評価について理解する。
8	障害の早期発見・診断と両親援助：教科書『聴覚障害教育の基本と実際』pp.59 -72 ・聴覚障害の早期発見(新生児聴覚スクーリングテスト)について理解する ・障害のあるこどもの親支援について理解する。
9	言語能力と指導法の基礎知識(1)『聴覚障害児の言語指導』pp.108-140 ・聴覚障害児の語彙の問題と対策について理解する。 ・聴覚障害児の分離回の問題と対策について理解する。
10	言語能力と指導法の基礎知識(2)　『聴覚障害児の言語指導』pp.141-163 ・聴覚障害児への読解指導について理解する。 ・聴覚障害児への作文指導について事例を通して理解する。
11	言語能力評価の基礎知識(1)　『聴覚障害児の言語指導』pp.164-170 ・標準化されたテストをどう利用し、指導に役立てるのか、また評価に繋げるのかを理解する。 ・指導に結びついた評価について、具体例を通して理解する。
12	言語能力評価の基礎知識(2)　『聴覚障害児の言語指導』pp.171-181 ・言語の４技能（聞く、話す、読む、書く）について評価の方法を理解する。 ・テスト結果をどう評価するかについて、事例を通して理解する。
13	聴覚障害幼児に対する具体的指導：『聴覚障害児の言語指導』pp.81-99 ・聴覚障害幼児の言語学習の典型例「理解－口声模倣－プロンプト表出－自発」のステップを理解する ・幼児期の発達特性を踏まえた教育や支援のあり方を理解する。 ・指導上の留意点を理解する。

14	聴覚障害児童に対する具体的指導：教科書『聴覚障害教育の基本と実際』第５章　６章 ・特別支援学校や特別支援学級で、聾児に対してどのような教育や支援が行われているのかを理解する。 ・児童期の発達特性を踏まえて、どのような本人支援や保護者支援が有効かを理解する。
15	聴覚障害生徒に対する具体的指導：教科書『聴覚障害教育の基本と実際』第５章　６章 ・特別支援学校や特別支援学級で、聾生徒に対してどのような教育や支援が行われているのかを理解する。 ・青年期の発達特性を踏まえて、どのような本人支援や保護者支援が有効かを理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 乳幼児期に聴覚障害がある場合、言語指導にはどのようなあり方が重要か述べよ。

＜ポイント＞

聴覚障害によって生じる言語の獲得の問題、環境との相互作用、対人関係の問題などに着目し、どのような指導が必要かを考察すること。

科目終了試験学修のポイント

１．聴覚障害の早期発見と対応について

＜ポイント＞

・聴覚障害の早期発見はなぜ重要なのか。

・早期発見にはどのような方法があるか。

・子どもへの対応、保護者への対応はどうすればよいか。

２．聴覚障害児の言語発達について

＜ポイント＞

・聴覚障害児の言語発達の特性について、理解・表出・語彙・コミュニケーションの観点からまとめよ。

３．聴覚補償の方法について

＜ポイント＞

・補聴器の種類や機能、聞こえの特徴についてまとめよ。

・人工内耳の構造や仕組み、聞こえの特徴について

４．聴覚障害児の語彙の問題と指導について

＜ポイント＞

・聴覚障害児の語彙の問題点をまとめよ。

・教室での語彙指導について具体的に述べよ。

・抽象語学習の方法とその効果について述べよ。

５．聴覚障害児の文理解の問題点と指導について

＜ポイント＞

・聴覚障害児の文理解の問題と対策についてまとめよ。

・文の指導について、具体例を挙げつつまとめよ。

６．言語能力評価をどのように指導に活かすかについて

＜ポイント＞

・標準化されたテスト（言語能力）をいくつか挙げて、具体的使用例を述べよ。

・それらの評価をどのように指導に活かすかを述べよ。

教科書

中野善達『聴覚障害教育の基本と実際』田研出版。

我妻敏博『聴覚障害児の言語指導』田研出版。

参考文献

山田弘幸、佐場野優一編著『聴覚障害Ｉ－基礎編』建白社。

相楽多恵子、他『シリーズ言語臨床事例集第１１巻 聴覚障害』学苑社。

鈴木篤郎『幼児難聴：特のその早期発見』金原出版。

難聴高齢者のサポートを考える会『難聴高齢者サポートハンドブック』日本医療企画。

本庄巖『人工内耳 改訂第２版』中山書店。

科目コード	重複障害・ＬＤ等教育総論（２単位）	登録年次	履修方法
6400		３年	ＳＲ
教員名	上田征三、須藤典征		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、特別支援教育の新たな対象として加えられた学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、高機能自閉症・アスペルガー障害などの各障害、また、構音障害や吃音、音声（発声）障害などの言語障害の児童生徒の特徴、彼らの抱える心理・行動的特徴について理解する。また、通常の学級で困難を抱える LD 等の児童生徒への具体的な支援のあり方や配慮点について、実践事例を参考に検討していく。さらに、今後の特別支援学校において、人数の増加が予想される重複障害を抱える児童生徒への対応のあり方について学んでいく。

学修内容

1	ICF の考え方 世界保健機関（WHO）が 2001 年 5 月に採択した障害の概念（国際生活機能分類（ICF））は、旧来の ICIDH とは異なり、プラス面とマイナス面の双方向で障害を捉える形になっている。障害のある子どもの支援を考える上で、ICF の考え方を理解することは欠かせない内容である。
2	特別支援教育の理念と法制度 近年のインクルージョンの考え方や発達障害者支援法の成立、障害者差別禁止法の制定など、特別支援教育と関連して進められてきた国の法令や行政的な施策、様々な制度等について、幅広く学ぶ。
3	特別支援教育のシステム 近年の特別支援学校には、在籍する児童生徒への支援と合わせて、近隣の小中学校に出向いての支援など、地域のセンター的機能を発揮する機関としての役割が求められている。地域の特性を踏まえた特別支援学校の機能やその内容について学ぶ。
4	特別支援教育コーディネーター 特別支援学校のコーディネーターと小中学校のコーディネーターでは、その役割に若干の差があるが、両者とも校内の関係調整や保護者の相談窓口としての機能が求められている。英国の SENCO などの理解と合わせ、各種コーディネーターの業務内容や役割について学ぶ。
5	個別の指導計画と個別の教育支援計画 「個別の指導計画」は、各授業における個別のプランを示したもので、「個別の教育支援計画」は地域や家庭などを巻き込んだ包括的な支援プランを意味している。両者の違いやプランの意図などを幅広く理解する必要がある。
6	特別支援教育を目指した教育現場での試み LD や ADHD など、発達障害のある児童生徒は通常の学級に在籍する場合が多い。校内でどのように彼らを支援していくか、個々の教師に頼らずに学校全体として機能させていくことが求められている。校内での支援体制を着実に構築していくことは、発達障害のある児童生徒の教育において欠かせない内容であり、これらのことについて幅広く学ぶ。
7	LD の定義と原因 学習障害（LD）の子どもたちは通常の学級に在籍する場合が多い。しかし、通常の学級の現場では LD 等の障害特性の理解が未だ不十分な面もある。特別支援学校の教員として小中学校の相談支援等を行うことも出てくるため、学習障害の基本的な特性や支援のあり方について理解を深めることが必要である。
8	LD の具体的な指導 学級の中での取り組みや具体的な事例などを踏まえながら、LD 個々のケースに応じた対応のあり方について学ぶ。
9	ADHD の分類と症状 ADHD と LD は合併するケースも多いが、LD が学習上の課題を抱えているのに対して、ADHD は主に行動上の課題を抱えている。ADHD の行動特性や合併症、思春期以降の予後などについて、幅広く学ぶ。
10	ADHD の具体的指導 ADHD の児童生徒は、小学校高学年段階に入ると多動性に関しては比較的落ち着きはじめる。しかし、注意の集中が困難なため、学習面での課題も多く、自己不全感を抱えている子どもも少なくない。ADHD の心情面に配慮した手立ての工夫など、幅広い支援のあり方について学ぶ。
11	自閉症の情緒・行動・認知の特徴 広汎性発達障害は対人関係の問題、言語・コミュニケーションの問題、こだわりや行動の問題など、3 つの主要な特徴を示す症候群である。特別支援学校での在籍率も高いため、こうした自閉症の特性について、幅広く理解しておくことが必要である。
12	アスペルガー症候群の診断基準 アスペルガー症候群は、知的な遅れの無い広汎性発達障害の中で、早期からの言語の遅れや偏りのない者を指す。しかし、会話が一方的であったり、相手が話した含みの意味を理解することが難しかったりなど、人とのコミュニケーションを取る上で、多くの課題を抱えている。広汎性発達障害の理解と合わせて、アスペルガー症候群についても幅広く学ぶ必要がある。

13	自閉症（広汎性発達障害）の指導 広汎性発達障害の子どもの指導では、「通級による指導」の場を利用したソーシャルスキルトレーニング（SST）などが活用されている。クラスの中での対応など、彼らの特性に配慮した支援のあり方について幅広く学ぶ必要がある。
14	アセスメントのための心理検査 発達障害のある子どもの認知の特性などを理解する上で、標準化された心理検査（WISC Ⅲ、Ⅳ、K-ABC Ⅱなど）は有効である。こうした検査結果の読み取り方を学んでおくことは、個別の指導計画を作成する上で欠かせない。
15	福祉的支援の広がり 発達障害を含め、特別なニーズのある児童生徒の支援を検討する上で、早期からの対応は欠かせない。就学前段階を対象とした地域の親子教室やこども発達支援事業などの概要を理解していくことが必要である。また、対象の子どもの保護者の相談に当たる際には、保護者の心情などにも配慮しながら、丁寧な相談活動を進めていくことが望まれる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症の各障害の特徴と支援のあり方について解説し、学級における配慮点についてまとめよ。

＜ポイント＞

教科書や参考文献、関連文献などを参照しながら、LD、ADHD、高機能自閉症の各障害の特徴と支援の基本について解説するとともに、小中学校などの通常の学級における具体的な支援や配慮のあり方についてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．小中学校における校内支援体制構築に向けた取り組みについて（テキスト p.34～、旧テキスト p.15～、p.37～）

＜ポイント＞

学習障害等の発達障害のある子どもは通常の学級に在籍する場合が多い。人的な資源や教室環境を創意することと合わせて、適切な校内での支援体制を構築していくことの必要性やその手だてについて、よく学修してもらいたい。

2．特別支援教育コーディネーターの役割について（テキスト p.26～、旧テキスト p.18～）

＜ポイント＞

特別支援教育を推進していくために必要な特別支援教育コーディネーターの役割について、よく学んで欲しい。

3．乳幼児期の本人および家族支援について（テキスト p.156～、旧テキスト p.66～など）

＜ポイント＞

乳幼児期（就学前段階）における発達障害のある本人や家族への支援について、実践事例などを参照にしながらよく理解していただきたい。

4．重度重複障害児の発達特性について（参考文献「障害特性の理解と発達援助第2版」p.131 などを参照）

＜ポイント＞

重度重複障害児の発達は基本的には健常児の発達に類するものであるが、領域ごと（運動や心理面など）に異なっていたり、とてもゆるやかな発達を遂げていくとされる。重度重複障害児の発達の特性についてよく学んでいただきたい。

5．重度重複障害児の医療的ケアの現状について（参考文献「キーワード障害児教育」p.140 などを参照）

＜ポイント＞

肢体不自由や病弱の特別支援学校などでは、医療的ケアの必要な子どもが在籍している。医療的ケアの現状についてよく理解して欲しい。

6．国際生活機能分類（ICF）の特徴について（テキスト p.14～、旧テキスト p.41～）

＜ポイント＞

対象者のマイナス面と共にプラス面を把握し支援の手立てを考えていくことは、障害のある子どもの教育に携わる者にとって重要な視点である。2001 年に WHO が採択した国際生活機能分類（ICF）の特徴について、よく理解していただきたい。

教科書

小野次朗、他『よくわかる発達障害（第2版）』ミネルヴァ書房。

参考文献

昇地勝人、他『障害特性の理解と発達援助第2版』ナカニシヤ出版。
玉村公二彦、他『新版　キーワードブック　特別支援教育』クリエイツかもがわ。

科目コード	データベース演習Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
7730		2年	SR
教員名	竹内俊彦、ロペス・ルイス・ミゲル		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、リレーショナルデータベースに関する基礎知識を、演習を通して考える。データベース、データモデルなどの概念を理解するとともに、データベースの効率的な検索技法を身につけることを目標とする。また、関係データベースを利用するための言語である、ＳＱＬ言語の基礎を解説し、ＳＱＬ言語を用いた基礎的な演習を行う。

学修内容

1	データベースとは・データの統合化・データの独立性 特定のテーマに沿ったデータを集めて管理し、容易に検索・抽出などの再利用をできるようにしたものである。従来の「ファイルシステム」と違って、媒体に依存しない形でデータは格納されている（データの独立性）。また、全ユーザは、実際同じデータにアクセスするが、各ユーザは、自分が閲覧や修正の権限を持っているデータのみ見られる（データの統合化）。
2	データベースの歴史 データベース管理システムの仕組みをよく理解する。構造型データベースとはネットワーク型と階層型データベースのことをいう。それらのデータベースの由来を学ぶ。また、リレーショナルデータベースとオブジェクト指向データベースの概念をよく理解する。
3	リレーショナルモデル リレーショナルモデルではデータは2次元の表の形で格納されている。それらの表は「リレーション」と呼ばれ、互いにリンクされている。リレーショナルDBとは、それらの表と表同士のリンクの集合である。ここで大切なことは、リレーショナルDBの表は、たとえばエクセルの表と違って硬い構造を持っていることを理解することである。たとえばリレーショナルDBでは簡単に表の列の削除や追加はできない。
4	データモデル・ANSI/SPARCの3層スキーマモデル 特にリレーショナルDBは、抽象的な概念であるので、具体的なDBを設計するにあたって、設計の過程はきわめて大切である。DBの設計（リレーショナルとは限らない）は、3つの“ステップ”に分類された。正式的な国際標準にはなっていないのだが、ANSI/SPARCの3層スキーマの考え方は広く普及している。
5	リレーショナルモデル・リレーション、属性、タプル リレーショナルモデルの基礎的な概念は「リレーション」（関係）である。一つのリレーションの中に収められているデータは共通のテーマに沿って（リレーション＝関係）並べてある。リレーションの一つ一つのデータを「属性」という（表において列に相当）。リレーションによって結ばれているすべての属性の値は「タプル」という（表において行に相当）。
6	リレーションのキー、スーパーキー、主キー、候補キー、外部キー、制約 リレーショナルDBにおいて、リレーション同士は「キー」によってリンクされている。キーは属性群で、一意的にタプルを決定する、いわゆるキーの値でその他の属性の値は決定する（一意性制約）。あるリレーションの属性群は別のリレーションのキーであれば、それを「外部キー」とよぶ。リレーション同士は外部キーによりリンクされる。
7	リレーショナル代数、ベースリレーションとビュー リレーショナルDBにおいて、リレーション同士の組み合わせはいくつか存在する（リレーショナル演算という）。それらの演算を理解し、データ検索にどのように関係しているかをよく理解する。DBのリレーションではないが、演算を利用して得られたデータ（属性）同士の関係を「ビュー」という。
8	設計手法：ER図、IDEF1X、UML 設計できる者（IT業者）とDBの利用者（顧客）との間にコミュニケーション・ツールは必要である。その一つのコミュニケーション・ツールはER図である。UMLも使うことがあるが、DB設計の場合ER図は主流である。ER図は「ひし形表記」と「IDEF1X」表記があるが、標準化されたのは後者なので、IDEF1Xは広く使われる。
9	正規化の基礎：第1～第3正規化 正規化の目的は、データの冗長性を減らし、特にデータの修正と削除の際に起こりうる“矛盾”を最低限にすることが目的である。正規化には6段階があるが、ほとんどの場合3段にとどまる。理由は、リレーショナル演算の中に「結合」という演算があるが、DBを第3正規化以上にすると、データの操作にはCPUコストの高い結合演算が増えるからである。
10	物理的側面：１次記憶と２次記憶 ファイルシステムはDB管理システムが行うので、ファイルシステムの概念を理解する必要がある。まず、ヒープファイル、順次ファイル、ハッシュファイルの構造をよく理解する。DB管理システムはデータベース（場合によって１リレーションは数億タプル）を管理するに当たって、データは物理的に格納されているディスクの領域（ファイル）の構造を理解する。
11	インデックスとは、インデックスの必要性、インデックスの仕組み ユーザは意識しない、DB管理システムの「内部」のことである。常識的な時間内にデータを検索したり修正したりするためにはディスクに格納されているデータには速くアクセスする必要がある。そのアクセス速度を早くするのは「インデックス」（索引）であるので、インデックスの仕組みをよく理解する。

12	B木とB+木 現在一番普及しているインデックスはB+木インデックスである。インデックスはデータベースの一大事である。まずB木、B+キーインデックスをよく理解し、その他に存在する種類も調べる。B＊木、kd木、R木など（現在も、データ構造においてインデックスに関する研究は盛んである)。
13	問い合わせの最適化 選択演算および結合演算は CPU コストの評価が必要である。選択演算や結合演算の組み方によってレスポンス・タイムは大きく変わることがある。DB管理システムによって「最適化」機能がついており、DB管理システムに任せれば最速の問い合わせを組むが、その仕組みを理解する。
14	SQL SQLにはDDLとDMLがある。DMLの中で、単純な問い合わせはSELECTから始まる。条件はWHERE句のあとに指定する。SQLの可能性をよく理解し、簡単なSQL検索文を作成できるように学ぶ。また、SQLの“方言” と標準化の問題について学ぶ。
15	トランザクション トランザクションの必要性をよく理解する。トランザクションのACID特性を理解して覚える。ACIDの実装に欠かせない概念、直列化とロックの仕組みをよく理解する。特に、避けたい3つの現象：汚れ付き読み込み、繰り返し不可能読み込み、幻の行をよく理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】リレーショナルデータベースについて述べよ。

＜ポイント＞

データベースの歴史をたどって、リレーショナルモデルの発明までの過程を説明し、リレーショナルモデルの特徴を挙げる。

科目終了試験学修のポイント

1．データベースの歴史について

＜ポイント＞

ネットワーク型、階層型とリレーショナルモデルについて解説し、第1、第2と第3世代データベースの定義を挙げる。

2．リレーショナルモデルについて

＜ポイント＞

リレーション、属性、タプルとキーの定義を挙げる。ER図を用いた簡単な例を挙げる。

3．SQLを利用して組める主な問合せについて

＜ポイント＞

SQLの歴史と仕組みを簡単に説明し、例を挙げる。

4．ファイル構造とインデックスについて

＜ポイント＞

1次記憶と2次記憶装置を定義し、インデックスの定義と必要性に解説する。B木とB+木は一番使われている。

5．トランザクションの仕組みについて

＜ポイント＞

トランザクションの定義を挙げ、必要性について説明する。ACIDの定義を挙げる。

6．リレーショナル演算について

＜ポイント＞

選択、射影、結合を定義する（できるだけ例を挙げる)。

教科書

増永良文『データベース入門』サイエンス社。

参考文献

斉藤孝『リレーショナルデータベース教科書』ソフトリサーチセンター。

科目コード	データベース演習Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
7740		３年	ＳＲ
教員名	竹内俊彦、ロペス・ルイス・ミゲル		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

関係データベースを中心とした情報システムについて、比較的高度な内容を整理する。利便性の高いデータベースの設計と管理にどのようなコストが伴うのかを、ある程度具体的に想定できるようになることが、本科目の目標である。また、簡単なデータベースであれば、自らが作成し、管理できるようになることを期待する。ただし、本科目のスクーリングを受けるのはデータベース演習Ⅰのスクーリングを受けた後の方が望ましい。

学修内容

1	キー、主キー、キー属性、非キー属性 キーの概念をもう一度復習する。リレーショナル DB では、リレーション同士は「キー」によってリンクされている。キーは属性群で、一意的にタプルを決定する、いわゆるキーの値でその他の属性の値は決定する（一意性制約）。あるリレーションの属性群は別のリレーションのキーであれば、それを「外部キー」とよぶ。リレーション同士は外部キーによりリンクされる。
2	3 層スキーマ　外部設計 具体的な DB を設計するにあたって、設計の過程はきわめて大切である。DB の設計（リレーショナルとは限らない）は、3 つの“ステップ”に分類される。正式な国際標準にはなっていないが、ANSI/SPARC の 3 層スキーマの考え方は広く普及している。
3	正規化　関数従属性 正規化は 5 段階ある。データベース演習Ⅰでは簡単に第 1～第 3 まで勉強した。BCNF、第 4、そして第 5 正規化はあまり使われていないのだが、その存在は大事である。第 5 正規化まで行けば、後術の「3 つの更新異常」は起きないことを保証できるが特に第 4、第 5 正規化はもとのデータ間にない新しい関係をもたらす可能性がある。
4	3 つの更新異常 3 つの更新異常とは、修正異常、挿入異常、削除異常である。データベースにおいて、一つの操作でデータに“矛盾”が生じることは一番望ましくない。操作とは、挿入、削除、修正のことである。一般的に、情報の冗長性は安全と結び付けられるが、データベースの場合は更新異常の原因であることを理解する。
5	正規可、第 2 から第 4 まで 第 2 正規型、第 3 正規型、BCNF、第 4 正規型の定義をよく理解する。データベースの正規化は、該当データベース内に格納されているデータの冗長性を極力低くするための技法である。通常、第 3 正規型にとどまることが多い。その理由は、実際にデータベースを利用するにあたって、リレーションの結合演算の計算量が増え、処理性能が低下するからである。
6	ER 図・復習 ER モデルに基本的な概念を復習する：エンティティ、リレーションシップ、属性；特に、エンティティの“絶対的な”特性を表す「属性」の意味をよく理解する。p.43 に載っているひし形記法（Peter Chen 記法ともいう）を利用したデータベースのモデルをよく理解する。また、弱エンティティと強エンティティ（p.49）の違いをよく理解する。
7	ER 図・リレーションシップの属性 エンティティの“絶対的な”特性を表す属性に対して、“相対的な”特性を表すリレーションシップの属性がある。p.47 の図「リレーションシップ」の属性をよく理解する。リレーションシップの属性はいつ、どこで、どのようにそのリレーションシップが結ばれるかを表している（たとえば「顧客」がある「商品」を「購入」する場合、その日付と個数を記録する必要があるが、日付や個数は「顧客」の特性でもなければ「商品」の特性でもない）。
8	ER 図・多重度・カーディナリティとパーティシペーション リレーションシップには多重度がある。設計において、多重度はきわめて大切な情報である、多重度によってリレーションシップの実装が変わる：多重度は 1 対多や 1 対 1 の場合、リレーションシップは外部キーを使って実装する、多対多の場合、新しいリレーションを作成する。カーディナリティとパーティシペーションは、たとえばリレーションの NOT NULL 制約を表している（多属性に空の値を許すか許さないか）。
9	ER 図・IDEF1X ER 図には主に 2 つの表記法がある：ひし形記法（p.51 の記号）と、IDEF1X 記法（p.58 の記号）。IDEF1X 記法では、データベースの設計図はほとんど表の形で表す。ひし形記法は標準化されていないため多くのバリエーションがあるのに対して、IDEF1X には規定は存在しており（標準化機構は米国 NIST）、安定している。
10	SQL・DDL データベース言語はデータ定義言語、略して DDL と、データ操作言語、略して DML の 2 部構成となっている。リレーショナルデータベース言語 SQL もそうである。DDL の必要性と文法をよく理解する。特に CREATE TABLE 文の構造とオプションを覚える。また、p.141 と p.142 で検査制約（CHECK 句）のかけ方をよく確認する。
11	SQL・DML データベースの構造を定義する、また変える DDL に対して、日常的にデータの検索と更新を可能にしている DML がある。SQL の問い合わせの構造（p.119）をよく理解する。またデータ更新に使われる 5 つの文の構造と使い方をよく確認し、覚えること。とくにトランザクションに関する 2 文。

12	SQL とプログラム、埋め込み SQL 埋め込み型 SQL と共通データベースアクセスの必要性と使い方を確認する。特に、なぜ SQL だけでは十分にデータ処理ができないのかをよく理解する。前者に関しては p.146 に書かれているプログラムは何をするプログラムなのかを理解する。後者に関してはクライアント/サーバ型データベースの仕組みをよく理解する。
13	OLAP OLAP の必要性と仕組みをよく理解し、OLAP の仕組みと OLAP の 5 つの基本機能（ダイシング、スライシング、ドリルダウン、ドリルスルー、ロールアップ）を理解する。データマイニングの概念をよく理解すること。インターネットで OLAP について調べ、日本においてどんな製品があるかを調べる。
14	XML データベース XML のメリットと利便性を確認し、HTML との関係をよく調べる。XML 文書の構造を理解し、XML スキーマとは何かをよく調べる。ネイティブ XML データベースとそうでないデータベースの違いを理解する。組み込みデータベースとインメモリデータベースの意味をよく理解する。
15	オブジェクト指向データベース オブジェクト指向データベースの仕組みをよく理解し、リレーショナルデータベースとの違いはどこにあるかを確認する。永続オブジェクトと一時オブジェクトの意味を調べた上で、p.267 のコラムを熟読し、よく理解する。また、インターネットでリレーショナルデータベース製品対オブジェクト指向データベース製品のおよその割合を確認する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき 7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 リレーショナルデータベースの正規化（normalization）について述べよ。

＜ポイント＞

正規化の狙いと内容をわかりやすく説明する。正規化には5段階が存在するが、実際のシステムは 5 段まで正規化されることがない。その理由を記述する。できるだけわかりやすい例で説明すると良い。

科目終了試験学修のポイント

1．データベース設計に利用される ER モデルについて

＜ポイント＞

ER 図表記法（P.P.Chen）より、現在拡張 ER 図の中の IDEF1X は一番使われている。両方の定義を挙げること。

2．リレーショナルデータベース正規化について

＜ポイント＞

目的は3つの更新異常を避けること（pp.81-82）の説明は大事。

3．IDEF1X モデルについて

＜ポイント＞

IDEF1X をきちんと定義し、メリットを挙げること。

4．オブジェクト指向 DB とリレーショナル DB の比較について

＜ポイント＞

オブジェクト指向 DB の概念を紹介し、リレーショナル DB との違いを解説する（p.267 のコラム）。

5．XML について

＜ポイント＞

XML の起源、構造、メリット。

6．三層スキーマについて

＜ポイント＞

三層スキーマの起源を説明し、三層スキーマを解説する。

教科書

増永良文『データベース入門』サイエンス社。

参考文献

斉藤孝『リレーショナルデータベース教科書』ソフトリサーチセンター。

科目コード	哲学（２単位）	登録年次	履修方法
1232		１年	R
教員名	堀肇、山田哲史、若狭清紀		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

西洋の著名な哲学者の思想の基本的な事柄に注目するとともに、これらの思想が現代に生きる私たちにどう関係してくるのかということについても考究していきたい。

学修内容

1	自然哲学について 哲学、イオニア地方、ソクラテス以前、タレス、万物の原理（根源）は水である、自然哲学、等のキーワードについて反映させながらまとめる。
2	ソクラテスの主張とその背景について ソフィスト、弁論述、ソクラテス、善く生きる、無知の知、論駁的対話（エレンコス）、等のキーワードについて反映させながらまとめる。
3	プラトンのイデア論について プラトン、イデア論、美のイデア、「善」のイデア、洞窟の比喩、理想の世界、等のキーワードについて反映させながらまとめる。
4	アリストテレスの思想について アリストテレス、質料（ヒュレー）、形相（エイドス）、可能態、現実態、第一哲学、君主制、貴族制、民主制、等のキーワードについて反映させながらまとめる。
5	エピクロス派とストア派について エピクロス、エピクロス派、心の平静さ（アタラクシア）、ゼノン、ストア派、アパティア（非情、無感動）の境地、等のキーワードについて反映させながらまとめる。
6	愛・幸福・死について エロス（恋／熱愛）、ピリア（友愛）、アガペー（神への愛）、雌雄同体（アンドロギュノス）、美のイデア、魂をすぐれたものにする、徳、セネカ、等のキーワードについて反映させながらまとめる。
7	スコラ哲学とトマス・アクィナスについて 大学、スコラ哲学、普遍論争、オッカム、思考節約の原理、トマス・アクィナス、神の存在証明、等のキーワードについて反映させながらまとめる。
8	イギリス経験論について（その１：ロック） ロック、白紙（タブラ・ラサ）、経験、観念、一次性質、二次性質、イギリス経験論、等のキーワードについて反映させながらまとめる。
9	イギリス経験論について（その２：バークリー、ヒューム） バークリー、認識、ヒューム、原因と結果（因果関係）、懐疑、近接、先行、恒常的連結、等のキーワードについて反映させながらまとめる。
10	大陸合理論について（その１：デカルト） デカルト、大陸合理論、疑い、われ思うゆえにわれあり、物質、精神、心身二元論、等のキーワードについて反映させながらまとめる。
11	大陸合理論について（その２：スピノザ、ライプニッツ） スピノザ、定義、定理、実体、属性、様態、唯一、無限、永遠、神、神すなわち自然、ライプニッツ、モナド、予定調和、充足理由律、等のキーワードについて反映させながらまとめる。
12	ドイツにおける哲学の発展について（カント、ヘーゲル、ショーペンハウアー） カント、認識、カテゴリー、コペルニクス的転、ヘーゲル、弁証法、即自、対自、即時かつ対自、ショーペンハウアー、意志、苦の世界、等のキーワードについて反映させながらまとめる。
13	ハイデガーの思想について ハイデガー、現存在（ダーザイン）、存在了解、生物学的環境、世界、世界内存在、等のキーワードについて反映させながらまとめる。
14	サルトルの思想について サルトル、本質、実存、本性、実存主義、実存は本質に先立つ、自由な行動を通して本質を作る、等のキーワードについて反映させながらまとめる。
15	構造主義とポスト構造主義について レヴィ＝ストロース、未開社会、近親相姦のタブー、集団、構造、構造主義、等のキーワードについて反映させながらまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 古代ギリシャからヘレニズム期までの哲学について。

＜ポイント＞

自然哲学（ソクラテス以前）、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、エピクロス派およびストア派の思想に関する事項の中から複数の事項について取りあげ、説明すること（学修内容1・2・3・4・5・6参照）。またこれらの内容に関してどのようなことが言えるのか、自らの考えについても反映させながらまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．スコラ哲学とトマス・アクィナスについて

＜ポイント＞

スコラ哲学やトマス・アクィナスの思想に関する事項について取りあげ、説明すること（学修内容7参照）。

2．イギリス経験論について

＜ポイント＞

ロック、バークリー、ヒュームの思想に関する事項について取りあげ、説明すること（学修内容8・9参照）。

3．大陸合理論について

＜ポイント＞

デカルト、スピノザ、ライプニッツの思想に関する事項について取りあげ、説明すること（学修内容10・11参照）。

4．ドイツにおける哲学の発展について

＜ポイント＞

カント、ヘーゲル、ショーペンハウアーの思想に関する事項について取りあげ、説明すること（学修内容12参照）。

5．ハイデッガーとサルトルの思想について

＜ポイント＞

ハイデッガー、サルトルの思想に関する事項について取りあげ、説明すること（学修内容13・14参照）。

6．構造主義とポスト構造主義について

＜ポイント＞

レヴィ＝ストロース、フーコー、デリダの思想に関する事項について取りあげ、説明すること（学修内容15参照）。

教科書

貫成人『図説・標準　哲学史』新書館。

参考文献

秦野勝『面白いほどよくわかる！哲学の本』西東社。

湯浅赳夫『面白いほどよくわかる哲学・思想のすべて』日本文芸社。

沢辺有司『図解いちばんやさしい哲学の本』彩図社。

科目コード	統計学（２単位）	登録年次	履修方法
1440		１年	R
教員名	鈴木克也、三好一英		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

統計学といっても本科目の内容は単なる公式の暗記のみにはとどまらない。私たちの生活の中にはさまざまな統計情報があふれている。この統計情報からどのように意味のある情報を引き出すか、さらに世の中に対してそれをどのように活かしていくかが重要である。本科目では、そのことを視野に入れつつ、統計学の基本的な事項をおさえ、将来自分でデータの収集と分析ができるような基礎を作っていく。

学修内容

1	統計学の意義　pp.1-14 　統計学の有用性、統計学の誤用、経験と知識 統計学がどのような学問であるのかについて学修する。統計学の有用性とともに，統計学の誤用についても学修する。統計学が我々の生活にどのように役に立つのかについて，テキストを離れて，我々の実生活から考えてみると同時に，統計学の誤用にどう立ち向かえばいいかについても考察する。
2	データの解釈　pp.15-26 　日常生活とデータ、尺度と数量化 「合計特殊出生率」ということばが意味する内容について，テキストの内容をもとに正しく理解する。データを分析する際に行う数量化，尺度と指数などについてもテキストの具体例に触れながら，どのような作業なのかについて理解を深める。権威主義のF尺度については実際に自分の得点を求めてみる。
3	データと地域　pp.27-35 　地域性の統計分析、クロスセクション 地域データから，地域特性を分析する際に用いる特化係数について学修する。ニューヨーク市の人種構成の地区別データを使って地域性の特色をどう統計的に分析するかを確認する。地域データの典型であるクロスセクションについて学修する。テキストの例を見ながら，各自の目的関心に応じて図や表を作成してみる。
4	時系列データ　pp.36-42 　時系列グラフ あることがらについて，時間的に取られたデータを時系列データという。時系列データは時間により変化する変量であるため，その変化の大きさ，方向などをグラフ(この場合は折れ線グラフ)にすることによってその変化の特徴をつかむことが容易になる。ここでは，折れ線グラフで表された時系列データの具体例(経済指標，エンゲル係数，気象データ)を使って，時系列データの読み方について学修する。
5	分布とヒストグラム　pp.43-55 　度数分布、偏差値、ローレンツ曲線とジニ係数 統計データの分析でよく用いられる度数分布と度数分布表について学修する。度数分布表をヒストグラムにすることでさらにデータが分かりやすくなることを確認する。代表値としての中央値と最頻値についても理解する。分布とヒストグラムの応用例として偏差値，ローレンツ曲線とジニ係数がテキストに掲載されている。これらについても理解を深める。
6	平均値　pp.56-63 　平均の統計的性質、分布と期待値 代表値について学修する。データ全体のもつ情報を１つの値にまとめる作業を数値要約といい，数値要約によって要約された値のことを要約統計量と呼ぶ。ここでは，３つの代表値(平均値，中央値，最頻値)について学修する。それぞれの代表値の特徴を理解するとともに，それぞれの代表値の長所短所について理解する。
7	相関　pp.64-69 　相関関係 2つの量的な変数同士の関係を示す相関について学修する。相関とは2変数同士の全体的な量的傾向を指す言葉である。相関を通して2変数の関係の記述方法について学修する。2変数の直線的関係である相関関係について学修する。相関関係と混同しやすい因果関係との違いについても留意する。
8	質的変数　pp.70-73 　名義尺度、クロス集計表 質的変数とは，Stevensの4尺度における名義尺度に一致する，分類のみを目的としたデータである。大小関係を比較できないため，これまでに学修した統計法分析法を用いることができない。ここではまず，質的変数の特徴と，質的変数の分析に必要不可欠なクロス集計について学修する。
9	順位　pp.74-88 　順位データ データ数字に対する大きさの順序を順位という。時系列データに見られる上昇下降の特徴を，順位を使って表すこともできる。自動車メーカー，百貨店，チェーンストアの売上データの例から読み取る。都道府県別データに見られる順位からもマクロにミクロにその特徴を読み取ることができる。ここでは，人口と面積に関するデータからローレンツ曲線を導き，ジニ係数から，過疎過密について考える。
10	平均の統計分析　pp.89-105 　t検定 これまでに学修した，平均，分散，標準偏差，偏差値について，その算出方法を確認する。平均値を比較するために平均の有意性検定を行う。ここではスチューデントのt統計量を用いた有意性検定の方法について学修する。身近な具体例を使って，実際に平均値の検定を行うことにより，理解を深める。

11	相関係数　pp.106-114 　相関係数の計算 前節で学んだ相関を数値で表したものである相関係数，特にピアソンの積率相関係数についてさらに学修を深める。相関係数を求める方法，相関係数の取りうる範囲，相関係数の値の評価，相関係数と散布図との関係について学修する。見かけ上の相関と偏相関係数についても理解する。
12	回帰と予測　pp.115-125 　回帰直線、回帰分析、重回帰分析 2 変数の直線的関係について，回帰直線の方程式を求めることにより 2 変数の関係の強さを分析することが可能になる。これを回帰分析という。ここでは，オイルショック前後のエンゲル係数の時系列データから回帰分析を実際に行うことにより，回帰分析がどのようなものであるかを体験する。また，説明変数が 2 つ以上の場合における回帰分析の手法である重回帰分析についても知識を深める。
13	カテゴリカル・データ　pp.126-134 　適合度、二重クロス表 質的変数のカテゴリーに関して取られたデータからデータがどのくらい期待件数からずれているかについてカイ二乗統計量を用いて適合度の検定を行うことができる。また，質的変数同士の関連性についてもカイ二乗統計量を用いて独立性の検定を行うことができる。テキストの温泉地に関する都道府県別の地域データから，どのようなことが読み取ることができるかについて，自ら分析を行う。
14	ノンパラメトリック法　pp.135-140 　順位相関、ランの統計 カテゴリカル・データにおける分析方法として前節ではクロス集計と適合度の検定について学修を行った。ここでは順位相関係数，特にスピアマンの順位相関係数とケンドールの順位相関係数について学修する。またランダム性の検定方法として欄検定についても学修する。
15	因子分析　pp.141-147 　多変量解析、相関係数、因子負荷 統計学の発展的内容として，多変量解析というものがある。これまで 1 変数，2 変数の関係性について学修してきたが，これをさらに拡張することでより多くの変数を同時に分析することが可能になる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき 7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題 1】　統計とは何かについて説明し、それを活用することの利点と注意点について述べよ。
＜ポイント＞
・論述すべき内容は「統計学とは何か」「利点」「注意点」の 3 点である。
・利点、注意点については具体例を挙げながら説明すると論述しやすい。
・他の文献から文章を引用する場合には引用のルールを守ること。
・教科書の内容をまとめるというよりもむしろ、身近な例や問題に沿って、自分なりの考えを述べるとよい。

科目終了試験学修のポイント

1．ヒストグラムについて
＜ポイント＞
ヒストグラムの定義、どういう場合に用いるのか、棒グラフとの違いなどについて整理する。

2．質的変数と量的変数について
＜ポイント＞
それぞれの変数がどのようなものかを具体例を挙げながら考える。

3．標準偏差の利用方法について
＜ポイント＞
標準偏差の定義、統計学におけるさまざまな標準偏差の利用場面を整理する。

4．相関について
＜ポイント＞
相関の定義と相関を見る際の注意点について整理する。

5．正規分布について
＜ポイント＞
確率分布の一つである正規分布の特徴を整理する。

6．偏差値について
＜ポイント＞
偏差値の特徴と、それを利用するときの注意点について整理する。

教科書

松原望『わかりやすい統計学　第 2 版』丸善出版。

参考文献

佐伯胖、他『実践としての統計学』東京大学出版会。
金子治平、他『よくわかる統計学Ⅰ　基礎編　第 2 版』ミネルヴァ書房。

科目コード	道徳教育の研究（2 単位）	登録年次	履修方法
4130		1 年	R
教員名	木内正範、山田哲史、若狭清紀		

科目概要・到達目標

道徳は個人の内面の形成に直接的に関わるために、どのような道徳教育をどのようなかたちで学校教育の中で行うかについては、多くの議論がなされてきており、実際にめまぐるしい歴史的変遷をたどってきた。特に新学習指導要領では特別の教科「道徳」となり、道徳教育に対する理解はこれまで以上に重要性が高まってきている。このような道徳教育の理解に向けて、道徳教育の改訂の経緯、道徳教育の基本的なあり方、目標と内容、指導計画、道徳の時間の指導、全教育活動における指導、家庭・地域社会との連携、道徳教育における児童理解と評価の意義について学修する。そして道徳教育の授業理論や発達段階に応じた授業実践について学修し、道徳の学習指導案を作成できる能力を養う。

学修内容

1	道徳教育の基礎理論（教科書：第 1 部第 1 章） ポイント： 現代社会における道徳教育の諸問題に対する理解を深め、道徳教育の定義について考える。
2	道徳性とは何か（教科書：第 1 部第 2 章） ポイント： 道徳性とは何かについて理解を深め、道徳性の発達をどのように把握することができるかについて考察する。
3	道徳の目標（教科書：第 1 部第 3 章） ポイント： 新学習指導要領における道徳教育の目標、道徳科の目標をよく理解し、それを踏まえて子どもの発達段階に応じた指導について考察する。
4	道徳性の発達理論とそれに基づく道徳教育（教科書：第 1 部第 4、5 章） ポイント：様々な道徳性の発達理論についての理解を深め、それに基づいた道徳教育の実践について考察する。
5	日本における道徳教育の歴史（教科書：第 1 部第 6 章） ポイント：戦前の修身教育と戦後の道徳教育の相違点と類似点を比較し、それを踏まえて現在の道徳教育のあり方について考えを深める。
6	諸外国の道徳教育（教科書：第 1 部第 7 章） ポイント： 各国の道徳教育のあり方との比較を通して、日本の道徳教育のあり方を再検討する。
7	道徳教育の計画（教科書：第 2 部第 1 章） ポイント：道徳教育の全体計画、道徳科の年間指導計画の役割を理解し、それらを改善・充実するために必要なことを考察する。
8	道徳科の基本方針（教科書：第 2 部第 2 章） ポイント： 「主体的・対話的で深い学び」に対応した道徳科の授業のあり方についての理解を深め、「考え議論する道徳」の実現に向けた取り組みについて考察する。
9	道徳科の学習指導の展開（教科書：第 2 部第 3 章） ポイント：道徳科の学習指導案における「主題設定の理由」「ねらい」「子どもの実態」「学習指導過程」「発問」に関して、どう構想するかについて理解を深める。
10	道徳教材の活用（教科書：第 2 部第 4 章） ポイント： 道徳教材の類型、自作教材の作成方法、学習ノート・ワークシートの作成方法について理解を深め、児童生徒の心に残る道徳教材とは何かについて考える。
11	道徳科における問題解決的な学習（教科書：第 2 部第 5 章） ポイント：問題解決的な学習を道徳科で行う上で押さえておくべき重要な点をまとめる。
12	道徳科における体験的な学習（教科書：第 2 部第 6 章） ポイント：体験的な学習を道徳科で行う上で押さえておくべき重要な点をまとめる。
13	道徳科の多様な授業展開例（教科書：第 2 部第 7 章） ポイント： 紹介されている授業展開例を参考にして、同じ教材で自分なりの学習指導案を作成する。
14	教師に求められる道徳的指導力とは（教科書：第 2 部第 8 章） ポイント：教師に求められる道徳的指導力とは何かについて重要な点をまとめ、それらを教育実践の場面でどのように活用することができるのかについて考察する。
15	道徳の評価（教科書：第 2 部第 9 章） ポイント： 適切な道徳の評価を行うために必要なポイントをまとめ、評価を行う意義について考えを深める。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　道徳の時間において、主題をどのように設定し、どのような授業を行っていくかという指導の構想を述べよ。

＜ポイント＞

他教科の授業と比較して、道徳科の授業が児童生徒にとって効果のあるものになっているかを評価することは難しい。その点を踏まえた上で、どうすれば児童生徒の成長を実感することができるのかについてよく検討し、授業を構想すること。また以下の点を踏まえること。

1．対象学年や教材等は各自で選択してよいが、その学年の発達段階を踏まえて授業を構想すること。
2．新学習指導要領における道徳教育の目標、道徳科の目標を踏まえること。
3．選択した主題は道徳科の内容項目のどれに該当するのかを明示すること。（例：中学校　B－(7)　礼儀）
4．授業を実施した後に、授業に対する評価をどのように行うのかを検討すること。

科目終了試験学修のポイント

1．道徳教育における「特別の教科　道徳」の果たすべき役割について

＜ポイント＞

道徳教育とは何かについてまとめ、道徳教育の目標と道徳科の目標を比較検討することを通して、両者の共通点と相違点を整理する。それを踏まえて「特別の教科　道徳」の果たすべき役割について論じること。

2．道徳性の発達理論とそれに基づく道徳教育について

＜ポイント＞

道徳性の発達理論の変遷を整理し、それに基づいた道徳教育の実践例を示した上で道徳性の発達理論を実際の授業に活用する際の留意点を理解すること。

3．1958（昭和33）年の学習指導要領改訂により「道徳の時間」が特設されることになった経緯について

＜ポイント＞

戦前の修身教育との類似点と相違点について整理すること。それを踏まえて戦後の道徳教育が「道徳の時間」特設の前後でどのように変化していったのかについて理解すること。

4．道徳教育の計画について

＜ポイント＞

道徳教育の全体計画と道徳科の年間指導計画を作成する際の留意点や創意工夫等についてまとめ、それらがどうすれば実際に有効に機能するのかについて理解すること。

5．道徳教材の活用と道徳科における学習法について

＜ポイント＞

道徳科の授業を構想する段階において「主題」や「ねらい」をどのように設定し、それに適した教材をどのように検索、もしくは作成するのかについて理解すること。そして「ねらい」を達成するために最適な学習法を選択するために、道徳科の様々な学習法の長所・短所について整理すること。

6．教師に求められる道徳的指導力と道徳の評価について

＜ポイント＞

教師に求められる道徳的指導力とは何かについてまとめ、それを道徳の評価にどう結びつけていくかについて理解すること。道徳科の評価をする際のポイント、留意事項を理解し、評価の観点を踏まえて適切に評価していくためには何が大切なのかについて論じること。

教科書

柳沼良太 『道徳の理論と指導法 - 「考え議論する道徳」でよりよく生きる力を育む - 』 図書文化社。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』　廣済堂あかつき。
文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』　教育出版。
文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則編』東洋館出版。
文部科学省『中学校学習指導要領解説　総則編』ぎょうせい。
中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
生徒指導提要（平成22年3月告示　文部科学省）

※科目コード4620：R履修／科目コード4624：ＳR履修

科目コード	道徳の指導法（2単位）	登録年次	履修方法
4620/4624		2年/3年	R/ＳR
教員名	石川勉、木内正範、篠大輔、富岡栄、山田哲史、若狭清紀		
教職区分	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：道徳の理論及び指導法		

科目概要・到達目標

道徳は個人の内面の形成に直接的に関わるために、どのような道徳教育をどのようなかたちで学校教育の中で行うかについては、多くの議論がなされてきており、実際にめまぐるしい歴史的変遷をたどってきた。特に新学習指導要領では特別の教科「道徳」となり、道徳教育に対する理解はこれまで以上に重要性が高まってきている。このような道徳教育の理解に向けて、道徳教育の改訂の経緯、道徳教育の基本的なあり方、目標と内容、指導計画、道徳の時間の指導、全教育活動における指導、家庭・地域社会との連携、道徳教育における児童理解と評価の意義について学修する。そして道徳教育の授業理論や発達段階に応じた授業実践について学修し、道徳の学習指導案を作成できる能力を養う。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	道徳教育の基礎理論（教科書：第1部第1章） ポイント： 現代社会における道徳教育の諸問題に対する理解を深め、道徳教育の定義について考える。	オリエンテーション - 道徳授業を行う意味 - ・道徳授業を行う意味について自らの経験を踏まえて検討する。	印刷授業 面接授業1時間
2	道徳性とは何か（教科書：第1部第2章） ポイント： 道徳性とは何かについて理解を深め、道徳性の発達をどのように把握することができるかについて考察する。	道徳とは何か−社会規範・法律・倫理との比較から− ・社会規範・法律・倫理との比較から道徳性の定義を考察する。	印刷授業 面接授業1時間
3	道徳の目標（教科書：第1部第3章） ポイント： 新学習指導要領における道徳教育の目標、道徳科の目標をよく理解し、それを踏まえて子どもの発達段階に応じた指導について考察する。	道徳の目標 ・新学習指導要領における道徳教育の目標、道徳科の目標の理解を深める。	印刷授業 面接授業1時間
4	道徳性の発達理論とそれに基づく道徳教育（教科書：第1部第4、5章） ポイント：様々な道徳性の発達理論についての理解を深め、それに基づいた道徳教育の実践について考察する。	道徳教育の授業理論−モラルジレンマ− ・モラルジレンマの道徳理論を理解する。 ・実際にモラルジレンマの授業を体験する。	印刷授業 面接授業2時間
5	日本における道徳教育の歴史（教科書：第1部第6章） ポイント：戦前の修身教育と戦後の道徳教育の相違点と類似点を比較し、それを踏まえて現在の道徳教育のあり方について考えを深める。	日本の道徳教育の歴史 ・日本の道徳教育の歴史について明治時代から現在に至るまでの経緯を理解する。	印刷授業 面接授業1時間
6	諸外国の道徳教育（教科書：第1部第7章） ポイント： 各国の道徳教育のあり方との比較を通して、日本の道徳教育のあり方を再検討する。		印刷授業
7	道徳教育の計画（教科書：第2部第1章） ポイント：道徳教育の全体計画、道徳科の年間指導計画の役割を理解し、それらを改善・充実するために必要なことを考察する。	道徳教育の指導計画 道徳教育の全体計画、道徳科の年間指導計画について理解を深める。	印刷授業 面接授業1時間
8	道徳科の基本方針（教科書：第2部第2章） ポイント： 「主体的・対話的で深い学び」に対応した道徳科の授業のあり方についての理解を深め、「考え議論する道徳」の実現に向けた取り組みについて考察する。		印刷授業

9	道徳科の学習指導の展開（教科書：第2部第3章） ポイント：道徳科の学習指導案における「主題設定の理由」「ねらい」「子どもの実態」「学習指導過程」「発問」に関して、どう構想するかについて理解を深める。	道徳科の学習指導案を構想する ・学習指導案を作成する上での留意事項の理解を深め、学習指導案を構想する。	印刷授業 面接授業1時間
10	道徳教材の活用（教科書：第2部第4章） ポイント： 道徳教材の類型、自作教材の作成方法、学習ノート・ワークシートの作成方法について理解を深め、児童生徒の心に残る道徳教材とは何かについて考える。	模擬授業で用いる道徳教材を選定する ・構想した学習指導案に適した道徳教材を検討し、選択する。	印刷授業 面接授業1時間
11	道徳科における問題解決的な学習（教科書：第2部第5章） ポイント：問題解決的な学習を道徳科で行う上で押さえておくべき重要な点をまとめる。	道徳科の模擬授業を行う ・問題解決的な学習を取り入れた道徳科の模擬授業を行う。	印刷授業 面接授業3時間
12	道徳科における体験的な学習（教科書：第2部第6章） ポイント：体験的な学習を道徳科で行う上で押さえておくべき重要な点をまとめる。	道徳教育の授業理論-エンカウンター- ・エンカウンターを用いた授業実践を視聴し、実際にエンカウンターの授業を体験する。	印刷授業 面接授業1時間
13	道徳科の多様な授業展開例（教科書：第2部第7章） ポイント： 紹介されている授業展開例を参考にして、同じ教材で自分なりの学習指導案を作成する。	道徳科の学習指導案を作成する ・紹介されている授業展開例を参考にして、学習指導案を作成する。	印刷授業 面接授業2時間
14	教師に求められる道徳的指導力とは （教科書：第2部第8章） ポイント：教師に求められる道徳的指導力とは何かについて重要な点をまとめ、それらを教育実践の場面でどのように活用することができるのかについて考察する。		印刷授業
15	道徳の評価（教科書：第2部第9章） ポイント： 適切な道徳の評価を行うために必要なポイントをまとめ、評価を行う意義について考えを深める。		印刷授業
			面接授業 合計15時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点　スクーリング修了試験　　総合点の50% 参加態度・課題提出　　総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点） F 不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　道徳の時間において、主題をどのように設定し、どのような授業を行っていくかという指導の構想を述べよ。

＜ポイント＞

他教科の授業と比較して、道徳科の授業が児童生徒にとって効果のあるものになっているかを評価することは難しい。その点を踏まえた上で、どうすれば児童生徒の成長を実感することができるのかについてよく検討し、授業を構想すること。また以下の点を踏まえること。

1．対象学年や教材等は各自で選択してよいが、その学年の発達段階を踏まえて授業を構想すること。
2．新学習指導要領における道徳教育の目標、道徳科の目標を踏まえること。
3．選択した主題は道徳科の内容項目のどれに該当するのかを明示すること。（例：中学校　B－(7)　礼儀）
4．授業を実施した後に、授業に対する評価をどのように行うのかを検討すること。

科目終了試験学修のポイント

1．道徳教育における「特別の教科　道徳」の果たすべき役割について

＜ポイント＞

道徳教育とは何かについてまとめ、道徳教育の目標と道徳科の目標を比較検討することを通して、両者の共通点と相違点を整理する。それを踏まえて「特別の教科　道徳」の果たすべき役割について論じること。

2．道徳性の発達理論とそれに基づく道徳教育について

＜ポイント＞

道徳性の発達理論の変遷を整理し、それに基づいた道徳教育の実践例を示した上で道徳性の発達理論を実際の授業に活用する際の留意点を理解すること。

3．1958（昭和33）年の学習指導要領改訂により「道徳の時間」が特設されることになった経緯について

＜ポイント＞

戦前の修身教育との類似点と相違点について整理すること。それを踏まえて戦後の道徳教育が「道徳の時間」特設の前後でどのように変化していったのかについて理解すること。

4．道徳教育の計画について

＜ポイント＞

道徳教育の全体計画と道徳科の年間指導計画を作成する際の留意点や創意工夫等についてまとめ、それらがどうすれば実際に有効に機能するのかについて理解すること。

5．道徳教材の活用と道徳科における学習法について

＜ポイント＞

道徳科の授業を構想する段階において「主題」や「ねらい」をどのように設定し、それに適した教材をどのように検索、もしくは作成するのかについて理解すること。そして「ねらい」を達成するために最適な学習法を選択するために、道徳科の様々な学習法の長所・短所について整理すること。

6．教師に求められる道徳的指導力と道徳の評価について

＜ポイント＞

教師に求められる道徳的指導力とは何かについてまとめ、それを道徳の評価にどう結びつけていくかについて理解すること。道徳科の評価をする際のポイント、留意事項を理解し、評価の観点を踏まえて適切に評価していくためには何が大切なのかについて論じること。

教科書

柳沼良太 『道徳の理論と指導法 - 「考え議論する道徳」でよりよく生きる力を育む - 』 図書文化社。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』　廣済堂あかつき。
文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』　教育出版。
文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則編』東洋館出版。
文部科学省『中学校学習指導要領解説　総則編』ぎょうせい。
中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
生徒指導提要（平成22年3月告示　文部科学省）

※科目コード4060：R履修／科目コード4064：SR履修

科目コード	特別活動の指導法（2単位）	登録年次	履修方法
4060/4064		2年	R/SR※
教員名	安次嶺隆幸、石渡宏、磯部武雄、小笠原眞紀、中川理、濱地幸		
教職区分	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：特別活動の指導法		

科目概要・到達目標

講義概要

◇特別活動は、生徒の自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤に必要な望ましい人間関係を築き、いじめ問題などに対する予防薬的な役割を果たすなど、生徒の成長に欠かせない教育活動である。そこで、特別活動の意義や目標を確認し、その背景となる理論を理解するとともに、実践的な指導の在り方を身につける。

◇特別活動の方法原理や基本的な用語などの確認をしながら、体験的な学びを重視し、学級活動・ホームルーム活動を中心とした授業力等の理解と習得を図る。

到達目標

1. 特別活動の目標や内容、特質と教育課程における位置づけについて理解し、教育課程全体を意識して計画や指導を行うことができるようになる。
2. 特別活動における評価・改善活動の重要性を理解し、適切な評価・改善活動を実践できるようになる。
3. 特別活動の中核となる「学級活動・ホームルーム活動」について、その特質を理解した上で、指導案（展開案）を作成し、合意形成に向けた話合い活動を指導できるようになる。
4. 特別活動における家庭、地域等との連携のあり方について理解し、指導に活かせるようになる。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	特別活動とは―特別活動の位置づけと目標について考える― （特別活動の教育課程内での位置づけと目標について、自身の学習体験から考えるとともに、学習指導要領との関連から特別活動のあり方について捉えなおす。）	・特別活動における「望ましい集団」について話し合う	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
2	特別活動とは―特別活動の内容と特質について考える― （特別活動の全体構成、各内容の概要、特質、特別活動の歴史）	・特別活動の特質、魅力について話し合う	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
3	特別活動の各内容の特質 （学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事）	・各内容の実践事例を持ち寄り、それぞれの特質について意見を共有する	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
4	特別活動の評価 （特別活動の評価の意義、評価の計画と方法、評価結果の活用と指導要録）	・特別活動における評価の意義について話し合うとともに、評価の実践と共有を行う	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
5	学級活動・ホームルーム活動の具体的な取り組み―話合い活動（学級や学校における生活づくりへの参画）の計画― （話合い活動の年間指導計画と一単位時間の指導計画）	・話合い活動（学級や学校における生活づくりへの参画）の指導計画をもとに、模擬授業を行う	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
6	学級活動・ホームルーム活動の具体的な取り組み―話合い活動（日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全）の計画― （話合い活動の年間指導計画と一単位時間の指導計画）	・話合い活動（日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全）の指導計画をもとに、模擬授業を行う	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
7	学級活動・ホームルーム活動の具体的な取り組み―話合い活動（一人一人のキャリア形成と自己実現）の計画― （話合い活動の年間指導計画と一単位時間の指導計画）	・話合い活動（一人一人のキャリア形成と自己実現）の指導計画をもとに、模擬授業を行う	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）

8	児童会・生徒会活動の指導 （生徒の主体的な活動としての生徒会活動の計画及び指導、児童会・生徒会活動の意義）	・活動計画を持ち寄り、「主体的な活動」としての児童会・生徒会活動のための計画と支援のあり方について話し合う	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
9	学校行事の指導―文化的行事と健康安全・体育的行事のあり方― （文化的行事・体育的行事のあり方、指導の留意点）	・文化的行事と体育的行事の計画や実践を持ち寄り、特別活動の目標との整合性について話し合う	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
10	学校行事の指導―集団宿泊的行事と勤労生産・奉仕的行事のあり方― （集団宿泊行事の宿泊計画、勤労生産・奉仕的行事の教師の視点からの計画設計、指導の留意点）	・集団宿泊的行事と勤労生産・奉仕的行事の計画や実践を持ち寄り、計画及び指導の留意点について意見を発表する	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
11	学校行事の指導―儀式的行事のあり方― （儀式的行事の時程及び、指導、儀式的行事の意義）	・儀式的行事の意義について話し合う	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
12	クラブ活動の指導 （クラブ活動の年間の流れ、年間計画、指導の留意点）	・クラブ活動の実践を持ち寄り、活動時の実際の指導について、留意点を話し合う	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
13	特別活動の全体計画 （特別活動の全体指導計画の作成、各内容の年間指導計画の作成）	・特別活動の全体計画を持ち寄り、それぞれの特徴やポイントを読み解き、意見を発表し合う	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
14	特別活動と地域社会との連携 （地域の特色を生かす特別活動、学校と地域社会・諸機関との連携、ボランティア活動）	・実践を持ち寄る等して、地域との連携についてのアイディアを共有する	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
15	特別活動の展望 （特別活動の教育的意義と諸活動の内容、特別活動の歴史、研究動向及び課題と展望）	・研究動向について持ち寄り、今後の特別活動のあり方について話し合う	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
			面接授業：合計15時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の50%、参加態度・課題提出　総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点）　F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 特別活動の歴史からみた特質について、小学校、中学校いずれかについてその変遷を概観するとともに、平成 29 年3月告示の学習指導要領の特別活動に関する「改訂の要点」を述べよ。

＜ポイント＞

特別活動は、歴史が浅く、学校においても、授業時数が減少している、教科書がないなどの理由によって、多くの学校で量（時数）、質（内容）の管理が不十分な傾向にある。しかしながら、昨今のいじめ、校内暴力、不登校などの問題行動を見ると、特別活動を学校教育の中核に据えての学校運営が必要である。

そこで、温故知新ともいうので、わが国の特別活動発足以来の歴史的な経緯について、小学校か中学校のいずれかに絞り込んで概観するとともに、平成29年3月告示の学習指導要領について特別活動の改訂の要点を述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．特別活動の目標とその特質及び教育的意義

＜ポイント＞

各活動の目標を規定し、よりよい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度の育成を図る。

2．教育課程の編成・実施と特別活動の充実

＜ポイント＞

教育課程編成における特別活動の学校教育活動全体との関連、特色ある学校づくり、開かれた学校の推進に努める。

3．小学校学級活動における集団決定と自己決定

＜ポイント＞

意見をまとめるなどの話合い活動や自分たちで決まりを作って守る活動を通し、状況を正確に判断し、適切な行動を決定していく能力を養う。

4．中学校生徒会活動の目標・内容

＜ポイント＞

異年齢集団による交流を通して、集団の一員として生徒会の計画や運営など、よりよい学校生活づくりに参画することである。

5．小学校クラブ活動の目標・内容と計画

＜ポイント＞

同好の児童をもって、異年齢集団の交流を深め、クラブの計画や運営、クラブを楽しむ活動、クラブの成果の発表を行う。

6．小学校学校行事の目標・内容と留意事項

＜ポイント＞

集団への連帯感や公共の精神を養う。学校行事の五つの種類と内容、文化や芸術に親しむ「文化的行事」（変更）、自然の中での集団宿泊活動、体験後のまとめや発表活動などを充実する。

教科書

高橋哲夫、井田延夫、他『特別活動研究』教育出版

参考文献

文部科学省『小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説　特別活動編』
文部科学省『小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説　総則編』
生徒指導提要（平成22年3月告示　文部科学省）
中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）

科目コード	特別支援教育実習指導（１単位）	登録年次	履修方法
6410/6210/6211		３年	S
教員名	上田征三、西脇雅彦		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

次の点について実践的に学ぶ。①教師のあり方、②教育実習の準備、③特別支援教育の児童・生徒の実態、④特別支援教育の現状、⑤障害児の理解と接し方、⑥障害児の観察の視点、⑦人権教育について、⑧教育機器と教材の活用。後半では、授業学習の観察（ビデオ）と討論、現職教員の指導講話から学び、マイクロティーチングを実施し、教育実習における今後の問題点をまとめる。また、事前学習として、特別支援学校の公開授業等の参加、教育体験ボランティアとして参加すること等を勧める。

学修内容

1	特別支援教育や児童・生徒の実態、特別支援教育や学校の現状 教科書　Ⅰ部　「特別支援教育とは」参照
2	特別支援教育の専門性と教育課程 教科書　Ⅱ部　４，５，６章　「教員の専門性」「教育課程」「関係領域」参照
3	領域「自立活動」と指導計画 教科書　Ⅱ部　４，５，６章　「教員の専門性」「教育課程」「関係領域」参照
4	障害児の理解と接し方、障害児の観察の視点 教科書　Ⅲ部　「発達障害の理解と特別支援教育」「障害児の発達特性と指導の体制等」参照
5	特別支援学校（実習先）の理解　※スクーリングまでに実習予定先の情報を整理しておくこと。 実習日誌の記入に必要な「学校の現況」「オリエンテーションの内容」「日課」などの理解
6	特別支援学校の現場の授業研究（ビデオ等による観察） 教師や学校のあり方、実習日誌の記入演習
7	特別支援学校の現場の授業研究（ビデオ等による観察） 児童生徒の理解、実習日誌の記入演習
8	障害に応じた授業、年齢に応じた授業、「自ら学ぶ」授業ー教育活動の構造化　①教室の構造化 参考書「よくわかる障害児教育」参照
9	障害に応じた授業、年齢に応じた授業、「自ら学ぶ」授業ー教育活動の構造化　②スケジュールの構造化 参考書「よくわかる障害児教育」参照
10	障害に応じた授業、年齢に応じた授業、「自ら学ぶ」授業ー教育活動の構造化　③教材の構造化 参考書「よくわかる障害児教育」参照
11	障害に応じた授業、年齢に応じた授業、「自ら学ぶ」授業ー教育活動の構造化　④授業内容の構造化 参考書「よくわかる障害児教育」参照
12	マイクロティーチング（模擬授業） 授業研究、教材研究、指導案または教材・教具作成の演習
13	マイクロティーチング（模擬授業） 授業研究、教材研究、指導案または教材・教具作成の演習と模擬授業の発表
14	模擬授業発表に関する自己評価と他者評価による振り返り 単元は適切か、授業者の活動は適切か、適切な構造化はなされたか。
15	人権教育について、教育実習までの準備、教育実習における今後の問題点とまとめ

教科書

石部元雄、他『特別支援教育―理解と推進のために　改訂版』福村出版。

参考文献

石部元雄、上田征三、他『よくわかる障害児教育　第３版』ミネルヴァ書房。
文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚部・小学部・中学部）』教育出版。
文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）』海文堂出版。

科目コード	特別ニーズ教育論（２単位）	登録年次	履修方法
4750		2	ＳＲ
教員名	工藤傑史、須藤典征、柳本雄次		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		

科目概要・到達目標

障害の有無に関わらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1) インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2)わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3)特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、についてそれぞれ講述する。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	第５章　特別支援教育の歴史 障害児教育の歴史と戦後障害児教育までの変遷について読解し、現在の特別支援教育の視点から相違点及び、障害の有無に関わらず特別な教育的ニーズについてまとめておくこと。また、母国語や貧困等の問題から教育的ニーズを抱えた児童への対応について、インクルーシブ教育の理念からまとめておくこと。	障害児教育の歴史と戦後障害児教育までの変遷について解説する。あわせて、重要度を増す特別支援教育について、障害の有無に関わらず特別な教育的ニーズ（母国語や貧困等の問題など）を抱えた児童への対応について、インクルーシブ教育の理念から討論する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
2	第１章　インクルーシブ教育への転換 インクルーシブ教育の国際動向を読解し、サラマンカ声明と障害者の差別、合理的配慮についてまとめておくこと。	サラマンカ声明にみる特別な教育的ニーズと障害者権利条約、合理的配慮について討論する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
3	第１章　インクルーシブ教育への転換 特別支援教育とインクルーシブ教育を読解し、わが国の特別支援教育の理念と制度、交流及び共同学習について整理する。	わが国の特別支援教育の理念と制度、役割と機能について、交流及び共同学習の視点から整理する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
4	第１章　インクルーシブ教育への転換 特別支援教育とインクルーシブ教育を読解し、通常学級における合理的配慮とユニバーサルデザイン教育について整理する。	通常学級における合理的配慮とユニバーサルデザイン教育について解説する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
5	第２章　障害児の教育課程と方法 特別支援教育の学習指導要領と教育課程、個別の教育支援計画、個別の指導計画について確認しておくこと。	特別支援教育の教育課程、個別の教育支援計画、個別の指導計画について解説する。あわせて、通常学級における個別の指導計画の意義と運用事例について討論する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
6	第２章　障害児の教育課程と方法 教育内容について読解し、特別支援学級や通級指導教室の教科指導（読み・書き）と作業学習、自立活動についてまとめておくこと。	教育内容として、特別支援学級や通級指導教室の教科指導（読み・書き）と生活単元学習、作業学習、自立活動について意義の確認をした上で、特別支援学校における授業事例をもとに討論する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
7	第２章　障害児の教育課程と方法 授業づくりを読解し、発達障害や軽度の知的障害を抱える児童を含む通常学級での授業づくりの手法として、授業のユニバーサルデザイン化とその視点、教材教具の心理的な役割についてまとめておくこと。	発達障害や軽度の知的障害を抱える児童を含む通常学級での授業づくりの手法として、授業のユニバーサルデザイン化とその視点、教材教具の心理的な役割について事例をもとに討論する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
8	第２章　障害児の教育課程と方法 指導の方法を読解し、ICT を用いたコミュニケーションの光と影、発達障害や軽度知的障害を抱えた児童に対するソーシャルスキルトレーニング（SST）と、問題行動への対応の観点から整理しておくこと。	ICT を用いたコミュニケーションの光と影を理解した上で、発達障害や軽度知的障害を抱えた児童に対するソーシャルスキルトレーニング（SST）と、問題行動への対応について事例をもとに討論する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
9	第２章　障害児の教育課程と方法 特別支援学校の制度を読解し、視覚障害教育と聴覚障害教育、病弱教育について整理した上で、障害を合わせ有する重複障害児童の教育課程編成についてまとめておくこと。	学校制度上の視覚障害・聴覚障害・病弱・肢体不自由の各教育課程について、知的障害と対比させながら解説する。あわせて、障害を合わせ有する重複障害児童の教育課程編成について討論する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
10	第３章　障害児者の発達・障害・生活 障害と発達の基礎概念を読解し、発達保障の考え方、障害者の自立、発達と教育の関係について整理・確認してまとめておくこと。	個人の発達と集団、社会の発展、障害者の自立、発達と教育の関係について、文化的発達の一般的発生法則の視点から討論する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
11	第３章　障害児者の発達・障害・生活 障害と発達の基礎概念を読解し、いじめや非行、不登校と障害の関連、QOL を高めるための教育的な支援についてまとめておくこと。	いじめや非行、不登校と障害の関連、QOL を高めるための教育的な支援について事例をもとに討論する。	印刷授業 及び 面接授業 （2時間）
12	第３章　障害児者の発達・障害・生活 障害の診断・判断・支援を読解し、ウェクスラー式知能検査を整理した上で、ダウン症の行動特性の観点から課題と支援についてまとめておくこと。		印刷授業

13	第３章　障害児者の発達・障害・生活 障害の診断・判断・支援を読解し、読み書き障害、ADHD、自閉症スペクトラムについてまとめておくこと。	読み書き障害（ディスクレシア）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム（ASD）について事例をもとに教育的な支援を討論する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
14	第３章　障害児者の発達・障害・生活 障害の診断・判断・支援を読解し、弱視、難聴、ろう文化と手話についてまとめておくこと。	通常学級における弱視と難聴の児童への教育的な支援について事例をもとに討論する。あわせて、ろう文化と手話について解説を加える。意見発表	印刷授業 及び 面接授業 （2 時間）
15	第４章　障害者のライフステージと教育・福祉 就学前から就学へ、そして青年期から成人へを読解し、児童発達支援、障害児と学童保育、相談事業についてまとめておくこと。 まとめとして特別ニーズ教育論のノートを整理する。		印刷授業
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 現代の学校は、発達障害・母国語・貧困などの問題への様々な教育的ニーズに対応しなければならない。現在の学校教育が抱える課題について、インクルーシブ教育の視点から整理し、その解決についてのあなたの考える方策を述べよ。

＜ポイント＞
・インクルーシブ教育は通常教育の改革であるという視点から考察する。
・小学校には発達障害を抱えているであろう児童が 6.5%存在する。それ以外に教育的ニーズを抱えている児童も存在する事まで考えを広げ、その教育的ニーズの具体例を文献や新聞などで調べる。
・様々な教育的ニーズへの対応策について文献や新聞などで調べる。
・調べた具体例と対応策について自己の経験や思いと重ね合わせて、自分の考えとして文章化する。

科目終了試験学修のポイント

１．インクルーシブ教育の理念について
＜ポイント＞
インクルーシブ教育、国連・障害者の権利に関する条約、サラマンカ声明、特別な教育的ニーズ、インテグレーションについて学習する。
２．特別支援教育とインクルーシブ教育について
＜ポイント＞
通常学級における合理的配慮、ユニバーサルデザイン教育、母語が日本語でない児童への学習支援、貧困家庭の抱える教育的ニーズへの社会的・教育的な支援について学習する。
３．障害の理解について
＜ポイント＞
視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱の医学的・教育的な定義について学習する。また、読み書き障害（ディスクレシア）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム（ASD）などの発達障害について学習する。
４．特別支援学校の学習指導要領と教育課程について
＜ポイント＞
知的障害の学習指導要領と教育課程、特別支援学校の準ずる教育課程、教育方法、個別の指導計画について学習する。
５．障害児の教育課程について
＜ポイント＞
教科指導の特徴、作業学習、自立活動について学習する
６．特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりについて
＜ポイント＞
障害の有無に関わらず、すべての児童が「わかる・できる」が実感できる授業づくりとして、通常学級でできる授業のユニバーサルデザイン化について学習する。

教科書

玉村公二彦、他『新版　キーワードブック　特別支援教育』クリエイツかもがわ。

参考文献

特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年 4 月告示　文部科学省）
小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）

科目コード	日本近代文学史（２単位）	登録年次	履修方法
9280		３年	R
教員名	坂井二郎		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

明治時代から大正時代までの近代日本文学の歴史を、啓蒙期の文学、写実主義、擬古典主義、浪漫主義、自然主義、反自然主義、理想主義、新現実主義、プロレタリア文学という流れで概観していく。また近代日本文学を象徴する作品を具体的に取り上げ、それぞれの主題と明治・大正の時代背景や文化背景との関連性を考察していく。

学修内容

1	日本近代文学の始まりとその意義―明治以降の日本近代文学の役割を西洋文化と西洋近代文学との接触から考察する。(教科書 pp. 1-6)
2	明治初期の文学の役割―江戸時代の名残としての明治初期文学の特徴と役割を考察する。 (教科書 pp. 2-16)
3	啓蒙期の文学の役割―啓蒙期の文学の特徴と役割を明治 10 年代の文学研究を通して概観する。(教科書 pp. 16-22)
4	日本近代文学史における写実主義の役割―二葉亭四迷の「浮雲」を題材として日本近代文学における写実主義文学の特徴と役割を考察する。(教科書 pp. 22-30)
5	日本近代文学史における擬古典主義の役割―尾崎紅葉、幸田露伴の作品を題材として日本近代文学における擬古典主義文学の特徴と役割を考察する。(教科書 pp. 30-35)
6	日本近代文学史における浪漫主義の役割―森鴎外と喜多村透谷に代表される日本近代文学における浪漫主義文学の特徴と役割を考察する。(教科書 pp. 35-39)
7	日本近代文学史における自然主義の役割―島崎藤村、田山花袋、夏目漱石などを中心とする自然主義文学の特徴と役割を考察する。(教科書 pp. 49-62)
8	日本近代文学史における反自然主義的文学の役割―石川啄木、永井荷風、谷崎純一郎などに象徴される様々な形での反自然主義的文学の特徴と役割を考察する。(教科書 pp. 62-75)
9	日本近代文学史における理想主義文学の役割 1―大正時代の白樺派の作家による理想主義文学・人道主義文学の特徴と役割を武者小路実篤と志賀直哉の作品を題材として考察する。(教科書 pp. 76-82)
10	日本近代文学史における理想主義文学の役割 2―大正時代の白樺派の作家による理想主義文学・人道主義文学の特徴と役割を有島武郎に焦点を当て考察する。(教科書 pp. 82-84)
11	日本近代文学史における新現実主義の役割―大正時代中期以降の新現実主義文学の特徴と役割を芥川龍之介、菊池寛、山本雄三を中心に考察する。(教科書 pp. 85-93)
12	日本近代文学史におけるプロレタリア文学の役割―大正時代のプロレタリア文学(労働文学)の特徴と役割を小林多喜二に焦点を当て考察する。(教科書 pp. 105-108、pp. 114-120)
13	日本近代文学史におけるモダニズム文学の役割―近代文学の終わりの象徴であるモダニズム文学の特徴と役割を横光利一と川端康成を中心に考察する。(教科書 pp. 105-114)
14	日本近代文学史における詩・短歌・俳句の役割―日本近代文学史における詩・短歌・俳句の役割を時代背景と関連付けながら考察する。(教科書 pp. 42-46、pp. 99-104)
15	日本語教育における日本近代文学の役割―「俳句と短歌を教材とした日本語読解活動の実践報告」を題材に日本語教育における文学作品の活用方法を考察する。(参考文献「俳句と短歌を教材とした日本語読解活動の実践報告」http://www.cajle.info/wp-content/uploads/2013/06/volume-14.031-053.pdf 参照)

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】明治時代初期から大正時代末期までの日本近代文学の変遷をそれぞれの時代の主要文学作品を例示しながら概観せよ。

＜ポイント＞

まず初めに日本近代文学の全体的特徴を中世(江戸時代)から近代(明治時代)への時代変化に留意しながら概観する。次に明治時代の文学を啓蒙主義文学、写実主義文学、浪漫主義文学、自然主義文学の変遷として位置づけ、大正時代の文学を理想主義文学、新現実主義文学、プロレタリア文学の変遷として位置づけながら概観し、最後に日本文学史における日本近代文学の役割について論ずる。

科目終了試験学修のポイント

1．日本近代文学における啓蒙期の文学の特徴と役割について

＜ポイント＞

第1-3回の学修内容を踏まえ、啓蒙期（明治初期から明治20年ごろまで）の文学の特徴と役割を江戸から明治への過渡期の時代背景の中に位置づけながら論ずる。

2． 日本近代文学史における写実主義文学と浪漫主義文学の特徴と役割について

＜ポイント＞

第4-6回の学修内容を踏まえ、日本近代文学史における写実主義文学と浪漫主義文学の特徴と役割を二葉亭四迷の「浮雲」と森鴎外の「舞姫」をそれぞれの題材として具体的に取り上げながら論ずること。

3．日本近代文学史における自然主義文学の特徴と役割について

＜ポイント＞

第7-8回の学修内容を踏まえ、自然主義文学と反自然主義的文学の特徴と日本近代文学史における役割を比較しながらまとめる。自然主義文学については島崎藤村、田山花袋、夏目漱石を取り上げ自然主義文学の特徴を論じ、反自然主義的文学については、石川啄木、永井荷風、谷崎純一郎に注目しながら特徴をまとめ、最後に比較対照すること。

4．日本近代文学史における理想主義と新現実主義の特徴と役割について

＜ポイント＞

第9-11回の学修内容を踏まえ、大正時代に起こった理想主義文学と新現実主義文学の特徴と日本近代文学史における役割をまとめる。理想主義・人道主義文学については白樺派の武者小路実篤や志賀直哉などに留意し、新現実主義文学については新思潮の芥川龍之介や菊池寛などに注目しながら論ずること。

5．近代日本文学の終わりについて

＜ポイント＞

第12-13回の学修内容を踏まえ、大正末期から昭和初期に起こったプロレタリア文学(労働文学)とモダニズム文学の特徴と日本近代文学史における役割をまとめる。プロレタリア文学については小林多喜二に注目し、モダニズム文学については横山利一と川端康成に注目し、それぞれの時代背景に留意しながら論ずること。

6．日本語教育における日本近代文学の活用法について

＜ポイント＞

第14-15回の学修内容を踏まえ、日本語教育における近代日本文学、とくに俳句と短歌の活用法について考察する。参考文献「俳句と短歌を教材とした日本語読解活動の実践報告」を参照しながら論ずるとよい。

教科書

奥野健男『日本文学史―近代から現代へ』中公新書、1970。

参考文献

1．小川義男編『あらすじで読む日本の名著』中経出版、2003。

2．上田博、木村一信、中川成美編『日本近代文学を学ぶ人のために』世界思想社、1997。

3．柴田節枝、横田淑子『俳句と短歌を教材とした日本語読解活動の実践報告』。

http://www.cajle.info/wp-content/uploads/2013/06/volume-14.031-053.pdf

科目コード	日本語学演習Ⅰ（文法・文体）（２単位）	登録年次	履修方法
9290		３年	ＳＲ
教員名	山口雅代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日本語教育の場で文法・文体が実際にどのように取り上げられているか理解する。学校文法と日本語教育で用いられる文法用語の違いについて留意し、初級教科書を用いながら日本語の文法・文体を学ぶ。初級教科書を持っている場合は、それを使用する。持っていない場合は『みんなの日本語Ⅰ』（何年版でもよい）を用意する。ただし、それ以外の教科書でも構わない。

学修内容

1	用意した初級教科書について、その特徴について把握し、文型を確認する。
2	ケース１　「は」と「が」（1）、ケース２　ニとデ　　pp.6-17 「は」と「が」、ニとデの助詞の役割を理解した上で、初級教科書ではどのように提示されているか調べる。
3	ケース３　格の重複、ケース４　イルとアル、　pp.18-27 格の重複についてどのような原則があるのか、イルとアルの使い方とは何か、それぞれについて理解し、初級教科書では、どのように提示されているか調べる。
4	ケース５　活用　pp.28-33 学校文法での活用と初級教科書での活用の違いについて理解する。
5	ケース６　動詞の自・他の対応、ケース７　受給・受益の表現、ケース８　テンス　pp.34-49 自動詞・他動詞、受給・受益表現、テンスについて理解し、初級教科書ではそれぞれどのように提示されているか、提示されていないかについて調べる。
6	ケース９　アスペクト、ケース 10　複合動詞の成立条件　pp.50-61 アスペクトや複合動詞の成立について考え、初級教科書ではどのように提示されているか調べる。
7	ケース 11　コ・ソ・ア、ケース 12　人物の呼称　pp.62-71 コ・ソ・アや人称の呼称の使い方について理解し、初級教科書の提示の仕方を調べる。
8	ケース 13　とりたて、　ケース 14　うなぎ文 とりたてやうなぎ文とは何か理解し、初級教科書ではどのように提示されているか調べる。
9	ケース 15　情態副詞の修飾、ケース 16　程度副詞の修飾、ケース 17　陳述副詞の修飾　pp.84-101 副詞の種類について理解し、初級教科書ではどのような副詞が提示されているか調べる。
10	ケース 18　数量詞の位置 数量詞の使い方について理解し、初級教科書ではどのような数量詞が提示されているか調べる。
11	ケース 19　連体修飾（1）、ケース 20　連体修飾（2）　pp.108-117 連体修飾における「内・外の関係」を理解する。初級教科書ではどのような連体修飾が扱われているのか調べる。
12	ケース 21　語順 文の関係性を理解し、初級教科書ではどのように扱われているか調べる。
13	ケース 22　慣用句 初級教科書で扱われている慣用句を調べる。
14	ケース 23　否定とハ、ケース 24　「は」と「が」（2）pp.130-139 否定文におけるハの役割や「は」と「が」について理解し、初級ではどのように取り上げられているか調べる。
15	ケース１から 24 について復習し、わからない用語があれば、戻って見直す。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】学校文法と日本語教育で用いられる文法の違いについて考えながら、初級教科書ではケース1からケース24がどのように提示され、また提示されていないかについてまとめ、なぜそうだと思うか考える。

＜ポイント＞

学校文法での品詞や動詞の活用は、初級教科書の中でどのように扱われているか述べる。ケース1からケース24について、初級教科書では何が取り上げられているのか述べ、取り上げられた文法についてはどこまで提示されているか調べる。ケース1からケース24では、初級教科書に提示されていること以上について述べられているが、それはなぜだと思うか、学習者の立場に立って考える。

科目終了試験学修のポイント

1． 初級ではテンス・アスペクトはどう教えたらよいと思うか。

＜ポイント＞

初級教科書では、テンス・アスペクトについてケース8、9、10で学んだことの何が提示され、提示されていないかについて調べ、教えることと教えないことを考える。また提示されていることをどう教えるか考える。

2． 初級で授受表現をどう教えたらよいと思うか。

＜ポイント＞

初級教科書では、授受表現についてケース7で学んだことの何が提示され、提示されていないかについて調べ、教えることと教えないことを考える。また提示されていることをどう教えるか考える。

3． 初級で「は」と「が」はどう教えたらいいと思うか。

＜ポイント＞

初級教科書では、「は」と「が」についてケース1、23、24で学んだことの何が提示され、提示されていないかについて調べ、教えることと教えないことを考える。また提示されていることをどう教えるか考える。

4． 初級で教える副詞について考える。

＜ポイント＞

初級教科書では、副詞についてケース15、16、17で学んだことの何が提示され、提示されていないかについて調べ、教えることと教えないことを考える。また提示されていることをどう教えるか考える。

5．初級で教える連体修飾について考える。

＜ポイント＞

初級教科書で取り上げられている連体修飾は何かについて述べ、ケース19、20で学んだことの何が提示され、提示されていないかについて述べ、それについてどう思うか考える。

6．初級で教える格助詞について考える。

＜ポイント＞

特に、ケース2、4の格助詞について述べ、何が提示され提示されていないか考え、どう教えるか考える。

教科書

寺村秀夫他著『ケーススタディ日本文法』桜楓社、2004。

参考文献

庵功雄他著『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク、2000。

加藤重広『日本語文法ハンドブック』研究社、2006。

国際交流基金『初級を教える』国際交流基金日本語教授法シリーズ、2007。

科目コード	日本語学演習Ⅱ（文字・表記）（2単位）	登録年次	履修方法
9300		3年	SR
教員名	山口雅代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日本語教育の場で文字・表記がどのように扱われているのか、日本語能力試験の語彙の基準を用いて理解する。まず、日本語の文字・表記にどのような特徴があるか学ぶ。その後、下記１．２を用い、どのような問題があり、2010 年から新しい日本語能力試験が導入されたのか、また新しい日本語能力試験の語彙の選定の仕方を理解する。次に理念について、３を読み理解する。

１．文部科学省（2001）「日本語教育のための試験の改善について―日本語能力試験・日本語教育能力検定試験を中心として―（報告）（抄）」
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t20010330005/t20010330005.html　2015 年 7 月 8 日検索

２．押尾和美他著（2008）「新しい日本語能力試験のための語彙表作成にむけて」『国際交流基金日本語教育紀要』第４号、pp.71-86
https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/research/report/04/pdf/06.pdf　2015 年 7 月 8 日検索

３．国際交流基金　ＪＦ日本語教育スタンダード
https://jfstandard.jp/summary/ja/render.do　2015 年 7 月 8 日検索

学修内容

1	第１章　文字言語と音声言語（pp.1-14）　どのような表記が学習者にとって困難なのか考える。
2	第２章　文字の種類（pp.16-30）　文字の種類や文字体系の特徴について理解する。
3	第３章　日本語の表記法の基準（pp.32-44）　日本語の表記法や旧日本語能力試験の漢字について理解する。
4	第４章　漢字（pp.46-59）　漢数の成立ちについて理解する。
5	第４章　漢字（pp.60-74）　漢字の画数や部首、音・訓などについて理解する。
6	第５章　外来語（pp.76-87）　外来語の種類と歴史について理解する。
7	第５章　外来語（pp.88-100）　外来語の表記について理解する。
8	第６章　文字生活（pp.102-114）　横書き、分かち書き、原稿用紙の使い方などについて理解する。
9	第７章　表記法の指導（pp.116-128）　平仮名・片仮名・漢字をどう教え、どのような点に気を付けなければならないか理解する。
10	資料（pp.129-145）　日本語能力試験の漢字や送り仮名のつけ方について目を通しておく。
11	１．文部科学省（2001）「日本語教育のための試験の改善について―日本語能力試験・日本語教育能力検定試験を中心として―（報告）（抄）」を読み、旧日本語能力試験にどのような問題があったのか理解する。
12	２．押尾和美他著（2008）「新しい日本語能力試験のための語彙表作成にむけて」を読み、新しい日本語能力試験に対応するために、どのような作業が行われたのかを理解する。
13	新しい日本語能力試験の理念の中にある、can-do statements とは何か、３．「国際交流基金　JF 日本語教育スタンダード」を読み理解する。
14	新しい日本語能力試験と can-do statements について理解する。
15	旧日本語能力試験と新しい日本語能力試験はどう違うか、教科書と１．２．３．を読み理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】日本語能力試験は2010年からどのように変わったのかについて考える。

＜ポイント＞

どのような問題がありどう変わったか、述べる。新しい日本語能力試験では can-do statements が導入されている点も踏まえる。

科目終了試験学修のポイント

1．非漢字圏出身の学習者に漢字を教えるには、どうしたらよいと思うか考える。

＜ポイント＞

漢字の表記法や漢字の歴史や成立ちを踏まえた上で、自分なりの漢字の指導法を考えて述べる。

2．漢字圏出身の学習者に外来語を教えるには、どうしたらよいと思うか考える。

＜ポイント＞

片仮名の表記法や片仮名の指導法を踏まえ、自分なりの教え方を考える。

3．漢字圏や非漢字圏の出身者のクラスを想定し、N3 レベルの表記指導を考える。

＜ポイント＞

まず、クラスのサイズを決め、文字はひらがな、カタカナ、漢字とどの文字を導入するのか具体的に述べ、それをどう教えるのか自分なりの教え方を考える。

4． 旧日本語能力試験の問題点と新しい日本語能力試験の語彙の選別について考える。

＜ポイント＞

1．「日本語教育のための試験の改善について―日本語能力試験・日本語教育能力検定試験を中心として―（報告）（抄）」から旧日本語能力試験問題点について読み取り、それが新しい日本語能力試験にどう反映されたか、

2．「新しい日本語能力試験のための語彙表作成にむけて」を読んで述べる。

5． can-do statements とは何か。

＜ポイント＞

JF 日本語スタンダードにある can-do statements とは何かについて、3．「国際交流基金　ＪＦ日本語教育スタンダード」を読み述べる。

6． 新しい日本語能力試験と can-do statements の関連性について述べる。

＜ポイント＞

2010年から導入された新しい日本語能力試験では、理念の一つに can-do statements があがっているが、それが新しい日本語能力試験にどう反映されているのか述べる。

教科書

高木裕子（1996）『日本語の文字・表記入門　解説と演習』バベル・プレス。

参考文献

国際交流基金編（2006）『日本語能力試験　出題基準』日本国際教育協会。

国際交流基金編（2010）『JF 日本語教育スタンダード2010』。

https://jfstandard.jp/pdf/jfs2010_all_3e.pdf　2015年7月8日検索

吉島茂他訳編（2004）『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社。

Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment

http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/Source/Framework_EN.pdf　2015年7月8日検索

科目コード	日本語学演習Ⅲ（談話）（２単位）	登録年次	履修方法
9310		３年	ＳＲ
教員名	山口雅代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日本語学Ⅴで学んだことを踏まえ、日本語教育で文章・談話がどのように用いられているか考える。文章や談話の構造について接続表現、指示表現、比喩表現などについて学ぶ。中級レベル以上の教科書を用意し、文章・談話がどのように活用されているか理解する。中級以上の教科書を持っている場合は、それを使用する。持っていない場合は、『みんなの日本語中級Ⅱ』（2012 スリーエーネットワーク）を用いること。ただし、それ以外の中級教科書でも構わない。

学修内容

1	序・ケース１　接続表現（１）　pp.6-23 文章における接続表現にどのようなものがあるか考え、用意した中級教科書（以下教科書）の中でどのような接続表現が用いられているか調べる。
2	ケース２　接続表現（２）　pp.24-33 談話資料に用いられている接続表現について考え、文章との違いを考える。
3	ケース３　指示表現　pp.34-45 どのような指示表現が使われているか考え、教科書にそれらがどのように用いられているか調べる。
4	ケース４　反復と省略の表現　pp.46-57 反復表現と省略表現とは、どのような関係にあるのか考え、教科書ではどう用いられているか調べる。
5	ケース５　提起表現　pp.58-69 提起表現にどのようなものがあり、教科書でどう用いられているか調べる。
6	ケース６　叙述表現　pp.70-81 叙述表現にどのようなものがあり、教科書でどう用いられているか調べる。
7	ケース７　段落の構造類型　pp.82-93 提起表現・叙述表現がどう文章の中で用いられ、構成されているか調べる。
8	ケース８　文章の構造類型　pp.94-105 文章の構造類型を理解し、教科書の中の読解における文章構造について調べる。
9	ケース９　文章と談話のあいだ　pp.106-117 文章と談話の共通点や相違点について考える。
10	ケース 10　対話のなりたち　pp.118-127 ことばのやりとり場面がどのように成り立っているか考える。
11	ケース 11　会話の展開　pp.128-139 会話の中の役割や種類について考え、教科書ではどう記述されているか調べる。
12	ケース 12　会話の機能　pp.140-151 会話における発話機能について教科書でどう扱われているか調べる。
13	ケース 13　文体と表現　pp.152-163 文体とは何か、文章の類似性とは何か考える。
14	ケース 14　比喩表現　pp.164-175 どのような比喩表現があり、教科書ではどのように用いられているか調べる。
15	ケース１からケース 14 において教科書ではどのように提示され、また提示されていないかについて調べる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】身近な会話を録音し文字化し分析した後、会話教材としての応用を考える。

＜ポイント＞

録音した会話を文字化し、展開のしかたや役割、機能についてまとめる。話し手の性別や年齢など必要な情報は書き入れる。それをどう会話教材として利用できるか自分のアイデアを述べる。

科目終了試験学修のポイント

1．中級教科書では接続表現がどのように用いられているか考える。

＜ポイント＞

中級教科書では文章・談話における接続表現がどう用いられているのかまとめ、それらの問題点を考える。

2． 中級教科書では指示表現がどのように用いられているのか考える。

＜ポイント＞

中級教科書では文章・談話における指示表現がどう用いられているのかまとめ、それらの問題点を考える。

3． 文章と談話にはどのような共通点や類似点があるか考える。

＜ポイント＞

文章と談話の違いを考え、使われている品詞などの特徴を捉える。

4． 中級教科書では比喩表現がどのように用いられているか考える。

＜ポイント＞

中級教科書では比喩表現がどのように用いられているかまとめ、それらの問題点を考える。

5． 選んだ中級教科書における文章・談話の特徴と問題点を考える。

＜ポイント＞

選んだ教科書ではケース1からケース14がどのように提示され、どのような特徴や問題点があるのか、自分の意見を述べる。

6． 実際の会話と中級教科書における会話との違いについて考える。

＜ポイント＞

録音し文字化した会話と中級教科書に提示される会話とはどのような違いがあるのか考える。

教科書

寺村秀夫他『ケーススタディ　日本語の文章・談話』おうふう、2005。

参考文献

泉子・K・メナード（1998）『談話分析の可能性』くろしお出版。

泉子・K・メナード（2005）『日本語教育の現場で使える談話表現ハンドブック』くろしお出版。

佐久間まゆみ他著（2002）『文章・談話のしくみ』おうふう。

橋内武（1999）『ディスコース』くろしお出版。

科目コード	日本語学Ⅰ（音声・音韻）（２単位）	登録年次	履修方法
8970		２年	ＳＲ
教員名	李芝賢		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日本語に重点を置いた一般音声学概論。音声学の一般的知識を身につけ、日本語の音声・音韻を理解できるようになることを目指す。

学修内容

1	音声と音声学　pp.7-16 音声学とは何かを知り、音声学の研究対象となる「音声」について理解する。 音声器官の構造や音声記号の概要を理解する。
2	単音１　pp.17-36 調音場所や調音方法の概要を理解し、調音場所や調音方法の差に基づいた子音の分類基準を知る。 肺臓気流を伴う子音(破裂音)の事例をみる。
3	単音２　pp.37-56 さまざまな言語を例に、肺臓気流を伴う子音(ふるえ音とはじき音、摩擦音と接近音)の事例をみる。
4	単音３　pp.57-72 喉頭気流を用いる子音、軟口蓋気流を用いる子音、二重調音、二次的調音についてみる。
5	単音４　pp.72-83 調音器官の形による母音の分類基準を知り、各母音の特徴を理解する。
6	単音５　pp.84-96 現代共通日本語の音韻体系の概要を理解し、各単音の特徴を知る。
7	音節とモーラ　pp.97-104 切れ目を持たない音の連続としての「音節」と、音節を分節的に分けるときの単位である「モーラ(拍)」について理解する。
8	アクセント１　pp.105-115 アクセントとは何かを知り、「トーン」「自由アクセント」「固定アクセント」といったアクセントのタイプを理解する。
9	アクセント２　pp.116-124 現代共通日本語におけるアクセントの特徴を理解する。加えて主な方言におけるアクセント体系をみる。
10	イントネーション　pp.125-136 アクセントとイントネーションの差を知り、現代共通日本語のイントネーションの特徴を知る。
11	リズム・ポーズ　pp.137-142 強勢リズム、音節リズムといったリズムの特徴をみる。音声の休止としての「ポーズ」を理解する。
12	速さ・強調と音声　pp.143-148 言語の早さを決定する要因、プロミネンス・インテンシティーといった強調の役割を理解する。
13	音声の物理と心理　pp.149-156 音質、高さ、大きさといった音声の物理的特性を理解し、音声の物理的特性と発話者の心理的特性の関係を知る。
14	音素と音素論　pp.157-162 音声を構成する単位としての音素の性質を知り、音素論における音声分析の概要を理解する。
15	総復習 今まで習った内容を振り返り、重要な箇所をもう一度おさらいする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】2.4(pp. 83-96)，4.2(pp. 113-124)，5.2(pp. 127-136)を踏まえて現代日本語の音声の特徴を述べよ。

＜ポイント＞

2.4は「単音」，4.2は「アクセント」，5.2は「イントネーション」である。ひとつひとつ項目を立てる感じで書きまとめる。

科目終了試験学修のポイント

１．第2章1・2・3節の要約

＜ポイント＞

子音と母音の分類に関する箇所となる。それぞれの定義を書いてから例を書く。第2章全体ではないので気をつけること。

２．第3章の要約

＜ポイント＞

「音節」と「モーラ」をきちんと区別する。

３．第4章1節の要約

＜ポイント＞

1節のみである。理論と例を適切に組み合わせて書く。

４．第6章・第7章の要約

＜ポイント＞

短めの章なので、まとめやすいと思われる。

５．第8章，第9章，第10章の要約

＜ポイント＞

短めの章なので、まとめやすいと思われる。

６．第11章の要約

＜ポイント＞

ページ数は多くないが、理論的な話で分かりにくい部分があるのでよく読むこと。

教科書

斎藤純男『日本語音声学入門』三省堂，2006。

参考文献

なし

科目コード	日本語学Ⅱ（語彙・意味）（２単位）	登録年次	履修方法
8980		２年	ＳＲ
教員名	李芝賢		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

語形成、語構成、語の分類、意味分野別語彙、語と意味関係、ことばの変化、ことばの位相、ことばと社会などに関する概論。語や語彙、語と意味の関係の理解および語学的知識の習得を目標とする。

学修内容

1	語の成り立ち　① pp.10-21
2	語の成り立ち　② pp.22-31
3	語の分類 pp.32-43
4	さまざまな語彙　① pp.44-53
5	さまざまな語彙　② pp.54-63
6	語と意味関係　① pp.64-73
7	語と意味関係　② pp.74-81
8	ことばの変化 pp.82-93
9	ことばの変遷　① pp.94-104
10	ことばの変遷　② pp.105-125
11	ことばの位相　① pp.126-133
12	ことばの位相　② pp.134-143
13	ことばと社会　① pp.144-151
14	ことばと社会　② pp.152-164
15	総まとめ

レポート設題			
設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】第７章「ことばの位相」(pp.126-143)のまとめ

＜ポイント＞

すべての節が具体例となっているので、各節に一貫するテーマを見つけ、例をあげるように書いていくと書きやすい。図に含まれている重要な事項を忘れずに取り上げること。

科目終了試験学修のポイント

１．第１章　「語の成り立ち」(pp.10-31)のまとめ

＜ポイント＞

各節の要旨を理解した上で例をあげていくと書きやすい。やや長いのでひとつの節に偏らないように気をつけること。

２．第２章　「語の分類」(pp.32-43)のまとめ

＜ポイント＞

各節の要旨を理解した上で例をあげていくと書きやすい。

３．第３章　「さまざまな語彙」(pp.44-63)のまとめ

＜ポイント＞

第１節はことばの体系についての説明、ほかの節はその例に当たる。

４．第４章「語と意味関係」(pp.64-81)のまとめ

＜ポイント＞

第1、2節を中心にすべし。後の節はその例に当たる。

５．第６章「ことばの変遷」(pp.94-125)のまとめ

＜ポイント＞

ページ数が多いので要約にコツが要る。要旨を正しく把握する努力をする。

６．第８章「ことばと社会」(pp. 144-165)のまとめ

＜ポイント＞

節ごとの要点をしっかり押さえて書く。

教科書

沖森卓也他『図解　日本の語彙』三省堂，2011。

参考文献

なし

科目コード	日本語学Ⅲ（文法・文体）（２単位）	登録年次	履修方法
9210		２年	ＳＲ
教員名	山口雅代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日本語を少し学習した人なら誰でも、「りんごは赤い。」は正しい文だが、「りんごは赤いだ。」はそうではないと判断する。では、それはなぜだろうか？この講座では、日本語文法の入門書を読みながら、日本語を理解する人なら誰もが脳の中に持っている「文法知識」を体系的に学び、文法的な日本語の句や文がどのようにして生成されるかという仕組みについての理解を深める。

学修内容

1	第１章「品詞」日本語の名詞と動詞の特性を理解し、それぞれの文法的性質を説明できるようになる。 教科書 pp. 6～7 の問題について考える。（教科書 pp. 5～11）
2	第１章「品詞」日本語のイ形容詞とナ形容詞の特性を理解し、動詞、イ形容詞、ナ形容詞、名詞の間に観察できる文法的性質の共通点を説明できるようになる。（教科書 pp. 12～23）
3	第１章「品詞」連体詞、接続詞、副詞、助動詞その他の品詞の特性を理解する。 教科書 pp. 36～39 の復習問題・発展問題をやる。（教科書 pp. 24～39）
4	第２章「格助詞」格助詞の特性と機能を理解し、説明できるようになる。場所を標示する「を」・「に」・「で」の用法の違いを説明できるようになる。（教科書 pp. 43～57）
5	第２章「格助詞」「と」・「といっしょに」の特性と機能を理解し、説明できるようになる。助詞の「と」・「に」が両方使用できる場合を考え、その用法の違いを説明できるようになる（教科書 pp. 58～65）
6	第２章「格助詞」時間を標示する「に」の特性と機能を理解し、説明できるようになる。 教科書 pp. 74～77 の復習問題・発展問題をやる。（教科書 pp. 64～77）
7	第３章「活用」動詞の種類を理解し、活用形について理解を深める。 教科書 pp. 82～83 の問題について考える。（教科書 pp. 81～93）
8	第３章「活用」動詞「-て」形の特性を理解し、活用形の種類・機能について説明できるようになる。 教科書 pp. 110～115 の復習問題・発展問題をやる。（教科書 pp. 94～115）
9	第４章「ボイス」日本語の受動文の種類と特性を理解し、各種類の機能を説明できるようになる。 教科書 pp. 120～121 の問題について考える。（教科書 pp. 119～133）
10	第４章「ボイス」使役文の種類と特性を理解し、各種類の機能を説明できるようになる。 教科書 pp. 150～153 の復習問題・発展問題をやる。（教科書 pp. 134～153）
11	第５章「人称」人称の種類を理解し、命令文・平叙文・質問文における人称の特性を説明できるようになる。 教科書 pp. 158～159 の問題について考える。（教科書 pp. 157～173）
12	第５章「人称」授与動詞（あげる・くれる・もらう）に関わる項の人称について理解する。主語省略について説明できるようになる。教科書 pp. 188～191 の復習問題・発展問題をやる。（教科書 pp. 174～191）
13	第６章「テンス」主文・従属節における時制表現の特性を理解し、それぞれの性質を説明できるようになる。 教科書 pp. 196～197 の問題について考える。（教科書 pp. 195～205）
14	第６章「テンス」時制の種類が２つある述部について、時制の使い分けについて説明できるようになる。 きる文法的性質の共通点を説明できるようになる。（教科書 pp. 206～213）
15	第６章「テンス」ル形・タ形の特殊な用法について説明できるようになる。 教科書 pp. 222～225 の復習問題・発展問題をやる。（教科書 pp. 214～225）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】第1～6章で学修した日本語の名詞、イ形容詞、ナ形容詞、動詞の中から2つを選び、それらの特性を比較しながら記述せよ。

＜ポイント＞

日本語は、英語のような言語と比べると、2つの品詞の特性を併せ持った語が多く存在すると考えられている。例えば、イ形容詞は動詞的特性を持ち、また動詞から派生した動（作）名詞（例：勉強スル）というカテゴリーもある（[4]第4～5章を参照）。これらのように2つの品詞の特性を併せ持つ語に言及しながら、自分の取り上げた2つの品詞の文法特性と機能を記述せよ。その際、「文法的でない」例を探すと議論しやすい（例：なぜ「りんごは赤だ」はいいのに「*りんごは赤いだ。」はよくないのか）。また、日本語以外の言語ではどうなっているか考えながら研究すると、より日本語のおもしろさが浮き出てくる。是非レポートの中で、議論に加えてみてほしい。

科目終了試験学修のポイント

１．名詞、イ形容詞、ナ形容詞、動詞について述べよ。

＜ポイント＞

第1章の学修内容を踏まえ、教科書で扱った名詞、イ形容詞、ナ形容詞、動詞の分類について、例をあげながら説明する。その際、教科書に載っている例は使用しないこと。文献 [2]第4章, [3]第2章2-3, 3-2, 3-3 を参考にするとよい。

２．格助詞について述べよ。

＜ポイント＞

第2章の学修内容を踏まえ、教科書で扱った格助詞の種類・用法について、例をあげながら説明する。その際、教科書に載っている例は使用しないこと。文献　　を参考にするとよい。

３．動詞の活用について述べよ。

＜ポイント＞

第3章の学修内容を踏まえ、教科書で扱った動詞の活用について、例をあげながら説明する。その際、教科書に載っている例は使用しないこと。文献[2]第3章, [4-I]第2章、[1]第2章を参考にするとよい。

４．ボイス（態）について述べよ。

＜ポイント＞

第4章の学修内容を踏まえ、教科書で扱った受動文・使役文の特性・用法について、例をあげながら説明する。その際、教科書に載っている例は使用しないこと。受動文の動詞の例については、できる限り、受動・能動の態が対になるように呈示すること。文献 [3]第3章、[4-I]第3章を参考にするとよい。

５．人称について述べよ。

＜ポイント＞

第5章の学修内容を踏まえ、教科書で扱った人称の種類・用法について、例をあげながら説明する。その際、教科書に載っている例は使用しないこと。

６．テンスについて述べよ。

＜ポイント＞

第6章の学修内容を踏まえ、教科書で扱った時制表現の特性・用法について、例をあげながら説明する。その際、教科書に載っている例は使用しないこと。文献 [3]第4章、[4-Ⅱ]第5章を参考にするとよい。

教科書

野田尚史 『はじめての人の日本語文法』くろしお出版 。

参考文献

[1] 影山太郎著『文法と語形成』ひつじ書房、1993。

[2] 久野暲著『新日本文法研究』大修館書店、1983。

[3] 森山卓郎著『ここから始まる日本語文法』ひつじ書房、2000。

[4] 寺村秀夫著『日本語のシンタクスと意味Ⅰ－Ⅲ』くろしお出版、1982。

科目コード	日本語学Ⅳ（文字・表記）（２単位）	登録年次	履修方法
9220		２年	ＳＲ
教員名	山口雅代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日本語の文字体系は非常に複雑で、どの文字を使うべきか困惑した経験を持つ人も多いことだろう。この講座では、日本語表記を構成する漢字、平仮名、片仮名、ローマ字の歴史的変遷と特性を学び、表記練習を通じて、世界にも類をみない豊かな表現体系である日本語の文字表記の理解を深める。正しい仮名遣いや漢字表記の習得のみならず、状況や目的に応じた効果的な文字の使い分けができる日本語表現能力レベルを目指してほしい。

学修内容

1	第１章「総説」第１節 文字の機能と特性　　文字の定義と特性について説明できるようになる。p.13 の図を見ながら、任意の漢字を５つほど選び、その字体・字形・書体・字種の特徴をまとめる。（教科書 pp.8-13）
2	第１章「総説」第２節 文字の分類とその歴史・第３節 日本における文字　文字の分類とその歴史について簡潔に説明できるようになる。p.21 を見ながら、任意の日本語の文を、音素・モーラ・音節・各種文字で表記する。（教科書 pp.14-21）
3	第２章「漢字」第１節 漢字の起源と展開　　漢字の起源と漢字文化圏の形成・多様化について簡潔に説明できるようになる。p.21 を参考に、任意の漢字を５つほど選び、中国漢字音と日本語の音訓を比較する。（教科書 pp.22-26）
4	第２章「漢字」第２節 書体・第３節 字体　漢字の書体の変遷、表現効果、字体、字体に関する政策について説明できるようになる。p.29 を参考に、任意の漢字を５つほど選び、書体の表現効果を比較する。（教科書 pp.27-35）
5	第２章「漢字」第４節 漢字の構成・第５節 漢字音　漢字の構成方法、構成要素、中国漢字音・日本漢字音について説明できるようになる。p.37 にならって、同じ構成要素をもつ漢字を５グループ書き出してみる。（教科書 pp.35-46）
6	第２章「漢字」第６節 訓・第７節 国字と国訓　漢字の音訓、訓読みについての問題点、国訓と国字の発生・変遷について、説明できるようになる。新聞や小説の文章の中に登場する漢字の音と訓を書きだしてみる。（教科書 pp.47-57）
7	第２章「漢字」第８節　当て字　当て字と何か、そして当て字の分類について説明できるようになる。当て字をインターネットや辞典（教科書 p. 61）で検索し、現代日本語で普及している使用例を書きだす。（教科書 pp.57-61）
8	第３章「仮名」第１節　万葉仮名・第２節　平仮名　万葉仮名の種類と表記、平仮名の成立とその歴史的資料について説明できるようになる。p.66 の万葉仮名を読めるように練習する。（教科書 pp.62-75）
9	第３章「仮名」第３節　片仮名　　片仮名の起源、成立の過程、変遷、体系性、その用途について説明できるようになる。p.83 に列挙されている片仮名の用途を、教科書を見ずに書き出してみる。（教科書 pp.75-83）
10	第４章「ローマ字」第１節 明治初年までのローマ字・第２節 ローマ字の綴り方　明治初年までのローマ字の表記の変遷、ローマ字の綴り方のタイプについて説明できるようになる。ヘボン式・日本式・訓令式の区別を覚える。（教科書 pp.84-93）
11	第５章「補助符号」第１節 訓点の方法、第２節 濁点、第３節 半濁点　補助符号についての理解を深める。訓点、濁音、半濁音の表記符号について説明できるようになる。日本語の濁音、半濁音をすべて書き出す。（教科書 pp.94-104）
12	第５章「補助符号」第４節 踊り字、第５節 句読点、第６節 様々な符号・記号　踊り字、句読点の起源と展開について説明できるようになる。日本語の音声データ（テレビ音声など）を利用して、句読点を記す練習をする。（教科書 pp.105-113）
13	第６章「表記法」第１節 仮名遣い・第２節 送り仮名・振り仮名　仮名遣いの種類、現代仮名遣い・送り仮名・振り仮名の主要原則と成立までの経緯について説明できるようになる。（教科書 pp.114-124）
14	第６章「表記法」第３節 外来語の書き方・第４節 漢字政策　外来語の表記の現状と漢字政策の歴史について説明できるようになる。外国人学習者にとって不便な点について考えをまとめる。（教科書 pp.125-135）
15	第７章「文字と社会」第３節 日本の書道・第４節 文字遊び　日本の書道と文字遊びについて簡潔に説明できるようになる。第４節の内容を参考に、日本語の文字遊びについて調べる。（教科書 pp.136-151）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】現代日本語の固有名詞群を取り上げ、その文字分布を分析し、自分の考察を述べよ。

＜ポイント＞

まず、子供の名前・駅名や商品名など、命名・ネーミングが頻繁に行われる名詞のジャンル・グループを特定し、次に、それらの命名・ネーミングにおいて、どのような文字の種類（漢字・ローマ字・平仮名・片仮名）が使用されているかを量的に調査する。最後に、自分の取り上げた固有名詞群がなぜそのような文字分布になっているかについて、自分の意見を述べる。地名や駅名など、歴史的変遷を追うことができる場合には、時代ごとの考察を加えると面白い（文献[3]を参考にするとよい）。また書体・字体についての考察も加えるとよい。

科目終了試験学修のポイント

１．日本語の文字体系について述べよ。

＜ポイント＞

第１章の学修内容を踏まえ、日本語の文字体系（漢字・ローマ字・平仮名・片仮名）と表記法について簡潔に述べる。教科書 p. 21 の下の欄の記述を参考に、文字体系間の対応関係についても言及すること。文献[2]第１～2 章を参考にするとよい。

２．漢字について述べよ。

＜ポイント＞

第２章の学修内容を踏まえ、漢字の起源、書体、構成、音訓について簡潔に述べる。漢字の構成、音訓に関しては、教科書 pp.25-26, p.37 の下の欄の記述を参考に、例をいくつかあげながら議論するとよい。文献[2]第３章を参考にするとよい。

３．仮名について述べよ。

＜ポイント＞

第３章の学修内容を踏まえ、平仮名と片仮名の成立と歴史的資料及びその用法について簡潔に述べる。教科書 p.68, p.76 の下の欄の表を参考に、平仮名と片仮名についてそれぞれ例をあげながら成立の歴史的経緯を述べるとよい。文献[2]第 4 章を参考にするとよい。

４．現代日本語のローマ字表記について述べよ。

＜ポイント＞

第４章の学修内容を踏まえ、ローマ字綴りの種類を簡単に紹介し、ローマ字表記の現状とその問題点について述べる。外国人学習者の立場から、問題点や改善すべきところなど気づいた点があれば、議論に加えるとよい。

５．日本語の表記法について述べよ。

＜ポイント＞

第６章の学修内容を踏まえ、仮名遣いの種類、及び現代仮名遣い・送り仮名・振り仮名・外来語表記の主要原則について簡潔に述べる。音素表記にすると同じになるのに異なる文字表記が使用されている語・句・文の例を探して議論に加えるとよい。文献[2]第７章を参考にするとよい。

６．文字遊びについて述べよ。

＜ポイント＞

第７章の学修内容を踏まえ、例を挙げながら、日本語の文字遊びを紹介する。回文などに関しては、できる限り独自の例を呈示すること。文献[1]を参考にするとよい。

教科書

沖森卓也［ほか］著『図解日本の文字』三省堂 、2011。

参考文献

［1］小松英雄著『いろはうた ： 日本語史へのいざない』中公新書、1979。

［2］林史典編『朝倉日本語講座２： 文字・書記』朝倉書店 、2005。

［3］坂田卓雄著『言葉を歩く：漢字・日本語・固有名詞』海鳥社 、2010。

科目コード	日本語学Ⅴ（談話）（２単位）	登録年次	履修方法
9260		３年	ＳＲ
教員名	内藤伊都子、波村慎太郎		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

実際に直面するであろう会話場面を想定し、場面に応じて適切に対応できる能力を養う。
また、言葉の裏に隠された話し手の感情や意図も正しく理解できることを目的とする。

学修内容

1	日本のジェスチャー ポイント：日本のジェスチャーと世界のジェスチャーを比較して、正しい使い方を確認する。
2	日本語のフィラー① ポイント：日本のフィラーはどのようなものがあるのか、例を挙げ確認する。
3	日本語のフィラー② ポイント：正しいフィラーの使い方を理解する。
4	自己紹介 ポイント：好印象を与える自己紹介とはどう表現するのかを学ぶ。
5	きっかけを語る ポイント：相手に話を切り出すにはどのような表現が適切かを考える。
6	自分の体験を語る ポイント：相手に簡単にわかりやすく体験を伝えるには、どのような順番で伝えるのが適切かを考える。
7	自分の住んでいる町の様子を語る ポイント：町や物、人物など、具体的に伝えるにはどのように話せばよいのかを考える。
8	行動の順番を説明する ポイント：行動の順番をわかりやすく伝えるためにはどのように話せばよいのかを考える。
9	面白さを伝える ポイント：自分の体験したスポーツなどを例として、相手に面白さを伝えるにはどうすればよいかを考える。
10	言い換える ポイント：複雑な内容を相手にわかりやすく言い換えて表現するにはどうすれば伝わるかを考える。
11	比較する ポイント：比較することによって、その良さ、あるいは悪さを伝えるにはどうすればよいか考える。
12	ストーリーを話す ポイント：短文で伝えるのではなく、ある程度まとまって話すにはどのような技術が必要かを学ぶ。
13	最近の出来事を話す ポイント：最近の出来事の特徴や伝えたい点を的確に表現するにはどうすればよいかを考える。
14	健康について話す ポイント：自分の体の状態について適切に伝えるにはどうするのかを考える。
15	将来の夢について話す ポイント：今まで学んだ表現を使って、具体的にわかりやすく伝えるように工夫する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】円滑な日本語の会話をするためには、どのような技術が必要かを具体的に述べよ。

＜ポイント＞
円滑な会話をするには、単に正しい文法で話すだけではなく、ジェスチャーやフィラーを含め、いろいろな技術が必要である。
色々な場面を想定した上で、具体的にどんな技術が必要かを整理すること。

科目終了試験学修のポイント

１．ジェスチャーについて
＜ポイント＞
日本のジェスチャーはどのようなものがあるかを整理し、会話の場面を想定し、正しく使えることが重要である。

２．フィラーについて
＜ポイント＞
フィラーの種類も重要だが、文のどの位置にフィラーを置くかも、正しく理解しなければならない。

３．自分の体験を語る
＜ポイント＞
漫然と体験を語っても、まとまりのない会話になってしまう。メリハリのある会話をするにはどうすればよいかを考える。

４．自己紹介
＜ポイント＞
自分を印象付ける話し方をするにはどうするか、また、自分のことを良く知ってもらうにはどうするかを考える。

５．言い換える
＜ポイント＞
自動詞・他動詞を使い分けることも重要である。

６．ストーリーを話す
＜ポイント＞
接続詞の働きや注意点を正しく理解することが重要である。

教科書

萩原稚佳子、増田眞佐子、斎藤眞理子、伊藤とく美　『日本語上級話者への道』　スリーエーネットワーク。

参考文献

なし

科目コード	日本語学概論（２単位）	登録年次	履修方法
9130		１年	R
教員名	李芝賢		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

音韻論、形態論、文法、文構成、敬語、方言などを含む日本語学概論。日本語学に関する一般的知識の習得を目標とする。

学修内容

1	言語学の１分野としての日本語学　　pp.4-14 「日本語学」という学問分野は何を研究対象とするのか、どのような観点で接近するのかをみる。
2	音声・音韻(1)　　pp.15-22 言語学の研究対象としての言語音とは何かをみて、言語音と意味の関係をみる。「音素」とは何かを知る。
3	音声･音韻(2)　pp.23-31 日本語の音声体系における子音と母音の区別、調音方法と調音部により区別される各音の特徴をみる。
4	形態論(1)　pp.32-45 意味を持つ最小単位である形態素についてみる。独立形態素、拘束形態素の区別を知る。
5	形態論(2)　pp.46-59 「語」はどのように定義されるのかを理解し、「語」の特徴を理解する。単純語、派生語の区別を知る。
6	格　pp.60-71 「格」とは何かを知って、なぜ必要なのかを理解する。格文法の構造を理解する。
7	文の構造と文法カテゴリー　　pp.72-83 「命題」「モダリティ」により構成される文の構造を知り、ボイス、アスペクト、テンス、肯否といった文法カテゴリーの概要を理解する。
8	主題と主語(1)　pp.84-90 日本語文における主題と主語とは何かを知り、主題と主語を示すため助詞「は」と「が」が果たす役割を理解する。
9	主題と主語(2)　pp.91-97 日本語の主題と主語にめぐった様々な日本語学者の主張を知り、まとめてみる。
10	ボイス(1)　pp.98-115 受身(直接受身、間接受身、中間的な受身)と使役が作られる条件を知り、受身文と使役文を分析してみる。
11	ボイス(2)　pp.116-129 「やってもらう」「やってあげる」などの授受表現をみて、授受表現における視点、授受動詞の対立、授受動詞における人称の詳細を理解する。
12	自動詞と他動詞　　pp.130-141 自動詞と他動詞の対立、所動詞と能動詞という概念を理解し、自動詞・他動詞と受身・使役表現の関係を知る。
13	時間を表す表現(1)　pp.142-153 ル形、タ形、テイル形といったテンスの分類を理解し、それぞれの詳細を知る。
14	時間を表す表現(2)　pp.154-167 「食べた」「食べている」の対立といったアスペクトを理解し、テンスとアスペクトの関係を知る。
15	総まとめ 今期に習った内容を振り返り、わからないところがあったらおさらいしておく。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

第6章(pp. 72~83)，第8章と9章(pp. 98-129)，第11章と12章(pp. 142-167)のまとめ

＜ポイント＞

第6章に文法カテゴリーが簡略に説明されており，第8章，第9章，第11章，第12章は各カテゴリーを詳しく説明しているものに当たる。

科目終了試験学修のポイント

１．第1章(pp.4-14)のまとめ

＜ポイント＞

日本語学という学問が扱っている分野を概略的に説明している章である。一つのことに偏らないように注意して書く。

２．第2章(pp.15-31)のまとめ

＜ポイント＞

各節ごとに要点を押さえながら書くとわかりやすい。

３．第4章(pp.46-59)のまとめ

＜ポイント＞

語の活用に関する章である。例をあげながら説明する。

４．第5章(pp.60-71)のまとめ

＜ポイント＞

3節が少し難しいかも知れない。図を参照によく理解してから書く。

５．第7章(pp.84-97)のまとめ

＜ポイント＞

「主語」と「主題」がどう違うのかを考えながら書くとよい。

６．第10章(pp.130-141)のまとめ

＜ポイント＞

「自動詞」と「他動詞」の差が説明できているかを意識しながら書く。

教科書

庵　功雄『新しい日本語学入門　ことばのしくみを考える』スリーエー，2012。

参考文献

なし

科目コード	日本語学史（２単位）	登録年次	履修方法
9051		２年	R
教員名	山口雅代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日本語学の第一人者である時枝誠記が平安から明治期までの日本語学の変遷をどのように述べているか読み解いていく。時枝の国語学史を本講座では日本語学史として扱う場合もあるが、国語学・日本語学はどう違うのか本講座で学ぶ。また、日本語学史の発展は日本語教育と密接な関係にある（西洋人の日本語学習から貴重な文献が残されている（ロドリゲス著（1604－08『日本大文典』）など））ことから、日本語教育史についても取り上げる。

学修内容

1	「国語学史・日本語学史のポイント　―　はしがき、第一部序説」時枝誠記が述べている国語学・日本語学について考え、国語学史の時代区分について理解する。また、はしがきにある「上田万年」の業績について図書館やインターネットなどで調べておく。
2	「国語学史・日本語学史のポイント　―　第二部研究史、第一期元禄以前」。元禄期以前の研究にどのようなものがあり、その研究のよりどころとなったものについて捉える。
3	「国語学史・日本語学史のポイント　―　第二期元禄期より明和安永期へ」この時代にどのような研究者がいたのか概観する。時に契沖の研究について捉える。
4	「国語学史・日本語学史のポイント　―　第三期明和安永期より江戸末期へ、イ用字法研究の展開～ハ語義と文意の脈絡とについての研究」契沖の研究がどのようにこの時代に発展したのか捉え、様々な研究者の研究の特徴を概観する。
5	「国語学史・日本語学史のポイント　―　第三期明和安永期より江戸末期へ、二語法研究の二大学派」文法研究の中核的存在である本居宣長と富士谷成章の研究を概観する。
6	「国語学史・日本語史のポイント　―　第三期明和安永期より江戸末期へ、ホ鈴木朖の両学派統一～チ中古語法の研究と上代文献学との交渉」本居宣長の研究がその後どのような発展をしたのか、鈴木朖・本居春庭・僧義門などの研究を概観し考える。
7	「国語学史・日本語学史のポイント　―　第四期江戸末期」江戸中期に発展した国学がこの時代にどのように変化していくか捉える。
8	「国語学史・日本語学史のポイント　―　第五期明治初年より現代にいたる」日本の近代言語学確立に重要な役割を果たした橋本進吉、山田孝雄、大槻文彦などの研究を概観し、橋本文法、山田文法、時枝文法について、図書館やインターネットで検索し、原典を読む。
9	「日本語学史のポイント　―　戦後の文法研究史」戦後の文法研究史を概観する。文献[2],[5],[6]（参考文献[1],[3],[4]を合わせて読むとよい。）
10	「日本語教育史のポイント　―　序説、第１章言語政策史的観点からみた日本語教育史、１．覇権主義と日本語普及教育の時代」日本語教育史の時代区分を学修し、19 世紀末から 1945 年までの台湾・韓国・南洋諸島・アジア諸国での日本語学習・教育の歴史を概観する。
11	「日本語教育史のポイント　―　２．戦時下の日本語教育と文人～６.戦後、日本語教育の再出発」戦時下の日本語普及政策に文人がどのように関与したか概観する。また、戦前・戦中の国内の日本語教育の動きを捉え、戦後に何が引き継がれ何が引き継がれなかったかを捉えておく。
12	「日本語教育史のポイント　―　第２章学習法・教授法、教科書・教材の変遷、１．キリシタン宣教師団と日本語学習～３．戦前・戦時期の教授法と教材開発」キリシタン宣教師の日本語教育上の貢献を考える。教授法に関しては戦前・戦中にどのような教材が用いられどのように教えられたのか概観する。
13	「日本語教育史のポイント　―　第２章学習法・教授法、教科書・教材の変遷、４．戦後の教授法と教材開発」戦後いち早く日本語教育を行った機関を把握し、戦前・戦中との関連を捉える。また、その後どのような発展をし、今日に至っているのか考える。
14	「日本語教育史のポイント　―　第３章日本語研究と日本語教育史、１．日本語史研究との関係～４．開国前後、在日外国人による日本語研究」日本語学史と日本語教育史はどのような関係があるのか、ヨーロッパの日本語学史から日本語教育への貢献を考える。
15	「日本語教育史のポイント　―　第３章日本語研究と日本語教育史、５．国語学者と日本語教育」日本語教育に携わった国語学者が日本語教育から得たものを考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】国語学史と日本語学史との違いについて論じ、日本語教育学との関連について述べよ。
＜ポイント＞
日本国内における国語学・日本語学の研究を概観する。次に国内外における日本語学の研究について論じる。国語学と日本語学の研究が日本語教育にどのような貢献をしているか、考察する。

科目終了試験学修のポイント

１．契沖の研究について
＜ポイント＞　第１～4 回の学修内容を踏まえ、契沖の研究がそれ以前とそれ以降とどう変わっていったのか、また契沖の行った研究についてまとめる。

２．本居宣長の研究の発展について
＜ポイント＞　第５～７回の学修内容を踏まえ、本居宣長の研究がどのように発展していったのか、この時代の特徴と共にまとめる。

３．明治以後の日本語研究史について
＜ポイント＞　第８～９回の学修内容を踏まえ、橋本文法、松下文法、山田文法、時枝文法と呼ばれる研究の中から１つ選び、その概略を述べる。関連文献として、[1],[3],[4],[6]を参照するとよい。

４．日本語教育史について
＜ポイント＞　第 10～11 回の学修内容を踏まえ、国内外での日本語教育の歴史をまとめる。特に戦前・戦中において植民地や占領地での日本語教育が国内とどう連携し日本語普及を行っていったのか合わせて論じるとよい。

５．教授法・教材の変遷
＜ポイント＞　第 12～13 回の学修内容を踏まえ、国内外においてどのような教授法で日本語を教えられてきたのか、また教材はどのように作成されたのか、まとめる。

６．国語学史・日本語学史・日本語教育史について
＜ポイント＞　第 14～15 回と、これまでの学修内容を踏まえ、国語学者の中で日本語教育に関わった研究者の研究について述べ、それぞれの領域における関連をまとめる。関連文献として、[7][8]を参照するとよい。

教科書

時枝誠記『国語学史』岩波文庫、2017。
関正昭『日本語教育史研究序説』スリーエーネットワーク、2013。

参考文献

［1］庵功雄著『「象は鼻が長い」入門：日本語学の父三上章』 くろしお出版、2003。

［2］三上章『象は鼻が長い』くろしお出版、1969。

［3］斎藤倫明, 大木一夫編『山田文法の現代的意義』ひつじ書房 、 2010。

［4］鈴木一著『松下文法論の新研究』勉誠出版、2006。

［5］寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味Ⅰ-Ⅲ』くろしお出版、1982。

［6］渡辺実『国語構文論』塙書房、1971。

［7］田中克彦『ことばと国家』岩波新書、1981。

［8］安田敏朗『「国語」の近代史』中央新書、2006。

科目コード	日本語学習とマルチメディア（２単位）	登録年次	履修方法
9240		２年	R
教員名	鈴木茂樹		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

古くから視聴覚教材は語学学習に有効な教材として使われてきた。近年のコンピュータ環境の進歩により、マルチメディア、インターネットを利用した高度な学習システムやサービスの一般利用が可能となった。このような教材を扱う技術や知識を得ることは語学学習者・教育者にとって重要である。本科目では、IT・マルチメディアを用いた学習教材の有効性について学修する。また、日本語教育や学修に必要なマルチメディア教材について分析・検討する。

学修内容

1	これまでの教育環境の変化の過程について理解し、新しいテクノロジの導入の是非について検討する。（①pp.1~11）
2	新しいテクノロジに学校教育が適応するにはどのような変化が必要か理解する。（①pp.13-19）
3	新しいテクノロジによってどのような教育機能を強化できる可能性が高まるか理解する。（①pp.19-41）
4	マルチメディア・IT を学校教育に導入する際の問題点について理解する。（①pp.42-56）
5	コンピュータを使った指導の課題について理解する。（①pp.56-67）
6	マルチメディア・IT による新しい学習環境について理解する。（①pp.91-114）
7	コンピュータを用いた学習用ソフトについて理解する。（①pp.114-124）
8	教育における３つの時代の変化について理解する。（①pp.125-141）
9	Web 上の日本語学習コンテンツの利用（１）　『にほんごをまなぼう』 http://www.tokorozawa-stm.ed.jp/d_base/nihongo/にアクセスし、学習教材を利用する。
10	『にほんごをまなぼう』を学習や教育で使う際の有効性や注意点について検討する。
11	Web 上の日本語学習コンテンツの利用（２）　『アニメ・マンガの日本語』 http://anime-manga.jp/にアクセスし、学習教材を利用する。
12	『アニメ・マンガの日本語』を学習や教育で使う際の有効性や注意点について検討する。
13	教科書と連動したマルチメディアコンテンツの利用。教科書②を使用し、Web サイトに登録、利用すること。
14	インタラクションムービーの利用。教科書②第１課部分の LPO 教材を使って学修すること。（②pp.1-23）
15	オンライン学習コンテンツの利用。教科書②第２日部分のオンライン漢字練習を使って学修すること。（②pp.25-51）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

マルチメディアコンテンツを使って効果的な日本語学習を行うための学習環境について述べよ。

＜ポイント＞

学校における IT やマルチメディアコンテンツを利用した教育と、学校外の学習におけるマルチメディアコンテンツの利用について、注意すべき点や効果を整理して述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．マルチメディアを使った学習の効果について

＜ポイント＞

マルチメディアを使って得られる学習効果を教育機能面の強化から述べる。

2．学校教育における IT の活用について

＜ポイント＞

学校教育に IT など新しいテクノロジを導入する際に障害となることなどについて述べる。

3．コンピュータを使った指導の課題について

＜ポイント＞

コンピュータや IT を使って得られる指導の効果と、コンピュータでは指導効果が期待できないことについて述べる。

4．マルチメディア・IT を使った学習環境について

＜ポイント＞

IT を使うことによってどのような学習環境の変化が起こったかについて述べる。

5．コンピュータを使った学習ソフトについて

＜ポイント＞

具体的なソフトを挙げ、特徴や効果を述べる。

6．Web 上の日本語学習コンテンツについて

＜ポイント＞

Web 上に存在する日本語学習コンテンツについて、具体例を挙げて特徴や期待できる効果を述べる。

教科書

① アラン・コリンズ　他『デジタル社会の学びのかたち』北大路書房,　2012。

② 岡まゆみ　他『コンテンツとマルチメディアで学ぶ日本語上級へのとびら』くろしお出版、2009。

参考文献

近藤順子　他『中級日本語を教える教師の手引き』北大路書房。

科目コード	日本語教育演習（２単位）	登録年次	履修方法
8280		３年	R
教員名	山口雅代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

初級から中上級への教え方を学ぶ。
発音から読解まで、それぞれのレベルに合う指導法を学修する。
数ある教授法を、具体的な場面と結びつけて学修する。
各教授法の特徴や評価・試験について学修していく。

学修内容

1	第１章　日本語教師の役割
2	第２章　日本語を教えるということ
3	第３章　初級の教え方（１）　発音
4	第３章　初級の教え方（１）　会話
5	確認問題・課題　第３章 課題１　課題２　課題３　課題４　課題５　課題６をやり、ｐ.178 の解答例を参考に考える
6	第４章　初級の教え方（２）　文字
7	第４章　初級の教え方（２）　読解 確認問題・課題　第４章　をやり、ｐ.179 の解答例を参考に考える
8	第５章　中上級の教え方（１）　会話
9	第５章　中上級の教え方（１）　聴解
10	第６章　中上級の教え方（２）　読解
11	第６章　中上級の教え方（２）　情報収集
12	第７章　中上級の教え方（３）　その他のクラスの指導
13	第８章　評価と試験
14	確認問題・課題　第８章 課題①～⑥をやり、ｐ.179 の解答例を参考に考える
15	第９章　いろいろな外国語教授法

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】あなたが体験した日本語教育を振り返って「これからの日本語教育に必要なもの」について述べよ。

＜ポイント＞
自分が体験して、良かった点・悪かった点を思い出しながら、「こういう授業なら楽しく学習できる」と思う例を多く出すこと。

科目終了試験学修のポイント

1．「日本語教師の役割」とは具体的にどういうことか。
＜ポイント＞
日本語教師の果たす役割とは何かを考える。

2．日本語を教えるということは具体的にどういうことか。
＜ポイント＞
学習者のニーズにこたえるためにはどうしたらいいかを考える

3．初級に教えるときに必要なこととは何か。
＜ポイント＞
発音と会話の両面から必要なことを考える。

4．中上級に教えるときに必要なこととは何か。
＜ポイント＞
初級に教えるときとの違いを考える。

5．学生の力を伸ばすための評価と試験とは何か。
＜ポイント＞
自分の経験と本書の内容を比較し意見をまとめる。

6．日本語教育にふさわしい外国語教授法とは何か。
＜ポイント＞
自分の経験を踏まえ、これからの日本語教育に必要なものを考える。

教科書

高見沢 孟　『新・はじめての日本語教育 2―日本語教授法入門』　アスク出版。

参考文献

なし

科目コード	日本語教育概論　（２単位）	登録年次	履修方法
8271		１年	ＳＲ
教員名	山口雅代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日本語教育について考えるコースとして、日本語教育の情勢、教育内容、教授法などをさまざまな面から概観したい。さらに、第二言語として日本語を教えるという、日本語教育に積極的に関わろうとする多くの学生の一助とする学修である。

また、外国語（日本語）を学ぶことの意義について考えを深める学修をする。

学修内容

1	教科書巻頭の「読者のみなさんへ」を熟読し、日本語教育に対する興味が深まるよう意識づけをする。 学習者の学ぶ意欲きっかけなどについて 800 字程度の文章にしてまとめる。
2	教科書 pp.11-19 を熟読し、海外における日本語教育の状況についてまとめる。 それぞれの国における日本語教育事情について調べ、レポートにまとめる。
3	教科書 pp.19-28 を熟読し、日本国内における日本語教育事情についてまとめる。 国際交流基金日本語国際センターのホームページにより、「日本語教育概況」を調べ、その内容をまとめる。
4	教科書 pp.29-35 を熟読し、日本語教育の意義・目的・使命についてまとめる。 日本語教育にとって、言語学がなぜ必要なのかについて考察する。
5	日本語教師の資質に関するプリントを参考に、日本語教師の役割と日本語教師に求められる条件について考察する。
6	教科書 pp.47-52 を熟読し、日本語教育の現場における問題点について理解する。 さらに、日本語を教える際にどのよう根点に注目すればよいかをまとめる。(例：対人コミュニケーション、カルチャーショック等)
7	教科書 pp.52-64 を熟読し、異文化コミュニケーションについて考察する。 実際に日本国内で、外国人が日本人と接する際に必要な知識について実践練習をする。
8	教科書 pp.66-79 を熟読し、初級の指導内容について考察する。 シラバス及び授業の流れ、初級の文法事項等についてまとめる。
9	教科書 pp.80-86 を熟読し、中級及び上級の指導内容について考察する。 中級及び上級について、授業の流れ、表現文型、語彙指導等についてまとめる。
10	教科書 pp.87-107 を熟読し、技能別指導にいついての概略をつかむ。 実際に、「話す」「読む」「聞く」ための教室活動について考察する。
11	教科書 pp.95-100 を熟読し、文字指導・漢字等表記の問題について考察する。
12	日本語表記について確認する。 ひらがな、カタカナ、漢字の指導及び文章指導等日本語表記についてまとめる。
13	漢字の音と訓のプリントを準備し、日本語の音読み、訓読みについて概略を理解する。
14	教科書 pp.109-130 を熟読し、さまざまな評価活動について考察する。
15	教科書 pp.149-168 を熟読し、海外における日本語教授法と現地レポートの概略をつかむ。 それぞれの国の現状を把握し、海外で日本語指導を経験した人たちの教授法などについてまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】日本語教育について持っているイメージ、また、日本語を学ぶこと、教えることの意義について述べよ。

＜ポイント＞

これから日本語に携わるものとして学んでいくにあたり、日本語教育とはどんなことをするのか、その全体像を描けるように述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．日本語教育の情勢について

＜ポイント＞

「国際交流基金」が数年ごとに行っている調査をもとに、海外と日本国内との日本語教育の情勢をつかむ。「日本語教育国別情報」のホームページを参照する。

2．日本語教育の意義・目的・使命について

＜ポイント＞

日本語教育の立場に立って、言語学に関する知識の必要性について理解する。また、言語学の様々な分野についての意義・目的・使命について確認する。

3．日本語教師の資質について

＜ポイント＞

日本語教師の果たすべき役割を確認し、日本語教師に求められる条件等について理解する。

4．日本語教授法の概観について

＜ポイント＞

実際の教育現場における問題点について確認するとともに、日本語を教える際にどのような点に注目すればよいかを考察する。

5．指導内容と指導方法について

＜ポイント＞

コースデザイン及びシラバスについて理解し、実際に何をどのように教えるかについて考察する。指導内容については、初級をはじめ中級・上級とレベル別の指導方法を追求していく。

6．日本語教育における評価について

＜ポイント＞

評価活動の目的を理解し、実際にどのような評価を実施するかについて考察する。また、その評価分析についても考察する。

教科書

遠藤織枝　『日本語教育を学ぶ』　三修社。

参考文献

なし

科目コード	日本語教授法Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
8931		２年	ＳＲ
教員名	山口雅代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

外国人に日本語を教える教師は、何よりも日本語について知らなければならない。また、外国人に分かりやすく説明する技術も必要になる。

そのためには、日本語そのものについて学修し、他の言語と比べてどんな特徴を持っているかを研究し、日本語教師に必要な基礎知識を身につけ、日本語教授法の礎となる学修をする。

学修内容

1	テキスト pp.２４～４４を熟読し、日本語の音声についてまとめる。また、日本語の「音」や「アクセント」など、日本語を教えるにあたっての音声の特徴についてもまとめること。
2	テキスト pp.４６～５９を熟読し、日本語文法・文型教育についてまとめること。さらに、品詞分類や動詞の活用についても、他の言語と比較しながらまとめること。
3	テキスト pp.６０～７０を熟読し、日本語の文法的特徴について考察する。また、名詞文・主語・述語・指示語についてもまとめること。
4	テキスト pp.７１～８６を熟読し、用言についての理解を深める。さらに、日本語の文末表現の種類についてまとめるとともに、適切な用法について理解すること。
5	テキスト pp.８６～９６を熟読し、可能表現・使役表現・受け身表現・授受表現についてまとめること。また、それぞれの表現について理解を深め、適切な用法について理解すること。
6	テキストpp.９７～１１０を熟読し、助詞について理解を深め、「は」と「が」の用法についてまとめること。
7	テキスト pp.１１１～１１６を熟読し、助詞「を」の用法についてまとめること。また、助詞「に」と『で』の用法についてもまとめ、的確な用法を理解すること。
8	テキストpp.１１８～１２５を熟読し、漢字及び漢字の筆順について理解すること。 特に、非漢字圏の学習者に対しては特に配慮をすること。
9	テキスト pp.１２６～１３２を熟読し、送り仮名の付け方についてまとめること。それぞれ、７つのルールごとにまとめ、的確な用法について理解する。
10	テキストpp.１３３～１４４を熟読し、現代仮名遣い及び外来語の表記についてまとめること。 カタカナの表記については、テキストの留意事項を参考に理解を深めること。
11	テキストpp.１４５～１６０を熟読し、日本語の表記と、日本語の文字の歴史について理解すること。 特に、「国字」については、日本独特のものであるので、しっかりと理解できるようにする。
12	テキストpp.１６２～１６８を熟読し、日本語の語彙・語種・語構成についてまとめること。
13	テキストpp.１６９～１７６を熟読し、語彙の体系や位相についてまとめること。
14	テキスト pp.１７８～１８７を熟読し、言葉と社会とのかかわりについてまとめること。また、日本語において、敬語についてはその用法について十分に理解させ、的確な用法を身につけること。
15	テキストpp.１８８～２０４を熟読し、方言と共通語についてまとめること。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】日本語教師にとって、「日本語はどんな言語か」について述べよ。

＜ポイント＞

日本語教師にとって、日本語の言語的な成り立ちや、他の言語との関わりなどについて、具体的に述べること。

科目終了試験学修のポイント

１．言語としての日本語について

＜ポイント＞

「日本語はどこから来たのか」「日本語はどんな類型に属するのか」についてまとめること。

２．日本語の音声について

＜ポイント＞

日本語の音声は、他の言語と比べて簡単な言語であるが、指導する立場として、「音」「アクセント」「イントネーション」等についてまとめること。

３．日本語の文法について

＜ポイント＞

日本語教育の文法と国文法の主な違いを表現文型、品詞分類と文法用語、動詞の活用等の観点で考察しながら、日本語の文法的特徴についてまとめること。

４．日本語の文字・表記について

＜ポイント＞

日本語教育についての文字・表記は、文章を表現する際大切な要素である.「漢字」「ひらがな」「カタカナ」「ローマ字」などを用いて文章表現するそれぞれのルールや留意事項についてまとめること。

５．日本語の語彙について

＜ポイント＞

日本語学習者にとって、語彙の習得は大きな課題である。日本語の語彙の特徴や日本語の語彙の種類や構成等、日本語の語彙の持つ特性について考察する。

６．言葉と社会のかかわりについて

＜ポイント＞

言葉は社会・文化・生活に密着しており、言葉は社会のいろいろな要因に従って変化するものである。日本語教師として、言葉の使い分けの現実と要因を理解し、それに関わるコミュニケーションの実態について考察する。

教科書

高見沢孟　『新はじめての日本語教育１』　アスク出版。

参考文献

なし

科目コード	日本語教授法Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
8940		３年	ＳＲ
教員名	山口雅代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日本語教育概論を踏まえて、日本語教育においてどのような教育方法が望ましいかを追求していく授業である。さまざまな教授法の長所を生かし、より良い教授法を模索していくことが重要である。日本語教育の現状の分析に基づき、言語教育理論の成果も取り入れて、教授法の理論とその実践方法を学修する。

学修内容

1	テキスト pp. 7～20 を熟読し、日本語教師の役割についてまとめること。また、日本語教育概論で学修した「日本語教師に求められる条件」についてもまとめる。
2	テキスト pp. 21～36 を熟読し、シラバスの種類と特徴を理解し、指導の範囲、コースデザインについて考察する。
3	テキスト pp. 37～42 を熟読し、レッスンプランやテキストの特徴についてまとめること。 カリキュラムの実際例や教材をもとにレッスンプランを作成する。
4	テキスト pp. 43～56 を熟読し、初級の発音や会話の教え方について考察する。 実際の指導例を参考に、自分なりの指導過程を作成する。
5	テキスト pp. 57～60 を熟読し、文法用法の説明指導の概略を把握する。 実際の指導例を参考に、自分なりの指導過程を作成する。
6	テキスト pp. 81～94 を熟読し、仮名文字の教え方について考察する。 実際にレッスンプランを作成し、模擬授業の計画をする。
7	テキスト pp. 81～94 を熟読し、日本語表記の問題点について考察する。 実際にレッスンプランを作成し、模擬授業を実施する。
8	テキスト pp. 81～94 を熟読し、読解についての問題点について考察する。
9	テキスト pp. 95～99 を熟読し、初級と中級の境目はどこにあるのかを考察する。さらに、中級レベルの教育について学習者の意識と教師の対応についてまとめる。
10	テキスト pp. 100～102 を熟読し、会話し小津の目標と内容について考察する。 実際にレッスンプランを作成し、模擬授業を実施する。
11	テキスト pp. 103～112 を熟読し、会話・聴解指導の概略を把握する。 実際にレッスンプランを作成し、模擬授業を実施する。
12	テキスト pp. 114～122 を熟読し、読解教育についての概略を把握する。 実際にレッスンプランを作成し、模擬授業を実施する。
13	テキスト pp. 123～134 を熟読し、通訳・翻訳の問題、文書作成の授業について考察する。 文書作成に関しての実践問題をする。
14	テキスト pp. 136～146 を熟読し、評価と試験についての概略を把握する。 実際の試験問題例を分類し、それぞれの試験問題を解く。
15	テキスト pp. 148～159 を熟読し、日本語教育の課題・問題点を考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】日本語教師の果たす役割について述べよ。

＜ポイント＞

日本語教師は、何をしなければならないか、また日本語教師にはどんな条件が求められるかを具体的に述べること。

科目終了試験学修のポイント

１．日本語教師の役割について

＜ポイント＞

「教師は何をするのか」「教師に求められる条件」についてまとめること。

２．日本語指導のカリキュラムについて

＜ポイント＞

日本語を教えることの目的を理解し、学習者の目的を達成するために必要なコースデザインやカリキュラムについてまとめること。

３．初級の教え方について

＜ポイント＞

「会話」「発音」「文字」「読解」等の教え方について考察する。それぞれの分野における指導法についての問題点・課題について考察する。

４．中・上級の教え方について

＜ポイント＞

「会話」「聴解」「読解」「情報収集」等の教え方について考察する。特に、中級以上の教材開発についても考察する。

５．評価について

＜ポイント＞

試験を含めた日本語教育での評価とは何かを考察する。「評価の対象」「学習者に対する評価」「試験の目的別分類」等の要点についてまとめること。

６．いろいろな外国語教授法について

＜ポイント＞

外国語教授法は、外国語教育を行う上での理論とその方法論から成り立っており、それらを日本語教育に役立て教育の効率化を図ることの重要性について理解する。さらに、教師は多くの教授法を研究し、状況によって使い分ける工夫が必要であることを確認する。

教科書

高見沢孟　『新はじめての日本語教育２』　アスク出版。

参考文献

なし

科目コード	日本史（２単位）	登録年次	履修方法
1202		１年	R
教員名	松本英祥、山田哲史		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

自国の歴史をできる限り多角的にとらえ、歴史認識を養うことは私たち一人ひとりに課された重要な課題である。
本科目では主にわが国の歴史に新たな展開をもたらした時代の曲がり角に焦点をあてながら、歴史的考察能力の習得をめざす。

学修内容

1	大化改新から律令国家形成までの経緯について　＜教科書　pp.54-60＞ ～大化改新において展開された一連の政治改革、壬申の乱以後の皇親政治をはじめとする律令国家体制の建設が完成に近づくまでの経緯について注目する。
2	平城京について　＜教科書　pp.73-88＞ ～平城京と地方社会の特徴、藤原氏の進出と政界の動揺や社会的不安、そしてそのような背景のもとで展開された仏教によって国家の安定をはかる鎮護国家の思想について注目する。
3	平安京の確立と蝦夷との戦い、平安初期の政治改革について　＜教科書　pp.90-93＞ ～平安京への遷都の経緯、桓武天皇が追求した造都と征夷の二大政策をはじめ、平安初期に展開されていた勘解由使の設置、健児の制、令外官の設置、等に見られる政治改革について注目する。
4	藤原氏北家の発展と摂関政治について　＜教科書　pp.99-102＞ ～律令制以前からの天皇に対する貴族の伝統的な奉仕関係が消滅し、天皇との個人的な結びつきが貴族の朝廷での地位を左右する時代において、藤原氏の地位が確立し、摂政・関白のもとで国政が運営されていく経緯について注目する。
5	荘園と武士について　＜教科書　pp.111-117＞ ～律令制の原則では財政の維持が不可能になっていた状況下で地方政治の運営にあたって国司の果たしていた役割、荘園の発達していく過程ですすんでいった土地や人民の私的支配、地方の反乱と武士の成長、源氏の進出、これらの関係性について注目する。
6	院政の開始と平氏政権について　＜教科書 pp.122-128＞ ～中世社会の始まりである院政期に見られた社会の特徴、貴族社会内部の争いも武士の力で解決されることが明らかになった保元の乱や平治の乱、平氏政権の性格、について注目する。
7	鎌倉幕府の成立について　＜教科書　pp.131-138＞ ～治承・寿永の内乱から新しい武家政権としての鎌倉幕府の確立までの経緯、土地の給与を通じて主人と従者が結びつく関係によって支配が行われる封建制度と幕府の経済的基盤、について注目する。
8	武士の社会について　＜教科書　pp.139-149＞ ～北条氏の台頭と承久の乱に至るまでの経緯、乱後の執権主導の政治体制の確立と発展、武士の生活の様子や土地支配の構造、について注目する。
9	室町幕府の成立について　＜教科書　pp.171-180＞ ～鎌倉幕府の滅亡から建武の新政に至る経緯、後醍醐天皇を廃し建武式目を制定して成立した室町幕府の機構や財源、南北朝の動乱の経緯について注目する。
10	幕府の衰退と庶民の台頭について　＜教科書　pp.181-189＞ ～守護大名と国人一揆、幕府の動揺と戦国時代の口火を切った応仁の乱とその構図、農民たちが自らの手でつくり出した惣村の形成と各地で発生した土一揆の状況について注目する。
11	戦国大名の登場について　＜教科書　pp.211-217＞ ～京都を中心とする近畿地方で政治的混迷が続くなかで、他の地方ではさまざまな階層出身の武士たちが自らの力で領国をつくりあげて独自の支配を行っているが、そうした戦国大名の主な活躍や分国支配の体制や都市の発展について注目する。
12	幕藩体制の成立について　＜教科書　pp.240-249＞ ～徳川家康が豊臣政権から独立し、江戸幕府を成立させるに至るまでの経緯、幕藩体制を確立していく経緯、朝廷や宗教に対する統制について注目する。
13	幕藩体制の動揺について　＜教科書　pp.284-293・297-302＞ ～享保の改革や寛政の改革、天保の改革に見られる幕政の諸改革、社会や経済の変容と一揆や打ちこわし等の発生の状況、諸藩の藩政の改革、等について注目する。

14	開国と幕末の動乱について　＜教科書　pp.314-324＞ ～開国とその影響、幕府の専制的な政治によって事態に対処しようとする路線が行き詰まりを見せ、公武合体政策や尊攘運動、さらには統幕運動が展開され、大政奉還へと至る経緯について注目する。
15	明治維新について　＜教科書　pp.325-333＞ ～新政府の発足当時の諸施策、中央集権体制の強化を推進する傍らで封建的な諸制度を撤廃すべく行われた身分制度の改革、地租改正による近代的土地所有制度が確立されるまでの経緯について注目する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　鎌倉幕府の成立と武士の社会について

＜ポイント＞

鎌倉幕府の成立に関しては、源平の争乱、鎌倉幕府、幕府と御家人、に関する内容の中から、武士の社会に関しては、北条氏の台頭、承久の乱、執権政治、武士の生活、武士の土地支配、に関する内容の中から、それぞれ複数に焦点を当てて説明するとともに、それらの内容からどのようなことが指摘できるか論述すること（学修内容８・９参照）。

科目終了試験学修のポイント

１．大化改新から律令国家形成までの経緯について

＜ポイント＞

乙巳の変、改新の詔、公地公民制、班田収授法、甲子の宣、庚午年籍、壬申の乱、皇親政治、飛鳥浄御原令、などに関する内容を一つまたは複数取り上げて説明すること（学修内容１参照）。

２．藤原氏北家の発展と摂関政治について

＜ポイント＞

摂政、関白、承和の変、応天門の変、阿衡の紛議、延喜・天暦の治、安和の変、摂関政治、摂関家、氏長者、外戚、受領、などに関する内容を一つまたは複数取り上げて説明すること（学修内容４参照）。

３．院政の開始と平氏政権について

＜ポイント＞

院庁、院政、北面の武士、院司、知行国、知行国主、院近臣、強訴、奥州藤原氏、保元の乱、保元の新制、平治の乱、六波羅政権、日宋貿易、大輪田の泊、鹿ヶ谷の陰謀、などに関する内容を組み合わせながら説明すること（学修内容６参照）。

４．室町幕府の成立について

＜ポイント＞

両統迭立、文保の和談、悪党、正中の変、元弘の変、建武の新政、中先代の乱、建武式目、室町幕府、南北朝時代、観応の擾乱、南北朝の合一、花の御所、などに関する内容を組み合わせながら説明すること（学修内容９参照）。

５．幕藩体制の成立について

＜ポイント＞

江戸、関ヶ原の戦い、征夷大将軍、大坂冬の陣、大坂夏の陣、元和偃武、一国一城令、武家諸法度、大名、参勤交代、幕藩体制、直轄領、藩、禁中並公家諸法度、武家伝奏、紫衣事件、禁教令、隠れキリシタン、島原の乱、寺請制度、本末制度、諸宗寺院法度、などに関する内容を組み合わせながら説明すること（学修内容12参照）。

６．開国と幕末の動乱について

＜ポイント＞

日米和親条約、日露和親条約、安政の改革、日米修好通商条約、居留地、五品江戸廻送令、生麦事件、イギリス公使館焼打ち事件、対馬占拠事件、ロンドン覚書、将軍継嗣問題、安政の大獄、桜田門外の変、公武合体政策、坂下門外の変、文久の改革、尊王攘夷論、八月十八日の政変、禁門の変（蛤御門の変）、長州征討、四国艦隊下関砲撃事件、薩英戦争、改税約書、奇兵隊、薩長連合、大政奉還、討幕の密勅、公議政体論、などに関する内容を組み合わせながら説明すること（学修内容 14 参照）。

教科書

佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖　編『改訂版　詳説　日本史研究』山川出版社。

参考文献

門脇禎二、他『新日本史』数研出版。

科目コード	日本の文化と言語（２単位）	登録年次	履修方法
8250		１年	ＳＲ
教員名	山口雅代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日本語を学ぶ外国人にとって、ことばを聞く、話す、文章を読む、書くといった技能は大変難しいものである。その一番のハードルになっているのが、語彙の問題と日本語独特の文脈の理解であると考えられる。
日本の文化を理解するためには、日本語の文章の理解（読解）が最も重要である。ましてや、通訳を志望する学生には、母語と日本語の相互のことばでの理解が必要不可欠となる。従って、本講義においては、日本の文化について、調べたことを文章にまとめたり、発表したりして、学生全員の知識として定着させるとともに、日本語独特の文章の理解（読解）や、日本語の語彙量の増加の一助とする。

学修内容

1	旅行について話し合う。さらに、自国での体験についてもまとめ、発表する
2	手紙の書き方を理解し、自分の家族に手紙を書く。日本社会における、手紙やはがきの書式を理解する。
3	日本語表現について理解し、実際にその表現を使って文章を作成する。
4	日本における買い物体験について話し合う。さらに、自国での体験についてもまとめ、発表する。
5	なじみの深い「コンビニ」について、その仕組みについて理解する。
6	日本の祭りについて理解する。さらに、日本での祭り体験についても話し合い、それぞれの祭りの意味について理解する。
7	「祇園祭」を含む日本の祭りの原点について理解する。また、日本語表現について理解し、実際にその表現を使って文章を作成する。
8	自国の祭りについて調べ、祭の意味や特別な風習等具体的にまとめ発表する。
9	日本社会における贈り物の習慣について理解する。
10	贈り物のタブーについて、自国の風習と比較しながら日本社会の風習を理解する。
11	「プレゼント」の意味について理解する。さらに、日本語表現について理解し、実際にその表現を使って文章を作成する。
12	自国の教育制度と比較しながら、日本の教育制度について理解する。
13	日本の教育の原点である「寺子屋式教育」について理解する。また、日本語表現について理解し、実際にその表現を使って文章を作成する。
14	どんな昔話を知っているかについて話し合う。日本の昔話だけでなく、自国の昔話についても発表させる。また、日本語表現について理解し、実際にその表現を使って文章を作成する。
15	昔話の構成要素・話の種類について理解する。さらに、日本の代表的な昔話を紹介し、お互いにその昔話を味わう。(かぐや姫、一寸法師等)

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

日本を深く理解するために必要な情報や、日本の社会生活を知る上で必要な情報等、具体的な項目をあげ説明せよ。

＜ポイント＞

日本の生活習慣や伝統芸能、衣食住等の文化について項目ごとにまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１．旅行について

＜ポイント＞

今までに経験した旅行についてまとめ、日本国内でどんな旅行がしたいか考える。また、旅先からの自分の家族に手紙を書けるように、日本の手紙・はがきの書き方について理解する。

２．買い物について

＜ポイント＞

日本における買い物の経験について振り返り、どこでどんな買い物をするのかをまとめる。自分にとって日常の使用頻度の高い店（コンビニやスーパー）についても考察する。

３．祭について

＜ポイント＞

日本のお祭りについて調べるとともに、自国の伝統的なお祭りについてまとめる。

４．贈り物について

＜ポイント＞

日本における贈り物の習慣を理解し、自国の習慣と比較しながら贈り物についてまとめる。また、日本の社会における「贈り物のタブー」について理解し、自国の習慣と比較する。

５．教育について

＜ポイント＞

日本の教育制度について理解し、自国の教育制度と比較しながら、その特徴についてまとめる。

６．昔話について

＜ポイント＞

自分の知っている日本の昔話についてまとめる。さらに、自国に伝わる昔話についても調べる。

教科書

佐々木薫・赤木浩文　他　『新訂版　トピックによる日本語総合演習　中級前期』　スリーエーネットワーク。
佐々木薫・赤木浩文　他　『新訂版　トピックによる日本語総合演習　中級後期』　スリーエーネットワーク。

参考文献

なし

科目コード	日本の文化と言語Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
1710		１年	ＳＲ
教員名	山口雅代		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日本語を学ぶ外国人にとって、ことばを聞く、話す、文章を読む、書くといった技能は大変難しいものである。その一番のハードルになっているのが、語彙の問題と日本語独特の文脈の理解であると考えられる。
日本の文化を理解するためには、日本語の文章の理解（読解）が最も重要である。ましてや、通訳を志望する学生には、母語と日本語の相互のことばでの理解が必要不可欠となる。従って、本講義においては、日本の文化について、調べたことを文章にまとめたり、発表したりして、学生全員の知識として定着させるとともに、日本語独特の文章の理解（読解）や、日本語の語彙量の増加の一助とする。

学修内容

1	旅行について話し合う。さらに、自国での体験についてもまとめ、発表する
2	手紙の書き方を理解し、自分の家族に手紙を書く。日本社会における、手紙やはがきの書式を理解する。
3	日本語表現について理解し、実際にその表現を使って文章を作成する。
4	日本における買い物体験について話し合う。さらに、自国での体験についてもまとめ、発表する。
5	なじみの深い「コンビニ」について、その仕組みについて理解する。
6	日本の祭りについて理解する。さらに、日本での祭り体験についても話し合い、それぞれの祭りの意味について理解する。
7	「祇園祭」を含む日本の祭りの原点について理解する。また、日本語表現について理解し、実際にその表現を使って文章を作成する。
8	自国の祭りについて調べ、祭の意味や特別な風習等具体的にまとめ発表する。
9	日本社会における贈り物の習慣について理解する。
10	贈り物のタブーについて、自国の風習と比較しながら日本社会の風習を理解する。
11	「プレゼント」の意味について理解する。さらに、日本語表現について理解し、実際にその表現を使って文章を作成する。
12	自国の教育制度と比較しながら、日本の教育制度について理解する。
13	日本の教育の原点である「寺子屋式教育」について理解する。また、日本語表現について理解し、実際にその表現を使って文章を作成する。
14	どんな昔話を知っているかについて話し合う。日本の昔話だけでなく、自国の昔話についても発表させる。また、日本語表現について理解し、実際にその表現を使って文章を作成する。
15	昔話の構成要素・話の種類について理解する。さらに、日本の代表的な昔話を紹介し、お互いにその昔話を味わう。(かぐや姫、一寸法師等)

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

日本を深く理解するために必要な情報や、日本の社会生活を知る上で必要な情報等、具体的な項目をあげ説明せよ。

＜ポイント＞

日本の生活習慣や伝統芸能、衣食住等の文化について項目ごとにまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１．旅行について

＜ポイント＞

今までに経験した旅行についてまとめ、日本国内でどんな旅行がしたいか考える。また、旅先からの自分の家族に手紙を書けるように、日本の手紙・はがきの書き方について理解する。

２．買い物について

＜ポイント＞

日本における買い物の経験について振り返り、どこでどんな買い物をするのかをまとめる。自分にとって日常の使用頻度の高い店（コンビニやスーパー）についても考察する。

３．祭について

＜ポイント＞

日本のお祭りについて調べるとともに、自国の伝統的なお祭りについてまとめる。

４．贈り物について

＜ポイント＞

日本における贈り物の習慣を理解し、自国の習慣と比較しながら贈り物についてまとめる。また、日本の社会における「贈り物のタブー」について理解し、自国の習慣と比較する。

５．教育について

＜ポイント＞

日本の教育制度について理解し、自国の教育制度と比較しながら、その特徴についてまとめる。

６．昔話について

＜ポイント＞

自分の知っている日本の昔話についてまとめる。さらに、自国に伝わる昔話についても調べる。

教科書

佐々木薫・赤木浩文　他　『新訂版　トピックによる日本語総合演習　中級前期』　スリーエーネットワーク。
佐々木薫・赤木浩文　他　『新訂版　トピックによる日本語総合演習　中級後期』　スリーエーネットワーク。

参考文献

なし

科目コード	日本文学と文化（２単位）	登録年次	履修方法
9250		２年	R
教員名	石崎達也		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

いま、日本の「文化」が問われている。その問いに応答するために、本講義では日本文学と文化の流れを概観しながら、日本人のアイデンティティを再考するとともに、世界に向けて「日本」を発信するための力を養うことを目的とする。具体的には、日本の代表的な文学作品を取り上げ、作品や作家の魅力、意義等について考察するとともに、作品が書かれた時代的・社会的・思想的背景からアプローチして、作品の世界観に迫る。併せて、受講者各自が文学作品を読む習慣を身につけ、知識や見識を深め、表現力や批評的精神を高めることを目指す。

学修内容

1	上代の文学と文化①を読み、上代の文学と文化の特性ついて理解する。 ○神話の世界　○祭りの文学 ［キーワード］「文学」の誕生、 口承文学から記載文学へ、 祭りの文学、 『古事記』、 『日本書紀』、 『風土記』
2	上代の文学と文化②を読み、上代の文学と文化の特性ついて理解する。 ○詩歌　○上代文学のポイント・チェック ［キーワード］詩歌、 古代歌謡、 和歌の発達、 古代国家の文学、 『万葉集』
3	中古の文学と文化①を読み、中古の文学と文化の特性について理解する。 ○詩歌 ［キーワード］詩歌、 和歌、 かな文字の普及、 『古今集』
4	中古の文学と文化②を読み、中古の文学と文化の特性について理解する。 ○物語　○日記　○説話・歌謡　○中古文学のポイント・チェック ［キーワード］物語の誕生、 歴史物語、 女流文学の開花、 平安末期の文学、『古今和歌集』、 『竹取物語』、 『枕草子』、『源氏物語』、 『今昔物語集』、 『大鏡』
5	中世の文学と文化①を読み、中世の文学と文化の特性について理解する。 ○和歌・連歌　○物語・説話 ［キーワード］和歌・連歌、 物語・説話、 王朝文化への憧憬、 思想・美意識の深化、 『新古今和歌集』、 『平家物語』、『宇治拾遺物語』
6	中世の文学と文化②を読み、中世の文学と文化の特性について理解する。 ○日記・随筆　○芸能・歌謡　○中世文学のポイント・チェック ［キーワード］日記・随筆、 芸能・歌謡、 文芸の地方化と庶民化、「語り」の影響、 『方丈記』、 『徒然草』、 『狂言』、『御伽草子』
7	近世の文学と文化①を読み、近世の文学と文化の特性について理解する。 ○小説　○俳諧 ［キーワード］小説、 文学の大衆化、 仮名草子、 浮世草子、 読本、 洒落本、 滑稽本、 『雨月物語』、 『東海道中膝栗毛』、 『南総里見八犬伝』
8	近世の文学と文化②を読み、近世の文学と文化の特性について理解する。 ○川柳・狂歌 ［キーワード］俳諧、 川柳・狂歌、『奥の細道』、 『おらが春』
9	近世の文学と文化③を読み、近世の文学と文化の特性について理解する。 ○芸能　○芸能　○近世文学のポイント・チェック ［キーワード］芸能、 和歌・漢詩文、 浄瑠璃、 歌舞伎、 歌謡、 世話物、 国学、 儒学
10	近代の文学と文化①を読み、近代の文学と文化の特性について理解する。 ○小説・評論　（近世から近代へ～耽美派） ［キーワード］明治期の文学、「小説」の誕生、言文一致運動、『浮雲』、『舞姫』、『五重塔』、『たけくらべ』、『坊ちゃん』、『破戒』
11	近代の文学と文化②を読み、近代の文学と文化の特性について理解する。 ○小説・評論　（白樺派～新現実主義） ［キーワード］大正期の文学、新現実主義、『友情』、『羅生門』、『暗夜行路』、『生まれ出づる悩み』

12	近代の文学と文化③を読み、近代の文学と文化の特性について理解する。 ○小説・評論　(プロレタリア文学～戦後の文学) ［キーワード］昭和期の文学、プロレタリア文学、戦争と文学、戦後の文学、『蟹工船』、『雪国』、『細雪』、『山月記』、『人間失格』
13	近代の文学と文化④を読み、近代の文学と文化の特性について理解する。 ○小説・評論　(現代の文学) ［キーワード］現代の文学、 評論、 現代文学の動向
14	近代の文学と文化⑤を読み、近代の文学と文化の特性について理解する。 ○詩歌 ［キーワード］近代詩、 現代詩、 モダニズム、 近代短歌、 近代俳句
15	近代の文学と文化⑥を読み、近代の文学と文化の特性について理解する。 ○劇文学　○近代文学のポイント・チェック ［キーワード］劇文学、 演劇の改良と創始、新劇運動

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】日本人の心の歴史とも言うべき日本文学の流れを概観し、日本文学の特性とその社会的・文化的背景を掘り下げることが、日本文化理解のためには不可欠である。本学修をとおして、自分が興味を抱いた文学作品を一つ取り上げ、その作品の特性と社会的・文化的背景について詳しく論ぜよ。

＜ポイント＞

１．取り上げた文学作品の作者、その他の作品について言及すること。

２．その作品が登場してきた社会的・文化的背景について言及すること。

３．その作品がその時代の日本人の考え方や生活様式にどのような影響を与えたかについて考察すること。

科目終了試験学修のポイント

１.「物語」の成立過程をおさえた上で、『源氏物語』の特徴について論述せよ。
＜ポイント＞『源氏物語』が、かな文字の発達・普及、「作り物語」や「歌物語」の影響をどのように受けているかについて言及すること。
２．中世の「思想・美意識の深化」について、中世文学の特色をおさえた上で、論述せよ。
＜ポイント＞源平の争いから戦国の世まで続く世相と「軍記物語」、「隠者文学」誕生の関連について言及すること。
３．元禄期の文化について、代表的な文学作品を挙げながら、その特徴を記せ。
＜ポイント＞元禄期の文化・文学の特徴を、当時の人々の生き方、考え方、趣味をふまえた上で論述すること。
４．日本近代文学の先駆となった「自然主義」について、社会的・文化的背景をふまえた上で、代表的な文学作品を挙げながらその特徴を論述せよ。
＜ポイント＞新しい文学運動と呼ばれた「自然主義」の功績を、「言文一致運動」、「私小説」と関連させて論述すること。
５.「夏目漱石」と「森鴎外」の文学について、それぞれの代表的な文学作品を挙げながら、その特質と共通点を論述せよ。
＜ポイント＞彼らの生育歴や代表作品とそのテーマ、日本の近代化に対する考え方にも言及すること。
６.「戦後の文学」について、社会的・文化的背景をふまえた上で、代表的な文学作品を挙げながらその特徴を論述せよ。
＜ポイント＞「新戯作派」、「戦後派」、「第三の新人」と呼ばれる作家とその作品のテーマに言及すること。

教科書

秋山虔、三好行雄　編著　『原色　新日本文学史』　文英堂。

参考文献

司馬遼太郎、ドナルド・キーン『日本人と日本文化』中央公論新社。

尾藤正英『日本文化の歴史』岩波書店。

科目コード	日本文化研究（２単位）	登録年次	履修方法
9150		１年	R
教員名	坂井二郎		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

日本文化については、日本の言語、文学、歴史、生活文化、宗教、思想、哲学、芸術スポーツ文化等を中心とする多彩な分野である。中でも日本を深く理解するために必要な情報や社会生活を知る上で必要な情報等、多岐にわたっているので、日本文学に視点を置き、日本文化の一端を考察する。

この講義では、日本の様々な文学作品を紹介することで、その作品の時代背景や歴史、思想、生活文化等について学習者がより日本の文化に興味を持ち、長く役に立てることを願っている。さらに、日本文化の特質とは何かについても、この講義を通して掘り下げていけるようにしたいと考える。

学修内容

1	随筆…「途中下車」について テキスト pp.8~11 を読み、作品の中の難語句を探しだし、説明できるようにし、まとめの設問１・２から、日本の生活文化について意見・感想をまとめる。
2	随筆…「平成おとぎ話」について テキスト pp.34~36 を読み、難語句の意味を確認するとともに、問１・2 を考え、まとめの設問から、それぞれの国の考え方の違いについて意見・感想をまとめる。
3	随筆…「魚の骨」について テキスト pp.84~88 を読み、難語句の意味を確認し、問 1～5 について考える。まとめの設問から、日本の食文化について意見・感想をまとめる。
4	随筆…「ソムリエの妻」について テキスト pp.114~118 を読み、難語句の意味を確認し、問 1～5 について考える。まとめの設問 1・2 から、歴史についての意見・感想をまとめる。
5	随筆…「自然という書物」について テキスト pp.120~124 を読み、難語句の意味を確認し、問 1～6 について考える。まとめの設問から、日本の伝統文化についての意見・感想をまとめる。
6	児童文学…「わすれ傘」について テキスト pp.54~65 を読み、問 1～9 について考える。まとめの設問から、日本の生活文化、生活習慣について意見・感想をまとめる。
7	評論…「贈るかたちと意味」について テキスト pp.22~27 を読み、難語句の意味を確認し、問 1～6 について考える。まとめの設問から、日本の社会生活や習慣について意見・感想をまとめる。
8	評論…「主人から夫へ」について テキスト p42~47 を読み、難語句の意味を確認し、問 1～5 について考える。まとめの設問から、日本の家族構成について意見・感想をまとめる。
9	評論…「安楽死ということば」について テキスト pp.48~53 を読み、難語句の意味を確認し、問 1～5 について考える。まとめの設問から、心理・哲学について意見・感想をまとめる。
10	評論…「国字作成のメカニズム」について テキスト pp.98~105 を読み、難語句の意味を確認し、問 1～5 について考える。まとめの設問から、日本の言語文化について意見・感想をまとめる。
11	小説…「鞄」について テキスト pp.28~33 を読み、問 1～8 について考える。まとめの設問から、日本人の考え方について意見・感想をまとめる。
12	小説…「鼻」について① テキスト pp.126~134 を読み、難語句の意味を確認する。日本の近代以降の文学の代表的な作品を調べ、意見・感想をまとめる。

13	小説…「鼻」について② テキスト pp.126~134 の問 1～10 について考える。小説の時代背景について調べ、当時の歴史について意見・感想をまとめる。
14	古典…「源氏物語」（冒頭）について テキスト pp.146~147 を読み、歴史的仮名使いについて考える。
15	古典…「源氏物語」（冒頭）について テキスト pp.146~147 を読み、当時の生活文化について意見・感想をまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

古典「源氏物語」を読み、当時の生活文化についての意見や感想を述べよ。

＜ポイント＞

学修内容１～１５で学んだ内容を踏まえてレポートを作成すること。

科目終了試験学修のポイント

１．日本の生活文化について

＜ポイント＞

学修内容１で学んだ内容を踏まえてまとめること。

２．日本の食文化について

＜ポイント＞

学修内容３で学んだ内容を踏まえてまとめること。

３．日本の伝統文化について

＜ポイント＞

学修内容５で学んだ内容を踏まえてまとめること。

４．日本の生活習慣について

＜ポイント＞

学修内容６で学んだ内容を踏まえてまとめること。

５．日本の社会生活や習慣について

＜ポイント＞

学修内容７で学んだ内容を踏まえてまとめること。

６．日本の言語文化について

＜ポイント＞

学修内容１０で学んだ内容を踏まえてまとめること。

教科書

京都日本語教育センター　西原純子編『日本文化を読む』（株）アルク、2008。

参考文献

遠山淳、中村生雄、佐藤弘夫編「日本文化論キーワード」有斐閣、2009。

成蹊大学文学部学会編「データで読む日本文化：高校生からの文学・社会学・メディア研究入門」風間書房、2015。

田中英道　「日本の文化 本当は何がすごいのか」扶桑社、2013。

科目コード	乳児保育／乳児保育Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
7040/7041 6623/6624/6625		２年	ＳＲ/Ｒ
教員名	一村佑子、稲香代子、岡林純子、、加藤博子、駒井美智子、手塚和美、 戸田大樹、戸次佳子、前川洋子、山崎摂史、山口悠紀子、山口惠美子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

わが国における乳児保育の発展の経緯と現状を確認し、保育所や乳児院の役割を理解する。また乳児の発達・発育を留意した、乳児保育の担当者として求められる役割および理論や知識・技術の基本を理解し、保育現場での課題解決方法を理解する。

学修内容

1	○日本の子育て環境と乳児保育の実態 ・母親の就労と子育て支援、待機児童の実態等を理解する。
2	○乳児保育の発展の経緯と政策の変遷 ・児童福祉法制定から現代にいたる乳児保育の政策の変遷と課題について理解する。
3	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね６か月未満>　〈科目終了試験学修のポイント１〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。 (首が据わる、寝返り、笑い声の獲得等)
4	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね６か月から１歳３か月>　〈科目終了試験学修のポイント１〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。 (はいはい、人見知り、つかまり立ち、一人立ち、歩行、いたずら等)
5	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね１歳３か月から２歳未満>　〈科目終了試験学修のポイント１〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。 (歩行の確立、言葉の獲得、排泄、食事等)
6	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね２歳>　〈科目終了試験学修のポイント１〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。 (自我の確立、言語認識の発達等)
7	○乳児の生活と健康 ・乳幼児期における感染症とその対策について理解する。
8	○乳児の生活と健康 ・乳幼児期の起きやすい事故とその対策と、子どもを健康に育てるための留意点を学ぶ。
9	○乳児の基本的生活と健康　〈科目終了試験学修のポイント２〉 ・だっこ、おんぶ、おむつ替えへなどの援助を通して、情緒の育ちを理解する。
10	○乳児期の基本的生活 ・乳児期の生活リズム（授乳・食事・睡）について理解する。
11	○乳児の遊びと対人関係 ・言語・遊びの発達過程と対人関係について理解する。　〈科目終了試験学修のポイント３〉
12	○乳児の遊びと対人関係 ・友達関係の広がりと援助について理解する。　〈科目終了試験学修のポイント３〉
13	○保育計画の立て方 ・計画の意義、立案、記録の取り方、評価について学ぶ。
14	○乳児保育における現代的な課題　〈科目終了試験学修のポイント４〉 ・子育て支援と保育所の役割について理解する。
15	○乳児保育の担当者として求められる役割と資質　〈科目終了試験学修のポイント５・６〉 ・発達や理論、技術の基本的理解・育児の孤立化と子育て不安への対応・子育て家庭への情報提供　等を理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】乳児保育の担当保育者としての資質について述べよ。

＜ポイント＞

乳児期の発達の特徴に即した保育環境とは何かをおさえることが大切である。乳児がそれらの環境と応答的に関わり、望ましい発達へ向かうために必要とされる保育者の資質について述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．乳幼児期における身体の発育と運動面の発達について

＜ポイント＞

新生児の原始反射と感覚の発達、乳児期の身体発達の順序と方向性について理解する。身体発達や運動発達とともに、言語・認識の発達も視野に学ぶ。

2．乳児の情緒安定と「抱っこ」の関係について

＜ポイント＞

特定の大人が、応答的・積極的に乳児に働きかけ続けることにより、信頼感が芽生え、愛着が形成される過程での基本的な生理的欲求や依存の欲求を満たすスキンシップの重要性について理解する。

3．乳児の集団保育の意義について

＜ポイント＞

特定の保育者との継続的なかかわりから、人への基本的信頼感を形成し、それを基盤に成長とともに周囲の友達とのかかわりが広がり、遊びが豊かになる。また言葉の発達や社会性の発達も促されるなどの集団保育の利点を理解する。

4．乳児保育のもつ現代的な課題について

＜ポイント＞

保育所保育指針第1章総則より保育所の役割を理解する。保護者の就労と子育ての両立を支援し、育児不安を解消するなどの役割を理解し、支援の方法について考察する。

5．乳児院と保育所の制度について

＜ポイント＞

児童福祉法に規定された、保育所と乳児院それぞれの施設の役割や利用対象について理解する。

6．乳児保育における保育者の配慮または留意点について

＜ポイント＞

保健的で、安全でしかも家庭的な環境を用意する。個人差に配慮し、基本的欲求十分に満たすよう、スキンシップをとるなど養護的かかわりを中心に、教育との一体性を理解して保育に取り組むなどの保育実践上の配慮事項を熟知しておく。また、保護者の就労と子育ての両立を支援し、育児不安などを軽減するよう信頼関係のもと対応していくよう留意しなければならない。

教科書

大阪保育研究所『テキスト乳児保育』フォーラム・A。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館。

科目コード	乳児保育Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
7050/7051 7052/7054		２年/３年	R/SR
教員名	一村佑子、稲香代子、岡林純子、加藤博子、 駒井美智子、手塚和美、戸田大樹、戸次佳子、山口悠紀子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

乳児保育で学んだことを基礎として、保育を実践するために必要となる乳児あるいは低年齢児にかかわる保育内容について、実践的な視点から具体的かつ総合的に理解する。

学修内容	
1	乳児保育の基本となる考え ・乳児保育の意義を考察し、理解する。
2	乳児の生活　日課　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・子どもの生活と保育者の配慮や保育者同士の連携について理解する。
3	乳児の生活　遊ぶ　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・乳児にとっての遊ぶことの意義　を知る　・発達と遊び、保育者のかかわり方などを理解する。
4	乳児の生活　食事　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・授乳・離乳・幼児食へのすすめ方、食べ方　楽しく、美味しく食べられる条件について理解する。
5	乳児の生活　睡眠　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・乳児期の睡眠リズム、睡眠に適した環境づくりや援助について理解する。
6	乳児の生活　排泄　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・自立への過程を理解するとともに、援助方法を理解する。
7	乳児の生活　安全　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・日常の健康管理と事故防止対策を理解する。
8	乳児の生活　健康　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・感染症の種類と予防対策、発生した場合の対応を理解する。
9	乳児の生活　保育室　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・親しみとくつろぎの場としての保育室の在り方を理解する。
10	家庭とのつながり―連携の方法と支援について理解する　〈科目終了試験学修のポイント４・５・６〉
11	保育所での環境と生活の仕方 ・保育環境としての人的、物的、自然・社会的環境と、保育所での生活の仕方を理解する。
12	生活を支える保育者の役割 ・保育の計画・実践・記録・評価について理解する。
13	子どもと生活を共にする保育者の役割 ・職員間の連携や、他機関との連携の重要性を理解する。
14	日々の生活の中から見えてくる子どもの姿 ・乳幼児の生活経験と育ちについて関連性と重要性を理解する。
15	乳児が生活する場所の問題　現状と制度と今後の課題について〈科目終了試験学修のポイント２〉 ・子育て支援センター事業や待機児童問題、幼保一元化の動向について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 保育所における乳児保育の課題について述べよ。

＜ポイント＞

保育のあり方は、社会の変化と密接に関係している。今日の地域社会の弱体化から浮かび上がる子育て中の親の孤立感や育児不安等の状況に目を向け、様々な個性をもつ乳児への保育や様々な状況を抱える保護者への支援について考え、論述する。

科目終了試験学修のポイント

１．乳児期における「運動遊び」の大切さについて

＜ポイント＞

乳児期の身体的発達の特徴を理解し、多様な運動遊びを必要とする意味を考察する。

２．離乳の進め方について

＜ポイント＞

成長・発達の著しい乳児期には、それぞれの発達段階に即した離乳の進め方が求められる。心身の発達と離乳との関係について理解する。

３．むずかる乳児への対応について

＜ポイント＞

乳児がむずかることには意味があることを理解する。その意味がどのような発達へと繋がるのかを考え、望ましい対応について理解する。

４．乳児の保育内容を考える視点について

＜ポイント＞

保育内容の構造を理解し、養護と教育の内容を考える時、乳児の場合に必要とされる視点について考察する。

５．乳児期の「探索活動」や「模倣」の意義について

＜ポイント＞

探索活動や模倣を通して、乳児がそれぞれの機能をどのように発達させていくのかを理解し、そこで求められる大人の役割を理解する。

６．乳児へのおもちゃの与え方について

＜ポイント＞

乳児の発達的特徴と興味・関心を理解した上で、おもちゃの与え方について考察する。

教科書

阿部和子『乳児保育の基本』萌文書林。

参考文献

高野清純、深谷和子『乳幼児心理学を学ぶ』有斐閣選書。

深谷和子『子どもを支える～子どもの発達臨床の今とこれから』北大路書房。

科目コード	人間発達学（２単位）	登録年次	履修方法
2580		１年	R
教員名	荒井理帆、近藤達也		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

発達異常を知るためには、正常発達とは何かを知らなければならない。胎児期から成人期に至るまでの生理的・身体的・精神的発達について学ぶとともに、成人・老年期に至るまでの変化を学ぶことを目的とする。

学修内容

1	成長は、身長や体重などの量的変化を長さや重さなどの単一尺度で測定される。 発達は、質的変化であり、単一の尺度に沿って進むものではないので単一尺度で取り扱うことができない。また人間の発達は子ども時代だけでなく、成人期、老年期にも継続する（Erikson）。ヒトの発達は生涯にわたり続くことを理解する。
2	人間の発達は、乳幼児期の経験によってその後の様相が決定されるものではなく、さまざまな因子（身体的特徴、家族、学校地域、栄養の摂取や健康管理などのライフ・スタイル、病気、離婚、収入の増減などのライフ・イベント、歴史的事件など）によって影響され生涯にわたって変化する。ヒトは、感情のある生き物であるため、さまざまな経験により発達することを理解する。
3	漸成説とは、潜在的発生能力を持つ可能態が、外力により完態になるというアリストテレスの考え方に遡るものでもあり、特に近代発生学の中で、胚の分化や複雑な発達の基本原理として発達。代表的なものに心理学では、Erikson が、ライフ・サイクルの中で、人間の心理社会的発達は、８つの危機的段階を経ながら漸成発達していくものとしているのである。
4	卵子と精子が融合して受精は成立する。受精した卵子は、卵管内で分裂を繰り返しながら、子宮内膜に着床することで妊娠が成立する。約 40 週で出生となる。また妊娠中は細胞期、胎芽期、胎児期に分けられる。 妊娠中にはさまざまなストレスを感じることが多い。出産後にはマタニティブルーといわれる状態になることもある。
5	乳児・幼児前期 乳幼児前期の身体的発達において、生後１年目の乳児期はめざましく成長する。体重は出生後４か月間で約２倍となり、１年間でほぼ３倍となる。身長においては各部により違いはあるが、頭部が約２倍、躯幹部が約３倍、下肢が約５倍となる。また身長との関わりはないが、上肢は約４倍となる。このほかにも頭囲の成長、臓器の発達、歯の成長などがみられる。
6	乳児・幼児前期 出生後、新生児は外界からの刺激に対して反射、反応が出現する。月齢が進むにつれて原子反射は消失し、一方で随意運動が出現してくる。吸綴反射、手掌把握反射などの原子反射の消失がはじまる一方で、随意運動としての首のすわり、寝返り、座位、起立などが可能になる。これらの反射、反応をテキストの図ならびに表（出現時期、消失時期）を理解する。
7	人間が外界をどのようにとらえ、理解するかということには感覚、知覚、認知機能が関係している。感覚は、いわゆる五感と、平衡感覚を含む前庭感覚や深部覚、内臓感覚である。知覚は、皮膚を介し痛み、熱さ、冷たさなどを感じとることである。またいくつかの総合して知覚されたものが何であるのかを知ることが、認知である。これらは生下時に成人と同様の機能が備わっているのではなく、時間の経過とともに成長していくものである。ここでは各々の感覚、知覚、認知機能、言語の発達を理解することが必要となる。
8	幼児後期 この時期になると、体型はやせ型となり、身長は４～5 歳になると出生時の約 2 倍まで成長する。肥満もしくは羸痩の状態を確認するには、カウプ指数を用いることで、目安となる数値を導き出すことができる。またこの時期には、運動機能の発達が著明となる。そこで、周囲の大人が気をつけなければならないことが、事故である。活動性の向上と好奇心が重なり合うことで、事故の発生率が高くなる。幼児期～学童期においての死因の第１位は、不慮の事故である。大人への安全教育が必要である。
9	幼児後期 認知的発達において、急速に言語能力が発達する。また６歳以後の子どもは、具体的な対象物が必ずしも知覚されなくとも、言葉によって物の比較をしたり、これらの共通点を描き出したりすることができるようになる。また家庭内の影響を受けて成長する。そこで母親との関係が後々、知能指数に影響が出現することがある。
10	学童期 10 歳頃から第 2 発育急進期に入る。この頃から成長に性差が現れはじめ、女子は男子よりも早く急進期をむかえる。また Piaget の認知発達理論によれば、８歳から 11、12 歳頃までは具体的操作の段階である。４～7 歳頃までの子どもは、物事を判断するときに見かけにとらわれやすく、また自分の視点からだけで判断しやすい傾向があるとされてきた。 メタ記憶は、自分がもっている情報の貯えと取り出しにかかわる過程についての知識である。メタ記憶能力が十分な者は与えられた課題が記憶することを求めていること、記憶課題の構成のされかた、自分がその課題を達成できそうな程度などを判断することができる。
11	学童期 学校は保護的な集団である家庭とは異なり、規律のある集団であり、子どもは集団の一員として行動することによって将来社会人となるための知識や態度を身につけるようになる。 交友関係においては、友達の選択は低学年から高学年になるにつれて変化する。低学年においてはお互いに近所に住む、または学校の教室で座席が近いなど、物理的理由によることが多い。しかし、学年が進むにつれてこの理由は減少し、逆に、尊敬・共感によるものが増加する傾向にある。
12	青年期は前期、中期、後期に分けられる。 身体的発育は著しく、身長・体重・胸囲の増加にみることができる。 青年期に入ったばかりの青年の行動は、衝動的であるといわれる。たとえば、ある日から突然に自分の室への親の入室を禁止したり、あるいは無関心であったヘアスタイルに関心を示し、美容院へ行ったり、早朝から洗髪をしたりなどである。それらは、青年が親や教師などのもつ価値体系を、学童期まで無批判に受け入れていた行動規範に疑問をもつようになり、一方においては、自分自身の中心となるべき目標、要求、価値がまだはっきり確立していないために生じる探索的行動の例である。

13	成人期 人間の発達はこれまで子ども時代と青年時代に限られ、20～30 歳に最盛期に達したのちに衰退すると一般的に考えられてきた。しかし成長の面に変化は少なく、また必ずしもすべての人に発達的変化が持続するとは限らないが、情緒、社会的成熟は、健常な人であれば生涯を通して発達し続けるという。身体的変化として、年齢を重ねることで筋力を含めた体力が低下する傾向にある。また女性では、更年期障害が生じることがある。
14	成人中期・後期 成人中期Ⅰ（30～50 歳）では、社会経済の安定、自身の仕事あるいはキャリアを評価、子ども等の成長、配偶者との関係、深い友情（少数）、老年者（祖父母、両親）、社会での地位、病気などに対応することとなる。 成人中期Ⅱ（50～70 歳）では、仕事を含む社会の事柄への柔軟性のある見解の維持、子孫との相互的支持関係の構築、周囲の人々との関係を再評価、近親者の老後の支援、退職の準備、老いをみつめるなど、大きな視野で物事を判断して責任をとれるようになる。年齢を重ねて、さまざまな経験をしてきたことが、青年期～成人前期では対応できないことが柔軟に対応できるようになる。
15	死と死の受容 ヒトは生を受けた時から死に向かっている。自身の死に対する不安、喪失感、残していく家族に対する心配など、さまざまな思いがあることが多いため、避けたい事柄である。年齢を重ねれば重ねるほど、友人、身内等の死にかかわる機会が増加する。死を受け入れることは簡単なことではなく、各々の思いがあり、みなさんの感じたことがすべて正解である。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 発達のメカニズムについて「運動の重要性」を中心に述べよ。

＜ポイント＞

連続的な発達過程で一定の方向性をもつ成長発達の大まかな区分がある。それぞれの発達段階において達成すべき課題の中でも「運動」に視点を定め、発達課題として論理的に理解することが重要である。

科目終了試験学修のポイント

１．漸成説について
＜ポイント＞
Freud S による防衛機制、Erikson E による人生周期説、Piaget J による発生的認知理論等を理解することが必要となる。

２．乳児期の発達について
＜ポイント＞
乳児に特有の身体的、認知的、情緒的発達を理解する。

３．幼児期の発達について
＜ポイント＞
幼児期に特有の身体的、認知的、情緒的、社会的発達に加え、活動性が増すため事故に対する安全管理が必要となる。

４．青年期・成人期の発達について
＜ポイント＞
成人になるにあたり必要な身体的発達をはじめ、各々の発達を理解する。

５．成熟期から老年期の発達について
＜ポイント＞
この時期においては身体的な成長はみられない。しかし老いることに対する精神的な準備が必要となる。

６．死について
＜ポイント＞
生物は生を受けた時点で死に近づいていく。ヒトは死に対してどのように受け入れるのか。また残された周囲のヒトはどうしていくのか。死について素直に考えて欲しい。

教科書

上田礼子『生涯人間発達学』三輪書店。

参考文献

なし

科目コード	認知心理学（２単位）	登録年次	履修方法
2670/2671		３年/１年	R
教員名	加藤宏一、佐野友泰、三井公一郎		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

認知心理学のうち、注意、パターン認知、作動記憶、長期記憶、言語理解、思考などの領域に関して理解する。また、認知心理学における実験の計画・実施方法、データの分析法、モデルの構成法などについて学修するとともに、この領域における最新の知識を習得する。

学修内容

1	認知心理学の成立と展開について：認知心理学の誕生の経緯やその後の発展について理解する。 キーワード:実験心理学、情報理論、内的過程、認知革命、認知心理学、情報工学、機能的生物学など
2	知覚と注意について：知覚や注意に関する過程や様々な特徴について理解する。 キーワード：知覚の基本特性、恒常性、体制化、特徴分析モデル、知覚と文脈、マーの円柱理論、カクテル・パーティ効果、注意の分配、選択的注意、有限資源としての注意など
3	知識と表象について：表象および知識の構造について理解する。 キーワード：命題とアナログ表象、スキーマとスクリプト
4	長期記憶の特徴について：長期記憶の符号化、貯蔵、検索に影響を及ぼす諸要因について理解する。 キーワード：リハーサル、処理水準、干渉、体制化、文脈効果と状況依存性など
5	概念と言語について：概念の構造に関する諸理論と言語の獲得過程について理解する。 キーワード：定義的特徴、プロトタイプ理論、家族的類似性、意味ネットワーク理論、言語規則と般化、意味の獲得、臨界期など
6	問題解決と推論の過程について：問題解決へのアプローチとさまざまな推理の過程について理解する。 キーワード：試行錯誤と洞察、計算論的アプローチ、手段－目的分析、ヒューリステックとアルゴリズム、演繹的推論と帰納的推論、推論のバイアス、素朴理論など
7	認知心理学の特徴について理解する。 キーワード：情報処理モデル、実験心理学的方法と認知科学的方法など
8	知覚における文脈効果およびボトムアップ処理とトップダウン処理について理解する。 キーワード：文脈効果、ボトムアップ処理、トップダウン処理
9	視覚および聴覚領域における注意の特徴について理解する。 キーワード：注意、カクテル・パーティ効果、フィルタ・モデル、注意分割課題、閾下知覚、注意の分配、有限資源と処理の自動化、自動処理とコントロール処理など
10	心的イメージ研究から明らかになったこと、イメージ論争について理解する。 キーワード：心的イメージ、二重符号化仮説、心的回転、心的走査、イメージ論争、など
11	スキーマの定義、構造、特徴について理解する。 キーワード：スキーマ、スクリプト、アクション・スリップ、機能的固着
12	記憶の二重貯蔵モデルとその根拠について理解する。 キーワード：二重貯蔵モデル、短期記憶と長期記憶、ブラウン＝ピーターソン・パラダイム、系列位置効果、直後と遅延再生、逆向と前向健忘など
13	短期記憶と作動記憶の類似点・相違点について理解する。 キーワード：短期記憶、作動記憶、リーディング・スパン・テスト、音韻ループ、視空間スケッチパッド、中央制御系、二重課題法など
14	日常場面における記憶研究について理解する。 キーワード：展望記憶、リアリティ・モニタリング、メタ記憶、自伝的記憶、フラッシュ・バルブ記憶、トラウマ経験の記憶、偽りの記憶など
15	様々な種類の推論について理解する。また、推論課題を用いて明らかになった推論の特徴について理解する。 キーワード：演繹的推論、帰納的推論、Wason 課題、主題内容効果、メンタル・モデル、カテゴリー推論、アブダクション、推論のバイアス、など

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 短期記憶、長期記憶、作動記憶という用語を用いて、人間の記憶の仕組みとその特徴について述べよ。
＜ポイント＞
まず、人間の持つさまざまな記憶の特徴と役割をまとめた上で、それぞれの記憶の間にどのような関係があるかをまとめること。さらに、人間にとって記憶が何故重要なのか、その意義が考察されているとなお良い。

科目終了試験学修のポイント

1．認知心理学の成立と展開について
＜ポイント＞
認知心理学の誕生の経緯やその後の発展について述べる。具体的には、実験心理学の誕生以降、どのような流れの中で認知心理学という心理学の分野が誕生したのか、そしてその後、どのような変貌をとげてきたのかについてまとめる。
キーワード：実験心理学、情報理論、内的過程、認知革命、認知心理学、情報工学、機能的生物学など

2．知覚と注意について
＜ポイント＞
知覚や注意に関する過程や様々な特徴の中から興味・関心があるものについて述べること。なお、具体例を用いて説明することが望ましい。
キーワード：知覚の基本特性、恒常性、体制化、特徴分析モデル、知覚と文脈、マーの円柱理論、カクテル・パーティ効果、注意の分配、選択的注意、有限資源としての注意など

3．知識と表象について
＜ポイント＞
表象とは何か、知識の構造について認知心理学研究からどのようなことが明らかになっているのかについて述べること。
キーワード：命題とアナログ表象、スキーマとスクリプト

4．長期記憶の特徴について
＜ポイント＞
長期記憶の符号化、貯蔵、検索に影響を及ぼす諸要因について説明すること。なお、具体例を用いて説明することが望ましい。
キーワード：リハーサル、処理水準、干渉、体制化、文脈効果と状況依存性など

5．概念と言語について
＜ポイント＞
概念と言語について：概念の構造に関する諸理論と言語の獲得過程について説明すること。
キーワード：定義的特徴、プロトタイプ理論、家族的類似性、意味ネットワーク理論、言語規則と般化、意味の獲得、臨界期など

6．問題解決と推論の過程について
＜ポイント＞
問題解決と推論の過程について：問題解決へのアプローチと様々な推理の過程について理解し、興味・関心のある問題解決や推論の方法について、具体例を用いて説明すること。
キーワード：試行錯誤と洞察、計算論的アプローチ、手段ー目的分析、ヒューリステックとアルゴリズム、演繹的推論と帰納的推論、推論のバイアス、素朴理論など

教科書

道又爾『認知心理学―知のアーキテクチャを探る』有斐閣。

参考文献

森敏昭、他『認知心理学キーワード』有斐閣。
御領謙『最新認知心理学への招待』サイエンス社。

※科目コード2200「生涯発達心理学」：登録年次２年、Ｒ履修／科目コード2201「生涯発達心理学」：登録年次３年、ＳＲ履修／
科目コード2204「発達心理学」：登録年次２年、Ｒ履修

科目コード	発達心理学 / 生涯発達心理学（４単位）	登録年次	履修方法
2200/2201/2204		２年/３年	Ｒ/ＳＲ
教員名	上松勝二郎、大野美佐子、沢哲司、立松英子、中川浩子、 中山麻子、永田愛、橋本景子、三井三枝子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

従来、発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では、死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目され始めている。また、高齢者だけでなく障害児（者）の発達も考えていく必要があり、精神医学や福祉など周辺分野との連携の必要性も高まっている。そこで、本科目では、各ライフステージにおける発達課題や、障害や虐待など発達を阻害する要因について学び、生涯を見通した支援ができるようになることを目標とする。

学修内容

1	エリクソンの生涯発達理論について学ぶ （該当箇所：pp.24-25, pp.122-123, pp.142-143, p.149, p.156, pp.186-189, p.200） エリクソンの提唱した人の一生涯にわたる発達過程および発達課題について理解を深める。
2	ピアジェの認知発達理論における知的発達のありさまを捉える　（該当箇所：p.51, pp.62-63） ピアジェが提唱した認知発達理論を学ぶ。感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、保存などが主要なキーワードとしてあげられる。
3	ボウルヴィを中心とした愛着理論を学ぶ　（該当箇所：p.23, pp.24-25, pp.56-57） 愛着の基盤となる養育者と子どもの情緒的な交流をふまえながら、愛着理論の発展についてとらえる。
4	胎児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.2-21） 胎児期における能力のうち、聴覚を中心に理解を深め、また胎児に与えるアルコールやたばこの影響について学ぶ。
5	乳児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.14-41） 新生児期の諸能力のうち、視覚や聴覚、記憶や人に対する興味関心など、実証研究が明らかにしてきた知見を学ぶ。また乳児期における言葉の獲得過程や感情・乗除の発達を理解する。
6	幼児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.42-81） 見立て遊びにみられる対象表象の発達から共同遊びまで、遊びの過程から見る発達や幼児期の言葉の獲得過程、知的能力（数概念や自己中心性の脱却）の発達などについて理解する。
7	児童期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.82-101） 文字の読み書きや計算能力といった学習能力の発達に加えて、仲間関係の発達を遂げていく。社会的スキルの高まりとともにいじめや劣等感といった問題についても理解を深める。
8	思春期～青年期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.102-121） 第二次性徴に伴う身体変化と心理的変化、自己同一性の確立、道徳性の発達、といった点をキーワードとして理解を深める。
9	成人期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.122-141） エリクソンのいう「親密性VS孤立」を引き合いに出すまでもなく、恋愛や性、結婚や子育て、働くといった過程を経る成人期であるが、現代ではこの発達過程には個人差が大きくなっている。近年的動向も併せて理解する。
10	壮年期～老年期　の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.142-161） 夫婦をめぐる心理（婚姻関係の継続と破綻）や子離れの心理やインターネットを介したコミュニケーション（SNS）について学ぶ。
11	老年期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.148-162） 退職後の生活や祖父母として子や孫へのかかわりを考える中で、高齢者の問題としてあげられる介護や健康について理解を深める。
12	発達の障害　（該当箇所：テキスト p.168） 発達障害と狭義の発達障害との違いを捉えながら、どのような支援が必要か考えてみる。
13	子ども虐待　（該当箇所：テキスト p.162） 子ども虐待の種別や近年的傾向を押さえながら、虐待の要因についてとらえる。

14	現代の発達環境、発達上の諸問題について理解を深める　（該当箇所：テキスト pp.162-181） 子どもをめぐる臨床的問題として不登校や摂食障害、無気力、自殺やうつなどがあげられる。その特徴と背景について学び、支援について考える。
15	発達心理学における発達を考える　（該当箇所：テキスト pp.189-190,pp.192-199） 今あらためて発達とは何かについて再考する。生涯発達という視点を考慮に入れる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】乳幼児期から老年期に至るまでのライフステージのどれかを選んで発達的な特徴をまとめ、その段階に起こりがちな危機を１つ挙げて、対応について考察せよ。

＜ポイント＞

人間が社会との関わりの中でどのように発達していくかに着目しながら考察すること。

【設題２】虐待と発達の障害との関係について述べよ。

＜ポイント＞

乳幼児期の不適切な環境は子どもの発達に著しい影響を与える。被虐待児の半数弱に発達障害が伴うという現状をふまえて、その理由や対策を考察すること。

科目終了試験学修のポイント

１．ライフサイクルからみた人間の発達について

＜ポイント＞

人のライフサイクルに関する理論をもとに発達における特徴について言及すること。

２．発達のメカニズムについて

＜ポイント＞

さまざまな発達に関する理論について取り上げること。

３．ライフサイクルにおける発達の問題について

＜ポイント＞

発達的な問題、たとえば不登校や摂食障害などについて取り上げること。

４．発達障害について

＜ポイント＞

狭義の発達障害を理解しながら、教育現場での支援について言及すること。

５．認知的機能の発達について

＜ポイント＞

ピアジェ（Piaget）の理論にはじまり、新生児期にみられる諸能力について言及すること。

６．乳児期における愛着の形成について

＜ポイント＞

ボウルヴィ（Bowlby）の理論にとどまらずエインズワース（Ainsworth）による愛着分類について言及すること。

教科書

無藤隆、他『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房。

参考文献

井上健治、他『子どもの社会的発達』東京大学出版会。
内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣双書。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床①ライフサイクルからみた発達の基礎』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床②脳科学から見た機能の発達』ミネルヴァ書房。

科目コード	発達心理学（４単位）	登録年次	履修方法
2201/2203		１年/２年/３年	ＳＲ
教員名	上松勝二郎、大野美佐子、沢哲司、立松英子、中川浩子、 中山麻子、永田　愛、橋本景子、三井三枝子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

従来、発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では、死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目され始めている。また、高齢者だけでなく障害児（者）の発達も考えていく必要があり、精神医学や福祉など周辺分野との連携の必要性も高まっている。そこで、本科目では、各ライフステージにおける発達課題や、障害や虐待など発達を阻害する要因について学び、認知機能の発達及び感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、及び高齢者の心理を理解し、生涯を見通した支援ができるようになることを目標とする。

学修内容

1	エリクソンの生涯発達理論について学ぶ （該当箇所：pp.24-25, pp.122-123, pp.142-143, p.149, p.156, pp.186-189, p.200） エリクソンの提唱した人の一生涯にわたる発達過程および発達課題について理解を深める。
2	ピアジェの認知発達理論における知的発達のありさまを捉える　（該当箇所：p.51, pp.62-63） ピアジェが提唱した認知発達理論を学ぶ。感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、保存などが主要なキーワードとしてあげられる。
3	ボウルヴィを中心とした愛着理論を学ぶ　（該当箇所：p.23, pp.24-25, pp.56-57） 愛着の基盤となる養育者と子どもの情緒的な交流をふまえながら、愛着理論の発展についてとらえる。
4	胎児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.2-21） 胎児期における能力のうち、聴覚を中心に理解を深め、また胎児に与えるアルコールやたばこの影響について学ぶ。
5	乳児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.14-41） 新生児期の諸能力のうち、視覚や聴覚、記憶や人に対する興味関心など、実証研究が明らかにしてきた知見を学ぶ。また乳児期における言葉の獲得過程や感情・乗除の発達を理解する。
6	幼児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.42-81） 見立て遊びにみられる対象表象の発達から共同遊びまで、遊びの過程から見る発達や幼児期の言葉の獲得過程、知的能力（数概念や自己中心性の脱却）の発達などについて理解する。
7	児童期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.82-101） 文字の読み書きや計算能力といった学習能力の発達に加えて、仲間関係の発達を遂げていく。社会的スキルの高まりとともにいじめや劣等感といった問題についても理解を深める。
8	思春期～青年期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.102-121） 第二次性徴に伴う身体変化と心理的変化、自己同一性の確立、道徳性の発達、といった点をキーワードとして理解を深める。
9	成人期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.122-141） エリクソンのいう「親密性 VS 孤立」を引き合いに出すまでもなく、恋愛や性、結婚や子育て、働くといった過程を経る成人期であるが、現代ではこの発達過程には個人差が大きくなっている。近年的動向も併せて理解する。
10	壮年期～老年期　の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.142-161） 夫婦をめぐる心理（婚姻関係の継続と破綻）や子離れの心理やインターネットを介したコミュニケーション（SNS）について学ぶ。
11	老年期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.148-162） 退職後の生活や祖父母として子や孫へのかかわりを考える中で、高齢者の問題としてあげられる介護や健康について理解を深める。
12	発達の障害　（該当箇所：テキスト p.168） 発達障害と狭義の発達障害との違いを捉えながら、どのような支援が必要か考えてみる。
13	子ども虐待　（該当箇所：テキスト p.162） 子ども虐待の種別や近年的傾向を押さえながら、虐待の要因についてとらえる。
14	現代の発達環境、発達上の諸問題について理解を深める　（該当箇所：テキスト pp.162-181） 子どもをめぐる臨床的問題として不登校や摂食障害、無気力、自殺やうつなどがあげられる。その特徴と背景について学び、支援について考える。
15	発達心理学における発達を考える　（該当箇所：テキスト pp.189-190,pp.192-199） 今あらためて発達とは何かについて再考する。生涯発達という視点を考慮に入れる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

乳幼児期から老年期に至るまでのライフステージのどれかを選んで発達的な特徴をまとめ、その段階に起こりがちな危機を1つ挙げて、対応について考察せよ。

＜ポイント＞

人間が社会との関わりの中でどのように発達していくかに着目しながら考察すること。

【設題2】虐待と発達の障害との関係について述べよ。

＜ポイント＞

乳幼児期の不適切な環境は子どもの発達に著しい影響を与える。被虐待児の半数弱に発達障害が伴うという現状をふまえて、その理由や対策を考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．ライフサイクルからみた人間の発達について

＜ポイント＞

人のライフサイクルに関する理論をもとに発達における特徴について言及すること。

2．発達のメカニズムについて

＜ポイント＞

さまざまな発達に関する理論について取り上げること。

3．ライフサイクルにおける発達の問題について

＜ポイント＞

発達的な問題、たとえば不登校や摂食障害などについて取り上げること。

4．発達障害について

＜ポイント＞

狭義の発達障害を理解しながら、教育現場での支援について言及すること。

5．認知的機能の発達について

＜ポイント＞

ピアジェ（Piaget）の理論にはじまり、新生児期にみられる諸能力について言及すること。

6．乳児期における愛着の形成について

＜ポイント＞

ボウルヴィ（Bowlby）の理論にとどまらずエインズワース（Ainsworth）による愛着分類について言及すること。

教科書

無藤隆、他『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房。

参考文献

井上健治、他『子どもの社会的発達』東京大学出版会。
内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣双書。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床①ライフサイクルからみた発達の基礎』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床②脳科学から見た機能の発達』ミネルヴァ書房。

科目コード	発達心理学（４単位）	登録年次	履修方法
2206		１年	ＳＲ
教員名	上松勝二郎、大野美佐子、太田信夫、酒井博美、沢哲司、立松英子、 中川浩子、中山麻子、永田愛、橋本景子、三井三枝子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

従来、発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では、死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目され始めている。また、高齢者だけでなく障害児（者）の発達も考えていく必要があり、精神医学や福祉など周辺分野との連携の必要性も高まっている。そこで、本科目では、各ライフステージにおける発達課題や、障害や虐待など発達を阻害する要因について学び、認知機能の発達及び感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、及び高齢者の心理を理解し、生涯を見通した支援ができるようになることを目標とする。

学修内容

1	エリクソンの生涯発達理論について学ぶ （該当箇所：pp.24-25, pp.122-123, pp.142-143, p.149, p.156, pp.186-189, p.200） エリクソンの提唱した人の一生涯にわたる発達過程および発達課題について理解を深める。
2	ピアジェの認知発達理論における知的発達のありさまを捉える　（該当箇所：p.51, pp.62-63） ピアジェが提唱した認知発達理論を学ぶ。感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、保存などが主要なキーワードとしてあげられる。
3	ボウルヴィを中心とした愛着理論を学ぶ　（該当箇所：p.23, pp.24-25, pp.56-57） 愛着の基盤となる養育者と子どもの情緒的な交流をふまえながら、愛着理論の発展についてとらえる。
4	胎児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.2-21） 胎児期における能力のうち、聴覚を中心に理解を深め、また胎児に与えるアルコールやたばこの影響について学ぶ。
5	乳児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.14-41） 新生児期の諸能力のうち、視覚や聴覚、記憶や人に対する興味関心など、実証研究が明らかにしてきた知見を学ぶ。また乳児期における言葉の獲得過程や感情・乗除の発達を理解する。
6	幼児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.42-81） 見立て遊びにみられる対象表象の発達から共同遊びまで、遊びの過程から見る発達や幼児期の言葉の獲得過程、知的能力（数概念や自己中心性の脱却）の発達などについて理解する。
7	児童期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.82-101） 文字の読み書きや計算能力といった学習能力の発達に加えて、仲間関係の発達を遂げていく。社会的スキルの高まりとともにいじめや劣等感といった問題についても理解を深める。
8	思春期～青年期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.102-121） 第二次性徴に伴う身体変化と心理的変化、自己同一性の確立、道徳性の発達、といった点をキーワードとして理解を深める。
9	成人期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.122-141） エリクソンのいう「親密性 VS 孤立」を引き合いに出すまでもなく、恋愛や性、結婚や子育て、働くといった過程を経る成人期であるが、現代ではこの発達過程には個人差が大きくなっている。近年的動向も併せて理解する。
10	壮年期～老年期　の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.142-161） 夫婦をめぐる心理（婚姻関係の継続と破綻）や子離れの心理やインターネットを介したコミュニケーション（SNS）について学ぶ。
11	老年期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.148-162） 退職後の生活や祖父母として子や孫へのかかわりを考える中で、高齢者の問題としてあげられる介護や健康について理解を深める。
12	発達の障害　（該当箇所：テキスト p.168） 発達障害と狭義の発達障害との違いを捉えながら、どのような支援が必要か考えてみる。
13	子ども虐待　（該当箇所：テキスト p.162） 子ども虐待の種別や近年的傾向を押さえながら、虐待の要因についてとらえる。
14	現代の発達環境、発達上の諸問題について理解を深める　（該当箇所：テキスト pp.162-181） 子どもをめぐる臨床的問題として不登校や摂食障害、無気力、自殺やうつなどがあげられる。その特徴と背景について学び、支援について考える。
15	発達心理学における発達を考える　（該当箇所：テキスト pp.189-190,pp.192-199） 今あらためて発達とは何かについて再考する。生涯発達という視点を考慮に入れる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

乳幼児期から老年期に至るまでのライフステージのどれかを選んで発達的な特徴をまとめ、その段階に起こりがちな危機を1つ挙げて、対応について考察せよ。

＜ポイント＞

人間が社会との関わりの中でどのように発達していくかに着目しながら考察すること。

【設題2】虐待と発達の障害との関係について述べよ。

＜ポイント＞

乳幼児期の不適切な環境は子どもの発達に著しい影響を与える。被虐待児の半数弱に発達障害が伴うという現状をふまえて、その理由や対策を考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．ライフサイクルからみた人間の発達について

＜ポイント＞

人のライフサイクルに関する理論をもとに発達における特徴について言及すること。

2．発達のメカニズムについて

＜ポイント＞

さまざまな発達に関する理論について取り上げること。

3．ライフサイクルにおける発達の問題について

＜ポイント＞

発達的な問題、たとえば不登校や摂食障害などについて取り上げること。

4．発達障害について

＜ポイント＞

狭義の発達障害を理解しながら、教育現場での支援について言及すること。

5．認知的機能の発達について

＜ポイント＞

ピアジェ（Piaget）の理論にはじまり、新生児期にみられる諸能力について言及すること。

6．乳児期における愛着の形成について

＜ポイント＞

ボウルヴィ（Bowlby）の理論にとどまらずエインズワース（Ainsworth）による愛着分類について言及すること。

教科書

無藤隆、他『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房。

参考文献

井上健治、他『子どもの社会的発達』東京大学出版会。
内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣双書。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床①ライフサイクルからみた発達の基礎』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床②脳科学から見た機能の発達』ミネルヴァ書房。

科目コード	発達心理学（２単位）	登録年次	履修方法
2207		２年	R
教員名	上松勝二郎、大野美佐子、太田信夫、酒井博美、沢哲司、立松英子、 中川浩子、中山麻子、永田愛、橋本景子、三井三枝子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

従来、発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では、死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目され始めている。また、高齢者だけでなく障害児（者）の発達も考えていく必要があり、精神医学や福祉など周辺分野との連携の必要性も高まっている。そこで、本科目では、各ライフステージにおける発達課題や、障害や虐待など発達を阻害する要因について学び、生涯を見通した支援ができるようになることを目標とする。

学修内容

1	エリクソンの生涯発達理論について学ぶ （該当箇所：pp.24-25, pp.122-123, pp.142-143, p.149, p.156, pp.186-189, p.200） エリクソンの提唱した人の一生涯にわたる発達過程および発達課題について理解を深める。
2	ピアジェの認知発達理論における知的発達のありさまを捉える　（該当箇所：p.51, pp.62-63） ピアジェが提唱した認知発達理論を学ぶ。感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、保存などが主要なキーワードとしてあげられる。
3	ボウルヴィを中心とした愛着理論を学ぶ　（該当箇所：p.23, pp.24-25, pp.56-57） 愛着の基盤となる養育者と子どもの情緒的な交流をふまえながら、愛着理論の発展についてとらえる。
4	胎児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.2-21） 胎児期における能力のうち、聴覚を中心に理解を深め、また胎児に与えるアルコールやたばこの影響について学ぶ。
5	乳児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.14-41） 新生児期の諸能力のうち、視覚や聴覚、記憶や人に対する興味関心など、実証研究が明らかにしてきた知見を学ぶ。また乳児期における言葉の獲得過程や感情・乗除の発達を理解する。
6	幼児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.42-81） 見立て遊びにみられる対象表象の発達から共同遊びまで、遊びの過程から見る発達や幼児期の言葉の獲得過程、知的能力（数概念や自己中心性の脱却）の発達などについて理解する。
7	児童期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.82-101） 文字の読み書きや計算能力といった学習能力の発達に加えて、仲間関係の発達を遂げていく。社会的スキルの高まりとともにいじめや劣等感といった問題についても理解を深める。
8	思春期～青年期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.102-121） 第二次性徴に伴う身体変化と心理的変化、自己同一性の確立、道徳性の発達、といった点をキーワードとして理解を深める。
9	成人期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.122-141） エリクソンのいう「親密性 VS 孤立」を引き合いに出すまでもなく、恋愛や性、結婚や子育て、働くといった過程を経る成人期であるが、現代ではこの発達過程には個人差が大きくなっている。近年的動向も併せて理解する。
10	壮年期～老年期　の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.142-161） 夫婦をめぐる心理（婚姻関係の継続と破綻）や子離れの心理やインターネットを介したコミュニケーション（SNS）について学ぶ。
11	老年期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.148-162） 退職後の生活や祖父母として子や孫へのかかわりを考える中で、高齢者の問題としてあげられる介護や健康について理解を深める。
12	発達の障害　（該当箇所：テキスト p.168） 発達障害と狭義の発達障害との違いを捉えながら、どのような支援が必要か考えてみる。
13	子ども虐待　（該当箇所：テキスト p.162） 子ども虐待の種別や近年的傾向を押さえながら、虐待の要因についてとらえる。
14	現代の発達環境、発達上の諸問題について理解を深める　（該当箇所：テキスト pp.162-181） 子どもをめぐる臨床的問題として不登校や摂食障害、無気力、自殺やうつなどがあげられる。その特徴と背景について学び、支援について考える。
15	発達心理学における発達を考える　（該当箇所：テキスト pp.189-190,pp.192-199）

	今あらためて発達とは何かについて再考する。生涯発達という視点を考慮に入れる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

乳幼児期から老年期に至るまでのライフステージのどれかを選んで発達的な特徴をまとめ、その段階に起こりがちな危機を1つ挙げて、対応について考察せよ。

＜ポイント＞

人間が社会との関わりの中でどのように発達していくかに着目しながら考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．ライフサイクルからみた人間の発達について

＜ポイント＞

人のライフサイクルに関する理論をもとに発達における特徴について言及すること。

2．発達のメカニズムについて

＜ポイント＞

さまざまな発達に関する理論について取り上げること。

3．ライフサイクルにおける発達の問題について

＜ポイント＞

発達的な問題、たとえば不登校や摂食障害などについて取り上げること。

4．発達障害について

＜ポイント＞

狭義の発達障害を理解しながら、教育現場での支援について言及すること。

5．認知的機能の発達について

＜ポイント＞

ピアジェ（Piaget）の理論にはじまり、新生児期にみられる諸能力について言及すること。

6．乳児期における愛着の形成について

＜ポイント＞

ボウルヴィ（Bowlby）の理論にとどまらずエインズワース（Ainsworth）による愛着分類について言及すること。

教科書

無藤隆、他『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房。

参考文献

井上健治、他『子どもの社会的発達』東京大学出版会。
内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣双書。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床①ライフサイクルからみた発達の基礎』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床②脳科学から見た機能の発達』ミネルヴァ書房。

科目コード	発達心理学（２単位）	登録年次	履修方法
2208		１年	ＳＲ
教員名	上松勝二郎、大野美佐子、太田信夫、酒井博美、沢哲司、立松英子、 中川浩子、中山麻子、永田愛、橋本景子、三井三枝子		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		

科目概要・到達目標

従来、発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では、死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目され始めている。また、高齢者だけでなく障害児（者）の発達も考えていく必要があり、精神医学や福祉など周辺分野との連携の必要性も高まっている。そこで、本科目では、各ライフステージにおける発達課題や、障害や虐待など発達を阻害する要因について学び、生涯を見通した支援ができるようになることを目標とする。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	エリクソンの生涯発達理論について学ぶ （該当箇所：pp.24-25, pp.122-123, pp.142-143, p.149, p.156, pp.186-189, p.200） エリクソンの提唱した人の一生涯にわたる発達過程および発達課題について理解を深める。	（生涯発達の視点：発達とは、発達の規定要因、エリクソンの心理社会的発達段階説）	印刷授業 及び 面接授業 (1.5時間)
2	ピアジェの認知発達理論における知的発達のありさまを捉える　（該当箇所：p.51, pp.62-63） ピアジェが提唱した認知発達理論を学ぶ。感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、保存などが主要なキーワードとしてあげられる。		印刷授業
3	ボウルヴィを中心とした愛着理論を学ぶ　（該当箇所：p.23, pp.24-25, pp.56-57） 愛着の基盤となる養育者と子どもの情緒的な交流をふまえながら、愛着理論の発展についてとらえる。		印刷授業
4	胎児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.2-21） 胎児期における能力のうち、聴覚を中心に理解を深め、また胎児に与えるアルコールやたばこの影響について学ぶ。	（胎児期・新生児期：赤ちゃんの能力）	印刷授業 及び 面接授業 (1.5時間)
5	乳児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.14-41） 新生児期の諸能力のうち、視覚や聴覚、記憶や人に対する興味関心など、実証研究が明らかにしてきた知見を学ぶ。また乳児期における言葉の獲得過程や感情・乗除の発達を理解する。	（乳児期：情緒の発達と親子関係、ボウルビィの愛着理論）	印刷授業 及び 面接授業 (1.5時間)
6	幼児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.42-81） 見立て遊びにみられる対象表象の発達から共同遊びまで、遊びの過程から見る発達や幼児期の言葉の獲得過程、知的能力（数概念や自己中心性の脱却）の発達などについて理解する。	（幼児期：自己と遊び、言語の発達）	印刷授業 及び 面接授業 (1.5時間)
7	児童期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.82-101） 文字の読み書きや計算能力といった学習能力の発達に加えて、仲間関係の発達を遂げていく。社会的スキルの高まりとともにいじめや劣等感といった問題についても理解を深める。	（友人関係と道徳性の発達、ピアジェの認知発達理論）	印刷授業 及び 面接授業 (1.5時間)

8	思春期～青年期の特徴を捉える　(該当箇所:テキスト pp.102-121) 第二次性徴に伴う身体変化と心理的変化、自己同一性の確立、道徳性の発達、といった点をキーワードとして理解を深める。	(青年期：アイデンティティの発達)	印刷授業 及び 面接授業 (1.5時間)
9	成人期の特徴を捉える　(該当箇所：テキスト pp.122-141) エリクソンのいう「親密性VS孤立」を引き合いに出すまでもなく、恋愛や性、結婚や子育て、働くといった過程を経る成人期であるが、現代ではこの発達過程には個人差が大きくなっている。近年的動向も併せて理解する。	(成人前期：親密性と子育て)	印刷授業 及び 面接授業 (1.5時間)
10	壮年期～老年期　の特徴を捉える　(該当箇所:テキスト pp.142-161) 夫婦をめぐる心理（婚姻関係の継続と破綻）や子離れの心理やインターネットを介したコミュニケーション（SNS）について学ぶ。	(成人後期：中年期の危機)	印刷授業 及び 面接授業 (1.5時間)
11	老年期の特徴を捉える　(該当箇所：テキスト pp.148-162) 退職後の生活や祖父母として子や孫へのかかわりを考える中で、高齢者の問題としてあげられる介護や健康について理解を深める。	(高齢期：よりよくいきるために)	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
12	発達の障害　(該当箇所：テキスト p.168) 発達障害と狭義の発達障害との違いを捉えながら、どのような支援が必要か考えてみる。		印刷授業
13	子ども虐待　(該当箇所：テキスト p.162) 子ども虐待の種別や近年的傾向を押さえながら、虐待の要因についてとらえる。	(発達の危機:発達障害も触れながら児童虐待を中心に学ぶ、また現代の子育て環境と子どもの問題について考えよう)	印刷授業 及び 面接授業 (2時間)
14	現代の発達環境、発達上の諸問題について理解を深める　(該当箇所：テキスト pp.162-181) 子どもをめぐる臨床的問題として不登校や摂食障害、無気力、自殺やうつなどがあげられる。その特徴と背景について学び、支援について考える。		印刷授業
15	発達心理学における発達を考える　(該当箇所:テキスト pp.189-190,pp.192-199) 今あらためて発達とは何かについて再考する。生涯発達という視点を考慮に入れる。		印刷授業
			面接授業：合計15時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の50%、参加態度・課題提出　総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 <評価点>　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点）　F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　乳幼児期から老年期に至るまでのライフステージのどれかを選んで発達的な特徴をまとめ、その段階に起こりがちな危機を1つ挙げて、対応について考察せよ。

＜ポイント＞

人間が社会との関わりの中でどのように発達していくかに着目しながら考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．ライフサイクルからみた人間の発達について

＜ポイント＞

人のライフサイクルに関する理論をもとに発達における特徴について言及すること。

2．発達のメカニズムについて

＜ポイント＞

さまざまな発達に関する理論について取り上げること。

3．ライフサイクルにおける発達の問題について

＜ポイント＞

発達的な問題、たとえば不登校や摂食障害などについて取り上げること。

4．発達障害について

＜ポイント＞

狭義の発達障害を理解しながら、教育現場での支援について言及すること。

5．認知的機能の発達について

＜ポイント＞

ピアジェ（Piaget）の理論にはじまり、新生児期にみられる諸能力について言及すること。

6．乳児期における愛着の形成について

＜ポイント＞

ボウルヴィ（Bowlby）の理論にとどまらずエインズワース（Ainsworth）による愛着分類について言及すること。

教科書

無藤隆、他『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房。

参考文献

井上健治、他『子どもの社会的発達』東京大学出版会。
内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣双書。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床①ライフサイクルからみた発達の基礎』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床②脳科学から見た機能の発達』ミネルヴァ書房。

※科目コード7240：ＳＲ履修／科目コード7241：Ｒ履修

科目コード	発達相談（２単位）	登録年次	履修方法
7240/7241		３年	ＳＲ/Ｒ※
教員名	李玄玉、稲香代子、坪井菜奈子、橋本景子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

乳幼児期における子育ての問題、発達障害の問題、いじめや不登校（園）、キレる・むかつく子どもの問題など、現代の親がかかえる様々な子育て上の問題について考察するとともに、育児に悩む親への相談技法についてカウンセリング技法をベースに具体的事例を通して学修する。

学修内容

1	発達相談の目指すもの：発達ニーズが生じる問題について。 発達の臨床と教育相談：子どもを理解するために、「教育相談」を概観する。 「序章」を読んで講義に臨むこと。
2	様々な発達理論について学ぶ：ゲゼルやワトソン、フロイトの発達理論、エリクソンの発達理論等。 子どもの「愛着」について考える：「愛着関係」を築くには何が必要か、ディスカッションしてみる。 「第１章」を読んでおくこと。
3	子どもの発達の特徴（1）：乳児期から幼児期・児童期の発達について知る。 保育所や幼稚園から小学校に上がる時にはどんな不安があったり、どんなことを考えたりしたのか、当時を思い出してみる。 「第２章」を読んでおくこと。
4	子どもの発達の特徴（2）：思春期の若者について考える。 ３回目と同じように、中学時代・高校時代を思い出してみる。 「第３章」を読んでおくとともに、p.65 にあるように「携帯電話」についても考えてみる。
5	昨今の「子育て環境」について考える：「家庭」とは何か、「家族」とは？ 周りをよく見ると、いろいろな家庭があり、様々な家族の形が存在するものである。形式ではなく、そこで何が求められているのか、そこでは何をなすべきなのかを考察していく。「第４章」を読んでおく。
6	子どもの発達と相談：子どもの心を的確に捉え、親の心理状況を的確に捉えるために、その方法を学び、心理検査についても学ぶ。自分がどんな対応をされれば嬉しいか、逆に嫌な思いをするのかを考えるとわかりやすい。要するに相手の気持ちになってみること。「第５章」を読んでおくこと。
7	カウンセリングの技法について（1）：来談者中心カウンセリング、精神分析的カウンセリング、分析心理学的カウンセリング、行動療法カウンセリング等について学ぶ。 「第６章」pp.96-105 を予習しておくこと。
8	カウンセリングの技法について（2）：開発的カウンセリング、電話カウンセリング、ソーシャルスキルトレーニング等について学ぶ。ロールプレイ（役割演技）で実際にやってみる。 「第６章」p.105 から予習しておくこと。
9	教師の仕事も大変多忙で、心を病む教師も多くいる。そんな中での仲間同士での「ピアサポート」は大変重要である。これがあるかないかで教師の離職率や心を病む確率も大きく変わって来る。今回は、働く側になって考える。 「第７章」を読んでおくこと。
10	乳幼児期に起こりやすい問題とその対応について：排泄や言葉の問題など、日常の中での問題について考える。 「第８章」を読んで講義に臨むこと。
11	子どもの心の問題とその対応について（1）：主に神経症的問題から。 チック、場面緘黙、不登校、ひきこもりなど、テキストに掲載されている以外にも指しゃぶりや夜泣き、吃音など様々なものが考えられる。子どもの心の問題から引き起こされる症状について学ぶ。「第９章」p.152 まで予習しておくこと。
12	子どもの心の問題とその対応について（2）：主に神経症的問題から。 PTSD、自傷行為、自殺など、前回に続き子どもの心の問題から引き起こされる症状について学ぶ。 「第９章」の残りを予習しておくこと。
13	子どもの心の問題とその対応について（3）：主に反社会的行為について考える。 発達障害や精神障害が絡んでいる場合もあるが、多くは障害とは関係なく、その育ちの過程で起こるものである。障害のせいにばかりすると、見える問題も見えなくなってしまうので気をつけたい。「第 10 章」で予習をしておくこと。
14	子どもの発達の問題と対応について：LD や ADHD、高機能自閉症、アスペルガーの発達上の障害について学ぶ。 聞き慣れない言葉も多いので、必ず「第 11 章」を読んで予習をして講義に臨むこと。
15	子どもの育ちを理解するために、親の養育態度と子どもの育ちについて考える。私たち保育者や教師に何ができるかを、この講義のまとめとして、ディスカッションして考えてみる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 乳幼児の子育てをしている親の心理をベースとして、その支援について述べよ。

＜ポイント＞

①エリクソンのライフサイクルの考え方から乳幼児並びに親の心理について

②子育て支援とは何かについて

科目終了試験学修のポイント

1． 乳・幼児におこりやすい心の問題について取り上げ、対応策を説明せよ。

＜ポイント＞

乳幼児期の身体発達の特徴　エリクソンのライフサイクル理論　乳幼児期の発達課題　愛着の形成
生活習慣の確立と心の問題　親の養育態度と心の問題　神経性習癖　発達障害と心の問題

2． 不登校のタイプと対応について

＜ポイント＞

「不登校」の定義　不登校のタイプからその要因と背景を検討する　「不登校」の考え方の変遷
不登校の子をもつ親の心理と親支援　学校との連携　医療との連携

3． 親が抱える育児不安はなぜもたらされるのかについて

＜ポイント＞

「育児不安」とは　育児不安をもたらす様々な要因とは（子の要因・親の要因）　子の発達と親の発達のつながり
育児情報の功罪　子育て支援の現状と在り方

4． 乱暴な子どもへの対応について

＜ポイント＞

「乱暴な言動」とは　子どもの攻撃性　乱暴な言動の背景にあるもの　精神疾患、発達障害との関係性

5． 問題を抱える親子のアセスメントとは何か。またその留意点も併せて述べよ。

＜ポイント＞

アセスメントとは　アセスメントの方法　アセスメント結果の整理と分析
親への面接にどのように活かすか　子への面接・親子並行面接へどのように活かすか

6． 発達障害とはいかなる障害かその特徴について述べよ。

＜ポイント＞

発達障害とは　乳幼児期にみられる発達障害　療育とは　社会的支援とは　二次障害をどのように防ぐか
ライフステージとの関係からみた発達障害

教科書

平山諭、他『発達の臨床からみた心の教育相談』ミネルヴァ書房。

参考文献

川畑隆、他『発達相談と援助』ミネルヴァ書房。
大日向雅美『育児不安』日本評論社。
柏木恵子『子育て支援を考える』岩波書店。

科目コード	犯罪心理学（２単位）	登録年次	履修方法
2810		３年	R
教員名	久保貴、高木俊彦		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心理学の立場に依拠しつつ、犯罪や非行の原因を生物学的要因、パーソナリティ要因、社会的要因などから探る。生物学的要因として主にロンブローゾの学説やホルモン・神経伝達物質、条件付けとの関連等について理解し、パーソナリティ要因としては行為障害や人格（パーソナリティ）障害、セルフコントロールとの関連等について理解する。社会的要因としてはアノミー論や分化的接触理論、社会的絆理論、ラベリング理論、競争の激化に伴う格差社会の進展やマスコミ報道が及ぼす影響等について考察する。

また、具体的犯罪内容については、暴力犯罪、性犯罪、ＤＶ・ストーキング・虐待、窃盗・強盗・放火などの類型に分けて理解する。さらに、犯罪捜査や防犯、犯罪者や非行少年の矯正・保護といった処遇システムについても、心理学のみならず、社会学、司法、精神医学などの立場からの理解も深めながら、犯罪心理学という学問あるいは心理職がどのような役割を果たせるのか、その可能性について考察する。以上の学修を通して、犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について、理解を深める。

学修内容

1	オリエンテーション ― 犯罪とは何か、犯罪と刑罰の歴史、凶悪犯罪は増えているか 犯罪とは何か、社会の掟と掟破りとしての「犯罪」、掟から成文法あるいは宗教的戒律に基づく「犯罪」、そして法の下での「犯罪」＝罪刑法定主義へと、犯罪と刑罰の歴史について概観する。次に、我が国の刑法の例を挙げ、刑法に定める行為が犯罪とされ有罪とされるための条件について説明。最後に、犯罪の種類が多様化する一方、凶悪犯罪は増えているかという問いかけにつき考察、犯罪心理学における科学的な分析と考察の重要性について学ぶ。
2	人はなぜ犯罪者になるのか ― 犯罪の生物学的原因論 犯罪の生物学的原因論について、人類学的立場からロンブローゾの生来性犯罪者説を紹介。また、犯罪と遺伝との関連から、犯罪者の家系研究、養子研究、双生児の研究を、さらに犯罪と環境との関連では野生児の研究を、また、医学的、病理学的関連からはホルモンと犯罪、神経伝達物質と犯罪などについて学ぶ。最後に、現在の犯罪心理学では、環境か遺伝かという二元論ではなく、素質と環境両方の要因の相関関係に求めるクルト・レビンのＢ＝Ｆ（Ｐ・Ｅ）の公式について考察する。
3	人はなぜ犯罪者になるのか ― 犯罪の心理学的原因論 犯罪の心理学的原因論について、精神疾患、知的障がいと犯罪との関係について言及したのち、フロイトの精神力動的アプローチを紹介。次いで、犯罪と性格特性との関係で、グリュク夫妻の研究や敵意帰属バイアス、敵意的反芻傾向、セルフコントロールの欠如、サイコパス（psychopathy）傾向、生涯持続型反社会性などについて学ぶ。さらに、犯罪と家族関係、犯罪とメディア、特に、暴力的な映画やテレビ番組と暴力犯罪又ポルノメディアと性犯罪の増加との関係等について考察する。
4	人はなぜ犯罪者になるのか ― 犯罪の社会学的原因論 犯罪の社会学的原因論の観点から、アノミー理論（緊張理論）、分化的接触理論、分化的同一化理論、社会的絆理論（social bond theory）又は統制理論（control model）、漂流理論・ドラフト理論（drift theory）、ラベリング理論（Labeling theory）、割れ窓理論（broken window theory）等について学ぶ。
5	犯罪の種類と犯罪の心理（1）暴力犯罪（暴行、傷害、殺人） 暴力犯罪について、まず、その代表である殺人・傷害事件について、その定義と現状について説明する。そのあと、計画的な暴力犯罪と衝動的な暴力犯罪、ホームズの連続殺人犯の分類、秩序型と無秩序型についてテッド・バンディ事件の例などを挙げて考察。その他、女性による連続殺人、宗教テロリズム、又「秋葉原大量殺傷事件」や「津山３０人殺し」（「八つ墓村」）事件の例など挙げながら、無差別大量殺傷事件の原因と行動パターンの共通性等について学ぶ。
6	犯罪の種類と犯罪の心理（2）性犯罪 性犯罪について、特にその代表的犯罪であるレイプ（強姦）を採り上げ、レイプの定義と現状を紹介し、知人間レイプ、ストレンジャー・レイプについて触れたあと、ナイトとプレンツキーによるレイプ犯人の分類とレイプ犯人の犯行のテーマに関する研究を紹介。また、性犯罪者の多くに見られるレイプ神話（rape myths）、そして最後に、レイプ犯罪に関する偏見とセカンド・レイプについて言及。最後に、子どもに対する性犯罪についても触れる。
7	犯罪の種類と犯罪の心理（3）ＤＶ、ストーキング ドメスティック・バイオレンスとストーキングについて、ドメスティック・バイオレンス（Domestic Violence）の定義と現状 、ドメスティック・バイオレンスの原因、離脱するのが困難なドメスティック・バイオレンスの特質とその対処法について学ぶ。ストーキング（stalking）については、その定義と現状、ストーカーの特性、拒絶型、憎悪型、親密希求型などストーカーの分類、ストーカーの危険予測について学ぶ。。
8	犯罪の種類と犯罪の心理（4）窃盗、強盗、 まず窃盗犯罪に関しては、窃盗の定義と現状 、侵入窃盗、内部窃盗、万引きなどをブースター型、スニッチ型などの分類に従って説明。強盗に関しては、強盗の定義と現状、強盗犯人のテーマ、そして強盗のタイプを、プロフェッショナルタイプ、盗賊タイプ、カウボーイタイプ等に分け、あるいは、路上強盗、銀行強盗・金融機関強盗といった分類で説明。その他、ホワイトカラー犯罪やコンピュータ犯罪についても学ぶ。
9	犯罪の種類と犯罪の心理（5）放火、誘拐、監禁 放火は、日本の火災原因のトップであり、犯行の隠蔽、復讐、保険金目当てのほか、老人、子ども、女性、自信欠如者などが不満解消、鬱憤晴らし、八つ当たり的に行う「弱者の犯罪」とも言われている。また、放火が、手段としての放火、放火症（ピロマニア）、もうろう状態での放火の三つに分けられることについて学ぶ。誘拐、監禁については、その原因背景として、意のままに他人を支配したいという支配欲、ヒトと家畜との関係への「先祖がえり」、サディズム（性嗜好異常の一類型）といった諸説を紹介。また、誘拐の目的から、強制わいせつや強姦を目的とする通り魔的な「わいせつ誘拐」、人質の安全・解放と引き換えに近親者から多額の金品を奪おうとする「身の代金目的略取等」を目的とする誘拐に分けて説明する。犯人の中には、空想虚言者、粘着気質の者、衝動的な境界性パーソナリティ障害者などが少なくない。その他、人質を盾に取り監禁し、物質的、個人的な利益を得ようとする「三菱銀行人質強盗殺人事件」事件や「日航よど号ハイジャック事件」など政治・思想的な背景をもつ事件もあることに言及する。監禁された被害者が加害者に親近感を感じるストックホルム症候群についても学ぶ。
10	犯罪の種類と犯罪の心理（6）いじめ、虐待 いじめについて、その現状と背景を、人間の本能的攻撃性、過剰な競争や格差社会のストレス、自己統制能力の未熟等の観点から考察する。また、陰湿ないじめがが子どもの自殺をもたらす深刻な社会病理についても言及する。その他、ノルウェイの生物学者ソレリフ・シェルデラップ＝エッベによるニワトリ社会のイジメ現象（Pecking Order）の研究と「イジメの構造」についても紹介する。虐待については、その定義と現状、また、その内容について、身体的虐待、性的虐待（sexual abuse）、ネグレクト、心理的虐待（emotional abuse）、代理（による）ミュンヒハウゼン症候群（Münchhausen Syndrome by Proxy：MSbP）、虐待の連鎖（intergenerational transmission of abuse）などについて学ぶ。その他、最近問題になっている高齢者虐待についても触れる。
11	事例研究 （各受講生による事例研究とレポートの報告、講師によるコメント等） 各受講生が、自分の関心のある犯罪事件の事例を一例取り上げ、その動機や原因背景、また犯罪者の心理について分析、考察し、その結果を小レポート（1200 字程度）にまとめて提出する。

12	犯罪捜査 まずプロファイリング（profiling）に関し、ＦＢＩ方式やリバプール方式（Offender profiling or criminal profiling）、そして 地理的プロファイリングなどその歴史と現状を紹介。併せて、我が国における歴史とプロファイリング発動事件の例として世田谷一家惨殺事件を取り挙げる。次に、ポリグラフ検査（polygraph test）について、ポリグラフ検査の質問法（ 犯行知識検査 ＝ ＧＫＴ Guilty Knowlege Test）及び中枢神経系指標を用いたポリグラフ検査（脳波検査）を紹介。その他、目撃証言や取り調べ過程の科学的研究、あるいは似顔絵とモンタージュ写真による犯罪捜査についても学ぶ。
13	犯罪予防 犯罪予防について、心理学の知識を効果的に用い、犯罪を起こさないためにどうすればよいのかを明らかにしていく。まず、環境設計による犯罪予防として、「プルイット・アイゴーの悲劇」の例を挙げ、犯罪から「守りやすい（住）空間」を作り上げる必要性について考察する。また、ジェフリーらによる防犯環境設計（CPTED）理論や状況的犯罪予防、防犯について有名な理論である「ルーティン・アクティビティ・セオリー」などについて紹介する。その他、ウィルソンとケリングの「割れ窓理論」やメーガン法、わが国の「社会を明るくする運動」等の犯罪予防活動や地域活動についても学ぶ。
14	犯罪者の処遇・社会復帰１　矯正における犯罪者処遇 有罪となり懲役刑が確定すると刑務所など刑事施設に入所する。刑務所（刑事施設）では、受刑者の刑が執行（処遇）される。処遇の一つが「作業」で、懲役刑では、一定の期間の作業が義務づけられる。処遇のもう一つが「矯正指導」である。少年については、少年院送致の保護処分を受けた者は少年院に収容される。少年院では、非行深度等により区分別に収容され、共同生活を通して、生活習慣の改善や学習、勤労意欲の育成、教科教育、職業訓練などが行われる。ここでは、刑事施設及び少年院など矯正施設における犯罪者や非行少年の処遇について学ぶ。
15	犯罪者の処遇・社会復帰２　更生保護における犯罪者処遇 犯罪や非行をした人の立ち直りを図り、再び犯罪や非行を起こさせないようにするには、その素質、環境を考慮しつつ、その人に必要な各種の支援、福祉でいう自立支援が必要である。ここでは、社会の中での働きかけ（処遇）を中心とする更生保護制度について、その概要、担い手、関係機関・団体との連携、また、精神障害等の状態で重大な他害行為を行った人の社会復帰の促進を目的とする医療観察制度や新しい専門的処遇プログラムの概要、さらには、更生保護制度の現状と今後の展望について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】
最近の「無差別殺人事件」や「通り魔殺人事件」に象徴される現代型犯罪の原因・背景について、犯罪心理学の観点から論述せよ。
＜ポイント＞
秋葉原無差別殺人事件や最近の通り魔殺人事件と呼ばれる犯罪の原因・背景とこの種犯罪者の心理を、次に示す言葉の幾つかをキーワードとして論述する。
幼少期における虐待や母性的愛情の欠如、トラウマ、競争と格差社会、ワーキングプア、都市化と匿名社会の中での孤独、マスコミの犯罪報道と模倣犯、劇場型犯罪、拡大自殺と間接自殺、情性欠如者、自己確認型犯罪

科目終了試験学修のポイント

１．暴力団や暴走族など逸脱集団への加入を「否定的同一性」獲得の観点から説明する。
＜ポイント＞
「アノミー論」や「分化的接触理論」などの理解の下、逸脱集団への加入を「否定的同一性」獲得の観点から考察、説明する。

２．犯罪者や非行少年の更生・社会復帰のための社会内処遇、特に心理治療的処遇について
＜ポイント＞
少年院や保護観察所における専門的処遇プログラムの実施など、更生・社会復帰のための施設内、社会内処遇、特に心理治療的処遇について理解しておくこと。

３．犯罪・非行の素因としての「虐待と暴力の連鎖」について
＜ポイント＞
いじめや学校内暴力などの多くが、過去に虐待や暴力の被害経験を有する者によって行われているとの主張がある。このように、特に暴力が介在する犯罪・非行を「虐待と暴力の連鎖」の観点から考察、説明する。

４．シュナイダーの「情性欠如者」と DSM の「反社会的パーソナリティ」について
＜ポイント＞
犯罪者の人格的理解について、シュナイダーの「情性欠如者」あるいは「精神病質者」の概念から、DSM の「反社会的パーソナリティ」の概念が用いられるようになった歴史とその内容について理解する。

５．犯罪被害者の「PTSD」について
＜ポイント＞
犯罪被害者は、犯罪に遭ったそのときに害を被るだけでなく、その後も様々な心身の障害に苦しむ者が少なくない。これを「ＰＴＳＤ」の概念と関連させ説明し、最近の犯罪被害者支援施策との関連においても考察しておく。

６．マスメディア、ＩＴ社会の進展と犯罪について
＜ポイント＞
特に、ＩＴ社会の進展などによる新たらしい形の犯罪の発生が注目されている。マスメディア、ＩＴ社会と現代型犯罪との関係について考察しておくこと。

教科書

越智啓太『Progress&Application 犯罪心理学』サイエンス社。

参考文献

松本勝『更生保護入門』成文堂。

科目コード	判断推理と数的推理（２単位）	登録年次	履修方法
1500		１年	R
教員名	成田成		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

大学生としての教養を高めるための一環として、論理や平面の分割・構成などに関する「判断推理」の能力と、整数問題、連立方程式、順列・組み合わせ、場合の数、確率などに関する「数的推理」の能力を養う。そのためにも、過去問題や予想問題などを解くのはもちろんであるが、出題者側の意図を理解しながら、実際に自分で例題や模範解答を作成するところまで学修する。

学修内容

1	イントロダクション：命題 判断推理の問題を解決する際は、仮定をもとにした証明が行われるが、証明されるべきものが仮定と矛盾しないことが必須の要件である。命題の中で、必要条件、十分条件、必要十分条件の意味について、集合の考え方をもとに理解する。
2	真実と嘘の解釈 問題文の中に正しい内容と誤った内容が混在する場合、それらを整理して一定の結論を導く手順について、具体例を挙げて理解する。
3	トーナメントとリーグ戦の結果の推理 競技にはトーナメント制とリーグ制があり、勝負の結果、勝者と敗者が出現する。グループの勝敗の結果をもとに、一定の結論を導き出す手順について、具体例を挙げて理解する。
4	数値の推理 問題文の内容と文中に提示されている数値を整理して式を作り、どのような数的結論が導き出せるか、具体例を挙げて理解する。
5	順位の推理 問題文の内容と文中に提示されている数値を整理して式を作り、得られる値をもとに、大・小（多・少）の順位がどのようになっていると導き出せるか、具体例を挙げて理解する。
6	順列 あるグループの並び順の個数について、順列の式（パーミテーション：P）を適応してその数を出す。そして、条件に適合する順番を導きだす手順を理解する。
7	組み合わせ あるグループの組み合わせの個数について、組み合わせの式（コンビネーション：C）を適応してその数を出す。そして、条件に適合する組み合わせを導き出す手順を理解する。
8	確率 順列や組み合わせの個数をもとに、該当するものの個数を計算し、確率を推計する手順について、具体例を挙げて理解する。
9	集合 集合はあるグループの所属を規定するものであり、集合に含まれるものと、含まれないものに分類される。それをもとに、各集合の構成要素を明確化する手順を学ぶ。
10	暗号解釈 暗号は、ある情報の組み合わせに対して、一定の規則にしたがって別の情報に変換することを意味する符号である。ここでは、数値やアルファベットから、その意味することを解読する手順について、具体例を挙げて理解する。
11	代数問題 問題文の内容と文中に提示されている数値を整理して式を作り、得られる値をもとに、求める数値を確定させる手順について、具体例によって理解する。
12	軌跡 ある種の図形が移動した際、特定部分がどのような空間位置を移動したか、その軌跡について理解する。ここでは、平面図形を中心に、具体例を挙げて理解する。
13	平面図形 平面図形の分割法、作成される図の形、個数などについて、具体例を挙げて理解する。ここでは、組み合わせの応用としての理解が求められる。
14	立体図形 立体図形、特に長方形や立方体の分割法、展開図の形、個数などについて、具体例を挙げて理解する。ここでは、組み合わせの応用としての理解が求められる。
15	総括 1～14 回の授業の総括として、問題文に含まれる数値から特定の値を推理する代数学、図形を理解する幾何学といった分野を統合した総合的な問題について、具体例を挙げて理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 大学生として「判断推理と数的推理」を学ぶことの意義について述べよ。

＜ポイント＞

過去の経験を踏まえた上で、現在の「判断推理と数的推理」の利用価値や、自分の将来を考えた場合の重要度などと関連させながら、わかりやすく説得力のあるレポートを期待している。

科目終了試験学修のポイント

1.「教育」に関する内容で判断推理の問題文を2つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。

＜ポイント＞

成績順、欠席日数など、教育や成績と関係が深い内容について虚実混合の文章から、正解を導き出す5択問題を作成し、正解に至るまでの解説をする。問題文は2種類作成すること。

2.「福祉」に関する内容で数的推理の問題文を2つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。

＜ポイント＞

親と子の年齢差、施設入居者数などについて、経年変化、施設間の差などを考慮した文章から正解を導き出す5択問題を作成し、正解に至るまでの解説をする。問題文は2種類作成すること。

3.「学生」に関する内容で判断推理の問題文を2つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。

＜ポイント＞

学生の学習状況（座席などを含む）、生活状況（クラブ活動を含む）について虚実混合の虚実混合の文章から、正解を導き出す5択問題を作成し、正解に至るまでの解説をする。問題文は2種類作成すること。

4.「大学入試」に関する内容で数的推理の問題文を2つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。

＜ポイント＞

学部・専攻の合格者数、入学者数、成績順などについて、集合を考慮した文章から正解を導き出す5択問題を作成し、正解に至るまでの解説をする。問題文は2種類作成すること。

5.「就職」に関する内容で数的推理の問題文を2つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。

＜ポイント＞

職種別就職者数、就職率、男女数などについて虚実混合の虚実混合の文章から、正解を導き出す5択問題を作成し、正解に至るまでの解説をする。問題文は2種類作成すること。

6.「教員」に関する内容で判断推理の問題文を2つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。

＜ポイント＞

男女別教員数、教科別教員数などについて集合を考慮した文章から正解を導き出す5択問題を作成し、正解に至るまでの解説をする。問題文は2種類作成すること。

教科書

保育士試験研究会編『保育士 就職試験問題集』実務教育出版。

参考文献

中学・高校の参考書や問題集など

科目コード	比較社会史（２単位）	登録年次	履修方法
2260		３年	R
教員名	河野等、辻本理絵子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

各国の社会福祉の発展とその特色を、社会背景や文化の違いを踏まえながら歴史的に考察する。その際、例えば、政治、経済、社会、宗教、歴史、民族といった背景の違いが、各国の社会福祉のあり方にどのような影響を与えているかについて、比較考察し、社会福祉に対する国際的視野を広めることをめざす。

学修内容

1	社会保障の概念（1） 社会保障とは何かその概念を知り、社会保障にはどのような制度があるかを学ぶ。また、現代社会システムの欠陥を確認し、そこからなぜ社会保障が必要か考える。そして、社会保障の今後の展望を福祉国家と福祉社会の視点から学ぶ。
2	イギリスの社会保障（1） ベヴァリジ報告以降のイギリスの社会保障の変化を学ぶ。また、イギリスの社会保障にはベヴァリジ報告の基本的な考え方が息づいているが、その点を押さえながらイギリス独特の社会保障の概念を学ぶ。
3	イギリスの社会保障（2） イギリスの社会保障にはどのようなものがあるか、どのような制度になっているのかを学ぶ。特にイギリスでは、いち早く介護保障にケアマネジメントを導入した。イギリスの介護保障と日本の公的介護保険制度を比較すると、より学びが深くなる。また、イギリスの現状を理解し、その課題と展望を考察する。
4	スウェーデンの社会保障（1） 第二次世界大戦後、なぜスウェーデンが福祉国家となったのか、第二次世界大戦前のスウェーデンの歴史を理解しながら考える。また、福祉国家として歩む中でスウェーデンは、どのように社会保障システムを合理化していったか学ぶ。
5	スウェーデンの社会保障（2） スウェーデンの社会保障にはどのようなものがあるか、どのような制度になっているのかを学ぶ。特に、スウェーデンのエーデル改革について理解を深め、日本の高齢者福祉の在り方と比較し、学びを深める。そして、スウェーデンの現状と課題を理解し、その展望を考察する。
6	ドイツの社会保障（1） 第二次世界大戦前のドイツの社会保障の歴史から、近代の社会保障の歴史について学び、ドイツの社会保障の特徴を読み取る。また、ドイツの社会保障がどのような変化を経て現在にいたるか考察する。
7	ドイツの社会保障（2） ドイツの社会保障にはどのようなものがあるか、どのような制度になっているのかを学ぶ。特に日本の介護保険のひな形になった公的介護保険制度について、日本と比較検討すると学びが深まる。そして、ドイツの現状と課題を理解し、その展望を考察する。
8	フランスの社会保障（1） 第二次世界大戦前のフランスの社会保障の歴史から、近代の社会保障の歴史について学ぶ。フランスは日本と異なり、市民による革命を経験している。その革命がフランスにどのような社会保障の歴史をもたらしたか意識すること。
9	フランスの社会保障（2） フランスの社会保障にはどのようなものがあるか、どのような制度になっているのかを学ぶ。特にフランス独特の家族手当や介護給付について理解を深める。そして、フランスの現状と課題を理解し、その展望を考察する。
10	イタリアの社会保障（1） 第二次世界大戦前のイタリアの社会保障の歴史から、近代の社会保障の歴史について学ぶ。イタリアにはバチカン公国があり、非常にキリスト教の影響を受けた社会保障の歴史を持っている。イタリアの社会保障にキリスト教がどのような影響を与えたか押さえることで、イタリアの社会保障の理解が深まる。
11	イタリアの社会保障（2） イタリアの社会保障にはどのようなものがあるか、どのような制度になっているのかを学ぶ。また、教会や協同組合などがイタリアの社会保障を下支えしている現状を押さえる。そして、イタリアの現状や課題を理解し、その展望を考察する。
12	アメリカの社会保障（1） アメリカの社会保障の基本原則を踏まえ、社会保障法を中心にアメリカの社会保障の歴史を学ぶ。特に、アメリカの州の権限の強さや、個人主義などがどのように制度に影響しているか意識すること。

13	アメリカの社会保障（2） 　アメリカの社会保障にはどのようなものがあるか、どのような制度になっているのかを学ぶ。そして、公的サービスを最低限度に押さえているアメリカの現状と課題を理解し、その展望を考察する。
14	韓国の社会保障 　第二次世界大戦後の韓国の社会保障の歴史を踏まえ、韓国の社会保障にはどのようなものがあるか、どのような制度になっているのかを学ぶ。そして、韓国の現状と課題を理解し、その展望を考察する。
15	日本の社会保障 　第二次世界大戦後のわが国の社会保障の歴史を概観し、どのような流れで社会保障制度が確立されていったのか考える。そして、現在のわが国の社会保障の課題を学び、わが国の社会保障制度とこれまで学んできた諸外国の制度と比較しつつ、今後の社会保障の在り方を考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 日本の社会福祉の歴史と今後の課題について述べよ。

＜ポイント＞

日本の社会福祉の歴史を踏まえ、日本の福祉政策の仕組み、そして今後の課題についてまとめ、自分の考えを述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．スウェーデンの社会保障の歴史について

＜ポイント＞

スウェーデンが福祉国家と呼ばれるようになった歴史的背景をまとめること。

2．NHS と日本の健康保険制度を比較して

＜ポイント＞

イギリスの誇りとも言われる国民医療サービス（NHS）と日本の健康保険制度を比較、考察すること。

3．ドイツの介護保障とフランスの介護保障を比較して

＜ポイント＞

文化、国民性が比較的似ているドイツとフランスの介護保障制度について比較、考察すること。

4．イタリアの社会保障の現状と展望について

＜ポイント＞

キリスト教の概念が制度設計に大きく影響しているイタリアの社会保障の現状と展望について考察すること。

5．アメリカの社会保障の背景について

＜ポイント＞

先進国内で唯一、国民皆保険制度を持たないアメリカの文化的、歴史的背景をまとめ、考察すること。

6．日本と韓国の社会保障について

＜ポイント＞

日本と韓国の社会保障を比較し、類似点、相違点を明らかにし、考察すること。

教科書

埋橋孝文『社会福祉の国際比較』放送大学教育振興会。

参考文献

足立正樹 編著『各国の社会保障』放送大学教育振興会。

吉田久一、岡田英己子『社会福祉思想史入門』勁草書房。

鈴木依子『社会福祉のあゆみ－日本編－』一橋出版。

山田美津子『社会福祉のあゆみ－欧米編－』一橋出版。

科目コード	比較日本文化論（２単位）	登録年次	履修方法
9230		２年	R
教員名	内藤伊都子、野口芙美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

世界には多くの文化が存在し、共通性を有する文化もあれば、固有性や多様性にも富んでいる。ある文化を理解するためには、他文化を知り他文化を通して、また文化の内外からその文化を見つめる比較的視点も重要である。

本講座では、日本文化論の代表的な文献を複数取り上げた本をテキストとして使用する。テキストの中で取り上げられている文献の要約や解説を通して、日本文化の特徴を概観し、文献の中にみる日本文化を多様な角度からとらえ、比較文化としての日本や日本人とはなにかについて考察していく。

学修内容

1	志賀重昂『日本風景論』：教科書 pp.5-19。日本に誇る日本の風景から日本文化を探求していく。
2	新渡戸稲造『武士道』：教科書 pp.19-34。「坂の上の雲」の時代に日本人によって英語で書かれた日本精神の本質、武士道を形成する精神とはなにかについて考察していく。
3	岡倉天心『茶の本』：教科書 pp.34-50。岡倉天心の英文三部作の一つであり、日本だけでなく海外においても注目された茶の本から、茶の背後にある日本人の美意識や一服の茶にみる虚について考察していく。
4	柳田国男『遠野物語』『山の人生』：教科書 pp.52-68。外国人となった日本人に呈する山神や山人の伝説について考察していく。
5	折口信夫『古代研究』：教科書 pp.68-85。国文学の発生から神話、伝説、祭といった視点から民俗学を論じていく。
6	柳宗悦『雑器の美』『美の法門』：教科書 pp.86-104。民衆的工芸の略称である「民芸」の語が生み出された後、他力信仰を支えとして民芸の理念を意義づけた柳美学を読み解く。
7	西田幾多郎『善の研究』ほか：教科書 pp.106-122。西田の根本思想である「純粋経験」について考察していく。
8	和辻哲郎『風土』：教科書 pp.122-135。風土から日本人の特性や日本文化の深層について考察していく。
9	九鬼周造『「いき」の構造』：教科書 pp.136-152。「いき」の概念を分析し、いきの背後を哲学的に思索していく。
10	谷崎潤一郎『陰翳礼讃』：教科書 pp.155-167。日本の伝統美や西洋人からみた東洋の神秘について考察していく。
11	川端康成『美しい日本の私』：教科書 pp.168-180。自然の背後や歌を通して表現された日本人の美意識を考察していく。
12	坂口安吾『日本文化私観』『堕落論』：教科書 pp.182-194。太宰治と並んで無頼派を代表する坂口の言う「堕落」とは何か、考察していく。
13	岡本太郎『縄文土器ー民族の生命力』：教科書 pp.195-206。縄文土器の特質から縄文文化について考察していく。
14	丸山真男『日本の思想』：教科書 pp.208-223。西洋の「ササラ型」と日本の「タコツボ型」の思想構造について考察していく。
15	土井健郎『「甘え」の構造』：教科書 pp.223-237。人間関係において相手の好意をあてにして振舞う「甘え」という日本的概念と健康的な甘えと病的な甘えという二面性などについて考察していく。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

教科書に紹介されている文献の中から任意の1冊を選び、その書籍を読んでその中に現れている日本の文化的特徴についてまとめる。

＜ポイント＞

教科書の関連内容も参考に、自分の意見も含めながらまとめていく。

選んだ書籍の出典（書籍名、著者名、翻訳者、出版社、出版年　等）を明記すること。

選択した書籍以外の文献やネット等の情報を参考にしたり引用したりする場合は、盗用はせず、必ず出典を明らかにし、レポート内に記載すること。

科目終了試験学修のポイント

1．明治時代の世界的な視野からみた伝統日本文化の独創性、美質、異義、位置づけについて説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.5-50 を振り返っておく。日本の風景、武士道、茶の湯について考えてみる。具体的な内容を含めながらまとめていくこと。

2．庶民の日々の暮らしの中の文化について、具体的な例を挙げながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.52-104 を振り返っておく。民俗学とは何か、民族の中の美について考えてみる。具体的な例とともに、自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

3．明治から昭和にかけて影響を及ぼした個性的な日本固有の哲学を1つ挙げ、説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.106-152 を振り返っておく。「善」や「いき」について考えてみる。自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

4．文人日本論について、彼らの作品に触れながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.154-180 を振り返っておく。文人の作品と彼らの文化論について考えてみる。自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

5．戦後批判された伝統日本文化について説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.182-206 を振り返っておく。堕落、縄文文化について考えてみる。具体的な例とともに、自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

6．西欧近代文化と伝統的な日本文化の違いを説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.208-237 を振り返っておく。日本の思想、甘えについて考えてみる。具体的な例とともに、自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

教科書

大久保喬樹 著『日本文化論の系譜－『武士道』から『「甘え」の構造』まで』中央公論新書。

参考文献

関東学院大学国際文化学部比較文化学科 編『比較文化事典』明石書店。

科目コード	比較文化学演習（２単位）	登録年次	履修方法
9270		３年	ＳＲ
教員名	内藤伊都子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

比較文化とは、他文化を通して自文化を客観的にみつめ、それぞれの文化がもつ固有性や共通性をみていく学問領域である。文化を比較するといっても各文化のもつ背景は一様ではないため単純に比較することはできないが、比較は物事の本質や性質を認識するための方法の一つである。

本講座では、複数の文献が取り上げられている比較文化の入門書をテキストとして使用する。比較文化とはなにか、日本文化とはなにかについて概観し、日本人論などに関する具体的な文献を取り上げながら、他文化との関係や相対的にみた文化について考察していく。

学修内容

1	比較文化とはなにか、文化とはなにか：教科書 pp.3-21。文化を定義することの難しさや外国からみた日本像について探求する。
2	「甘え」の構造：教科書 pp.25-28，日本人はなぜ無宗教なのか：pp.63-66，日本という方法：教科書 pp.67-69。日本人の甘えや宗教観、日本文化のあいまいさなどから日本文化の背景について考察する。
3	日本人論の方程式：教科書 pp.29-32，「日本人論」再考：教科書 pp.33-36，内なる外国：教科書 pp.45-48。従来の日本人論や日本人論のあり方について概観しながら、比較文化としての日本人論について考察する。
4	日本人の美意識：教科書 pp.37-40，日本人とユダヤ人：教科書 pp.41-44，大人の国イギリスと子どもの国日本：教科書 pp.49-53，イギリス人の日本観：教科書 pp.54-58。外国人からみた、外国人の考え方との比較から分析した日本文化について考察する。
5	日本文化の古層：教科書 pp.73-76，日本文化の形成：教科書 pp.77-80，日本文化の多様性：教科書 pp.81-84。過去と現在をつなぐ日本の基層文化について自然環境の観点から探求する。
6	日本人の「あの世」観：教科書 pp.85-88，日本人の世界観：教科書 pp.89-92，共生と循環のコスモロジー：教科書 pp.101-104。日本人のモノの観方、世界観や宇宙論の観点から日本人のアイデンティティを考察する。
7	神話と日本人の心：教科書 pp.93-96，中空構造日本の深層：教科書 pp.97-100，ラフカディオ・ハーンの日本：教科書 pp.117-119。神話や物語の観点から日本人の心の深層を探る。
8	文明論之概略：教科書 pp.123-126，代表的日本人：教科書 pp.127-131，新編 日本の面影：教科書 pp.137-141。近代化とともに失われた日本文化の精神性を見直す視点から日本文化について考察していく。
9	日本の思想：教科書 pp.149-152，翻訳と日本の近代：教科書 pp.153-155，日本文明と近代西洋：教科書 pp.156-160。開国や近代化によって日本が得たものと失ったものはなにか、変容していく日本文化について考察していく。
10	菊と刀：教科書 pp.167-170，構造・親和・労働：教科書 pp.171-174。日米の行動様式とその意味を比較対象とした視点と、人類学の３つの段階における異文化理解の方法の視点から比較文化の方法を考察していく。
11	解釈人類学と反＝反相対主義：教科書 pp.175-178，文化人類学入門：教科書 pp.179-181。文化相対主義やフィールドワークなどの文化人類学の視点から比較文化の方法を考察していく。
12	文明の誕生：教科書 pp.187-190，カルチュラル・スタディーズ：教科書 pp.199-202。文明とサブカルチャーの発展段階という視点から比較文化の方法を考察する。
13	文明の生態史論：教科書 pp.191-194，複眼の比較文化：教科書 pp.195-198。自国の中から自文化と異文化の双方に目を向けて比較すると同時に異国にあって自文化と異文化を比較し直す比較文化の方法について考察する。
14	文明の衝突と 21 世紀の日本：教科書 pp.205-208。国際社会における日本の立場や位置を問うことから比較文化について考察していく。
15	多文化主義社会の到来：教科書 pp.209-212。グローバリゼーションや多文化共生社会といわれる現代の文化観について考察していく。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

教科書に紹介されている文献の中から任意の1冊を選び、その書籍を読んでその中に現れている日本の文化的特徴を他文化と比較しながらまとめる。

＜ポイント＞

教科書の関連内容も参考に、具体的な事例や自分の意見も含めながらまとめていく。

選んだ書籍の出典（書籍名、著者名、翻訳者、出版社、出版年　等）を明記すること。

選択した書籍以外の文献やネット等の情報を参考にしたり引用したりする場合は、盗用はせず、必ず出典を明らかにし、レポート内に記載すること。

科目終了試験学修のポイント

1．比較文化とはなにかについて具体的な例をあげながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.3-21 を中心に多岐に渡って振り返っておく。文化とはなにか、比較するとはどういうことか考えてみる。具体的な例とともに、自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

2．日本人論とはなにかについて具体的な例をあげながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.25-69 を中心に振り返っておく。日本文化の背景にあるものや海外や外国人からみた日本人像または日本文化について考えてみる。具体的な例とともに、自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

3．日本のアイデンティティとはなにかについて具体的な例をあげながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.71-119 を振り返っておく。自然環境やコスモロジー、神話・物語などの基層文化から考えてみる。具体的な例とともに、自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

4．開国や近代化によって日本文化はどのように変容していったか具体的な例をあげながら述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.121-164 を振り返っておく。近代化によって日本が得たものと失ったものはなにかついて考えてみる。具体的な例とともに、自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

5．比較文化の方法について具体的な例をあげながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.165-202 を振り返っておく。文化を比較するとはどういうことか考えてみる。具体的な例とともに、自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

6．　多文化共生社会における日本文化の存在をどのように考えるか具体的な事例をあげながら自身の考えを述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.203-260 を中心に振り返っておく。具体的な例とともに、なぜそのように考えるか理由も含めて自分の考えや意見をまとめていくこと。

教科書

池田雅之・滝沢雅彦 編著『比較文化のすすめ』成文堂、2012。

参考文献

教科書の中に紹介されている文献。

関東学院大学国際文化学部比較文化学科 編『比較文化事典』明石書店、2015。

科目コード	東アジアの中の日本文化（２単位）	登録年次	履修方法
9160		２年	R
教員名	内藤伊都子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

従来、日本の文化はアメリカやヨーロッパと比較され、その差異に目を向けられることが多かった。一方、東アジア諸国と日本は、古くからの交流の歴史において、人々の移動やそれにともなう文化の影響など、相互的共通性を有しているものの、一様というわけではない。

本講座では、中国や韓国と日本の文化について、文化背景を探りながら比較したり文化的特徴を見出したりしていく。日本文化や日本人の文化的行動との共通性や類似性とともに、日本との関係性や欧米との対比では見過ごされてしまいがちな差異などについて考察していく。

学修内容

1	中国人の宗教：教科書 pp.9-48。「家」という中国文化の側面について、農の信仰や「天」の観念、天子や仁、家の機能などから考察していく。
2	孔子と儒教の教え：教科書 pp.48-71。日本や韓国にも共通する儒教的な考え方の背景や「孝」、君子の条件などについて探求していく。
3	中国人の精神構造：教科書 pp.79-110。大を好んだり世間を避けたりする思考や家族の存在、中国社会の構造などの側面から中国人の生き方について考察していく。
4	中華意識と中国文化：教科書 pp.110-138。「中国は天の真下、世界の中央にある。世界は中国を中心に回っている」という意識をもつようになった中国文化の背景について考察していく。
5	言語と文化：教科書 pp.145-168。文化の一部でもある言語と思考の間には密接な関係がある。漢字圏としての共通性もある日本語や韓国語とも比較しながら、言葉から中国人の思考について探求していく。
6	文字と漢字：教科書 pp.168-190。日本語にも関連する漢字について、その成り立ちや他民族の文字との比較などから歴史的に振り返り、背景となる文化について考察していく。
7	ハングルと韓国文化：教科書 pp.196-205。ハングルの意味やハングルを通した韓国人の世界観について概観していく。
8	韓国文化の志向性：教科書 pp.206-218。 韓国がハングルを表記の手段とした背景や言語の語族の視点から韓国語が韓国文化にどのように関係するかについて考察していく。
9	「ウリ」意識と韓国社会：教科書 pp.218-236。我々を意味するウリという概念、私という個人と同時に私たちを意識する韓国人の意識構造と韓国社会について探求していく。
10	「ヤンバン」と韓国人：教科書 pp.236-248。両班という支配階層の歴史的背景と韓国社会に与えた影響、儒教と韓国文化の関係について考察していく。
11	サムライと日本人：教科書 pp.253-263。日本人の生き方や価値観の理解、中国からの文化的影響とともに日本で形成された固有文化などについて考察していく。
12	日本人と宗教：教科書 pp.262-283。日本人の心の深層や精神構造、美意識、神への畏敬と感謝の気持ちなどから日本文化を探求していく。
13	日本人と神道：教科書 pp.276-287。日本人の自然や生活に根ざした神々への信仰や日本人にとっての仏教などから日本文化を探求していく。
14	日本社会の構造と文化：教科書 pp.283-287。社会構造の曖昧さや権力の中心の分散化などの特徴から日本文化を考察していく。
15	日本語と日本文化：教科書 pp.287-306。日本語の中にみる日本文化を中国語や韓国語との比較などからその特徴について考察していく。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

日中韓の文化的関係および日本文化の特徴について中韓と比較しながら述べよ。

＜ポイント＞

教科書の各テーマの中で扱われている日中韓の比較的な部分を抜き出しながら日本との文化的関係や日本文化の特徴をまとめていくこと。

教科書以外の書籍文献やネット等の情報を参考にしたり引用したりする場合は、盗用はせず、必ず出典（書籍名、編著者名、出版社、出版年、URL　等）を明らかにし、レポート内に記載すること。

科目終了試験学修のポイント

1．中国における儒教の考え方と日本や韓国への影響について説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.48-71 を振り返っておく。「孝」や君子について考えてみる。具体的な例をあげながら自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

2．漢字の成り立ちと中国社会における漢字の意味について説明せよ。

＜ポイント＞

教科書の第3章を振り返っておく。具体的な例をあげ日本語や日本文化への影響についても含めること。また、自分の考えや意見もあわせてまとめていくこと。

3．中国の文化的特徴について、日本や韓国の文化と比較しながら述べよ。

＜ポイント＞

教科書の第1章と第2章を中心に振り返っておく。農の信仰や「天」の観念、家の機能や存在、中華意識などについて考えてみる。具体的な例をあげながら自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

4．韓国の文化的特徴について、日本や中国の文化と比較しながら述べよ。

＜ポイント＞

教科書の第4章を中心に振り返っておく。ハングルやウリ、ヤンバンについて考えてみる。具体的な例をあげながら自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

5．日中韓の文化的差異について具体的な例をあげながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書の各テーマの中で扱われている日中韓の比較的な部分を振り返っておく。具体例とともに自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

6．日中韓における文化の共通性について具体的な例をあげながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書の各テーマの中で扱われている日中韓の比較的な部分を振り返っておく。具体例とともに自分の考えや意見も含めながらまとめていくこと。

教科書

李相哲 著『東アジアのアイデンティティー日中韓はここが違う』凱風社、2012。

参考文献

王敏 編著『東アジアの中の日本文化』三和書籍、2013。

科目コード	ヒューマンメディア（２単位）	登録年次	履修方法
7840		２年	R
教員名	加藤由樹、竹内俊彦		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

人間は感覚器官を通じて外界から情報を入力し、知覚・認識をすることで外界の現象を捉え、それに対する出力を行っている。本科目では、主に視覚と聴覚についてそのしくみや特性について言及し、その理解を通して人間の身体特性がどのようにメディア技術やデザイン、作業環境に活かされているのかを考える。また、ヒューマン・インタフェースの観点から、人が使いやすいデザインやその評価について考える。

学修内容

1	人間工学について 教科書 pp.1-6 を読み、人間工学について理解する。人間の特性を対象とする学問はいくつかあるが、人間工学は人の心理生理的側面だけでなく、使いやすさや安全性、疲労の軽減、経済性などを扱う学際的な学問である。情報通信やマルチメディアにおいても、人間を中心とした設計や考え方が重要であることを学修する。
2	人間の感覚とそのしくみ１ 教科書 pp.7-15 を読み、生体情報の基礎となる感覚について理解する。人は生体内外の状況変化を検出し、それをうまく対処する能力を有している。ここでは生体の情報処理過程における感覚について、その一般的特性を学修する。
3	人間の感覚とそのしくみ２ 教科書 pp.15-23 を読み、視覚、聴覚、平衡感覚などの五感に関する基本事項について理解する。生体はいくつかの種類の刺激に対応して分化した受容器をもっている。ここでは、外界から多くの情報を得ている視覚系の構成、眼球の構造や機能を中心に、感覚特性について学修する。
4	人の形態と運動機能１ 教科書 pp.24-35 を読み、人体寸法を考慮した設計について理解する。生活空間や作業空間、機器、道具など、人と関わりがある物の設計を考える上で、人の形態や寸法、運動機能などを十分に考慮することが重要である。人体寸法の考え方やその測定法について学修する。
5	人の形態と運動機能２ 教科書 pp.35-48 を読み、筋力や作業姿勢、作業域について理解する。人が運動するのに必要となる筋肉について、筋収縮や筋力について学修する。また、日常生活における姿勢に関する基本事項や、作業姿勢と作業域について理解を深め、人の特性を考慮することの重要性を学ぶ。
6	人の評価技法１ 教科書 pp.49-57 を読み、作業による疲労について理解する。作業による疲労やストレスを軽減させ、作業環境の最適化を図ることは、快適さを実現するために重要である。ここでは疲労とは何かということの定義から疲労を生じさせる要因、疲労の評価法について学ぶ。
7	人の評価技法２ 教科書 pp.57-68 を読み、生体反応の測定法について理解する。生体情報の客観的な評価法について、心拍数や呼吸数、フリッカー値、脳波、筋電図などについて学ぶ。
8	人の評価技法３ 教科書 pp.68-78 を読み、主観的評価法および作業評価法について理解する。疲労などの生体反応を評価する際に生理的反応も重要であるが、いかなる動作や作業も人が介在する以上、最終的には人の主観的判断も重要となる。さらに、眼球運動による評価法についても学ぶ。
9	人・時間・速度と作業能１ 教科書 pp.79-88 を読み、体力とサーカディアンリズムについて理解する。ここでの体力とは、人間の生存および活動の基礎をなす身体的ならびに精神的能力と定義され、一般的に用いる体力よりも広い範囲の概念を含んでいる。筋力の他、視力や聴力などについて学ぶ。
10	人・時間・速度と作業能２ 教科書 pp.89-102 を読み、身体特性に関する性差、高齢者、障害者について理解する。性差による体力や生理的機能の違いから、作業環境について学修する。また、高齢者や障害者の身体的機能特性について学び、作業環境に関する理解を深める。
11	人と作業環境 教科書 pp.103-128 を読み、身体特性の観点から作業環境について理解する。ここでは、人間の生理的・心理的側面から作業環境について考える。温度や気圧、加速度、大気汚染など大きな枠組みで作業環境に関する理解を深める。

12	マン・マシンシステムの設計 教科書 pp.129-139 を読み、人と機械とのインタフェースについて理解する。人間の感覚や情報処理、動作の生理・心理的特性に合わせた設計をするために重要となるヒューマン・インタフェースについて学ぶ。日常生活にも関わりが大きい情報端末におけるインタフェースについては特に重要である。
13	人の適性・訓練と作業 教科書 pp.140-155 を読み、身体適性と作業について理解する。人により様々な身体特性を有している。作業環境への適性という観点から理解を深める。また、心理適性の面から知能や性格、モチベーションについて、さらには、それらの検査や学習について学ぶ。
14	人と作業安全 教科書 pp.156-167 を読み、安全人間工学の観点からヒューマンエラーについて理解する。作業現場における各種の事故の多くは、設計や設置、操作などの各段階での人的過失、すなわちヒューマンエラーだと言われている。ここでは、事故防止や安全管理などについて学ぶ。
15	産業人間工学 教科書 pp.168-185 を読み、VDT 作業環境やテクノストレスなどについて理解する。近年、職場に限らず、家庭や学校などにおいてもパソコンや電子機器をよく用いる。ここでは、そうした VDT 作業環境における健康問題などについて理解を深める。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

人間の生体機能特性を活かした、使いやすいもの（例えば、パソコンのキーボードや椅子など）を取り上げて、どのような特性が考慮されていて、どのようにデザインされているのかを論じよ。さらに、あなたが考える使いやすいデザインについて、アイデアを提案せよ。

＜ポイント＞

身の回りのものにも多くのヒントがある。教科書で学んだ身体特性の観点からそれらを見てみると良い。

科目終了試験学修のポイント

1．人間への情報の入力と出力について

＜ポイント＞

ものが見えるとはどういうことなのか、音が聞こえるとはどういうことなのかを考えると良い。

2．眼光学について

＜ポイント＞

目の構造と機能を理解することで、ものが見える仕組みを学修する。

3．視覚心理について

＜ポイント＞

錯視などを実際に体験して、見るとはどういうことなのかを考えると良い。なお、インターネットで検索をして多くの錯視を見てみると良い。

4．聴覚について

＜ポイント＞

基本特性について学修した上で、カクテルパーティ効果などのような日常生活と関わりがあることを学ぶと良い。

5．人間工学について

＜ポイント＞

人間の特性を考慮したデザインやヒューマン・インタフェースを理解する上で、人間工学がキーワードとなる。

6．生体信号による評価について

＜ポイント＞

教科書で学んだ身体特性や評価法が、日常生活においてどのように役立つのかを考えると良い。

教科書

大島正光、他『人間工学』朝倉書店。

参考文献

鈴木浩明『快適さを測る その心理・行動・生理的影響の評価』日本出版サービス。

※入学年度によって履修方法が異なりますので注意してください。

科目コード	表現（２単位）	登録年次	履修方法
1222/1223		１年	ＳＲ※
教員名	岡林純子、駒井美智子、仁藤喜久子、林麻由美、持田京子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

表現を様々な角度から考え、一般的な知識を深めると同時に領域「表現」の考え方の基本について学び、保育の現場において領域「表現」を基本とする指導方法、子どもの援助活動を実際どのように進めていったらよいか理論、実践によって考察し、保育現場で実践できる力を身につける。また音楽、絵画、演劇、ダンスなどの表現方法についての基礎知識を深めながら、保育や福祉の現場等でこれらの表現を使った援助活動を実際どのように進めていったら良いのかを演習形式で学ぶ。

学修内容

1	日常生活における我々の「表現」や我が国の「表現」を様々な角度から考察し、自分なりの視点を持つ ・我が国独自の言語、造形、音楽、舞踊、運動などの表現文化について調べる。 ・日本人独特の表現や、人とのかかわり方などを考える。
2	保育内容「表現」の歴史的変遷について調べまとめる ・我が国の幼稚園や保育園では、今までどのように「表現」を考えて、保育をしてきたか。その移り変わりを調べる。
3	領域「表現」のねらいと内容の意味を理解する ・現在の幼稚園教育要領・保育所保育指針における、領域「表現」の考え方はどのようなことか。領域「表現」のねらいと内容をよく読み、その考え方を理解する。
4	乳幼児の発達と「表現」の考え方について理解する ・乳幼児の「表現」の発達をどのように考えたらよいか。子ども自身が「表現」を意味づけ「表現」を広げて発達していく「表現する過程」を見る重要性を考察する。
5	子どもの豊かな感性と表現を育む環境と、現代の社会環境がもたらす子どもへの影響を考える ・子どもの豊かな感性を育む環境とはどのような環境であるか、様々な園環境を調べてみる。また、子どもの「表現」を阻む現代社会の問題にはどのようなものがあるか考える。
6	諸感覚を通しての感性と表現について、五感に働きかける重要性を理解する ・五感はどのような働きをするか。子どもの五感を育てる環境とその実践の在り方を考え、まとめる。
7	生命に対する感性と表現について、豊かな感性を育む意味を考察する ・生命に対する感性を磨き、その表現をすることが、子どもにとってどのようなことであるか。また動植物が子どもに果たす役割も同時に考え、まとめる。
8	音・音楽に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する ・保育現場で、子どもが豊かな音や音楽を経験するためにはどのような指導方法があるか。多くの指導方法を調べて、実践できるようにする。
9	造形に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する ・保育現場で、子どもが豊かな造形活動を経験するためにはどのような指導方法があるか。多くの指導方法を調べて、実践できるようにする。
10	保育現場における保育者の表現の実践例を調べる ・保育者が保育現場で実践できる手遊び、ダンス、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター、おはなし、劇などを調べ、実際に自分でできるよう様々な種類を練習する。
11	表現を育てる保育者の役割について考察する① ・子ども自身が直接的な経験の実感をするには、日々の生活の中でどのような環境設定と指導が必要か。具体的な指導方法を一つ上げ、その方法と留意点を考察する。
12	表現を育てる保育者の役割について考察する② 子どもたちが楽しみながら表現技術を身に付けるには、日々の生活の中でどのような指導が求められるか。 道具（身体も含む）を使った具体的な表現技術の指導方法を一つ上げ、その方法と留意点を考察する。
13	領域「表現」のねらいや内容を参考に、「表現」を育む指導案を立案する ・領域「表現」のねらいや内容を参考に、指導案を自分なりに「(環境構成)「子どもの動き」「保育者の援助」を考えて作成してみる。（導入やまとめ、片づけなども入れて１時間程度）
14	保育者の表現を育む意味を考察する ・なぜ保育者自身が自らの「表現」を育むことが求められるのか、その理由を考える。また、自分の「表現」を育むためにできることを考える。
15	保育内容「表現」のこれまでと今後の課題について考察する ・保育内容「表現」の学びを振り返った上で、今後、保育者が考えるべき課題についてまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　表現を育てる保育者の役割について、テキストの内容を参考に自分の考えを述べよ。

＜ポイント＞

領域「表現」のこれまでとこれからをまとめること。それをもとに、現代社会で必要となる、保育者の具体的な役割や指導方法などのアイデアを自分なりにまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．日常生活のなかの私たちの表現について

＜ポイント＞

表現は特別の活動に限定されるものでなく、日々の保育の中の普通の行為であることに留意する。

2．領域「表現」の意味について

＜ポイント＞

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の領域「表現」のねらいと内容を、よく読み理解することが必要である。

3．乳幼児の「表現」と発達について

＜ポイント＞

保育において乳幼児の「表現」とその発達をどのような視点から見ることが必要かを理解する。

4．表現を育てる保育者の役割について

＜ポイント＞

領域「表現」の考え方を基に具体的に自分の言葉で考察する。

5．領域「表現」のこれまでとこれからについて

＜ポイント＞

これまでの「表現」の指導とその結果起きた問題点も含め、今後の保育現場で求められる「表現」の指導を考察する。

6．保育者自身の感性を磨くためにはどうしたらよいか

＜ポイント＞

保育者自身も自分の身体を知り表現すること、さらに幼児の表現にかかわる文化をどのように学び伝えるかを具体的に考察する。

教科書

小林紀子・砂上史子・刑部育子 『新しい保育講座　保育内容「表現」』 ミネルヴァ書房。

参考文献

井口佳子『幼児期を考える―ある園の生活より―』相川書房。

萩原元昭『幼児の保育と教育』学文社。

※入学年度によって履修方法が異なりますので注意してください。

科目コード	表現（２単位）	登録年次	履修方法
1220/1221		１年	S※
教員名	岡林純子、駒井美智子、林麻由美、持田京子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

表現を様々な角度から考え、一般的な知識を深めると同時に領域「表現」の考え方の基本について学び、保育の現場において領域「表現」を基本とする指導方法、子どもの援助活動を実際どのように進めていったらよいか理論、実践によって考察し、保育現場で実践できる力を身につける。また音楽、絵画、演劇、ダンスなどの表現方法についての基礎知識を深めながら、保育や福祉の現場等でこれらの表現を使った援助活動を実際どのように進めていったら良いのかを演習形式で学ぶ。

学修内容

1	日常生活における我々の「表現」や我が国の「表現」を様々な角度から考察し、自分なりの視点を持つ ・我が国独自の言語、造形、音楽、舞踊、運動などの表現文化について調べる。 ・日本人独特の表現や、人とのかかわり方などを考える。
2	保育内容「表現」の歴史的変遷について調べまとめる ・我が国の幼稚園や保育園では、今までどのように「表現」を考えて、保育をしてきたか。その移り変わりを調べる。
3	領域「表現」のねらいと内容の意味を理解する ・現在の幼稚園教育要領・保育所保育指針における、領域「表現」の考え方はどのようなことか。領域「表現」のねらいと内容をよく読み、その考え方を理解する。
4	乳幼児の発達と「表現」の考え方について理解する ・乳幼児の「表現」の発達をどのように考えたらよいか。子ども自身が「表現」を意味づけ「表現」を広げて発達していく「表現する過程」を見る重要性を考察する。
5	子どもの豊かな感性と表現を育む環境と、現代の社会環境がもたらす子どもへの影響を考える ・子どもの豊かな感性を育む環境とはどのような環境であるか、様々な園環境を調べてみる。また、子どもの「表現」を阻む現代社会の問題にはどのようなものがあるか考える。
6	諸感覚を通しての感性と表現について、五感に働きかける重要性を理解する ・五感はどのような働きをするか。子どもの五感を育てる環境とその実践の在り方を考え、まとめる。
7	生命に対する感性と表現について、豊かな感性を育む意味を考察する ・生命に対する感性を磨き、その表現をすることが、子どもにとってどのようなことであるか。また動植物が子どもに果たす役割も同時に考え、まとめる。
8	音・音楽に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する ・保育現場で、子どもが豊かな音や音楽を経験するためにはどのような指導方法があるか。多くの指導方法を調べて、実践できるようにする。
9	造形に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する ・保育現場で、子どもが豊かな造形活動を経験するためにはどのような指導方法があるか。多くの指導方法を調べて、実践できるようにする。
10	保育現場における保育者の表現の実践例を調べる ・保育者が保育現場で実践できる手遊び、ダンス、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター、おはなし、劇などを調べ、実際に自分でできるよう様々な種類を練習する。
11	表現を育てる保育者の役割について考察する① ・子ども自身が直接的な経験の実感をするには、日々の生活の中でどのような環境設定と指導が必要か。具体的な指導方法を一つ上げ、その方法と留意点を考察する。
12	表現を育てる保育者の役割について考察する② 子どもたちが楽しみながら表現技術を身に付けるには、日々の生活の中でどのような指導が求められるか。 道具（身体も含む）を使った具体的な表現技術の指導方法を一つ上げ、その方法と留意点を考察する。
13	領域「表現」のねらいや内容を参考に、「表現」を育む指導案を立案する ・領域「表現」のねらいや内容を参考に、指導案を自分なりに「(環境構成)「子どもの動き」「保育者の援助」を考えて作成してみる。（導入やまとめ、片づけなども入れて１時間程度）
14	保育者の表現を育む意味を考察する ・なぜ保育者自身が自らの「表現」を育むことが求められるのか、その理由を考える。また、自分の「表現」を育むためにできることを考える。
15	保育内容「表現」のこれまでと今後の課題について考察する ・保育内容「表現」の学びを振り返った上で、今後、保育者が考えるべき課題についてまとめる。

教科書

小林紀子・砂上史子・刑部育子 『新しい保育講座　保育内容「表現」』 ミネルヴァ書房。

参考文献

熊木眞見子『創造的に取り組む身体表現』音楽之友社。
小林美実、他『新・幼稚園教育要領準拠　領域「表現」』同文書院。

科目コード	病原微生物学 （2単位）	登録年次	履修方法
6050		1年/2年	R
教員名	石本強、手塚和美、橋本由利子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

人類はその歴史が始まって以来、数々の感染症と闘ってきた。その後、自然科学の進歩とともに抗生物質や予防ワクチンが開発され、公衆衛生や栄養状態の改善等とあいまって、先進諸国では感染症はほぼ制圧できたと思われてきた。ところが、近年になり新興・再興感染症の広がりや薬剤耐性菌による院内感染など、微生物の逆襲ともいえる事態が多発している。また、開発途上国では依然として感染症は大きな健康問題である。このような世界情勢の中で病原微生物学を学ぶ意義は非常に大きい。ここでは微生物とは何かという基礎から感染症の予防対策まで幅広く学ぶ。

学修内容

1	イントロダクション：病原体と感染症 人の歴史の中で登場した代表的な感染症とその影響について理解する。病原体、感染、感染症の基本概念について学ぶ。
2	微生物の種類：細菌、ウイルス、真菌、原虫 病原微生物として、ウイルス、細菌（原核生物）、真菌・原虫（真核生物）を分類し、それぞれの特徴を理解する。病原体を異常プリオンなどのたんぱく質にまで広げて学ぶ。感染症法の対象となる感染症の類型についても学ぶ。
3	細菌の構造と性質、抗菌薬の作用機序 細菌を形状、好酸性・好塩基性、好気性・嫌気性、グラム染色による染色性などの性質から分類するとともに、ヒト細胞の類似点・相違点を理解する。抗菌薬（抗生物質や化学療法薬）の分類と作用機序をもとに、抗菌スペクトルと副作用について学ぶ。
4	ウイルスの構造と性質、抗ウイルス薬の作用機序 ウイルスを構造、核酸塩基の形態から分類する。ウイルスの宿主への侵入、増殖、宿主からの遊離過程から、抗ウイルス薬の作用機序を理解する。
5	真菌・原虫、感染性たんぱく質の特徴 ヒト細胞と同じ真核細胞である真菌・原虫の構造と増殖の特徴、および治療薬について副作用を考慮して理解する。異常プリオンなどの感染性たんぱく質の感染部位は神経系であることを理解する。
6	感染症の三大成立要因：感染源、感染経路、個人の感受性 感染症が成立する要因に、病原体の存在（感染源）、病原体が移動する経路の存在（水平感染、垂直感染）、個人の感受性の三大要因があることをもとに、感染症のリスク因子を考察する。
7	感染症対策①：感染源への対策、感染症流行の情報提供 病原体の存在する場所、およびそれに対する消毒・滅菌処置について、病原体の特性をふまえて考察する。さらに、感染症流行に関する情報提供方法と問題点を学ぶ。
8	感染症対策②：感染経路への対策 病原体の移動経路（空気感染、経口感染、接触感染など）について理解し、日常生活の中における行動を含めた感染症の予防対策を考える。
9	感染症対策③：個人の感受性への対策 病原体の侵入を受けても、ヒトは免疫力によって増殖を阻止することができ、感染症の発症に至らない場合が少なくない。免疫力低下を起こしやすい状況、免疫力増強の方法などについて考察する。
10	感染症と免疫：自然免疫、獲得免疫、ワクチン接種 病原体に対する抵抗力として、生得的な自然免疫（マクロファージ、顆粒球など）と、後天的な獲得免疫（リンパ球、B細胞による抗体形成）の機序を理解する。さらに、ワクチン接種と抗体形成の機序について学ぶ。
11	新興感染症と再興感染症 新たに出現した感染症（新興感染症）、過去に流行して収束したものが再度拡大した感染症（再興感染症）の原因と対策について学ぶ。
12	日和見感染症と院内感染 病原性が低く、健常者では発症に至らない病原体であっても、入院患者や高齢者のように免疫力の低下状態にある人では日和見感染症が起こりうる。日和見感染症や院内感染を起こしやすい状況、代表的な病原体、および防止策について考える。
13	耐性菌の特徴と出現機序 抗菌薬に抵抗性を獲得した耐性菌は院内感染の原因となりうる。抗菌薬の作用機序と細菌の耐性獲得機序との関連を理解し、耐性菌を出現させない薬剤の使用方法を考察する。

14	HIV 感染とエイズ HIV はリンパ球に侵入して破壊し、免疫力を低下させる。その結果、各種感染症やがんリスクの高まった状態がエイズである。HIV 感染症とエイズに至る過程を理解する。HIV、エイズの治療薬についても学ぶ。
15	日常生活における感染症の予防策 人は農耕牧畜・定住・集団生活を開始した結果、感染症の脅威を受けるようになった。しかし、感染症対策も向上させた。感染症とその対策について、現状と未来像を考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 感染症の予防策について述べよ。

＜ポイント＞

医学が発達した現代においても、人の生存にとって感染症の予防が重要な課題であることを理解し、その対策について、病原体（感染源）に対する対策、感染経路に対する対策、個人の感受性に対する対策、感染症予防に関する情報の提供と教育、さらにはそれらの実践に分けて考えること。わが国における感染症対策に関する主な法律についても述べる。

科目終了試験学修のポイント

１．病原微生物とその感染経路について

＜ポイント＞

感染症が成立するためには、病原微生物の供給源、感染経路、個人の高感受性の３要素が同時に存在する必要がある。感染症流行の予防対策を念頭において、病原微生物の水平および垂直感染経路について考察する。

２．細菌とウィルスの違いについて

＜ポイント＞

細菌は独立したエネルギー代謝と増殖を行う生命体であるが、ウイルスは細胞に寄生してのみ存在と増殖が可能な半生命体である。抗菌薬と抗ウイルス薬の違いも踏まえて、両者の特徴について考察する。

３．滅菌方法・消毒方法について

＜ポイント＞

感染症流行への対策として、病原微生物の死滅や増殖抑制の処置が重要である。その目的のためにどのような方法が行われているのか、効果の特徴と限界について考察する。

４．院内感染について

＜ポイント＞

入院患者は免疫力の低下を伴っている場合が多いので、健常人に対しては毒性の低い病原菌であっても発症してしまう可能性がある。院内感染の原因菌にはどのようなものがあるか、また院内感染の予防策について考察する。

５．HIV 感染とエイズについて

＜ポイント＞

HIV による免疫力低下で発症する様々な感染症やガンリスクの上昇などを総称してエイズという。HIV 感染症とエイズについて定義し、また HIV 感染の予防、エイズの発症予防・治療について考察する。

６．耐性菌について

＜ポイント＞

抗菌薬の多用により、その効果に対する耐性を形成した病原微生物が増加している。代表的な耐性菌と、その発生の原因について、さらには耐性菌出現の予防策について考察する。

教科書

南嶋洋一、他『系統看護学講座　専門基礎６　微生物学』医学書院。

参考文献

東匡伸、他『シンプル微生物学』南江堂。

田爪正氣、『新・感染と微生物の教科書』研成社。

科目コード	病弱教育Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
6320		３年	R
教員名	工藤傑史、須藤典征、西脇雅彦、泉二奈緒美		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

病虚弱者を指導する学校は、県立の子ども病院の児童病棟等に併設している場合が多く、入院加療を必要とする児童生徒の病態やその実態も多様化している。本科目では、病弱教育の教育課程や教育内容（自立活動の内容を含む）を中心に、知的障害教育、肢体不自由教育の教育内容についても学んでいく。また、病虚弱者に対する教科学習のあり方や、病気の理解、生活管理に関連する指導、病院内学級から原籍校への復帰に向けた段階を追った取り組みなどについて、事例を交えながら病弱教育の現状と課題について理解を深めていく。

学修内容

1	病弱児の理解 病弱児に自身の病気を理解させていくことは支援を進める上で極めて重要である。近年では、血液・リンパ系の疾患などでも本人の年齢などに応じて、病気の概要や予後を理解させることが推奨されている。保護者との連携のあり方を合わせて学んでいくことが必要である。
2	病弱児の教育１ 重症心身障害児施設などに併設する病院では、重複障害を併せ持つ子どもへの支援が行われている。重複障害のある子どもへの指導の実際、訪問教育の取り組みなどを包括的に学ぶ。
3	病弱児の教育２ 病弱教育では、原籍校から入院を契機に在籍を移すことなどから、学習空白が生じたり経験不足になったりしがちな面がある。そのため、これらを補っていくことが大きな課題といえる。教材・教具の活用を含めて、社会経験を促していく取り組みを学んでいく。
4	病弱教育における自立活動の指導１ 病弱教育の対象となる子どもは、肢体不自由児、重複障害児、心因性の疾患のある子どもなど多岐にわたっている。その意味で、指導時間は限られるが、個々人の特性に応じた自立活動の指導を展開することは極めて重要であり、その理解が必要となる。
5	病弱教育における自立活動の指導２ 病弱教育において、自身の病気を理解させていくことは大切である。筋ジストロフィーなど、徐々に退行していく病気であれば、本人や保護者の心情、希望などに配慮しながら病気の理解を促す取り組みが課題となる。ケースに応じた自立活動、特に「心理的安定」の区分に関する内容を学ぶ。
6	病弱教育における重複障害児の指導１ 個別の指導計画を作成する上で、重複障害児の実態を的確に把握することは欠かせない。心身の健康の状態やコミュニケーションのスキルなど、児童生徒の良さを生かすための実態把握の手だてを学ぶ。
7	病弱教育における重複障害児の指導２ 重複障害児の場合、ほとんどの教育内容が自立活動となることも稀ではない。適切な姿勢（ポジショニング）の保持や身体への働きかけなど、「身体の動き」の区分などに配慮しながら、適切な個別の指導計画を作成し、指導を進めることが大切である。
8	病弱教育における重複障害児の指導３ 重複障害児の指導において、日常の健康面やバイタルサイン（体温や呼吸状態など）を把握することは重要である。その意味では、医療（医師）や看護サイド（看護師）との連携のあり方を学ぶ必要がある。
9	病弱教育におけるマルチメディアの活用１ 病院内で過ごす子どもたちにとって、かつて在籍していた前籍校との交流を進めることは重要な意味を持つ。インターネットを利用したWebでの発信、メールのやりとりなど、交流教育の実情を学ぶ。
10	病弱教育におけるマルチメディアの活用２ マルチメディアの活用では、ホームページなどを上手く活用していくことで、病弱特別支援学校同士の交流なども進められている。他校との交流は、同じ境遇にいる子どもたち同士がお互いを励まし合うことや、心理的な安定を促すことにも通じていく。
11	病弱教育におけるマルチメディアの活用３ テレビ会議システムを利用した交流などが、病弱教育では古くから進められてきた。前籍校や他校との交流などの実情を学ぶ。

12	教育と医療との連携１ 　病院内であっても、ベッドから移動できない子どものためのベッドサイド学習や退院後のフォローアップを進める上で、医療・看護サイドとの連携は欠かせない。病弱教育における医教連携の実情を学ぶ。
13	教育と医療との連携２ 　病弱特別支援学校では、病院内に入院している児童生徒だけでなく、地域から通学してくる子どもも受け入れている。医療と教育の連携システムなどについて理解を深めることが大切である。
14	教育と医療との連携３ 　多くの病弱特別支援学校では、月に１回程度の病院と学校とのカンファレンスが設けられている。そうした連携の体制を協力して作り上げることは重要である。連携体制の構築などの実例をしっかりと学んでいく。
15	教育福祉のシステム 　病弱特別支援学校では、入院加療や手術等で１か月以上の入院が必要となる場合、在籍を移す措置が取られている。そのため、就学の手続きや転学の手続きなどの実際を学んでいく必要がある。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 病弱教育において重複障害児の指導を進める上での配慮点についてまとめよ。

＜ポイント＞

教科書（病弱教育Ｑ＆Ａ）第２章７「重複障害児の指導」の内容を熟読し、病院や施設等に入所・通所している重複障害児の実態把握の観点、指導計画作成のポイント、コミュニケーション能力を高める工夫、摂食指導や学習環境の整備、重複障害児の指導を進める上での配慮点についてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１．病弱・身体虚弱児における病気の理解の指導について

＜ポイント＞

病気のある子が自身の病気を自己管理していくには、まず、その病気の種類や症状を的確に理解することが重要となる。年齢や病類に留意し、医療サイドと連携を取りながら、自身の病気を理解させていく指導について理解を深めてもらいたい。

２．病弱教育におけるマルチメディア活用の意義について

＜ポイント＞

原籍校や他の病弱学校等と交流を行うためのマルチメディア活用（TV 電話等）の意義について、理解を深めてもらいたい。

３．前籍校との連携（入・退院時や実態把握のための連携など）について

＜ポイント＞

入退院の際に、スムーズな移行を進めるための前籍校との連携の意義や、具体的な方法等についてよく学修してもらいたい。

４．病院における医療と教育の連携のポイントについて

＜ポイント＞

校内での行事等をスムーズに進める意味でも医療スタッフとの連携は欠かせない。実践事例などを参考に、病弱教育における医療と教育の連携のポイントについてよく学修してもらいたい。

５．病弱教育における教材・教具の工夫について

＜ポイント＞

病弱特別支援学校には、さまざまな病気や障害のある子ども達が学んでいる。その子に応じた教材・教具を創意工夫して、教育効果を高めていくことは重要である。

６．ベッドサイド授業について

＜ポイント＞

病弱特別支援学校の教育の一形態である「ベッドサイド授業」について、実践事例などを参考によく学修してもらいたい。

教科書

全国病弱養護学校長会 『病弱教育Ｑ＆Ａ PART Ⅰ』 ジアース教育新社。

文部科学省 『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』 海文堂出版。

文部科学省 『特別支援学校 高等部学習指導要領』 海文堂出版。

参考文献

昇地勝人、他『障害特性の理解と発達援助』ナカニシヤ出版。

全国病弱養護学校長会『病弱教育Ｑ＆Ａ PARTⅤ』ジアース教育新社。

科目コード	病弱教育Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
6330		３年	R
教員名	須藤典征、立松英子、西脇雅彦、泉二奈緒美		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

近年、病虚弱者を指導する学校では、内臓疾患などの病状から長期の入院加療を必要とする児童生徒とともに、心因性の情緒障害を示す児童生徒の増加が認められている。また、重症心身障害児施設を併設する子ども病院では、濃厚な医療的ケアが不可欠な児童生徒が少なくない。本科目では、様々な病弱教育の場や「病弱児」の実態を踏まえながら、個に応じた支援のための、実態把握、指導計画の作成、授業方法など、教師として必要な実践的スキルを学んでいく。

学修内容

1	病弱教育で教科指導を進める上での基本やポイント 特別支援学校学習指導要領、同解説(総則等編)を熟読し、病弱者である児童生徒を教育する特別支援学校で各教科を指導する際の配慮事項を確認する。 各都道府県で公開している個別の指導計画の書式をダウンロードし、その目的や書き方を理解する。 例：山口県教育委員会 https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/181/26568.html Key word：特別支援学校の各教科、特別支援学校学習指導要領、個別の指導計画
2	教科指導における評価 絶対評価と相対評価、個人内評価の違いを調べる。 国立教育政策研究所の資料（http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html）などを参考に、評価規準の作成の仕方を学ぶ。 実態把握から評価までの手順を知る。 Key word：絶対評価、相対評価、個人内評価、評価基準、評価規準、アカウンタビリティ(説明責任)
3	病弱教育において自立活動を効果的に行うための留意点 特別支援学校学習指導要領解説(自立活動編)を熟読し、自立活動とは何かを理解する。 教科書を参考に、個別の指導計画作成上の留意点を学ぶ。 Key word：自立活動　6区分、個別の指導計画
4	総合的な学習の時間の評価の在り方 長期にわたる入院が必要な子どもにおける総合的な学習の時間の意義や効果についてまとめる。 Key word：総合的な学習の時間、情報機器の活用、国際理解学習、病棟行事の企画
5	指導要録を記入する際のポイントや留意点 小学校指導要録（https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/attach/1415204.htm）を参考に、指導要録の記入の仕方を学ぶ。 Key word：指導要録、重複障害者等の特例　学校教育法施行規則第131条
6	情報機器を活用する意義とモラルについて 病弱教育においては、情報機器の活用により体験的学習の不足を補い学習効果を高めようとすることが多い。 前籍校などとの共同学習やテレビ会議などを実施する際の留意点を学ぶ。 Key word：情報機器、身体活動の制限、知的所有権の尊重、個人情報の保護
7	職業教育とキャリア教育 職業教育とキャリア教育の違いを調べる。 学習指導要領の改訂の要点に「職業教育の充実」があることの背景を調べる。 病気をもって大人になる(キャリーオーバー)場合の就労を指導する際の留意点を調べる。 Key word：職業教育、キャリア教育、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力
8	「心の病」のある子どもへの教科指導の留意点 独立法人国立特別支援教育総合研究所の冊子「病気の子どもの理解のために(第２巻)」 （https://www.nise.go.jp/portal/elearn/shiryou/byoujyaku/supportbooklet.html）などを参考に、心の病についての理解に努める。 Key word：不登校、いじめ、長期欠席、摂食障害、行為障害、思春期うつ
9	高等部における学校設定教科の在り方 「特色ある教育課程の編成」とは何か、学習指導要領解説などを参考に学ぶ。 全国にどのような事例があるか、webなどで調べておく。 Key word：学校設定教科
10	小学部の指導：小学部の学習指導案を書いてみる。
11	中学部の指導：中学部の学習指導案を書いてみる。
12	高等部の指導：高等部の学習指導案を書いてみる。
13	重複障害の指導：重複障害の学習指導案を書いてみる。
14	道徳・特別活動の指導：道徳・特別活動の学習指導案を書いてみる。
15	まとめ （病弱教育における個別の指導計画の作成や病気の理解に関する自立活動の指導などが実際にできるかどうか自分なりにシミュレーションしてみる。）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 小児慢性特定疾患の一つを取り上げ、その病態の特徴と治療方法、および学校教育における配慮事項についてまとめよ。

＜ポイント＞

病虚弱児の治療や教育の場はさまざまであり、病気の経過によってその子どもの居場所が違ってくるのが現状である。ある疾患をもつ子どもが、病院併設の特別支援学校、院内学級、通常の学級などどこで教育を受けるかによっても配慮事項は異なる。関心のある疾患と事例を想定して述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．病虚弱児の位置づけ、および教育の形態や方法について

＜ポイント＞

「病虚弱」は一般的な用語であって特別な定義はない。しかし、学校教育法施行令第22条の3では、知的障害、視覚障害など6種類の障害区分の中で、「病弱者」についての定義が存在する。学校教育法施行令第22条の3は、インターネットで検索できる。なんのための法令かも調べておくこと。

2．医療の専門家チームや保護者との連携について

＜ポイント＞

医療現場では、医者や看護師のほかに「コメディカルスタッフ」と呼ばれる様々な専門家が、子どもの治療と生活をサポートしている。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士などがどのような役割を果たしているか、調べること。
また、病気の子どもの保護者の特別な心理とはどのようなものか調べること。

3．教科指導や評価の基本について

＜ポイント＞

学習指導要領解説（総則等編）には、病弱者への教育を行う特別支援学校における各教科の指導における基本的事項や訪問教育における指導の工夫が書かれている。長期の入院・加療が必要な子どもにどのような配慮が必要かまとめる。評価は、個別の指導計画に基づき、どのような評価を行っているだろうか。

4．重複障害児への対応について

＜ポイント＞

濃厚な医療的ケアを必要とする重症心身障害児に対する教育は、常に医療サイドとの密接な連携を保ちながら行われる。

また、最近では、介護保険法等の一部を改正する法律により、平成24年度から特別支援学校の教員も、一定の研修のもとに痰の吸引等の医療的ケアを実施することが制度上可能となった。文部科学省が「特別支援学校等における医療的ケアへの今後の対応について」（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/087/houkoku/1314048.htm）を出しているので、熟読しておくこと。

5．指導計画等作成の実際（実態把握、目標・内容の設定等）について

＜ポイント＞

各都道府県で、個別の指導計画や個別の教育支援計画の解説やひな型をwebに公開している。

特に病弱児への個別の指導計画については、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の「病気の子どもの理解のために　第1巻」（https://www.nise.go.jp/portal/elearn/shiryou/byoujyaku/supportbooklet.html）で提供されている。

6．授業づくりの実際について

＜ポイント＞

教科書は、様々な授業について、指導案形式で内容が書かれている。どの指導例にもある「指導上の配慮事項」には、病弱教育ならではの配慮事項が書かれているのでアンダーラインをひいて熟読すること。

教科書

全国病弱養護学校長会編著『病弱教育Q＆A PARTⅠ』ジアース教育新社。
全国特別支援学校病弱教育校長会編著『病気の子どものための教育必携』ジアース教育新社。
文部科学省 『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』 海文堂出版。
文部科学省 『特別支援学校 高等部学習指導要領』 海文堂出版。

参考文献

障飯野順子『障害の重い子どもの授業づくり』ジアース教育新社。

科目コード	病弱教育総論（２単位）	登録年次	履修方法
6360		３年	R
教員名	工藤傑史、須藤典征		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目では、病弱教育を中心としながら、知的障害や肢体不自由を伴う児童生徒の支援のあり方について包括的に学んでいく。特に、病弱教育に関しては、その歴史的な経緯、病院内学級の実態、教師と医師・看護師・施設指導員などの多職種間の連携の必要性、学習進度の遅れに対する対応など、病弱教育が抱える現在の課題や今後の方向性について総合的に理解していく。また、コンピュータ等の情報機器の活用例やマルチメディア（テレビ電話等）を利用した学校事例から、院内学級において学習意欲を高める工夫や効果的な支援のあり方について検討する。

学修内容

1	病弱児の理解１ 病弱教育の対象となる疾患や身体虚弱との相違、どのような場所で病弱児の支援が行われているかなど、病弱教育に関する基本的な事項を総合的に学ぶ。
2	病弱児の理解２ 病弱教育の主な対象となる疾患や近年の入院児の傾向、小児慢性特定疾患についての理解を深めていく。
3	病弱児の教育１ 病弱教育では、留意すべき事項が幾つかある。例えば学習の遅れを補填することや心理的安定を図る工夫、病気の自己管理能力の育成、健康を回復するための取り組みなどが挙げられる。こうした病弱教育の実際や教育カリキュラムの特性などを総合的に学んでいく。
4	病弱児の教育２ 特別支援学校では、すべての児童生徒に対し、個別の指導計画を作成することが義務付けられている。こうした指導計画の作成の手だて、行事等の取り組み方、評価の方法などについて理解を深める。
5	病弱教育における教科指導１ 病弱教育の対象となる子どもたちは多様であるが、通常の学級の教育カリキュラムに「準ずる教育」が行われる場合が多い。教科指導を進めていく上での配慮事項、学習空白を理解した上での取り組みなど、多面的な視点で病弱教育の教科指導について学ぶ。
6	病弱教育における教科指導２ ベッドサイド学習など、授業時間に制約がある場合の教科指導の展開方法など、指導における留意点を理解することが大切である。
7	病弱教育における教科指導３ 近年は情報社会である。病弱教育においても様々な情報（IT）機器を利用した取り組みが進められている。そうした情報関連の活用手段や、使用する上での配慮事項、留意点などについて、幅広く学んでいく。
8	病弱教育における自立活動の指導１ 病弱教育における自立活動の目的や内容について包括的に学び、個々の実態に合わせた自立活動の指導を進めていくことが大切である。
9	病弱教育における自立活動の指導２ 自立活動は本来、個別に進めることが重視される。しかし、「人間関係の形成」の区分では、小集団での活動などを上手く利用していくことも必要となる。その意味で、一人ひとりのニーズに応じて、個別の指導計画を作成していくことは不可欠となる。自立活動の指導計画の実際などを実践的に学ぶことが望まれる。
10	病弱教育における自立活動の指導３ 自立活動の指導の目標設定にあたっては、個々の児童生徒の実態に基づき、学部や年齢、在籍する期間などを考慮して長期的な観点に立った目標の設定が望まれる。実際のケースなどを想定した目標設定の手だてを学ぶ。
11	病弱教育における自立活動の指導４ 自立活動の指導を進めるには、校内での指導体制を工夫することが大切である。個々のニーズに応じて、個別やグループなど、授業体制や形態を考えながら取り組んでいくことについて幅広く学ぶ。
12	病弱教育における自立活動の指導５ 自立活動の指導は、設定した時間の中で取り組む「時間における指導」と共に、各教科などと合わせて実施する場合もある。個々の児童生徒の実態を適切に把握し、自立活動の指導として何が必要かを検討し、指導計画を立てていくことが必要となる。そうした一連の手続きについて、実践例などを踏まえて理解していく。

13	病弱教育における総合的な学習の指導 病弱教育の対象となる子どもたちは、ある意味、一般の社会とは切り離された空間の中での生活を余儀なくされている。したがって、総合的な学習においては、できるだけ体験的な取り組みを行っていくことが重要となる。限られた空間、組織の中でどのような活動が取り入れられているのかを理解することが重要である。
14	病弱教育における重複障害児の指導 重複障害児の多くは、比較的長い年月を病院の中で過ごす場合が多い。その意味で、長期に入院する子どもを側面的に支えている保護者との連携は欠かせない。保護者会などの機会を通して、学校での取り組みなどを適切に伝えていくことが大切であり、関連する社会福祉施策を理解することも重要である。
15	教育福祉のシステム 特別支援学校では、地域のセンターとしての機能を果たすことが求められている。特別支援学校の教員として、様々な相談に応じていくスキルと合わせて、地域の実情や情報を集約し、発信していくことが必要となる。その意味で、教育や福祉施策の概要を理解していくことが重要である。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】病弱教育の対象者及びその教育的意義について解説し、教育課程編成上の留意点について述べよ。

＜ポイント＞

病弱教育（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導）の対象となる児童生徒の範囲、学習の遅れの補完、健康の回復・保持などの意義についてまとめること。また、特別支援学校において教育課程を編成する上での手順やその留意点について解説すること（病弱教育に関する単独の書籍は少ないが、障害児教育に関連する書籍の中に含まれているものが多い）。

科目終了試験学修のポイント

1．病弱・身体虚弱児の心理面（悩みや不安など）の特性について

＜ポイント＞

病気のある子ども、特にターミナル期にある子どもは多くの不安を抱えており、告知の問題を含めて慎重に対応することが重要となる。日々の病状により変化していく病気のある子どもの心理面の特性について、よく学修してもらいたい。

2．学習進度の遅れや学習空白の把握方法及び配慮事項について

＜ポイント＞

前籍校と密に連携を取りながら、個々の学習進度を的確に把握する方法や、配慮すべき事項（メンタル面でのケアーなど）等について理解を深めてもらいたい。

3．各教科の指導上の配慮事項について

＜ポイント＞

指導形態やメンバー構成、題材などを創意工夫するなどして、各教科の指導を進める上での配慮事項等について理解を深めてもらいたい。

4．病弱・身体虚弱児における自立活動の指導内容と展開の仕方について

＜ポイント＞

病弱教育における自立活動の意義を含め、個（又は集団）に応じた指導をどのように展開していくかについて、実践事例などを参考に理解を深めてもらいたい。

5．情報技術（IT）教育を行う際の留意事項について

＜ポイント＞

各教科や自立活動の指導の中で情報技術（IT）教育を行う際の留意点について、よく学修してもらいたい。

6．長期入院児の保護者との連携について

＜ポイント＞

病気の状態により長期入院する子どもの保護者との連携は、保護者の心のケアを含めて多くの課題が見受けられる。病院側と連携を取りながら、望ましい保護者対応のあり方について理解を深めて欲しい。

教科書

全国病弱養護学校長会『病弱教育Q＆A PART1』ジアース教育新社。

宮崎英憲・是枝喜代治『特別支援教育 個別の指導計画を生かした学習指導案づくり』明治図書。

参考文献

昇地勝人、他『障害特性の理解と発達援助第2版』ナカニシヤ出版。

科目コード	病弱者の心理・生理・病理（２単位）	登録年次	履修方法
6270		３年	R
教員名	工藤傑史、須藤典征、立松英子、西脇雅彦		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

病弱教育は、難治性の喘息などの呼吸器系疾患、ネフローゼ症候群などの慢性腎疾患、血友病や白血病などの血液・リンパ系疾患、筋ジストロフィーなどの神経疾患等の小児慢性疾患のみならず、重症心身障害や心の病によって長期の入院・治療を必要とする子ども等多様な子どもを対象としており、その多くは、教育と医療・福祉の連携が必須である。本科目では、医療サイドから学校を見ながら病気の子どもに対するトータルケアについて学ぶ。各疾患の病理のみならず、本人や家族の心理、学校教育で留意すべき看護の知識や教育上の配慮事項に加え、長期欠席に関係する不登校やいじめのメカニズムについても学ぶ。

学修内容

1	「病弱児」と小児慢性疾患 学校教育法施行令第 22 条の 3 には、「就学基準」として、特別支援学校の対象となる病弱者の定義が示されている。 厚生労働省「小児慢性特定疾患治療研究事業」では、治療が長期に及ぶ疾患として 11 疾患群 514 疾患が特定されている。 「小児慢性特定疾患」とは何か、どのような種類があるか、「小児慢性特定疾患治療研究事業」のサイトを通して学ぶ。 教科書「病気の子どもの心理社会的支援入門」p.246-249 や、国立特別支援教育総合研究所（NISE）の病弱教育のサイトにある「病気の子どもの理解のために」p.1-p.7 を参考に、病弱教育の特徴、意義、教育の場や形態について学ぶ。 Key words：病虚弱児、小児慢性特定疾患、学校教育法施行令第 22 条の 3、就学基準、病弱教育の場と形態
2	小児医療における心理社会的支援サービスの理念 教科書 p.1-p.8 を参考に、病気の子どもに対する心理社会的支援及びどのような職種が関わっているか等の概要を学ぶ。 Key words：心理社会的支援サービス、QOL、トータルケア、院内学級教師
3	小児慢性疾患と特別支援教育 慢性疾患を伴う子どもは学校と医療との間を行き来し、学習面でも心理面でも不安定な状態にある。「子どもの病気の理解のために パンフレット」p.10 を読んで、病気の子どもの不安について知る。 療養中の学習意欲低下や学習の空白を補うためにも、教師による支援が不可欠である。『特別支援学校学習指導要領解説(総則等編)』第 2 章第 5「病弱者である児童生徒に対する教育を行なう特別支援学校」(刊行物では pp.238-241、web サイトでは pp.243-246)を参考に、学校教育がどのようにして子どもの不安に応えているのか考える。 Key words：学習の空白、自立活動(健康の保持)、ICT の活用、過重負担
4	子どもの発達と病気の理解 教科書 p.9-p.24,p.72-p.73 を読んで、子どもとは何か、各発達段階でどのように病気を理解するか、その概要を知る。 Key words：発育の原則、発達の原動力、心身相関、認知機能、インフォームドコンセント(説明と同意)とアセント
5	各疾患に応じた子ども及び家族の心理の理解 教科書 p.24-39 や NISE のサイトにある「全国特別支援学校病弱教育校長会編 病類別の支援冊子」を読んで、各疾患における心理社会的問題と本人及び家族への心理社会的支援について学ぶ。 Key words：先天性心疾患、I 型糖尿病、小児がん、慢性腎疾患、血友病、喘息、てんかん
6	病気の子どものトータルケア 教科書 p.55-p.94、p.156-p.174 を読んで、慢性的な病気や障害を持ちながら生きていくとはどのようなことか、医療側からはどのように説明され、支援されるか、また子どもや家族の生活を支える社会福祉はどのようになっているかを学ぶ。 Key words：ICF、インフォームドコンセント(説明と同意)、アセント、社会的自立
7	キャリーオーバーの医療と教育 慢性疾患を抱えながら大人になることをキャリーオーバーという。キャリーオーバーの社会的自立には学齢期の教育が重要である。教科書 p.40-p.46,p.77-p.79 を読んで、キャリーオーバーの社会的自立について考える。 Key words：キャリーオーバー、社会的自立、職場準備、トータルケア
8	ターミナル期の医療と教育 死に向かう子どもにおいても、教育の役割は重要である。教科書 p.92-p.94、p.184-p.200、p.252-255 を読んで、死に向かう子どもの心理社会的支援（ターミナルケア）について考える。 Key words：ターミナルケア、グリーフケア(死後の家族のケア)、プロフェッショナルアティチュード
9	白血病にかかった子どもに対する教育的支援 白血病など、長期の療養を伴い、治療のために容貌の変化もある病気では、学校生活への移行において十分な配慮が必要である。NISE のサイトにある「病気の子どもの理解のために」には、白血病を例に挙げて病気の子どもの心理や支援のポイントが解説されている。それらを参考に、教師としての態度や配慮事項を考える。 Key words：白血病、プライバシーへの配慮、こころのケア
10	医療におけるリスクマネジメント 大病院には院内学級、特別支援学校の分校などが併設されており、医療チームは子どもの QOL を念頭に、学校教育に協力している。教科書 p. 263–p. 272 や以下のサイトを参考に、小児医療で起こりがちな医療事故やリスクマネジメントを学ぶ。 厚生労働省の関連サイト(http://www1.mhlw.go.jp/topics/sisin/tp1102-1_12.html) 医療従事者のための医療安全対策マニュアル(http://www.med.or.jp/anzen/manual/pdf/honbun.pdf) Key words：医療事故、リスクマネジメント、ヒヤリ・ハット

11	重症心身障害児の治療や教育の実態 重症心身障害児に対する教育は、常に医療サイドとの密接な連携を保ちながら行われる。介護保険法等の一部を改正する法律により、平成 24 年度から特別支援学校の教員も、一定の研修のもとに痰の吸引等の医療的ケアを実施することが可能となった（文部科学省のサイト「特別支援学校等における医療的ケアへの今後の対応について」、参考書「肢体不自由児、病弱・身体虚弱児教育のためのやさしい医学・生理学」 p.102-p.108 参照）。 教育においては、学校教育法施行規則第 131 条に重複障害児に対して特別な教育課程の実施が可能なことが、特別支援学校学習指導要領の第 1 章第 2 節第 5（学習指導要領解説総則等編 pp.214-223）には、重複障害者に関する教育課程の取り扱いと、特に必要な場合には自立活動を主とした指導ができることが示されている。 Key words：重症心身障害児、医療的ケア、経皮的酸素血中濃度測定、大島分類、重度・重複障害児、自立活動、訪問教育
12	医療と教育との連携 病気の子どもに対する教育活動では、食事療法やアレルゲンへの配慮、治療サイクルとの関係において、常に医療との連絡調整が必要であり、学校生活管理指導表の確認、個別の教育支援計画や年間行事計画の策定が必要になる。教科書 p.69、p.174−183、p.245−p.250 を読んで、個別の教育支援計画、年間行事計画の概要や教育活動を実施する上での配慮事項を知る。 Key words：学校生活管理指導表、個別の教育支援計画、年間行事計画、
13	発達障害と病弱教育 近年、身体的には問題がないが、発達障害を背景とした行動障害などにより入院し、病弱教育を受ける子どもが増加している。 教科書 p.69−p.71 や参考書「教師によるやさしい精神医学入門」によりその概要を知る、そのような児童生徒の心理的安定を図るために必要な知識を得ておくこと。 Key word：自閉スペクトラム症、PTSD、発達障害、発達障害者支援法
14	心の病について 医療ソーシャルワーカーは、しばしば保護者から学校不適応やいじめの問題の相談を受ける。また、病気がきっかけで不登校になる子どもは多いが、逆に不登校の背景に気づかれにくい病気が隠れていることもある。NISE のサイトにある「病気の子どもの理解のために」や「病弱教育支援冊子（こころの病編）」では、不登校などの背景にあるこころの病について詳説されている。
15	個人情報保護法と子どもの医療情報 病気で医療と関係する子どもの医療情報をどのように扱うか、個人情報保護法第 23 条、厚生労働省のガイドライン、教科書 p.119「守秘義務」を参考に、教師として個人情報を守ることにおける留意点を確認しておくこと。 Key words：個人情報保護法第 23 条 プライバシーの保護、守秘義務、学校生活管理指導表 医療との連携

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙(マス目)

【設題１】

「白血病」を例に、その症状、治療法、及び学校生活（院内学級、及び退院後に戻る地域の学校）における配慮事項をまとめよ。

＜ポイント＞

近年、小児の白血病の多くは治癒するようになったが、その治療過程は長く辛いものである。心理的にも不安定な生活を余儀なくされ、また、病気が軽快して地域の学校に復籍しても、さまざまなストレスから不登校に至るケースもある。この子どもたちへの看護の基礎知識、学校教育における配慮事項に関して学ぶことは、教育関係者にとっては必須である。

科目終了試験学修のポイント

１．子どもの慢性疾患の種類と治療形態、教育形態について
＜ポイント＞
厚生労働省で実施している「小児特定慢性疾患治療研究事業」における「小児慢性特定疾患」とは何か確認しておくこと。
また、主たる疾患の治療形態と教育の場について、教科書や「全国特別支援学校病弱教育校長会編　病類別の支援冊子」等の web サイトで確認しておくこと。

２．慢性疾患のある子どもや家族の心理について
＜ポイント＞
教科書 p.24-39 や「全国特別支援学校病弱教育校長会編　病類別の支援冊子」で具体的な状態を確認し、病気の子ども及び本人を支える両親や兄弟姉妹の心理について考えておくこと。

３．白血病など悪性新生物による疾患の症状と治療、学校生活での配慮事項について
＜ポイント＞
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所発行『病気の子どもの理解のために』白血病編
(http://www.nise.go.jp/portal/elearn/shiryou/byoujyaku/pdf/leukemia.pdf) には、白血病についての概要や学校生活での配慮事項が詳説されている。白血病は治る病気であるという認識、通常学級でのいじめの予防などがポイントである。

４．不登校やいじめの心理・生理・病理について
＜ポイント＞
不登校やいじめの定義を文部科学省のサイトから確認しておく。病気の子どもと不登校、いじめとの関係については、教科書 p.24-p.32 や、NISE のサイトにある「病気の子どもの理解のために」等を参考に、確認しておく。

５．医療と教育の連携について
＜ポイント＞
病院内での教育では、医療側の条件（治療計画や禁忌の食物等）を第一に尊重し、医師や医療スタッフとの密接な連携を保ちながら行なわれることに着目する。

６．重症心身障害児の治療や教育の実態について
＜ポイント＞
教育用語である「重度重複障害」と重なる概念だが、「重症心身障害」は医療用語である。その定義（大島分類による）を確認しておく。また、介護保険法等の一部を改正する法律により教師にも可能になった医療的ケアとそれを実施するための条件について、「特別支援学校等における医療的ケアへの今後の対応について」を熟読し、確認しておく。

教科書

谷川　弘治･駒松仁子･松浦和代･夏路瑞穂『病気の子どもの心理社会的支援入門』第２版 ナカニシヤ出版

参考文献

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所『病気の児童生徒への特別支援教育～病気の子どもの理解のために~』
「病弱教育支援冊子」 http://www.nise.go.jp/portal/elearn/shiryou/byoujyaku/pdf/supportbooklet_1.pdf
同「子どもの病気の理解のために パンフレット」http://www.nise.go.jp/portal/elearn/shiryou/byoujyaku/pdf/pamphlet_1.pdf
全国特別支援学校病弱教育校長会編 病類別の支援冊子 http://www.zentoku.jp/dantai/jyaku/index_book.html
学校教育法施行令の一部改正について(通知)http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1339311.htm
学校教育法施行令第二十二条の三に規定する就学基準(新旧対照表) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/003/002.htm
文部科学省『病気療養児に対する教育の充実について』http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1332049.htm
文部科学省『特別支援学校等における医療的ケアへの今後の対応について』http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/087/houkoku/1314048.htm
文部科学省『学校における医療的ケアの必要な児童生徒への対応について』
http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12200000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu/0000147112.pdf
文部科学省『不登校』http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302905.htm
文部科学省『いじめ』http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302904.htm
厚生労働省『小児慢性特定疾患治療研究事業』http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/boshi-hoken05/
厚生労働省『リスクマネジメントマニュアル作成指針』http://www1.mhlw.go.jp/topics/sisin/tp1102-1_12.html
厚生労働省の関連サイト(http://www1.mhlw.go.jp/topics/sisin/tp1102-1_12.html)
医療従事者のための医療安全対策マニュアル(http://www.med.or.jp/anzen/manual/pdf/honbun.pdf)
＊頻繁にインターネットを利用することが困難な方は、
・竹田一則『肢体不自由児、病弱・身体虚弱児教育のためのやさしい医学･生理学』ジアース教育新社
・原仁・杉山登志郎『入門　教師のためのやさしい精神医学入門』学習研究社
・全国特別支援学校病弱教育校長会編　病弱教育 Q&A　PART Ⅰ「病弱教育の道標」ジアース教育新社
を中心に、病弱教育 Q&A PARTⅢ「教科等指導編」　PARTⅤ「病弱教育の視点からの医学事典」等も参考に、学修してください。

科目コード	福祉科指導法／高校福祉科指導法（４単位）	登録年次	履修方法
4050/4051/4052		２年	ＳＲ
教員名	上田征三、小笠原眞紀、大門俊樹、姫野建二、山田哲史		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報の機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

これからの新しい時代の福祉の特徴は、誰もが多様な文化、多元的な価値観の人々と共生共存していく中で、互いにその個性を認めあい社会人としての義務と責任とを果たしつつ、皆がともに一回かぎりのかけがえのない人生を、強く明るく生きていく実感から始まる。

このような福祉のあり方を教育現場で授業していく筋道が最も明瞭に効果的に示されるような福祉科教員としての能力を養う。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	高校福祉科の設置経緯、高校福祉科の位置づけ、福祉科の各科目（現行９科目）、福祉科の目標と福祉科指導の要点の理解：平成 15 年から完全実施される高校の改訂学習指導要領に、教科「福祉」が位置づけられ、それに伴って高校福祉科の教員免許の試験や現職教員の認定講習が行われた。その経緯をふまえて、新学習指導要領『高等学校学習指導要領　福祉編』（平成 30 年）改訂の経緯と趣旨を理解する。高校福祉科の学習評価の考え方についても理解する。高校福祉科と大学で学ぶ社会福祉学との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	高校福祉科の設置経緯について、高校における福祉教育の歴史から確認する。平成 15 年開設時の教育課程と各科目（7 科目）について確認するとともに、平成 21 年から実施された新教育課程と各科目（9 科目）について理解する。その後、平成 30 年の改訂の経緯、趣旨について押さえ、福祉科全体の目標について理解する。高校福祉科の学習評価の考え方についても理解する。高校福祉科と大学で学ぶ社会福祉学との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	「社会福祉基礎」の理解：学習指導要領「社会福祉基礎」を参照し、社会福祉に関する基礎的な知識を習得し、社会福祉の意義や役割を理解する。また、人間の尊厳の認識を深め、社会福祉の向上を図る能力と態度について学ぶ。「社会福祉基礎」の学習評価の考え方についても理解する。「社会福祉基礎」と大学履修科目である「社会福祉原論」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	「社会福祉基礎」の理解を、学習指導要領をもとに行う。科目の目標についてよく理解した後、内容とその取り扱いについて学ぶ（社会福祉の理念と意義、人間関係とコミュニケーション、社会福祉思想の流れと福祉社会への展望、生活を支える社会保障制度）。「社会福祉基礎」の学習評価の考え方についても理解する。「社会福祉基礎」と大学履修科目である「社会福祉原論」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	「介護福祉基礎」の理解：学習指導要領「介護福祉基礎」を参照し、介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援などの介護の意義と役割を理解する。また、介護を適切に行う能力と態度につて学ぶ。「介護福祉基礎」の学習評価の考え方についても理解する。「介護福祉基礎」と大学履修科目である「介護概論」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	「介護福祉基礎」の理解を、学習指導要領をもとに行う。科目の目標についてよく理解した後、内容とその取り扱いについて学ぶ（介護の意義と役割、介護福祉の担い手、介護を必要とする人の理解と介護、介護における安全確保と危機管理）。「社会福祉基礎」と大学履修科目である「現代社会と福祉」との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。「介護福祉基礎」の学習評価の考え方についても理解する。「介護福祉基礎」と大学履修科目である「介護概論」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
4	「コミュニケーション技術」の理解：学習指導要領「コミュニケーション技術」を参照し、コミュニケーションに関する知識と技術について理解し、介護福祉援助活動で活用する態度と能力につて学ぶ。「コミュニケーション技術」の学習評価の考え方についても理解する。「コミュニケーション技術」と大学履修科目である「ソーシャルワーク演習」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	「コミュニケーション技術」の理解を、学習指導要領をもとに行う。科目の目標についてよく理解した後、内容とその取り扱いについて学ぶ（介護におけるコミュニケーション、サービス利用者や家族とのコミュニケーション）。「コミュニケーション技術」の学習評価の考え方についても理解する。「コミュニケーション技術」と大学履修科目である「ソーシャルワーク演習」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
5	「生活支援技術」の理解：学習指導要領「生活支援技術」を参照し、自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解し、基礎的な介護の知識と技術を習得する。また、さまざまな介護場面における安全に支援できる能力と態度について学ぶ。「生活支援技術」の学習評価の考え方についても理解する。「生活支援技術」と大学履修科目である「介護概論」、「ソーシャルワーク演習」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	「生活支援技術」の理解を、学習指導要領をもとに行う。科目の目標についてよく理解した後、内容とその取り扱いについて学ぶ（生活支援の理解、自立に向けた生活支援技術、終末期・緊急時の介護）。「生活支援技術」の学習評価の考え方についても理解する。「生活支援技術」と大学履修科目である「介護概論」、「ソーシャルワーク演習」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）

6	「介護過程」の理解：学習指導要領「介護過程」を参照し、人間としての尊厳の保持と自立生活支援の観点から介護課程の意義と役割を理解し、介護課程が展開できる能力と態度について学ぶ。「介護過程」の学習評価の考え方についても理解する。「介護過程」と大学履修科目である「介護概論」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	「介護過程」の理解を、学習指導要領をもとに行う。科目の目標についてよく理解した後、内容とその取り扱いについて学ぶ（介護過程の意義と役割、介護過程の展開、介護過程の実践的展開、介護過程とチームアプローチ）。「介護過程」の学習評価の考え方についても理解する。「介護過程」と大学履修科目である「介護概論」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	印刷授業及び面接授業（1時間）
7	「介護総合演習」の理解：学習指導要領「介護総合演習」を参照し、介護演習や事例研究などの学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図り、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を養うことに関して学ぶ。「介護総合演習」の学習評価の考え方についても理解する。「介護総合演習」と大学履修科目である「介護概論」、「ソーシャルワーク演習」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	「介護総合演習」の理解を、学習指導要領をもとに行う。科目の目標についてよく理解した後、内容とその取り扱いについて学ぶ（介護演習、事例研究、調査、研究）。「介護総合演習」の学習評価の考え方についても理解する。「介護総合演習」と大学履修科目である「介護概論」、「ソーシャルワーク演習」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	印刷授業及び面接授業（1時間）
8	「介護実習」の理解：学習指導要領「介護実習」を参照し、介護に関する体験的な学習を多様な介護の場において行い、適切かつ安全な介護ができる実践的な能力と態度を養うことに関して学ぶ。「介護実習」の学習評価の考え方についても理解する。「介護実習」と大学履修科目である「介護概論」、「ソーシャルワーク実習」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	「介護実習」の理解を、学習指導要領をもとに行う。科目の目標についてよく理解した後、内容とその取り扱いについて学ぶ（多様な介護の場における実習、個別ケアのための継続した実習）。「介護実習」の学習評価の考え方についても理解する。「介護実習」と大学履修科目である「介護概論」、「ソーシャルワーク実習」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	印刷授業及び面接授業（1時間）
9	「こころとからだの理解」の理解：学習指導要領「こころとからだの理解」を参照し、自立生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識を習得し、介護実践に適切に活用できる能力を養うことに関して学ぶ。「こころとからだの理解」の学習評価の考え方についても理解する。「こころとからだの理解」と大学履修科目である「医学概論」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	「こころとからだの理解」の理解を、学習指導要領をもとに行う。科目の目標についてよく理解した後、内容とその取り扱いについて学ぶ（こころとからだの基礎的理解、生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解、発達と老化の理解、認知症の理解、障害の理解）。「こころとからだの理解」の学習評価の考え方についても理解する。「こころとからだの理解」と大学履修科目である「医学概論」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	印刷授業及び面接授業（1時間）
10	「福祉情報活用」の理解：学習指導要領「福祉情報活用」を参照し、社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解し、情報活用に関する知識と技術を習得する。また、福祉の各分野で情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を養うことに関して学ぶ。「福祉情報活用」の学習評価の考え方についても理解する。「福祉情報活用」と大学履修科目である「情報処理演習」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	「福祉情報活用」の理解を、学習指導要領をもとに行う。科目の目標についてよく理解した後、内容とその取り扱いについて学ぶ（情報社会と福祉サービス、情報モラルとセキュリティ、情報機器と情報通信ネットワーク、情報サービスと情報機器の活用）。「福祉情報活用」の学習評価の考え方についても理解する。「福祉情報活用」と大学履修科目である「情報処理演習」等との関係を理解し、教材研究に活用することができるようにする。	印刷授業及び面接授業（1時間）
11	「学ぶ高校生への理解」1（生徒の福祉学習の人格的環境について）：広い観点から地域や学校、そして、高校生等の置かれている現状を理解し学校や教師の役割を理解する。具体的には、子どもの「発達の歪み」や「内面世界」について探りながら、現在の高校生をスケッチする。	効果的な福祉科指導を行うために、学ぶ高校生についての理解を深める。自身の高校時代も振り返りつつ、子ども・青年の「発達の歪み」や「孤独」から子ども・青年の内面世界を探りながら、現代の高校生についての理解を深める。	印刷授業及び面接授業（1時間）
12	「学ぶ高校生への理解」2（生徒への働きかけ、主体的に考えることへの支援）：「学ぶ高校生への理解」1の結果、「学びからの逃走」の背景である「寄る辺」「なぞり」などを理解し、その子たちが「自分を生きる」学びにつながる福祉教育について考える。	効果的な福祉科指導を行うために、学ぶ高校生についての理解を深める。フリーター志願者の増加や携帯コミュニケーションといった事象から、現代の高校生についての理解を深め、授業実践に生かしていく。	印刷授業及び面接授業（1時間）
13	福祉科指導の効果的在り方ー事例検討：効果的な授業のあり方について研究する。具体的には、体験から学ぶことが非常に効果があると思われるが、実際の授業もその視点から授業環境、授業スケジュール、教材、授業内容について検討する必要があることについて学ぶ。高校福祉科授業における学習評価の考え方についても理解する。	福祉科の特性を踏まえ、いくつかの学習指導案を例として取り上げ、どのような授業をするのが効果的かを考えていく。その際、生徒を主体とした授業展開ができるよう工夫をしていく。学習指導案例をもとに、授業を実施してみた後、その振り返りを通して、授業改善の視点を身につけていく。高校福祉科授業における学習評価の考え方についても理解する。	印刷授業及び面接授業（1時間）
14	指導案作成と手作り教材：学習指導要領「教育課程の編成と指導計画の作成」を参照し、指導案作成の手順を理解する。具体的には、資料などから実際の指導案を検討し、模擬授業を想定し指導案を作成する。また、教育課程から「めあて」を持った指導がいかに重要であるかを理解する。高校福祉科の学習評価の考え方についても理解する。	学習指導案作成の手順を学び、その後、授業で扱う単元を決め、学習指導案を作成してみる。わかりやすい指導案になっているかどうか、学生同士で相互添削をしあい、最終的に、教員からのコメントをもらい、今後に生かしていく。作成した学習指導案をもとに、授業を実施してみた後、その振り返りを通して、授業改善の視点を身につけていく。高校福祉科の学習評価の考え方についても理解する。	印刷授業及び面接授業（1時間）

15	社会福祉実習の考え方:福祉実現、心身の発達の理解、環境や社会変動、哲学・宗教・倫理的価値観について幅広く学修する。具体的には、実習先の利用者の声から真摯に学ぶことがいかに重要かを理解し、それをどのように高校生に伝えるかについて学ぶ。社会福祉実習における学習評価の考え方についても理解する。	実習の意義についてまず学んだ後、自己覚知、人権尊重、守秘義務、記録の重要性などを学び、社会福祉専門職としての職業観に結びつけていく。社会福祉実習における学習評価の考え方についても理解する。	印刷授業及び面接授業（1時間）
			面接授業：合計15時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の50%、参加態度・課題提出　総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点）　F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 福祉科指導の要点について述べよ。

＜ポイント＞

人生を充実させる福祉実現の意義とその多様な取り組み方、個々人の成長にともなう身体や心の発達、環境とその変化や社会変動の知識、さまざまな哲学宗教や倫理的価値観に関する理解、これらに関連して福祉科指導の方法と効果を中心に要点を考察すること。

【設題2】 福祉科指導の効果的なあり方について述べよ。

＜ポイント＞

教育活動は、人が人にはたらきかけることが基本である。福祉科指導の教員は自分自身が先ず以て生徒の福祉学習の人格的環境として対処することが大切である。そこから必要な知識や技術の教育が展開されることになる。それでは、さまざまな現実的条件のなかで、どのようにはたらきかけ、対処するのがよいか主体的に考えること。事例検討が役立つ。

科目終了試験学修のポイント

1．福祉の意義について

＜ポイント＞

高等学校学習指導要領（平成30年告示）「改訂の経緯と趣旨」「社会福祉基礎」、および、「福祉科指導法」（教職科目要説　中等教育編）参照

2．福祉実現の方法としての自助（セルフヘルプ）、共助について

＜ポイント＞

「福祉科指導法」（教職科目要説　中等教育編）参照

3．福祉実現の方法としての公助について

＜ポイント＞

「福祉科指-導法」（教職科目要説　中等教育編）参照

4．家庭や学校、職場などの地域社会の福祉資源について

＜ポイント＞

「福祉科指導法」（教職科目要説　中等教育編）参照

5．スーパービジョンについて

＜ポイント＞

「福祉科指導法」（教職科目要説　中等教育編）参照

6．新学習指導要領の展開と福祉科教育の意義について

＜ポイント＞

学習指導要領改訂の経緯と趣旨を理解する。

教科書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説　福祉編』海文堂出版。

参考文献

保住芳美編著『高等学校新学習指導要領の展開（福祉科編）』明治図書。

高等学校学習指導要領（平成30年告示　文部科学省）

科目コード	福祉行財政と福祉計画（２単位）	登録年次	履修方法
3130		３年	R
教員名	河野等、尹文九		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

現代の社会福祉サービスや支援は国が基本的な政策の方向を示すものの、市町村をベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民および事業者が参加して計画立案に基づいて実施することが求められている。

このことから、社会福祉の法制度の展開や福祉計画との関連や、国と地方自治体との関係、行政の仕組み、財政の仕組みについて、また、福祉計画の意義とその技法について学修するとともに福祉計画の事例を通して計画策定過程、技法を学修する。

学修内容

1	第１セクター（民間）と第２セクター（行政）の類似点と相違点について学修する。
2	福祉と制度 福祉を実現する主体と機能、社会福祉の捉え方、社会福祉と社会保障の違いについて学修する。 テキスト pp.2-10
3	福祉の法制度の展開 時代によって福祉と関連し、どのような制度ができ、時代別にどのような特徴があるのについて特に社会福祉における市場と行政の機能変化を中心に学修する。 テキスト pp.11-23
4	福祉計画の概要 社会福祉と計画の関係、福祉行政と福祉計画について学修する。 テキスト pp.24-31
5	行政の骨格と社会福祉の法制度 中央政府の役割と地方自治体の関係、そして社会福祉の法令を読むポイントについて学修する。 テキスト pp.34-43
6	福祉行政の組織（中央および地方政府を中心に） 福祉行政の役割や機能について中央と地方の組織に区分し、それぞれについて学修する。 テキスト pp.44-51
7	社会福祉基礎構造改革と特に福祉サービスの利用方式にはどのような方法があるのかについて学修する。 テキスト pp.54-60
8	国の財政と社会福祉 社会保障給付費とは、社会保障給付費の推移、社会保障関係費の動向などにについて学修する。 テキスト pp.62-68
9	地方自治団体の福祉財政 地方自治団体の行政と民生費の動向、民間と利用者負担について学修する。 テキスト pp.69-75
10	福祉行政の専門機関と専門職 福祉関連専門機関と専門職にはどのようなものがあるのかについて学修する。 テキスト pp.86-100
11	福祉計画の基本的視点 計画と計画化、目標と目的の違いやPDCAサイクル、福祉計画の概念や主体そして類型について学修する。 テキスト pp.116-133
12	福祉計画におけるニーズ把握 福祉計画作成の際市民のニーズ把握にはどのような方法があるのか、また、それはなぜ重要なのかについて学修する。 テキスト pp.134-141
13	福祉計画における評価 評価の方法とその重要性について学修する。 テキスト pp.142-148
14	福祉計画の事例研究の視点と種類 福祉計画の種類とその内容について重要なポイントを中心に学修する。 テキスト pp.158-163
15	住民参加 福祉計画における住民参加の方法となぜそれが重要なのか。 テキスト pp.149-155

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 福祉計画と福祉行財政について述べよ。

＜ポイント＞

福祉計画とは何か、福祉計画が登場した背景や日本の福祉行財政の特徴や今後の課題について考察すること。

地方自治体の財政が厳しい状況のなか、福祉計画とどう整合させていくかについても論及するとよい。

科目終了試験学修のポイント

1．福祉の法制度の展開について

＜ポイント＞

福祉法制度は時代によってその理念から内容が変わってきたが、その理由と時代ごとの特徴について理解する。

2．福祉行政の組織について

＜ポイント＞

国家と地方間の福祉行政を担当している組織にはどのようなものがあり、また、国家と地方政府の関連性について理解する。

3．地方自治体の財政と民生費の動向について

＜ポイント＞

民生費の動向を理解し、重要な特徴を理解する。

4．福祉行政の専門機関及び地域の相談機関について

＜ポイント＞

専門機関の種類と専門職の役割について理解する。

5．福祉計画について

＜ポイント＞

なぜ福世計画が重要になってきたのか、また、福祉計画にはどのようなものがあるのかなどについて理解する。

6．福祉計画における住民参加の方法について

＜ポイント＞

住民参加がなぜ重要であるのか、また、住民参加の方法にはどのようなものがあるのかについて理解する。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座10　福祉行財政と福祉計画』中央法規。

参考文献

宇山勝儀『新しい社会福祉の法と行政』光生館。

科目コード	福祉事業所経営管理論Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
6690		３年	R
教員名	牧坂浩之		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

現在、わが国では介護保険事業、障害者自立支援事業において、福祉サービスの利用者による事業所選択および事業者と利用者の利用計画の仕組みが実施され、必要経費は利用者の負担金と行政による利用料補助額によって賄われている。また、社会福祉法人、営利法人（株式会社等）及びNPO法人等の多様な民間組織も参入が認められ、福祉サービスの提供主体が多元化し、主体的管理運営がもとめられている。そのため、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、福祉サービスの供給体制の整備および充実を図ることが必要とされる。すなわち、社会福祉事業の公共性と事業主体のあり方が問われる状態にある。

そのために、適正、効果的な事業所経営のためには、施設長をはじめとする管理者、相談援助活動に専門的に従事する社会福祉士等は、福祉事業所やサービス提供に関する経営管理の組織構造、効率的なサービス供給と運営の実際等経営論についての基礎知識も身に着けることが必要である。

本講座では、一般的知識の習得を図り、「福祉事業所経営管理論Ⅱ」への橋渡しを行う。

学修内容

1	社会福祉事業の意義と経営構造
2	社会福祉事業の歴史
3	社会福祉事業をめぐる関連法制度
4	社会福祉事業の経営と管理
5	社会福祉事業の組織管理
6	社会福祉サービスの人事管理
7	社会福祉事業の労務管理
8	社会福祉事業の財務・会計管理
9	社会福祉事業の建物・設備管理
10	社会福祉事業のサービス管理
11	社会福祉事業の情報管理
12	社会福祉事業の危機・安全管理
13	社会福祉事業の戦略管理
14	社会福祉事業の経営とステークホルダーマネジメント
15	総まとめ

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】福祉事業における経営課題を1つ挙げ、その解決方法について自身の考えを述べよ。

＜ポイント＞

福祉事業における経営課題を1つ挙げ、問題となっている課題内容を説明し、どうすればそれが解決できるか、考えるところを述べよ。

テキストで学んだ内容の中から、自分が最も重要だと考えたテーマについてまとめ、何が課題として議論されているのかを整理してみよう。

科目終了試験学修のポイント

1．社会福祉事業経営におけるフィードバック

＜ポイント＞

事業遂行状況を評価する3つの視点を理解した上で、その評価結果を踏まえて、経営の見直しと経営方針の再策定へのサイクル（PDCAサイクル）について考える。

2． ホーソン実験

＜ポイント＞

伝統的管理論においては経済的条件や物理的環境によってモチベーションが変化すると考えられていた。しかし、ホーソン実験により、モチベーションや労働効率は人間関係により大きく影響を受けることが明らかとなった。このホーソン実験の結果、組織管理において、どのような点が中止されるようになったのかを考えて下さい。

3．ボランティア・マネジメント

＜ポイント＞

社会福祉事業においては、常勤スタッフだけではなく、ボランティアスタッフの存在が特徴的である。ボランティアの募集・受け入れ態勢の構築、ボランティアを人材として育成する意義等について考えることが、一般的な人事管理と異なり重要性が高い。

4． 社会福祉事業における会計の役割と資金調達

＜ポイント＞

会計は、事業体を取り巻く種々の利害関係者の利害を調整し、事業経営者の業績評価のために利用されてきた。福祉事業に関しては、その公的な性格から施設運営費等に係る資金使途が制限されてきたが、近年の社会福祉制度改革により、施設運営費に係る制限が大幅に緩和される一方、資金不足に対する公的補助が削減される可能性が高まっている。このような時代背景を踏まえ、社会福祉事業における会計の役割を確認する必要性が高まっている。

5． 社会福祉事業における安全管理と事故責任

＜ポイント＞

社会福祉事業に限らず、サービスを提供するに際しては、契約内容を遵守することが当然に求められ、遵守できなければ損害賠償義務を負っている。特に、社会福祉施設におけるサービス提供は、その対象者が社会的弱者である場合が高く、その内容は、高度な安全配慮義務（善管注意義務）が課されていることに注意する。

6． 社会福祉事業における差別化・ブランド化

＜ポイント＞

社会福祉事業経営を自立化・透明化・効率化する必要性が高いのは、利用者のためにもつぶしてはならない社会的意義を有する事業だからである。しかし、他者との比較優位を有さないビジネスは淘汰されるのも必然である。そのための戦略として差別化・ブランド化が挙げられる意味を考える。

教科書

宇山勝儀、小林理編『社会福祉事業経営論』光生館 2011。

科目コード	福祉事業所経営管理論Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
6700		３年	ＳＲ
教員名	牧坂浩之		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

現在、わが国では介護保険事業、障害者自立支援事業において、福祉サービスの利用者による事業所選択および事業者と利用者の利用計画の仕組みが実施され、必要経費は利用者の負担金と行政による利用料補助額によって賄われている。また、社会福祉法人、営利法人（株式会社等）及びＮＰＯ法人等の多様な民間組織も参入が認められ、福祉サービスの提供主体が多元化し、主体的管理運営がもとめられている。そのため、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、福祉サービスの供給体制の整備および充実を図ることが必要とされる。すなわち、社会福祉事業の公共性と事業主体のあり方が問われる状態にある。

そのために、適正、効果的な事業所経営のためには、施設長をはじめとする管理者、相談援助活動に専門的に従事する社会福祉士等は、福祉事業所やサービス提供に関する経営管理の組織構造、効率的なサービス供給と運営の実際等経営論についての基礎知識も身に着けることが必要である。

本講座では、「福祉事業所経営管理論Ⅰ」で学習した知識を前提として、演習として福祉事業所の経営・管理の実務的側面に焦点を当て実践的問題を扱う。

学修内容

1	社会福祉法人と社会福祉施設
2	社会福祉施設経営管理の基礎
3	実践事例１　SWOT 分析に基づく環境特性分析と中期経営計画策定
4	社会福祉施設のサービス管理
5	実践事例２　ISO の取り組み
6	実践事例３　リスクマネジメントの取り組み
7	実践事例４　苦情解決の取り組み～第三者委員と介護オンブズマン～
8	社会福祉法人・施設の人事・労務管理
9	実践事例５　人事管理・人材育成の取り組み
10	社会福祉施設の会計管理と財務管理
11	実践事例６　管理会計と財務分析の事例
12	社会福祉施設の情報管理
13	実践事例７　社会福祉法人の公益通報制度の取り組み
14	実践事例８　広報活動の実際
15	社会福祉施設の施設整備管理と福祉用具

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】8つある実践事例のうちから1つをまとめ、自己の事例に置き換え、改善すべき点を指摘した上で、自身の考える改善案を述べよ。

改善提案を

＜ポイント＞

実務経験がない場合には自分が施設管理者の立場だとした場合を想定すること。

改善すべき点を指摘し、なぜ改善すべきなのかを明示しつつ、改善提案をすること。

テキストで学んだことを自分に置き換えて考えなければ、実践的な解決思考は生まれないので、自分の問題として考えるように心がけること。

科目終了試験学修のポイント

1．SWOT分析

＜ポイント＞

自社の経営戦略を立てる上で、自社の強みと弱みを理解しておくことが重要である。そのための手法であるSWOT分析の内容を理解し、その活用法を考える。

2． マーケティングにおける4P

＜ポイント＞

マーケティングの究極の目的は「売り込まなくてもおのずと売れるようにすること」である。そのための要素としての製品、販売チャネル、プロモーション、価格という4つの要素を理解し、福祉事業における活用を考える。

3．社会福祉事業におけるリスクマネジメント

＜ポイント＞

社会福祉事業が措置制度から契約制度に移行したことを受け、苦情や訴訟に対するリスク対応の必要性が高まっている。リスク対応のための体制作り事故発生時の対応準備、再発防止への取り組みについて考える。

4． 職員研修のあり方

＜ポイント＞

人材育成のための職場研修には、OJT、Off-JT、SDSの3つの形態がある。現場におけるサポートを実施する社会福事業においては現場における体験を通じたOJTが重視されがちであるが、福祉人材のキャリアパス（特に資格取得）を考える上では、職務外研修であるOff-JTや自己啓発援助制度としてのSDSの重要性が高い。

5． 社会福祉事業における情報管理

＜ポイント＞

個人情報保護法施行に伴い、あらゆる業界で取得した個人情報の管理責任が問われるようになっている。プライバシー情報とは、個人の私生活に関する、みだりに人に知られたくない情報のことであるから、社会福祉事業者にはその従事者を含めて守秘義務が課されている。ＩＴ技術の発展により、いったん流出した情報を完全に回収することが不可能な時代だからなおのことである。

しかし、社会にとって重要な情報が隠されたままでは、社会的な利益の実現を図ることはできないから、例えば、企業不祥事等を知りえた者が、一定の公益的な情報を他者に通報した場合に、その者が不利益を被らないように保護する必要も出てきている。

6． 社会福祉施設の整備

＜ポイント＞

社会福祉施設を安心して利用できるようにするためにも、施設自体及び施設内の設備の安全性の確保、危機管理体制の構築が重要になる。また、福祉用具の活用も考慮すべき課題となっている。

教科書

浦野正男編『社会福祉施設経営管理論』全国社会福祉協議会。

科目コード	福祉心理学（２単位）	登録年次	履修方法
3740		３年	R
教員名	中里克治、若松直樹		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

福祉では、支援を必要とする人々を対象として支援を行う。かつては児童が中心であったが、青年期、中年期、高齢期と生涯発達の視野の中で、その援助が考えられるようになった。福祉現場で生じる問題及びその背景、福祉現場での心理社会的課題及び必要な支援方法、特に虐待、認知症に関する必要な支援方法について学ぶ。

学修内容

1	福祉分野における心理支援
2	福祉の歴史と現在の福祉施策の概要
3	総論：生活を支える心理支援
4	暴力被害者への心理支援
5	高齢者への心理支援
6	障害・疾病のある人への心理支援
7	生活困窮者への心理支援
8	児童虐待に関する心理支援の実際
9	子どもと親への心理支援の実際
10	認知症高齢者への心理支援の実際
11	ひきこもり・自殺予防の心理支援の実際
12	精神障害者への心理支援の実際
13	家族・職員への心理支援の実際
14	福祉・介護分野での多職種共働（ＩＰＷ）と心理職の位置づけ
15	全体のまとめ

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

被虐待児とその養護者に対する、心理職の役割について述べよ。

＜ポイント＞

心理アセスメント、心理療法、生活指導、養護者に対する心理教育と心理療法、他職種との連携

科目終了試験学修のポイント

1．児童福祉施策の概要について

＜ポイント＞

児童福祉法、児童虐待防止法、民法（親権停止）、児童権利に関する条約

2．児童相談所における心理支援について

＜ポイント＞

養護相談、障害相談、非行相談、保健相談、養育相談、児童福祉司、児童心理司、一時保護職員、一時保護機能

3．社会的養護における心理支援について

＜ポイント＞

代替養育、里親養育、ファミリーホーム、施設養護、乳児院、児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、母子生活支援施設、自立援助ホーム、要保護児童対策地域協議会、心理職の役割

4．児童虐待に関する心理支援の実際について

＜ポイント＞

身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理的虐待、通報義務、一時保護、ハイリスクケース、親権停止、心理職の役割

5．障害児・者への心理支援について

＜ポイント＞

障害者総合支援法、発達障害者支援法、障害者基本法、障害者差別解消法、障害者の権利条約、障害者虐待防止法、虐待養護者への支援、再生医療、心理職の役割

6．高齢者への心理支援について

＜ポイント＞

老人福祉法、介護保険法、認知症高齢者施策推進総合戦略（オレンジプラン）、高齢者に対する虐待防止、高齢者の擁護者に対する支援等に関する法律、心理職の役割

教科書

中島健一『福祉心理学』遠見書房。

参考文献

日本心理研修センター（監）『公認心理師現任者講習会テキスト』金剛出版　野島一彦『公認心理師入門』日本評論社

※科目コード1330：ＳＲ履修／科目コード1331：ＳＲ履修／科目コード1332：Ｒ履修

科目コード	福祉と教育（２単位）	登録年次	履修方法
1330/1331/1332		１年	ＳＲ/Ｒ※
教員名	小笠原眞紀、千葉由美、成田成、堀建治、山田哲史、呂智濱		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

これからの時代に求められるのは、正解が一つではない問題を考え、課題探求できる分析力と思考力を備えた人材を教育することである。福祉の現場においても、突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉を必要とする人に対して、その一人ひとりのニーズに応えて、問題を解決していくことが望まれる。そのためには、これまでわが国で主流とされてきた、一方通行型、知識注入型の教育方法を改め、学生が主体となって学修に取り組める学修環境を構成していかねばならない。福祉の時代に向けて真に必要な諸能力は何かを分析し、２１世紀に求められる福祉人のあり方について考察する。

学修内容	
1	「福祉と教育」については、前者で介護者と利用者、後者で先生と生徒と、非常によく似ている。また、福祉現場での問題解決法は今後の教育現場でも重要であり、その逆についても応用が期待できる。【設題１】のポイントを参照。
2	「教育方法の現状」については、いじめ、教員の指導力不足、教員の精神的ストレス、不登校等がある。教科書の「教師論」「生徒指導論」「各科の指導法」「授業研究」等や、最近の教育関連ニュースを参照。
3	「いじめ」については、教員によるいじめ、児童・生徒同士のいじめ等が考えられるが、その原因や解決策についても千差万別である。教科書の「教師論」「生徒指導論」「教師の行財政」「教育福祉論」等や、最近の教育ニュースを参照。
4	「教員の指導力不足」については、さまざまな原因が考えられるが、一方通行の授業、厳しい口調での威嚇、暴言、不十分な教材研究などが指摘されている。教科書の「教師論」「教育法規」「各科の指導法」等や、最近の教育関連ニュースを参照。
5	「教員の精神的ストレス」については、主な原因として、保護者による理不尽な苦情や、人間関係等が挙げられる。教科書の「教育相談」「人権教育」等や、最近の教育関連ニュース等を参照。
6	「不登校」については、その原因として、いじめ、友人ができない、授業についていけない、病気、事故、入院などが考えられる。教科書の「道徳教育の研究」「生徒指導論」「子どもの権利擁護」等や、最近の教育関連ニュース等を参照。
7	「これからの大学教育」については、グローバル社会であり、福祉や教育のニーズが多種多様化していることを踏まえて、将来、社会へ出てから役立つことを考える。教科書の「教師論」「学校経営論」等や、最近の教育関連ニュース等を参照。
8	「教師の意識」については、一方通行の授業では通用しないことを認識し、現場で必要なコミュニケーション力を高めるような授業を工夫すべきである。教科書の「教師論」「教育法規」「学校経営論」等や、最近の教育関連ニュース等を参照。
9	「バイスティックの７原則」は、インターネット等で確認すると分かるように、福祉従事者にとって必要なことが記載されているが、各項目の内容については、教育者にとっても大事なことを認識すべきである。
10	「これからの社会福祉」については、その例として、専門家としての社会福祉士の活躍が期待されている。教科書の「社会福祉原論」「老人・障害者・児童・地域福祉論」「社会保障論」「公的扶助論」等や、最近の福祉関連ニュース等を参照。
11	「これからの福祉教育」については、様々な対象者のニーズに適切に対応するため、医師、看護師、薬剤師などの多職種の専門家との連携が重要となる。教科書の「社会福祉援助技術総論・各論」等や、最近の福祉関連ニュース等を参照。
12	「ターミナルケア」については、在宅介護の難しさ等が問題になっているが、家族によっては上手くいっている例もある。教科書の「介護概論」「家族福祉論」「死生論」等や、最近の福祉関連ニュース等を参照。
13	「筋萎縮性側索硬化症」の患者は、重度の場合に人工呼吸器をつけるために、コミュニケーションを取ることが難しいのが現状である。教科書の「医学一般」「介護概論」「家族福祉論」等、最近の福祉関連ニュース等を参照。
14	「音楽療法」については、インターネット等で確認すると分かるように、福祉や教育の現場でも「魂の薬」としての効果が期待されている。教科書の「国際福祉研究」「健康・スポーツ」等、最近の福祉関連ニュース等を参照。
15	「自分で興味や関心を持ったこと」については、これまでの自身の経験や興味、知人の事例等も含め、幅広く自由に捉えて欲しい。教科書の記載内容や、最近の福祉・教育関連ニュース等を参照。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 「福祉と教育」を学ぶことの意義について述べよ。

＜ポイント＞

福祉と教育は大変よく似ている。たとえば、介護者や教育者は相手を思いやる気持ちで接することが大切である。また、どちらの場合も、コミュニケーション能力が大変重要であり、多様なニーズに応える能力が必要とされてくる。しかしながら、実際には一方通行型の介護や教育が行われる場合もあり、要介護者や生徒のニーズに応えられずに、さまざまな問題が生じている例も否定できない。このような両者の共通点や問題点等を踏まえた上で、「福祉と教育」という科目を学ぶことの意義について、自分の将来と結びつけながら考えをまとめて欲しい。

科目終了試験学修のポイント

１．日本で行われている教育方法の現状について

＜ポイント＞

我が国で行われている教育方法（自身の体験談を含む）の問題点や改善法を中心に考察する。

２．これからの大学教育について

＜ポイント＞

21 世紀の時代に合った大学教育について、現行の問題点や改善点を踏まえて考える。

３．教師の意識について

＜ポイント＞

現状を踏まえた上で、教師の意識はどのように変えていくべきかについて考察する。

４．バイスティックの７原則について

＜ポイント＞

バイスティックの７原則について、それらの内容を理解し、福祉や教育の現場でどのように応用できるかについて考える。

５．これからの社会福祉と福祉教育について

＜ポイント＞

今後、求められる社会福祉と福祉教育とは何かについて、具体例を挙げつつ、分かりやすく説明できるようにする。

６．上記５つ以外の内容で、「福祉と教育」について自分で興味や関心を持ったことについてまとめよ。

＜ポイント＞

自分で興味や関心を持ったことについて、自由に調べて分かりやすく論述できるようにする。

教科書

東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。
東京福祉大学編『教職科目要説－初等教育編』ミネルヴァ書房。
東京福祉大学編『教職科目要説－中等教育編』ミネルヴァ書房。

参考文献

寺脇研『何処へ向かう教育改革』主婦の友社。
寺脇研『動き始めた教育改革』主婦の友社。

科目コード	福祉と経営Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
6710		1年	R
教員名	中野隆之		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会福祉分野と経営分野は別々に発展した学問領域ではあるが、実は密接な関係性がある。社会福祉事業が機能するためには適切なマネジメントが図られる必要があるからだ。つまり、営利を目的としない福祉の現場においても、社会福祉施設が適切に運営されていくためには、適切なマネジメントが行われることが必要である。それだけではなく、一般企業においても、従業員の福利厚生やメンタルヘルスの向上の視点から、福祉マインドを持ったスタッフが求められ始めている。民間資格である介護福祉経営士が創設された背景にも一般企業における福祉マインドの必要性の高まりがあるといえる。

そこで、本講座では、福祉マインドの醸成を目的として介護業界に絞って福祉における経営課題を学び、それぞれの解決策について考える。

また、本講座は、「福祉と経営Ⅱ」を継続して受講することでより効果を持つ。本講座では、テキストの解説部を利用し、その全体像をつかむことを目的とし、事例を中心とする「福祉と経営Ⅱ」につなげていく。

学修内容

1	介護経営の基礎知識①　介護保険制度創設の経緯
2	介護経営の基礎知識②　介護保険制度の仕組み
3	介護経営の「人」
4	介護経営の「もの（サービス）」①　介護保険
5	介護経営の「もの（サービス）」②　コンプライアンス等
6	介護経営の「金」
7	介護経営の戦略①　人材確保
8	介護経営の戦略②　人材定着
9	介護経営の戦略③　リーダーシップ
10	介護経営の戦略④　サービスの質の平準化
11	介護経営の戦略⑤　支出削減
12	介護経営の戦略⑥　労働効率
13	介護経営の戦略⑦　営業活動
14	これからの介護経営①　これからの介護業界
15	これからの介護経営②　変革期における介護経営のあり方

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】質の高い福祉事業所を運営していくために、経営者や施設長が意識すべき点は何か、自身の考えを述べよ。

＜ポイント＞

どのように人材を育て、赤字が出ないようにするのかについて、戦略をいかに立てるべきかを考えること。

科目終了試験学修のポイント

1．介護保険制度の仕組み

＜ポイント＞

介護保険制度がなぜ制定されたのか、その経緯を理解し、その仕組みの意味を理解する。

2． 経営資源としての「ヒト」「モノ」「カネ」

＜ポイント＞

経営資源として捉えられる「ヒト」「モノ」「カネ」について理解した上で、ビジネスとして成り立つためには、この 3 つを育て、増やしていかなければならない。そのためには、どうすればよいのかを考える。

3．人材の確保、育成

＜ポイント＞

経営資源としての「ヒト」は感情を持つ生き物である。成長する福祉事業所になるためには、絶えず人材を確保し、確保した人材を定着させ、一人前に育てるとともに、皆が同じ方向を向いて仕事ができるよう、リーダーシップを取らなければならない。

4． 福祉事業の種類と福祉事業が果たすべき役割（サービス）

＜ポイント＞

経営資源としての「モノ（サービス）」として、福祉事業が提供できるモノ・コトを理解するとともに、守らなければならないルールについても理解する。

5． 経営資源としての「カネ」の源泉と経費削減

＜ポイント＞

福祉事業のような営利目的ではない事業においても、カネ（資金）がなければビジネスとして成立せず、継続することができない。福祉事業だからこそ、継続できなくなる事業であってはならないことを常に意識し、その資金源が何なのかを理解し、無駄のない経営をすることを意識する。

6． これからの福祉業界の動向について

＜ポイント＞

社会が大きく変革しようとしている現在、未来のことを正確に想像することは不可能であるが、変革の方向性を意識し、ある程度の準備をしていくことがビジネスの継続性につながることを意識する。

教科書

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会監修、馬場博編『はじめて学ぶ介護福祉のマネジメント』日本医療企画。

科目コード	福祉と経営Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
6720		１年	ＳＲ
教員名	中野隆之		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

「福祉と経営Ⅰ」ではテキストに基づいて基礎知識を学んだ。本講義では、この基礎知識を前提として、福祉(介護)業界における経営課題をいかにして解決するかについて具体的に考えていく。

本講義では「福祉と経営Ⅰ」で学んだ基礎的知識の理解度・定着度を再確認する。そのうえで、本講義でおこなうレポート作成やスクーリングでの演習の機会において、テーマに関連して現実の経営課題を例示、またその具体的解決策を自分の頭で考え、自分の言葉で発表・ディスカッションできるようにすることを目指す。

学修内容

1	「福祉と経営Ⅰ」の総復習１ 「福祉と経営Ⅰ」で指定された教科書の「はじめに」から前半部分を読み返す。また「福祉と経営Ⅰ」の講義で配布されたもの、参考にした資料があれば、これ以降１５回目までの授業で適宜確認しやすいように整理しておく。
2	「福祉と経営Ⅰ」の総復習２ 引き続き「福祉と経営Ⅰ」で指定された教科書の後半部分を読み返し、また「福祉と経営Ⅰ」の講義で配布されたもの、参考にした資料があれば、これからの授業で適宜確認しやすいように整理しておく。 そして目次で示された各章・節の見出しごとに大まかな内容を把握してみる。また教科書に記載された内容で理解できなかった点を整理しておく。
3	福祉と経営との関係 福祉サービスの提供にあたりなぜ経営（管理）が必要とされるのかについて、「はじめに」部分に記載されたことの他、「福祉と経営Ⅰ」の全講義を通して学んだことを思い返し、該当すると思われるところを教科書や配布された資料から拾い出してノートに整理してみる。
4	高齢者の住まい 高齢者の住まいとして、どのようなものがあるか、介護保険との関連はどのようになっているかについて、「福祉と経営Ⅰ」の全講義を通して学んだことを思い返し、該当すると思われるところを教科書や配布された資料から拾い出してノートに整理してみる。
5	コンプライアンス 福祉サービスにおいてなぜコンプライアンスが重要か、またコンプライアンスとガバナンスとの関係について、「福祉と経営Ⅰ」の全講義を通して学んだことを思い返し、該当すると思われるところを教科書や配布された資料から拾い出してノートに整理してみる。
6	介護保険外サービス 福祉サービスの提供にあたって介護保険の対象となる範囲、介護保険外サービスについてどのように考えるべきかについて、「福祉と経営Ⅰ」の全講義を通して学んだことを思い返し、該当すると思われるところを教科書や配布された資料から拾い出してノートに整理してみる。
7	アジア諸国の介護事情 中国など諸外国での介護事情についてネット等で得られた情報を整理する、また「福祉と経営Ⅰ」の講義を通して学んだことを思い返し、諸外国の介護問題に関して日本の先進的な福祉サービスのうち貢献できるものがないかを考えてノートに整理してみる。
8	人材定着率の向上を目指して 介護業界では良質な人材確保やそのための財源確保が経営管理上の大きな課題となっているが、そのうち人材定着について「福祉と経営Ⅰ」の全講義を通して学んだことを思い返し、該当すると思われるところを教科書や配布された資料から拾い出してノートに整理してみる。
9	外国人介護福祉士等の受入れ 国や介護業界では介護人材確保対策のひとつとして、外国人労働者受け入れ、またそのための環境整備が考えられているが、「福祉と経営Ⅰ」の講義で学んだ介護人材の見通しや確保の方策について思い返す。次に介護人材確保策としての外国人材の受入れについて自分なりに考え、ノートに整理してみる。
10	リーダーシップを高めるために１ リーダーシップについて「福祉と経営Ⅰ」の全講義を通して学んだことを思い返し、該当すると思われるところを教科書や配布された資料から拾い出してノートに整理してみる。
11	リーダーシップを高めるために２ リーダーシップについて「福祉と経営Ⅰ」の全講義を通して学んだことを思い返し、該当すると思われるところを教科書や配布された資料から拾い出してノートに整理してみる。同時に教科書に記載されていることについて理解できなかった点や疑問点を拾い出してみる。
12	リーダーシップを高めるために３ リーダーシップについて、自身の身近な職場やサークル、学校での経験や、他人の経験談などから自分なりに感じたこと、その時とった行動などについて思い返し、ノートに整理してみる。

13	コスト削減１ 　質の高いサービスの維持向上に不可欠な利益を獲得するためには収入や支出をコントロールする必要があるが、これについて「福祉と経営Ⅰ」の全講義を通して学んだことを思い返し、該当すると思われるところを教科書や配布された資料から拾い出してノートに整理してみる。
14	コスト削減２ 　質の高いサービスの維持向上に不可欠な利益を獲得するためコスト（支出）をどう削減していくか、という点について、「福祉と経営Ⅰ」の全講義を通して学んだことを思い返し、該当すると思われるところを教科書や配布された資料から拾い出してノートに整理してみる。
15	最後のまとめ 　本講義の第１回から１４回までに学んだことを振り返る。 　目次に示された各章・節の見出しをみて、その大まかな内容を説明できるかチェックしてみる。併せて特に印象に残ったこと、良く理解できたこと、理解できなかったこと、さらに深堀したいことなどを整理しまとめる。そして２年生以降に履修する経営系科目を学ぶ際に解決すべき課題として記憶にとどめておく。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　テキストに記載された３つの事例のうち、１つの事例を整理し、自己の場合に置き換えて自己の改善点を指摘し、その改善策を述べよ。

＜ポイント＞

ケーススタディーを行う上で最も重要なことは、他人事ではなく当事者意識を持って考えることである。

現場経験のない者は、これまでの自己の生活を振り返り、他者と協力した活動の中から考える必要がある。人は１人では生きられないから、全く他者と協力したことがない者はいない。どうしても思い当たらなければ親・兄弟を考えること。

その改善点を指摘した理由を必ず明記すること。

科目終了試験学修のポイント

１．少子高齢化の進展に伴う福祉サービス業界の変化

＜ポイント＞

少子高齢化の進展により、福祉を取り巻く環境が変化してきていることを意識する。福祉業界への外国人の受け入れなどもそのような背景から拡大していることも考えること。

２．　介護保険でできることとできないこと

＜ポイント＞

介護保険制度でカバーできるサービス以外にも、介護保険外サービスが拡大している現状を理解する。テキストには記載されていないが、福祉用具市場が拡大している現状を考えよう。

３．福祉サービス業界におけるキャリア

＜ポイント＞

テキストでは介護福祉士への言及のみであるが、社会福祉士、精神保健福祉士のほかにもホームヘルパー、福祉住環境コーディネーターなど、様々な福祉資格があることを調べてみよう。

４．　コムスン事件

＜ポイント＞

コムスン事件がきっかけとなり、様々な制度改革が行われた。福祉に限らず、あらゆる業界でコンプライアンス経営が叫ばれたのも事実としてある。制度を守ればよい、ではなく、その事業にとっての社会的使命は何か、を理解し、自分のものにしてもらいたい。

５．外国人看護師・介護福祉士の受け入れ

＜ポイント＞

優秀な外国人技術者の受け入れを通じた国際交流の意味を考えた上で、外国人による看護・介護のあり方について考える。

６．人材定着

＜ポイント＞

労働集約型産業である福祉業界において人材確保は最重要な経営課題のひとつであるが、それは何故かを考える。離職を防ぎ、経験を積んだ人材を定着させるための取り組みを通じて、人材開発のあり方について考えてもらいたい。

教科書

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会監修、馬場博編『はじめて学ぶ介護福祉のマネジメント』日本医療企画。

参考文献

馬場博監修、介護経営の未来を考える委員会著『現場リーダーのための介護経営のしくみ〔改訂版〕』日本医療企画。

科目コード	福祉と養護（２単位）	登録年次	履修方法
6660		１年	R
教員名	上木文夫、田中利則		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理　※幼稚園教諭免許状既取得者のみ履修可		

科目概要

保育士養成課程の教科「社会福祉」「児童家庭福祉」「社会的養護」の３つの科目の目標・内容をもとに、幼稚園教諭免許を有する者が幼稚園等での勤務経験により、子育て支援機関や家庭との連携については一定の経験を積んでいることを考慮し、「社会福祉・児童家庭福祉・社会的養護の意義と役割、制度の実施体系等」及び「施設養護の実際」のほか幼稚園等での勤務経験では得られない内容等を中心に学修する。

学修内容

1	１．現代社会における社会福祉、児童家庭福祉及び社会的養護の意義と歴史的変遷 ・理念と概念及び歴史的変遷
2	・現代社会と児童家庭福祉
3	２．社会福祉と児童家庭福祉の役割 ・社会福祉の一分野としての児童家庭福祉
4	・児童家庭福祉の一分野としての保育と社会的養護 ・児童の権利擁護
5	・家庭支援と社会福祉
6	３．社会福祉、児童家庭福祉及び社会的養護の制度と実施体系 ・各制度の法体系、行財政と実施機関 ・各制度を担う専門職、実施者
7	・社会的養護の仕組みと実施体系（利用者保護及び評価等を含む）
8	・社会福祉施設等と児童福祉施設等、家庭的養護と施設養護
9	４．児童家庭福祉のサービスと施策 ・母子保健と児童の健全育成
10	・児童虐待防止、ドメスティックバイオレンス
11	・社会的養護、障害のある児童への対応
12	５．施設養護の実際 ・施設養護の基本原理
13	・施設養護の実施 ― 日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等
14	６．社会福祉及び児童福祉の動向 ・少子高齢化社会への対応
15	・次世代育成支援と児童家庭福祉の推進

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 社会福祉・児童家庭福祉・社会的養護の意義と役割、制度の実施体系等について述べよ。

＜ポイント＞

学修内容1～15を踏まえて、①社会福祉・児童家庭福祉・社会的養護の意義と概要について理解する。②児童福祉の役割、とりわけ保育と社会的養護の機能・役割についてまとめる。③それぞれの制度と実施体制について簡潔に紹介する。以上3点をまとめて記述すること。

科目終了試験学修のポイント

1．社会福祉、児童家庭福祉及び社会的養護の理念と概念及び歴史的変遷について

＜ポイント＞

社会福祉、児童家庭福祉及び社会的養護の理念と概念について基本的な考え方を整理しておくことが重要である。また歴史的変遷については、時代の経過と変化、人物と実績についてまとめること。

2．児童家庭福祉の一分野としての保育と社会的養護について

＜ポイント＞

保育においては児童福祉法第2条及び第24条の規程について理解を深めることが重要である。また、社会的養護については、同じ児童福祉法6条の3の8項について理解を深め、位置づけを明確にすること。

3．社会的養護の仕組みと実施体系（利用者保護及び評価等を含む）について

＜ポイント＞

社会的養護とはなにかを理解した上で、公的責任下での保護の仕組み、国、県、市町村、さらに各行政機関のつながり、体系を理解することが大切である。

4．社会福祉施設等と児童家庭福祉施設等、家庭的養護と施設養護について

＜ポイント＞

社会福祉施設等と児童家庭福祉施設等の具体的な個別施設について理解と知識を深めること。また、里親制度にある家庭的養護と児童養護施設などの施設養護の違いを体系的に理解すること。

5．児童家庭福祉のサービスと施策および施設養護の実際について

＜ポイント＞

母子保健、児童の健全育成、児童虐待防止対策などの具体的な施策について、法的根拠、基本的な考え方、施設、事業などを理解すること。また、施設養護については、施設での実践に注目すること。

6．社会福祉及び児童福祉の動向について

＜ポイント＞

少子高齢化を背景に、急速に変化する社会福祉や児童福祉のニーズに対して、法律の改正や施策がどのように対応しているか、その動向に注意すること。

教科書

小田兼三、杉本敏夫『社会福祉概論：現代社会と福祉』勁草書房。

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座15　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規。

小野澤昇、田中利則、大塚良一『子どもの生活を支える社会的養護』ミネルヴァ書房。

参考文献

ミネルヴァ書房編集部『社会福祉六法（最新版）』ミネルヴァ書房。

厚生労働省『厚生労働白書』。

小木曽宏、宮本秀樹、鈴木崇之『編著　よくわかる社会的養護』ミネルヴァ書房。

科目コード	福祉倫理（２単位）	登録年次	履修方法
2510/2511		４年/１年	R
教員名	小笠原眞紀、千葉由美、堀肇、山田哲史		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

福祉倫理は、福祉従事者としての人間観、福祉観などの価値観に深く関わり、福祉の現場で働く際に、その個人の判断や行動を規定するいわば「物差し」となるため、極めて重要である。例えば、福祉従事者は、すべての利用者を無差別平等に扱い、主体的存在として個別に理解し、その人格の尊厳性を尊重しなければならない。このような人間観・福祉観をしっかり身につけるためには、国連の「世界人権宣言」や、日本国憲法や福祉六法をはじめとする法律の精神や基本理念を正確に理解する必要がある。

本科目では、今日までの代表的な福祉倫理思想を概観しながら、それを手がかりにして、現代の福祉現場における倫理的諸問題を検討し、福祉従事者としての倫理観を養う。

学修内容

1	福祉の哲学とは 福祉とはヒューマンサービスである。そのため、サービス提供者としての福祉従事者は、求められる人間観、福祉観を明確にしておく必要がある。福祉の哲学とは、福祉とは何か、福祉とは何を目的とするか、人間の生きる意味とは何か、福祉の果たす役割とは何かを考え、理解し、ニーズへの解決を追求していくことである。それが福祉の哲学であることを学ぶ。
2	現代社会の病理 便利な現代社会であるがゆえに発生する「文明病」とは何か、豊かな開発国に共通する現代病はなぜ発生するのか、豊かさと引き換えに生まれる「孤独」とは何か、などを考える。そして、「物の豊かさ」と「心の貧しさ」を開発国、途上国の現状の中から分析し、人間にとって真に必要なものは何かを探求する。
3	倫理とは何か 倫理とは人として守るべきものである。その基本にあるものは「人権擁護」である。人権を擁護する立場にある福祉サービス提供者たちの「倫理」には、共通した視点が求められる。それが何かを明確にすることによって、福祉の目標が見えてくることを学び、「倫理」の心に触れる。
4	ボランティアの歴史 ボランティアの起源は１６４７年のイギリスにおける「義勇兵」であり、ＣＯＳ（事前組織活動）やセツルメント運動へと発展する。しかし、ボランティアという言葉がわが国で注目され始めたのは戦後であり、しかも１９７０年以降であった。ここでは欧米のボランティアの歴史と、「奉仕」や「篤志家の活動」ととらえられたわが国のボランティアの歴史から、福祉への考え方を学ぶ。
5	ボランティア活動の基本的役割 ボランティアの基本的な性格と役割とは何かを考える。特にわが国には、戦後の社会福祉の発展の中で、ボランティアが担ってきた５つの役割がある。そこから見えてくる性格を分析していくことは即ちわが国におけるボランティアの歴史を知ることでもある。また、ＮＰＯやＮＰＯ法の登場から期待される新たな役割についても考察する。
6	諸外国におけるボランティア活動とわが国 基本的にはアメリカのボランティアとわが国のボランティアを比較する。日本とアメリカのボランティアの考えの違いや具体的な取り組みの違いを、文化的違い、例えば宗教や生活習慣の違いなども含めて学び、今後のわが国の福祉へのあり方や方向性はどうあるべきかを考えていく。
7	ボランティア活動と倫理観 福祉の専門職者ではないボランティアの立場からの倫理観を学ぶ。理論だけではない現場における活動の中での「しなければならないこと」「してはならないこと」の基本が人権尊重にあることを学び、人権擁護の立場からの人間観・福祉観を身に付けることの重要性を明らかにする。
8	ボランティアの基本的性格 ボランティアの基本的な４つの性格、自発性・公共性・継続性・無償性は、現代社会の中でどのように変化しているかを考える。特にボランティア活動が身近な地域社会から世界的な活動へと広がるを持つようになってきた中で、発生する継続性・無償性への課題とその解決策を探り、今後の方向性を考察する。
9	地域社会と地域福祉 地域社会はどのように変わってきたのか、かつての地域の相互扶助のシステムから戦後における高度経済成長の中、核家族化・高齢化・少子化が進んだことによって、「地域福祉」の概念がどう変わってきたのかを学ぶ。また、現代社会の中での家族の在り方や、地域における支え合いは今後どうなっていくのかを考える。
10	コミュニティにおける孤独と参加 町ぐるみの地域活動の進め方を考える。特に自分たちが居住する地域での具体的な取り組みを調べ、他地域との比較をするなど、あるべきコミュニティ活動の姿を把握する。また、孤独死の問題などを考え、地域社会への参加を促すための対策や効果などを考察する。
11	在宅サービスと住民活動 わが国の福祉政策としてどのような在宅サービスがあるかを、主に高齢者、障碍者、児童、貧困に分けて調べる。さらにそれらに基づく具体的なサービスの取り組みと、補完としてどのようなものがあるかを、住民運動などを中心にまとめ、そこから見えてくる課題などを考える。

12	地域福祉の具体例 上記の福祉分野に関して具体的な事例を選び、適切な分析を行う。特に成功例だけでなく失敗例からも、どのような支援が真に望ましいのかを学ぶことが重要である。ヒューマンサービスは一人ひとりの求めるものが違うことを忘れず、声なきニーズを掘り起こし、真の支援にたどり着くことの意義を考える。
13	地域福祉のネットワーク化 地域福祉とは総合福祉である。すべての人を対象とし、一人ひとりのより良い生活を求めていくものである。その意味で、医療と福祉の連携はもとより、様々な分野との共生としてネットワーク化を図り、総合福祉を目指していく必要があることを理解する。
14	基本的人権と社会参加 総合福祉を具現化していくということは、基本的人権を守りながら、どのような立場・状況にあっても、人として守られ、共存・共生していくことであり、ノーマライゼーションの浸透した社会を築いていくことである。そのために、人はいかに社会の中で孤立することなく社会参加できるかを、考えていくことが重要である。
15	豊かな社会とは 真の豊かさとは何か、お金や物があれば幸せなのか、飽食の社会が失ったものは何かなどを考える。近代社会と言われ豊かな物資や食料の中で育ちながらも、孤独な社会であるとはどういうことなのかという豊かさの意味を問い直し、真に豊かな社会の在り方を追求する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 ボランティアの役割及びその倫理について、あなたなりに述べよ。

＜ポイント＞

ボランティアとは何か。まず自分なりにしっかりと把握することから始めること。次に、ボランティアの歴史、諸外国のボランティア活動を踏まえ、ボランティア活動に求められる姿勢、倫理観とは何かを考えること。

科目終了試験学修のポイント

１．福祉の倫理、哲学の必要性について

＜ポイント＞

社会福祉の目的を考え、人権を守るために福祉の倫理・哲学が必要であることを理解する。

２．文明病について

＜ポイント＞

豊かで飽食の社会にあってなぜ人の心が失われるのか、文明病の背景を分析する。

３．老いについて

＜ポイント＞

高齢者はマイナス的存在なのか、老いることも「人間的成長」と捉える人生観を考える。

４．ともに生きるとはどういうことかについて

＜ポイント＞

「ともに生きる」とはノーマライゼーションの浸透した社会の理念であることを理解する。

５．“参加”ということについて

＜ポイント＞

多様な住民の協力のもとに「参加できる場所」をいかに地域に作っていくかを考える。

６．ヒューマン・サービスについて

＜ポイント＞

「問題を抱える人」を対象とする福祉サービスはヒューマン・サービスである。その課題を考える。

教科書

阿部志郎『福祉の哲学』誠信書房。

参考文献

糸賀一雄『福祉の思想』ＮＨＫブックス。

※学科によって設題内容が異なりますので注意してください。

科目コード	文章表現（２単位）	登録年次	履修方法
1021		１年	ＳＲ
教員名	石﨑達也、石渡宏、上木文夫、岡安栄子、小笠原眞紀、奥野治子、川村晃市 黒田智隆、千葉由美、西田太郎、松村久美子、松本英祥、若狭清紀		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

通信教育では、レポートを書くための表現力が要求される。本科目では、レポート作成に必要な「書く」技術の基礎訓練を行う。したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な表現法である。

文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の適切さ・わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学修していく。

学修内容

1	レポートとは何かを知り、レポートの形式を理解する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第１課　この授業で何を学ぶかを知る・第２課　レポートの形式を知り、アイデアを練る。）
2	レポートで必要とされる文章を知る。（論文・レポートの文章作法　第１章　文章のよしあし）
3	レポートで求められる文章の構造を理解する。（論文・レポートの文章作法　第２章　文を書く技術）
4	レポートの主題を設定する。（論文・レポートの文章作法　第４章　文の作法）
5	レポートを設計する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第３課－１＆２　練る）
6	情報を集める。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第３課－３＆４＆５　調べる）
7	必要な情報を整理し、要約する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第４課　テーマを絞り込み、目標を設定する）
8	レポートにおける段落の役割と構造を知る。（論文・レポートの文章作法　第３章　段落を書く技術）
9	レポートを組み立てる。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第６課　組み立てを再検討する）
10	引用方法を知る。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第９課　引用しながら書く）
11	ポイントを押さえてレポートを作成する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第８課　本文を書きこんでいく）
12	参考文献リストの書き方を理解する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第９課　引用しながら書く）
13	レポートの表記の方法を知る。（論文・レポートの文章作法　第５章　表記の方法）
14	文章・表現・形式を点検する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第１０課　文章・表現・形式を点検する）
15	レポートを自己評価する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】学校教育における「生きる力」の育成について述べよ。

＜ポイント＞

日本の戦後教育の変遷や「生きる力」が求められる背景等にも触れながら、その意義・ねらいと具体的方策について述べよ。このレポートは文章表現に関する論文であるから、特に論点を明確にして段落や文章構成に気を配りながら文章を書くこと。また、わかりやすい言葉で文法・文字表記などにも十分留意して書くこと。

科目終了試験学修のポイント

1．「バリアフリー」と町の景観について
2．少年犯罪について
3．IT 社会化について
4．環境破壊について
5．リサイクルについて
6．自殺の予防対策について

＜ポイント＞※1～6共通

各テーマで、自分の主張を絞り、構成を十分に考えてから作成に取り組むこと。一般論に止まらず、自分の主張を裏付けする情報などを引用することで、自分の主張に説得力を持たせることができる。また、論理展開として、主張に一貫性があるかどうかにも注意して書くこと。書き終わったら、必ず読み返して、自己点検することも重要である。

教科書

古郡延治『論文・レポートの文章作法』有斐閣新書。
東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。

参考文献

大島弥生、他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現：プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房。

※学科によって設題内容が異なりますので注意してください。

科目コード	文章表現（２単位）	登録年次	履修方法
1020/1021		１年	ＳＲ
教員名	石﨑達也、石渡宏、上木文夫、岡安栄子、小笠原眞紀、奥野治子、川村晃市 黒田智隆、千葉由美、西田太郎、松村久美子、松本英祥、若狭清紀		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

通信教育では、レポートを書くための表現力が要求される。本科目では、レポート作成に必要な「書く」技術の基礎訓練を行う。したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な表現法である。

文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の適切さ・わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学修していく。

学修内容

1	レポートとは何かを知り、レポートの形式を理解する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第１課　この授業で何を学ぶかを知る・第２課　レポートの形式を知り、アイデアを練る。）
2	レポートで必要とされる文章を知る。（論文・レポートの文章作法　第１章　文章のよしあし）
3	レポートで求められる文章の構造を理解する。（論文・レポートの文章作法　第２章　文を書く技術）
4	レポートの主題を設定する。（論文・レポートの文章作法　第４章　文の作法）
5	レポートを設計する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第３課－１＆２　練る）
6	情報を集める。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第３課－３＆４＆５　調べる）
7	必要な情報を整理し、要約する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第４課　テーマを絞り込み、目標を設定する）
8	レポートにおける段落の役割と構造を知る。（論文・レポートの文章作法　第３章　段落を書く技術）
9	レポートを組み立てる。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第６課　組み立てを再検討する）
10	引用方法を知る。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第９課　引用しながら書く）
11	ポイントを押さえてレポートを作成する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第８課　本文を書きこんでいく）
12	参考文献リストの書き方を理解する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第９課　引用しながら書く）
13	レポートの表記の方法を知る。（論文・レポートの文章作法　第５章　表記の方法）
14	文章・表現・形式を点検する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第10課　文章・表現・形式を点検する）
15	レポートを自己評価する。

レポート設題			
枚数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 高齢者の介護は誰が担うべきか述べよ。

＜ポイント＞

このレポートは文章表現に関する論文であるから、特に論点を明確にして段落や文章構成に気を配りながら文章を書くこと。また、わかりやすい言葉で文法・文字表記などにも十分留意して書くこと。

科目終了試験学修のポイント

１．「バリアフリー」と町の景観について
２．少年犯罪について
３．IT 社会化について
４．環境破壊について
５．リサイクルについて
６．高齢者介護について

＜ポイント＞※１～６共通

各テーマで、自分の主張を絞り、構成を十分に考えてから作成に取り組むこと。一般論に止まらず、自分の主張を裏付けする情報などを引用することで、自分の主張に説得力を持たせることができる。また、論理展開として、主張に一貫性があるかどうかにも注意して書くこと。書き終わったら、必ず読み返して、自己点検することも重要である。

教科書

古郡延治『論文・レポートの文章作法』有斐閣新書。
東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。

参考文献

大島弥生、他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現：プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房。

※学科によって設題内容が異なりますので注意してください。

科目コード	文章表現（２単位）	登録年次	履修方法
1021		１年	ＳＲ
教員名	石﨑達也、石渡宏、上木文夫、岡安栄子、小笠原眞紀、奥野治子、川村晃市 黒田智隆、千葉由美、西田太郎、松村久美子、松本英祥、若狭清紀		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

通信教育では、レポートを書くための表現力が要求される。本科目では、レポート作成に必要な「書く」技術の基礎訓練を行う。したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な表現法である。

文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の適切さ・わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学修していく。

学修内容

1	レポートとは何かを知り、レポートの形式を理解する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第１課　この授業で何を学ぶかを知る・第２課　レポートの形式を知り、アイデアを練る。）
2	レポートで必要とされる文章を知る。（論文・レポートの文章作法　第１章　文章のよしあし）
3	レポートで求められる文章の構造を理解する。（論文・レポートの文章作法　第２章　文を書く技術）
4	レポートの主題を設定する。（論文・レポートの文章作法　第４章　文の作法）
5	レポートを設計する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第３課－１＆２　練る）
6	情報を集める。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第３課－３＆４＆５　調べる）
7	必要な情報を整理し、要約する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第４課　テーマを絞り込み、目標を設定する）
8	レポートにおける段落の役割と構造を知る。（論文・レポートの文章作法　第３章　段落を書く技術）
9	レポートを組み立てる。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第６課　組み立てを再検討する）
10	引用方法を知る。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第９課　引用しながら書く）
11	ポイントを押さえてレポートを作成する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第８課　本文を書きこんでいく）
12	参考文献リストの書き方を理解する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第９課　引用しながら書く）
13	レポートの表記の方法を知る。（論文・レポートの文章作法　第５章　表記の方法）
14	文章・表現・形式を点検する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第10課　文章・表現・形式を点検する）
15	レポートを自己評価する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】良い教師と悪い教師について述べよ。

＜ポイント＞

このレポートは論文であるから、それにふさわしい文体で書くこと。また、『保育児童福祉要説』の「保育者論」なども参考に、段落や文章構成に気を配りながら文章を書くこと。

科目終了試験学修のポイント

1．「バリアフリー」と町の景観について

2．少年犯罪について

3．情報化社会について

4．環境破壊について

5．リサイクルについて

6．高齢者介護について

＜ポイント＞※1～6共通

各テーマで、自分の主張を絞り、構成を十分に考えてから作成に取り組むこと。一般論に止まらず、自分の主張を裏付けする情報などを引用することで、自分の主張に説得力を持たせることができる。また、論理展開として、主張に一貫性があるかどうかにも注意して書くこと。書き終わったら、必ず読み返して、自己点検することも重要である。

教科書

古郡延治『論文・レポートの文章作法』有斐閣新書。

東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。

参考文献

大島弥生、他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現：プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房。

科目コード	文章表現Ⅱ（4単位）	登録年次	履修方法
1860		2年	R
教員名	上木文夫、岡林純子、小笠原眞紀、望月之美		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

学術的な考え方や文章について楽しく学ぶまた興味を持ってもらえるように、基本的な日本語の記述に関する学修から始まって、日本人が陥りやすい、「あいまいな文章」「長い区切りの少ない文章」「主語と述語のねじれ」などの修正について自分で気づくことができるようにするための学修を前半部分で行う。

後半では「データの解釈」「文献の検索」「レポートの作成」「調査の概要」「調査結果と考察」「結論と今後の課題」などについて、学修できるように、教科書とシートの両方がセットになっている教材を使い、わかりやすく「アカデミックな文章」を書く。

学修内容

1	アカデミックワードと日常語　仮名遣い・送り仮名　ドリル編 pp.1~5
2	句読点・四字熟語・ことわざ・慣用句　ドリル編 pp9~13.
3	漢字の使い分け　　見やすい表記　ドリル編 pp.17~21
4	敬語・手紙の書き方　ドリル編 pp.23~27
5	E メールなどの基本と常識　ドリル編 pp.31~34
6	あいまいな文章・わかりやすい語順　ドリル編 pp.35~38
7	長文を分ける・文章のねじれ　ドリル編 pp. 39~44
8	接続表現の使い方・結論の述べ方　ドリル編 pp.45~50
9	事実と意見の違い・データの解釈　ドリル編 pp.51~58
10	レポート内容と執筆スケジュール・文献の検索　ドリル編 pp.59~62
11	調査課題の設定・レポートの構成　ドリル編 pp.63~66
12	注の書き方・参考文献の書き方・引用の仕方　ドリル編 pp.67~74
13	体裁・書式・レポート課題に合ったレポートを書く順序　ドリル編 pp.75~78
14	先行研究について・調査の概要・調査結果と考察の書き方　ドリル編 pp.79~92
15	結論と今後の課題・「はじめに」の意味と位置　ドリル編 pp.97~107

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 「学校といじめ問題」について
＜ポイント＞アカデミックワードを使って、ねじれのない、正しい接続後の文章を書くこと。新聞記事や図書などを参考に書くこと。

【設題2】 「認定子ども園」「幼稚園」「保育園」に違いと全国分布の様子と地域性に関して
＜ポイント＞ データの正しい解釈・調査・調査結果と考察を正しいレポートの形式で書く。文部科学省のホームページを参考にすること。

科目終了試験学修のポイント

1． 異常気象とゲリラ豪雨の関連について、学術用語を用いて記述せよ。(気象庁ホームページなど参考に)
＜ポイント＞一般語彙とアカデミックワードの違いをつかみ、正しく使用すること。

2．日本語の乱れと、若者言葉について、四字熟語や慣用句を2つ以上入れて記述せよ。
＜ポイント＞四字熟語や社会での頻出漢字などの使い分けが正しくできるかどうか。

3． 日常の出来事の中から、接続表現（テキストp.31の①②③からそれぞれ一つずつ使って、論理的な文章を記述せよ。
＜ポイント＞接続表現に気をつけて、整合性のある「文章構造」で文章を書くこと。

4． テレビのニュースや新聞のニュースなどから感じたことを、事実と感想に分けて記述せよ。
＜ポイント＞pp.32~35を参考にして、さらに文献検索の方法や引用の方法を使って表記すること。

5． 調査結果と考察をテキストp.58の表と図から記述せよ。
＜ポイント＞非連続テキストのデータを読み、解釈と考察を行うこと。

6．「文の長さとわかりやすさ」について、自分の考えを記述せよ。
＜ポイント＞教科書pp.108~112の文章を読み、レポートの形であなたの考えを記述すること。

教科書

安部朋世、福崎健伸、橋本　修　編著『大学生のための日本語表現トレーニング』ドリル編　三省堂。

参考文献

安部朋世、福崎健伸、橋本　修　編著『大学生のための日本語表現トレーニング』実践編　三省堂。

科目コード	文章表現Ⅲ（４単位）	登録年次	履修方法
1870		３年	R
教員名	安藤哲也、上木文夫、岡林純子、小笠原眞紀		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

大学生活に必要な日本語表現について、仮名遣い、送り仮名、四字熟語などの日本語表現の基礎となる内容と敬語や手紙、Ｅメールといった社会人として必要な日本語表現の知識、分かりやすく正しい日本語を書くためのポイントを学ぶ。さらに、実際にレポートを書く際に必要となる文献の検索や課題の設定について学ぶ。テキストは書き込むことで学ぶようにできているので、学修の流れは「トレーニングシート」を解く、「テキストで解答を確認する」、「テキストでポイントを学ぶ」という手順で行う。

学修内容

1	アカデミックワードと日常語　　トレーニングシート pp.1～８　テキスト pp.4～７ レポートや論文では、特有な表現（アカデミックワード）と日常語の違いについて学ぶ。
2	句読点、慣用句、四字熟語　　トレーニングシート pp.9～16　　テキスト pp.8～11 句読点の打ち方について考える。また、四字熟語・ことわざ・慣用句についての知識を確認する。
3	漢字の使い分け・見やすい表記　　トレーニングシート pp.17～22　　テキスト pp.12～15 漢字の使い分けやそのままでは視覚的に分かりにくい表記を、分かりやすくする工夫について学ぶ。
4	:敬語・手紙　　トレーニングシート pp.23～30　　テキスト pp.16～19 基本的な敬語の知識・敬語の使い方、フォーマルな手紙の書き方について学ぶ。
5	Ｅメール・あいまいな文　　トレーニングシート pp.31～36　テキスト pp.20～23 先生との連絡手段としてメールを使用する時、あいまいな文を書かない、失礼にならない書き方を学ぶ。
6	分かりやすい語順・長い文を分ける　　トレーニングシート pp.37～42　テキスト pp.24～27 分かりやすい文章のための語順や、文を分ける際の接続表現について学ぶ。
7	文のねじれ・接続表現の使い方　　トレーニングシート pp.43～48　　テキスト pp.28～31 主語と述語の適切なかかりうけ、不適切な接続表現の修正の仕方について学ぶ。
8	結論を先に述べる・事実か意見か　　トレーニングシート pp.49～54　　テキスト pp.24～27 結論を先に書き、理由や論証の過程をその後に配置する書き方、「事実」と「意見」の書き分けについて学ぶ。
9	データの解釈・レポート内容と執筆スケジュール　　トレーニングシート pp.55～60　　テキスト pp.36～39 データの収集方法や解釈について、誤りを発見し、適切に直すことやレポートの内容や計画の立て方を学ぶ。
10	文献の検索・調査課題の設定　　トレーニングシート pp.61～64　　テキスト pp.40～43 インターネットや図書館を効果的に利用することや、レポートを書く際の調査課題の設定の仕方を学ぶ。
11	レポートの構成　　トレーニングシート pp.65～70　　テキスト pp.44～47 レポートや論文での適切な注の付け方、レポートの構成について学ぶ。
12	参考文献の書き方・引用の方法・体裁・書式　　トレーニングシート pp.71～76　テキスト pp.48～51 参考文献の示し方、引用の仕方、レポートや論文の体裁・書式について学ぶ。
13	レポート課題とレポートを書く順序　　トレーニングシート pp.77～８４　テキスト pp.52～55 「スロット型教材」という教材を用いて、実際にレポートを書くことで書く手順を学ぶ。
14	調査結果と考察　　トレーニングシート pp.85～92　　テキスト pp.56～59 調査結果と考察をどのように書けばよいのかを学ぶ。
15	結論と今後の課題　　トレーニングシート pp.93～100　　テキスト pp.60～63 分かりやすい「はじめに」から始まり、結論、課題の書き方を学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 レポートを書くときに「事実」か「意見」が読み手が分かるように書く必要性について、教科書ドリル53ページの文章を使って述べよ。

＜ポイント＞

「事実」を述べる文と「意見」を述べる文を書くときに文末の表現がキーポイント。

【設題2】 「文のねじれ」について、どのような文がねじれを起こしやすいのか、また、主語ー述語間以外のかかりうけに不適切な箇所が生じやすいのはどのようなところか、例を挙げて述べよ。

＜ポイント＞

文のねじれは主語と述語に同じような語句を繰り返したりすることで起きやすい。

科目終了試験学修のポイント

1． 次の設定でEメールの文章を書け。また、どのような観点から書いたのか、理由も述べよ。
設定：インフルエンザにかかってしまい、定期試験が受けられなくなった。どうすればよいか指示を仰ぐメール
＜ポイント＞
メールを送る時に注意すべき点は何かを確認する。

2． データの収集方法や解釈についてはどのようにしなければならないのか、例を挙げて述べよ。
＜ポイント＞
調査した対象集団を明らかにする場合は、単純な数値でなく何が必要であるのか確認する。

3． お世話になった恩師に手紙を書け。また、どのような観点から手紙を書いたのか、理由も述べよ。
＜ポイント＞
手紙文面の基本的な要素とレイアウト、時候の挨拶は、日付の季節にあったものになっているのか確認する。

4． 注の書き方はどうすればよいか述べよ。
＜ポイント＞
丁寧な説明をするためには、細かな説明はかえって分かりづらくなってしまうことを考える。

5． レポートを書く手順はどのようにするのがよいか述べよ。
＜ポイント＞
「書きやすい文章」「分かりやすい文章」を、書く順序から考える。

6．分かりやすい語順について述べよ。
＜ポイント＞
語順が異なると意味が変わってしまうこともあることや、複数の解釈が生じるのはどのような場合か確認する。

教科書

安部朋世　他　『大学生のための日本語表現トレーニング　ドリル編』　三省堂。

参考文献

大島弥生　他　『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』　ひつし書房。

科目コード	米文学(作家・作品論) (2 単位)	登録年次	履修方法
7580		2年	R
教員名	山口敬雄		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教科に関する専門的事項　・英語文学		

科目概要・到達目標

米文学を修得するには、アメリカ文学の時代思潮やアメリカの作家と作品・作風について精通しなければならない。この授業では、米文学の入門書『アメリカ文学概観』をテキストに使用して、米文学の歴史的主潮を概観し、米文学の 39 名から成る主要作家とその主要作品を考察するとともに、各々の作家とその作品の作風や時間的・空間的背景あるいは文化的背景をも明らかにする。この入門書では、アメリカの文学思潮や作家と作品・作風が概略的にしか取り上げられていないので、参考文献を参照して、さらに詳しく調べておく必要がある。関心のある作品を実際に翻訳で読んでおくとさらに有益であろう。

学修内容

1	第 1 編：Native American Literature (p.7)、第 2 編：John Smith (p.8) 、第 3 編：William Bradford (p.9) アメリカ「発見」初期の文学は、ノンフィクションあるいはドキュメント的なものが主である。北米先住民の口承文学や植民者の残した記録が、アメリカ文学の源流といえよう。 *The General History of Virginia, New England, and the Summer Isles* (p.8)からの抜粋を読んで、表現の特徴をまとめなさい。
2	第 5 編：Jonathan Edwards (p.11) 厳格なピューリタンは文学表現に多くの制約を与えるが、逆にその信仰が文学的想像力を発展させた側面もある。啓蒙主義などの近代化が進む潮流に抗いながら、ピューリタニズムの復権を目指したのが、エドワーズである。 “Sinners in the Hands of an Angry God” (p.15)からの抜粋を読んで、表現の特徴をまとめなさい。
3	第 6 編：Benjamin Franklin (p.12) 18 世紀に入ると啓蒙主義がアメリカにも広がりを見せる。近代的思考方法である啓蒙主義と、後に資本主義や民主主義に通じる政治理念を普及させたのが、フランクリンである。 *The Autobiography* (p.12)からの抜粋を読んで、表現の特徴をまとめなさい。
4	第 7 編：Charles Brockden Brown (p.13) 18 世紀末に「アメリカン・ゴシックの父」と称されるブラウンが登場する。ヨーロッパの伝統的なゴシック小説の影響を受けながらも、アメリカを舞台とした恐怖小説を書き、「アメリカらしさ」を作品に示した。 *Edgar Huntly* (p.13)からの抜粋を読んで、表現の特徴をまとめなさい。
5	第 8 編：Washington Irving (p.14)、第 9 編：James Fenimore Cooper (p.15) 19 世紀初頭には、アメリカの自然を作品に取り入れて、アメリカ人として初めて国際的な名声を得たアーヴィングやアメリカの神話を創造したクーパーなどの作家が出現した。 *The Last of the Mohicans* (p.15)からの抜粋を読んで、表現の特徴をまとめなさい。
6	第 11 編：Edgar Allan Poe (p.17)、第 13 編：Henry David Thoreau (p.19)、第 14 編：Nathaniel Hawthorne (p.20)、第 15 編：Herman Melville (p.21) 19 世紀中葉には、アメリカ文学が飛躍的に成長し、この時期は「アメリカン・ルネッサンス」と呼ばれた。ポー、ソロー、ホーソーン、メルヴィルが代表的な作家である。 *Walden* (p.19) からの抜粋を読んで、表現の特徴をまとめなさい。
7	第 16 編：Walt Whitman (p.22)、第 17 編：Emily Dickinson (p.23) 詩の世界においては、伝統に束縛されない内容と形式で、アメリカの自由・平等・民主主義の理想を歌いあげる作家が現れた。特に、ウォルト・ホイットマンやエミリー・ディキンソンなどは、同時代に認められることは少なかったが、20 世紀に入ってから大いに評価されるようになった。 *Leaves of Grass* (p.22) からの抜粋を読んで、表現の特徴をまとめなさい。
8	第 18 編：Mark Twain (p.24)、第 19 編：Henry James (p.25) 19 世紀後半になると、ロマンスが衰えてリアリズム小説が出現した。トウェイン、ジェイムズが代表的な作家である。 *Adventures of Huckleberry Finn* (p.24)からの抜粋を読んで、表現の特徴をまとめなさい。
9	第 20 編：Stephen Crane (p.26)、第 21 編：Theodore Dreiser (p.27) ダーウィンの進化論やスペンサーの社会進化論の影響を受けた自然主義小説があらわれ、リアリズムの領域を広げた。クレインやドライサーが代表的な作家である。 *Sister Carrie* (p.27) からの抜粋を読んで、表現の特徴をまとめなさい。
10	第 23 編：Sherwood Anderson (p.29) 19 世紀末から 20 世紀にかけて、中西部はめざましい発展 をとげたが、この転換期に生じた地域の問題と取り組んだ地方小説が生まれ、リアリズムをさらに発展させた。アンダーソンが代表的な作家である。 “Paper Pills” (p.29) からの抜粋を読んで、表現の特徴をまとめなさい。
11	第 27 編：F. Scott Fitzgerald (p.33)、第 28 編：Ernest Hemingway (p.34) 、第 29 編：William Faulkner (p.35) 第一次大戦後、戦争体験によって既存の理想や価値観に不信感を抱いて、新しい生き方を求めたロスト・ジェネレーションと呼ばれる若い世代の小説が生まれた。フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、フォークナーが代表的な作家である。 “Big Two-Hearted River” (p.34) からの抜粋を読んで、表現の特徴をまとめなさい。
12	第 30 編：John Steinbeck (p.36) 1930 年代には、大恐慌のため経済危機に見舞われて、社会意識の強い小説が目立つようになった。代表的な作家がスタインベックである。 “The Chrysanthemums” (p.36) からの抜粋を読んで、表現の特徴をまとめなさい。
13	第 31 編：J. D. Salinger (p.37)、第 33 編：Saul Bellow (p.39) 第二次大戦後には、黒人、ユダヤ系、アジア系の作家のエスニック小説が興隆し、ノーベル賞受賞者も生まれた。代表的な作家がサリンジャー、ベローである。

14	第 38 編 : John Barth (p.44)、第 39 編 : Thomas Pynchon (p.45) 1970 年代になると、伝統的なリアリズムに対抗した小説形式を求めて、超現実的な手法やパロディを使用するなど前衛的な実験を試みたポストモダンと呼ばれる作家がでてきた。代表的な作家がバースやピンチョンである。 *Gravity's Rainbow* (p.45) からの抜粋を読んで、表現の特徴をまとめなさい。
15	第 40 編 : Toni Morrison (p.46) 黒人文学においては、黒人の抵抗文学の伝統から飛躍を目指した。特にトニ・モリソンやアリス・ウォーカーなどの黒人女性作家が活躍し、ノーベル文学賞を受賞するほどの卓越したレベルにまで到達した。 *The Bluest Eye* (p.46) からの抜粋を読んで、表現の特徴をまとめなさい。
学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞ A（100 点～90 点） B+（89 点～80 点） B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 Washington Irving 及び James Fenimore Cooper の人物と主要作品について述べよ。

＜ポイント＞
Irving と Cooper はどのような人生を送り、どのような作品を書いたのか（主要作品でよい）を調べてまとめること。教科書は情報が少ないので、参考文献に挙げた文学史等を参照すること。

科目終了試験学修のポイント

１．Edgar Allan Poe 及び Herman Melville の人物と主要作品について
＜ポイント＞
Poe の作品は、幻想・恐怖小説、推理小説、SF に分類されるが、ゴシック的な雰囲気の中で、美を追求し、非現実的な世界を作りだした。捕鯨船の船員としての生活や食人種との生活体験の影響から、Melville の作品には文明の名のもとに人間を奴隷化してゆく不条理なものの存在が読み取れる。

２．Henry David Thoreau 及び Nathaniel Hawthorne の人物と主要作品について
＜ポイント＞
Thoreau は、アメリカの思想家 Emerson の自己信頼の思想を森の中の生活をとおして体現した作家であった。Hawthorne は、カルヴィン主義の原罪意識からくる罪と死の問題に深い関心を抱いて人間の暗い面を描いたが、これは１７世紀にアメリカに移住した先祖が有名なセイレムの魔女裁判の判事であったことと無縁ではない。

３．Mark Twain 及び Henry James の人物と主要作品について
＜ポイント＞
Twain は、アメリカ口語文体の創始者といわれ、大人の社会の醜さ、文明社会の偽善、社会の不正に対する批判が作品に認められる。従来の小説は作家が作中人物を操り人形のように動かしたが、James は視点的人物を設定し、その人物の意識や心理を通して物語を進め、近代心理小説の先駆者といわれる。

４．F. S. Fitzgerald 及び Ernest Hemingway の人物と主要作品について
＜ポイント＞
Fitzgerald は、アメリカの成功の夢や狂乱の２０年代と呼ばれたジャズエイジと結び付けられる作品が多い。Hemingway は、ロスト・ジェネレーションという言葉を流行させた作品で一躍有名になった作家であり、ハードボイルドの文体を創始した。

５．William Faulkner 及び John Steinbeck の人物と主要作品について
＜ポイント＞
Faulkner は、南部を舞台に人種と雑婚という血の問題をかかえた南部の宿命を独自の「意識の流れ」の手法を用いて描いた。Steinbeck は、カリフォルニアを舞台に自然主義、ロマン主義、神秘主義、科学などの要素を共存させた作品を書いた。

６．J. D. Salinger 及び Saul Bellow の人物と主要作品について
＜ポイント＞
Salinger は、若者の成長を歯切れのよい口語体で描いた作品、禅思想へ傾斜した作品、家族愛を描いた作品が特徴である。Bellow は、アメリカのユダヤ人やユダヤ人社会を題材にして、ユダヤ的なものとアメリカ的なものを融合した作品を書いた。

教科書

井上謙治『アメリカ文学概観』南雲堂。

参考文献

板橋好枝、他編『はじめて学ぶ　アメリカ文学史』ミネルヴァ書房。
別府恵子、他編『新版　アメリカ文学史』ミネルヴァ書房。
大橋健三郎、他編『総説　アメリカ文学史』研究社。
井上謙治『アメリカ小説入門』研究社。相島倫嘉『イギリス文学の流れ』南雲堂。

科目コード	保育カリキュラム論／保育・教育課程論（２単位）	登録年次	履修方法
4593/4594 6560/6561		３年	R
教員名	河合光利、関口はつ江、戸田大樹、戸次佳子、矢野景子、山口悠紀子		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム･マネジメントを含む。)		

科目概要・到達目標

乳幼児保育における長期的見通し、保育担当者の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を扱う。また、「計画・実践・反省・計画の改善」の関連性についての事例を理解するとともに、保育の省察から子ども理解と保育の見直しについて掘り下げ、一人ひとりに即した保育の実践能力を培う。

学修内容

1	保育における計画の重要性を理解する。 ・「カリキュラム」、「教育課程・保育課程」の意味することを理解する。
2	幼児期の学習の特質を理解する。 ・遊び、生活を通しての学びと系統的な学習との違いと関連を理解する。
3	経験カリキュラムと系統的カリキュラム ・カリキュラムにおける系統性と子どもの経験との関連を理解する。
4	幼稚園における教育課程の意義と編成の基本の理解 ・教育課程に関する法律と教育課程編成のしかたを理解する。
5	保育所における保育課程の意義と編成の基本の理解 ・保育課程の編成内容（養護と教育、家庭との連携等）を理解する。
6	教育課程・保育課程の編成の実際 ・教育・保育課程編成の手順、形式、記入内容を例を通して理解する。
7	教育課程・保育課程と指導計画の関係 ・指導計画の必要性。教育課程・保育課程から指導計画をどうのように作成するかを理解する。
8	幼稚園における長期指導計画 ・幼稚園における年間、期間、月の計画の目的内容を理解し、事例を参考に作成してみる。
9	保育園における長期指導計画 ・保育園における年間、期間、月の計画の目的内容を理解し、事例を参考に作成してみる。
10	幼稚園における短期指導計画 ・幼稚園における週案、週日案、日案の目的と内容を理解し、事例を参考に作成してみる。
11	保育園における短期指導計画 ・保育園における週案、週日案、日案の目的と内容を理解し、事例を参考に作成してみる。
12	指導計画と保育実践 ・これまで学んだ指導計画作成上の配慮点から、計画を実践に移す際の配慮点をまとめ、さらにカリキュラム・マネジメントの方法と重要性を理解する。
13	保育の記録と反省 ・保育における記録の重要性と記録の仕方、及び月、週、日の保育の反省の仕方、反背の観点の違いを学ぶ。
14	保育の評価と計画の改善 ・長期計画、短期計画について、計画がどのように実践されたか、そこから次の計画をどう修正するかを事例を通して学ぶ。
15	教育課程・保育課程の展望 ・社会の保育ニーズ、保育制度の変化と教育課程・保育課程の内容との関連、他国の保育（教育）課程の考え方を考察する。

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　保育・教育課程の意義について述べよ。

＜ポイント＞
子どもの発達の連続性、保育者間の共通認識、地域や家庭との連携、小学校との連携視点から、教科書を参考にし、自らの考えも加えて述べること。

科目終了試験学修のポイント

１．保育における計画について
＜ポイント＞
保育における計画は、子どもの生活の流れを見通すもので、実態に即して柔軟に修正できるものであることを理解する。

２．幼児期の遊びと学びについて
＜ポイント＞
幼児の生活は遊びであり、その中に「生きる力の基礎」を含む学びがあり、子どもの主体的な経験がことのほか重要であることを理解する。

３．保育・教育課程の実施と指導計画の作成について
＜ポイント＞
保育・教育課程は全体計画であり、生活や子どもの育ちの方向を示すものであり、指導計画は実際に行う内容であることから、「計画」としての質が違うことを確認する。

４．指導計画作成の実際について
＜ポイント＞
指導計画作成は子どもの実際の活動、経験をイメージしながら、実践に結びつけやすく無理のないように具体的に作成することを確認し、自分で作成してみる。

５．保育における評価について
＜ポイント＞
保育の評価のためには記録が大切であり、評価は多角的に行い、結果よりも過程を重視し、子どもの立場から行うことが重要であることを理解する。

６．教育課程・保育課程の課題と展望について
＜ポイント＞
保育・教育課程は保育の場に対する社会の要求、期待、望ましい子ども像など、社会に共有されている価値観を反映しているものであり、保育制度の変化など保育の社会的役割の重要性を理解する。

教科書

神長美津子、他『乳幼児教育・保育シリーズ　教育課程論』 光生館。

参考文献

今井和子、他『独自性を活かした　保育課程に基づく指導計画』ミネルヴァ書房。
川邉貴子『教育課程　保育課程論』東京書籍。
幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

※科目コード2402：R履修／科目コード2403：ＳR履修

科目コード	保育原理（２単位）	登録年次	履修方法
2402/2403		１年	R/ＳR
教員名	氏家博子、岡林純子、小田義隆、小野孝美、駒井美智子、坂本真理子、鈴木美子、 戸田大樹、新川朋子、濱崎幸夫、堀建治、、御手洗和子、山口悠紀子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

乳幼児期が人間形成の基礎としてきわめて重要な意味を持つことは、諸科学の進歩とともにますます強調されている。特に自己を主張し始める乳幼児期にあっては、保育者の側に乳幼児に対する十分な理解と洞察がなければならない。そして保育者が保育実践の中で何をめざしているのか目的をしっかり持つことが重要である。本科目では、保育の歴史と現状、意義、課題、基本的原理、さまざまな保育思想などの基本知識を学びながら、確かな保育観、子ども観、あるいは発達観を築く。

学修内容

1	シラバスの確認 学修内容の１～15及びレポート設題・科目終了試験学修のポイントを確認する。「保育原理」の全体像を理解する。
2	保育とは 自分自身が考える保育とは何か？ノートにまとめてみる。
3	保育の歴史について学ぶ（1）西洋近代の保育思想 西洋近代保育思想家やその思想をノートにまとめる。
4	保育の歴史について学ぶ（2）保育施設のはじまり 保育施設の変遷についてノートにまとめる。
5	保育所・幼稚園・認定こども園の歩み 保育所・幼稚園・認定こども園を表に書いてまとめる。
6	乳幼児期の発達と子どもの生活 乳幼児の発達過程について。乳幼児期の発達と子どもの生活について整理し、まとめる。
7	保育の計画及び評価 保育計画・指導計画とは何か？ポイントを整理する。
8	これからの保育者①これからの保育者 保育者の役割について考えてみる。保育者の機能・役割について大切なポイントをまとめる。
9	これからの保育者②バランスのとれた管理と支援 保育者の課題について考えてみる。管理と支援についてまとめる。
10	子育て支援①子育て支援が求められるのはなぜか 子育て支援について考える。
11	子育て支援②地域の子育て支援の役割 地域の子育て支援には何があるのか、子育てと地域の関係を整理する。
12	子育て支援③保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援 各保育施設における子育て支援の特徴を整理し、まとめる。
13	これからの保育の課題①多様な保育ニーズに対する国の施策②延長保育・一時保育 保育における社会情勢を考える。保育の課題を整理し、まとめる。
14	保育形態について調べまとめる 例：統合保育、自由保育、縦割り保育、僻地保育の保育活動
15	現代社会での子どもを取り巻く環境についての問題点を取り上げ、その解決について考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 保育における遊びの重要性について述べよ。

＜ポイント＞

遊びは課題活動や仕事とどう違うのか。なぜ「子どもの生活は遊びである」と言われるのかなど、子どもの遊びの特質を明らかにする。また、子どもが遊びの中で体験、学習している事をとらえ、その上で保育が「遊びを通して行われること」の大切さを述べる。

科目終了試験学修のポイント

1．保育の歴史的変遷について

＜ポイント＞

保育はいつ誕生したのか、そしてどのような変遷を経て現代の保育体制になったのか。

2．フレーベルの思想について

＜ポイント＞

フーベルの子ども（人間）についての考え方、及び幼稚園の創設、恩物の考案などの実践から思想の内容を具体的にとらえる。

3．わが国の現行保育制度の概要について

＜ポイント＞

「子ども子育て支援新制度」によって施行されている保育施設を整理する。保育所、幼稚園、認定こども園のほか、諸地域型保育施設の対象年齢、目的等制度の全体像を理解する。

4．保育における養護と教育について

＜ポイント＞

養護と教育の違いと関連は保育所保育指針に示されている。要点と共に具体例で説明する。

5．環境を通しての教育とは

＜ポイント＞

幼稚園教育要領総則の内容を理解し、子どもの発達的特徴から環境の役割、保育の計画における環境の設定の重要性などを述べる。

6．保育における人的環境について

＜ポイント＞

人的環境は保育者（おとな）、クラス集団（子ども）、その他保育を取りまく人々を含む。保育者の役割の多面性や相互関係が個人に及ぼす影響などから人間関係の重要性を考える。

教科書

佐藤康富『新しい保育原理』大学図書出版。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針　平成29年告示』。
文部科学省『幼稚園教育要領　平成29年告示』。
柴崎正行『保育方法の探求』建帛社。
待井和江『現代の保育学④　保育原理』ミネルヴァ書房。

※科目コード2400：登録年次２年、Ｒ履修／科目コード2401：登録年次１年、ＳＲ履修

科目コード	保育原理（４単位）	登録年次	履修方法
2400/2401		２年/１年	R/SR
教員名	氏家博子、岡林純子、小田義隆、小野孝美、駒井美智子、坂本真理子、鈴木美子、 戸田大樹、新川朋子、濱崎幸夫、堀建治、、御手洗和子、山口悠紀子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

乳幼児期が人間形成の基礎としてきわめて重要な意味を持つことは、諸科学の進歩とともにますます強調されている。特に自己を主張し始める乳幼児期にあっては、保育者の側に乳幼児に対する十分な理解と洞察がなければならない。そして保育者が保育実践の中で何をめざしているのか目的をしっかり持つことが重要である。

本科目では、保育の歴史と現状、意義、課題、基本的原理、さまざまな保育思想などの基本知識を学びながら、確かな保育観、子ども観、あるいは発達観を築く。

学修内容

1	シラバスの確認 学修内容の１～15及びレポート設題・科目終了試験学修のポイントを確認する。「保育原理」の全体像を理解する。
2	保育とは 自分自身が考える保育とは何か？ノートにまとめてみる。
3	保育の歴史について学ぶ（1）西洋近代の保育思想 西洋近代保育思想家やその思想をノートにまとめる。
4	保育の歴史について学ぶ（2）保育施設のはじまり 保育施設の変遷についてノートにまとめる。
5	保育所・幼稚園・認定こども園の歩み 保育所・幼稚園・認定こども園を表に書いてまとめる。
6	乳幼児期の発達と子どもの生活 乳幼児の発達過程について。乳幼児期の発達と子どもの生活について整理し、まとめる。
7	保育の計画及び評価 保育計画・指導計画とは何か？ポイントを整理する。
8	これからの保育者①これからの保育者 保育者の役割について考えてみる。保育者の機能・役割について大切なポイントをまとめる。
9	これからの保育者②バランスのとれた管理と支援 保育者の課題について考えてみる。管理と支援についてまとめる。
10	子育て支援①子育て支援が求められるのはなぜか 子育て支援について考える。
11	子育て支援②地域の子育て支援の役割 地域の子育て支援には何があるのか、子育てと地域の関係を整理する。
12	子育て支援③保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援 各保育施設における子育て支援の特徴を整理し、まとめる。
13	これからの保育の課題①多様な保育ニーズに対する国の施策②延長保育・一時保育 保育における社会情勢を考える。保育の課題を整理し、まとめる。
14	保育形態について調べまとめる 例：統合保育、自由保育、縦割り保育、僻地保育の保育活動
15	現代社会での子どもを取り巻く環境についての問題点を取り上げ、その解決について考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 「保育」とは何かについて論ぜよ。

＜ポイント＞

保育の捉え方や保育の専門性などにも言及し、現代における保育のあり方をあなたなりに考察すること。

【設題2】 保育の現状と課題について述べよ。

＜ポイント＞

社会の変化により様々な形態の保育へのニーズが高まってきている。社会的背景や現状における問題点を具体的に挙げて述べること。その上で、保育者に求められることは何かを考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．保育の歴史的変遷について

＜ポイント＞

保育はいつ誕生したのか、そしてどのような変遷を経て現代の保育体制になったのか。

2．保育の基本と保育内容・方法について

＜ポイント＞

保育の基本とは何か。保育者の保育行為、保育内容、保育活動とは。

3．保育における「教育」と「養護」の機能について

＜ポイント＞

養護と教育の一体化とは何を意味するのか。

4．幼稚園と保育所・認定こども園の相違について

＜ポイント＞

幼稚園の特徴・保育所の特徴および認定こども園の特徴を整理する。それぞれの管轄を把握する。

5．保育内容の「5領域」とは

＜ポイント＞

保育内容の各領域について理解する。また、どのような観点から「5領域」となったのか理解する。

6．保育者の専門性とは

＜ポイント＞

保育者が保育者であるためにはどのような専門性を持てばよいのか。

教科書

佐藤康富『新しい保育原理』大学図書出版。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針　平成29年告示』。
文部科学省『幼稚園教育要領　平成29年告示』。
柴崎正行『保育方法の探求』建帛社。
待井和江『現代の保育学④　保育原理』ミネルヴァ書房。

科目コード	保育実習事後指導Ⅰ（保育所・施設）（１単位）	登録年次	履修方法
7900		３年	S
教員名	氏家博子、岡林純子、小野孝美、加藤博子、河合光利、駒井美智子、齋藤厚子、 玉野井サダメ、畠山むつ実、堀建治、松本紀美枝、御手洗和子、山崎摂史		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

保育実習Ⅰでの総括・評価を行い、それを踏まえて保育実習Ⅱ（Ⅲ）に向けた学修目標・課題を明確化する。

１．保育実習Ⅰで生じた疑問点を解消する。

２．保育実習Ⅰの反省と自己課題を明確にする。

３．保育者に求められる資質・能力について理解する。

※本スクーリングは保育実習Ⅰ実施後、保育実習Ⅱ（Ⅲ）実施前に受講する。

学修内容

1	保育所実習の目的、意義を再確認する
2	自己の実習を振り返る（保育所実習）…実習ノートから 課題の達成状況、印象に残った出来事・体験を整理する。
3	部分実習・責任実習の指導案の実践について振り返る
4	施設概要をふまえ、施設実習の目的、意義を再確認する
5	自己の実習を振り返る（施設実習）…実習ノートから 課題の達成状況、印象に残った出来事・体験を整理する。
6	自己の保育技術についての反省・考察 次回の実習への準備…実習後の自己課題について
7	１～６の学修内容について、スクーリング時に発表できるようにまとめを行う。
8	保育現場に関する視聴覚教材を参考に、保育環境、子どもの人間関係、保育者の援助について学ぶ。 また、子どもを理解する大切さを知る。
9	子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する（０～２歳）
10	子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する（３～５歳）
11	保育技術の修得 教材研究（絵本、紙芝居、折り紙、手遊び等）
12	保育士の専門性について考察する（１） 保育士の専門性とは何か。
13	保育士の専門性について考察する（２） これからの保育者に求められるものとは何か。
14	保育士をとりまく今後の課題について 子育て支援・家庭支援、地域に根ざした保育所とは。
15	実習現場から得られた学びと、この科目の学修で得た新たな保育観についてまとめ、次回の実習における課題を明確にする。

教科書

関口はつ江　編『学びをいかす保育実習ハンドブック』大学図書出版。

駒井美智子『施設実習ガイド―保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。

参考文献

河邉貴子、他『保育・教育実習　フィールドで遊ぼう』同文書院。

森上史朗、他『新・保育講座１２　幼稚園実習 保育所・施設実習』ミネルヴァ書房。

科目コード	保育実習事後指導Ⅱ（保育所）（１単位）	登録年次	履修方法
7920		３年	S
教員名	氏家博子、小野孝美、加藤博子、河合光利、駒井美智子		

科目概要

保育実習Ⅱでの総括・評価を行い、それを踏まえて今後の学修目標・課題を明確化する。

※本スクーリングは保育実習Ⅱを実施した後に受講すること。

学修内容

1	保育実習による総合的な学び（1） 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
2	保育実習による総合的な学び（2） 子どもの保育と保護者支援
3	保育実習による総合的な学び（3） 保育所施設の特徴
4	保育実践力の育成（1） 子どもの状態に応じた適切なかかわり
5	保育実践力の育成（2） 保育の表現技術の応用
6	保育実践力の育成（3） 特別な配慮を必要とする子どもへの保育の実際
7	実習施設における指導（1） 保育士が果たす役割の理解
8	実習施設における指導（2） 利用する子どもの特徴の理解とかかわりの検討
9	保育実習からの学びと課題（1） 子どもの姿・保育者の仕事
10	保育実習からの学びと課題（2） 基本的側面・事実の記録・考察の深まりから
11	保育実習からの学びと課題（3） 子育て支援 - 延長保育・一時保育等 -
12	事後指導における実習の総括と評価（1） 実習の総括と自己評価
13	事後指導における実習の総括と評価（2）保育現場に求められるもの 生活に関する技術について
14	事後指導における実習の総括と評価（3）保育現場に求められるもの グループディスカッションによる課題の整理
15	事後指導における実習の総括と評価（4）保育現場に求められるもの グループディスカッションによる課題の整理及び発表

スクーリング課題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき１枚	横書	指定書式（実習報告書）

【設題１】自分の実習の体験を振り返って、実習報告書を作成せよ。

＜注意事項＞
- 本科目のスクーリング課題は、スクーリング中に作成・提出すること。草稿の準備はスクーリング前に行い、スクーリング中の指導や実習の振り返りを具体的に反映させて原稿を完成させること。
- スクーリング課題が提出されない場合、実習の単位認定は行われない。
- 指定書式「実習報告書」を使用すること。
- 作成・提出にあたっては、別途配付する『福祉・保育実習の手引き』を丁寧に読み参照すること。

教科書

関口はつ江　監修・太田節子　編集『Q&A で学ぶ保育・教育実習』サンウェイ出版。

参考文献

河邉貴子、他『保育・教育実習　フィールドで遊ぼう』同文書院。

青木久子『子どもに生きる』萌文書林。

科目コード	保育実習事後指導Ⅲ（施設）（１単位）	登録年次	履修方法
7940		３年	S
教員名	小野孝美、河合光利、駒井美智子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

保育実習Ⅲでの総括・評価を行い、それを踏まえて今後の学修目標・課題を明確化する。

１．保育実習Ⅲで生じた疑問点を解消する。

２．保育実習Ⅲの反省と自己課題を明確にする。

３．利用者への理解と援助技術について理解する。

４．保育者論について学ぶ。

※本スクーリングは保育実習Ⅲを実施した後に受講すること。

学修内容

1	保育実習の時期及び準備等〔実習の手引き〕の反省と課題
2	保育所実習Ⅲの目的 福祉施設実習の意義・福祉施設実習の意義の確認
3	福祉施設実習の保育士の役割・福祉施設の専門職について
4	福祉施設実習の実習生の立場と心構えについて
5	事前の施設訪問・施設見学について・実習計画
6	実習期間中の流れ・観察実習の内容
7	参加実習の内容・指導実習の内容・記録の意味の確認
8	実習日誌の書き方・実習施設での問題点と課題
9	施設別の実習の内容と問題点と課題（各自）①・・保育者の機能について
10	施設別の実習の内容と問題点と課題（各自）②・・保育者の役割について
11	施設別の実習の内容と問題点と課題（各自）③・・子どもと利用者との関わりと職員の関わりについて
12	各福祉施設実習での指導実習企画・計画①（各自）・・観察実習の課題
13	各福祉施設実習での指導実習企画・計画①（各自）・・部分実習の課題
14	各福祉施設実習での指導実習企画･計画①(各自･発表)･･保育者としての「良いモデルとは」受容と傾聴
15	施設別の実習の内容と問題点と課題（各自）まとめ・・今後の問題点と課題についてまとめる。

スクーリング課題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき１枚	横書	指定書式（実習報告書）

【設題１】自分の施設実習の体験を振り返って、実習報告書を丁寧に作成せよ。

＜注意事項＞

・本科目のスクーリング課題は、スクーリング中に作成・提出すること。草稿の準備はスクーリング前に行い、スクーリング中の指導や実習の振り返りを具体的に反映させて原稿を完成させること。

・スクーリング課題が提出されない場合、実習の単位認定は行われない。

・指定書式「実習報告書」を使用すること。

・作成・提出にあたっては、別途配付する『福祉・保育実習の手引き』を丁寧に読み参照すること。

教科書

駒井美智子『施設実習ガイド―保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。

参考文献

岡本幹彦『福祉施設実習ハンドブック』みらい社。

科目コード	保育実習事前指導Ⅰ（保育所・施設）（１単位）	登録年次	履修方法
7890		２年	S
教員名	氏家博子、岡林純子、小野孝美、加藤博子、河合光利、駒井美智子、齋藤厚子、 玉野井サダメ、仁藤喜久子、畠山むつ実、堀建治、松本紀美枝、山口悠紀子、山崎摂史		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

保育実習の意義･目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。保育演習を通して、保育場面のなかでの留意するべき事柄を確認する。

１．保育実習の意義・目的を理解する。
２．保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。
３．保育者としての心構えや態度を学ぶ。
４．保育技術を習得する。
５．実習記録の記入方法・内容を理解する。
６．指導案を理解し、立案する。（主として部分実習）

学修内容

1	『保育実習の学習ガイド』をよく読み、保育実習の意義・目的を理解する。 実習事前に提出すべき申請書類、実習施設についての情報等を確認する。
2	保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。 実習に向けて、日常生活における挨拶や言葉遣いなど、望まれる基本的態度を実践できるようにする。
3	施設実習を行う施設の機能、社会的役割、一日の流れなどを教科書や参考書、施設のホームページ等から確認する。 施設の実習日誌を確認し、事前に書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。
4	保育所実習を行う保育所の機能、社会的役割、一日の流れなどを教科書や参考書、保育所のホームページ等から確認する。 保育所の実習日誌を確認し、事前に書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。 実習の自己課題を明確にし、１２日間の前半、中間、後半に分けてそれぞれの実習のねらいを複数立てる。
5	施設及び保育所の実習日誌の書き方や記録する際に必要な留意点について学ぶ。 保育課程、指導計画の意義・目的を復習し、指導案の書き方について学ぶ。
6	実際に指導案を作成する。複数の年齢、テーマ毎に作成し、望ましい書き方を学ぶ。
7	保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。 手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等を演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。（1）
8	保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。 手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等を演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。（2）
9	自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。（1）
10	自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。（2）
11	自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。（3）
12	模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。（1）
13	模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。（2）
14	これまでの学修を総点検し、いつでも自身の力を十分発揮できるよう準備をしておく。
15	実習直前に向けて、実習施設の情報、提出書類、持参すべき持ち物を確認し、体調管理を完璧にし、実習への準備を万全にする。

教科書

関口はつ江　編『学びをいかす保育実習ハンドブック』大学図書出版。
駒井美智子『施設実習ガイド―保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。

参考文献

河邉貴子、他『保育・教育実習　フィールドで遊ぼう』同文書院。
鈴木みゆき、他『最新・保育実習まるごと Book』小学館。
久富陽子『幼稚園・保育所実習　指導計画の考え方・立て方』萌文書林。

科目コード	保育実習事前指導Ⅱ（保育所）（１単位）	登録年次	履修方法
7910		３年	S
教員名	氏家博子、小野孝美、加藤博子、河合光利、駒井美智子、堀建治		

科目概要

保育実習の意義･目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。保育演習を通して、保育場面のなかでの留意するべき事柄を確認する。

※本スクーリングは実習施設決定後、保育実習Ⅰ実施前に受講する
※保育実習Ⅱを選択する学生はこの事前指導Ⅱを受講すること。

学修内容

1	授業の概要と学習態度について・保育実習の時期及び準備等〔実習の手引き〕
2	どうして実習が必要なのか。 実習を通して学ぶ・目的と確認
3	実習生とは - ワークシートを通して - 実習生の心得・実習生の基本的マナー
4	幼稚園・保育園 保育内容の違い・一日の流れの違い・共通点
5	保育者に望まれる資質とは - ワークシートを通して - 子どもの心を支える保育者・生活文化を伝達する保育者
6	実習日誌（1） 実習日誌の必要性・作成のポイント
7	実習日誌（2） - ワークシートを通して - 形式と内容・記録の取り方
8	実習日誌（3） 実践に備えて、手書きに慣れる
9	部分実習と責任実習の違い 指導計画の理解と記述方法
10	部分実習に備えて（1） 部分実習指導案作成のポイント・環境構成図等
11	部分実習に備えて（2） 指導案の作成の実際
12	部分実習に備えて（3） 指導案の基，模擬保育・振り返りと課題
13	責任実習に備えて（4） 模擬保育・振り返りと課題
14	責任実習に備えて（5） 模擬保育・振り返りと課題
15	まとめ 振り返り，グループディスカッションによる自己課題の抽出

スクーリング課題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1施設につき2枚	横書	指定書式 (保育所概要、学習課題・実習計画)

【設題1】

自分が実習を予定している保育所について、それぞれ「保育所概要」「実習課題・実習計画」をまとめ、実習生として保育所で自分が何を学ぶか、これまでの学修や自分の体験もふまえて、具体的に述べよ。

＜注意事項＞

・スクーリング受講後から実習開始2週間前を目安に提出すること 。スクーリング課題が提出されない場合、実習の実施は認められない。なお、草稿の準備はスクーリング前に行い、スクーリング中の指導を具体的に反映させて原稿を完成させること。
・実習予定施設への訪問等によって得た資料をもとに作成し、資料は添付すること。
・指定書式「保育所概要」「実習課題・実習計画」を使用すること。
・作成、提出にあたっては、別途配付する『福祉・保育実習の手引き』を参照すること。

教科書

関口はつ江　監修・太田節子　編集『Q&A で学ぶ保育・教育実習』サンウェイ出版。

参考文献

河邉貴子、他『保育・教育実習　フィールドで遊ぼう』同文書院。
鈴木みゆき、他『最新・保育実習まるごと Book』小学館。
久富陽子『幼稚園・保育所実習　指導計画の考え方・立て方』萌文書林。

科目コード	保育実習事前指導Ⅲ（施設）（１単位）	登録年次	履修方法
7930		３年	S
教員名	小野孝美、河合光利、駒井美智子、堀建治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

保育実習の意義･目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。保育演習を通して、保育場面のなかでの留意するべき事柄を確認する。

※本スクーリングは実習施設決定後、保育実習Ⅰ実施前に受講する。

※保育実習Ⅲを選択する学生はこの事前指導Ⅲを受講すること。

学修内容

1	施設の概要と学習態度について ・保育実習授業の時期及び準備等〔実習の手引き〕
2	第１章　福祉施設実習とは ①実習の意義　②実習の目的　③実習の理解
3	第１章　福祉施設実習とは・　④福祉施設の子どもたち・⑤福祉施設保育士の役割⑥専門職とは
4	第２章　福祉施設実習への事前学習・①子どもに対する態度・行動・②施設の職員に対する態度・行動 ③プライバシーの厳守　④電話の基本マナーと実際の流れ
5	第２章　福祉施設実習への事前学習・⑤実習事前訪問⑥実習計画⑦基本的な生活習慣
6	第３章保育士と権利保障、ソーシャルワーク・①家庭の権利保障②・ソーシャルワークとは
7	第４施設別の実習内容・③実習記録の意味　④実習日誌の書き方
8	第４章　施設別の実習の内容・①乳児院の実習　②児童養護施設の実習 ③母子生活支援での実習④児童自立支援施設での実習
9	第４章　施設別の実習の内容・⑤児童相談所での実習⑥知的障がい施設での実習⑦視覚・聴覚施設での実習
10	第４章　施設別の実習の内容 ⑧肢体不自由児施設での実習⑨重症心身障がい施設での実習⑩情緒障がい施設での実習
11	第５章児童福祉施設実習事後の振り返り
12	―部分実習・責任実習への対応― 保育力とは何かを学修する。幼児文化教材を実践する。（ペープサート・絵本等）
13	施設実習に行く心構えについて（目標・目的の確認）①
14	施設実習に行く心構えについて(目標･目的の確認)②
15	施設実習に行く前の準備確認と意欲のありかたについて確認。

スクーリング課題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１施設につき２枚	横書	指定書式 (施設概要、学習課題・実習計画)

【設題１】

自分が実習を予定している施設について、それぞれ「施設概要」「実習課題・実習計画」をまとめ、実習生として施設で自分が何を学ぶか、これまでの学修や自分の体験もふまえて、具体的に述べよ。

＜注意事項＞

・スクーリング受講後から実習開始２週間前を目安に提出すること 。スクーリング課題が提出されない場合、実習の実施は認められない。なお、草稿の準備はスクーリング前に行い、スクーリング中の指導を具体的に反映させて原稿を完成させること。

・実習予定施設への訪問等によって得た資料をもとに作成し、資料は添付すること。

・指定書式「施設概要」「実習課題・実習計画」を使用すること。

・作成、提出にあたっては、別途配付する『福祉・保育実習の手引き』を参照すること。

教科書

駒井美智子編『施設実習ガイド―保育者として成長するための事前事後指導学習』萌文書林。

参考文献

高橋貴志編『現代保育者入門―保育者をめざす人たちへ―』大学図書出版。

科目コード	保育実践演習（２単位）	登録年次	履修方法
7970		４年	ＳＲ
教員名	氏家博子、太田節子、岡野雅子、小野孝美、加藤博子、駒井美智子、戸田大樹、持田京子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

本科目は、これまで修得した保育の専門知識の振り返りによって保育の専門的基礎力の定着を図ること、及び専門的知識技能の実践への応用、課題解決能力を高めることの二点が目標になっている。ここでは前者を踏まえながらも後者を中心に現在の保育実践上の課題、子どもや子育てに関わる環境上の諸問題を自ら発見し、その改善に向けての方策を考え、実行することができるよう、問題発見能力、課題解決能力、実践への積極的態度を養う。そのために現在の保育問題（少子化、保育制度、子育て支援、幼小連携等）を調べたり、実践法を工夫するなど、身近な具体的課題を設定し、グループ討議、研究発表、レポート作成等を行う。

学修内容

1	保育の基礎：教科書第１章１節を読んで、「保育」の意味、保育をするとはどのようなことか、保育者の責任と倫理を理解する。
2	子どもの最善の利益を考慮した保育：「現在は子どもの最善の利益を考慮した保育」がキーワードであるが、その意味を考え、保育者としての使命はどのようなことか、実現における問題点は何かを考える。　（教科書第１章　５節）
3	社会の現状と子育ての上の問題①日本の子育て環境の問題点について：少子高齢化社会、学歴社会、伝統的な子育て観、ライフワークバランス問題等)を新聞、雑誌その他の最新資料から集めて、整理する。　（教科書第１章　２節）
4	社会の現状と子育ての上の問題②日本の保育制度の問題点について：保育経営者、保育者、保護者の立場から考えたり、意見交換をする。または実際に面接調査などを行う。　（教科書　第１章　３節４節）
5	保育の原点：保育者の専門的視点からの子どもの捉え方、社会的役割について考える。一般的な考え方、他の専門的立場による考え方との違いを確認する。（教科書　第２章　１節２節）
6	保育実践の基本①　子どもの安全、安全、遊び：乳児保育における保育者の気配り、保育の時間的空間的死角、安全確保のための心構え、保育者の連携等についてまとめる。できれば実際の保育現場でどのような工夫をしているかを学ぶ。 （教科書　第２章　３節）
7	保育実践の基本②　子どもの活動発展：　子どもの自発的活動を発展させるための環境構成を、教科書の例、視聴覚教材、保育現場の観察から学び、まとめる。　（教科書　第２章　４節）
8	保育実践の基本③　保育の計画－実践―振り返り：保育の展開は「計画、実践、振りかえり」の連続であること、実践の見直しから子ども理解、活動の状況の受け止め方を深める。活動を充実させるための手立てを考えだす過程について具体的に考える （教科書　第２章　４節５節）
9	保育者としての実践力①保育者としての基本的なふるまい方（公平性、正確性、相手への尊重、社会的マナー、生活習慣、言葉遣い等）：保育場面を限定してロールプレイをし、自己反省をする。
10	保育者としての実践力②子どもの内面理解と受容：信頼関係の形成の重要性を確認し、かかわりの実際事例を幾通りも考え、その効果を考察する。（教科書　第３章　第４章の事例を参考にする）
11	保育者としての実践力③子どもの活動発展のためのかかわり：物の活用、共感、参加、誘導などを、具体的場面を想定して考え、多様な観点から考察する。（教科書　第３章　第４章の事例を参考にする）
12	保育者としての実践力④　保育者としての実践力⑤保育教材の創意工夫：身近な材料を用いて手作り教材を手軽に作成する習慣を作る。（子どもと一緒に作るもの、遊びの媒介になるもの、絵本やパネルシアターなど児童文化教材など）
13	保育者としての向上①　世界の保育思想と自分の保育観、子ども観：　近代以降の保育思想の流れ、及び保育実践法の現代の保育実践法への影響を理解して自分の子ども観、保育観の根拠を探る。保育者としてあるべき姿について確認する。 （教科書　第５章）
14	保育者としての向上②　日本の保育の歴史と現代の保育者の役割：我が国の保育を支えた先人の思想、実践の理解の上に立って、我が国の子育て状況、保育制度において期待されている保育者としての責務について考察する。（教科書　第６章）
15	保育者としての向上：保育の世界の動向、重要性の確認から、保育者としての自己課題、互いの長所短所の整理などを通して、保育者としての自覚を高める。（教科書　第７章）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】次のような観点から，自分で具体的な課題を設定し，レポートを作成する。
①子ども主体の保育、環境による保育実践の基本。
②現行保育制度度（保育園、幼稚園、認定子ども園）の問題点。

＜ポイント＞
課題は具体的であること。
例）○○市における子育て支援センターの活動実態と課題、
異年齢クラスの保育効果～少子化時代の保育として～

レポートには必ず次の4点を含めること。
①課題選択の理由、動機を述べる。
②文献や資料（教科書、参考書、新聞、保育関連雑誌等）、または保育実践例により保育活動や保育環境を具体的に示す。
(図表の使用等)
③その問題に対してこれまでの考え方、識者の意見などを述べる。
④自分の解釈、意見を述べる。

科目終了試験学修のポイント

1．日本における少子化現象と保育上の課題について
＜ポイント＞
日本の人口動態、出生率、地域の子どものための環境、人間関係などの具体例から子どもの育ちに影響があると考えられることをまとめる。

2．現代の保護者の子育て意識と保育施設，保育者の役割について
＜ポイント＞
現代人のライフワークバランス、子育て観、保育施設の入所率、保育時間、保育内容などを調べ、保育ニーズを理解し保育に求められている役割を考察する。

3．社会の都市化現象が子どもの生活と発達に及ぼす影響について
＜ポイント＞
幼児期は「遊びの生活」であるといわれることの意味、遊びの活動の充実、健康で安全な生活の保障、基本的生活習慣の自立、社会性の発達等の観点から、子どもの生活環境、保育現場の課題をまとめる。

4．保育思想の流れと保育実践者の在り方について
＜ポイント＞
現代の子ども主体の保育観の土台がどのように作られてきたかをまとめる。保育実践者としての子ども観、発達観、保育観はどうあるべきか。保育環境、子どもの捉え方や子どもとの関係性など通して考察する。

5．子どもの遊びを豊かにする環境構成，材料，保育者の関わりについて
＜ポイント＞
自分が得意とする保育分野（身体表現、児童文化、音楽活動、自然物による遊びなど）について、保育材料の研究を行い、材料の創作、活動の展開法等を考える。

6．我が国の保育内容、保育制度の変遷と保育実践上の課題について
＜ポイント＞
我が国の保育の内容、方法、制度がどのように変化してきたかを概観し、今どのような問題があるか、どう改善すべきかを、実践者の立場から考える。

教科書

大沼良子・榎沢良彦編著　『シードブック 三訂 保育原理』　建帛社。

参考文献

久富陽子、他『保育方法の実践的理解』萌文書林。
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。
厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館。

科目コード	保育児童学概論（２単位）	登録年次	履修方法
7010		１年	ＳＲ
教員名	岡野雅子、岡林純子、加藤博子、駒井美智子、 坂本真理子、谷口卓、玉野井サダメ、戸田大樹、畠山むつ美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

人間の生涯発達のなかの初期段階である乳幼児期について、その発達の様相を学び、子どもが育つことの本質を考えるとともに、子どもを育てることの意義について理解する。すなわち、子どもは人的環境をはじめさまざまな環境とのかかわりのなかで育つが、特に「愛着と自律」の観点から考える。また、子どもは生活のなかで育つことから、今日の生活環境の変化を背景として「育つ」「育てる」の関係も変化していることを踏まえ、子どもの発達のしかたの実情に基づいて、保育者に求められるあり方について考える。これらの学習を通して、保育の重要性についての認識を確かなものにする。

学修内容

1	シラバスの確認 シラバスを読み、レポート設題及び科目終了試験学修のポイントを把握する。
2	1-1「保育」とは何か 「子どもを育てること」「子どもが育つこと」を包括的な視点で捉えて、保育の基本的意味について理解する。
3	1-2　子どもという存在 子どもは「私的な存在」であるとともに「社会的存在」であることを理解するとともに、わが国の子ども観の変遷についてまとめる。
4	2-1　生涯発達のなかの乳幼児期 ヒトの発達の特殊性である「生理的早産」について学び、人間は「外界に開かれた存在」であることから教育の可能性が大きいことについて理解する。
5	2-2　人間発達の方向付けとして重要な乳幼児期 人間の出生から死に至る生涯発達の中の初期である乳幼児期は、発達の方向付けとなる重要な時期であることについて理解し、まとめる。
6	3-1　子どもの発育・発達について 子どもの発育・発達には個人差があること、および人間の発達過程には個人差を超えて共通する法則性があることについて理解し、まとめる。
7	3-2　子どもの発育・発達の共通性 発達の法則性として、発育のタイプ（Scammon の４つの型）、方向性と順序性、素質と環境がともに作用すること、などを理解し、まとめる。
8	4-1　愛着とは何か 乳幼児期の特徴的行動である愛着について理解し、その様々な様相についてまとめる。
9	4-2　愛着の重要性 特定の他者との深い情緒的な関わりである愛着は「人への信頼感」の基礎となることについて理解する。
10	4-3　愛着とその後の発達との関係 特定の人との深い絆が形成されることにより、その人が「こころの安全基地」となることについて理解する。
11	4-4　愛着から自律へ 「こころの安全基地」が形成されると子どもは興味深い外界へ探索に出かけて行き、基地に戻り、を繰り返しながら、次第に自律へと向かうことを理解する。
12	5-1　家庭における保育・教育 家庭における保育・教育の特徴として、「家庭における生活」（無意図的な形成作用）と「しつけ」（意図的な形成作用）の二重の形成作用があることを理解する。
13	5-2　父親・母親の保育責任および子育てには「喜び」と「苦労」の両方があること 子育てに対して第一義的責任を有する者は保護者であること、子育てには「喜び」と「苦労」の両方があることを理解する。
14	1～５を整理する。 人間の生涯発達のなかの初期段階である乳幼児期について、その発達の様相についてまとめるとともに、子どもが育つことの本質を考え、子どもを育てることの意義について整理する。
15	保育児童学概論のまとめ ノートにまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】乳幼児期（誕生から小学校就学まで）の発達における人間関係の側面または言葉の側面を取り上げ，発達の様相と保育者としての配慮について述べよ。

＜ポイント＞

乳幼児期の子どもの発達はめざましいが、①現代社会のなかで育つ子どもは人間関係の形成が苦手な子どもがしばしば見受けられることから、人間関係の側面の発達の様相について及び保育者としての配慮について、②言葉を身に付けることは人間の大きな特徴と言えるが、生後数年間の言葉の発達の様相について及び保育者としての配慮について、以上の①または②について取り上げて述べる。

科目終了試験学修のポイント

1．保育とは何か

＜ポイント＞

保育の基本的な意味について述べるとともに、保育は人類の歴史とともに営まれてきたことであるが近年では「子ども」が育つことにかかわる状況が複雑になっていることから、保育の専門家としての保育者の重要性についても述べる。

2．人間の誕生時の姿の特殊性について

＜ポイント＞

人間を生物学的に見ると誕生時のすがたは特殊で「生理的早産」といわれており、生後数年間の周囲の人々との相互作用が重要であること、すなわち人間は「外界に開かれた存在」であることを述べ、それゆえに人間は学習の可能性が大きいこと、つまり保育･教育が重要であることについて述べる。

3．人間の発達過程における乳幼児期の重要性について

＜ポイント＞

人間の出生から死に至る生涯発達の中で初期である乳幼児期は、発達の方向付けとなる重要な時期であることについて述べる。

4．乳幼児期の愛着について

＜ポイント＞

乳幼児期の特徴的行動である愛着について説明し、そのさまざまな様相について述べる。

5．愛着の重要性について

＜ポイント＞

乳幼児期の特定の他者（多くの場合に母親）との深い情緒的なかかわりである愛着は「人への信頼感」の基礎となることについて述べる。

6．愛着とその後の自律との関係について

＜ポイント＞

愛着とその対象である特定の人（多くの場合に母親）との深い絆が形成されることにより、その人が「こころの安全基地」となり、そこを基地として子どもは興味深い外界へ探索に出かけて行き、また基地に戻りを繰り返しながら、次第に自律へと向かうことについて述べる。

教科書

岡野雅子、他『新保育学』南山堂。

参考文献

咲間まり子、他『保育原理』大学図書出版。
関口はつ江、他『実践理解のための「保育内容総論」』大学図書出版。
厚生労働省『保育所保育指針』。
文部科学省『幼稚園教育要領』。

科目コード	保育児童基礎演習（２単位）	登録年次	履修方法
7190		２年	ＳＲ
教員名	岡林純子、小野孝美、、加藤博子、河合光利、駒井美智子、戸田大樹		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

保育実習に先立ち、保育の実際に触れるとともに、実習生としての基本的なあり方を学ぶ。保育の物的人的環境（保育施設、設備、人的構成）、保育者と子どもの関係、子ども同士の関係など、知識として学んだことを実際に確認しながら、自らの保育所実習・施設実習への具体的目標や抱負について意識化する。また施設実習について、実習施設の種別ごとの意義や特徴について理解し、実習施設の選択に備える。

手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居、ペープサートなど保育の基本実技を身につける。自分の日常行動の改善を図り、実習への意欲を高める。

学修内容

1	保育実習とはどのようなものか、その目的と全体の流れを知る。 保育実習の意味目的を捉え、自己課題をもち、実習に備える。 また、実習がどのような形で展開していくのか、始まりから終わりまでのプロセスを理解する。
2	保育所実習・施設実習の基礎的な知識 （1）その社会的な意味 各々の施設が社会的にどのような意味や役割をもつのか、その存在を知る。
3	保育所実習・施設実習の基礎的な知識 （2）１日の流れについて 各々の施設の１日はどのように構成されているのか、時系列的に沿って内容を理解する。
4	保育者に求められる資質とは何か 実習生としての心得、マナー等について知る。 実習生にはどのようなことが求められるのか、心得やマナーの実際について理解する。
5	実習に向けての心構えと準備 実習に臨むに当たっての自己課題や実習課題を明確にする。 自分の趣向、性格、長所、短所などを考え、課題を見つけ、実習での態度を作る。
6	教材研究（1） 教材研究の意義及び方法について理解する。 保育教材とあどのようなものか、教材選択の基準、方法を考える。
7	教材研究（2） 子どもの歌、手遊び等について考える。 自ら選択した教材について、年齢、内容、提示の仕方など、保育とのマッチングを考える。
8	教材研究（3） 絵本、紙芝居等の利用について考える。 自ら選択した教材について、年齢、内容、提示の仕方など、保育とのマッチングを考える。
9	教材研究（4） 実際に子どもの歌、手遊び、絵本、紙芝居等を利用し、演習を試みる。 自ら選択した教材を実践し、学生間でお互いに評価し、反省、課題を描き出す。
10	指導計画の考え方 指導計画とはどのようなものか、保育における計画の意味や必要性について考える。
11	指導計画の作成について 現在の子どもの様子から、ねらい、内容、環境の設定、活動の時間、子どもの活動、保育者の援助について詳細を知る。
12	指導計画に沿った模擬保育の展開について 自ら計画した指導案に沿って、実際に活動を展開する。その時々で気がついたことをまとめ、全体の流れに還元する。
13	保育の評価（評価について考え方）について 保育の評価とは何か、どのようなことが評価になるのか、評価の意味、方法、課題の明確化を図れるようにする。
14	障がい児保育における「インクルーシブ保育」について 従来の統合保育とインクルーシブ保育の意味、方法などの違いについて理解する。
15	これまでの学修を振り返り、まとめる。 １回から 14 回までの内容を振り返るとともに、学修内容をまとめ、試験に臨む。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

施設実習の対象施設から1つを選び，その施設の目的や設備基準，職員，利用者等の特徴を述べよ。さらに，その施設で実習すると仮定して，実習の目標や抱負について述べよ。

＜ポイント＞

実習施設については、児童福祉法第37条～、児童福祉法最低基準第19条～などを良く調べること。実習の目標や抱負については、調べた施設の特徴に即して、具体的に記述すること。

科目終了試験学修のポイント

1．実習を迎えるまでのステップについて

＜ポイント＞

・実習を迎えるにあたっての自分自身の生活態度を見直し、そこから得た課題を解消できるようにする。
・実習先の基本的な方針や理念等についてインターネット等による情報収集を行い、オリエンテーションに備える。

2．実習に必要な心構えと準備について

＜ポイント＞

・基本的な生活の習慣を見直すことが必要であるが、具体的にどのようなことが必要か考える。
・保育実習の目的について考える。

3．実習日誌の書き方と目的について

＜ポイント＞

・日誌内容は、単なる1日の報告書ではなく、自分の「学びの姿」を記入するものである。
・日誌には毎日の活動の中で、保育士、職員、利用者の方がどのように動いていたのか、どのようなかかわりがあったのか、自分は何を学んだのか等についてしっかりと記入していくことが大切になる。

4．実習中及び実習後の留意事項について

＜ポイント＞

・実習から得た自己課題に対して、真摯に向き合い、自己の適性を考えることが必要である。
・実習先では、実習生を受け入れるために多くの労力を費やしていることを忘れないこと。

5．部分実習・責任実習と指導案作成の方法について

＜ポイント＞

・部分実習、責任実習を実施する上で留意すべきことを考える。
・現在の子どもの姿をしっかりとした捉え、指導計画を立案することが重要である。

6．施設実習の実際と留意点について

＜ポイント＞

・利用者の生活の姿や、職員の利用者に対するかかわりを観察するために必要な視点について考える。
・自分がやりたいことをするのではなく、利用者の気持ちのもち方等を考えながら援助ができるようにするにはどうしたら良いか考える。

教科書

大豆生田啓友、他『最新保育講座12　幼稚園実習　保育所・施設実習』ミネルヴァ書房。

参考文献

池田隆英、他『保育所・幼稚園実習―保育者になるための5つのステップ』ミネルヴァ書房。
内山元夫、他『改訂福祉施設実習ハンドブック－保育士養成課程－』みらい。
開仁志『実習日誌の書き方－幼稚園・保育所・施設実習完全対応－』一藝社。

科目コード	保育児童専門演習（２単位）	登録年次	履修方法
7200		３年	ＳＲ
教員名	氏家博子、太田節子、岡林純子、駒井美智子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

「保育児童学概論」の講義内容を受けて、そこから自己課題を見つけ、保育所・幼稚園・などでの実践例を通して、問題の所在を発達の観点のもとで明らかにすることによって、子ども理解を深めることを学修の目的とする。

また、幼児文化教材の理論と実践を具体的に学びながら、保育方法論の確立をめざす。

学修内容

1	保育者とは何か 保育者の役割と機能と運営について考える。
2	保育行為・保育活動・保育内容について考える。 保育教材は何故必要か。
3	保育教材の効果について事例を挙げながら整理・まとめてみる。 保育者が保育教材を活用する効果、子どもが保育教材を活用する効果について。
4	保育教材を実践してみよう。① 音楽表現（手遊び・歌遊び）…実際にピアノを弾こう・歌を歌おう。
5	保育教材を作ってみよう。② 造形表現…保育を活性化する造形表現を作ってみよう。
6	保育教材を実践してみよう③ 身体表現・・幼児の発達を理解して遊んでみよう。あそびか育つものとはなにか考えよう。
7	保育教材の効果 幼児が保育教材を活用することで、育つものを考える。
8	保育実習体験で活用できるものを考える 自己紹介・部分実習・責任実習等…私には何ができるか・私は何をするか。
9	実践してみる。① 保育教材を実践することで反省・課題が生まれる。先ず実践することがポイントである。
10	実践してみる。② 実践する中で反省や課題を感じ、自己をさらに高め形成していく。保育者の質の向上・スキルアップをはかる。
11	保育教材の種類と特徴① 保育教材の種類を上げてその特徴を整理してみる（自分がもっているものと新保育教材の確認と整理）。
12	保育教材の種類と特徴② 保育教材の種類を上げてその特徴を整理してみる（保育教材をアレンジしてファイル等しておくのもポイント）。
13	保育教材の実践力・表現力を磨く① プレゼンテーション能力の向上について自己課題を確認する。
14	保育教材の実践力・表現力を磨く② スキルアップ・問題解決総合能力等について自己課題を確認する。
15	保育児童専門演習についてのまとめ 今までの学修内容を整理し、振り返りを行う。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 幼児文化教材の種類と特徴を挙げ、幼児文化教材の役割について述べよ。

＜ポイント＞

保育方法論を確立する中において、幼児文化教材はなくてはならないものである。幼児文化教材の種類・特徴を挙げて、幼児にとってなぜそれが必要なのか、具体的に述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．幼児文化教材の種類について

＜ポイント＞

3歳～6歳までの保育教材を調べてみる。

2．幼児文化教材の保育活用について

＜ポイント＞

保育教材には保育にとって、活用する意味があることを学ぶ。

3．幼児文化教材の三機能とは

＜ポイント＞

幼児は興味あるものに導入される。教育目的も必要であることを理解する。

4．幼児文化教材の理論と実践について

＜ポイント＞

幼児文化教材を活用するためには、技術の上達だけではいけないことを学ぶ。

5．保育の質と組織活性化について

＜ポイント＞

保育の質と保育の活性化は相互関係であることを理解する。

6．保育者にとって幼児文化教材が必要である意味について

＜ポイント＞

幼児は未成熟・未発達であることから、幼児文化教材の必要性について考える。

教科書

駒井美智子『すぐに使える笑顔いっぱいあそびのレシピ』大学図書出版。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針』。
文部科学省『幼稚園教育要領』。
駒井美智子、他『ちょこっとパフォーマンス38』メイト社。

科目コード	保育者論（2 単位）	登録年次	履修方法
7950/7951		1 年	R
教員名	岡野雅子、加藤博子、鈴木美子、玉野井サダメ		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育の意義及び教員の役割･職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		

科目概要・到達目標

保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割と必要とされる専門的能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。社会人としての基本的あり方、保育者の倫理観、乳幼児保育の基礎的知識・技能、保護者支援の方法、実践的学習とともに、世界的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つように学習する。

学修内容

1	保育の意味（子どもを育てる二つのコースと制度としての保育）学校教育法、児童福祉法、認定こども園法等における教諭、保育士、保育教諭の役割を知る。また、意図的保育・教育と無意図的保育・教育、保育者による計画的働きかけによる教育と保育者をモデルとした子どもの同一視などによる社会化の過程を理解し、保育者の役割の重要性を理解する（教科書第1 章）
2	保育の現状理解と保育者の社会的役割（社会の変化と保育ニーズ）　保育者の子育て支援者としての役割を幼稚園教育要領、保育所保育指針等で学び、現在の保護者がどのような悩みを持ち、保育の場を求めているか、それへの社会の対応など現在の保育問題について、制度の問題、行政の問題、保育現場の問題を参考資料、マスコミ情報などからまとめ、保育専門職者として果たすべき役割を考える。
3	子ども観、保育観の重要性①　保育は保育者の人間性を通して行われるため、保育者の子どもの見方、保育観が重要であること、先達に学ぶことの重要性を理解する。（教科書第 3 章）
4	子ども観、保育観の重要性②　西欧の思想に学ぶ。現代の保育に影響を与えた思想の流れを理解し、保育観の源流、人間教育としての保育の本質と保育者の在り方を考える。ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、オーエン等の思想と現代への家教をまとめる。（教科書第 3 章）
5	子ども観、保育観の重要性③　日本の保育制度、思想の流れの中での保育者の役割を理解する。明治以降の幼稚園保育所の制度の変遷をまとめ、キーパーソンについて理解する。中村正直、和田実、倉橋惣三、赤沢鐘美、野口幽香等（教科書第 3 章他参考文献）
6	保育者と制度①保育者の制度的地位　我が国の保育制度をまとめ、児童福祉法に基づく保育所、学校教育法に基づく幼稚園の役割を理解する。それぞれの根拠法令、所管、目的、対象児、公的負担、行政の仕組みなどを理解する。（教科書第 2 章、その他の参考資料）
7	保育者と制度②保育士資格取得の要件・幼稚園教免許取得の要件　保育士資格、幼稚園教諭（1 種、2 種、専修）の資格、免許取得の方法、学修内容、学習課程、修得すべき専門的能力の内容を理解する。（教科書第 2 章）
8	保育者の役割と専門性①幼稚園教諭　幼稚園教育要領に記載されている教育目的、方針、教諭の役割をまとめ、その趣旨に即応するための幼児教育者としての資質、能力、技術を理解する。（教科書第 4 章　1，2、3 節、幼稚園教育要領解説）
9	保育者の役割と専門性②保育士・保育教諭　保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている教育・保育目的、方針、保育者の役割をまとめ、その趣旨に即応するための保育者としての資質、能力、技術を理解する。（教科書第 5 章　1，2 節、保育所保育指針解説）
10	保育者の役割と専門性③保育者として望ましい資質　保育の専門家としてどのような保育の場にあっても共通に必要とされる人間的素養（感性、判断力、応用力、共感性など）、専門的知識、専門的態度　実践技術などをまとめる。（教科書第 4 章　4 節　他）
11	保育者に求められる専門性④保護者支援　保護者支援のために必要とされる態度、知識、技能、及び施設内の職員間の協力の仕方、他の専門機関との連携の仕方などをまとめる。（教科書第 5 章　3，4 節）
12	期待される保育者①成長する保育者　保育における自己反省、職員同士によるカンファレンス、第三者評価、他の専門分野との連携など保育者自身の向上のための方法を理解する。（教科書第 6 章）
13	期待される保育者②社会のニーズへ対応　第 2 回で保育の現状を捉えたが、教科書を手掛かりに、我が国の子育ての現状をまとめ、保育ニーズの現状を整理し、解決の方向（職員組織の改善、チームとして職員間の連携強化、ライフワークバランス、他の専門機関との協力）について考察する（教科書第 7 章）
14	保育者の職務と倫理　全国保育士会倫理綱領の内容を調べ保育者の職と求められる倫理とを理解する。（教科書第 2 章）
15	今後の保育制度の動向と保育者の在り方　新しい保育制度（認定こども園、保育教諭）について調べ、我が国が目指している保育制度と新しく求められる専門的役割、資質、能力をまとめる。

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　保育者の専門性について、他の専門分野との違い、及び専門性向上のための具体的な方法を述べよ。

＜ポイント＞
保育者の専門性は他の分野の専門性と異なる特性があるので、それを整理する。また、社会的変化や子どもの発達的変化などに伴う保育ニーズに対応するために、専門性を向上させるためにはどのような方法があるかをまとめる。

科目終了試験学修のポイント

１．現代社会において求められる保育者像について
＜ポイント＞
現代の子育て状況（少子化、核家族化、地域の保育力の低下その他）をまとめ、社会全体が必要としている保育の場、保護者が必要としている保育者の役割、求めているかかわりを考える。

２．保育士資格、幼稚園教諭の制度上の定義、職務上の役割について
＜ポイント＞
現在の保育制度（保育所、幼稚園、認定こども園）を整理し、それぞれの関係法令の中で保育者の職務がどのように規定されているかを正確に理解しておく。

３．保育者の倫理とはどのような内容を含むか
＜ポイント＞
全国保育士会倫理綱領の全項目をしっかり理解し、その意味することをまとめておく。

４．次の人物の、業績、思想等について（特に自分が興味のある１名について調べる）
ルソー、ロバート・オーエン、フレーベル、倉橋惣三、野口幽香、赤沢鍾美
＜ポイント＞
それぞれの人物の活躍した時代背景、子ども観（人間観、教育観）、活動内容、を理解し、保育の進歩に貢献した点をまとめる。

５．子どもの豊かな生活のための保育者の在り方や子どもへの配慮について
＜ポイント＞
「環境を通しての保育」「幼児の主体的な活動が確保されるよう」「現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う」という保育の基本をふまえ、子どもが豊かに活動できるようにするには何が大切かを考える。

６．保育における省察の重要性について
＜ポイント＞
保育活動が対象、状況に即応するよう柔軟に実践されるものであること、原則やマニュアルの応用範囲が広いこと、実践者の裁量（主体性）に任せられる部分は大きいこと等の保育活動の特殊性をふまえた上で、保育の省察とはどのようなことか、なぜ重要かを考える。

教科書

民秋言『保育者論』建帛社。

参考文献

武藤安子、他『発達支援　ー豊かな保育実践に向けてー』ななみ書房。
吉川晴美、他『共に育つ　ー人間探求の児童学』宣協社。

科目コード	保育相談支援演習（２単位）	登録年次	履修方法
7960		３年	ＳＲ
教員名	石渡宏、岡野雅子、岡林純子、駒井美智子、齋藤厚子、坂鏡子、堀建治、堀聡子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

保護者に対する相談支援がなぜ必要か、保育士の専門性を生かした支援の特徴を考え、子どもの利益を守り、保護者の問題解決を図る支援の実際を知る。保護者と信頼関係を結びながら、ともに育てる関係作りや地域の関係諸機関との連携の仕方などを学修し、児童福祉施設全般の保育相談への対応、展開ができるようにする。

学修内容

1	保育相談支援について 保育相談支援の定義・学ぶ内容
2	保育士の業務と保育相談支援 保育士資格法定化・保育士資格法定化の意義と保護者支援
3	保育相談支援の原理 子ども家庭福祉の原理と保育士の役割・原則と基本
4	保育相談支援の構造・展開と相談援助との関係 保育相談支援の構造と展開・保育相談支援と相談援助
5	保育相談支援の価値と倫理 保育相談支援における倫理・保育所保育指針における保護者支援の価値と倫理
6	信頼関係を築く受容と自己決定の尊重 保護者を受け止める・自己決定の尊重・信頼関係の捉え方
7	他の社会的資源との連携・協力 連携・協力の必要性・保育相談支援の特性と限界・地域資源や関係機関
8	保育を基盤とした保育相談支援 専門的援助である保育相談支援・保育の特性に基づく保育相談支援
9	保育相談支援の方法と技術 保育相談支援で活用される保育技術・保育相談支援の技術
10	保育相談支援の展開過程 保育相談支援の展開過程について・保育相談支援の展開過程の実際
11	環境を通した保育と保育相談支援（1） 保護者との信頼関係を形成する環境・保護者の日常生活を支える環境
12	環境を通した保育と保育相談支援（2） 保護者の子ども理解を促す環境・家庭の暮らしを支える環境
13	保育所入所児童の保護者への保育相談支援 保育相談支援の手段・保育相談支援の評価・特別な対応を必要とする家庭に対する保育相談支援
14	保育所の地域子育て支援における保育相談支援 地域子育て支援の特性と限界・保育相談支援の手段・評価
15	児童福祉施設における保育相談支援 施設機能に即した保育相談支援の特性・施設を利用する保護者の特性

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

社会の変化に伴う現代の子育ての特徴について説明し，それをふまえて保育の特性と専門性を生かした保護者支援について述べよ。

＜ポイント＞

①家庭の変容と保育相談支援の変遷を踏まえること。

②保育士の専門性を生かした保護者支援について確認すること。

科目終了試験学修のポイント

1．保育相談支援の対象者について

＜ポイント＞

多様な対象者を、社会的背景と関連づけながらまとめる。

2．保育相談支援のねらいについて

＜ポイント＞

保育相談支援の目的と概要を理解し、家庭や地域における子育て支援の現状に触れながらまとめる。

3．保育相談支援の基盤となる保育技術について

＜ポイント＞

保育を基盤とした専門的援助技術を理解し、その内容をまとめる。

4．面接の技法と配慮点について

＜ポイント＞

保育士が保護者や子ども・家族への安定した発達を支えるための基本的相談姿勢を示す。

5．環境を通した保育相談支援について

＜ポイント＞

環境を通した保育相談を理解し、園環境が保護者に与える様々な影響をまとめる。

6．保育相談の具体的な流れについて

＜ポイント＞

組織的に連携を図りながら、保育相談支援の展開過程に基づいた保護者支援を展開する重要性を示す。

教科書

柏女霊峰、他『保育相談支援』ミネルヴァ書房。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針　平成29年告示』。
小林育子『演習保育相談支援』萌文書林。
福丸由佳、他『保育相談支援』北大路書房。

科目コード	保育内容（環境）（２単位）	登録年次	履修方法
7091		２年	ＳＲ
教員名	氏家博子、小野洋子、加藤博子、河合光利、坂本真理子、 関容子、仁藤喜久子、御手洗和子、持田京子		
教職区分	「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

保育内容を構成する「環境」のねらいと内容について理解し、子どもを取り巻く環境について学び、環境と子どもの活動・保育における環境及び環境設定について理解する。保育の全体構造における環境に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。また、演習形式で学ぶことにより、「環境」で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を養う。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	保育の基本と領域「環境」について 環境を通して行う保育の基本を理解するとともに領域について理解する	保育の基本及び領域「環境」の意義について理解するとともに、自分の幼児期を振り返って資料とし、育ってきた環境について様々な側面から考えてまとめる。	印刷授業 及び 面接授業 (3時間)
2	領域「環境」をさらに深く理解する さまざまな環境（物的環境・人的環境・自然環境・雰囲気的環境）について理解する		印刷授業
3	幼児の成長発達の特徴を知る ０－５歳児の成長発達の姿を理解する		印刷授業
4	保育者の感性と保育デザイン 情報機器及び教材を活用した、環境設定の仕方を理解する		印刷授業
5	保育環境とはどのようなものか理解する 保育の場、幼児の自己形成空間を考える		印刷授業
6	子どもの育ちを支える園環境（1）園舎 保育室等、生活空間を考える （適切な環境を構成する多様な視点）	幼稚園生活の基本である園舎の適切な活用について意見交換を行い、多様な視点があることを理解する。	印刷授業 及び 面接授業 (2時間)
7	子どもの育ちを支える園環境(2) 園庭 園庭及び地域資源の活用 （環境適応能力の向上）	幼稚園全体の適切な環境について園庭及び地域資源（地域の公園等）の活用など、子どもの視点から意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2時間)
8	自然環境を考える（1） 人と植物のかかわりを知る	子どもにとって自然とかかわることの意義について理解するとともに、子どもの知的好奇心にそったかかわりができるよう保育者の役割について考え、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2時間)
9	自然環境を考える（2） 人と動物のかかわりを知る	子どもにとって動物とかかわることの意義について理解するとともに、子どもの知的好奇心にそったかかわりができるよう保育者の役割について考え、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2時間)
10	領域「環境」の内容及び対象を理解するため情報機器及び教材特性の理解や保育者の価値観、生活観が反映された教材研究を行う		印刷授業
11	模擬保育による検討（1）（ディスカッション及び発表）季節や自然を感じる環境構成及び指導計画を考える	実際の保育を想定して、季節や自然を感じることができる環境構成及び指導計画をディスカッションを通して考え、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 (2時間)
12	模擬保育による検討（2）（ディスカッション及び発表）安全・安心な環境のための学安全計画及び指導計画を作成する	実際の保育を想定して、日常保育における安全・安心な保育環境の構成及び指導計画を作成し、ディスカッションを通して考えを深め、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 (2時間)
13	幼児の科学的態度の育成について 幼児の知的好奇心、探求心を育む援助を考える		印刷授業
14	幼児の文字・数量・記号等の援助について 保育の中での文字、数量、記号等の援助を考える		印刷授業

15	幼児の環境教育について 情報端末を使用し、ESD について調べ、その具体的な活動展開を指導計画として展開できるようにする		印刷授業
		面接授業：合計 15 時間	

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　保育内容を構成する環境のねらいの意義をふまえ、保育者の援助および環境構成のあり方について述べよ。

＜ポイント＞
環境のねらいについてふれながら、実際に具体的な例を挙げて援助のあり方を示すとよい。

科目終了試験学修のポイント

１．保育内容を構成する環境について
＜ポイント＞
保育内容「環境」において子どもの育てたい方向性を明示しながらまとめていく。

２．「積極的にかかわる」「生活に取り入れる」などの活動への援助について
＜ポイント＞
保育者の専門性を明確にし、子どもが遊びを生活に取り入れていく過程を示す。

３．子どもにとって自然とかかわることの意義について
＜ポイント＞
自然環境の意味を踏まえながら、身近な自然とのかかわりを通して、子どもの内面に育って欲しい事柄をまとめる。

４．保育における環境構成について
＜ポイント＞
子どもの環境への積極的な働きかけを重視し、好奇心・探究心を刺激するような内容や方法をまとめる。

５．子どもを取り巻く身近な環境の理解について
＜ポイント＞
子どもにとっての「身近な環境」を整理したうえで、子ども特有の学び方を示す。

６．乳幼児の安全な環境について
＜ポイント＞
安全教育の基本を示しながら、生活安全・交通安全などの視点から捉えてまとめる。

教科書

谷田貝公昭『コンパクト版 保育内容シリーズ３　環境』一藝社。

参考文献

柴崎正行、他『保育内容　環境』光生館。
文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館
文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館

科目コード	保育内容（健康）（２単位）	登録年次	履修方法
7071		２年	ＳＲ
教員名	沖雅美、小野孝美、加藤博子、駒井美智子、斉藤雅記、清水信好、 中村裕、西田希、林廣子、御手洗和子、持田京子		
教職区分	「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園・保育要領における健康領域のねらいと内容について理解、習得することで、幼児期の発育・発達を理解し、子どもが自ら考えて行動し、問題解決できるように育む保育者を目指す。また、保育者として子どもの健康な心と体を育てることができるよう自ら健康的な生活を実践し、子どもが健康で安全な生活を作り出す力を支援できるようにする。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	健康の概念に関する理解 健康に関する諸定義（WHO定義ほか）や体力の概念について整理し、子どもにとって望ましい「健康」とはどのような状態をいうかについてまとめる。	「健康」についての基本的な定義を学び、子どもにとって望ましい「健康」な状態について考えをまとめ、発表しあう。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
2	領域「健康」のねらいと内容について 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「健康」のねらいと内容を理解した上で、乳幼児の「健康な心身の発達」を支える者として保育者が意識すべき健康観について考えをまとめる。	領域「健康」のねらいと内容について理解するとともに、保育者の「健康」に対する意識について意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
3	心身の発達について（1） 発育発達の概念について整理し、スキャモンの成長曲線のリンパ型と神経型について理解した上で、適切な時期に健康な心身の発達を促す適切な援助・指導を行う意義についてまとめる。	スキャモンの成長曲線（４タイプ）を学び、特にリンパ型と神経型は幼児期の心身の発達に関連が深いことを理解して、適切な援助を行う意義についてまとめ、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
4	心身の発達について（2） 乳幼児期における子どもの身体の発育や身体諸機能の発達、心身の発達特性を踏まえることは発達段階を理解し学童期の発達の目安となる。乳幼児の各発達段階における保育者の関わり方や配慮、留意点を考察する。	子どもの心身の発達特性の観点から発達段階別に保育者のかかわり方についてまとめ、発表しあう。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
5	基本的生活習慣の形成について（1） 基本的生活習慣とは何か、その内容を整理し、基本的生活習慣形成の必要性について理解する。ビデオ教材の視聴により園生活の１日の流れを把握し、デイリープログラムの作成練習を行う。その際、集団保育における援助・指導の際の配慮と留意点について考察する。	子どもにとって基本的生活習慣（食事･睡眠･排泄･清潔･着脱衣）の形成の必要性と重要性について理解するとともに、ビデオ視聴を通して幼稚園生活の流れを把握して、デイリープログラムを作成し、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
6	基本的生活習慣の形成について（2） 食習慣や食文化を育む上での「食育」の重要性を食育基本法、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領によって確認し、園生活における食育の具体的事例から乳幼児期における援助･指導の際の配慮と留意点について学ぶ。また、「孤食・個食・固食」や朝食の欠食によって子どもの育ちにどのような影響が生じるのか問題点を検討し、家庭との連携や保護者指導について考える。	「食育」の重要性について様々な資料を基に理解し、幼稚園における食育の具体的事例について知るとともに、今日的問題である「孤食・個食・固食」や朝食の欠食が子どもの育ちに及ぼす影響についてディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
7	基本的生活習慣の形成について（3） 睡眠の習慣（就床と起床、睡眠時間と午睡、サーカディアンリズム）について理解し、１日の生活リズムを整える上での睡眠の重要性について考えをまとめる。また、現代における子どもたちの睡眠事情について問題点を検討し、家庭との連携や保護者指導について考	子どもにとって適切な睡眠の習慣形成が重要であることを理解するとともに、夜型生活の子どもが増えている背景について考え、家庭との連携等について意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）

	える。		
8	基本的生活習慣の形成について（4） 排泄、身の回りの清潔、衣服の着脱等の習慣化の意義を理解し、子どもの自立を促す援助・指導について考察する。これら基本的生活習慣は学童期にも継続する意味を理解した上で家庭との連携の重要性を把握し、具体的な連携の方法について検討する。	子どもにとって排泄･清潔･着脱衣（基本的生活習慣の食事・睡眠以外の 3 項目）の習慣形成が重要であることを理解するとともに、自立に向けての「しつけ」について家庭との連携等の具体的な方法を考え、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
9	遊びと健康について（1） 乳幼児期の子どもにとっての「遊び」の重要性を理解する。また、遊びによって育まれるものを身体的側面、精神的側面、社会的側面からまとめる。乳幼児期の子どもの遊びに参与する保育者として、求められる資質と役割について考察する。	保育は「遊び」を通しての指導を中心として行うものであることから、遊びの重要性を理解するとともに、遊びを育むための保育者の資質と役割について考えをまとめ、発表しあう。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
10	遊びと健康について（2） 子どもの遊びの現状（子どもを取り巻く生活環境の変化、戸外遊びの衰退など）と健康に関する諸問題（学童期の体力・運動能力低下、健康阻害など）は幼児期に経験した楽しく体を動かす遊びに関連するとし、具体的な方策について考察する。また、スポーツ等習い事の早期化の傾向についてメリット･デメリットを検討する。	子どもの遊びの現状と問題点について様々な資料から理解するとともに、その改善のための具体的な方策について考えをまとめ、発表しあう。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
11	遊びと健康について（3） 健康増進に資する「運動遊び」とは何かを理解し、発達段階別に具体的な運動あそびの例を調べる。また、運動あそびを実施する上で援助･指導の際の配慮と留意点について理解する。	「運動遊び」について発達段階別に具体的な例を挙げ、それぞれの遊びを行う上での配慮と留意点についてまとめ、発表しあう。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
12	遊びと健康について（4） 「運動遊び」の指導案作成と模擬保育の実施により、具体的な援助･指導の際の配慮と留意点について理解する。	実際の保育状況を想定して、「運動遊び」の保育指導案を作成し、配慮と留意点について意見交換を行う。また、現場において情報機器や教材の効果的な活用について考察する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
13	健康と安全について（1） 幼稚園･保育所等における事故の実態を教科書の図表やデータから把握する。実際の事故事例を検討し、事故を未然に防止する観点（危機管理）を学ぶ。また、乳幼児期における身体的特性や精神的特性から園生活の様々な場面においてどのような事故が起こり得るのか考察する。	園生活における子どもの事故について様々な資料から把握するとともに、事例を通して事故を予防する方策について考え、発表しあう。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
14	健康と安全について（2） 安全教育の必要性を理解し、安全に対する構えを育成するための具体的な安全教育の方法を発達段階別に考察し幼児が理解できるような方策を演習形式で実践する。園における事故防止の取り組み（環境の整備、危機管理体制の構築など）や事故発生時の対応（ファーストエイド、医療機関との連携など）映像形式で理解する。	子どもにとって安全教育が重要であることを理解するとともに、発達段階別に安全教育の具体的な方法について考え、発表しあう。	印刷授業 及び 面接授業 （2 時間）
15	授業総括 第 1 回から第 14 回の講義を振り返り、子どもの健康な心身の発達を支える保育者の役割と責務、家庭や地域との連携について考えをまとめる。		印刷授業
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	スクーリング修了試験　　総合の５０％ 授業中の態度、積極性　　総合の５０％ 総合点　　１００点 ※ディスカッション形式で行う授業については積極的な参加態度を求めます。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　幼稚園や認定こども園等における集団生活において、乳幼児の健康な心身の発達を助長するため、保育者が行う援助や指導について、発達段階毎の特徴とそれに応じて配慮すべき事柄や留意点に言及しながら述べよ。

＜ポイント＞
1．集団生活における保育者の役割と位置づけ
2．乳幼児の心身の発達に対する理解
3．「基本的生活習慣」の形成と自立
4．子どもにとっての遊び、とりわけ「運動遊び」の意義
5．危機管理と安全教育

科目終了試験学修のポイント

1．保育内容「健康」の意義について
＜ポイント＞
幼稚園、保育所における領域「健康」のねらいと内容をしっかりと理解しておくこと。

2．幼児期における遊びと健康の関係について
＜ポイント＞
運動あそびと発育・発達との関係性、身体に及ぼす効果、代表的なあそびの説明ができること。

3．幼児の安全教育と安全管理について
＜ポイント＞
事故、ケガの発生状況の把握、安全教育の必要性、安全管理の重要性はしっかり説明できること。

4．幼児期の基本的生活習慣における保育者の役割について
＜ポイント＞
保育者としての位置づけ、基本姿勢を認識したうえで、具体的な生活習慣形成のための役割を論述する。

5．幼児の生活と遊びについて
＜ポイント＞
生活リズム、生活習慣と運動あそびを一体として捉えた幼児の生活を意識する。
運動あそびの重要性、近年の子どもが抱える運動量不足の問題や課題についても理解しておく。

6．幼児の心身の健康と発達について
＜ポイント＞
幼児期の身体の発達、運動機能の発達、精神発達特性、心とからだの関係等を理解しておく。

教科書

茗井香保里・宮下恭子・平山素子 『乳幼児の健康』 大学図書出版。

参考文献

幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
厚生労働省『保育所保育指針』日本保育協会。

科目コード	保育内容（言葉）（２単位）	登録年次	履修方法
7101		２年	ＳＲ
教員名	氏家博子、小野洋子、駒井美智子、河合光利、 坂本真理子、戸田大樹、濱崎幸夫、御手洗和子		
教職区分	「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基本的知識を身につける。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識、技術を習得する。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	シラバスを確認し、保育内容「言葉」の学修内容を整理・確認する。	シラバスの理解と授業及び学習方法を確認するとともに、実際の幼稚園における保育者と子どものやり取りのビデオ視聴により言葉指導の実態を知り、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （2時間）
2	第１章　保育内容「言葉」の意義 言葉の意義について理解する。		印刷授業
3	第２章　「言葉」のねらいと内容 「ねらい」とは何か？　テキストを読解し、「ねらい」と「内容」の関係を整理してまとめる。		印刷授業
4	第３章　子どもの言葉の発達 ０歳～６歳の子どもの発達のプロセスについて、テキスト付録により調べて理解する。		印刷授業
5	第４章　子どもの言葉と環境 言葉に対する感覚を豊かにする実践について、 環境構成について考える。		印刷授業
6	第５章　保育者の指導・支援（援助） 言葉に対する感覚を豊かにする実践について、 環境構成について考える。		印刷授業
7	第６章　言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもの援助・指導・評価 保育者の言葉が配慮を必要とする子どもに及ぼす作用について学習する。管理・支援・援助の文言をまとめ、整理する。		印刷授業
8	第７章　保育者の言葉 保育者にとって子どもに対する言葉かけの重要性について理解する。		印刷授業
9	第８章　言葉と児童文化財（教材研究） 絵本、紙芝居、パネルシアターなど、子どもの言葉を育む教材について理解する。	児童文化財を活用する保育実践の場面について、情報機器を活用して事例を検討し、言葉を育む観点についてグループディスカッションをする。代表的な児童文化教材である絵本･紙芝居を取り上げ、歴史・特徴を踏まえ、その選び方の基本を理解し、保育における活用について留意点等、具体例について意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （3時間）
10	第９章　言葉あそび（模擬保育） 伝承あそびを調べる。言葉あそびを収集する。その結果を発表して共有する。	情報機器を活用し、伝承遊びや言葉遊びを調べ、習得する。基礎的な言葉遊びの具体例をまとめた結果を発表しあうとともに、その価値や活用についての理解を深め、言葉遊びのレパートリーを広げる。	印刷授業 及び 面接授業 （2時間）
11	第10章　実技の方法（模擬保育と評価） それぞれの児童文化教材にはそれにふさわしい方法があることを理解する。	情報機器を活用し、保育実践の具体的場面を理解する。代表的な児童文化教材である絵本と紙芝居について実演を行うことにより、それぞれの価値を理解し実践力を身に付ける。	印刷授業 及び 面接授業 （2時間）
12	第11章　「言葉」の指導計画 指導計画とは何かを調べ、指導計画を作成する。	指導計画の作成の基本を理解するとともに、学年（発達段階）を決めてそれにふさわしい指導計画を実際に作成して、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （2時間）
13	第12章　発展事例－保育内容「言葉」のまとめ 第13章　言葉と国語教育		印刷授業

14	模擬保育による検討（発表およびディスカッション）の準備 ①わらべうた・言葉あそび	実際の保育状況を想定して、わらべうたや言葉遊びの実際について発表しあって、ディスカッションを行う。	印刷授業及び面接授業（2時間）
15	模擬保育による検討（発表およびディスカッション）の準備 ②児童文化財を活用した発表	実際の保育状況を想定して、児童文化財（絵本・紙芝居・エプロンシアター・パネルシアターなど）の実際について発表しあって、ディスカッションを行う。	印刷授業及び面接授業（2時間）
			面接授業：合計15時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	・スクーリング修了試験　総合の５０％ ・授業中の態度・積極性・提出物の状況　総合の５０％ ・総合点　１００点 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点）　F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　乳幼児期における言語発達段階の特徴を挙げ、その時期の保育者の支援・援助との関連について述べよ。
＜ポイント＞
1．「一語文」「質問期」等の専門用語の語彙を踏まえること。
2．乳幼児期の心身の発達を確認すること。
3．乳幼児期の言語発達の特徴を調べること。
4．言葉の遅れのある乳幼児にも目を向け調べること。

科目終了試験学修のポイント

1．保育内容「言葉」の観点・ねらい・方法内容について
＜ポイント＞
保育内容「言葉」の観点を学ぶ。

2．0歳から6歳までの乳幼児の言葉習得の特徴について
＜ポイント＞
乳幼児の言葉の発達について学ぶ。

3．幼児文化教材（絵本・紙芝居等）はなぜ幼児に必要か
＜ポイント＞
絵本・紙芝居等の特徴を理解する。

4．言葉の発達を支援する保育者の「言葉」について
＜ポイント＞
保育者は乳幼児にとってモデルとなる存在であることを理解する。

5．子どもにとって「良いモデル」となる保育者の言葉遣いについて
＜ポイント＞
模倣と成長について学習する。子どもにとって人的環境としての保育者について理解する。

6．模倣と成長と「言葉」について
＜ポイント＞
言葉を習得する乳幼児に及ぼす保育者の影響について学習する。

教科書

駒井美智子『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』株式会社みらい

参考文献

幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）

科目コード	保育内容（人間関係）（２単位）	登録年次	履修方法
7081		２年	ＳＲ
教員名	氏家博子、岡野雅子、加藤博子、河合光利、長谷川有香、坂本真理子、武士ちひろ、新川朋子、持田京子、橋本景子、渡辺成良、松本秀藏、和崎光太郎		
教職区分	「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

保育内容を構成する人間関係について理解する。子どもの発達とともに人間関係がどのように広がり、深まっていくのかを理解する。保育における子ども、保育者、家庭、地域を含めた人とのかかわりについて理解し、保育の全体構造における人間関係に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。その上で、子どもの発達に即した人間関係を育む援助や活動を構想できるようになることを目指す。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	教科書第 3 章を読み、乳幼児を取りまく人間環境について理解する。子どもが育つ環境は、家庭、地域社会、保育･教育機関等であり、それぞれの人間環境から様々な影響を受けながら他者との関係を学んでいく。幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示された「小学校入学までに育みたい姿」をふまえた上で、現代社会における人間環境をしっかり捉え、子どもが人とかかわる力を育てるうえで必要なことについて検証する。	乳幼児を取りまく人間環境の基本について理解するとともに、現代社会において子どもが人とかかわる力を育てるうえで必要なことは何かについて考え、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
2	乳児期の「人との関わり」に関する発達の過程を教科書第 4 章や発達心理学の教科書・文献等から整理し、0～2 歳までの幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針のねらい及び内容を理解する。乳児期には人に対する基本的信頼感を獲得することが必須である。そのためにまず愛着関係の形成、自己肯定感、自己主張や自己発揮等が求められる。それに向けて養育者にはどのように子どもとのかかわりが求められるかを学ぶ。		印刷授業
3	幼児期の「人との関わり」に関する発達の過程を教科書第 6、7 章や発達心理学の教科書・文献等から理解し、3 歳児以降の幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・保育所保育指針のねらい及び内容を理解する。幼児期にはほとんどの子どもが集団生活を経験する。そこでは、様々な仲間と出会い、葛藤やつまずきを経験し、相手の気持ちを理解し、共感しあう喜びも味わう。その過程を大切にすることが人間関係を育てるということを理解する。		印刷授業
4	パーテンによる「遊びの発達段階」について教科書第 5 章や文献を調べて、理解する。パーテンは、子どもの社会性の発達に視点をおいて、その発達が子ども達の遊びの変化と連動していることを多くの子どもを観察しながら検証した。一人遊び、傍観遊び、平行遊び、連合遊び、協同遊びなど、子どもの遊びの基本的な形を学ぶ。		印刷授業
5	パーテンによる「遊びの発達段階」の各段階における保育者の望ましい援助について考察する。遊びの変化は、子どもの人とかかわる力の発達を象徴している。したがって、それぞれの遊びの段階と人とかかわる力との関係を検証し、各段階で保育者はどのような教材を活用し、援助すべきかを考察する。		印刷授業
6	0～2 歳児の保育者と子どもの人間関係における留意点を理解する。保育者との信頼関係を基盤として 2 歳以降ごろから仲間との関係が徐々に形成されていく姿を理解し、その時期に必要な保育者の指導・援助を考察する。	0～2 歳児の園生活のビデオ視聴により実際の子どもと保育者の姿を理解し、保育者の援助のあり方についてディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 (3 時間)

7	3 歳以上の保育者と子どもの人間関係における留意点を理解する。保育者との関係から徐々に仲間関係を築く力が育まれていく子どもの姿を理解する。5 歳児後半には仲間関係から学びあう内容が増える。保育者は子ども達とどのような距離感をもちつつ援助をしていくことが適切であるかを考察する。また子ども同士の関係、遊び方、保育教材の有効性を理解する。	3～5 歳児のビデオ視聴により実際の子どもと保育者の姿を理解し、仲間関係を築く力を育てるうえでの保育者の援助のあり方についてディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
8	教科書の第 9 章を読む。園生活に焦点を当てて、子どもの自立心や自律心がどのように育つかについて理解する。また単なる子どもの集まりから互いに支えあい分かち合う意味ある集団に育つ過程を理解する。		印刷授業
9	教科書の第 10 章を読む。園生活のなかでの子ども同士の活動を通して、子ども達が自分の役割や立場に責任を持ち、主体的に行動するための援助を学ぶ。どの子どもも仲間同士の関係のなかでで互いに認め合い、自己発揮できる機会をもつような保育者の援助を考える。		印刷授業
10	教科書の第 8 を読み、理解する。子ども達が人との関係を育てていくなかで必要なポイントを知る。特に主体性・自発性、自立性、協同性、創造性等、一人ひとりの子どもに保障されるべき活動や育ちが保育のなかで実現されているかを検証するための評価の視点を学ぶ。		印刷授業
11	現代の保護者を取りまく状況を理解し、子育て支援を考える。保護者がおかれている状況や生育歴を理解し、保護者の子育てを支えるためには、保護者理解から始める必要があることを学ぶ。子どもの健全な成長・発達を願う大人同士として、保護者と保育者が共に協力関係を築いていく重要性を理解する。	保育者とかかわるなかでの保護者の行動事例を取り上げ、望ましい支援の方法を習得する。保護者支援の実際では、どのような言葉かけや支援の方法があるのかを保護者の心理を読み取りながら、望ましい対応の仕方を知る。実際にロールプレイを行い、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
12	小学校との連携における「人間関係」の課題を、文献や教科書第 11 章等を読み、理解する。幼児期と学童期の育ちの連続性の視点から、幼児期以降の子どもの人とのかかわりに必要な学びを考え、その学びが幼児期の学びの何が基盤となっているかを考察する。		印刷授業
13	子どもの人間関係の力を育む指導案の構成および作成について理解する。実際の保育場面を想定し、子どもの人間関係の姿をみとり、ねらいを設定し、具体的な活動と援助のあり方を含めた指導案を作成する。	子どもの人間関係の力を育む指導案を作成する。グループディスカッションを行い、指導案作成における留意点を理解し、改善する。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
14	模擬保育による検討（発表およびディスカッション）を行うために、人とかかわる力を育てる環境構成について考察する。	実際の保育状況を想定して、人とかかわる力を育てる観点から環境構成を考え、発表しあいディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
15	模擬保育による検討（発表およびディスカッション）を行うために、「人とかかわる力を育てる保育者のかかわり方」について考察する。	実際の保育状況を想定して、人とかかわる力を育てることに向けての保育者のかかわり方を考え、発表しあい、ディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価		
	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	修了試験　５０％ 授業中の課題への取り組み　５０％ 総合点　１００点 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　園生活において、子どもひとりひとりが大切にされながら豊かな人とのつながりが保障されるために、保育者としてどのような支援が必要か述べよ。

＜ポイント＞

子どもはさまざまな大人とのかかわりや子ども同士のかかわりのなかでどのように育つのか、発達段階ごとの特徴を説明したうえで、園生活において、どの子どももひとりひとりが大切にされながら豊かな人とのつながりが保障されるために、保育者としてどのような支援が必要か記述すること。

科目終了試験学修のポイント

１．子どもの社会化について

＜ポイント＞

社会的存在としての人間・子どもの意味と、そのために求められる資質・能力について考える。

２．「仲間」から「集団」について

＜ポイント＞

「仲間」から「集団」が形成される過程で、保育者が留意する点について理解する。

３．領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」について

＜ポイント＞

「ねらい」と「内容」の意味を正確に捉えて、そこで重視されている点についてまとめる。

４．人とのかかわりの育ちと言葉について

＜ポイント＞

自己表現、自己抑制、他者受容、葛藤体験の意味を捉えて、その際に言葉が果たす役割について考察する。

５．保育者と子どものかかわりについて

＜ポイント＞

子どもの「人とかかわる力」を育成する際の保育者の指導・援助の留意点について考える。

６．園のなかでの子ども同士の関わりについて

＜ポイント＞

子ども同士の関わりの特徴を捉えて、園での望ましい活動の内容についてまとめる。

教科書

岸井慶子・酒井真由子　編著　『コンパス　保育内容　人間関係』　建帛社。

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領』

文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』厚生労働省『保育所保育指針』

科目コード	保育内容（表現）（２単位）	登録年次	履修方法
1222		１年	ＳＲ
教員名	岡林純子、駒井美智子、仁藤喜久子、林麻由美、 林三代江、村上加代子、持田京子、本野洋子		
教職区分	「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

科目概要

乳幼児は日常生活や遊びの中で、イメージを自由に膨らませながら豊かな表現を見せてくれる。保育者には、そのような乳幼児一人ひとりのあるがままの姿を捉え、意志のある「表」と無意識のうちに現れる内的変化である「現」をそれぞれ大切に受け止めるための理解力を身につけることが必要である。

本講義では、講義と演習を通して、乳幼児における表現の意味を理解し、表現の萌芽に気づき、その表現に対し、適切に対応できる応答力を身につける。

到達目標

1. 保育内容「表現」のねらいと内容について理解し、説明することができる。
2. 乳幼児の発達段階による「表現」の違いを理解し、説明することができる。
3. 自ら表現することにより、自己発見、自己認識を経て、保育者自身が豊かな表現者となるよう、自己表現力を高める。
4. 乳幼児の「表現」を支える保育者の役割について理解し、説明することができる。
5. 乳幼児の「表現」を援助するための方法を身につける。

学修内容

	印刷授業	面接授業	授業方法
1	保育内容「表現」の歴史的変遷について調べまとめる。 ・保育内容「表現」となった背景を知ることで、保育の中で捉えられる「表現」の特殊性を理解する。「表現」する以前にある、諸感覚を駆使しての諸々との出会いのために、五感と保育との関わりについて調べる。	オリエンテーション（授業概要） 保育における「表現」とは何か 五感を研ぎ澄まし表現する身体の準備	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
2	領域「表現」のねらいと内容の意味を理解する ・現在の幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・保育所保育指針における、領域「表現」の考え方，それらの評価の仕方はどのようなことか。領域「表現」のねらいと内容をよく読み、その考え方，評価方法を理解する。	保育内容「表現」のねらいと内容，子どもの発達と表現の捉え方について学ぶ。 自分に向き合い自己表現	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
3	表現する身体の獲得のため、バランスのとれた身体とはどのようなものか理解する。 ・世界がリズミカルな調和のとれたものであることを理解し、そのリズムに反応できる身体を作るため、保育でどのようなリズム活動が行われているか調べる。	リズミカルな身体を創る　（リズム遊び・リトミックの理解）	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
4	表現する身体は、音楽に合わせた遊びを通して獲得される。 ・わらべうた等、遊びと一体となった歌について調べる。遊びという動作を伴うことでリズム感が育ち、複数で遊ぶことで人間関係や社会性が育まれることを理解する。さらにこれらを通じて小学校教育における音楽，生活，道徳につながる力を育む。	身体遊びと音楽　（わらべうた遊び等）	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
5	子どもの歌を分析することで、特徴と魅力を理解する。 ・歌は詩であるので、まず朗読によって詩の世界を理解する。言葉にどんな特徴があり、何が歌われ、どのように音楽がつけられているか調べる。さらにこれらを通じて小学校教育における音楽，国語につながる力を育む。	子どもの歌の特徴と魅力　（詩を朗読し歌い感じ考える。） 子どもが歌うということはどのようなことか	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
6	季節に着目することで、行事やそれに関わるあらゆること、動植物や自然、命について観察し、感じ、考える。 ・保育で大切にされる行事は、それを通して季節の特徴やその移り変わりに伴って起こる様々な変化、命の移ろいに気づく機会となる。行事を軸にそれぞれの季節で注目すべき事象を調べる。さらにこれらを通じて小学校教育における生活につながる力を育む。	季節を感じて伝える（絵，写真，実物を見て語る）	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）

7	造形に対する感性と表現について理解する。 ・保育現場で、子どもが豊かな造形活動を経験するために、まず既成の概念を捨ててものに出会い、その造形的表現の可能性について試行する。さらにこれらを通じて小学校教育における図画工作につながる力を育む。	素材との出会い①（素材～水，紙，石，ひも，葉等を使っての色，形の表現探索）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
8	造形に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する ・様々な素材による様々な表現について知り、造形的思考力と「表現」について理解することで保育現場での造形的表現を育むにはどのような指導方法があるか調べて、実践できるようにする。さらにこれらを通じて小学校教育における図画工作につながる力を育む。	素材との出会い②（色，形の表現発表，鑑賞，意見交換，振り返り）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
9	音・音楽に対する感性と表現について理解する。 ・保育現場で、子どもが豊かな音や音楽を経験するために、まず既成の概念を捨ててものに出会い、その音による表現の可能性について試行する。さらにこれらを通じて小学校教育における音楽につながる力を育む。	素材との出会い③（素材～水，紙，石，ひも等を使っての音の表現探索，個々の素材の音の紹介）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
10	音・音楽に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する ・様々な素材による音の表現を集合体にすることで音楽となる過程を考え、保育現場で音の表現、音楽的表現を育むにはどのような指導方法があるか調べて、実践できるようにする。さらにこれらを通じて小学校教育における音楽につながる育ちを育む。	素材との出会い④（音の発表，いくつかの素材の音を重ねる，鑑賞，意見交換，振り返り）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
11	子どもの豊かな感性と表現を育むために、どのような環境を整えるべきなのか、環境と表現の関わりについて理解する。 ・子どもの豊かな感性を育む環境とはどのような環境であるか、様々な視点から考えられるように調べる。時間、空間、人間関係、健康状態も考慮すべき点である。様々な園での環境設定の取り組み（情報機器を含む）も調べる。	中間のまとめ（表現のコアとなる体験の振り返り，他領域との関連）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
12	表現を育てる保育者の役割と保育教材について考察する。 ・子どもたちが楽しみながら表現技術を身につけるには、日々の生活の中でどのような指導が求められるか。道具（身体も含む）を使った具体的な表現技術の指導方法，情報機器の併用及び教材としての可能性についても取り上げ、その方法と留意点を考察する。	保育指導と教材	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
13	領域「表現」のねらいや内容を参考に、「表現」を育む指導案を立案し実践する。 ・領域「表現」のねらいや内容を参考に、指導案を自分なりに「環境構成」「子どもの動き」「保育者の援助」を考えて作成してみる。	指導案を作成する	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
14	模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。 ・模擬保育の事例の分析を行うために、保育者としてどうあるべきか、保育集団のありようについて調べる。	事例の分析から改善点を見つける	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
15	保育内容「表現」のこれまでと今後の課題について考察する ・保育内容「表現」の学びを振り返った上で、今後、保育者が考えるべき課題についてまとめる。	まとめ（保育内容「表現」における今後の課題）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価		
	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	授業へ参加意欲・態度、表現演技・文章　　総合点の５０％ スクーリング修了試験　　総合点の５０％ 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　表現を育てる保育者の役割について、テキストの内容を参考に自分の考えを述べよ。

＜ポイント＞
領域「表現」のこれまでとこれからをまとめること。それをもとに、現代社会で必要となる、保育者の具体的な役割や指導方法などのアイデアを自分なりにまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１．日常生活のなかの私たちの表現について
＜ポイント＞
表現は特別の活動に限定されるものでなく、日々の保育の中の普通の行為であることに留意する。

２．領域「表現」の意味について
＜ポイント＞
「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」の領域「表現」のねらいと内容を、よく読み理解することが必要である。

３．乳幼児の「表現」と発達について
＜ポイント＞
保育において乳幼児の「表現」とその発達をどのような視点から見ることが必要かを理解する。

４．表現を育てる保育者の役割について
＜ポイント＞
領域「表現」の考え方を基に具体的に自分の言葉で考察する。

５．領域「表現」のこれまでとこれからについて
＜ポイント＞
これまでの「表現」の指導とその結果起きた問題点も含め、今後の保育現場で求められる「表現」の指導を考察する。

６．保育者自身の感性を磨くためにはどうしたらよいか
＜ポイント＞
保育者自身も自分の身体を知り表現すること、さらに幼児の表現にかかわる文化をどのように学び伝えるかを具体的に考察する。

教科書

小林紀子・砂上史子・刑部育子 『新しい保育講座　保育内容「表現」』 ミネルヴァ書房。

参考文献

無藤隆　監修『事例で学ぶ保育内容　領域表現』萌文書林。
佐伯胖/藤田英典/佐藤学 編『シリーズ学びと文化⑤表現者として育つ』東京大学出版会。
東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。
井口佳子『幼児期を考える―ある園の生活より―』相川書房。
萩原元昭『幼児の保育と教育』学文社。
幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

科目コード	保育内容総論（４単位）	登録年次	履修方法
7390		２年	ＳＲ
教員名	氏家博子、岡林純子、加藤博子、河合光利、駒井美智子、坂本真理子、 戸田大樹、御手洗和子、持田京子、山口悠紀子、山崎摂史、和崎光太郎		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

保育内容の５つの領域(保育所は「養護」的内容が加わる)は保育実践では分断されて行われるものではない。具体的な生活や遊びの中では、それらが丸ごと含まれているので、実践の中で総合的に捉える視点をもてるようにし、保育を進めていけるように学ぶ。

学修内容

1	「保育内容総論」とはなにか 教科書を読んで、科目全体の内容を確認する。
2	第１章　保育の基本 保育とは何か、第１章を読解し内容を整理する。
3	第２章　保育内容の意味 第２章を読解し、保育内容５領域について確認し、整理する。
4	第３章　保育内容の変容とその背景 第３章を読解し、保育内容の歴史的な変容について整理する。
5	第４章　保育方法と保育内容 第４章を読解し、保育方法と内容の関係を整理する。
6	第５章　子どもの育ちをどのように見るか 第５章を読解し、子どもの育ちについて考える。
7	第６章　３歳児未満児の保育内容と指導計画のポイント 第６章を読解し、内容を整理する。保育所保育指針も見ておく。 また、保育指導計画のポイントを整理・確認する。
8	第７章　３・４・５歳児の保育内容と指導計画のポイント 第７章を読解し、内容を整理する。保育所保育指針も見ておく。 第７章の指導計画のポイントを整理・確認をしておく。
9	第８章　１・２歳児の保育の展開 第８章を読解し、１・２歳児の保育の展開についてポイントを確認しておく。
10	第９章　年少児の保育展開 第９章を読解し、年少児の保育展開を調べ、まとめる。
11	第 10 章　年中児の保育の展開 第 10 章を読解し、年中児の保育展開を調べ、まとめる。
12	第 11 章　年長児の保育の展開 第 11 章を読解し、年長児の保育展開を調べ、まとめる。
13	第 12 章　学校教育の基本としての保育 第 13 章　現代社会と生きる力の基礎 教科書を読解し、各章の内容をまとめる。
14	第２回から第７回までのまとめ 第１章～第７章について確認・整理して保育内容総論のまとめを各自でする。
15	第８回から第１３回までのまとめ 第７章～第 12 章について確認・整理して保育内容総論のまとめを各自でする。 保育内容総論についてのノート整理をする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

保育の中で子どもの発達を捉える際に留意する点について述べよ。

＜ポイント＞

平均的発達とその子なりの発達、一時的断片的発達と生活の流れとしての発達、その子にとっての意味、複眼的視点等に着目すること。

【設題2】

何故、子どもの活動を総合的活動として5領域から捉えるのか、その意義と問題について述べよ。

＜ポイント＞

子どもの意識や構え等に着目すること。活動の中に含まれる5領域のあり方、相互性等に着目すること。

科目終了試験学修のポイント

1．保育内容を捉える視点について

＜ポイント＞

保育内容とは何か確認する。

2．生活と遊びの関係について

＜ポイント＞

子どもの生活は遊びである。遊びから学ぶものは何かを学ぶ。

3．保育ニーズへの対応について

＜ポイント＞

保育が必要な理由を学修する。

4．道徳性の芽生えの指導について

＜ポイント＞

道徳性とは何かを先ず学修する。また、なぜ必要かを学ぶ。

5．情報化社会と保育内容の展開と工夫について

＜ポイント＞

情報化社会と保育内容の相互関係について学ぶ。

6．保育の中で子どもの発達を捉える際に留意する点について

＜ポイント＞

子どもの発達について確認し学修する。

教科書

関口はつ江、岸井慶子『実践理解のための保育内容総論』大学図書出版。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針』
文部科学省『幼稚園教育要領』
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。
文部科学省『幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集』ひかりのくに。

科目コード	保育内容総論（2単位）	登録年次	履修方法
7391/7393		2年	SR
教員名	氏家博子、岡林純子、小野洋子、加藤博子、、河合光利、駒井美智子、坂本真理子、関容子、玉野井サダメ、戸田大樹、御手洗和子、持田京子、山口悠紀子、山崎摂史、和崎光太郎		
教職区分	「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

保育内容の５つの領域(保育所は「養護」的内容が加わる)は保育実践では分断されて行われるものではない。具体的な生活や遊びの中では、それらが丸ごと含まれているので、実践の中で総合的に捉える視点をもてるようにし、保育を進めていけるように学ぶ。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	「保育内容総論」とはなにか 教科書を読んで、科目全体の内容を確認する。	保育者養成課程の「保育内容総論」	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
2	第１章　保育の基本 保育とは何か、第１章を読解し内容を整理する。	子どもの発達と保育内容―幼稚園教育要領、保育所保育指針における各領域のねらい、内容、指導上の留意点をふまえて―	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
3	第２章　保育内容の意味 第２章を読解し、保育内容５領域について確認し、整理する。	子ども理解・保育理解と保育内容 －子ども観と保育観の理解－	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
4	第３章　保育内容の変容とその背景 第３章を読解し、保育内容の歴史的な変容について整理する。	子ども理解・保育理解と保育内容－子ども観・保育観と保育内容－	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
5	第４章　保育方法と保育内容 第４章を読解し、保育方法と内容の関係を整理する。	保育所保育指針の理解、及び保育所における幼児の経験と発達に即した保育と、小学校における教科とのつながりを考える	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
6	第５章　子どもの育ちをどのように見るか 第５章を読解し、子どもの育ちについて考える。	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解、及び幼稚園における幼児の経験と発達に即した保育と、小学校における教科とのつながりを考える	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
7	第６章　３歳児未満児の保育内容と指導計画のポイント 第６章を読解し、内容を整理する。保育所保育指針も見ておく。 また、保育指導計画のポイントを整理・確認する。	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解、及び認定こども園法・制度の理解と保育内容	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
8	第７章　３・４・５歳児の保育内容と指導計画のポイント 第７章を読解し、内容を整理する。保育所保育指針も見ておく。 第７章の指導計画のポイントを整理・確認をしておく。	情報化社会における保育の課題―情報機器や教材の望ましい活用法とは―	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
9	第８章　１・２歳児の保育の展開 第８章を読解し、１・２歳児の保育の展開についてポイントを確認しておく。	教育課程・保育の全体計画と指導計画、及び指導案の作成	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
10	第９章　年少児の保育展開 第９章を読解し、年少児の保育展開を調べ、まとめる。	指導案の作成をふまえた模擬保育（乳児対象）と保育の評価	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）

11	第10章　年中児の保育の展開 第10章を読解し、年中児の保育展開を調べ、まとめる。	指導案の作成をふまえた模擬保育（幼児対象）と保育の評価（1） ―保育者の子どもへの関わりを中心として―	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
12	第11章　年長児の保育の展開 第11章を読解し、年長児の保育展開を調べ、まとめる。	指導案の作成をふまえた模擬保育（幼児対象） と保育の評価（2） ―保育実践における環境の再構成を中心として―	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
13	第12章　学校教育の基本としての保育 第13章　現代社会と生きる力の基礎 教科書を読解し、各章の内容をまとめる。	保育内容の歴史的変遷	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
14	第2回から第7回までのまとめ 第1章～第7章について確認･整理して保育内容総論のまとめを各自でする。	保育実践の動向と保育の多様な構想と展開	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
15	第8回から第１３回までのまとめ 第7章～第12章について確認・整理して保育内容総論のまとめを各自でする。 保育内容総論についてのノート整理をする。	授業内容のまとめとポイントの検証	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
			面接授業：合計15時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の50%、参加態度・課題提出　総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点）　F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

なぜ，子どもの活動を総合的活動として5領域から捉えるのか，その意義と問題について述べよ。

＜ポイント＞

子どもの意識や構え等に着目すること。活動の中に含まれる5領域のあり方、相互性等に着目すること。

科目終了試験学修のポイント

1．保育内容を捉える視点「領域」について

＜ポイント＞

保育内容とは何か確認する。

2．生活と遊びの関係について

＜ポイント＞

子どもの生活は遊びである。遊びから学ぶものは何かを学ぶ。

3．保育ニーズへの対応について

＜ポイント＞

保育が必要な理由を学修する。

4．道徳性の芽生えの指導について

＜ポイント＞

道徳性とは何かを先ず学修する。また、なぜ必要かを学ぶ。

5．情報化社会と保育内容の展開と工夫について

＜ポイント＞

情報化社会と保育内容の相互関係について学ぶ。

6．保育の中で子どもの発達を捉える際の留意点について

＜ポイント＞

子どもの発達について確認し学修する。

教科書

関口はつ江、岸井慶子『実践理解のための保育内容総論』大学図書出版。

参考文献

保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）（必携）

幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）（必携）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。

文部科学省『幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集』ひかりのくに。

科目コード	保育内容総論Ⅱ（2単位）	登録年次	履修方法
7880/7881		2年/3年	R
教員名	氏家博子、河合光利、、駒井美智子、山崎摂史、和崎光太郎		
教職区分	「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

幼稚園修了までに子どもが経験し、育つことが期待されている事項、すなわち「ねらい」を達成するための内容が保育内容である。この科目では、①保育内容（5領域）を総合的に把握する、②期待される事項がどのような活動を通して、経験されていくのかを実践とつなげて理解する、③子どもの発達段階にふさわしい主体的な活動を捉える目を持ち、適切なかかわりを考える、等を中心内容とする。

学修内容	
1	1　保育の基本の確認①　　保育の基本の理解（育てる・育てられる関係、生きる力の基礎を育てること、環境を通しての保育、ねらいと活動の総合性　保育方法の特性）　　教科書第1章
2	2　保育の基本の確認②　　保育内容の理解（ねらいの内容、発達の視点としての保育内容理解　）教科書第2章
3	3　保育の基本確認③　　現在の幼稚園教育、保育所保育における保育内容理解と指導上の留意点（5領域のねらいと内容、領域間の関連、発達過程と指導・援助）　　教科書第2章
4	4　保育の基本確認④　　保育内容の変遷理解（保育内容の変遷とその社会的背景理解、日本の保育はどのように変わってきているか、その動向と変化の理由をまとめる。）　　教科書第3章
5	5　実践につながる保育内容理解①　　保育における子どもの育ちの捉え方（活動の経過と子どもの育ち、生活や遊びの中での育ちの見方）　　教科書第5章
6	6　実践につながる保育内容理解②　　保育方法と保育内容の関連、情報機器及び教材の活用法を理解する。(保育のねらい、内容の達成のための多様な教材と保育方法、保育形態とその目的理解)　　教科書第4章、参考文献、関連資料参照
7	7　実践につながる保育内容理解③　　保育ニーズ、保育実践の方法理解と指導上の留意点（統合保育、多文化保育、地域連携、専門機関との連携、それらをふまえた指導）　　教科書第4章
8	8　保育内容と指導計画①　　3歳未満児の指導計画のポイントと指導案の作成（各年齢段階の発達状態と生活、遊びの指導の要点と配慮）教科書第6章
9	9　保育内容と指導計画②　　3，4，5歳児の指導計画のポイントと指導案の作成（各年齢の発達状態と遊び、生活の指導の要点と配慮点、個と集団関係、活動の連続性への着目）　　教科書第7章
10	10　保育の実際①　　1，2歳児の保育の実際の理解、さらに模擬保育を行い保育内容を評価する（1日の生活の流れ、基本的生活習慣の指導の仕方、遊びの指導の要点）　　教科書第8章
11	11　保育の実際②　　3歳児保育の実際の理解、さらに模擬保育を行い保育内容を評価する（3歳児の発達、生活の姿と保育内容、保育者との関係、友達との関係、遊びの特徴、保育上の配慮点の理解）　　教科書第9章
12	12　保育の実際③　　4歳児の保育の実際の理解、さらに模擬保育を行い保育内容を評価する（保育内容「表現」の例による4歳児保育の保育者の意図的環境設定、活動の誘導、保育教材の扱い方、保育者の技術の重要性の理解）　　教科書第10章
13	13　保育の実際④　　5歳児の保育の実際理解、さらに模擬保育を行い保育内容を評価する（5歳児の発達の姿と保育内容、指導の仕方、5歳児にふさわしい個別活動、園活動、指導の要点の理解）　　教科書第11章
14	14　小学校教育との接続　　小学校の教科と保育内容の違いと幼小連携（幼児期の生活の中での学びと小学校での系統的学習の違い、領域の考え方の確認、共同的学びの理解）　　教科書第12章
15	15　現代社会と生きる力の基礎　　保育に対する社会のニーズと保育実践の動向及び保育構想の向上（特色ある保育とは、今求められている保育とは、地域との連携、保育者の役割理解）　　教科書第13章、参考文献、関連資料の参照
学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点） F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　子どもの発達段階による保育内容の違いを述べよ。

＜ポイント＞

幼稚園教育要領、保育指針等も参考にすること。事例などによって具体的に説明することが望ましい。

科目終了試験学修のポイント

1．低年齢児の園生活と保育内容について

＜ポイント＞

3歳未満児の保育内容と保育実践上の配慮点を理解する。特に基本的生活習慣の指導、遊びの指導の仕方、安全管理や保護者との連携など大切なことをまとめる。

2．保育内容の各発達段階（3歳，4歳，5歳）の特質について

＜ポイント＞

幼児後期（3歳、4歳、5歳）の発達的変化は著しく、保育内容の違いも明確である。指導の観点、具体的活動の例などをよく調べておく。

3．遊びの生活と保育内容について

＜ポイント＞

「遊びによる総合的教育」が幼児期の保育の基本である。遊びにおける子どもの経験内容、遊びの発展のさせ方、あそびを豊かにする環境構成や活動の材料など、事例や資料をあつめて具体的に知っておく。

4．生きる力と園生活について

＜ポイント＞

幼児期に育てるべき「生きる力の基礎」とはどのようなことかをまとめ、子どもが自発的、主体的に生活できるような園環境、活動計画、園組織、地域との連携を考える。

5．保育内容の変遷と今日的課題について

＜ポイント＞

幼稚園がつくられてから、わが国の保育内容はどのように変わってきたか、特に保育内容6領域から5領域への改訂、保育所保育指針と幼稚園教育要領の内容の整合性への変化の過程について理解する。

6．学校教育の基礎としての保育について

＜ポイント＞

子どもの育ちの連続性、幼児教育と学校教育の違い、幼小連携の必要性、その方法についてまとめる。

教科書

関口はつ江、岸井慶子『実践理解のための保育内容総論』大学図書出版。

参考文献

久富陽子、他『保育方法の実践的理解』萌文書林。
日本保育学会編『保育講座　保育のいとなみ　子ども理解と内容・方法』建帛社
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。
文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。
厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館。
幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

科目コード	保育の心理学（２単位）	登録年次	履修方法
6820		１年	R
教員名	荒井理帆、石暁玲、立松英子、前川洋子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

心の機能は、感覚・知覚・認知、社会性、気質・性格、感情などさまざまな側面を見せながら、人の一生を通じて変化していく。発達は、個々に異なる様相をみせると同時に、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、壮年期、老年期などの各ライフステージにおける普遍的な特徴をもつ。

本科目では、発達の概念および各ライフステージにおける心理及び行動の特長について学び、人間理解の基礎を培う。

学修内容

1	子どもの発達を理解することの意義 教科書 pp.1-9 を通読し、発達の概念、発達を規定する要因、発達のメカニズムなどについて理解する。
2	子ども観と保育観の変遷 教科書 pp.10-19 を通読し、子ども観や保育観の変遷、それに応じた制度の変化などについて理解する。
3	胎児期・新生児期の発達の特徴 教科書 pp.20-29 を通読し、胎児期・新生児期の発達の特徴と問題点について理解する。
4	乳幼児期の発達の特徴 教科書 pp.30-40 を通読し、乳幼児期の発達の特徴と問題点について理解する。特に初期経験の重要性について押さえておく。
5	児童期の発達の特徴 教科書 pp.42-49 を通読し、児童期の発達の特徴と問題点について理解する。
6	青年期の発達の特徴 教科書 pp.51-56 を通読し、青年期の発達の特徴と問題点について理解する。特に、エリクソンのアイデンティティの概念について押さえておく。
7	成人期の発達の特徴 教科書 pp.56-58 を通読し、成人期の発達の特徴と問題点について理解する。現代の成人に特有の危機や、それが子どもに与える影響についても考えてみるとよい。
8	老年期の発達の特徴 教科書 pp.58-60 を通読し、老年期の発達の特徴と問題点について理解する。老年期が発達段階の中に位置づけられているのはなぜかということも押さえておく。また、子どもと老人の理想的な関係などについても考えてみるとよい。
9	身体・運動の発達 教科書 pp.61-71 を通読し、運動発達の分類や方向性、それぞれの発達段階の運動発達の様相などについて理解する。
10	認知の発達 教科書 pp.73-81 を通読し、それぞれの発達段階の認知発達の様相などについて理解する。特にピアジェの発達理論を押さえておく。
11	言語の発達 教科書 pp.83-92 を通読し、言語発達の様相について理解する。また、子どもの言語発達における養育者の役割について押さえておく。
12	感情の発達 教科書 pp.93-102 を通読し、感情の発達の様相について理解する。また、感情の表出における問題点について押さえておく。
13	気質・性格の発達 教科書 pp.103-111 を通読し、気質・性格の基本的理論について理解する。気質・性格の測定方法やその問題点についても押さえておく。
14	子どもの発達における今日的課題１ 上記のテーマの中から、特にそれ以前の時代とは異なる、現代に生きる子どもの発達上の問題点について、具体的な事例を挙げながら考察してみること。たとえば、遊び場や自然環境など物理的な発達環境の変化など。
15	子どもの発達における今日的課題２ 上記のテーマの中から、特にそれ以前の時代とは異なる、現代に生きる子どもの発達上の問題点について、具体的な事例を挙げながら考察してみること。たとえば、家族関係や養育観の変化など。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

エリクソンの発達段階のうちどれかを選び，その特徴をまとめ，その段階に起こりがちな危機を 1 つ挙げて，その対応について述べよ。

＜ポイント＞

乳児期から老年期までの8つの発達段階のうち1つ時期の特徴を説明した上で、その時期に生じる危機の内容や原因などを具体的に述べ、対応について自分の意見を含めて論じる。

科目終了試験学修のポイント

1．「発達」の今日的意味について

＜ポイント＞

「発達」の概念がどのように変化してきたかをまとめ、「発達」の今日的な意味を考える。

2．発達を規定する要因について

＜ポイント＞

発達を規定する要因として、遺伝と環境をとりあげ、それがどのように位置づけられているか考える。

3．各発達段階の特徴とエリクソンの心理社会的危機について

＜ポイント＞

エリクソンの生涯発達の理論を簡単にまとめ、それぞれの段階の発達課題と心理社会的危機をまとめる。

4．身体・運動の発達について

＜ポイント＞

運動発達の分類や方向性、それぞれの発達段階の運動発達の様相をまとめる。また、現代における運動発達の問題点についても触れるとよい。

5．認知・言語・感情の発達について

＜ポイント＞

それぞれの発達段階における認知、言語、感情の発達の様相をまとめる。

6．子どもの発達における今日的課題について

＜ポイント＞

それ以前の時代とは異なる、現代に生きる子どもの発達上の問題点について、様々な観点から考察する。

教科書

本郷一夫『シードブック保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』健帛社。

参考文献

内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床1 ライフサイクルからみた発達の基礎』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床2 脳科学からみた機能の発達』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床3 発達の臨床からみた心の教育相談』ミネルヴァ書房。

科目コード	保育の心理学Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
6440		1年	R
教員名	荒井理帆、石暁玲、酒井博美、立松英子、中山麻子、西脇雅彦、前川洋子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

心の機能は、感覚・知覚・認知、社会性、気質・性格、感情などさまざまな側面を見せながら、人の一生を通じて変化していく。発達は、個々に異なる様相をみせると同時に、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、壮年期、老年期などの各ライフステージにおける普遍的な特徴をもつ。

本科目では、発達の概念および各ライフステージにおける心理及び行動の特長について学び、人間理解の基礎を培う。

学修内容

1	子どもの発達を理解することの意義 教科書 pp.1-9 を通読し、発達の概念、発達を規定する要因、発達のメカニズムなどについて理解する。
2	子ども観と保育観の変遷 教科書 pp.10-19 を通読し、子ども観や保育観の変遷、それに応じた制度の変化などについて理解する。
3	胎児期・新生児期の発達の特徴 教科書 pp.20-29 を通読し、胎児期・新生児期の発達の特徴と問題点について理解する。
4	乳幼児期の発達の特徴 教科書 pp.30-40 を通読し、乳幼児期の発達の特徴と問題点について理解する。特に初期経験の重要性について押さえておく。
5	児童期の発達の特徴 教科書 pp.42-49 を通読し、児童期の発達の特徴と問題点について理解する。
6	青年期の発達の特徴 教科書 pp.51-56 を通読し、青年期の発達の特徴と問題点について理解する。特に、エリクソンのアイデンティティの概念について押さえておく。
7	成人期の発達の特徴 教科書 pp.56-58 を通読し、成人期の発達の特徴と問題点について理解する。現代の成人に特有の危機や、それが子どもに与える影響についても考えてみるとよい。
8	老年期の発達の特徴 教科書 pp.58-60 を通読し、老年期の発達の特徴と問題点について理解する。老年期が発達段階の中に位置づけられているのはなぜかということも押さえておく。また、子どもと老人の理想的な関係などについても考えてみるとよい。
9	身体・運動の発達 教科書 pp.61-71 を通読し、運動発達の分類や方向性、それぞれの発達段階の運動発達の様相などについて理解する。
10	認知の発達 教科書 pp.73-81 を通読し、それぞれの発達段階の認知発達の様相などについて理解する。特にピアジェの発達理論を押さえておく。
11	言語の発達 教科書 pp.83-92 を通読し、言語発達の様相について理解する。また、子どもの言語発達における養育者の役割について押さえておく。
12	感情の発達 教科書 pp.93-102 を通読し、感情の発達の様相について理解する。また、感情の表出における問題点について押さえておく。
13	気質・性格の発達 教科書 pp.103-111 を通読し、気質・性格の基本的理論について理解する。気質・性格の測定方法やその問題点についても押さえておく。
14	子どもの発達における今日的課題1 上記のテーマの中から、特にそれ以前の時代とは異なる、現代に生きる子どもの発達上の問題点について、具体的な事例を挙げながら考察してみること。たとえば、遊び場や自然環境など物理的な発達環境の変化など。
15	子どもの発達における今日的課題2 上記のテーマの中から、特にそれ以前の時代とは異なる、現代に生きる子どもの発達上の問題点について、具体的な事例を挙げながら考察してみること。たとえば、家族関係や養育観の変化など。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

エリクソンの発達段階のうちどれかを選び，その特徴をまとめ，その段階に起こりがちな危機を 1 つ挙げて，その対応について述べよ。

＜ポイント＞

乳児期から老年期までの8つの発達段階のうち1つ時期の特徴を説明した上で、その時期に生じる危機の内容や原因などを具体的に述べ、対応について自分の意見を含めて論じる。

科目終了試験学修のポイント

1．「発達」の今日的意味について

＜ポイント＞

「発達」の概念がどのように変化してきたかをまとめ、「発達」の今日的な意味を考える。

2．発達を規定する要因について

＜ポイント＞

発達を規定する要因として、遺伝と環境をとりあげ、それがどのように位置づけられているか考える。

3．各発達段階の特徴とエリクソンの心理社会的危機について

＜ポイント＞

エリクソンの生涯発達の理論を簡単にまとめ、それぞれの段階の発達課題と心理社会的危機をまとめる。

4．身体・運動の発達について

＜ポイント＞

運動発達の分類や方向性、それぞれの発達段階の運動発達の様相をまとめる。また、現代における運動発達の問題点についても触れるとよい。

5．認知・言語・感情の発達について

＜ポイント＞

それぞれの発達段階における認知、言語、感情の発達の様相をまとめる。

6．子どもの発達における今日的課題について

＜ポイント＞

それ以前の時代とは異なる、現代に生きる子どもの発達上の問題点について、様々な観点から考察する。

教科書

本郷一夫『シードブック保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』健帛社。

参考文献

内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床1 ライフサイクルからみた発達の基礎』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床2 脳科学からみた機能の発達』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床3 発達の臨床からみた心の教育相談』ミネルヴァ書房。

科目コード	保育の心理学Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
6450		２年	ＳＲ
教員名	荒井理帆、一村佑子、岡林純子、緒方玲子、酒井博美、志茂田典子、 石暁玲、立松英子、中山麻子、西脇雅彦、前川洋子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

「保育の心理学Ｉ」で基礎的知識を学修するため、ここでは保育実践に活かせる発達理解をすすめる。遊びや生活の活動の具体的な姿に表れる発達の姿を扱い、発達課題に即した教育的環境構成ができるようにする。子どもを総合的に捉え、環境との主体的な相互作用の意義、現代社会における子どもの問題等を具体的に考察する。

学修内容

1	子どもの発達理解の方法 教科書 pp.113-122 を通読し、発達検査や知能検査の種類や実施法、行動観察などについて理解する。また子どもの発達理解に関して、それらの技法を利用することの利点や問題点、限界などについても考察する。
2	子どもの精神的健康と障害 教科書 pp.123-133 を通読し、各種の発達障害、虐待との関連などについて理解する。
3	園内研修を通した子どもの発達理解 教科書 pp.134-142 を通読し、園内研修の様子や、その在り方について理解する。
4	他機関との連携を通した子どもの理解 教科書 pp.144-153 を通読し、連携の重要性やその在り方について理解する。
5	親子関係の発達と支援の実際 教科書 pp.154-164 を通読し、親子関係の発達について理解し、保育現場での支援の事例を検討する。
6	仲間関係の発達と支援の実際 教科書 pp.167-176 を通読し、仲間関係の発達について理解し、保育現場での支援の事例を検討する。
7	遊びの発達と支援の実際 教科書 pp.178-189 を通読し、遊びの種類や発達の様相について理解し、保育現場での支援の事例を検討する。
8	自己の発達と支援の実際 教科書 pp.190-199 を通読し、自己の形成や発達について理解する。
9	認知発達への支援の実際 教科書 pp.201-212 を通読し、認知発達に応じた支援の事例を検討する。
10	言語・コミュニケーションへの支援の実際 教科書 pp.213-228 を通読し、言語やコミュニケーション行動の発達に応じた支援について理解する。
11	演習課題１ 教科書 p.164 の親子関係の発達と支援に関する演習１、２、３、および、教科書 p.177 の仲間関係の発達と支援に関する演習１、２、３を行い、簡単にまとめてみる。
12	演習課題２ 教科書 p.189 の遊びの発達と支援に関する演習１、２、および、教科書 p.199 の自己の発達と支援に関する演習１、２を行い、簡単にまとめてみる。
13	演習課題３ 教科書 p.212 の認知発達への支援に関する演習１、２、および、教科書 p.228 の言語・コミュニケーションへの支援に関する演習１、２、３を行い、簡単にまとめてみる。
14	発達障害について 発達障害に関する事例をとりあげ、それに伴うトラブルの要因と、自分なりの対処法について考察する。
15	虐待について 虐待に関する事例をとりあげ、それに伴うトラブルの要因と、自分なりの対処法について考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

発達障害や虐待に関する記事やニュースを参考に、それらに伴うトラブルの要因と対処法について述べよ。

＜ポイント＞

発達障害や虐待に関する記事やニュースを読み、その記事についてまず要約した上で、その記事やニュースが生じた要因を分析し、問題への対応や予防について論じる。

科目終了試験学修のポイント

1．子どもの発達理解の方法について

＜ポイント＞

発達検査や知能検査の種類や方法、行動観察などについて簡単にまとめ、その利点や問題点、限界などについて考察する。

2．発達障害と虐待・PTSD・愛着障害について

＜ポイント＞

各種の発達障害の種類と特徴をまとめ、虐待と発達障害・PTSD・愛着障害との関連について考察する。

3．園内研修と他機関との連携について

＜ポイント＞

園内研修の様子や在り方、他機関との連携の重要性や在り方についてまとめる。

4．親子関係への支援について

＜ポイント＞

親子関係の発達についてまとめ、それにもとづいた適切な支援について考察する。

5．遊びの支援について

＜ポイント＞

遊びの発達の様相や種類についてまとめ、それにもとづいた適切な支援について考察する。

6．言語・コミュニケーションへの支援について

＜ポイント＞

言語やコミュニケーションの発達の様相についてまとめ、それにもとづいた適切な支援について考察する。

教科書

本郷一夫『シードブック保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』健帛社。

参考文献

内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床１ ライフサイクルからみた発達の基礎』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床２ 脳科学からみた機能の発達』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床３ 発達の臨床からみた心の教育相談』ミネルヴァ書房。

科目コード	法学(憲法を含む)（４単位)	登録年次	履修方法
1180/1181		１年	ＳＲ
教員名	有働文雄、小澤浩之、梶原洋生、鳥越由紀子、永井紹裕、堀正昭		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

憲法第２５条は「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」(生存権)を保障しているが、この実現のためには、様々な社会保障、社会福祉の諸制度やそれに関わる行政機関への手続きが必要となる。そのため社会福祉の専門家にとって、憲法、民法、行政法（特に生活保護法や児童福祉法など社会福祉に密接に関連する法律）の基礎知識を学ぶことは重要である。この科目では、社会福祉における法の作用や役割を学び、社会福祉の専門家として必要とされる法律の基本的知識を習得する。また、憲法、民法(中でも親族法、相続法)、行政法については、条文や判例の検討なども含めて研究する。

学修内容

1	法の本質と目的（テキスト １頁～） 社会生活の秩序の維持を図ることが法の本質であると理解する。 社会には、構成員が、守らなければならない規範がある。道徳、しきたり、習俗、法などがその例であるが、法は、その中で国家権力が保障する強制力を有する規範である。法の目的、法と道徳のちがいについて理解すること。
2	法源（テキスト７頁～） 成文法と不文法という法の存在形式（法源）を学修する。 法の存在形式である法源は、成文法としては、制定法（憲法・条約・法律・政令・省令・規則・条例など）がある。不文法としては、慣習法・判例法・条理法があることを理解する。
3	慣習法と判例法（テキスト10頁～） 不文法の中の慣習法と判例法の重要性を把握する。 慣習法とは、何か、慣習法の成立要件について理解する。判例法とは、何か、判例の拘束力について理解する。学説や条理についても理解する。
4	法の体系（テキスト14頁～） 国会が制定するものを法律と呼び、行政機関が制定するものを命令と称することを覚える。 法は、憲法を頂点として、法律、政令、省令、規則のほか、地方の条例・規則が存在し、段階的構造を構成している。これらの法は、①公法と私法②一般法と特別法③実体法と手続法などに分類されることを理解する。
5	法の効力（テキスト18頁～） 法の妥当性と実効性を考察する。 法の実質的効力、法の妥当性と実効性、法の効力の範囲（時間的効力の範囲、場所的効力の範囲)、法律不遡及の原則などについて理解する。
6	法の適用と解釈（テキスト21頁～） 法の解釈方法の違いを見きわめる。 法の適用とは、具体的事実に対して法をあてはめることをいう。法の適用にあたり、法の解釈が行われる。法の解釈として、まず、有権解釈として、立法解釈・行政解釈・司法解釈があることを理解する。つぎに学理解釈として、文理解釈と論理解釈があり、論理解釈は、さらに拡張解釈、縮小解釈、類推解釈、反対解釈，勿論解釈、歴史解釈などがあることを理解する。
7	憲法の基礎（テキスト26頁～） 憲法の意味とその基本原理を学修する。 憲法の意味については、実質的意味の憲法と形式的意味の憲法があることについて、理解する。大日本帝国憲法と日本国憲法の制定過程も理解すること。また、日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義について、理解すること。
8	立法と国会（テキスト39頁～） 国会の権限を知る。 国会は、国民の代表機関であること、国権の最高機関であること、唯一の立法機関であることを理解する。二院制、両議院の任期、衆議院の優越、参議院の緊急集会、会期、会議の原則、国会議員の身分と特権、国会の権能，議院の機能について理解する。
9	行政と内閣（テキスト50頁～） 内閣の機能を考える。 行政の概念と内閣の地位、議院内閣制、内閣の組織、内閣の権能、内閣の意思決定、内閣の責任などについて理解する。
10	司法と裁判所（テキスト60頁～） 裁判所の役割をつかむ。 司法権は、民事事件、刑事事件、行政事件の裁判をすべて行うことを理解する。裁判所の構成としては、最高裁判所、高等裁判所、地方裁判所、簡易裁判所、家庭裁判所があることを理解する。司法権の独立、違憲立法審査権について理解する。
11	人権の概念とその限界（テキスト65頁～） 基本的人権の思想史とその種類を学修する。 新しい人権（プライバシーの権利、知る権利、環境権、平和的生存権）を理解する。外国人の人権、教育の義務・納税の義務・勤労の義務について理解する。公共の福祉と人権制約、法の下の平等について理解する。

12	自由権（テキスト 83 頁～） 自由権の種類とその内容を研究する。 精神的自由（思想及び良心の自由、信教の自由、表現の自由、集会・結社の自由、学問の自由）について理解する。経済的自由（居住・移転・外国移住・国籍離脱の自由、職業選択の自由、財産権の保障）について理解する。人身の自由（奴隷的拘束及び苦役からの自由、適正手続の保障、刑事手続における自由）について理解する。
13	社会権（テキスト 96 頁） 社会権の種類とその存在価値を検討する。 プログラム規定説・抽象的権利説・具体的権利説について理解する。教育を受ける権利について理解する。労働基本権について理解する。
14	受益権（テキスト 108 頁～） 受益権の種類とその事例を考察する。 請願権、賠償請求権、裁判請求権、刑事補償請求権について理解する。
15	参政権（テキスト 112 頁～） 参政権の種類とその意義を理解する。 参政権の法的性格として、公務員の任命権、選挙権について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき 7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 憲法の定める自由権（特に精神的自由）について述べよ。
＜ポイント＞
精神的自由の意義について考えること。その上で、思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由、表現の自由、それぞれについて論述すること（代表的な判例が一部含まれていることが望ましい）。

【設題２】 環境権について論ぜよ。
＜ポイント＞
環境権の法的位置づけや内容、性格について、具体例を挙げながら考察すること。

科目終了試験学修のポイント

１．法と道徳との違いについて
＜ポイント＞
①法の概念、②法と道徳の関係、③法と道徳の差異

２．日本国憲法の基本原理について
＜ポイント＞
①日本国憲法の制定、②基本的人権の尊重、③国民主権、④平和主義

３．国会の権能について
＜ポイント＞
①憲法改正の発議、②法律の議決、③内閣総理大臣の指名、④予算の議決、⑤条約の承認、⑥弾劾裁判所の設置

４．法の下の平等について
＜ポイント＞
①明治憲法下での不平等、②法の下の平等の意義、③不合理な差別、④他の平等規定

５．社会権について
＜ポイント＞
①社会的弱者の救済、②生存権（25 条）、③教育を受ける権利（26 条）、④勤労の権利（27 条）と労働基本権（28 条）

６．新しい人権について
＜ポイント＞
①新しい人権の登場、②プライバシーの権利、③知る権利、④環境権、⑤平和的生存権

教科書

三好充、他『ポイント法学』嵯峨野書院。

参考文献

『図解による法律用語辞典』自由国民社。
丹羽重博『やさしい法学・第３版』法学書院。
伊藤正己『憲法入門・第４補訂版』有斐閣。
山本豊『判例・通説を基調とした法学・憲法』学校図書。

※科目コード1182 / 1186：R履修

※科目コード1184 / 1187 / 1390 / 1391 / 1392：ＳR履修

科目コード		登録年次	履修方法
1182/1186 1184/1187 1390/1391/1392	法学Ⅰ（憲法） / 法学（憲法）（２単位）	２年/１年	R/ＳR※
教員名	有働文雄、小澤浩之、梶原洋生、鳥越由紀子、永井紹裕、堀正昭、和久野藍、		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

将来の目標がいかなるものであっても、社会に役立つ人材となるためには、諸法令を理解し、それらを運用するための基礎的な能力を身に付けることが必要である。すなわち、諸法令の根源にある憲法、行政法、民法などについて、一般的な知識を習得しなければならない。本科目では、諸法令の理解を容易にするために、その基盤となっている法学概論（法の概念、法の効力、法の運用・解釈、諸法令の内容）を勉強し、そのあとで、国家の政治体制と国民の基本的人権を定めている最高法規としての憲法の学修へと進んでいく。

学修内容

1	法の本質と目的（テキスト 1 頁～） 社会生活の秩序の維持を図ることが法の本質であると理解する。 社会には、構成員が、守らなければならない規範がある。道徳、しきたり、習俗、法などがその例であるが、法は、その中で国家権力が保障する強制力を有する規範である。法の目的、法と道徳のちがいについて理解すること。
2	法源（テキスト 7 頁～） 成文法と不文法という法の存在形式（法源）を学修する。 法の存在形式である法源は、成文法としては、制定法（憲法・条約・法律・政令・省令・規則・条例など）がある。不文法としては、慣習法・判例法・条理法があることを理解する。
3	慣習法と判例法（テキスト 10 頁～） 不文法の中の慣習法と判例法の重要性を把握すとる。 慣習法とは、何か、慣習法の成立要件について理解する。判例法とは、何か、判例の拘束力について理解する。学説や条理についても理解する。
4	法の体系（テキスト 14 頁～） 国会が制定するものを法律と呼び、行政機関が制定するものを命令と称することを覚える。 法は、憲法を頂点として、法律、政令、省令、規則のほか、地方の条例・規則が存在し、段階的構造を構成している。これらの法は、①公法と私法②一般法と特別法③実体法と手続法などに分類されることを理解する。
5	法の効力（テキスト 18 頁～） 法の妥当性と実効性を考察する。 法の実質的効力、法の妥当性と実効性、法の効力の範囲（時間的効力の範囲、場所的効力の範囲）、法律不遡及の原則などについて理解する。
6	法の適用と解釈（テキスト 21 頁～） 法の解釈方法の違いを見きわめる。 法の適用とは、具体的事実に対して法をあてはめることをいう。法の適用にあたり、法の解釈が行われる。法の解釈として、まず、有権解釈として、立法解釈・行政解釈・司法解釈があることを理解する。つぎに学理解釈として、文理解釈と論理解釈があり、論理解釈は、さらに拡張解釈、縮小解釈、類推解釈、反対解釈，勿論解釈、歴史解釈などがあることを理解する。
7	憲法の基礎（テキスト 26 頁～） 憲法の意味とその基本原理を学修する。 憲法の意味については、実質的意味の憲法と形式的意味の憲法があることについて、理解する。大日本帝国憲法と日本国憲法の制定過程も理解すること。また、日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義について、理解すること。
8	立法と国会（テキスト 39 頁～） 国会の権限を知る。 国会は、国民の代表機関であること、国権の最高機関であること、唯一の立法機関であることを理解する。二院制、両議院の任期、衆議院の優越、参議院の緊急集会、会期、会議の原則、国会議員の身分と特権、国会の権能，議院の機能について理解する。
9	行政と内閣（テキスト 50 頁～） 内閣の機能を考える。 行政の概念と内閣の地位、議院内閣制、内閣の組織、内閣の権能、内閣の意思決定、内閣の責任などについて理解する。
10	司法と裁判所（テキスト 60 頁～） 裁判所の役割をつかむ。 司法権は、民事事件、刑事事件、行政事件の裁判をすべて行うことを理解する。裁判所の構成としは、最高裁判所、高等裁判所、地方裁判所、簡易裁判所、家庭裁判所があることを理解する。司法権の独立、違憲立法審査権について理解する。

11	人権の概念とその限界（テキスト 65 頁～） 基本的人権の思想史とその種類を学修する。 新しい人権（プライバシーの権利、知る権利、環境権、平和的生存権）を理解する。外国人の人権、教育の義務・納税の義務・勤労の義務について理解する。公共の福祉と人権制約、法の下の平等について理解する。
12	自由権（テキスト 83 頁～） 自由権の種類とその内容を研究する。 精神的自由（思想及び良心の自由、信教の自由、表現の自由、集会・結社の自由、学問の自由）について理解する。経済的自由（居住・移転・外国移住・国籍離脱の自由、職業選択の自由、財産権の保障）について理解する。人身の自由（奴隷的拘束及び苦役からの自由、適正手続の保障、刑事手続における自由）について理解する。
13	社会権（テキスト 96 頁） 社会権の種類とその存在価値を検討する。 プログラム規定説・抽象的権利説・具体的権利説について理解する。教育を受ける権利について理解する。労働基本権について理解する。
14	受益権（テキスト 108 頁～） 受益権の種類とその事例を考察する。 請願権、賠償請求権、裁判請求権、刑事補償請求権について理解する。
15	参政権（テキスト 112 頁～） 参政権の種類とその意義を理解する。 参政権の法的性格として、公務員の任命権、選挙権について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき 7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 日本国憲法に定める自由権，とりわけ精神的自由権について詳述せよ。

＜ポイント＞

自由権にはどのようなものがあるか。精神的自由権の内容について詳述せよ。

科目終了試験学修のポイント

１．日本国憲法の法の下の平等について

＜ポイント＞

法の下の具体的内容について述べよ。

２．日本国憲法の基本原理について

＜ポイント＞

①日本国憲法の制定、②基本的人権の尊重、③国民主権、④平和主義

３．日本国憲法が規定する国会の権能について

＜ポイント＞

①憲法改正の発議、②法律の議決、③内閣総理大臣の指名、④予算の議決、⑤条約の承認、⑥弾劾裁判所の設置

４．日本国憲法における生存権と教育を受ける権利について

＜ポイント＞

生存権の法的性格及び教育を受ける権利の内容について述べよ。

５．日本国憲法が規定する議院内閣制について

＜ポイント＞

議院内閣制の意義及び特徴と日本国憲法に規定されている議院内閣制を述べよ。

６．日本国憲法における司法権独立について

＜ポイント＞

司法権独立の意義とその内容及び裁判官の職権の独立との関係について述べよ。

教科書

三好充、他『ポイント法学』嵯峨野書院。

参考文献

『図解による法律用語辞典』自由国民社。

丹羽重博『やさしい法学・第３版』法学書院。

伊藤正己『憲法入門・第４補訂版』有斐閣。

山本豊『判例・通説を基調とした法学・憲法』学校図書。

※科目コード1460／1462：R履修

※科目コード1461：ＳR履修

科目コード	法学Ⅱ（民法・行政法）（４単位）	登録年次	履修方法
1460/1461/1462		３年/２年	R/ＳR※
教員名	小澤浩之、梶原洋生、鳥越由紀子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

私たちの社会生活にいちばん密接な役割を果たすのが「民法」で、一般市民の財産取引や家族関係がどのように規制されているかを学修する。さらに、私たちと国家や地方公共団体との支配・服従の公的関係を扱うのが「行政法」で、具体的な事例を参照しながら理解を深めていく。

この二つは、別個のものではなく、例えば交通事故を起こしたとき、被害者への損害賠償は「民法」の問題で、運転免許が取消されるかが「行政法」の問題となる。

学修内容

1	権利能力、意思能力、行為能力（テキスト223頁～） 民法上の能力概念の違いを理解する。 自然人の権利能力、胎児の権利能力、権利能力の消滅について、理解する。制限行為能力者（未成年者・成年被後見人・被保佐人・被補助人）制度について、理解する。法人の権利能力・行為能力について、理解する。
2	法律行為の有効要件（テキスト 238頁～） 人の意思に基づく法律行為が無効または取消となるのはいかなる場合かを検討する。 法律行為の意義と分類（単独行為・契約・合同行為）について、理解する。法律行為の有効要件について、理解する。法律行為の自由と限界について、契約自由の原則、民法第９０条の公序良俗、強行規定などとの関連で理解する。
3	契約の成立、売買、賃貸借（テキスト 257頁～） 原則として当事者の意思の合致（合意）よって契約が成立することを考察する。 まず契約を学修する前に、債権の目的、債権の効力、多数当事者の債権および債務、債権の譲渡、債権の引受、債権の消滅について、学修し、理解する。ついで、契約の成立と効力について学修し、最後に民法が定める１３ 種類の契約のうち、売買契約・賃貸借契約を中心にできるだけ多くの契約の条項を読むことをすすめる。
4	不法行為と損害賠償責任（テキスト 265頁～） 交通事故などの加害者の不法行為責任を知る。 不法行為は、民法の中でもっとも重要な規定であるから、重点的に学修する。民事責任と刑事責任、過失責任主義と無過失責任主義、一般的不法行為の成立要件、特殊の不法行為、不法行為の効果などについて、理解する。
5	物権の体系と対抗要件（テキスト 270頁～） 物権と債権の違いを覚える。 物権は、債権とは異なり、物を直接支配する権利であり、排他性を有する。物権は、民法等の法律で定められたもののみが、認められる（物権法定主義）。物権変動と公示の原則、対抗要件について理解する。
6	用益物権と担保物権（テキスト275頁～） 目的物を使用収益するものが用益物権で、債権担保の役割を果たすのが担保物権だと理解する。 用益物権（地上権・永小作権・地役権・入会権）について、理解する。担保物権（留置権・先取特権・質権・抵当権・根抵当権）について、理解する。
7	親族、夫婦、親子（テキスト286頁～） 婚姻や養子縁組にともなう法律問題を学修する。 親族の範囲、婚姻、などに関する民法の規定を学修する。法律婚主義、内縁関係、婚姻の効力、離婚について、理解する。親子関係、親権、未成年者の後見について、理解する。親族間の扶養について、理解する。
8	相続（テキスト 294頁～） 人の死亡によって生じる相続関係を考える。 法定相続（法定相続人と相続分、代襲相続、相続欠格、相続排除、相続の効果、相続の承認、限定承認、放棄)について、理解する。遺言による相続、遺産の分類、相続人の不存在について、理解する。
9	行政法の基礎（テキスト117頁～） 行政法とはいかなる事項を対象とするのかを考察する。 行政とは何か、行政の特質、行政法とは何かついて、理解する。法治行政、法律による行政、行政立法について、理解する。
10	行政行為の意義と特色（テキスト126頁～） 行政処分ともいわれる行政行為の強行性の意味を検討する。 行政行為の意義と特色について、理解する。羈束行為と裁量行為など、行政裁量について、学修する。行政行為の具体的例として、命令的行政行為（下命及び禁止、許可、免除）と形成的行政行為（特許、認可、代理）について、理解する。
11	行政行為における瑕疵（かし）（テキスト 133頁～） 違法・不当な行政行為の効力はどうなるかを理解する。 行政行為における瑕疵の態様、行政行為の不存在と無効、無効と取消について、理解する。行政行為の取消と撤回の違いについて、理解する。

12	行政手続（テキスト137頁～） 行政運営における公正の確保のための行政手続法の内容を覚える。 行政手続法は、すべての行政処分を対象にしているのではない。申請に基く処分と不利益処分のみを対象としていることを理解すること。また、行政指導と届出についても規定があることを理解すること。
13	行政強制（テキスト142頁～） 行政上の強制執行や行政罰を学ぶ。 行政上の強制執行や即時強制について、理解する。行政罰については、行政刑罰と秩序罰について、理解する。
14	行政不服申立と行政訴訟（テキスト145頁～） 違法・不当な行政活動によって損害をこうむった国民の救済手段を検討する。 行政不服審査法を学修すること。審査請求、異議申立て、再審査請求について、理解すること。行政事件訴訟法を学修すること。抗告訴訟、当事者訴訟、民衆訴訟、機関訴訟について、理解する。
15	国家賠償と損失補償（テキスト156頁～） 国民の損害を填補する制度を知る。 国家賠償法を学修すること。民法第７０９条以下の不法行為の規定も参照すること。 損失補償の根拠と要件について、理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 制限行為能力者制度について述べよ。
＜ポイント＞
①制限行為能力者制度への改正、②未成年者、③成年被後見人、④被保佐人、⑤被補助人、⑥相手方の保護、について教科書以外にも、他の文献やインターネット検索などで調べて分かりやすくまとめる。

【設題2】 行政行為について述べよ。
＜ポイント＞
①行政行為の意義、②行政行為の特色、③行政裁量、④行政行為の種別、⑤行政行為の附款、⑥行政行為の瑕疵（かし）、⑦行政行為の取消と撤回、について他の文献も参考にして具体的な事例を示しながらまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．法律行為の意義と分類について
＜ポイント＞
①法律行為の意義、②意思表示による分類、③発生効果の種類による分類、④形式による分類、⑤発生効果の内容による分類

2．債権の効力について
＜ポイント＞
①債権の内容、②債務不履行による損害賠償請求権、③債権者代位権、④債権者取消権

3．離婚について
＜ポイント＞
①夫婦関係の解消、②協議離婚、③調停離婚、④審判離婚、⑤裁判離婚

4．法治行政について
＜ポイント＞
①法治行政の意義、②法律による行政の原則、③法治行政の課題

5．行政手続について
＜ポイント＞
①行政手続の裁量、②行政手続への国民参加、③行政手続法の内容

6．行政訴訟の種類について
＜ポイント＞
①行政（事件）訴訟の対象、②主観訴訟と客観訴訟、③抗告訴訟の類型、④当事者訴訟の類型、⑤民衆訴訟、⑥機関訴訟

教科書

三好充、他『ポイント法学』嵯峨野書院。

参考文献

川井健『民法入門・第5版』有斐閣。
藤田宙靖『行政法入門・第4版』有斐閣。
山本豊『判例・通説を基調とした法学・憲法』学校図書。

科目コード	法学演習（４単位）	登録年次	履修方法
2610		３年	ＳＲ
教員名	小澤浩之、梶原洋生		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

法学（憲法を含む）を学んだことを前提に、憲法を中心とした判例研究を行う。そして社会生活における事象に対して法学的な考察をより深めることを目的とする。

学修内容

1	１基本的人権とは（憲法の概説書参照） （１）基本的人権の意義と沿革　　自然法(権)思想、個人の尊厳
2	（２）我が国の基本的人権 ①大日本帝国憲法　　「臣民の権利義務」　天皇の恩恵として付与、法律の留保あり。 ②日本国憲法　　「国民の権利義務」　自然法（権）思想の現れ、個人の尊重、法律の留保なし。
3	（３）基本的人権の種類 ①包括的基本権　　ⅰ幸福追求権　　プライバシー権など新しい権利とのつながり ⅱ平等原則　　合理的差別論
4	②個別的基本権　　ⅰ自由権　　ⅱ社会権　　ⅲ参政権　　ⅳ国務請求権 とくに自由権と社会権との違いを意識する。自由権が、近代の伝統的な人権であるのに対して、社会権は、現代の比較的新しい人権であることに注意。
5	２教育を受ける権利と教育権（教科書・百選Ⅱp.308） （１）教育の意義　　憲法２６条
6	（２）教育を受ける権利と公教育 なぜ公教育は必要か。
7	（３）教育を受ける権利の法的性質 ①生存権説（従来の考え）　　経済的側面の強調 ②学習権説（最近の考え）　　子どもの権利主体性に目を向ける。
8	（４）教育権（教育内容決定権）の所在 ①国家教育権説　②国民教育権説　③折衷説 旭川学テ判決（最高裁昭和 51・5・21）（百選Ⅱp.308）
9	（５）教育を受けさせる義務 義務教育の無償性とその範囲　授業料だけか教科書等をも含むのか。
10	３内閣総理大臣の靖国神社公式参拝（教科書・百選Ⅰp.102） （１）問題の所在　　本件は憲法 20 条の政教分離原則に違反しないか。
11	（２）信教の自由　（憲法 20 条　） 大日本帝国憲法下での信教の自由　　法律の留保はなかったが、神道が事実上国教的地位にあった。 日本国憲法下での信教の自由　　信教の自由を厚く保護し、政教分離原則を定めた。
12	（３）政教分離原則（憲法 20 条、89 条）　なぜこの原則があるのか。 とくに 20 条３項の「宗教的活動」という文言をどう解釈するかが問題となる。 津市地鎮祭訴訟（最高裁昭和 52･７・13）、愛媛玉串料訴訟（平成５・2･16）
13	（４）靖国神社とその歴史 靖国神社を国家が管理することの当否。
14	（５）内閣総理大臣の靖国神社参拝 ①岩手靖国訴訟（仙台高裁平成 3･１･10） ②大阪靖国訴訟（大阪高裁平成４・7・30）
15	（６）結論 靖国神社の歴史性を踏まえて、自らの考えを検討する。その際、政治論ではなく、法律論を展開する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 教育を受ける権利と教育権について述べよ。

＜ポイント＞

教育権については、国家の教育権、教師の教育内容決定権、親の教育権、さらには子どもの教育を受ける権利などがある。判例の考え方も多様であるが、全般に触れること。

【設題2】 内閣総理大臣の靖国神社公式参拝について述べよ。

＜ポイント＞

政教分離原則と総理大臣の職務執行行為について判例が分かれているが、歴史的経緯や現状、さらに個人的見解を述べる。

科目終了試験学修のポイント

1．プライバシー権について

＜ポイント＞（百選Ⅰp. 44、p. 46、p. 136）

（1）意義・概念の変遷に注意。「一人にしてもらう権利」→「自己情報コントロール権」

（2）プライバシー権の憲法論的位置づけ：憲法13条の幸福追求権

（3）プライバシー権の具体的内容①国家によって侵害されない私的領域の確保という側面　②他者から私的領域を侵害されないよう国家の措置を求めるという側面

2．中学校における髪型の規制について

＜ポイント＞（百選Ⅰp. 48）

（1）①中学生に人権の享有主体性はあるか②その中学校は公立か私立か 公立→典型的な人権問題、私立→私人間効力の問題　③髪型の自由は、どういう人権か。（後述→（2））

（2）①憲法13条の幸福追求権(自己決定権)　②髪型の自由は、自己決定権に入るか③熊本地裁判決（昭和60・11･30）の当否

3．有責配偶者からの離婚請求について

＜ポイント＞（教科書になし・民法のなかの親族法の概説書参照）

（1）問題の所在：婚姻破綻を自ら作った者（有責配偶者）から、離婚請求できるか。

（2）学説：①否定説（有責主義）…従来の考え　②肯定説（破綻主義）…最近の考え　違いがどこから出てくるのか、その背景を考える。

（3）最高裁判所の判断（昭和62・9・2、平成16・11・18）の当否

4．知的障害者援護施設入所者の死亡事件と公共団体の責任について

＜ポイント＞（教科書になし・憲法17条・行政法の概説書参照）

（1）問題の所在：都道府県から委託を受けて知的障害者を預かる民間援護施設で死亡事故があった場合、被害者への賠償責任を負うのは、都道府県か民間援護施設か問題となる。

（2）国家賠償法1条：①公権力責任の法的性質　②その成立要件

（3）民間委託と公共団体の責任：暁学園訴訟（最高裁判所平成19・1・25）

5．生活保護が打ち切られた場合の不服申し立てについて

＜ポイント＞（教科書になし・生活保護法の概説書参照）

（1）問題の所在：生活保護が打ち切られた場合、保護の実施機関（福祉事務所）の処分に不服のある者は、不服の申し立てを行うことができるが、どういう手続きとなっているか。

（2）不服申立制度の目的と種類

（3）審査請求

（4）再審査請求

（5）訴訟との関係：審査請求前置主義

6．卒業式における国歌の斉唱と起立について

＜ポイント＞（教科書になし・憲法の概説書・百選Ⅰp. 76～参照）

（1）問題の所在　国旗国歌法を根拠に、卒業式に君が代を斉唱・起立させることは許されるか。

（2）国旗国歌法制定の背景

（3）憲法13条の思想良心の自由との関連　　日野「君が代」伴奏拒否事件（最高裁判決平成19・2・27）の当否

教科書

高橋和之、他『別冊ジュリスト　憲法判例百選Ⅰ，Ⅱ　第5版』有斐閣。

参考文献

渋谷秀樹、他『憲法　1，2　第2版』　有斐閣。

高橋和之、他『別冊ジュリスト　憲法判例百選Ⅰ，Ⅱ　第4版』有斐閣。

山本豊『判例・通説を基調とした法学・憲法』学校図書。

※科目コード1380：R履修／科目コード1381：ＳR履修

科目コード	法学概論（２単位）	登録年次	履修方法
1380/1381		１年	R/ＳR※
教員名	小澤浩之、志村なぎさ、永井紹裕、堀正昭		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会福祉の専門家には、憲法第２５条に定める生存権の保障を実現するため、様々な社会保障、社会福祉諸制度やそれに関わる行政機関への手続きのための知識が必要である。そのため、憲法、民法、行政法の基礎知識を習得することは必要である。

この科目では、それらの学修に先立っていわゆる法学入門に相当する法や法学一般について学び、研究する。

学修内容	
1	近代国家と憲法（教科書 p.81） （１）近代憲法の成立とその背景　近代憲法は、いつ頃何のために制定されたか。
2	（２）近代憲法の原理　①基本的人権の尊重　②国民主権の原理　③権力分立の原理 これらの原理原則が相互に関連することに意識する。
3	（３）外見的立憲主義 ①意義：後進資本主義国家との関連 ②明治憲法：明治憲法の「臣民の権利」と日本国憲法の「国民の人権」との違いを意識する。
4	（４）現代憲法の成立とその背景　現代憲法は、いつ頃何のために制定されたか。 現代憲法は、近代憲法の基本原理を維持しつつ、その足らないところを修正する憲法である。
5	（５）現代憲法の原理　①社会権の創設　②直接民主制の付加　③裁判所の違憲立法審査権 特に①の社会権の創設に注意する。富者の自由を制限する一方、弱者の自由を実質的に保障する。
6	基本的人権（p.105） （１）基本的人権の成立とその発展 ①自由・平等の意義　②形式的自由平等→実質的自由平等
7	（２）自由権 ①精神的自由　②経済的自由　③人身の自由
8	（３）精神的自由の優越的地位 精神的自由は、なぜ他の自由と比べて優越的地位があるのか。→立憲民主制との関連に注意
9	（４）公共の福祉論 いわゆる２重の基準論　　なぜ精神的自由は、経済的自由と比べて、その制約基準が厳しいのか。
10	（５）法の下の平等（その１） 相対的平等、合理的差別論
11	（６）法の下の平等（その２） 裁判例に注意　例；尊属殺人罪重罰規定事件、非嫡出子相続分規定事件など
12	（７）社会権（その１）（p.213 など） ①意義　②種類　生存権、教育を受ける権利、労働基本権など
13	（８）社会権（その２） 生存権の法的性格　朝日訴訟と堀木訴訟
14	（９）国民（私人）相互間の基本的人権（p.122） 本来国家と国民との間を律する決まりである憲法が、国民（私人）相互間に適用されるか。
15	(10) 外国人の基本的人権（p.125） 本来人権の享有主体は、国民であるはずの憲法を、外国人にもあてはめることができるか。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 基本的人権の尊重について述べよ。

＜ポイント＞

基本的人権の意義について考えること。基本的人権が成立した背景、さらに一般的な特色についてもまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．教育を受ける権利と義務について

＜ポイント＞ （教科書p.120）

（1）教育を受ける権利（日本国憲法26条1項）

①その意義、学習権、教育の機会均等（憲法14条との関連）、社会権としての意義（国の人的物的条件整備）

②教育の自由（教育権）の所在 国か国民か

（2）教育を受けさせる義務（日本国憲法26条2項）

2．親権について

＜ポイント＞ （教科書p.147）

（1）親権の意義（民法818条～） 親権は権利と同時に義務であることに注意。

（2）親権行使者 共同親権とその例外 父母の離婚時は？ 父の認知した子は？

（3）親権の内容 監護教育と財産管理

（4）親権の制約 利益相反行為の禁止

（5）親権の終了 最近の法改正（親権の一時停止）に注意

3．契約の自由について

＜ポイント＞（教科書p.152）

（1）契約の自由とはなにか。近代私法の三大原則の一つ。資本主義経済の発達との関連。

（2）契約の自由の4つの内容

（3）契約の自由の修正 現代では、なぜ修正されるのか。①締約強制 ②消費者・経済的弱者の保護 ③契約内容の定型化

4．罪刑法定主義について

＜ポイント＞（教科書p.136）

（1）意義について。なぜこの原則があるのか。自由主義と民主主義とのつながりを意識する。

（2）内容 ①慣習法の禁止 ②類推解釈の禁止 ③遡及（そきゅう）処罰の禁止 ④絶対的不定期刑の禁止

5．法の種類について

＜ポイント＞ （教科書p.40、p.56、p.204）

分類の仕方は、種々あるが、ここでは、公法・私法・社会法に分けてみる。

（1）公法：意義、その例 ①憲法 ②刑法 ③行政法

（2）私法：意義、その例 ①民法 ②商法

（3）社会法：意義、その例 ①借地借家法などの社会的弱者保護立法 ②消費者保護立法 ③社会保障関連法規

6．法の段階構造について

＜ポイント＞（教科書p.40、p.56、p.204）

法の体系は、憲法を最高法規として、法律→命令→条例という段階構造が取られている。それぞれの法規の概念を明らかにした後、それらの相互関係（とくに優劣関係）を検討する。

教科書

末川博『法学入門 第6版』有斐閣双書。

参考文献

『図解による法律用語辞典』自由国民社。

伊藤正己『憲法入門』有斐閣。

山本豊『判例・通説を基調とした法学・憲法』学校図書。

科目コード	簿記（4単位）	登録年次	履修方法
8750		2年	SR
教員名	武田嘉孝		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

簿記は、事業経営における日々の取引を記録し、経営成績や財政状態を把握するための財務諸表の基礎部分を構成する、実務的には非常に重要な部分を占めるものである。

簿記を学ぶ上では、理論を学ぶことに加え、実際に手を動かし、電卓を叩いて実践することが大切である。「習うより慣れろ」ともいえる学問分野であるから、参考図書等も活用して、できるだけ多くの問題を解き、財務諸表を自分で作成できるようになることを本科目の目標とする。具体的には、日商簿記検定3級に合格するレベルを目指す。

学修内容

1	簿記の意義について：「講義」第1章を学び、簿記が持つ社会的な意味を考える。
2	仕訳と転記：「講義」第2章、第3章を学び、簿記上の記録方法である「仕訳」と勘定科目ごとの集計となる「総勘定元帳」への「転記」の方法を理解する。「ワークブック」にて練習問題を解く。
3	決算手続：「講義」第4章を学び、財政状態や経営成績を示すための集計表である「貸借対照表」と「損益計算書」の仕組みを理解する。「ワークブック」にて練習問題を解く。
4	現金・預金：「講義」第5章を学び、現預金の取り扱いについて理解する。「ワークブック」にて練習問題を解く。
5	繰越商品と仕入・売上：「講義」第6章を学び、商品売買の仕訳ルールを理解し、売上原価を計算できるようになる。「ワークブック」にて練習問題を解く。「原理」第5章38頁を参照のこと。
6	売掛金と買掛金、その他の債権債務：「講義」第7章、第8章を学び、信用取引に対する仕訳ルールを理解する。「ワークブック」にて練習問題を解く。
7	受取手形と支払手形：「講義」第9章を学び、約束手形と為替手形の違いとその仕訳ルールを理解する。「ワークブック」にて練習問題を解く。
8	有価証券、固定資産の取得原価：「講義」第10章、第11章2までを学び、資産の購入に対する取得原価の計算方法と時価評価について理解する。「ワークブック」にて練習問題を解く。
9	固定資産の減価償却：「講義」第11章3を学び、減価償却の意義と方法を理解する。「ワークブック」にて練習問題を解く。「原理」第5章37頁を参照のこと。
10	貸倒損失と貸倒引当金、資本金と引出金：「講義」第12章、第13章を学び、債権回収ができなくなった場合の処理方法や資本取引について理解する。「ワークブック」にて練習問題を解く。
11	収益と費用：「講義」第14章を学び、決算をまたぐ場合の現金の出入りと損益計算の違いについて理解する。「ワークブック」にて練習問題を解く。
12	伝票：「講義」第15章を学び、実務上よく用いられている伝票制度について理解する。「ワークブック」にて練習問題を解く。
13	試算表と棚卸表の作成：「講義」第16章1～3を学び、決算処理について理解する。「ワークブック」にて練習問題を解く。
14	精算表の作成：「講義」第16章4を学び、資格試験で頻出の精算表を作成できるようになる。「ワークブック」にて練習問題を解く。
15	財務諸表の作成：「講義」第16章5を学び、簿記の最終目標である「貸借対照表」、「損益計算書」を作成できるようになる。「ワークブック」にて練習問題を解く。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】簿記の意義と貸借対照表、損益計算書の役割について述べよ。

＜ポイント＞

教科書「簿記原理」や参考図書等を参考にし、簿記の意義と役割、会計の意義と役割、会計責任を果たすための貸借対照表と損益計算書の意義と役割について分かりやすくまとめること。

【設題2】簿記の決算手続について述べよ。

＜ポイント＞

教科書「簿記原理」や参考図書等を参考にし、決算と決算手続について、試算表の作成、決算整理、費用・収益の見越しと繰延べ、8ケタ精算表の作成、などの仕訳や決算整理の方法を分かりやすくまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．簿記の意義について

＜ポイント＞

「原理」第1章　総説　1，2，3，4の要点をまとめる。

2．貸借対照表と損益計算書について

＜ポイント＞

「ワークブック」の第1回、第2回の要点を理解した上で、具体的な勘定科目を示すようにする。

3．仕訳と転記について

＜ポイント＞

「原理」第4章仕訳と勘定記入をよく読み、まとめる。

4．商品取引について

＜ポイント＞

「原理」第5章38ページに記載されている売上原価の計算で示した、分記法、総記法、3分法について比較する。

5．手形取引について

＜ポイント＞

「講義」第9章を参考にして、約束手形と為替手形の違いと、それぞれの関係性についてまとめる。

6．固定資産の減価償却について

＜ポイント＞

「原理」第5章37頁をよく読み、まとめる。

教科書

武田嘉孝『簿記原理』中部日本教育文化会。（「原理」）

片山覚、他『検定簿記講義3級商業簿記』中央経済社。（「講義」）

片山覚、他『検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社。（「ワークブック」）

参考文献

政岡光宏『初めて学ぶ簿記』中央経済社。

石川純治『複式簿記のサイエンス』税務経理協会。

＜自学自習用に＞

滝澤ななみ『スッキリわかる日商簿記3級　第5版』TAC出版。

資格の大原公認会計士講座『入門簿記バイブル』東洋書店。

ＬＥＣ『10日で合格するぞ！日商簿記3級光速マスター　テキスト・問題集』ＬＥＣ。

＜発展学修用に＞

金児昭『「経理・財務」実務マニュアル』税務経理協会。

※科目コード3320：登録年次１年、ＳＲ履修／科目コード3321：登録年次２年、Ｒ履修

科目コード	保健医療（2単位）	登録年次	履修方法
3320/3321		１年/２年	ＳＲ/Ｒ
教員名	石本強、小金澤嘉、高橋登志子、手塚和美、橋本由利子、泉二奈緒美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解する。保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。

医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療サービスにおける各専門職の役割および連携についての基礎的な知識を踏襲し、保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、連携について理解する。

学修内容	
1	保健医療サービスとは何か：教科書を読んで保健医療サービスの概略、医療法改正にみる保健医療サービスの課題、疾病構造の変化と保健医療サービスの変遷、その中での社会福祉専門職の役割について概要をつかむ。
2	医療関連職種について:教科書を読んで保健医療サービスの構成要素である各医療専門職の役割と業務分担について理解し、さらに福祉専門職である医療ソーシャルワーカーのかかわりについても学修する。
3	医療施設、介護施設について：教科書を読んで保健医療サービスの構成要素である施設・在宅サービスの概略をつかみ、さらに医療施設、介護施設について学修する。
4	在宅支援のシステムについて：教科書で在宅支援のシステムとこれからの課題、地域包括支援センター、について学修する。
5	医師の役割とインフォームドコンセントについて：まず教科書で医師の役割について確認し、教科書を読んで「患者の権利」という考え方の中で医師の意識の変革が求められてきていることを学修する。さらにインフォームドコンセントは「患者の権利」を守るとともに現代社会の疾病構造の変化の中で重要な役割をはたすことについても考察する。
6	医療ソーシャルワーカーとその業務内容について教科書を読み、医療ソーシャルワーカーの歴史的背景と「医療ソーシャルワーカー」業務指針について学修する。さらにその業務内容について詳しく学修する。
7	医療保険制度について：教科書を読んで医療保険の種類と対象者、保険料、保険給付などわが国の医療保険制度について学修する。
8	高額療養費制度について：教科書を詳細に読み、また参考文献なども参照しながら、高額療養費自己負担の限度額が所得と年齢によって決められていることを学修する。
9	診療報酬制度について：教科書を読み、診療報酬の点数表の構成および決定方法、出来高払いと包括払いの違い、審査支払い制度について学修する。診療報酬における医療連携や在宅医療、診療報酬における社会福祉士の評価についても理解する。
10	介護保険制度と介護報酬の概要および公費負担医療制度の概要：教科書を読み、介護保険制度と介護報酬の概要、公費負担医療と自立支援医療について学修する。
11	保健医療サービスの連携の理論：教科書を読み、保健医療サービスにおける多職種連携の意味、チームワークモデルとその目標や役割について学修する。
12	保健医療サービスの連携の実際：教科書を読み、患者の疾患や病態別のチームケアの実際、クリティカルパス（院内パスおよび地域連携クリティカルパス）の意味と今後の課題について学修する。
13	地域の保健医療ネットワーク構築のための基礎知識：教科書2を読んで地域連携とネットワーキングの原則、保健医療福祉システムづくりと医療ソーシャルワーカーの役割について考察する。
14	地域の保健医療ネットワーキングの実際：教科書を読み、長崎在宅Dr.ネットや地域におけるNST活動、がん医療における地域ケアネットワークなど実際の活動例を学び、これからの課題について考察する。
15	以上学んできたことを総合して、 保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、保健医療サービス連携の理論と実践について自分の考えをまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、医療と介護の関係について述べよ。

＜ポイント＞

保健医療サービスの変遷を疾病構造の変化、医療法の改正、患者の権利の視点から考察し、保健医療サービスにおける社会福祉士の役割について論じる。また、医療と介護の関係をテキストのみでなく、広く最新の情報から考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．医療ソーシャルワーカーの業務の内容について

＜ポイント＞

医療ソーシャルワーカー業務指針の「業務の範囲」で掲げられている6項目、および「業務の方法等」で掲げられているソーシャルワークを行う上での留意点について学修する。

2．医師の役割とインフォームドコンセントの意義について

＜ポイント＞

医師の役割は何か、「患者の権利」という考え方が出てきた中でそれはどのように変化してきているか、インフォームドコンセントの意味とそれが患者にもたらす意義について考察する。

3．医療施設、介護施設、在宅支援のシステムについて

＜ポイント＞

医療施設にはどのようなものがあるか、介護施設とは何か、在宅支援システムにはどのようになっているか、さらに在宅における医療と介護の連携についても学修する。

4．診療報酬における医療施設の機能・類型について

＜ポイント＞

医療施設の機能は、診療報酬によって規定されている。回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、在宅療養支援診療所の概要について学修する。

5．保健師、看護師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーの役割について

＜ポイント＞

医療関係職種にはそれぞれの国家資格に基づく業務分担があること、国家資格には業務独占資格、名称独占資格等の法律上の規定があること、保健医療のチームアプローチの中で福祉専門職である医療ソーシャルワーカーが果たす役割等を学修する。

6．高額療養費制度について

＜ポイント＞

高額療養費制度とは、医療費の自己負担金が高額になり、限度額を超えたとき、その超えた分が給付されるしくみであること、自己負担限度額は所得と年齢によって決められていることを学修する。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座17　保健医療サービス』中央法規。

参考文献

福祉臨床シリーズ編集委員会『社会福祉士シリーズ17 保健医療サービス』弘文堂。
ＮＰＯ法人日本医療ソーシャルワーク研究会『医療福祉総合ガイドブック』医学書院。

科目コード	保健医療	登録年次	履修方法
3322/3323		3322：１年／3323：２年	R
教員名	石本強、小金澤嘉、高橋登志子、手塚和美、橋本由利子、泉二奈緒美		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

疾病構造の変化や人口の高齢化、医療施設から在宅医療への流れが進んでいる現在、保健医療に係る政策や制度はより現状に即したものに変えていく必要がある。この科目では医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療に係る各専門職の役割や多職種連携についての基礎的な理解を深めるとともに、保健医療の課題を持つ人に対する社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。インフォームド・コンセントやアドバンス・ケア・プランニング（ACP）、尊厳死や終末期医療の問題など保健医療に係る倫理的問題についても学ぶ。

学修内容

1	保健医療の課題を持つ人の理解（1）：教科書を読んで、健康の定義と病者の理解、病を持つことによって生じる諸問題についてまとめ、自分の今までの体験について考察する。
2	保健医療の課題を持つ人の理解（2）：教科書を読んで、疾病や障害が家族に与える諸問題や、ソーシャルワーカーに求められる家族支援についてまとめる。
3	保健医療の課題を持つ人の理解（3）：教科書を読んで、患者の権利とは何か、インフォームド・コンセントやインフォームド・アセントとは何かについて学ぶ。
4	医療倫理：教科書を読んで、生殖医療、移植医療、終末期医療の倫理、アドバンスケアプランニング（ACP）について、その内容と課題についてまとめる。
5	保健医療の動向（1）：教科書を読み、わが国の疾病構造の変化―疫学転換について考察する。（2）：入院医療から在宅医療、病院完結型医療から地域完結型医療へ保健医療サービスが変化していることを学ぶ。
6	保健医療の動向（3）：教科書を読んで、難病、ターミナルケア、依存症、認知症、自殺企図、虐待防止等の問題を福祉的観点から考察する。
7	保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識（1）：教科書を読み、保健医療制度の体系・政策・制度の方向性について学ぶ。（2）：教科書を読み、保健医療サービスの提供体制について学ぶ。
8	保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識（3）：教科書を読んで、医療保険制度、高額療養費制度、労働者災害補償制度、公費負担医療制度について学び、それらの給付のしくみについてまとめる。
9	保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識（4）：教科書を読んで、介護保険制度、障害者総合支援法による給付制度のほか、住宅・教育・就労などに関する様々な制度があることを学ぶ。
10	保健医療領域における専門職の役割と連携：教科書を読んで、連携する各医療専門職の役割と、連携するための医療チームについて、考察する。
11	保健医療領域における支援の実際（1）：教科書を読んで、医療ソーシャルワーカーの役割について、その歴史やその業務指針について学ぶ。
12	保健医療領域における支援の実際（2）：教科書を読んで、回復期リハビリテーション、自宅退院、在宅医療、終末期ケアにおける医療ソーシャルワーカーの支援の実際について学ぶ。
13	保健医療領域における支援の実際（2）：教科書を読んで、救急現場、周産期、認知症患者、災害現場における医療ソーシャルワーカーの支援の実際について学ぶ。
14	保健医療領域における支援の実際（2）：保健医療領域における支援の実際について、さまざまな事例から、自分の考えをまとめる。
15	以上学んできたことを総合して、これからの保健医療と福祉の課題について自分の考えをまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、医療と介護の連携について述べよ。

＜ポイント＞

保健医療サービスの変遷を疾病構造の変化、医療法の改正、患者の権利の視点から考察し、保健医療サービスにおける社会福祉士の役割について論じる。また、医療と介護の連携をテキストのみでなく、広く最新の情報から考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．医療ソーシャルワーカーの業務の内容について

＜ポイント＞

医療ソーシャルワーカー業務指針の「業務の範囲」で掲げられている6項目、および「業務の方法等」で掲げられているソーシャルワークを行う上での留意点について学修する。

2．患者の権利とインフォームド・コンセントの意義について

＜ポイント＞

「患者の権利」はどのように変化してきたか、インフォームド・コンセント、インフォームド・アセントの意味とそれが患者にもたらす意義について考察する。

3．終末期医療とアドバンスケアプランニング（ACP）について

＜ポイント＞

終末期医療等の倫理的課題、アドバンスケアプランニング（ACP）の概要について学修する。

4．保健医療サービスの提供体制について

＜ポイント＞

医療提供施設にはどのようなものがあるか、在宅医療サービスを担う在宅療養支援診療所や在宅療養支援病院、訪問看護ステーションなどについて学修する。

5．医師、保健師、看護師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーの役割と連携について

＜ポイント＞

医療関係職種にはそれぞれの国家資格に基づく業務分担があること、保健医療のチームの中で福祉専門職である医療ソーシャルワーカーが果たす役割等を学修する。

6．高額療養費制度について

＜ポイント＞

高額療養費制度とは、医療費の自己負担金が高額になり、限度額を超えたとき、その超えた分が給付されるしくみであること、自己負担限度額は所得と年齢によって決められていることを学修する。

教科書

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集

『最新社会福祉士養成講座【専門科目】5　保健医療と福祉』　中央法規

参考文献

福祉臨床シリーズ編集委員会編『新・社会福祉士シリーズ17　保健医療と福祉』弘文堂

科目コード	保健科指導法Ⅰ（4単位）	登録年次	履修方法
4370		2年	SR
教員名	浅井泰詞、石本強、菅家沙由梨、清水信好		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法(情報の機器及び教材の活用を含む。)		

科目概要・到達目標

保健科教員をめざす者にとって必要不可欠な授業力の基礎を身につける内容とする。生徒にとって楽しくて分かる保健授業の展開をめざし、「保健の教育内容、教材、指導法、指導案作成」の基礎について試行錯誤しながら学ぶこととする。

また、健康教育の立場から、生徒を取り巻く生活環境やライフスタイル、近年の社会環境の変化による新たな保健課題等を学ぶとともに、保健科指導法Ⅱの授業で本格的な指導案が作れるようになるための資質・力量を高める。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	学習指導要領解説書で中学校保健体育・保健分野と高等学校保健体育・保健科の目標を比較しながら、保健科教育の目標を理解する。保健学習と保健指導との違いと特質について理解したうえで、小学校・中学校・高等学校における保健学習の内容についてその概要を把握する。	現行および新学習指導要領を参考に中・高の保健分野の目標や指導内容を把握し、相違点・改善点などを説明できるようにする。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
2	「現代社会における保健科教育への期待」【科目終了試験学修のポイント1】について、教科書(新版　保健の授業づくり入門)pp.2-8 等で理解する。	教科書の「保健教育の期待」を読み合い、これからの保健教育はどうあるべきかを話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
3	「学校教育が担うべき保健的教養の形成」【レポート設題1】について、教科書 pp.9-18 等で理解する。 その際、「青少年の健康問題への対応」については、具体的な事例(性的逸脱行動など)に焦点化して深く追究する。	教科書の「保健教育が担うべき保健の学力形成」を読み合い、「現代社会と保健的教養」および「保健的教養の形成と学校教育」の内容を理解し、これからの保健教育が担うべきものをディスカッションする。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
4	「我が国の保健科教育の歩み」【レポート設題2】について、教科書 pp.19-31 等で理解する。 その際、「学習指導要領の変遷」や「戦後における保健授業実践の推移」について深く理解する。	教育課程における“保健”の位置づけの変遷、戦後における保険授業の推移を理解し、レポートにまとめる。また、レポートの基本的な書き方にも触れる。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
5	「保健の授業が成立すること」について、教科書 pp.34-49 等で理解する。 その際、「解説型保健の授業のもつ問題」、「保健の授業のめざすこと」、「保健の授業をつくること」などについて深く理解する。	50 分の保健の授業を成立させるためには教師は何を考えどのような教材研究をしていけばよいのか、教科書を読み解きながら話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
6	「保健の教材づくりとその在り方」について、教科書 pp.138-156 等で理解する。 その際、「保健の教材づくりに込めるもの」と「分かる授業の追究と教材の在り方」について深く理解する。	保健の教材作りを考えた時、“どのような教材に価値があり栄養があるのか”、“子供たちにおいしく食べてもらうためにはどのような調理が必要なのか”などの比喩を用いながら意見交換をする。Power point 等の有効活用 ※情報機器及び教材を活用することを含む。	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
7	中学校及び高等学校の学習指導要領解説書で具体的に指導内容を確認し理解する。[その1] 「交通事故に関する授業」を担当するという当事者意識をもって、交通安全に関する中学校と高等学校の指導内容について、比較しながら指導内容等を理解する。(生徒が使用する教科書も用意して熟読するとよい)　授業にあたってはどのような教材が必要なのかを考える。	現行および新学習指導要領を比較しながら指導内容を理解し、具体的な授業方法を考える。(交通事故に関する授業をどのように取り扱うか)	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)
8	中学校及び高等学校の学習指導要領解説書で具体的に指導内容を確認し理解する。[その2] 「感染症に関する授業」を担当するという当事者意識をもって、感染症に関する中学校と高等学校の指導内容について、比較しながら指導内容等を理解する。(生徒が使用する教科書も用意して熟読するとよい) 授業にあたってはどのような教材が必要なのかを考える。	現行および新学習指導要領を比較しながら指導内容を理解し、具体的な授業方法を考える。(感染症に関する授業をどのように取り扱うか)	印刷授業 及び 面接授業 (1時間)

9	中学校及び高等学校の学習指導要領解説書で具体的に指導内容を確認し理解する。[その３] 「応急手当に関する授業」を担当するという当事者意識をもって、応急手当に関する中学校と高等学校の指導内容について、比較しながら指導内容等を理解する。(生徒が使用する教科書も用意して熟読するとよい)　授業にあたってはどのような教材が必要なのかを考える。	現行および新学習指導要領を比較しながら指導内容を理解し、具体的な授業方法を考える。(応急手当に関する授業をどのように取り扱うか)	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
10	「うまい授業と「発問」の技術」【科目終了試験学修のポイント３】について、教科書 pp.174-183 等で理解する。 その際、「授業展開の技術（うまい授業、思考を促す発問)」ついて深く理解する。	授業における「発問」の重要性を理解し、各自が想定する授業の中でどのような発問が必要かつ重要になるのかを考え、発表し合う。また、授業にあたってはどのような教材が必要なのかを話し合う。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
11	「保健の授業における板書や資料」【科目終了試験学修のポイント５】について、教科書 pp.183-189 等で理解する。 その上で、「交通事故」「感染症」「応急手当」などの授業を実際に担当する場合の生徒への提示資料を具体的に作成してみる。授業にあたってはどのような教材が必要なのかを考える。	授業においては板書も重要な役割をもつことを理解し、各自が想定する授業の中でどのような板書が生徒にとってより良いものになるのかを話し合い、各自板書計画を作成する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
12	「ライフスキルの形成を意図した保健の授業」【科目終了試験学修のポイント４】について、教科書 pp.299-306 等で理解する。 その上で、世界保健機関(WHO)が 1994 年に刊行した「 学校におけるライフスキル教育」(大修館書店)を読んで深く理解する。授業にあたってはどのような教材が必要なのかを考える。	世界保健機関(WHO)が示す“ライフスキル”とはどのような理念に基づいて提唱されたものであるかを抜粋した資料を読み解きながら話し合い、自分が考える「ライフスキル教育」を構築する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
13	「保健の評価」【科目終了試験学修のポイント６】について、教科書 pp.328-342 等で理解する。 その上で、「交通事故」「感染症」「応急手当」などの授業を実際に担当する場合の「豆テスト」を具体的に作成してみる。	授業を行う際には評価規準が重要な意味を持ち、各単元においての評価計画を作成する必要性があることを理解する。また、各自が想定する授業において具体的な評価計画の作成を試みる。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
14	「良い授業案（指導案）の構想」【科目終了試験学修のポイント２】について、教科書 pp.158-171 等で理解する。 その上で、中学校における「交通事故」の授業を実際に担当するものとして、その指導案(1 単位時間の授業展開案)を書いてみる。	授業は生徒の実態なくしては成立しない。これを大前提とした授業案の作成、教材開発が極めて重要となることを理解する。また、実際の授業案を見ながら簡略的な「授業展開案」の作成を試みる。(その①)	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
15	「良い授業案（指導案）の構想」【科目終了試験学修のポイント２】について、教科書 pp.158-171 等で理解する。 その上で、高等学校における「感染症」の授業を実際に担当するものとして、その指導案(1 単位時間の授業展開案)を書いてみる。	授業は生徒の実態なくしては成立しない。これを大前提とした授業案の作成、教材開発が極めて重要となることを理解する。また、実際の授業案を見ながら簡略的な「授業展開案」の作成を試みる。(その②)	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
		面接授業：合計 15 時間	

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 (面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない)	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　学校教育が担うべき保健的教養の形成について述べよ。

＜ポイント＞

現代の日本社会では、生活環境・生活様式・疾病像の変化、そして高齢社会などのために、より確かな保健的教養の形成が求められている。そこで、学校教育として、保健的教養の基礎をいかに子どもたちに身につけさせたらよいかについて考えたうえで自分の意見も述べること。

【設題2】　我が国の保健科教育の歩みについて述べよ。

＜ポイント＞

我が国の保健教育は、健康的な生活の実践力を育成する公衆衛生教育から健康認識を育てる保健科教育へと進んできた。これらのことを踏まえながら、現代における保健の授業実践のあり方について考えうえで自分の意見も述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．現代社会における保健科教育への期待について

＜ポイント＞

「生活習慣病への対応」「ヘルスプロモーションへの対応」「青少年の健康問題への対応」「健康リテラシーへの対応」などについて、具体例を示しながらまとめること。

2．良い授業案（指導案）の構想について

＜ポイント＞

「授業観の確立」「目標の明確化」「授業の導入の工夫」「授業のヤマ場の設定」などについて、具体例を示しながら指導案の構想についてまとめること。

3．うまい授業と「発問」の技術について

＜ポイント＞

「うまい授業」については3点ほどにまとめる。その中で、「子どもを引きつける発問の技術」については「問診的発問」と「展開的発問」の2つについて具体例を示しながらまとめること。

4．ライフスキルの形成を意図した保健の授業について

＜ポイント＞

「ライフスキル」について簡潔にまとめる。その際、学習指導要領などを踏まえて、「ライフスキルの形成を意図した保健の授業」の在り方について具体例を示しながらまとめること。

5．保健の授業における板書や資料について

＜ポイント＞

保健授業での板書内容は、①問題を発見する材料の提供　②問題解決のヒントや資料の提示　③クラスでの集団思考の足跡記録などについて具体例を示してまとめる。保健の授業で教具として活用する資料には、図表などの「統計資料」、「文章資料」、実物などの「現実資料」、「視聴覚資料」などについて具体例を示しながらまとめること。

6．保健の評価について

＜ポイント＞

「保健の評価の在り方」について簡潔に述べること。その際、保健授業の評価における3つの局面(①診断的評価 ②形成的評価③総括的評価)を踏まえるとともに、「評価の観点」や「評価の方法」などについても、具体例を示してまとめること。

教科書

森昭三、他『新版　保健の授業づくり入門』大修館書店。
文部科学省『中学校学習指導要領解説　保健体育編』東山書房。
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編』東山書房。

参考文献

教員養成系大学保健協議会『学校保健ハンドブック』ぎょうせい。
中学校保健体育 現行・新学習指導要領教授用資料新旧対照表　大日本図書（２９年３月公開）
高等学校保健体育学習指導要領 新旧対応表　第一学者発表資料（２９年３月公開）
中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）

科目コード	保健科指導法Ⅱ（4単位）	登録年次	履修方法
4380		2年	SR
教員名	浅井泰詞、石本強、菅家沙由梨、清水信好		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法(情報の機器及び教材の活用を含む。)		

科目概要・到達目標

保健科指導法Ⅰで学修した講義内容等を踏まえた上で、教育実習に必要な実践的知識はもとより保健科教員としての指導力を身につける。

「児童生徒が学んだ知識を活かし自ら適切な行動（自らの健康を自ら守る）がとれるようになる」という保健科のねらいをめざした授業をするために、指導案や教材の作成、さらには模擬授業等を通して、保健授業の授業設計力と授業実践力を高める。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	原稿および新学習指導要領の内容を再度概観し、指導内容を再確認する。これを受け、「保健の教材づくりの発想」【レポート設題1】について、教科書(保健の授業とからだの学習) pp.66-78 等で理解してから具体的に考える。	現行および新学習指導要領をもう一度振り返る。「保健の科学の考え方」、「保健の内容と教材の考え方」、「発達段階における保健教材の考え方」などを読み合い、今日要求される保健教材の意義を話し合う。	印刷授業及び面接授業（1時間）
2	「授業書による保健の授業づくり」【レポート設題2】について、教科書((保健の授業とからだの学習) pp.156-179 等で理解してから具体的に考える。	「授業書とはどういうものか」また「授業的発想によるアプローチの有効性」について考え、具体的な例を挙げて話し合い、授業の問題点と課題にも触れる。	印刷授業及び面接授業（1時間）
3	「『保健の学力』と『分かる』」【科目終了試験学修のポイント1】について、教科書(保健の授業とからだの学習) pp.40-53 等で理解してから具体的に考える。また、関連する授業を行うにあたってはどのような評価規準が必要なのかも併せて考える。	学力の本来の意味は「自ら学ぶ力」と捉えることができ、保健も例外ではないこと、また、その考えに立ち、「保健の学力」とはいかなるものかについて深く理解する。	印刷授業及び面接授業（1時間）
4	「保健の授業における思考を促す『発問』」【科目終了試験学修のポイント2】について、教科書(保健の授業とからだの学習) pp.56-59 等で理解してから具体的に考える。また、関連する授業を行うにあたってはどのような評価規準が必要なのかも併せて考える。	授業の成否は発問にあるといってもよい。思考を促す発問、良い発問の条件についてお互いに意見交換を行いながら具体的な発問を例に挙げられるようにする。	印刷授業及び面接授業（1時間）
5	「教師の指導性と生徒の学ぶ主体性との関係」【科目終了試験学修のポイント3】について、教科書(保健の授業とからだの学習) pp.60-63 等で理解してから具体的に考える。その際、関連する授業を行うにあたってはどのような評価規準が必要なのかも併せて考える。	実際の授業における「教師の指導力」と「生徒の学ぶ主体性」との関係性を考え、両者は「共同」し、また「協働」することを理解する。	印刷授業及び面接授業（1時間）
6	「教師が教材に問いかけることの意義」【科目終了試験学修のポイント 4】について、教科書(保健の授業とからだの学習) pp.78-88 等で理解してから具体的に考える。特に、pp.81-83 ページについて深く理解する。また、関連する授業を行うにあたってはどのような評価規準が必要なのかも併せて考える。	保健の教科そのものは比較的歴史の浅いものであるため、「教材作り」が特に重要な意味をもつことをまず念頭におく。すなわち教材ひとつひとつについての深い知見が必要であることを知る。	印刷授業及び面接授業（1時間）
7	「小・中・高校の発達段階における保健教材の考え方」【科目終了試験学修のポイント5】について、教科書(((保健の授業とからだの学習) pp.65-77 ページ等で理解してから具体的に考える。特に、pp.75-77 ページで具体的に理解したり、中学校と高等学校の生徒用教科書を比較したりする。また、関連する授業を行うにあたってはどのような評価規準が必要なのかも併せて考える。	発達段階に応じた保健教材を考える時、この段階の子供たちにはこれだけのことを教える必要があるなどの体系化を整理し、発達段階における保健教材の重要性を理解する。	印刷授業及び面接授業（1時間）
8	「養護教諭が保健の授業を担当すること」【科目終了試験学修のポイント6】について、教科書(保健の授業とからだの学習) pp.200-208 等で理解してから具体的に考える。特に、pp.202-205 について深く理解する。また、関連する授業を行うにあたってはどのような評価規準が必要なのかも併せて考える。	保健の授業については、まず、「保健指導」と「保健学習」の同質性および異質性について理解が必要である。また、この両者がいかに連携して「保健学習」を構築していくか意見交換を交えながら考えを進めていく。	印刷授業及び面接授業（1時間）

9	スクーリングにおける「模擬授業」の単元を決定し、その授業構想を練る。合わせて必要な教材を考える。特に、学習指導要領解説書と生徒用教科書で具体的に確認したり理解したりしてから具体的に考える。	これまでの学習を踏まえ、改めて学習指導要領や教科書を見直し自分が行いたい模擬授業の単元を考える。 Power point 等の視聴覚機器を活用。 ※情報機器及び教材の活用を含む	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
10	スクーリングにおける「模擬授業」で実施する単元の小テスト問題を作成する。その際、「関心・意欲・態度面」、「思考・判断面」、「知識・理解面」の３観点から作成する。授業で活用した教材が適切であったか否かの設問も用意し、次時への参考にする。	指導案作成の前に模擬授業で実施する際の小テストを作成する。作成にあたっての留意点としては、「関心・意欲・態度面」、「思考・判断面」、「知識・理解面」が網羅されたものを考える必要があることを踏まえる。 Power point 等の視聴覚機器を活用。 ※情報機器及び教材の活用を含む	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
11	スクーリングにおける模擬授業の指導案を作成する。［その１］ 具体的には、学習指導要領における位置づけや指導内容の確認、教材観の確立などについて考える。	指導案作り （①） ＊単元の設定、対象学年、対象学年の実態、教材感（単元の価値）、評価計画などを念頭に入れること。 Word、excel 等を活用 ※情報機器及び教材の活用を含む	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
12	スクーリングにおける模擬授業の指導案を作成する。［その２］ 具体的には、生徒の実態把握のための調査用紙の作成、指導目標案の作成などについて考える。	指導案作り （②） ＊単元の設定、対象学年、対象学年の実態、教材感（単元の価値）評価計画などを念頭に入れること。 Word、excel 等を活用 ※情報機器及び教材の活用を含む	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
13	スクーリングにおける模擬授業の指導案を作成する。［その３］ 具体的には、指導方針、指導計画の立案などについて考える。	指導案作り （③） ＊単元の設定、対象学年、対象学年の実態、教材感（単元の価値）評価計画などを念頭に入れること。 Word、excel 等を活用 ※情報機器及び教材の活用を含む	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
14	スクーリングにおける模擬授業の指導案を作成する。［その４］ 具体的には、本時の目標の設定、授業展開(導入の工夫、思考を促す発問)などについて考える。その上で、実際に仲間を生徒役にして模擬授業をしてみる。	指導案作り （④） ＊単元の設定、対象学年、対象学年の実態、教材感（単元の価値）評価計画などを念頭に入れること。 Word、excel 等を活用 ※情報機器及び教材の活用を含む	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
15	完成した指導案に基づき、一部を取り上げ簡単なロールプレイを各自行う。その後、お互いに振り返りを行い、今回の授業のまとめを行う。	完成した指導案を見合いながら、一部を取り上げてロールプレイをする中で指導案の成果や課題をつかむ。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　保健の教材づくりの発想について述べよ。

＜ポイント＞

「教育内容」と「教材」「教具」との違いなどを押さえたうえで、教科としての目標や授業のねらいと関わった教材づくりはもとより、今日的な健康課題や小・中・高校の発達段階を踏まえた教材づくりの在り方について、授業観とのかかわりで考え具体性と独自性のあるものにまとめること。

【設題2】　「授業書による保健の授業づくり」の有効性と問題点について述べよ。

＜ポイント＞

「授業書」誕生の経緯やその性格を明確にしたうえで、授業書による教材づくりの有効性や課題を整理すること。その際、授業書の限界性と教師の授業姿勢についても考えながら、具体性と独自性のあるものにすること。

科目終了試験学修のポイント

1．「保健の学力」と「分かる」ということについて

＜ポイント＞

「保健の学力」をどのようにとらえるか、「真に分かる」ということをどのようにとらえたらよいかなどについて、具体例を示しながらまとめること。

2．保健の授業における思考を促す「発問」について

＜ポイント＞

「思考を促す」ということの意味について簡潔にまとめること。そのうえで、保健授業における「よい発問」について、具体例を示してまとめること。

3．教師の指導性と生徒の学ぶ主体性との関係について

＜ポイント＞

「教師主導」か「生徒主導」かについてその考えをまとめたうえで、「生徒と教師との共同・協働」「生徒間討議・討論の成立する授業」などについて、具体例を示しながらまとめること。

4．教師が教材に問いかけることの意義について

＜ポイント＞

「教材を掘り起こすこと」「疑問や問いを抱く教材研究」などについて、保健の授業に関する教材研究する場合の在り方や決意について、簡潔にまとめる。その上で、校種間の関連性や系統性を重視することについて具体例を示してまとめること。

5．小・中・高校の発達段階における保健教材の考え方について

＜ポイント＞

「発達段階における保健教材」については、「小学校期で重要な教材」「中学校期で重要な教材」「高等学校期で重要な教材」について、具体例を示してまとめること。

6．養護教諭が保健の授業を担当することについて

＜ポイント＞

養護教諭が保健授業を担当する場合の課題について、「個人衛生的な課題だけに限定しない」「教材研究を深める」「授業観を深める」「授業を創るという楽しさを実感できるようになる」ことなどを参考にして具体的まとめること。

教科書

数見隆生『保健の授業とからだの学習』農文協。
文部科学省『中学校学習指導要領解説　保健体育編』東山書房。
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編』東山書房。

参考文献

森昭三、他『新版　保健の授業づくり入門』大修館書店。
教員養成系大学保健協議会『学校保健ハンドブック』ぎょうせい。
中学校保健体育 現行・新学習指導要領教授用資料新旧対照表　大日本図書（２９年３月公開）
高等学校保健体育学習指導要領 新旧対応表　第一学者発表資料（２９年３月公開）
中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）

科目コード	保健と食と栄養（２単位）	登録年次	履修方法
6680		１年	R
教員名	石本強、菅沼太陽、橋本由利子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理　※幼稚園教諭免許状既取得者のみ履修可		

科目概要

幼稚園教諭免許を有する者が保育士資格を取得するために新たに作られた教科目で、保育士養成課程の教科「子どもの保健Ⅰ」と「子どもの食と栄養」の２つの科目の要素を含んでいる。したがって、幼稚園等での勤務経験により一定の経験を積んでいることを考慮し、「子どもの疾病と保育」、「安全管理」及び「食育の基本と内容」のほか、幼稚園等での勤務経験では得られない内容等を中心に学修し、知識を深める必要がある。さらに、保育現場において実践できる能力を身につけることが求められている。

学修内容	
1	子どもの疾病と保育 ① 子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴及び予防と適切な対応
2	子どもの疾病と保育 ② 子どもの生活環境と精神保健・子どもの心の健康とその課題
3	栄養に関する基本的知識 ① 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
4	栄養に関する基本的知識 ② 食事摂取基準と献立作成・調理の基本
5	子どもの発育・発達と食生活 ① 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活、母乳哺育の意義
6	子どもの発育・発達と食生活 ② 幼児期・学童期の心身の発達と食生活
7	食育の基本と内容 ① 食育における養護と教育の一体性
8	食育の基本と内容 ② 食育の内容と計画・評価及び環境
9	食育の基本と内容 ③ 地域の関係機関や職員間の連携、食生活指導及び食を通した保護者への支援
10	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ① 疾病及び体調不良・障害のある子どもへの対応
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ② 食物アレルギーのある子どもへの対応
12	保育環境の保健・衛生管理と安全管理 ① 保育環境整備と保健
13	保育環境の保健・衛生管理と安全管理 ② 母子保健対策と保育
14	保育環境の保健・衛生管理と安全管理 ③ 保育現場における自然環境及び施設の衛生管理
15	保育環境の保健・衛生管理と安全管理 ④ 保育現場における事故防止と安全対策・危機管理

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 小児期区分ごとの発育・発達と食生活について述べよ。

＜ポイント＞ 小児期は新生児期、乳児期、幼児期、学童期、青少年期に分けられる。その各々の区分ごとの発育・発達と食生活について整理してみよう。

科目終了試験学修のポイント

１．子どもの健康状態の把握と主な症状のみかたと対応について

＜ポイント＞ 健康であることの意味を理解し、発熱、発疹、意識障害、嘔吐、下痢などの症状の見方と対応について代表的な症状についてまとめてみよう。

２．子どもの生活環境と精神保健・子どもの心の健康と課題について

＜ポイント＞ 家族関係、文化・教育環境、社会環境について理解を深めると同時に、小児期区分ごとにみられる精神保健についてまとめてみよう。さらに、虐待や発達障害についてもまとめてみよう。

３．栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について

＜ポイント＞ 栄養素の種類について学修すると同時に、三大栄養素の体内での消化および吸収についてまとめてみよう。

４．食育における養護と教育の一体性について

＜ポイント＞ 給食のときに、子ども達に食材、調理方法、献立についての知識を深めさせ、同時に味覚を発達させよう。

５．食物アレルギーのある子どもへの対応について

＜ポイント＞ 食物アレルギーによって惹き起こされる症状、食物によるアナフィラキシーの臨床的重症度アナフィラキシー・ショックへの対応、保育所における食物アレルギーへの対応についてまとめてみよう。

６．保育現場における事故防止と安全対策・危機管理について

＜ポイント＞ 事故について理解を深めると同時に、発達段階ごとにみられる事故と対応、安全教育、危機管理救急救命法について整理しておこう。

教科書

岩田力、前澤眞理子　他『子どもの保健・健康と安全　―理論と実際―』同文書院。

上田玲子編著『子どもの食生活』ななみ書房。

東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。

※科目コード1150：ＳＲ履修／科目コード1151：ＳＲ履修／科目コード1152：Ｒ履修

科目コード	ボランティア論（２単位）	登録年次	履修方法
1150/1151/1152		１年	ＳＲ/Ｒ※
教員名	小田雄一朗、川野祐二、佐藤惟、千葉由美、辻本理絵子、柳澤利之、山田哲史		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

「何か自分たちにもできることがあるに違いない」、「他者や社会の助けになりたい」という内的動機に支えられた活動には、そのための準備、トレーニング、実践体験の裏づけが必要である。ボランティアについての基礎理論を学修した上で、現場でのニーズの把握、適切な組織構成などの実践理論を、様々な過去のボランティア活動例（災害援助活動、国際交流、社会福祉活動等）を基に学修する。また、ボランティア活動を実際に体験し、その経験をもとに、より効果的なボランティア活動を行うために必要なことを考察していく。

学修内容

1	ボランティアとは何か： 身近にある様々なボランティアを概観しつつ、自発性、無償性といったボランティアの特徴を理解し、ボランティアのあるべき姿について考察する。
2	ボランティア活動の歴史（1）ボランティア活動の起源： 自警団、義勇兵、COS、セツルメントなどの活動について概観し、ボランティアがどのように歴史的に発生し、発展を遂げてきたか、理解する。
3	ボランティア活動の歴史（2）日本におけるボランティア活動： 石井十次、留岡幸助、片山潜、BBS、VYS、善意銀行などの活動を概観し、日本においてボランティアがどのように発生し、発展を遂げてきたか、理解する。
4	ボランティア活動の歴史（3）日本におけるボランティア活動： ノーマライゼーション、ボランティアセンター、ボラントピア構想、阪神淡路大震災などの活動を概観し、日本においてボランティアがどのように発生し、発展を遂げてきたか、理解する。
5	ＮＰＯについて： 特定非営利活動法人の成立の背景や特徴について理解した上で、わが国における NPO の法制度、実態について学ぶ。ボランティアとの関連についても考察する。
6	高齢者問題とボランティア： ゴールドプラン、新ゴールドプラン、介護の社会化、介護保険制度等のキーワードに基づき、高齢者福祉の現状や政策について整理する。その上で、高齢者問題とボランティアの関連について考察する。
7	障害者問題とボランティア： 青い芝の会、自立生活運動、全国障害者運動連絡会議などの活動について概観し、障害者問題とボランティアの関連について理解する。
8	児童問題とボランティア： 核家族化、少子化、いじめ、不登校、ひきこもり、校内暴力、虐待、発達障害等、児童問題について概観した上で、ボランティアとの関連について理解する。
9	災害とボランティア： 阪神淡路大震災、中越大地震、東日本大震災におけるボランティア活動の事例を基に、わが国において災害ボランティアがどのように発生し、発展して来たのか理解し、災害におけるボランティアの意義と役割について考察する。
10	環境問題とボランティア： エコロジー運動、リサイクル、環境保全、グリーンコンシューマー等の活動を概観した上で、環境問題におけるボランティアの関連について理解する。
11	国際問題と国際ボランティア： 貧困、人権問題、紛争、難民等、山積する国際問題について概観した上で、国際問題におけるボランティアの意義と役割について理解する。NGO の活動についても具体的事例を踏まえて学ぶ。
12	行政とボランティア： 行政とボランティアのそれぞれの特徴を整理した上で、それらが有機的に連携することによって地域における様々な問題にいかに効果的に対処すべきか考察する。

13	福祉施設職員とボランティア： 福祉教育の意義を理解した上で、福祉施設職員とボランティアの関連について理解する。また、ボランティアを導入することによって得ることのできる様々なメリットについても考察する。
14	ボランティアと人権の視点： 人権についての概念を理解した上で、ボランティア活動の場において人権が尊重される必要性について、具体的な事例をあげて学ぶ。
15	ボランティア活動を行う際の留意点 これまで学んできたことをもとに、自分自身がボランティア活動を行う際の留意点について具体的に考察し、実践できる能力を養う。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

ボランティア活動の自発性とボランティア活動を推進するＮＰＯの関係について述べよ。

＜ポイント＞

ボランティア活動の歴史的展開についても触れ、ボランタリズムを支える自発性に加え自由性についても考察すること。また、現代社会においてＮＰＯが担う役割、意義を明確にしながら、自己の体験や考えについて述べること。なお、テキストの丸写しや、単なる感想文にならないよう注意すること。

科目終了試験学修のポイント

１．障害者とボランティアの関係について

＜ポイント＞

障害者運動について理解した上で、障害者に対するボランティアと障害者によるボランティアの両方を理解する必要がある。

２．高齢者とボランティアの関係について

＜ポイント＞

高齢者問題について理解した上で、高齢者に対するボランティアと高齢者によるボランティアの両方を理解する必要がある。

３．ボランティアと行政の関係について

＜ポイント＞

ボランティアと行政の性格を比較し、その違いと両者の関係性について理解する必要がある。

４．施設職員とボランティアの関係について

＜ポイント＞

施設にとってのボランティアの意義について理解する必要がある。

５．児童とボランティアの関係について

＜ポイント＞

児童問題について理解した上で、児童に対するボランティアと児童によるボランティアの両方を理解する必要がある。

６．ボランティア活動を行う際の留意点について

＜ポイント＞

受け手を主体として考え、具体的な留意点について理解する必要がある。

教科書

巡静一、他『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規。

参考文献

安藤雄太『まるごとｶﾞｲﾄﾞｼﾘｰｽﾞ⑩　ボランティアまるごとガイド』ミネルヴァ書房。
大阪ボランティア協会編『ボランティアー参加する福祉』ミネルヴァ書房。
金子郁容『ボランティアーもうひとつの情報社会』岩波書店。
巡静一『在宅福祉とボランティアーふくしのまちづくり』勁草書房。

科目コード	マーケティング論（２単位）	登録年次	履修方法
8780		２年	ＳＲ
教員名	城田吉孝、孫維維、垰本一雄		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

マーケティングとは、企業や非営利組織などすべての組織において、事業活動が合理的・効率的に遂行されるように計画を立て実行することである。具体的には標的市場を確定し、市場需要の創造・開拓・拡大を図るために製品政策、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策を最適に組み合わせる。

この科目では、マーケティングの基礎理論を学修する。主な内容は次の通りである。

（1）マーケティング環境、（2）競争対応、（3）マーケティング・ミックス、（4）マーケティングの展開

学修内容

1	第１章：マーケティング総説 pp.2-33 第１章はマーケティングの基礎理論の枠組みを述べている。 第１節. マーケティングとは何か p.2　：セリングとマーケティング図１参照、マーケティングの定義ｐ.３参照 第２節. マーケティング・コンセプトの変遷ｐ.４：マーケティング・コンセプトは時代により変化する。
2	第３節　マーケティング環境 p.10 マーケティングを取り巻くマクロ環境、競争環境、市場環境に対応するためにＳＷＯＴ 分析を行う。ＳＷＯＹは自社の内外と市場環境を分析するのに用いる。
3	第４節　マーケティングと競争対応 p.18 製品ポートフォリオ分析：金のなる木・問題児・花型・負け犬、競争地位類型：リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャーの特徴を理解する
4	第５節　マーケティングの基本的戦略と管理 p.26：マーケティング戦略で重要な分野である。 （1）製品差別化戦略、（2）市場細分化と標的市場の設定：市場細分化、標的市場、ターゲット・マーケティング、（3）マーケティング・ミックス：マッカーシの４Ｐs
5	第２章　マーケティングリサーチ pp.34-51. マーケティングリサーチは企業や組織が直面している特別なマーケティング状況に関係するデータを科学的に収集・記録・分析し、それをマーケティング戦略の資料として、企業経営者はリスクを回避するための意思決定の判断基準として取り扱われるものである。 第１節　マーケティングリサーチの意義と役割 p.34　　第２節マーケティングリサーチの範囲：p.37：市場に関する調査、製品・価格政策・プロモーションに関する調査
6	第３節　マーケティングリサーチの手順 p.40：（1）予備調査の段階（2）正式調査の段階（3）結果処理の段階 第４節　マーケティングリサーチの方法 p.43：各種の調査法の長所、短所を理解する。
7	第３章　製品（商品・サービス）戦略 マーケティング・ミックスの１つである。 第１節　製品をどうとらえるべきか p.54：製品の３つのレベル、製品の分類　第２節　製品ミックス p.60：p.58 の図３－３を参照　第３節　新製品開発 p.60 の図３－４を理解する。
8	第４節　製品ライフサイクル p.64 マーケティング戦略を学修する上でｐ.６８の表３－１を確実に理解する必要がある。
9	○ブランド戦略は、企業のマーケティング戦略として注目を浴びている。 第５節　ブランドの価値とその源泉ｐ.69　：ブランド・エクイティ、ブランド知識 第６節　ブランド構築 p.75：ブランド要素、ブランド体系の構築
10	第４章　価格戦略　pp.82-107 ○マーケティング・ミックスの１つである。マーケティングでは価格政策をプライシングと表現される。プライシングの目標は①利潤の極大化、②目標利益率の確保、③市場占拠率の維持・拡大である。 ここでは、特に第２節の価格戦略へのアプローチ 82-107.、　第３節　価格戦略の問題と課題 p.103 について理解する。
11	第５章　プロモーション戦略 pp.108-129 ○マーケティング・ミックスの１つである。ここではプロモーション・ミックスとプッシュ戦略、プル戦略を学修する。 第１節　プロモーションの概念 p.108：プロモーションの体系図５－１を参照　第２節　プロモーションの要素と戦略ｐ.１１０：プッシュ戦略、プル戦略
12	第３節　プロモーションの手段 p.112：人的販売、広告、販売促進、パブリシティと広報、 第４節　コミュニケーションのニューメディア p.126：インターネット広告
13	第６章　流通チャネル戦略 pp.130-149 ○マーケティング・ミックスの１つである。商品がメーカーから消費者までの経路を学修する。 第１節　p.130：流通チャネルの概念と類型：直接流通、間接流通、チャネルの類型　第２節　メーカーの流通チャネル政策 p.133 の図６－３参照、p.135 化粧品の流通、開放的チャネル、選択的チャネル、排他的チャネル、メーカーの流通系列化政策　第３節小売業による調達チャネル政策　第４節　インターネットの普及による流通チャネルの変化ｐ.１４５：企業間電子商取引、消費者向け電子商取引

14	第７章　関係性マーケティング pp.152-171 ○関係性マーケティングはリレーションシップ・マーケティングのことである。メーカーと消費者、メーカーと流通・販売業者といった売買取引を行うにあたり、企業を取り巻くステークホルダー（利害関係者）やさらには社会全体とのそれぞれの間での信頼関係を長期的に良好に保ち続けるための活動である。 第１節　関係性マーケティング論の台頭 p.152：マネジリアル・マーケティングの行き詰った背景について考える 第２節　リレーションシップ・マーケティングの特質 p.155 の表７－１を参照、図７－２参照 第３節　「顧客」満足のマーケティング p.160：p.161 の表７－２、p.163 の図７－３を参照　第４節　顧客関係性マネジメント p.165：p.166 の表７－３、p.169 の図７－４参照
15	第８章　グリーン・マーケティング pp.172-195 ○グリーン・マーケティングは環境マーケティング、エコロジカル・マーケティング、サスティナブル・マーケティングと同じことで意味合いである。大量生産・技術に対応した現代マーケティングを見直し、環境負荷の低減と環境保全を重視し、優先するマーケティング志向である。 第１節　グリーン・マーケティングの必要性 p.172：環境問題　第２節　資源・環境問題へのアプローチ p.172：循環型社会形成推進基本法、ＣＳＲ報告書、コンシューマリズム　第３節　グリーン・マーケティングの台頭 p.179：ソーシャル・マーケティング、p.183 の図８－１参照　第４節　グリーン・マーケティングの展開 p.187：バックワード・チャネル　第５節　グリーン・サービサイジング p.190：p.191 の表８－１参照　第６節　グリーン・マーケティングの展望 p.193

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】現代マーケティング戦略の展開について述べよ。

＜ポイント＞

マーケティング戦略は、一般に４段階を経て行われる。すなわち（１）外部的なマクロ・マーケティング環境要素の明確な把握、（２）企業が訴求しようとする標的市場、つまり特定顧客層の決定、（３）標的顧客層に関するマーケティング情報の収集と分析、（４）企業がその標的顧客層を満足させるためのマーケティング諸活動の最適な組み合わせ、つまりマーケティング・ミックスの開発である。そして、時代に対応した新しいマーケティングの新展開の方向性を考察する。

科目終了試験学修のポイント

１．マーケティングを取り巻く環境について述べよ。

＜ポイント＞

マーケティング環境とは、企業にとって管理することが不可能な要因である。マクロ環境とは人口統計、経済、自然、技術、政治、文化の要因である。市場環境：消費者市場、業務市場

２．マーケティング・ミックスについて述べよ。

＜ポイント＞

マーケティング・ミックスとは商品（サービスを含む）、場所、価格、プロモーションである

３．市場細分化と市場選択について述べよ。

＜ポイント＞

市場細分化の基準には、年齢、性別、学歴等がある。ターゲット・マーケティング

４．マーケティングリサーチの範囲について述べよ。

＜ポイント＞

市場に関する調査、製品・価格政策・プロモーションに関する調査

５．製品ライフサイクル別のマーケティングについて述べよ。

＜ポイント＞

導入期のマーケティング、成長期のマーケティング、成熟期のマーケティング、衰退期のマーケティング

６．リレーションシップ・マーケティング論の台頭の背景とマネジリアル・マーケティングの特質について述べよ。

＜ポイント＞

アメリカの規制緩和、日本ではマネジリアル・マーケティングのアプローチの行き詰まりの背景を挙げる。

教科書

西田安慶、城田吉孝『マーケティング戦略論』学文社。

参考文献

宮澤永光、城田吉孝、他『現代マーケティング』ナカニシヤ出版。
加藤勇夫、他『現代のマーケティング論』ナカニシヤ出版。
加藤勇夫、城田吉孝、他『現代マーケティング論』中部日本教育文化会。
社会福祉士養成講座編集委員会編『福祉サービスの組織と経営』中央法規。

科目コード	マルチメディアと学習環境（２単位）	登録年次	履修方法
7850		２年	R
教員名	加藤由樹、竹内俊彦		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

マルチメディアを活用した学習環境を構成する教師と学習者との関わりの捉え方や、学習教材の分析、構成方法、学習の評価方法について概観する。また、コンピュータを利用したデジタル教材や授業法、それらをとりまく環境や過去の経緯について学び、マルチメディアと学習環境について理解を深める。

学修内容

1	デジタルメディア時代における子ども像の進化 デジタルネイティブな子どもたちの登場
2	デジタルメディア時代の子どもの生活と認識 フューチャースクールの動向と課題
3	デジタルメディア時代の教育方法学の課題 教育メディアの変遷、検討課題、新たな授業方法
4	教科書の電子化、その活用法と課題 電子教科書の可能性 / 問題点
5	教科書の機能と活用法の変容 問題の所在・研究の対象と方法・理念と活用
6	地域に根ざした教育と教科書のあり方 信濃教育会の例をもとに「生活科教科書」の事例を学ぶ
7	デジタル教材の開発と教育方法 歴史と概要、電子書籍とタブレット、デジタル教材
8	デジタルメディア時代の放送教育 放送教育の多様性、NHK 学校放送、NHK デジタル教材
9	デジタルメディア時代の新聞活用教育 デジタル時代における新聞教育活用の意義
10	デジタルメディア時代に求められる授業のあり方 デジタルメディア時代の到来と展開、子どもの認識の意義と課題、授業の課題とあり方
11	教育方法学の研究動向 政策の動向、ICT の教育利用の変遷
12	コンピュータによる学習支援 ドリル、チュートリアル、シミュレーション、マルチメディア、ネットワーク
13	コンピュータによる教育支援 成績処理、コンピュータテスティング、web の活用、レポート・作品の評価、e-learning への発展
14	情報教育の内容と方法 操作能力と科学的な理解、情報活用の実践力、参画する態度、ICT の活用と教科としての情報、授業における ICT 活用の特徴
15	教育方法の改善・教育システムのデザイン デザインと構造化・教育システム設計

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

100年後の未来において、情報化によって学校や教育が大きく(概して良いほうに)変わったと仮定する。その世界におけるある学生の、何かをよく学習した一日について、想像して書け。

＜ポイント＞

教育現場やテスト、情報化社会について、過去と現在の差を調べ、さらに未来に進化させると、アイデアが浮かびやすい。

科目終了試験学修のポイント

1．情報化社会に適応できる子供と、できない子供たちについて

＜ポイント＞

「情報化社会」「適応」という概念について、自分なりに焦点を絞って定義し、論じること。

2．学校、教育場面における情報化について

＜ポイント＞

eラーニング、電子教科書など、生徒が使うもののほかに、PowerPoint、電子黒板など教員が使うもの、連絡用掲示板など、保護者が使うケースもある。

3．情報機器が発達する中、情報社会で求められる学力について

＜ポイント＞

「ネットで検索すれば済むことを暗記する必要はない」のなら、何を学べばいいのか、それをどうやって測定するのか。「学力」は、結局のところ何のために必要なのか、という点まで掘り下げると良い考察になる。

4．デジタル教材と上手につきあう力について

＜ポイント＞

新しいメディアが現れる度に、デジタル教材の教育への利用が期待されるが、概して期待したほどの成果をもたらさなかった過去があることに注意しつつ、有効な活用法のアイデアを考えて欲しい。

5．デジタルメディア時代にふさわしい授業方法とは

＜ポイント＞

電子教科書、コンピュータを使った教材、ネットによる調べ学習、SNSによる相互批評やモチベーションの維持、教員に対するフィードバック、理解度別のテストなど、さまざまな手法が提案されている。有望なのはどの手法か、また新たに考え出せるとしたらどのようなものがあるか。

6．ネット依存や電子ゲームと教育について

＜ポイント＞

ネット、電子ゲームの楽しさを知る子供たちと、「ゲーム廃人」になることを恐れる親心の対立。ネットや電子ゲームは、過去の他の遊びとはどう違うのか。なぜ面白いのか。今後、ネットやゲームはどう進化するか。それを教育に利用することはできないか。

教科書

A・コリンズ／R・ハルバーソン著　稲垣忠　編訳『デジタル社会の学びのかたち 教育とテクノロジの再考』北大路書房。

参考文献

赤堀司、他『新版　教育工学への招待』ジャムハウス。

科目コード	マルチメディア表現Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
7820		２年	ＳＲ
教員名	鈴木茂樹、竹内俊彦、森正人、ロペス・ルイス・ミゲル		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

マルチメディアデータの操作に関する基礎知識を整理する。具体的には、音声データ、画像データの標本化、量子化など、アナログデータのディジタル化手続きの説明から開始し、音声、静止画像、動画像などの規格や、基本的な表現方法、操作方法に関する理解を深める。

学修内容

1	マルチメディアデータの種類と性質（教科書 pp.62－72） 通常は、何気なく取り扱っているマルチメディアデータの種別を理解すること。この際、一般にはデータやファイル、データを格納するメディアの形式、規格等が、混同されたり厳密な区別無く一般名称として用いられたりしている事に留意すること。たとえば「CD」の場合、音声データ用のものや一般データ格納用のものなどが存在しするが、区別無く「CD」と呼ばれているなど。
2	ラスタ画像（教科書 pp.73－82） 後出のベクタ画像と対で理解すること。画像の離散化についての基本を理解すると共に、サンプリング、解像度などの基本的な概念・用語をきちんと理解すること。色のディジタル表現方法に関しては、様々な映像技術の基本となるものであるので、正確に理解しておく必要がある。
3	画像編集ソフト（1）画像編集ソフトの基礎概念（教科書 pp.83－95） ベクタ画像用の編集ソフトの基本的な概念を理解知ること。教科書中で説明されている概念や用語は、一般的な画像処理ソフトに共通のものであり、これらを理解していなければ、まともに画像を処理することができない。特にレイヤの概念は、初学者は理解しがたいかもしれないが、重要な概念である。
4	画像編集ソフト（2）画像編集ソフトの操作演習 フォトレタッチソフトの基本的な使用法を学んだ上で、写真の色の調整を実際に体験する。フォトレタッチソフトは、製品版、無償版共に多数のものがリリースされている。前時で学んだ基本操作の概念は、大概のソフトウェアで体験可能であるので、基本的な画像処理操作を実際に体験してみること。ソフトウェアを選ぶ際には、一般の書店で解説書等が売られているメジャーなものを選ぶと良いだろう。
5	画像編集ソフト（2）画像編集ソフトの操作演習 フォトレタッチソフトで、教科書で紹介されている、各種画像効果（フィルタ）の効果を体験する。一般的にフィルタ処理は、感覚的に用いられることが多いが、ここでは教科書の解説等を読みつつ、基本的な理論や概念を念頭において処理を体験的に学ぶこと。画像フィルタの種別や名称は、公の定めが無いため、同一のフィルタ処理に対して、ソフトウェア毎に違った名称が付けられていることが少なくない。疑問に感じたときには、Web で調べるなどして学んでほしい。
6	ベクタ画像（教科書 pp.96－102） 情報機器で画像データを取り扱う際には、対象の性質や使用目的などによって、ラスタ画像とするか、ベクタ画像とするかを適切に判断しなければならない。ラスタ画像の項で学んだことと併せて、各々が、どのようなものに向いているのかを理解すること。たとえば、MS-Office の描画機能ではベクタ形式の画像を描画した際には、個々の描画要素図形を個別に選択・編集できるが、フォトレタッチソフト等で描いたラスタ図形は、同様な操作ができない。
7	静止画像ファイルの形式とデータ圧縮（1）教科書 pp.103－116 代表的な画像データ・ファイル形式を学ぶと共に、ディジタルデータのデータ圧縮の基本概念を理解すること。また、広く用いられている画像データ規格の多くは、データ圧縮が組み込まれているが、「可逆圧縮」形式のものと「非可逆圧縮」形式のものがある。使用目的によって使い分ける必要があることを理解すること。
8	静止画像ファイルの形式とデータ圧縮（2）教科書 pp.116－117 静止画像データに比べ、動画のデータ形式は、まだ実装のばらつきが大きい。たとえば、同じ MPEG 形式なのに、再生に用いる機器やソフトウェアによって、再生できたり、できなかったりというような事態が生じる事がある。データ形式とコンテナファイルの種別が別であることを理解していないと、実務で途方に暮れる事態となる。
9	動画像の原理とコーデック（教科書 pp.145－168） 前項の実装のばらつきは、コーデックの相違に帰着することが多い。また、コーデックの問題には、ソフトウェアライセンスの問題がつきまとうため、純粋に技術や理論的な対応で解決する事が難しい場合もある。動画像の再生や編集を行う際には、コーデックに関する理解が不可欠である。
10	動画像ファイル（教科書 pp.168－181） 一般的には動画像データは、ファイル形式の名称で区別されることが多い。最低でも取り扱うデバイスに用いられてるファイル形式を理解できる必要がある。代表的なファイル形式の名称や基礎事項をきちんと理解すること。また、動画の分野は、現在も新たな方式が次々と出現しているので、新しい情報も順次取り入れていく必要がある。
11	音声信号の基礎（教科書 pp.182－193） 物理現象としての「音」の基礎概念から正確に理解するように努めること。ディジタル化前の過程（音声のアナログ電気信号化）も十分に理解しておかないと、ディジタル化の意義を理解することは難しい。また、PCM の概念と標本化、量子化の概念は、音声だけではなく、信号一般のディジタル化において重要な概念であるので、十分に理解しておくこと。
12	ディジタルオーディオデータ（教科書 pp.194－203） 動画像データほどではないにせよ、音声データはディジタル化した際に、データ量が膨大なものとなる。このため、データ圧縮を伴ったデータ形式が用いられる事が多い。各データ形式の基本事項や性質をしっかりと理解すること。また、音声データにも、コーデックの違いによるトラブルが発生することがあるので、コーデックにに関しても学んでおく必要がある。

13	ディジタルオーディオデータの操作演習 ディジタルオーディオ編集ソフトを使用し、同一の音源ファイルから、高圧縮データと低圧縮データを作成し、ファイルサイズと音質の関係を考察する。音声データ変換ソフトや編集ソフトは、様々なものが公開されている。たとえば、CD からのリッピングも技術的にはデータ変換作業である。任意のソフトウェアを使用し、データ変換を体験的に理解すること。この際、WAV から MP3 のように、無圧縮データから圧縮形式に変換した際に、データサイズと音声の品質の関係を比較すること。
14	演奏の符号化（MIDI）　教科書 pp.204－212 一般には混同されているケースも多いが、現実に存在する音声を記録する「録音」と演奏自体（楽譜など）を記録する MIDI とは、似て非なるものであることに留意すること。電子楽器が使用される演奏では、理解しているか否かにかかわらず、MIDI 楽器が利用されていることが多い。
15	MIDI データ操作演習 フリーウェアソフトなどを利用し、実際に楽譜を符号化、演奏する。MIDI データは、演奏の情報が記録されているだけで、実際に出力される音声信号自体は、MIDI 楽器の内蔵シンセサイザが生成する。このため、音声の品質は、演奏装置（楽器）の品質・性能に大きく左右される。残念ながら、一般的なパーソナルコンピュータで、MS-Windows 標準の MIDI 機能で演奏した場合には、かなりひどい音質となるので留意すること。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】アナログ信号（音声、画像など）のディジタル化（標本化、量子化）について論じよ。
＜ポイント＞
ディジタル化の必要性と効果、標本化と量子化の順序、標本化定理、標本化間隔と標本化周波数等について論じること。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング終了時にコンピュータを使用した実技試験を行う。
以下は自宅学修についての助言である。

1．音の圧縮・記録・編集について
音声信号を標本化、量子化したものをそのまま記録する PCM 形式と、データ圧縮を伴う MP3 等の形式に関して、実際に操作することによって、音質とデータサイズの関係を体験的にも理解すること。一般的なデジタルオーディオソフトでも、圧縮率を変更してファイル変換をする機能を具備していることが多いので、音楽 CD（CD-DA：PCM データ）中の音楽データを MP3 変換する事によって、音質が変化する事を体験的に学修すること。この際、同じ MP3 形式でも、複数のサンプリングレートで変換を行い、ファイルサイズと音質の比較を行ってほしい。

2．色の符号化とカラー調整について
本格的にカラー画像を利用する際には、様々なカラー調整が行われることが多く、フォトレタッチソフト等も、色相操作機能を具備している。しかし、色彩に関する基礎概念を理解していなければ、これらの機能を満足に使用することは不可能である。デジタル化以前に、色の基本概念（色相、明度、彩度など）を理解した上で、色彩情報を以下にデジタル化するのかを体系的に理解すること。色の基本概念に関しては、中学校美術の教科書等にも解説が載っているはずであるので、それらも活用して欲しい。

3．静止画像の処理について
ラスタ画像処理においては、フォトレタッチソフトウェアを用いて、各種視覚効果の演習を行うのが良いだろう。現在は、商用ソフト、フリーウェアソフト共に、多数のものが流通している。商用ソフトの安価なものであっても、教科書に載っている基本的な視覚効果操作機能は具備しているので、演習には支障はないであろう。
無償公開されているフォトレタッチソフトには、様々なものがあるが、GIMP というソフトは、解説書等も多数出版されているので、利用しやすいだろう。

4．画像の符号化について
静止画に関しては、ラスタ形式とベクタ形式の違いに関しては、しっかりと理解しておくべきである。なぜ写真データはラスタ形式が採用され、図面データ等は、ベクタ形式が採用されるのかを両形式の原理、性質の違いから考察してみること。
一般的に画像データは、データ量が膨大なものとなり、その記録や伝送においては、データ圧縮技術が重要な位置を占める。画像データのファイル形式にも様々なものがあり、使用目的に応じて使い分けられる。特に可逆圧縮形式のものと、非可逆圧縮形式のものとの違いは、明確に区別できないと、画像データの扱いでは問題が発生することがある。両者の特性と、代表的なファイル形式に関しては、きちんと学修すること。

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

田上博司『マルチメディア情報学概論』二瓶社。

参考文献

なし

科目コード	マルチメディア表現Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
7830		３年	ＳＲ
教員名	竹内俊彦、森正人、ロペス・ルイス・ミゲル		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

マルチメディア表現Ⅰで学んだマルチメディアデータの操作に関する基礎知識を総合的に活用する方法を学ぶ。具体的には、音声データや画像データのプレゼンテーション等における効率的な利用方法を正しく理解することを目標とする。音声、静止画像、動画像などの総合的な活用方法に関する理解を深める。

学修内容

1	マルチメディアの歴史（教科書[1] pp.7 –25） 「マルチメディア」という言葉は、広く認知され、感覚的に使用される事が多いが、厳密な定義が難しい。最初に、マルチメディアの歴史を概観した上で、「マルチメディア」の定義を理解する。また、マルチメディア技術の一般への浸透には、高性能なパーソナルコンピュータの普及が大きく影響していることも理解すること。
2	マルチメディアとコミュニケーション（教科書[1] pp.28 –60） マルチメディア技術では、処理対象が音楽や画像、映像等であるが故に、情報（あるいは、データ）を処理しているという感覚に乏しく感じられることもある。しかし、対象が何であれ、ディジタル化されれば、データの中身は数値である事に留意すること。
3	マルチメディアと社会（教科書[1] pp.266 –300） 現在、マルチメディア技術は、社会の様々な場面で利用されており、人々は少なからず、その影響を受けている。また、マルチメディア関連産業の市場も大きなものとなっており、社会に与える影響も大きい。情報教育では、このような社会に巣立っていく生徒が、主体的かつ有効にマルチメディア技術を利用できるような教育を行う必要があることに留意すること。
4	動画像編集の演習（１）　ビデオ編集ソフトウェアの基本操作 任意のビデオ編集ソフトを用いて、ビデオデータの基本的な操作を体験的に学ぶ。ソフトウェアは、何を使用しても良いが、一般の書店で解説書が売られているような、情報の入手しやすいものを選ぶと良いだろう。 ビデオデータ用のコーデックは、ライセンスの問題が複雑であるため、無償ソフトウェアを利用するためには、かなりの学修と労力が必要となる。安価なものでも良いので、製品版を購入した方が良いかもしれない。
5	動画像編集の演習（２）　ビデオ画像への文字の挿入(タイトルやテロップ文字等の合成) アマチュアのビデオ編集作業でも、多用される操作である。映像中で何らかの説明が必要な際には、ナレーションを付けたくなる時もあるが、アマチュアのナレーションは、ほぼ確実に失敗する。効果的なテロップの挿入法を身につける方がはるかに現実的である。
6	動画像編集の演習（３）　画像合成（スーパーインポーズやクロマキー合成） アナログ映像でも利用されていたが、ディジタル化によって、作業の難易度がかなり下がった。ただし、作業の難易度や煩雑さは、使用するソフトウェアの性能やインターフェース設計による違いが大きい。これらについて学んだ後に、テレビ番組や、映画等を視聴すると、いかに多くの場面で、これらの技術が使われているかを実感することができる。
7	3D - CG の基礎概念（教科書[1] pp.133 –144） 3D-GC（3 次元コンピュータグラフィックス）では、座標変換が多用され、初学者には複雑に感じられるだろう。しかし、そもそも、３次元のものを最終的には２次元のディスプレイに表示する技術であり、座標変換や視点の概念は必要欠くべからざるものであるので、正確に理解するように努めること。
8	3D – CG ソフトの基本操作（１）　オブジェクトの作成・編集およびデータ保存（教科書[2] pp.54 –71） 無償の 3D-CG 編集ソフトである Blender を用いて、3D-CG の基本操作を学ぶ。３次元の対象を２次元画像しか表示できないコンピュータディスプレイ中で操作する必要があるため、慣れるのに苦労するかもしれないが努力すること。また、3D-CG ソフトのインターフェースは、製品毎に大きく違うため、他の製品に慣れている場合は、却って難しく感じるかもしれない。他の製品を持っている場合は、それを用いてもかまわない。
9	3D – CG ソフトの基本操作（２）　ミラーモデリング（教科書[2] pp.72 –93） 3D-CG 制作は、かなり作業工数が多い。そこで、様々な労力の軽減のアイディアが案出されている。ミラーリングは、対照な形状のものをモデリングする際に、大きな効果を発揮する。ミラーリング以外にも回転や平行移動を使用したものなどが利用されている。
10	3D – CG ソフトの基本操作（３）　マテリアルとライティング（教科書[2] pp.94 –103） モデルの質感（マテリアル）や光線の具合（ライティング）は、3D-CG をリアルに見せる上で非常に重要なものである。しかし、これらを現実に近い形で処理しようとした場合、現在の処理技術では現実的な時間で処理を終える事ができない。そこで、人間の目には、できるだけリアルに見えるようにしつつも、演算量を削減する工夫がなされている。これを、実作業を通して体験的に理解すること。
11	3D – CG ソフトの基本操作（４）　UV マッピング（教科書[2] pp.104 –107） 3D-CG では、モデル表面の模様等を予め、２次元画像として作成しておき、それを貼り付ける形で利用することも多い。3D-CD を利用したゲーム等でも多用されているので、目にしている事もあるだろう。 Blender のモデル空間内で、モデルの表面に直接着色・描画もできるが、複雑な模様を描く際などは、2 次元画像として作業したものを貼り付けた方が、作業が楽な事が多い。
12	3D – CG ソフトの基本操作（５）　テクスチャペイント（教科書[2] pp.108 –115） 前項と対照的に、モデル空間内で直接にモデルに着色・描画する作業である。作業の状況に応じて、前項の UV マッピングと使い分ける。２次元画像であるディスプレイ画面を通して、３次元モデル空間内で作業するため、慣れない内は特に難しく感じられる作業である。

13	3D－CG ソフトの基本操作（6）　背景の作成と合成（教科書[2] pp.116－118） CG の画面内に描画されるもの全てを 3 次元モデルとして構築する事は現実的ではない。そこで、背景（特に遠景）は、舞台演劇の書割のように２次元画像を貼り付ける。ここでも、できるだけ演算量を減らしつつも、現実感を損なわない工夫が行われている。
14	3D－CG における照明と影（教科書[2] pp.308－326） モデル空間内で、現実世界の光を完全に再現することはできない。しかし、人間の目（および実生活経験から学習した感覚）は鋭く、画像中に不自然な箇所があると、すぐにわかってしまう。ここでも、様々な工夫が取り入れられており、一枚の CG 内で、いくつもの（擬似的に作られた）光源を組み合わせる事によって、できるだけ不自然さを感じさせないようにする必要がある。
15	3D データのレンダリングと画像データとしての出力（教科書[2] pp. 336－346） 作成したモデルを、完成画像として描画する作業（レンダリング）は、非常に演算量の多い処理である。特に低性能なコンピュータで、規模の大きな演算を行うと、数時間から数日を要することもある。作品が、動画の場合は、1 コマずつにこの作業が必要であるので、演算時間は膨大なものとなることを理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

マルチメディアの発達の歴史と現状についてまとめ、今後の展望について論じよ。

＜ポイント＞

マルチメディア技術が急速に浸透した理由、標準化の役割、新しい活用方法、今後開発が必要となる技術など、自分自身の考えを含めて論じよ。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング終了時にコンピュータを使用した実技試験を行う。
以下は自宅学修についての助言である。

１．コンピュータグラフィックスにおける形状モデリングについて

教科書[1]で、基礎概念をしっかりとおさえた上で、３D-CG ソフトウェアでモデルの作成・編集操作を演習すること。手軽に利用できる 3D-CG ソフトウェアの普及により、CG 製作者は、3D-CG に関する複雑な数学的理論を学修することなく、CG 制作が可能となったが、非常に手間と根気の必要な作業であることに変わりはない。演習を通して、３D-CG 作成の概要を理解してほしい。

教科書で取り扱っているソフトウェアは、世界的に有名なフリーウェアソフトであるが、頻繁にバージョンアップが行われ、マイナーバージョンアップでも、大きな変更が加えられることがある。このため、開発元のダウンロードページから最新版を入手すると、教科書の操作説明とは違うものになっているので、書籍に添付されている CD-ROM からソフトウェアをインストールすること。

２．コンピュータグラフィックスにおけるレンダリングについて

3D-CG では、仮想空間内にモデルを構築した上で、ライティング、カメラアングル等を決めてからレンダリングを行う。最終的な作品として公開されるのは、このレンダリングの結果として得られた画像データ（静止画または動画）である。現在は、レンダリングにおいては「レイトレーシング」と呼ばれる手法が用いられているが、この処理は、計算量が膨大であるので、性能の低いコンピュータだと、かなりの時間が掛かる。教科書でレンダリングの基礎概念を学修し、なぜ、計算量が膨大なものになるのかにも目を向けること。

３．動画像および・映像処理ソフトウェアについて

動画像編集ソフトは、コーデックのライセンス問題が複雑であるため、一般に、フリーウェアソフトで環境を整えようとすると、かなりの手間と時間が掛かるので、商用ソフトウェア製品を準備した方が良いだろう。特定のソフトウェアを推奨はしないが、本講義で設定した程度の編集作業であれば、アマチュア用の廉価版ソフトや、デジタルビデオカメラ付属のソフトウェアでも、問題なく操作できるはずである。また、一般に普及しているソフトウェアの解説書等には、体験版を収録した CD-ROM が付属している場合もあるので、それらを利用するのも良いだろう。

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

[1] 田上博司『マルチメディア情報学概論』二瓶社。

[2] 山﨑聡『はじめての Blender 2.5』工学社。

参考文献

なし

科目コード	メディア社会論（２単位）	登録年次	履修方法
7720		２年	R
教員名	竹内俊彦		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

近年、若者から高齢者までの多くの人が、スマートフォンや携帯電話などのモバイル機器を使って、電話やインターネットによる情報収集・検索などを行っている。それは、コンピュータやネットワークの技術開発やインフラ整備により、我々の生活スタイルが大きく変わってきていることを示す一例である。本科目では、具体的な社会現象や研究事例を通して、メディアと社会との関わりについて考える。

学修内容

1	メディアの歴史と発展 教科書 pp.4-10 を読み、テレビやラジオ、電話などのメディアの歴史について理解する。
2	電話の発展とケータイ文化 教科書 pp.11-28 を読み、現在までにおける、あなたと電話との関わりについて考える。
3	映像メディアの展開とテレビ文化 教科書 pp.29-49 を読み、生まれてから現在までにおける、あなたとテレビとの関わりについて考える。
4	活字メディアの変遷：本、新聞 教科書 pp.50-66 を読み、従来の紙の新聞とデジタル化された電子新聞との違いについて考える。
5	音声メディア：ラジオ 教科書 pp.67-84 を読み、さらにポッドキャストについて調べて、自分はどのような使い方をするのかを考える。
6	インターネットの普及とコミュニケーション 教科書 pp.85-102 を読み、普段、自分がインターネットを何に使っているのかを考える。
7	インターネット・セキュリティ 前項を参考にしつつ、身の回りのメディアを活用してインターネット・セキュリティついて学修する。
8	テレビ映像と子どもの発達 教科書 pp..104-124 を読み、自分が子どもの頃にどのようにテレビに接してきたのかを考える。
9	メディアと子ども 前項を参考にしつつ、身の回りのメディアを活用して子どものメディア接触ついて学修する。
10	テレビとテレビゲームの暴力表現とその影響 教科書 pp.125-144 を読み、テレビ番組における暴力表現について調べる。
11	ケータイやインターネットによるコミュニケーション 教科書 pp.145-161 を読み、ケータイあるいはスマートフォンによるメールと、パソコンを使ったメールとの違いを考える。
12	電子空間のコミュニケーション 教科書 pp.162-179 を読み、インターネットでの匿名性について考える。
13	バーチャルコミュニティ 教科書 pp.180-196 を読み、オンラインゲームでのユーザとのコミュニケーションについて調べて、自分の考えをまとめる。
14	メディアと世論 教科書 pp.197-215 を読み、ネットにおけるオピニオン・リーダーについて考える。
15	メディア・リテラシーと社会 教科書 pp.216-233 を読み、テレビ番組におけるやらせ事件について調べて、自分の考えをまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

教科書の中から2つの章を選び、自分とメディアとの関わりについて論じよ。このとき、自分に身近なことで具体例を挙げて、①社会におけるメディア、②歴史としてのメディア、のいずれかの観点から記述すること。

＜ポイント＞

技術的な側面からだけメディアを考えるのではなく、メディアが私たちの生活や文化に対して持つ影響力についてよく考えること。

科目終了試験学修のポイント

1．我々の生活の変化とメディアの発展について

＜ポイント＞

テレビやビデオ、ラジオ、オーディオプレイヤーなどと自分との関わりについて考えるとよい。

2．電話の発展がコミュニケーションにもたらした変化について

＜ポイント＞

家族や友達などとの会話ややりとりはどう変化したのかを考えるとよい。

3．テレビと生活について

＜ポイント＞

日常生活におけるテレビの役割や位置づけについて考えるとよい。

4．インターネット利用について

＜ポイント＞

現代の社会において、インターネットがどのくらい必要とされるかを考えるとよい。

5．テレビやゲームの人への影響について

＜ポイント＞

良い影響と悪い影響の両側面から考えるとよい。

6．メディアを活用したコミュニケーションについて

＜ポイント＞

最近のオンラインサービスについて調べ、そこでどのようにコミュニケーションがなされているのかを考えるとよい。

教科書

橋元良明『メディア・コミュニケーション学』大修館書店。

参考文献

吉見俊哉『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』有斐閣。

池田理知子、松本健太郎『メディア・コミュニケーション論』ナカニシヤ出版。

科目コード	免疫学概論（２単位）	登録年次	履修方法
6160		１年/２年	R
教員名	石本強、宋暁鈞、手塚和美		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

私たちの身体には、微生物などの外部から進入してきた外敵やがん細胞など体内から発生した内敵からからだを守るための免疫系が備わっている。免疫系の機能異常は、がんやエイズや喘息などを引き起こすことになる。

本科目では、免疫系の巧妙な仕組みについて理解するとともに、免疫系のバランスが崩れると健康に重大な影響を与えること、また臓器移植のときの拒絶反応も免疫反応であることなどについて学修する。

学修内容

1	イントロダクション：免疫とは何か 免疫の概念を理解し、身体の防御機構に関与する組織、器官について考察する。免疫の立場からみた自己・非自己について、また、免疫力が低下・異常になった際はどのようなことが起こるか考える。
2	免疫に関わる細胞群の種類と機能の概略 免疫細胞（骨髄球系、リンパ球系）の種類と機能について学ぶ。骨髄における免疫細胞の形成・分化、血液中の動態の概略について理解する。
3	自然免疫系と獲得免疫の概要 自然免疫、特に、好中球、マクロファージ、樹状細胞の機能について理解する。獲得免疫、特に、殺傷作用（T 細胞：細胞性免疫）と抗体産生（B 細胞：液性免疫）の機序について概略を学ぶ。
4	獲得免疫①　液性免疫の仕組み 抗原ー抗体反応、および抗原と抗体の種類の関係について理解する。抗体産生細胞（B 細胞）の活性化、免疫応答の記憶について学ぶ。免疫グロブリン E（IgE）とアレルギー反応について理解する。
5	獲得免疫②　細胞性免疫 細胞性免疫における自己／非自己を区別する機序を理解する。ストレスや老化に伴う免疫機能の低下と疾病リスクの上昇について考える。
6	獲得免疫③　T 細胞 T 細胞の機能について、胸腺における教育と関連づけて理解する。各種 T 細胞（キラーT、ヘルパーT1 型、ヘルパーT2 型、サプレッサーT）の働きと免疫反応について学ぶ。
7	ワクチンとトキソイド ワクチンの種類（生ワクチン、不活性化ワクチン）やトキソイドによる抗体形成の機序について学び、免疫力の経時変化の特徴を理解する。ワクチンの有効性について考察する。
8	ウイルス感染と免疫応答 ウイルス感染と細菌感染の相違点をもとに、免疫機構による防御反応を理解する。インフルエンザウイルスを例として、細胞性免疫、液性免疫の機構を学ぶ。
9	細菌感染と免疫応答 細菌感染における自然免疫、獲得免疫を介する防御機構について理解する。特に、結核菌感染に対する免疫応答（ツベルクリン反応）やワクチン（BCG 接種）について学ぶ。
10	I 型アレルギー反応・アナフィラキシー I 型アレルギー反応（アナフィラキシーを含む）の発現機序について、肥満細胞からのヒスタミン遊離の機序から理解する。アレルギー反応の緩和目的に使用される薬剤（抗ヒスタミン薬、副腎皮質ステロイド薬）の作用機序についても学ぶ。
11	II 型アレルギー反応 赤血球の血液型（ABO 式、Rh 式）と血液凝固反応について、抗原ー抗体反応から理解する。II 型アレルギー疾患と関連する疾病（橋元病：甲状腺機能低下症、重症筋無力症など）について学ぶ。
12	先天性免疫不全 リンパ球系（B 細胞、T 細胞）、骨髄球系（好中球）の異常に起因する先天性免疫不全の病態について学ぶ。新生児における免疫機能の経時変化についても理解する。
13	後天性免疫不全（特に、エイズ） HIV 感染とリンパ球系機能の変化から、後天性免疫不全症候群（エイズ）に至る過程を理解する。免疫機能の異常と難病との関連について考える。
14	がん・敗血症 がん細胞の発生と免疫による殺傷機序から、悪性新生物のリスク因子を考察する。過剰な免疫機能による生体機能の障害（敗血症）についても理解する。
15	臓器移植・骨髄移植と免疫機能 移植臓器に対する拒絶反応、骨髄移植に伴う対宿主反応の機序を、白血球型（HLA 抗原）から理解する。免疫抑制薬の作用機序と副作用について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 臓器移植における拒絶反応は、免疫反応である。どのような仕組みで拒絶反応が起こるのか、それを防ぐ方法と問題点について述べよ。

＜ポイント＞

人には血液型があるのと同じように白血球型（HLA抗原という）がある。この型は、赤血球を除く全ての細胞が持っていて、人によって異なる。移植臓器の拒絶反応はこの型の違いによって起こる免疫反応である。免疫反応を抑えることが拒絶反応を防ぐことになるが、生体防御機構を抑えると感染症などの重大な健康問題が起こる危険もある。拒絶反応の出現機序、および免疫抑制剤の効果と副作用について考察する。

科目終了試験学修のポイント

1．自然（先天性）免疫と獲得（後天性）免疫について

＜ポイント＞

生まれながらに存在する免疫機構と、出生後に獲得される免疫機構について、どのような細胞群が関与しているのか考察する。

2．ワクチン（予防接種）の効果と副作用について

＜ポイント＞

ワクチンとは、病原体を弱毒化したものや無毒化した毒素などを投与して、目的とする病原体に対する抵抗力を高める医療行為で、予防接種とも呼ばれている。しかし、ワクチン（予防接種）は完璧ではなく、様々な副作用が報告されている。代表的なワクチンとその副作用について考察する。

3．高齢者はインフルエンザによる死亡率が高い理由について

＜ポイント＞

高齢者における免疫力の低下と、インフルエンザウイルスに対する感受性の変化を考察する。

4．アレルギーについて

＜ポイント＞

アレルギー反応は体内に侵入した異物を攻撃・排除、あるいは侵入阻止のための防御反応を反映しているが、反応が過剰の時は生命に危険を及ぼすこともある。代表的なアレルギー反応について、免疫反応（抗原ー抗体反応）の観点から、軽減策を含めて考察する。

5．血液型について

＜ポイント＞

赤血球の代表的な血液型であるABO型は赤血球表面のA抗原・B抗原によって決定される。血漿中には抗A・B抗体があるため、それらの組み合わせによって凝集反応が起こるが、抗原と抗体の組み合わせによる反応について説明する。また、Rh型血液型の不適合による溶血反応についても説明する。

6．ＨＩＶ感染とエイズについて

＜ポイント＞

HIVは、免疫機構にとって重要なリンパ球を破壊して免疫力を低下させる。HIV感染からエイズ発症に至るまでの経過と、エイズの病的症状について説明する。

教科書

齋藤紀先『休み時間の免疫学　第2版』講談社サイエンティフィク。

参考文献

中島泉、他『シンプル免疫学』南江堂。

科目コード	薬理学概説（薬物乱用防止を含む）（２単位）	登録年次	履修方法
6170/6171	（旧　薬理学概説）	１年/２年/３年	R
教員名	石本強、菅沼太陽		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

近年医学の発展に伴って、多くの新しい医薬品が開発されてきた。それらの薬の効果や副作用は、人によって異なることも明らかになってきた。この科目では、薬の基本的な知識、薬と法令、病気と治療薬、薬の使い方・効き方と副作用並びにその作用の個人差などについて学修する。

学修内容

1	イントロダクション：薬の効果発現（用量ー効果相関、吸収・分布・代謝・排泄） 薬とは何か、投与後の吸収、分布、代謝、排泄といった体内動態について考える。用量ー効果相関について理解し、効果発現の個人差を生み出す各種因子について考える。
2	感染症と化学療法薬（抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬） ウイルス、細菌、真菌の相違点をふまえて感染症の概念を理解し、治療薬を分類する。特に、抗菌薬の作用機序から抗菌スペクトルの特徴、副作用について考える。
3	消毒薬 消毒について、滅菌、殺菌、減菌、静菌の段階を理解する。代表的な消毒薬の作用メカニズム、および身近にある消毒薬の使用上の注意点について理解する。
4	呼吸器系と薬（気管支拡張薬、鎮咳薬、呼吸促進薬） 気管支喘息、風邪症候群の治療に使われる気管支拡張薬、抗ヒスタミン薬、副腎皮質ステロイド薬、鎮咳薬、去痰薬の作用機序と副作用について学ぶ。延髄を介する呼吸の機序と薬の効果について理解する。
5	鎮痛薬（解熱鎮痛薬、麻薬性鎮痛薬） 各種痛みの発現機序について理解し、その軽減に有効な薬について学ぶ。特に、頭痛や筋肉痛に対する解熱鎮痛薬（非ステロイド性抗炎症薬）や麻薬性鎮痛薬の作用、腹痛に対する抗コリン薬の作用について理解する。
6	炎症とアレルギー治療薬（ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬） 炎症は免疫機構が関与する生体防御反応であるが、過剰な反応は生体機能に有害である。炎症を緩和する薬として、非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDｓ）、副腎皮質ステロイド剤を取り上げ、作用機序と副作用について学ぶ。免疫抑制薬の作用機序についても学ぶ。
7	薬物規制の法律 薬物の使用・取り扱いを規制する法律・基準には、医薬品医療機器等法、日本薬局方、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法、大麻取締法、あへん法、毒物・劇物取締法などがある。これらの法律・基準の概略を学び、薬物の取り扱いの基本を理解する。
8	薬物依存・乱用（興奮系薬物・抑制系薬物・幻覚系薬物） 薬物依存および薬物乱用の定義を理解する。依存性薬物を作用機序に従って分類し、乱用の有害性について学ぶ。依存・乱用性を有する各種事象・行為についても考察する。
9	アルコール・飲酒 アルコールとは何か、その薬理作用について、血中濃度との関係を含めて学ぶ。心身に及ぼすアルコールの作用から、未成年者の飲酒問題を理解する。アルコールパッチテストから、アルコール代謝の遺伝的背景を考察する。
10	ニコチン・喫煙 ニコチンの中枢神経系、末梢神経系に及ぼす薬理作用について学ぶ。タバコ煙中の成分（ニコチン、タール、一酸化炭素、各種刺激物質）から、喫煙の有害性について理解する。受動喫煙の問題についても学ぶ。
11	カフェイン・喫茶 茶、コーヒー、チョコレートに含まれれるカフェインやテオブロミンの薬理作用について、脳、心臓、気管支を中心に学ぶ。心身に及ぼすカフェインの過剰摂取の影響について理解し、適切な喫茶について考える。
12	薬物中毒と解毒処置 薬物中毒について、急性中毒、慢性中毒の定義を理解する。各種薬物中毒に対する対症療法、原因療法について学ぶとともに、救命救急法と使用される薬の概要についても学ぶ。
13	漢方薬・サプリメント 漢方薬と西洋薬について、使用目的と効果発現の相違点について理解する。各種サプリメント、特定保健用食品（トクホ）の効果について検証し、正しい理解を図る。
14	プラセボ効果 プラセボ効果は、本来薬理作用を持たないものが効果を表すことで、その背景には、期待（セット）と環境づくり（セッティング）が密接に関係している。プラセボ効果の具体例を挙げて、効果発現に関与する各種因子について考察する。プラセボ効果を排除するため薬効検定である二重盲検法の概略を理解する。
15	最新の薬物情報（メディア報道のチェック） 薬物の開発過程について、第１相試験（動物実験）-第４相試験（大規模二重盲検試験）、第５相試験（発売後の効果の再検証）の概要を学ぶ。トピックとなり得る新薬について適応疾患を知る。開発途中の薬物に関連するメディア報道の内容を検証し、薬物リテラシーの醸成を図る。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

細菌感染症に対する主な治療薬とそれぞれの薬の作用メカニズム並びに注意しなければならない副作用について述べよ。

＜ポイント＞

細菌感染症の治療に使用する薬（化学療法薬）には、抗生物質と合成抗菌剤があり、それぞれのなかにもその化学構造や作用メカニズムによってさらにいくつかの種類に分類され、細菌に対する有効性（抗菌スペクトル）が異なる。薬には、副作用があることを忘れてはならない。例えば、抗生物質の一種であるペニシリンの仲間は、細菌の細胞壁合成を阻害することで細菌を殺す。細胞壁がない人の細胞に対しては極めて毒性が少ないためよく使われるが、アレルギーを誘導し、ショック死を起こす危険もある。抗菌薬の作用機序、抗菌スペクトル、副作用の特徴を考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．薬の効き方の個人差について

＜ポイント＞

薬に対する感受性には個人差があるが、代表的な薬物を例に挙げて、年齢、体重、性別、薬物使用歴、遺伝子の因子から考察する。

2．鎮痛解熱薬を使用する際の注意すべき点について

＜ポイント＞

解熱鎮痛薬（非ステロイド性抗炎症薬：NSAIDｓ）は頭痛・生理痛、発熱を緩和するが、胃粘膜の障害、血小板凝集阻害などの副作用を有している。解熱鎮痛薬の作用機序と副作用の防止策を考察する。

3．感染症に対する化学療法薬の使い方と留意点について

＜ポイント＞

化学療法薬は抗生物質と合成抗菌薬に分類される。化学療法薬を作用機序に基づいて分類し、その抗菌スペクトルと副作用、および使用上の注意について考察する。

4．臓器移植・喘息と免疫抑制薬の使い方と留意点について

＜ポイント＞

免疫機能は体内に進入した異物を排除する防御機構で、移植臓器に対する拒絶反応や、花粉症などのアレルギー反応として現れる。これらの反応を軽減するのが免疫抑制薬であるが、病原菌に対する防御力の低下を引き起こす。免疫抑制薬の使用時にどのような点に注意するか考察する。

5．乱用・依存性薬物の分類と特徴について

＜ポイント＞

薬物依存・乱用の基本概念を基に、依存性薬物の薬理作用の特徴から、精神依存・身体依存の強さ、心身、社会に及ぼす有害性を考察する。

6．プラセボ効果について

＜ポイント＞

薬理作用がない化合物であるにもかかわらず、薬剤のような効果や副作用が現れることを、プラセボ効果という。どのような因子がプラセボ効果の発現に関与しているのか、プラセボ効果を排除して正確な薬物効果を判定するにはどうすればよいか考察する。

教科書

越前宏俊『図解 薬理学』医学書院。

参考文献

岡部進『楽しい薬理学―セレンディピティー』南江堂。

科目コード	養護教育学（２単位）	登録年次	履修方法
6030		１年	R
教員名	面川幸子、八重樫節子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

養護教育学とは、保健・医療・教育・福祉を総合して、学校教育の円滑な実施とその成果に資する実践学である。その内容は、時代の流れの中で変容してきたが、その理念は、児童の健全育成のための基本的人権を支援する学校教育の根幹をなす。養護教育学の歴史は、「養護教諭」の歴史的変遷にその背景がある。子どもの心身の発達過程で起こりうる様々な現象を総合的にとらえ、日々の学校生活の円滑な実施にともなう学校保健活動を中心となって支えるために、学校長、保健主事、学級担任、教科担任、保護者、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、スクールカウンセラー等と連携して、幼児・児童・生徒等の心身の発達と学校適応を図る教育活動を総合的に行うことのできる教育実践者が必要不可欠である。

学修内容

1	Ⅰ養護の概念：養護の定義 １．教育学における養護の機能と児童生徒等の特性
2	２．我が国の養護教諭の沿革と歴史 職制運動、教育法規の改正
3	３．教育三法と学校保健安全法を読み解く（テキスト外） 三法：①学校教育法」、②「教員免許法・教育公務員特例法」、③「地方教育行政法」 学校保健法の新設条文
4	Ⅱ養護教諭の職務と保健管理 １．「養護をつかさどる」「保健室経営計画能力」・・企画力・実行力・連携
5	２．児童生徒の心身の発育発達と評価 １）健康診断計画から実施（技術的基準、養護実習指導と関連）
6	２）疾病管理 ３）全体指導、個別指導
7	３．学校環境衛生 １）目的と実施基準
8	２）環境衛生検査基準値と実測の比較 ３）事後措置としての環境教育
9	４．心の健康と健康相談 １）学校三師・事後措置としての健康相談
10	２）日常的な健康相談（ヘルスカウンセリングの実践）
11	Ⅲ保健教育と保健指導 １．教育職員免許法 15 項による職務に関連した保健学習の担当
12	２．組織活動としての保健指導 ３．保健だよりなど広報活動
13	４．現代的健康課題への対応 喫煙、薬物乱用防止教育、性教育、
14	Ⅳ学校安全管理・安全教育・安全組織活動
15	Ⅴ総合 レポート課題を総合する

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 学校教育を支える養護教諭の役割について、具体的な例を挙げ考察せよ。

＜ポイント＞

養護教育学の出発点は、学校における子ども理解にある。多様化する児童生徒等の健康上の諸問題に取り組み、学校教育をよりよく営み、児童生徒の健全な発育を促すために、学校、家庭、地域はどのように関わっていけばよいか。疾病、事故、いじめ、無気力、不登校、性の逸脱行為、非行など、心や体、生活行動上に現れる児童生徒の諸問題にかかわりながら、養護教諭は独自な役割や専門性を追求することが大切である。

科目終了試験学修のポイント

1．児童生徒等の心身や生活行動における不適応行動について考察せよ。

＜ポイント＞

保健室に来室する子どもの生活行動や不適応行動の背景要因に触れ、支援について考察する。

2．「子ども理解」を深めるための方法を述べよ。

＜ポイント＞

子ども理解について発達段階を考慮し、理解を深める方法について述べる。

3．養護をつかさどる「養護教諭」の役割・職務・専門性について

＜ポイント＞

平成9年保健体育審議会答申及び、平成20年の中央教育審議会答申に触れながら、多様化した役割、深まりつつある専門性について具体的に記述する。

4．学習障害児とその対応について述べよ。

＜ポイント＞

学習障害児を抱える子どもは、心身の不調を言語化できない事が多い。具体的に対応を述べる。

5．「養護教育学」の目的とその意義について

＜ポイント＞

様々の地域・校種・規模において展開する養護活動を支える養護教育学の目的を考え、その意義を述べる。

6．これからの時代に求められる養護教諭のあり方について

＜ポイント＞

養護教諭は専門職として成長しつつあるが、生涯にわたる研修のあり方について考察する。

教科書

岡田加奈子、河田史宝、他『養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論―理論と実践―』東山書房。

参考文献

鈴木路子、他『教育健康学』ぎょうせい。

教育委員会、地域の学校不適応研究所等から提示されている各種資料、文部科学省通達や新聞の関連記事等を可能な範囲で自分で探して学修することが望ましい。

科目コード	養護原理（４単位）	登録年次	履修方法
2380		２年	R
教員名	氏家博子、田中利則		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

児童養護は、一度だけの相談、助言、指導や治療によって終わるものではなく、ある一定の期間にわたって、意図的・継続的に展開される日々の活動を通じて行われるものであることを認識する必要がある。そこで本科目では、児童養護に関する理念と考え方、児童養護の役割や形態、児童養護の歴史的変遷など、基礎的知識を学修する。そして、実際に福祉現場に出たときに必要な知識・技術を身につけるために、児童養護に関する事例ケースを基に、ケースワークやグループワークなどの方法について分析する。

学修内容

1	現代社会の環境や家庭の機能の変容 ＜経済不況が続き、同時に核家族化が進むなかで、女性の社会進出が促進され、家庭機能が外部委託化される中で、家庭の機能や役割が変化したり、破綻したりする事態を迎えている。＞
2	現代社会の現状と課題 ＜少子高齢化やグローバリゼーションが進む中で、競争社会、経済格差、高学格差、自殺者の増加、生活保護家庭の増加、生活環境の変化、労働環境の悪化、地域社会の崩壊等、大人や子どもの生活や心身に多様な影響を与えかねない状況が散見されている。＞
3	現代社会における児童及び母子・父子家庭が抱える問題 ＜児童の養育機能や教育機能の低下、不登校、非行、ひきこもり、児童虐待、DV の増加、、離婚の増加（母子家庭・父子家庭の増加）、等の問題が生じ、福祉的支援の必要性が高まってきている。＞
4	現代社会における社会的養護に意義 ＜近隣住民とのコミュニケーションや親戚関係、友人・知人の関係が希薄化してゆく中で、これらに代わる公的・私的な福祉サービスや取り組みが必要となりつつある。加えて、家庭や福祉施設における支援ばかりではなく、家庭養護や家庭的養護等の家庭の代替となる支援システムの充実の必要性に迫られている。＞
5	社会的養護の歴史的変遷と今日的課題 ＜社会的養護の充実のために、法制度やサービス自体は随時改善が実施されてきた。これらの状況の中で、国家財政の不安定さや経済状況、社会情勢、雇用や就労条件が不安定になることにより、家庭の状況はゆらぎ、保護者や子どものニーズは増大しやすくなっている。＞
6	社会的養護の制度と実施体系 ＜社会的養護の制度を推進する柱となっているのは児童福祉法及び児童福祉施設最低基準、総合障害者支援法などである。これらに基づいた実施体系は、福祉施設や家庭養護、家庭的養護に分けられ、それぞれの要支援児童や保護者の支援を実施している。＞
7	児童の権利擁護 ＜児童は生まれながらにして、健全な保護者(親)の庇護（親権）の下で大人と同様に多様な人間としての権利を有している。その中で彼等の権利を擁護するための専門機関（児童相談所や保健所・警察の生活安全課等）や専門職（社会福祉士や精神保健福祉士・保育士等）が支援を実施している。＞
8	施設養護の理念と施設養護の原理と援助 ＜施設養護は要保護児童を入所させて養育し、且つ彼等に必要な支援を行い、同時に家庭や児童の幸福に寄与することを目指しており、児童の最善利益や安全・安心の保障、ニーズを的確に把握する等の原理を背景とした養育や教育、治療、家族の再統合等を実現するための取り組みが行われている。＞
9	社会的養護の領域（家庭養護） ＜一般家庭と同等の機能や役割を果たすために、家庭養護として要保護児童を受け入れ、家庭の代替としての里親やファミリーホーム等の機能を活用し、当該児童の心身の成長や感情を豊かにする試み、学習支援、進路指導等を実施している。＞
10	社会的養護の領域（施設養護） ＜施設養護には、24 時間 365 日養護を実施する入所施設やグループホーム、ディケアを行う通所施設等がある。その中で、近年は入所施設の小規模化や通所施設の充実に力が注がれている。＞
11	施設養護の実践 ＜施設養護は、施設の小規模化を促進し、可能な限り家庭の代替機能を果たすことを目的として活動を推進している。また、それぞれの利用者のニーズに応じた施設やサービス、専門性の高いスタッフや設備、建物が整えるように努めている。加えて、近年は地域住民の相談援助にも機能を拡充している。＞

12	社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術① ＜社会的養護を実践するスタッフには、豊かな人間性や多様な利用者とかかわる力、適切な倫理感の獲得が期待されているが、同時に、一般社会人に勝るとも劣らない社会常識やエチケット、マナーを身につけることも欠かせない。＞
13	社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術② ＜社会的養護にかかわるスタッフは、ケアワークやソーシャルワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ファミリーソーシャルワーク、看護技術等を用いて利用者の支援を実施する。＞
14	施設運営管理及び経営 ＜施設は利用者に必要な福祉サービスを組織体として適切、且つ効果的に機能するために健全な運営管理が期待されるとともに、リスク管理や福祉サービスの内容や質の管理等も求められている。＞
15	理想とする社会的養護と支援の内容や質 ＜近年、ノーマライゼーション理念の浸透が図られる中で、一般家庭と同様の環境や設備、雰囲気、人間関係、近隣住民との交流、社会への参加、利用者の多様な進路の選択と支援等に力が注がれている。＞

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】児童養護の意義と基本原理について述べよ。
＜ポイント＞
施設養護では、児童のためにいろいろな援助や働きかけをしているが、その意義は児童の基本的な権利に基づき児童の成長・発達や社会的自立等を支援することにあり、支援に当たっては、施設養護の基本原理を踏まえる必要がある。施設職員は日常生活の中で、児童の何に着目し、どのような基本原理に基づいて指導をしているか、基本原理の1つを挙げながら、その実践内容について考察すること。

【設題2】施設で用いられる個別援助技術（ケースワーク）について述べよ。
＜ポイント＞
まず、ケースワークの基本的内容であるケースワークの特徴、過程、手段についておさえること。その上で、児童に関するケースワーク事例を取り上げて、そのケース内容を分析すること。

科目終了試験学修のポイント

1．社会的養護及び児童養護の意義と基本原理について
＜ポイント＞
社会の状況・家庭のゆらぎ・児童の発達成長の歪曲化・社会的養護の必要性・児童養護の意義と必要性

2．児童養護の制度と社会的養護の特質について
＜ポイント＞
児童憲章や児童福祉法の願い・社会的養護の必要性及び有効性・家庭養護及び家庭的養護の充実

3．社会的養護と日常生活及び自立支援について
＜ポイント＞
養育に欠ける児童と社会的養護の意義や役割・日常生活及び余暇などの支援・自立及び就労支援・アフターケア

4．社会的養護と親子・地域との関係調整について
＜ポイント＞
親子の日常支援・親子の関係調整・地域社会での親子の生活の再構築

5．社会的養護に関わる職員の資質について
＜ポイント＞
ヒューマニズム・専門的知識・専門技術・ネットワークの創出及び充実

6．児童支援におけるチームワークについて
＜ポイント＞
社会資源の充実・社会資源の開発・人材の育成・多様なチームアプローチ網の創出及び充実

教科書

小野澤昇、他『子どもの生活を支える社会的養護』ミネルヴァ書房。

参考文献

山縣 文治、他『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。
新・社会福祉士養成講座15『児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度』中央法規。
片山義弘『相談援助』北大路書房。

科目コード	養護実習指導（１単位）	登録年次	履修方法
6100/6101		３年	S
教員名	石垣久美子、高橋登志子、八重樫節子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

養護教諭として、学校教育の場に赴任したときを想定し、その職務を追行する能力を養う。すでに養護実習指導・養護教育学・地域看護学・学校保健学、その他教職関連科目で習得した理論を実践にどのように活かすかを念頭に、児童生徒、職員の日々の学校生活の中での観察・参加・実習を行うための事前指導としての役割を持つ科目である。

養護教諭は、激動する教育改革を担うキーパーソンとして、その専門性を活かした教育職員としての新たな役割が期待されていることを、歴史的変遷の中で、また現代社会の中で現れている児童生徒等の心身状態・問題行動を事例も含めて実態を把握し、保健室という窓口が、学校教育を如何に支えているか、保健室の養護教諭からの教育界への発信がいかに児童生徒の命を支え、教育という人間の営みを支えているかについて学ぶ。

教育の対象集団である児童生徒等の心やからだ、生活行動上の諸問題をつぶさに観察記録することから出発し、広く教育の立場から、日々の健康現象、生活現象の背景を深く理解し、その対策を企画・立案・実行に移してゆく問題解決能力を培うことが、「養護実習」の目的であるので、そのために事前に大学での準備過程で行っておくべきことを考え、討論し、準備を進める。

学修内容

1	◆養護実習の意義と目標 ・臨地で実習する意義　・養護実習の目標
2	◆養護実習の内容と方法 ・実習の目標と方法　・実習の段階的進め方　・実習の評価
3	◆実習前の準備と実習の開始 ・事前訪問　・実習生という立場の理解　・実習の成果を上げるための準備
4	◆教育計画と学校組織 ・教育計画　・教職員の役割　・学校保健に関する組織　・学校保健計画
5	◆環境衛生活動の実際 （校舎内外の環境整備、清掃の実際、環境衛生検査の実際）
6	◆健康診断の技術演習（1）〔目的・内容〕 ・健康診断とその事後措置
7	◆健康診断の技術演習（2）〔健康診断の実際〕
8	◆養護教諭の執務計画 ・養護教諭の執務方針　・保健室計画　・保健室の整備・備品
9	◆健康管理体制の理解・健康管理のためのシステムと情報管理　・救急処置体制の整備　・健康観察と欠席状況の把握と事後措置　・感染症発生の予防と発生時の緊急体制
10	◆養護実習の実際①〔健康相談活動〕 ・慢性疾患の障害を抱える子どもの継続的ケア ◆保健室来室者への対応 ・保健室来室者の来室理由と対応過程　・外科的症状の対応
11	◆養護実習の実際② ・頭痛を訴える子どもへの対応　・腹痛を訴える子どもの対応　気分不良を訴える子どもの対応 ・何となく来室する子どもの対応　・頻回来室者への対応
12	◆集団対象の保健指導 ・保健指導の内容と機会　・保健指導案の作成
13	◆保健指導案作成 ・ほけん便りの作成　〔ほけん便りの意義や作成ポイント〕
14	◆模擬授業① ・発表を通しての、グループワークおよび発表
15	◆模擬授業② ・発表を通してのグループワークおよび発表

教科書

大谷尚子　他『養護実習ハンドブック』東山書房。

参考文献

養護実習の手引き

科目コード	養護内容（１単位）	登録年次	履修方法
7110		２年	S
教員名	田中利則		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

学生は、居住型児童福祉施設の創設の意図や目的について、座学や演習を通して学ぶ。また、同時に施設を利用する子どもへの理解を深めるとともに、福祉施設が内在する機能や役割、サービスの内容について学ぶ。さらに、児童の心身の成長や発達を保障し支援するために必要な知識や技術、環境について学修し、適切な児童観を育て、かつ施設養護の有効性について学修する。加えて、地域社会と居住型児童福祉施設の関係性についても理解する。

学修内容

1	養護内容とは何か ＜養護内容とは、家庭の代替として、児童の最善の利益を最優先課題として保護・増進するために、要保護児童を対象として社会の公的な責任で保護し、当該児童の状況に相応する養育を行い、児童が心身共に健康に育つように保障するための実践分野のことである。＞
2	養護内容の基本的視点 ＜養護内容の基本的な視点として重要視する必要があるのは、対象児童の心身の安全や権利擁護のための取り組み、利用者や保護者からの苦情解決の取り組み、支援者としての倫理や責務等である。＞
3	養護内容を進める際の基本的方向性 ＜養護内容の基本的方向性としては、家庭養護・家庭的養護の推進、専門的ケアの充実、自立支援の充実、家族支援・地域支援の充実、リービングケア、相談支援・アフターケア等による予防ケアの充実等である。＞
4	施設養護の現状と課題① ＜施設養護の現状と課題については、施設内における暴力や虐待が近年、一層問題視されていることを背景として、あらためて利用者の人権擁護に向けた援助技術の向上のためのスーパービジョンの活用や倫理観を意図した研修・取り組み、研修等が必要不可欠となってきている。＞
5	施設養護の現状と課題② ＜利用者自身や家庭の状況、利用者のニーズの把握・分析、支援計画の作成、支援の実際、支援の評価、フィードバック等の流れを理解する必要がある。＞
6	施設における支援の実際① ＜法制度の改正に伴い、施設の小規模化や職員の労働状況の内容や質の変化が進んでいる中で、利用者のアメニティの推進やインターンシップ体制の確立、就労支援と自立するための支援、相談支援、アフターケア等の理解が必要である。＞
7	施設における支援の実際② ＜施設支援において実際の中で必要とされるのは、利用者に寄り添う支援や成長・発達を促進するための支援、退所や自宅での生活のシミュレーション、社会活動の参加に向けた支援を重要視するとともに、関係機関とのつながりを強めておく必要がある。＞
8	児童福祉施設・機関における支援の実際① ＜施設支援の実際においては、ADL や IADL の獲得は当然のこと、保護者や家族とのつながりを再構築したり、日常の生活日課や行事、利用者個々に応じた個別指導、余暇指導にも力を注いだりしていく必要性がある。＞
9	児童福祉施設・機関における支援の実際② ＜適切な養護内容の実践を行うためには、スタッフの技術や知識、専門性、一般常識、福祉観、価値観、隣接分野に関する知識を日常的に身につけたり磨いたり、あるいは接遇やマナー、エチケット等に関する知識や技術の獲得は必要不可欠である。＞
10	養護内容の実践を行うための専門的技術① ＜養護内容の充実を図るためには、施設の住環境の整備に関する考え方や建物の設計・施工・設備面から考えた整備に関する工夫の方向性、ケアや支援・レクリエーションやグループワーク等に関する工夫、それぞれの利用者のニーズに合わせた住環境や設備、嗜好品、生活のリズムの提供等に関する工夫は必要不可欠である。＞
11	養護内容の実践を行うための専門的技術② ＜養護内容の充実（利用 QOL）を図るためには、施設の住環境の整備に関する考え方や建物の設計・施工・設備面から考えた整備に関する工夫の方向性、ケアや支援・レクレーション等に関する工夫、それぞれの利用者のニーズに合わせた住環境や設備、嗜好品の提供等に関する工夫は重要である。＞

12	利用者支援とリスク管理 ＜施設において利用者の権利擁護に力を注ぐための一環として、スタッフが支援する際に利用者の心身を傷つけたり、人権を侵害する危険性は多分に生じやすい。また、利用者・保護者（親）のプライバシーの厳守は欠かせない。そのために、これらの事態を回避するためのリスクの徹底した管理は大切な事柄である。＞
13	養護内容を受け持つ施設の役割と運営管理にあり方 ＜養護内容は受け持つ施設の役割は、基本的には、家庭の代替を務め、要保護児童の現在、抱えている問題や将来に向けて考えられる課題などを克服するために継続的な支援を実施する必要がある。その中で重要視したいのは、組織の健全化とスタッフ間のコミュニケーションの適切な管理である。＞
14	施設実習に向けて必要とする知識 ＜施設実習に向けて必要とする知識は、当該施設に関する法制度や関連情報、一般社会常識、施設での支援で必要とされる知識、そして利用者の家庭背景や主訴、障害や難病に関する情報、データ等である。＞
15	今後の展望と課題 ＜社会や経済財政の安定化は、社会的養護内容の充実にとっては重要な問題である。その中で、社会福祉の制度の脆弱化や職員不足やモチベーションの低下が問題視される中で、利用者の権利擁護の問題が一層着目されるようになってきている。これらを背景として、施設養護の適正化や維持・向上は欠かせないものとなってきている。＞

教科書

小野澤昇、田中利則、大塚良一『子どもの生活を支える社会的養護』ミネルヴァ書房。

参考文献

小木曽宏、宮本秀樹、鈴木崇之『よくわかる社会的養護』ミネルヴァ書房。

「子どもが語る施設の暮らし」編集委員会『子どもが語る施設の暮らし』明石書店。

科目コード	幼児体育（２単位）	登録年次	履修方法
7121		２年	ＳＲ
教員名	浅井泰詞、飯田昌男、沖雅美、菅家沙由梨、斉藤雅記、佐藤友樹、清水信好、西田希、濵野ゆうり、林廣子、山内健次、山口榮三		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

保育士・幼稚園教諭は、子どもたちの運動遊びや身体表現の場において、言葉による指導・助言のみに頼るのではなく、保育者自身が視覚教材となり得るような動作やしぐさを身につけなければならないことを理解してほしい。したがって、身体運動に関する基本的な知識（幼児期に体得すべき基礎的動作・基本的運動を含む）の理解を深めるとともに、自身の運動能力を高めるためのプログラム、遊びの要素を取り入れながら幼児体育で取り扱う運動遊び・ゲーム・身体表現等に関する教材研究を行う必要がある。

また、運動遊びにおける安全管理および安全教育に必要な知識を学修する。

学修内容

1	幼児体育の意義について 幼児体育の必要性、スキャモンの発育曲線 現代社会におかれている子どもたちを取り巻く環境を理解し、また、スキャモンの発育曲線を理解することにより幼児期の遊びの必要性を確認する。
2	幼児期の運動遊びについて 特に昭和初期から戦後、現代社会の乳幼児の生活から児童期へ 歴史的な動向を深めるとともに、昔の遊びと現代の遊びの特徴を考える。また、遊びによって人間関係構築への影響にも検討する。
3	遊びの必要性について① 遊びが乳幼児へ与える影響、運動能力測定とその活用 昔の遊びと現代の遊びを検討しつつ、乳幼児への発育発達（走る・跳ぶ・投げる・バランス等）への影響を学ぶ。
4	遊びの必要性について② 固定遊具の遊び方を考える、幼児への影響、安全指導 固定遊具の特徴の理解を深め、遊び方を工夫してみる。また、子ども自ら危険を察知できるように指導方法を考える。
5	指導計画① 対象に合わせた指導案作成（体育的遊び） 年齢・障がいに合わせた指導案を作成する。注意する点は、子どもが楽しみながら行えるようにすること。また、無理はさせないように計画すること。
6	指導計画② 対象に合わせた指導案作成（マット・鉄棒・跳び箱遊びなど） 年齢・障がいに合わせた指導案を作成する。注意する点は、子どもが楽しみながら行えるようにすること。また、無理はさせないように計画すること。
7	模擬保育① 対象に合わせた指導案の実践 計画した指導案を実践する。ロールプレイングにより実施し、終了後、振り返りを行う。
8	模擬保育② 対象に合わせた指導案の実践 計画した指導案を実践する。ロールプレイングにより実施し、終了後、振り返りを行う。
9	乳幼児の安全教育 事故の実態と原因、安全管理、安全教育 園内・園外においての事故について学修する。そして、事故を起こさないための方法を検討し、事故が起きてしまった後の対応についても検討する。
10	乳幼児の運動遊びの実際① 人と関わる・自然と関わる 乳幼児の運動遊びは、親・保育者・友だちとの関係で行われる。その中で自我がめざめたり社会性が育まれることを理解する。また、自然と触れ合うことの重要性も理解する。
11	乳幼児の運動遊びの実際② 物と関わる・遊具と関わる 乳幼児の運動遊びにおいて、砂・土などいろいろな物と関わりあいながら感性を育むことの大切さを理解する。また、遊具に触れながらその特徴と危険を回避できる能力を育てる点も重要である。
12	乳幼児の運動遊びの実際③ 素材と関わる 乳幼児の運動遊びにおいて、新聞紙・粘土・折り紙などの素材を通して遊びを工夫させたりし創造力や感性を育む方法を学ぶ。

13	表現遊び 　リズム遊び、音楽を使った遊び 　乳幼児は音楽を聴くと自然と手足などリズムを取り始める。その音楽を使ってリズム遊びやリズム運動につなげ運動能力を高めたい。
14	創作リズム体操 　創作・練習・発表会リハーサル・発表会 　運動会・リズム発表会などで使用するリズム体操を創作し、発表する。リズム体操を創作する手順や動きを学修し、現場で実践できるように学修する。
15	学修内容の振り返りとこれからの幼児体育 　子どもたちを取りまく現代において、子どもたちの将来、自ら考え、行動する能力を育むために、幼児体育を通して何ができるのか、また、どのように保育者が考えておかなければならないのかを検討する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】幼児期の運動遊びの必要性について述べよ。

＜ポイント＞

次の点を踏まえて述べること。

・スキャモンの発育曲線から何を読み取るか

・幼児期から児童期のあそびとその効果

・体力の分類

科目終了試験学修のポイント

1．幼児体育の必要性について

＜ポイント＞

スキャモンの発育曲線、幼児の運動能力、子どもの体力低下

2．伝承遊びの種類とその効果について

＜ポイント＞

伝承あそびとは、体力の分類

3．鉄棒・跳び箱・マット遊びの指導とその効果及び注意点について

＜ポイント＞

それぞれの特徴、体力の分類、幼児の運動能力

4．縄遊びの指導とその効果及び注意点について

＜ポイント＞

縄跳びの特徴、体力の分類、幼児の運動能力

5．リズム運動の効果について

＜ポイント＞

リズム運動の特徴、表現力、幼児の運動能力

6．安全管理や緊急時の対応について

＜ポイント＞

指導案作成時の注意点、健康チェック、予想されるケガ、応急処置、緊急時の手順

教科書

井上勝子『すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び』建帛社。

参考文献

河田隆編著『幼児体育教本』同文書院。
山口智之著『幼児体育-応用編-』タイケン出版。
日本幼児体育学会編『幼児体育-専門-』大学教育出版。
柴岡三千夫著『幼児体育指導教範』日本幼少年体育振興協会。
文部科学省『幼稚園教育要領』。
厚生労働省『保育所保育指針』。

科目コード	幼児理解（２単位）	登録年次	履修方法
7250/7253		２年	ＳＲ
教員名	稲香代子、岡林純子、坂本真理子、戸田大樹、御手洗和子、持田京子		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		
教職区分	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：幼児理解の理論及び方法		

科目概要・到達目標

保育は、幼児一人ひとりの発達の特性に応じ、発達の課題に即した指導、援助を行うことが重要である。そこで、本科目では、幼児一人ひとりの行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、ビデオ等も利用し保育の基本のあり方、幼児の生活の実際、指導、援助方法、留意する点、保育記録の意味等について学ぶ。

学修内容

1	保育方法の基本、保育方法の原理について（科目終了試験学修のポイント１） 幼児をとらえる保育者としての基本的な姿勢についての理解を深める。
2	乳幼児の理解と保育方法（科目終了試験学修のポイント１と６） 幼児をとらえる視点としての内面の理解、発達理解について学ぶ。
3	環境による保育とは 保育における「環境」という概念について学び、環境を構成することの重要性を考える。
4	環境による保育とは 保育における効果的な環境構成と保育実践について考える。
5	遊びによる総合的指導とは（科目終了試験学修のポイント２） 子どもや保育にとって「遊び」とはどのような意味を持つのか考える。
6	遊びにおける総合的指導とは（科目終了試験学修のポイント２） 保育における遊びを通じた総合的指導とは何かについて考える。
7	保育における個と集団とは 集団で生活する中での育ちの特徴、集団の中で育つ個人の育ちについて考える。
8	子どもにふさわしい園生活の展開とは（科目終了試験学修のポイント３） 保育集団の作り方や一日の過ごし方など、保育形態について学ぶ。
9	発達の時期に応じた保育のあり方（科目終了試験学修のポイント６） 入園当初の時期の発達の特性や発達に応じた援助、配慮について学ぶ。
10	発達の時期に応じた保育のあり方（科目終了試験学修のポイント６） 仲間と協力し合い、学びあう時期の発達の特性や発達に応じた援助、配慮について学ぶ。
11	保育の計画と実践 保育における指導計画やその実際、効果的な記録について学ぶ。
12	行事を生かした保育の展開（科目終了試験学修のポイント４） 保育における様々な行事を行う目的と保育の中での活かし方について学ぶ。
13	家庭・地域・小学校との連携を生かした保育（科目終了試験学修のポイント５） 様々な機関や人と連携しながら子どもの育ちを援助することについて考える。
14	さまざまな工夫が求められる保育 障害や文化の違いなど、違いを受け入れながら共に育つための保育について考える。
15	保育者の成長と保育実践の深まり 保育者としての成長や子ども理解、実践の深まりとはどのようなものか考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

なぜ環境による保育が幼児教育では求められるのか述べよ。

＜ポイント＞

幼稚園教育要領や保育所保育指針にふれ、幼児期の特性や幼児の生活と学びの特性などに着目すること。

科目終了試験学修のポイント

1．幼児の姿をより深くとらえるための保育者の姿勢について

＜ポイント＞

共感的理解、カウンセリングマインド、保育観など、子どもを見つめる保育者のまなざしについて考える。

2．遊びを通しての総合的指導について

＜ポイント＞

遊びの意味、総合的指導、保育の5領域など、子どもの育ちにおける遊びと学びについて考える。

3．保育形態について

＜ポイント＞

縦割り保育、自由保育など、保育の様々な形態についてその内容と特性について考える。

4．行事を生かした保育の展開について

＜ポイント＞

行事を行う意味と意義、行事を保育に活かすとはどのようなことか、考えること。

5．地域や小学校との連携が生かされる保育について

＜ポイント＞

地域の子育て支援、幼保小（保幼小）連携など、園が地域や他の機関と連携しあって保育することの意義について考えること。

6．保育者に求められる発達的理解について

＜ポイント＞

発達段階、発達課題など、子どもの育ちを保育の中でどうとらえていくべきか、考えること。

教科書

大豆生田啓友・渡邉英則　編著　『新しい保育講座6　保育方法・指導法』　ミネルヴァ書房。

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。

文部科学省『幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』ぎょうせい。

高嶋景子、砂上史子、森上史朗編『最新保育講座3　こども理解と援助』ミネルヴァ書房。

科目コード	理科（２単位）	登録年次	履修方法
4320		２年	R
教員名	伊藤京一、有働文雄		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

理科とは、宇宙がどのようにできて現在の姿になったのか、生命はどのように誕生して進化してきたのか、ということを実験あるいは調査結果をもとに、科学的に検証していく学問である。

理科は物理学、化学、生物学、地学に大きく４分野に分けられているが、この授業では明確な境界を定めずに、自然現象について総合的に学んでいく。そして、科学的な目で物事を判断する基礎能力を身につけることを目標とする。

学修内容

1	宇宙がどのようにして誕生し現在の姿になったのか、科学雑誌を読み学修する。そして、当時の姿を自分なりの考えでまとめておくこと。
2	太陽系がどのようにして誕生したのか学修する。地球型惑星や、木星型惑星の成因を調べておくこと。また、地球が誕生した頃の地球の大気の成因を調べておくこと。
3	地球に生命が誕生した当時の大気状況を学修する。生命の基である有機物がどのようにして誕生したか調べておくこと。 １年を通じて、四季が起きる原因を地球の年周運動と結びつけて学修する。地球の自転や公転について調べておくこと。
4	生物が、どのようにして現在のようにあらゆる環境に適応してきたのか学修する。当時の地球の陸や海の様子を調べておくこと。
5	動物と植物の違いを学修する。地球の環境とそれに伴い動植物がどのように適応してきたか科学雑誌を読んで調べておくこと。
6	動植物の分化について学修する。地球の環境と突然変異による動植物の絶滅と繁栄について調べ、動植物の進化に着目してまとめておくこと。
7	生物の進化について学修する。生物が、地球の歴史の中でどのように進化してきたか、進化の過程を調べておくこと。
8	大地の変化について学修する。地球は、現在も絶えず変化していることを、地球内部の様子を調べその変化をまとめておくこと。 地震が起きる原因を学修する。大地の変化とプレートテクトニクスについて、科学雑誌などで調べておくこと。地球内部は、絶えず変化していることを理解する。
9	エネルギーの変換と保存について学修する。科学雑誌などで調べておくこと。
10	原子の構造とイオンについて学修する。科学雑誌などで調べておくこと。
11	地球の熱収支について学修する。太陽による地球の熱収支だけでなく、人類の活動による熱収支についても学修し、地球環境の変化を調べておくこと。
12	人類と生態系の結びつきを学修する。人類の繁栄とそれに伴う自然破壊がもたらす生活環境の変化を学修する。実際の生活環境の変化について調べておくこと。
13	人類の繁栄と地球環境の変化を学修する。地球温暖化（気候変動）や環境破壊の原因を調べる。現在の状況で進んだときの地球の未来について自分の考えをまとめておくこと。
14	人類の繁栄と環境破壊や温暖化（気候変動）を学修する。人類が生活する上で、排出するゴミや二酸化炭素による環境破壊や地球温暖化（気候変動）について解決策をまとめておくこと。
15	人類の繁栄と生態系の破壊について学修する。自然と共生する社会のあり方を国・自治体・企業・個人の立場で考えたことをまとめておくこと。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 生命の誕生から動物・植物への分化、および進化について述べよ。

＜ポイント＞

約38億年前の海の中で生命は誕生したと考えられているが、動物と植物に分化し、独自の進化を行って現在に至っている。動物と植物を分けるものは何か、また種が大きく変化し、進化が爆発的に進んだ原因などについて考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．現在の大気はどのように形成されたか述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp. 6-7 をよく読み、当時の環境を学修し、古代の大気を調べる。

2．エコシステム（生態系：環境と生物のつながり）について述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.46-57 をよく読み、環境問題が自然界に与える問題について自分の課題を明確にする。

3．太陽系における地球型惑星と木星型惑星の成因を述べよ。

＜ポイント＞

現在の太陽系がどのようにしてできたのか、教科書 pp.113-131 と pp.158-161 をよく読み、惑星のでき方について調べる。

4．地震はどうして起こるのか述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp. 178-181 をよく読み、地震が起きる原因を調べる。

5．地球温暖化の原因と対策を述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp. 53-57 をよく読み、地球温暖化（気候変動）の原因とその対策を考える。

6．物質を構成している原子はどのように形成されたか述べよ。

＜ポイント＞

ニュートンなどの科学雑誌を読み、全ての物質を構成している原子がどのようにして誕生したのか調べる。

教科書

後藤卓也『新しい教養のための理科 応用編Ⅰ－生命と地球－』誠文堂新光社。

参考文献

『ニュートン』などの一般向け科学雑誌

文部科学省『小学校学習指導要領解説　理科編』東洋館出版社。

科目コード	理科指導法（2 単位）	登録年次	履修方法
4200		2年	SR
教員名	伊藤京一、有働文雄、二村泰弘		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報の機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

国際化や高度情報化が進む今日では、科学技術の進展が目覚ましく、地球温暖化や環境汚染への関心も高まっている。しかしながら、わが国では次世代を担う若者の理科離れが深刻な問題となっている。この科目の授業では、そのような状況を踏まえた上で、小学生の頃から理科に興味を持ってもらうための指導法について勉強する。また、「小学校の各学年の理科の目標と内容」や「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い」についても学び、教員採用試験に合格できる実力を身に付ける。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	新学習指導要領の改訂の経緯と理科教育の目標について学修する。新学習指導要領解説理科編をよく読み、理科で育成する資質・能力の三つの柱をまとめておく。	新学習指導要領解説理科編の改訂の経緯と理科の目標を学び、理科で育成する資質・能力の三つの柱について学修する。	印刷授業及び面接授業（1時間）
2	理科教育が求めている科学的な物の見方・考え方（理科で育成する三つの柱）を学修する。また、各学年で育成したい能力を理解すること。改訂後も各学年で育成したい能力は変わらないので、よく読んでおくこと。	理科で育成する三つの柱（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力）と各学年で育成したい能力について学修する。また、ものづくりと飼育・栽培の活動について学ぶ。	印刷授業及び面接授業（1時間）
3	理科離れを解消するため、理科好きになる手立てを学修する。新学習指導要領解説理科編が特に力を入れていることに着目し、問題解決の力についてまとめておくこと。	新学習指導要領解説理科編では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めていることを学修する。	印刷授業及び面接授業（1時間）
4	理科では、問題解決学習をする。児童が自ら課題を見つけ、仮説を立てて検証し、課題解決をする学修である。自立解決の能力を育成するために、児童の興味関心を引く導入の仕方を教材ごとに考えておく。	問題解決学習の学習展開を学修する。そのために、児童の興味関心を引く教材開発の仕方を学修する。（目に見えないものを見る方法等）	印刷授業及び面接授業（1時間）
5	理科では、天候や季節に左右される教材が多くある。天候や季節に左右される教材を洗い出し、年間指導計画を地域の実態に合わせて編成してみること。（動植物の飼育栽培・天体観察等）	天候に左右される教材について、地域の実態に合わせて年間指導計画を作成する。特に、動植物や天体観察等に着目して作成する。	印刷授業及び面接授業（1時間）
6	教材研究について学修する。事前に必ず予備実験をする。また、教材の基礎的基本的事項を調べておくこと。（薬品の薄め方と処理の仕方・種の保存・質量保存の法則・地動説・振り子の原理・水の三態変化等）	教材研究の仕方を学修する。教材の基礎基本を学ぶ。（薬品の処理・質量保存の法則・種の保存・地動説・振り子の原理・水の三態変化等）	印刷授業及び面接授業（1時間）
7	理科の指導技術を学修する。短時間で準備や後片付けをする方法を考えておく。（実験器具等の基本的な取り扱い等）	理科室の活用と使用するときのルール作りを学ぶ。合わせて、実験器具等の基本的な取り扱いを学修する。	印刷授業及び面接授業（1時間）
8	理科の授業の発問・板書の仕方・ノートの取り方・グループでの作業等、学習の約束についてまとめておく。（ノートには必ず日付・天気等を書く、板書は児童の発想を生かす等）	理科の授業の発問・板書の仕方・ノートの取り方・グループでの作業等、学習の約束について、具体的な例をあげ、実際に模擬授業を行ってみる。	印刷授業及び面接授業（1時間）
9	実際には、目で見ることができない教材について、どのような方法で見ることができるか学修する。目で見ることができない教材を洗い出しておく。（植物の根の観察・血液の流れ・放射能・アリの巣の観察・月の満ち欠け・地層等）	実際には、目で見ることができない教材について、目で見る方法を学ぶ。（植物の根の観察・アリの巣の観察・血液の流れ・花の開花の様子・蝶の羽化の様子・放射能・月の満ち欠け・地層等）	印刷授業及び面接授業（1時間）
10	実験できない教材について学修する。各教材から実際に実験できなかったり、教室で見ることができない教材を洗い出し、情報機器の活用法や校外学習の計画を作成しておくこと。（天体の動き・流れる水の働き等）	実験できない教材について学修する。教室で見ることができない教材について、校外学習の計画を立てるとともに、できる範囲内で校庭で実験する。	印刷授業及び面接授業（1時間）
11	野外学習の留意点をまとめる。教師は必ず下見をすること。学習のねらいを明確にすること。安全面について確認すること。（野外学習が必要な教材を洗い出しておく）	野外学習の留意点を学修する。（下見・ねらいの明確化・安全面の確認等）	印刷授業及び面接授業（1時間）
12	理科の実験中の安全指導について学修する。特に、理科の実験中に気を付けることを洗い出しておくこと。（立って実験する・ノートをしまう等）	理科の実験中の安全指導について学修する。特に、理科の実験中に気を付けることを学ぶ。なお、事故が起きたときの対応も学ぶ。	印刷授業及び面接授業（1時間）
13	気象庁のデータ等を活用して、地球温暖化や環境教育について学修する。各学年の教材から地球温暖化や環境教育に関わる教材を洗い出し、その教材の処理の仕方についてまとめておくこと。	地球温暖化や環境教育について学修する。地球温暖化や環境破壊に関わる教材の処理の仕方を学ぶ。	印刷授業及び面接授業（1時間）
14	理科の指導案を作成する。略案でよいから１つ教材を選び、指導案を作成する。児童の意欲を引き出し、問題解決学習の指導展開を作っておくこと。（インターネットで調べてもよい）	理科の指導案を作成する。略案でよいが、１つ問題解決学習の指導案を作成する。そのとき、合わせて教材観の書き方を学習する。 できあがった学修指導案をもとに模擬授業を行う。	印刷授業及び面接授業（1時間）

15	理科の授業評価について学修する。評価の種類を調べ、理科で育成する能力をどのように評価するか教育雑誌等を読みまとめておくこと。（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力等）	理科の授業評価について学修する。評価の種類を調べ、理科で育成する能力の評価の仕方を学ぶ。（特に、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力等）	印刷授業及び面接授業（1時間）
			面接授業：合計15時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の50%、参加態度・課題提出　総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点）　F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　「小学生の理科離れを防ぐための方法」について述べよ。

＜ポイント＞
「小学生の理科離れを防ぐための方法」について、「小学生の理科の目標と内容」を踏まえた上で論説せよ。
小学生の将来を考えた内容で、独創性のあるものが望ましい。

科目終了試験学修のポイント

１．「第３学年の理科の目標と内容」の概要について
＜ポイント＞
本学年では、学習過程において、自然の事物・現象の差異点や共通点に気づいたりする能力を育成すること。つまり、授業展開をするとき観察・実験等では差異点や共通点を見つけたりすること。

２．「第４学年の理科の目標と内容」の概要について
＜ポイント＞
本学年では、学習過程において、自然の事物・現象の変化とその要因と関係づける能力を育成すること。つまり、授業展開をするとき観察・実験等ではどうして変化したのか、その原因を考える能力を育成すること。

３．「第５学年の理科の目標と内容」の概要について
＜ポイント＞
本学年では、学習過程において、観察・実験などを計画的に行っていく条件制御の能力を育成すること。つまり、授業展開では観察・実験等をするときに計画的に条件制御を行う能力を育成すること。

４．「第６学年の理科の目標と内容」の概要について
＜ポイント＞
本学年では、学習過程において、自然の事物・現象の変化や働きについて、その要因や規則性、関係を多面的に推論する能力を育成すること。つまり、授業展開をするとき自然の事物・現象の変化や働きについて、その原因や規則性、関係を多面的に推論する能力を育成すること。

５．「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い」の概要について
＜ポイント＞
理科の教材は季節や天候に左右されるものが多い。そこで、地域の実態を把握して、各学校の地域の実態に合わせた指導計画を作成する必要がある。例えば、ジャガイモやヘチマは、関東地区では3月の彼岸に植える必要がある。また、メダカはゴールデンウィーク頃に卵を産むので、地域の実態を調べないと観察できなくなる。

６．「実社会・実生活との関連を重視する内容」の概要について
＜ポイント＞
各学年で扱う教材のうちで、実社会や実生活に役立っている教材を調べる。例えば、水溶液の性質では処理の仕方を考え環境問題と結びつけられる。また、電気の通り道や電気の働きなどは、日常生活のどこに使われているか考える。光電池や風の働きも、実社会と関係づけられる。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説　理科編』

参考文献

日置光久、田村正弘、川上真哉『平成２９年改訂　小学校教育課程実施講座　理科』　ぎょうせい。
小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）

科目コード	リハビリテーション論（２単位）	登録年次	履修方法
2461		３年	R
教員名	上田征三、須藤典征		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

リハビリテーションは障害者への総合的対策・技術であり、身体的のみならず、精神的、社会的、経済的、職業的に可能な限りの回復を図る援助過程である。その意味では、障害者の基本的人権の具体化をめざす総合的援助体系であるともいえる。本科目では、医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーションの理論と実践をバランスよく学ぶことで、総合的な援助体系としてのリハビリテーションの本質についての理解を深める。

学修内容

1	障害者福祉関係の法体系と施策について 障害者福祉に関わる各種法律や障害者の「自立と社会参加」を支援する施策について。 障害者基本法や身体障害者福祉法などについて学修する。
2	リハビリテーションの理念について　1 「リハビリテーション」の語源や定義の歴史的変遷について。 全人間的復権という意味を学修する。
3	リハビリテーションの理念について　2 戦傷者のリハビリテーションから障害者（一般）への対象の拡大。 対象が拡大した歴史的背景を整理する。
4	リハビリテーションの理念について　3 世界保健機関(1968)によるリハビリテーション４分野の整理。 国連・障害者に関する世界行動計画(1982) による定義について。
5	リハビリテーションの理念について　4 自立・ノーマライゼーション・生活の質・機会均等化 完全参加と平等、「全人間的復権」について。
6	障害者の「自立」に必要な社会環境について　1 社会環境整備の目的について。 完全参加と平等。障害者も社会を構成する一員である、という視点を養う。
7	障害者の「自立」に必要な社会環境について　2 障害者の全ての生活部面（社会・教育・職業等）における完全参加と平等・自立について。 障害者の自立とはどのような概念なのか、自身で考察する。
8	障害者の「自立」に必要な社会環境について　3 心（意識）のバリアフリーとハード（物理的）のバリアフリーについて。 身近な環境を例に取り、阻害要因について考える。
9	障害者の「自立」に必要な社会環境について　4 活動制限から完全参加へ（福祉用具やユニバーサルデザイン等)。 どのような施策で障害者の社会参加が促進できるか検討してみる。
10	職業リハビリテーションについて 障害者の経済活動への支援施策や障害者雇用促進法について。 障害者の経済的自立や就労には、どのような施策や環境整備が必要なのか考察する。
11	社会リハビリテーションについて 障害者の「社会生活力」向上への支援。SST。 社会生活力を向上させるには、どうしたらよいか考察する。
12	地域リハビリテーションについて 入所から地域生活へ。その生活を支援するシステムネットワークと専門職について。 施設から地域へ、という潮流をそのまま受け入れて良いのか検討する。
13	リハビリテーションの専門機関と専門職について 医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割や医療・療育機関について。 具体的な専門職の役割を確実に理解する。

14	教育リハビリテーションについて 特別支援学校や特別支援学級・通常学級に在籍する障害児への教育的支援について。 インクルーシブ教育システムについて学修する。
15	社会福祉とリハビリテーションについて 障害者の個人の自立・自己実現を支援する。 援助者は障害者当事者の支援者という視点。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2（1）題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

※平成18年度以降の入学者は設題1と2からいずれか1つを選んでレポートを作成すること。

【設題1】 リハビリテーションの理念について述べよ。

＜ポイント＞

リハビリテーションの理念や定義がどのような歴史的変遷を経て今日に至っているか、また、その社会的背景についてもまとめること。

【設題2】 障害者の「自立」に必要な社会環境とは何か述べよ。

＜ポイント＞

社会環境整備の目的について理解した上で、その内容について具体的に説明すること。

科目終了試験学修のポイント

1．職業リハビリテーションについて

＜ポイント＞

障害者の経済活動への支援施策や障害者雇用促進法について論述する。

特に障害者雇用率制度は最近改正されているので注意すること。

2．社会リハビリテーションについて

＜ポイント＞

障害者の「社会生活力」向上の支援施策を論述する。「SST」などの技法も論述すると良い。

3．地域リハビリテーションについて

＜ポイント＞

入所から地域生活へ。その生活を支援するシステムネットワークと専門職について、具体的に論述する。

4．リハビリテーションの専門機関と専門職について

＜ポイント＞

医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割や医療・療育機関について、具体的に論述する。

5．教育リハビリテーションについて

＜ポイント＞

特別支援学校や特別支援学級・通常学級に在籍する障害児への教育的支援について、具体的に論述する。

6．社会福祉とリハビリテーションについて

＜ポイント＞

「援助者は障害者当事者の支援者という視点」で論述する。

教科書

浅野大喜 『リハビリテーションテキスト　人間発達学』 メジカルビュー社。

参考文献

金田嘉清・大塚圭 編著 『リハビリテーション』 放送大学教育振興会。
職リハ用語集編集委員会 『職業リハビリテーション用語集』 やどかり出版。
上田敏『リハビリテーションを考える－障害者の全人間的復権－』青木書店。
福祉士養成講座編集委員会『介護福祉士養成講座4　リハビリテーション論』中央法規。

科目コード	臨床心理学（２単位）	登録年次	履修方法
2232/2237 2238/2239		２年/３年	R/SR
教員名	秋山和寛、新井雅人、荒井理帆、佐野友泰、沢哲司、坪井菜奈子、 戸田大樹、中川浩子、中山麻子、橋本景子、三井三枝子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

臨床心理学は、心理的な障害や問題に悩む人の適応や発達、自己実現を専門的に援助する実践について研究する学問である。そのため、まず、発達的観点からの臨床心理学的人間理解として、乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期の心理的な課題と問題について学ぶ。また、心理アセスメントの様々な側面と方法について学び、さらに、様々な臨床心理学的援助の方法についても概説する。その上で、臨床心理学的実践の様々な領域についての学修を重ねて、実践的な臨床心理学的な視点や思考方法を身につけていく。

学修内容

1	臨床心理学とは何か、精神医学との対比から理解する。
2	臨床心理学の学問的背景について、歴史的観点から理解する。
3	正常と病理の概念について、様々な観点からの理解を深める。
4	乳幼児期から児童期までの発達特徴と臨床心理学的な発達課題について学修する。健康な発達の様相を理解した上で、それぞれの発達期の心理的問題について学修する。
5	青年期の心理と臨床心理学的問題を学ぶ。青年期の発達課題と現代がもつ青年期の問題について理解する。
6	成人期と老年期の心理について学び、それぞれが持つ発達的課題と危機について理解する。
7	心理アセスメントの理解（見立てと診断の違い）とその多様性を知る。実際の心理アセスメントについて理解する。
8	心理面接によるアセスメントについて、実践的な方法と実際場面で起こりうる問題とその対応について学修する。また、行動観察によるアセスメントについても理解する。
9	心理テストによるアセスメントについて、心理テストを実施するにあたっての諸問題を理解し、その多様な種類とテストバッテリーについて学ぶ。
10	臨床心理学的援助の方法として、代表的なものを学修する。精神分析療法、行動療法、クライエント中心療法の考え方を理解する。
11	臨床心理学的援助の方法として、対話以外の方法を用いた心理療法について学修する。遊戯療法、芸術療法、催眠・自律訓練法を知る。また、日本で開発された心理療法を知る。
12	臨床心理学的援助の方法として、家族・集団・地域社会へのアプローチを学修する。家族療法を知る。グループ・アプローチを知る。また、コミュニティー・アプローチとは何かについて理解する。
13	教育・福祉・司法のそれぞれの領域における臨床心理学的実践について学修する。学校現場での教育相談について知る。福祉現場の心理臨床を知る。司法・矯正の領域での様々な実践現場を知る。
14	医療の領域における臨床心理学的実践について理解する。また、産業の領域における臨床心理学的実践について理解する。
15	地域における臨床心理学的援助について学修する。地域における心理臨床家の役割を理解し、他機関との連携の在り方について学ぶ。開業心理臨床の実際について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】子ども・子育てに関わる諸問題への対応について，臨床心理学の理論や技法を２つ以上用いて述べよ。

＜ポイント＞

子どもや子育てに関連する諸問題を一つ選び、その問題にどのように対応していけばよいのかについて臨床心理学の視点から論じる。臨床心理学で用いられる理論や技法に関する概念や用語を２つ以上用いて説明することが求められる。

科目終了試験学修のポイント

１．臨床心理学における実践活動と研究活動について

＜ポイント＞

臨床心理学の実践の側面だけではなく、研究としての側面に触れる。実践活動と研究活動の関連性について述べられるとよい。

２．臨床心理学におけるアセスメントについて

＜ポイント＞

心理学的アセスメントの目的、技法およびその実践的な活用方法について説明する。

３．クライエント中心療法について

＜ポイント＞

クライエント中心療法の基本的な方向性およびカウンセラーの姿勢について説明する。

４．認知行動療法について

＜ポイント＞

認知行動療法の理論的背景に触れた上で、問題の発生要因の分析、介入技法について説明する。

５．家族療法について

＜ポイント＞

家族療法における問題発生の捉え方の特徴を説明した上で、問題を解決していくための視点と技法について述べる。

６．コミュニティ心理学的視点からの問題予防と成長促進へのアプローチについて

＜ポイント＞

人と社会（環境）との相互作用の中で生じる問題の発生について説明し、より健全なコミュニティへと発展させていく介入・実践について論じる。

教科書

野島一彦『臨床心理学への招待』ミネルヴァ書房。

参考文献

高塚雄介、他『臨床心理学-やさしく学ぶ-』医学出版。

伊藤良子『いちばんはじめに読む心理学の本１　臨床心理学　全体的存在としての人間理解』ミネルヴァ書房。

※科目コード2230：登録年次３年、Ｒ履修／科目コード2231：登録年次３年、ＳＲ履修／科目コード2233：登録年次２年、ＳＲ履修
科目コード2236：登録年次２年、Ｒ履修

科目コード	臨床心理学（４単位）	登録年次	履修方法
2230/2231/2233/2236		２年/３年	Ｒ/ＳＲ
教員名	秋山和寛、新井雅人、荒井理帆、佐野友泰、沢哲司、坪井菜奈子、 戸田大樹、中川浩子、中山麻子、橋本景子、福田晶子、三井三枝子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

臨床心理学は、心理的な障害や問題に悩む人の適応や発達、自己実現を専門的に援助する実践について研究する学問である。そのため、まず、発達的観点からの臨床心理学的人間理解として、乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期の心理的な課題と問題について学ぶ。また、心理アセスメントの様々な側面と方法について学び、さらに、様々な臨床心理学的援助の方法についても概説する。その上で、臨床心理学的実践の様々な領域についての学修を重ねて、実践的な臨床心理学的な視点や思考方法を身につけていく。

学修内容

1	臨床心理学とは何か、精神医学との対比から理解する。
2	臨床心理学の学問的背景について、歴史的観点から理解する。
3	正常と病理の概念について、様々な観点からの理解を深める。
4	乳幼児期から児童期までの発達特徴と臨床心理学的な発達課題について学修する。健康な発達の様相を理解した上で、それぞれの発達期の心理的問題について学修する。
5	青年期の心理と臨床心理学的問題を学ぶ。青年期の発達課題と現代がもつ青年期の問題について理解する。
6	成人期と老年期の心理について学び、それぞれが持つ発達的課題と危機について理解する。
7	心理アセスメントの理解（見立てと診断の違い）とその多様性を知る。実際の心理アセスメントについて理解する。
8	心理面接によるアセスメントについて、実践的な方法と実際場面で起こりうる問題とその対応について学修する。また、行動観察によるアセスメントについても理解する。
9	心理テストによるアセスメントについて、心理テストを実施するにあたっての諸問題を理解し、その多様な種類とテストバッテリーについて学ぶ。
10	臨床心理学的援助の方法として、代表的なものを学修する。精神分析療法、行動療法、クライエント中心療法の考え方を理解する。
11	臨床心理学的援助の方法として、対話以外の方法を用いた心理療法について学修する。遊戯療法、芸術療法、催眠・自律訓練法を知る。また、日本で開発された心理療法を知る。
12	臨床心理学的援助の方法として、家族・集団・地域社会へのアプローチを学修する。家族療法を知る。グループ・アプローチを知る。また、コミュニティー・アプローチとは何かについて理解する。
13	教育・福祉・司法のそれぞれの領域における臨床心理学的実践について学修する。学校現場での教育相談について知る。福祉現場の心理臨床を知る。司法・矯正の領域での様々な実践現場を知る。
14	医療の領域における臨床心理学的実践について理解する。また、産業の領域における臨床心理学的実践について理解する。
15	地域における臨床心理学的援助について学修する。地域における心理臨床家の役割を理解し、他機関との連携の在り方について学ぶ。開業心理臨床の実際について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 臨床心理学的人間理解として、アセスメント面接の進め方とその留意点について述べよ。

＜ポイント＞

場の設定から、問題の理解の仕方について述べることと、実際の面接場面で起こりうる問題と対応について考察すること。

【設題2】代表的な臨床心理学的援助の方法について述べよ。

＜ポイント＞

臨床心理学的援助の方法には、様々な考え方と技法があるが、3つの代表的な考え方と技法について、その対象者と治療法などについて考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．臨床心理学とは何か

＜ポイント＞

精神医学との対比でとらえる。

2．青年期の特徴について

＜ポイント＞

エリクソンのライフサイクルの視点を踏まえながら、現代的問題もおさえる。

3．老年期の特徴について

＜ポイント＞

発達課題と心理的問題について理解する。

4．心理テストについて

＜ポイント＞

各種心理テストの特徴を理解し、テストバッテリーの考え方をおさえておく。

5．対話以外の方法による臨床心理学的援助の方法について

＜ポイント＞

遊戯療法、芸術療法、催眠・自律訓練法、動作法を理解する。

6．地域における臨床心理学的援助について

＜ポイント＞

地域における相談機関について理解し、各機関との連携の在り方を学ぶ。

教科書

野島一彦『臨床心理学への招待』ミネルヴァ書房。

参考文献

高塚雄介、他『臨床心理学-やさしく学ぶ-』医学出版。
伊藤良子『いちばんはじめに読む心理学の本1　臨床心理学　全体的存在としての人間理解』ミネルヴァ書房。

科目コード	臨床心理学概論（４単位）	登録年次	履修方法
3580		２年	ＳＲ
教員名	秋山和寛、新井雅人、荒井理帆、佐野友泰、沢哲司、鈴木康明、坪井菜奈子、戸田大樹、中川浩子、中山麻子、橋本景子、福田晶子、三井三枝子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

臨床心理学は、心理的な障害や問題に悩む人の適応や発達、自己実現を専門的に援助する実践について研究する学問である。そのため、まず、発達的観点からの臨床心理学的人間理解として、乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期の心理的な課題と問題について学ぶ。また、心理アセスメントの様々な側面と方法について学び、様々な臨床心理学的援助の方法についても概観する。その上で、臨床心理学的実践の様々な領域についての学修を重ね、実践における臨床心理学的な視点や思考方法を身につける。臨床心理学的援助としての心理療法の成り立ち、心理療法の代表的な理論についても理解する。

学修内容

1	臨床心理学とは何か、精神医学との対比から理解する。
2	臨床心理学の学問的背景について、歴史的観点から理解する。
3	正常と病理の概念について、様々な観点からの理解を深める。
4	乳幼児期から児童期までの発達特徴と臨床心理学的な発達課題について学修する。健康な発達の様相を理解した上で、それぞれの発達期の心理的問題について学修する。
5	青年期の心理と臨床心理学的問題を学ぶ。青年期の発達課題と現代がもつ青年期の問題について理解する。
6	成人期と老年期の心理について学び、それぞれが持つ発達的課題と危機について理解する。
7	心理アセスメントの理解（見立てと診断の違い）とその多様性を知る。実際の心理アセスメントについて理解する。
8	心理面接によるアセスメントについて、実践的な方法と実際場面で起こりうる問題とその対応について学修する。また、行動観察によるアセスメントについても理解する。
9	心理テストによるアセスメントについて、心理テストを実施するにあたっての諸問題を理解し、その多様な種類とテストバッテリーについて学ぶ。
10	臨床心理学的援助の方法として、代表的なものを学修する。精神分析療法、行動療法、クライエント中心療法の考え方を理解する。
11	臨床心理学的援助の方法として、対話以外の方法を用いた心理療法について学修する。遊戯療法、芸術療法、催眠・自律訓練法を知る。また、日本で開発された心理療法を知る。
12	臨床心理学的援助の方法として、家族・集団・地域社会へのアプローチを学修する。家族療法を知る。グループ・アプローチを知る。また、コミュニティー・アプローチとは何かについて理解する。
13	教育・福祉・司法のそれぞれの領域における臨床心理学的実践について学修する。学校現場での教育相談について知る。福祉現場の心理臨床を知る。司法・矯正の領域での様々な実践現場を知る。
14	医療の領域における臨床心理学的実践について理解する。また、産業の領域における臨床心理学的実践について理解する。
15	地域における臨床心理学的援助について学修する。地域における心理臨床家の役割を理解し、他機関との連携の在り方について学ぶ。開業心理臨床の実際について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】心理療法の成り立ちについて述べよ。

＜ポイント＞

心理療法誕生の歴史的背景についてまとめる。また、心理療法の代表的な3つの潮流（精神分析・行動主義・人間性心理学）それぞれの誕生の経緯についてまとめる。

【設題2】心理療法の代表的な理論について述べよ。

＜ポイント＞

代表的な3つの心理療法（精神分析・行動療法および認知行動療法・クライエント中心療法）をとりあげ、それぞれの背景となる理論、人間のこころに対する考え方、適応となる対象者、援助技法などをまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．アセスメント面接の進め方とその留意点について

＜ポイント＞

面接場面の設定、および、実際の面接場面で起こりうる問題と対応について理解しておく。

2．保健医療分野における心理に関する支援について

＜ポイント＞

保健医療分野の現場における心理に関する支援について理解しておく。

3．福祉分野における心理に関する支援について

＜ポイント＞

福祉分野の現場における心理に関する支援について理解しておく。

4．教育分野における心理に関する支援について

＜ポイント＞

教育分野の現場における心理に関する支援について理解しておく。

5．司法・矯正分野における心理に関する支援について

＜ポイント＞

司法・矯正分野の現場における心理に関する支援について理解しておく。

6．産業・労働分野における心理に関する支援について

＜ポイント＞

産業・労働分野の現場における心理に関する支援について理解しておく。

教科書

野島一彦『臨床心理学への招待』ミネルヴァ書房。

参考文献

高塚雄介、他『臨床心理学-やさしく学ぶ-』医学出版。

伊藤良子『いちばんはじめに読む心理学の本1　臨床心理学　全体的存在としての人間理解』ミネルヴァ書房。

科目コード	倫理学（２単位）	登録年次	履修方法
1250/1251		１年	ＳＲ/Ｒ
教員名	堀肇、山田哲史		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

良い人生、善悪、徳と悪徳、正誤（正邪）とは何か、に関するさまざまな理論を考察し、次にこれら概念の恒久的、そして現代的な諸道徳問題への応用を考察する。さらに、良い人生、道徳的な義務と権利、選択と結果、自由と必然性などの諸倫理概念の哲学史的な展開も追究する。

この科目では、倫理学を特に社会福祉に関連させ、ケアプロバイダと福祉サービスの利用者との関係、生きることと死ぬこと、職業倫理・責任といった問題について考える機会を持つ。

学修内容

1	倫理学を学ぶにあたって：人を助けるために嘘をつくことは許されるのか（倫理とは何か、嘘も方便、カントの倫理主義）。（テキスト：第１章）
2	倫理学の根本問題Ⅰ：10 人の命を救うために１人の人を殺すことは許されるか（選好の順位、サバイバルロッタリー、臓器移植の問題、生存の功利主義と人格の尊厳、単一の最高原理）。優先順位や価値の問題を考える。（テキスト：第２章）
3	倫理学の根本問題Ⅱ：10 人のエイズ患者に対して特効薬が１人分しかない時、誰に渡すのか（６つの分配方法、ベンサムの「最大多数の最大幸福」、平等原理、ミルの平等論、最大幸福と多数決など）。ベンサムやミルの考え方について学ぶ。（テキスト：第３章）
4	エゴイズムと道徳：ベンサムの功利主義、カントの道徳論（仮言命法、定言命法）、ヘーゲル、ニーチェの考え方、最小限の規制、ミルの功利主義の修正「豚とソクラテス」などについて学ぶ。エゴイズムの意味と他者との関係が重要である。（テキスト：第４章）
5	幸福論（幸福の計算）：功利主義批判、行為功利主義と規則功利主義、欲望量、選好の結果、推移率について学ぶ。（テキスト：第５章）
6	判断能力Ⅰ：決定権、人格の範囲、対応能力、人格概念の要約と問題、生命倫理を考える。（テキスト：第６章）
7	判断能力Ⅱ：価値判断と事実判断、ムーアの自然主義的誤謬、主意主義と自然主義、論理とレトリックについてまとめる。（テキスト：第７章）
8	正義論Ⅰ：精神世界のニュートン力学、カントの定言命法、定言命法の功利主義的な解釈、ヒュームの正義論、形式主義の可能性の各項目についてまとめる。ヒュームとカントの考え方を中心に学ぶ。（テキスト：第８章）
9	正義論Ⅱ（思いやりと道徳）：黄金律と互酬性、黄金律への批判、マッキーによる普遍化、ロールズの正義論（無知のヴェール）、ヘアの普遍化理論について学ぶ。（テキスト：第９章）
10	正義論Ⅲ（正直論）：「正直者が損をする」ことについて囚人のジレンマ、アローの定理を通して、正直の意味や意義について検討する。（テキスト：第 10 章）
11	自由論：「他人に迷惑をかけなければ何をしてもよい」ということについて 自由の意味・意義について学ぶ。自由と道徳について考える。（テキスト：第 11 章）
12	義務Ⅰ：「貧しい人を助けるのは豊かな人の義務である」ということについて 義務の意味、二重の結果、完全義務と不完全義務、カントの４つの義務、人工妊娠中絶論などから学ぶ。 （テキスト：第 12 章）
13	義務Ⅱ：「現在の人間は未来の人間に対する義務があるか」について 現在の人間の義務、近代化、世代間の関係、「恩」の再発見、ロールズの正義論などについて、義務と関連して学ぶ。 （テキスト：第 13 章）
14	時代的変遷と価値論：普遍的価値観の歴史的考察、相対主義、ウィリアムズの批判、マルクス主義、価値判断の変化から正義について検討する。（テキスト：第 15 章）
15	科学と倫理：カーソンの「沈黙の春」、科学批判の思想、科学の中立性、人間の同一性などから、科学と倫理について検討する。（テキスト：第 15 章）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 幸福と理性の関係について述べよ。

＜ポイント＞

幸福と理性について考えた哲学者の思想（アリストテレス、エピクロス、ストア派、カント等）を取り上げ、それぞれの概要をまとめた上で、それらの思想に対する自分の考えを述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．末期ケアの理念について

＜ポイント＞

生命倫理や安楽死の問題がある。ホスピスで末期がんの患者へどのようなアプローチを考えるか、尊厳死やリビングウィルなどの問題やQOLの問題、生と死に関する生命倫理について言及する。

2．プラトンの「愛の説」について

＜ポイント＞

プラトンの愛（エロス）は、肉体的な愛ではなく、精神的な愛である。精神的な愛は、人間が求めていく永遠不変のもの（真・善・美）である。プラトンのイデア論などから、その内容をよく考えること。

3．古代ギリシアの哲学者について

＜ポイント＞

ソクラテス、プラトン、アリストテレスの内容について言及すること。プラトンの「ソクラテスの弁明」「国家」やアリストテレスの「ニコマコス倫理学」などから、正義、徳（アレテー）、幸福論、理想倫、現実論、中庸などを考える。

4．エゴイズムと功利主義について

＜ポイント＞

エゴイズムの特徴について、個人と社会の関係から具体的に考える。また、ベンサムの功利主義、「最大多数の最大幸福」、ミルの功利主義の修正「豚とソクラテス」などについて学修すること。エゴイズムの意味と他者との関係を中心に考えるとよい。

5．カントの倫理主義と道徳法則について

＜ポイント＞

カントの道徳倫理学について具体的に考えること。自由論、道徳法則、仮言命法、定言命法、普遍妥当性などについてまとめること。

6．人工妊娠中絶と生命倫理について

＜ポイント＞

人工妊娠中絶で考えられる生命の問題について、生命倫理から検討する。出生前診断で堕胎するケースなど社会的倫理観などについても触れ、生命（命）について考える。

教科書

加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫。

参考文献

宇都宮芳明『倫理学入門（放送大学教材）』日本放送出版協会。

ピーター・シンガー、内山友三郎『実践の倫理』昭和堂。

科目コード	レクリエーション理論（２単位）	登録年次	履修方法
1520/1521		１年/２年	R
教員名	浅井泰詞、飯田昌男、菅家沙由梨、斉藤雅記、 佐藤友樹、清水信好、中村裕、堀建治、柳澤利之		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

レクリエーションとは、余暇時間に行われる楽しい活動・行動を通じて、何らかのベネフィット（恩恵）・効果を得て、「人々がよりいきいきとした楽しく豊かな生活の実現を追求しようとする状態（よりよく生きる）」を指す。教育・保育・福祉の課題として、レクリエーションについて学修する。幼児・児童に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。また、レクリエーションに参加する子ども達の発達段階やさまざまな背景によって配慮するべき点などを学ぶ。

学修内容

1	レクリエーション支援 レクリエーション支援とは（pp.9-14） 心の元気づくりの大切さを理解し、レクリエーション支援について学修していく。
2	レクリエーション・インストラクターの役割 レクリエーション・インストラクターの２つの役割（pp.15-18） レクリエーション・インストラクターに期待される役割と公認指導者資格について学修していく。
3	楽しさをとおした心の元気づくり 楽しさをとおした心の元気づくりの理解（pp.19-28） レクリエーション活動の楽しさを学修していく。
4	対象者の心の元気づくり ライフステージと心の元気づくり（p.29）、子どもや高齢者の心の元気づくり（pp.30-31）、障がいのある人の心の元気づくり（p.32） ライフステージごとの心の元気づくりの課題を学修していく。
5	地域とレクリエーション 心の元気と地域のきずな（pp.33-36） 地域のきずなづくりについて学修していく。
6	コミュニケーションと信頼関係づくり コミュニケーションと信頼関係づくりの理論（pp.37-43） レクリエーション支援におけるコミュニケーション、対象者との信頼関係について学修していく。
7	良好な集団づくり 良好な集団づくりの理論（pp.44-49） レクリエーション支援における集団づくりを理解し、集団内のコミュニケーションについて学修していく。
8	楽しむ力を育む理論 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論（pp.50-56） 対象者が楽しさを十分に味わえるレクリエーション活動の実施について学修していく。
9	信頼づくりの方法・ホスピタリティ（もてなす意識と配慮） あたたかくもてなす意識と配慮（pp.57-61） もてなしの意識と配慮について学修していく。
10	信頼づくりの方法・ホスピタリティ（コミュニケーション技術） 気持ちをひとつにするコミュニケーション技術（pp.62-65） もてなす意識を持った上でのコミュニケーション技術について学修していく。
11	アイスブレーキング 良好な集団づくりの方法・アイスブレーキング（pp.66-69） アイスブレーキングのプログラムやアイスブレーキングの効果を高める支援技術について学修していく。
12	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法（目標設定） 楽しむ力を高める目標設定の方法（pp.70 -73） 目標設定の方法や対象者に合わせるアレンジの方法について学修していく。
13	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法（アレンジ） レクリエーション活動を対象者に合わせるアレンジ（pp.74 -77） 目標設定の方法や対象者に合わせるアレンジの方法について学修していく。
14	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法（CSS プロセス） 対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法（pp.78 -82） CSS プロセスについて学修していく。
15	まとめ 現代社会とレクリエーションの関わり レクリエーションにおける支援方法の幅広さ、対象者の主体性を尊重した姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】

現代の日本社会が抱える課題、問題点を挙げ、それらに対して、いま自分ができるレクリエーション支援の方法、企画について述べよ。

＜ポイント＞

レクリエーション支援の目的を理解し、「対象者」、「活動内容」、「働きかけ」を明らかにした上で、具体的に述べること。

科目終了試験学修のポイント

１．公認指導者資格の種類について

＜ポイント＞

公益財団法人日本レクリエーション協会が認定登録している５つの公認指導者資格を把握する。

２．レクリエーション・インストラクターの役割について

＜ポイント＞

レクリエーション・インストラクターに期待される役割を認識する。

３．地域のきずなづくりについて

＜ポイント＞

地域のきずなづくりの実態を把握し、きずなづくりに関してどのような事業があるか考える。

４．ホスピタリティについて

＜ポイント＞

もてなす意識と配慮の重要性を認識し、その上で用いるコミュニケーション技術を学修する。

５．アイスブレーキングについて

＜ポイント＞

アイスブレーキング・モデルを認識し、アイスブレーキングの効果を高める支援技術を学修する。

６．CSS プロセスについて

＜ポイント＞

CSS プロセスの原則を理解し、その留意点や実施のタイミングを学修する。

教科書

日本レクリエーション協会『楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法』

日本レクリエーション協会。

参考文献

なし

科目コード	レクリエーション理論（２単位）	登録年次	履修方法
1621		１年	S
教員名	浅井泰詞、飯田昌男、菅家沙由梨、斉藤雅記、 佐藤友樹、清水信好、中村裕、西田希、堀建治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

レクリエーションとは、余暇時間に行われる楽しい活動・行動を通じて、何らかのベネフィット（恩恵）・効果を得て、「人々がよりいきいきとした楽しく豊かな生活の実現を追求しようとする状態（よりよく生きる)」を指す。保育・福祉の課題として、レクリエーションについて学修し、幼児・児童に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。また、レクリエーションに参加する子供たちの発達段階やさまざまな背景によって配慮するべき点などを学ぶ。

学修内容

1	レクリエーション支援 心の元気づくりの大切さを理解し、レクリエーション支援について学修していく。
2	レクリエーション活動 楽しさをとおした心の元気づくりを理解し、ライフステージごとの心の元気づくりの課題を学修していく。
3	様々な対象にあったレクリエーション　(アイスブレーキング、具体的な方法等の提示) アイスブレーキングの意義と基本技術、アイスブレーキングのプログラミング
4	様々な対象にあったレクリエーション　(幼児期のレクリエーション) 幼児期の特徴、課題、個人・集団・環境への働きかけ
5	様々な対象にあったレクリエーション　(児童期のレクリエーション) 児童期の特徴、課題、個人・集団・環境への働きかけ
6	様々な対象にあったレクリエーション　(青年期・成人期のレクリエーション) 青年期・成人期の特徴、課題、個人・集団・環境への働きかけ
7	様々な対象にあったレクリエーション　(高齢期のレクリエーション) 高齢期の特徴、課題、個人・集団・環境への働きかけ
8	様々な対象にあったレクリエーション　(障がい者のレクリエーション) 障がい者の特徴、課題、個人・集団・環境への働きかけ
9	レクリエーション事業計画 事業の考え方、展開方法、プログラムの組み立て方、グループ運営、安全管理の考え方
10	レクリエーション事業計画 個人や市民を対象としたプログラム・計画 (アセスメント、計画、実施、評価、記録)
11	レクリエーション事業計画 素材とアクティビティの選択、素材のアクティビティの提供と相互作用
12	レクリエーションの準備とレクリエーションのおさらい 基本技術(環境の設定、アレンジ)、段階的アレンジ法の応用
13	レクリエーション事業の実際 レクリエーションの運営方法・実践
14	レクリエーション事業の評価と反省、アセスメント・計画までの振り返り
15	レクリエーションワークのまとめ 現代社会とレクリエーションの関わり

教科書

日本レクリエーション協会『楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法』

日本レクリエーション協会。

参考文献

日本レクリエーション協会『福祉レクリエーション総論』中央法規。

日本レクリエーション協会『福祉レクリエーション援助の実際』中央法規。

科目コード	レクリエーションワーク（２単位）	登録年次	履修方法
1062/1065		１年/２年	ＳＲ
教員名	浅井泰詞、飯田昌男、沖雅美、菅家沙由梨、斉藤雅記、 佐藤友樹、清水信好、西田希、仁藤喜久子、中村裕、堀建治		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

保育・福祉の課題として、レクリエーションについて学修する。幼児・児童に対応したレクリエーション援助の意義について理解し、個別・グループ・環境を見据えたレクリエーションの援助技術を実践的に身につける。

学修内容

1	レクリエーション概論 レクリエーション支援の目的、レクリエーション活動の楽しさ レクリエーション支援の目的、レクリエーション活動の楽しさについて学び、これからのレクリエーションのあり方についてディスカッションする。
2	楽しさと心の元気づくりの理論 楽しさをとおした心の元気づくり、ライフステージ、地域のきずなづくり 楽しさをとおした元気づくりについて学び、ライフステージごとの課題や地域のきずなづくりついて学修する。
3	レクリエーション支援の理論 コミュニケーション、良好な集団づくり レクリエーション支援におけるコミュニケーションの捉え方を学び、集団づくりについて学修する。
4	レクリエーション支援の方法 ホスピタリティ、アイスブレーキング ホスピタリティを理解し、コミュニケーション技術について学ぶ。また、アイスブレーキングの方法や種類を実践してみる。
5	レクリエーションワーク 幼児への取り組み方（プログラムを作成） 幼児対象にしたプログラムを作成する。自分（学生）の得意なもので作成する。
6	レクリエーションワーク 幼児への取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（声の大きさ、間の取り方、説明の手順や表情など）。
7	レクリエーションワーク 児童期への取り組み方（プログラムを作成） 児童期対象にしたプログラムを作成する。自分（学生）の得意なもので作成する。
8	レクリエーションワーク 児童期への取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（声の大きさ、間の取り方、説明の手順や表情など）。
9	レクリエーションワーク 高齢者を対象とした取り組み方（プログラムを作成） 施設を利用している高齢者を対象にプログラムを作成する。現場経験のある方はその経験を生かして計画する。
10	レクリエーションワーク 高齢者を対象とした取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（計画に無理はなかったか、説明の手順や表情など）。
11	レクリエーションワーク 障がい者への取り組み方（プログラムを作成） 具体的な障がいを想定して、プログラムを作成する。現場経験がある方はその経験を生かして計画する。
12	レクリエーションワーク 障がい者への取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（計画に無理はなかったか、説明の手順や表情など）。
13	レクリエーションワーク 地域住民を対象とした取り組み方（プログラムを作成） 高齢者や家族を対象にしたプログラムを作成する。自分の住んでいる地域を想定して企画する。
14	レクリエーションワーク 地域住民を対象とした取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（計画に無理はなかったか、説明の手順や表情など）。
15	まとめ レクリエーションワークの振り返り 幼児から高齢者、障がい者、地域住民を対象とした取り組みを振り返る。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】

幼児期、児童期のレクリエーション活動について、その内容や企画・運営について、レクリエーションを指導する上での留意点について述べよ。

＜ポイント＞

レクリエーション活動と一言でいっても、その内容選定から当日の役割分担、指導を行う上での留意すること等、様々な知識・技能が必要とされる。それらの基本を踏まえてレポートを作成すること。

科目終了試験学修のポイント

1．心の元気づくりについて
＜ポイント＞
心の元気づくりの大切さ、レクリエーション活動の楽しさ

2．良好な集団づくりについて
＜ポイント＞
共通の目標、コミュニケーション

3．乳幼児期を対象としたレクリエーション支援について
＜ポイント＞
乳児期の特徴、幼児期の特徴、乳幼児期の心の元気づくりの課題

4．児童期を対象としたレクリエーション支援について
＜ポイント＞
児童期の特徴、児童期の心の元気づくりの課題

5．高齢期を対象としたレクリエーション支援について
＜ポイント＞
高齢期の特徴、高齢期の心の元気づくりの課題

6．障がい者を対象としたレクリエーション支援について
＜ポイント＞
障がい者への配慮、障がい者の心の元気づくりの課題

教科書

日本レクリエーション協会『楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法』
日本レクリエーション協会。

参考文献

前橋明、他『最新健康科学概論』朝倉書店。

科目コード	レクリエーションワーク（２単位）	登録年次	履修方法
1060/1061		１年	S
教員名	浅井泰詞、飯田昌男、沖雅美、菅家沙由梨、斉藤雅記、 佐藤友樹、清水信好、西田希、仁藤喜久子、中村裕、堀建治		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

社会福祉の援助技術に関わる課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ（幼児・児童・青年・老年・障害者）に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術（個別・グループ・環境）を、実践を通して身につける。

学修内容

1	レクリエーション概論 レクリエーション支援の目的、レクリエーション活動の楽しさ レクリエーション支援の目的、レクリエーション活動の楽しさについて学び、これからのレクリエーションのあり方についてディスカッションする。
2	楽しさと心の元気づくりの理論 楽しさをとおした心の元気づくり、ライフステージ、地域のきずなづくり 楽しさをとおした元気づくりについて学び、ライフステージごとの課題や地域のきずなづくりついて学修する。
3	レクリエーション支援の理論 コミュニケーション、良好な集団づくり レクリエーション支援におけるコミュニケーションの捉え方を学び、集団づくりについて学修する。
4	レクリエーション支援の方法 ホスピタリティ、アイスブレーキング ホスピタリティを理解し、コミュニケーション技術について学ぶ。また、アイスブレーキングの方法や種類を実践してみる。
5	レクリエーションワーク 幼児への取り組み方（プログラムを作成） 幼児を対象にしたプログラムを作成する。自分（学生）の得意なもので作成する。
6	レクリエーションワーク 幼児への取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（声の大きさ、間の取り方、説明の手順や表情など）。
7	レクリエーションワーク 児童への取り組み方（プログラムを作成） 児童を対象にしたプログラムを作成する。自分（学生）の得意なもので作成する。
8	レクリエーションワーク 児童への取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（声の大きさ、間の取り方、説明の手順や表情など）。
9	レクリエーションワーク 高齢者を対象とした取り組み方（プログラムを作成） 施設を利用している高齢者を対象にプログラムを作成する。現場経験のある方はその経験を生かして計画する。
10	レクリエーションワーク 高齢者を対象とした取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（計画に無理はなかったか、説明の手順や表情など）。
11	レクリエーションワーク 障がい者への取り組み方（プログラムを作成） 具体的な障がいを想定して、プログラムを作成する。現場経験がある方はその経験を生かして計画する。
12	レクリエーションワーク 障がい者への取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（計画に無理はなかったか、説明の手順や表情など）。
13	レクリエーションワーク 地域住民を対象とした取り組み方（プログラムを作成） 高齢者や家族を対象にしたプログラムを作成する。自分の住んでいる地域を想定して企画する。
14	レクリエーションワーク 地域住民を対象とした取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（計画に無理はなかったか、説明の手順や表情など）。
15	まとめ レクリエーションワークの振り返り 幼児から高齢者、障がい者、地域住民を対象とした取り組みを振り返る。

教科書

日本レクリエーション協会『楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法』

日本レクリエーション協会。

参考文献

池田勝、他『レクリエーション活動の実際』杏林書院。

池良弘、他『障害を越えて楽しいレクリエーションーバリアフリーをめざしてー』日本レクリエーション協会。

科目コード	老人福祉論（４単位）	登録年次	履修方法
2090/2091		２年	ＳＲ
教員名	辻本理絵子、柳澤利之、尹文九、吉岡英雄		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

急速な高齢化の進展に伴い２１世紀半ばには３人に１人が６５歳以上という超高齢社会が到来することが予想される。このような現状をふまえ、現代社会における高齢者福祉の概念・意義について理解するとともに、高齢者の精神的・身体的特徴や障害、高齢者福祉の社会的背景について考察する。また、高齢者福祉のニーズ、方法およびサービスの体系について学修し、高齢者に対する福祉サービスの現状について理解する。

学修内容

1	高齢者のイメージについて肯定的なイメージと否定的なイメージに区分し、それぞれの具体的な内容について学修する。
2	ライフサイクルから見た高齢者に対する理解や特徴（テキスト pp. 10-23） 高齢者は若者と比べ、身体的、心理的、社会的にどのような特徴があるのかについて学修する。
3	少子高齢社会と社会的問題（テキスト pp. 30-40） 少子高齢社会とは、日本の少子高齢化の特徴、少子高齢化の要因、高齢者と家族の状況などについて学修する。
4	高齢者を取り巻く諸問題（テキスト pp. 41-59） 諸問題のなか健康、介護、経済的問題、生活意識、生きがい問題などについて学修する。
5	高齢者保健福祉制度の歩み（テキストpp. 77-85） 戦後以来日本政府が高齢者のため行った政策・制度をマクロレベルで検討し、高齢者福祉の歩みを理解する。
6	高齢者支援関連法(老人福祉法)（テキスト pp. 94-98） 老人の定義から始め、福祉法の理念と目的、内容、サービスなどについて学修する。
7	高齢者支援関連法(高齢者の医療の確保に関する法律)（テキスト pp. 99-105） 老人保健法の成立背景から、その内容について学修する。
8	高齢者支援関連法(高齢社会対策基本法と権利擁護制度)（テキスト pp. 88-93） 高齢社会対策基本法と成年後見制度の全体の仕組みと重要事項について学修する。
9	高齢者支援関連法(高齢者虐待防止法)（テキスト pp. 106-114） 高齢者虐待の種類や虐待通報があったとき、その対応について学修する。
10	介護保険法① 介護保険制度の全体像や制度成立の背景、または理念などの社会的意義について学修する。 テキストｐ. 125 を参考にし、制度の全体像について理解する
11	介護保険法②（テキスト pp. 137-145･154-159） 制度の仕組みのなか特に、認定のプロセスと重要な内容（保険者・被保険者、財政など）について学修する。
12	介護保険法③（テキスト pp. 130-136） 介護保険法が改正された理由とどのような内容に改正されたのかについて介護給付サービスを中心に学修する。
13	介護保険法④（テキスト pp. 189-204） 介護保険制度から利用できるサービスにはどのようなものがあり、サービス利用のため必要なことについて学修する。
14	介護保険法⑤（テキスト pp. 180-188） 介護保険と関連し、専門職にはどのような職種があり、具体的な仕事の内容について学修する。
15	高齢者を支援する組織（テキスト pp. 216-234） 高齢者を支援する組織（行政、第３セクター、ボランティア活動など）にはどのような機関があり、それぞれが高齢者福祉のために果たしている役割について学修する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 ライフサイクルの変化と高齢者福祉について述べよ。

＜ポイント＞

家族の変容や少子化、高齢社会の進展といった社会構造の変化の中で現代のわが国の高齢者がどのような生活を送りどのようなニーズを持っているのか、ライフサイクルの変化や健康状態の側面、経済的側面など多角的に考察すること。

【設題2】 在宅福祉サービスの体系と介護保険制度について述べよ。

＜ポイント＞

在宅福祉の概念や制度、現状を体系的に整理するとともに、現在施行されている介護保険制度についてもその現状や今後の課題について考察し、今後の方向性を自分なりにまとめていくこと。

科目終了試験学修のポイント

1．介護保険制度について

＜ポイント＞

まず、介護保険制度の全体の仕組みと制度の理念や目的について理解する。そして制度全般に対し、自分が理解した課題や問題点についてまとめる。

2．在宅福祉サービスをめぐる今日的課題について

＜ポイント＞

まず、高齢者のための在宅福祉サービスにはどのようなサービスがあるのかについて理解してから、その中でどのような課題や問題点があるのかについてまとめる。

3．特別養護老人ホームをめぐる今日的課題について

＜ポイント＞

高齢者の施設福祉サービスの代表的なものとして特別養護老人ホームがあるが、今日高齢化の進展と共にさまざまな課題を持っている。その課題や問題点について特に４０万人以上とも言われる施設待機者の問題や課題についてまとめる。

4．高齢者を支援する組織とその役割について

＜ポイント＞

高齢者を支援する組織には行政機関を含め、民間機関や第3セクターなどさまざまな分野がある。分野別または機関別の役割や機能を理解し、まとめる。

5．高齢者の人権と虐待について

＜ポイント＞

21世紀は人権の時代と呼ばれ、高齢者の人権を守るためにさまざまな法律が整備されたが、マクロレベルでのその背景とその中でも特に高齢者虐待防止法についてはその内容をより詳しく理解し、どうすれば、虐待の防止ができるのかについてまとめる。

6．戦後の高齢者福祉制度の変化について

＜ポイント＞

戦後から今まで高齢者福祉制度は時代の変化と共に時期別に新しい政策・制度へと対応してきた。その時代別に変化した背景と特徴について政策環境を中心にまとめる。

教科書

（平成20年度までの配本）

福祉士養成講座編集委員会『社会福祉士養成講座2　老人福祉論』中央法規。

（平成21年度以降の配本）

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座13　高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規。

参考文献

川村匡由『介護保険総点検』ミネルヴァ書房。

三浦文夫『図説高齢者白書』全国社会福祉協議会。

科目コード	労働安全衛生法（じん肺法を含む）(2 単位)	登録年次	履修方法
3510		3年	ＳＲ
教員名	石本強、橋本由利子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

労働安全衛生法は、労働者の安全と健康を確保するとともに、労働者を取り巻く環境の変化に応じ、人間尊重を基盤とした「より快適な」作業環境づくりの促進を目的として、事業者のみならず、労働者や国に対する責務についても規定している。

ここでは労働安全衛生法、およびそれに基づいてより細かく具体的に規定された労働安全衛生規則や種々の有害作業の予防規則について学ぶ。また近年、技術革新に伴う労働環境の変化、労働者の高年齢化に伴う健康状態の変化が起こっているため、これらに対応できる福祉を学んだ衛生管理者が求められていることについて学ぶ。

学修内容

1	<労働安全衛生法（1）> シラバスの説明、労働安全衛生法の成立の背景、労働基準法との関係について学ぶ。
2	<労働安全衛生法（2）> 望ましい安全衛生管理体制とは、労働安全衛生法とは、労働災害を総合的に防止するには誰のどのような責務と努力が必要かを学ぶ。
3	<労働安全衛生法（3）> 福祉施設で発生する可能性のある労働衛生の問題にはどのようなものがあるのか。
4	<労働安全衛生管理体制> 労働安全衛生規則、労働安全衛生に関する法令の構成、法令の公用文について学ぶ。
5	<事務所衛生基準規則> 法規制内容、VDT 作業における労働衛生管理のためのガイドラインについて
6	<有機溶剤中毒予防規則> 法規制内容、有機溶剤の危険性について学ぶ。
7	<粉じん障害防止規則> 粉じん障害防止対策、呼吸用保護具の適正な選定と着用について学ぶ。
8	<じん肺法、じん肺法施行規則> じん肺健康診断、じん肺管理区分について学ぶ。
9	<特定化学物質障害予防規則> 化学物質等による危険性、特定化学物質の区分、安全性データシート（SDS）について学ぶ。
10	<石綿障害予防規則> 石綿による健康障害防止対策、建築物等の解体等の作業での労働者の石綿ばく露防止対策について学ぶ。
11	<電離放射線障害防止規則・東日本大震災により生じた放射性物質により汚染された土壌等を除染するための業務等に係る電離放射線障害防止規則(除染電離則)> 法規制内容の解説、放射性物質により汚染された土壌等の除染業務について学ぶ。
12	<過重労働による健康障害防止のための総合対策・職場における腰痛予防対策指針> 通達の内容について学ぶ。
13	<女性労働基準規則> 女性則の内容、とくに妊産婦に対する危険有害業務の就学制限について学ぶ。
14	<酸素欠乏症等防止規則> 酸素欠乏症の発生状況、酸素欠乏症、硫化水素中毒防止のための特別教育について学ぶ。
15	<まとめ> 学修内容のまとめ及び知識の整理を行う。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 労働安全衛生管理体制について述べよ。

＜ポイント＞

総括安全衛生管理者、衛生管理者、産業医等の選任と業務、衛生委員会等についてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．事務所衛生基準規則について

＜ポイント＞

空気環境（室内のCO、CO2、浮遊粉じん、ホルムアルデヒド濃度、気流、湿度等）の基準値、環境測定の頻度、測定結果の保存年数等についてまとめること。採光・照明・騒音、給水栓末端の残留塩素濃度、トイレ、休憩室についてまとめる。

2．有機溶剤中毒予防規則について

＜ポイント＞

設備、管理（作業主任者の選任、第1種有機溶剤等、第2種有機溶剤等、第3種有機溶剤等の区分表示）、環境測定の頻度、測定結果の保存年数、健康診断の内容等についてまとめること。

3．粉じん障害防止規則およびじん肺法について

＜ポイント＞

換気装置、粉じん濃度の環境測定頻度、呼吸保護具を使用すべき作業、設備・管理（作業主任者の選任の有無）、健康診断の内容及び結果の保存年数等についてまとめること。

4．特定化学物質等障害予防規則について

＜ポイント＞

特定化学物質（第1類物質、第2類物質、第3類物質、特別管理物質）の区分、製造等の禁止、製造の許可、表示、労働衛生教育（雇い入れ時）、健康管理手帳の交付要件等についてまとめること。健康診断（雇い入れ・定期・配置転換後・記録の保存年数）についてまとめる。

5．石綿障害予防規則について

＜ポイント＞

吹き付け石綿除去等の作業場所の隔離措置、保温材等除去時の作業者以外立ち入り禁止/表示、呼吸保護具及び作業衣等の使用、作業主任者の選任、特別教育の実施、環境測定、健康診断の頻度及びその結果の保存年数等についてまとめること。

6．酸素欠乏症等防止規則について

＜ポイント＞

酸素濃度・硫化水素濃度の測定、呼吸保護具の使用点検、作業主任者の選任、特別教育、監視人等についてまとめること。

教科書

中央労働災害防止協会『衛生管理＜上＞第1種用』中央労働災害防止協会。

中央労働災害防止協会『衛生管理＜下＞第1種用』中央労働災害防止協会。

中央労働災害防止協会『安全衛生法令要覧＜最新版＞』中央労働災害防止協会。

参考文献

中央労働災害防止協会編『労働衛生のしおり』中央労働災害防止協会。

科目コード	労働衛生学（4 単位）	登録年次	履修方法
3520		3年	ＳＲ
教員名	石本強、橋本由利子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

労働者が安全に衛生的に快適に働くには、労働環境をより良い状態に維持向上させ、また労働者の心身の健康を確保することが重要である。そのためには、衛生管理者は法律に従って衛生管理業務を行うだけでなく、社会経済情勢の変化や技術革新に伴う労働環境の変化、労働者の高年齢化に伴う心身の健康状態の低下に対応できなくてはならない。

この科目では、作業管理体制の確立と整備および衛生管理の３本柱である「作業環境管理」、「作業管理」、「健康管理」を中心に労働衛生全般について学ぶ。

学修内容

1	<我が国の労働衛生の現況> 労働災害及び業務上疾病の年次推移、疾病分類別業務上疾病者数、自殺者の推移等について学ぶ。
2	<望ましい安全衛生管理体制> 衛生管理者の職務と役割について学ぶ。
3	<労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)> OSHMS/リスクアセスメントについて学ぶ。
4	<ストレス・メンタルヘルスケア> 過重労働による健康障害防止対策について学ぶ。
5	<一般作業環境> 温熱、視環境、音環境について、実際に測定器具を用いた環境測定
6	<窒息性ガス、一酸化炭素、硫化水素ガス、有機溶剤、粉じん、重金属の健康影響> 酸素欠乏症の予防と対策について学ぶ。
7	<有害作業環境①> 有害エネルギー（高温・低温・異常気圧）の健康影響について学ぶ。
8	<有害作業環境②> 有害エネルギー（騒音・振動・超音波）の健康影響について学ぶ。
9	<有害作業環境③> 有害化学物質による疾病・有害エネルギー（非電離放射線・電離放射線）の健康影響について学ぶ。
10	<有害生物による健康影響> 感染症・食中毒の現状と予防対策について学ぶ。
11	<作業環境管理> 作業環境測定及び測定結果の評価、有害物質に対する作業管理・局所排気装置・化学物質等安全データシート・事務所などの作業環境管理、快適な職場環境づくりについて学ぶ。
12	<作業管理> 作業姿勢・有害な作業要因による疾病・労働保護具、人間工学的な取り組みについて学ぶ。
13	<健康管理> 健康管理の進め方、労働衛生教育について学ぶ。
14	<救急処置法> 救急蘇生法：心肺蘇生・自動体外式除細動器（AED）使用の実際について学ぶ。
15	<まとめ> 学修内容のまとめ及び知識の整理を行う。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 衛生管理者の職務と役割について述べよ。

＜ポイント＞

衛生管理者について説明し、その職務と役割、これから求められている衛生管理者像などについてまとめること。

【設題2】 有害作業環境の労働衛生の進め方について述べよ。

＜ポイント＞

有害作業を扱う職場について、「作業環境管理」、「作業管理」、「健康管理」の3管理と、それを適切に推進するための「総括管理」、「労働衛生教育」に分けてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．労働衛生の現状について

＜ポイント＞

労働災害および業務上疾病の推移、疾病分類別業務上疾病者数、定期健康診断・特殊健康診断の有所見者率をまとめること。

2．SDS（安全データシート）について

＜ポイント＞

化学物質管理の必要性、SDS 記載項目・活用法についてまとめること。

3．作業環境測定結果の評価と講ずべき措置について

＜ポイント＞

作業環境測定（A 測定・B 測定の違い）、管理区分（第1、第2、第3）と管理区分に応じた講ずべき措置についてまとめること。

4．VDT 作業の労働衛生管理について

＜ポイント＞

VDT 作業における作業環境管理、作業管理、健康管理、労働衛生教育の具体的内容についてまとめること。

5．過重労働による心身の健康障害防止対策について

＜ポイント＞

長時間労働になっている作業部署の労働者に対する産業医の面接指導についてまとめること。

6．一般作業環境について

＜ポイント＞

温熱(温度・相対湿度・気流・WBGT:暑熱温度指数)、視環境(採光・照明)、音環境(騒音・振動)等についてまとめること。

教科書

中央労働災害防止協会『衛生管理＜上＞第1種用』中央労働災害防止協会。
中央労働災害防止協会『衛生管理＜下＞第1種用』中央労働災害防止協会。
中央労働災害防止協会『安全衛生法令要覧＜最新版＞』中央労働災害防止協会。

参考文献

厚生労働省安全衛生部労働衛生課『衛生管理者の実務』中央労働災害防止協会。
中央労働災害防止協会『労働衛生のしおり』中央労働災害防止協会。

科目コード	労働法（労働基準法）（2単位）	登録年次	履修方法
3500/3501		3年/2年	R
教員名	有働文雄、喜多村悦史、中島基彰		
履修可能な学科	社福 保育 教育 心理		

科目概要

男女雇用機会均等法が制定された頃から労働関係法令は、新しいものがいくつか制定され、かつ既存の法令も大幅な改正がなされてきた。そこには新しい雇用形態や労働条件の変化が大きく影響しているところであるが、労働基準法に関する基礎知識を身につけるとともに、雇用・労働条件の新しい形態に関する法令を広く学び、あるべき雇用形態や労働条件などについて理解を深める。

（学修目標）

1．労働問題は将来必ず自己の問題として降りかかってくるものであり、常に自分のこととして考える習慣を身につける。

2．労働基準法は労働関係法令の大原則を定めたものであり、これを理解することにより、労働問題における法律的な考え方や問題処理能力を身につける。

3．最近の労働関係法令に関する判例や行政解釈は複雑、多義に及んでいるが、面倒がらずに法令や行政解釈、さらには判例に目を通し、社会における労働問題の一端を理解する。

学修内容

1	労働法の体系：労働法という一群の法律分野の解明とそのなかでの労働基準法の位置づけ 教科書第1章　「雇用契約＝労働契約」「契約自由の原則」「日本的労働慣行」「労働市場法」「労働関係法」
2	基本用語の定義：労働関係に特有の法律用語を現実の雇用労働との関係で理解する 教科書第2章　「雇用」「委任」「請負」「労働協約」「就業規則」「労使協定」「労働基準監督官」
3	雇用の開始：労働契約はどのようにして開始されるのか。また内定の契約上の意味など 教科書第 3 章　「求職者」「求人者」「職業紹介」「労働者供給」「終身雇用制」「解約権留保付労働契約」「労働条件の明示」「契約期間上限」
4	労働条件の決定：契約は本来個別当事者同士の自由な合意のはずだが、労働法はそれに制約を加えている 教科書第4章　「労働契約法」「労務提供義務」「指揮命令権」「職務専念義務」「安全配慮義務」「就業規則による不利益変更」「人事権」「出向」「転籍」「変更解約告知」
5	賃金：労働の対償としての賃金は労働法の主要な保護対象だが、その範囲や支払いに関する規制など 教科書第5章　「基本給」「所定内手当」「所定外手当」「賞与」「退職金」「最低賃金法」「賃金支払確保法」「成果主義賃金」「年俸制」「賃金支払4原則」「休業手当」
6	法定労働時間：重労働を避けるための労働法における上限規制の考え方、経緯などの確認 教科書第6章　「ワーク・シェアリング」「ワーク・ライフ・バランス」「工場法」「法定労働時間」「所定労働時間」「労働時間管理」
7	労働時間規制の緩和：社会経済情勢の変動は労働時間の多様性を要請する。労働法としての対応はどうか 教科書第6章　「変形労働時間制」「フレックスタイム制」「みなし労働時間制」「裁量労働制」「労使委員会」
8	時間外労働：個別事業の展開上、残業、休日出勤などが必要になった場合に対する労働法の対応措置 教科書第6章　「三六協定」「時間外労働時間の延長の限度等に関する基準」「免罰的効果」「割増賃金」「管理監督者」「監視・断続的業務」
9	休憩・休日：休憩および休日の正しい理解。年次有給休暇制度の運用上の注意なども確認 教科書第7章　「休憩時間」「週休制」「振替」「代休」「年次有給休暇」「時季指定権」「時季変更権」「不利益取扱い禁止」「計画年休」「就労免除」「育児介護休業法」「休業給付金」「休暇制度」
10	労働安全：労働災害の予防と発生後の補償の両面についてその概念を整理する 教科書第8章　「労働安全衛生法」「危害防止義務」「産業医」「安全衛生委員会」「安全衛生教育」「健康診断」「健康配慮義務」「災害補償」「労災保険法」「労働基準監督署長」「労災保険審査官」「労働保険審査会」「特別加入制度」「業務遂行性と業務起因性」「災害性疾病と職業性疾病」「過労死」「通勤災害」「民事訴訟との関係」
11	解雇・退職：労働契約の終了の形態を分類し、それぞれにおける労働法の制約はどうなっているか 教科書第9章　「期間満了退職」「期間の定めのない契約」「辞職と解雇」「定年制」「退職勧奨」「解雇権の濫用」「雇い止め法理」「整理解雇」「退職証明書」「秘密保持義務」「競業避止義務」
12	男女雇用均等法：女性の労働法上の位置づけと法律の対応の変遷及びその基本にある考えを学ぶ 教科書第10章「均等待遇」「男女同一賃金原則」「女性特有の解雇制限事項」「定年差別」「男女雇用機会均等法」「企業名公表制度」「セクハラ」「ポジティブ・アクション」「間接差別」「コース別管理制度」「雇用ステージ」「調停」「紛争調整委員会」

13	非正規労働：パートタイマー、派遣など、非正規労働者の増加を踏まえての労働法の対応 教科書第 11 章「非典型労働」「パートタイム」「均衡処遇」「登録型派遣」「常用型派遣」「紹介予定派遣」「派遣先」「派遣元」
14	集団的労働関係：労働組合に関する労働法のありかたの過去と現在を概観する 教科書第 12 章　「労働組合」「自治の原則」「労働組合法」「企業別組合」「管理監督者」「自主性要件と民主性要件」「ユニオン・ショップ協定」「不当労働行為」「労働委員会」「黄犬契約」「支配介入」「断行拒否」「労使協議制」「経営協議会」「経営権事項」「争議行為」「刑事免責」「民事免責」「労働協約の効力」「協約の不利益変更」
15	残された問題：労働法分野は日々発展変化している。今後の動向を透視する 教科書第 13 章　「集団トラブル」「都道府県労働委員会」「中央労働委員会」「個別トラブル」「都道府県労働局」「個別労働関係紛争の解決の促進に関する法律」「司法的解決」

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき７～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 女性保護の変遷と発展について述べよ。

＜ポイント＞

雇用関係や労働市場における女性保護について、大正時代に施行された工場法から戦後に制定された労働基準法、さらには男女雇用機会均等法などと関連づけながら考えること。

科目終了試験学修のポイント

１．労働者と使用者について

＜ポイント＞

労働関係の当事者である「労働者」及び「使用者」はどのように定義されるか。各法律の趣旨、目的によって一律ではない。

２．労働条件の原則について

＜ポイント＞

労働基準法の総則部分とされる１条から７条にはどのようなことが規定されているだろうか。

３．就業規則と不利益変更について

＜ポイント＞

労働契約は労働者と使用者の合意によって内容が規定される。これに対し就業規則は使用者が定めるもので、労働者の同意を前提とするものではない。では、この就業規則を使用者が改定することによって現に雇用中の労働者の労働条件をいかに変更できるのだろうか。

４．賃金について

＜ポイント＞

賃金とはなにか。また賃金支払いについて労働法令はどのような規制をしているだろうか。

５．時間外および休日労働について

＜ポイント＞

労働基準法は週及び一日の労働時間上限を規定する。しかしそれを絶対の遵守条件とした場合、円滑な企業活動ができなくなる。では労働法令はそうした場合についてどのような手だてを用意しているだろうか。

６．労働災害の補償について

＜ポイント＞

使用者は労働者の安全を守る責務がある。しかしそれでも労働事故は生じる。そうした場合労働者への補償はどういうことになるのだろうか。歴史的な考察を含め、制度的な枠組みを理解する。

教科書

浜村彰、他『ベーシック労働法』有斐閣。

参考文献

田中清定『概説労働基準法』労働法令協会。

『ポケット六法』有斐閣。

科目コード	老年心理学（２単位）	登録年次	履修方法
2700		３年	R
教員名	関秀司、中里克治、三井三枝子		
履修可能な学科	社福　保育　教育　心理		

科目概要

高齢化社会の進展に伴って、人生後半の発達プロセスに関心が寄せられるようになった。しかし高齢化のあり方は一様ではなく、個人によって様々であり、これを多面的に理解していく必要がある。この講義では、老化の概念と心理的影響、高齢者のパーソナリティ特徴と適応、高齢者の心理的問題と援助方法について学ぶ。いくつかのトピックを材料として、生涯発達の観点から高齢化の過程を考える。

学修内容

1	高齢者心理学研究の歴史 老化の概念：正常老化、病的老化、終末低下、研究法：横断法、縦断法、系列法
2	高齢社会の到来 高齢社会、健康寿命、ライフサイクルの変化、要支援･要介護高齢者の増加
3	高齢期の健康，身体疾患 老年症候群、廃用性症候群、高齢者の閉じこもり
4	高齢期の精神疾患 認知症：アルツハイマー型、血管型、レビー小体型、うつ病、精神障害者の老化、自殺
5	高齢期の感覚，知覚機能の加齢変化 注意機能、五感の老化
6	高齢者の記憶 記憶の種類、記憶の老化
7	知能と加齢 流動性知能と結晶性知能、知能の老化、知能の改善
8	人格と加齢 パーソナリティに対する固定概念と偏見、人格の発達と安定性、人格と長寿
9	高齢期の適応 活動理論と離脱理論、人格特性と適応、主観的幸福感、回想、ストレス、コーピング、ライフイベント
10	高齢期の家族 役割移行、親子関係、夫婦関係
11	高齢期の対人関係と社会生活 ソーシャルサポート、ソーシャルネットワーク、コンボイモデル
12	死と死にゆく過程 死の不安、死の受容、死ぬ権利、安楽死、ホスピス、死別への適応
13	高齢者の認知，知能・記憶機能の測定 知能検査、認知症スクリーニングテスト、記憶検査、神経心理学的検査
14	高齢者の人格，精神健康の測定， ロールシャッハテスト、ＴＡＴ、ＳＣＴ、ＮＥＯ－ＰＩ－Ｒ、抑うつ検査
15	高齢者の心理療法 リアリティオリエンテーション、回想法、コラージュ療法、アニマルセラピー

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき7～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 生涯発達の観点から、高齢者の発達課題について述べよ。
＜ポイント＞
E．H．エリクソンのライフサイクルの考え方を取り上げ、自分の考えも述べること。また、「死の受容」についても高齢期の発達課題と関連づけて論じること。

科目終了試験学修のポイント

1．高齢期の感覚・知覚の老化について
＜ポイント＞感覚・知覚は全体的に衰えてゆくが、それが生活に具体的にどのように影響するか。
キーワード：視覚、聴覚、味覚、嗅覚、皮膚感覚、明暗順応、注意機能

2．高齢期の知能・記憶について
＜ポイント＞知能・記憶の低下は一様ではなく、比較的よく保たれている部分と、低下しやすい部分がある。
知能や記憶の種類ごとに整理する。
キーワード：結晶的知能、流動性知能、終末低下、意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶、自伝的記憶、短期記憶、長期記憶

3．高齢者のパーソナリティの特徴について
＜ポイント＞高齢期のパーソナリティの変化の中で、正常な老化による部分と病的な老化による部分を区別し整理する。
キーワード：ビッグファイブ･モデル、心気症傾向、抑うつ

4．高齢者の心理的問題について
＜ポイント＞高齢者が適応上で出会いやすい問題は何か、それにどのように対処できるか。
キーワード：ライフイベント、ストレス、適応と関係するパーソナリティ・タイプ

5．高齢者に対する心理的援助方法について
＜ポイント＞中年期までの援助法との違いを考えてみる。高齢者に特に適した方法、認知症高齢者に特に適した方法とは。
キーワード：リアリティ・オリエンテーション、回想法、傾聴、支持的心理療法

6．高齢者の認知症とうつ病の類似点と違いについて
＜ポイント＞認知症とうつ病は非常に区別が難しい。共通点と類似点を考えてみる。
キーワード：アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症、せん妄、うつ病、高齢期うつ病

教科書

下仲順子編『老年心理学（改訂版）』培風館。

参考文献

下仲順子、中里克治、他『高齢者心理学』建帛社。

３ 図書館の利用

東京福祉大学附属茶屋四郎次郎記念図書館（伊勢崎キャンパス）・池袋分室（池袋キャンパス）・王子分室（王子キャンパス）は、教育・研究活動に不可欠な図書・資料・情報を収集し円滑な利用に供することにより、総合的教養の場としても有効な活動を行う全学的なサービス機関です。

３－１ 開館時間

月曜日～金曜日	土曜日	学部 スクーリング 期間中	通学課程長期休講中 月曜日～土曜日	
			池袋分室 王子分室	伊勢崎 キャンパス
9:30～20:00	9:30～17:30	9:30～20:00	9:30～17:30	9:30～17:00

※ 伊勢崎キャンパスのみ、第3月曜日は9:30～15:00となります。

※ 学内行事・入試等のため、開館時間が短縮されることがあります。詳細は図書館カレンダーをご覧ください。図書館カレンダーは、館内外掲示、ホームページにあります。

ホームページは、本学ホームページ内にある図書館のバナーをクリックして、「WebOPAC」にアクセスしてください。

３－２ 休館日

（１）休・祝日及び日曜日
（２）創立記念日（6月26日）
（３）冬期・春期休講中の一定期間
（４）入試・入学式等の行事日
（５）その他図書館長が必要と認める日
（６）蔵書点検日（池袋分室・王子分室）

３－３ 図書館への入退出について

（１）図書館の利用者は学生本人に限ります（お子様連れや学生以外の知人等の同伴での入館は固くお断りいたします）。
（２）本学学生・教職員、図書館長が特に認めた学外者が入館できます。
（３）図書館を利用するには「図書館利用者証」（「学生証」または本学発行の「身分証明書」）が必要です。忘れると図書館を利用することができませんので注意してください。
（４）図書館入口には専用ゲートがありますので、そちらから入退出してください。
（５）借りたい図書がある場合は、必ず貸出手続きをしてから退出してください。手続きをせずに退出しようとすると警報が鳴り、ゲートがロックされます。

（６）同窓会員（卒業生）が利用するには、同窓会事務局への「図書館利用者登録」の申請が必要です。利用期限は毎年度末となっていますので、更新を希望する方は別途同窓会事務局より案内された更新手続を行ってください。

※在籍延長者については、各事務局へ在籍状況を確認する必要があるため、年度の切り替え時期（４月又は９月）の利用開始まで時間が掛かる場合があります。図書館カウンターにお越しいただいた場合でも、当日貸出などが行えない場合がありますのでご了承ください。

３－４ 図書館利用の注意事項

（１）館内では静粛にし、雑談、会合など**他の利用者に迷惑をかける行為はしないでください**。
（２）図書館内でのヘッドフォンステレオ・携帯電話・スマートフォン、その他機械類の使用は固く禁じます（電源を切ってから入館してください）。
（３）図書館内での飲食や飲食物の持ち込み、喫煙は禁止されています。
（４）印刷物その他の物品を配布したり、掲示することは禁止されています。
（５）備え付けの各種資料及び設備を汚損・毀損したり無断で持ち出すことは禁止されています。
（６）**借りた図書を他人に貸与（また貸し）しないでください。また貸しによる延滞や破損・汚損・紛失等が発生した際は、全て借りた本人の責任となります。**授業や学外活動で使用する際も充分注意し、返却まで責任を持って管理してください。
（７）傘は入り口の傘立に入れてから入館してください。館内への持ち込みはできません（図書の汚損・ゲートの誤作動を防ぐためご協力ください）。
（８）借りた図書を紛失・汚損（線を引く、破く等）した場合は、原則として弁償していただきますので、取り扱いには充分注意してください。また、図書を汚損・破損する恐れのあるもの（刃物類、糊等）を図書館で使用することは禁止されています。
（９）**図書館利用の注意事項を守らない者、また、指示に従わない者は、館外退出や図書館の利用を停止する場合があります。**
(10) 紛失等の事故を防ぐため、また、ほかの利用者の迷惑になるため、かばんなどの私物は放置せず、各自で管理してください（閲覧席混雑時は、荷物は座席の下に入れて多くの方が利用できるようご協力ください）。

３－５ 配列（本の並び方）について

（１）本図書館の図書はNDC（日本十進分類法）により分類されています。
（２）開架書架にある図書は、分類記号（図書の背ラベルに記載）の順に書棚に向かって左端から右端へ、上段から下段へと並んでいます。また、分類記号の同じ図書は著者記号順に並んでいます。別置されている図書もありますので、配架情報を確認してください（伊勢崎本館は、通常の棚に入らない大型図書については、その分類書架の大型図書用の棚に集めて配架されています）。
（３）配架図は館内数箇所に掲示してあります。
（４）次に利用する人のために、利用した図書を書架に戻すときは、分類記号順に正しい場所に戻してください（閉架書架資料はカウンターに返却してください）。
（５）閉架書架にある図書は、OPACで検索し指定用紙（閉架書架資料利用申込カード）に必要事項を記入し、カウンターで申込んでください。

（6）背ラベルの見方

１２３．４	→ 分類記号
A	→ 著者記号
1	→ 巻数記号（単行本は記載なし）

（7）貸出有効期限は、3月卒業見込み者は卒年次の2月14日までになります。
(8月卒業見込み者は、卒年次の7月31日までになります)

3－6 貸出

（1）学生証または本学発行の身分証明書と図書を一緒にカウンターに提出し、手続きをしてください。
（2）貸出冊数と日数は次のとおりです（返却日はカウンターに掲示されます）。

資　　格	冊　数	期　　間
東京福祉大学・短大在学生、同窓会員、実習指導者等	５冊	２週間以内
東京福祉大学大学院生・教職員	１０冊	４週間以内

（3）ほかの利用者からの予約がある場合を除き、**貸出の延長は1回に限りできます**ので、返却をする前に図書と一緒に学生証または身分証明書をカウンターに提出し、貸出延長希望の旨を伝え、延長手続きをしてください。また、**いったん返却された図書は同日中に再貸出することはできなくなります**のでご注意ください。
（4）参考図書、禁帯出のラベルのある図書、その他一部の図書（貴重図書など）および雑誌・紀要、視聴覚資料の貸出はできません。
（5）貸出手続きをしていない図書を館外に持ち出そうとすると、警報がなり、ゲートがロックされますので注意してください（万一誤って警報が鳴った場合は、職員の原因調査にご協力ください）。
（6）学位論文作成のための特別貸出については、カウンターで相談してください。

3－7　返却

（1）館内閲覧した図書（貸出手続きを取っていないもの）は、当日の閉館時までに元の場所に各自で戻してください。戻す場所が分からない場合は、カウンターに返却してください。
（2）館外貸出手続きをした図書は、返却日までに**必ず貸出を受けた図書館のカウンターで返却の手続きをしてください**（書架に直接戻さないでください）。返却手続きをしていない図書の紛失・汚損等は借りた本人の責任となります。
（3）返却期限を超過した場合は、電話・メール・郵送等で督促連絡がされます。
（4）**延滞すると、超過日数×冊数の日数分貸出等の利用が停止となります**。予約図書などもキャンセルされますので注意してください。
（5）万一、返却日を忘れてしまったときは、カウンターで調べられますので、学生証を持参の上、申し出てください。
（6）帰省などで直接来館して返却することができない場合は、学籍番号・氏名・返却冊数を明記の上、宅配便・書留等**必ず配達証明の残る方法で、貸出手続きを行った図書館あて**に発送してください（図書館受領日が返却日となりますのでご注意ください。休館日に到着指定すると、他部署に配達され、図書館受領日が遅くなりますので、日時指定をする際は必ず開館日時を指定してください）。

返却先：
伊勢崎キャンパス　〒372-0831　群馬県伊勢崎市山王町2020-1
東京福祉大学附属 茶屋四郎次郎記念図書館

池袋キャンパス　〒170-0022　東京都豊島区南池袋3-14-11　中町ビルB1F
東京福祉大学附属 茶屋四郎次郎記念図書館 池袋分室

王子キャンパス　〒114-0004　東京都北区堀船2丁目1-11
東京福祉大学附属 茶屋四郎次郎記念図書館 王子分室

（7）図書を紛失した場合は、弁償図書を納めた時点で返却とみなします。
（8）**卒業見込み者・卒業者が図書を返却しない場合、学位記・卒業証明書の発行が保留**されますので、必ず返却してください。

３－８　予約

（1） 利用したい図書がすでに貸出中のときは予約申込みをすれば、その図書が返却され次第、優先的に利用することができます。図書が貸出中かどうかは、OPAC で検索することで確認できます。貸出し中であることが確認できたら、OPAC を参照して「図書予約カード」に必要事項を記入の上、カウンターで手続きをしてください。
（2） 予約をキャンセルしたい場合はカウンターに申し出てください。
（3） 予約している図書が返却されたときは、電話等で連絡します。
（4） 連絡から一週間経っても貸出されない場合はキャンセルとなります。
（5） 貸出されていない図書の予約はできません。

３－９　複写（コピー）

（1）著作権法第31条に基づき、著作物の一部分を一人一部に限り複写できます（一部分とは半分を超えない範囲）。
（2）複写の目的は利用者の調査研究用に限ります。
（3）有償無償を問わず、再複写したり頒布したりすることはできません。
（4）雑誌、新聞の最新号（季刊以上の頻度の刊行物で、発行後3ヶ月以上経過したものを除く）は著作権法により複写が禁じられています。
（5）複写が許諾されていない資料の複写はできません。
（6）図書館が所蔵する資料以外の複写は著作権法に基づき、固く禁じます。
（7）上記の著作権法を遵守してください（万一著作権法上の問題が発生した場合は、その責任の一切は利用者が負うことになります）。
（8）コイン式複写機を利用してください（両替はできませんので、各自硬貨をご用意ください。
（9）複写を終えた資料は、速やかに元の場所に戻してください。

３－１０　視聴覚資料の利用　※伊勢崎本館・池袋分室のみ

（1）**視聴覚資料の館外貸出は原則できません**ので、利用したいときは学生証又は本学発行の身分証明書を添えてカウンターで手続きをし、館内のAVコーナー、PCコーナーで視聴してください。
（2）利用の終わった視聴覚資料は、当日閉館時までにカウンターで返却手続きを行ってください（ビ

デオは必ず巻き戻しして返却ください）。
（３）視聴覚資料の申込み時間は、開館時から閉館の２時間前までとなっています。
（４）一度に利用できる資料の数は原則１本です。

３－１１　購入希望図書の申込み

図書館が所蔵していない図書・資料で学修・研究に必要なものがある場合、購入希望を出すことができますので、カウンターにある「購入希望図書カード」に必要事項を記入し、カウンターで申込み手続きをしてください。できるだけ希望に応じたいと思いますが、希望に応じられないこともありますのでご了承ください。

３－１２　資料の探し方

カウンターに「資料・文献の探し方」を用意しています。併せてご利用ください。

○図書館所蔵資料の調べ方

＊OPAC（Online Public Access Catalog）とは？

図書館所蔵の資料はOPACで検索することができます。従来のカード目録に代わってオンラインで資料を検索することができるシステムです。当館では、所蔵の資料はすべてデータベース化されており、これまでのカード目録では困難であった網羅的・多角的な検索をすることができます。さらに、検索にかかる時間も大幅に短縮されます。システムのメリットを活用し、資料の検索に役立ててください。配架場所は、図書の分類記号、著者記号をOPACで調べると早く探し出すことができます。

館外から検索したいときは、本学ホームページ内にある図書館のバナーをクリックして、「WebOPAC」にアクセスしてください。

３－１３　あるはずの場所に本・雑誌などが見当たらないときは

（１）　貸出中または閉架書架保管資料ではありませんか？
ＯＰＡＣでもう一度確認してください。
閉架書架保管資料は申込み用紙に記入の上、カウンターで申込んでください。

（２）　館内でほかの人が利用中かもしれません。
しばらくしてからもう一度確認をしてみてください。

（３）　違う場所に返却されているかもしれません。
前に利用した人が、正しい場所に戻していない可能性があります。周りの書架も探してみてください。

３－１４　図書館に所蔵が無い資料を入手したいときは

図書館ホームページでは学修に役立つ様々なデータベース等にリンクを貼っています。

一部利用に制限があるデータベース等があり、利用範囲は下記のとおりです。詳しい検索方法などはそれぞれのホームページの「HELP」などを参照してください。

（１）他キャンパス図書館の資料を利用する

今利用しているキャンパスの図書館を通じて、他キャンパス図書館の資料（現物や複写物等）を取り寄せることができます（一部有料）。ただし、資料によってはご希望に添えない場合がありますので、ご了承ください。

（２）CiNii Articles

国立情報学研究所（NII）が運営する国内の学術論文情報を集めたサイトです。本文を通読できるオープンアクセスを中心とした、学術情報検索コンテンツです。広範囲の分野の文献情報、学術情報など研究に必要な情報を、インターネットのホームページ上より検索することができます。

以下のような場合に、必要とする情報を探し出すことができます。

使用例
- 研究テーマについての現在までの論文は？
- 研究の最新動向は？
- 自分と同じ研究をしている研究者は？
- 参考となる文献をなるべく早く入手したい。
- 他大学図書館で所蔵している資料を知りたい（本学図書館にない資料を他の大学図書館が所蔵しているか知りたい）。

（３）PsycINFO・Medline・Social Work Abstracts　**※伊勢崎本館のみ**

心理学・薬学・社会福祉などに関する世界中の文献が収録されています。Social Work Abstract・Medline は PsycINFO の附帯サービスとなり、同時検索や収録範囲の選択を絞っての検索も可能です。

図書館ホームページのリンクからアクセスすると自動的にログインできます。収録範囲の選択画面が表示されますので収録範囲を指定してください。以降、キーワードを入力して検索してください。

注意：このデータベースは論文への手がかりとなる書誌情報と抄録を提供します。論文の記事そのものを提供するものではありません。

（４）医学中央雑誌

医学中央雑誌の収録文献は、国内で発行されている医学・歯学・薬学およびその関連領域から収集されています。採択分野は生理学・生化学などの基礎分野から臨床医学の各分野、さらには獣医学・看護学・社会医学など広範囲におよんでいます。

図書館ホームページにリンクがありますので、アクセスしてください。なお、このサービスは、東京福祉大学（伊勢崎キャンパス・池袋キャンパス・王子キャンパス）内でのみ利用可能なサービスで、同時に二人までアクセス可能となっています。

注意：このデータベースは論文への手がかりとなる書誌情報と抄録を提供します。論文の記事

そのものを提供するものではありません。

（５）聞蔵Ⅱ

1945年から本日の朝刊までの朝日新聞記事や、週刊朝日・AERA記事、知恵蔵等をデータベースで利用できるサービスです。キーワードや記事掲載年月日などから検索することができます（一部著作権上利用できない記事もあります）。

利用は東京福祉大学（伊勢崎キャンパス・池袋キャンパス・王子キャンパス）内に限られ、一度にログインできる人数は一人となります。

図書館ホームページのリンクからご利用ください。

（６）他大学・機関の図書館を利用する（ILL）

本学図書館が所蔵していない資料を他大学・機関の図書館から入手することができます。

本学図書館では図書館間相互貸借、文献複写取り寄せサービス等を合わせて、図書館間相互協力という意味でILL（Inter Library Loan）の略称を使用しています。

ILL サービスを希望する場合は、利用したい資料をどこの図書館が所蔵しているのかCiNii のデータベース WebcatPlus 等で検索し、結果を印刷してカウンターにお申込みください（印刷が不可能な場合はカウンターにご相談ください。その場合調査に時間をいただくことがあります)。申込みには印鑑が必要です。

このサービスは本学在籍者（教職員の身分証明書、または学生証等をお持ちの方）が対象となっています。

ILL サービスは相手先図書館の好意・図書館間の信頼関係により成り立っています。確認事項や、代金が生じた際には必ず指定された期限等を守ってください。守られない場合は、以後の ILL の受付をお断りすることがあります。

① 訪問利用

利用者が閲覧したい資料を所蔵している他大学・機関の図書館に直接出向き、閲覧等ができます。利用の範囲は各図書館によって異なりますので、各図書館のホームページなどで確認してください。

一般公開していない図書館を訪問する場合には、所属大学図書館が発行する紹介状が必要となることがあります。紹介状は事前に相手先図書館に利用の可否を確認の上発行します。**相手先図書館の回答を受けてから発行します**ので、数日～1 週間程度かかります。申し込んだ当日やその場での発行はできませんので、**日数に余裕を持って早めに申し込んでください**。紹介状を郵送で受取りたい場合は申込み時に返信先を記入し、84 円切手を貼った返信用封筒をご持参ください。またその場合は訪問を希望する日の 2 週間

前までに申し込んでください。

紹介状は原則として 1 訪問日に付き 1 通必要です。利用に当たっては訪問先図書館の案内に必ず従ってください。指示に従わず訪問先から苦情等があった場合は、今後の紹介状発行をお断りします。

都合により訪問をキャンセルする場合には、必ず訪問先図書館にキャンセルの連絡をしてください。

訪問利用の制度は、「本来利用すべき図書館(本学図書館)」に求める資料がないときに、それを補うためのものです。「施設」ではなく「資料」を利用するという訪問利用の目的をよく理解した上で、この制度を利用してください（原則として事前に利用したい資料を特定する必要があります)。

② 文献複写

閲覧したい文献の複写物を他大学・機関図書館から取寄せることができます。複写依頼できるのは著作権法の範囲内に限り、複写依頼による著作権に関する一切の責任は利用希望者が負うことになります。文献によっては事前に著作者（執筆者）の許諾書を求められたり、複写ができないこともありますので、あらかじめご承知おきください。

申し込む場合は、複写したい部分の書名や雑誌名（巻・号）ページの範囲を指定する必要があります。ページの範囲が不明な場合は、まず目次の複写を依頼して範囲を特定してから改めて必要な部分の複写を申し込む必要があります。

申し込みは論文単位、または書名単位で個別に 1 件ずつ必要です。複写代、送料、振込手数料などの文献複写に関わる諸費用は全て申込者の負担となります。文献複写が到着するまで、通常 1～2 週間程度、場合によってはそれ以上かかることもあります。本学図書館に希望する図書や雑誌がないかよく確認(WebOPAC で確認)してください。本学図書館に蔵書がある資料の複写を他図書館に依頼することは原則としてできません。

一度申込まれたものは、キャンセルできません。キャンセルした場合、今後の申し込みをお断りすることがありますので、よく確認してから申し込んでください。

また、依頼館に諸費用を支払うため、後納の場合は必ず期日（概ね到着連絡から 1 週間以内）までに来館し、支払いをしてください。現金支払いの場合はお釣りがないよう、切手支払いの場合は指定された金額の切手を用意していただく必要がありますので、あらかじめご承知置きください。支払いが遅れるなどのトラブルが生じた場合、今後の申し込みをお断りいたします。

※オンラインデータベースやインターネットで、全文（本文）が入手できることもあります。申込み前にオンラインデータベースや、ネット検索サイトなどで確認することをお勧めします。

③ 現物貸借

遠方の大学・機関にしか所蔵のない資料の現物を取寄せたい場合、相手先図書館と本学図書館の間で資料を貸借することができます。対象となるのは近隣の大学・機関に所蔵がなく、文献複写が困難など資料ごと必要な場合です（複写を希望する場合は「文献

複写」を依頼してください)。

大学・機関によっては資料の貸出を受付していないところもあります。

館外貸出不可の資料や貴重資料は借用できません。また、資料の劣化や研究室所蔵資料など、先方の事情によって借用できない場合もあります。

依頼してから到着まではおよそ１週間程度、貸出中資料や相手図書館の都合によってはそれ以上かかることもあります。貸出期間は相手先図書館によって異なります。

貸出を受けた資料は**原則として本学図書館内の閲覧のみに限られます**。館外貸出や複写などは許可されないことが多いのであらかじめご了承ください。

資料貸借の往復送料や振込手数料など現物貸借に関わる諸費用は全て申込者の負担となります。

（７）公共図書館等の利用

お近くの公共図書館でも希望の図書を購入してくれたり、他の図書館から資料を取り寄せてくれる場合があります。

遠方に在住の方や帰省中などで本学図書館への来館が難しい方は、お近くの公共図書館に相談する方法もあります。一般的に市町村立図書館よりも都道府県立図書館の方が資料やサービスが充実しています。

３－１５　館内でのインターネットを使用した調査・文書の作成

※伊勢崎本館・池袋分室のみ

（１）図書館内の資料だけでは調べられないことを、インターネットを利用して調べることができます。指定されている場所のパソコンを使用してください。

（２）図書館のパソコンでは、インターネットなどからダウンロードしたデータ等や各自で作成した書類等をパソコン本体に保存したり、プリントアウトすることはできませんので注意してください。データ等を保存しておく必要がある場合は、各自でUSBメモリ等を用意して保存してください。

（３）図書館内でのインターネットの利用は、レポート作成のため等、学修・研究を目的としたものに限ります。私的な利用は固く禁止します。

・各自で持ち込んだパソコンを図書館内で使用するときは、必ず決められた席（パソコンブースのある机）を使用してください。その他の机でのパソコンの使用は他の利用者の迷惑となりますので禁止します（伊勢崎本館のみ）。
・図書館内のパソコンやプリンタ等に接続したり、館内機器等のコンセントを不正に使用することは固く禁じます。
・図書館内でパソコンを使用するときは必ずミュート（消音）にして使用してください。

＊何か分からないことなどがありましたら、カウンターで相談してください。

学籍番号	
氏　　名	